科目名	法学概論	科目名（英文）	Jurisprudence
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	川谷　道郎
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○		
科目ナンバリング	JDJ1001a0		

授業概要・目的	法学部生として４年間学んでいくに当たって必要となる基本的な知識や、法的思考の助けとなる考え方について解説する。
到達目標	この講義を通じて、学生には、法を学ぶうえで必要と思われる基本的な知識を修得することが期待される。
授業方法と留意点	当講義はクラスを５つに分割し、５名の教員が順次３回の講義を連続して担当することにより行います（全１５回）。授業計画に記載の順序は一例であり、クラスごとの教員の担当順序は初回講義で確認してください。なお、第２回以後の講義はTeamsを使用してオンラインで行いますが、それぞれの教員のTeamsコードは次のとおりです。 城内　y7lroww　　大川　jdisq2j　　川谷　nydy5rv　　島田　5wzsaa8　　松島　a15300t
科目学習の効果（資格）	今後、法学部の様々な専門科目を学ぶうえで必要となってくる基本的知識を修得することができる。また、法学検定や公務員試験などで必要な法の基礎知識に関して、その土台となる考え方を理解することができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	法とは何かを考える―消費者トラブルを素材として―(1) （担当：城内 明）	消費者トラブル！！その時どうする？	身の回りに消費者トラブルがないか考えてみよう(事前)。 身の回りの消費者トラブルの解決方法を考えてみよう(事後)。 （約１時間）
2	法とは何かを考える―消費者トラブルを素材として―(2) （担当：城内 明）	消費者トラブル！！泣き寝入りしないために。	身の回りの消費者トラブルの解決方法を考えてみよう(事前)。 消費者トラブルを解決するための法的手段について調べてみよう(事後)。 （約１時間）
3	法とは何かを考える―消費者トラブルを素材として―(3) （担当：城内 明）	消費者トラブル！！どうしたら防げるの？	どうしたら消費者トラブルを防ぐことができるか考えてみよう(事前)。 消費者トラブルを防ぐための法制度について調べてみよう(事後)。 （約１時間）
4	法律と判例の関係とその意義 （担当：大川 謙蔵）	ある法律・条文の内容を確認しつつ、裁判所がその条文を使ってどのように判断をしているのかについて確認する。	自分の六法で、「民法」という法律の条文を確認すること。事後の学習は講義で指摘する。 （約１時間）
5	法律を使った法的紛争へのアプローチ （担当：大川 謙蔵）	法的問題が生じた場合に、法律がどのような役割を果たし、どのような形で適用されるのかを確認し、さらに、その適用を、各自で論述の形で行うための方法等を述べる予定である。	事前に「契約の成立とは何か」を検討すること。事後に各自で論述を作成するレポート課題等を与える予定です。 （約１時間）
6	判例を使った法的紛争へのアプローチ （担当：大川 謙蔵）	第５回目と同じ形であるが、判例が紛争解決についてどのような役割を果たしているのかを簡単に確認し、各自で判例を使った論述の形を述べる予定である。	事前に「賃貸借契約とは何か」を簡単に調べてみてください。事後に各自で論述を作成するレポート課題等を与える予定です。 （約１時間）
7	法的なものの見方 （担当：川谷 道郎）	法的なものの見方とはどのようなものかを具体的に解説し、法的解決といわれるものの特徴を述べる。	配布レジュメおよび授業中に紹介した文献などに目を通すこと（約１時間）
8	紛争解決の方法・裁判制度 （担当：川谷 道郎）	裁判による紛争解決と話し合いによる紛争解決について述べる。	配布レジュメおよび授業中に紹介した文献などに目を通すこと（約１時間）
9	市民法と社会法 （担当：川谷 道郎）	民法と労働法を対照しながら、法の性格について学ぶ。	配布レジュメおよび授業中に紹介した文献などに目を通すこと（約１時間）
10	判例の読み方について （担当：島田　良一）	実際の判決文をもとに、判例の構成や読み方などについて学ぶ。	事前学習：配布レジュメに目を通しておく。 事後学習：講義中に指示する。 事前事後各１時間
11	リーガルリサーチについて （担当：島田　良一）	判例や条文、文献などの収集方法について学ぶ。	事前学習：配布レジュメに目を通しておく。 事後学習：講義中に指示する。 事前事後各１時間
12	司法制度改革と市民の司法参加について （担当：島田　良一）	我が国における司法制度改革と市民の司法参加について学ぶ。	事前学習：配布レジュメに目を通しておく。 事後学習：講義中に指示する。 事前事後各１時間
13	法哲学入門 （担当：松島裕一）	不道徳な行為はすべて「法」によって処罰したほうがよいか？	配布した資料に目を通し（事前学習）、授業終了後に課題に取り組むこと（事後学習） 事前事後各１時間
14	法思想史入門 （担当：松島裕一）	現代の日本法のルーツはどこにあるか？	配布した資料に目を通し（事前学習）、授業終了後に課題に取り組むこと（事後学習） 事前事後各１時間
15	法社会学入門 （担当：松島裕一）	「法」で紛争を解決することは本当に素晴らしいことか？	配布した資料に目を通し（事前学習）、授業終了後に課題に取り組むこと（事後学習） 事前事後各１時間

関連科目：法に関するすべての科目。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	講義中に適宜、紹介する。		
	2			
	3			

評価方法 （基準）	各学生につき、5 人の講義担当者がそれぞれ、担当した複数回の講義における受講態度及びレポート、小テストを 20 点満点で総合評価し、これらを最終的に合わせた点数を最終成績とする。各担当者の成績評価の具体的基準は講義中で説明する。
学生への メッセージ	新入生は法というものについて未だ具体的なイメージを持っていないと思います。 この講義を受講することにより、これから学ぶ「法」というものが、どのような特徴を持ち、どのような役割を果たしているのかを知ると共に、その「学び方」を理解して下さい。
担当者の 研究室等	11 号館９階　川谷教授室、島田准教授室、大川准教授室、松島准教授室 11 号館 10 階　城内准教授室
備考	【重要】法学概論は必修科目です。入学年度によっては、2 年次までに本科目の単位を修得しない限り、3 年次への進級ができなくなるので、学生においては十分注意して下さい。 なお、講義中の疑問点については、講義の最後に質問を受け付ける時間を設けることで対応します。 20 年度　合格率 86.2%　（不受験率 0%）　A10.0%　B 39.2%　C 21.2%　D 15.8%　平均 73 点　260 人登録

科目名	法学概論	科目名（英文）	Jurisprudence
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小野　晃正
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○		
科目ナンバリング	JDJ1001a0		

授業概要・目的	・法は、多様な人々が共同生活を営むための相互尊重のルールであり、我々の生活を豊かにするための制度である。 ・このような法の特色と目的を踏まえつつ、現代社会の中で生じている紛争に対して、法がどのような役割を果たし、かつ、いかに争いごとを解決しているかについて、個別の法領域ごとに具体的な事件を参照しながら理解することを主な目標とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、 「・「法」と「道徳＝倫理」の違いについて説明できる ・婚約、婚姻、内縁、離婚、相続をめぐる論点について説明できる ・民法の財産法や刑事法学の諸原理について説明ができる」 ようになることが期待される。
授業方法と留意点	・新型コロナ変異株の流行により、第２回目の授業から当面のあいだ、本授業は Microsoft 社の teams を用いたオンデマンド動画配信方式で行う。 ・課題提示や資料ｊ配布などは Microsoft 社 teams を通じて行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。
科目学習の効果（資格）	・公務員試験や各種資格試験に必要とされる法学の基礎的知識を身につけることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 法とは何か	・講義内容と文献の紹介 ・法と道徳の違い ・法の強制力 ・法の分類	・教科書の入手 事前：教科書第１章をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：第１章を見直し、章末問題を解くこと（2 時間）
2	家族関係と法（１）	・婚約とその不当破棄 ・内縁と重婚的内縁関係 ・婚姻の効果 ・婚姻費用 ・日常家事債務	・教科書の入手 事前：婚約と婚姻に関する箇所をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：婚約と婚姻に関する箇所を見直し、章末問題を解くこと（2 時間）
3	家族関係と法（２）	・離婚 ・協議離婚と調停離婚 ・裁判離婚 ・離婚原因 ・有責配偶者の離婚請求ほか	事前：離婚に関する箇所をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：離婚に関する箇所を見直し、章末問題を解くこと（2 時間）
4	家族関係と法（３）	・親子 ・認知と非嫡出子 ・親族間の扶養	事前：親族に関する箇所をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：親族に関する箇所を見直し、章末問題を解くこと（2 時間）
5	家族関係と法（４）	・相続 ・遺留分 ・寄与分	事前：相続に関する箇所をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：相続に関する箇所を見直し、章末問題を解くこと（2 時間）
6	財産関係と法（１）	・契約と意思表示 ・契約と当事者	事前：契約に関する箇所をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：契約に関する箇所を見直し、章末問題を解くこと（2 時間）
7	財産関係と法（２）	・債務不履行と危険負担 ・契約の解除 ・瑕疵担保責任	事前：債務不履行に関する箇所をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：債務不履行に関する箇所を見直し、章末問題を解くこと（2 時間）
8	財産関係と法（３）	・事務管理と不当利得 ・不法行為 ・使用者責任	事前：不法行為に関する箇所をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：不法行為に関する箇所を見直し、章末問題を解くこと（2 時間）
9	医療と法	・医療契約 ・医療過誤 ・専断的医療行為	事前：医療過誤に関する箇所をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：医療過誤に関する箇所を見直し、章末問題を解くこと（2 時間）
10	消費者と法	・訪問販売 ・マルチ商法 ・ローンとクレジット契約 ・製造物責任法	事前：消費者と法に関する箇所をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：消費者と法に関する箇所を見直し、章末問題を解くこと（2 時間）
11	職場と法	・労働法とは何か ・労働紛争の諸類型 ・ブラック企業 ・非正規雇用の問題点	事前：労働法に関する箇所をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：労働法に関する箇所を見直し、章末問題を解くこと（2 時間）
12	犯罪と法（１）	・刑法の意義 ・罪刑法定主義とその派生原則 ・犯罪論 ・緊急行為 ・未遂と共犯	事前：刑法に関する箇所をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：刑法に関する箇所を見直し、章末問題を解くこと（2 時間）
13	犯罪と法（２）	・逮捕と勾留 ・捜索と差押 ・公訴の提起 ・少年法の特例 ・死刑をめぐる諸問題	事前：刑事訴訟法に関する箇所をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：刑事訴訟法に関する箇所を見直し、章末問題を解くこと（2 時間）
14	人権と国際法	・立憲主義と憲法 ・自由権と社会権	事前：国際法に関する箇所をあらかじめ読むこと（2 時間）

			・国際関係と紛争 ・集団的自衛権	事後：国際法に関する箇所を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
	15	法の適用、法源及び法の解釈	・制定法と慣習法 ・判例・学説・条理 ・概念法学と自由法学 ・文理解釈と論理解釈	事前：法の解釈に関する箇所をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：法の解釈に関する箇所を見直し、章末問題を解くこと（2時間）

関連科目	日本国憲法、行政法、刑法、民法、国際法ほか

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新入生のためのリーガル・トピック 50	阿部昌樹・ 和田仁孝	法律文化社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	法学入門（第6版補訂版）（有斐閣双書）	末川　博/編著	有斐閣
2	現代法学入門（第4版）（有斐閣双書）	伊藤　正己＝加藤一郎/編著	有斐閣
3	判例法学（第5版）	西村　健一郎＝西井　正弘＝初宿　正典/編著	有斐閣

評価方法（基準）	・形成的評価を行うため、Microsoft 社 teams を通じて、Microsoft　forms から課題を提出し、その回答内容を評価対象とする（100%）。
学生へのメッセージ	・法律系の番組が好きな方、あるいは、公務員試験受験や法学系資格取得を念頭に置いている方は、ぜひ受講してみてください。
担当者の研究室等	11号館10階　　小野教授室
備考	課題に対するコメントは次回講義または teams を通じて行う。

科目名	法学概論	科目名（英文）	Jurisprudence
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	K
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	牧田　勲
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○		
科目ナンバリング	JDJ1001a0		

授業概要・目的	この授業は、法学のもっとも基礎的な知識を身に着けてもらうためのものです。憲法や民法などの個別分野に取り組む前に、法の全分野に共通する基本的な知識をまず知っておいてほしいと思います。その上で法の仕組みや働きを理解し、法的なものの考え方になじんでもらうことが目的です。。
到達目標	この授業を通じて学生には、最小限の法学の基礎知識を身に着け、今後の法学部の学びにつなげること、法的なものの考え方ができるようにすることが期待される。
授業方法と留意点	コロナ禍拡大のもとで、当分オンライン授業に切り替える。動画とレジュメを配信し、解説するので、復習を中心に学習してほしい。１回の授業につき週１時間くらいの復習を心掛け、簡単な法学入門の書籍などを読んでみるような自主的学習にも取り組んでほしい。
科目学習の効果（資格）	法学入門なので、今後の諸分野を学ぶ基礎を築くものであり、法律系諸資格取得の大前提、土台となる勉強である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	社会規範と法規範	道徳規範・宗教規範などに対して法規範の持つ特徴はどのような点にあるのか。	レジュメや参考文献を見直すこと（2時間）
2	法の分類・法源	法にはどんな種類があるのか。制定法と不文法、公法と私法の違いなど。	レジュメや参考文献を見直すこと（2時間）
3	法の効力	場所・時・人によって、法は適用されないことがある。	レジュメや参考文献を見直すこと（2時間）
4	法の歴史	ローマ法・中国法・日本の法の歴史と特徴	レジュメや参考文献を見直すこと（2時間）
5	近代市民社会と法	市民革命と市民法	レジュメや参考文献を見直すこと（2時間）
6	財産と法	財産法の基本原則や物権について知る	レジュメや参考文献を見直すこと（2時間）
7	契約と不法行為	契約とは何か、権利が侵害されたときどうするか	レジュメや参考文献を見直すこと（2時間）
8	家族と法	夫婦・親子・相続をめぐる法的関係	レジュメや参考文献を見直すこと（2時間）
9	消費者と法・企業と法	消費者保護と企業による独占の禁止	レジュメや参考文献を見直すこと（2時間）
10	労働と法	労働者の権利	レジュメや参考文献を見直すこと（2時間）
11	社会保障と法	社会的弱者をどうやって守るか	レジュメや参考文献を見直すこと（2時間）
12	環境と法	環境をどうやって守るか	レジュメや参考文献を見直すこと（2時間）
13	犯罪と法	刑法の諸原則	レジュメや参考文献を見直すこと（2時間）
14	紛争・裁判と法	トラブルはどうやって解決されるか	レジュメや参考文献を見直すこと（2時間）
15	地方と法	地方自治と条例	レジュメや参考文献を見直すこと（2時間）

関連科目：すべての法律系科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	試験を実施する予定であるが、できないときはレポートによって代替する。
学生へのメッセージ	コロナ禍で充実した学生生活を送るのが難しい状況にある。その中でも今の自分にできることを精一杯取り組んでほしい。
担当者の研究室等	１１号館１０階研究室
備考	対面式授業が難しい局面になったので、オンライン授業に切り替える。 事後学習を中心に、1時間30分から2時間程度の勉強時間を確保してほしい。

科目名	法哲学総論	科目名（英文）	Philosophy of Law (General Theories)
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	松島　裕一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3002a0		

授業概要・目的	法哲学とは、その名の通り、法を哲学的に考察する学問分野です。「哲学」という言葉の響きに嫌悪感や苦手意識を持っている学生がいるかもしれませんが、「哲学的に考察する」とは、言い方を換えれば、「物事を批判的に考えてみる」ことにほかなりません。 したがってこの講義では、法や正義にまつわるさまざまな問題を、条文や判例にとらわれずに――そして可能なかぎり哲学の難しい専門用語を使わずに――批判的に考えてみたいと思います。
到達目標	この授業を通じて学生には、現代社会のさまざまな問題点を正確に理解し、さらにそれらの問題に対して自分の見解を論理的に組み立てられるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	毎回配布するレジュメ（パワポ）に従って、講義を行う。オンデマンド授業とは異なり、対面の授業では可能なかぎりグループワークや発言の機会を設けるつもりである。
科目学習の効果（資格）	法学検定試験や公務員試験などの教養問題に一部対応しています。また、法哲学で扱われるテーマは法科大学院入学試験の小論文（未修者コース）の素材となることが多いので、法科大学院の受験を検討している学生には受講を強く推奨します。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	法哲学とは？	授業の進め方や成績評価の方法などを説明したあと、これから学習していく「法哲学」がどのような科目なのか、なぜ法学部で法哲学を学ぶ必要があるのかを簡単に解説します。	授業終了後に、レジュメを見直してください。また、憲法や民法などの実定法学との違いを意識しながら、「法哲学」という科目の特徴を説明できるようになること(所要時間 120 分)。
2	人工生殖とその法規制	科学技術の進展とともに人工生殖技術も劇的に発展しています。近年代理母やクローンが社会問題になっていますが、これらは全面的に禁止されるべきでしょうか？	授業終了後に、レジュメを見直してください。また、J・S・ミルの「他者危害原理」という考え方を理解したうえで、代理母の是非について自分の見解を述べられるようになること(所要時間 120 分)。
3	死をめぐる自己決定	自分の所有物は自分の意思で自由に処分できるのが原則です。しかし、自分の命を自由に処分することは許されるでしょうか？　例えば、人間には自殺する自由があるでしょうか？	授業終了後に、レジュメを見直してください。また、リバタリアンの自己所有権という考え方を理解したうえで、臓器売買の是非について自分の見解を述べられるようになること(所要時間 120 分)。
4	パターナリズム	他人に迷惑を掛けなければ自分の身体を自由に使用してもよいでしょうか？例えば、当事者の自由意思に基づく売春や麻薬使用は禁止されるべきことなのでしょうか？	授業終了後に、レジュメを見直してください。また、パターリズムという考え方を理解したうえで、シートベルト着用義務の是非について自分の見解を述べられるようになること(所要時間 120 分)。
5	表現の自由	近年ヘイトスピーチが日本でも問題になっており、その法規制をめぐって賛否両論があります。はたして日本でもヘイトスピーチ規正法は必要でしょうか？またそれは本当に有効なのでしょうか？	授業終了後に、レジュメを見直してください。また、「表現の自由の優越的地位」という考え方を理解したうえで、ヘイトスピーチ規正法の必要性について自分の見解が述べられるようになること(所要時間 120 分)。
6	死刑制度	日本では死刑制度が存置されていますが、世界的に見れば死刑廃止国が増加しています。死刑制度は本当に必要でしょうか？　必要だとすればそれはなぜでしょうか？	授業終了後に、レジュメを見直してください。また、死刑に対するベッカリーアやカントらの考え方を理解したうえで、ヘイトスピーチ規正法の必要性について自分の見解を述べられるようになること(所要時間 120 分)。
7	動物の権利	動物はペットとして人間によって保護されていますが、他方で、医学の実験などにおいてはその命を利用されています。そもそも人間にとって動物はいかなる存在なのでしょうか？	授業終了後に、レジュメを見直してください。また、苦痛に対するシンガーの考え方を理解したうえで、医学のための動物実験の是非について自分の見解を述べられるようになること(所要時間 120 分)。
8	格差社会における平等	近年日本では貧富の差が拡大しており、格差社会という語がキーワードになっています。はたして、国家はこうした格差を是正する必要があるでしょうか、それとも各人の努力にゆだねるべきでしょうか？	授業終了後に、レジュメを見直してください。また、積極的差別是正措置の問題点を理解したうえで、日本への導入の可否について自分の見解を述べられるようになること。
9	国境を超える正義	日本は世界でも有数の豊かな国ですが、貧困に苦しむ国も世界には数多くあります。日本は貧困国を援助する義務があるでしょうか？　義務があるとすれば、それはなぜでしょうか？	授業終了後に、レジュメを見直してください。また、国際援助に対するロールズやポッゲらの考え方を理解したうえで、日本の ODA の在り方について自分の見解を述べられるようになること(所要時間 120 分)。
10	文化の相違を超えて	世界の国々には他国の人々にはなかなか理解しがたいさまざまな風習があります。例えば、アフリカには女子割礼の風習がありますが、その風習を他国の人々が批判することは許されるでしょうか？	授業終了後に、レジュメを見直してください。また、人権の基礎づけをめぐるさまざまな言説を理解したうえで、多文化への批判の在り方について自分の見解を述べられるようになること(所要時間 120 分)。
11	正義の戦争	世界中を見渡せば、戦争や紛争がいたるところで勃発しています。そもそも正しい目的を達するためであれば、戦争という手段も許されるのでしょうか？　許されるとすれば、それはなぜでしょうか？	授業終了後に、レジュメを見直してください。また、「正義の戦争」に対するロールズやウォルツァーの考え方を理解したうえで、いわゆるテロ戦争の是非について自分の見解を述べられるようになること(所要時間 120 分)。
12	戦争責任を問う	日本やドイツは第二次世界大戦で敗戦	授業終了後に、レジュメを見直してください。また、

	し、周辺国に多くの被害をもたらしました。しかし、なぜ戦争当事者ではない現世代のひとびとが前世代の犯した戦争責任を償わなければならないのでしょうか？	アイヒマン裁判の争点を理解したうえで、アイヒマンの責任の有無について自分の見解を述べられるようになること(所要時間 120 分)。
13	監視社会	いたるところに張りめぐらされた防犯カメラに象徴されるように、現代社会は監視社会とも言われます。私たちのプライバシーを侵害するかもしれない防犯カメラの設置は正当化されるでしょうか？	授業終了後に、レジュメを見直してください。また、フーコーの「規律訓練型権力」という考え方を理解したうえで、街頭の監視カメラ設置の是非について自分の見解を述べられるようになること(所要時間 120 分)。
14	リスク社会	原発問題で明らかになったように、私たちの生活を便利にするものが、他方で私たちの生活を脅かすものに転化する可能性があります。私たちはこうしたリスクにどのように対処すべきでしょうか？	授業終了後に、レジュメを見直してください。また、リスク社会論における「リスク」の考え方を理解したうえで、地球温暖化対策について自分の見解を述べられるようになること(所要時間 120 分)。
15	授業全体のまとめ	これまでの講義で論じてきた事柄を簡単に復習し、法の果たすべき役割について考えてみます（可能であれば、これまでの講義で論じることができなかったトピックを補足説明する予定です)。	これまで講義で取り上げた個々の概念や人物を正確に理解しなおすこと。講義で分かりにくかった箇所を事前にピックアップしておいてください(所要時間 120 分)。

関連科目

直接的には法哲学各論、法思想史と関連しますが、それ以外にも広く実定法学（憲法・民法・刑法など）の学習の一助になると思います。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	問いかける法哲学	瀧川裕英編	法律文化社
2	よくわかる法哲学・法思想（第２版）	深田三徳・濱真一郎編	ミネルヴァ書房
3	ブリッジブック法哲学（第２版）	長谷川晃・角田猛之編	信山社

評価方法（基準）

毎回の提出物 50%とレポートなどの課題 50%で評価します（ただし、レポートにかんしては変更の可能性もあり)。

現時点ではレポートを２回課すつもりですが、場合によっては短時間の簡単な動画（音声付きパワポ）を作成してもらったり、グループ発表をしてもらうことになるかもしれません（その際には、上記のシラバスに変更が生じることになります)。ただし、受講生が極端に多い場合（おおむね１００名を超える場合）には、レポートに代えて定期試験を実施する可能性もあります。注意してください。

学生へのメッセージ

この法哲学総論では具体的な問題を取り上げますが、それらに唯一の正解は存在しません。重要なのは答えではなく、それを支える論理です。「法律で決まっているから」や「最高裁判所が判決で言っているから」という回答は法哲学という科目では通用しませんので、そのつもりで受講してください。

担当者の研究室等

11 号館９階　松島准教授室

備考

授業の終わりに毎回課題に取り組んでもらいますが、その際に ICT ツールを用いる予定です。ですので、スマホ・モバイル PC・タブレットなどを持参することが望ましい（なくても、もちろん受講は十分に可能です)。また、授業の進捗状況によっては、多少シラバスの内容に変更が生じるかもしれないので、その点はあらかじめご了承ください。

20 年度　合格率 87.6%　（不受験率 0%）　A22.5%　B 44.9%　C 14.6%　D 5.6%　平均 73 点　89 人登録

＊原則としてオンデマンド授業（事前に作成済みの動画を視聴する授業方式）を実施しますが、数回リアルタイム配信での授業を行う可能性もありますので、必ず正規の授業の開講時間帯は予定を空けておいてください。また、リアルタイム配信を行う場合は、学生のプライバシーに配慮して録画は行いません。

科目名	法哲学各論	科目名（英文）	Philosophy of Law (Particular Issues)
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	松島　裕一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3003a0		

授業概要・目的	法哲学とは、その名の通り、法を哲学的に考察する学問分野ですが、より具体的には、「法とは何か」、「法はいかに解釈すべきか」、「何が正義にかなっているか」といった法律学全般にかかわる基礎的な問題を扱う科目です。 この講義では、法哲学の主要三部門と見なされている伝統的なテーマ――「法の一般理論」、「法学方法論」、「正義論（法価値論）」――にそくして法哲学の基本的事項を学習するとともに、普段の実定法の学習ではあまり意識されることのない「法（法律学）のあるべき姿」について考えてみたいと思います。
到達目標	この講義を通じて学生には、法哲学の基本事項を理解するとともに、そうした法哲学上の知識を手がかりにして自分の意見を論理的に組み立てられるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	コロナ感染症対策の一環として、当面、オンデマンド方式（事前に作成済みの授業動画の提供）で授業を行う。動画やレジュメなどはMicrosoft Teamsを通じて配布するので、この授業を受講する学生は必ずチームに加入すること。
科目学習の効果（資格）	法学検定試験や公務員試験などの教養問題に一部対応しています。また、法哲学で扱われるテーマは法科大学院入学試験の小論文（未修者コース）の素材となることが多いので、法科大学院の受験を検討している学生には受講を強く推奨します。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	法哲学とは？	授業の進め方や成績評価の方法などを説明したあと、これから学習していく「法哲学」がどのような科目であるかを簡単に解説します。その際、法哲学の基本的な参考文献を紹介します。	毎回、事前に教科書の該当箇所を読んできてください。また、講義終了後に参考文献およびレジュメを見直してください。各回のキーワードを掲げておきますので、事前・事後学習の参考にしてください(各回とも所要時間120分)。
2	法哲学の来歴	法哲学は、別名、法理学とも呼ばれます。そこで、この二つの名称のちがいに着目して、英米と大陸（ドイツ）における同科目の基本的な相違点と、それが日本に導入された経緯について説明します。	【キーワード】 基礎法学、レヒト（Recht）、正義論（法価値論）、法学方法論、法の一般理論（法概念論）、法哲学（Rechtsphilosophie）、法理学（Jurisprudence）、穂積陳重、尾高朝雄
3	正義論①　西洋における正義観念	西洋法思想において「正義」（dikaiosyne, iustitia, justice）がどのように理解されていたかを、古代ギリシア・ローマや中世の法思想にさかのぼって概観し、現代正義論の思想史的背景を確認します。	【キーワード】 ニコマコス倫理学、分配的正義、匡正的正義、比例的平等、算術的平等、ウルピアヌス、ユスティティア
4	正義論②　ロールズ『正義論』	現代正義論に多大なインパクトを与えたロールズ『正義論』を学習します。まず彼の基本的なアイデア（原初状態・正と善の区別など）を確認し、そのあとで彼の主張する「正義の二原理」を検討してみます。	【キーワード】 価値相対主義、功利主義、善に対する正義の優先性、無知のヴェール、マクシミンルール、反照的均衡、格差原理、富の再配分
5	正義論③　リバタリアニズム	ロールズへの批判的主張として、リバタリアニズム（自由至上主義）を取り上げます。この講義では、おもにノージックの主張を検討しながら、課税や刑罰権といった国家の役割について考えてみる予定です。	【キーワード】 無政府資本主義、最小国家論、古典的自由主義、自己所有権テーゼ、労働価値説、超最小国家、最小国家、自生的秩序
6	正義論④　共同体主義	ロールズへのもうひとつの批判的主張として、共同体主義を取り上げます。共同体主義の代表的論者の基本的立場や哲学的背景を学習するとともに、それらの学習を通じてロールズ『正義論』のより深い理解を目指します。	【キーワード】 『リベラリズムと正義の限界』、「負荷なき自我」と「位置ある自我」、共通善、美徳なき時代、ウォルツァー、テイラー、アリストテレス『政治学』
7	正義論⑤　現代正義論への視座	現代正義論を補完する議論として、ハーバーマスの討議倫理、キムリッカの多文化主義、 バトラーらのフェミニズムを紹介します。これらの議論を知ることで、現代社会に求められている多様な「正義」について考えてみます。	【キーワード】 コミュニケーション的行為の理論、語用論、手続的正義、フェミニズム（の諸派）、多文化主義と文化相対主義
8	法学方法論①　ハートの司法裁量論	まず、現代の法学方法論の前史として、19 世紀までの法律学の状況を簡単に説明します。そのあとで、H・L・A・ハートが『法の概念』で展開した司法裁量論の概要を説明し、その問題点を検討します。	【キーワード】 概念法学、自由法運動、法的三段論法、分析法理学、司法裁量論、疑わしい半影部分、法の開かれた構造
9	法学方法論②　ドゥウォーキンの法理論	この回ではドゥウォーキンの法解釈にかんする理論を、前回のハートとの対比を通じて学習します。はたして難事件（hard case）においても、唯一の正しい法解釈は存在するのでしょうか？考えてみましょう。	【キーワード】 権利論（Taking Rights Seriously）、ルールと原理、法の帝国（Law's Empire）、内的視点、統合性としての法、原意主義
10	法学方法論③　ドイツにおける議論の理論	ドイツでは法学方法論をめぐって、さまざまな理論が提唱されています。この講義では、エッサー、クリーレらの法律学的ヘルメノイティク、フィーヴェクのトピク論、アレクシーの法的議論の理論を学習します。	【キーワード】 理解の循環構造、実践哲学の復権、体系思考と問題思考、レトリック、発見の過程と正当化の過程、特殊事例テーゼ
11	法学方法論④　日本の法解	これまで学習した英米とドイツの解釈	【キーワード】

		釈論争	理論と照らし合わせながら、戦後日本の法学解釈論争を学習します。法解釈とはいかなる作業であるかを検討し、あわせて法律学における「客観性」についても考えてみます。	来栖三郎「わくの理論」、川島武宜「科学としての法律学」、星野英一「利益衡量論」、平井宜雄「法政策学」
	12	法の一般理論①　自然法論	20 世紀にいたるまでの自然法論の思想史的系譜を簡単に振り返ったあとで、ラートブルフの再生自然法論、フラーの「法の内面道徳」、フィニスの新しい自然法論を学習し、自然法論の可能性とその限界を考察します。	【キーワード】 「制定法を超える法」と「制定法の形をした不法」、手続的自然法論、ハート＝フラー論争、トマス・アクィナス
	13	法の一般理論②　法実証主義	代表的な現代の法実証主義者として、ケルゼン、ハート、ラズの三人を取り上げます。彼らの主張と自然法論者の主張とを比較検討することを通じて、「法と道徳」のあり方について考えてみます。	【キーワード】 方法二元論、純粋法学、根本規範、法＝主権者命令説、ルールとしての法、承認のルール、自然法の最小限の内容
	14	法の一般理論③　法の三類型モデル	日本を代表する法哲学者である田中成明の「法の三類型モデル」を手がかりにしながら、現代社会における法の変容や、日本社会における「法の支配」の問題などを考察します。	【キーワード】 法の規範的機能と社会的機能、自立型法（普遍主義型法）・管理型法・自治型法、法の支配、司法制度改革
	15	授業全体のまとめ	これまでの講義で論じてきた事柄を簡単に復習し、「法のあるべき姿」というものについて考えてみます（可能であれば、これまでの講義で論じることができなかったトピックを補足説明する予定です）。	これまで講義で論じてきた個々の概念や人物を正確に理解しなおすとともに、法哲学全体の中でそれらの概念相互の関係性をしっかり把握すること（講義で理解が難しかった箇所を事前にピックアップしておくこと）。

関連科目

直接的には「法哲学総論」、「法思想史」と関連しますが、それ以外にも広く実定法学（憲法・民法・刑法など）の学習の一助になると思います。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	法思想史（有斐閣アルマ）	中山・浅野・松島・近藤	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	法哲学	瀧川裕英ほか	有斐閣
2	法哲学（有斐閣アルマ）	平野仁彦ほか	有斐閣
3	20 世紀の法思想	中山竜一	岩波書店

評価方法（基準）

毎回の提出物 100％で評価します。成績評価の詳細（配点など）はチーム内で説明しますが、毎回課題を出しますので、履修予定の学生はそのつもりで授業に臨んでください。

学生へのメッセージ

この「法哲学各論」の講義では「法哲学総論と比べてかなり難解で抽象的なテーマを扱う予定なので、法哲学に興味のない学生には、率直に言って、退屈な授業内容になるかもしれません。具体例を用いてできるだけ分かりやすく説明するように心がけますので、皆さんも理解できない点が出てきたら遠慮なく質問してください。

担当者の研究室等

11 号館 9 階　松島准教授室

備考

授業の終わりに毎回課題に取り組んでもらいますが、その際に ICT ツールを用いる予定です。ですので、スマホ・モバイル PC・タブレットなどを持参することが望ましい（なくても、もちろん受講は十分に可能です）。また、授業の進捗状況によっては、多少シラバスの内容に変更が生じるかもしれないので、その点はあらかじめご了承ください。

教科書は必須なので、必ず毎回持参するようにしてください。ちなみに、教科書は「法思想史」（２回生配当）と共通です。法思想史では教科書の前半部分を、法哲学各論では後半部分を扱います。

20 年度　合格率 81.8％　（不受験率 9.1％）　A12.1％　B24.2％　C36.4％　D9.1％　平均 73 点　33 人登録

科目名	法思想史	科目名（英文）	History of Legal Thought
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	松島　裕一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2004a0		

授業概要・目的	法思想史とは、過去の思想家たちが法や正義をどのように理解してきたかを考察する学問分野です。この講義では、西洋世界に地域を限定したうえで、古典古代から 19 世紀までに登場したさまざまな法思想を駆け足で見ていきます（20 世紀以降の新しい法思想は法哲学各論で扱います）。 個々の思想家にかんする知識をたんに丸暗記するのではなく、各法思想に含まれる普遍性と特殊性──いつの時代においても通用する普遍的なアイデアとその時代にしか通用しない特殊なアイデア──を的確に見極めつつ、現代の法思想の礎を確認することが、この講義の目的です。
到達目標	この講義を通じて学生には、法思想史の基本事項を理解することに加え、過去の思想家たちの知識を手掛かりにして自分の意見を論理的に組み立てられるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	コロナ感染症対策の一環として、当面、オンデマンド方式（事前に作成済みの授業動画の提供）で授業を行う。動画やレジュメなどは Microsoft Teams を通じて配布するので、この授業を受講する学生は必ずチームに加入すること。
科目学習の効果（資格）	法学検定試験や公務員試験などの教養問題に一部対応しています。また、法科大学院入学試験の小論文（未修者コース）のヒントになる前提知識が獲得できると思います。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	法思想史とは？	授業の進め方や成績評価の方法などを説明したあと、これから学習していく「法思想史」がどのような科目なのか、なぜ法学部で西洋法思想の歴史を学ぶ必要があるのかを簡単に解説します。	毎回、教科書の該当箇所を読んできてください。また、講義終了後に配布したプリントおよびレジュメを見直してください。各回の講義のキーワードを掲げておきますので、事前・事後学習の参考にしてください(各回とも所要時間 120 分)。
2	古代ギリシアの法思想①	「哲学」という独特の思考様式がなぜ古代ギリシアで誕生したのか、そして、それが後代の西洋世界にどのような影響を及ぼしたのかを学習します。哲学以前のホメロス・ヘシオドスの叙事詩も簡単に紹介します。	【キーワード】 『イリアス』と『オデュッセイア』、『神統記』と『労働と日』、神話学的思考と哲学的思考テミス、ノモス、ディケー、ソロン、ソフィスト
3	古代ギリシアの法思想②	プラトンの前期著作を通じてソクラテスが追究した正しい生き方を概観するとともに、中後期著作でプラトン自身が構想した独創的な正義論・国家論の概要をを学習します。	【キーワード】 ソクラテス裁判、クセノポン、クリトン、アカデメイア、対話篇の時代区分、善のイデア、哲人王、『国家』と『法律』
4	古代ギリシアの法思想③	万学の祖アリストテレスの著作集はいずれも重要ですが、この回の講義では論理学関連の著作からは論理的思考の芽生え、『ニコマコス倫理学』からは正義論、『政治学』からは国制論をそれぞれ学習します。	【キーワード】 リュケイオン、オルガノン、シュロギスモス、一般的正義と特殊的正義、分配的正義と匡正的正義、衡平、「国制」
5	古代ローマの法思想	現代の法律学の基礎をなすローマ法がどのような経緯で誕生し、またそれにはどのような事柄が規定されているのかを学習します。また、当時のローマで栄えたストア派の法思想についても簡単に説明します。	【キーワード】 12 表法、市民法と万民法、解答権、自然法と万民法、ウルピアヌスとパウルス、キケロ、ユスティニアヌス法典
6	古代から中世へ	西洋の法思想に今なお強い影響力を及ぼし続けているキリスト教の成立とその教義をごく簡単に説明したうえで、最大の教父哲学者アウグスティヌスの法思想を『神の国』を中心に解説します。	【キーワード】 ナザレのイエス、ペテロとパウロ、旧約聖書と新約聖書、コイネー、三位一体説、『告白』、永久法・自然法・世俗法
7	中世の法思想	ローマ帝国の衰退からいわゆる 12 世紀ルネサンスにおけるローマ法の復活にいたるまでの歴史的経緯を説明し、あわせて中世最大の哲学者トマス・アクィナスの法思想を解説します。	【キーワード】 12 世紀ルネサンス、ボローニャ大学、註釈学派(glossatores)、註解学派(commetatores)、学説彙纂、標準注釈、ドミニコ会、神学大全
8	中世から近代へ	中学高校の世界史でも必ず取り上げられる「ルネサンス」と「宗教改革」ですが、これらの出来事がそれ以降の法思想にどのような影響を与えたのかを、中世の法思想との対比を通じて学習します。	【キーワード】 ルネサンス（再生）、ルター、カルヴァン、マキアヴェッリ、ボダン、グロティウス、サラマンカ学派（ビトリアとスアレス）
9	近代イギリスの法思想①	第 9 回から第 11 回までは社会契約説を学習します。まずこの回の講義ではホッブズ『リヴァイアサン』を取り上げ、彼の法思想を当時のイングランドの社会背景とあわせて学習します。	【キーワード】 ピューリタン革命と名誉革命、自己保存権、自然状態の悲惨さ、ホッブズの自然法（特に第１～第３の自然法の内容）
10	近代イギリスの法思想②	社会契約論を代表する第二の思想家としてジョン・ロックを取り上げ、『統治論』で示されている法思想を学習します。ロックからやや時代が下りますが、ヒュームやベンサムの法思想も簡単に紹介します。	【キーワード】 ロックの自然法、固有権（プロパティ）、抵抗権、スコットランド啓蒙、ヒュームの社会契約批判、ベンサム「功利主義」、J・S・ミル「他者危害原理」
11	近代フランスの法思想	社会契約論の最後の論者としてルソーを取り上げ、『社会契約論』で展開されている「一般意志」という考え方を学習します。あわせてモンテスキュー『法の精神』における権力分立の思想も解説します。	【キーワード】 『不平等起源論』、一般意志（特にその問題点）、法律の一般性、人民主権、フランス革命へのルソーの影響力、モンテスキューの権力分立論

	12	近代ドイツの法思想①	ドイツ観念論の系譜を簡単に説明したうえで、カント『人倫の形而上学』とヘーゲル『法の哲学』を中心的に取り上げ、彼らの法思想のエッセンスを解説します。	【キーワード】 ドイツ啓蒙期自然法論（プーフェンドルフ・トマジウス・ヴォルフ）、カントの三批判、定言命法、合法性と道徳性、根源契約、ヘーゲルの社会契約批判
	13	近代ドイツの法思想②	19 世紀のドイツで展開された法思想を学習します。具体的にはサヴィニーに代表される歴史法学に始まり、ヴィントシャイトの概念法学を経て、イェーリングらに至る道のりを学習します。	【キーワード】 法典論争、サヴィニーにおける歴史的方法と体系的方法、概念法学、イェーリングの概念法学批判、自由法運動、利益法学
	14	近代ドイツの法思想③	20 世紀ドイツを代表する法哲学者であるラートブルフ、ケルゼン、シュミットの三人を取り上げ、ワイマール期からナチズム期の「危機の時代」に彼らがどのような法理論を展開したのかを学習します。	【キーワード】 価値相対主義、再生自然法論、純粋法学、『民主主義の本質と価値』、決断主義、友と敵、政治神学、具体的秩序思想
	15	授業全体のまとめ	これまでの講義で論じてきた事柄を簡単に復習し、各法思想の普遍性と特殊性について考えてみます（可能であれば、これまでの講義で論じることができなかったトピックを補足説明する予定です）。	個々の概念や人物の正確な理解に努めるとともに、西洋史の大きな流れのなかで各法思想の特徴を述べられるようになること（講義で理解が難しかった箇所を事前にピックアップしておくこと）。

関連科目

直接的には法哲学総論、法哲学各論、西洋の裁判の歴史などと関連しますが、それ以外にも広く実定法学（憲法・民法・刑法など）の学習の一助になると思います。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	法思想史（有斐閣アルマ）	中山・浅野・松島・近藤	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	法思想史（有斐閣Ｓシリーズ）	田中成明ほか	有斐閣
2	法思想の水脈	森村進編	法律文化社
3	増補新版　法とは何か　法思想史入門	長谷部恭男	河出書房新社

評価方法（基準）

毎回の提出物 100%で評価します。成績評価の詳細（配点など）はチーム内で説明しますが、毎回課題を出しますので、履修予定の学生はそのつもりで授業に臨んでください。

学生へのメッセージ

この法思想史の講義では、法思想の「古典」と呼ばれる著作を毎時間取り上げます。授業では各法思想の要点しか説明できませんので、興味のある古典作品が出てきたらぜひ積極的に読書をしてほしいと思います。時代を超えて読み継がれてきた古典作品と向き合うことは、学生の皆さんにとってきっと有意義な読書体験になるはずです。

担当者の研究室等

11 号館 9 階　松島准教授室

備考

授業の終わりに毎回課題に取り組んでもらいますが、その際に ICT ツールを用いる予定です。ですので、スマホ・モバイル PC・タブレットなどを持参することが望ましい（なくても、もちろん受講は十分に可能です）。また、授業の進捗状況によっては、多少シラバスの内容に変更が生じるかもしれないので、その点はあらかじめご了承ください。

教科書は必須なので、必ず毎回持参するようにしてください。ちなみに、教科書は「法哲学各論」（３回生配当）と共通です。法思想史では教科書の前半部分を、法哲学各論では後半部分を扱います。

20 年度　合格率 81.5%　（不受験率 1.9%）　A3.7%　B29.6%　C22.2%　D25.9%　平均 65 点　54 人登録

科目名	法社会学	科目名（英文）	Sociology of Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	前田　剛志
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3005a0		

授業概要・目的	実定法の学習が進み、条文の細かな知識が増えるにつれ、法律学や現実の社会に対するさまざまな疑問が出てくるのではないでしょうか？　例えば、実社会は法律の条文どおりに動いているのだろうかとか、世の中のどれくらいの紛争が裁判所に持ち込まれているのだろうか等々。 この授業では、実定法の学習だけでは見えてこないような社会と法のかかわりについて、さまざまな統計データや理論を用いて検討を加えていくことで、法社会学の基本的事項を学習していきます。
到達目標	この授業を通じて学生には、経験的社会科学の方法を用いて明らかにされる、現実社会で法が実際にどのように作動しているかを認識すること、その上で、法とその他の社会現象との関係、現実にある法とあるべき法との間をどのように埋めていくかといった問題を自分自身で考えることができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義は、オンラインで行います。WebFolder にレジュメを提示し、音声画像を用いた解説講義を確認してもらいます。詳細については Teams にて指示をしますので、必ず確認するようにしておいてください。
科目学習の効果（資格）	可能なかぎり、実定法科目の理解を促進するような授業を行う予定です。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	法社会学とは？	授業の進め方や成績評価の方法などを説明したあと、これから学習していく「法社会学」がどのような科目であるかを簡単に解説します。その際、法社会学の基本的な参考文献を紹介します。	配布したレジュメを見直すこと（３０分）。
2	法専門職①　裁判官	各国の法曹制度を比較しながら、日本の法曹の特色を説明していきます。まず最初に裁判官を取り上げ、彼らのおかれている状況を検討します。また、司法行政の実態については詳しく考察する予定です。	配布したレジュメを見直すこと（３０分）。授業を聞いて、裁判官に対する印象は変わりましたか？感想をまとめておいてください。
3	法専門職②　弁護士	前回の続き。日本の弁護士について考察します。はたして弁護士は市民にとって身近な存在なのでしょうか？　さらに司法書士、弁理士、行政書士などの職業を取り上げ、その職務内容をあわせて説明します。	配布したレジュメを見直すこと（３０分）。授業を聞いて、弁護士に対する印象は変わりましたか？感想をまとめておいてください。
4	刑事事件と法①　日本の犯罪の現状	連日のように凶悪犯罪が報道され、日本の安全神話が崩壊しつつあります。しかし、本当に日本は犯罪の多い危険な社会なのでしょうか？また昔に比べ、本当に犯罪は凶悪化しているのでしょうか？	配布したレジュメを見直すこと（３０分）。授業内容に関心を持った学生は、授業中に紹介した本を読み、その感想を書いてください。
5	刑事事件と法②　日本の刑事司法の現状	警察による捜査活動、検察官による起訴判断、裁判における量刑などを手がかりに、日本の刑事司法の現状とその問題点を学習します（法専門職としての検察官についてはこの回に解説します）。	配布したレジュメを見直すこと（３０分）。刑事訴訟法で学習したことと比較しながら、刑事司法の問題点を考えてみてください。
6	刑事事件と法③ 刑事弁護活動	刑事司法過程において、被疑者・被告人のために活動する弁護士が実際にどのようなことを行ってるかを学習します。	配布したレジュメを見直すこと（３０分）。テレビでも映画でも書籍でも良いので、自分なりの弁護士像をイメージしておいてください。
7	民事紛争と法①　訴訟の要因	世の中のすべての紛争が裁判所に持ち込まれるわけではありません。いったい、人々はどのような場合に訴訟を検討し始め、逆にどのような場合に訴訟を回避しようとするのでしょうか？	配布したレジュメを見直すこと（３０分）。友達や恋人とけんかしたとき、皆さんはどのように解決していますか？考えてみてください。
8	民事紛争と法②　紛争処理	交通事故などのトラブルを素材にして、紛争発生から紛争解決までのプロセスを学習します。またこの回の授業の中で、ADR（代替的紛争処理）についても解説します。	配布したレジュメを見直すこと（３０分）。皆さんが交通事故の被害者や加害者になった場合、どのように振る舞いますか？考えてみてください。
9	民事紛争と法③　現代型訴訟	公害訴訟や空港騒音訴訟に代表される「現代型訴訟」と呼ばれる訴訟の特徴について学習し、それらの訴訟が社会に与えたインパクトについて検討します。	配布したレジュメを見直すこと（３０分）。通常の民事訴訟と現代型訴訟が何が異なるのか、説明できるようになること。
10	前半の授業のまとめ	前半の授業のまとめとして、法律家や裁判の社会的機能やその限界について考察してみます（もし皆さんの方で詳しく知りたいトピックがあれば、そのテーマに基づいて講義を行う予定です）。	配布したレジュメを見直すこと（３０分）。第２回から第９回までの授業で、分かりにくかったところをピックアップしておいてください。
11	法社会学の理論家たち	この回の授業では少し目先を変えて、法社会学の開拓者たちを紹介します。ウェーバー、エールリッヒ、パウンドらの問題意識を理解することで、法社会学という学問分野の成り立ちを学習します。また、最も重要な社会学者の一人であるニクラス・ルーマンを取り上げ、彼が構築したシステム理論の概要を解説し、彼の目から見た近代法システムの特色を学習します。	配布したレジュメを見直すこと（３０分）。図書館でウェーバーやエールリッヒ、ルーマンの入門書や著作を手にとってみてください。
12	日本社会と法	日本人は権利や義務の意識が希薄なの	配布したレジュメを見直すこと（３０分）。比較的

			だろうか。あるいは、日本人は和を尊ぶ国民なので訴訟が嫌いなのだろうか。こうした日本の法文化に関する諸問題を、川島武宜の著作を手がかりに学習します。	安価なので、ぜひ一度、川島武宜「日本人の法意識」を読んでみてください。
	13	男女雇用機会均等法	日本社会における法を個別法を通じて検討します。	配布したレジュメを見直すこと（３０分）。六法などで男女雇用機会均等法を軽く眺めておいてください。
	14	離婚と法	離婚は、法律が規律する中でも最も感情が表れる分野の１つといえます。そこには、社会の変化や人々の意識の変化が現れているといえます。	配布したレジュメを見直すこと（３０分）。関連する家族法の分野を眺めておいてください。
	15	授業全体のまとめ	これまでの講義で論じてきた事柄を簡単に復習し、社会において法が果たすべき役割について考えてみます（可能であれば、これまでの講義で論じることができなかったトピックを補足説明する予定です）。	配布したレジュメを見直すこと（３０分）。これまでの授業で理解できなかったところを、ピックアップしておいてください。

関連科目	憲法・民法・刑法の基本的知識があることが望ましいです。また隣接科目として、法哲学や法思想史など受講していただくとより理解が深まると思います。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	法社会学（第３版）	村山眞維、濱野亮	有斐閣
2			
3			

評価方法（基準）	成績評価は毎回実施する小テストなどの提出課題（３０点）及び期末のレポート（７０点）の合計点で行います。ですので、期末試験は実施しません。詳細は Teams を通じて連絡します。
学生へのメッセージ	授業では具体的な事例を用いてできる限り分かりやすく説明するつもりですが、他方で、やや抽象的な理論も取り上げる予定です。授業で理解できないところが出てきたら、遠慮なく質問に来ていたければと思います。
担当者の研究室等	11 号館５階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	学生の皆さんが興味をもったテーマやタイムリーな話題があれば、適宜授業のなかで取り上げたいと思います。また、講義中に適宜指名して質問を行うことがあります。どのような回答をしていただいても構いませんので、積極的にご回答下さい。 毎回の提出物については、次回の授業で解説する。

科目名	近世日本の法文化	科目名（英文）	Law and Culture in Tokugawa Japan
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	牧田　勲
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ1006a0		

授業概要・目的	わが国の近代化は、西欧諸国の大きな影響のもとに進められた。これは法文化においても例外ではなく、わが国は多くの西欧法を継受することで、法の近代化をおしすすめてきたのである。その中で、伝統的な法文化は、一部の例外を除いて捨て去られた。しかし、近代社会が目指したものをよりよく理解するためには、それに先立つ前近代社会の事情を是非とも知っておく必要があるだろう。本講義では、日本の近世社会の種々相を明らかにしながら、そこに現れる諸個人・諸集団の軋轢や調整といった近世の法現象や法文化を紹介する。 SDGs-4,10
到達目標	この授業を通じて学生には、日本の前近代法のさまざまな特徴を知り、もって近代法や現代法との違いを認識し、現代の法が過去の反省や止揚の上に成立していることを理解できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	WEB 授業を行う予定である。適宜関連する史料や参考文献等も紹介する。講義に合うよい既存の教科書がないので、毎回レジュメを熟読して、配信された講義に集中することが望まれる。
科目学習の効果（資格）	教職課程履修者にとっては重要科目。間接的には公務員試験や諸資格試験にも繋がっている。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	幕藩体制の概観	近世社会の構造	高校教科書の江戸時代の部分をあらかじめ読んでおくこと
2	近世の法文化	身分制社会の諸相 法の多元性	講義ノートと当日配布した資料を見直すこと
3	徳川の平和	幕府の支配と民衆	講義ノートと当日配布した資料を見直すこと
4	将軍と大名	近世の主従関係	講義ノートと当日配布した資料を見直すこと
5	江戸の役人世界	近世行政の特質	講講義ノートと当日配布した資料を見直すこと
6	藩支配の多様性	お家騒動あれこれ	講義ノートと当日配布した資料を見直すこと
7	近世社会における犯罪の種々相	八百屋お七の悲劇	講義ノートと当日配布した資料を見直すこと
8	近世の犯罪と法①	主殺し・親殺し・子殺し	講義ノートと当日配布した資料を見直すこと
9	近世の犯罪と法②	日本左衛門と鼠小僧	講義ノートと当日配布した資料を見直すこと
10	近世の紛争①	犯罪者の末路	講義ノートと当日配布した資料を見直すこと
11	近世の紛争②	土地と金をめぐる争い(1)	講義ノートと当日配布した資料を見直すこと
12	近世の紛争③	土地と金をめぐる争い(2)	講義ノートと当日配布した資料を見直すこと
13	幕藩体制と公議輿論①	坂本龍馬と舟中八策	講義ノートと当日配布した資料を見直すこと
14	幕藩体制と公議輿論②	大政奉還と五箇条の御誓文	講義ノートと当日配布した資料を見直すこと
15	近世日本の法と社会	講義のまとめ	講義ノートと当日配布した資料を見直すこと

関連科目	憲法・刑法・民法などの法学科目などすべての歴史系諸科目。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	試験ができれば試験を行うが、コロナ禍のもとで無理ならばレポートの内容（１００％）で評価する。
学生へのメッセージ	法文化史は、日本史の知識を基礎として、その上に法学的視角から歴史にアプローチしようというものであるから、最低限高校の日本史教科書程度の知識をもっていること。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　牧田教授室
備考	講義後の学習として、内容をノートに整理したり、補助教材類を熟読すること。全体として１５時間～２０時間程度の学習が望まれる。 20 年度　合格率 88.7%　（不受験率 6.2%）　A0.5%　B20.5%　C39.5%　D28.2%　平均 69 点　195 人登録

科目名	日本の人権の歴史	科目名（英文）	History of Human Rights in Japan
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	牧田　勲
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ1007a0		

授業概要・目的	前近代社会は身分制社会であり、近代法は封建的身分や差別からの解放を重要な目標として誕生した。この授業を通じて学生には、近代に先立つ身分制社会とはどういうものなのか、逆に近代という時代はどういうものなのか、その意味を理解できるようになることが期待される。近世社会に生きた様々な人々の抑圧や差別、差別を克服する戦い、そういうものを学び取ってほしい。 SDGs-5,10
到達目標	日本における差別の起源や歴史、差別の実態を知り、その非人間性を十分理解してもらい、基本的人権の重要性を認識してもらうことが目標である。
授業方法と留意点	Teams を使って、あらかじめ講義資料を送る.。また、授業時間の前までに動画を配信するので、講義資料とあわせて動画も見るようにすること。コロナ禍が収まれば対面式に変更するが、大学の方針に合わせることとしたい。資料をしっかり読んで、内容を理解してほしい。オンライン授業が当分続くようならば、試験は行わず、レポート点を成績とする。
科目学習の効果（資格）	本講義は、教職課程履修者にとっては重要科目。また、公務員試験や各種試験にも繋がっている。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	封建法と市民法	自由・平等・人権の思想 「身分から契約へ」	西欧近代市民社会の成立について、高校教科書をあらかじめ読んでおくこと
2	中世における差別	河原者と非人	日本の中世史について高校教科書を読んでおくこと、講義ノート・配布資料の見直し
3	近世身分制の成立	太閤検地と身分制	講義ノート・授業中の配布資料を見直すこと
4	近世被差別部落の成立	近世のえた身分と非人身分	講義ノート・授業中の配布資料を見直すこと
5	近世の被差別民①	えたと呼ばれた人々の生活	講義ノート・授業中の配布資料を見直すこと
6	近世の被差別民②	近世非人の実態	講義ノート・授業中の配布資料を見直すこと
7	近世の被差別民③	都市の下層社会	講義ノート・授業中の配布資料を見直すこと
8	身分解放の思想	近世の解放思想と抵抗運動	講義ノート・授業中の配布資料を見直すこと
9	近世の人身売買	廓の中の女たち	講義ノート・授業中の配布資料を見直すこと
10	解放令の成立	近代社会と被差別	講義ノート・授業中の配布資料を見直すこと
11	娼妓の解放	近代と人身売買	講義ノート・授業中の配布資料を見直すこと
12	近代の「身分」	華族の成立	講義ノート・授業中の配布資料を見直すこと
13	大正デモクラシーと被差別民	水平社運動	講義ノート・授業中の配布資料を見直すこと
14	その後の解放運動	解放運動や戦後の諸立法	講義ノート・授業中の配布資料を見直すこと
15	日本の人権の歴史	講義のまとめ	講義ノート・授業中の配布資料を見直すこと

関連科目：憲法・刑法など公法系の法学科目と歴史系諸科目。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	オンライン授業が続くようであれば、レポート点（１００％）で評価する。ただし、途中で対面式授業が実現するならば、試験をおこなうこともありうる。
学生へのメッセージ	高校時代に日本史を選択していることが必要。本講義は、社会科学入門の意味を持つ。歴史学だけでなく政治学・社会学・経済学などを同時に勉強することが望まれる。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　牧田教授室
備考	講義資料を熟読すること。講義資料を読んだ後、自分なりに関心を持ったテーマについて調べることが望まれる。 20 年度　合格率 80.5%　（不受験率 8.1%）　A10.7%　B32.9%　C32.9%　D3.9%　平均 73 点　307 人登録

科目名	家族と地域の法社会史	科目名（英文）	History of Family and Community in Japan
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	牧田　勲
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2008a0		

授業概要・目的	近年、女性のＭ字型就労、アンペイド・ワーク、ストーカー問題、少年犯罪の凶悪化、引きこもり、パラサイト・シングル問題、高齢者ホームレスの増加、年金問題など、家族をとりまく問題が次々にもちあがっている。いずれも解決に時間がかかる難題ばかりであるが、この授業では、こうした現在の家族問題を念頭におきながら、日本史の中における過去の家族問題を考察しようとするものである。、歴史の中の家族像を手がかりに、その時代の社会構造や法、あるいは地域の事情について理解を深めてほしい。 SDGs-5,10
到達目標	現在、家族はいろいろな意味で揺れ動いている。この授業を通じて学生には、家族をめぐるさまざまな問題の歴史的背景、現状が理解できるようになることが期待される。その上で、今後自らそういう問題に直面した時の対応や解決を考える「導きの糸」にしてもらいたい。
授業方法と留意点	WEB 授業を行う予定である。適宜関連する史料や参考文献等も紹介する。講義に合うよい既存の教科書がないので、毎回レジュメを熟読して、配信された講義に集中することが望まれる。
科目学習の効果（資格）	間接的ながら、公務員試験、各種試験に繋がっている。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	戦国期の法と社会	政略結婚の時代	家族をとりまくさまざまな問題に対する関心をもつこと。
2	近世の都市と家族(1)	不倫の結末	講義ノートを整理し、見直すこと
3	近世の都市と家族(2)	「かぶき者」の時代	講義ノートを整理し、見直すこと
4	近世の都市と家族(3)	道楽息子のなれのはて	講義ノートを整理し、見直すこと
5	近世の都市と家族(4)	捨てられた子供たち	講義ノートを整理し、見直すこと
6	近世の都市と家族(5)	駆け込む女たち	講義ノートを整理し、見直すこと
7	近世のキャリア・ウーマン	大奥女中の生活	講義ノートを整理し、見直すこと
8	近世の家族と道徳	儒教の中の女性	講義ノートを整理し、見直すこと
9	東と西の農村	地域差と家族	講義ノートを整理し、見直すこと
10	近世農村と同族	本家と分家	講義ノートを整理し、見直すこと
11	東の結婚・西の結婚	若者仲間とかけおち	講義ノートを整理し、見直すこと
12	近世農村の相続	姉家督と末子相続	講義ノートを整理し、見直すこと
13	地域と家族	「家」の地域差	講義ノートを整理し、見直すこと
14	現代の家族	漂流する家族の今を考える	講義ノートを整理し、見直すこと
15	おわりに	講義のまとめ	講義ノートを整理し、見直すこと

関連科目：「近世日本の法文化」、「日本女性史」、民法、憲法など。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	試験ができれば試験を行うが、できないときはレポート１回の成績で評価する。
学生へのメッセージ	日本史に関心のある諸君の選択を希望する。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　牧田教授室
備考	少なくとも１時間はかけてノートを整理したり、配布プリントを熟読することが望まれる。全体で講義後１５時間～２０時間の自宅学習が望ましい。 20 年度　合格率 93.2%　（不受験率 4.2%）　A1.3%　B32.1%　C32.5%　D27.4%　平均 71 点　237 人登録

科目名	日本女性史	科目名（英文）	History of Women in Japan
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牧田　勲
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2009a0		

授業概要・目的	高校の日本史教科書に登場する女性は、ごくわずかである。江戸時代では、出雲の阿国、皇女和宮、東福門院和子、明正天皇、後桜町天皇くらいである。これまでの日本史教育では、女性が何を考えてどう生きたか、ということはほとんど捨象されてきたといってよい。この講義では、戦国期から近世のさまざまな女性像に焦点をあて、時代の中で奮闘し、悩み、楽しんだ女性の姿を紹介してみたい。 SDGs-5,10
到達目標	男女共同参画基本法や雇用機会均等法などによって、女性の差別的扱いを克服するのは、現代社会の喫緊の課題である。社会のあらゆる場面での男女の平等が求められているのである。この授業を通じて学生は、、日本における女性差別の根源がどういうところにあり、それが現代にも大きな影を落としている様を理解すること、そして現代の法の目標とするところをよりよく理解するようになることが期待される。
授業方法と留意点	コロナ禍であるので、オンラインで授業を行う。Teams を使って、講義資料や史料、関連文献を送信し、また動画も配信するので、あわせて視聴してください。動画を見、資料を熟読して理解を深めてもらいたい。オンライン授業が続くようであるならば、レポート点を成績とするが、対面式授業が可能となれば、試験をすることもありうる。
科目学習の効果（資格）	「男女共同参画社会」に生きる男女すべてにとって必要な教養といえる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	女性史とは	国連女子差別撤廃条約、男女共同参画基本法ほか最近の諸立法	男女共同参画について、日々関心を持つようにしよう。講義ノート・レジュメの見直し
2	中世の女性	中世社会と女性の地位	講義ノート・レジュメの見直し
3	戦国時代の女性①	政略結婚の時代	講義ノート・レジュメの見直し
4	戦国時代の女性②	領国を支える女たち	講義ノート・レジュメの見直し
5	近世の女性①	儒教と女性	講義ノート・レジュメの見直し
6	近世の女性②	武家の女性	講義ノート・レジュメの見直し
7	近世の女性③	大奥の女たち	講義ノート・レジュメの見直し
8	近世の女性④	町人社会の女性	講義ノート・レジュメの見直し
9	近世の女性⑤	長屋の中の女たち	講義ノート・レジュメの見直し
10	近世の女性⑥	幕末の「お稽古事」事情	講義ノート・レジュメの見直し
11	近世の女性⑦	江戸の娘たち	講義ノート・レジュメの見直し
12	近世の女性⑧	天保改革と女性	講義ノート・レジュメの見直し
13	近世の女性⑨	遊郭の女たち	講義ノート・レジュメの見直し
14	近世の女性⑩	幕末の動乱と女たち	講義ノート・レジュメの見直し
15	近代の女性	明治・大正期の女性	講義ノート・レジュメの見直し

関連科目：「近世日本の法文化」「家族と地域の法社会史」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	試験ができれば試験を行うが、無理なときはレポート（１００％）で判定する。
学生へのメッセージ	日本史、女性史、現代の女性問題などに興味をもっている諸君が選択することを期待する。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　牧田教授室
備考	送信配布した内容を熟読すること。全体として１５～２０時間の自宅学習が望ましい。 20 年度　合格率 85.9%　（不受験率 6.3%）　A16.2%　B40.3%　C23.0%　D6.3%　平均 76 点　191 人登録

科目名	祭りと地域の法社会史	科目名（英文）	History of Feast and Community in Japan
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	牧田　勲
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3010a0		

授業概要・目的	現在、多くの自治体では「地域おこし」の手段として、伝統的にその地域に伝わる祭礼（岸和田だんじり祭・博多祇園山笠など）や、近年になって新規に始められたイヴェント（各地のよさこいソーラン祭など）が利用されています。しかし、そこには「政教分離」をどうするか、そこに自治体としてどう関わるか、町の空洞化による後継者不足、資金難、文化財的価値と観光化との矛盾など、多くの問題点を抱えています。この講義では、祭りの歴史・存在構造・現在の問題点などを紹介し、考察する予定です。 SDGs-4,11
到達目標	この授業を通じて学生は、祭りやイベントをめぐって、過去にどのような問題があり、現代どのような問題が生じているかを理解し、その上で、今後何らかの形でそのような問題に直面する立場に置かれた時適切な対処ができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	WEB 授業を行う予定である。適宜関連する史料や参考文献等も紹介する。講義に合うよい既存の教科書がないので、毎回レジュメを熟読して、配信された講義に集中することが望まれる。
科目学習の効果（資格）	旅行業務取扱主任など関連する資格がないわけではないが、それよりも自治体職員・警察官・議員・教員・観光業界就職者には実践的に必要な教養。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	祭りとは	祭り・祭礼・イヴェントの違い	日本の伝統文化に対する幅広い興味を持つこと。講義ノートやレジュメの整理、見直し
2	祭礼の出現と都市文化	京都祇園祭の意義	講義ノートやレジュメの整理、見直し
3	近世社会と祭礼（1）	城下町祭礼の出現	講義ノートやレジュメの整理、見直し
4	近世社会と祭礼（2）	東照宮祭礼にみる権力と民衆	講義ノートやレジュメの整理、見直し
5	近世社会と祭礼（3）	祭りと騒乱	講義ノートやレジュメの整理、見直し
6	近代社会と祭り（1）	伝統と変革の相克	講義ノートやレジュメの整理、見直し
7	近代社会と祭り（2）	祭りと天皇制	講義ノートやレジュメの整理、見直し
8	伝統の祭りと現代（1）	祇園祭がかかえる問題性	講義ノートやレジュメの整理、見直し
9	伝統の祭りと現代（2）	祭りとジェンダー	講義ノートやレジュメの整理、見直し
10	伝統の祭りと現代（3）	暴走族と祭り	講義ノートやレジュメの整理、見直し
11	伝統の祭りと現代（4）	文化財の保存と観光化	講義ノートやレジュメの整理、見直し
12	地域おこしとイヴェント（1）	地方自治体と地域おこし	講義ノートやレジュメの整理、見直し
13	地域おこしとイヴェント（2）	神戸祭とよさこいソーラン祭	講義ノートやレジュメの整理、見直し
14	祭りと憲法	祭りをめぐる政教分離原則と自治体	講義ノートやレジュメの整理、見直し
15	おわりに	講義のまとめ	講義ノートやレジュメの整理、見直し

関連科目：日本史・社会学・美術史・地理学・近世日本の法文化・憲法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	試験ができれば試験を行うが、試験ができないときはレポートの成績（１００％）によって評価する。
学生へのメッセージ	京都の祇園祭、大阪天神祭、岸和田だんじり祭など、関西には有名な祭りが目白押しである。こうした祭り、あるいは自分の郷里の祭りなどをとおして、今現在地域が抱えている問題を考えてみてほしい。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　牧田教授室
備考	講義後、ノートを整理し、資料を熟読すること。全体として１５～２０時間の自宅学習が望ましい。 20 年度　合格率 86.5%　（不受験率 9.8%）　A0.0%　B29.3%　C36.8%　D20.3%　平均 71 点　133 人登録

科目名	西洋の人権の歴史	科目名（英文）	History of Human Rights in Western Society
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	小宮山　直子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ1011a0		

授業概要・目的	日本は、明治維新の後、近代化をなしとげるために西洋社会から多くの文化を取り入れました。この授業では、西洋社会がはぐくんだ法文化の歴史的基礎について、法と社会との関係に重点をおいて考察します。特に焦点をあてるのは、西洋（フランス、ドイツを中心に）における人権のありかたとその歴史的変化です。
到達目標	この授業を通じて学生には、西洋社会が現代のわたしたちに伝える重要な文化である、西洋の法の歴史・そして人権の歴史についての基本知識を修得することが期待されます。
授業方法と留意点	基本は教材・課題配置型の講義形式で行います。オンライン授業方法の詳細は、第２回授業の中で説明します。 毎回の授業の最後に小テストなどの課題に取り組んでもらいます。授業の進行にあわせて、２回分のテーマを１回にまとめることもあります。
科目学習の効果（資格）	教職科目（中学社会・高校公民・高校地歴)に必要です。公務員試験や就職試験の一般教養（SPI 対策）としても有益です。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに—近代日本における西洋文化の受容	明治政府・近代化・お雇い外国人	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
2	西洋法史の全体像①　前近代——ユスティニアヌス法典が生まれて復活するまで（６世紀～１２世紀)、その後の法・法学の発展	ユスティニアヌス法典（ローマ法大全）の成立。ローマ法学の復活・ボローニア大学法学部の成立・ローマ法の継受	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
3	西洋法史の全体像②　近代以降——フランス革命、そして近代市民社会の到来と法	18 世紀末以降の社会の変化と法の姿についての概観	事前:授業のテーマに関連する文献(参考文献など)を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
4	中世ヨーロッパ社会と法	身分制社会の基本原理としての「不平等」・特権としての「自由」、他	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
5	近世ヨーロッパ社会と法	人権の萌芽 近世自然法、グロティウス、 啓蒙期の法典編纂	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
6	フランス革命と人権宣言（1789 年）（１）	フランス革命の概要	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
7	フランス革命と人権宣言（1789 年）（２）	フランス人権宣言の特徴、他	事前:授業のテーマに関連する文献(参考文献など)を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
8	ナポレオンと近代市民法ーフランス民法典（1804 年）	フランス民法典の成立過程、その特徴（フランス民法典における「人」)、近代市民社会	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
9	法典論争と歴史法学派	サヴィニーとティボーの法典論争／歴史法学派	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
10	19 世紀フランスの社会と法（１）	19 世紀前半のフランスの社会、都市の貧困・衛生問題	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
11	19 世紀フランスの社会と法（２）	19 世紀後半のフランス社会、 選挙権獲得をめぐる動き	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
12	ドイツ民法典の成立	ドイツ民法典の成立過程、その特徴（ドイツ民法典における「人」など）	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
13	20 世紀前半—フランス・ドイツを中心に	現代型憲法としてのワイマール憲法／人権の抑圧—ホロコースト、占領下のフランス	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
14	20 世紀後半—１９６０年代以降	女性解放運動の波。第１の波（１９世紀末～２０世紀初頭)、第２の波（１９６０年代以降）／家族法の改革	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
15	授業のまとめと復習	全体のまとめ、21 世紀における人権保障の課題	これまでのレジュメ及び資料を見直して、授業の全体像を再確認・整理する。重要キーワードについては、自分の言葉で説明できるよう整理する。(4 時間)

関連科目	西洋の裁判の歴史、西洋女性史

<table>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>概説西洋法制史</td><td>勝田有恒　他</td><td>ミネルヴァ書房</td></tr>
<tr><td>2</td><td>ローマ法とヨーロッパ</td><td>ピーター・スタイン</td><td>ミネルヴァ書房</td></tr>
<tr><td>3</td><td>法制史入門</td><td>三成賢次　他</td><td>ナカニシヤ出版</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>授業内課題（小テスト、小レポートなど）４０％と、期末試験（レポート,他）６０％によって、総合的に評価します。
詳細は、オンライン授業開始の際に、説明します。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>できれば、高校の世界史教科書の「ヨーロッパ史」の部分を復習しておきましょう。わからない点は気軽に質問してください。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>11 号館５階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>各授業の最後に実施する課題(小テストなど）については、次の授業で解説します。
参考文献は、授業の中で随時紹介します。</td></tr>
</table>

科目名	西洋の裁判の歴史	科目名（英文）	History of Trial in Western Society
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小宮山　直子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ1012a0		

授業概要・目的	西洋社会における法と裁判の歴史について、主に刑事裁判の歴史を概説します。古代から現代までの裁判制度と著名な裁判をとりあげていきます。裁判に関する図像資料を授業に取り入れるなど、できるだけ具体的なイメージをもてるよう工夫します。裁判に関する基礎知識の修得の機会として、また市民が裁判に参加する意義を考える場として役立ててもらいたいと思います。
到達目標	授業を通じて学生には、西洋社会における裁判制度の歴史と著名な裁判に関わる基礎知識を修得することが期待されます。
授業方法と留意点	オンライン授業では、基本は教材・課題配置型の講義形式で行います。 オンライン授業方法の詳細は、第１回授業の中で説明します。 毎回の授業の最後に小テストなどの課題に取り組んでもらいます。授業の進行にあわせて、２回分のテーマを１回にまとめることもあります。 ※第 8 回授業（11 月 10 日）より、対面形式で行います。
科目学習の効果（資格）	教職科目（中学社会科・高校公民・高校地歴）に必要です。公務員試験や就職試験の一般教養（SPI 対策）としても有益です。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	序論ー日本と西洋の裁判の比較	授業内容の概説、裁判に関する制度の相違、歴史的な変化についての概要	事前:授業のテーマに関連する文献(参考文献など)を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
2	古ゲルマンの裁判—裁判集会型法発見モデル	裁判集会。水審・火審・決闘などの神判の利用	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
3	中・近世の裁判（１）	教会裁判所、職業裁判官による裁判	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
4	中・近世の裁判（２）	刑事裁判の変化、糾問主義の成立、拷問・自白の強要。	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
5	中・近世の裁判（３）	フランス・ドイツの魔女裁判の考察	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
6	中・近世の裁判（４）	国王裁判所、 18 世紀の冤罪事件・カラス事件	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
7	イングランドにおける裁判	ノルマン征服後、国土支配の道具として導入された陪審制	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
8	フランス革命と裁判（１）	フランス革命期における裁判制度改革	事前:授業のテーマに関連する文献(参考文献など)を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
9	フランス革命と裁判（２）	フランス革命期に導入された陪審制の特徴	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
10	フランス革命と裁判（３）	陪審制のその後の変化	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
11	１９世紀の裁判（１）フランス	多様な法律職　／　小説の中で描かれる裁判や法律家たち	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
12	１９世紀の裁判（２）フランス	ドレフェス事件—19 世紀末のフランスで起こった軍部による組織的な冤罪事件	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
13	１９世紀の裁判（３）ドイツ	陪審制から参審制の移行（19 世紀のドイツを中心）	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
14	２０世紀・戦間期の裁判	白バラ事件ーナチスの民族裁判所	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
15	２１世紀への展望ー復習とまとめ	市民が裁判に参加する制度の国際比較、全体のまとめと復習	これまでのレジュメ及び資料を見直して、授業の全体像を再確認・整理する。重要キーワードについては、自分の言葉で説明できるよう整理する。(4 時間)

関連科目	西洋の人権の歴史、西洋女性史
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	概説西洋法制史	勝田有恒　他	ミネルヴァ書房
2	決闘裁判　ヨーロッパ法精神の原風景	山内進	講談社
3	正義の女神の秤から	F・ハフト	木鐸社

評価方法 （基準）	授業内課題（小テスト、小レポートなど）４０％と、期末試験（最終レポート）６０％によって、総合的に評価します。 詳細は、オンライン授業開始の際に、説明します。
学生への メッセージ	歴史科目が苦手だったという人もふるって履修してください。わからない点は、気軽に質問してください。
担当者の 研究室等	11 号館 5 階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	各授業の最後に実施する授業内課題の解答は、次の授業で解説します。 参考文献は、授業の中で随時紹介します。

科目名	西洋女性史	科目名（英文）	History of Women in Western Society
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小宮山　直子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2013a0		

授業概要・目的	西洋社会における女性の地位の歴史について西洋法史の視点から概説します。西洋史のなかの注目すべき女性たちの生涯や権力との関連、及び女性にかかわる事件・事項について、具体的なイメージがわくようにパワーポイントなどを利用しながら講義します。
到達目標	この授業を通して学生には、西洋の中世から現代までの各時代・各社会における女性の地位と法の関わりについて、歴史の大きな流れを踏まえて説明できるようなることが期待されます。
授業方法と留意点	オンライン授業では、基本は教材・課題配置型の講義形式で行います。 オンライン授業方法の詳細は、第１回授業の中で説明します。 毎回の授業の最後に小テストなどの課題に取り組んでもらいます。授業の進行にあわせて、２回分のテーマを１回にまとめることもあります。 ※第 8 回授業（11 月 10 日）より、対面形式で行います。
科目学習の効果（資格）	公務員試験や企業採用試験の一般教養科目対策として有益である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	授業全体の目的 西洋社会における女性像	事前:授業のテーマに関連する文献(参考文献など)を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
2	前近代と近代の社会と法	西洋における前近代と近代の社会と法のあり様・変化を概観する	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
3	中世～近世の女性（１） 中世･封建社会における女性	12 世紀、フランス王妃その後イングランド王妃となったアリエノール・ダキテーヌを通して、中世封建制度を考察する。	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
4	中世～近世の女性（２） 百年戦争とジャンヌ･ダルク（フランス）	百年戦争の末期に登場･活躍したジャンヌ・ダルク。その処刑裁判を考察する。	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
5	中世～近世の女性（３） 宗教改革と女性	ヘンリー８世とアン・ブーリン： 国王の離婚問題を契機とするローマ教会との決別、国王至上法などを考察する。	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
6	啓蒙主義の時代と女性	サロン文化とポンパドゥール夫人。近代市民社会の萌芽。	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
7	フランス革命と女性（１）	フランス革命における女性たち。王妃マリー・アントワネット、他	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
8	フランス革命と女性（２）	グージュと女性の権利宣言、	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
9	フランス民法典と女性（１）	民法典起草の意図。 民法典全体の特徴など。	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
10	フランス民法典と女性（２） —近代市民法と家父長制、他	フランス民法典のなかの女性･近代的家父長制の特徴（妻の行為無能力など）を考察する。	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
11	19 世紀フランス社会と女性（１）	19 世紀のブルジョア女性の活動・女性商人などについて、フランスを中心に考察する。	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
12	19 世紀フランス社会と女性（２）	19 世紀の労働者（女性を中心に）・衛生問題について、フランスを中心に考察する。	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
13	20 世紀における女性（１） １９世紀末～20 世紀初頭、第一次フェミニズム運動の展開	女性参政権獲得をめぐる運動、 女性の社会進出	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
14	20 世紀における女性（２） 第２次フェミニズム運動	女性解放の進展、 シモーヌ・ヴェイユ（国家と女性の身体の問題）	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
15	全体のまとめ	２１世紀グローバル社会での女性問題	これまでのレジュメ及び資料を見直して、授業の全体像を再確認・整理する。重要キーワードについては、自分の言葉で説明できるよう整理する。（４時間）

関連科目	西洋の人権の歴史、西洋の裁判の歴史
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	概説西洋法制史	勝田有恒他	ミネルヴァ書房
2	ジェンダーの比較法史学	三成美保編	大阪大学出版会
3	法制史入門	岩村・三成著	ナカニシヤ出版

評価方法 （基準）	授業内課題（小テスト、小レポートなど）５０％と、期末試験（最終レポート）５０％によって、総合的に評価します。 詳細は、オンライン授業開始の際に、説明します。
学生への メッセージ	法史をめぐる知識を楽しく深めるのに役立つ授業です。
担当者の 研究室等	11 号館 5 階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	各授業の最後に実施する課題の解答例などは、次の授業で解説します。 参考文献は、授業の中で随時紹介します。

科目名	英米法	科目名（英文）	Anglo-American Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	家本　真実
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3014a0		

授業概要・目的	日本で生活していくうえで、他国の法制度の知識が役に立つことはあまり多くないかもしれません。しかし、他国の法制度を学ぶことは、日本の法制度に対する理解を深め、さまざまな法的問題の解決法を探ることにもつながります。 そこでこの講義では、日本の法制度にも大きな影響を与えている英米法の基礎概念とアメリカの法制度を学んでいただきたいと考えています。講義では、英語の文献を参照することもありますし、映像資料も多用します。
到達目標	この授業を通じて、学生の皆さんには、アメリカ法の特徴を理解し、憲法および民事法、陪審制度といったアメリカの法制度および社会の全体像を把握できるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	要点を記したレジュメを中心に講義をおこないます。「英語なんて見たくもない」という方にはお勧めできない授業ですが、アメリカという国や英語に興味がある方には、法という視点からアプローチする楽しさを感じていただけるかと思います。 単位取得のためには毎回の講義内容を理解することが必須だと考えてください。各講義の数日前にレジュメを配布しますので、講義前に目を通しておいてください。 講義では、レジュメにつき解説を加えます。講義内容については、受講生の皆さんの理解度によっては多少変更することがあります。 なお、講
科目学習の効果（資格）	英米法の基本的な考え方、アメリカの歴史や社会、法制度についての知識を得ることができます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに 訴訟社会、アメリカ？	この講義の内容や目的、講義の進め方について 訴訟社会といわれるアメリカの裁判について	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと。
2	英米法とは	英米法の歴史と、アメリカ合衆国の生い立ち、その法体系	今回の講義内容に関する資料（前回講義終了時に配布）を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
3	判例法とは（1）	アメリカ法の特徴である判例法主義について、具体的な事例を基に学ぶ	今回の講義内容に関する資料（前回講義終了時に配布）を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
4	判例法とは（2）	アメリカ法の特徴である判例法主義について、具体的な事例を基に学ぶ	今回の講義内容に関する資料（前回講義終了時に配布）を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
5	アメリカの憲法（1）	アメリカにおける連邦と州の関係とそれぞれの権限について学ぶ	今回の講義内容に関する資料（前回講義終了時に配布）を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
6	アメリカの憲法（2）	アメリカ大統領の権限および大統領選挙について学ぶ	今回の講義内容に関する資料（前回講義終了時に配布）を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
7	アメリカの憲法（3）	アメリカの憲法（権利章典）に関する判例を読む	今回の講義内容に関する資料（前回講義終了時に配布）を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
8	銃問題アメリカの抱える問題（1）	映画『ボウリング・フォー・コロンバイン』を通してアメリカの銃問題について学ぶ	今回の講義内容に関する資料（前回講義終了時に配布）を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
9	銃問題アメリカの抱える問題（2）	映画『ボウリング・フォー・コロンバイン』を通してアメリカの銃問題について学ぶ	今回の講義内容に関する資料（前回講義終了時に配布）を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
10	アメリカの民事訴訟（1）	アメリカの民事裁判手続きに採用されているディスカバリー（証拠開示手続き）、クラスアクション（集団代表訴訟）について	今回の講義内容に関する資料（前回講義終了時に配布）を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
11	アメリカの民事訴訟（2）	映画 ”Hot Coffee” を題材に、アメリカの民事裁判と懲罰的損害賠償について学ぶ	今回の講義内容に関する資料（前回講義終了時に配布）を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
12	アメリカの民事訴訟（3）	映画 ”Hot Coffee” を題材に、アメリカの民事裁判と懲罰的損害賠償について学ぶ	今回の講義内容に関する資料（前回講義終了時に配布）を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
13	アメリカにおける市民の司法への参加（1）	映画 ”Hot Coffee” からわかるアメリカの陪審制度	今回の講義内容に関する資料（前回講義終了時に配布）を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
14	アメリカにおける市民の司法への参加（2）	アメリカの民事・刑事陪審制度、アメリカの陪審制度と日本の裁判員制度の比較	今回の講義内容に関する資料（前回講義終了時に配布）を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
15	おわりに	これまでの講義のまとめ	これまでの講義を通して疑問や不明点がないか確

				認したうえで講義に臨むこと。

関連科目	国際関係の科目、英語系の科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	現代アメリカ法入門	丸田隆	日本評論社
2			
3			

評価方法 （基準）	講義内で課す課題（ペーパーなど）への取り組みを 30%程度、学期末に課すレポートの成績を 70%程度の割合で、最終的な評価をおこないます。
学生への メッセージ	アメリカや英語に興味があり、積極的に学ぼうという姿勢を持つ学生（他学部の学生を含む）を歓迎します。講義中は私語を慎んでください。講義内容は、進行具合や受講生の様子によっては変更する場合もあります。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　家本准教授室
備考	課題については、次の回の授業で講評をおこないます。 事前・事後学習の総時間数の目安：20 時間 20 年度　合格率 83.3%　（不受験率 0%）　A0.0%　B7.1%　C54.8%　D21.4%　平均 69 点　42 人登録

科目名	憲法概論	科目名（英文）	Introduction to Constitutional Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤＥＧＨＩ
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	浮田　徹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○		
科目ナンバリング	JDJ1015a0		

授業概要・目的	憲法の基本原理、基本的人権部分の総論的な領域をとりあつかいます。憲法Ⅰ(基本的人権)ではとりあげない領域もここに含まれますので、憲法を全体として習得したい人はこの講義をまずしっかりと勉強する必要があります。
到達目標	この授業を通じて学生には、基本的人権・統治機構、その他数多ある人権や権利に関連する法律を理解するために不可欠の土台を形成するようになることが期待される。憲法は、各項目の理解のしやすさに関し、基本原理の理解が重要になります。
授業方法と留意点	講義形式で行います。講義に必要なものはレジュメ、ノート、教科書、六法です。 レジュメは事前に moodle から入手、印刷して持参してください。 ※moodle の利用方法につき (1)moodle とは 摂南大学の採用する ICT ツールです。大学のトップページにリンクがあります。 (2)moodle の登録方法につき 講義には自分で登録する必要があります。 ログインし、「ナビゲーション」のところにある「コース」をクリック、「コースを検索する」から 「21 概論」と入力して検索し「2021 年度憲法概論」
科目学習の効果（資格）	様々な資格試験および公務員試験の基礎となります。 また、公務員の場合は就職後に警察学校などで科目となる場合があります。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・憲法総論	ガイダンス・憲法の位置づけ	予習：教科書の目次を一通り読んでおく(10 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(20 分)
2	憲法の基本原理	近代憲法に不可欠の要素につき学ぶ	予習：教科書の 1、2 を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
3	憲法の歴史	近代憲法の形成の歴史、日本国憲法史について学ぶ	予習：教科書の 1、2 を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
4	人権の到達範囲	人権保障の及ぶ範囲について学ぶ	予習：教科書の 6 を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
5	人権の享有主体	外国人の人権保障について学ぶ	予習：教科書の 4、5 を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
6	人権保障の限界	人権保障の限界の問題について学ぶ	予習：教科書の 3 を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
7	憲法 13 条の内容	13 条の二つの側面について学ぶ	予習：教科書の 8、9 を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
8	包括的基本権としての１３条	幸福追求権としての 13 条のしくみについて学ぶ	予習：教科書の 8、9 を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
9	新しい人権(1)	プライバシー権・名誉の権利について学ぶ	予習：教科書の 9 を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
10	新しい人権(2)	肖像権・環境権などその他新しい権利について学ぶ	予習：教科書の 9 を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
11	法の下の平等(1)	法の下の平等について、歴史的経緯から学ぶ	予習：教科書の 10 を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
12	法の下の平等(2)	法の下の平等について、特に日本国憲法 14 条の内容について学ぶ	予習：教科書の 11 を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
13	法の下の平等(3)	法の下の平等についての裁判例を学ぶ(1)	予習：教科書の 11 を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
14	法の下の平等(4)	法の下の平等についての裁判例を学ぶ(2)	予習：教科書の 12 を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
15	精神的自由総論	精神的自由とはいかなるものか、内心の自由までを学ぶ	予習：教科書の 1 を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)

関連科目：憲法Ⅰ、憲法Ⅱと深く関連します。また後期配当の憲法Ⅰ(基本的人権)を理解するためにはこの講義の受講・習得が重要になります。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	憲法の時間	井上典之編	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

	2			
	3			

評価方法 （基準）	講義ごとに課す課題 40%、期末レポート 60%で採点します。
学生への メッセージ	講義の進め方、評価について詳細な説明をしますので初回の講義には必ず出席すること。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　浮田准教授室
備考	講義情報を twitter にて発信していきます。それほど頻繁ではありません。期待しないでください(@toruukita) 教科書は後期開講の憲法Ⅰ(基本的人権)と共通です。 課題ペーパーの解答については、次回講義最初にて解説を行います。 20 年度　合格率 90.9%　（不受験率 3.7%）　A7.4%　B40.5%　C37.6%　D5.4%　平均 77 点　242 人登録

科目名	憲法概論	科目名（英文）	Introduction to Constitutional Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	K
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	笛木　淳
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○		
科目ナンバリング	JDJ1015a0		

授業概要・目的	憲法は、国の「かたち」と「はたらき」についての基本的な原理・ルールを定めたものです。これらの原理・ルールを大きく分けると，統治の仕組みに関するものと人権に関するものがあります。 この授業では，これらの重要な原理・ルールを解説し、私たちの社会における身近なトピックや問題にあてはめて考えるきっかけを提供します。また，実際に裁判で争われた事件も参照して、それについて裁判所がどのように判断したのかも検討していきます。
到達目標	この授業を通じて学生には，次の３つを習得することが期待されます。 （1）憲法の原理やルールの基本的事項を理解すること。 （2）具体的な事件について裁判所が下した判断を踏まえた基礎的な検討を行えるようにすること。 （3）社会における様々なトピックに存在する憲法上の問題を発見できるようにすること。
授業方法と留意点	主に講義形式で行いますが、質疑応答を通じて受講生との双方向型のコミュニケーションを図り，皆さんの理解を助けるようにします。間違いをおそれずに積極的に発言することを望んでいます。
科目学習の効果（資格）	各種公務員試験で問われる憲法の基礎学力の習得。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス･イントロダクション	授業方法の説明 憲法とはなにか（Unit ０，１） ＊（）内は教科書該当箇所。	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと（2時間）。 事後学習：講義・教科書の内容を整理，要約する（2時間）。
2	統治総論	・立憲主義，権力分立 （Unit ２） ・国民主権（Unit ３）	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと（2時間）。 事後学習：講義・教科書の内容を整理，要約する（2時間）。
3	国会	国会の地位と役割，組織 （Unit ６，７）	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと（2時間）。 事後学習：講義・教科書の内容を整理，要約する（2時間）。
4	内閣	内閣の地位と役割，組織 （Unit ８）	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと（2時間）。 事後学習：講義・教科書の内容を整理，要約する（2時間）。
5	裁判所	裁判所の地位と役割 （Unit ９，１０）	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと（2時間）。 事後学習：講義・教科書の内容を整理，要約する（2時間）。
6	裁判所（２）	裁判所の組織・手続 （Unit ９）	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと（2時間）。 事後学習：講義・教科書の内容を整理，要約する（2時間）。
7	基本的人権総論	人権保障の仕組み Unit １３）	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと（2時間）。 事後学習：講義・教科書の内容を整理，要約する（2時間）。
8	基本的人権各論（１）	思想良心の自由 （Unit １４）	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと（2時間）。 事後学習：講義・教科書の内容を整理，要約する（2時間）。
9	基本的人権各論（２）	信教の自由と政教分離原則 （Unit １６，１７）	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと（2時間）。 事後学習：講義・教科書の内容を整理，要約する（2時間）。
10	基本的人権各論（３）	表現の自由の意義，二重の基準 （Unit １７，１８）	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと（2時間）。 事後学習：講義・教科書の内容を整理，要約する（2時間）。
11	基本的人権各論（４）	集会・結社の自由 （Unit ２０）	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと（2時間）。 事後学習：講義・教科書の内容を整理，要約する（2時間）。
12	基本的人権各論（５）	職業選択の自由 （Unit ２１）	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと（2時間）。 事後学習：講義・教科書の内容を整理，要約する（2時間）。
13	基本的人権各論（４）生存権	生存権 （Unit ２４）	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと（2時間）。 事後学習：講義・教科書の内容を整理，要約する（2時間）。
14	幸福追求権	自己決定権，プライバシー権 （Unit ２８，２９）	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと（2時間）。 事後学習：講義・教科書の内容を整理，要約する（2時間）。
15	平等原則	平等原則の意義と合理的な区別 （Unit ２７）	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと（2時間）。 事後学習：講義・教科書の内容を整理，要約する（2

				時間)。

関連科目	行政法、民法、刑法など
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	一歩先への憲法入門	片桐直人ほか	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	START UP 憲法判例 50［第２版］	上田健介・尾形健・片桐直人	有斐閣
2	授業中に適宜指示します。		
3			

評価方法 （基準）	・演習問題：40% ・ミニッツペーパー：30% ・期末テスト：30%　＊実施方法未定。
学生への メッセージ	この授業は，憲法の条文，原理や解釈がなぜそうなっているのか，という点を分かりやすく説明することを心がけています。 また，社会のさまざまな事柄を憲法に基づいて考えられるような工夫に努めていきます。
担当者の 研究室等	11 号館９階　笛木講師室
備考	

科目名	憲法Ⅰ（基本的人権）	科目名（英文）	Constitutional Law Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浮田　徹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2016a0		

授業概要・目的	基本的人権領域における重要な部分としての具体的な人権規定を学んでもらいます。 個別の人権規定についての理解が深まる。 「憲法概論」を履修していることを前提にして講義を行っていきます。本科目を受講する学生は前期憲法概論も登録しておくことが望ましいです。
到達目標	この授業を通じて学生には、「憲法概論」で学んだ人権の総論的な考え方を、個別の人権条項についての各論に反映させて理解できるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	講義形式で行います。講義に必要なものはレジュメ、ノート、教科書、六法です。 レジュメは事前に moodle から入手、印刷して持参してください。 ※moodle の利用方法につき (1)moodle とは 摂南大学の採用する ICT ツールです。大学のトップページにリンクがあります。 (2)moodle の登録方法につき 講義には自分で登録する必要があります。 ログインし、「ナビゲーション」のところにある「コース」をクリック、「コースを検索する」から 「21 人権」と入力して検索し「2021 年度憲法Ⅰ(基
科目学習の効果（資格）	憲法はあらゆる公務員試験および公務員として働き始めてからも科目として設定されることが多いです。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・人権学習の前提の確認	講義概要の説明と導入ための事項の確認を行う	予習：教科書の目次を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
2	表現の自由(1)	表現の自由の価値について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
3	表現の自由(2)	報道の自由について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
4	表現の自由(3)	インターネットにおける表現の問題について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
5	表現の自由(4)	集会・結社の自由について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
6	経済的自由(1)	経済活動における権利について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
7	経済的自由(2)	具体的な経済的自由の保障と規制について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
8	経済的自由(3)	具体的な経済的自由の保障と規制について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
9	財産権	所有と財産に関する権利について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
10	生存権	社会権としての生存権について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
11	生存権 2	社会権としての生存権について学ぶ 2	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
12	教育を受ける権利	公教育における国民の権利について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
13	労働基本権	労働者の権利について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
14	法定手続の保障	憲法 31 条の保障する内容について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
15	刑事手続に関する権利	32 条以下の具体的権利について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。

関連科目	憲法概論、憲法 II その他あらゆる法律科目。憲法概論とは内容的な連続性もあります。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	憲法の時間	井上典之編	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			

評価方法 （基準）	課題(40%)、期末レポート(60%)により評価します。
学生への メッセージ	憲法概論も履修しておいてください。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　浮田准教授室
備考	「憲法概論」を履修していることを前提にして講義を行う部分もありますので本科目を受講する学生は前期憲法概論も登録しておいてください。 確認ペーパーの解答については次回講義にて解説を行います。 20 年度　合格率 77.8%　（不受験率 11.6%）　A4.3%　B37.7%　C19.3%　D16.4%　平均 77 点　207 人登録

科目名	憲法Ⅱ（統治機構）	科目名（英文）	Constitutional Law II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	浮田　徹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2017a0		

授業概要・目的	本講義では、憲法Ⅰ（基本的人権）で習得した知識を土台として、基本的人権と並ぶ憲法の重要な構成要素である統治機構について学習してもらいます。憲法の統治機構の基本的な部分、応用への足がかりまでを学習することを目的としています。
到達目標	この授業を通じて学生には、日本国憲法の採用する様々な制度を理解し、全体としての統治システムの構造と作用を把握するところにあります。その上で、統治に関する憲法の規定が、単に国家の構成について定めたというだけではなく、憲法で掲げられる基本的人権などの重要な価値を保障するための組織を作り上げるものであるということを理解できるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	講義形式で行います。講義に必要なものはレジュメ、ノート、教科書、六法です。 レジュメは事前に moodle から入手、印刷して持参してください。 ※moodle の利用方法につき (1)moodle とは 摂南大学の採用する ICT ツールです。大学のトップページにリンクがあります。 (2)moodle の登録方法につき 講義には自分で登録する必要があります。 ログインし、「ナビゲーション」のところにある「コース」をクリック、「コースを検索する」から 「21 統治」と入力して検索し「2021 年度憲法 II(
科目学習の効果（資格）	司法試験、公務員試験などの試験科目です。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	・講義の概要説明	予習：指定教科書の目次に目を通しておく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
2	統治機構総論	・権力分立概論 ・民主主義概論	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
3	立法と行政(1)	・議院内閣制	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
4	立法と行政(2)	・国会の性格、地位	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
5	立法と行政(3)	・内閣を頂点とする行政権の仕組み	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
6	司法権(1)	・裁判所の役割	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
7	司法権(2)	・違憲審査	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
8	司法権(3)	・憲法裁判	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
9	平和主義(1)	・憲法 9 条の解釈について	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
10	平和主義(2)	・自衛隊の憲法適合性、日本の安全保障	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
11	憲法改正	・現代における憲法改正論議	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
12	憲法保障	・憲法保障のシステムについて	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
13	天皇制	・日本国憲法における象徴天皇制	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
14	地方自治	・憲法上の地方自治	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
15	まとめ	・まとめ	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)

関連科目：行政法や国際法といった実定法領域のほか、政治学、行政学などひろく政治学の領域へと学習を展開する基礎となります。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新・エッセンス憲法	安藤高行編	法律文化社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			

評価方法 （基準）	講義ごとに課される課題 40、期末レポート 60%で評価します。
学生への メッセージ	基本的人権だけでなく、統治機構も理解することで憲法の勉強を完成させましょう。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　浮田准教授室
備考	確認ペーパーの解答については次回講義冒頭にて解説します。 20 年度　合格率 91.4%　（不受験率 0%）　A5.5%　B38.3%　C35.2%　D12.5%　平均 73 点　128 人登録

科目名	行政法総論	科目名（英文）	Administrative Law (General)
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	笛木　淳
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2018a0		

授業概要・目的	私たちの生活や新聞で目にする多くの事柄には，さまざな行政活動や行政サービスが関わっています。行政法とは，そのような多岐にわたる行政の活動・サービスの根拠や仕組みを規律する法規範の総称です。この授業では，行政プロセスを規律する法的な仕組み，ルールとしてどのようなものがあるか，具体例に即して学んでもらいます。
到達目標	この授業を通じて学生には，次のことを達成できることが期待されます。 （１）具体例に即して，行政法の基本原理・原則を理解する。 （２）具体例に即して，行政法の基本的な制度・仕組みを読み解く能力を習得する。 （３）具体的問題について，行政法の原則，制度をもとに思考・処理する力を身につける。
授業方法と留意点	・レジュメは事前にパワーポイントをアップしますので，そちらをあらかじめダウンロードした上で受講してください。 ・その他 思考の促進，理解の確認のために学生に対して質疑応答を求めます。事前に教科書の該当箇所を読んで予習することが望まれます。また，定期的に復習課題を出します。
科目学習の効果（資格）	公務員試験や，行政書士その他の資格試験で問われる行政法の基礎学力の習得。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 行政法の意義	授業・試験方法，成績評価などの説明。 行政法と社会の関わりを解説する。	事前学習:教科書 Chapter １をあらかじめ読んでおくこと（2 時間）。 事後学習：講義・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。
2	法律による行政の原理	法律による行政の原理（法治国原理）の考え方と，その派生原理を学ぶ。	事前学習：教科書 Chapter ２をあらかじめ読む（2 時間）。 事後学習：講義・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。
3	行政法の一般原則（１）	比例原則を中心に，法治国原理に基づく一般原則を学ぶ。	事前学習：教科書 Chapter ３をあらかじめ読む（2 時間）。 事後学習：講義・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。
4	行政法の一般原則（２）	説明責任を中心に，市民参加に関するく一般原則を学ぶ。	事前学習：教科書 Chapter ４をあらかじめ読む（2 時間）。 事後学習：講義・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。
5	行政行為（１）	行政行為の基本的考え方，種類，内容に関するルールを学ぶ。	事前学習：教科書 Chapter ５をあらかじめ読む（2 時間）。 事後学習：講義・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。
6	行政行為（２）	行政裁量について基本的考え方とその審査の仕方を学ぶ。	事前学習:事前配布資料をあらかじめ読む(2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。
7	行政手続	行政手続の基本的な考え方，具体的なルールを学ぶ。	事前学習：教科書 Chapter ６をあらかじめ読む（2 時間）。 事後学習：講義・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。
8	行政基準	行政基準にどのようなものがあるか，どのような働きをするか。	事前学習：教科書 Chapter ７をあらかじめ読む（2 時間）。 事後学習：講義・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。
9	行政計画	都市計画を中心に，行政計画の基本的な内容とそれを巡るルールを学ぶ。	事前学習：教科書 Chapter ８をあらかじめ読む（2 時間）。 事後学習：講義・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。
10	行政指導	行政指導の特徴と，その法的な規律について学ぶ。	事前学習：教科書 Chapter ９をあらかじめ読む（2 時間）。 事後学習：講義・教科書の内容を整理，要約する（2 時間）。
11	事実行為	事実行為の特徴とその働きについて学ぶ。	事前学習:教科書 Chapter １０を事前にあらかじめ読む（2 時間）。 事後学習：講義・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。
12	行政上の義務履行確保	代執行制度を中心に義務履行の基本的仕組みについて学ぶ。	事前学習:教科書 Chapter １１をあらかじめ読む(2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。
13	情報公開法	情報公開制度の基本的考え方と仕組みについて学ぶ。	事前学習:教科書 Chapter １２をあらかじめ読む(2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。
14	行政組織法	行政組織の基本構造，ルールについて学ぶ。	事前学習：配布資料をあらかじめ読む（2 時間）。 事後学習：講義・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。
15	まとめ	これまでの講義内容をまとめる。	事前学習：配布資料をあらかじめ読む。これまで自分で整理・要約したノート類を読み返す（2 時間）。 事後学習：講義・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。

関連科目	憲法，民法
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	現代行政法入門［第４版］	曽和俊文ほか	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	行政法Ⅰ　現代行政過程論	大橋洋一	有斐閣
2	グラフィック　行政法入門	原田大樹	新世社
3	行政法判例 50！	大橋真由美ほか	有斐閣

評価方法 （基準）	・演習問題：40% ・ミニッツペーパー：30% ・期末テスト：30%　＊実施方法未定。
学生への メッセージ	公務員志望，社会問題に関心のある学生の受講を歓迎します。
担当者の 研究室等	笛木講師室（11 号館 9 階）
備考	演習課題は次回の授業で解説する。 20 年度　合格率 78.5%　（不受験率 1.9%）　A3.2%　B17.1%　C32.9%　D25.3%　平均 69 点　158 人登録

科目名	行政法各論	科目名（英文）	Administrative Law (Specific)
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	笛木　淳
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2019a0		

授業概要・目的	国家の活動により損害・損失を被った市民には，さまざまな救済の手段・仕組みが準備されており，法治国原理の実現が企図されています。この授業では，そのような仕組み・ルールである行政救済法の基本について学んでもらいます。
到達目標	この講義を通じて，学生には以下の３点を身につけることが期待されます。 （１）行政救済法にはどのような仕組みがあるか理解し，それぞれの特徴を説明する能力。 （２）行政訴訟上の具体的問題として典型的にどのようなものがあるかを理解し，これを解決するための考え方。 （３）国家賠償・損失補償の具体的問題として典型的にどのようなものがあるかを理解し，これを解決するための考え方。
授業方法と留意点	・レジュメは事前にパワーポイントをアップしますので，そちらをあらかじめダウンロードした上で受講してください。 ・その他 行政法総論を受講済みであることが前提とされます。基本的には講義形式で行います。思考の促進，理解の確認のために学生に対して質疑応答を求め，できる限り双方向のコミュニケーションに努めます。講義ではレジュメを配布します。情報量が多いので各自の学習（予習・復習）では，教科書該当箇所だけでなく配布レジュメ，資料の読み込みが必須です。また，定期的に復習課題を出します。
科目学習の効果（資格）	公務員試験，行政書士や宅建など各種の資格試験で問われる行政法の基礎学力の習得。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 行政救済法とは	授業方法，期末テスト，評価方法について冒頭で説明する。 行政法における事後的救済制度（行政訴訟，国家賠償，損失補償）の概観としてどのようなものがあるかを学ぶ。	事前：配布レジュメをあらかじめ読む（2 時間）。 事後：講義・教科書の内容を整理・要約し、見なおす（2 時間）。
2	取消訴訟の訴訟要件（１）	取消訴訟の要件である処分性の基本的理解について	事前：配布レジュメをあらかじめ読む（2 時間）。 事後：講義・教科書の内容を整理・要約し、見なおす（2 時間）。
3	取消訴訟の訴訟要件（２）	原告適格を中心とする訴訟要件について	事前：配布レジュメをあらかじめ読む（2 時間）。 事後：講義・教科書の内容を整理・要約し、見なおす（2 時間）。
4	取消訴訟の訴訟要件（３）	（１），（２）で扱わなかった訴訟要件についてまとめて扱う。	事前：配布レジュメをあらかじめ読む（2 時間）。 事後：講義・教科書の内容を整理・要約し、見なおす（2 時間）。
5	取消訴訟の審理・判決	取消訴訟の本案審理の基本的仕組みと判決の効力について	事前：配布レジュメをあらかじめ読む（2 時間）。 事後：講義・教科書の内容を整理・要約し、見なおす（2 時間）。
6	無効等確認訴訟	取消訴訟と異なる無効確認の特徴について	事前：配布レジュメをあらかじめ読む。 事後：講義・教科書の内容を整理・要約し、見なおす。
7	不作為違法確認訴訟	不作為の違法確認訴訟の特徴と基本的仕組み。	事前：配布レジュメをあらかじめ読む（2 時間）。 事後：講義・教科書の内容を整理・要約し、見なおす（2 時間）。
8	義務付け訴訟	義務付け訴訟の特徴と基本的仕組み	事前：配布レジュメをあらかじめ読む（2 時間）。 事後：講義・教科書の内容を整理・要約し、見なおす（2 時間）。
9	仮の救済制度	仮の救済制度の基本的仕組みと働きについて	事前：配布レジュメをあらかじめ読む（2 時間）。 事後：講義・教科書の内容を整理・要約し、見なおす（2 時間）。
10	当事者訴訟・民衆訴訟	抗告訴訟とは異なる訴訟の特徴と基本的仕組み	事前：配布レジュメをあらかじめ読む。 事後：講義・教科書の内容を整理・要約し、見なおす。
11	行政の不服申立てについて	訴訟以外の救済制度を行政不服審査法を中心として学ぶ。	事前：配布レジュメをあらかじめ読む（2 時間）。 事後：講義・教科書の内容を整理・要約し、見なおす（2 時間）。
12	国家賠償訴訟（１）	国家賠償訴訟の基本的考え方，国家賠償法１条の基本問題	事前：配布レジュメをあらかじめ読む（2 時間）。 事後：講義・教科書の内容を整理・要約し、見なおす（2 時間）。
13	国家賠償訴訟（２）	国の営造物による損害に対する賠償制度について	事前：配布レジュメをあらかじめ読む（2 時間）。 事後：講義・教科書の内容を整理・要約し、見なおす（2 時間）。
14	損失補償	適法な国家活動による損失の補償についての基本的仕組み	事前：配布レジュメをあらかじめ読む（2 時間）。 事後：講義・教科書の内容を整理・要約し、見なおす（2 時間）。
15	総括	これまでの講義のまとめ	事前：配布レジュメをあらかじめ読む。これまで整理・要約したノート類を見返す（2 時間）。 事後：演習課題に取り組んだうえで、見なおす（2 時間）。

関連科目：民事訴訟法の理解が必要になるので，履修済みか並行して履修することが望ましいです。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	現代行政法入門［第４版］	曽和俊文ほか	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	行政法判例５０！	大橋真由美ほか	有斐閣
	2	行政法 II　現代行政救済論	大橋洋一	有斐閣
	3			

評価方法 （基準）	・ミニッツペーパー：30% ・演習課題：40% ・期末テスト：30%
学生への メッセージ	公務員志望者，社会問題に関心のある方の受講を歓迎します。
担当者の 研究室等	笛木講師室（１１号館９階）
備考	演習課題は次回の授業で解説する。 20 年度　合格率 79.3%　（不受験率 5.9%）　A17.8%　B21.5%　C24.4%　D15.6%　平均 75 点　135 人登録

科目名	地方自治法	科目名（英文）	Local Autonomy Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	笛木　淳
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3020a0		

授業概要・目的	我々の生活を支える行政活動・サービスは地方自治体の存在なくして語ることはできません。この講義では，そのような地方自治体が活動するための最も基本的な原理である「地方自治」とは何かを，地方自治法を中心に理解してもらうことを目的としています。
到達目標	この講義を通じて，学生には次のスキルを身につけることが期待されます。 （１）地方自治の基本的な法的ルール・仕組みを理解し、解釈できる。 （２）地方における具体的な課題について，地方自治法に即して問題を理解し，解決できる。
授業方法と留意点	・レジュメは事前にパワーポイントをアップしますので，そちらをあらかじめダウンロードした上で受講してください。 ・その他 思考の促進，理解の確認のために学生に対して質疑応答を求め，できる限り双方向コミュニケーションに努めます。講義ではレジュメを配布しますが，事前に教科書の該当箇所を読んで予習することが望まれます。また，定期的に復習課題を出します。指定教科書以外の参考文献は講義中に適宜指示します。
科目学習の効果（資格）	公務員試験および資格試験各種に必要な地方自治法の基礎学力の習得。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、地方自治とは何か	講義の進め方,期末試験,成績評価など。「地方自治の本旨」、地方自治の歴史	事前：教科書第１章、第２章をあらかじめ読む（特に第１章を中心に）（2時間）。 事後：講義・教科書の内容を見直し，整理・要約する（2時間）。
2	地方公共団体って何？	普通地方公共団体、特別地方公共団体	事前：教科書第３章をあらかじめ読む（2時間）。 事後：講義・教科書の内容を見直し，整理・要約する（2時間）。
3	住民って何？	住民の法的地位、住民参加の仕組み、住民投票制度について	事前：教科書第４章をあらかじめ読む（2時間）。 事後：講義・教科書の内容を見直し，整理・要約する（2時間）。
4	地方公共団体の仕事にはどのようなものがあるか	地方公共団体の処理する事務の性質（自治事務、法定受託事務）	事前：教科書第５章をあらかじめ読む（2時間）。 事後：講義・教科書の内容を見直し，整理・要約する（2時間）。
5	国と地方の関係	関与の基本類型、関与の仕組み	事前：教科書第６章をあらかじめ読む（2時間）。 事後：講義・教科書の内容を見直し，整理・要約する（2時間）。
6	自主行政権（１）	自治体の行政活動と街づくりの手法	事前：教科書第７章をあらかじめ読む（2時間）。 事後：講義・教科書の内容を見直し，整理・要約する（2時間）。
7	自主行政権（２）	情報公開・個人情報保護	事前：教科書第８章をあらかじめ読む（2時間）。 事後：講義・教科書の内容を見直し，整理・要約する（2時間）。
8	自主財政権	地方財政法 地方の財政調整･財源保障（地方交付税、国庫支出金，地方債）	事前：教科書第９章をあらかじめ読む（2時間）。 事後：講義・教科書の内容を見直し，整理・要約する（2時間）。
9	自主立法権	条例制定権の意義と限界	事前：教科書第１０章をあらかじめ読む（2時間）。 事後：講義・教科書の内容を見直し，整理・要約する（2時間）。
10	自治体の組織（１）	議会、長の法的地位，権限	事前：教科書第１１章をあらかじめ読む（2時間）。 事後：講義・教科書の内容を見直し，整理・要約する（2時間）。
11	自治体の組織（２）	委員会と委員、附属機関、監査	事前：教科書第１２章をあらかじめ読む（2時間）。 事後：講義・教科書の内容を見直し，整理・要約する（2時間）。
12	住民による自治体のチェック	住民監査請求，住民訴訟	事前：教科書第１３章をあらかじめ読む（2時間）。 事後：講義・教科書の内容を見直し，整理・要約する（2時間）。
13	公の施設の管理	公の施設の設置，管理の仕組み	事前：教科書第１４章をあらかじめ読む（2時間）。 事後：講義・教科書の内容を見直し，整理・要約する（2時間）。
14	地方公務員法	地方公務員の勤務関係，義務・責任	事前：教科書第１５章をあらかじめ読む（2時間）。 事後：講義・教科書の内容を見直し，整理・要約する（2時間）。
15	総括	これまでの講義の復習	事前：これまでの整理・要約ノートを講義前までにあらかじめ読み返す（2時間）。 事後：講義・教科書の内容を見直し，整理・要約する。演習課題に取り組む（2時間）。

関連科目：憲法、行政法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	自治体職員のためのようこそ地方自治法（改訂版）	板垣勝彦	第一法規
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	＊必要に応じて授業で指示します。		
2			

	3			

評価方法 （基準）	・演習問題：40% ・ミニッツペーパー：30% ・期末テスト：30%　＊実施方法未定。
学生への メッセージ	地方公務員志望者，地方行政について関心のある学生の受講を歓迎します。
担当者の 研究室等	未定
備考	復習課題は次回の授業で解説する。 20 年度　合格率 78.4%　（不受験率 0%）　A9.3%　B24.7%　C26.8%　D17.5%　平均 72 点　97 人登録

科目名	租税法Ⅰ	科目名（英文）	Tax Law Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小島　俊朗
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3021a0		

授業概要・目的

現代社会では、国民は法律（租税法)に基づいて納税の義務を負い税金を納付することになりますが、租税法は必ずしも容易に理解できるものではありません。これは、租税法が多様な経済活動を幅広く適用の対象としていることや、租税負担の公平を図るため、租税法が明確かつ一義的に規定することを要求されていることによるものです。一方、皆さん方が社会人になれば、自営業者、会社員等を問わず、税とは何らかの形で関わらざるを得ません。租税法Ⅰでは、税法の総論に関する事項と個人に関係する所得税法の仕組み、考え方について理解してもらいたいと思います。

租税法は実学の代表格です。小職は、国税庁本庁に長年勤務し、また、東京、大阪、名古屋などの国税局で部長職を歴任するなど、税務行政の企画・立案や指揮をしてきたほか、名古屋国税不服審判所等の所長として租税法の解釈・適用にも携わってきました。この授業では、法理論のみならず、それらの実務経験を踏まえた講義を行うこととしています。

到達目標

この授業を通じて学生には、次の目標を達成することが期待されます。

①租税法に共通する原則や基本事項が理解できるようになること。

②租税法の中でも最も基本的で身近な所得税法の概要が理解できるようになること。

授業方法と留意点

決まった教科書は使用しませんが、レジュメと参考資料を毎回配付します。なお、期末試験のほか、理解度を確認するためのテストを適時に行う予定です。

聞き慣れない用語も出てくるとは思いますが、租税法の基本的な考え方を理解することが重要ですから、要点を確実に押さえるようにしてください。

科目学習の効果（資格）

税理士試験や国税専門官を目ざす人の入門講座になると思います。また、社会人となって税金を払う立場になれば、無関心ではいられないこともありますので、この機会に税に馴染んでおくのも有益かと思います。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	私達の生活と税	税との関わり、財政の状況、税の種類、税が持っている機能	レジュメ第１回講義を見直すこと。(約１時間)
2	租税法序論（Ⅰ）	税法の体系、租税実体法と租税手続法	配布資料に基づき予習しておくことレジュメ第２回講義を見直すこと。(約２時間)
3	租税法序論（Ⅱ）	課税要件（その１）	配布資料に基づき予習しておくことレジュメ第３回講義を見直すこと。(約２時間)
4	租税法序論（Ⅲ）	課税要件（その２）/理解度チェック	配布資料に基づき予習しておくこと。レジュメ第４回講義を見直すこと。(約１時間)
5	租税法の原則	租税法律主義と租税公平主義、	配布資料に基づき予習しておくこと。レジュメ第５回講義を見直すこと。(約２時間)
6	租税法の解釈と適用	税法の解釈と適用の仕方	配布資料に基づき予習しておくこと。レジュメ第６回講義を見直すこと。(約２時間)
7	租税手続法（１）	納税義務の成立・確定、不適正申告の是正、更正等の期間制限	配布資料に基づき予習しておくこと。レジュメ第７回講義を見直すこと。(約２時間)
8	租税手続法（２）	附帯税/理解度チェック	配布資料に基づき予習しておくこと。レジュメ第８回講義を見直すこと。(約。1.5時間)
9	所得税法（１）	所得税の特色、納税義務者、包括所得概念、担税力に応じた負担、所得の帰属、権利確定主義	配布資料に基づき予習しておくこと。レジュメ第９回講義を見直すこと。(約２時間)
10	所得税法（２）	所得の区分（利子、配当、退職、給与）と計算	配布資料に基づき予習しておくこと。レジュメ第１０回講義を見直すこと。(約１時間)
11	所得税法（３）	所得の区分（事業、不動産、山林、雑）と計算	配布資料に基づき予習しておくこと。レジュメ第１１回講義を見直すこと。(約２時間)
12	所得税法（４）	所得の区分（譲渡、一時）と計算	配布資料に基づき予習しておくこと。レジュメ第１２回講義を見直すこと。(約２時間)
13	所得税法（５）	損益通算、所得控除と税額控除	配布資料に基づき予習しておくこと。レジュメ第１３回講義を見直すこと。(約１時間)
14	源泉徴収制度	制度の概要と源泉徴収の法律関係	配布資料に基づき予習しておくこと。レジュメ第１４回講義を見直すこと。(約１時間)
15	納税者の権利救済/まとめ	租税訴訟/全体のまとめ	これまでの講義内容を復習し、理解を確実にすること。(約３時間)

関連科目

憲法、民法、商法など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	税法入門	金子宏ほか	有斐閣新書
2	租税法	金子宏	弘文堂
3	図解所得税	松崎啓介	大蔵財務協会

評価方法（基準）

期末試験の点数（６０％）と理解度テストの総点数（40%）の合計で評価します。

学生へのメッセージ

授業内容は連続していますので、順序に沿って全部を視聴しないと理解が難しいと思います。授業は配付資料に沿って行います。参考書のうち、「税法入門」は租税法の概要を知りたい人に、「租税法」は本格的に勉強しようとする人に、図解シリーズは租税法の仕組みを速習したい人にお勧めします。

担当者の研究室等

11 号館 10 階　小島教授室

備考

レジュメは比較的重要な用語を穴あきにしてありますので、講義用スライドに記載している用語で埋めて下さい。

	20年度　合格率81.6%　（不受験率2.6%）　A7.9%　B15.8%　C28.9%　D28.9%　平均69点　38人登録

科目名	租税法Ⅱ	科目名（英文）	Tax Law II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小島　俊朗
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3022a0		

授業概要・目的

現代社会では、国民は法律（租税法)に基づいて納税の義務を負い税金を納付することになりますが、租税法は必ずしも容易に理解できるものではありません。これは、租税法が多様な経済活動を幅広く適用の対象としていることや、租税負担の公平を図るため、租税法が明確かつ一義的に規定することを要求されていることによるものです。一方、皆さん方が社会人になれば、自営業者、会社員等を問わず、税とは何らかの形で関わらざるを得ません。

租税法Ⅱでは、所得税法と同様に個人に対して課税される相続税及び我が国経済の原動力である法人の利益に対して課税される法人税について学習します。いずれも所得税法と並ぶ重要な税目で、皆さんの将来に直接又は間接に影響を与えるものです。

租税法は実学の代表格です。小職は、国税庁本庁に長年勤務し、また、東京、大阪、名古屋などの国税局で部長職を歴任するなど、税務行政の企画・立案や指揮をしてきたほか、名古屋国税不服審判所等の所長として租税法の解釈・適用にも携わってきました。この授業では、法理論のみならず、それらの実務経験を踏まえた講義を行うこととしています。

到達目標

この授業を通じて学生には、次の目標を達成することが期待されます。

①租税法に共通する原則並びに相続税法及び法人税法の固有の考え方が理解できるようになること。

②相続税法及び法人税法の概要・仕組みが理解できるようになること。

授業方法と留意点

聞き慣れない用語も出てくるとは思いますが、租税法の基本的な考え方を理解することが重要ですから、要点を確実に押さえるようにしてください。

科目学習の効果（資格）

税理士試験や国税専門官を目ざす人の入門講座になると思います。また、社会人となって税金を払う立場になれば、無関心ではいられないこともありますので、この機会に税に馴染んでおくのも有益かと思います。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	相続税法と民法（相続編）との関係	計数で見る相続税、民法の基礎事項	民法第５編（相続）に目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。(約２時間)
2	相続税法（1）	相続税の意義・課税方式、相続税の納税義務者	相続税法に関する入門書の該当箇所に目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。(約１時間)
3	相続税法（2）	相続財産の範囲	相続税法に関する入門書の該当箇所に目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。(約１時間)
4	相続税法（3）	債務控除	相続税法に関する入門書の該当箇所に目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。(約１時間)
5	相続税法（4）	相続税の課税標準と税額の計算、各相続人の納付税額	相続税法に関する入門書の該当箇所に目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。(約１時間)
6	相続税法（5）	贈与税の意義	相続税法に関する入門書の該当箇所に目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。(約１時間)
7	相続税法（6）	贈与税の課税標準と税額の計算、相続時精算課税制度	相続税法に関する入門書の該当箇所に目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。(約１時間)
8	相続税法（7）	相続税、贈与税の申告・納付	相続税法に関する入門書の該当箇所に目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。(約１時間)
9	相続税法（8）	財産の評価	相続税法に関する入門書の該当箇所に目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。(約１時間)
10	法人の経済活動と法人税	法人税の意義、納税義務者、法人税の計算（企業会計と課税所得）	法人税法に関する入門書の該当箇所に目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。(約２時間)
11	法人税法（1）	法人税法 22 条と別段の定め	法人税法に関する入門書の該当箇所に目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。(約２時間)
12	法人税法（2）	法人税法 22 条と別段の定め（続き）	法人税法に関する入門書の該当箇所に目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。(約２時間)
13	法人税法（3）	同族会社	法人税法に関する入門書の該当箇所に目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。(約２時間)
14	法人税法（4）	国際課税	法人税法に関する入門書の該当箇所に目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。(約２時間)
15	まとめ	全体のまとめ	ノートと配付資料等を復習しておくこと。（約６時間）

関連科目

民法、会社法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	税法入門	金子宏ほか	有斐閣新書
2	租税法	金子宏	弘文堂

	3	図解相続税・贈与税	高藤一夫　編	大蔵財務協会
評価方法 （基準）	期末試験の点数（60%）並びに小テスト及び理解度テスト（課題）の点数（40%）の合計で評価します。なお、できる限り定期（対面）試験によらない評価方法を検討することとされていますので、講義の最終日に課題の提出方法に準じて「定期試験に代わる試験」を実施する予定です。			
学生への メッセージ	授業内容は連続していますので、欠席すると理解が難しくなってきます。授業は配付資料に沿って行います。参考書のうち、「税法入門」は租税法の概要を知りたい人に、「租税法」は本格的に勉強しようとする人に、図解シリーズは租税法の仕組みを速習したい人にお勧めします。なお、租税法Ｉを取らなかった場合でも理解できる内容です。			
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　小島教授室			
備考	レジュメの穴埋めは講義において明示する。			

科目名	刑事法概論	科目名（英文）	Introduction to Criminal Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	小野　晃正
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○		
科目ナンバリング	JDJ1023a0		

授業概要・目的	・法学部の専門科目には、「刑法総論」、「刑法各論」、「経済刑法」、「刑事訴訟法」、「刑事政策」、「現代社会と刑事法」のほか、これらに対応する応用講義が用意されている。これらの科目で学習する内容をまとめて「刑事法」と呼ぶことができる。 ・本講義の内容は、この「刑事法」を広い視点から俯瞰ないし概観しようというものである。すなわち、どのような行為をすれば犯罪と刑罰に問われるのかを学ぶ刑事実体法（刑法）、および、刑法の内容を実現させるのに必要な刑事手続法（刑事訴訟法）の解釈論から、刑罰の正当化根拠や効果を学ぶ刑罰論、犯罪者や犯罪被害者をどのように社会で処遇するかという刑事政策、犯罪原因の解明とその対策を講じる犯罪学など、その取り扱う内容は多岐にわたる。 ・本講義では、刑事法上の諸問題を具体的に検討し、刑事法への関心を高めることで、刑事法学全体の見取り図を得ることを目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、 「・刑法の全体像をできるだけ具体的に把握するとともに、刑法総論と刑法各論の異同を理解できる ・刑事手続、刑罰制度、犯罪動向の現状、犯罪者処遇、および、被害者救済などの問題点について、基本的な知識を身につけることができる ・刑法、刑事手続法、刑事学の基本的な考え方に触れ、各分野のしくみ、はたらき、機能などを理解することができる　　」 ようになることが期待される。
授業方法と留意点	・新型コロナ変異株の流行により、第２回目の授業から当面のあいだ、本授業はMicrosoft 社の teams を用いたオンデマンド動画配信方式で行う。 ・課題提示や資料ｊ配布などはMicrosoft 社 teams を通じて行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。 ・刑事法は近年相次いで法改正がなされているので、最新の六法を持参すること。たとえば、ポケット六法（有斐閣）、デイリー六法（三省堂）や判例六法（有斐閣）など。
科目学習の効果（資格）	・この科目と、２回生以降で配当される「刑法総論」、「刑法各論」、「刑法応用講義Ⅰ」および「刑法応用講義Ⅱ」をしっかり受講すれば、地方公務員上級職採用試験、労働基準監督官採用試験（大卒）、警視庁警察官採用試験（大卒）、裁判所事務官採用試験で出題される刑法の問題を解けるようになり、得点源とすることができます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	刑事法とは何か? 刑法、刑事手続法、刑事学の違い	本講義概要の説明 文献紹介	・教科書の入手 事前:刑事法学のあらましをあらかじめ読むこと(2時間) 事後：刑事法学のあらましを見直し、章末問題を解くこと（2時間）
2	刑法①	刑法のあらまし 犯罪についての基本的な考え方 学派の争い	事前：学派の争いをあらかじめ読むこと（2時間） 事後:学派の争いを見直し、章末問題を解くこと(2時間)
3	刑法②	刑法総論 ・犯罪成立要件 刑法各論 ・保護法益による犯罪の分類	事前:刑法総論と刑法各論の箇所をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：刑法総論と刑法各論の箇所を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
4	刑法③	交通刑法 ・交通刑法の大改正と近年における重罰化傾向の是非	事前：交通刑法をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：交通刑法を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
5	刑法④	経済刑法 ・自由主義経済体制と経済犯罪の整備	事前：経済刑法をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：経済刑法を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
6	刑法⑤	刑罰の正当化根拠 ・死刑存廃論	事前：刑罰論をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：刑罰論を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
7	刑法⑥	・性犯罪の大改正と残された課題	事前：性犯罪法の改正をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：性犯罪法の改正を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
8	刑法のまとめ	第1回目から第7回目までの重要論点総復習	事前：刑法の項目をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：刑法の項目を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
9	刑事手続法①	刑事手続法のあらまし 捜査法	事前：捜査法をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：捜査法を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
10	刑事手続法②	公訴法とと公判法	事前：公訴と公判をあらかじめ読むこと（2時間） 事後:公訴と公判を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
11	刑事手続法③	証拠法	事前：証拠法をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：証拠法を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
12	刑事学①	犯罪学 ・犯罪原因論 ・女性犯罪 ・老人犯罪 ・少年犯罪	事前：犯罪学をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：犯罪学を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
13	刑事学②	刑事政策 ・犯罪者処遇論	事前:犯罪者処遇論をあらかじめ読むこと(2時間) 事後：犯罪者処遇論を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
14	刑事学③	被害者学 ・犯罪被害者支援と修復的司法	事前：被害者学をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：被害者学を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
15	刑事手続法と刑事学のまとめ	第９回目から第14回目までの重要論点総復習	事前:刑事訴訟法と刑事学をあらかじめ読むこと(2時間) 事後：刑事訴訟法と刑事学を見直し、章末問題を解

				くこと（2時間）

関連科目	刑法総論、刑法各論、経済刑法、刑事訴訟法、現代社会と刑事法、刑事政策、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事訴訟法応用講義
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	はじめての刑法学	佐久間修＝小野晃正ほか	三省堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	開講時に指示する		
2			
3			

評価方法 （基準）	・形成的評価を行うため、Microsoft 社 teams を通じて、Microsoft　forms から課題を提出し、その回答内容を評価対象とする（100%）。
学生への メッセージ	・新聞（朝刊や夕刊）の社会面、あるいは、インターネット上のニュースなどに掲載されている犯罪記事を読みましょう。 ・授業に出席したときは、何かを得て帰るように努めてください。 ・法学を体得するには、自らの手を動かして問題を解く、あるいは講義内容をまとめてみるなどの復習がもっとも効果的です。教科書を漫然と読むだけでは講義内容の中身は身につきません。とにかく手を動かしましょう。 ・公務員を目指している学生がいれば、勉強の仕方など、ご相談に乗りますので、気軽に声をかけてください。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　　小野教授室
備考	課題に対するコメントは次回講義または teams を通じて行う。 20 年度　合格率 98.5%　（不受験率 0%）　A10.5%　B45.8%　C37.8%　D4.4%　平均 77 点　275 人登録

科目名	刑法総論	科目名（英文）	Criminal Law (General)
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	小野　晃正
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2024a0		

授業概要・目的	・刑法総論は、全ての犯罪に共通する犯罪成立要件論と刑罰論に関する一般原則を探求する学問である。 ・刑法総論では、刑法の機能、刑法の解釈と罪刑法定主義、主として単独正犯を念頭に置いた犯罪成立要件論として、構成要件論、違法性論、責任論をめぐる諸問題について概説する。 ・刑法総論は、個別の犯罪を離れた犯罪一般を考察対象とするため、抽象的な犯罪論体系に関する議論が多い。 そのため、初学者にはやや難しく感じられるかもしれないが、なるべく身近な具体例を用いて分かりやすく解説する。
到達目標	この授業を通じて学生には、 「・刑法の謙抑性、罪刑法定主義およびその派生原則を説明できる ・刑法総論をテーマとした事例における論点（問題の争点）を抽出し、それに対する判例や通説的見解の内容を説明できる ・各種公務員試験や国家試験で必要とされる刑法総論に関する知識を修得できる」 ようになることが期待される。
授業方法と留意点	・新型コロナ変異株の流行により、第２回目の授業から当面のあいだ、本授業は Microsoft 社の teams を用いたオンデマンド動画配信方式で行う。 ・課題提示や資料ｊ配布などは Microsoft 社 teams を通じて行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。 ・近時、刑事法の改正が相次いでいるので、最新の六法（有斐閣『ポケット六法』や『判例六法』、または、三省堂『デイリー六法』もしくは『模範小六法』の最新版がのぞましい）を必
科目学習の効果（資格）	・「刑法総論」および「刑法各論」をしっかり受講すれば、法学検定、地方公務員上級職採用試験、労働基準監督官採用試験（大卒）、裁判所事務官採用試験、および、司法書士試験で出題される「刑法総論」の問題を確実に処理することができるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンスと文献紹介 刑法と刑法学	・授業の進め方と文献紹介 ・刑法の意義 ・刑法の機能 ・刑法学とは何か	・教科書の入手 事前：第１章「刑法と刑法学」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：第 1 章を読み直し、章末問題を解くこと（2 時間）
2	刑法の基礎	・古典学派と近代学派 ・わが国の刑法思想と刑法学 ・刑法の基礎理論	事前：第２章「刑法の基礎」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：第２章を見直し、章末問題を解くこと（2 時間）
3	刑法の法源と解釈	・罪刑法定主義 ・刑法の法源 ・刑法の解釈	事前：第３章「刑法の法源と解釈」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：第３章を見直し、章末問題を解くこと（2 時間）
4	犯罪の基本概念	・犯罪の概念 ・犯罪論の体系 ・刑法上の行為	事前：第４章「刑法の基本概念」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：第４章を見直し、章末問題を解くこと（2 時間）
5	構成要件	・構成要件の概念 ・構成要件要素	事前：第５章「構成要件」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：第５章を見直し、章末問題を解くこと（2 時間）
6	構成要件該当性１	・実行行為とは何か ・実行行為の客観面	事前：第６章「構成要件該当性」のうち、実行行為の客観面に関する内容をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：第 6 章のうち、「実行行為の客観面」部分を見直し、章末問題のうち、実行行為の客観面に関する問題を解くこと（2 時間）
7	構成要件該当性２	・実行行為の主観面 （構成要件的故意と構成要件的錯誤）	事前：第６章「構成要件該当性」のうち、実行行為の客観面に関する内容をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：第 6 章のうち、「実行行為の主観面」部分を見直し、章末問題のうち、実行行為の主観面に関する問題を解くこと（2 時間）
8	構成要件該当性３	・刑法上の因果関係論	事前：第６章「構成要件該当性」のうち、因果関係に関する内容をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：第６章を見直し、章末問題を解くこと（2 時間）
9	構成要件該当性のまとめ	・構成要件該当性に関する重要論点の総復習	事前：第１章から第６章までの内容をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：第１章から第６章までの末尾の問題を見直すこと（2 時間）
10	違法性阻却事由１	・違法性とは何か ・正当行為と正当業務行為	事前：第７章「違法性阻却事由」のうち、正当行為の内容をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：第７章「違法性阻却事由」のうち、正当行為部分を見直し、章末問題のうち、正当行為に関する問題を解くこと（2 時間）
11	違法性阻却事由２	・正当防衛 ・過剰防衛 ・誤想（過剰）防衛	事前：第７章「違法性阻却事由」のうち、防衛行為の内容をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：第７章「違法性阻却事由」のうち、防衛行為部分を見なおし、章末問題のうち、防衛行為に関する問題を解くこと（2 時間）
12	違法性阻却事由３	・緊急避難 ・過剰避難 ・誤想（過剰）避難	事前：第７章「違法性阻却事由」のうち、緊急避難の内容をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：第７章「違法性阻却事由」のうち、緊急避難

		・超法規的違法性阻却事由	部分を見直し、章末問題のうち、緊急避難に関する問題を解くこと（2時間）
13	責任阻却事由１	・責任とは何か ・責任能力	事前：第7章「責任阻却事由」のうち、174頁から188頁までの内容をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：第7章「責任阻却事由」のうち、174頁から188頁までの内容を見直し、章末問題のうち、責任能力に関する問題を解くこと（2時間）
14	責任阻却事由２	・違法性の意識とその可能性 ・期待可能性	事前：第7章「責任阻却事由」のうち、違法性の意識と期待可能性の内容をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：第7章末尾の問題のうち、違法性の意識と期待可能性のに関する問題を解くこと（2時間）
15	違法性および責任阻却事由のまとめ	違法性および責任阻却事由に関する重要論点の総復習	事前：第7章「責任阻却事由」のうち、違法性の意識と期待可能性部分を見直すこと（2時間） 事後：章末問題を見直すこと（2時間）

関連科目

刑事法概論、刑法各論、経済刑法、現代社会と刑事法、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑事政策

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『はじめての刑法学』	佐久間修＝小野晃正＝川崎友巳＝安田拓人＝品田智史＝十河太朗＝豊田兼彦	三省堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	開講時に各種判例・補助教材を紹介する		
2			
3			

評価方法（基準）

・形成的評価を行うため、Microsoft 社 teams を通じて、Microsoft　forms から課題を提出し、その回答内容を評価対象とする（100%）。

学生へのメッセージ

・法律学の学習は予習よりも問題演習を中心とした復習が効果的です。
・問題演習の素材としては、公務員試験や司法書士試験で出題される刑法の問題がさしあたり有効です。
・問題集は開講時に紹介します。
・公務員（地方行政職、国家行政職、警察、消防、刑務、裁判所事務官、検察事務官）試験やロースクールをはじめとする大学院の受験を意識している学生はなるべく受講するようにしてください。
・総論上の争点とそれに対する判例ないし通説を正確に理解すれば、公務員試験はむしろ易しい類です。決して臆することなく果敢にチャレン

担当者の研究室等

11号館10階　小野教授室

備考

修正された構成要件論（未遂犯と共犯）、罪数論、刑罰の正当化根拠、および刑法の適用範囲については刑法応用講義Ⅰで取り扱う。
課題に対するコメントは次回講義または teams を通じて行う。

20年度　合格率99.1%　（不受験率0%）　A6.6%　B32.0%　C55.7%　D4.8%　平均75点　228人登録

科目名	刑法各論	科目名（英文）	Criminal Law (Specific)
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	小野　晃正
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2025a0		

授業概要・目的	・刑法各論は、各種犯罪の個別成立要件とその適用の限界について考察する学問である。 ・刑法各論は刑法総論よりも具体的でわかりやすいが、個別犯罪の適用範囲や限界について細かな議論をする必要があり、適用する条文の検討に注意を要する。 ・刑法各論は、個別の犯罪を考察対象とするため、具体的な議論が多い。 そのため、初学者にはやや学問としての体系性がつかみづらく感じられるかもしれないが、なるべく身近な具体例を用いて体系的に解説する。
到達目標	この講義を通じて学生には、 「・個別犯罪における保護法益を説明できる ・個別の犯罪の成立要件の範囲について正確に理解できる ・刑法各論をテーマとした事例における論点（問題の争点）を抽出し、それに対する判例や通説的見解の内容を説明できる ・各種公務員試験や国家試験で必要とされる刑法総論に関する知識を修得できる」 ようになることが期待される。
授業方法と留意点	・新型コロナ変異株の流行により、第１回目の授業から当面のあいだ、本授業は Microsoft 社の teams を用いたオンデマンド動画配信方式で行う。 ↓ ※【講義形式変更告知】職域ワクチン接種が終了したのちの 2021 年 10 月 27 日（水）～ ・2021 年 10 月 27 日（水）から対面にて講義を行う。 ・成績評価は従来通り、teams 上のリンクから回収した同一の課題に対する答案の総得点で評価する。 ・課題は対面講義が終了した後に、teams 上の該当回のチャンネルに上げる。同時に復習に資する動
科目学習の効果（資格）	・「刑法総論」および「刑法各論」をしっかり受講すれば、法学検定、地方公務員上級職採用試験、労働基準監督官採用試験（大卒）、裁判所事務官採用試験、および、司法書士試験で出題される「刑法総論」の問題を確実に処理することができるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンスと文献紹介 刑法各論と刑法学	・授業の進め方と文献紹介 ・刑法各論の意義 ・犯罪の処罰根拠と保護法益	・教科書の入手 事前：序章をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：犯罪の処罰根拠と保護法益の関係性を見直し、ノートにまとめること（2 時間）
2	生命・身体に対する罪１	・人の始期と終期 ・殺人の罪	事前：第１部第１章「殺人の罪」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：第１部第１章「殺人の罪」を見直し、章末の「殺人の罪」に関する問題を解くこと（2 時間）
3	生命・身体に対する罪２	・傷害の罪 ・過失傷害の罪	事前：第１部第１章「傷害の罪」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：第１部第１章「傷害の罪」を見直し、章末の「傷害の罪」に関する問題を解くこと（2 時間）
4	生命・身体に対する罪３	・堕胎の罪	事前：第１部第１章「堕胎の罪」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：第１部第１章「堕胎の罪」を見直し、章末の「堕胎の罪」に関する問題を解くこと（2 時間）
5	生命・身体に対する罪４	・遺棄の罪	事前：第１部第１章「遺棄の罪」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：第１部第１章「遺棄の罪」を見直し、章末の「遺棄の罪」に関する問題を解くこと（2 時間）
6	自由･私生活の平穏に対する罪１	・逮捕、監禁の罪 ・脅迫の罪	事前：第１部第２章「逮捕・監禁・脅迫の罪」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：第１部第２章「逮捕・監禁・脅迫の罪」を見直し、章末の「逮捕・監禁・脅迫の罪」に関する問題を解くこと（2 時間）
7	自由･私生活の平穏に対する罪２	・略取、誘拐および人身売買の罪	事前：第１部第２章「略取、誘拐および人身売買の罪」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：第１部第２章「略取、誘拐および人身売買の罪」を見直し、章末の「略取、誘拐および人身売買の罪」に関する問題を解くこと（2 時間）
8	自由･私生活の平穏に対する罪３	・性的自由に対する罪	事前：第１部第２章「性的自由に対する罪」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：第１部第２章「性的自由に対する罪」を見直し、章末の「性的自由に対する罪」に関する問題を解くこと（2 時間）
9	自由･私生活の平穏に対する罪４ 名誉と信用に対する罪	・住居を侵す罪 ・業務に対する罪 ・秘密を侵す罪 ・名誉と信用に対する罪	事前：第１部第２章「住居を侵す罪」および第３章「名誉に対する罪」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：第１部第２章「住居を侵す罪」および第３章「名誉に対する罪」を見直し、章末の「住居を侵す罪」および「名誉に対する罪」に関する問題を解くこと（2 時間）
10	個人的法益に対する罪（財産犯を除く）のまとめ	第 1 回から第９回までの重要論点を総復習	事前：序章から第１部第３章までの内容をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：序章から第１部第３章までの内容を見直し、序章から第 3 章までの末尾の問題を見直すこと（2 時間）
11	公共の安全に対する罪	・放火、失火の罪	事前：第２部第１章「放火の罪」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：第２部第１章「放火の罪」を見直し、章末の「放火の罪」に関する問題を解くこと（2 時間）

12	風俗に対する罪	・死体損壊等の罪 ・賭博に関する罪	事前：第２部第４章「風俗に対する罪」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：第２部第４章「風俗に対する罪」を見直し、章末の「風俗に対する罪」に関する問題を解くこと（2 時間）
13	国家作用に対する罪１	・公務の執行を妨害する罪 ・犯人蔵匿の罪 ・証拠隠滅の罪 ・虚偽告訴の罪	事前:第３部第２章「公務の執行を妨害する罪」、「犯人蔵匿の罪」、「証拠隠滅の罪」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後:第３部第２章「公務の執行を妨害する罪」、「犯人蔵匿の罪」、「証拠隠滅の罪」を見直し、章末の「公務の執行を妨害する罪」、「犯人蔵匿の罪」、「証拠隠滅の罪」に関する問題を解くこと（2 時間）
14	国家作用に対する罪２	・汚職の罪	事前：第３部第２章「汚職の罪」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：第３部第２章「汚職の罪」を見直し、章末の「汚職の罪」に関する問題を解くこと（2 時間）
15	社会的法益および国家的法益に対する罪（財産犯を除く）のまとめ	第10回から第14回までの重要論点を総復習	事前：第 7 章までの内容をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：第 7 章までの内容を見直し、章末問題を見直すこと（2 時間）

関連科目

刑事法概論、刑法総論、経済刑法、現代社会と刑事法、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑事政策

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	刑法各論（第２版）	佐久間　修	成文堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	開講時に各種判例・補助教材を紹介する		
2			
3			

評価方法（基準）

・形成的評価を行うため、Microsoft 社 teams を通じて、Microsoft　forms から課題を提出し、その回答内容を評価対象とする（100%）。

学生へのメッセージ

・法律学の学習は予習よりも問題演習を中心とした復習が効果的です。
・問題演習の素材としては、公務員試験や司法書士試験で出題される刑法の問題がさしあたり有効です。
・問題集は開講時に紹介します。
・公務員（地方行政職、国家行政職、警察、消防、刑務、裁判所事務官、検察事務官）試験やロースクールをはじめとする大学院の受験を意識している学生はなるべく受講するようにしてください。
・総論上の争点とそれに対する判例ないし通説を正確に理解すれば、公務員試験はむしろ易しい類です。決して臆することなく果敢にチャレン

担当者の研究室等

11 号館 10 階　小野教授室

備考

個人的法益に対する罪にうち、財産犯（財産犯総論、窃盗、強盗、詐欺、恐喝、横領、背任、盗品等関与、器物損壊などの罪）については刑法応用講義Ⅱで取り扱う。
課題に対するコメントは次回講義または teams を通じて行う。

20 年度　合格率 94.6%　（不受験率 1.0%）　A3.0%　B19.8%　C48.0%　D23.8%　平均 68 点　202 人登録

・2021 年 10 月 27 日（水）から対面にて講義を行う。

・成績評価は従来通り、teams 上のリンクから回収した同一の課題に対する答案の総得点で評価する。

・課題は対面講義が終了した後に、teams 上の該当回のチャンネルに上げる。同時に復習に資する動画ファイルも配信する。

・受講者は teams 上のレジュメをダウンロードし、各自プリントアウトし必ず持参すること（レジュメの教室配布はしない）。

・対面講義参加希望者は六法全書を必ず持参すること。

・課題提示や資料ｊ配布などは Microsoft 社 teams を通じて行う。

科目名	経済刑法	科目名（英文）	Economic Criminal Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小野　晃正
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3026a0		

授業概要・目的	・経済刑法では、経済活動を規制する刑罰法規につき、刑事実体法、刑事手続法、および、刑事学などの観点から、経済犯罪をめぐる諸問題について総合的に検討する。
到達目標	この講義を通じて学生には、 「・経済犯罪とは何かを説明できる ・論点（問題の争点）を抽出し、それに対する判例や通説的見解を説明できる」 ようになることが期待される。
授業方法と留意点	・新型コロナ変異株の流行により、第１回目の授業から当面のあいだ、本授業は Microsoft 社の teams を用いたオンデマンド動画配信方式で行う。 ↓ ※【講義形式変更告知】職域ワクチン接種が終了したのちの 2021 年 10 月 27 日（水）～ ・2021 年 10 月 27 日（水）から対面にて講義を行う。 ・成績評価は従来通り、teams 上のリンクから回収した同一の課題に対する答案の総得点で評価する。 ・課題は対面講義が終了した後に、teams 上の該当回のチャンネルに上げる。同時に復習に資する動
科目学習の効果（資格）	・ビジネス科目ともいうべき本科目を学習することで、卒業後の進路に応じ、企業実務、行政実務及び警察実務においてすぐにでも役立つ経済刑法上の基本知識が身につく。 ・公務員試験に出題される刑法の問題を素早く解けるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 刑法の基礎理論（復習） 経済刑法の概念	・文献紹介 ・刑法の機能と解釈 ・罪刑法定主義 ・経済刑法とは何か ・刑法各論と経済刑法の関係	・教科書の入手 事前：教科書第１章をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：第１章を見直し、章末問題を解くこと（2 時間）
2	経済刑法と刑罰	・法人の刑事責任 ・両罰規定 ・自由刑と罰金刑の併科 ・行政処分と刑罰の併科	事前：教科書第３章をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：第３章を見直し、章末問題を解くこと（2 時間）
3	経済犯罪の国際化	・経済のグローバル化 ・国際経済犯罪 ・国際法上の経済犯罪 ・国内犯と国外犯 ・代理処罰	事前：教科書第６章をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：第６章を見直し、章末問題を解くこと（2 時間）
4	マネー・ロンダリング	・マネーロンダリングの意義 ・やみ金融と組織犯罪処罰法 ・犯罪収益移転防止法	事前：教科書第９章をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：第９章を見直し、章末問題を解くこと（2 時間）
5	経済犯罪の監視と捜査	・公正取引委員会 ・証券取引等監視委員会 ・捜索と差押え、逮捕と勾留 ・個別法の犯則調査	事前:教科書第 11 章をあらかじめ読むこと(2 時間) 事後：11 章を見直し、章末問題を解くこと（2 時間）
6	会社法上の罰則	・会社法の目的 ・特別背任罪 ・預合いの罪 ・取締役等の贈収賄罪 ・利益供与の罪	事前:教科書第 13 章をあらかじめ読むこと(2 時間) 事後：第 13 章を見直し、章末問題を解くこと（2 時間）
7	証券取引をめぐる犯罪	・金融商品取引法の目的 ・不公正取引の禁止 ・風説の流布 ・相場操縦 ・インサイダー取引 ・損失補填	事前:教科書第 14 章をあらかじめ読むこと(2 時間) 事後：第 14 章を見直し、章末問題を解くこと（2 時間）
8	独禁法違反の犯罪 破産犯罪	・独禁法の目的 ・不当な取引制限 ・入札談合 ・破産法の目的 ・倒産処理と犯罪 ・詐欺破産罪	事前:教科書第 15 章をあらかじめ読むこと(2 時間) 事後：第 15 章を見直し、章末問題を解くこと（2 時間）
9	民事執行制度をめぐる犯罪	・民事執行制度の趣旨 ・執行妨害の罪	事前:教科書第 17 章をあらかじめ読むこと(2 時間) 事後：第 17 章を見直し、章末問題を解くこと（2 時間）
10	悪質商法と消費者保護	・消費者保護法制 ・ネズミ講とマルチ商法 ・預託商法 ・霊感商法 ・内職商法 ・催眠商法 ・点検商法と次々商法	事前:教科書第 18 章をあらかじめ読むこと(2 時間) 事後：第 18 章を見直し、章末問題を解くこと（2 時間）
11	欠陥商品･不当表示をめぐる犯罪	・不法行為法と製造物責任法 ・過失犯と製造物責任 ・食品と不当表示 ・不正競争防止法	事前:教科書第 20 章をあらかじめ読むこと(2 時間) 事後：第 20 章を見直し、章末問題を解くこと（2 時間）
12	補助金と公的資金の不正受	・補助金適正化法上の犯罪	事前:教科書第 21 章をあらかじめ読むこと(2 時間)

	給 政官財の癒着と賄賂罪	・賄賂 ・公職選挙法違反	事後：第 21 章を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
13	脱税	・租税犯罪の意義 ・租税ほ脱犯の既遂時期 ・重加算税と二重処罰の問題	事前:教科書第 23 章をあらかじめ読むこと(2 時間) 事後：第 23 章を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
14	カード犯罪 コンピュータ犯罪	・カードの不正使用 ・スキミング ・不正アクセス	事前:教科書第 25 章をあらかじめ読むこと(2 時間) 事後：第 25 章を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
15	情報の刑法的保護	・企業秘密の漏示 ・偽ブランド商品と知的財産の保護	事前:教科書第 27 章をあらかじめ読むこと(2 時間) 事後：第 27 章を見直し、章末問題を解くこと（2時間）

関連科目

刑事法概論、刑法総論、刑法各論、刑事訴訟法、刑事学、会社法、独占禁止法、知的財産法ほか

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新経済刑法入門（第３版）	斉藤　豊治ほか	成文堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	刑法からみた企業法務	佐久間　修	中央経済社
2	経済刑法	山口厚/編著	商事法務
3	経済刑法	芝原邦爾	岩波書店（岩波新書）

評価方法（基準）

・形成的評価を行うため、Microsoft 社 teams を通じて、Microsoft　forms から課題を提出し、その回答内容を評価対象とする（100%）。

学生へのメッセージ

・企業をめぐる犯罪を多く取り扱うので、民間企業志望者を大歓迎する。
・公務員の職務に関するテーマが多いので、公務員志望者はできるだけ受講すること。

担当者の研究室等

11 号館 10 階　小野教授室

備考

課題に対するコメントは次回講義または teams を通じて行う。

20 年度　合格率 96.4%　（不受験率 0.6%）　A13.2%　B40.1%　C31.1%　D12.0%　平均 74 点　167 人登録

・2021 年 10 月 27 日（水）から対面にて講義を行う。

・成績評価は従来通り、teams 上のリンクから回収した同一の課題に対する答案の総得点で評価する。

・課題は対面講義が終了した後に、teams 上の該当回のチャンネルに上げる。同時に復習に資する動画ファイルも配信する。

・受講者は teams 上のレジュメをダウンロードし、各自プリントアウトし必ず持参すること（レジュメの教室配布はしない）。

・対面講義参加希望者は六法全書を必ず持参すること。

・課題提示や資料ｊ配布などは Microsoft 社 teams を通じて行う。

科目名	刑事政策	科目名（英文）	Criminal Policy
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	島田　良一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3027a0		

授業概要・目的	本授業では、まず、犯罪の発生原因について近代から現代にいたる様々な学説について概観したうえで、わが国における犯罪対策に関して、刑事司法の各段階における犯罪者処遇の態様や犯罪者処遇の方法などについて解説する。
到達目標	この授業を通じて学生には、刑事政策に関する基本的な知識を修得するとともに、そうした基本的知識を用いて、具体的な問題の解決策を立案する能力を修得することが期待される。
授業方法と留意点	教科書に準拠して授業担当者が作成したレジュメに基づいて授業を進めていく。 なお、昨今の新型コロナ禍の状況に鑑み、授業はオンライン形式で行う。
科目学習の効果（資格）	資格試験や公務員試験といった「試験」には直接役には立たないが、将来、法曹三者や警察官、検察事務官、裁判所事務官、刑務官、法務教官など刑事法に関わる仕事に就こうと思っている人にはどこかで役に立つはずである。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の内容および進め方に関する説明、文献・参考書の紹介	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
2	伝統的犯罪学について①	犯罪原因論（生物学的原因、心理学・精神医学的原因、社会学的原因）について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
3	伝統的犯罪学について②	犯罪原因論（生物学的原因、心理学・精神医学的原因、社会学的原因）について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
4	近年の犯罪学について①	コントロール理論、ラベリング理論、合理的選択理論など	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
5	近年の犯罪学について②	コントロール理論、ラベリング理論、合理的選択理論など	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
6	犯罪者処遇について①	警察、検察、裁判の各段階における犯罪者処遇について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
7	犯罪者処遇について②	警察、検察、裁判の各段階における犯罪者処遇について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
8	少年事件について①	少年法の理念、少年事件手続について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
9	少年事件について②	少年法の理念、少年事件手続について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
10	刑罰について①	刑罰の種類、内容について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
11	刑罰について②	死刑制度について①	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
12	刑罰について③	死刑制度について②	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
13	施設内処遇について	刑務所、少年院などにおける処遇について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
14	社会内処遇について	保護観察、更生緊急保護などについて	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
15	全体のまとめ	重要論点の再解説	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）

関連科目：刑法総論、刑法各論、刑事訴訟法、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事訴訟法応用講義、刑事法概論、現代社会と刑事法、経済刑法、地域防犯政策など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	刑事政策（第２版）	川出敏裕・金光旭	成文堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	刑事政策学	武内謙治・本庄武	日本評論社
2	ビギナーズ刑事政策（第３版）	守山正・安部哲夫	成文堂
3	犯罪白書（各年度版）	法務総合研究所編	法務省

評価方法（基準）	課題（100%）
学生へのメッセージ	犯罪はなぜ起こるのか、犯罪を防ぐためにはどうしたらよいか、犯罪を行った者の処遇はどうすべきか、などといった問題について、自分なりに検討してみることをお勧めします。
担当者の研究室等	11 号館９階　島田准教授室
備考	20 年度　合格率 95.2%　（不受験率 0%）　A70.4%　B12.0%　C8.8%　D4.0%　平均 90 点　125 人登録

科目名	現代社会と刑事法	科目名（英文）	Modern Society and the Criminal Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	島田　良一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3028a0		

授業概要・目的	本授業では、現代社会におけるさまざま社会問題に対して刑事法がどのように関わっているのかについて、事例や判例、学説、実務の動向などを踏まえながら解説する。
到達目標	本授業を通じて学生には、現代社会における刑事法の役割、関わり方などについて、基本的な知識を修得するとともに、そうした基本的知識を用いて、具体的な問題の解決策を立案する能力を修得することが期待される。
授業方法と留意点	授業担当者作成にかかるレジュメに基づいて授業を進めていく。 なお、11 月 4 日以降、対面形式によって授業を行っていく。
科目学習の効果（資格）	資格試験や公務員試験といった「試験」には直接役に立たないが、将来、法曹三者や警察官、検察事務官、裁判所事務官、刑務官、法務教官など刑事法に関わる仕事に就こうと思っている人にはどこかで役に立つはずである。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の内容および進め方に関する説明、文献・参考書の紹介	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 1 時間）
2	少年事件報道について①	少年法 61 条をめぐる判例・学説について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 1 時間）
3	少年事件報道について②	少年法 61 条をめぐる判例・学説について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 1 時間）
4	少年非行について①	少年非行の原因について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 1 時間）
5	少年非行について②	非行少年の更生について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 1 時間）
6	犯罪被害者について	犯罪被害者の保護などに関する法制度などについて	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 1 時間）
7	障害者による犯罪について	障害者による犯罪の概況とその対策について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 1 時間）
8	性犯罪について	性犯罪の概況とその対策及び性犯罪に関する近時の法改正について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 1 時間）
9	ストーカー犯罪について	ストーカー犯罪の概況とその対策について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 1 時間）
10	高齢者犯罪について	高齢者による犯罪の概況とその対策について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 1 時間）
11	交通犯罪について	交通犯罪の概況とその対策について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 1 時間）
12	冤罪事件について	冤罪事件の紹介、冤罪の発生原因などについて	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 1 時間）
13	時事問題について①	近時の刑事事件、判例、社会問題などについて刑事法学的視点から検討	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 1 時間）
14	時事問題について②	近時の刑事事件、判例、社会問題などについて刑事法学的視点から検討	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 1 時間）
15	まとめ	重要論点の再解説	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 1 時間）

関連科目：刑事政策、刑事訴訟法、刑法総論、刑法各論、刑事訴訟法応用講義、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事法概論、経済刑法、地域防犯政策など。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	刑事政策（第 2 版）	川出敏裕・金光旭	成文堂
2	ビギナーズ刑事政策（第 3 版）	守山正・安部哲夫	成文堂
3	犯罪白書（各年度版）	法務総合研究所編	法務省

評価方法（基準）	毎回、授業後に課題を出しますので、その内容で評価します（100%） なお、課題の方法については、その都度、授業内で指示します（例えば、授業内容に応じて、授業後にペーパーを提出してもらったり、Teams（Forms）によって回答してもらったりする方法を予定しています）。
学生へのメッセージ	現代においては、さまざまな社会問題が発生しているが、その解決方法は必ずしもひとつでなく、そうした社会問題に対して、刑事法の視点から、そのメリット・デメリット、その限界などを踏まえた上で、自分なりにいろいろ考えて「説得力のある」解決方法を探し出してみてほしい。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　島田准教授室
備考	質問等があれば、次回の授業において回答する。 20 年度　合格率 97.5%　（不受験率 1.2%）　A33.3%　B22.2%　C23.5%　D18.5%　平均 82 点　81 人登録

科目名	刑事訴訟法	科目名（英文）	Criminal Procedure
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	島田　良一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3029a0		

授業概要・目的	本授業では、我が国の刑事手続について、学説・判例の動向を踏まえながら解説する。一般的に、新聞やテレビ、インターネットのウェブサイト等が刑事事件・刑事裁判について報じる際、捜査機関あるいは犯罪被害者の視点で報じられることが多いように思われるが、本授業においては、刑事訴訟法が「公共の福祉の維持と個人の基本的人権の保障とを全うしつつ、事案の真相を明らかにし、刑罰法令を適正且つ迅速に適用実現する」ことをその目的としていることにも鑑み、捜査機関のみならず被疑者・被告人あるいは裁判所・裁判官、さらには裁判員の視点にも立った解説を行う予定である。
到達目標	この授業を通じて学生には、我が国の刑事手続に関する専門的知識を修得することが期待される。
授業方法と留意点	教科書に準拠した形で作成したレジュメに基づいて授業を進めていく。 なお、昨今の新型コロナ禍の状況に鑑み、授業はオンライン形式で行う。
科目学習の効果（資格）	司法試験、法科大学院入学試験、裁判所事務官採用試験、法学検定など。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	捜査とは	捜査の概要など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと（約１時間）
2	捜査の方法・実行	任意捜査と強制捜査の区別など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと（約１時間）
3	被疑者の逮捕・勾留	逮捕・勾留の要件と手続など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと（約１時間）
4	捜索・差押え・検証など	令状主義など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと（約１時間）
5	被疑者側の防御	弁護人選任権、黙秘権、接見交通権など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと（約１時間）
6	公訴提起の手続	公訴提起、不起訴処分など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと（約１時間）
7	公訴提起の方式	起訴状の記載事項、起訴状一本主義など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと（約１時間）
8	公判のための準備活動	公判準備など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと（約１時間）
9	公判期日における手続	公判手続の概要など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと（約１時間）
10	証拠法とは	証拠法の概要、証拠能力・証明力など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと（約１時間）
11	伝聞法則	伝聞法則の意義、例外など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと（約１時間）
12	自白法則	自白の証拠能力など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと（約１時間）
13	違法収集証拠排除法則	証拠排除法則など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと（約１時間）
14	裁判	裁判の種類、成立過程など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと（約１時間）
15	まとめ	重要論点の確認	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと（約１時間）

関連科目：刑事訴訟法応用講義、刑法総論、刑法各論、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事政策、現代社会と刑事法、経済刑法など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	入門刑事手続法（第８版）	三井誠・酒巻匡	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	刑事訴訟法（第２版）	宇藤崇・松田岳士・堀江慎司	有斐閣
2	判例教材刑事訴訟法（第５版）	三井誠編	東京大学出版会
3	刑事訴訟法判例百選（第10版）	井上正仁・大澤裕・川出敏裕編	有斐閣

評価方法（基準）	課題（70%）、期末レポート（30%）
学生へのメッセージ	刑事訴訟法では、捜査・公判における現実の「場面」が問題となることから、そうした「場面」において、もし自分が警察官・検察官だったら、裁判官だったら、あるいは被疑者・被告人・弁護人だったらどう考えるか、それぞれの視点に立って考えてみてほしい。
担当者の研究室等	11号館９階　島田准教授室
備考	六法は必携。 20年度　合格率94.3%　（不受験率0.9%）　A14.2%　B36.8%　C23.6%　D19.8%　平均76点　106人登録

科目名	民事法概論	科目名（英文）	Introduction to Civil Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤＥＧＨＩ
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	田中　敦
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○		
科目ナンバリング	JDJ1030a0		

授業概要・目的	・法律は、社会において生じる問題を解決するために使われるものであるが、いくつかの形に分類されている。その中で、私人といわれる、一般の人たちの間の法的な問題等を規律するものの総称が民事法と呼ばれる一連の法であり、その中心となる法律が民法である。民法では、特に財産と家族の問題が規定されている。 ・本講義では、上記のような私人間の問題について扱う法律を、民法を中心に確認し、さらにそこで規律されている権利義務の内容がどのようなものであるのか、また、それらがどのように実現されるのかという、民事訴訟法などの手続法と呼ばれる部分も、講義の中盤以降で扱っていく予定である。主に実体法は田中が、手続法は萩原が担当する。 ・担当者田中は、大阪高裁・地裁、東京地裁、広島家裁などの裁判官として３９年間勤務し、財産法や家族法に関する民事事件、家事事件に数多く携わってきた。授業では、法理論にとどまらず、実務経験を踏まえた話もしていきたい。
到達目標	この講義を通じて、学生には民事法と呼ばれる私人間の問題について適用される法律の概観を確認し、今後の民事に関する法律科目を勉強するに当たっての基礎的な知識と法的なものの考え方を習得できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	・各回の講義に関する動画、レジュメ又は資料は、Teams を使って授業時間前に掲示するので、各講義前に必ず見るようにすること。 ・動画視聴の際には、プリントアウトした上記レジュメ等と六法を参照すること。講義はレジュメに基づいて行うが、十分な理解のためには、レジュメ及び教科書による事前学習並びに授業を踏まえた事後学習が不可欠である。それぞれ２時間を充ててほしい。事前学習及び事後学習に当たっても六法を適宜参照すること。 ・田中担当部分と萩原担当部分（７～９回）とで講義方法は異なる。もっとも、いずれの担当部分
科目学習の効果（資格）	社会生活の基本法である民法の学習方法を知るとともに、民事法（民法、民事訴訟法、破産法等）が出題科目となっている各種資格試験の基礎となる知識を習得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	法律の授業のガイダンス（法学部がどのような学部であり、法律関係の講義がどのような問題を扱うのかなど）及び本授業のガイダンスを行う。	【事前学習】レジュメ及び教科書２３４～２３８頁を読むとともに、自分の周辺でどのような法的問題があるのかを考える。 【事後学習】授業内容を確認する。 （所要時間各２時間）
2	民事法とは	民事法の内容及び手続法との関係、民法の構造などを扱う。	【事前学習】教科書第１、２章を読む。 【事後学習】授業内容を確認するとともに、１、２回授業に関する小テストに回答する。 （所要時間各２時間）
3	権利義務、法律行為	権利義務、法律行為を扱う。	【事前学習】教科書第３章、第４章１を読む。 【事後学習】授業内容を確認する。 （所要時間各２時間）
4	人と団体	権利義務の主体となる人と団体（法人）を扱う。	【事前学習】教科書第４章２、第１５章を読む。 【事後学習】授業内容を確認するとともに、３、４回授業に関する小テストに回答する。 （所要時間各２時間）
5	契約とは	契約の成立、効果などについて扱う。	【事前学習】教科書第７章を読む。 【事後学習】授業内容を確認する。 （所要時間各２時間）
6	物権	所有権を初めとする物権を扱う。	【事前学習】教科書第８章を読む。 【事後学習】授業内容を確認するとともに５、６回授業に関する小テストに回答する。 （所要時間各２時間）
7	民事手続①	民事裁判とは？	【事前学習】最高裁判所ＨＰ等で、民事裁判手続について調べる。 【事後学習】講義レジュメの復習、Teams 上での小テスト （所要時間各２時間）
8	民事手続②	民事執行手続とは？	【事前学習】BIT（不動産競売物件情報サイト）で不動産執行手続について調べる。 【事後学習】講義レジュメの復習、Teams 上での小テスト （所要時間各２時間）
9	民事手続③	倒産手続とは？	【事前学習】最高裁判所ＨＰ等で、倒産手続について調べる。 【事後学習】講義レジュメの復習、Teams 上での小テスト （所要時間各２時間）
10	金融担保一般	民法の規定する担保物権を中心に、担保一般を扱う。	【事前学習】レジュメ及び教科書第１１章１を読む。 【事後学習】授業内容を確認する。 （所要時間各２時間）
11	不法行為	不法行為の成立要件と損害賠償を扱う。	【事前学習】教科書第９章を読む。 【事後学習】授業内容を確認するとともに、１０、１１回授業に関する小テストに回答する。 （所要時間各２時間）
12	親族	家族に関係する法律関係を扱う。	【事前学習】教科書第１２、第１３章を読む。 【事後学習】授業内容を確認する。 （所要時間各２時間）
13	相続	人の死後における財産関係をめぐる法律関係を扱う。	【事前学習】教科書第１４章を読む。 【事後学習】授業内容を確認するとともに１２、１３回授業に関する小テストに回答する。 （所要時間各２時間）
14	紛争とその解決について	担当者田中が、教科書の解説のほか、裁	【事前学習】レジュメ及び教科書第１６章を読む。

		判官時代に扱った紛争とその解決について紹介する。	【事後学習】授業内容を確認する。 （所要時間各２時間）
15	全体の復習	これまでの授業内容を振り返る。	【事前学習】これまでの授業全体の内容を確認する。 【事後学習】授業内容を確認するとともに、これまでの授業に関する課題に回答する。 （所要時間各２時間）

関連科目

憲法のほか、商法、会社法など、民事法に関連する科目。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	民事法入門　第８版	野村豊弘	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

,
両担当者とも、Teams 上における小テストにより評価する。採点割合は担当者田中が８０％、担当者萩原が２０％とする。詳細は、Teams で伝えるので、注意すること。

学生へのメッセージ

民事法は、日常生活に関する規範であり、民法等の実定法と民事訴訟法等の手続法とからなっています。したがって、民事法を学習することは、日常生活を法的観点から検討することになります。この講義を通じて、民法や手続法に親しんでください。

担当者の研究室等

11 号館１０階　田中教授室、11 号館９階　萩原准教授室

備考

・大学の講義は、予習・講義・復習から成り立っているので、事前事後の学習にも、上記のとおり相当な時間を確保して学習をする必要がある。
・事前・事後学習内容、講義で出された課題、指摘部分及び小テスト内容等については、各対応時の講義等で確認・解説を行う。

20 年度　合格率 89.7%　（不受験率 1.3%）　A8.0%　B26.8%　C29.9%　D25.0%　平均 72 点　224 人登録

科目名	民事法概論	科目名（英文）	Introduction to Civil Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	K
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大川　謙蔵
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○		
科目ナンバリング	JDJ1030a0		

授業概要・目的	法律とは、社会において生じる問題を解決するために使われるものです。そのような法律も、いくつかの形で分類がなされます。そのような分類の中で、私人といわれる、一般の人たちの間の問題等を規律するものの総称が民事法と呼ばれるものであり、その中心となる法律が民法です。民法では特に財産と家族の問題が規定されています。 本講義では、上記のような私人間の問題について扱う法律を、民法を中心に確認し、さらにそこで規律されている権利義務の内容がどのようなものであるのか、また、それらがどのように実現されるのかという、手続法と呼ばれる部分も講義の後半部分で扱っていく予定である。
到達目標	この講義を通じて、学生には民事法と呼ばれる私人間に問題について適用される法律の概観を確認し、今後の民事に関する法律科目を勉強するための概要を把握するようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義形式で行う予定です。レジュメは Teams でデータ配信をし、講義はオンデマンド型で Teams に動画をアップロードします。 資料を配布しつつ、PC 画面の使用等を行い、さらに必要な小テスト等を行う予定です。
科目学習の効果（資格）	社会生活の基本法である民法の学習方法を知ることができ、民事法（民法、民事訴訟法、破産法等）が出題科目となっている各種資格試験の基礎となる知識を習得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	法学部がどのよなものであり、法律関係の講義がどのような問題を扱うのかなどの、概要部分を扱う予定です。	新聞などから、目次も含め、教科書から興味を持てる部分を是非見つけてください。予復習 90 分が目安です。
2	民事法とは	民事法の内容および手続法との関係などを扱う予定です。	自分の周辺でどのような「法的問題」があるのかを検討してみて下さい。予復習 90 分が目安です。
3	法律内容と民法	民事法と民法との関係、民法の構造の把握。	1 回目の内容から、自分の周りに存在する財産に関連する問題を自分なりに検討して下さい。予復習 90 分が目安です。
4	民法と契約という制度	契約という制度を通して、社会における法律関係を確認していく予定です。	現実の生活の中で、どのような契約をしているのかなどを確認して下さい。予復習 90 分が目安です。
5	人という存在	契約をすることができるのは誰なのか、また単独では契約ができない人がいるのかなどを確認する予定です。	これまでの経験から、法的に自分が置かれている立場を理解し、親の同意が必要となった契約を確認して下さい。予復習 90 分が目安です。
6	所有権を通しての物権①	人が物を所持すること、すなわち支配することを、法律はどのように考えているのかを見ていく予定です。	他人が自分の物を返さないという経験がこれまでありましたか？この法的意味を確認して下さい。予復習 90 分が目安です。
7	所有権を通しての物権②	物権がどのような問題について規律されるのかを確認する予定です。	物を所有する以外に、人と物との関係にどのようなものがあるのかを検討すること。予復習 90 分が目安です。
8	金融担保一般	民法典に存在する担保について確認をする予定です。	お金の貸し借りの構造を法的に分析すること。予復習 90 分が目安です。
9	不法行為	他人に損害を与えてしまい、賠償をしなければならないことを、法的に見ていきます。	交通事故や約束違反によって生じた損害は、賠償により回復することができるのかについて、検討すること。予復習 90 分が目安です。
10	親族法	家族関係などを確認する。	自分の周りの人たちの家族関係を、法的視点で整理すること。予復習 90 分が目安です。
11	民事手続①	実体法との違いを確認する。	講義中の課題を再確認のこと。予復習 90 分が目安です。
12	民事手続②	権利実現の手順などを確認する。	講義中の課題を再確認のこと。予復習 90 分が目安です。
13	民事手続③	手続にも様々なものがあることを確認する。	講義中の課題を再確認のこと。予復習 90 分が目安です。
14	相続法	人の死後の財産関係を簡単に扱う予定。	人の死後に起こりうる問題等を確認すること。予復習 90 分が目安です。
15	全体の復習	民事法の構造の再確認	全体の内容を確認すること。予復習 90 分が目安です。

関連科目：憲法、商法、会社法など、法律に関連する科目。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	民事法入門	野村豊弘	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	各回、teams を使った小テストを行う。その合計 100 点満点計算を行う予定である。
学生へのメッセージ	民事法は日常生活に関する規範である。したがって、民事法を学習することは、日常生活を法的観点から検討することでもある。
担当者の研究室等	11 号館９階　大川准教授室
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の３つから成り立っています。それぞれにつき、90 分を確保して学習をする必要があります。しかし、予習・復習については、各講義の内容により多少の違いが出てきますので、必ず講義でそれらの対象を聞くようにしてください。事前・事後学習内容について、講義で出された課題、指摘部分及び確認テスト内容については、各対応時の講義で確認・解説を行います。

	近年、受講態度のひどい学生が散見されます。受講の登録後であっても、そのような学生に対しては採点対象から外しますので、ご理解下さい。 19 年度　合格率 77%　(不受験率 3%)　A1%　B12%　C27%　D37%　平均 64 点　256 人登録

科目名	民法総則	科目名（英文）	Civil Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	城内　明
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2031a0		

授業概要・目的	民法総則は、民法（特に財産法）を学ぶ上での基本です。 本講義は、民法総則の基礎を学ぶことにより、民法の思考を体得することを目的とします。
到達目標	この授業を通じて学生には、民法総則の基本を身につけることが期待されます。
授業方法と留意点	新型コロナ感染状況に鑑み、オンラインで授業を行います(オンデマンド授業)。 Teams 上に毎週アップする動画を視聴した上、毎週の確認小テスト、及び 3 回実施する論述試験を受験して下さい。
科目学習の効果（資格）	公務員試験のほか、宅建・行政書士・司法書士等、各種資格試験に必須。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・契約	ガイダンス・契約とは・契約自由とその限界(公序良俗)	事前学習課題：なし 事後学習課題：授業内容を 200 字および 800 字でまとめ、レジュメと一体的に保管すること(30 分程度・最低 10 分以上)。確認小テストあり。
2	意思表示の瑕疵(1)	契約の成立・意思表示の構造・意思表示の瑕疵総説・無効と取消し	事前学習課題：①関連条文を読む。②テキストの該当範囲に目を通す(最低 10 分は行うこと)。 事後学習課題：授業内容を 200 字および 800 字でまとめ、レジュメと一体的に保管する(30 分程度、少なくとも 10 分以上行うこと)。確認小テストあり。
3	意思表示の瑕疵(2)	意思の不存在(1) －心裡留保・虚偽表示－	事前学習課題：①関連条文を読む。②テキストの該当範囲に目を通す(最低 10 分は行うこと)。 事後学習課題：授業内容を 200 字および 800 字でまとめ、レジュメと一体的に保管する(30 分程度、少なくとも 10 分以上行うこと)。確認小テストあり。
4	意思表示の瑕疵(3)	意思の不存在(2)－古典的錯誤－ ／ 瑕疵ある意思表示(1)－基礎事情の錯誤－	事前学習課題：①関連条文を読む。②テキストの該当範囲に目を通す(最低 10 分は行うこと)。 事後学習課題：授業内容を 200 字および 800 字でまとめ、レジュメと一体的に保管する(30 分程度、少なくとも 10 分以上行うこと)。確認小テストあり。
5	意思表示の瑕疵(4)	瑕疵ある意思表示 －詐欺・強迫、消費者取消権－	事前学習課題：①関連条文を読む。②テキストの該当範囲に目を通す(最低 10 分は行うこと)。 事後学習課題：授業内容を 200 字および 800 字でまとめ、レジュメと一体的に保管する(30 分程度、少なくとも 10 分以上行うこと)。確認小テストあり。
6	私見に関する基本原則	一般条項の必要性、公共の福祉、信義誠実の原則、権利濫用	事前学習課題：①関連条文を読む。②テキストの該当範囲に目を通す(最低 10 分は行うこと)。 事後学習課題：授業内容を 200 字および 800 字でまとめ、レジュメと一体的に保管する(30 分程度、少なくとも 10 分以上行うこと)。確認小テストあり。
7	人Ⅰ	権利能力とは、権利能力の始期・終期	事前学習課題：①関連条文を読む。②テキストの該当範囲に目を通す(最低 10 分は行うこと)。 事後学習課題：授業内容を 200 字および 800 字でまとめ、レジュメと一体的に保管する(30 分程度、少なくとも 10 分以上行うこと)。確認小テストあり。
8	人Ⅱ	意思能力、制限行為能力(1) －制限行為能力総説－	事前学習課題：①関連条文を読む。②テキストの該当範囲に目を通す(最低 10 分は行うこと)。 事後学習課題：授業内容を 200 字および 800 字でまとめ、レジュメと一体的に保管する(30 分程度、少なくとも 10 分以上行うこと)。確認小テストあり。
9	人Ⅲ	制限行為能力者制度(2) －未成年者、制限行為能力者の相手方の保護－	事前学習課題：①関連条文を読む。②テキストの該当範囲に目を通す(最低 10 分は行うこと)。 事後学習課題：授業内容を 200 字および 800 字でまとめ、レジュメと一体的に保管する(30 分程度、少なくとも 10 分以上行うこと)。確認小テストあり。
10	人Ⅳ	制限行為能力者制度（3） －成年後見制度－	事前学習課題：①関連条文を読む。②テキストの該当範囲に目を通す(最低 10 分は行うこと)。 事後学習課題：授業内容を 200 字および 800 字でまとめ、レジュメと一体的に保管する(30 分程度、少なくとも 10 分以上行うこと)。確認小テストあり。
11	代理Ⅰ	総説、代理権	事前学習課題：①関連条文を読む。②テキストの該当範囲に目を通す(最低 10 分は行うこと)。 事後学習課題：授業内容を 200 字および 800 字でまとめ、レジュメと一体的に保管する(30 分程度、少なくとも 10 分以上行うこと)。確認小テストあり。
12	代理Ⅱ	代理行為・無権代理(1)	事前学習課題：①関連条文を読む。②テキストの該当範囲に目を通す(最低 10 分は行うこと)。 事後学習課題：授業内容を 200 字および 800 字でまとめ、レジュメと一体的に保管する(30 分程度、少なくとも 10 分以上行うこと)。確認小テストあり。
13	代理Ⅲ	無権代理(2)	事前学習課題：①関連条文を読む。②テキストの該当範囲に目を通す(最低 10 分は行うこと)。 事後学習課題：授業内容を 200 字および 800 字でまとめ、レジュメと一体的に保管する(30 分程度、少なくとも 10 分以上行うこと)。確認小テストあり。

14	代理Ⅳ	表見代理	事前学習課題：①関連条文を読む。②テキストの該当範囲に目を通す(最低10分は行うこと)。 事後学習課題：授業内容を200字および800字でまとめ、レジュメと一体的に保管する(30分程度、少なくとも10分以上行うこと)。確認小テストあり。
15	時効	消滅時効	事前学習課題：①関連条文を読む。②テキストの該当範囲に目を通す(最低10分は行うこと)。 事後学習課題：授業内容を200字および800字でまとめ、レジュメと一体的に保管する(30分程度、少なくとも10分以上行うこと)。確認小テストあり。

関連科目	民事法概論・法学概論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	法学講義民法 ： 総則（第３版）	奥田昌道	勁草書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	民法講義1(第7版)	近江幸治	成文堂
2	スタートライン民法総論(第3版)	池田真朗	日本評論社
3	民法概論１　民法総則	山野目章夫	有斐閣

評価方法 （基準）	Teams上での毎週の確認小テスト70%（5点×14回)、及び3回の論述試験30%(10点×3回)の合計点により評価します。 各テストは、授業動画視聴後に自宅で受験します。成績評価に直結しますので、必ず期限までに受験して下さい。
学生への メッセージ	民法総則は、民法（特に財産法）を学ぶ上での基本です。 2年次以降に債権法・物権法（・および相続法）を学ぶ予定のある人は、必ず受講して下さい。
担当者の 研究室等	11号館10階　城内准教授室
備考	小テスト及び論述試験は、Ｔｅａｍｓ上で返却します。Ｔｅａｍｓ上に解説コメントを掲載しますので、必ず読むようにして下さい。 20年度　合格率72.3%　（不受験率0%）　A8.7%　B26.0%　C21.4%　D16.2%　平均68点　173人登録

科目名	法人法概説	科目名（英文）	Corporation Law Outilined
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中　敦
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2032a0		

授業概要・目的	・民法上の法人及び会社法上の会社を法人として一括した授業を行う。法人に関する事項一般及び会社法の基礎について学習する。 ・授業担当者は、大阪高裁・地裁、東京地裁などの裁判官として３９年間勤務し、財産法等に関する民事訴訟等の判決に数多く携わってきた。この授業では、法理論のみならず、実務経験を踏まえた講義を行っていきたい。
到達目標	この授業を通じて、学生には、会社や民法上の法人について実生活や仕事で実際に役立つ知識や考え方を習得するようになることが期待される。
授業方法と留意点	・各回の講義に関する動画、レジュメ又は資料は、Teams を使って授業時間前に掲示するので、各講義前に必ず見るようにすること。 ・動画視聴の際には、プリントアウトした上記レジュメ等と六法を参照すること。講義はレジュメに基づいて行うが、十分な理解のためには、レジュメ及び教科書による事前学習並びに授業を踏まえた事後学習が不可欠である。それぞれ２時間を充ててほしい。事前学習及び事後学習に当たっても六法を適宜参照すること。
科目学習の効果（資格）	この授業を通じて、学生には会社や民法上の法人について、基本的な理解ができるようになることが期待される。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	法人とは何か・法人制度	【事前学習】レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。
2	旧社団法人と旧財団法人、一般社団法人と一般財団法人、公益法人	社団法人及び財団法人並びに公益法人に関する旧制度と平成１８年の制度改正後の新制度との違いを比較検討する。	【事前学習】レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認するとともに、１、２回授業に関する小テストに回答する。。 （各２時間）
3	法人の機関、活動	法人にはどのような機関があり、また、これらを通じてどのように活動しているのかを検討する。	【事前学習】レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 (各２時間)
4	権利能力のない社団、財団	権利能力のない社団とはどのようなものか	【事前学習】レジュメを読む 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認するとともに、3、4回授業に関する小テストに回答する。 (各２時間)
5	会社法総論	会社法とは、会社法の歴史、会社の種類。	【事前学習】教科書第１編第１～６章を読む(第４、６章は６回授業で詳しく説明する)。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 (各２時間)
6	会社の種類と分類	会社の種類にはどのようなものがあるか、また会社はどのように分類されるか	【事前学習】教科書第１編第４、６章を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 (各２時間)
7	株式会社総論	株式会社とは	【事前学習】教科書第３編第１章を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認するとともに、５～７回授業に関する小テストに回答する。 (各２時間)
8	株式と株主	株式と株主の基本について	【事前学習】教科書第３編第３章を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 (各２時間)
9	募集株式の発行、新株予約権	募集株式の発行、新株予約権の基本について	【事前学習】教科書第３編第４、５章を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認するとともに、8、9回授業に関する小テストに回答する。 (各２時間)
10	会社の機関総論、株主総会（会社の機関１）	会社の機関とは、株主総会とは	【事前学習】教科書第３編第６章Ⅰ、Ⅱを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 (各２時間)
11	取締役・取締役会（会社の機関２）	会社における取締役の地位、責任	【事前学習】教科書第３編第６章Ⅲを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認するとともに、１０、１１回授業に関する小テストに回答する。 (各２時間)
12	その他の機関（会社の機関３）	その他の機関について	【事前学習】教科書第３編第６章Ⅳ～Ⅷを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 (各２時間)
13	役員等の責任、株主による経営是正（会社の機関４）	役員等の損害賠償責任、株主による経営是正制度について	【事前学習】教科書第３編第６章Ⅸ、Ⅹを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認するとともに、１２、１３回授業に関する小テストに回答する。 (各２時間)
14	持分会社	持分会社とはどのようなものか	【事前学習】教科書第４編を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 (各２時間)
15	まとめ	これまでの授業を振り返る	【事前学習】これまでの授業全体の内容を確認する。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認するとともに、これまでの授業に関する課題に回答する。 (各２時間)

関連科目	民法総則、会社法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	プライマリー会社法　第４版	藤田勝利，北村雅史	法律文化社
	2			
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	講義後における Teams 上での小テストにより評価する。詳細は、Teams で伝えるので、注意すること。
学生への メッセージ	会社法は、条文が多く、これまでに判例が多く蓄積されているため、難しい面もありますが、本授業は、あくまでも基本を押さえていくことを中心に、進めていきます。したがって、教科書すべてに言及するものではありませんが、自分から問題意識を持って参加してください。それだけに、レジュメには十分目を通しておいてください。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　田中教授室
備考	・コロナをめぐる情勢、学生の理解度、授業の進行によっては、授業の方法、順序、内容を変更することがある。小テストの解答は、原則として、提出期限後近い所の授業における配布資料とともに掲示する。 ・１回から４回までの授業については教科書は特に指定せず、レジュメに基づいて行う。もっとも、図書館などで民法総則の本を何冊か読み比べ、自分が気に入ったものを選ぶことを勧める。いうまでもなく、５回以降の授業については、教科書の該当部分のほか、レジュメも読んでおくこと。 20 年度　合格率 83.0%　（不受験率 3.3%）　A28.1%　B13.7%　C12.4%　D28.8%　平均 75 点　153 人登録

科目名	物権法	科目名（英文）	Property Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	家本　真実
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2033a0		

授業概要・目的	物権は、物を支配する権利です。たとえば、土地を所有していれば、その土地に対して所有権という物権を持っていることになり、その土地を自由に使用したり、処分したりすることができます。物権法は、民法の中でも、こうした物権に関するルールを定めた法律です。 本講義では、担保物権を除く物権法の全体像を理解することを目的とします。より理解を深めていただくために、できる限り身近な事例を挙げるとともに、条文に対する解釈や、学説、判例について紹介していきたいと考えています。
到達目標	この講義を通じて、学生の皆さんには、担保物権を除く物権法の基礎をしっかり理解し、民法における物に対する権利の考え方について全体像を把握できるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	講義形式でおこないます。各講義の数日前にレジュメを配布しますので、講義前に目を通しておいてください。 講義は所定の講義時限におこない、レジュメにつき解説を加えます。六法を参照していただくことも多いので、書籍またはオンラインで参照できるものを必ずご用意ください。教科書は可能な限り、入手していただくことをお勧めします。 なお、講義においては、オンラインで使用可能なシステムを活用します。詳細は Microsoft Teams の「21 前-J041-物権法」内の「一般」タブを確認してください。
科目学習の効果（資格）	各種資格試験においては、物権法を含む民法の理解が必須となることがあります。ただし、本講義では各種資格試験の対策まではおこないません。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに 物権法概説	講義のガイダンス 物権法の全体像（物権とは何か、民法における物権法の位置づけ）	講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2 時間)
2	物権変動（1）	物権変動の基本的理論	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示)を読んでおくこと。(1.5 時間) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5 時間)
3	物権変動（2）	不動産の物権変動における公示と登記制度	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示)を読んでおくこと。(1.5 時間) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5 時間)
4	物権変動（3）	不動産の物権変動における「第三者」の範囲	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示)を読んでおくこと。(1.5 時間) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5 時間)
5	物権変動（4）	不動産の物権変動における「取消しと登記」	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示)を読んでおくこと。(1.5 時間) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5 時間)
6	物権変動（5）	不動産の物権変動における「取得時効と登記」	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示)を読んでおくこと。(1.5 時間) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5 時間)
7	物権変動（6）	登記の効力	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示)を読んでおくこと。(1.5 時間) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5 時間)
8	物権変動（7）	動産の物権変動における公示と即時取得	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示)を読んでおくこと。(1.5 時間) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5 時間)
9	占有権	占有の取得、移転、消滅、効力	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示)を読んでおくこと。(1.5 時間) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5 時間)
10	所有権（1）	所有権の基本的理論、所有権の取得	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示)を読んでおくこと。(1.5 時間) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5 時間)
11	所有権（2）	所有権に基づく物権的請求権	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示)を読んでおくこと。(1.5 時間) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5 時間)
12	所有権（3）	共同所有	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示)を読んでおくこと。(1.5 時間) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5 時間)
13	所有権（4）	建物の区分所有	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示)を読んでおくこと。(1.5 時間) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5 時間)
14	用益物権（1）	地上権、永小作権	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示)を読んでおくこと。(1.5 時間) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5 時間)
15	用益物権（2） おわりに	地役権、入会権 講義のまとめと補足	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示）を読んでおくこと。全講義を通して疑問や不明点がないか確認したうえで講義

				に臨むこと。(3 時間) 講義終了後、次今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(3 時間)

関連科目	民法総則、債権法、契約法、担保物権法など民法科系目全般。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	民法の基礎 2－物権　(第 2 版)	佐久間毅	有斐閣
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	講義内で課す課題（確認テスト、ペーパーなど）への取り組みを 40%程度、学期末に課すレポートの成績を 60%程度の割合で、最終的な評価をおこないます。
学生への メッセージ	講義内容は、講義の進行具合に応じて変更する場合もあります。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　家本准教授室
備考	講義中に課題を課した場合は、次の回の講義で講評・解説をおこないます。 20 年度　合格率 70.1%　(不受験率 0%)　A0.7%　B10.9%　C21.8%　D36.7%　平均 61 点　147 人登録

科目名	不動産取引法	科目名（英文）	Real Estate Exchange Act
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田中　敦
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2034a0		

授業概要・目的	・不動産取引全般についての知識の習得と担保物権の果たしている役割についての理解を深めることを目的とする。登記簿の見方、対抗要件とは何か、通行権などにつき一通りの理解をし、実生活で役に立つ事柄につき学習する。また、担保とは、債権、特に金銭債権の回収を確実にする方策のことである。債権が確実に弁済されることは債権者にとって重要なことである。さらに、市場原理による経済社会にあっては、企業は新たな事業展開を迫られ、常に、その資金の確保を必要とする。金融を得るには担保の提供は必須で、この点からも担保に関する法制度は極めて重要である。当該講義は抵当権を中心とし、仮登記担保、譲渡担保等の新たな担保方法や担保の対象についても知識が得られるようにする。なお、担保法は物権と債権が交錯する領域で、担保物権の学習は財産法の全体像を把握することにもなる。 ・授業担当者は、大阪高裁・地裁、東京地裁などの裁判官として３９年間勤務するなど、財産法等に関する民事訴訟等の判決に数多く携わってきた。この授業では、法理論のみならず、それらの実務経験を踏まえた講義も行いたい。
到達目標	この授業を通じて、学生には、不動産取引及び担保（主に担保物権）につき一通りの知識を習得し、不動産取引や担保の基礎、どのような場面でどのような役割を果たしているのか､注意すべき事柄は何かについて簡単な説明ができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	・各回の講義に関する詳細並びに関連するレジュメ又は資料は、Teams を使って該当講義分の各チャネルに掲示するので、各講義前に必ず見るようにすること。 ・授業には、プリントアウトした上記レジュメ等と六法を持参すること。講義はレジュメに基づいて行うが、十分な理解のためには、レジュメ及び教科書による事前学習並びに授業を踏まえた事後学習が不可欠である。それぞれ２時間を充ててほしい。事前学習及び事後学習に当たっても六法を適宜参照すること。
科目学習の効果（資格）	理解が進めば財産法全体に興味が持て、民法に関しての応用力が養われ、民法を試験科目とする各種資格試験に対応できる。金融についての知識も得られるので、不動産関係あるいは金融関係の仕事に就くことを望む者にとっては、必須の領域であるといえよう。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス ・不動産取引についての基礎知識	・授業の進め方、受講上の注意 ・不動産取引の基礎 ・競売物件の確認	【事前学習】レジュメ及び教科書を読む。 【事後学習】インターネット上の裁判所の競売物件に関する情報を見て何が重要事項なのかを確認する。確認の結果について課題を出題するので、これに回答する。 （各２時間）
2	公示方法としての登記	・登記とは、その効力、登記の手続 ・登記簿の見本を見ながら記載内容を確認する。	【事前学習】教科書物権法編第３章Ⅲ１、２、４～６を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 （各２時間）
3	対抗要件	・対抗要件とは何か、なぜ必要なのか	【事前授業】レジュメ及び教科書を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認するとともに、授業１～３回に関する小テストに回答する。 （各２時間）
4	通行権	・通行権とは何か（囲繞地通行権の外にどのようなものがあるのか）	【事前学習】レジュメ及び教科書を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 （各２時間）
5	農地、山林の売買	・農地の売買は一般宅地の売買と異なる点はあるのか ・明認方法とはどのようなものか ・農地、山林の売買に当たって留意すべき点	【事前学習】】レジュメ及び教科書を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認するとともに､授業４､５回に関する小テストに回答する。 （各２時間）
6	・不動産取引について ・金銭債権の権利実現（金銭執行の概略）、担保の意義・必要性	・これまでの授業を踏まえ、不動産取引についての留意点を述べる。 ・担保の果たす役割・担保の必要性について	【事前学習】レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 （各２時間）
7	担保法概論	・担保物権（典型担保・非典型担保）の全体像を把握する。	【事前学習】】レジュメ及び教科書を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認するとともに、授業６、７回に関する小テストに回答する。 （各２時間）
8	抵当権総論､抵当権の設定等（抵当権１）	・抵当権に関する概念の把握	【事前学習】】レジュメ及び教科書を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 （各２時間）
9	抵当権の実行と物上代位（抵当権２）	・抵当権の実行手続きの概要 ・物上代位とは何か	【事前学習】】レジュメ及び教科書を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認するとともに､授業８､９回に関する小テストに回答する。 （各２時間）
10	抵当目的物の利用・譲渡（抵当権３）	・設定者の使用収益権 ・抵当目的物の第三取得者	【事前学習】】レジュメ及び教科書を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 （各２時間）
11	・法定地上権 ・特殊な抵当権（共同抵当、根抵当） （抵当権４）	・法定地上権とは何か ・共同抵当、根抵当とは何か	【事前学習】】レジュメ及び教科書を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認するとともに、授業１０、１１回に関する小テストに回答する。 （各２時間）
12	質権	・質権の意義、効力など	【事前学習】】レジュメ及び教科書を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 （各２時間）
13	先取特権・留置権	・先取特権の種類とその効力 ・留置権とはどのようなものか	【事前学習】】レジュメ及び教科書を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 （各２時間）
14	非典型担保概説・譲渡担保等	・非典型担保（民法の条文にない担保物権）の意義・必要性	【事前学習】】レジュメ及び教科書を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認すると

			・譲渡担保について	ともに、授業１２～１４回に関する小テストに回答する。 （各２時間）。
	15	全体の復習	授業全般を振り返る	【事前学習】これまでの授業を振り返る。 【事後学習】授業内容を確認するとともに、これまでの授業に関する小テストに回答する。 （各２時間）

関連科目	民法総則・物権法・債権総論、倒産法、民事保全・執行法等
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	民法Ⅱ　物権　第４版補訂	淡路剛久ほか	有斐閣Ｓシリーズ
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	講義後における Teams 上での課題(小テスト)で評価する。課題の詳細は、別途 Teams で伝えることもあるので、注意すること。
学生への メッセージ	不動産取引の全体像を把握すること、取引社会で重要な意義を有している金融の概略を学ぶことは、仕事上だけでなく、自宅を購入したりする際等、社会生活を営む上で必須です。法律の学習は講義内容を理解することが第一です。担保物権は、条文が多く、判例も多いため、難しい面もありますが、本講義は、あくまでも基本を押さえていくことを中心に考えています。したがって、教科書すべてに言及するものではありませんが、興味を持つ分野を持って、自分から問題意識を持って参加してください。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　田中教授室
備考	物権法を学習しておくことが望ましい。コロナをめぐる情勢、学生の理解度、授業の進行によっては、授業の方法、順序、内容を変更することがある。課題の解答は、原則として、提出期間終了後まもなくして、別途知らせる。 20 年度　合格率 76.9%　（不受験率 0%）　A12.6%　B30.8%　C16.1%　D17.5%　平均 69 点　143 人登録

科目名	債権総論	科目名（英文）	Law of Obligation: General Provisions
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大川　謙蔵
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2035a0		

授業概要・目的	民法典における財産法には、総則・物権・債権の三つ編があります。 その中で、物権とは人と物との関係を扱う部分であり、債権とは人と人との関係を扱う部分です。 さらに、債権法の部分は大きく分けて、総論部分と各論部分に分かれます。本講義ではその総論部分を扱います。
到達目標	この授業を通じて学生には、債権法の内容を全体的に把握し日常的な取引で生じる法的問題等を考察できる知識を涵養することを目的とします。具体的には、日常的にどのような取引がなされているのか、それらの取引で生じる債権とはいかなる内容のもので、いかなる性質を有しているのか、合意（契約）により生じた債権が約束通りに履行されない場合にはどのような問題が生じるのか、これらの債権を確保する行為は許されるのか、それらの債権を売却するなどして有効活用することはできないのか、および、これらの債権はどのような行為により実現されるこ
授業方法と留意点	講義形式で行う予定です。資料を配布しつつ、PC 画面の使用等を行い、さらに必要な小テスト等を行う予定です。 法律科目であるので、六法（書籍の一種）が必要です。 Teams を使った講義を行います。
科目学習の効果（資格）	各種資格試験においては、債権法を含む民法の理解が必須となります。公務員試験等、民法科目が出題される場合や、銀行取引などにおいても重要となる知識を債権法は含んでいます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	債権法概論	講義のガイダンス	総則および債権各論部分を見直すこと。予復習 90 分が目安です。
2	債権の目的	債権の内容と種類	契約の性質を整理しておくこと。予復習 90 分が目安です。
3	債権の効力①	強制履行・債務不履行	民事訴訟法など、手続法がどのようなものかについても自習しておくこと。予復習 90 分が目安です。
4	債権の効力②	債務不履行の類型とその成立要件	債務不履行については教科書等で見直すこと。予復習 90 分が目安です。
5	債権の効力③	受領遅滞	債権者・債務者はどのような人かについて、整理しておくこと。予復習 90 分が目安です。
6	責任財産の保全①	債権者代位権	3 者関係と制度の意義を整理すること。予復習 90 分が目安です。
7	責任財産の保全②	債権者取消権	債権者代位権との違いを整理すること。予復習 90 分が目安です。
8	多数当事者の債権債務関係①	分割債権債務 不可分債権債務	債権者・債務者が複数となる意義を確認すること。予復習 90 分が目安です。
9	多数当事者の債権債務関係②	連帯債務	連帯債務の意義を確認しながら、各制度の違いを整理すること。予復習 90 分が目安です。
10	多数当事者の債権債務関係③	保証債務	担保の意義を見直すこと。予復習 90 分が目安です。
11	債権関係の移転①	債権譲渡①	債権が譲渡される意味を押えること。予復習 90 分が目安です。
12	債権関係の移転②	債権譲渡②、債務引受	債権の移転と債務の移転の違いを整理すること。予復習 90 分が目安です。
13	債権の消滅①	弁済①	債権の消滅する形を確認すること。予復習 90 分が目安です。
14	債権の消滅②	弁済②、相殺①	弁済と相殺の意義を整理すること。予復習 90 分が目安です。
15	債権の消滅③	相殺②	相殺の意義を見直すこと。予復習 90 分が目安です。

関連科目：契約法、不法行為法、民法総則など、民法系科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	民法Ⅲ－債権総論（最新版）	野村豊弘ほか	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	講義において毎回の小テストをオンラインで行う。小テストで 100 点満点とする。
学生へのメッセージ	法律学にもかなり慣れたことだと思いますが、不十分だと思われる方も、復習をしつつ取り組んでいけば十分に理解ができますし、興味も持っていけるはずです。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　大川准教授室
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の３つから成り立っています。それぞれにつき、90 分を確保して学習をする必要があります。しかし、予習・復習については、各講義の内容により多少の違いが出てきますので、必ず講義でそれらの対象を聞くようにしてください。事前・事後学習内容について、講義で出された課題及び指摘部分の内容については、各対応時の講義で確認・解説を行います。 近年、受講態度のひどい学生が散見されます。受講の登録後であっても、そのような学生に対しては採点対象から外しますので、ご理解下さい。 小テストや課題テストなどは、次回の講義最初に簡単に確認を行う予定です。 20 年度　合格率 84.0%　（不受験率 1.1%）　A14.9%　B28.7%　C25.5%　D14.9%　平均 74 点　94 人登録

科目名	債権各論	科目名（英文）	Law of Obligation: Special Provisions
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大川　謙蔵
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2036a0		

授業概要・目的	民法典における財産法には、総則・物権・債権の三つがあります。 その中で、物権とは人と物との関係を扱う部分であり、債権とは人と人との関係を扱う部分です。 債権法の部分は大きく分けて、総論部分と各論部分に分かれます。本講義では各論部分を扱います。特に、契約を中心に確認する予定です。
到達目標	この授業を通じて学生には、債権法の内容を全体的に把握し日常的な取引で生じる法的問題等を考察できる知識を涵養する事を目的としています。 具体的には、日常的にどのような取引がなされているのか、それらの契約にはどのようなものがあるのか、それらの契約がどのような性質を含んでいるのかを確認します。 これにより、本講義では、社会における取引の意義を把握できるようにし、かつ、自分の判断で問題を処理できるための基本的知識の獲得をすることが期待されます。
授業方法と留意点	レジュメは Teams でデータ配信をし、講義はオンデマンド型で Teams に動画をアップロードします。 法律科目であるので、六法（書籍の一種）が必要ではある。
科目学習の効果（資格）	各種資格試験においては、債権法を含む民法の理解が必須となります。公務員試験等、民法科目が出題される場合や、銀行取引などにおいても重要となる知識を債権法は含んでいます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	債権法、特に契約法の全体を確認していく。	民事法概論、民法総則を見直すこと。予復習 90 分が目安です。
2	契約の種類	いかなる種類の契約があるのかを確認する。	契約の種類を全体的に整理すること。予復習 90 分が目安です。
3	契約の成立	契約がいかにして成立するのか、成立についていかなる問題があるのかを確認する。	教科書の関連する部分を見直すこと。予復習 90 分が目安です。
4	契約の効力①	契約が成立するといかなる効力を持つのかを確認する。	教科書の関連する部分を見直すこと。予復習 90 分が目安です。
5	契約の効力②	第 4 回の復習および、契約の解除について確認する。	教科書の関連する部分を見直すこと。予復習 90 分が目安です。
6	贈与	贈与契約について確認する。	教科書の関連する部分を見直すこと。予復習 90 分が目安です。
7	売買①	売買契約全体について確認する。	教科書の関連する部分を見直すこと。予復習 90 分が目安です。
8	売買②	売買の担保責任について確認する。	教科書の関連する部分を見直すこと。予復習 90 分が目安です。
9	売買③・交換	売買契約の担保責任および交換契約について確認する。	教科書の関連する部分を見直すこと。予復習 90 分が目安です。
10	消費貸借・使用貸借・賃貸借①	貸借型の契約について確認する。	教科書の関連する部分を見直すこと。予復習 90 分が目安です。
11	賃貸借②	賃貸借契約について確認する。	教科書の関連する部分を見直すこと。予復習 90 分が目安です。
12	賃貸借③	借地借家法について確認する。	教科書の関連する部分を見直すこと。予復習 90 分が目安です。
13	雇用・請負	雇用・請負契約について確認する。	教科書の関連する部分を見直すこと。予復習 90 分が目安です。
14	委任・寄託・その他の契約	委任・寄託その他の契約について確認する。	教科書の関連する部分を見直すこと。予復習 90 分が目安です。
15	全体のまとめ	契約法全体を確認し、内容の復習を行う。	全体の内容を見直すこと。予復習 90 分が目安です。

関連科目：債権総論、不法行為法、民法総則など、民法系科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	民法Ⅳ－債権各論　（最新版）	藤岡康宏ほか	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	各回、teams を使った小テストを行う。その合計 100 点満点計算を行う予定である。
学生へのメッセージ	法律学にもかなり慣れたことだと思いますが、不十分だと思われる方も、復習をしつつ取り組んでいけば十分に理解ができますし、興味も持っていけるはずです。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　大川准教授室
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の３つから成り立っています。それぞれにつき、90 分を確保して学習をする必要があります。しかし、予習・復習については、各講義の内容により多少の違いが出てきますので、必ず講義でそれらの対象を聞くようにしてください。事前・事後学習内容について、講義で出された課題及び指摘部分の内容については、各対応時の講義で確認・解説を行います。 近年、受講態度のひどい学生が散見されます。受講の登録後であっても、そのような学生に対しては採点対象から外しますので、ご理解下さい。 小テストや課題テストなどは、次回の講義最初に簡単に確認を行う予定です。

	20年度　合格率77.4%　（不受験率0.8%）　A6.8%　B21.8%　C23.3%　D25.6%　平均64点　133人登録

科目名	不法行為法	科目名（英文）	Tort Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	城内　明
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3037a0		

授業概要・目的	不法行為法は、709 条というたった 1 条の条文で、交通事故、公害、医療過誤、薬害事件といった様々な現代的諸問題を解決してきました。その面白さをわかってもらえるような講義にしたいと思っています。
到達目標	この授業を通じて学生には、現代社会における不法行為法の意義について理解するようになることが期待されます。
授業方法と留意点	新型コロナウィルス感染対策として、オンデマンド授業を行います。 毎週、授業動画を配信しますので、この動画を視聴の上、確認テストを受験してください。
科目学習の効果（資格）	各種資格試験、および今後の市民生活において不可欠です。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・不法行為法総説(1)	ガイダンス・債権発生原因としての不法行為・条文から見る不法行為法・不法行為の判断場面・不法行為法の難しさと面白さ	事前にテキストに目を通しておくこと(最低10分)。事後、授業内容で分からなかった部分につき、テキスト該当部分を読んで理解しておくこと。
2	不法行為法総説(2)	不法行為法の基本原理・不法行為法の目的と機能	事前にテキストに目を通しておくこと(最低10分)。事後、授業内容で分からなかった部分につき、テキスト該当部分を読んで理解しておくこと。
3	故意・過失(1)	故意/過失要件の意義・過失(1)	事前にテキストに目を通しておくこと(最低10分)。事後、授業内容で分からなかった部分につき、テキスト該当部分を読んで理解しておくこと。
4	故意・過失(2)	過失(2)・責任能力・故意	事前にテキストに目を通しておくこと(最低10分)。事後、授業内容で分からなかった部分につき、テキスト該当部分を読んで理解しておくこと。
5	権利侵害・違法性(1)	起草者の考えた権利侵害要件・権利侵害から違法性へ・権利一元論からの批判・権利侵害要件の再生	事前にテキストに目を通しておくこと(最低10分)。事後、授業内容で分からなかった部分につき、テキスト該当部分を読んで理解しておくこと。
6	権利侵害・違法性(2)	権利と法律上保護される利益・権利の目録（人格権と財産権）	事前にテキストに目を通しておくこと(最低10分)。事後、授業内容で分からなかった部分につき、テキスト該当部分を読んで理解しておくこと。
7	権利侵害・違法性(3)	生成途上の権利と権利の生成プロセス・不法行為成立要件としての違法性(違法性阻却事由)	事前にテキストに目を通しておくこと(最低10分)。事後、授業内容で分からなかった部分につき、テキスト該当部分を読んで理解しておくこと。
8	因果関係(1)	相当因果関係説批判・成立上の因果関係／賠償範囲の因果関係／金銭評価の区別・成立上の因果関係(事実的因果関係)	事前にテキストに目を通しておくこと(最低10分)。事後、授業内容で分からなかった部分につき、テキスト該当部分を読んで理解しておくこと。
9	因果関係(2)	事実的因果関係の立証(高度の蓋然性／疫学的因果関係論の位置付け)・賠償範囲の因果関係（大隅裁判官の反対意見・義務射程説・危険性関連説）	事前にテキストに目を通しておくこと(最低10分)。事後、授業内容で分からなかった部分につき、テキスト該当部分を読んで理解しておくこと。
10	共同不法行為	719 条 1 項前段の共同不法行為の成立要件・大気汚染訴訟と共同不法行為・1 項後段の共同不法行為の成立要件・共同不法行為の効果	事前にテキストに目を通しておくこと(最低10分)。事後、授業内容で分からなかった部分につき、テキスト該当部分を読んで理解しておくこと。
11	損害論	損害の種類・損害とは何か・救済の方法・損害額の算定方法(総論)	事前にテキストに目を通しておくこと(最低10分)。事後、授業内容で分からなかった部分につき、テキスト該当部分を読んで理解しておくこと。
12	損害額の算定方法	逸失利益の算定に係る問題・一時金賠償と定期金賠償・慰謝料の算定に係る問題・積極損害に係る問題	事前にテキストに目を通しておくこと(最低10分)。事後、授業内容で分からなかった部分につき、テキスト該当部分を読んで理解しておくこと。
13	賠償額の調整(1)	損益相殺・過失相殺・被害者側の過失	事前にテキストに目を通しておくこと(最低10分)。事後、授業内容で分からなかった部分につき、テキスト該当部分を読んで理解しておくこと。
14	賠償額の調整(2)	過失相殺規定の類推適用（素因減額）・消滅時効と除斥期間	事前にテキストに目を通しておくこと(最低10分)。事後、授業内容で分からなかった部分につき、テキスト該当部分を読んで理解しておくこと。
15	特殊の不法行為	監督者責任・使用者責任・土地工作物責任・動物占有者責任・製造物責任・運行供用者責任	事前にテキストに目を通しておくこと(最低10分)。事後、授業内容で分からなかった部分につき、テキスト該当部分を読んで理解しておくこと。

関連科目：民法総則、債権法など民法科目全般。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	不法行為法　第 5 版	吉村良一	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法：授業の理解度を確認するための確認小テスト(7 点×15 回)の合計点で評価します(100%)。

（基準）	小テスト、論述試験共、授業後にTeams上で実施します。成績評価に直結しますので、期限までに必ず受験して下さい。
学生への メッセージ	不法行為法は、判例・学説により大きく発展し、現在も、なお発展を続けている現在進行形の法領域です。この面白さを理解したい学生の参加を期待します。
担当者の 研究室等	11号館10階　城内准教授室
備考	感染防止の観点から、レジュメは事前にTeams上で配布します。自分でプリントアウトして持参して下さい。 教室では配布しませんので、ご注意下さい。 20年度　合格率63.6%　（不受験率0%）　A9.1%　B12.7%　C14.5%　D27.3%　平均61点　55人登録

科目名	親族法	科目名（英文）	Family Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	田中　敦
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2038a0		

授業概要・目的	・民法典の第４編「親族」を中心に講義を行う。具体的には、夫婦、親子関係などの身分関係について、その権利と義務の視点から、基本的な検討を行う。親族関係は、社会生活を送るうえで避けては通ることのできない人との関係であり、日常で感じる家族などの人間関係が法的にどのようなものであるのかの把握も行う。 ・授業担当者は、大阪高裁・地裁、東京地裁などの裁判官として３９年間勤務し、また、広島家庭裁判所長を経験するなど、財産法や家族法に関する民事訴訟、家事手続等に数多く携わってきた。この授業では、法理論のみならず、それらに関する実務経験を踏まえた講義を行いたい。
到達目標	この授業を通じて学生には、身近な分野である家族法についての基礎的な法的知識を自分のものにするとともに、親子、夫婦関係等、家族の在り方について自らが考える契機とすることが期待される。
授業方法と留意点	各回の講義に関する詳細並びに関連するレジュメ又は資料は、Teams を使って該当講義分の各チャネルに掲示するので、各講義前に必ず見るようにすること。 授業に当たっては、プリントアウトした上記レジュメ等と六法を参照すること。講義はレジュメに基づいて行うが、十分な理解のためには、レジュメ及び教科書による事前学習並びに授業を踏まえた事後学習が不可欠である。それぞれ２時間を充ててほしい。事前学習及び事後学習に当たっても六法を適宜参照すること。
科目学習の効果（資格）	日常生活において生じる、身分関係に関する問題を理解するだけでなく、資格試験などにおける民法科目の理解にも役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、家族法概論	家族法の概略、意義、身分行為など	【事前学習】教科書及びレジュメを読むとともに、これまでに授業で学習した民法について全体的に確認する。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 （各２時間）
2	家族紛争の解決方法	家事事件の処理手続、氏名、戸籍	【事前学習】教科書及びレジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 （各２時間）
3	婚姻の成立と不成立	婚姻の成立と成立が否定される場合	【事前学習】教科書及びレジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認するとともに、１～３回授業に関する小テストに回答する。 （各２時間）
4	婚姻の効力	婚姻の効力について学ぶ	【事前学習】教科書及びレジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 （各２時間）
5	夫婦財産制　日常家事債務	夫婦間の財産関係	【事前学習】教科書及びレジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認するとともに、4、5回授業に関する小テストに回答する。 （各２時間）
6	離婚とは、離婚手続①	離婚制度、離婚手続きのうち協議離婚、調停離婚について	【事前学習】教科書及びレジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 （各２時間）
7	離婚手続②	離婚手続のうち裁判離婚について	【事前学習】教科書及びレジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認するとともに、6、7回授業に関する小テストに回答する。 （各２時間）
8	離婚に伴う財産関係	財産分与	【事前学習】教科書及びレジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 （各２時間）
9	離婚と子の福祉	親権、面会交流	【事前学習】教科書及びレジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認するとともに、8、9回授業に関する小テストに回答する。 （各２時間）
10	実親子関係	実親子、嫡出制度	【事前学習】教科書及びレジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、授業を踏まえ、重要事項を確認する。 （各２時間）
11	親子関係	認知、準正	【事前学習】教科書及びレジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 （各２時間）
12	養子関係	養子制度	【事前学習】教科書及びレジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認するとともに、１０～１２回授業に関する小テストに回答する。 （各２時間）
13	成年後見	成年後見制度の意義と問題点	【事前学習】教科書及びレジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 （各２時間）
14	扶養	扶養の内容、扶養義務者	【事前学習】教科書及びレジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認するとともに、１３、１４回授業に関する小テストに回答する。 （各２時間）
15	全体の復習	全体を復習する	【事前学習】これまでの授業全体の内容を確認する。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認すると

				ともに、これまでの授業に関する小テストに回答する。 （各２時間）

関連科目	民法に関連する講義全般。 特に、民法総則、相続法。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	民法７　親族・相続　第６版	高橋朋子ほか	有斐閣アルマ
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	講義後における Teams 上での課題（小テスト）で評価する。課題の詳細は、別途 Teams で伝えることもあるので、注意すること。
学生への メッセージ	親族法は、身近な法律であるだけに、まずは、判例・通説の立場について正確な知識を持っておくことが重要です。日頃から関心と興味を持って授業に臨んで下さい。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　　田中教授室
備考	コロナをめぐる情勢、学生の理解度、授業の進行によっては、授業の方法、順序、内容を変更することがある。課題の解答は、原則として、提出期間終了後まもなくして、別途知らせる。 20 年度　合格率 80.2%　（不受験率 0%）　A25.6%　B 19.4%　C 14.1%　D21.1%　平均 72 点　227 人登録

科目名	相続法	科目名（英文）	Succession Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中　敦
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3039a0		

授業概要・目的	・民法第５編の「相続」を講義する。具体的には、法定相続の仕組みと遺言について、その内容を明らかにする。親族関係を前提とする財産上の権利義務を承継するという相続制度を検討することを通して、身分関係法上の財産権移転の構造を理解することが目標となる。改正法の内容についても知る必要がある。 ・授業担当者は、大阪高裁、大阪地裁などの裁判官として３９年間勤務し、また、広島家庭裁判所長を歴任するなど、財産法や家族法に関する民事訴訟等の判決に数多く携わってきた。この授業では、法理論のみならず、実務経験を踏まえた講義を行っていきたい。
到達目標	この授業を通じて、学生には、日常生活で良く起こる相続に関して民法はどのような規定を置いているのか、有効な遺言を作るにはどのような点に留意しなければならないかなどの点につき、正確な知識を習得するとともに、具体的な遺産分割の計算方法について説明できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	・各回の講義に関する動画、レジュメ又は資料は、Teams を使って授業時間前に掲示するので、各講義前に必ず見るようにすること。 ・動画視聴の際には、プリントアウトした上記レジュメ等と六法を参照すること。講義はレジュメに基づいて行うが、十分な理解のためには、レジュメ及び教科書による事前学習並びに授業を踏まえた事後学習が不可欠である。それぞれ２時間を充ててほしい。事前学習及び事後学習に当たっても六法を適宜参照すること。 ・相続法は、親族法の知識が前提となっている場面が少なくない。事前、事後学習に当たっては、
科目学習の効果（資格）	日常生活において生じる身分関係問題の理解だけでなく、資格試験などでの民法科目の理解にも役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業のガイダンス、相続法の概略	・相続法とは ・授業方法等について	【事前学習】教科書第７章を読み、興味・関心のある部分を見つけておく。 【事後学習】授業内容を確認する。 （各２時間）
2	相続人と相続分①	相続人の範囲と順位	【事前学習】教科書第８章１を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認するとともに、１、２回授業に関する小テストに回答する。 (各２時間)
3	相続人と相続分②	代襲相続、相続分	【事前学習】教科書第８章２及び３を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 (各２時間)
4	相続人と相続分③	相続欠格、相続廃除、相続回復請求権	【事前学習】教科書第８章４～６を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認するとともに、３、４回授業に関する小テストに回答する。 (各２時間)
5	相続の効力①	相続の一般的効果	【事前学習】教科書第９章１を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 (各２時間)
6	相続の効力②	相続と登記、祭祀承継	【事前学習】教科書第９章２～４を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認するとともに、５、６回授業に関する小テストに回答する。 (各２時間)
7	相続の効力③	遺産共有、遺産管理	【事前学習】教科書第９章５～７を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 （各２時間）
8	相続の効力④	遺産分割	【事前学習】教科書第９章８を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認するとともに、７、８回授業に関する小テストに回答する。 (各２時間)
9	相続の承認・放棄	単純承認、限定承認、相続放棄	【事前学習】教科書第１０章を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 （各２時間）
10	財産分離と相続人の不存在	財産分離の意義、相続人不存在、特別縁故者	【事前学習】教科書第１１章・第１２章を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認するとともに、９、１０回授業に関する小テストに回答する。 (各２時間)
11	遺言①	遺言とは、遺言の方式	【事前学習】教科書第１３章１、２を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 (各２時間)
12	遺言②	遺言の効力	【事前学習】教科書第１３章３を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認するとともに、１１、１２回授業に関する小テストに回答する。 (各２時間)
13	遺言③	遺言による財産処分、遺言の執行	【事前学習】教科書第１３章４、５を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 (各２時間) 間)
14	遺留分	遺留分とは、遺留分の確定、遺留分減殺請求権	【事前学習】教科書第１４章を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認するとともに、１３、１４回授業に関する小テストに回答する。 (各２時間)
15	全体の復習	相続法全般を振り返る	【事前学習】これまでの授業内容を振り返る。 【事後学習】授業内容を確認するとともに、これま

				での授業に関する課題に回答する。 （各２時間）

関連科目	親族法、民法総則、民事法概論
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	民法７　親族・相続　第６版	高橋朋子ほか	有斐閣アルマ
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	講義後における Teams 上での小テスト（課題の提出を含む）で評価する。詳細は、別途 Teams で伝えるので、注意すること。
学生への メッセージ	相続法の理解を通して、相続がもつ意義を再確認してください。また、相続法は、難しい問題点も多い科目ですから、まずは判例・通説の立場に立って、基本を押さえてください。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　田中教授室
備考	コロナをめぐる情勢、学生の理解度、授業の進行によっては、授業の方法、順序、内容を変更することがある。小テストの解答は、原則として、提出期限後近い所の授業における配布資料とともに掲示する。 20 年度　合格率 77.7%　（不受験率 4.9%）　A25.2%　B10.7%　C19.4%　D22.3%　平均 70 点　103 人登録

科目名	消費者と法	科目名（英文）	Consumer and Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	城内　明
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3040a0		

授業概要・目的	本講義は、消費者問題の本質について理解を深めること、被害の発生を防ぎ、被害者の救済を図るかについての実践的な知識を身につけることを目的とします。
到達目標	この授業を通じて学生には、消費者問題の本質について理解を深め、被害の発生を防ぎ、被害者の救済を図るかについての実践的な知識を身につけることが期待される。
授業方法と留意点	新型コロナウィルス感染対策として、オンデマンド授業を実施します。
科目学習の効果（資格）	消費生活専門相談員、消費生活アドバイザー、消費生活コンサルタント、その他、今後、市民生活を送る上で不可欠。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・消費者法概説	消費者法とは何か	事前に授業時に指示するテキスト該当範囲に目を通し、授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
2	消費者契約法(1)	消費者契約法概説	事前に授業時に指示するテキスト該当範囲に目を通し、授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
3	消費者契約法(2)	誤認・困惑類型における取消し(1)	事前に授業時に指示するテキスト該当範囲に目を通し、授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
4	消費者契約法(3)	誤認・困惑類型における取消し(2) 不当約款規制(1)	事前に授業時に指示するテキスト該当範囲に目を通し、授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
5	消費者契約法(4)	不当約款規制(2)	事前に授業時に指示するテキスト該当範囲に目を通し、授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
6	消費者契約法(5)	不当約款規制(3)・消費者団体訴訟	事前に授業時に指示するテキスト該当範囲に目を通し、授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
7	特定商取引に関する法律(1)	特商法の全体像、クーリング・オフ制度	事前に授業時に指示するテキスト該当範囲に目を通し、授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
8	特定商取引に関する法律(2)	訪問販売・電話勧誘販売	事前に授業時に指示するテキスト該当範囲に目を通し、授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
9	特定商取引に関する法律(3)	通信販売・特定継続的役務提供	事前に授業時に指示するテキスト該当範囲に目を通し、授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
10	特定商取引に関する法律(4)	連鎖販売取引	事前に授業時に指示するテキスト該当範囲に目を通し、授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
11	特定商取引に関する法律(5)	業務提供誘引販売取引	事前に授業時に指示するテキスト該当範囲に目を通し、授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
12	消費者信用取引	販売信用取引・消費者金融取引・多重債務者問題	事前に授業時に指示するテキスト該当範囲に目を通し、授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
13	商品安全と法(1)	商品安全に係る法制度概説	事前に授業時に指示するテキスト該当範囲に目を通し、授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
14	商品安全と法(2)	製造物責任法(1)	事前に授業時に指示するテキスト該当範囲に目を通し、授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
15	商品安全と法(3)	製造物責任法(2)	事前に授業時に指示するテキスト該当範囲に目を通し、授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。

関連科目：民事法関連科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	基本講義　消費者法　第３版	中田邦博他編	日本評論社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	消費者法判例インデックス	松本恒雄他編	商事法務
2			
3			

評価方法（基準）	各回の授業に対し、Teams 上で課題の提出を求めます(7 点×14 回)。この課題の評価、および授業アンケート(2 点)の合計点により、成績を決します(100%)。成績評価に直結しますので、必ず期限までに課題を提出して下さい。
学生への	悪徳業者は、いつ何時、あなたに襲いかかってくるかわかりません。降りかかった火の粉を払いのける術を身につけ、自分自身、家族・友人、そ

メッセージ	して社会を守ってください。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　城内准教授室
備考	

科目名	国際私法総論	科目名（英文）	Private International Law (General Theories)
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	小山　昇
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3041a0		

授業概要・目的	国際私法は、複数の国の要素をもつ私的法律関係の問題について、最も密接な関係のある場所や地域の法律（準拠法）を適用することによって解決しようとする法律です。「牴触法」という用語が用いられ、民法のような「実質法」とは次元を異にする法ですので、講義ではその構造と理論の理解に特に力点を置きます。
到達目標	この授業を通じて学生には、「国際私法の構造」及びその「基本的考え方」を説明できるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	教科書に沿っての講義になりますが、重要事項をまとめた資料を配付してそれを使った学習後、提示する設問に対する「課題」の提出を求める形で行います。資料配付及び課題の提出は授業で行いますが、対面授業ができない状況に至ったときは、Teams を使ってリアルタイムに動画配信を行い、配付資料も Teams にアップします。レポートとして提出を求める課題は、国際私法の基本的知識の確認と復習のために、重要事項の「再確認」という意味で数回行いますが、提出は、期日を指定して「WebFolder」の「提出」フォルダーを使うことに注意
科目学習の効果（資格）	外国との関連のある生活関係においてどのような法律問題が生じるのか、またその解決の考え方について理解できます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	国際私法とは何か	「渉外的法律関係」とは、国際私法の定義・名称、その法的性質	教科書第１章をあらかじめ読むこと、配付資料の重要事項を確認すること（約２時間）
2	国際私法の法源①	国際私法に関係する法律	配付資料の重要事項を確認すること（約２時間）
3	国際私法の法源②	「法の適用に関する通則法」と特別法	配付資料の重要事項を確認すること（約２時間）
4	国際私法理論の歴史①	国際私法の沿革、法規分類学派	教科書第３章をあらかじめ読むこと、重要事項及び確認問題を再確認すること（約２時間）
5	国際私法理論の歴史②	「伝統的国際私法理論」とは何か	配付資料の重要事項を確認すること（約２時間）
6	法律関係の性質決定①	国際私法の基本的構造、「法性決定」とは何か	教科書第２章Ⅰ・Ⅱをあらかじめ読むこと、配付資料の重要事項を確認すること（約２時間）
7	法律関係の性質決定②	法性決定の仕方、「先決問題」と「適応問題」とは	重要事項及び確認問題を再確認すること（約２時間）
8	連結点の確定①	「連結点」とは、連結政策、連結点の主張・証明・不明	教科書第２章Ⅲをあらかじめ読むこと、配付資料の重要事項を確認すること（約２時間）
9	連結点の確定②	「属人法」の観念を理解する	教科書第４章Ⅰをあらかじめ読むこと、配付資料の重要事項を確認すること（約２時間）
10	連結点の確定③	国籍とは、わが国の国籍法の問題点	重要事項及び確認問題を再確認すること（約２時間）
11	連結点の確定④	連結点としての国籍・住所・常居所、法律回避	配付資料の重要事項を確認すること（約２時間）
12	準拠法の特定①	「反致」とは、その種類と位置づけ	教科書第２章Ⅳをあらかじめ読むこと、配付資料の重要事項を確認すること（約２時間）
13	準拠法の特定②	不統一法国法・未承認国法の指定	重要事項及び確認問題を再確認すること（約２時間）
14	準拠法の適用①	準拠法の性質、外国法の扱い	教科書第２章Ⅴをあらかじめ読むこと、配付資料の重要事項を確認すること（約２時間）
15	準拠法の適用②	国際私法上の公序とは	確認問題の復習、すべての重要事項・配付資料・確認問題を確認すること（約２時間）

関連科目	国際私法各論、国際取引法、民法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国際私法入門(第８版)	澤木敬郎・道垣内正人	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	適宜、紹介します。		
2			
3			

評価方法（基準）	評価は、数回提出を求める「課題」と定期試験の成績を合計して行います(定期試験 60%及び課題のレポート 40%) が、定期試験が実施できない場合は、それに代わる「総合課題」で評価します。定期試験もしくは「総合課題」は、数回実施する「課題」の応用問題で出題しますが、「総合課題」の提出は、「課題」と同様に、期日を指定して「WebFolder」の「提出」フォルダーを使うことに注意してください。 ,
学生へのメッセージ	民法などの「実質法」とは次元の異なる「牴触法」の考え方を学んで下さい。課題の学習には、配付資料だけでなく教科書も必要です。
担当者の	11 号館９階　小山教授室

研究室等	
備考	対面授業にときは、授業中を含めて、適宜、質問・意見を聞くことができますが、それができない状況のときには、メールを活用してください。 「課題」については、適宜、メールなどを利用してフィードバックします。 ２０１４年度以前入学生科目名　『国際私法Ｉ』 20 年度　合格率 92.9%　（不受験率 7.1%）　A12.9%　B37.1%　C21.4%　D21.4%　平均 76 点　70 人登録

科目名	国際私法各論	科目名（英文）	Private International Law (Particular Issues)
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	小山　昇
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3042a0		

授業概要・目的	前期開講の国際私法総論で理解した「国際私法の構造」を単位法律関係ごとに具体的な検討をします。「実質法」上の概念と「牴触法」上の概念の違いを意識し、婚姻や親子関係、債権契約といった既に実質法で得ている知識が、国際私法ではどのように違っていてそして区別して考えるべきかを理解することが目的となります。
到達目標	この授業を通じて学生には、単位法律関係ごとにその準拠法及びその「連結政策」を検討して「国際私法の構造」及びその中心となる具体的な問題点が説明できるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	民法を始めとして関連する外国の私法にも言及しての講義を行いますが、重要事項をまとめた資料を配付しますので教科書も含めて学習してください。その後、一定の区切りごとに「課題」の提出を求めます。授業時間の最後の 20 分程度を利用して実施し、次回以降に評価を付して返却します。
科目学習の効果（資格）	国際的な人及び物の交流によって生じる具体的な法律関係の解決方法について理解でき、合わせて、日本の民事法の知識を再確認できます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	国際家族法①	婚姻の成立の準拠法	教科書第４章Ⅱをあらかじめ読み、重要事項を確認する（約２時間）
2	国際家族法②	婚姻の効力の準拠法	配付資料の重要事項を確認する（約２時間）
3	国際家族法③	離婚、別居、婚約、内縁の準拠法	配付資料の重要事項を確認する（約２時間）
4	国際家族法④	実親子関係、準正の準拠法	重要事項及び確認問題を再確認する（約２時間）
5	国際家族法⑤	養親子関係の準拠法	配付資料の重要事項を確認する（約２時間）
6	国際家族法⑥	親子関係の効力、親族関係の法律行為の方式の準拠法	配付資料の重要事項を確認する（約２時間）
7	国際家族法⑦	その他の親族関係、親族間扶養の準拠法	配付資料の重要事項を確認する（約２時間）
8	国際家族法⑧	相続、遺言、氏の準拠法、身分関係と戸籍	教科書第４章Ⅲ・Ⅳををあらかじめ読み、重要事項及び確認問題を再確認する（約２時間）
9	国際財産法①	自然人の準拠法、後見・保佐・補助の管轄権と準拠法	教科書第５章Ⅰををあらかじめ読み、重要事項を確認する（約２時間）
10	国際財産法②	法人の準拠法、外国人法	確認問題を復習し、配付資料の重要事項を確認する（約２時間）
11	国際財産法③	契約準拠法、当事者自治の原則とその制限論	教科書第５章Ⅱをあらかじめ読み、重要事項を確認する（約２時間）
12	国際財産法④	契約の方式、代理の準拠法	配付資料の重要事項を確認する（約２時間）
13	国際財産法⑤	不法行為、事務管理・不当利得の準拠法	教科書第５章Ⅲをあらかじめ読む、確認問題を復習し、配付資料の重要事項を確認する（約２時間）
14	国際財産法⑥	債権譲渡、相殺、物権、知的財産権の準拠法	教科書第５章Ⅳ・Ⅴ・Ⅵをあらかじめ読み、重要事項を確認する（約２時間）
15	国際民事手続法	国際裁判管轄、外国判決の承認と執行、国際商事仲裁、国際倒産	教科書第６章をあらかじめ読む、すべての重要事項・配付資料・確認問題を再確認する（約２時間）

関連科目：国際私法総論、国際取引法、民法総則、法人法概説、物権法、不動産取引法、債権法、不法行為法、親族法、相続法、商法、民事訴訟法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国際私法入門(第８版)	澤木敬郎・道垣内正人	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	適宜、紹介します。		
2			
3			

評価方法（基準）	評価は、「課題」(60%)と「定期試験」(40%)を合計して行います。なお、定期試験は、学内での試験に代えて「総合課題」で評価することになります。「総合課題」は「課題」を使った応用問題を出題しますが、配付と提出については「WebFolder」を使いますので特に注意してください。
学生へのメッセージ	民法総則、物権法、債権法、親族法、相続法のすべてについて、その基本的な知識を再確認しておいてください。配付資料だけでなく教科書も学習して課題に取り組んでください。
担当者の研究室等	11 号館９階　小山教授室
備考	授業では、適宜、質問・意見等を聞くことができますが、それができないときは、メールを活用してください。なお、オンライン授業時に実施した「課題 1」「課題 2」については、期限内の提出のみ、すでに Portal を利用してフィードバックしました。 ２０１４年度以前入学生科目名　『国際私法Ⅱ』

	20年度　合格率80.0%　（不受験率11.1%）　A4.4%　B8.9%　C17.8%　D48.9%　平均64点　45人登録

科目名	民事訴訟法	科目名（英文）	Civil Procedure Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	萩原　佐織
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3043a0		

授業概要・目的	民法等により認められた権利が害され、私人間に紛争が生じた場合、その紛争解決手段として用いられるのが民事訴訟手続である。紛争の対象として取り扱うのが民法上の権利であるため、民法全般の復習・発展に役立つ。また、「実体法である民法」と「手続法である民事訴訟法を」含めた『民事法』としての総合的理解を図り、それらの知識を深めることを、目標とする。多様な紛争関係者を前提として適正・迅速といった対立する目的を実現しなければならないため、多面的な思考を養うことにも資する。
到達目標	この講義を通じ学生が、民事法において、実体法である民法、そして手続法である民事訴訟法、民事保全・執行法、倒産法が、それぞれどういう役割を担っているかを正確に理解し、民事法の全体像やそれぞれの機能の仕方を理解することが期待される。 そのうえで、裁判所の種類や各裁判所の役割・機能をはじめ、民事裁判全体の流れを掴み、民事裁判の仕組みや果たす役割について理解することも期待される。
授業方法と留意点	講義は、事前に Teams 上にアップされているレジュメ（約 10 頁：判例を含む）をプリントアウトして持参し、六法を用いて行う。分かり易いようにレジュメはカラーにしてあるが、白黒で印刷しても構わない。毎回、レジュメでは、主要個所が括弧空けにされているので、事前学習としてレジュメ・教科書等の該当箇所や関連判例を読み、その括弧に何が入るのかを考えてくること。講義において、その括弧に当てはまる用語や説明等を聞き、自分で書き込む。アクティブ・ラーニング型の講義を目標としているため、事前学習として、Teams 上のクイズ機
科目学習の効果（資格）	・紛争解決手段である民事訴訟手続のしくみが理解できるようになる。 ・大学院ならびに法科大学院等への進学、裁判所職員（事務官・書記官）、司法書士、法検スタンダードコースなどの受験に対応できる知識・応用力を養われる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス ・民事訴訟法の概要 ・民事訴訟法と他の法律（憲法、民法、民事保全・執行法、倒産法）との関係	・授業の進め方、受講上の注意、評価方法等について ・裁判を受ける権利 ・訴訟と非訟	事前学習：教科書　P. 55～76 事後学習：講義における配布資料の復習 （事前学習に要する時間　約 2 時間）
2	・裁判	・訴訟に勝てばどうなるのか ・訴訟には、どれだけの時間と費用がかかるか ・裁判にあたる人たち（裁判官、弁護士） ・紛争処理の方策（ADR、調停、仲裁）	事前学習：教科書　P. 5～54 最高裁判所の HP にて、訴訟費用額の一覧表を参照しておくこと 事後学習：講義における配布資料の復習、小テスト又は課題（事前事後学習、各 2 時間、以下同様）
3	・裁判所Ⅰ	・裁判所の種類 ・最高裁判所 ・高等裁判所	事前学習：裁判所の種類・構造・所在地、各裁判所の役割について調べる 事後学習：講義における配布資料の復習、小テスト又は課題（各 2 時間）
4	・裁判所Ⅱ	・地方裁判所 ・家庭裁判所 ・簡易裁判所	事前学習：自分の住所地の各管轄裁判所を調べる 事後学習：講義における配布資料の復習、小テスト又は課題（各 2 時間）
5	・上訴	・特別の不服申立て ・控訴 ・上告 ・抗告	事前学習：教科書　P. 311～332 （判例）上訴の利益　理由中の判断に対する不服最高裁昭和 31 年 4 月 3 日第三小法廷判決 事後学習：講義における配布資料の復習、小テスト又は課題（各 2 時間）
6	・管轄（審理・判決はどの裁判所でするのか？）	・事物管轄と土地管轄 ・合意管轄と応訴管轄 ・移送	事前学習：教科書　P. 109～126 （判決）最高裁平成 20 年 7 月 18 日第二小法廷決定移送の可否　裁量移送の要件 事後学習：講義における配布資料の復習、小テスト又は課題（各 2 時間）
7	・訴えの種類	・給付の訴え、確認の訴え、形成の訴え ・訴えの併合、訴えの変更、反訴	事前学習：教科書　P. 77～108 （判決）最高裁昭和 56 年 12 月 16 日大法廷判決　将来給付の訴え　大阪国際空港事件 事後学習：講義における配布資料の復習、小テスト又は課題（各 2 時間）
8	・当事者（訴える人、訴えられる人とは？）	・誰が当事者になれるか？（権利能力、当事者能力） ・誰が当事者になるのが正しいか？（当事者適格、選定当事者）	事前学習：教科書　P. 127～140 （判例）法人でない社団の当事者能力　最高裁昭和 42 年 10 月 19 日第一法法廷判決 事後学習：講義までに配布した全資料の復習、小テスト又は課題（各 2 時間）
9	・訴訟代理	・訴訟代理とは？ ・代理権の範囲	事前学習：教科書　P. 38～40 （判例）最高裁昭和 38 年 2 月 21 日第一小法廷判決訴訟代理人の代理権の範囲 事後学習：講義までに配布した全資料の復習、小テスト又は課題（各 2 時間）
10	・民事訴訟の基本原則 ・事実認定	・処分権主義 ・弁論主義 ・自由心証主義	事前学習：教科書　P. 217～240　（222～228〈訴えの取下げ、請求の放棄・認諾、訴訟上の和解、は除く） （判例）時期に遅れた攻撃防御方法の提出　最高裁昭和 46 年 4 月 23 日第二小法廷判決 事後学習：講義における配布資料の復習、小テスト又は課題（各 2 時間）
11	・訴訟審理の進め方	・訴えの提起から判決まで ・口頭弁論はどのように実地されるか？ ・争点および証拠の整理	事前学習：教科書　P. 179～214　（204～209〈相殺の抗弁〉は除く） （判例）相手方の援用しない自己に不利益な事実の陳述　　最高裁平成 9 年 7 月 17 日第一法法廷判決 事後学習：講義における配布資料の復習、小テスト又は課題（各 2 時間）
12	・事実認定と証拠	・証拠はなぜ必要なのか？	事前学習：教科書　P. 241～257　（257～文書提出

		・自由心証主義 ・証拠の種類	命令、証明責任等は除く） （判例）東京高裁平成 21 年 5 月 28 日　損害賠償額の算定 事後学習：講義における配布資料の復習、小テスト又は課題（各 2 時間）
13	・判決の成立と効力	・既判力 ・執行力 ・形成力	事前学習：教科書　P. 283～310 （判決）最高裁昭和 42 年 7 月 18 日第三小法廷判決　標準時後の事情変更　後遺症 事後学習：講義における配布資料の復習、小テスト又は課題（各 2 時間）
14	・再審	・再審の訴え～確定判決を動かす方法～ ・再審訴訟の手続	事前学習：教科書　P. 330～332 （判決）最高裁平成 25 年 11 月 21 日第一小法廷決定　第三者による再審 事後学習：講義における配布資料の復習、小テスト又は課題（各 2 時間）
15	・まとめ&復習	・講義全体のまとめと復習	事前学習：教科書　P. 335～368 事後学習：当該講義において配布した全資料の復習（約 3 時間）

関連科目

民法全般、民事保全・執行法、民事訴訟法、倒産法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	民事訴訟法入門〔第 3 版補訂版〕	中野貞一郎	有斐閣
2	有斐閣ストゥディア　民事訴訟法［第 2 版］	安西・安達・村上・畑	有斐閣
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	民事訴訟法　判例百選〔第 5 版〕	高橋・高田・畑編	有斐閣
2			
3			

評価方法（基準）

10 回程度を予定として講義後に課す Teams 上における記述式課題又はクイズ機能を用いた小テストにおいて総合評価する。また、講義への積極的な姿勢による加点（講義内で行う課題等）や、講義中の態度による減点を考慮する。詳細は講義にて。

学生へのメッセージ

講義中における私語・携帯等の使用については、他の学生の迷惑になるので、厳しく対処します。六法は講義で常に使用するので、必ず持参すること。民事訴訟法を学ぶことで、既に学んだ民事法全般の知識をリフレッシュかつ深めてください。

担当者の研究室等

11 号館 9 階　萩原准教授室

備考

レポート等の返却は、後日、添削・評価してから、講義内、Teams 上又はキャリアルームにおいて行うものとする。 適宜、講義内において指導する。返却された Teams 上の課題や小テスト等については、得点、平均点、解答、各問の正答率やコメント等のフィードバックを上手く復習に利用すること。

20 年度　合格率 83.7%　（不受験率 0%）　A15.4%　B 28.8%　C 21.2%　D 18.3%　平均 72 点　104 人登録

科目名	倒産法	科目名（英文）	Insolvency Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	萩原　佐織
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3044a0		

授業概要・目的	個人もしくは企業が経済的に破綻した場合、適切な対応は、関係者にとっても、経済全体にとっても重要なことである。倒産処理に関する法的処理は、激しく対立する債務者と債権者間の利害を公平かつ適切に調整する極めて動的で且つ実体法と訴訟法が複雑に交錯する実際的で、興味深い分野である。当該講義は、倒産処理法の中心である破産法について検討した上、民事再生の基本的な指導理念や枠組みについて説明する。これらの学習によって民事法全体についての理解にも資する。
到達目標	倒産法というと自分には全く関係のない問題のように考える人も多いかと思いますが、教育ローン・マイホームローン・マイカーローンの返済の滞り、クレジットカード等による浪費等は誰にでも考えられることであり、自分が倒産しなくても、バイト先や勤務先の会社の業績不振による給料の未払い、就職した会社の取引会社が倒産して債権の回収に駆り出されたりと、倒産手続に巻き込まれる可能性はある。 このため、この授業を通じて学生には、転ばぬ先の杖ではないが、倒産手続の仕組みを理解し、経済的に自立した大人となるための基礎知識を得
授業方法と留意点	講義は、事前に Teams 上にアップされているレジュメ（約 10 頁：判例を含む）をプリントアウトして持参し、六法を用いて行う。分かり易いようにレジュメはカラーにしてあるが、白黒で印刷しても構わない。毎回、レジュメでは、主要個所が括弧空けにされているので、事前学習としてレジュメ・教科書等の該当箇所や関連判例を読み、その括弧に何が入るのかを考えてくること。講義において、その括弧に当てはまる用語や説明等を聞き、自分で書き込む。アクティブ・ラーニング型の講義を目標としているため、事前学習として、Teams 上のクイズ
科目学習の効果（資格）	法科大学院への進学、裁判所職員、司法書士の試験等に有益である。金融についての理解が進むので、金融機関で働くことを望む者や、ファイナンシャルプランナー（FP）の資格取得希望者にとっても極めて有益である。また、それらを目指さない者であっても、経済的に困難な状況に陥った場合のリスク回避・倒産手続の理解・対処方法の習得として、全ての者にとって必要な知識を得ることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス ・倒産法の概要 ・倒産法と、他の法律（民法、民事訴訟法、民事保全・執行法）との関係 ・平常時と倒産時の比較の観点 ・倒産手続の種類（再建型と清算型）	・授業の進め方・受講上の注意及び評価方法等について ・個別執行（民事保全執行法）と包括執行（倒産法）との違い ・再建型（民事再生・会社更生）と清算型（破産・特別清算）	事前学習：教科書　第１編　第１章 （判例）最高裁平成３年２月 21 日第小法廷決定　倒産手続と憲法的保障 事後学習：講義における配布資料の復習、課題 （事前事後学習の目安は各2時間とする､以下同様）
2	・倒産手続 ・破産手続	・倒産手続の種類 ・破産手続の流れ	事前学習：教科書　第１編　第２章、第３章 （判例）東京高裁昭和 57 年 11 月 30 日決定　破産手続開始申立に対する事前協議・合意条項の効力 事後学習：講義における配布資料の復習、小テスト又は課題 （各２時間）
3	・再生手続	・再生手続の種類 ・再生手続の流れ	事前学習：教科書　第３編 （判例）福岡高裁平成 15 年６月 12 日決定　給与取得者等再生における可処分所得要件 事後学習：講義における配布資料の復習、小テスト又は課題 （各２時間）
4	・破産手続開始決定	・破産手続開始要件 ・破産手続開始の申立て ・保全処分 ・破産手続開始に対する不服申立て ・手続開始決定の効果	事前学習：教科書　第２編　第１章 （判例）東京高裁昭和 56 年９月７日決定　債務超過の判断要素 事後学習：講義における配布資料の復習、小テスト又は課題 （各２時間）
5	・財産の管理/換価と管財人等	・破産財団の管理/換価等および破産管財人の善管注意義務 ・破産財団の意義と範囲および係属中の訴訟手続の取扱い ・破産管財人の第三者性と手続開始後の登記等の効力 ・再生債務者財産の管理等、再生債務者の第三者性等 ・財産評定	事前学習：教科書　第２編　第２章 （判例）最高裁昭和 58 年３月 22 日第三小法廷判決　破産管財人の第三者性 事後学習：講義における配布資料の復習、小テスト又は課題 （各２時間）
6	・契約関係の処理（売買・取戻権）	・双務契約の一方未履行の場合 ・双務契約の双方未履行の場合 ・取戻権	事前学習：教科書　第２編　第４章 （判例）最高裁昭和 45 年１月 29 日第一小法廷判決　第三者異議の訴えと債務者の破産 事後学習：講義における配布資料の復習、小テスト又は課題 （各２時間）
7	・契約関係の処理（賃貸借・請負・リース契約）	・賃貸借契約 ・請負契約 ・ファイナンスリース契約	事前学習：教科書　第２編　第４章 （判例）最高裁昭和 53 年６月 23 日第二小法廷　請負契約における注文者の破産 事後学習：講義における配布資料の復習、小テスト又は課題 （各２時間）
8	・否認権	・否認権の種類 ・詐害行為否認 ・偏頗行為否認	事前学習：教科書　第２編　第７章 （判例）東京高裁平成５年５月 27 日判決　不動産の適価売却と否認 事後学習：講義における配布資料の復習、小テスト又は課題 （各２時間）
9	・相殺権と相殺禁止	・相殺権の意義（民法における相殺との比較）	事前学習：教科書　第２編　第６章 （判例）最高裁平成 17 年１月 17 日第二小法廷判決

	・相殺権の拡張 ・相殺権の制限	相殺の可否　手続開始後の停止条件成就 事後学習：講義における配布資料の復習、小テスト又は課題 （各 2 時間）
10	・倒産手続における担保権の取扱い	・担保権とは何か ・別除権とは何か ・別除権の行使 ・別除権となる担保権（典型担保の場合）	事前学習：教科書　第 2 編　第 5 章 民法上等における担保制度の復習 事後学習：講義における配布資料の復習、小テスト又は課題 （各 2 時間）
11	・債権の優先順位	・債権者平等の原則 ・債権の優先順位 ・財団債権と破産債権（破産手続）	事前学習：教科書　第 2 編　第 3 章 （判例）最高裁平成 18 年 1 月 23 日第二小法廷判決 破産債権に対する自由財産からの弁済と不当利得の成否 事後学習：講義における配布資料の復習、小テスト又は課題 （各 2 時間）
12	・配当と破産手続の終了	・配当 ・破産手続の終了とその効果	事前学習：教科書　第 2 編　第 8 章 （判例）最高裁平成 5 年 6 月 25 日第二小法廷判決 破産手続終了後の訴訟 事後学習：講義における配布資料の復習、小テスト又は課題 （各 2 時間）
13	・再生計画、履行	・再生計画とは？ ・再生計画の提出と可決、認可手続	事前学習：教科書　第 3 編　第 5 章 （判例）東京高裁平成 13 年 9 月 3 日決定　権利変更の平等 事後学習：講義における配布資料の復習、小テスト又は課題 （各 2 時間）
14	・個人債務者の倒産手続 ・免責	・個人倒産制度の全体像 ・自由財産 ・免責 ・小規模個人再生/給与所得者等再生	事前学習：教科書　第 2 編　第 9 章 （判例）東京高裁平成 7 年 2 月 3 日決定　破産法上の義務違反と免責 事後学習：講義における配布資料の復習、小テスト又は課題 （各 2 時間）
15	・倒産法における諸問題 ・まとめ＆復習	・倒産におけるライセンス契約等の取扱い等 ・講義全体のまとめと復習	事前学習：該当範囲の復習 事後学習：当該講義において配布した全資料の復習、小テスト又は課題 （各 3 時間）

関連科目	民法全般、民事保全・執行法、民事訴訟法、民事訴訟応用講義、知的財産法、商法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	有斐閣ストゥディア　倒産法	倉部・高田・上江洲	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	倒産法　判例百選〔第 6 版〕	伊藤眞・松下淳一編	有斐閣
2			
3			

評価方法 （基準）	10 回程度を予定として講義後に課す Teams 上における記述式課題又はクイズ機能を用いた小テストにおいて総合評価する。また、講義への積極的な姿勢による加点（講義内で行う課題等）や、講義中の態度による減点を考慮する。詳細は講義にて。
学生への メッセージ	講義中における私語・携帯等の使用については、他の学生の迷惑になるので、厳しく対処します。六法は講義で常に使用するので、必ず持参すること。倒産法を学ぶことで、既に学んだ民事法全般の知識をリフレッシュかつ深めてください。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　萩原准教授室
備考	レポート等の返却は、後日、添削・評価してから、講義内、Teams 上又はキャリアルームにおいて行うものとする。 適宜、講義内において指導する。返却された Teams 上の課題や小テスト等については、得点、平均点、解答、各問の正答率やコメント等のフィードバックを上手く復習に利用すること。 20 年度　合格率 79.1%　（不受験率 0%）　A20.9%　B27.9%　C18.6%　D11.6%　平均 73 点　43 人登録

科目名	民事保全・執行法	科目名（英文）	Enforcement of Judgments; Provisional Remedies
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	萩原　佐織
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3045a0		

授業概要・目的	民法等により認められた権利が害され、私人間に紛争が生じた場合、その紛争解決手段として用いられるのが民事訴訟手続、いわゆる民事裁判である。ただ、訴訟で勝訴しても、相手が応じない等の理由で、紛争が解決しない場合がある。その際の、究極の紛争解決手段が、民事保全執行手続である。当該講義では、民事保全執行手続の基礎を学ぶとともに、民法や民事訴訟法等で学んだ知識を発展・応用する能力を培うことを目的とする。紛争の対象として取り扱うのが民法上の権利であるため、民法全般の復習や応用ができ、また「実体法である民法」と「手続法である民事訴訟法・民事保全執行法」を含めた『民事法』としての総合的理解を図ることができる。
到達目標	民法と比べると、民事執行法・民事保全法には、それほど馴染みがないかもしれない。でも、民法の知識だけで、お金を貸した相手が返してくれない場合や、約束したはずの養育費が支払われない場合など、債務者が任意に支払ってくれない場合にどうやってその支払いを促すことができるのか、理解するのは難しい。 この授業を通じて学生には、将来、自分が債権者として債務者から金銭を回収したい場合はもちろん、逆に自分が債務者として金銭の支払いを促される場合においても、どのような仕組みで、どのような過程や手続を経て、その執行が強制的
授業方法と留意点	講義は、事前に Teams 上にアップされているレジュメ（約 10 頁：判例を含む）をプリントアウトして持参し、六法を用いて行う。分かり易いようにレジュメはカラーにしてあるが、白黒で印刷しても構わない。毎回、レジュメでは、主要個所が括弧空けにされているので、事前学習としてレジュメ・教科書等の該当箇所や関連判例を読み、その括弧に何が入るのかを考えてくること。講義において、その括弧に当てはまる用語や説明等を聞き、自分で書き込む。アクティブ・ラーニング型の講義を目標としているため、事前学習として、Teams 上のクイズ
科目学習の効果（資格）	・民事保全執行手続のしくみを理解し、民事紛争解決手段の一端を知ることができる。 ・大学院ならびに法科大学院等への進学、裁判所職員（事務官・書記官）、司法書士などの受験に対応できる知識・応用力を養う。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	①　ガイダンス ②　民事執行法の概観	①　授業方法・評価方法等の説明 ②　他の法分野との関係 ③　判決手続と執行手続 ④　民事執行の沿革等	事前学習：教科書　第 1 章 1,,2 （事前事後学習に要する時間　各 1 時間）
2	①　執行手続の種類・態様 ②　執行手続の主体	①　強制執行の意義と種類 ②　執行当事者 ③　執行機関	事前学習：教科書　第 1 章 3、 第 2 章 1 節、 （判例）最高裁平成 9 年 7 月 15 日第三小法廷判決 現況調査にあたっての執行官の注意義務 事後学習：講義における配布資料の復習、小テスト又は課題 （事前事後学習に要する時間　各 2 時間､以下同様）
3	民事保全法Ⅰ	①　民事保全法の概説 ②　民事保全命令手続	事前学習：教科書　第 6 章 1, 2 節 （判例）最高裁平成 15 年 1 月 31 日第二小法廷決定 保全の必要性　仮差押え 事後学習：講義における配布資料の復習、小テスト又は課題 （各 2 時間）
4	民事保全法Ⅱ	①　不服申立手続 ②　保全執行	事前学習：教科書　第 6 章 3、 （判例）最高裁昭和 61 年 6 月 11 日大法廷判決　仮の地位を定める仮処分　審尋の要否 事後学習：講義における配布資料の復習、小テスト又は課題 （各 2 時間）
5	強制執行手続の開始	①　強制執行手続の要件 ②　債務名義とその種類	事前学習：教科書　第 2 章 2 節 （判例）最高裁平成 10 年 4 月 28 日第三小法廷判決 外国判決の承認執行 事後学習：講義における配布資料の復習、小テスト又は課題 各 2 時間）
6	強制執行手続の進行	①　執行の対象 ②　財産開示手続 ③　執行手続の終了	事前学習：教科書　第 2 章 2 節 2、第 5 章 （判例）大阪高裁平成 22 年 1 月 19 日決定　財産開示の要件 事後学習：講義における配布資料の復習、小テスト又は課題 （各 2 時間）
7	執行関係訴訟	①　請求異議の訴え ②　執行文付与に関する訴訟 ③　第三者異議の訴え	事前学習：教科書　第 2 章 3 節 （判例）最高裁昭和 57 年 2 月 23 日第三小法廷判決 執行法上の救済手段をとることの懈怠と国家賠償の成否 事後学習：講義における配布資料の復習、小テスト又は課題 各 2 時間）
8	非金銭執行の実現	①　物の引渡し・明渡しの強制執行 ②　作為・不作為の強制執行 ③　意思ｊ表示の強制執行	事前学習：教科書　第 3 章 2 節 （判例）札幌地裁平成 6 年 7 月 8 日決定、東京地裁立川支部平成 21 年 4 月 28 日決定　子の引渡請求の執行方法 事後学習：講義における配布資料の復習、小テスト又は課題 各 2 時間）
9	非金銭執行の実例	①　子の引渡しと執行 ②　面会交流権と執行	事前学習：民法上の面会交流権の復習、指定した判例を読み込むこと 事後学習：講義における配布資料の復習、小テスト又は課題 （各 2 時間）
10	動産執行	①　動産執行の意義 ②　差押え・換価・満足	事前学習：教科書　第 3 章 1 節 4 項 （判例）東京地裁八王子支部昭和 55 年 12 月 5 日決

			定、東京地裁平成 10 年 4 月 13 日決定　差押禁止動産 事後学習：講義における配布資料の復習、小テスト又は課題 各 2 時間）
11	不動産執行Ⅰ	①　強制競売の開始 ②　売却の準備・条件・効果	事前学習：教科書　第 3 章 1 節 2 項 （判例）東京高裁平成 20 年 4 月 25 日決定　引渡命令 事後学習：講義における配布資料の復習、小テスト又は課題 （各 2 時間）
12	不動産執行Ⅱ	①　債権者の満足 ②　強制管理	事前学習：教科書　第 3 章 1 節 2 項 （判例）最高裁平成 14 年 1 月 25 日第三小法廷決定　売却条件 事後学習：講義における配布資料の復習、小テスト又は課題 （各 2 時間）
13	債権およびその他の財産権に対する強制執行	①　金銭債権に対する強制執行 ②　少額訴訟債権執行 ③　船舶・動産等の引渡請求権に対する強制執行	事前学習：教科書　第 3 章 1 節 5 項 （判例）東京高裁平成 22 年 6 月 29 日決定、東京高裁平成 22 年 6 月 22 日決定　差押禁止債権 事後学習：講義における配布資料の復習、小テスト又は課題 （各 2 時間）
14	担保権の実行としての競売等	①　担保権実行制度の意義 ②　担保不動産競売 ③　担保不動産収益執行 ④　動産競売	事前学習：教科書　第 4 章 民法上等の担保権制度の復習 事後学習：講義における配布資料の復習、小テスト又は課題 （各 2 時間）
15	まとめ&復習	①　全てのまとめ&復習	事前学習：該当範囲の復習 事後学習：当該講義において配布した全ての配布資料の復習、小テスト又は課題 （各 3 時間）

関連科目	民法全般、民事訴訟法、民事訴訟法応用講義、倒産法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	基礎から分かる民事執行法・民事保全法〔第 2 版〕	和田吉弘	弘文堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	民事執行・保全　判例百選〔第 3 版〕	上原・長谷部・山本編	有斐閣
2	実践　民事執行法　民事保全法〔第 3 版〕	平野哲朗	日本評論社
3			

評価方法 （基準）	10 回程度を予定として講義後に課す Teams 上における記述式課題又はクイズ機能を用いた小テスト等において総合評価する。また、講義への積極的な姿勢による加点や、講義中の態度による減点を考慮する。詳細は講義にて。
学生への メッセージ	講義中における私語・携帯等の使用については、他の学生の迷惑になるので、厳しく対処します。六法は講義で常に使用するので、必ず持参すること。民事保全執行手続を学ぶことで、既に学んだ民事法全般の知識をリフレッシュさせてください。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　萩原准教授室
備考	レポート等の返却は、後日、添削・評価してから、講義内、Teams 上又はキャリアルームにおいて行うものとする。 適宜、講義内において指導する。返却された Teams 上の課題や小テスト等については、得点、平均点、解答、各問の正答率やコメント等のフィードバックを上手く復習に利用すること。

科目名	商法総論	科目名（英文）	Commercial Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	牛丸　輿志夫
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2046a0		

授業概要・目的	商法は、私法の特別法である。私法の一般法としては、民法が存在する。商法の特殊性は、企業関係に特有な法規から成り立っているということにある。企業とは、一定の計画に従い、継続的意図をもって営利行為を実現する独立の経済単位であるといわれている。企業によって、商品の生産および流通活動が、行われており、本講義で教授する商法総則・商行為法の知識は、企業活動に関係する者にとり、必須の知識である。 　商法総則では、商法の基本概念である商人・商行為の定義をはじめ、商人に特有な、商号や商業登記等の諸制度について、また、商行為法では、商行為法の通則、問屋営業や運送営業等について、講義を行う。
到達目標	この授業を通じて、学生は、商法総則・商行為法の全体構造を理解し、かつ、基礎的知識および応用力を修得することができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	授業では、できるだけ、最近、話題になった事件を判例や専門雑誌の記事を通して紹介し、現実の商法の運用について説明したい。練習問題を解きながら、応用力を養いたい。授業中は、必ず、ポケット六法を携帯してください。 講義中心で行うが、ディスカッションも取り入れる。復習テストおよびレポート提出を課す。
科目学習の効果（資格）	商業活動に必要であり、ビジネス・パーソンにとって必須の知識を得ることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	商法の意義、商法の基本概念、商法の歴史、商法の特色と傾向、商法の法源	形式的意義における商法、実質的意義における商法、商法と他の法律との関係、基本概念としての商行為と商人について学ぶ。	事前に教科書２ページ～２３ページを読むこと（1時間） 事後に教科書２ページ～２３ページを読むこと（1時間）
2	商人	商人の意義、商人資格、営業能力について学ぶ。	事前に教科書２６ページ～３２ページを読むこと（1時間） 事後に教科書２６ページ～３２ページを読むこと（1時間）
3	営業・営業所	営業の意義、営業所の意義、本店および支店、営業所に結び付けられた法律上の効果について学ぶ。	事前に教科書３２ページ～３４ページを読むこと（1時間） 事後に教科書３２ページ～３４ページを読むこと（1時間）
4	商業登記（1）	総説、商業登記事項、商業登記の手続、商業登記の一般的効力について学ぶ。	事前に科書３５ページ～４２ページを読むこと（1時間） 事後に教科書３２ページ～３４ページを読むこと（1時間）
5	商業登記（2）	不実登記の効力、商業登記の特殊の効力について学ぶ。	事前に教科書　４３ページ～４５ページを読むこと（1時間） 事後に教科書３２ページ～３４ページを読むこと（1時間）
6	商号	総説、商号の選定、商号の数、商号の登記、商号権、商号の譲渡・廃止・変更、名板貸し	事前に教科書４６ページ～６２ページを読むこと（1時間）を読むこと（1時間） 事後に教科書３２ページ～３４ページを読むこと（1時間）
7	営業の譲渡・商業帳簿	営業譲渡の意義、営業譲渡契約、営業譲渡の機能、営業譲渡当事者間における効果、第三者に対する営業譲渡の効果、営業の賃貸借・経営委任、商業帳簿の総説について学ぶ。	事前に教科書　６３ページ～８５ページを読むこと（1時間） 教科書３２ページ～３４ページを読むこと(1時間)
8	商業使用人・代理商	総説、支配人の意義、支配人の選任・終任、支配人の代理権・義務、表見支配人、その他の商業使用人、代理商の意義、代理商契約の締結、代理商契約の効果、代理商契約の終了について学ぶ。	事前に教科書８６ページ～１０５ページを読むこと（1時間） 事後に教科書３２ページ～３４ページを読むこと（1時間）
9	商行為（1）	絶対的商行為、営業的商行為（1）について学ぶ。	事前に教科書１０８ページ～１１５ページを読むこと（1時間） 事後に教科書３２ページ～３４ページを読むこと（1時間）
10	商行為（2）	営業的商行為（2）、付属的商行為について学ぶ。	事前に教科書１１５ページ～１１７ページを読むこと（1時間） 事後に教科書３２ページ～３４ページを読むこと（1時間）
11	商行為法通則	商行為法通則、商事代理、商事売買	事前に教科書１１７ページ～１４１ページを読むこと（1時間） 事後に教科書３２ページ～３４ページを読むこと（1時間）
12	交互計算	交互計算の意義、交互計算の効力、交互計算の終了について学ぶ。	事前に教科書１４２ページ～１４６ページを読むこと（1時間） 事後に教科書３２ページ～３４ページを読むこと（1時間）
13	問屋営業	総説、問屋の意義、問屋の法的地位、問屋の権利・義務、準問屋について学ぶ。	事前に教科書１６０ページ～１６８ページを読むこと（1時間） 事後に教科書１６０ページ～１６８ページを読むこと（1時間）
14	運送営業（1）	総説、物品運送の意義、運送人の義務、運送人の権利、荷受人の地位、相次運送について学ぶ。	事前に教科書１６９ページ～１８１ページを読むこと（1時間） 事後に教科書１６０ページ～１６８ページを読むこと（1時間）
15	運送営業（2）	貨物引換証、乗車券の性質について学	事前に教科書１８１ページから１８９ページを読

			ぶ。	むこと（1時間） 事後に教科書１６０ページ～１６８ページを読むこと（1時間）

関連科目	民法、会社法
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プライマリー商法総則商行為法（最新版）	藤田勝利・北村雅史編	法律文化社
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	定期試験 50 パーセント、授業中の復習テスト 20 パーセント、レポート 30 パーセント
学生への メッセージ	商法総則・商行為法は、比較的、解りやすい分野です。六法全書は、必ず、授業中に携帯してください。質問は、どしどし、してください。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　牛丸教授室
備考	予習・復習にはそれぞれ、1 時間とってください。 確認テストの正解は次の回の授業で解説する。 20 年度　合格率 96.6%　（不受験率 3.4%）　A0.6%　B12.5%　C72.3%　D11.3%　平均 73 点　328 人登録

科目名	会社法	科目名（英文）	Corporate Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	牛丸　典志夫
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2047a0		

授業概要・目的	会社は、企業活動の担い手であり、会社法の知識は、社会人として、当然に知っておくべき常識である。会社の種類は、会社法上、４種類ある。すなわち、合名会社、合資会社、合同会社、株式会社である。そのうち、日本の経済において最も重要な役割を果たしている形態は、株式会社である。そこで、授業では、株式会社に対する法規制を中心に講義したい。会社法について、きめの細かい講義を行う。本講義は、会社法全体を概観する入門的な講義である。
到達目標	この授業を通じて、学生は、会社法の　全体構造を理解し、かつ、基礎的知識を修得することができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	授業では、できるだけ、解りやすく基本的な知識の説明を行う。新聞記事や最近の判例を紹介し、会社法の運用の現実の動きをみていく。ポケット六法は、必ず、授業中、携帯すること。授業は、講義中心であるが、ディスカッションも取り入れる。復習テストおよびレポート提出を課す。
科目学習の効果（資格）	会社に就職する者にとって、必須の知識を身に着けることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	会社法総論・会社法総則	会社法の現代化、会社法の歴史、会社の意義と能力、会社の種類と分類、会社法の法源、会社法の規制理念、会社法総則について学ぶ。	事前に教科書２ページ～４０ページを読む。 事後に教科書２ページ～４０ページを読む。
2	株式会社序説・株式会社の設立	株式会社序説、株式会社の設立の総説、定款の作成、出資、設立時役員等の選任・解任等、募集設立の場合、株式会社の成立、発起人等の責任、設立の無効について学ぶ。	事前に４２ページ～６５ページを読む。 事後に４２ページ～６５ページを読む。
3	株式と株主（１）	株式の概念、株主の権利および義務、株券、株主名簿について学ぶ。	事前に６６ページ～８６ページを読む。 事後に６６ページ～８６ページを読む。
4	株式と株主（２）	株式の譲渡、自己株式の取得、株式の担保化、株式の消却・併合・分割・無償割当て、単元株制度について学ぶ。	事前に８６ページ～１０７ページを読む。 事後に８６ページ～１０７ページを読む。
5	募集株式の発行等・新株予約権	総説、募集株式の発行の態様、募集株式の発行等の手続、違法な募集株式の発行等の是正、新株予約権について学ぶ。	事前に１０５ページ～１３２ページを読む。 事後に１０５ページ～１３２ページを読む。
6	機関・株主総会	機関の意義と機関設計、株主総会の権限・招集・議事、株主の議決権、決議、決議の瑕疵、種類株主総会について学ぶ。	事前に１３３ページ～１５０ページを読む。 事後に１３３ページ～１５０ページを読む。
7	取締役・取締役会（１）	総説・取締役について学ぶ。	事前に１５０ページ～１５５ページを読む。 事後に１５０ページ～１５５ページを読む。
8	取締役・取締役会（２）	取締役会、代表取締役、取締役と会社との関係について学ぶ。	事前に１５５ページ～１６４ページを読む。 事後に１５５ページ～１６４ページを読む。
9	会計参与、監査役・監査役会、会計監査人、委員会・執行役	会計参与の権限・職務、監査役、監査役会、会計監査人の権限・職務、委員会、執行役について学ぶ。	事前に１６４ページ～１８０ページを読む。 事後に１６４ページ～１８０ページを読む。
10	役員等の損害賠償責任、株主による経営の監督是正	役員等の会社に対する責任、役員等の第三者に対する責任、違法行為の差止請求権、代表訴訟提起権について学ぶ。	事前に１８０ページ～１９２ページを読む。 事後に１８０ページ～１９２ページを読む。
11	計算、定款の変更、事業の譲渡等	計算規定の目的と原則、計算書類等の作成と承認、剰余金の配当等、資本金・準備金の額の変動、定款の変更、事業の譲渡等について学ぶ。	事前に１９３ページ～２１６ページを読む。 事後に１９３ページ～２１６ページを読む。
12	持分会社	合同会社、合名会社、合資会社について学ぶ。	事前に２１７ページ～２２３ページを読む。 事後に２１７ページ～２２３ページを読む。
13	社債	社債の意義、社債の種類、社債の発行、社債の管理について学ぶ。	事前に２２５ページ～２３６ページを読む。 事後に２２５ページ～２３６ページを読む。
14	組織再編行為	企業の結合と組織再編序説、組織変更、合併、会社分割、株式交換・株式移転、合併、会社分割、株式交換・株式移転の手続について学ぶ。 合併、会社分割、株式交換・株式移転の無効	事前に２３７ページ～２９０ページを読む。 事後に２３７ページ～２９０ページを読む。
15	会社の消滅と倒産処理、外国会社	更生、解散、通常清算、特別清算、外国会社について学ぶ。	事前に２９１ページ～３１４ページを読む。 事後に２９１ページ～３１４ページを読む。

関連科目　金融商品取引法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プライマリー会社法(最新版)	藤田勝利・北村雅史	法律文化社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	定期試験 50%、復習テスト 20%、レポート 30%
学生への メッセージ	出席することが重要です。授業中は、私語をしないで下さい。ポケット六法は、授業には、必ず、携帯して下さい。会社法は比較的、他の法律の知識を前提にしておらず、完結していますので理解しやすい。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　牛丸教授室
備考	予習・復習には各 1 時間とって下さい。 20 年度　合格率 90.8%　（不受験率 9.2%）　A33.5%　B14.6%　C22.2%　D20.5%　平均 80 点　185 人登録

科目名	有価証券法	科目名（英文）	Law of Negotiable Instruments
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高間　佐知子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2048a0		

授業概要・目的	この講義では、「手形法」および「小切手法」で定められている法制度・法規制について学習することを目的としている。企業や商人の決済手段の一つとして手形や小切手が利用されており、実際の利用方法や法規制に関する基礎知識を学ぶとともに、手形や小切手に関するトラブル事例などを検討していく。
到達目標	この講義を通じて学生には、手形法・小切手法で定められた制度を理解できるようにすることに加え、手形・小切手に関する法的問題点に対して論理的に検討できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義内容に合わせてレジュメを配布するので、レジュメをもとに重要事項などをメモしながらない湯を理解してほしい。事後学習として分からない単語は参考書で調べるなどして解決し、また、練習問題に取り組んで復習しながら疑問点は早めに解消すること。
科目学習の効果（資格）	金融業界などで社会人として働くにあたり必要となる基礎知識を習得することができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義の進め方、手形・小切手の種類	手形・小切手がどこで使われているのか調べる（予習：1 時間、復習 2 時間）
2	手形・小切手のしくみ	手形・小切手の利害関係者と基本構造	約束手形・為替小切手・小切手の違いを調べる（予習：1 時間、復習 2 時間）
3	手形・小切手の法的性質・経済機能	手形・小切手に関する権利の発生、移転、行使	手形・小切手の決済以外の利用方法について調べる（予習：1 時間、復習 2 時間）
4	手形行為の意義	手形の署名・交付	手形の署名について調べる（予習：1 時間、復習 2 時間）
5	手形行為の性質	手形の無因性、文言性、独立性	特に無因性について調べる（予習：1 時間、復習 2 時間）
6	手形行為と原因関係	原因関係の意義、法的問題	原因関係について調べる（予習：1 時間、復習 2 時間）
7	手形行為と法律行為の一般原則	手形能力、双方代理、意思表示の瑕疵	民法の意思能力、行為能力、瑕疵ある意思表示について復習する（予習：1 時間、復習 2 時間）
8	他人による手形行為	手形行為の代理	民法の代理について復習する（予習：1 時間、復習 2 時間）
9	手形の偽造・変造	手形の偽造・変造と法的問題	偽造と変造について調べる（予習：1 時間、復習 2 時間）
10	手形の振出	振出の意義、効力、白地手形	法的に有効な振出について調べる
11	手形の裏書	裏書の意義、効力、裏書の連続、善意者保護	裏書の意味について調べる（予習：1 時間、復習 2 時間）
12	手形の支払、支払拒絶と遡求	支払・支払呈示の意義、遡求の意義・要件	支払呈示、遡求について調べる（予習：1 時間、復習 2 時間）
13	手形上の権利の消滅	消滅時効、利得償還請求権	民法の消滅時効について復習する（予習：1 時間、復習 2 時間）
14	手形訴訟	手形訴訟の意義・性質	手形訴訟とその他の訴訟の違いを調べる（予習：1 時間、復習 2 時間）
15	総括	今までの講義の振り返り	講義で扱った内容についてすべて復習する（復習 3 時間）

関連科目	民法総則、債権法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	商法Ⅲ－手形・小切手	大塚龍児・林竣・福瀧博之	有斐閣
2			
3			

評価方法（基準）	課題(30%)及びレポート(70%)によって評価する。
学生へのメッセージ	Teams 上で講義を受講して練習問題を行いましょう。加えて課題とレポートを提出してください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階
備考	

科目名	独占禁止法	科目名（英文）	Anti-Trust Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牛丸　輿志夫
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3049a0		

授業概要・目的	独占禁止法は、企業活動を規制することにより、公正かつ自由な競争を促進し、一般消費者の利益を確保するとともに、国民経済の民主的で健全な発達を促進することを目的とするものである。独占禁止法の理解には、法律の条文を直接、読み、また、判決および審決における具体的な事例の検討が不可欠である。
到達目標	この授業を通じて、学生は、独占禁止法の基本的知識と応用力を取得することができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	授業では、独占禁止法の運用の実態を理解するために公正取引委員会の審決を読み、また、練習問題を解いていく。授業は、講義中心であるが、ディスカッションも取り入れる。復習テストおよびレポート提出を課す。
科目学習の効果（資格）	企業に就職する者にとっては、独占禁止法の知識は不可欠の知識となっており、また、公務員にとっても談合という不当な取引制限に対する知識の修得が、職務上、重要である。独占禁止法の知識と応用力の修得により、会社や社会に対して大きく貢献できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	独占禁止法の目的･構成と手続	自由競争の促進と独禁法について学ぶ。 Microsoft　Teams で授業を行う。	事前に教科書 p.１～９を読むこと（1 時間）。 事後に教科書 p１.～９を読むこと（1 時間）。
2	独占禁止法の基礎概念	事業者、 一定の取引分野、 競争の実質的制限、 公共の利益等について学ぶ。	事前に教科書 p１５.～２２を読むこと（1 時間）。 事後に教科書 p.15～22 を読むこと（1 時間）。
3	公正取引員会の組織と構成	公正取引員会の組織、 公正取引員会の構成等について学ぶ。	事前に教科書 p.35～61 を読むこと（1 時間）。 事後に教科書 p. 35.～61 を読むこと（1 時間）。
4	独占禁止法違反事件の処理手続	行政的救済、 刑事制裁、 民事上の救済手段等について学ぶ。	事前に教科書 p.62～74 を読むこと（1 時間）。 事後に教科書 p.62～74 を読むこと（1 時間）。
5	私的独占の禁止	私的独占の禁止の形態、 支配と排除要件、等について学ぶ。	事前に教科書 p.75 ～93 を読むこと（1 時間）。 事後に教科書 p.75～93 を読むこと（1 時間）。
6	不当な取引制限（１）	カルテルとは何かについて学ぶ。	事前に教科書 p.97 ～119 を読むこと（1 時間）。 事後に教科書 p.97～119 を読むこと（1 時間）。
7	不当な取引制限（２）	カルテルの形態 国際カルテルの規制について学ぶ。	事前に教科書 p.435～441 を読むこと（1 時間）。 事後に教科書 p.435～441 を読むこと（1 時間）。
8	不当な取引制限（３）	行政指導とカルテル 、 カルテルの適用除外等について学ぶ。	事前に教科書 p135.～139 を読むこと（1 時間）。 事後に教科書 p.135～139 を読むこと（1 時間）。
9	不当な取引制限（４）	事業者団体の活動規制、 事業者団体とは、 違法な活動類型等について学ぶ。	事前に教科書 p.120～134 を読むこと（1 時間）。 事後に教科書 p.120～134 を読むこと（1 時間）。
10	不当な取引制限（５）	政指導とカルテル カルテルの適用除外 価格の同調的引上げの理由報告制度	事前に教科書 p135.～19 を読むこと（1 時間）。 事後に教科書 p.135～139 を読むこと（1 時間）。
11	結合・集中規制（１）	合併 分割・役員兼任等　　独占的状態に対する措置について学ぶ。	事前に教科書 p.163～180 を読むこと（1 時間）。 事後に教科書 p１63.～180 を読むこと（1 時間）。
12	結合・集中規制（２）	持株会社の規制･金融会社の株式保有制限･一般会社の株式保有規制等について学ぶ。	事前に教科書 p163.～180 を読むこと（1 時間）。 事後に教科書 p.163～180 を読むこと（1 時間）。
13	不公正な取引方法（１）	概説、 排他条件付取引、 再販売価格の拘束、 拘束条件付取引、 不当な差別的取扱い等について学ぶ。	事前に教科書 p.223～277 を読むこと（1 時間）。 事後に教科書 p.223～277 を読むこと（1 時間）。
14	不公正な取引方法（２）	不当対価 、 不当な顧客誘引・強制、 欺まん的顧客誘引 、 抱き合わせ販売、 取引上の地位の不当利用等について学ぶ。	事前に教科書 p.278～318 を読むこと（1 時間）。 事後に教科書 p.278～318 を読むこと（1 時間）。
15	知的財産権と独占禁止法その他	知的財産権と独占禁止法、 政府規制と独占禁止法 、 国際取引と独占禁止法等について学ぶ。	事前に教科書 p.319～368 を読むこと（1 時間）。 事後に教科書 p.319～368 を読むこと（1 時間）。

関連科目：会社法、行政法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	独占禁止法と競争政策（最新版）	岸井大太郎その他４名	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	経済法判例・審決百選（最新版）	厚谷襄児・稗貫俊文編	有斐閣
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験５0%、復習テスト 20%、レポート 30%
学生への	辛抱強く勉強してください。

メッセージ	
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　牛丸教授室
備考	予習・復習には各 1 時間とって下さい。復習テストの解答は、次の授業で説明する。 20 年度　合格率 92.1%　（不受験率 4.3%）　A29.6%　B16.6%　C20.6%　D25.3%　平均 77 点　253 人登録

科目名	金融商品取引法	科目名（英文）	Financial Instrument and Exchange Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高間　佐知子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3050a0		

授業概要・目的	この講義では、「金融商品取引法」で定められている法制度･法規制について学習することを目的としている。法律科目の中でも金融商品取引法は専門性が高く、少し難しく感じるものかもしれないが、経済社会において必要不可欠となっている証券市場に関するルールを定めているものである。この講義では金融商品取引法にどのような規制が何のために存在するかを明らかにしていく。
到達目標	この講義を通じて学生には、金融商品取引法で定められた法規制を理解できるようにすることに加え、証券市場を取り巻く法的問題点に対して論理的に検討できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義内容に合わせてレジュメを配布するので、レジュメをもとに重要事項などをメモしながらない湯を理解してほしい。事後学習として分からない単語は参考書で調べるなどして解決し、また、授業中の課題も確実に理解するよう疑問点は早めに解消すること。 法改正が頻繁に行われているので、参考書は最新のものを利用するようにしてほしい。
科目学習の効果（資格）	金融の中でも証券取引に関する専門性の高い法律知識を習得することができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義の進め方、金融商品市場の基本的な仕組み	証券市場について大まかに調べる（予習：1 時間、復習 2 時間）
2	金融商品取引法の全体像	金融商品取引法の目的と適用範囲	金融商品取引法について大まかに調べる（予習：1 時間、復習 2 時間）
3	有価証券の取引方法①	有価証券の上場	上場や証券市場について調べる（予習：1 時間、復習 2 時間）
4	有価証券の取引方法②	有価証券取引の仕組み、金融商品取引所	有価証券取引について大まかに調べる（予習：1 時間、復習 2 時間）
5	企業内容の開示規制①	発行開示制度、継続開示制度	開示される情報について調べる（予習：1 時間、復習 2 時間）
6	企業内容の開示規制②	虚偽の情報開示と法的責任	虚偽の情報開示とはどのようなものか調べる（予習：1 時間、復習 2 時間）
7	金融商品取引業者の規制①	金融商品取引業、金融商品仲介業、外務員への規制	金融商品取引業者について調べる（予習：1 時間、復習 2 時間） ＊講義をハイフレックス形式に変更（備考参照のこと）
8	金融商品取引業者の規制②	誠実公正義務、顧客への情報提供、適用除外	顧客に対してどのような情報が提供されるか調べる（予習：1 時間、復習 2 時間）
9	公開買付け	公開買付（TOB）の意義と法規制	公開買付けがどのような場合に利用されるか調べる
10	５％ルール、委任状勧誘	大量保有報告制度（5%ルール）の意義と法規制、委任状勧誘の意義	５％ルールが適用される場面について調べる
11	証券詐欺に対する規制	詐欺的行為に対する禁止規定の意義	何が詐欺的行為にあたるのか調べる（予習：1 時間、復習 2 時間）
12	インサイダー取引	インサイダー取引の意義と法規制	インサイダー取引とは何か大まかに調べる（予習：1 時間、復習 2 時間）
13	相場操縦	相場操縦の意義と法規制	相場操縦とは何か大まかに調べる（予習：1 時間、復習 2 時間）
14	法の実現、デリバティブ取引	デリバティブ取引の定義と種類	デリバティブ取引とは何か大まかに調べる（予習：1 時間、復習 2 時間）
15	総括	今までの授業の振り返り	授業で扱った内容すべてについて復習する（予習：1 時間、復習 2 時間）

関連科目：会社法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	基礎から学べる金融商品取引法（第４版）	近藤光男・志谷匡史・石田眞得・釜田薫子	弘文堂
2			
3			

評価方法（基準）	課題１～３(40%)及び最終課題(60%)によって評価する。
学生へのメッセージ	金融や株式取引などに興味のある学生は新たな法的視点を得ることができると思う。すでに知っている内容は少ないので難しく感じられるかもしれないが、それは多くの学生が同じ状況なので、みんな同じスタートラインから学べる内容です。
担当者の研究室等	11 号館 10 階
備考	11 月 5 日第 7 回講義より対面講義と Teams によるリアルタイムオンライン講義を併用します。 対面講義を原則とするものですので、授業時間内に Teams にアクセスするようにしてください。

科目名	保険法	科目名（英文）	Insurance Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	牛丸　輿志夫
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3051a0		

授業概要・目的	保険制度とは、同種の危険にさらされた多数の経済主体を１つの団体とみて、それに属する経済主体がそれぞれ金銭を拠出することにより共同的備蓄を形成し、現実に需要が発生した主体がそこから保険金の支払いを受ける方法で需要を満たす制度である。具体的には、損害保険契約、生命保険契約および傷害疾病保険契約についての法制度を講義する。
到達目標	この授業を通じて、学生は、保険法の全体構造を理解し、かつ、基礎的知識を修得することができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	保険契約の契約書、約款、最近の判例、および新聞で報道されている事件を紹介しながら、生きた保険法の講義を行いたい。
科目学習の効果（資格）	保険会社に就職する者にとり、必須の講義である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	保険システム	保険システムの目的と機能、保険法について学ぶ。	事前に教科書２ページ～２８ページを読むこと。 事後に教科書２ページ～２８ページを読むこと。
2	保険監督法	総説、保険業規制の内容、保険募集規制について学ぶ。	事前に教科書２９ページ～４８ページを読むこと。 事後に教科書２９ページ～４８ページを読むこと。
3	損害保険契約総論（１）	損害保険契約総説、損害保険契約の意義・特徴、損害保険契約の種類、片面強行規定の特徴について学ぶ。	事前に教科書５０ページ～５８ページを読むこと。 事後に教科書５０ページ～５８ページを読むこと。
4	損害保険契約総論（２）	保険契約の成立、告知義務について学ぶ。	事前に教科書５９ページ～６９ページを読むこと。 事後に教科書５９ページ～６９ページを読むこと。
5	損害保険契約総論（３）	損害保険契約における保険事故、保険期間、保険料について学ぶ。	事前に教科書７０ページ～７５ページを読むこと。 事後に教科書７０ページ～７５ページを読むこと。
6	損害保険契約総論（４）	損害保険契約の構造、保険金額と保険価額、重複保険について学ぶ。	事前に教科書７６ページ～１００ページを読むこと。 事後に教科書７６ページ～１００ページを読むこと。
7	損害保険契約総論（５）	損害保険契約の成立の効果について学ぶ。	事前に教科書１０１ページ～１１９ページを読むこと。 事後に教科書１０１ページ～１１９ページを読むこと。
8	損害保険契約総論（６）	損害保険の給付について学ぶ。	事前に教科書１２０ページ～１４５ページを読むこと。 事後に教科書１２０ページ～１４５ページを読むこと。
9	損害保険契約総論（７）	損害保険契約の終了について学ぶ。	事前に教科書１４６ページ～１５６ページを読むこと。 事後に教科書１４６ページ～１５６ページを読むこと。
10	損害保険契約総論（８）	損害保険契約の処分について学ぶ。	事前に教科書１５７ページ～１６１ページを読むこと。 事後に教科書１５７ページ～１６１ページを読むこと。
11	損害保険契約総論（９）	保険担保について学ぶ。	事前に教科書１６２ページ～１７１ページを読むこと。 事後に教科書１６２ページ～１７１ページを読むこと。
12	損害保険契約各論	火災保険、責任保険、自動車保険、運送保険、海上保険、再保険について学ぶ。	事前に教科書１７４ページ～２２１ページを読むこと。 事後に教科書１７４ページ～２２１ページを読むこと。
13	生命保険契約（１）	総説、生命保険契約の成立について学ぶ。	事前に教科書２２４ページ～２４２ページを読むこと。 事後に教科書２２４ページ～２４２ページを読むこと。
14	生命保険契約（２）	生命保険契約の効力、生命保険契約に基づく給付・終了、生命保険債権の処分と差押えについて学ぶ。	事前に教科書２４３ページ～２６６ページを読むこと。 事後に教科書２２４ページ～２４２ページを読むこと。
15	傷害疾病保険契約	総説、保険給付の要件、傷害疾病定額保険をめぐる問題について学ぶ。	事前に教科書２６８ページ～２８３ページを読むこと。 事後に教科書２６８ページ～２８３ページを読むこと。

関連科目：民法、商法総論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	レクチャー新保険法(最新版)	今井薫・岡田豊基・梅津昭彦	法律文化社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3			

評価方法 （基準）	定期試験 50%復習テスト 20%レポート 30%
学生への メッセージ	授業に出席することが重要です。授業中は、私語はしないでください。保険法の専門用語が多くありますので、用語の定義を重視してください。 授業は、講義中心であるが、ディスカッションも取り入れる。授業開始直後、数回、復習の確認テストを行う。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　牛丸教授室
備考	予習・復習には各 1 時間とって下さい。 確認テストの正解は次の回の授業で解説する。 20 年度　合格率 98.0%　（不受験率 1.6%）　A3.6%　B36.6%　C53.9%　D3.9%　平均 74 点　306 人登録

科目名	知的財産法	科目名（英文）	Intellectual Property Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	勝久　晴夫
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3052a0		

授業概要・目的	SNS への写真の投稿、服やバックのブランド、音楽データのコピー、レポート作成における文献の引用など知的財産法は私達の生活に密着しています。この授業では、知的財産法の全体像を理解するとともに、知的財産法の基本的な内容を論理的に把握し、身近な問題について知的財産法上どのように考えるのか、また どのように利用したらよいのかという基本的な考え方と対応力を習得することを目的とします。
到達目標	知的財産法の全体像を理解するとともに、知的財産法の各法律の目的や基本的な内容を理解した上で、身近な問題においても知的財産はどのように扱われており、そこに知的財産権がどのように利用されているのかということを分析できる能力を習得することを目標とします。
授業方法と留意点	オンライン講義で行う
科目学習の効果（資格）	知的財産管理技能検定、弁士試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	知的財産法とは　種類と正当化根拠	教科書 UNIT1
2	特許法 1	発明該当性	教科書 UNIT2
3	特許法 2	特許要件	教科書 UNIT3
4	特許法 3	発明者・冒認出願・職務発明	教科書 UNIT4
5	特許法 4	出願、審査、審判	教科書 UNIT5
6	特許法 5	権利の活用	教科書 UNIT6
7	特許法 6	特許攻防	教科書 UNIT7
8	著作権法 1	著作物性	教科書 UNIT8
9	著作権法 2	著作者・職務発明	教科書 UNIT9
10	著作権法 3	著作権の内容	教科書 UNIT10
11	著作権法 4	著作権制限	教科書 UNIT11
12	著作権法 5	著作者人格権	教科書 UNIT12
13	意匠法	意匠法全体	教科書 UNIT13
14	商標法	商標法全体	教科書 UNIT14
15	不正競争防止法	不正競争防止法全体	教科書 UNIT15

関連科目：民法、経済法、行政法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	知的財産法入門第 3 版	茶園成樹編	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	講義内で実施する課題（小テスト）と平常点で評価します。課題は 2 回実施を予定しており、各 40 点、平常点 20 点、合計 100 点として評価
学生へのメッセージ	知的財産法はとても身近な法律です。わからない所は遠慮なく質問して、どんどん自分の意見を発言してください。
担当者の研究室等	
備考	

科目名	国際取引法	科目名（英文）	International Trade Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	小山　昇
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3053a0		

授業概要・目的	国際取引に適用される法律に関する一般的な問題を検討することから始め、「国際物品売買契約」及びそれに関係する分野を中心に講義します。国際取引法として適用される範囲は、国際条約や国際的規則だけでなく、「国際私法」や「民法」、「商法」、「国際経済法」、「国際民事訴訟法」などにも及ぶため、その関係を明確にすることに力点を置きます。
到達目標	この授業を通じて学生には、国際取引法の基本的知識、特に「国際物品売買」及びそれに関係する「国際海上物品運送」、「貨物海上保険」そして「国際代金決済」についての国際的ルールを説明できるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	教科書の理解を中心として、それを補充する国際条約や国際的規則を重視します。そのために重要事項をまとめた資料を配付してそれを使った学習後、提示する「課題」の提出を求めます。資料配付及び課題の提出は授業で行いますが、対面授業ができない状況に至ったときは、Teams を使ってリアルタイムに動画の配信を行い、配付資料も Teams にアップします。レポートとして提出を求める課題は、国際取引法の基本的知識の確認と復習のために、重要事項の「再確認」という意味で数回行いますが、提出は、期日を指定して「WebFolder」の「
科目学習の効果（資格）	貿易関係など外国取引に関係する基本的知識が得られます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	国際取引の意義と特色	国際取引の現状、特色	教科書第１章をあらかじめ読む（約２時間）
2	国際取引に適用される法	国際取引法の定義・内容、「牴触法」と「渉外実質法」、統一私法	配付資料の重要事項を確認する（約２時間）
3	国際取引の当事者	個人、法人・企業 国家機関、国際法人	教科書第２章をあらかじめ読む、配付資料の重要事項を確認する（約２時間）
4	国際物品売買①	国際売買の構造と国際契約の準拠法	教科書第３章第１・２節をあらかじめ読む、配付資料の重要事項を確認する（約２時間）
5	国際物品売買②	当事者自治の原則、契約準拠法の構造、「ハーグ統一売買法」	配付資料の重要事項を確認する（約２時間）
6	国際物品売買③	「ウイーン統一売買法」、「インコタームズ」の概要	配付資料の重要事項を確認する（約２時間）
7	国際物品売買④	国際物品売買契約の成立、契約交渉と契約の基本的条件	重要事項を再確認する（約２時間）
8	国際物品運送①	国際物品運送の種類、ハーグルール	教科書第３章第３節をあらかじめ読む、配付資料の重要事項を確認する（約２時間）
9	国際物品運送②	国際海上物品運送法、船荷証券、国際航空運送	配付資料の重要事項を確認する（約２時間）
10	国際貨物保険①	海上保険証券	教科書第３章第４節をあらかじめ読む、重要事項を再確認する（約２時間）
11	国際貨物保険②	貨物保険契約の内容	配付資料の重要事項を確認する（約２時間）
12	国際代金決済	代金決済の方式、荷為替信用状	教科書第３章第５節をあらかじめ読む、配付資料の重要事項を確認する（約２時間）
13	その他の国際取引①	プラント輸出	教科書第４章をあらかじめ読む、重要事項を再確認する（約２時間）
14	その他の国際取引②	国際技術移転、国際投資	教科書第５章をあらかじめ読む、配付資料の重要事項を確認する（約２時間）
15	国際取引紛争の解決	国際裁判管轄、外国判決の承認・執行、国際商事仲裁	教科書第６章をあらかじめ読む、すべての確認問題・重要事項を確認する（約２時間）

関連科目：国際私法総論・各論、民法総則、債権法、商法、民事訴訟法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国際取引法（第４版）	佐野寛	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	適宜、紹介します。		
2			
3			

評価方法（基準）	評価は、数回提出を求める「課題」と定期試験の成績を合計して行います(定期試験 60%及び課題のレポート 40%) が、定期試験が実施できない場合は、それに代わる「総合課題」で評価します。定期試験もしくは「総合課題」は、「課題」を使った応用問題を出題しますが、「総合課題」の提出は、「課題」と同様に、期日を指定して「WebFolder」の「提出」フォルダーを使うことに注意してください。
学生への	国際取引における主要な「グローバル・スタンダード」を知ってください。課題のレポートには、配付資料だけでなく教科書の学習も必要です。

メッセージ	
担当者の 研究室等	11 号館９階　小山教授室
備考	対面授業の時は、授業中を含めて、適宜、質問・意見を聞くことができますが、それができない状況のときには、メールを活用してください。「課題」については、適宜、メールなどを利用してフィードバックします。 ２０１４年度以前入学生科目名　『国際取引法Ｉ』 20 年度　合格率 88.9%　（不受験率 5.6%）　A15.7%　B34.3%　C24.1%　D14.8%　平均 74 点　108 人登録

科目名	労働保護法	科目名（英文）	Labor Standards Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	川谷　道郎
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2054a0		

授業概要・目的	契約関係の基本となるのは「民法」ですが、民法が個人の自由・独立、契約自由の原則といった市民法の原理に貫かれているのに対し、労働法は労働者の保護を基調とした社会法としての性格を持っています。そのような労働法の性格を実際の法規定に照らして実感してもらうことがこの講義の目的です。 授業担当者は、弁護士として１７年、裁判官として２２年勤務し、また、大阪家庭裁判所、広島高等裁判所の総括判事、鳥取地方裁判所所長を歴任するなど、労働問題や社会保障に関する民事訴訟の判決に数多く携わってきました。この授業では、法理論のみならず、それらの実務経験を踏まえた講義を行うことにしています。
到達目標	この授業を通じて学生は労働者の保護という法律の目的が具体的にどのような規定によって実現されているのかを理解し、低賃金労働、長時間労働、労働災害、外国人労働者問題といった現実の社会で生起している問題を法律の観点からとらえ、問題の解決の方向を見出すことができるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	講義は Teams によるオンライン方式で行います。動画その他の講義資料をオンデマンドの方式により配信しますので、受講生は定められた講義時間にチームにアクセスして下さい。アクセスのための Teams コードは rp3w6t5　です。 但し、11 月 9 日の第 8 回講義以降は教室における対面授業として実施します。 授業では教科書を使用するほか、適宜レジュメを配布します。また、関連する判例や資料を指定することもあります。可能な限り六法を準備して下さい。オンライン講義では課題を課することがあります。
科目学習の効果（資格）	労働基準監督官や公務員試験での出題が考えられます。学生の多くは卒業後に就職することになるでしょうが、そのこと一つをとっても労働法の知識は社会生活を送るうえで極めて有用なものとなるはずです。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	労働法の意義と体系	・労働法の全体像、規律構造 ・法の中で労働法がどのような位置を占めるのかについて述べる。	教科書第１編の第１、２章（２頁－１４頁）を予め読み、事後には配布資料に目を通すこと（各 1 時間）
2	労働法の基本構造	・労働者が持つ憲法上の権利	教科書第１編第３章（１５頁－２２頁）を予め読み、事後には配布資料に目を通すこと（各 1 時間）
3	労働者保護の一般原則	・労働者、使用者の概念 ・労働基準法の適用範囲	教科書第２編第１、２章（２４頁-６３頁）を予め読み、事後には配布資料に目を通すこと（各 1 時間）
4	労働契約の成立	・労働契約の基本 ・採用の意味	教科書第２編第３章の１、２（64 頁-79 頁）を予め読み、事後には配布資料に目を通すこと（各 1 時間）
5	労働契約の規制	・労働契約の法的規制 ・労働契約における権利と義務	教科書第２編第３章の３、４（79 頁-96 頁）を予め読み、事後には配布資料に目を通すこと（各 1 時間）
6	使用者の業務命令権と配転	・配転、出向、転籍 ・使用者の業務命令権 ・人事考課	教科書第２編第３章の５、６（96 頁-109 頁）を予め読み、事後には配布資料に目を通すこと（各 1 時間）
7	賃金	・賃金と退職金 ・賃金支払の原則 ・休業手当	教科書第２編第４章（110 頁-131 頁）を予め読み、事後には配布資料に目を通すこと（各 1 時間）
8	労働時間	・労働時間の意味 ・労働時間規制の原則と例外	教科書第２編第５章の１から６（132 頁-154 頁）を予め読み、事後には配布資料に目を通すこと（各 1 時間）
9	休憩・休日 年次有給休暇	・休憩に関する規制 ・年休権の内容	教科書第２編第５章の７から第６章まで（154 頁-174 頁）を予め読み、事後には配布資料に目を通すこと（各 1 時間）
10	年少者と女性労働者の保護	・年少者と女性労働者の労働規制	教科書第２編第７章（175 頁-184 頁）を予め読み、事後には配布資料に目を通すこと（各 1 時間）
11	安全衛生と災害補償	・使用者の安全配慮義務 ・労働災害の補償	教科書第２編第８章（185 頁-204 頁）を予め読み、事後には配布資料に目を通すこと（各 1 時間）
12	就業規則	・就業規則の意義とその効果	教科書第２編第９章（205 頁-223 頁）を予め読み、事後には配布資料に目を通すこと（各 1 時間）
13	懲戒	・使用者の懲戒権の法的根拠 ・懲戒処分の内容	教科書第２編第１０章（224 頁-242 頁）を予め読み、事後には配布資料に目を通すこと（各 1 時間）
14	解雇・定年・退職	・解雇の法理	教科書第２編第１１章（243 頁-271 頁）を予め読み、事後には配布資料に目を通すこと（各 1 時間）
15	まとめ・追補	これまでのまとめと、あまり触れられなかった問題の補足	今まで学んだことで自分がわかりにくかった部分がどこかを確認しておく（1 時間）

関連科目：日本国憲法、民法Ⅰ、民法Ⅱ、労働団体法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	労働法［第１２版］	安枝英訷・西村健一郎	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	労働判例百選［第９版］		有斐閣
2			
3			

評価方法（基準）	期末テスト（7 割）、授業中の課題（3 割）とします。受講者が少ない場合、学期末テストをレポートで代替することがあります。
学生へのメッセージ	労働法は、近い将来、皆さんの生活に極めて身近なものとなる法律です。労働法を学ぶことは社会の実態を知ることにもつながるので意欲をもって学習してください。
担当者の	11 号館 9 階　川谷研究室

研究室等	
備考	小テストの正解は次の回の授業で解説する。 20 年度　合格率 88.2%　（不受験率 2.1%）　A11.1%　B23.6%　C25.0%　D28.5%　平均 70 点　144 人登録

科目名	労働組合法	科目名（英文）	Labor Union Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	川谷　道郎
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3055a0		

授業概要・目的	労働法は、個別的労働関係法、雇用保障法(労働市場法)、労働団体法に大きく分けることができますが、この授業では、労働団体法の主要法である労働組合法についてその内容を概観します。 授業担当者は、弁護士として１７年、裁判官として２２年勤務し、また、大阪家庭裁判所、広島高等裁判所の総括判事、鳥取地方裁判所所長を歴任するなど、労働問題や社会保障に関する民事訴訟の判決に数多く携わってきました。この授業では、法理論のみならず、それらの実務経験を踏まえた講義を行うことにしています。
到達目標	この授業を通じて学生には、法律が認めている労働者の権利を実現するために労働組合にどのような権利が与えられ、どのような役割が期待されているのか、また実際にどのような活動を行うのかを知り、さらには最近の就労形態の多様化の現象の下で、労働組合がどのような問題を抱えているのかを考えるようになることが期待される。
授業方法と留意点	第２回以降はTeamsで講義動画を配信する（オンデマンド方式）ほか、論点を整理したレジュメその他の資料を適宜配布して行います。 教科書および六法は必ず手元に置くようにして下さい。 授業では適宜課題を提出するほか、最終回講義では定期試験を行います（いずれもTeamsを利用したオインライン実施の予定です。）。
科目学習の効果（資格）	労働基準監督官や公務員試験での出題が考えられます。また、社会保険労務士の資格取得のための必修科目でもあります。それらの試験を目標とされている方の学習の一助になればと考えています。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	労働法の特徴	・労働法制の概観 ・労使関係の現状と問題点 ・労働法の意義、性格	教科書２頁から４４頁を予め読み、事後には配布した資料を見直すこと（各１時間）
2	労働組合	・労働組合の要件 ・労働組合の組織と運営	教科書３１２頁から３２９頁を予め読み、事後には配布した資料を見直すこと（各１時間）
3	団体交渉	・団体交渉の法的枠組み ・団体交渉義務の内容 ・団交拒否の救済方法	教科書３３０頁から３３６頁を予め読み、事後には配布した資料を見直すこと（各１時間）
4	労働協約①	・労働協約の意義 ・労働協約の締結	教科書３３７頁から３４１頁を予め読み、事後には配布した資料を見直すこと（各１時間）
5	労働協約②	・労働協約の効力．拘束力 ・労働協約の終了	教科書第３４２頁から３５４頁を予め読み、事後には配布した資料を見直すこと（各１時間）
6	労働者の団体行動（争議）①	・争議行為の概念 ・団体行動の正当性	教科書３５５頁から３６５頁を予め読み、事後には配布した資料を見直すこと（各１時間）
7	労働者の団体行動(争議)②	・違法な争議行為とその責任 ・争議行為と第三者	教科書３６５頁から３７９頁を予め読み、事後には配布した資料を見直すこと（各１時間）
8	組合活動①	．就業時間中の組合活動	教科書第380頁から383頁を予め読み、事後には配布した資料を見直すこと（各１時間）
9	組合活動②	・就業時間外の組合活動 ・組合への便宜供与	教科書383頁から390頁を予め読み、事後には配布した資料を見直すこと（各１時間）
10	不当労働行為①	・不当労働行為の趣旨 ・不当労働行為の類型	教科書第391頁から408頁を予め読み、事後には配布した資料を見直すこと（各１時間）
11	不当労働行為②	複数組合への対応	教科書408頁から412頁を予め読み、事後には配布した資料を見直すこと（各１時間）
12	不当労働行為③	・不当労働行為の救済	教科書412頁から418頁を予め読み、事後には配布した資料を見直すこと（各１時間）
13	補講	これまでに十分に触れられなかった重要論点について解説する	事前に理解が不十分であるところを確認し、事後には配布した資料を見直すこと（各１時間）
14	補講	これまでに十分に触れられなかった重要論点について解説し、労働組合法の全体像を見直す。	事前に理解が不十分であるところを確認し、事後には配布した資料を見直すこと（各１時間）
15	まとめ・試験	これまでの講義で学習してきた内容を復習するほか、Teams上で学期末試験を行います。	今まで学んだことで自分自身がわかりにくかった部分がどこかを確認しておくこと（1時間）

関連科目	日本国憲法、民法Ⅰ、民法Ⅱ、労働保護法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	労働法（第１２版）　（有斐閣双書プリマ）	安枝英訷　ほか	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	労働判例百選［第９版］		有斐閣
2			
3			

評価方法（基準）	学期末試験の結果（70%）、授業中の課題（30%）により総合的に評価します（いずれもTeams実施予定）。
学生へのメッセージ	労働法が取り上げる問題は近い将来において皆さん方自身の問題となるものばかりです。法律が労働者にどのような態度で向き合っているのかを実感して下さい。
担当者の研究室等	11号館９階　川谷研究室
備考	確認テストの解答は次回の授業で解説する。 20年度　合格率95.9%　（不受験率0%）　A3.6%　B32.5%　C38.5%　D21.3%　平均74点　169人登録

科目名	社会保障法	科目名（英文）	Social Security Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	川谷　道郎
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3056a0		

授業概要・目的	社会保障法は、現代の国民の生活に欠かすことができない法分野であるとともに、企業や国家にとっても重要な意味をもつ法分野でもあります。現在の日本のおかれている状況を理解し、社会のあり方を考えるための一つの手段として、社会保障法を概観したいと考えています。 授業担当者は、弁護士として１７年、裁判官として２２年勤務し、また、大阪家庭裁判所、広島高等裁判所の総括判事、鳥取地方裁判所所長を歴任するなど、労働問題や社会保障に関する民事訴訟の判決に数多く携わってきました。この授業では、法理論のみならず、それらの実務経験を踏まえた講義を行うことにしています。
到達目標	この授業を通じて学生には、社会保障の概要を理解するとともにこれが国の政策において極めて大きな部分を占めていること、社会保障の現代的な課題が自らの将来にも深く関係することを実感して、国の政策などに積極的な興味を持つようになることが期待されます。
授業方法と留意点	講義は Teams によるオンライン方式で行います。動画その他の講義資料をオンデマンドの方式により配信しますので、受講生は定められた講義時間にチームにアクセスして下さい。アクセスのための Teams コードは　2ycr03q　です。但し、11 月 9 日の第 8 回講義以降は教室における対面授業として実施します。 授業では教科書を使用するほか、適宜レジュメを配布します。また、関連する判例や資料を指定することもあります。オンライン講義では課題を課することがあります。
科目学習の効果（資格）	社会保険労務士の資格取得のための必須科目であり、公務員試験の一般教養などでの出題も考えられます。それらの試験を目標とされている方の学習の一助になればと考えています。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	社会保障の歴史と枠組み	・社会保障の歴史 ・社会保障の定義、体系	教科書プロローグと Chapter1（3 頁から 21 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（各 1 時間）。
2	年金制度（1）	・公的年金制度の全体像 ・国民年金と厚生年金、共済年金	教科書 Chapter２（22 頁から 50 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（各 1 時間）。
3	年金制度（2）	・年金給付の概要	教科書 Chapter２（22 頁から 50 頁）を再度確認し、事後には配布資料を検討すること（各 1 時間）。
4	医療保障制度（1）	・医療保障の概要、体系	教科書 Chapter３（51 頁から 75 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（各 1 時間）。
5	医療保障制度（2）	・医療保障の給付 ・混合診療 ・医療保障の財政	教科書 Chapter３（51 頁から 75 頁）を再度読み、事後には配布資料を検討すること（各 1 時間）。
6	介護保障	・介護保険の仕組み	教科書 Chapter４（76 頁から 97 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（各 1 時間）。
7	労災補償	・労災補償制度と労災保険 ・労災の認定	教科書 Chapter５（98 頁から 125 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（各 1 時間）。
8	雇用保険	・雇用保険制度の成り立ち ・失業給付	教科書 Chapter６（126 頁から 152 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（各 1 時間）。
9	社会福祉制度	・社会福祉制度の全体像 ・社会福祉法人	教科書 Chapter７（153 頁から 178 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（各 1 時間）。
10	障害者福祉	・障害者総合支援法による支援 ・福祉サービスにおける給付の具体例	教科書 Chapter８（179 頁から 207 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（各 1 時間）。
11	児童福祉と社会手当	・児童福祉制度の概要 ・ひとり親家庭の支援 ・育児に関する金銭給付	教科書 Chapter９（208 頁から 235 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（各 1 時間）。
12	公的扶助（生活保護）	・生活保護法の概要	教科書 Chapter１０（236 頁から 263 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（各 1 時間）。
13	グローバル化と社会保障	・外国人と社会保障 ・在外邦人と社会保障	教科書 Chapter１２（290 頁から 318 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（各 1 時間）。
14	紛争の解決と救済 社会保障の根拠法	・不服申立ての手続 ・審査請求と行政訴訟 ・社会保障法の構造	教科書 Chapter１１（264 頁から 289 頁）、Chapter１３（319 頁から 338 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（各 1 時間）。
15	まとめ	これまでの講義で学習してきた内容を復習したり、あまり触れられなかった問題を補足します。	今まで学んだことで自分自身がわかりにくかった部分がどこかを確認しておくこと（1 時間）。

関連科目	憲法、民法、労働保護法、労働組合法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ブリッジブック社会保障法（第 2 版）	菊池馨実（編）・稲森公嘉ほか	信山社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	目で見る社会保障法教材【第 5 版】	岩村正彦ほか	有斐閣
2			
3			

評価方法（基準）	期末テストの成績（70%）、授業中の小テスト、学習態度（30%）による総合評価をします。
学生へのメッセージ	社会保障は、どこか遠くのものではなく、自分たち自身に密接に関連するものであることを認識し、意識的・主体的に学習に取り組んでいただければと思います。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　川谷教授室
備考	学生の皆さんが興味を持ったテーマやタイムリーな話題があれば、適宜授業の中でとりあげます。小テストの解説は次回の講義で行います。

	20年度　合格率94.7%　（不受験率2.6%）　A26.3%　B34.2%　C21.1%　D13.2%　平均79点　38人登録

科目名	環境法	科目名（英文）	Environmental Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浮田　徹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3057a0		

授業概要・目的	環境にまつわる法と制度を周辺の事情なども含めて学習してもらいます。 国家と環境の関係について、法律学的な検討だけでなくその他環境法の総合的理解に必要な観点から考察を加えます。
到達目標	この授業を通じて学生には、環境という広い領域の中の、法律・行政に関わる部分を学び整え、憲法、民法、行政法などを踏まえた上での環境に対する法の思考を形成できるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	講義形式で行います。講義に必要なものはレジュメ、ノート、教科書、六法です。 レジュメは事前に moodle から入手、印刷して持参してください。 ※moodle の利用方法につき (1)moodle とは 摂南大学の採用する ICT ツールです。大学のトップページにリンクがあります。 (2)moodle の登録方法につき 講義には自分で登録する必要があります。 ログインし、「ナビゲーション」のところにある「コース」をクリック、「コースを検索する」から 「21 環境法」と入力して検索し「2021 年度環境法」
科目学習の効果（資格）	新司法試験の選択科目です。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	・講義の進め方、環境法を学ぶにあたっての前提事項の確認など	予習：教科書の目次を読んでくる（5 分） 復習・学習：講義ノートふり返り、該当部分の教科書を読んでみて内容をチェックする(20 分)
2	環境法概説	・法哲学的にみた「環境」とは	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく(20 分) 講義ノートふり返り、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする(20 分)
3	環境法と権利	・環境法における実定法的「権利」とは	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく(20 分) 講義ノートふり返り、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする(20 分)
4	環境法と環境行政①	・環境法、環境行政の歴史①	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく(20 分) 講義ノートふり返り、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする(20 分)
5	環境法と環境行政②	・環境法、環境行政の歴史②	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく(20 分) 講義ノートふり返り、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする(20 分)
6	環境と訴訟①	・四大公害裁判と民事訴訟理論の展開①	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく(20 分) 講義ノートふり返り、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする(20 分)
7	環境と訴訟②	・四大公害裁判と民事訴訟理論の展開②	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく(20 分) 講義ノートふり返り、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする(20 分)
8	環境と訴訟③	・新しい形態をとる環境訴訟	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく(20 分) 講義ノートふり返り、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする(20 分)
9	環境政策と基本法①	・環境基本法の制定とその内容①	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく(20 分) 講義ノートふり返り、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする(20 分)
10	環境政策と基本法②	・環境基本法の制定とその内容②	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく(20 分) 講義ノートふり返り、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする(20 分)
11	環境に対する事前の措置①	・環境影響評価法の導入とその仕組み①	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく(20 分) 講義ノートふり返り、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする(20 分)
12	環境に対する事前の措置②	・環境影響評価法の導入とその仕組み②	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく(20 分) 講義ノートふり返り、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする(20 分)
13	環境に対する事前の措置③	・環境影響評価法の導入とその仕組み③	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく(20 分) 講義ノートふり返り、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする(20 分)
14	領域を越えた環境問題①	・環境問題のグローバル化	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく(20 分) 講義ノートふり返り、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする(20 分)
15	領域を越える環境問題②	・領域を越えた環境問題の解決	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく(20

				分) 講義ノートふり返り、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする(20 分)

関連科目	憲法 I、憲法 II、行政法などの公法科目と関連します。法哲学、行政学や、民法(不法行為など)、民事訴訟法などとも関連します。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	考えながら学ぶ環境法	畠山武道	三省堂
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	毎回の小課題(40%)、期末レポート(６0%)で評価します。
学生への メッセージ	資料等は適宜 moodle 経由で配布します。その他詳細については初回にアップするプリントを参照すること。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　浮田准教授室
備考	小課題については授業で解説します

科目名	国際社会と法	科目名（英文）	International Community and Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	鳥谷部　壌
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ1058a0		

授業概要・目的	この科目は、グローバル時代にあって益々その重要性を増している国際法について、総論的知識を体系的に整理して身につけることを目的とします。国際法は、国内法とは相当に異なる基本構造をもっているので、新たな気持ちで授業に臨んでもらえればと思います。
到達目標	この授業を通じて学生には、 （1）国際法の性質や特徴について、第三者に分かりやすく説明できる、 （2）国際法に関連する、教職関係の試験問題や、各種資格試験で出題される問題に解答する手がかりを得ることができる、 （3）国際法に関するニュースに触れたときに、その内容を専門的な視点から理解し、第三者に分かりやすく説明できる、 ようになることが期待される。
授業方法と留意点	グローバル化が進む現代社会において、ニュースや新聞などのメディアでも、国際法に関連する紛争や事象を目にする機会が大幅に増加しました。学生の皆さんには、国際法の学修を通して、グローバルな視点を身につけてほしいと思っています。 【留意点】この科目は、下記教科書の前半を扱います。下記教科書の後半部分は、「国際法の基礎理論」で扱いますので、併せて受講することが望ましいでしょう。
科目学習の効果（資格）	国際機関やＮＧＯなど国際性豊かな職種を希望する学生はもちろんのこと、国家公務員をはじめとする各種公務員の教養試験や教員資格取得および大学院・法科大学院進学にも役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業計画の説明、参考文献紹介	シラバスの講義概要に目を通しておくこと。
2	国際法をなぜ学ぶのか	日本で私たちが国際法を学ぶ意義	事前：教科書〔イントロダクション〕に目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各１時間
3	国際社会のルールはこうしてできた	国際法の成り立ち	事前：教科書〔第１章〕に目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各１時間
4	国際社会で守るルール（1）	国際法の法的拘束力とは？、国際法はどのように作られどのような形で存在するのか？	事前：教科書〔第２章１、２〕に目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各１時間
5	国際社会で守るルール（2）	国際法の効力、国際法に違反したらどうなるか？	事前：教科書〔第２章３、４〕に目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各１時間
6	国ができたり、なくなったり（1）	国とは何か？、国の誕生、発展・変更、消滅	事前：教科書〔第３章１、２〕に目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各１時間
7	国ができたり、なくなったり（2）	国家管轄権、国家免除（主権免除）	事前：教科書〔第３章３〕に目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各１時間
8	国と国がつき合う（1）	条約の締結、条約に対する留保	事前：教科書〔第４章１、２〕に目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各１時間
9	国と国がつき合う（2）	条約の解釈、条約の効力	事前：教科書〔第４章３、４〕に目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各１時間
10	国と国がつき合う（3）	外交関係と領事関係	事前：教科書〔第４章５、６〕に目を通しておく。 事後：レジュメの内容を確認。 各１時間
11	国と国がつき合う（4）	外交特権免除と領事特権免除、その他の国家機関の特権免除	事前：教科書〔第４章６、７〕に目を通しておく。 事後：レジュメの内容を確認。 各１時間
12	領土のない国はない（1）	国の領域と領域主権、領域権原と領土紛争	事前：教科書〔第５章１、２〕に目を通しておく。 事後：レジュメの内容を確認。 各１時間
13	領土のない国はない（2）	特殊地域、宇宙空間と天体	事前：教科書〔第５章３、４〕に目を通しておく。 事後：レジュメの内容を確認。 各１時間
14	戦わずにもめごとを解決する	紛争の平和的解決	事前：教科書〔第１２章〕に目を通しておく。 事後：レジュメの内容を確認。 各１時間
15	学期のまとめ	全体の総括	事前：これまでのレジュメの総点検を行っておく。 2時間

関連科目：国際法の基礎理論、国際組織法、国際人権法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ビジュアルテキスト国際法〔第２版〕	加藤信行ほか編	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プラクティス国際法講義〔第３版〕	柳原正治ほか編	信山社
2			
3			

評価方法 （基準）	中間テスト（50%）及び期末レポート or 期末試験（50%）の合計により評価する。
学生への メッセージ	国際法は国内法とはその構造を相当に異にするので、戸惑うことも多いかと思いますが、毎回の授業を理解しようと努力すれば、きっと皆さんも国際法の面白さに気が付くはずです。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　鳥谷部研究室
備考	中間テストを実施した場合、その解説は、テストを実施した次の回で行う。 20 年度　合格率 77.6%　（不受験率 15.3%）　A10.0%　B22.9%　C24.1%　D20.6%　平均 73 点　170 人登録

科目名	国際法の基礎理論	科目名（英文）	Introduction to International Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	鳥谷部　壌
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2059a0		

授業概要・目的	この科目は、グローバル時代にあって益々その重要性を増している国際法について、各論の知識を体系的に整理して身につけることを目的とします。国際法は、国内法とは相当に異なる基本構造をもっているので、新たな気持ちで授業に臨んでもらえればと思います。
到達目標	この授業を通じて学生には、 （1）国際法の九分野の性質や特徴について、第三者に分かりやすく説明できる、 （2）国際法に関連する、教職関係の試験問題や、各種資格試験で出題される問題に解答する手がかりを得ることができる、 （3）国際法に関するニュースに触れたときに、その内容を専門的な視点から理解し、第三者に分かりやすく説明できる、 ようになることが期待される。
授業方法と留意点	グローバル化が進む現代社会において、ニュースや新聞などのメディアでも、国際法に関連する紛争や事象を目にする機会が大幅に増加しました。学生の皆さんには、国際法の学修を通して、グローバルな視点を身につけてほしいと思っています。 【留意点】この科目は、下記教科書の後半を扱います。下記教科書の前半部分は、「国際社会と法」で扱いますので、併せて受講することが望ましいでしょう。本科目は、第２回目以降は、Teams 上で録画動画を配信する形で実施します。
科目学習の効果（資格）	国際機関やＮＧＯなど国際性豊かな職種を希望する学生はもちろんのこと、国家公務員をはじめとする各種公務員の教養試験や教員資格取得および大学院・法科大学院進学にも役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業計画の説明、参考文献紹介	シラバスの講義概要に目を通しておくこと。
2	海の恵みを分かち合う（1）	海洋法の歴史と海洋の区分、内水・領海と接続水域、国際海峡と群島水域	事前：教科書〔第６章１、２、３〕に目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各１時間
3	海の恵みを分かち合う（2）	公海の秩序と公海漁業、排他的経済水域と大陸棚	事前：教科書〔第６章４、５〕に目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各１時間
4	海の恵みを分かち合う（3）	海域の境界画定、深海底とその資源	事前：教科書〔第６章６、７に目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各１時間
5	国が集まってグループをつくる	国際組織は何のために作られる？、国連と国連ファミリー、専門的分野の国際組織、地域的国際組織	事前：教科書〔第７章〕に目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各１時間
6	人権を国際的に保護する(1)	国籍、難民の保護	事前：教科書〔第８章１、２、３〕に目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各１時間
7	人権を国際的に保護する(2)	国連における国際的人権保障、人権条約の国内実施	事前：教科書〔第８章４、５、６〕に目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各１時間
8	犯罪も国を越える	国際犯罪の概念、国による処罰、国際的な刑事裁判所による処罰、犯罪人の引渡し	事前：教科書〔第９章〕に目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各１時間
9	国境を越えるモノ、サービス、資本	経済活動の国際的枠組みの展開、物品の貿易、紛争解決手続、地域経済統合と経済連携協定、国際投資	事前：教科書〔第１０章〕に目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各１時間
10	地球規模の環境問題に取り組む（1）	国際環境法の歴史、国際環境規制の特徴	事前：教科書〔第１１章１、２〕に目を通しておく。 事後：レジュメの内容を確認。 各１時間
11	地球規模の環境問題に取り組む（2）	各種環境条約の概要	事前：教科書〔第１１章３、４〕に目を通しておく。 事後：レジュメの内容を確認。 各１時間
12	国の安全を守る（1）	戦争・武力行使の違法化、武力不行使原則の内容とその例外（自衛権）	事前：教科書〔１３章１、２、３、４〕に目を通しておく。 事後：レジュメの内容を確認。 各１時間
13	国の安全を守る（2）	集団安全保障、国連平和維持活動（PKO）	事前：教科書〔第１３章５、６〕に目を通しておく。 事後：レジュメの内容を確認。 各１時間
14	戦争･武力紛争にもルールがある	敵対行為の規制と犠牲者の保護	事前：教科書〔第１４章〕に目を通しておく。 事後：レジュメの内容を確認。 各１時間
15	学期のまとめ	全体の総括	事前：これまでのレジュメの総点検を行っておく。 ２時間

関連科目：国際社会と法、国際組織法、国際人権法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ビジュアルテキスト国際法〔第２版〕	加藤信行ほか編	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プラクティス国際法講義〔第３版〕	柳原正治ほか編	信山社
2			

	3			

評価方法 （基準）	「授業中の課題（50%）」と、「期末レポート（50%）」の合計により評価する。
学生への メッセージ	国際法は国内法とはその構造を相当に異にするので、戸惑うことも多いかと思いますが、毎回の授業を理解しようと努力すれば、きっと皆さんも国際法の面白さに気が付くはずです。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　鳥谷部研究室
備考	中間テストを実施した場合、その解説は、テストを実施した次の回で行う。 20 年度　合格率 92.8%　（不受験率 5.6%）　A8.3%　B35.6%　C28.9%　D20.0%　平均 76 点　180 人登録

科目名	国際人権法	科目名（英文）	International Human Rights Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	鳥谷部　壌
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2060a0		

授業概要・目的	この科目は、人権を国際的に保護するための国際法の制度について、人権諸条約を中心に学ぶ授業になります。本科目では、人権問題に国際社会がいかに対処しているのかについて、国際法の視点から基本的な知識を身につけることを目的とします。
到達目標	この授業を通じて学生には、 （1）国際人権諸条約の分類や特徴について、第三者に分かりやすく説明できる、 （2）国際人権法に関連する、教職関係の試験問題や、各種資格試験で出題される問題に解答する手がかりを得ることができる、 （3）国際人権法の観点から、日本の人権問題を指摘することができる、 ようになることが期待される。
授業方法と留意点	グローバル化が進む現代社会において、ニュースや新聞などのメディアでも、国際人権法に関連する出来事を目にする機会が大幅に増加しました。慰安婦問題などはその典型例です。学生の皆さんには、国際人権法の学修を通して、日本の人権問題を客観的に見つめる視点を養ってほしいと思います。
科目学習の効果（資格）	国際機関やＮＧＯなど国際性豊かな職種を希望する学生はもちろんのこと、国家公務員をはじめとする各種公務員の教養試験や教員資格取得および大学院・法科大学院進学にも役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業計画の説明、参考文献紹介	シラバスの講義概要に目を通しておくこと。
2	人権の国際的保障の展開	国際人権保障の歴史、国際連合憲章の成立、国際人権章典	事前：教科書〔第１章〕に目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各１時間
3	国際人権の中心理念	人間の尊厳と生命の尊重、平等・無差別原則と弱者の保護	事前：教科書〔第２章〕に目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各１時間
4	地域的人権条約―ヨーロッパの人権保障	ヨーロッパ人権条約、ヨーロッパ人権裁判所	事前：教科書〔第３章１〕に目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各１時間
5	地域的人権条約―南北アメリカの人権保障	米州の基本的人権文書、米州人権委員会、米州人権裁判所	事前：教科書〔第３章２〕に目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各１時間
6	地域的人権条約―アフリカの人権保障	バンジュール憲章、アフリカ人権裁判所	事前：教科書〔第３章３、４〕に目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各１時間
7	普遍的人権条約―自由権規約（1）	自由権規約の実施制度、自由権規約委員会	事前：教科書〔第８章〕に目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各１時間
8	普遍的人権条約―自由権規約（2）	自由権規約の実施制度、個人通報制度	事前：教科書〔第９章〕に目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各１時間
9	普遍的人権条約―社会権規約	社会権規約の実施制度、社会権規約委員会	事前：教科書〔第８章、第９章〕に目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各１時間
10	国連の人権活動	国連の主な人権関係機関、人権理事会	事前：教科書〔第７章〕に目を通しておく。 事後：レジュメの内容を確認。 各１時間
11	個別的人権条約―難民条約体制	難民とは、難民条約、日本における難民認定制度	事前：教科書〔第５章１、２〕に目を通しておく。 事後：レジュメの内容を確認。 各１時間
12	個別的人権条約―人種差別の禁止	人種差別撤廃条約、人種差別撤廃委員会	事前：教科書〔第４章１〕に目を通しておく。 事後：レジュメの内容を確認。 各１時間
13	個別的人権条約―女性、子ども、障がい者	女性差別撤廃条約、児童の権利条約、障がい者権利条約	事前：教科書〔第４章２、３、第５章４〕に目を通しておく。 事後：レジュメの内容を確認。 各１時間
14	国際人権法の国内実施	憲法と人権条約の関係、人権条約の国内適用	事前：教科書〔第１２章〕に目を通しておく。 事後：レジュメの内容を確認。 各１時間
15	学期のまとめ	全体の総括	事前：これまでのレジュメの総点検を行っておく。 2 時間

関連科目	国際社会と法、国際法の基礎理論、国際組織法、日本国憲法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ブリッジブック国際人権法〔第２版〕	芹田健太郎ほか編	信山社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法	「中間テスト（50%）」と、「期末レポート or 期末試験（50%）」の合計により評価する。

（基準）	
学生への メッセージ	国際人権法は、国内の人権保障の現状を、グローバル・スタンダードに照らして再点検することにより、人権状況の改善を目指す学問です。グローバルな視点から捉えると、日本の人権状況はどのように映し出されるのでしょうか。一緒に考えてみましょう。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　鳥谷部研究室
備考	中間テストを実施した場合、その解説は、テストを実施した次の回で行う。 20 年度　合格率 73.9%　（不受験率 19.6%）　A2.2%　B13.0%　C30.4%　D28.3%　平均 69 点　46 人登録

科目名	国際組織法	科目名（英文）	Law of International Organizations
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	鳥谷部　壌
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3061a0		

授業概要・目的	現代国際社会において、国際連合をはじめとする国際組織は、国家と並ぶ重要な地位を占めるようになっています。この科目では、そうした国際組織の設立および活動内容について、国際法の基礎知識を修得することを目的とします。
到達目標	この授業を通じて学生には、 （1）国際組織の活動を、国際法の理論や実践と結び付けて理解することができる、 （2）国際組織に関する時事ニュースについて、国際法の基礎知識を手がかりに読み解く素養を身につける、 （3）公務員試験や教職の試験に出題される国際組織に関する問題が解ける、 ようになることが期待される。
授業方法と留意点	本科目は、基本的に毎回配布するレジュメに沿って授業を行う。本科目は、国際法と密接な関連性を有するため、「国際社会と法」および「国際法の基礎理論」を併せて受講することが望ましい。本科目は、第２回目以降は、Teams 上で実施します。予め録画された動画をアップしますので、各自で、視聴してください。
科目学習の効果（資格）	国際法の基礎知識の修得だけでなく、各種資格試験対策にも役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業計画の説明、参考文献紹介	
2	国際組織の歴史	国際組織の意義、国際組織の誕生の背景、現代の国際組織	事前：教科書［第１講］を読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各１時間
3	国際組織の概念	国際組織の分類、国際組織の組織化と国際組織の発展	事前：教科書［第２講］を読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各１時間
4	国際組織の機関と権限	主要機関と補助機関、司法機関	事前：教科書［第３講］を読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各１時間
5	国際組織の地位	国際組織の法主体性（法人格）	事前：教科書［第４講§１］を読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各１時間
6	国際組織の権限と責任	条約締結権、特権免除、施政権、国際請求の提起、国際裁判所における当事者能力	事前：教科書［第４講§２・§３］を読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各１時間
7	国際組織と加盟国	加盟・代表権、国家・政府承認、権利停止・除名・脱退	事前：教科書［第６講］を読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各１時間
8	国際組織と NGO（民間団体）	NGO の定義とその役割、国連経済社会理事会と NGO の協力関係、NGO の活動	事前：教科書［第８講］を読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各１時間
9	国際組織の意思決定	全会一致制、多数決制、加重表決制、拒否権、コンセンサス	事前：教科書［第９講］を読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各１時間
10	紛争処理	国家間紛争の処理、国際組織内の法的問題の処理、国際犯罪処罰のための司法機関	事前：教科書［第１１講］を読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各１時間
11	国連と安全保障	集団安全保障	事前：教科書［第１２講］を読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各１時間
12	平和維持活動（PKO）	伝統的 PKO、新しい形の PKO、PKO の活動形態	事前：教科書［第１３講］を読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各１時間
13	軍備縮小および軍備管理に関する国際組織	軍縮の意義、軍縮条約、軍備管理条約	事前：教科書［第１５講］を読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各１時間
14	国際連合と日本	戦後の日本と国連、国連加盟後の日本外交	事前：教科書［第２７講］を読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各１時間
15	学期のまとめ	講義内容の総括と学期末テストについて指示する。	これまでに完成した全レジメの復習と質問を準備しておくこと。 2 時間

関連科目	国際社会と法、国際法の基礎理論、国際人権法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	講義 国際組織入門	家正治（編）	不磨書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法	「授業中の課題（50%）」と、「期末レポート（50%）」の合計により評価する。

（基準）	
学生への メッセージ	皆さんが生活する上で、国家という存在を身近に感じる機会は少ないと思われます。まして、国際組織という存在はなおさら縁遠く感じることでしょう。しかし、新聞やニュースの国際面を見てみてください。頻繁に国際組織が登場しています。現代社会はグローバル化の時代です。世界には 100 を超える国際組織が活動しています。日本も多くの国際組織に加盟しています。国際組織の活動が私たちの生活に間接的に影響を及ぼす場合が少なくありません。国際組織の活動を通して、国際法のダイナミズムに触れてみましょう。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　鳥谷部研究室
備考	

科目名	政治学概論	科目名（英文）	Introduction to Politics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	中沼　丈晃
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○		
科目ナンバリング	JDJ1062a0		

授業概要・目的	この講義では、いまの政治・政策の大きな課題を取り上げ、テレビのニュース番組を関心を持って見られるようになることを目的とする。選挙で投票するにあたって、政治家や政党の訴えに対して自分の意見が持てるようになってほしいと考える。
到達目標	この講義を通じて学生には、週１～２回でもテレビのニュース番組を見て、「この問題、いまそうなっているのか」と思えるよう、前提となる知識を身につけることが期待される。そして、その問題について自分の意見を持てるようにする。
授業方法と留意点	ひとつの時事のテーマを講義２回で扱う。時事を扱うため、夏までの情勢を見たあとに授業計画を確定する。講義では、簡単なレジュメを配布し、ニュース映像や新聞記事を多用する。毎回、知識の確認や自分の意見を書く確認ペーパーを課す。受講者とのやりとりを心がける。＊遠隔の場合、録画配信とする。確認ペーパーはオンラインフォームとし、締切は１週間後に設定する。
科目学習の効果（資格）	公務員試験では、教養科目でも社会科学や政治の時事の知識が問われる。民間企業の採用試験でも、一般常識として、政治の仕組みの基礎や時事が問われる。職業社会人と会話をするうえで、政治や政策の話題についていく最低限の知識は不可欠である。この講義では、こういった知識や常識を身につける出発点を提供したい。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	いまの政治・政策の大きな課題に目をとおしてみる。	講義で扱う時事について、学生とやりとりをしながら、いまの政治・政策の大きな課題の概要を確認する。	講義で勧めるニュース番組を通して見てみる（約１時間）。
2	日本の内閣はなぜ長続きしなかった？（１）	第二次安倍内閣以前、内閣が約１年しかもたなかった理由を探る。衆議院と参議院の「ねじれ」現象、内閣支持率の動き、無党派層の性格を解説する。	配布した新聞記事を読む。なぜ短命内閣となっていたのか自分の意見を整理して書く（約１時間）。
3	日本の内閣はなぜ長続きしなかった？（２）	第二次安倍内閣以前、内閣が約１年しかもたなかった理由を探る。衆議院と参議院の「ねじれ」現象、内閣支持率の動き、無党派層の性格を解説する。	配布した新聞記事を読む。なぜ短命内閣となっていたのか自分の意見を整理して書く（約１時間）。
4	安保法制、どう考える？（１）	2015 年、議論が紛糾した安保法制に考えるにあたって、自衛隊の創設から冷戦以降の自衛隊の役割の拡大の歴史を説明し、国際政治の文脈を意識してもらう。	配布した新聞記事を読む。自衛隊の役割の拡大に関する自分の意見を整理して書く（約１時間）。
5	安保法制、どう考える？（２）	2015 年、議論が紛糾した安保法制に考えるにあたって、自衛隊の創設から冷戦以降の自衛隊の役割の拡大の歴史を説明し、国際政治の文脈を意識してもらう。	配布した新聞記事を読む。自衛隊の役割の拡大に関する自分の意見を整理して書く（約１時間）。
6	消費税を上げるのに賛成？（１）	2019 年 10 月に 10%へ増税された消費税を扱う。日本の借金残高や、借金が増えてきた経緯を説明し、消費税導入と増税の背景を理解してもらう。	配布した新聞記事を読む。消費税増税に賛成するか、反対するか、自分の意見を整理して書く（約１時間）。
7	消費税を上げるのに賛成？（２）	2019 年 10 月に 10%へ増税された消費税を扱う。日本の借金残高や、借金が増えてきた経緯を説明し、消費税導入と増税の背景を理解してもらう。	配布した新聞記事を読む。消費税増税に賛成するか、反対するか、自分の意見を整理して書く（約１時間）。
8	尖閣諸島・竹島にこだわる？（１）	近年、日中間、日韓間で争いの種となっている領土問題を取り上げる。歴史の経緯を簡単に整理したうえで、国有化、大統領の上陸などをめぐって、どのような言い争いの構図になっているか説明する。	配布した新聞記事を読む。尖閣諸島・竹島問題に関する自分の意見を整理して書く（約１時間）。
9	尖閣諸島・竹島にこだわる？（２）	近年、日中間、日韓間で争いの種となっている領土問題を取り上げる。歴史の経緯を簡単に整理したうえで、国有化、大統領の上陸などをめぐって、どのような言い争いの構図になっているか説明する。	配布した新聞記事を読む。尖閣諸島・竹島問題に関する自分の意見を整理して書く（約１時間）。
10	日本は TPP のなかでいかに経済を持続的に発展させていくべきかと思う？（１）	原則、関税を撤廃する TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）をめぐる動向や議論を説明する。輸出国である日本にとってのメリット、食品の安全や小規模農業への影響の懸念など、TPP と生活の結びつきを理解してもらう。	配布した新聞記事を読む。日本が TPP に参加すべきかどうか、自分の意見を整理して書く（約１時間）。
11	日本は TPP のなかでいかに経済を持続的に発展させていくべきかと思う？（２）	原則、関税を撤廃する TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）をめぐる動向や議論を説明する。輸出国である日本にとってのメリット、食品の安全や小規模農業への影響の懸念など、TPP と生活の結びつきを理解してもらう。	配布した新聞記事を読む。日本が TPP に参加すべきかどうか、自分の意見を整理して書く（約１時間）。
12	原発存続に賛成する？反対する？（１）	特に東日本大震災後、存続・廃止をめぐって議論が行われている原発の問題を扱う。原発の仕組みやリスクを説明したうえで、日本における原発開発の背景と、原発をめぐる資金の流れの意味を考えてもらう。	配布した新聞記事を読む。原発を維持すべきか、廃止すべきか、自分の意見を整理して書く（約1時間）。
13	原発存続に賛成する？反対する？（２）	特に東日本大震災後、存続・廃止をめぐって議論が行われている原発の問題を	配布した新聞記事を読む。原発を維持すべきか、廃止すべきか、自分の意見を整理して書く（約1時間）。

			扱う。原発の仕組みやリスクを説明したうえで、日本における原発開発の背景と、原発をめぐる資金の流れの意味を考えてもらう。	
	14	大阪都構想をどう見る？（1）	地元大阪の政治動向を説明する。特に、既得権益の打破、有権者が決める政治を訴えて勢力を得た維新と、その主張の核となった大阪都構想について解説する。	配布した新聞記事を読む。大阪都構想に対する自分の意見を整理して書く（約1時間）。
	15	大阪都構想をどう見る？（2）	地元大阪の政治動向を説明する。特に、既得権益の打破、有権者が決める政治を訴えて勢力を得た維新と、その主張の核となった大阪都構想について解説する。	配布した新聞記事を読む。大阪都構想に対する自分の意見を整理して書く（約1時間）。

関連科目	「政治」「政策」「行政」「地方自治」と名のつく講義につながる基礎科目である。中学・高校の社会（公民分野）が苦手だったという人は、前期の「政治と政策」を受講しておくことを勧める。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験(70%)、講義毎回の確認ペーパー(30%)の合計によって評価する。＊遠隔の場合、定期試験は相応の期末課題とする。
学生へのメッセージ	どんな仕事に就いても、政治や政策の問題は避けられません。領土をめぐって中国や韓国との争いが厳しくなったり、国の借金が増え円高になり輸出に不利になったりすれば、よい製品も売れなくなります。加えて、電力の安定的な確保は、生活と仕事の最も基礎にある問題です。自分と家族を守るために、毎日の政治・政策のニュースに関心が持てるようになってほしいと考えて、講義をしていきます。
担当者の研究室等	11号館9階　中沼教授室
備考	講義毎回の確認ペーパーの正解の提示や、そこに書かれた意見の紹介はポータルサイトなどを通じて行う。 20年度　合格率83.6%　（不受験率0%）　A31.5%　B32.8%　C10.1%　D9.2%　平均76点　238人登録

科目名	世界の政治と社会	科目名（英文）	Politics and Society of the World
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森　康一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ1063a0		

授業概要・目的	この講義では、第二次世界大戦後から現在までの国際関係についてとりあげる。 前半では米ソを中心とする冷戦時代の国際政治を説明し、後半では冷戦後の国際関係と個別的な時事問題を考える。 歴史をふまえた上で、現在の国際政治を理解する土台を作ることを目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、第二次世界大戦後の国際政治の流れを理解し、現在の国際関係を考える基礎となる知識を身につけることが期待される。
授業方法と留意点	【11 月 11 日更新】 11 月 17 日の＜第 9 回＞から対面授業に移行します。 【8 月 26 日更新】 オンライン授業の実施に変更になります。オンデマンド式の「教材・課題提供型授業」をしていきます。 受講する方は、Moodle にて コース名：世界の政治と社会　＜2021 年度後期 水曜 3 限 J・1　担当：森康一＞ 登録キー：1206 で登録してください。 授業の進め方や授業動画についてなど、Moodle のコースに記載していますので、登録の上、そちらをご覧下さい。 【旧】 プリントと板書に
科目学習の効果（資格）	公務員試験や就職時に、日本と世界の関わりという点で国際情勢について問われる場面は多い。 この授業によって、現在の国際情勢を理解するうえで必要な知識を習得することができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義の目的と内容･成績評価について	講義の内容全体について	高校世界史の教科書などで、冷戦期の国際政治の流れについて一通り読んでおく（約 2 時間）
2	冷戦時代の国際関係（1）	ヤルタ体制および冷戦初期の国際政治について	冷戦初期の国際情勢について調べておく（約 30 分） レジュメ（第 2 回）を見直しておく（約 1 時間）
3	冷戦時代の国際関係（2）	第三世界の台頭、ヨーロッパ統合の理想と現実について	「アジア・アフリカ会議」、「非同盟諸国首脳会議」について調べておく（約 30 分） レジュメ（第 3 回）を見直しておく（約 1 時間）
4	冷戦時代の国際関係（3）	多極化とデタントについて	「キューバ危機」について調べておく（約 30 分） レジュメ（第 4 回）を見直しておく（約 1 時間）
5	冷戦時代の国際関係（4）	「新冷戦」と冷戦の終焉について	ゴルバチョフについて調べておく（約 30 分） レジュメ（第 5 回）を見直しておく（約 1 時間）
6	ポスト冷戦時代の世界秩序のゆくえ（1）	冷戦終結後の国際政治全般について	「文明の衝突」について調べておく（約 30 分） レジュメ（第 6 回）を見直しておく（約 1 時間）
7	ポスト冷戦時代の世界秩序のゆくえ（2）	ヨーロッパを中心とした冷戦終結後の国際政治について	ユーゴスラヴィアの成り立ちについて調べておく（約 30 分） レジュメ（第 7 回）を見直しておく（約 1 時間）
8	グローバルな問題群	核・食料・環境問題について	「核抑止」について調べておく（約 30 分） レジュメ（第 8 回）を見直しておく（約 1 時間）
9	同時テロと「イラク戦争」後の世界秩序	「9.11」以後の国際政治について	「9.11 テロ」について調べておく（約 30 分） レジュメ（第 9 回）を見直しておく（約 1 時間）
10	米ロの核軍縮	核問題をめぐる米ロ関係について	オバマ大統領の「プラハ演説（2009）」について調べておく（約 30 分） レジュメ（第 10 回）を見直しておく（約 1 時間）
11	米中関係のゆくえ	アメリカと中国の外交関係について	「ヴェトナム戦争」について調べておく（約 30 分） レジュメ（第 11 回）を見直しておく（約 1 時間）
12	中東問題のゆくえ	中東問題の経緯と「中東和平」の展望について	イスラエルの成り立ちについて調べておく（約 30 分） レジュメ（第 12 回）を見直しておく（約 1 時間）
13	緊迫する朝鮮半島情勢	韓国･北朝鮮をめぐる国際関係について	「朝鮮戦争」について調べておく（約 30 分） レジュメ（第 13 回）を見直しておく（約 1 時間）
14	日本の安全保障	現在の日本がかかえる国際問題について	日本の領土問題について調べておく（約 30 分） レジュメ（第 14 回）を見直しておく（約 1 時間）
15	まとめ	講義のまとめと試験について	講義全体を振り返り、期末レポートの準備をする

関連科目：日本政治論、日本外交史、国際関係論、国際関係史

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国際政治	藤原帰一	日本放送出版協会
2	国際政治学をつかむ	村田晃嗣・君塚直隆他	有斐閣
3	国際紛争	ジョゼフ・S・ナイ・ジュニア（田中明彦訳）	有斐閣

評価方法：【8 月 26 日更新】

（基準）	・平常点 20%（10 点満点の小テスト 2 回（第 5 回・第 10 回の授業日に Moodle から受験してもらいます）） ・期末レポート 80%（5 問出題して 2 問を選択してもらいます。1 問につき 40 点満点） の合計点によって評価を行います。
学生への メッセージ	日々ニュースや新聞にふれて、世界で起こっていることに関心を持ってください。そして、その出来事の原因や由来が何であるのか、常に問題意識を持つようにしてください。
担当者の 研究室等	11 号館 5 階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	

科目名	近代日本政治史	科目名（英文）	Modern History of Japanese Politics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	和田　泰一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ1064a0		

授業概要・目的	現代の日本の政治に参加するさい、今までの日本の政治の歴史や政策、また日本の政治が扱ってきた問題などを知っておくことは非常に有益です。なぜなら、それらに基づいて皆さんは自分をとりまく政治問題や政治情勢、望ましい政策や選択肢について考え、意思決定することができるからです。 この授業では、有権者である学生の皆さんに日本の政治の歴史についての基本的な知識を与えることが目的です。近代日本政治史ということで明治以降の日本の政治史が対象になりますが、より皆さんの生活に関係が深い戦後の日本政治史を中心に授業していきます。
到達目標	この授業を通じて学生は、日本の政治の歴史についての基本的な知識を獲得できるとともに、それに基づいて、自分自身でいかなる政策・政党・候補者が望ましいのか考え、論理的に意思決定できるようになります。 また日本政治史の分野に関わる地方上級や市役所・警察官・消防官などの公務員試験の問題も解説し、試験に対応できるだけの知識を獲得することができます。
授業方法と留意点	新型コロナウイルスが猛威を振るっているため、Microsoft Teams によるオンライン授業で行います。
科目学習の効果（資格）	公務員試験や就職活動において、政治や歴史の内容が一般常識として問われる場合があります。そうした試験に対応するために、また身の回りで起こっている政治・社会の出来事に造詣の深い人物になるべく、日本の基本的な歴史的・政治的知識を知ることができます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション～「近代」とは何か？	イントロダクションとして、講義の内容と「近代(modern)」とは何を意味するのかについて授業します。	事前学習：今まで勉強してきた歴史の教科書などを再読し、授業に積極的に参加するモチベーションを高める（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30 分）。
2	戦前日本の政治史①～明治･大正の政党の活動と大日本帝国憲法	政党史を中心に大正デモクラシーまでの政治史を概観し、大日本帝国憲法の政治的な重要箇所について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所（第二回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30 分）。
3	戦前日本の政治史②～軍部の台頭	映像資料を見ながら、日本が日中戦争・太平洋戦争へと向かっていった原因の一つである軍部を考えます。	事前学習：レジュメの該当箇所（第三回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30 分）。
4	戦前日本の政治史③～満州国の設立	映像資料を見ながら、なぜ日本がワシントン体制から脱して満州国設立へと向かって行ってしまったのかを考えます。	事前学習：レジュメの該当箇所（第四回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30 分）。
5	戦後日本の政治史①～GHQによる日本の初期占領政策	GHQ の日本占領政策と連立政権について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所（第五回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30 分）。
6	戦後日本の政治史②～インフレ対策と逆コース	冷戦の激化にともない、GHQ の日本占領政策が転換していった過程について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所（第六回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30 分）。
7	戦後日本の政治史③～日本の独立と吉田茂の退場	サンフランシスコ平和条約締結周辺の経過と吉田保守本流の外交方針について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所（第七回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30 分）。
8	戦後日本の政治史④～新日米安保条約と安保闘争	岸内閣を中心に、新日米安保条約の改定が望まれた理由や安保闘争の経過について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所（第八回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30 分）。
9	戦後日本の政治史⑤～沖縄返還問題と非核三原則	佐藤内閣を中心に、当時の沖縄返還をめぐる諸問題について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所（第九回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30 分）。
10	戦後日本の政治史⑥～派閥の強化と田中派の隆盛	自民党の派閥政治の特徴と田中派が勢力を拡大していく過程について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所（第十回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30 分）。
11	戦後日本の政治史⑦～田中派から竹下派への禅譲	田中派から竹下派へと自民党の権力が移行していった 80 年代の自民党政治について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所（第十一回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30 分）。
12	戦後日本の政治史⑧～政治改革と 55 年体制の崩壊	55 年体制が崩壊し、細川連立内閣が成立した 90 年代の政治史を授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所（第十二回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。

			事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30分）。
13	戦後日本の政治史⑨～小泉内閣から民主党内閣へ	小泉内閣の外交や郵政民営化法案を中心に授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所（第十三回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30分）。
14	戦後日本の政治史⑩～安倍内閣の諸政策	国家の自衛権とは何かを解説しながら、安倍内閣における集団的自衛権の行使の閣議決定の内容について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所（第十四回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30分）。
15	まとめ	講義の重要箇所についてまとめ、わからない点や難しい点があればもう一度解説します。	事前学習：来るべき試験に備えるべく、授業中に配布したレジュメ・資料を熟読し、わからない点があれば最後の授業に質問できるようにまとめておく（30分）。 事後学習：試験に向けて教科書やノート、レジュメを読み直す（時間の許す限り）。

関連科目	中学・高校の日本史、世界史など。大学の歴史学、政治学概論など。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	近代日本政治史	坂野潤治	岩波書店
2	現代日本政治史	廣澤孝之	晃洋書房
3			

評価方法（基準）	レポート（70%）とMicrosoft Formsの小テスト（30%）で評価します。Aの取得率は、全受講者数の25%以下とします。
学生へのメッセージ	新聞・TV・ネットなどマスメディアのニュースに日常的に触れるようにして、現代の日本の政治についての関心を高めてください。またわからない点や疑問点があれば、積極的に質問してください。
担当者の研究室等	11号館10階　和田講師室
備考	20年度　合格率96.3%　（不受験率3.7%）　A18.7%　B50.0%　C20.1%　D7.5%　平均82点　134人登録

科目名	日本外交史	科目名（英文）	Japan Diplomatic History
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森　康一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2065a0		

授業概要・目的	開国から現代までの日本の外交史を講義する。明治維新、日清・日露戦争、第一次世界大戦、満州事変、日中戦争、第二次世界大戦、そして戦後という激動の歴史を理解することで、今後日本がとるべき方向を考える土台を培ってほしい。
到達目標	この授業を通じて学生には、明治以降の日本が歩んで来た政治・外交史を理解することにより、社会人として世に出た時に、日本の近現代史を常識として語ることのできる能力を持つことが期待される。
授業方法と留意点	【4 月 15 日更新】 授業実施体制の変更に伴い、当面の間「遠隔授業」（教材・課題提供型）を行います。 受講に必要な情報はすべて Moodle より行いますので、下記を参照の上、必ず Moodle の登録をしておいて下さい。 ---- プリントと板書により講義形式で授業を進める。自分のまとめノートを作るつもりで、よく講義を聞いてほしい。
科目学習の効果（資格）	公務員試験や就職において、日本の政治・外交史が一般教養として問われる。 この授業によって、上記に際して必要な、また現代や将来の日本を考える上で必須となる歴史的な知識を得ることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義について	講義の内容全体について	幕末から現代までの日本史を、高校の教科書等であらかじめ読み直しておく
2	開国	江戸時代の末期、欧米諸国に開国を迫られた状況について	幕末の条約について調べておく（約 30 分） レジュメ（第 2 回）を見直しておく（約 1 時間）
3	明治維新	明治維新期の対外関係について	明治初期の諸条約について調べておく（約 30 分） レジュメ（第 3 回）を見直しておく（約 1 時間）
4	領土問題・条約改正問題	諸外国との領土確定交渉と条約改正の試みについて	条約改正の過程について調べておく（約 30 分） レジュメ（第 4 回）を見直しておく（約 1 時間）
5	大陸問題	征韓論と日朝関係について	明治六年の政変について調べておく（約 30 分） レジュメ（第 5 回）を見直しておく（約 1 時間）
6	日清戦争と日露戦争	日本と清、ロシアをめぐる外交関係について	日清・日露戦争の講和条約について調べておく（約 30 分） レジュメ（第 6 回）を見直しておく（約 1 時間）
7	第一次世界大戦前後の国際情勢と日本の対外政策	第一次世界大戦前後の外交、幣原外交について	第一次世界大戦前の国際情勢について調べておく（約 30 分） レジュメ（第 7 回）を見直しておく（約 1 時間）
8	満州事変	田中外交と満州事変をめぐる国際連盟の対応について	満州事変のきっかけについて調べておく（約 30 分） レジュメ（第 8 回）を見直しておく（約 1 時間）
9	日中戦争の始まり	日中戦争期の対外関係について	第一次近衛内閣について調べておく（約 30 分） レジュメ（第 9 回）を見直しておく（約 1 時間）
10	太平洋戦争への道	アメリカと敵対していく外交関係について	ハル･ノートについて調べておく（約 30 分） レジュメ（第 10 回）を見直しておく（約 1 時間）
11	第二次世界大戦	第二次世界大戦期の日本をとりまく国際関係について	連合国首脳の国際会議について調べておく（約 30 分） レジュメ（第 11 回）を見直しておく（約 1 時間）
12	第二次世界大戦後の国際社会と日本	大戦終結直後の国際関係について	冷戦初期の国際情勢について調べておく（約 30 分） レジュメ（第 12 回）を見直しておく（約 1 時間）
13	サンフランシスコ体制下の日本外交	日本の独立回復後の外交について	ソ連や韓国との国交回復・樹立について調べておく（約 30 分） レジュメ（第 13 回）を見直しておく（約 1 時間）
14	高度経済成長期以後の日本の政治と外交	最近の日本の外交について	中華人民共和国との国交樹立について調べておく（約 30 分） レジュメ（第 14 回）を見直しておく（約 1 時間）
15	まとめ	講義のまとめと試験について	レジュメ・ノートを整理し、試験に向けての準備をする（約 4 時間）

関連科目：世界の政治と社会、日本政治論、国際関係史、国際関係論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	日本外交史講義	井上寿一	岩波書店
2	日本外交史概説	池井優	慶應義塾大学出版会
3			

評価方法（基準）

【4 月 15 日更新】
小テストは Moodle から行います。
また、期末試験実施が不可能な場合はレポートに変更します。
Moodle からの連絡をよく注意しておいて下さい。

原則として 10 回以上出席の学生のみを成績評価の対象とします。
平常点 20%（小テスト（第 5 回・第 10 回の授業の前半で実施予定））、期末試験 80%（論述式。5 問出題して 2 問を選択してもらいます）の合計点によって評価を行います。

	小テスト・期末試験において持ち込みは認めません。
学生への メッセージ	日々ニュースや新聞にふれて、日本や世界で起こっていることに関心を持ってください。そして、その出来事の原因や由来が何であるのか、常に問題意識を持つようにしてください。
担当者の 研究室等	11 号館 5 階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	

科目名	西洋政治思想史	科目名（英文）	History of Western Political Thought
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	和田　泰一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2066a0		

授業概要・目的	皆さんが憲法や法律、政治家の演説を見聞きするとき、自由・平等・正義といったさまざまな政治的概念が現れると思います。それらは空虚で意味のない言葉ではなく、古代ギリシアにおいてプラトン・アリストテレスといった政治思想家たちが発明し、それが意味する内容がさまざまに変化しつつ、ようやく現在のかたちにまで固まった言葉です。 この授業は、政治思想家たちの著作や思想を紹介しつつ、「普段なにげなく使われている基本的な政治的概念にこんな意味があったのか」、と知ってもらうべく解説するのが大きな目的です。政治的概念の深い意味に気づいてもらうことによって、皆さんが政治参加するさいに必要不可欠な論理的思考力・判断力・表現力が育成されることになります。
到達目標	この授業を通じて学生は、著名な政治思想家や政治的概念についての基本的な知識・技能を獲得できるとともに、そうした知識・技能に基づいて法律の条文や政治家の演説をより深く思考できるようになります。それによって現在の政治においていかなる政策が望ましいかを論理的に判断し、それを選挙など政治参加において表明するという判断力・表現力も育成することができます。
授業方法と留意点	レジュメや資料を配布しながら、講義形式で行います。また必要に応じて映像資料を見せる場合もあります。アクティブラーニングの一環として、リアクションペーパーに政治問題に関する意見を論理的に書いてもらったり、予習・復習テストに答えてもらったりすることもあります。
科目学習の効果（資格）	公務員試験や就職活動において、政治思想の内容が一般常識として問われる場合があります。そうした試験に対応するために、また政治的概念や論理的思考を熟知した理性的な市民になるべく、基本的な政治思想の知識を獲得することができます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション～古代から近代の政治思想家たち	イントロダクションとして、講義の内容と古代と近代の治思想家たちの概略について授業します。	事前学習：政治思想について文献を収集し、授業に積極的に参加するモチベーションを高める(30 分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、内容を理解する（30 分)。
2	プラトン	『国家』の内容を中心に、正義の概念について考えます。	事前学習：プラトンについて文献を収集し、調べておく（60 分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、内容を理解する（30 分)。
3	アリストテレス	『二コマコス倫理学』『政治学』を中心に、幸福や正義の概念について、またポリスの階層秩序について考えます。	事前学習：アリストテレスについて文献を収集し、調べておく（60 分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、内容を理解する（30 分)。
4	キケロー	『義務について』を中心に、古代ローマの共和主義について考えます。	事前学習：キケローと古代ローマの歴史について文献を収集し、調べておく（60 分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、内容を理解する（30 分)。
5	マキャベリ	『君主論』を中心に、古代政治学との対立や国家理性について考えます。	事前学習：教科書の該当箇所（第一章）を読む（60 分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、内容を理解する（30 分)。
6	ホッブズ	『リヴァイアサン』を中心に、社会契約や主権者について考えます。	事前学習：教科書の該当箇所（第二章）を読む（60 分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、内容を理解する（30 分)。
7	ロック	『統治論』を中心に、社会契約や所有権、立法権について考えます。	事前学習：教科書の該当箇所（第三章）を読む（60 分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、内容を理解する（30 分)。
8	ルソー	『社会契約論』を中心に、社会契約や自由、平等について考えます。	事前学習：教科書の該当箇所（第四章）を読む（60 分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、内容を理解する（30 分)。
9	カント	『啓蒙とは何か』『永遠平和のために』『実践理性批判』を中心に、啓蒙や意志について考えます。	事前学習：教科書の該当箇所（第六章）を読む（60 分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、内容を理解する（30 分)。
10	J・S・ミル	『自由論』を中心に、個性や自由について考えます。	事前学習：教科書の該当箇所（第八章）を読む（60 分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、内容を理解する（30 分)。
11	バーリン	『二つの自由概念』を中心に、積極的自由や消極的自由について考えます。	事前学習：教科書の該当箇所（第十章）を読む（60 分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、内容を理解する（30 分)。
12	ロールズ	『正議論』を中心に、自由や正義について考えます。	事前学習：教科書の該当箇所（第十一章）を読む（60 分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、内容を理解する（30 分)。
13	アーレント	『人間の条件』を中心に、全体主義や公的領域、活動について考えます。	事前学習：教科書の該当箇所（第九章）を読む（60 分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、内容を理解する（30 分)。
14	バトラー	『ジェンダー・トラブル』を中心に、フェミニズムの歴史や性差について考えます。	事前学習：バトラーについて文献を収集し、調べておく（60 分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、内容を理解する（30 分)。
15	まとめ	講義の重要箇所についてまとめ、わからない点や難しい点があればもう一度授	事前学習：来るべき試験に備えるべく、授業中に配布したレジュメ・資料を熟読し、わからない点があ

			業します。	れば最後の授業に質問できるようにまとめておく（30 分）。 事後学習：試験に向けて教科書やノート、レジュメを読み直す（時間の許す限り）。

関連科目	中学・高校の現代社会、政治・経済、倫理など。大学の倫理学、哲学など。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	政治思想の知恵―マキャベリからサンデルまで―	仲正昌樹編	法律文化社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	現代政治理論	飯島昇藏・佐藤正志・太田義器編	おうふう
2			
3			

評価方法 （基準）	レポート（約 70%）と小テスト（約 30%）で評価します。A の取得率は、全受講者数の 25%以下とします。
学生への メッセージ	授業中に紹介した著作を読むようにして、政治思想についての関心を高めてください。またわからない点や疑問点があれば、積極的に質問してください。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　和田講師室
備考	提出してもらったリアクションペーパーについてはいくつか匿名で紹介し、短評を与えます。 20 年度　合格率 97.0%　（不受験率 3.0%）　A24.7%　B54.0%　C14.3%　D4.0%　平均 86 点　300 人登録

科目名	国際関係史	科目名（英文）	International History
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	河原　匡見
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2067a0		

授業概要・目的	本講義では、国際関係の歴史について、特に第２次世界大戦後“冷戦”と呼ばれた時代に焦点を当てて、それがどのように発生し、展開し、そして終結したのか、米ソ間の対立の経緯を中心に解説していく。そうして、激動する今日の世界の動きを把握するための歴史的背景を理解できるように、また現代の国際関係に対する関心と問題意識をより高められるような材料を提供したい。
到達目標	この授業を通じて学生には、現代世界の構造の歴史的な要因を、第２次世界大戦後の米ソ冷戦の展開から学び、現代世界の動きをより深く理解できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	授業は第５回から、対面式をメインとするハイフレックス方式で実施する。より詳細な説明はTeams内の第５回チャンネルを参照のこと。また、授業内容は、録画して見逃し用の配信も行う。毎回授業では、レジュメなどを配布（配信）するので、それを読み授業を聴講して理解を深めてもらう。また、必要に応じて板書を行うので、レジュメの余白などにメモ書きやノートをつけることをすすめる。
科目学習の効果（資格）	歴史（特に現代史）を見る眼と戦後の国際関係の展開に関する基礎知識の習得。また、最近の国際情勢の歴史的背景を知ることで、今後どのような展開が予想されるか、主体的に考える力を養う。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、イントロダクション	講義内容の説明（進め方、評価方法など）、講義開始前の認識度確認レポートの作成と提出	高校時代に世界史・政治経済・現代社会の科目を履修した人は、教科書の中で戦後の世界の動きを扱った箇所を読み直してみましょう。(事後学習２時間)
2	“冷戦”の概念	定義、起源や原因に関する諸説について解説する。	配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習１時間)
3	戦後世界の起点	第２次世界大戦終盤の協力および戦後構想をめぐる動きについて解説する。	配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習１時間)
4	米ソ対立の契機	東欧の共産化について解説する。	配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習１時間)
5	米ソ対立の深化と拡大（１）/ 政治レベルの対立	米ソ間の対立が顕在化していく過程を、有力国の指導者の声明をたどりつつ解説する。	配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習１時間)
6	米ソ対立の深化と拡大（２）/ 経済レベルの対立	マーシャル・プランからドイツの東西分裂にいたる過程およびアメリカの封じ込め理論の内容を解説する。	配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習１時間)
7	米ソ対立の深化と拡大（３）/ 軍事レベルの対立	経済的対立が軍事的対立へと深化し、東西対立が固定化される過程を解説する。	配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習１時間)
8	米ソ対立の深化と拡大（４）/ アジアの“熱戦”〈前編〉	朝鮮戦争について解説する。	配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習１時間)
9	米ソ対立の深化と拡大（５）/ アジアの“熱戦”〈後編〉	前回に引き続き、朝鮮戦争について解説する。	配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習１時間)
10	“雪解け”とその影響	ソ連の指導者の死去とそれが与えた国際的影響を解説する。	配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習１時間)
11	ソ連の対西側積極攻勢とその影響	第２次ベルリン危機およびキューバ危機を中心に解説する。	配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習１時間)
12	（第１次）冷戦の特徴および緊張緩和の時代	第１次冷戦の構造的特質の説明、および緊張緩和が到来した原因とその影響について解説する。	配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習１時間)
13	新（第２次）冷戦	ソ連の核戦略の積極化とアメリカの対抗措置、それらに対する世界的な反核運動の展開、そしてソ連の指導者の交代と方針転換について解説する。	配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習１時間)
14	冷戦構造の崩壊	ソ連の変革と東欧の民主化、そして東側陣営の崩壊について解説する。	配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習１時間)
15	総括	講義のまとめ・講義終了時の認識度確認レポートの作成と提出・期末試験の説明	全 15 回にわたって配布したレジュメと資料を読み直してください。(事後学習８時間)

関連科目	政治学および国際関係に関連する科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	講義内で提出を求めるレポートなどの課題（複数回）に対する評価の合計点によってこの科目全体の評価とする。
学生へのメッセージ	現在の国際社会の状況を理解する上で、必要不可欠の内容です。国際関係論の講義と合わせて受講するとより理解が深まると思います。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　河原教授室
備考	課題については、講義の中で解説を行う。また、期末レポートについては、質問者に対しては、メールおよび SH の時間に対応する。 19 年度　合格率 78%　（不受験率 4%）　A0%　B8%　C20%　D50%　平均 65 点　74 人登録

科目名	国際関係論	科目名（英文）	International Relations
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	河原　匡見
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2068a0		

授業概要・目的	『国際関係論』という学問について、その基本的な考え方を習得し、激動する現代の国際関係（世界の動き）に対する理解力の向上を，本講の目的とする。講義内容は、国際関係の基礎概念の説明から始め、アクターがどのように行動するのか、現実主義的アプローチに基づいてその行動態様を中心に解説していく。そうして、現実の国際関係がどのような構造で、何がどのような目的で活動しているのか、把握し理解できるよう《国際関係を見る眼》を養うような講義にしたい。
到達目標	この授業を通じて学生には、国際関係がどのように展開していくのか、その基本的なポイントについて理解できるようになるとともに、それらを踏まえて国際社会で生起しているさまざまな動きを観察できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	授業は、「オンライン方式」による講義で行う。毎回レジュメを配信するので、聴講およびそれを読んで理解を深めてもらう。また、必要に応じてレジュメの余白などにメモ書きやノートをつけることをすすめる。
科目学習の効果（資格）	国際関係を規定する要因などを学ぶことで、国際社会の動きを表面的だけでなくその本質を見抜く‘眼’を養う。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、イントロダクション	講義内容の説明（進め方、評価方法など）、講義開始前の認識度確認レポートの作成と提出。	時事問題、特に国際関係の報道に目を向ける習慣をつけましょう。（事後学習１時間）
2	国際関係論とはどのような学問か	定義、研究方法などについての解説	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習２時間）
3	国際関係における主要な行動主体〈アクター〉（１）	行動主体〈アクター〉とは？　国際関係の行動主体としての“国家”についての説明	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習１時間）
4	国際関係における主要な行動主体〈アクター〉（２）	国家以外の主要な行動主体〈アクター〉についての説明（１）	配布したレジュメと資料で復習してください。（事後学習１時間）
5	国際関係における主要な行動主体〈アクター〉（３）	国家以外の主要な行動主体〈アクター〉についての説明（２）	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習１時間）
6	行動主体の行動原理	“国益”と行動目標についての説明	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習１時間）
7	行動主体の力の行使に関する概説（１）	国力とは何か？その内容についての説明	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習１時間）
8	行動主体の力の行使に関する概説（２）	力の行使の一般論および軍事的手段についての説明	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習１時間）
9	行動主体の力の行使に関する概説（３）	経済的手段についての説明	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習１時間）
10	行動主体の力の行使に関する概説（４）	宣伝的手段および文化的手段についての説明	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習１時間）
11	行動主体の力の行使に関する詳説（１）　経済制裁（前編）	経済制裁の種類、歴史的発展プロセスについての説明	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習１時間）
12	行動主体の力の行使に関する詳説（２）　経済制裁（後編）	経済制裁の効果を左右する要因についての説明	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習２時間）
13	行動主体の力の行使に関する詳説（３）　外交・外交交渉（前編）	外交の語義や形態の歴史についての説明	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習１時間）
14	行動主体の力の行使に関する詳説（４）　外交・外交交渉（後編）	外交交渉についての説明	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習１時間）
15	総括	講義のまとめ・講義終了時の認識度確認レポートの作成と提出・期末試験の説明	全 15 回の講義で配布したレジュメと資料を読み直してください。（事後学習８時間）

関連科目	政治・国際関係に関連する科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題レポート（２回程度）の評価（９０％）と講義内での課題（１０％）の合計の成績によって評価する。
学生へのメッセージ	現代において、国際関係の動向が私たちの日常生活と密接に関連しています。それゆえ、複雑な国際情勢を的確に把握し読み解く能力が求められ、この科目の履修の必要性が高まっています。国際社会では、事前に予測困難なことが相次いで起きていますが、だからこそ、国際関係を見る眼をしっかり養いましょう。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　河原教授室
備考	１９年度　合格率 97%　（不受験率 5%）　A0%　B0%　C17%　D80%　平均 63 点　60 人登録

科目名	グローバル社会論	科目名（英文）	Global Society
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	河原　匡見
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3069a0		

授業概要・目的	いま国際社会において“グローバル化”が急速に進んでいる。その結果、さまざまな領域における世界的規模での相互依存の深化と競争の激化という現象が同時に進行している。そして、経済や文化などの領域での画一化が進む一方で地球規模の問題が起きており、「世界の一体化」を進展させているようにもみえるし、より「対立の深刻化」を引き起こしているようにもみえる。本講義では、現代の国際社会の変容を読み解く上で重要な“グローバル化”という現象の内容やそれがもたらす問題をさまざまな視点から解説していく。
到達目標	この授業を通じて学生には、グローバル化を迎えた現代世界の構造の政治経済的な要因を、欧米列強の植民地活動の歴史や南北問題の経緯から学ぶとともに、近年特に問題視されている人の移動の激化や、そのほかのグローバル化の具体的な現状を統計資料などによって学び、現代世界をより一層深く理解できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	授業は、「オンライン方式」による講義で行う。毎回レジュメなどを配信するので、聴講およびそれを読んで理解を深めてもらう。また、必要に応じてレジュメの余白などにメモ書きやノートをつけることをすすめる。
科目学習の効果（資格）	国際社会の現況およびその背景的要因を知ることで、世界の動きをみる“眼”を養うとともに、問題解決への意識を育む。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、イントロダクション	講義内容の説明（進め方、評価方法など）、講義開始前の認識度確認レポートの作成と提出	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。（事後学習１時間）
2	“グローバル化”とは	基礎的な概念の説明	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習１時間）
3	グローバル化の経緯（１）	グローバル化を進めた“基層”の形成過程の説明（１）	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習１時間）
4	グローバル化の経緯（２）	グローバル化を進めた“基層”の形成過程の説明（２）	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習１時間）
5	グローバル化の経緯（３）	列強による植民地政策の展開とグローバル化の推進（１）	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、配布したレジュメと資料で復習してください。（事後学習１時間）
6	グローバル化の経緯（４）	列強による植民地政策の展開とグローバル化の推進（２）	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習１時間）
7	戦後のグローバル化の展開（１）	国際分業の拡大・相互依存の浸透	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習１時間）
8	戦後のグローバル化の展開（２）	南北問題の顕在化と深刻化	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習１時間）
9	戦後のグローバル化の展開（３）	新自由主義の浸透とそれへの反発	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習１時間）
10	人のグローバル化（１）	第二次世界大戦までの人の移動の歴史を概観する	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習２時間）
11	人のグローバル化（２）	第 2 次世界大戦後の人の移動の歴史を概説する	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、配布したレジュメと資料で復習してください。（事後学習２時間）
12	人のグローバル化（３）	深刻化する現代の移民・難民問題を概観する	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習２時間）
13	データでみるグローバル化の現状（１）	各種データによる解説	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習１時間）
14	データでみるグローバル化の現状（２）	各種データによる解説	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習１時間）
15	総括	講義のまとめ・講義終了時の認識度確認レポートの作成と提出・期末試験の説明	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、全１５回にわたって配布したレジュメと資料を読み直してください。（事後学習８時間）

関連科目：政治・国際関係に関連する科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	課題レポート（２回程度）の評価（９０％）と講義内での課題（１０％）の合計の成績によって評価する。
学生への メッセージ	私たちの住む世界の重要な動きに、ぜひ関心をもってほしいと思います。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　河原教授室
備考	20 年度　合格率 97.1%　（不受験率 2.9%）　A47.1%　B38.2%　C8.8%　D2.9%　平均 86 点　34 人登録

科目名	日本政治論	科目名（英文）	The Lectures on Japanese Politics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森　康一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ1070a0		

授業概要・目的	幕末から戦後までの日本の政治史を、国内政治を中心に説明する。 特に、各内閣の政策や様々な政治グループ（政党など）の動きに焦点をあて、日本の政治がどのような過程を辿ってきたのかを明らかにしていきたい。
到達目標	この授業を通じて学生には、明治以降の日本が歩んで来た政治史を理解することにより、国際人としての基本的素養を身につけることが期待される。
授業方法と留意点	【4 月 15 日更新】 授業実施体制の変更に伴い、当面の間「遠隔授業」（教材・課題提供型）を行います。 受講に必要な情報はすべて Moodle より行いますので、下記を参照の上、必ず Moodle の登録をしておいて下さい。 ----- プリントと板書により講義形式で授業を進める。自分のまとめノートを作るつもりで、よく講義を聞いてほしい。
科目学習の効果（資格）	公務員試験や就職において、日本の政治史が一般教養として問われる。 この授業によって、上記に際して必要な基本的な政治的知識を得られる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	『日本政治論』講義について	講義の内容全体について	幕末から現代までの日本史を、高校の教科書等であらかじめ読み直しておく
2	西欧の衝撃への対応	開国と幕末の動乱について	開国後の主な藩の動きについて調べておく（約 30 分） レジュメ（第 2 回）を見直しておく（約 1 時間）
3	明治国家の建設	中央集権体制の確立と日本「国民」の形成について	廃藩置県について調べておく（約 30 分） レジュメ（第 3 回）を見直しておく（約 1 時間）
4	政府批判の噴出	士族の反乱と自由民権運動について	西南戦争について調べておく（約 30 分） レジュメ（第 4 回）を見直しておく（約 1 時間）
5	明治憲法体制の成立	大日本帝国憲法の制定と条約改正について	不平等条約の内容について調べておく（約 30 分） レジュメ（第 5 回）を見直しておく（約 1 時間）
6	議会政治の定着	初期議会・日清戦争後の藩閥—政党関係について	自由党・立憲改進党について調べておく（約 30 分） レジュメ（第 6 回）を見直しておく（約 1 時間）
7	日清戦争と日露戦争	２つの戦争をめぐる国内政治・国際関係について	日清・日露戦争の講和条約について調べておく（約 30 分） レジュメ（第 7 回）を見直しておく（約 1 時間）
8	帝国の膨張	韓国併合、満州政策、第一次世界大戦について	韓国併合に至る過程について調べておく（約 30 分） レジュメ（第 8 回）を見直しておく（約 1 時間）
9	政党政治の発展	日露戦争後・大正期の藩閥—政党関係について	大正時代の政党について調べておく（約 30 分） レジュメ（第 9 回）を見直しておく（約 1 時間）
10	国際協調と政党内閣	原敬内閣および政党内閣の時代について	「憲政の常道」について調べておく（約 30 分） レジュメ（第 10 回）を見直しておく（約 1 時間）
11	軍部の台頭	満州事変以降の国内政治・国際関係について	満州事変以降の内閣の変遷について調べておく（約 30 分） レジュメ（第 11 回）を見直しておく（約 1 時間）
12	帝国の崩壊	日中戦争、日米戦争について	日中戦争勃発以降の内閣の変遷について調べておく（約 30 分） レジュメ（第 12 回）を見直しておく（約 1 時間）
13	敗戦・占領・講和	初期占領改革、冷戦構造と講和について	戦後初期の政党について調べておく（約 30 分） レジュメ（第 13 回）を見直しておく（約 1 時間）
14	自民党政治	55 年体制成立以降の国内政治・国際関係について	自民党の派閥の成り立ちについて調べておく（約 30 分） レジュメ（第 14 回）を見直しておく（約 1 時間）
15	まとめ	講義のまとめと試験について	レジュメ・ノートを整理し、試験に向けての準備をする（約 4 時間）

関連科目：日本外交史、世界の政治と社会、国際関係論、国際関係史

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	日本政治史	北岡伸一	有斐閣
2	戦後政治史	石川 真澄、 山口 二郎	岩波書店
3	近代日本政治史	坂野 潤治	岩波書店

評価方法（基準）

【4 月 15 日更新】
小テストは Moodle から行います。
また、期末試験実施が不可能な場合はレポートに変更します。
Moodle からの連絡をよく注意しておいて下さい。

原則として 10 回以上出席の学生のみを成績評価の対象とします。
平常点 20%（小テスト（第 5 回・第 10 回の授業の前半で実施予定））、期末試験 80%（論述式。5 問出題して 2 問を選択してもらいます）の合計

	点によって評価を行います。 小テスト・期末試験において持ち込みは認めません。
学生への メッセージ	高校の日本史教科書等で明治以降の部分を熟読しておいて下さい。 日々起こる政治的な出来事を、日本の政治史をベースにとらえていくようにしましょう。
担当者の 研究室等	11 号館 5 階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	

科目名	市民社会論	科目名（英文）	Civil Society
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	森　康一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2071a0		

授業概要・目的	「市民社会」は、「国家」とも「市場」とも異なる新しい公共性の担い手として、特に 1989 年の東欧の民主化以降注目を集めている。 　この講義では、「民主主義」との関わりで、欧米あるいは日本の「市民社会」・「市民社会論」の歴史的系譜について整理した上で、事例として東欧の民主化の過程をとりあげたい。 　今後の社会を担う一個の市民として、「市民社会」のありかたについて考えることを目標とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、西欧の政治思想についての基礎的な知識を習得すること、また東欧の社会主義国においてどのように民主化が果たされたのか理解することが期待される。
授業方法と留意点	【11 月 11 日更新】 11 月 17 日の＜第 9 回＞から対面授業に移行します。 【8 月 26 日更新】 オンライン授業の実施に変更になります。オンデマンド式の「教材・課題提供型授業」をしていきます。 受講する方は、Moodle にて コース名：市民社会論　＜2021 年度後期 水曜 2 限 J・2　担当：森康一＞ 登録キー：1206 で登録してください。 授業の進め方や授業動画についてなど、Moodle のコースに記載していますので、登録の上、そちらをご覧下さい。 【旧】 プリントと板書によ
科目学習の効果（資格）	公務員試験や就職において、西洋の思想が一般教養として問われる。 この授業によって、上記に際して必要な知識を得ることができる。 また、日本の社会を考える上で必要となる歴史的視点や思想・理論を学ぶことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義の目的と内容・成績評価について	講義の内容全体について	新聞等で、市民社会・民主主義について書かれている記事を積極的に読んでおく また、西洋政治思想の流れを世界史の教科書などで見直しておく
2	市民社会とは何か	「市民」と「市民社会」について	レジュメ（第 2 回）を見直しておく（約 1 時間）
3	市民社会論の歴史的系譜	市民社会論の歴史的系譜について	レジュメ（第 3 回）を見直しておく（約 1 時間）
4	西欧における市民社会論の展開（1）	古代ギリシャの市民社会論について	プラトン・アリストテレスについて調べておく（約 30 分） レジュメ（第 4 回）を見直しておく（約 1 時間）
5	西欧における市民社会論の展開（2）	近代ブルジョア的市民社会論について	ホッブズ・ロックについて調べておく（約 30 分） レジュメ（第 5 回）を見直しておく（約 1 時間）
6	西欧における市民社会論の展開（3）	近代ブルジョア的市民社会論に対する批判論について	ルソー・ヘーゲルについて調べておく（約 30 分） レジュメ（第 6 回）を見直しておく（約 1 時間）
7	西欧における市民社会論の展開（4）	近代止揚の市民社会論について	マルクス・グラムシについて調べておく（約 30 分） レジュメ（第 7 回）を見直しておく（約 1 時間）
8	西欧における市民社会論の展開（5）	現代の市民社会論について	アーレント・ハーバーマスについて調べておく（約 30 分） レジュメ（第 8 回）を見直しておく（約 1 時間）
9	日本的「市民社会」論	日本の思想家による「市民社会」のとらえ方について	丸山真男について調べておく（約 30 分） レジュメ（第 9 回）を見直しておく（約 1 時間）
10	事例研究:ポーランドの民主化運動（1）	ポーランドの社会主義と自主管理労組「連帯」の活動について	第二次世界大戦後のポーランドについて調べておく（約 30 分） レジュメ（第 10 回）を見直しておく（約 1 時間）
11	ポーランドの民主化運動(2)	東欧の民主化の先導役としてのポーランドが辿った過程について	レジュメ（第 11 回）を見直しておく（約 1 時間）
12	チェコスロヴァキアの民主化運動（1）	チェコスロヴァキアの社会主義と 1968 年の「プラハの春」について	チェコスロヴァキアの独立（1918）から解体（1939）について調べておく（約 30 分） レジュメ（第 12 回）を見直しておく（約 1 時間）
13	チェコスロヴァキアの民主化運動（2）	チェコスロヴァキアの社会主義と市民社会の関わりについて	レジュメ（第 13 回）を見直しておく（約 1 時間）
14	チェコスロヴァキアの民主化運動（3）	1989 年のビロード革命について	ハヴェルについて調べておく（約 30 分） レジュメ（第 14 回）を見直しておく（約 1 時間）
15	まとめ	講義のまとめと試験について	レジュメ・ノートを整理し、レポートの準備をする（約 4 時間）

関連科目：世界の政治と社会、国際関係史、国際関係論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	市民社会論	吉田傑俊	大月書店
2	近代市民社会の成立	成瀬治	東京大学出版会

	3	社会主義の 20 世紀（第 3 巻）	伊東孝之・南塚信吾	日本放送出版協会

評価方法 （基準）	【8 月 26 日更新】 ・平常点 20%（10 点満点の小テスト 2 回（第 5 回・第 10 回の授業日に Moodle から受験してもらいます）） ・期末レポート 80%（5 問出題して 2 問を選択してもらいます。1 問につき 40 点満点） の合計点によって評価を行います。
学生への メッセージ	日々ニュースや新聞にふれて、日本や世界で起こっていることに関心を持ってください。そして、その出来事の原因や由来が何であるのか、常に問題意識を持つようにしてください。
担当者の 研究室等	11 号館 5 階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	

科目名	政治過程論	科目名（英文）	Political Process
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	和田　泰一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2072a0		

授業概要・目的	人間が集団で生活している限り、法や条例、公共事業の影響を避けて生きることはできません。それらを決定するのが政治であり、18 歳になって選挙権を与えられた学生の皆さんはそうした政策決定過程のなかに組み込まれ、またその影響を受けながら日々の生活を送っています。 この授業では、有権者である学生の皆さんに、権力行使・選挙・政党・マスメディア・議会などさまざまな政策決定過程についての基本的な知識を与えることを大きな目的にしています。それによって皆さんは、政治参加するさいに必要不可欠な論理的思考力・判断力・表現力を身につけることができます。 また皆さんが最近のニュースをよりよく理解できるように、政治的な時事問題についても紹介し、解説します。
到達目標	この授業を通じて学生は、現代国家の政策決定過程についての基本的な知識を獲得して思考力を身につけるとともに、自分でいかなる政策・政党・候補者が望ましいのかを論理的・理性的に考えることができる判断力と、政策決定過程に積極的に参加して自分の政治的意見を表明しようという意欲・表現力を育成することができます。 また政治過程論の分野に関わる地方上級・市役所・警察官・消防官などの公務員試験の問題も解説しますので、試験に対応できるだけの知識を獲得することもできます。
授業方法と留意点	新型コロナウイルスが猛威を振るっているため、Microsoft Teams でオンライン授業を行います。
科目学習の効果（資格）	公務員試験や就職活動において、政治や政治学の内容が問われる場合があります。そうした試験に対応し、基本的な政治的知識を獲得することができます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション～政治過程とは何か？	イントロダクションとして、講義の内容と政治過程の現代的意義について授業します。	事前学習：政治・政治参加について文献を収集し、、授業に積極的に参加するモチベーションを高める（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30 分）
2	権力の行使①～権力とは何か？	政策が決定されるプロセスで行使される権力について、身近な例を挙げて考えます。	事前学習：教科書の該当箇所（第一章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30 分）。
3	権力の行使②～正当な権力とは何か？	マックス・ウェーバーの権力観を中心に、現代の国家で行使される権力の特徴について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第一章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30 分）。
4	世論と政治文化	リップマンやガセットらの大衆社会論を参照しつつ、世論やポピュリズム、政治文化について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第四章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30 分）。
5	投票行動	世論を形成する有権者の投票行動がどのように研究されてきたのかについて授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第五章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30 分）。
6	現代のマスメディア	マスメディアの役割とさまざまな効果について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第五章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30 分）。
7	政党と政党制	政党の機能と政党制の分類について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第八章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30 分）。
8	選挙	衆議院と参議院の選挙制度、一票の格差、中選挙区制から小選挙区比例代表並立制への移行などについて授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第六章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30 分）。
9	国会	国会の機能と役割について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第九章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30 分）。
10	議院内閣制と大統領制	日本とアメリカの政治システムの違いについて授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第十二章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30 分）。
11	内閣①～内閣のしくみ	日本の内閣制度について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第十二章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30 分）。
12	内閣②～今世紀の行政改革	今世紀の内閣の権限強化について授業	事前学習：教科書の該当箇所（第十二章）を読み、

		します。	マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30分）。
13	リーダーシップ	リーダシップの特徴とその機能、効果について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第十二章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30分）。
14	官僚制	日本の官僚制の特徴について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第十章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30分）。
15	まとめ	講義の重要箇所についてまとめ、わからない点や難しい点があればもう一度解説します。	事前学習：来るべき試験に備えるべく、授業中に配布したレジュメ・資料を熟読し、わからない点があれば最後の授業に質問できるようにまとめておく（30分）。 事後学習：テストに向けて教科書やノート、レジュメを読み直す（時間の許す限り）。

関連科目

中学・高校の現代社会、政治・経済など。大学の政治学概論、日本政治論など。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	政治過程論	伊藤光利・田中愛治・真淵勝	有斐閣アルマ
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	政治学	川出良枝・谷口将紀編	東京大学出版会
2			
3			

評価方法（基準）

レポート（70%）とMicrosoft Formsの小テスト（30%）で評価します。Aの取得率は、全受講者数の25%以下とします。

学生へのメッセージ

新聞・TV・ネットなどマスメディアのニュースに日常的に触れるようにして、現代の政治についての関心を高めてください。またわからない点や疑問点があれば、積極的に質問してください。

担当者の研究室等

11号館10階　和田講師室

備考

20年度　合格率96.6%　（不受験率3.4%）　A25.0%　B44.7%　C20.2%　D6.7%　平均84点　208人登録

科目名	公共政策の基礎	科目名（英文）	Public Policy
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	中沼　丈晃
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2073a0		

授業概要・目的	政策とは、解決すべき問題のために考案され用いられる手段のセットといえる。なかでも公共政策は、政府の公権力をもって国民全体のために決定され実施される手段の体系である。この講義では、公共政策を担う政府の役割を市場との対照において把握することからはじめ、公共政策の合理的な形成を理解したうえで、現実には最良の政策案が採用されるケースが稀である理由を探る。
到達目標	この授業を通じて学生には、合理的な政策の立案過程を学んだうえで、現実の政策が合理的とは必ずしもいえないものになる理由を説明できるようになることが期待される。自分が政治家や官僚だったら、現実の制約のなかでどのように考え、行動するか考える。
授業方法と留意点	理論を学び、身近な例で確認し、いまの社会問題を使って説明を試みる。このステップを講義中に課題形式で進めていく。
科目学習の効果（資格）	授業は大学にふさわしいものとするが、公務員試験で問われる知識に関しては注意を促すので、志望者は積極的に受講してほしい。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	「政策」という言葉	ドラマ「ザ・ホワイトハウス２」で「政策」という言葉が使われている文脈をつかむ。	「ザ・ホワイトハウス２」の視聴（約１時間）
2	市場のメカニズム	等価交換に基づく市場の仕組みを知る。	レジュメ p.1 を見直す（約１時間）
3	政府のメカニズム	市場と対照的な政府の仕組みを知る。	レジュメ p.2 を見直す（約１時間）
4	政府による市場メカニズムの採用	最近の教育制度改革を例に使って、政府が競争原理を部分的に採用する意義と方法を理解する。	新聞記事資料の確認（約１時間）
5	システムとしての政府の役割	政府をシステムとしてとらえて、公共政策を国民生活にアウトプットする意義を考える。	レジュメ p.3 を見直す（約１時間）
6	公共政策としてのサービスと規制	公共政策の内容を大きく「サービス」と「規制」に分けて整理する。	レジュメ p.4 を見直す（約１時間）
7	政策過程の考え方	政府が政策をつくり、実施する過程を段階間の移行として説明する議論を理解する。	レジュメ p.5-6 を見直す（約１時間）
8	合理的意思決定と政策過程	政策過程の前提にある合理性について考える。	レジュメ p.7-8 を見直す（約１時間）
9	課題設定とその回避	水俣病に対する政府の対応を見て、社会問題の解決が政府の課題とされる場合とされない場合がある理由を探る。	レジュメ p.9-10 を見直す 新聞記事資料の確認 （約 1.5 時間）
10	政策立案とその制約	防衛力整備の検討を例に挙げて、課題を達成する政策案を考案する過程と、最良と思われる政策案が消えていく現実を知る。	レジュメ p.11 を見直す 新聞記事資料の確認 （約 1.5 時間）
11	インクリメンタリズム	現実の政府は現在からの少しの変化だけを視野に入れて公共政策を決定するというモデルを学ぶ。	レジュメ p.12 を見直す （約１時間）
12	政策決定の非合理性	高速道路建設の現実を例に使って、合理的とはいえない政策が決定されることになる現実を知る。	レジュメ p.13 を見直す （約１時間）
13	組織過程モデル	現実の政府では各省庁に備わる所定の手続が非合理的な政策を生み出すというモデルを学ぶ。	レジュメ p.14 を見直す （約１時間）
14	政策決定の消滅	郵政民営化やエコポイントを例に挙げて、政策案があっても政策決定が先送りになったり、行われないことがある現実を知る。	レジュメ p.15 を見直す 新聞記事資料の確認 （約 1.5 時間）
15	ゴミ箱モデル	政策決定を偶然ととらえ、政策が決定に至らない現実を説明するモデルを学ぶ。	レジュメ p.16-17 を見直す 期末試験の対策 （約３時間）

関連科目	入門の「政治学概論」と発展の「行政学」の間に位置する基本科目である。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点（毎回の課題ペーパーの点数の累積、30%）と期末課題の点数（70%）の合計によって評価する。
学生へのメッセージ	法学部の授業としては内容も方法も「かわった」ものにする挑戦的な授業にしたいと考えています。
担当者の研究室等	11 号館９階　中沼教授室

備考	講義毎回の確認ペーパーの正解の提示や、そこに書かれた意見の紹介はポータルサイトなどを通じて行う。 20 年度　合格率 92.2%　（不受験率 0.5%）　A14.6%　B39.8%　C25.2%　D12.6%　平均 78 点　206 人登録

科目名	行政学	科目名（英文）	Public Administration
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	中沼　丈晃
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2074a0		

授業概要・目的	民主主義の国家の憲法は、議会が法律をつくると定めている。しかし現代においては、法律に反映されるべき政策は行政なくしては立案も決定もできない。しかも、行政府の官僚が大きな影響力を持っている。そこでこの講義では、まず議会と行政、政治家と官僚の関係を明らかにしたうえで、日本の行政組織のあり方を確認し、国の秩序の柱となる産業政策について日本の戦後政策の特徴を理解する。
到達目標	この授業を通じて学生には、民主主義の現代社会において、国民による選挙で選ばれた存在ではない官僚がどれくらい大きな力を持っているのか、逆に国民の世論が官僚の行動にどのように影響を与えているのか説明できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義の目的は具体的な事例を解釈することにある。それには(1)理論と知識を学び、(2)事例を理解し、(3)理論や知識で事例の意味を考えるという３段階が必要になる。＊遠隔の場合、録画配信とする。確認ペーパーはオンラインフォームとし、締切は１週間後に設定する。
科目学習の効果（資格）	講義は大学にふさわしいものとするが、公務員試験で問われる知識に関しては注意を促すので、志望者は積極的に受講してほしい。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	映画『13 デイズ』に見る政治と行政(1)	キューバ危機をめぐるアメリカ政府の動きを見て、政策決定における政治家と官僚の関係を考える。	レジュメ p.1 を見直す 『13 デイズ』の視聴 （約 1.5 時間）
2	映画『13 デイズ』に見る政治と行政(2)	第１回の続き。	レジュメ p.2 を見直す 『13 デイズ』の視聴 （約 1.5 時間）
3	1930 年代アメリカの映像に見る政治と行政	アメリカのニューディール政策の光景を見て、政策決定における行政の役割が拡大・深化した理由を探る。	レジュメ p.3 を見直す （約 1 時間）
4	行政国家と政治行政融合論	現代国家が「行政国家」と呼ばれる理由と、行政国家の現実を説明する政治行政融合論を学ぶ。	レジュメ p.4-5 を見直す （約 1 時間）
5	ふたりの米大統領の言葉から考える政治と行政	ふたりの米大統領の対照的な言葉を読み、行政が素人仕事から政策の専門職になった背景を知る。	レジュメ p.6 を見直す （約 1 時間）
6	メリットシステムと政治行政二分論	専門家としての官僚を採用するメリットシステムと、その理論的根拠となった政治行政二分論を学ぶ。	レジュメ p.7 を見直す （約 1 時間）
7	行政組織を見る視点	行政組織を見る上で基本となる「ラインとスタッフ」「独任制と合議制」の区別をできるようにする。	レジュメ p.8 のを見直す （約 1 時間）
8	日本の中央行政機構(1)	内閣を中心とする日本の行政機構全体の組織を把握する。	レジュメ p.9-10 を見直す 行政組織法の整理 （約 1.5 時間）
9	日本の中央行政機構(2)	政治家たる大臣をトップとし、官僚がほとんどの職を占める各省の組織を把握する。	レジュメ p.11 を見直す 行政組織法の整理 （約 1.5 時間）
10	産業政策としての護送船団方式	産業育成を目的とした日本の省庁による「護送船団方式」と呼ばれる戦後の産業政策の構造を知る。	レジュメ p.12-13 を見直す （約 1 時間）
11	護送船団方式の実際と批判	医薬品販売や携帯電話メーカーの業界における護送船団方式の実際とそれへの批判を把握する。	レジュメ p.12-13 を見直す 新聞記事資料の確認 （約 1.5 時間）
12	護送船団方式以後の産業政策	英会話教室の業界を例に挙げて、近年の産業政策が消費者重視に移行しつつある背景を探る。	レジュメ p.13-14 を見直す 新聞記事資料の確認 （約 1.5 時間）
13	トラック運送業界に見る護送船団方式とその崩壊	「宅急便」が風穴をあけたトラック運送業界のケースを見てみる。	レジュメ p.14-15 を見直す 読物資料の確認 （約 1.5 時間）
14	業界との関係と行政組織の変化	業界との関係の基本方針によって行政組織のあり方がどう変化するのか知る。	レジュメ p.16 を見直す （約 1 時間）
15	金融庁設立に見る業界監督官庁の変化	金融業界を所管する省庁が大蔵省から金融監督庁を経て金融庁となった背景を見てみる。	レジュメ p.17 を見直す 新聞記事資料の確認 期末試験の対策 （約 3 時間）

関連科目：「公共政策の基礎」の発展科目である。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）：平常点（毎回の課題ペーパーの点数の累積、30%）と期末試験の点数（70%）の合計によって評価する。＊遠隔の場合、期末試験は相応の期末課題とする。

学生への メッセージ	中身の濃い授業をコンパクトに進めます。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　中沼教授室
備考	講義毎回の確認ペーパーの正解の提示や、そこに書かれた意見の紹介はポータルサイトなどを通じて行う。 20 年度　合格率 90.9%　（不受験率 0%）　A47.7%　B 26.4%　C 13.7%　D 3.0%　平均 82 点　197 人登録

科目名	政治と政策	科目名（英文）	Politics and Public Policy
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	増田　知也
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ1075a0		

授業概要・目的	日本政府は世界一の公的債務を抱えており、それが政策における大きな制約となっているのが現状である。ところが昨今、財政問題についての新たな考え方が注目されるようになっている。財政についての考え方が変われば、政治や政策のあり方も大きく転換する可能性がある。 第２回から第９回までは、ステファニー・ケルトン『財政赤字の神話』を参照しつつ、財政についての新たな視点とそれが政治と政策に与える影響について考察する。ここまでは主に米国をモデルとした内容となるため、第10回から第14回までは、同様に視点を改めた場合に、日本の国政あるいは地方自治における政策はどのような転換が可能となるか、またその上での政治的問題について考察する。 なお、授業後には復習問題に加えて、時事問題による小テストを出題し、政治と政策に関するニュースも並行して学んでいく。これらの内容を通じて、政治と政策に関する理解と関心を高めてもらうことを目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、政治と政策に関する主要なトピックについて基礎的な知識を持ち、それらの問題について自分の意見を述べることができ、主体的に問題解決に取り組む姿勢を身に付けることが期待される。
授業方法と留意点	毎回冒頭に、前回の小テストの解説と質問への応答を行う。 その後、スライドを提示しながら解説を行う。 授業後、オンラインで小テストを実施してもらう。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	日本は「財政破綻」するのか？	日本の財政が今どのような状況にあるのかを概観し、財政破綻をめぐる対立する見解を紹介する。	事前：新聞・テレビ・ウェブなどでニュースを見る（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
2	政府と家計	政府と家計の違いについて、通貨発行権の視点から学ぶ。	事前：新聞・テレビ・ウェブなどでニュースを見る（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
3	財政赤字とインフレ	財政赤字とインフレーションの関係について学ぶ。	事前：新聞・テレビ・ウェブなどでニュースを見る（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
4	国家債務と国民負担	国家の債務は将来的に国民が負担すべきものなのかを検討する。	事前：新聞・テレビ・ウェブなどでニュースを見る（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
5	財政赤字と民間への影響	財政赤字が民間経済に与える影響について検討する。	事前：新聞・テレビ・ウェブなどでニュースを見る（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
6	貿易赤字と貿易黒字	貿易赤字・貿易黒字が経済においてどのような意味を持つのかを学ぶ。	事前：新聞・テレビ・ウェブなどでニュースを見る（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
7	公的給付は持続可能か？	社会保障や医療保険のような給付制度が財政的に持続可能かを検討する。	事前：新聞・テレビ・ウェブなどでニュースを見る（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
8	本当に解決すべき赤字とは？	社会において本当に足りていないものは何なのかということを検討する。	事前：新聞・テレビ・ウェブなどでニュースを見る（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
9	国民のための経済を実現するには？	第２回から第８回を振り返りつつ、国民のための経済とはどのようなものかを展望する。	事前：新聞・テレビ・ウェブなどでニュースを見る（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
10	財政問題と税制	財政問題についての視点を転換した場合に、税制についての考え方はどのように変わりうるか検討する。	事前：新聞・テレビ・ウェブなどでニュースを見る（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
11	財政問題と福祉政策	財政問題についての視点を転換した場合に、福祉政策はどのように変わりうるか検討する。	事前：新聞・テレビ・ウェブなどでニュースを見る（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
12	財政問題と教育政策	財政問題についての視点を転換した場合に、教育政策はどのように変わりうるか検討する。	事前：新聞・テレビ・ウェブなどでニュースを見る（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
13	財政問題と地方自治	通貨発行権を持たない地方自治体においても、政策転換は可能かどうか、またその条件について検討する。	事前：新聞・テレビ・ウェブなどでニュースを見る（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
14	財政問題と政治	財政問題をめぐる政治状況について解説し、政策転換の可能性について検討する。	事前：新聞・テレビ・ウェブなどでニュースを見る（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
15	政治と政策のこれから	授業内容を振り返りつつ、今後の政治と政策のあり方を展望する。	事前：新聞・テレビ・ウェブなどでニュースを見る（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	財政赤字の神話	ステファニー・ケルトン	早川書房
	2			
	3			

評価方法 （基準）	定期試験（または期末レポート）50%、小テスト 50%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　増田講師室
備考	小テストについては次の回の授業で解説とフィードバックを行う。 20 年度　合格率 89.7%　（不受験率 1.2%）　A10.7%　B23.8%　C32.9%　D22.2%　平均 73 点　252 人登録

科目名	地方自治論	科目名（英文）	Local Self-Government
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	増田　知也
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3076a0		

授業概要・目的	授業の前半では、市町村合併を題材に地方自治の理念と制度の変遷を学ぶ。授業の後半では、自治体広報を題材に住民自治の実現に必要な要素を探る。「地方自治は民主主義の学校」と言われるように、地方自治は国全体の民主主義を支える基盤となるものである。この講義を通じて、単に知識を身につけるだけでなく、地方の政治や行政に関心を持ち、積極的に関わっていくきっかけとなることを期待する。
到達目標	この授業を通じて学生には、地方自治についての重要概念や理論について説明することができ、地方自治の主要な課題について住民自治の視点から分析することができ、地方自治の主要な課題について自分の意見を述べることができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	毎回冒頭に、前回の小テストの解説と質問への応答を行う。 その後、穴埋め式のレジュメを配布し、スライドを提示しながら解説を行う（オンライン授業の場合は動画を視聴）。 授業後、オンラインで小テストを実施してもらう。
科目学習の効果（資格）	地方公務員を目指す受講生にとって、身につけておくべき知識を学ぶことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	地方自治の理念と制度	憲法における地方自治、地方自治法、補完性の原理について学ぶ。	事前：教科書第１章第１節を読む（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
2	日本の自治の歴史	古代から現代に至るまでの、自治の歴史を概観し、自治の意味を考える。	事前：教科書第１章第２節を読む（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
3	顧客主義か住民自治か	住民について「人口」、「行政サービスの受け手」、「自治を担う地域の主体」の３つの捉え方を比較する。	事前：教科書第１章第３節を読む（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
4	適正規模の理論	適正規模の捉え方や決定要因について検討する。	事前：教科書第２章を読む（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
5	スケールメリット論の検証	財政効率を主眼においた適正規模論の概要と問題点を考える。	事前：教科書第３章を読む（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
6	適正規模論への新視点	人口と歳出額の関係から、市町村合併による財政面での効果について検討する。	事前：教科書第4～6章を予習（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
7	迷惑施設問題と自治	迷惑施設問題を分析するための概念について学ぶ。	事前：事前に配布した文献を読む（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
8	住民運動と公共性	住民運動の意義と、対立が生じる原因について学ぶ。	事前：事前に配布した文献を読む（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
9	お知らせ広報と政策広報	お知らせ広報としての自治体広報の問題点と、改革の方向性について考える。	事前：事前に配布した文献を読む（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
10	住民自治の広報理論	住民自治の視点からの広報理論について学ぶ。	事前：事前に配布した文献を読む（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
11	広報・広聴と政治性	パブリック・リレーションズ概念を手がかりに、広報の類型化を行う。	事前：事前に配布した文献を読む（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
12	問題提起型広報の意義	問題提起型広報の事例を取り上げ、その特徴と実現への課題について学ぶ。	事前：事前に配布した文献を読む（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
13	問題提起型広報の効果	問題提起型広報が住民自治を促す効果について検討する。	事前：事前に配布した文献を読む（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
14	住民参加と協働	住民参加と協働の意義について学ぶ。	事前：事前に配布した文献を読む（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
15	住民自治の意義	全体を振り返りつつ、住民を主体とした地方自治について考察する。	事前:これまでのレジュメと小テストを復習する(4時間)

関連科目：「住民協働論」では第14回の協働についてより詳しい内容を学ぶことができる。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	平成の大合併と財政効率	増田知也	金壽堂出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験（または期末レポート）50%、小テスト50%
学生へのメッセージ	地方政治・行政に関するニュースや、地元自治体の広報などに注目しながら学んでください。
担当者の研究室等	11号館10階　増田講師室
備考	小テストについては、次の回の授業で解説とフィードバックを行う。 20年度　合格率97.3%　（不受験率0%）　A3.6%　B38.2%　C37.3%　D18.2%　平均75点　110人登録

科目名	地域防犯政策	科目名（英文）	Regional Security Policy
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	中沼　丈晃
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3077a0		

授業概要・目的	長い間、「犯罪を減らすのは警察の仕事」、「犯人を捕まえれば犯罪は減る」というのが当然と思われてきた。しかし、1990年代後半から犯罪の認知件数が急増すると、「市民を守るのは警察」、「検挙が最大の防犯」という考え方に対する疑問が出てきた。かわりに、「行政・警察・住民一体でまちを守る」、「犯罪が起きにくいまちづくりを」と言われるようになる。このように犯罪発生の問題をまちづくりの課題としてとらえ、犯罪抑止を目的として打ち出されてきた施策・事業の集まりを「地域防犯政策」と呼びたい。本講義では、地域防犯政策の展開を具体的な事例に照らして説明する。
到達目標	この講義を通じて、学生には次のことが期待される。①犯罪が増える背景には、ふつうはよいものと考えられる規制緩和、国際化、情報化という社会の動向があることを理解する。②犯罪に対する政策が、捜査・検挙と更生という事後の視点から、抑止と教育という事前の視点に重点を移している理由を考える。③自治体（特に市町村）が防犯に予算と人を投入する意義と、地域住民がボランティアで防犯に取り組む意味を知る。
授業方法と留意点	個別の政策に関する勉強なので教えるレベルは高くなる。加えて、「なぜ犯罪が増えたのか」、「どうすれば犯罪が減るのか」という問いには、明確なひとつの答えがあるわけではないので、自分の頭で、あるいは受講生同士で話し合って考えることが大事になる。＊遠隔の場合、録画配信とする。確認ペーパーはオンラインフォームとし、締切は１週間後に設定する。
科目学習の効果（資格）	公務員試験の課題式論文の対策に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	犯罪対策の２つの考え方	「犯人を捕まえる」という考え方と「犯罪を起こさせない」という考え方とを比較する。	配布レジュメ・資料を見直すこと（約１時間）
2	犯罪統計の読み方	認知件数、検挙件数、検挙人員からはじまる基礎用語を理解し、犯罪統計をいかに読むか考える。	配布レジュメ・資料を見直すこと（約１時間）
3	犯罪認知件数の推移	戦後からの認知件数の推移を社会の変化に照らしてみる。	配布レジュメ・資料を見直すこと（約１時間）
4	1990 年代後半の犯罪急増の背景	規制緩和、高速移動、国際化、情報化といった「改革」と犯罪急増との関係を探る。	配布レジュメ・資料を見直すこと（約１時間）
5	検挙から抑止へ	警察が検挙に加えて抑止にも力を入れ始めた経緯を整理する。	配布レジュメ・資料を見直すこと（約１時間）
6	警察と自治体との関係	警察が自治体に協力を求めた理由と、自治体側の反応について知る。	配布レジュメ・資料を見直すこと（約１時間）
7	防犯ボランティアの登場	新しく登場した防犯ボランティアと従来の防犯委員などとの違いを見出す。	配布レジュメ・資料を見直すこと（約１時間）
8	防犯カメラへの注目	防犯を超えて捜査・検挙に大きな変化をもたらした防犯カメラの普及過程を追う。	配布レジュメ・資料を見直すこと（約１時間）
9	広報・情報発信の充実	警察が犯罪発生情報をメールや SNS で積極的に市民に発信するようになった理由を探る。	配布レジュメ・資料を見直すこと（約１時間）
10	街頭犯罪対策の進展	ひったくりなどの街頭犯罪を抑止するためにとられた対策をハード、ソフト両面で整理する。	配布レジュメ・資料を見直すこと（約１時間）
11	侵入盗対策の進展	空き巣などの侵入盗を抑止するためにとられた対策をハード、ソフト両面で整理する。	配布レジュメ・資料を見直すこと（約１時間）
12	子どもの安全確保の拡充	「地域防犯＝子どもの安全確保」というイメージがあるほどに、子どもの安全が強調されるようになった経緯をたどる。	配布レジュメ・資料を見直すこと（約１時間）
13	性犯罪対策の要請	性犯罪に対する警察の対応が大きく変わった背景と、現在の対応と課題を知る。	配布レジュメ・資料を見直すこと（約１時間）
14	特殊詐欺という新たな問題	電話で持ちかけ、ATM でお金を奪うという特殊詐欺に地域でどう対抗するか議論する。	配布レジュメ・資料を見直すこと（約１時間）
15	まちづくりの基礎としての防犯	防犯活動の浸透が、犯罪の抑止を超えてまちづくりの基礎となっている意味を考える。	配布レジュメ・資料を見直すこと（約１時間）

関連科目：本講義の入門編として、教養特別講義「身近な犯罪から自分、家族、まちを守る」がある。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）：講義時に課すペーパーの累積点（30%）と、定期試験の点数（70%）の合計で評価を行う。＊遠隔の場合、定期試験は相応の期末課題とする。

学生への メッセージ	「学」（がく）というより、近年と現在の動向を考える講義なので、問題意識を持って講義に臨んでほしいです。自治体職員（公務員）や警察官志望の学生にとっては、将来の仕事を考える機会にもなると思います。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階 中沼教授室
備考	講義毎回の確認ペーパーは原則、次週に採点して返却する。 20 年度　合格率 91.9%　（不受験率 0%）　A24.3%　B 35.1%　C 24.3%　D8.1%　平均 76 点　37 人登録

科目名	住民協働論	科目名（英文）	Residents Cooperative Theory
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	増田　知也
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3078a0		

授業概要・目的	協働とは、行政・企業・NPO などが、共通の目的に向かって対等の立場で協力して活動することを意味する。行政だけが公共を担うという従来の考え方から、さまざまな主体がネットワーク化されることで公共を担っていくという考え方への変化が起こっている。この授業では、協働の担い手となる人（地域公共人材）に着目しながら、どのようにして協働型社会を形成すれば良いかを様々な面から検討する。
到達目標	この授業を通じて学生には、協働概念を理解するのに必要な概念について説明することができ、文献の要点をまとめ、分かりやすく発表することができ、地域の問題を自分の問題として考え、意見を持つことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	ABD の手法を用いて、文献を講読する。 その後、穴埋め式のレジュメを配布し、解説を行う。
科目学習の効果（資格）	住民としての行政との向き合い方、自治体職員としての住民との向き合い方を学ぶことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	地域における人の力	協働における人材の重要性について、基本となる考え方を学ぶ。	事前:『地域公共人材をつくる』序章を読む（2 時間） 事後：小テストの内容について復習する（2 時間）
2	協働型社会の理論	協働型社会についての理論を学ぶ。	事前:『地域公共人材をつくる』第 1 章を読む（2 時間） 事後：小テストの内容について復習する（2 時間）
3	地域公共人材の意味	京都府における地域公共人材育成の事例から、協働のための人材育成の意味を考察する。	事前:『地域公共人材をつくる』第 2 章を読む（2 時間） 事後：小テストの内容について復習する（2 時間）
4	協働と地域公共人材	協働のための人材育成において、大学が果たす役割を考察する。	事前:『地域公共人材をつくる』第 3 章を読む（2 時間） 事後：小テストの内容について復習する（2 時間）
5	もやい直しと協働	熊本県水俣市を事例に、行政と市民が担うべき役割について考察する。	事前:『地域公共人材をつくる』第 4 章と第 7 章を読む（2 時間） 事後：小テストの内容について復習する（2 時間）
6	協働の担い手としての子どもたち	滋賀県米原市を事例に、子どもの権利と社会参加について学ぶ。熊本県氷川町宮原を事例に、子どもたちや大学生が地域活動を担うことの意味を考察する。	事前:『地域公共人材をつくる』第 5 章と第 6 章を読む（2 時間） 事後：小テストの内容について復習する（2 時間）
7	NPO と協働	兵庫県芦屋市と愛知県田原市を事例に、NPO が人材育成に果たす役割について考察する。	事前:『地域公共人材をつくる』第 8 章と第 9 章を読む（2 時間） 事後：小テストの内容について復習する（2 時間）
8	市民と企業、市民と議会の協働	京都府京都市を事例に、ソーシャルビジネスの可能性について考察する。北海道登別市を事例に、市民と議会の協働の可能性について考察する。	事前:『地域公共人材をつくる』第 10 章と第 13 章を読む（2 時間） 事後：小テストの内容について復習する（2 時間）
9	住民運動と市民活動	奈良県葛城市を事例に、住民と行政の対立を協働へと発展させる方法について考察する。広島県福山市鞆町を事例に、市民活動が果たす役割について考察する。	事前:『地域公共人材をつくる』第 11 章と第 12 章を読む（2 時間） 事後：小テストの内容について復習する（2 時間）
10	協働と地域公共人材の展望	京都府丹波・丹後地域を事例に、協働の担い手となる地域リーダーの育成方法について考察する。授業全体を振り返りつつ、今後の協働と人材育成のあり方を展望する。	事前:『地域公共人材をつくる』第 14 章と終章を読む（2 時間） 事後：小テストの内容について復習する（2 時間）
11	住民の権利と責任	憲法や地方自治法における住民の位置づけについて学ぶ。	事前:『地方自治と民主主義』第 6 章を読む（2 時間） 事後：小テストの内容について復習する（2 時間）
12	住民意識の変化と自治行政	住民の受益者化について学ぶ。	事前:『地方自治と民主主義』第 7 章を読む（2 時間） 事後：小テストの内容について復習する（2 時間）
13	住民運動の衝撃	住民運動の特色について学ぶ。	事前:『地方自治と民主主義』第 8 章を読む（2 時間） 事後：小テストの内容について復習する（2 時間）
14	住民参加への取り組み	住民参加の意義と課題について学ぶ。	事前:『地方自治と民主主義』第 9 章を読む（2 時間） 事後：小テストの内容について復習する（2 時間）
15	対立から協働へ	行政と住民の対立関係を協働関係に変えるための方法について考察する。	事前：論文「行政広報は『お知らせ』以上のものになれるか？」を読む（2 時間） 事後：小テストの内容について復習する（2 時間）

関連科目：「地方自治論」では地方自治に関する知識を講義形式で学ぶことができます。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	地域公共人材をつくる：まちづくりを担う人たち	今川晃・梅原豊	法律文化社
2	地方自治と民主主義	佐藤竺	大蔵省印刷局
3			

評価方法：定期試験（または期末レポート）50%、小テスト 50%

（基準）	
学生への メッセージ	協働の前提として、住民が自治の主体としての自覚を持つことが必要です。自治意識をもった住民をどのようにして育てるのかを考えていきましょう。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　増田講師室
備考	小テストについては次の回の授業で解説とフィードバックを行う。 20 年度　合格率 91.3%　（不受験率 2.2%）　A28.3%　B50.0%　C8.7%　D4.3%　平均 81 点　46 人登録

科目名	福祉政策論	科目名（英文）	Social Protection Policy
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	増田　知也
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3079a0		

授業概要・目的	少子高齢化や格差社会が大きな問題となる中、福祉政策はますます重要性を増している。この授業では、福祉に関わる基礎知識と課題について学ぶ。教科書の内容を前提として、グループ・ディスカッションを交えながら授業を展開する。福祉政策の意義と、福祉の視点から見た政治・行政について理解を深めてほしい。
到達目標	この授業を通じて学生には、福祉政策に関する重要な概念や理論について説明することができ、福祉政策に関する文献から要点を抽出し、自分の言葉でまとめることができ、福祉政策の主要な論点について自分の意見を持ち、他者と討議することができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	毎回冒頭に、前回の小テストの解説と質問への応答を行う。 その後、スライドを提示しながら解説を行う。 授業後、オンラインで小テストを実施してもらう。
科目学習の効果（資格）	福祉関係の職業を目指す受講生にとって、最低限身につけておくべき知識を身につけることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	現代社会と福祉	日本社会が抱える問題と、社会福祉政策の概要について学ぶ。	事前：参考書による予習（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
2	福祉への社会的対応	福祉の定義を確認しつつ、福祉のための制度と思想について学ぶ。	事前：参考書による予習（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
3	福祉ニードと供給システム	福祉におけるニード概念と、資源を割り当てるための供給システムについて学ぶ。	事前：参考書による予習（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
4	福祉の計画と評価	福祉分野における計画行政の歴史と、計画の立案・評価の方法について学ぶ。	事前：参考書による予習（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
5	福祉政策と市場経済	経済理論からみた福祉政策について検討する。	事前：参考書による予習（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
6	福祉政策の歴史	国家が関与する福祉政策について、その興りと発展について学ぶ。	事前：参考書による予習（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
7	日本の福祉制度	日本における福祉制度の体系と、その特質について学ぶ。	事前：参考書による予習（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
8	労働・住宅・教育政策	労働・住宅・教育分野における福祉政策について学ぶ。	事前：参考書による予習（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
9	所得の保障	社会保険・社会手当・公的扶助からなる所得保障制度について学ぶ。	事前：参考書による予習（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
10	健康・医療・介護の保障	健康づくりの取り組みと、医療保障、介護保険などの仕組みと意義を学ぶ。	事前：参考書による予習（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
11	福祉サービスの保障	専門職による個別的な福祉サービスの必要性と、制度改革について学ぶ。	事前：参考書による予習（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
12	福祉制度の費用と財政	日本における社会福祉費用の特徴と課題について学ぶ。	事前：参考書による予習（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
13	薬学部・経済学部学生との合同ワークショップ１	ABD（アクティブブックダイアログ）の手法を用いて学習し、内容についてグループディスカッションを行う。	事前：グループワークで使用する文献にあらかじめ目を通しておく（2時間）
14	薬学部・経済学部学生との合同ワークショップ２	グループディスカッションを行った結果をスライドにまとめる。	事前：グループワークで使用する文献にあらかじめ目を通しておく（2時間）
15	薬学部・経済学部学生との合同ワークショップ３	スライドにまとめた内容をグループで発表する。	事前：グループワークで使用する文献にあらかじめ目を通しておく（2時間）

関連科目

「社会保障法」では関連する内容を法律の面から学ぶことができます。
「地方自治論」では地方自治についての知識を学ぶことができます。
「地方財政論」では第12回の関連分野をより詳しく学ぶことができます。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	反貧困：「すべり台社会」からの脱出	湯浅誠	岩波書店
2	社会福祉政策：現代社会と福祉	坂田周一	有斐閣
3			

評価方法（基準）	定期試験（または期末レポート）50%、小テスト30%、ふりかえりシート20%
学生へのメッセージ	第13回から第15回は、「医療経済学」（薬学部）、「地域保健医療」（経済学部）の受講生と合同でオンラインワークショップを実施する予定です。 第12回までの授業では、参考書『社会福祉政策：現代社会と福祉』の流れに沿って授業を行うので、適宜予習・復習してください。
担当者の研究室等	11号館10階　増田講師室
備考	小テストについては次の回の授業で解説とフィードバックを行う。 20年度　合格率97.2%　（不受験率0%）　A28.7%　B41.7%　C15.7%　D11.1%　平均82点　108人登録

科目名	国際ボランティア論	科目名（英文）	Studies in International Volunteers
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	浅野　英一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3080a0		

授業概要・目的	本講義ではボランティアを、一過性のイベントとしてとらえるのではなく、自分自身を見つけるチャンスとし、それを将来的に活用する。国内ボランティア、NGO、NPO、JICA ボランティア、民間ボランティア等の現場を素材にケーススタディを行い、国内外の社会常識と知識を深める。 この科目は「国際貢献」プログラム対応科目です。 ＳＤＧｓ－1,2,4,17
到達目標	ボランティアの定義・理念、ボランティア活動に関する基礎的知識を習得する。
授業方法と留意点	基本的には対面授業とするが、オンライン授業になった場合は、ICT ツールを活用した遠隔授業（非同期・非対面式）の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントや PDF ファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。
科目学習の効果（資格）	日本の立場を国際的な視野から見る。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクションと授業内容概要	授業の目的や方針を確認し、全体の流れ（起承転結）を知る	ボランティア・社会奉仕・社会貢献についての概略
2	（起-１）ボランティアの基礎①	ボランティアとは何か、活動の内容とボランティアとしての自覚を学ぶ	答えのない世界とは何かを考える
3	（起-2）ボランティアの基礎②	貧困・災害とは何かを学ぶ	どこでなにが起きるかわからないということを理解する
4	（起-3）社会貢献	社会貢献やＣＳＲとは何かを知る	個人・団体・企業など様々な取り組みを考える
5	（承-１）企業の社会的貢献	企業の社会的貢献の現状を知る	慈善なのか、企業倫理なのかを考える
6	（承-２）国際協力の現状把握	どういった国際協力が行われてきたのか、現在、何が行われているのかを知る	偽善とは何なのかを考える
7	（転-１）国際ボランティア・NGO ボランティア	国際ボランティア・NGO ボランティアとは何かを知る	目的別のボランティアを考える
8	（転-2）国際ボランティア（青年海外協力隊）	国際ボランティア（青年海外協力隊）になるにはどうしたら良いのかを知る	チャレンジとは、何かを知る
9	（転-3）国際ボランティア（国連ボランティア）	国際ボランティア（国連ボランティア）になるにはどうしたら良いのかを知る	ステップアップする方法を考える①
10	（転-4）国際ボランティア（NGO ボランティア）	国際ボランティア（NGO ボランティア）になるにはどうしたら良いのかを知る	ステップアップする方法を考える②
11	（結-１）国際ボランティアの活動にあたって	国際ボランティアとしての自覚と次へのステップ	自覚と義務とのギャップを巻がる
12	（結-2）自分に何ができるのか	ボランティア活動をするために、自分ができる事を明確にする	他人事でボランティアをしない方法はあるのかを考える
13	（結-3）更なる発展に向けて	ボランティア活動を一過性のイベントとして終わらせない	ボランティアを受ける側の事情を考察する
14	今後の課題	ボランティア活動の諸問題と克服について知る	ボランティア活動１０ヶ条を考える
15	総括的確認（必ず出席すること）	これまでに学んできたことについて総合的判断を行う	ボランティア活動を人生に生かす方法を考える

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	記述式小テストの総計(100%)により評価する。記述式小テストは、３週間に一度程度行います。これは、学期末に詰め込み式で理解するのではなく、ある程度まとまった形で、「理解し考える」ことを目的としています。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館５階（浅野研究室）
備考	この授業の担当教員は、国際協力機構（JICA)の国際協力専門家として、アフリカ・ケニアにおいて 10 年間の勤務経験があり、摂南大学の現役学生を 33 名、JICA ボランティア（青年海外協力隊）に合格させた実績がある。現役学生の合格者数は、日本国内の大学でトップクラスとなっている。

科目名	金融論	科目名（英文）	Money and Banking
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	堀　篤史
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3081a0		

授業概要・目的	グローバル化の中で、金融システムは刻々と変化しています。この授業では金融システムの現状だけではなく、そのあり方についても説明していきたい。
到達目標	この授業を通じて、学生には金融における仕組みについて、経済学のアプローチから理解できるようにする。 またこれから変化していく金融について、経済学の立場から自ら考察できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	レジュメを用いて講義形式で行う。金融論に必要なマクロ・ミクロ経済学の知識は講義の中で適宜説明する。
科目学習の効果（資格）	経済学検定

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	金融論で何を学ぶのかを説明する。 また、貨幣の機能について説明する。	
2	金融取引の基礎(1)	金融取引の理解に必要なミクロ経済学の知識について説明する。 （消費者理論の基礎）	紹介する文献を読む。(2 時間)
3	金融取引の基礎(2)	金融取引の理解に必要なミクロ経済学の知識について説明する。 （無差別曲線、予算線）	前回の内容を復習しておくこと。 指定したレジュメを事前に読むこと。(1 時間)
4	金融取引の基礎(3)	金融取引の理解に必要なミクロ経済学の知識について説明する。 （所得や価格の変化）	前回の内容を復習しておくこと。 指定したレジュメを事前に読むこと。(1 時間)
5	金融取引	これまでの知識を利用して、金融取引の意義を経済学的に説明する。	練習問題を解いておくこと。(1 時間)
6	金融取引　金融機関 金融システムの設計(1)	信用リスクや銀行や証券会社の種類、業務などについて説明する。また、信用リスクについて学習する。	前回の内容を復習しておくこと。 指定したレジュメを事前に読むこと。(1 時間)
7	金融システムの設計(2)	平均・分散アプローチについて学習する。	練習問題を解いておくこと。 指定したレジュメを事前に読むこと。(2 時間)
8	金融システムの設計(3)	情報の非対称性の問題について説明する。スクリーニング機能やモニタリング機能について説明する。	紹介する文献を読んでおく。(2 時間)
9	日本型金融システム	戦後の日本の金融システムの特徴について説明する。	練習問題を解いておくこと。 指定したレジュメを事前に読むこと。(1 時間)
10	金融政策の理論(1)	金融政策の理解に必要なマクロ経済学の知識について説明する。 （景気に関する指標）	前回の内容を復習しておくこと。 指定したレジュメを事前に読むこと。(1 時間)
11	金融政策の理論(2)	金融政策の理解に必要なマクロ経済学の知識について説明する。 （財市場に関する分析）	紹介する文献を読んでおく。 指定したレジュメを事前に読むこと。(1 時間)
12	金融政策の理論(3)	金融政策の仕組みについて説明する。	紹介する文献を読んでおく。 指定したレジュメを事前に読むこと。(1 時間)
13	金融政策の理論(4)	国際金融の理解に必要な知識について説明する。 （IS－LM 分析）	前回の内容を復習しておくこと。(1 時間)
14	グローバル経済における金融政策	外国為替市場について概観し、変動相場制における金融政策について説明する。	前回の内容を復習しておくこと。(1 時間)
15	まとめ	全体のまとめを行う。	練習問題を解いておくこと。(1 時間)

関連科目	マクロ経済学、ミクロ経済学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	金融論をつかむ	前多康男・鹿野嘉昭・酒井良清	有斐閣
2	現代金融論	塩澤修平	創文社
3			

評価方法（基準）	8 回目の授業で行う中間テストと期末テストで評価する。(中間テスト 20%　期末テスト 80%)
学生へのメッセージ	経済学の他の科目と同様に、金融論も積み重ねが大事です。毎回出席することが不可欠です。
担当者の研究室等	11 号館 5 階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	

科目名	財政学	科目名（英文）	Public Finance
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	名方　佳寿子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3082a0		

授業概要・目的	日本における予算制度、歳出と歳入、税金のあり方、公債の特徴、地方財政制度について説明し、現在の日本が直面している財政の状況、財政赤字、高齢化に伴う社会保障、地方分権等の問題についての理解を深めます。
到達目標	現在の日本の財政が直面している財政赤字、社会保障、所得税・消費税・法人税などの税金の問題を具体的な数字を見ることによって理解し、一国民として今後の日本の将来を考えてもらう。
授業方法と留意点	10 回目に中間試験、15 回目に期末試験を Moodle で行います。 それ以外の回については、Moodle、Web Folder に講義関係の資料を Upload しておきます。 Moodle:講義スライド（PDF） Web Folder:講義スライド（音声入力） 連絡手段に Teams を使う可能性がありますので登録お願いいたします。
科目学習の効果（資格）	私達の身近な問題である、財政赤字、税金、社会保障の問題が詳しくわかります。また公務員試験の勉強にも役立ちます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	財政論とは？	財政学の考え方と財政の役割について説明する。	講義ノートの復習（1 時間）
2	予算原則と予算制度	日本の予算制度について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題（1 時間）
3	歳出と歳入	我が国の財政事情について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題（1 時間）
4	社会保障制度 I	年金・医療保険・生活保護等について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題（1 時間）
5	社会保障制度 II	年金・医療保険・生活保護等について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題（1 時間）
6	各国の財政事情	先進国の財政事情について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題（1 時間）
7	税金	直接税・間接税の特徴について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題（1 時間）
8	我が国の租税制度 I	所得税、支出税、法人税について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題（1 時間）
9	我が国の租税制度 II	消費税、贈与税、最近の税制改革について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題（1 時間）
10	中間試験		
11	公債	我が国の公債について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題（1 時間）
12	公債の理論	公債による経済的な影響について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題（1 時間）
13	地方財政 I	国と地方の役割分担について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題（1 時間）
14	地方財政 II	地方税と補助金（国庫支出金、地方交付税）について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題（1 時間）
15	期末試験		

関連科目	公共政策論、公共経済学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Moodle の課題（全 12 回、30%）、中間試験（20%）、期末試験（50%）で総合的に評価します。 私語をする学生には教室からの退出・減点などの処置をとります。また授業態度が著しく悪い学生には定期試験の受験資格を認めません。課題や中間試験において不正行為が確認された場合、0 点にいたします。またその不正行為が悪質な場合は定期試験の受験を認めません。
学生へのメッセージ	疑問点・わからない点があれば授業中でもかまいませんので聞いてください。学生の積極的な取り組みを応援します。
担当者の研究室等	１号館７階　名方准教授室（経済学部）
備考	

科目名	地方財政論	科目名（英文）	Local Public Finance
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中沼　丈晃
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3083a0		

授業概要・目的	「地方でできることは地方へ」という分権化時代において、権限を委ねられる地方自治体には、法務能力と政策立案能力の双方の強化が必要になってきている。この講義では、地方自治体の財政状況から地域政策の問題点を探り、問題を生み出した構造とその改革策を理解する。
到達目標	この授業を通じて学生には次のことが期待される。①地方自治体の決算カードを見て、財務指標を計算する。②その指標から、どれくらいの政策の自由度が地方自治体に現実にあるのか判断する。③自由度の小ささは、どのような経緯によるものか理解する。④今後、自由度を広げていくには、地方と国にどのような努力が必要か考える。
授業方法と留意点	公共政策に関する基礎知識を前提に、地方財政の知識を身につけながら地域政策の現状を明らかにする。大学らしい発展科目にする考えなので、受講者には高い意識が求められる。＊遠隔の場合、録画配信とする。確認ペーパーはオンラインフォームとし、締切は１週間後に設定する。
科目学習の効果（資格）	公務員試験で出題される行政学の一部をカバーする。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ドラマ『再生の町』に見る地方行政の危機	大阪の市役所をモデルにして作られたドラマを見て、自治体の財政危機の様子をイメージする。	ドラマ『再生の町』の視聴（約１時間）
2	自治体の財政危機と地域政策(1)	自治体財政の基本的な仕組みを理解し、財政状況から地域政策の現状を知る意義を確認する。	レジュメ p.1-2 を見直す（約１時間）
3	自治体の財政危機と地域政策(2)	大阪府の市町村の実データを使って、財政状況をはかる指標の数値を算出できるようにする。	レジュメ p.3 を見直す 決算カードの確認 （約 1.5 時間）
4	自治体の財政危機と地域政策(3)	大阪府の市町村の実データを使って、借金の累積と財政への影響を把握できるようにする。	レジュメ p.4 を見直す 決算カードの確認 （約 1.5 時間）
5	地方債の増加と建設政策(1)	地方債制度の基本を理解し、自治体が借金をして建設政策を展開する意味を知る。	レジュメ p.5-6 を見直す（約１時間）
6	地方債の増加と建設政策(2)	昭和 40 年代後半から昭和 50 年代前半まで公共事業を拡大させた補助金交付の実態を確認する。	レジュメ p.6-7 を見直す 行政投資関連資料の確認 （約 1.5 時間）
7	地方債の増加と建設政策(3)	地方交付税について、自治体間で一般財源の均衡を図る機能と、国が自治体の政策を誘導する機能を確認する。	レジュメ p.7-8 を見直す（約１時間）
8	地方債の増加と建設政策(4)	昭和 61 年頃から平成 7 年頃にかけて公共事業を拡大させた地方交付税措置という仕組みを理解する。	レジュメ p.8 を見直す 地方交付税・公債関連資料の確認 （約 1.5 時間）
9	地方財政健全化比率(1)	地方財政健全化法によって導入された、自治体の「本体」以外の会計の現状を明らかにする指標を知る。	レジュメ p.9 を見直す 新聞記事資料の確認 （約 1.5 時間）
10	地方財政健全化比率(2)	近畿の市町村の実データを使って、健全化比率で自治体の財政状況を把握できるようにする。	レジュメ p.10 を見直す 健全化比率関連資料の確認 （約 1.5 時間）
11	土地開発公社	公共事業拡大の前提にあった公有地の取得について、土地開発公社が果たした役割と抱えた負債の問題の重さを考える。	レジュメ p.11-12 を見直す 新聞記事資料の確認 （約 1.5 時間）
12	第三セクター	ビルやリゾートの開発のために自治体が第三セクターを設立した背景と、多くの第三セクターが破綻に至った経緯を知る。	レジュメ p.13-14 を見直す 新聞記事資料の確認 （約 1.5 時間）
13	公営企業	下水道・交通・病院事業などを行う自治体の公営企業について、赤字につながる問題と改革の限界を理解する。	レジュメ p.15-16 を見直す 新聞記事資料の確認 （約 1.5 時間）
14	「事業仕分け」の改革	事業の必要性を問い直す「事業仕分け」の改革について、その方法と結果を確認する。	レジュメ p.17-18 を見直す 新聞記事資料の確認 （約 1.5 時間）
15	「協働」の改革	市民の行政依存、行政の自己完結を問い直す「協働」の改革について、その背景と動向を知る。	レジュメ p.19-20 を見直す 新聞記事資料の確認 （約 1.5 時間）

関連科目　「公共政策の基礎」「行政学」「地方自治論」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	平常点（毎回の課題ペーパーの点数の累積、30%）と期末試験の点数（70%）の合計によって評価する。＊遠隔の場合、定期試験は相応の期末課題とする。
学生への メッセージ	政策系の最後の科目として高いレベルで講義を展開します。特に地方公務員として地域政策をリードすることになる人が真剣に勉強する場にしたいと思います。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　中沼教授室
備考	講義毎回の確認ペーパーは、原則次週に採点して返却します。 20 年度　合格率 83.3%　（不受験率 0%）　A33.3%　B 13.3%　C 30.0%　D 6.7%　平均 73 点　30 人登録

科目名	法情報学	科目名（英文）	Law and Computer
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	谷　次郎
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2084a0		

授業概要・目的	授業概要：「法情報学」について、リテラシー的なアプローチから学ぶ。具体的には、法律にかかわる情報（法情報）の検索、収集、活用等（リーガル・リサーチ）の方法である。 授業目的：民主主義の下では、法情報に自由にアクセスでき、これを活用できることが重要である。講義と演習を通じて、これらを体験する。
到達目標	この授業を通じて学生には、法学を学んだ社会人、市民として今日の高度情報化社会を支える知識の習得および判断力を獲得することが期待される。
授業方法と留意点	新型コロナウイルス感染症の状況に鑑みて、２０２１年８月２６日付の学長からの通知に基づいて、遠隔授業（授業動画を提供して各自視聴していただく）により行う。マイクロソフトチームズを活用した教材・課題配信を行う。授業ごとに課題（授業ごとに簡単な小レポートの提出）を課する。課題提出に当たっては電子メールの利用を基本とする。詳細はその都度指示する。
科目学習の効果（資格）	とりわけ、法律を取り扱う職業（専門職はもちろんのこと、民間企業の法務担当や公務員等も含む）に就職する際には役立つであろう。 また、高度情報化社会に生きる市民として、インターネットを使用した法情報の収集に関する基礎的知識が習得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	法情報学の概要と本講義の内容について。	特になし。
2	リーガル・リサーチの方法（1）	リーガル・リサーチの対象となる資料の所在や、調べ方について学ぶ。	教科書第Ⅰ部（2～47 ページ）に簡単に目を通しておく（30 分～1 時間）。
3	リーガル・リサーチの方法（2）	リーガル・リサーチの対象となる資料の所在や、調べ方について学ぶとともに、実際にインターネットを使った調査を試してみる。	教科書第Ⅰ部に簡単に目を通すとともに、授業後にも各自で適宜検索してみる（1 時間程度）。
4	法令を調べる（1）	法令の種類や資料の調査方法について学ぶ。	教科書第Ⅱ部１～２（50～99 ページ）に簡単に目を通しておく（30 分～1 時間）。
5	法令を調べる（2）	法令の種類や資料の調査方法について学ぶとともに、実際にインターネットを使った調査を試してみる。	教科書第Ⅱ部３～７（100～144 ページ）に簡単に目を通しておくとともに、授業後にも各自で適宜検索してみる（1 時間程度）。
6	判例を調べる（1）	判例調査についての基礎知識と、判例資料の所在や調査方法について学ぶ。	教科書第Ⅲ部１～２（146～207 ページ）に簡単に目を通しておく（1 時間程度）。
7	判例を調べる（2）	判例調査についての基礎知識と、判例資料の所在や調査方法について学ぶとともに、実際にインターネットを使った調査を試してみる。	教科書第Ⅲ部３～４（208～239 ページ）に簡単に目を通しておくとともに、授業後にも各自で適宜検索してみる（1 時間程度）。
8	文献を調べる（1）	文献調査の基礎知識を学ぶ	教科書第Ⅳ部１（242～290 ページ）に簡単に目を通してくる（30 分～1 時間程度）。
9	文献を調べる（2）	文献調査の具体的な内容を学ぶとともに、実際にインターネットを使った調査を試してみる。	教科書第Ⅳ部２～５（291～377 ページ）に簡単に目を通しておくとともに、授業後にも各自で適宜検索してみる（1 時間程度）。
10	リーガルリサーチの実際（1）	担当教員が実際に扱った事件などを題材にして、リーガルリサーチの実際について学ぶ。	これまでの授業内容をおさらいしておくとともに、授業内容に関連した検索等を行ってみる（1 時間程度）。
11	リーガルリサーチの実際（2）	担当教員が実際に扱った事件などを題材にして、リーガルリサーチの実際について学ぶ。	これまでの授業内容をおさらいしておくとともに、授業内容に関連した検索等を行ってみる（1 時間程度）。
12	リーガルリサーチの実際（3）	担当教員が実際に扱った事件などを題材にして、リーガルリサーチの実際について学ぶ。	これまでの授業内容をおさらいしておくとともに、授業内容に関連した検索等を行ってみる（1 時間程度）。
13	リーガルリサーチの実際（4）	担当教員が実際に扱った事件などを題材にして、リーガルリサーチの実際について学ぶ。	これまでの授業内容をおさらいしておくとともに、授業内容に関連した検索等を行ってみる（1 時間程度）。
14	リーガルリサーチの実際（5）	担当教員が実際に扱った事件などを題材にして、リーガルリサーチの実際について学ぶ。	これまでの授業内容をおさらいしておくとともに、授業内容に関連した検索等を行ってみる（1 時間程度）。
15	まとめ	これまでの講義で扱ったテーマについて総合的に捉え直すとともに、期末レポートの説明を行う。	これまでの授業内容をおさらいしておく（1 時間程度）。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	リーガル・リサーチ 第５版	いしかわまりこ他	日本評論社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	法情報の調べ方入門　法の森のみちしるべ	ロー・ライブラリアン研究会編	日本図書館協会
2			
3			

評価方法（基準）	授業ごとの小レポート 30%、期末レポート 50%、中間レポート(1 回)20%の割合で評価する。
学生へのメッセージ	今日の情報化社会において、法学部でも、法情報（法に関する情報）の知識は不可欠となっています。また、法情報についての知識は、他の学問を学ぶ際にも非常に有益な情報を含んでいます。また、今期は期せずして ICT を活用した遠隔授業となり、高度情報化社会における新しい社会の

	あり方が否応なく試されています。学生の皆さんには関心をもって積極的に受講して頂きたいと思います。
担当者の 研究室等	11 号館 6 階 経営学部非常勤講師室
備考	中間レポートについては、事後の授業で解答例を示します。 期末レポートについては講評を事後に示します。 担当教員に対する質問は、下記メールを使用していただいても結構です。メールに際しては、学籍番号、氏名、授業名を明記してください（担当教員は本務の関係で 1 日当たり数十通～百通程度のメールを扱っているため）。 jiro.tani@edu.setsunan.ac.jp テキストについては、シラバス作成後に新版が出た場合、新版を使います。出版情報に注意してください。

科目名	裁判制度特別講義	科目名（英文）	Special Lecture on Judicial System
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	家本　真実
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3085a0		

授業概要・目的	2009 年に、日本でも司法制度に一般の市民が参加する裁判員制度が導入されました。20 歳以上の日本国籍を持つ人であれば誰でも、裁判員として刑事裁判に参加する可能性があることになります。しかし、ようやく裁判員となる可能性がある年齢に達した学生の皆さんにとっては、裁判員が刑事裁判でどのような任務を果たさなくてはならないのか、よく分からないのではないでしょうか。 そこで、この授業では、裁判員制度を深く理解していただくために、裁判員制度そのものについてはもちろん、関連する刑事裁判の手続きや、外国でおこなわれている市民の司法への参加制度をあわせて学んでいただき、広く司法制度のあり方についても考えていただきたいと思います。
到達目標	この授業を通じて、学生の皆さんには、裁判員制度について基本的な理解していただくとともに、市民の司法参加制度のあり方について考えることができる知識を得ていただくことが期待されます。
授業方法と留意点	この授業では、日本の裁判員制度について理解していただくにあたって、様々な視点からアプローチします。そのなかでは、単に教員から講義をおこなうだけでなく、受講生の皆さんが作業をしたり、意見を出したり、グループで議論したりと、自ら考えて発信する時間を設けます。したがって、ただ出席していれば良いという授業ではないことにご注意ください。 授業内容は、授業の進行具合に応じて多少変更する場合もあります。 なお、オンラインでの講義を要請されている間は、原則として講義配当時限である火曜２限にオンタイムで、Zoom を使用
科目学習の効果（資格）	裁判員制度、日本や外国の市民の司法参加制度、また広く司法制度について知識を深めることができます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	この授業の概要、講義予定、および受講確認	授業終了後、次回の授業までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
2	裁判員制度とは（1）	裁判員制度および刑事司法制度の概要	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。
3	裁判員制度とは（2）	裁判員制度導入の経緯と制度の内容	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。
4	裁判員制度とは（3）	裁判員制度の内容と実施状況	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。
5	刑事裁判手続（1）	刑事裁判における原則、公判手続の流れ	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。
6	刑事裁判手続（2）	刑事事件の捜査、手続きにおける問題点	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。
7	外国の市民の司法参加制度（1）	おもに英米でおこなわれている陪審制度について	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。
8	外国の市民の司法参加制度（2）	映画にみる陪審制度	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。
9	外国の市民の司法参加制度（3）	映画にみる陪審制度	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。
10	外国の市民の司法参加制度（4）	ヨーロッパ諸国などで採用されている参審制度について	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。
11	戦前の日本の陪審制度	日本で戦前におこなわれていた陪審制度について	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。
12	裁判員制度が抱える問題点	現在の裁判員制度において指摘されている問題について考える	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。
13	ある刑事事件について考えてみよう	裁判員になったつもりで、ある刑事事件について有罪か無罪かを考える	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。
14	今後の裁判員制度のあり方	市民の司法参加を最大限に活かすために、今後、裁判員制度はどうあるべきかを考える	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。
15	おわりに	講義のまとめ	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。これまでの講義の疑問や不明点を整理したうえで今回の授業に臨むこと。

				授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。

関連科目	刑法総論・各論、犯罪学などの刑事法、刑事訴訟法、英米法
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	学期末レポート（60%）、講義中に課す課題（40%）を評価の基準とします。 遅刻および欠席は、1 度でも、単位の取得から遠のくこととなりますので、ご注意ください。
学生への メッセージ	日本の裁判員制度やアメリカの陪審制度に興味のある方はぜひ履修していただければと思います。履修者が少数の場合は、授業において学生の皆さんが主体的に考える時間（たとえば議論していただくなど）をより多くとるようにします。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　家本准教授室
備考	講義中に課す課題については、次の回の授業で講評・解説をおこないます。 事前・事後学習の総時間数の目安：20 時間

科目名	法律英語	科目名（英文）	Legal English
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鳥谷部　壌
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP8〇		
科目ナンバリング	JDJ2088a0		

授業概要・目的	この科目は、日本国憲法の英語版を取り上げ、その文法構造を丁寧に把握し、日本語に訳すことにより、憲法の初歩的な内容の理解に努めることを目的とします。
到達目標	この授業を通じて学生には、 （1）中学・高校レベルの文法の知識が身につく、 （2）英文和訳が上達する、 （3）日本国憲法の条文の理解が進む、 ことが期待される。
授業方法と留意点	この科目は、英文で書かれた日本国憲法の条文を読み進めることにより、中学・高校で学習した英語の文法知識の復習を行うとともに、英文和訳能力を養うことを目的とします。 【留意点】下記授業計画の進度は、受講者の英語力に応じて、早めたりあるいは遅らせたりすることがありますので、あくまでも目安として参照するにとどめて下さい。本科目は、2 回目以降は、Teams 上で実施します。毎回、録画された動画をアップしますので、各自で、視聴してください。
科目学習の効果（資格）	TOEIC などの英語検定試験の準備、海外留学や海外研修の事前学習となる。日本国憲法を深く学ぶための基礎知識を身につけることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業計画の説明、参考文献の指示	
2	日本国憲法前文の英文を読む	教科書 pp. 22-32 を扱う	事前：教科書 pp. 22-32 に目を通しておくこと 事後：単語・文法、和訳のポイントを復習すること 各 1 時間
3	日本国憲法前文の英文を読む	教科書 pp. 33-43 を扱う	事前：教科書 pp. 33-43 に目を通しておくこと 事後：単語・文法、和訳のポイントを復習すること 各 1 時間
4	日本国憲法前文の英文を読む	教科書 pp. 44-54 を扱う	事前：教科書 pp. 44-54 に目を通しておくこと 事後：単語・文法、和訳のポイントを復習すること 各 1 時間
5	日本国憲法第 1 条・第 9 条 1 項の英文を読む	教科書 pp. 56-68 を扱う	事前：教科書 pp. 56-68 に目を通しておくこと 事後：単語・文法、和訳のポイントを復習すること 各 1 時間
6	日本国憲法第 9 条 2 項・第 10 条の英文を読む	教科書 pp. 69-79 を扱う	事前：教科書 pp. 69-79 に目を通しておくこと 事後：単語・文法、和訳のポイントを復習すること 各 1 時間
7	日本国憲法第 11 条・第 13 条の英文を読む	教科書 pp. 80-91 を扱う	事前：教科書 pp. 80-91 に目を通しておくこと 事後：単語・文法、和訳のポイントを復習すること 各 1 時間
8	日本国憲法第 14 条・第 15 条 1 項の英文を読む	教科書 pp. 92-102 を扱う	事前：教科書 pp. 92-102 に目を通しておくこと 事後：単語・文法、和訳のポイントを復習すること 各 1 時間
9	日本国憲法第 15 条 2 項以下・第 16 条 1 項の英文を読む	教科書 pp. 103-113 を扱う	事前：教科書 pp. 103-113 に目を通しておくこと 事後：単語・文法、和訳のポイントを復習すること 各 1 時間
10	日本国憲法第 17 条～第 20 条 1 項・2 項の英文を読む	教科書 pp. 114-125 を扱う	事前：教科書 pp. 114-125 に目を通しておくこと 事後：単語・文法、和訳のポイントを復習すること 各 1 時間
11	日本国憲法第 20 条 3 項・第 21 条・第 22 条 1 項の英文を読む	教科書 pp. 126-135 を扱う	事前：教科書 pp. 126-135 に目を通しておくこと 事後：単語・文法、和訳のポイントを復習すること 各 1 時間
12	日本国憲法第 22 条 2 項・第 23 条・第 24 条 1 項・2 項の英文を読む	教科書 pp. 136-145 を扱う	事前：教科書 pp. 136-145 に目を通しておくこと 事後：単語・文法、和訳のポイントを復習すること 各 1 時間
13	日本国憲法第 25 条・第 26 条・第 27 条 1 項の英文を読む	教科書 pp. 146-156 を扱う	事前：教科書 pp. 146-156 に目を通しておくこと 事後：単語・文法、和訳のポイントを復習すること 各 1 時間
14	日本国憲法第 27 条 2 項以下・第 28 条・第 29 条の英文を読む	教科書 pp. 157-168 を扱う	事前：教科書 pp. 157-168 に目を通しておくこと 事後：単語・文法、和訳のポイントを復習すること 各 1 時間
15	学期のまとめ	これまでの授業内容の復習	

関連科目：日本国憲法、国際社会と法、国際法の基礎理論、国際人権法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	英語版で読む　日本人の知らない日本国憲法	畠山雄二・池上彰	KADOKAWA
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法：授業中に指示する課題（50%）と期末課題（50%）の合計によって評価する。

（基準）	
学生への メッセージ	この科目は、英語が苦手な学生を対象にしています。もう一度、中学・高校の英文法をしっかり復習し、さらなるステップアップが図れるように後押しできればと思っています。なお、コロナ禍のため対面授業の実施が困難になることも予想されます。その際は、シラバスの内容を若干変更せざるを得ない場合があることをご承知おき下さい。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　鳥谷部研究室
備考	20 年度　合格率 97.4%　（不受験率 0%）　A12.8%　B 48.7%　C 23.1%　D 12.8%　平均 77 点　39 人登録

科目名	スポーツと法律	科目名（英文）	Sports and Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	石井　信輝
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2089a0		

授業概要・目的	スポーツに関する法令を学ぶとともに、関連する判例や諸問題を検討することを通して、スポーツ法学についての理解を深める。また、法学に関する体系的な理解の一助とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、法とスポーツ活動との様々な接点を理解するようになることが期待される。
授業方法と留意点	教科書『スポーツ法へのファーストステップ』 を用いて授業を行います。授業中に提示した課題を解決するために、ICT ツールを活用していただく場合もあります。今後は対面による授業を原則とします（ただし、TEAMS による遠隔授業を行う場合もある）。
科目学習の効果（資格）	公認スポーツ指導者資格取得のための科目でもある。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	スポーツと法（１）	スポーツの概念、特性	スポーツの概念や特徴についてまとめる。
2	スポーツと法（２）	スポーツ基本法の制定（スポーツの自治とガバナンス・コンプライアンス）	関連資料に目を通すこと
3	スポーツと法（３）	スポーツ活動と関連法令	関連資料に目を通すこと。
4	スポーツに親しむ権利（１）	スポーツへのアクセス	関連資料に目を通すこと。
5	スポーツに親しむ権利（２）	スポーツ権論・習熟度の確認	前回の講義と関連づけてまとめる。
6	スポーツと教育	学校スポーツ、社会スポーツ（生涯スポーツ）の展開と関連法令	関連資料に目を通すこと。
7	スポーツに関する紛争	スポーツ仲裁制度	関連資料に目を通すこと。
8	スポーツ振興と法、これまでの講義のまとめ	スポーツの振興に関する法令、および習熟度確認	これまでの講義を体系的にまとめること。
9	スポーツと国籍	スポーツへの参加と国籍	配布資料に目を通すこと。
10	スポーツと社会的平等	スポーツとジェンダー・習熟度の確認	関連資料に目を通すこと。
11	スポーツ事故と責任（１）	スポーツ活動中（学校での活動を含む）の事故と法（民法、刑法、国家賠償法）	民法、刑法および国家賠償法の関連条項の整理。
12	スポーツ事故と責任(２)	スポーツ活動中の事故と当事者・指導者の法的責任①	配布資料に目を通すこと。
13	スポーツ事故と責任（３）	スポーツ活動中の事故と指導者・当事者の法的責任②	前回の講義と関連づけてまとめる。
14	スポーツ事故と責任（４）	フランスにけるスポーツ事故と法的責任	スポーツ事故の発生と法的責任の発生に関してまとめる
15	講義の総括と習熟度検査	講義の総括と習熟度確認試験	講義全体を体系的に整理する。

関連科目：スポーツ政策論等

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	スポーツ法へのファーストステップ	石堂典秀	法律文化社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	リファレンスブック		日本スポーツ協会
2			
3			

評価方法（基準）	授業に参加する姿勢（３０％）、授業中に出される課題への回答・試験の結果（70%）をもって評価する。
学生へのメッセージ	意欲的に講義に参加してください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　石井教授室
備考	各回に 1 時間程度、すなわち半期 15 時間程度を目安に、講義の内容について事前・事後の学習を行ってください。 課題や習熟度試験については次の回の授業で解説する。 20 年度　合格率 93.2%　（不受験率 0%）　A29.5%　B31.8%　C20.5%　D11.4%　平均 77 点　44 人登録

科目名	スポーツ文化論	科目名（英文）	Cultural Aspects of Sports
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	瀬川　智広
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2090a0		

授業概要・目的	スポーツは政治、経済、国際関係など現代社会のさまざまな課題を解決するために有効とされている。 人生をより豊かに充実して生きていくために、スポーツがわれわれの暮らしに密接に関わる文化的意義をもつことを理解し、スポーツのもつ価値や可能性を多角的に捉え、QOL（生活の質）向上に活用するための知識を身につける。 SDGs-3,5,10,11,16
到達目標	この授業を通じて学生には、持続可能な社会の実現にむけた多くの課題を解決するためにスポーツのもつ価値や可能性について理解できることに加えて、身近な社会問題をテーマに議論することで主体的に学び続ける態度を身につけるようになることが期待される。
授業方法と留意点	本科目は「遠隔授業」として授業を行う。使用する ICT ツールは「Microsoft teams」とする。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	スポーツ文化論について	講義全体の概要、到達目標および成績評価について説明する スポーツの概念について学習する （講義・小レポート）	事前：指定されたテーマについて調べておく（２時間） 事後：授業終了時に指定された課題に取り組み、学習内容を復習する（２時間）
2	スポーツの歴史	スポーツの始まりと変遷について学習する （講義・個人ワーク・小レポート）	事前：指定されたテーマについて調べておく（２時間） 事後：授業終了時に指定された課題に取り組み、学習内容を復習する（２時間）
3	武道の歴史と精神	日本の武士道に由来する武道の歴史と精神について学習する （講義・個人ワーク・小レポート）	事前：指定されたテーマについて調べておく（２時間） 事後：授業終了時に指定された課題に取り組み、学習内容を復習する（２時間）
4	スポーツと教育	スポーツを通じた教育の変遷と今後の展望について学習する （講義・個人ワーク・小レポート）	事前：指定されたテーマについて調べておく（２時間） 事後：授業終了時に指定された課題に取り組み、学習内容を復習する（２時間）
5	スポーツと政治・権力	スポーツと政治の関係について過去の事例を題材に学習する （講義・個人ワーク・小レポート）	事前：指定されたテーマについて調べておく（２時間） 事後：授業終了時に指定された課題に取り組み、学習内容を復習する（２時間）
6	スポーツとメディア	スポーツとメディアの変遷とメディアがスポーツにもたらす影響について学習する （講義・個人ワーク・小レポート）	事前：指定されたテーマについて調べておく（２時間） 事後：授業終了時に指定された課題に取り組み、学習内容を復習する（２時間）
7	スポーツと産業	スポーツに関わる産業の変遷と今後の展望について学習する （講義・個人ワーク・小レポート）	事前：指定されたテーマについて調べておく（２時間） 事後：授業終了時に指定された課題に取り組み、学習内容を復習する（２時間）
8	スポーツとテクノロジー	テクノロジーがスポーツに及ぼす影響と今後の展望について学習する （講義・個人ワーク・小レポート）	事前：指定されたテーマについて調べておく（２時間） 事後：授業終了時に指定された課題に取り組み、学習内容を復習する（２時間）
9	プロ化するスポーツ	プロスポーツの意義と現状の課題について学習する （講義・個人ワーク・小レポート）	事前：指定されたテーマについて調べておく（２時間） 事後：授業終了時に指定された課題に取り組み、学習内容を復習する（２時間）
10	スポーツをめぐる社会問題	ドーピング、賭博、体罰、差別などスポーツをめぐる社会問題について学習する （講義・個人ワーク・小レポート）	事前：指定されたテーマについて調べておく（２時間） 事後：授業終了時に指定された課題に取り組み、学習内容を復習する（２時間）
11	スポーツの意義と社会的役割（１）	オリンピック、ワールドカップなどの国際大会を題材にスポーツを通じた国際貢献や経済効果について学習する （講義・グループディスカッション）	事前：指定されたテーマについて調べておく（２時間） 事後：講義・グループディスカッションで得られた知識や情報に基づき事後レポートに取り組む（２時間）
12	スポーツの意義と社会的役割（２）	パラリンピックやアダプテッド スポーツを題材にスポーツを通じた共生社会の実現について学習する （講義・グループディスカッション）	事前：指定されたテーマについて調べておく（２時間） 事後：講義・グループディスカッションで得られた知識や情報に基づき事後レポートに取り組む（２時間）
13	スポーツと SDGs（１）	SDGs のビデオや冊子などの資料を用いて SDGs に関する基礎知識を学習し、SDGs におけるスポーツの価値や可能性について調べる （講義・グループワーク）	事前：指定されたテーマについて調べておく（２時間） 事後：グループワークの内容を整理する（２時間）
14	スポーツと SDGs（２）	SDGs におけるスポーツの価値や可能性についてグループで発表する （発表）	事前：発表の準備をする（２時間） 事後：他者の発表の要点をまとめる（２時間）
15	スポーツ文化論まとめ	授業のまとめ　持続可能な社会の実現に向けた取り組みへの関わり方について考える	事前:指定されたテーマについて予習する（２時間） 事後：本講義で得た知識を活用し、SDGs への取り組みに積極的に関与する

			（グループディスカッション・レポート）	

関連科目	スポーツと健康
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	スポーツの歴史と文化	新井博	道和書院
2	体育・スポーツ史概論	木村吉次	市村出版
3			

評価方法 （基準）	小レポート（５０％）、グループワーク・発表（２０％） 最終授業終了後のレポート課題（３０％） 但し、対面での授業が実施できない場合はグループワーク・発表をレポートに変更する。
学生への メッセージ	持続可能な社会の実現にむけてスポーツの効果や期待される可能性について共に学び、考えましょう。グループディスカッションや発表にも積極的に参加しましょう。
担当者の 研究室等	総合体育館１階　瀬川研究室
備考	学習の効果を高めることを目的とし、授業の進捗状況や理解度、時事問題と関連して授業テーマの順序を変更する場合があります。

科目名	地域とスポーツ	科目名（英文）	Community and Sports
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	石井　信輝
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2091a0		

授業概要・目的	現代社会におけるスポーツ活動が担う地域振興という役割を踏まえ、地域社会とスポーツとの関係の理解を深める。また、法・政策について体系的に理解することへの一助とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、地域社会の発展や連帯を促進という視点から、スポーツの果たす役割に関する知見を修得することが期待される。
授業方法と留意点	教科書は特に用いないが、必要に応じて資料を配布する。授業中に提示した課題を解決するために、ICT ツールを活用していただく場合もある。今後は対面による授業を原則とします（ただし、TEAMS による遠隔授業を行う場合もある）。
科目学習の効果（資格）	公認スポーツ指導者養成に関する科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	地域社会とスポーツ	地域とスポーツとの関係性について整理する。
2	地域におけるスポーツの振興（1）	地域にけるスポーツ振興方策と行政とのかかわり	関連資料に目を通す。
3	地域におけるスポーツの振興（2）	地域におけるスポーツ振興の主要課題	配布資料を理解する。
4	地域におけるスポーツの振興（3）	地域におけるスポーツ振興と民間団体の役割・習熟度の確認	前 2 回と今回の講義を関連づけて整理する。
5	地域スポーツの振興拠点（1）	学校スポーツ、企業スポーツ、(総合型)地域スポーツクラブ、スポーツ少年団	関連資料に目を通す。
6	地域スポーツの振興拠点（2）	諸外国における地域スポーツの振興拠点	配布資料を理解する。
7	地域スポーツの振興拠点（3）	（総合型）地域スポーツクラブ・スポーツ少年団の役割と両者の連携・統合	わが国と諸外国との相違点･類似点という視点からまとめる。
8	地域スポーツの振興拠点（4）、およびこれまでの講義のまとめ	地域スポーツクラブの役割、これまでの到達度を評価するための試験の実施	前 3 回の講義と今回の講義とを関連づけて整理する。
9	地域スポーツの振興と関連法令	地域スポーツ振興と関連法令	配布資料の理解。
10	地域社会の活性化とスポーツ（1）	わが国におけるスポーツ活動による地域社会活性化へ向けた取り組み	関連資料に目を通す。
11	地域社会の活性化とスポーツ（2）	諸外国におけるスポーツ活動による地域社会活性化へ向けた取り組み	配布資料の理解。
12	地域社会の連帯促進とスポーツ（1）	わが国におけるスポーツ活動による地域連帯促進への取り組み	関連資料に目を通す。
13	地域社会の連帯促進とスポーツ（2）	諸外国におけるスポーツ活動による地域連帯促進への取り組み	配布資料の理解。
14	地域社会の連帯促進とスポーツ（3）	わが国における取り組みと諸外国における取り組みとの比較検討	前 2 回と今回の講義とを関連づけて整理する。
15	講義の総括	講義の総括と習熟度確認のための試験の実施	これまでの講義を体系的に整理・理解する。

関連科目：スポーツ政策論等

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	リファレンスブック		日本スポーツ協会
2			
3			

評価方法（基準）	授業に参加する姿勢（３０％）、授業中に出される課題への回答・試験の結果（70%）をもって評価する。
学生へのメッセージ	意欲的に取り組んでください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　石井教授室
備考	各回に 1 時間程度、すなわち半期 15 時間程度を目安に、講義の内容について事前・事後の学習を行ってください。 課題や習熟度試験の解説は次の回の授業で行う。 20 年度　合格率 93.5%　（不受験率 0%）　A22.6%　B 40.3%　C 11.3%　D19.4%　平均 75 点　62 人登録

科目名	スポーツマネジメント	科目名（英文）	Sports Management
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	石井　信輝
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2092a0		

授業概要・目的	スポーツを効率よくマネジメントする上で、検討すべき課題について理解を深めるとともに、スポーツマネジメントを実践するための基本的な知識を学習する。
到達目標	この授業を通じて学生には、スポーツを効率よくマネジメントする上での基本的な知識を獲得することが期待される。
授業方法と留意点	教科書は特に用いないが、必要に応じて資料を配布する。授業中に提示した課題を解決するために、ICT ツールを活用していただく場合もある。4 月 27 日以降は当面の間 TEAMS による遠隔授業を行う（対面授業に戻す場合には改めて指示する）。
科目学習の効果（資格）	公認スポーツ指導者資格取得対応科目

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	ガイダンス、スポーツマネジメントとは	スポーツマネジメントという言葉の整理。
2	マネジメントの本質（1）	マネジメントの定義、マネジメントにおける目標設定、目的・補完のマネジメント	関連資料に目を通す。
3	マネジメントの本質（2）	マネージャーの役割、心構え	マネジメントという概念をまとめる。
4	スポーツマネジメントの特徴	スポーツマネジメントの特徴、スポーツ産業が持つ特質	前 2 回の講義と今回とを関連づけてまとめる。
5	スポーツ施設の建設、運営および事業展開	スポーツ施設の建設と運営	配布資料の理解。
6	全体戦略の設定	ミッション・ヴィジョン・ドメイン・習熟度の確認	関連資料に目を通す。
7	スポーツとマネジメント（1）	人事マネジメント、GM の役割	これまでの講義を体系的にまとめ、理解する。
8	スポーツとマネジメント（2）	リスクマネジメント	リスクとマネジメントという意味について整理。
9	スポーツとマネジメント（3）、これまでの講義のまとめ	顧客管理および習熟度確認	これまでの講義を体系的にまとめ、理解する。
10	スポーツ事業の展開（1）	スポーツ事業の計画・運営・評価（総論、スポーツ教室の実施・運営）	関連資料に目を通す。
11	スポーツ事業の展開（2）	スポーツマーケティング	配布資料を理解する。
12	スポーツ事業の展開（3）	必要な法務の知識、必要な財務・経理・会計・税務の知識	前 2 回の講義を関連づけてまとめる。
13	スポーツ組織の機能・役割とその運営（1）	スポーツ組織の機能・役割	配布資料に目を通すこと。
14	スポーツ組織の機能・役割とその運営（2）	スポーツ組織の運営	前回の講義と関連づける。
15	講義のまとめ	講義の総括と習熟度の確認試験	講義全体の体系化とその理解。

関連科目：スポーツと法律等

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	リファレンスブック		日本スポーツ協会
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業に参加する姿勢（３０％）、授業中に出される課題への回答・試験の結果（70%）をもって評価する。
学生へのメッセージ	意欲を持って参加してください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　石井教授室
備考	各回に 1 時間程度、すなわち半期で 15 時間程度を目安に、講義の内容について事前・事後の学習を行ってください。 課題や習熟度試験についての解説は、次の回の授業で行う。 20 年度　合格率 97.8%　（不受験率 0%）　A15.7%　B28.1%　C34.8%　D19.1%　平均 75 点　89 人登録

科目名	グローバル社会とスポーツ	科目名（英文）	Global Society and Sports
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	石井　信輝
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3093a0		

授業概要・目的	スポーツに関する諸問題を社会学的な視点からグローバルに検討することによって、社会とスポーツとのかかわりに対する理解を深める。また、主に法政策学の体系的な理解の一助とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、スポーツを取り巻く社会的な諸相をグローバルな観点から的確に捉え、理論的に理解するための基本的な能力を養うことが期待される。
授業方法と留意点	教科書は特に用いないが、必要に応じて資料を配布する。授業中に提示した課題を解決するために、ICT ツールを活用していただく場合もある。今後は対面による授業を原則とします（ただし、TEAMS による遠隔授業を行う場合もある）。
科目学習の効果（資格）	スポーツに関する社会学的な知識を身につけることが可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	ガイダンス、スポーツ社会学とは	スポーツ社会学という概念の整理。
2	グローバル社会とスポーツ	グローバル社会におけるスポーツの意義	関連資料に目を通すこと。
3	スポーツ人口の構造（１）	スポーツ人口構造の類型化	配布資料の理解。
4	スポーツ人口の構造（２）	年齢別、性別スポーツ参加状況・習熟度の確認	前回の講義と関連づけて今回の講義を整理する。
5	少子･高齢化とスポーツ（１）	少子化とスポーツ	配布資料の理解。
6	少子･高齢化とスポーツ（２）	高齢化とスポーツ	少子・高齢化とスポーツとの関係についてまとめる。
7	女性とスポーツ	女性のスポーツ参加	関連資料に目を通すこと。
8	日本と諸外国におけるスポーツ事情、これまでの講義のまとめ	日本と諸外国のスポーツ参加	これまでの講義を体系的に整理・理解する。
9	スポーツの社会的基盤（１）－諸外国とわが国との比較検討－	学校・地域のスポーツクラブ	関連資料に目を通すこと。
10	スポーツの社会的基盤（２）－諸外国とわが国との比較検討－	企業および民間クラブ、および習熟度を確認	前回の講義と今回の講義とを関連づけて整理する。
11	スポーツと社会化（１）	スポーツによる社会化	配布資料の理解。
12	スポーツと社会化（２）	スポーツへの社会化	前回の講義と今回の講義とを関連づけて整理する。
13	商業主義とスポーツ	商業主義のスポーツへの影響	関連資料に目を通すこと。
14	スポーツとマスメディア	マスメディアのスポーツへの影響	マスメディアという言葉の意味を検索。
15	講義のまとめ	講義の総括と到達度の確認試験	これまでの講義を体系立てて整理し理解する。

関連科目：地域とスポーツ等

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業に参加する姿勢（３０％）、授業中に出される課題への回答・試験の結果（70％）をもって評価する。
学生へのメッセージ	意欲的に取り組んでほしい。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　石井教授室
備考	各回に 1 時間程度、すなわち半期で 15 時間程度を目安に、講義の内容について事前・事後の学習を行ってください。 課題や習熟度確認のための試験の解説は、次の回の授業で行う。 19 年度　合格率 100%　（不受験率 2%）　A8%　B40%　C17%　D35%　　平均 75 点　65 人登録

科目名	実定法特別講義Ⅰ	科目名（英文）	Special Lecture on Positive Law I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	前田　剛志
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ2094a0		

授業概要・目的	この実定法特別講義Ⅰの講義では、公務員試験や法科大学院（ロー・スクール）入試などに向けた基礎的な知識の習得を目的にしています。受講生の皆さんが試験に合格するため、少しでもお役に立てるよう、受講生の要望を聞き入れながら、一緒に頑張っていければと考えています。
到達目標	この授業を通じて学生には、法学検定試験や行政書士試験、宅地建物取引士などの問題演習を通じて、憲法・民法の基礎知識を習得すること、具体的には、法学検定のベーシック合格だけにとどまらず、スタンダードの合格を目指すようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義は、オンラインで行います。WebFolder に課題を提示し、講義時までにそれに取り組んでください。そして音声画像を用いた解説講義を確認してもらいます。また、実際の講義の開校日時に、質疑応答などの機会を設けることがあります（実際の講義時間帯に行われることのある質疑応答などの視聴は必須ではありません。）。詳細については Teams にて指示をしますので、必ず確認するようにしておいてください。なお Teams のコードは v4pg52i になります。
科目学習の効果（資格）	公務員試験や法科大学院（ロー・スクール）入試の合格を目指す学習の一助になればと考えています。また、行政書士や法学検定試験、宅地建物取引士などに役立つ知識の獲得にも対応できるよう考えています。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義の全体像：ガイダンス	授業の進め方や全体像、試験対策に向けての一般的心構えなどの概説を行います。	授業中に指示します。資格試験や公務員試験、司法試験など具体的な目標をあらかじめ考えておくこと（約３０分）。
2	憲法①	憲法の人権の中でも重要な位置を占める精神的自由についての基本を学びます。	精神的自由、特に表現の自由について自分の持っている教科書を見直すこと（約１時間）。
3	憲法②	憲法には、精神的自由以外にも様々な人権があります。それらの概要を学びます。	経済的自由、社会権、参政権などについて自分の持っている教科書を見直すこと（約１時間）。
4	憲法③	憲法には、大きく分けて人権分野と統治分野からなります。国会、内閣、裁判所などの統治機構についての基本を学習します。	統治機構の基本となる国会・内閣・裁判所の関係と権能について自分の持っている教科書を見直すこと（約１時間）。
5	民法①	私人間の関係を規律する民法についての学習をはじめます。まずは、権利の主体や法律行為などを定めている民法総則から学習します。	民法総則の分野について自分の持っている教科書を見直すこと（約１時間）。
6	民法②	物を直接的・排他的に支配する権利であるといわれる物権について学習します。	物権、特に所有権、抵当権の内容について自分の持っている教科書を見直すこと（約１時間）。
7	民法③	特定人から特定人に対して一定の財産上の行為を請求できるという債権について学びます。まずは、債権総論からはじめます。	債権総論、特に債権者代位権、詐害行為取消権について自分の持っている教科書を見直すこと（約１時間）。
8	民法④	債権各論といわれる分野を学習します。契約がどのようにして成立するのか、契約の効力はどのようなものがあるかなどを学びます。	債権各論の分野について自分の持っている教科書を見直すこと（約１時間）。
9	民法⑤	ここでは、具体的な契約の種類や事務管理・不当利得・不法行為などを学習します。	引き続き債権各論の分野、特に売買、賃貸借、不法行為について自分の持っている教科書を見直すこと（約１時間）。
10	民法⑥	民法は、経済的生活関係だけではなく、身分的生活関係も規律しています。婚姻、親子、相続などを学習します。	民法の親族・相続の分野について自分の持っている教科書を見直すこと（約１時間）。
11	民法⑦	民法全般について問題演習を通じて学びます。	民法の該当箇所について自分の持っている教科書を見直すこと（約１時間）。
12	民法⑧	民法全般について問題演習を通じて学びます。	民法の該当箇所について自分の持っている教科書を見直すこと（約１時間）。
13	民法⑨	民法全般について問題演習を通じて学びます。	民法の該当箇所について自分の持っている教科書を見直すこと（約１時間）。
14	民法⑩	民法全般について問題演習を通じて学びます。	民法の該当箇所について自分の持っている教科書を見直すこと（約１時間）。
15	授業全体のまとめ	これまでの講義で学習してきた問題を復習したり、あまり触れられなかった問題を補足したいと考えています。	今まで学んだ部分で自分自身がよく理解できなかった部分がどこかを見直すこと（約３０分）。

関連科目	直接的には、各種の実定法特別講義に関連しますが、憲法、民法、行政法など実定法の科目とも関連しています。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	2021 年法学検定試験問題集ベーシック	法学検定試験委員会	商事法務
2			
3			

評価方法（基準）	成績評価は毎回実施する小テストなどの提出課題（１００点）の合計点で行います。期末試験は実施しません。詳細は Teams を通じて連絡します。毎回の課題提出が前提ですので、合理的理由のない課題の未提出が一定回数を超えた場合、単位取得を認めないことがあります。

学生への メッセージ	この講義では、各種の実定法特別講義と連動する形で、公務員試験や法科大学院（ロー・スクール）入学試験の対策を行いたいと考えています。また、行政書士、宅地建物取引士など資格試験の対策も考えております。具体的な講義内容については、受講生の皆さんの要望にできる限り応じられるようにしたいと考えています。 また、各種試験の合格には、授業だけでは勉強量が不足するといわざるをえません。目標をもって、日々勉強に励んでいただく必要がありますので、ぜひ頑張ってください。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　松島講師室
備考	この講義は「法律学特修コース」の学生の履修を想定しているため、かなりの量の予習･復習が必要となります。「法律学特修コース」以外の学生で履修を希望する者は、履修期間内にあらかじめ担当者に相談してください。 確認ペーパーなどの正解・解説は授業内で行う。

科目名	実定法特別講義Ⅱ	科目名（英文）	Special Lecture on Positive Law II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	前田　剛志
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ2095a0		

授業概要・目的	この実定法特別講義Ⅱの講義では、同Ⅰに引き続いて、公務員試験や法科大学院（ロー・スクール）入試などに向けた基礎的な知識の習得を目的にしています。受講生の皆さんが試験に合格するため、少しでもお役に立てるよう、受講生の要望を聞き入れながら、一緒に頑張っていければと考えています。
到達目標	この授業を通じて学生には、法学検定試験や行政書士試験、宅地建物取引士などの問題演習を通じて、憲法・民法の基礎知識を習得すること、具体的には、法学検定のベーシック合格だけにとどまらず、スタンダードの合格を目標とするようになることが期待される。
授業方法と留意点	前期で開講されていた実定法特別講義Ⅰと同様、講義は、オンラインで行います。WebFolder に課題を提示し、講義時までにそれに取り組んでください。そして音声画像を用いた解説講義を確認してもらいます。また、実際の講義の開校日時に、質疑応答などの機会を設けることがあります（実際の講義時間帯に行われることのある質疑応答などの視聴は必須ではありません。）。詳細については Teams にて指示をしますので、必ず確認するようにしておいてください。
科目学習の効果（資格）	公務員試験や法科大学院（ロー・スクール）入試の合格を目指す学習の一助になればと考えています。また、行政書士や法学検定試験、宅地建物取引士などに役立つ知識の獲得にも対応できるよう考えています。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義の全体像：ガイダンス	授業の進め方や全体像、試験対策に向けての一般的心構えなどの概説を行います。	各自の目標を具体的にイメージしておくこと（３０分）。
2	憲法①	精神的自由の内容の理解を深めます。違憲審査基準などにも触れます。	表現の自由の内容、関連する判例を確認し、見直しておくこと（約１時間）。
3	憲法②	精神的自由以外の人権の議論も多々ありますので、理解を深めていきたいと思います。	経済的自由、社会権、平等権、参政権などの内容、関連する判例を確認し、見直しておくこと（約１時間）。
4	憲法③	統治機構は、資格試験では頻出の分野です。暗記すべき部分や自分で考える部分にメリハリを付けながら学習したいと考えています。	国会・内閣・裁判所の権能を確認し、見直しておくこと（約１時間）。
5	民法①	民法総則の中で論点となる部分を重点的に学習します。	民法総則の中でも、代理に関連する判例を確認し、見直しておくこと（約１時間）。
6	民法②	物権も重要な論点が多いので、基本的な部分をしっかり押さえておきたいと思います。	物権の中でも、抵当権に関連する判例を確認し、見直しておくこと（約１時間）。
7	民法③	問題演習などをつうじて、債権総論についての理解を深めたいと思います。	債権者代位権、詐害行為取消権の内容、関連する判例を確認し、見直しておくこと（約１時間）。
8	民法④	債権各論を更に勉強します。	売買、賃貸借、請負の内容、関連する判例を確認し、見直しておくこと（約１時間）。
9	民法⑤	債権各論の理解を深めます。	事務管理、不当利得、不法行為の内容、関連する判例を確認し、見直しておくこと（約１時間）。
10	民法⑥	親族・相続分野は、択一では頻出ですので、具体的な問題演習をつうじて理解を深めたいと思っています。	婚姻、養子、相続の内容、関連する判例を確認し、見直しておくこと（約１時間）。
11	民法⑦	民法全般について問題演習を通じて学びます。	民法の該当箇所を確認し、見直しておくこと（約１時間）。
12	民法⑧	民法全般について問題演習を通じて学びます。	民法の該当箇所を確認し、見直しておくこと（約１時間）。
13	民法⑨	民法全般について問題演習を通じて学びます。	民法の該当箇所を確認し、見直しておくこと（約１時間）。
14	民法⑩	民法全般について問題演習を通じて学びます。	民法の該当箇所を確認し、見直しておくこと（約１時間）。
15	授業全体のまとめ	これまでの講義で学習してきた問題を復習したり、あまり触れられなかった問題を補足したいと考えています。	今まで学んだ部分で自分自身がわからなかった部分を確認し、見直しておくこと（約３０分）。

関連科目：直接的には、各種の実定法特別講義に関連しますが、憲法、民法、行政法など実定法の科目とも関連しています。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	2021 年法学検定試験問題集ベーシック	法学検定試験委員会	商事法務
2			
3			

評価方法（基準）	成績評価は毎回実施する小テストなどの提出課題（１００点）の合計点で行います。期末試験は実施しません。詳細は Teams を通じて連絡します。毎回の課題提出が前提ですので、合理的理由のない課題の未提出が一定回数を超えた場合、単位取得を認めないことがあります。
学生へのメッセージ	この講義では、各種の実定法特別講義と連動する形で、公務員試験や法科大学院（ロー・スクール）入学試験の対策を行いたいと考えています。また、行政書士、宅地建物取引士など資格試験の対策も考えております。具体的な講義内容については、受講生の皆さんの要望にできる限り応じられるようにしたいと考えています。 また、各種試験の合格には、授業だけでは勉強量が不足するといわざるをえません。目標をもって、日々勉強に励んでいただく必要がありますので、ぜひ頑張ってください。
担当者の	11 号館９階　松島講師室

研究室等	
備考	この講義は「法律学特修コース」の学生の履修を想定しているため、かなりの量の予習･復習が必要となります。「法律学特修コース」以外の学生で履修を希望する者は、履修期間内にあらかじめ担当者に相談してください。 確認ペーパーの正解や解説については、授業内で行います。

科目名	実定法上級講義	科目名（英文）	Comprehensive Lecture on Positive Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	前田　剛志
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ4096a0		

授業概要・目的	この実定法上級講義の講義では、法政キャリア特別講義と同様に公務員試験や法科大学院（ロー・スクール）入試などに向けた実践的な知識の習得を目的にしています。直前期にあたることになりますので、短期間で集中的に知識の獲得を目指します。受講生の要望を随時受け入れます。
到達目標	この授業を通じて学生には、公務員試験や法科大学院入学試験などの問題演習を通じて、各種試験合格に必要となる高度に専門的な法的知識を習得するようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義は、受講生の目標に応じた形でオンラインで進めます。詳細は第１回の授業時に確認させていただきます。いずれにせよ、自分で予習復習することが必要になります。なおTeamsのコードは　at98lot　です。
科目学習の効果（資格）	公務員試験や法科大学院（ロー・スクール）入試の合格を目指す学習の一助になればと考えています。また、行政書士や法学検定試験、宅地建物取引士などに役立つ知識の獲得にも対応できるよう考えています。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義の全体像：ガイダンス	授業の進め方や全体像、試験対策に向けての一般的心構えなどの概説を行います。	各自の受験する試験の内容を具体的に確認しておくこと（約３０分）。
2	憲法①	精神的自由 思想良心の自由、表現の自由、信教の自由、集会・結社の自由など 特に、違憲審査基準の理解	精神的自由に関する違憲審査基準、関連する判例を確認し、見直しておくこと（約１時間）。
3	憲法②	その他の人権 経済的自由、幸福追求権、平等権、社会権など 特に、違憲審査基準の理解（精神的自由との比較）	経済的自由で用いられる審査基準と精神的自由で用いられる審査基準の違いを確認し、見直しておくこと（約１時間）。
4	憲法③	統治機構 国会、内閣、裁判所、財政・地方自治、憲法保障など	国会・内閣・裁判所の権能を確認し、見直しておくこと（約１時間）。
5	民法①	民法総則 意思表示、代理、時効など 特に、心裡留保・虚偽表示・錯誤、表見代理	心裡留保・虚偽表示・錯誤、表見代理の内容及び関連する判例を確認し、見直しておくこと（約１時間）。
6	民法②	物権 占有権、所有権、用益物権、担保物権など 特に民法１７７条、抵当権	物権変動の基本原則、抵当権の内容及び関連する判例を確認し、見直しておくこと（約１時間）。
7	民法③	債権総論 債務不履行、責任財産の保全、多数当事者の債権・債務関係、債権譲渡、債権の消滅など 特に、４１５条・４１６条、債権者代位権・詐害行為取消権	債務不履行の一般原則について、見直しておくこと（約１時間）。
8	民法④	債権各論① 契約の成立、契約の効力、契約各論①など 特に、解除、売買	契約の解除、売買、賃貸借、請負の内容及び関連する判例を確認し、見直しておくこと（約１時間）。
9	民法⑤	債権各論② 契約各論②、事務管理・不当利得・不法行為など 特に、賃貸借、不法行為	事務管理、不当利得、不法行為の内容及び関連する判例を確認し、見直しておくこと（約１時間）。
10	民法⑥	親族・相続 婚姻、親子、相続など	婚姻、養子、相続の内容及び関連する判例を確認し、見直しておくこと（約１時間）。
11	行政法①	行政法総論、行政組織法など 法律による行政の原理、行政主体、地方自治など	法律による行政の原理の内容を確認し、見直しておくこと（約１時間）。
12	行政法②	行政作用法 行政行為、行政上の強制手段、行政指導、行政手続など 特に、行政行為の種類	行政行為の種類、内容を見直しておくこと（約１時間）。
13	行政法③	行政救済法 行政不服申立て、行政事件訴訟、国家賠償、損失補償など 特に、取消訴訟	行政事件訴訟法に規定されている訴訟類型の要件を確認し、見直しておくこと（約１時間）。
14	その他の実定法 刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法など	憲法、民法、行政法以外で試験に関連する科目	刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法などの基本概念を見直しておくこと（約１時間）。
15	授業全体のまとめ	これまでの講義で学習してきた問題を復習したり、あまり触れられなかった問題を補足したいと考えています。	今まで学んだ部分で自分自身がわからなかった部分を見直しておくこと（約３０分）。

関連科目	直接的には、各種実定法特別講義講義と関連しますが、憲法、民法、行政法など実定法の科目とも関連しています。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	毎回の課題などの提出で評価し（１００％）。期末試験は実施しません。 ただ、毎回の課題提出が前提ですので、合理的理由のない課題の未提出が一定回数を超えた場合、単位取得を認めないことがあります。
学生への メッセージ	この講義では、各種の実定法特別講義と連続した形で、公務員試験や法科大学院（ロー・スクール）入学試験の対策を行いたいと考えています。また、行政書士、宅地建物取引士など資格試験の対策も考えております。直前期にあたるため、受講生の皆さんの具体的な要望にできる限り応じられるようにしたいと考えています。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　松島講師室
備考	この講義は「法律学特修コース」の学生の履修を想定しているため、かなりの量の予習･復習が必要となります。また、定員の上限を定める場合があります。「法律学特修コース」以外の学生で履修を希望する者は、履修期間内にあらかじめ担当者に相談してください。確認テストの解説については、授業内で行う。

科目名	憲法応用講義	科目名（英文）	Advanced Lecture of Constitutional Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	浮田　徹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3097a0		

授業概要・目的	憲法概論、憲法Ⅰ(基本的人権)、憲法Ⅱ(統治機構)の履修を前提として、憲法のさらなる発展的な理解を得ることを目的とします。 取り扱う領域は基本的人権が中心となります。 日本及び外国の判例を素材として、講義形式での解説、学生による報告を中心に行います。
到達目標	この授業を通じて学生には、外国の憲法の考え方と比較しつつ日本の憲法理論の理解を深められるようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義、報告、ディスカッションを中心に行います。 少人数を想定しています。
科目学習の効果（資格）	科目に憲法が設定されている資格試験に対応する力をつけます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	概要の説明、報告担当の決定など	事前：なし 事後：課題ペーパー(90 分)
2	人権総論	人権理論の復習と解説	事前：配布プリントを読む(20 分) 事後：課題ペーパー(90 分)
3	裁判所による違憲審査について	アメリカ型の違憲審査基準とドイツにおける三段階審査の比較など	事前：配布プリントを読む(20 分) 事後：課題ペーパー(90 分)
4	個人の尊厳(1)	生命･身体の権利に関する判例について報告・解説・議論を行う	事前：配布プリントを読む(20 分) 事後：課題ペーパー(90 分)
5	個人の尊厳(2)	生命･身体の権利に関する判例について報告・解説・議論を行う	事前：配布プリントを読む(20 分) 事後：課題ペーパー(90 分)
6	法の下の平等(1)	法の下の平等に関する判例について報告・解説・議論を行う	事前：配布プリントを読む(20 分) 事後：課題ペーパー(90 分)
7	法の下の平等(2)	差別的取扱いに関する判例について報告・解説・議論を行う	事前：配布プリントを読む(20 分) 事後：課題ペーパー(90 分)
8	婚姻･家族に関する保護と権利	婚姻の自由に関する判例について報告・解説・議論を行う	事前：配布プリントを読む(20 分) 事後：課題ペーパー(90 分)
9	表現の自由(1)	意見表明の自由に関する判例について報告・解説・議論を行う	事前：配布プリントを読む(20 分) 事後：課題ペーパー(90 分)
10	表現の自由(2)	報道機関の自由に関する判例について報告・解説・議論を行う	事前：配布プリントを読む(20 分) 事後：課題ペーパー(90 分)
11	信教の自由	信教の自由に関する判例について報告・解説・議論を行う	事前：配布プリントを読む(20 分) 事後：課題ペーパー(90 分)
12	職業の自由(1)	職業に対する規制に関する判例について報告・解説・議論を行う	事前：配布プリントを読む(20 分) 事後：課題ペーパー(90 分)
13	職業の自由(2)	職業に対する規制に関する判例について報告・解説・議論を行う	事前：配布プリントを読む(20 分) 事後：課題ペーパー(90 分)
14	財産権(1)	所有権に関する判例について報告・解説・議論を行う	事前：配布プリントを読む(20 分) 事後：課題ペーパー(90 分)
15	財産権(2)	公用収容に関する判例について報告･解説・議論を行う	事前：配布プリントを読む(20 分) 事後：課題ペーパー(90 分)

関連科目：憲法概論、憲法Ⅰ(基本的人権)、憲法Ⅱ(統治機構)

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	各回に出される課題ペーパー(50%)、最終のレポート（50%）により評価します。
学生へのメッセージ	内容は難しくなりますが頑張りましょう。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　浮田准教授室
備考	課題のペーパーについては次の講義の最初に解説を行います。

科目名	民法応用講義Ⅰ	科目名（英文）	Advanced Civil Law Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	城内　明
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3099a0		

授業概要・目的	公務員試験や各種資格試験を視野に、問題演習等を通じて民法の知識の定着を図る。
到達目標	この授業を通じ、学生には、債権法分野について、公務員試験や各種資格試験を突破できる実力をつけることが期待される。
授業方法と留意点	新型コロナウィルス感染対策として、オンデマンド授業を実施します。 ①　まずは、Teams 上で、その日の課題(○月○日授業分課題)を開き、テストを受験してください(この結果は成績評価に反映されません)。なお、このテスト問題は、一般チャネルのクラスの資料フォルダーにアップします。復習時にご活用ください。 ②　受験後、自分が間違えたところをチェックしたうえで、解説動画を視聴してください。 ③　最後に、確認小テストを受験してください。(この試験結果の合計点で単位認定します。) 授業は、上述の通り、債権
科目学習の効果（資格）	公務員試験、宅建、司法試験(ロースクール)、司法書士試験、行政書士試験等。民法が受験科目となる試験全般。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	方針決定	実力テスト・希望聴取	民法の既習内容について、復習してくること。
2	債権総論① 債権の目的・債権の効力(1)	問題演習	授業範囲につき、事前に予習してくること。
3	債権総論② 債権の効力(2)	問題演習	授業範囲につき、事前に予習してくること。
4	債権総論③ 多数当事者の債権関係(1)	問題演習	授業範囲につき、事前に予習してくること。
5	債権総論④ 多数当事者の債権関係(2)	問題演習	授業範囲につき、事前に予習してくること。
6	債権総論⑤ 債権譲渡・債務引受(1)	問題演習	授業範囲につき、事前に予習してくること。
7	債権総論⑥ 債権譲渡・債務引受(2)	問題演習	授業範囲につき、事前に予習してくること。
8	債権総論⑦ -債権の消滅-	問題演習	授業範囲につき、事前に予習してくること。
9	債権各論① -契約の成立・契約の効力-	問題演習	授業範囲につき、事前に予習してくること。
10	債権各論② -契約の解除・定型約款-	問題演習	授業範囲につき、事前に予習してくること。
11	債権各論③ -贈与・売買-	問題演習	授業範囲につき、事前に予習してくること。
12	債権各論④ -消費貸借・使用貸借・賃貸借(1)-	問題演習	授業範囲につき、事前に予習してくること。
13	債権各論⑤ -賃貸借(2)-	問題演習	授業範囲につき、事前に予習してくること。
14	債権各論⑥ -請負・委任・組合・事務管理・不当利得-	問題演習	授業範囲につき、事前に予習してくること。
15	債権各論⑦ -契約法まとめ・不法行為-	問題演習	授業範囲につき、事前に予習してくること。

関連科目：民法（財産法）の全科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業後、Teams 上で、毎回、確認テストを実施します(7 点×14 回)。この合計点に授業アンケート(2 点)を加えた点数により成績評価します(100%)。成績評価に直結しますので、必ず、期限までに受験して下さい。
学生へのメッセージ	民法は、公務員試験や各種資格試験を突破するために鍵となる科目です。 3 年前期で、債権総論・各論を徹底的に学び直し、試験レベルの実力をつけることができれば、難関試験の突破も現実的な目標となります。大変とは思いますが、やる気のある学生のチャレンジをお待ちします。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　城内准教授室
備考	

科目名	民法応用講義Ⅱ	科目名（英文）	Advanced Civil Law II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大川　謙蔵
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3100a0		

授業概要・目的	民法に関連する各講義で学んだ基礎的な知識をもとに、各種資格試験棟で取り上げられている過去問を使用しつつ、民法の判例および法理論を多角的に検討する予定である。 本講義では、民法総則を扱う予定ではあるが、応用講義Ⅰで取り上げられたものとは異なる範囲で検討を行う。
到達目標	この講義を通じて学生には、民法を様々な角度から検討を行い、民法の基本的な制度・概念の理解を正確できるようになることが期待される。基本を押さえなければ、応用・発展的問題についての理解も進まないからである。
授業方法と留意点	公務員試験等の過去問を中心に取り上げ、法制度の基本的な理解から応用的・発展的な内容についても検討していくことを考えている。細かな点は学生の目標や能力等に合わせて、調整する予定である。 Teams を使った講義を行います。
科目学習の効果（資格）	民法の関連する試験全般

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	講義の内容、学生の目標等の確認。	民法の全体を復習しておくこと。
2	意思表示①	心裡留保・虚偽表示制度の確認。	心裡留保・虚偽表示制度の予復習を行ってください。予復習 90 分が目安です。
3	意思表示②	錯誤制度の確認。	錯誤制度の予復習を行ってください。予復習 90 分が目安です。
4	意思表示③	詐欺・強迫制度の確認。	詐欺・強迫制度の予復習を行ってください。予復習 90 分が目安です。
5	権利能力①	自然人の権利能力制度の確認。	自然人の権利能力制度の予復習を行ってください。予復習 90 分が目安です。
6	権利能力②	法人制度の確認。	法人制度の予復習を行ってください。予復習 90 分が目安です。
7	代理①	代理制度の全般を確認。	代理制度の予復習を行ってください。予復習 90 分が目安です。
8	代理②	無権代理の問題を確認。	無権代理制度の予復習をおこなって　ください。予復習 90 分が目安です。
9	代理③	無権代理と相続問題の確認。	無権代理と相続問題の予復習を行ってください。予復習 90 分が目安です。
10	代理④	表見代理制度の確認。	表見代理制度の予復習を行ってください。予復習 90 分が目安です。
11	条件・期限・期間	条件・期限・期間の内容の確認。	条件・期限・期間制度の予復習を行ってください。予復習 90 分が目安です。
12	時効①	時効全般について確認。	時効全般についての予復習を行ってください。予復習 90 分が目安です。
13	時効②	取得時効制度の確認	取得時効制度の予復習を行ってください。予復習 90 分が目安です。
14	時効③	消滅時効制度の確認。	消滅時効制度の予復習を行ってください。予復習 90 分が目安です。
15	確認テスト	全体の復習を兼ねてテストを行う予定。	全体的な復習を行ってください。予復習は 90 分が目安です。

関連科目：民法系科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	例年、少人数でのゼミ的な形で講義を行っていることから、講義での取り組みを中心に採点いたします。具体的には、講義での取り組みと講義内テストで採点を行う予定です。期末テストは行いません。ただし、詳細については講義で確認を行う予定である。
学生へのメッセージ	民法応用講義Ⅰの内容と重複しないようにする予定ではありますが、多少重複する部分も生じるかもしれません。詳細は、初回に確認を行います。
担当者の研究室等	11 号館９階　大川准教授室
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の３つから成り立っています。それぞれにつき、90 分を確保して学習をする必要があります。しかし、予習・復習については、各講義の内容により多少の違いが出てきますので、必ず講義でそれらの対象を聞くようにしてください。事前・事後学習内容について、講義で出された課題及び指摘部分の内容については、各対応時の講義で確認・解説を行います。 近年、受講態度のひどい学生が散見されます。受講の登録後であっても、そのような学生に対しては採点対象から外しますので、ご理解下さい。 確認テスト等については、teams を使ってフィードバック等を行う予定である。

科目名	商法応用講義	科目名（英文）	Advanced Commercial Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牛丸　輿志夫
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3101a0		

授業概要・目的	ロースクールや研究者になるために大学院への進学を希望する学生や国家公務員の試験に合格することを目指す学生に対して、商法、特に会社法について、高度の知識と応用力を付けるために、重要な法律上の問題を順次、講義する。 本講義の目的は、ロースクールや法科大学院の試験や国家公務員の試験に合格するための商法の知識および応用力を修得することである。
到達目標	この授業を通じて、学生は、ロースクールや研究者になるための大学院の試験や国家公務員の試験に合格するための商法の知識および応用力を修得することができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	授業では、練習問題を解き、解答について分析する。授業は、講義中心であるが、ディスカッションも取り入れる。 復習テストおよびレポート提出を課す。
科目学習の効果（資格）	ロースクールや研究者になるための大学院の試験や国家公務員の試験に合格するための商法の知識および応用力を修得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	会社法総論	会社の社団法人性、会社の種類と特質、投下資本の回収、会社のなす寄附、会社債権者の保護、株主有限責任の原則、法人格否認の法理、株主平等原則、少数派株主の権利確保、会社法上の訴えなどを学ぶ。　Microsoft　Teams で授業を行う。	事後に授業で学習したことの整理と確認（1時間）すること。授業で配布した資料を読むこと。
2	会社の設立	株式会社の設立手続の特徴、会社の定款、発起人組合と設立中の会社、開業準備行為、財産引受の無効と会社の追認の可否などを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認（1時間）すること。授業で配布した資料を読むこと。
3	株式（1）	株式の本質、単元株制度、株券発行前の株式譲渡の効力、譲渡制限株式の譲渡、契約による株式の譲渡制限　、種類株式、自己株式取得の要件などを学ぶ。	事前に教科書の関連部分を読むこと。事後に授業で学習したことの整理と確認（1時間）すること。授業で配布した資料を読むこと。
4	株式（2）	株券不所持制度、株券の発行・不発行、株券発行の時期、株券喪失登録制度、株式の名義書換え、名義書換え未了株式譲受人の地位などを学ぶ。	事前に教科書の関連部分を読むこと。事後に授業で学習したことの整理と確認（1時間）すること。授業で配布した資料を読むこと。
5	株主総会	株主総会・取締役会・代表取締役・執行役、株主総会の招集権、株主提案権、　書面投票制度・電磁的方法による議決権行使などを学ぶ。	事前に教科書の関連部分を読むこと。事後に授業で学習したことの整理と確認（1時間）すること。授業で配布した資料を読むこと。
6	取締役（1）	株主総会と取締役会との権限の関係、取締役会決議の瑕疵、代表取締役と取締役会との権限の関係、代表取締役の職務執行の適正確保などを学ぶ。	事前に教科書の関連部分を読むこと。事後に授業で学習したことの整理と確認（1時間）すること。授業で配布した資料を読むこと。
7	取締役（2）	取締役の善管注意義務、取締役の競業避止義務、取締役の利益相反、取締役の報酬、　取締役の権利義務者・一時取締役・取締役の職務代行者・補欠取締役などを学ぶ。	事前に教科書の関連部分を読むこと。事後に授業で学習したことの整理と確認（1時間）すること。授業で配布した資料を読むこと。
8	監査役	監査役による監査と取締役会による監査、内部統制システムと監査役、会計参与・監査役・会計監査人の異同などを学ぶ。	事事前に教科書の関連部分を読むこと。後に授業で学習したことの整理と確認（1時間）すること。授業で配布した資料を読むこと。
9	計算	資本金・株式・会社財産の関係、剰余金の分配に関する規制、現物配当、法定準備金、剰余金の配当等と会社債権者の保護 違法配当の効果などを学ぶ。	事前に教科書の関連部分を読むこと。事後に授業で学習したことの整理と確認（1時間）すること。授業で配布した資料を読むこと。
10	資金調達（1）	資金調達における株主の保護、資本金の額の増加の方法、株式会社設立時の株式発行と設立後の新株発行の差異、新株の第三者割当などを学ぶ。	事前に教科書の関連部分を読むこと。事後に授業で学習したことの整理と確認（1時間）すること。授業で配布した資料を読むこと。
11	資金調達（2）	公示義務違反、差止違反の株式発行の効力、新株発行の不存在と不存在確認の訴え、新株予約権、株式と社債の異同、社債権者の保護などを学ぶ。	事前に教科書の関連部分を読むこと。事後に授業で学習したことの整理と確認（1時間）すること。授業で配布した資料を読むこと。
12	企業再編（1）	持株会社（完全親子会社）、企業買収防衛策、合併比率の不公正、会社分割と会社債権者の保護などを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認（1時間）すること。授業で配布した資料を読むこと。
13	企業再編（2）	特別支配株主の株式等売渡請求、組織再編における価格決定申立てによる公正な価格、株式の相互保有、親子会社、一人会社などを学ぶ。	事前に教科書の関連部分を読むこと。事後に授業で学習したことの整理と確認（1時間）すること。授業で配布した資料を読むこと。
14	資本金の額の減少・解散	資本金の額の減少、資本金額減少無効の訴え、会社の解散・清算、解散命令と解散判決を学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認（1時間）すること。授業で配布した資料を読むこと。
15	持分会社	持分会社の社員の責任と地位、合名会社の投資資本の回収方法、持分会社および株式会社における出資の確保などを学	事前に教科書の関連部分を読むこと。事後に授業で学習したことの整理と確認（1時間）すること。授業で配布した資料を読むこと。

		ぶ。	

関連科目	会社法
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プライマリー会社法（最新版）	藤田勝利・北村雅史編	法律文化社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	定期試験５0%復習テスト２0%レポート 30%
学生への メッセージ	予習を十分にすること。授業中、ポケット六法を携帯すること。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　牛丸教授室
備考	教科書の該当箇所の予習・復習には各 1 時間とって下さい。 確認テストの正解は次の回の授業で解説する。 20 年度　合格率 93.8%　（不受験率 6.3%）　A16.7%　B12.5%　C32.3%　D32.3%　平均 77 点　96 人登録

科目名	民事訴訟法応用講義	科目名（英文）	Advanced Civil Procedure
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	萩原　佐織
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3102a0		

授業概要・目的	民法等により認められた権利が害され、私人間に紛争が生じた場合、その紛争解決手段として用いられるのが民事訴訟手続である。当該講義は、紛争解決手段としての民事訴訟手続につき、前期の民事訴訟法で学んだ知識をもとに、それらを発展・応用する能力を培うことを目的とする。紛争の対象として取り扱うのが民法上の権利であるため、民法全般の復習・発展に役立つ。また、「実体法である民法」と「手続法である民事訴訟法を」含めた『民事法』としての総合的理解を図り、それらの知識を深めることを、目的とする。
到達目標	前期の民事訴訟法では、民事法の中における民事訴訟法が果たす役割や民事裁判の全体的な流れについて学んだ。そこでは、当事者（原告・被告）がともに単数（1 人）であることを前提としていたが、本講義を通じて学生には、当事者の一方または双方が複数人である多数当事者訴訟についても学び、例えば新聞等でもよく耳にする団体訴訟等についてその仕組みと機能について理解を深めることが期待される。 また、判決の効力、証明責任や証拠提出命令、家庭紛争（家事審判・調停・人事訴訟）など、前期の民事訴訟法では触れられなかったテーマにつ
授業方法と留意点	講義は、事前に Teams 上にアップされているレジュメ（約 10 頁：判例を含む）をプリントアウトして持参し、六法を用いて行う。分かり易いようにレジュメはカラーにしてあるが、白黒で印刷しても構わない。毎回、レジュメでは、主要個所が括弧空けにされているので、事前学習としてレジュメ・教科書等の該当箇所や関連判例を読み、その括弧に何が入るのかを考えてくること。講義において、その括弧に当てはまる用語や説明等を聞き、自分で書き込む。アクティブ・ラーニング型の講義を目標としているため、事前学習として、Teams 上のクイズ
科目学習の効果（資格）	・紛争解決手段である民事訴訟手続のしくみが理解できるようになる。 ・大学院ならびに法科大学院等への進学、裁判所職員（事務官・書記官）、司法書士、法検スタンダードコースなどの受験に対応できる知識・応用力を養う。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス ・現在の裁判	・授業の進め方、受講上の注意、評価方法等について ・現在の裁判における状況 ・時事問題	事後学習：講義における配布資料の復習（事後学習に要する時間　約 1 時間）
2	・民事訴訟の基本原則 ・訴訟の終了	・当事者の処分権主義 ・弁論主義 ・訴えの取下げ ・請求の放棄/認諾 ・訴訟上の和解	事前学習：教科書　7-1 処分権主義・7-2 弁論主義 （判例）最二小判昭和 46 年 6 月 25 日刑事上罰すべき他人の行為による訴えの取下げ、最二小判昭和 33 年 6 月 14 日　訴え取下げの合意の効力 事前事後学習：講義における配布資料の復習、小テスト又は課題 （事前事後学習に要する時間：各 2 時間、以下同様）
3	証拠Ⅰ ・自由心証主義 ・文書提出命令	・自由心証主義とは？ ・文書提出命令	事前学習：教科書　8-1 事由心証主義、8-2（4）文書提出命令 （判例）最三小決平成 20 年 11 月 25 日　文書提出命令　職業の秘密 事後学習：講義における配布資料の復習、小テスト又は課題 （各 2 時間）
4	証拠Ⅱ ・立証困難の克服 ・証明がつかないときはどうなるのか？	・相当な損害額の認定 ・証明責任とは何か？ ・証明責任の分配 ・証明責任の転換	事前学習：教科書　8-3 立証困難の克服、 8-4 証明責任 （判例）最三小判昭和 35 年 2 月 2 日　証明責任の分配　虚偽表示における第三者の善意 事後学習：講義における配布資料の復習、小テスト又は課題 （各 2 時間）
5	判決Ⅰ ・判決の効力とは？	・既判力とは？ ・既判力の作用	事前学習：教科書　9-2 既判力 （判例）最二小判昭和 51 年 9 月 30 日　信義則による後訴の遮断、最三小昭和 44 年 7 月 8 日　確定判決と損害賠償請求 事後学習：講義における配布資料の復習、小テスト又は課題 （各 2 時間）
6	判決Ⅱ ・どの時点を基準にするか？	・基準時 ・既判力の時的限界	事前学習：教科書　9-2（3）基準時 （判例）最一小判昭和 55 年 10 月 23 日　取消権、最二小判平成 7 年 12 月 15 日　建物買取請求権 事後学習：講義における配布資料の復習、小テスト又は課題 （各 2 時間）
7	判決Ⅲ ・判決の効力は何に対して及ぶか？	・訴訟物による限界 ・既判力の客観的範囲 ・相殺の抗弁 ・争点効	事前学習：教科書　9-2（2）客観的範囲 （判例）最三小判昭和 44 年 7 月 8 日　争点効、最二小判昭和 49 年 4 月 26 日　既判力に準ずる効力 事後学習：講義における配布資料の復習、小テスト又は課題 （各 2 時間）
8	判決Ⅳ ・判決の効力は誰に対して及ぶか？	・既判力の及ぶ人の範囲 ・既判力の主観的範囲 ・口頭弁論終結後の承継人 ・反射効	事前学習：教科書　9-2（4）主観的範囲 （判例）最一小判昭和 48 年 6 月 21 日　口頭弁論終結後の承継人、最一小判昭和 53 年 3 月 23 日　反射効 事後学習：講義における配布資料の復習、小テスト又は課題 （各 2 時間）
9	判決Ⅴ ・一部請求 ・一部判決	・全部請求と一部請求 ・一部請求判決と残部請求 ・全部判決と一部判決 ・後遺症との関係（標準事後の事情変更）	事前学習：教科書　9-1（1）（ｂ）全部判決と一部判決、9-2（2）（ｃ）一部請求と残部請求 （判例）最二小判判昭和 42 年 7 月 18 日　一部請求後の残部請求　明示された場合、最二小判昭和 32 年 6 月 7 日　一部請求後の残部請求　明示されて以

			内場合、最三小判昭和 42 年 7 月 18 日　後遺症 事後学習：講義における配布資料の復習、小テスト又は課題 （各 2 時間）
10	複数請求訴訟 ・訴訟物論と請求権競合	・単純併合 ・予備的/選択的併合 ・訴えの変更 ・反訴 ・中間確認の訴え	事前学習：教科書　3-3 訴えの併合 （判例） 事後学習：講義における配布資料の復習、小テスト又は課題 （各 2 時間）
11	複数当事者訴訟Ⅰ ・当事者の交替 ・訴訟承継	・当然承継 ・参加承継/引受承継 ・任意的当事者変更	事前学習：教科書　5-6 訴訟承継 （判例）最三小判昭和 41 年 3 月 22 日引受承継人の範囲 事後学習：講義における配布資料の復習、小テスト又は課題 （各 2 時間）
12	複数当事者訴訟Ⅱ ・当事者が多数となる訴訟	・通常共同訴訟 ・必要的共同訴訟 ・主観的追加的/予備的併合 ・同時審判申出訴訟	事前学習：教科書　5-4 複数当事者 （判例）最二小判昭和 62 年 7 月 17 日主観的追加的併合、最二小判平成 15 年 7 月 11 日　共同相続人の一人による訴え事後学習：講義における配布資料の復習、小テスト又は課題（各 2 時間）
13	複数当事者訴訟Ⅲ ・当事者以外が関与する訴訟	・補助参加 ・訴訟告知	事前学習：教科書　5-5（2）補助参加 （判例）東京高決平成 20 年 4 月 30 日補助参加の利益、最三小判平成 14 年 1 月 22 日　訴訟告知と参加的効力 事後学習：講義における配布資料の復習、小テスト又は課題 （各 2 時間）
14	複数当事者訴訟Ⅳ ・第三者による当事者としての訴訟参加	・独立当事者参加	事前学習：教科書　5-5（3）独立当事者参加 （判例）最二小昭和 48 年 7 月 20 日　独立当事者参加における敗訴者の一人による上訴、仙台高判昭和 55 年 5 月 30 日　独立当事者参加訴訟における二当事者間での和解 事後学習：講義における配布資料の復習、小テスト又は課題 （各 2 時間）
15	まとめ	・復習 ・時事問題 ・最新のテーマ/判例	事前学習：全レジュメを読み返して復習する。 事後学習：講義における配付資料の復習、小テスト又は課題（各 3 時間）

関連科目	民法全般、民事訴訟法、民事保全・執行法、倒産法、国際私法、国際取引法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	民事裁判入門〔第 3 版補訂版〕	中野貞一郎	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	民事訴訟法　判例百選〔第 5 版〕	高橋・高田・畑編	有斐閣
2			
3			

評価方法 （基準）	10 回程度を予定として講義後に課す Teams 上における記述式課題又はクイズ機能を用いた小テスト等において総合評価する。また、講義への積極的な姿勢による加点や、講義中の態度による減点を考慮する。詳細は講義にて。
学生への メッセージ	講義中における私語・携帯等の使用については、他の学生の迷惑になるので、厳しく対処します。六法は講義で常に使用するので、必ず持参すること。紛争解決手段である民事訴訟手続を学ぶことで、既に学んだ民法全般の知識をリフレッシュさせてください。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　萩原准教授室
備考	レポート等の返却は、後日、添削・評価してから、講義内、Teams 上又はキャリアルームにおいて行うものとする。 適宜、講義内において指導する。返却された Teams 上の課題や小テスト等については、得点、平均点、解答、各問の正答率やコメント等のフィードバックを上手く復習に利用すること。

科目名	刑法応用講義Ⅰ	科目名（英文）	Advanced Criminal Law I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小野　晃正
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3103a0		

授業概要・目的	2回生配当の刑法総論において、十分な時間を割いて取り扱うことができなかった応用的論点（修正された構成要件論）について、最新の判例と学説動向を踏まえながら解説を行うとともに、こうした問題をテーマにした公務員試験（裁判所事務官・労働基準監督官・地方公務員）、司法書士および司法試験等の客観式問題を確実に正解できる力を身につけてもらうことを目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、 「・未遂犯および共犯の処罰根拠を説明できる ・刑法総論をテーマとした事例における論点（問題の争点）を抽出し、それに対する判例や通説的見解の内容を説明できる ・各種公務員試験や国家試験で必要とされる刑法総論に関する知識を修得できる」 ようになることが期待される。
授業方法と留意点	・新型コロナ変異株の流行により、第2回目の授業から当面のあいだ、本授業はMicrosoft社のteamsを用いたオンデマンド動画配信方式で行う。 ・課題提示や資料ｊ配布などはMicrosoft社teamsを通じて行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。 留意点：毎回出席することで、問題を解く際の頭の働かせ方を身につけることができる。
科目学習の効果（資格）	司法試験や法科大学院入学試験の準備、裁判所事務官・労働基準監督官・地方公務員採用試験など。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	講義の進め方の説明	教科書の入手 事前：教科書の単独正犯に関する構成要件論をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：教科書の単独正犯に関する章末問題を解くこと（2時間）
2	未遂犯	予備犯と未遂犯 未遂犯の処罰根拠 実行の着手	事前：障害未遂をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：障害未遂を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
3	不能犯	不能犯をめぐる近時の判例・学説動向	事前：不能犯をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：不能犯を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
4	中止未遂	中止未遂をめぐる近時の判例・学説動向	事前：中止未遂をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：中止未遂を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
5	共犯の基礎	狭義の共犯と広義の共犯 共犯の処罰根拠 共犯の従属性	事前：共犯の処罰根拠論をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：共犯の処罰根拠論を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
6	共同正犯１	実行共同正犯	事前：実行共同正犯をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：実行共同正犯を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
7	共同正犯２	共謀共同正犯	事前：共謀共同正犯をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：共謀共同正犯を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
8	共同正犯３	過失の共同正犯	事前：過失の共同正犯をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：過失の共同正犯を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
9	教唆犯と幇助犯	狭義の共犯をめぐる近時の学説・判例動向	事前：教唆犯と幇助犯をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：教唆犯と幇助犯を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
10	共犯をめぐる諸問題１	片面的共犯と承継的共犯をめぐる近時の学説・判例動向	事前：片面的共犯と承継的共犯をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：片面的共犯と承継的共犯を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
11	共犯をめぐる諸問題２	共犯関係からの離脱・共犯の中止犯をめぐる近時の学説・判例動向	事前：共犯からの離脱と共犯の中止をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：共犯からの離脱と共犯の中止を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
12	共犯をめぐる諸問題３	共犯の錯誤、共犯と緊急行為をめぐる近時の学説・判例動向	事前：共犯の錯誤をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：共犯の錯誤を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
13	共犯と身分	共犯と身分をめぐる近時の学説・判例動向	事前：共犯と身分をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：共犯と身分を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
14	罪数	一罪と数罪 法条競合 包括一罪 科刑上一罪 併合罪	事前：罪数論をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：罪数論を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
15	講義のまとめ	重要事項の総復習	事前：未遂犯論と共犯論をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：未遂犯論と共犯論を見直し、章末問題を解くこと（2時間）

関連科目	刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑事政策、現代社会と刑事法など
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	入門刑法学・総論 第2版	井田　良	有斐閣
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	刑法総論（第2版）	佐久間　修	成文堂
2	判例集および補助教材について開講時に指示する		
3			

評価方法 （基準）	・形成的評価を行うため、Microsoft 社 teams を通じて、Microsoft　forms から課題を提出し、その回答内容を評価対象とする（100%）。
学生への メッセージ	・刑法が好きな学生や上記各種試験等の準備を要する学生の履修を歓迎する。ただし、少なくとも刑法総論については単位取得または同時履修しておくことが望ましい。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　小野教授室
備考	課題に対するコメントは次回講義または teams を通じて行う。 20 年度　合格率 98.5%　（不受験率 0%）　A15.2%　B22.7%　C53.0%　D7.6%　平均 75 点　66 人登録

科目名	刑法応用講義Ⅱ	科目名（英文）	Advanced Criminal Law II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小野　晃正
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3104a0		

授業概要・目的	2回生後期配当の刑法各論において十分に時間を割いて取り扱うことができなかった応用的論点（財産犯論）について、最新の判例と学説動向を踏まえながら解説を行うとともに、こうした問題をテーマにした公務員試験（裁判所事務官・労働基準監督官・地方公務員）、司法書士および司法試験等の客観式問題を確実に正解できる力を身につけてもらうことを目的とする。
到達目標	この講義を通じて学生には、 「・各種の財産犯について、その共通点と相違点を説明できる ・財産犯をテーマとした事例における論点（問題の争点）を抽出し、それに対する判例や通説的見解の内容を説明できる ・各種公務員試験や国家試験で必要とされる財産犯に関する知識を修得できる」 ようになることが期待される。
授業方法と留意点	・新型コロナ変異株の流行により、第1回目の授業から当面のあいだ、本授業はMicrosoft社のteamsを用いたオンデマンド動画配信方式で行う。 ↓ ※【講義形式変更告知】職域ワクチン接種が終了したのちの2021年10月27日（水）～ ・2021年10月27日（水）から対面にて講義を行う。 ・成績評価は従来通り、teams上のリンクから回収した同一の課題に対する答案の総得点で評価する。 ・課題は対面講義が終了した後に、teams上の該当回のチャンネルに上げる。同時に復習に資する動
科目学習の効果（資格）	司法試験や法科大学院入学試験の準備、裁判所事務官・労働基準監督官・地方公務員採用試験など。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	講義の進め方の説明	初回までに教科書を入手しておくこと。 事前：刑法各論の概要と保護法益論をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：刑法各論の概要と保護法益論を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
2	財産犯総論	財産犯の分類 財物の意義 財産上の利益	事前：財産犯総論をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：財産犯総論を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
3	窃盗罪１	窃取の意義	事前：窃取の意義をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：窃取の意義を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
4	窃盗罪２	不法領得の意思 窃盗罪をめぐる近時の判例・学説動向	事前：不法領得の意思をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：不法領得の意思を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
5	強盗罪１	強盗の要件	事前：強盗の要件論をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：強盗の要件論を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
6	強盗罪２	事後強盗をめぐる近時の学説・判例動向	事前：事後強盗をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：事後強盗を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
7	強盗罪３	強盗殺人・強盗致死罪ほか	事前：強盗殺人をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：強盗殺人を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
8	詐欺罪１	詐欺罪の要件	事前：詐欺罪の要件論をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：詐欺罪の要件論を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
9	詐欺罪２	詐欺罪をめぐる近時の学説・判例動向	事前：詐欺罪の学説動向をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：詐欺罪の学説動向を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
10	恐喝罪	恐喝罪をめぐる近時の学説・判例動向	事前：恐喝罪の要件をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：恐喝罪の要件を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
11	横領罪	横領罪をめぐる近時の学説・判例動向	事前：横領罪の要件をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：横領罪の要件を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
12	背任罪	背任罪をめぐる近時の学説・判例動向	事前：背任罪の要件をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：背任罪の要件を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
13	横領と背任の区別	背任罪をめぐる近時の学説・判例動向 横領と背任の区別	事前：横領と背任の区別をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：横領と背任区別を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
14	盗品等関与罪 器物損壊罪ほか	盗品等関与罪をめぐる近時の学説・判例動向	事前：盗品等関与罪をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：盗品等関与罪を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
15	まとめ	重要事項の総復習	事前：財産犯論全体をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：財産犯論全体を見直し、章末問題を解くこと（2時間）

関連科目	・刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑事政策、現代社会と刑事法など ・財産犯の理解には、民法の知識が必要である。 とくに、典型担保、非典型担保、債権総論、契約法、不当利得については本学で開講されている民法諸科目を履修していることが望ましい。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	入門刑法学・各論 第２版	井田　良	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	刑法各論	佐久間　修	成文堂
2	判例集および補助教材について開講時に指示する		
3			

評価方法 （基準）	・形成的評価を行うため、Microsoft 社 teams を通じて、Microsoft　forms から課題を提出し、その回答内容を評価対象とする（100%）。
学生への メッセージ	・刑法が好きな学生や上記各種試験等の準備を要する学生の履修を歓迎する。ただし、少なくとも刑法各論については単位取得または同時履修しておくことが望ましい。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　小野教授室
備考	課題に対するコメントは次回講義または teams を通じて行う。 20 年度　合格率 100.0%　（不受験率 0%）　A11.5%　B26.2%　C54.1%　D8.2%　平均 75 点　61 人登録 ※【講義形式変更告知】職域ワクチン接種が終了したのちの 2021 年 10 月 27 日（水）～ ・2021 年 10 月 27 日（水）から対面にて講義を行う。 ・成績評価は従来通り、teams 上のリンクから回収した同一の課題に対する答案の総得点で評価する。 ・課題は対面講義が終了した後に、teams 上の該当回のチャンネルに上げる。同時に復習に資する動画ファイルも配信する。 ・受講者は teams 上のレジュメをダウンロードし、各自プリントアウトし必ず持参すること（レジュメの教室配布はしない）。 ・対面講義参加希望者は六法全書を必ず持参すること。 ・課題提示や資料ｊ配布などは Microsoft 社 teams を通じて行う。

科目名	刑事訴訟法応用講義	科目名（英文）	Advanced Criminal Procedure
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	島田　良一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3105a0		

授業概要・目的	我が国の刑事手続に関する応用的問題について、学説・判例の動向を踏まえながら解説する。
到達目標	この授業を通じて学生には、我が国の刑事手続に関する専門的知識を有するとともに、そうした知識を活用し、応用的問題に対する解決案を立案できる能力を修得することが期待される。
授業方法と留意点	●授業方法 授業担当者作成にかかるレジュメに基づいて授業を進めていく。 なお、新型コロナ禍に関する大学からの指示により、オンデマンド方式（Teams）で授業を行う。 →　11 月 4 日以降、対面形式で行います。 ●留意点 本授業は「応用講義」であることから、受講生が刑事訴訟法のみならず刑事法全般について基本的知識を修得していることを前提として授業を進めていく。したがって、本授業を受講しようとする学生に対しては、刑事訴訟法や刑法における基本概念を理解していることはもちろんのこと、学説や判例に
科目学習の効果（資格）	司法試験、法科大学院入学試験、裁判所事務官採用試験など。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	講義の進め方の説明や刑事訴訟法の勉強の仕方など	教科書やレジュメを見直し、重要論点を再確認すること（約 1 時間）
2	捜査に関する一般規範	捜査比例の原則、強制処分法定主義、任意捜査の原則、令状主義など	教科書やレジュメを見直し、重要論点を再確認すること（約 1 時間）
3	職務質問	所持品検査、自動車検問など	教科書やレジュメを見直し、重要論点を再確認すること（約 1 時間）
4	逮捕・勾留①	事件単位の原則、一罪一逮捕一勾留の原則、再逮捕・再勾留の禁止、別件逮捕・勾留など	教科書やレジュメを見直し、重要論点を再確認すること（約 1 時間）
5	逮捕・勾留②	前回の続き	教科書やレジュメを見直し、重要論点を再確認すること（約 1 時間）
6	被疑者取調べ	身柄不拘束及び身柄拘束中の被疑者の取調べ	教科書やレジュメを見直し、重要論点を再確認すること（約 1 時間）
7	捜索・押収	捜索・押収に関する諸問題	教科書やレジュメを見直し、重要論点を再確認すること（約 1 時間）
8	その他の捜査方法	写真・ビデオ撮影、GPS 装置の使用、おとり捜査、コントロールド・デリヴァリーなど	教科書やレジュメを見直し、重要論点を再確認すること（約 1 時間）
9	公訴提起	訴因、起訴状一本主義、予断排除の原則など	教科書やレジュメを見直し、重要論点を再確認すること（約 1 時間）
10	訴因・罰条の変更①	訴因変更の可否・許否・要否など	教科書やレジュメを見直し、重要論点を再確認すること（約 1 時間）
11	訴因・罰条の変更②	前回の続き	教科書やレジュメを見直し、重要論点を再確認すること（約 1 時間）
12	証拠の関連性	類似行為の事実の立証、科学的証拠など	教科書やレジュメを見直し、重要論点を再確認すること（約 1 時間）
13	伝聞法則	伝聞法則およびその例外など	教科書やレジュメを見直し、重要論点を再確認すること（約 1 時間）
14	違法収集証拠排除法則	排除法則に関する諸問題	教科書やレジュメを見直し、重要論点を再確認すること（約 1 時間）
15	自白法則	自白法則に関する諸問題	教科書やレジュメを見直し、重要論点を再確認すること（約 1 時間）

関連科目：刑事訴訟法、刑法総論、刑法各論、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事法概論、刑事政策、現代社会と刑事法、経済刑法など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	刑事訴訟法（第 2 版）	宇藤崇・松田岳士・堀江慎司	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	判例教材刑事訴訟法（第 5 版）	三井誠編	東京大学出版会
2	刑事訴訟法判例百選（第 10 版）	井上正仁・大澤裕・川出敏裕編	有斐閣
3	刑事訴訟法（第 2 版）	酒巻匡	有斐閣

評価方法（基準）	毎回、授業の後に課題を出すのでその内容で評価する（100%） なお、場合によっては、授業のテーマごとにまとめて課題を出すこともあります。 また、課題の方法として Teams を利用する場合は授業内でお知らせします。
学生へのメッセージ	上記「関連科目」で示した講義の履修・単位取得の有無は、必ずしも本授業を受講するに当たっての履修条件ではないが、上記「授業方法と留意点」のところで述べたような理由から、少なくとも刑事訴訟法、刑法総論については履修・単位取得しておくことが望ましい。
担当者の研究室等	11 号館 9 階 島田准教授室
備考	講義の際、六法は必携。 授業内容の疑問点について学生から質問があった場合、次回以降の授業の中で適宜解説する。

科目名	企業法務特別講義Ⅰ（金融法実務）	科目名（英文）	Special Lecture on Business Law I (Financial Law Practice)
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	牛丸　與志夫
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3106a0		

授業概要・目的	金融法のうち、特に銀行取引に関して、実務的側面を重視して、講義を行う。 本講義では、銀行の固有業務である受信取引と与信取引を取り上げる 本講義の目的は、銀行に対する法律の規制、法律問題および銀行実務の基礎的な知識および応用力を習得することである。
到達目標	この授業を通じて、学生は、銀行に就職を希望する学生が自信を持って就職活動を行うことができ、また銀行に就職後、自信を持って業務を行うことができるために、銀行に対する法律の規制、法律問題および銀行実務の基礎的な知識および応用力を習得することができるようになることが期待される。。
授業方法と留意点	必要な資料は、授業中に配布する。授業は、講義中心であるが、ディスカッションも取り入れる。 復習テストおよびレポートを課す。。
科目学習の効果（資格）	銀行等の金融機関に就職する時と就職後に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	金融法概観	金融法の範囲と基礎概念、 金融取引の類型、、 金融取引に関する特別法、、 金融規制の目的と近年の動向等についてを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認（1時間）をすること。
2	受信取引法（1）	預金契約についてを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認（1時間）をすること。
3	受信取引法（2）	預金の成立についてを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認（1時間）をすること。
4	受信取引法（3）	預金の帰属についてを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認（1時間）をすること。
5	受信取引法（4）	預金の払戻しについてを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認（1時間）をすること。
6	受信取引法（5）	預金の相続についてを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認（1時間）をすること。
7	受信取引法（6）	預金と時効、 複数店預金に対する差押え等についてを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認（1時間）をすること。
8	与信取引法１（1）	銀行の与信業務と根拠法、 与信業務にかかる法規制等についてを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認（1時間）をすること。
9	与信取引法１（2）	与信判断における善管注意義務についてを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認（1時間）をすること。
10	与信取引法１（3）	与信の相手方、 銀行取引約定書等についてを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認（1時間）をすること。
11	与信取引法１（4）	与信の具体的態様についてを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認（1時間）をすること。
12	与信取引法１（5）	保証・損失補償についてを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認（1時間）をすること。
13	与信取引法１（6）	担保についてを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認（1時間）をすること。
14	与信取引法２（1）	債権管理についてを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認（1時間）をすること。
15	与信取引法２(2)	債権回収についてを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認（1時間）をすること。

関連科目：民法、商法、金融商品取引法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験５0%復習テス 20%レポート 30%
学生へのメッセージ	辛抱強く、勉強してください。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　牛丸教授室
備考	予習・復習には各 1 時間とって下さい。 復習テストの正解は次の回の授業で解説する。 20 年度　合格率 97.6%　（不受験率 2.4%）　A5.5%　B17.3%　C56.7%　D18.1%　平均 73 点　127 人登録

科目名	ボランティアと法律	科目名（英文）	Volunteers and Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	中沼　丈晃
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3109a0		

授業概要・目的	本講義では、法律と密接に関わるボランティア活動、ボランティアが関わる現場の法律問題、ボランティア活動の盛り上がりが背景にある立法、ボランティア活動に期待する立法について、実務家と担当者が対談する。その後、履修学生と意見交換を行う。
到達目標	この授業を通じて学生には次のことが期待される。①ボランティア活動が「お手伝い」とは限らず、公共の目的を実現するうえで不可欠な固有の役割があることを理解する。②その役割を担ううえで、法律を正しく理解する、法律問題に備える、立法を促す、という自立的な行動が必要になる点を考える。③行政がボランティア活動を促すためにどのような施策・事業を行っているか知る。④対談を聴いて、意見や疑問を言葉にし、意見交換を行う能力を養う。
授業方法と留意点	本講義は、１回連続２コマで行うので、そのことを理解したうえで履修すること。１コマ目は実務家と担当者との対談を聴き、２コマ目は学生との意見交換を行う。両方に出席することが求められる。
科目学習の効果（資格）	公務員試験の課題式論文や面接、集団討論に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ボランティアと法律との関わり(1)	民生委員、保護司、人権擁護委員、行政相談委員など、行政委嘱の無報酬の各種委員の役割を知る。	配布資料を見直す。（約１時間）
2	ボランティアと法律との関わり(2)	教育や福祉、防犯や防災など、ボランティアによって支えられている現場の広がりを知る。	配布資料を見直す。（約１時間）
3	学校教育の現場の法律問題(1)	学校での事故や体罰、いじめなどの法律問題について、弁護士と担当者との対談を聴く。	配布資料を読む。（約１時間）
4	学校教育の現場の法律問題(2)	上記の対談を聴いたうえで、弁護士と意見交換をする。	振り返りシートの作成。（約２時間）
5	自然学校の安全管理(1)	子どもに自然体験の機会を提供する自然学校での安全管理について、自然学校経営者と担当者との対談を聴く。	配布資料を読む。（約１時間）
6	自然学校の安全管理(2)	上記の対談を聴いたうえで、自然学校経営者と意見交換をする。	振り返りシートの作成。（約２時間）
7	高齢者福祉の現場の法律問題(1)	老人ホームや老人保健施設などでの法律問題について、社会福祉法人経営者と担当者との対談を聴く。	配布資料を読む。（約１時間）
8	高齢者福祉の現場の法律問題(2)	上記の対談を聴いたうえで、社会福祉法人経営者と意見交換をする。	振り返りシートの作成。（約２時間）
9	民生委員の役割(1)	地域で高齢者や障害者、ひとり親家庭の状況を把握し、支援を行う民生員と担当者との対談を聴く。	配布資料を読む。（約１時間）
10	民生委員の役割(2)	上記の対談を聴いたうえで、民生委員と意見交換をする。	振り返りシートの作成。（約２時間）
11	保護司の役割(1)	犯罪を犯した者や非行のある少年の改善更生を助ける保護司と担当者との対談を聴く。	配布資料を読む。（約１時間）
12	保護司の役割(2)	上記の対談を聴いたうえで、保護司と意見交換をする。	振り返りシートの作成。（約２時間）
13	ひきこもり、不登校などの問題を抱える人たちの支援(1)	ひきこもり、不登校などの問題を抱える人たちを支援している実務家と担当者との対談を聴く。	配布資料を読む。（約１時間）
14	ひきこもり、不登校などの問題を抱える人たちの支援(2)	上記の対談を聴いたうえで、実務家と意見交換をする。	振り返りシートの作成。（約２時間）
15	ボランティア固有の役割とは何か？	これまでの対談・意見交換を振り返って、ボランティアの固有の役割を考える。	これまでの振り返りシートの見直し。（約１時間）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	実務家との意見交換での発言内容(20%)、振り返りシートの出来(40%)、期末レポート(40%)を総合して評価する。
学生へのメッセージ	現場で活躍する実務家の話をじっくり聴き、意見交換ができる機会を多く提供します。意欲的にボランティア活動をしている学生に履修してほしいと思います。
担当者の研究室等	11 号館９階 中沼教授室
備考	振り返りシートの感想部分を実務家に伝え、それを読んでいただいた感想を、後日、受講生に伝える。

科目名	地域政策応用講義Ⅱ（地方政策論）	科目名（英文）	Regional Policy Application Lecture II (Local Policy Theory)
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	増田　知也
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3111a0		

授業概要・目的	この授業は、「住民自治」をキーワードに、地域政策を実践的に学ぶための科目です。地方自治の現場における様々な事例を取り上げ、関連する知識と共に、常に住民を主体に考えるという視点を身につけてもらいたいと思います。
到達目標	この授業を通じて学生には、地域政策における重要用語の意味を説明することができ、住民自治の視点から地域政策を分析することができ、地域政策についての自分の意見を持ち、他者と討議することができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	ABD の手法により文献を講読する。 その後、穴埋め式のレジュメを配布し、解説を行う。
科目学習の効果（資格）	将来公務員を目指す学生が地域政策の課題や重要概念について学ぶことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	地方自治に未来はあるか	内容：民主主義国家における地方自治の役割を学ぶ 方法：「授業方法と留意点」を参照	事前：『地方自治と民主主義』第 1 章を読む（2 時間） 事後：確認テストの内容について復習する（2 時間）
2	日本国憲法と地方自治	内容：日本国憲法における地方自治の位置づけを学ぶ 方法：「授業方法と留意点」を参照	事前：『地方自治と民主主義』第 2 章を読む（2 時間） 事後：確認テストの内容について復習する（2 時間）
3	望まれる地方公務員像	内容：地方公務員制度の課題について学ぶ 方法：「授業方法と留意点」を参照	事前：『地方自治と民主主義』第 23 章を読む（2 時間） 事後：確認テストの内容について復習する（2 時間）
4	地方自治に未来をあらしめるために	内容：地方自治の課題について学ぶ 方法：「授業方法と留意点」を参照	事前：『地方自治と民主主義』第 24 章を読む（2 時間） 事後：確認テストの内容について復習する（2 時間）
5	私たちと地方自治	内容：地方自治の分析視点を学ぶ 方法：「授業方法と留意点」を参照	事前：『地方自治を問いなおす』序章を読む（2 時間） 事後：確認テストの内容について復習する（2 時間）
6	地方自治とコミュニティ・ソリューション	内容：コミュニティによる問題解決の手法を学ぶ 方法：「授業方法と留意点」を参照	事前：『地方自治を問いなおす』第 1 章を読む（2 時間） 事後：確認テストの内容について復習する（2 時間）
7	迷惑施設問題と手続き的公正	内容：迷惑施設問題について学ぶ 方法：「授業方法と留意点」を参照	事前：『地方自治を問いなおす』第 2 章を読む（2 時間） 事後：確認テストの内容について復習する（2 時間）
8	グローバル化社会における地方自治	内容：グローバル化の地方自治への影響について学ぶ 方法：「授業方法と留意点」を参照	事前：『地方自治を問いなおす』第 3 章を読む（2 時間） 事後：確認テストの内容について復習する（2 時間）
9	行政現場における政策形成過程と施策形成過程	内容：政策形成過程について学ぶ 方法：「授業方法と留意点」を参照	事前：『地方自治を問いなおす』第 4 章を読む（2 時間） 事後：確認テストの内容について復習する（2 時間）
10	自治体行政と協働	内容：自治体組織における協働の課題について学ぶ 方法：「授業方法と留意点」を参照	事前：『地方自治を問いなおす』第 5 章を読む（2 時間） 事後：確認テストの内容について復習する（2 時間）
11	地域住民協議会の運営と展望	内容：地域自治組織の運営上の課題について学ぶ 方法：「授業方法と留意点」を参照	事前：『地方自治を問いなおす』第 6 章を読む（2 時間） 事後：確認テストの内容について復習する（2 時間）
12	住民自治と地域活動	内容：地域活動の課題について学ぶ 方法：「授業方法と留意点」を参照	事前：『地方自治を問いなおす』第 7 章を読む（2 時間） 事後：確認テストの内容について復習する（2 時間）
13	住民自治を支える公民館運営	内容：地方自治における公民館の役割について学ぶ 方法：「授業方法と留意点」を参照	事前：『地方自治を問いなおす』第 8 章を読む（2 時間） 事後：確認テストの内容について復習する（2 時間）
14	住民自治と行政相談委員	内容：行政相談委員が地方自治に与える影響について学ぶ 方法：「授業方法と留意点」を参照	事前：『地方自治を問いなおす』第 9 章を読む（2 時間） 事後：確認テストの内容について復習する（2 時間）
15	地方自治を問いなおす	内容：これからの地方自治を展望する 方法：「授業方法と留意点」を参照	事前：『地方自治を問いなおす』終章を読む（2 時間） 事後：確認テストの内容について復習する（2 時間）

関連科目

「地方自治論」では関連する知識を学ぶことができます
「住民協働論」では地域づくりの担い手である地域公共人材について学ぶことができます
「福祉政策論」では福祉政策についての知識を学ぶことができます

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	地方自治を問いなおす：住民自治の実践がひらく新地平	今川晃	法律文化社
2	地方自治と民主主義	佐藤竺	大蔵省印刷局
3			

評価方法	定期試験（または期末レポート）50%、小テスト 50%

（基準）	
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　増田講師室
備考	小テストについては次の回の授業で解説とフィードバックを行う。

科目名	スポーツ政策論	科目名（英文）	Sports Policy
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	石井　信輝
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3113a0		

授業概要・目的	現代社会におけるスポーツの意義やスポーツ（振興）政策の立案過程を踏まえたうえで、スポーツと政策との関係について理解を深める。同時に、法・政策に対する体系的な理解の一助とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、スポーツ（振興）政策が担う社会的役割に関する知見を獲得することが期待される。
授業方法と留意点	教科書は特に用いないが、必要に応じて資料を配布する。授業中に提示した課題を解決するために、ICT ツールを活用していただく場合もある。 4 月２２日以降は当面の間 TEAMS による遠隔授業を行う（対面授業に戻す場合には改めて指示する）。
科目学習の効果（資格）	公認スポーツ指導者養成に関する科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	スポーツ政策とは	スポーツ政策という概念を整理する。
2	スポーツ政策の概念	スポーツ政策の目的、意義	関連資料に目を通す。
3	スポーツ政策の体系	スポーツ政策の体系	配布資料の理解。
4	スポーツ政策の立案者	スポーツ政策を立案する組織、団体・習熟度の確認	スポーツ組織を立案する組織・団体を抜粋し整理する。
5	スポーツ活動の意義、その促進とスポーツ政策（１）	社会の中のスポーツ、スポーツの社会的意義（健康の維持増進、地域振興など）、歴史的変遷（オリンピズム、フェアプレー精神、スポーツフォーオール）	スポーツの社会的意義を整理する。
6	スポーツ活動の意義、その促進とスポーツ政策（２）	わが国におけるスポーツ振興施策、学校でのスポーツ活動の発展を促すスポーツ政策	関連資料に目を通す。
7	スポーツ活動の意義、その促進とスポーツ政策（３）	わが国におけるスポーツ振興施策、文化としてのスポーツ・健康の維持増進とスポーツ政策	配布資料を理解する。
8	スポーツ活動の意義、その促進とスポーツ政策（４）	わが国におけるスポーツ振興施策、生活の質向上とスポーツ政策	わが国におけるスポーツ政策の特徴を体系づける。
9	スポーツ活動の意義、その促進とスポーツ政策（５）	世界のスポーツ振興政策	わが国と諸外国のスポーツ政策上の特徴の理解を深める
10	スポーツ活動の意義、その促進とスポーツ政策（６）、これまでの講義のまとめ	世界のスポーツ事情と日本のスポーツ振興施策、およびこれまでの習熟度確認	前 5 回の講義と今回とを関連づけて整理する。
11	競技力の向上とスポーツ政策（１）	国威発揚としての国際競技力の向上政策	関連資料に目を通す。
12	競技力の向上とスポーツ政策（２）	国内の連帯促進と国際競技力の向上政策	前回の講義と関連づけて整理する。
13	社会化促進のためのスポーツ政策	社会への組み入れを促すためのスポーツ政策	配布資料の理解。
14	社会的平等とスポーツ政策	社会的平等を促進するためのスポーツ政策	関連資料に目を通す。
15	講義の総括と習熟度の検査	講義全体の総括と習熟度確認試験	これまでの講義を体系立てて復習する

関連科目：スポーツと法律等

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	リファレンスブック		日本スポーツ協会
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業に参加する姿勢（３０％）、授業中に出される課題への回答・試験の結果（70％）をもって評価する。
学生へのメッセージ	意欲的に取り組んでほしい
担当者の研究室等	11 号館 10 階　石井教授室
備考	各回に 1 時間程度、すなわち半期で 15 時間程度を目安に、講義の内容について事前・事後の学習を行ってください。 課題や習熟度確認のための試験の解説は、次の回の授業で行う。 19 年度　合格率 99%　（不受験率 2%）　A13%　B43%　C22%　D22%　　平均 78 点　115 人登録

科目名	スポーツビジネスと法	科目名（英文）	Sports Business and Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大川　謙蔵
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3114a0		

授業概要・目的	スポーツはビジネスとも深くかかわっていることから、そこでは法律問題も当然に生じる。 この講義では、そのようなスポーツビジネスに関する法的問題を検討するために、各種契約、スポーツにおいて生じた事故など、スポーツと法律に関する問題を取り上げ、さらに、スポーツに関するビジネスについての概要についても確認する予定である。 なお、講義の流れは、民法の流れに沿い、民法総則・契約法・不法行為法などの視点から行う予定である。
到達目標	この授業を通じて、学生にはスポーツビジネス一般について知識を得て、そこで生じる法律問題を理解し、法的にどのような解決方法があるのかなどを検討できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義形式で行う予定です。資料を配布しつつ、PC 画面の使用等を行い、さらに必要な小テスト等を行う予定です。 法律科目であるので、六法（書籍の一種）が必要です。またＰＣを使ったインターネットでの情報の確認、レジュメのスクリーン投影等も行う予定です。 民事法との関係を中心に検討を行う予定であるので、民法内容についても講義の中で適宜確認を行います。 Teams を使った講義を行います。
科目学習の効果（資格）	スポーツ・インストラクター、スポーツ・エージェントなど

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	スポーツビジネスと法律の概要	これまで学んできた法律知識の確認	これまで学んできた法律科目の内容を確認すること。
2	自然人とスポーツ①	自然人とスポーツの関係を確認する。	民法における人の概念を見直すこと。
3	自然人とスポーツ②	自然人とスポーツの関係を確認する。	生涯を持つ者と民法との関係を見直すこと。
4	法人とスポーツ①	法人とスポーツとの関係について確認を行う。	法人一般を見直すこと。
5	法人とスポーツ②	法人とスポーツとの関係について確認を行う。	スポーツとスポーツ団体の関係を見直すこと。
6	代理とスポーツ①	代理とスポーツとの関係について確認を行う。	代理制度一般を見直すこと。
7	代理とスポーツ②	代理とスポーツとの関係について確認を行う。	代理人がスポーツにおいて果たす役割を見直すこと。
8	契約とスポーツ①	スポーツにおける契約の意義を確認する。	契約制度一般を見直すこと。
9	契約とスポーツ②	スポーツにおける契約の意義を確認する。	スポーツと契約との関係を見直すこと。
10	契約とスポーツ③	スポーツにおける契約の意義を確認する。	スポーツ選手・団体が契約を結ぶ意味を見直すこと。
11	ビジネスとスポーツ①	ビジネスにおけるスポーツの法的問題について確認する。	講義中に課題を出すので、それを検討すること。
12	ビジネスとスポーツ②	ビジネスにおけるスポーツの法的問題について確認する。	スポーツに関するビジネスの形態を見直すこと。
13	不法行為とスポーツ①	スポーツにおける事故の問題を確認する。	不法行為一般を見直すこと。
14	不法行為とスポーツ②	スポーツにおける事故の問題を確認する。	スポーツにおける事故の問題を見直すこと。
15	講義の全体的な復習	これまでの内容を全体的に確認する。	全体を見直すこと。

関連科目：経済学、経営学、憲法、民法、商法、労働法など。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	スポーツ法へのファーストステップ	石堂・建石編	法律文化社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	配信動画と共に、配信講義に関連する小テストを行う。これを合算し、100 点満点計算で行う予定である。
学生へのメッセージ	スポーツは、自由な人格形成、健康で文化的な生活、余暇のため、重要な役割を演じるものである。 そのようなスポーツを法律との関係を把握し、スポーツの意義を確認すること。
担当者の研究室等	11 号館９階　大川准教授室
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の３つから成り立っています。それぞれにつき、90 分を確保して学習をする必要があります。しかし、予習・復習については、各講義の内容により多少の違いが出てきますので、必ず講義でそれらの対象を聞くようにしてください。事前・事後学習内容について、講義で出された課題及び指摘部分の内容については、各対応時の講義で確認・解説を行います。 近年、受講態度のひどい学生が散見されます。受講の登録後であっても、そのような学生に対しては採点対象から外しますので、ご理解下さい。

科目名	フィットネストレーニングの理論と実際	科目名（英文）	Theory and Practice of Fitness Training
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	堀　美幸
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ2115a0		

授業概要・目的	現代社会において運動は生活の一部であり、より良い運動習慣を身につけることは健康で質の高い生活を送るために欠かせないことである。 正しいトレーニング方法を知り、実践することでより健康な生活ができるよう学んでいく。
到達目標	この授業を通じで学生には、フィットネストレーニングの基礎的な知識を学び、それらを正しく実践出来る身体能力を獲得できるようになることが期待される。 また身につけた技術を指導するための能力を身につけることも目標とする。
授業方法と留意点	講義形式のトレーニング理論の習得と屋内・外でのフィットネストレーニングの実習を主な授業内容とする。 実技に際しては運動に適した服装とシューズを着用すること。
科目学習の効果（資格）	日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格取得対応科目

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業主旨説明 運動と健康	運動と健康についての基礎用語の確認 次の回の授業で、解説を行う
2	身体組成	機能解剖学的身体組成の基礎知識	身体組成についての基礎知識の習得 次の回の授業で、解説を行う
3	全身持久力（1）	フィットネストレーニングとは 全身持久力とは	フィットネストレーニング、全身持久力の基礎用語の確認、実践の準備 次の回の授業で、実践指導を行う
4	全身持久力（2）	全身持久力トレーニングの実践	実技指導のフィードバック 次回、授業で各グループごとに発表を行い、意見交換を行う
5	筋力と筋持久力（1）	筋力・筋持久力とは	筋力・筋持久力の基礎用語の確認、実践の準備 次の回の授業で、実践指導を行う
6	筋力と筋持久力（2）	筋力トレーニングと筋持久力トレーニングの実践	実技指導のフィードバック 次回、授業で各グループごとに発表を行い、意見交換を行う
7	柔軟性（1）	柔軟運動とは	柔軟運動の基礎用語の確認、実践の準備 次の回の授業で、実践指導を行う
8	柔軟性（2）	柔軟運動の実践	実技指導のフィードバック 次回、授業で各グループごとに発表を行い、意見交換を行う
9	調整力（1）	調整力とは	調整力の基礎用語の確認、実践の準備 次の回の授業で、実践指導を行う
10	調整力（2）	調整力トレーニングの実践	実技指導のフィードバック 次回、授業で各グループごとに発表を行い、意見交換を行う
11	マシーントレーニング（1）	マシーンの特性（1）	マシーントレーニングの基礎用語の確認
12	マシーントレーニング（2）	マシーンの特性（2）	マシーンで行うトレーニングメニューの確認と実践の準備 １３、１４回目の授業で、実践指導を行う
13	マシーントレーニング（3）	マシーントレーニング実習（1）	実技指導のフィードバック 次回、授業で発表を行い、意見交換を行う
14	マシーントレーニング（4）	マシーントレーニング実習（2）	実技指導のフィードバック 次回、授業で発表を行い、意見交換を行う
15	まとめ	講義内容の総括を行う	課題提出

関連科目：スポーツ科学概論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツプログラミング、発育発達論、体力測定とスポーツ相談、スポーツ医学の基礎、スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	公認スポーツプログラム専門科目テキスト		日本体育施設協会
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	単位取得条件は、実技技能および平常態度、知的理解度などを総合的に判断し、１００点中６０点で合格とする。 実技　５０％、提出物　３０％、小テスト　２０％
学生へのメッセージ	正しい理論と方法を身に着けることで、トレーニング効果はよりよいものとなります。 基本理論を身につけ、それらを正しく指導できるよう実践していきましょう。
担当者の研究室等	総合体育館１階　体育館事務室
備考	事前・事後学習に必要な時間については、６０時間を目安とします。

科目名	ヘルスエクササイズの理論と実際	科目名（英文）	Theory and Practice of Health Exercise
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	瀧　千波
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ2116a0		

授業概要・目的	健康と運動との関わりについて、運動対象者に合わせたエクササイズの理論を理解し、実践を通して学んでいく。 ウォーミングアップの意義や効果を含め、有酸素運動を中心に行い、スポーツ指導の実際に活かす。 また、レクリエーション・スポーツを実践しながらルールを知り、楽しさを実感する。
到達目標	この授業を通じて学生には、ヘルスエクササイズの理論と実技を身につけ、プログラム作成と実践指導ができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	摂南大学の「新型コロナウイルス感染症への対応」に基づき、Microsoft Teams を用い、「遠隔授業（オンデマンド形式）」により行います。初回の授業は、ガイダンスも含めた資料を Teams に提示します。 今後、新型コロナウイルスの感染状況の変化に伴い摂南大学の授業運営方針が変更された場合は、この科目の授業形態も対面授業に変更する可能性があります。その際は、変更日や内容を事前にお知らせします。
科目学習の効果（資格）	公認スポーツ指導者資格取得対応科目

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業ガイダンス	授業の進め方の説明	特になし
2	体操・ストレッチング①	筋コンディショニング、バランストレーニング、動的・静的ストレッチング	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業までに提出。
3	体操・ストレッチング②	体幹トレーニング、ヨガ	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業までに提出。
4	ウオーキング・ジョギング①	歩行・走行測定・走り方	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業までに提出。
5	ウオーキング・ジョギング②	ウオーキングエクササイズ、効率の良い歩き方	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業までに提出。
6	水泳・水中運動①	スイムフォームの指導	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業までに提出。
7	水泳・水中運動②	ウオーターエクササイズ	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業までに提出。
8	エアロビックダンス①	エアロビックダンスについての知識を学ぶ	実技指導の中で学んだことや反省点についてまとめ、次回授業までに提出。
9	エアロビックダンス②	エアロビックダンス	実技指導の中で学んだことや反省点についてまとめ、次回授業までに提出。
10	レクレーションスポーツ①	レクリエーションゲームについての知識を学ぶ	ルール、実践方法、および実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業時に提出。
11	レクレーションスポーツ②	レクリエーションゲームについての知識を学ぶ	ルール、実践方法、および実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業時に提出。
12	レクレーションスポーツ③	レクリエーションゲームについての知識を学ぶ	ルール、実践方法、および実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業時に提出。
13	レクレーションスポーツ④	レクリエーションゲームについての知識を学ぶ	ルール、実践方法、および実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業時に提出。
14	レクレーションスポーツ⑤	レクリエーションゲームについての知識を学ぶ	ルール、実践方法、および実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業時に提出。
15	総まとめ	これまでの内容のまとめ	これまでの内容について総復習

関連科目

スポーツプログラミング、スポーツトレーニングの基礎、発育発達論、フィットネストレーニングの理論と実際、体力測定とスポーツ相談、スポーツ医学の基礎、スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	公認スポーツプログラマー専門科目テキスト		日本体育施設協会
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	単位取得条件は、技能及び平常態度、知的理解度などを総合して判断する。 知識　30%、技能　40%、毎回の提出物　30%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	総合体育館１階　瀧研究室
備考	事前・事後学習に必要な時間については、60 時間を目安とする。

科目名	スポーツ医学の理論と実際	科目名（英文）	Theory and Practice of Sports Medicine
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期集中	授業担当者	今井　大喜
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3117a0		

授業概要・目的	運動やスポーツの実施による身体の変化と適応について、医学・運動生理学的アプローチからその基礎を学び、健康管理に必要な理論と実際について理解することを目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、運動やスポーツの実践によって健康の維持・増進をはかり、心身共に充実した体力を養いながら、自らの理想とする健康を獲得するための指導・支援・助言ができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義および演習形式で授業を進める。また、必要に応じて配付資料を提供したり視聴覚教材を使用したりする。
科目学習の効果（資格）	スポーツプログラマーに必要な医学・運動生理学の理解

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	健康と体力について	テキスト p3-4 を事前に読んでおくこと（30 分）。 配付資料の内容を復習すること（30 分）。
2	体力と身体運動	体力の分類と各要素の発育・発達	配布資料の内容を予・復習すること（1 時間）。
3	運動のメカニズム 1	運動の中枢、筋の分類	配布資料の内容を予・復習すること（1 時間）。
4	運動のメカニズム 2	筋収縮の様式、筋の代謝特性 小テスト実施	配布資料の内容を予・復習すること（1 時間）。
5	体力における精神的要素	メンタルストレス	配布資料の内容を予・復習すること（1 時間）。
6	精神的ストレスへの対抗手段	メンタルストレスに対する運動・スポーツの効果とその作用機序	配布資料の内容を予・復習すること（1 時間）。
7	フィットネスエクササイズの概念	体調管理の意義と方法	テキスト p83-88 を事前に読んでおくこと(1 時間)。 配布資料の内容を復習すること（30 分）。授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること（2 時間）。
8	フィットネスエクササイズ実施の事前準備とアフターケア	ウォーミングアップとクーリングダウン	テキスト p93-99 を事前に読んでおくこと（30 分）。 配布資料の内容を復習しておくこと（30 分）。
9	持久力トレーニング	全身持久力、筋持久力	テキスト p9-69、p107-110 を事前に読んでおくこと（1 時間）。 配布資料の内容を復習すること（30 分）。
10	筋力トレーニング	マシントレーニング、筋パワー	テキスト p9-69、p107-110 を事前に読んでおくこと（1 時間）。 配布資料の内容を復習すること（30 分）。
11	フィットネスプログラム	子ども、中年、高齢者、女性、障がい者別アプローチ	テキスト p127-166 を事前に読んでおくこと（1 時間）。 配布資料の内容を復習すること（30 分）。 授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること（2 時間）。
12	安全管理	RICE 処置、熱中症の種類と発生機序、その予防と対処法、AED を用いた心肺蘇生法の実際	配布資料の内容を予・復習すること（1 時間）。
13	コンディショニング 1	スポーツ実施者の食事摂取の基本、コンディショニング維持とビタミン摂取	配布資料の内容を予・復習すること（1 時間）。
14	コンディショニング 2	骨づくりとカルシウム、血予防と鉄・タンパク質摂取 小テスト実施	配布資料の内容を予・復習すること（1 時間）。
15	まとめ	授業全体のまとめ	テキストのこれまで学習した関連項目について整理しておくこと（1 時間）。

関連科目：スポーツ医学の基礎

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	公認スポーツプログラマー専門科目テキスト		日本体育施設協会
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト 2 回（20%）、レポート（10%）まとめテスト（70%）の複数項目の合計で評価する。
学生へのメッセージ	参加型、双方向性の授業を心がけています。積極的に参加し、体の仕組みと身体運動の科学的理解を深めて下さい。
担当者の研究室等	総合体育館 1 階　非常勤講師室
備考	小テストの正解は、次の回の授業で解説する。 レポートは、評価をしたうえで次の回の授業で直接返却する。

科目名	体力測定とスポーツ相談	科目名（英文）	Physical Fitness Test and Sports Counseling
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	堀　美幸
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3118a0		

授業概要・目的	社会的な健康志向の高まりにより日常的に運動を行う人が増えているなか、個人の身体能力向上やスポーツに対する疑問や悩みに対して適切に対応できるようにするための知識を身につける。 運動愛好者からアスリートまで多岐にわたり対応できる知識を身につけていく。
到達目標	この授業を通じて学生には、体力測定の方法と評価の原理を知り、個人の身体のサイズや行動体力を把握する能力を身につけられるようになること、また、スポーツにかかわる相談事に対応し得る知識と技術を理解できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義を中心に授業を行い、各テーマに沿って実践的な課題を行う
科目学習の効果（資格）	日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格取得対応科目

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業概要説明 公認スポーツプログラマーの資格について	スポーツプログラーマ—について確認しておくこと
2	体力測定（1）	体組成について	課題①　骨格と筋肉 体組成への理解を深める
3	体力測定（2）	体組成の測定と評価	体組成データの確認・評価を行う
4	体力測定（3）	体力測定の意義と方法	課題②　新体力テスト実施要綱の作成 実施方法について説明を行えるように準備を行う
5	体力測定（4）	体力測定の実践と方法	課題③　体力測定：その他測定項目と方法 さまざまな測定方法について説明を行えるように準備を行う
6	体力測定（5）	測定結果の処理と評価	測定データの確認・評価を行う
7	体力測定（6）	測定結果を基にした体力評価	体力評価表の見方と活用方法の確認を行う
8	スポーツ相談（1）	概念 領域・範囲	スポーツ相談の基礎用語の確認を行う
9	スポーツ相談（2）	必要な資料収集と記録方法 企画と運営	スポーツカルテの作成方法の確認を行う
10	スポーツ相談（3）	スポーツ相談の技術：基本的考え方と進め方	課題④　健康指導のための基礎知識：３大疾病 次回の授業で発表を行えるように
11	スポーツ相談（4）	健康指導を行うための基礎知識 スポーツ相談で利用される技術・技法	メンタルトレーニングとその方法について確認を行う
12	スポーツ相談（5）	来談者理解のための技法と実践 東大式エゴグラム	課題⑤　エゴグラムの活用方法について考える
13	スポーツ相談（6）	メンタルトレーニング　オンライン実習（1）　リラクゼーション	実習内容をレポートにまとめる 次回の授業内で確認を行う
14	スポーツ相談（7）	メンタルトレーニング　オンライン実習（2）　競技スポーツへの応用	実習内容をレポートにまとめる 次回の授業内で確認を行う
15	まとめ	講義の総括を行う	

関連科目	スポーツ科学概論、スポーツプログラミング、ヘルスエクササイズの理論と実際、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	公認スポーツプログラム専門科目テキスト		日本体育施設協会
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	単位取得は、課題提出および実習、小テストによる知的理解度を総合的に判断し、１００点中６０点で合格とする。 課題　５０％、実習　２０％、小テスト　３０％
学生へのメッセージ	個人でもグループでも指導できるようオンラインでの実習を交えながら行います。 いろいろな場面で応用できるよう学んでいきましょう。
担当者の研究室等	総合体育館１階　体育館事務室
備考	事前・事後学習に必要な時間については、６０時間を目安とします。

科目名	法政キャリア特別講義Ⅰ	科目名（英文）	Special Classes for Law and Politics Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	河原　匡見
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ1125a0		

授業概要・目的	本講義は、将来のキャリア形成を視野に入れ、法学部生のキャリアとして身につけておかなければならないことを習得するために開設されている専門科目である「法政キャリア特別講義」の全体像と、２年生以降に各自が選択することになる４つのコースについて、総合的に案内することを目的とします。自分のキャリア形成にあった勉強をするにはどのようなことを意識して実践しなくてはならないのかを熟考する授業となります。
到達目標	この授業を通じて学生には、法学部で開講している専門科目、教養科目を中心として、どのような計画でどのような知識を習得していくべきなのか、自分自身で考えられるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	授業方法は、各回の担当者が Teams 内のチャンネルで指示しますから、それに従ってください。複数の担当者が講義形式で行います。公務員試験や一般企業の就職試験問題を体験することも併せて行います。自らのキャリアデザインを確実にするためにも、すべての授業に出ること、１５回の授業すべてが重要な評価対象です。また、教員による課題レポートなどは４回（河原・石井・松島・牛丸担当）あります。なお、課題提出方法については、授業内で各担当教員の指示に従ってください。
科目学習の効果（資格）	法学部生が目指す法科大学院試験、国家・地方公務員試験、就職試験（ＳＰＩ試験）、そして法律関係の資格試験などの基礎的知識を知ることができます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	総合ガイダンス	法政キャリア特別講義（1年次から３年次）の全体と４コース制の概要	授業で学んだことの整理と資料の見直し（約１時間）
2	地域政策コースの紹介と特別講義①	地域政策コースとは①	授業で学んだことの整理と資料の見直し（約１時間）
3	地域政策コースの紹介と特別講義②	地域政策コースとは②	授業で学んだことの整理と資料の見直し（約１時間）
4	地域政策コースの紹介と特別講義③	地域政策コースとは③	授業で学んだことの整理と資料の見直し（約１時間）
5	地方公務員試験対策の実際	公務員試験の体験	授業での実践練習の復習（約３時間）
6	スポーツ法政策コースの紹介と特別講義①	スポーツ法政策コースとは①	授業で学んだことの整理と資料の見直し（約１時間）
7	スポーツ法政策コースの紹介と特別講義②	スポーツ法政策コースとは②	授業で学んだことの整理と資料の見直し（約１時間）
8	企業法務コースの紹介と特別講義①	企業法務コースとは①	授業で学んだことの整理と資料の見直し（約１時間）
9	企業法務コースの紹介と特別講義②	企業法務コースとは②	授業で学んだことの整理と資料の見直し（約１時間）
10	企業法務コースの紹介と特別講義③	企業法務コースとは③宅建対策	授業で学んだことの整理と資料の見直し（約１時間）
11	企業法務コースの紹介と特別講義④	企業法務コースとは④宅建対策	授業で学んだことの整理と資料の見直し（約１時間）
12	一般企業就職対策の実際	就職試験の体験	授業での実践練習の復習（約３時間）
13	法律学特修コースの紹介と特別講義①	法律学特修コースとは①	授業で学んだことの整理と資料の見直し（約１時間）
14	法律学特修コースの紹介と特別講義②	法律学特修コースとは②	授業で学んだことの整理と資料の見直し（約１時間）
15	総括と課題レポート	まとめ 法学の基礎知識に関する小テスト 課題レポートの提示	全１５回の授業で学んだことの整理と資料の見直し（約５時間）

関連科目：法政キャリア特別講義Ⅱ～Ⅶ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	各担当者が出題する課題（河原２０％、石井１０％、松島２０％・牛丸３０％、ワークアカデミー２０％）の成績結果を合計して評価します。 なお、提出様式や方法などについては、各担当者が Teams 内でそれぞれ通知しますので、それに従って課題を提出してください。
学生へのメッセージ	自分の希望する将来が、確実に実現できるようになるためにはどうすればいいのか、考えましょう。
担当者の研究室等	11 号館１０階　　河原教授室、石井教授室 11 号館９階　　牛丸教授室、松島准教授室
備考	事前・事後学習には、合計 20 時間はかけて下さい。 課題レポートに関する質問については、成績表公布後に出題した教員が対応します。 20 年度　合格率 77.9%　（不受験率 0%）　A6.9%　B33.8%　C24.0%　D13.2%　平均 69 点　204 人登録

科目名	法政キャリア特別講義Ⅱ	科目名（英文）	Special Classes for Law and Politics II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高間　佐知子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ2126a0		

授業概要・目的

この講義では、ビジネスに深くかかわる法律を広く知ってもらうことを目的としている。授業のレベルとしては、ビジネス実務法務検定を視野に入れて、法規制の基礎知識を習得できる程度に設定する。将来、社会人として活躍する場合、企業との関わりの中で法律知識が必要となる場面も増えてくる。そこで、法学部生として、社会で必要とされる最低限の基礎力を養うために本講義を利用してもらえればと思う。

到達目標

この講義を通じて学生には、ビジネスにかかわる法律の中でも商法や会社法などの商事法や決済手段に関する手形法や小切手法、その他、経済社会に関わる独占禁止法や経済刑法など、幅広くビジネス法の基礎知識を習得することが期待される。

授業方法と留意点

講義内容に合わせてレジュメを配布するので、レジュメをもとに重要事項などをメモしながらない湯を理解してほしい。事後学習として分からない単語は参考書で調べるなどして解決し、また、授業中の課題も確実に理解するよう疑問点は早めに解消すること。また、講義を進めるにあたり、問題演習を交えることで知識の定着を図る。

注意点として、令和元年会社法改正に対応していない参考書も多いので、改正部分については最新の六法や改正に対応した参考書で補うようにすること。

科目学習の効果（資格）

ビジネス実務法務検定３級レベルの知識は最低でも習得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義の進め方について。 ビジネスと法律、コンプライアンスの重要性。	コンプライアンスについて調べること。
2	法人概念、商号	法人と私人の違い、商号に関する法規制。	特に商号について調べること。
3	商人、商行為	商人概念と商行為概念。	商人と商行為について調べること。
4	会社の種類・持分会社のしくみ	持分会社と株式会社の違い。	持分会社について調べること。
5	株式会社のしくみ	株式の発行、株主、株式会社の諸原則。	株主について調べること。
6	株主の権利	自益権と共益権の違い、単独株主権と少数株主権の違い。	議決権など株主の権利の種類について調べること。
7	株式会社の種類、機関	公開会社、大会社の特徴、株式会社のガバナンス体制。	会社法における機関とは何か調べること。
8	取締役の義務、責任	協業避止義務、利益相反取引規制、株主代表訴訟、第三者に対する責任。	特に株主代表訴訟について調べること。
9	会社の従業員	支配人に関する法規制。	支配人について調べること。
10	経済犯罪	背任罪、特別背任罪、業務上横領罪など。	取締役や従業員による犯罪について調べること。
11	独占禁止法、消費者保護法制、個人情報保護法	私的独占、不当な取引制限、不公正な取引方法、消費者契約法など	特に独占禁止法について調べること。
12	知的財産法	特許権、商標権、実用新案権、意匠権、著作権。	知的財産権にはどのようなものがあるか調べること。
13	手形、小切手の基礎	約束手形、為替手形、小切手の違いおよび使い方。	手形と小切手の違いについて調べること。
14	例外的な手形、小切手	白地手形、手形の偽造など。	手形に関するトラブルについて調べること。
15	総括	今までの講義内容についての振り返り。	講義内容の全般について復習すること。

関連科目

商法・会社法・有価証券法・独占禁止法・知的財産法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ビジネス実務法務検定試験３級公式テキスト	東京商工会議所編	中央経済社
2			
3			

評価方法（基準）

課題(30%)及びレポート(70%)によって評価する。

学生へのメッセージ

実際の検定試験の内容を網羅的に取り上げるわけではなく、全体の４割くらいの内容をカバーするにすぎないので、もしも実際に受検を考える場合は、自習の必要があるので注意してほしい。

担当者の研究室等

11 号館 10 階

備考

Teams 上で講義を受け、練習問題をやることで復習しましょう。
加えて、課題とレポートの提出をしてください。

科目名	法政キャリア特別講義Ⅲ	科目名（英文）	Special Classes for Law and Politics III
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	仲　秀樹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ2127a0		

授業概要・目的	この授業では将来、営業職や企画職、または総合職や事務職として、企業や公共団体などで活躍することを目指す学生に、ビジネスの基本要素であるヒト・モノ・カネの動きを簿記でどのように記録するのか、そして会社の成績表ともいえる決算書からどのような情報が得られるのか、を教授する。
到達目標	この授業を通じて学生には、ビジネスの世界において、企業が事業活動を通じて利益を出すことがいかに重要であるのか、また利益追求を目的としない公共団体の財政の健全化とは何か、その事業活動がどのように決算書に数字として反映されるのかという点について説明できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義形式で、実際のビジネスの流れがわかるような説明を加えながら、実務上の出来事を、簿記ではどのように捉えるのかをわかりやすく説明する。演習的に簿記問題を解いて、理解度を確かめながら着実に知識が身につく講義を心掛けたい。
科目学習の効果（資格）	日商簿記３級合格程度の知識を獲得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	会社の成績表とは？	講義内容の復習（テキストの指示された問題を解くこと、約１時間）
2	簿記とは何か？	簿記の目的と手続き	復習課題の実施（テキストの指示された問題を解くこと、約１時間）
3	仕訳と転記	簿記の基本的な記帳の仕方について	復習課題の実施（テキストの指示された問題を解くこと、約１時間）
4	期中の手続と決算手続	会計期間中の処理と、会計期間の締めとなる決算について	復習課題の実施（テキストの指示された問題を解くこと、約２時間）
5	現金・預金の取引	現金や預金の記帳について	復習課題の実施（テキストの指示された問題を解くこと、約１時間）
6	商品売買と掛取引	売上や仕入、売掛金や買掛金について	復習課題の実施（テキストの指示された問題を解くこと、約1.5時間）
7	手形の取引	手形の種類や手形の処理について	復習課題の実施（テキストの指示された問題を解くこと、約２時間）
8	有価証券の取引	有価証券の種類や売買の処理について	復習課題の実施（テキストの指示された問題を解くこと、約1.5時間）
9	債権・債務の取引	債権・債務や経過勘定などの処理について	復習課題の実施（テキストの指示された問題を解くこと、約1.5時間）
10	固定資産の取引	固定資産の取得・売却と減価償却	復習課題の実施（テキストの指示された問題を解くこと、約２時間）
11	資本金と税金の処理	資本取引と法人税・消費税など	復習課題の実施（テキストの指示された問題を解くこと、約1.5時間）
12	収益と費用、伝票の処理	収益や費用の科目、伝票会計の手続きなど	復習課題の実施（テキストの指示された問題を解くこと、約1.5時間）
13	決算の手続き１	決算整理の意味・手続きについて	復習課題の実施（テキストの指示された問題を解くこと、約1.5時間）
14	決算の手続き２	費用・収益の繰延など	復習課題の実施（テキストの指示された問題を解くこと、約２時間）
15	まとめと復習	まとめと練習問題	練習問題の復習（テキストの指示された問題を解くこと、約３時間）

関連科目：会社法を履修していることが望ましい。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	最新段階式日商簿記検定問題集３級四訂版	渡辺　正直他	実教出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	スッキリわかる日商簿記３級　第10版	滝澤ななみ	TAC出版
2			
3			

評価方法（基準）	平常点（毎回の確認テストの点数の累積、30%）と期末の課題レポートの点数（70%）の合計によって評価する。
学生へのメッセージ	簿記のまったくの初心者や、数字が苦手な学生でも、ビジネスや実務に興味があれば歓迎する。学生の理解度によって講義内容を調整することもある。
担当者の研究室等	１１号館６階（経営学部事務室）
備考	講義毎回の確認テストの正解およびポイントは、その授業の中で解説し、学生の理解の定着に努める。

科目名	法政キャリア特別講義Ⅳ	科目名（英文）	Special Classes for Law and Politics Ⅳ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松島　裕一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3128a0		

授業概要・目的	この講義の目的は宅建（宅地建物取引士）資格に合格できる知識を習得することです。具体的には、過去問の問題演習を通じて、宅建試験対策を行います。 試験の内容は大きく分けて、①権利関係に関する分野、②宅建業法に関する分野、③法令上の制限に関する分野、④鑑定・需給・取引実務・税などの分野に分かれます。皆さんの予習と復習を前提として、15 回の講義で、①権利関係を除くすべての分野をひと通り学習します。
到達目標	この講義を通じて学生には、宅地建物取引士試験に必要となる法的知識を身につけ、過去問をひと通り解けるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	例年この講義は 10 名以下の受講者ですので、ゼミ形式で実施しています（30 名を超える場合には、授業形態を工夫したいと思います）。受講生の多寡にかかわらず、授業中にかなり指名しますので、そのつもりで受講してください。また、教科書と問題集は必須なので必ず購入してください。
科目学習の効果（資格）	宅地建物取引士資格試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	宅建試験の概要と勉強の仕方	教科書はじめに（試験の概要などを説明します）	教科書の該当箇所をあらかじめ読み、過去問を解いてきてください。また授業終了後に、小テストで間違えた箇所を解きなおしてください(事前・事後学習を合わせて所要時間 120 分以上)。
2	宅建業法（1）	教科書 Part Ⅰ 宅建業法　（第１分冊）第１章～第２章	教科書の該当箇所をあらかじめ読み、過去問を解いてきてください。また授業終了後に、小テストで間違えた箇所を解きなおしてください(事前・事後学習を合わせて所要時間 120 分以上)。
3	宅建業法（2）	教科書 Part Ⅰ 宅建業法　（第１分冊）第２章～第４章	教科書の該当箇所をあらかじめ読み、過去問を解いてきてください。また授業終了後に、小テストで間違えた箇所を解きなおしてください(事前・事後学習を合わせて所要時間 120 分以上)。
4	宅建業法（3）	教科書 Part Ⅰ 宅建業法　（第１分冊）第５章～第６章	教科書の該当箇所をあらかじめ読み、過去問を解いてきてください。また授業終了後に、小テストで間違えた箇所を解きなおしてください(事前・事後学習を合わせて所要時間 120 分以上)。
5	宅建業法（4）	教科書 Part Ⅰ 宅建業法　（第１分冊）第７章～第９章	教科書の該当箇所をあらかじめ読み、過去問を解いてきてください。また授業終了後に、小テストで間違えた箇所を解きなおしてください(事前・事後学習を合わせて所要時間 120 分以上)。
6	宅建業法（5）	教科書 Part Ⅰ 宅建業法　（第１分冊）すべての復習	教科書の該当箇所をあらかじめ読み、過去問を解いてきてください。また授業終了後に、小テストで間違えた箇所を解きなおしてください(事前・事後学習を合わせて所要時間 120 分以上)。
7	宅建業法（6）	教科書 Part Ⅰ 宅建業法　（第１分冊）すべての復習	教科書の該当箇所をあらかじめ読み、過去問を解いてきてください。また授業終了後に、小テストで間違えた箇所を解きなおしてください(事前・事後学習を合わせて所要時間 120 分以上)。
8	権利関係（抄）（1）	教科書 Part Ⅲ 権利関係　（第３分冊）第８章	教科書の該当箇所をあらかじめ読み、過去問を解いてきてください。また授業終了後に、小テストで間違えた箇所を解きなおしてください(事前・事後学習を合わせて所要時間 120 分以上)。
9	権利関係（抄）（2）	教科書 Part Ⅲ 権利関係　（第４分冊）第 13 章～第 14 章	教科書の該当箇所をあらかじめ読み、過去問を解いてきてください。また授業終了後に、小テストで間違えた箇所を解きなおしてください(事前・事後学習を合わせて所要時間 120 分以上)。
10	法令上の制限（1）	教科書 Part Ⅱ 法令上の制限　（第２分冊）第１章～第２章	教科書の該当箇所をあらかじめ読み、過去問を解いてきてください。また授業終了後に、小テストで間違えた箇所を解きなおしてください(事前・事後学習を合わせて所要時間 120 分以上)。
11	法令上の制限（2）	教科書 Part Ⅱ 法令上の制限　（第２分冊）第３章～第４章	教科書の該当箇所をあらかじめ読み、過去問を解いてきてください。また授業終了後に、小テストで間違えた箇所を解きなおしてください(事前・事後学習を合わせて所要時間 120 分以上)。
12	法令上の制限（3）	教科書 Part Ⅱ 法令上の制限　（第２分冊）第５章～第７章	教科書の該当箇所をあらかじめ読み、過去問を解いてきてください。また授業終了後に、小テストで間違えた箇所を解きなおしてください(事前・事後学習を合わせて所要時間 120 分以上)。
13	法令上の制限（4）	教科書 Part Ⅱ 法令上の制限　（第２分冊）すべての復習	教科書の該当箇所をあらかじめ読み、過去問を解いてきてください。また授業終了後に、小テストで間違えた箇所を解きなおしてください(事前・事後学習を合わせて所要時間 120 分以上)。
14	その他の分野（1）	教科書 Part Ⅳ その他の分野　（第４分冊）第１章～第２章	教科書の該当箇所をあらかじめ読み、過去問を解いてきてください。また授業終了後に、小テストで間違えた箇所を解きなおしてください(事前・事後学習を合わせて所要時間 120 分以上)。
15	その他の分野（2）	教科書 Part Ⅳ その他の分野　（第４分冊）第３章～第４章	教科書の該当箇所をあらかじめ読み、過去問を解いてきてください。また授業終了後に、小テストで間違えた箇所を解きなおしてください(事前・事後学習を合わせて所要時間 120 分以上)。

関連科目	民法全般、行政法、税法など
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	スッキリわかる宅建士 中村式戦略テキスト 2021 年度	中村喜久夫	TAC 出版
2	スッキリとける宅建士 論点別 12 年過去問題集 2021 年度	中村喜久夫	TAC 出版
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	民法入門 第７版	川井健	有斐閣
2	都市法概説 第３版	安本典夫	法律文化社
3			

評価方法 （基準）	毎回の出席を前提として、授業への貢献度（授業中の質疑応答等）50%と、課題への取り組み 50%によって成績評価を行います。 ＊当初は毎回の小テストの累計点で成績評価（100%）を行う予定でしたが、オンライン授業に変更になりましたので、上記のように成績評価の方法を変更いたします。
学生への メッセージ	たんに単位取得のみを目的とする学生には受講をお勧めしません。真剣に宅建試験の合格を目指しますので、受講生にはかなりの量の予習と復習を求めます。この点も初回の講義の際に説明いたします。 宅建は人気のある法律系の国家資格です。在学中に合格しておくことを強くお勧めします。合格すれば、就活の際に選択の幅が(少しかもしれませんが）確実に広がります。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　松島准教授室
備考	例年１５回の講義で宅建のすべての主題分野を扱っていましたが、正直なところ、時間が足りずに中途半端になっていました。ですので、今年度は権利関係（民法）は他の授業に委ね、普段の法学部の授業では学習しない分野（宅建業法など）を集中的に学習したいと思います。宅建受験を考えている学生は、別途民法関係の授業も積極的に履修してください。 また、この授業は教員のほうから積極的に指名するので、双方向の講義になります。遠隔授業に切り替わった場合は、リアルタイム配信で授業を行なう予定ですが、学生のプライバシーの配慮して録画はしませんので、その点はあらかじめご了承ください。なお、授業の進行具合によっては多少シラバスに変更があるかもしれませんので、その点にも注意してください。

科目名	法政キャリア特別講義Ⅴ	科目名（英文）	Special Classes for Law and Politics V
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牛丸　輿志夫
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3129a0		

授業概要・目的	企業が違法な行為を行うと、損害賠償請求を受けたり、行政処分を課せられたり、刑事罰が課されるばかりでなく、社会から大きな非難を受け、企業の存立の危機にさらされるおそれもある。そこで、ビジネスパーソンとして、十分な法的素養を得ることが求められる。本講義は、中堅ビジネスパーソンが習得することが求められる法的知識を得ることを目的としている。
到達目標	この授業を通じて、学生は、ビジネス実務法務検定試験の２級に合格する実力をつけることができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	本講義は、受講者がビジネス実務法務検定試験の２級の合格を目指しているので、教科書に従って行う授業と毎回の復習の確認テストおよびレポートの提出によって行う。
科目学習の効果（資格）	ビジネス実務法務検定試験の２級の合格により、就職活動が有利になる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ビジネス法務の実務	ビジネス実務法務とは、企業を取り巻くリスクとビジネス実務法務、企業活動とコンプライアンス・企業倫理について学ぶ。 Microsoft　Teams で授業を行う。	事前にかつ事後に教科書 p.2～5 を読むこと（各 1 時間）。
2	企業取引の法務（１）	ビジネスに関する法律関係について学ぶ。	事前にかつ事後に教科書 p. 7 ～34 を読むこと(各 1 時間)。
3	企業取引の法務（２）	損害賠償に関する法律関係について学ぶ。	事前にかつ事後に教科書 p.38～47 を読むこと(各 1 時間)。
4	債権の管理と回収（１）	債権の担保について学ぶ。	事前にかつ事後に教科書 p.48～71 を読むこと(各 1 時間)。
5	債権の管理と回収（２）	緊急時の債権回収 債務者の倒産に対応するための処理手続について学ぶ。	事前にかつ事後に教科書 p.72～119 を読むこと（各 1 時間）。
6	会社財産の管理･活用と法律（１）	流動資産の運用・管理の法的側面 固定資産の管理と法律について学ぶ。	事前にかつ事後に教科書p120.～131を読むこと(各 1 時間)。
7	会社財産の管理･活用と法律（２）	知的財産権の管理と活用、賃借物件の管理について学ぶ。	事前にかつ事後に教科書p.132～163を読むこと(各 1 時間)。
8	企業活動に関する法規制（１）	経済関連法規 消費者保護関連の規制について学ぶ。	事前にかつ事後に教科書p.164～224を読むこと(各 1 時間)。
9	企業活動に関する法規制（２）	情報化社会にかかわる法律 事業関連規制について学ぶ。	事前にかつ事後に教科書p227.～286を読むこと(各 1 時間)。
10	株式会社の組織と運営(１))	株式会社のしくみについて学ぶ。	事前にかつ事後に教科書p.290～334を読むこと(各 1 時間)。
11	株式会社の組織と運営（２）	株式会社の運営について学ぶ。	事前にかつ事後に教科書p336.～365を読むこと(各 1 時間)。
12	企業と従業員の関係	労働組合と使用者との関係、社会保険等について学ぶ。	事前にかつ事後に教科書p366.～373を読むこと(各 1 時間)。
13	紛争の解決方法	紛争の予防方法、民事訴訟法について学ぶ。手続、その他の紛争の解決方法	事前にかつ事後に教科書p.374～409を読むこと(各 1 時間)。
14	国際法務（渉外法務）	国際取引に関する法的諸問題と対応のポイント、国際取引における契約作成上の諸問題、国際取引に関する個別の法的諸問題、WTO と国際通商問題について学ぶ。	事前にかつ事後に教科書p.410～466を読むこと(各 1 時間)。
15	模擬テスト	これまでの授業を総括する ｊ 授業を行う。次に、総まとめのテストを実施する。	事前にかつ事後に教科書 p.1～466 を読むこと(各 1 時間)。

関連科目：法政キャリア特別講義Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	2020 年度版ビジネス実務法務検定試験公式テキスト	東京商工会議所編	東京商工会議所検定センター
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	第２回目から第 14 回目のテストの結果を合計 39%とし、定期試験を 61%とし、合計 100 パーセントで評価する。 試験は、Teams の Web テストで行う。
学生へのメッセージ	ビジネス実務法務検定試験の２級の合格という明確な学習目標ができ、勉強の励みになる。学習によって、中堅ビジネスパーソンが修得することが求められる法的知識を得ることができ、しかも、それを商工会議所が証明してくれたことになり、自信を持って企業人として社会で活動できる。 学習範囲が広いので、焦らず、辛抱強く、取り組んでください。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　牛丸教授室
備考	予習・復習には各 1 時間とって下さい。 確認テストの正解はテスト終了後、授業で解説する。 20 年度　合格率 67.9%　（不受験率 3.7%）　A1.2%　B14.8%　C24.7%　D27.2%　平均 56 点　81 人登録

科目名	法政キャリア特別講義Ⅵ	科目名（英文）	Special Classes for Law and Politics VI
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大仲　淳介
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3130a0		

授業概要・目的	法学を学ぶ者は、自分の意見や考えを読み手に納得してもらい、自分と同じ意見をもつよう説得できる文章を書くことができなければなりません。そこでこの授業では、このような文章を書くめに必要な能力とそのような文章の書き方を説明し、いくつかの課題文を作成してもらいます。
到達目標	この授業を通じて学生には、読み手を納得させる文章の書き方についての基礎的な知識を習得し、法的知識に基づいた自分の意見、理由、根拠の示された文章を書くことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	授業の前半ではその回に学習してもらう事項について、動画配信型授業（リアルタイム方式）を用いて、講義形式で説明します。後半では課題小論文を作成し、チームズの一般チャネルの課題から提出してもらいます。
科目学習の効果（資格）	警察官、消防士、市役所などの公務員試験に役立ちます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	法律学と説得力のある文章　小論文と作文など	第１回配布プリントを見直し、授業中に示した次回課題について下調べをして下さい。（１時間程度）
2	法的知識に基づいた文章の作成に必要な基礎的能力１	論理的にものごとを考え判断する能力とは	第２回配布プリントを見直し、授業中に示した次回課題について下調べをして下さい。（１時間程度）
3	法的知識に基づいた文章の作成に必要な基礎的能力２	ものごとの相互の対応関係を探る能力とは	第３回配布プリントを見直し、授業中に示した次回課題について下調べをして下さい。（１時間程度）
4	法的知識に基づいた文章の作成に必要な基礎的能力３	他人が述べたことの真意を判断する能力とは	第４回配布プリントを見直し、授業中に示した次回課題について下調べをして下さい。（１時間程度）
5	法的知識に基づいた文章の作成に必要な基礎的能力４	考え方や発想を柔軟に変更して妥当な解決策を探る能力とは	第５回配布プリントを見直し、授業中に示した次回課題について下調べをして下さい。（１時間程度）
6	法的知識に基づいた文章の作成に必要な基礎的能力５	他人の文章が何を伝えるために書かれているかを理解する能力とは	第６回配布プリントを見直し、授業中に示した次回課題について下調べをして下さい。（１時間程度）
7	法的知識に基づいた文章の作成に必要な基礎的能力６	複数の資料の相互の関係を理解する能力とは	第７回配布プリントを見直し、授業中に示した次回課題について下調べをして下さい。（１時間程度）
8	法的知識に基づいた文章の作成に必要な基礎的能力７	統計学の基礎知識とは	第８回配布プリントを見直し、授業中に示した次回課題について下調べをして下さい。（１時間程度）
9	法的知識に基づいた文章と日本語１	日本文の特徴、文の単位、日本語の語順など	第９回配布プリントを見直し、授業中に示した次回課題について下調べをして下さい。（１時間程度）
10	法的知識に基づいた文章と日本語２	文の役割と文の接続、日本文と主観的表現、語調の統一など	第 10 回配布プリントを見直し、授業中に示した次回課題について下調べをして下さい。（１時間程度）
11	法的知識に基づいた文章の書き方１	課題の求めているものは何かなど	第 11 回配布プリントを見直し、授業中に示した次回課題について下調べをして下さい。（１時間程度）
12	法的知識に基づいた文章の書き方２	主題の決め方、主題を文章化するための材料の集め方など	第 12 回配布プリントを見直し、授業中に示した次回課題について下調べをして下さい。（１時間程度）
13	法的知識に基づいた文章の書き方３	意見や考えの理由と根拠、構想の立て方、構成の仕方など	第 13 回配布プリントを見直し、授業中に示した次回課題について下調べをして下さい。（１時間程度）
14	法的知識に基づいた文章の書き方４	説得力のある文章と説得力のない文章、比較的字数の少ない文章の作成など	第 14 回配布プリントを見直し、授業中に示した次回課題について下調べをして下さい。（１時間程度）
15	まとめ	法的基礎に基づいた文章のまとめ	第 15 回配布プリントを見直して下さい。（１時間程度）

関連科目	法政キャリア特別講義Ⅶ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	提出小論文によって評価します。
学生へのメッセージ	できる限り個別に対応します。
担当者の研究室等	11 号館５階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	①提出課題小論文の注意点は、フィードバックを用いて個別に説明します。 ②質問は、質問用チャネルを作っておきますので、それを用いて行ってください。

科目名	法政キャリア特別講義Ⅶ	科目名（英文）	Special Classes for Law and Politics VII
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大仲　淳介
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3131a0		

授業概要・目的	ある問題に対する自分の意見を読み手に納得させる文章を書くためには文章の形式だけでなく内容も問題になります。なぜならば仮にいくら納得させる書き方をしても書かれている内容が薄いものであれば、誰も自分に同調してくれるはずがないからです。そこでこの講義では、納得させる文章とは何かを理解してもらうために、内容に重点を置き、重要と思われる課題を取り上げてそれを説明し、小論文を作成してもらいます。
到達目標	この授業を通じて学生には、文章に関する知識を一層深め、読み手を納得させるのにふさわしい形式と内容の濃い文章が書くことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	授業の前半において、その回に注意してもらう事項について講義形式で説明し、後半では、その回の課題文を作成してもらいます。
科目学習の効果（資格）	警察官、消防士、市役所などの公務員試験に役立ちます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	法的思考が読み取れる文章とは？（その１）	課題の解釈と出題の意図など	第 1 回配布プリントを見直して下さい。(1 時間程度)
2	法的思考が読み取れる文章とは？（その２）	三段落構成の各段落の役割と書き方など	第２回配布プリントを見直し、授業中に示した次回の課題について下調べをして下さい。(1 時間程度)
3	法的思考が読み取れる文章とは？（その３）	四段落構成の各段落の役割と書き方など	第３回配布プリントを見直し、授業中に示した次回の課題について下調べをして下さい。(1 時間程度)
4	法的思考が読み取れる文章とは？（その４）	よりわかり易い構成、論理の飛躍など	第４回配布プリントを見直し、授業中に示した次回の課題について下調べをして下さい。(1 時間程度)
5	法的思考が読み取れる文章の内容１	「情報化」を課題として、その課題の意図及び意義についての説明と知識の確認および小論文の作成	第５回配布プリントを見直し、授業中に示した次回の課題について下調べをして下さい。(1 時間程度)
6	法的思考が読み取れる文章の内容２	「国際化」を課題として、その課題の意図及び意義についての説明と知識の確認および小論文の作成	第６回配布プリントを見直し、授業中に示した次回の課題について下調べをして下さい。(1 時間程度)
7	法的思考が読み取れる文章の内容３	「少子高齢化」を課題として、その課題の意図及び意義についての説明と知識の確認および小論文も作成	第７回配布プリントを見直し、授業中に示した次回の課題について下調べをして下さい。(1 時間程度)
8	法的思考が読み取れる文章の内容４	「災害」を課題として、その課題の意図及び意義についての説明と知識の確認および小論文も作成	第８回配布プリントを見直し、授業中に示した次回の課題について下調べをして下さい。(1 時間程度)
9	法的思考が読み取れる文章の内容５	「環境」を課題として、その課題の意図及び意義についての説明と知識の確認および小論文も作成	第９回配布プリントを見直し、授業中に示した次回の課題について下調べをして下さい。(1 時間程度)
10	法的思考が読み取れる文章の内容６	「少年犯罪」を課題として、その課題の意図及び意義についての説明と知識の確認および小論文も作成	第 10 回配布プリントを見直し、授業中に示した次回の課題について下調べをして下さい。(1 時間程度)
11	法的思考が読み取れる文章の内容７	「公権力」を課題として、その課題の意図及び意義についての説明と知識の確認および小論文の作成	第 11 回配布プリントを見直し、授業中に示した次回の課題について下調べをして下さい。(1 時間程度)
12	法的思考が読み取れる文章の内容８	「人権」を課題として、その課題の意図及び意義についての説明と知識の確認および小論文の作成	第 12 回配布プリントを見直し、授業中に示した次回の課題について下調べをして下さい。(1 時間程度)
13	法的思考が読み取れる文章の内容９	「能力」を課題として、その課題の意図及び意義についての説明と知識の確認および小論文の作成	第 13 回配布プリントを見直し、授業中に示した次回の課題について下調べをして下さい。(1 時間程度)
14	法的思考が読み取れる文章の内容１０	「地方分権」を課題として、その課題の意図及び意義についての説明と知識の確認および小論文の作成	第 14 回配布プリントを見直し、授業中に示した次回の課題について下調べをして下さい。(1 時間程度)
15	まとめ	法的思考が読み取れる文章のまとめ	第 1 回～14 回までの配布プリントをもう一度見直して下さい。(1.５時間程度)

関連科目	法政キャリア特別講義Ⅵ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	提出された小論文で評価します。
学生へのメッセージ	できる限り個別に対応します。
担当者の研究室等	11 号館５階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	①提出課題小論文の注意点は、フィードバックを用いて、個別に説明します。

	②質問は、11 号館 5 階法学部資料室にて、受け付けます。

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鳥谷部　壌
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として３つあります。（１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 （１）ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方）、⑤その他、学生生活に必要な事項につい学びます。
到達目標	この演習を通じて学生には、学生生活に慣れ、勉学がスムーズに進められるよう、法学部の学生にふさわしい基礎能力を習得することが期待されます。
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	法学部生として大学生活を始めるに当たり、学習の基本的なスキルを身につけることを目標とします。	図書館の利用方法、情報処理講習、裁判所見学、就職セミナー、スマートSPI講習、など法学部全体で実施される回もありますが、それ以外は基本的に、『First Year Study Guide 2021』に沿って実施します。	初回の授業で指示します。
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	法学部の専門科目のすべてにかかわります。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	j授業態度（40%）および授業中に指示する課題（レポートなど）の達成状況（60%）をもとに評価する。
学生へのメッセージ	ご入学おめでとうございます。コロナ禍で大変な生活を強いられることもあることと推測しますが、できることからやってみましょう。
担当者の研究室等	11号館10階　鳥谷部研究室
備考	事前学習として、『First Year Study Guide 2021』の指示された箇所を読んでおいてください（毎回30分程度）。事後学習として、できれば法律と関係のある一般教養のジャンルの本を1冊選択し、各自で読み進めていってください（毎回30分～1時間程度）。

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	笛木　淳
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	法学基礎演習（Ⅰ・Ⅱ）は，皆さんが学生生活に慣れ，大学における学習をスムーズに始められるように，次の３つを目的としています。 （１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、 （２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、 （３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 そして，（１）ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方）、⑤その他、学生生活に必要なノウハウを学びます。
到達目標	この授業では，法学部における勉学をスムーズに開始できるよう，法学の基礎的な能力（いわば法学学習の「型」）を身につけることが期待されます。
授業方法と留意点	方法：演習（ゼミ）形式。プレゼンテーションとディスカッションを行ってもらいます。 留意点：（１）出席が重視されます。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。 （２）法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	法学学習の「型」（作法）を身につけよう。	まず図書館利用や情報処理講習で学習のための基本的な情報収集の方法を学んでもらいます。その上で、社会でどのようなことが問題になっているか，そこにおいて法律がどのようにかかわっているかを調べてもらい、全員で検討していく予定です。本演習で具体的に何をするかについては、初回の授業で皆さんと相談して決めます。	事前学習：初回の授業で指示しますが，新聞記事や様々な文献をあらかじめ読んできてもらうことが中心となります。 事後学習：復習課題やリポートに取り組む。
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	＊授業初回に指示します。		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	＊授業初回に指示します。		
2			
3			

評価方法（基準）	発表の内容：３０％ 議論への参加・貢献：３０％ 課題：４０％
学生へのメッセージ	大学での勉強の仕方は，高校までのものとは異なり，とりわけ初年度はどうしたらいいか分からずに戸惑いや不安があるかと思います。この授業はそうした学生のために開講されるものですから，意欲的に参加し，またわからないことや悩みがあれば教員に積極的に相談してください。
担当者の研究室等	笛木講師室（11 号館９階）
備考	・ｊ事前および事後学習として、演習で扱った内容についてノートにまとめるなど、毎回２時間以上の予習および復習に取り組むこと。 ・レポート課題に対するフィードバックは翌週の授業内にて行う。

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鳥谷部　壌
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として３つあります。（1）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（2）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（3）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。
到達目標	この演習を通じて学生には、学生生活に慣れ、勉学がスムーズに進められるよう、法学部の学生にふさわしい基礎能力を習得することが期待されます。
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
科目学習の効果（資格）	法学部の開講科目の学習にスムーズに入っていけるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	ゼミ計画の説明、教科書の紹介、発表割の作成	
2	所有と公共性	落としものはだれのもの？	事前：教科書の該当部分を読む＆発表があたっている人はその準備
3	動物の法的地位、自由と責任	人と動物って法律上はどんな関係？	事前：教科書の該当部分を読む＆発表があたっている人はその準備
4	自己決定、リバタリアニズム	服装の自由と制服の校則、どっちが優先？	事前：教科書の該当部分を読む＆発表があたっている人はその準備
5	法的三段論法、解釈	スマホ禁止の校則について考える	事前：教科書の該当部分を読む＆発表があたっている人はその準備
6	犯罪と刑罰、適正手続	ルールを破ってしまったらどうなるのか？	事前：教科書の該当部分を読む＆発表があたっている人はその準備
7	表現の自由、名誉、プライバシー、肖像	インスタにウソの投稿をしたらどうなるか？	事前：教科書の該当部分を読む＆発表があたっている人はその準備
8	思想良心の自由、信教の自由、消費者保護	何かを信じる自由、考える自由	事前：教科書の該当部分を読む＆発表があたっている人はその準備
9	間接民主制、選挙	代表を「選んで決める」しくみって？	事前：教科書の該当部分を読む＆発表があたっている人はその準備
10	法律と条例、成文法と不文法	異なる２つのルールがあるとき、どっちを守ればいい？	事前：教科書の該当部分を読む＆発表があたっている人はその準備
11	民事裁判	こじれたもめごと、どう解決する？	事前：教科書の該当部分を読む＆発表があたっている人はその準備
12	労働と法	バイト中の悪ふざけをネットにアップしたらどうなる？	事前：教科書の該当部分を読む＆発表があたっている人はその準備
13	競争と形式的平等・実質的平等	フェアな競争をするにはどうしたらいい？	事前：教科書の該当部分を読む＆発表があたっている人はその準備
14	法の行為規範性、多数決原理	ルールは、だれがどんなふうにつくる？	事前：教科書の該当部分を読む＆発表があたっている人はその準備
15	振り返り	全体の総括	

関連科目：法学部で開講されているすべての科目にかかわります。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	僕らが生きているよのなかのしくみは「法」でわかる	遠藤研一郎	大和書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業態度、および発表の内容により評価する。
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、みなさんの学生生活にとって大切な友人となるでしょう。良好な友人関係を築いて、学生生活が実り多きものとなることを願っています。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　鳥谷部研究室
備考	

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	笛木　淳
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	法学基礎演習（Ⅰ・Ⅱ）は，皆さんが学生生活に慣れ，大学における学習をスムーズに始められるように，次の３つを目的としています。 （１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、 （２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、 （３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 そして，（１）ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方）、⑤その他、学生生活に必要なノウハウを学びます。
到達目標	この授業で学生には，法学部における勉学をスムーズに開始できるよう，法学の基礎的な能力（いわば法学学習の「型」）を身につけることが期待されます。
授業方法と留意点	方法：演習（ゼミ）形式。プレゼンテーションとディスカッションを行ってもらいます。 留意点：（１）出席が重視されます。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。 （２）法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	法学学習の「型」（作法）を身につけよう。	まず図書館利用や情報処理講習で学習のための基本的な情報収集の方法を学んでもらいます。その上で、社会でどのようなことが問題になっているか，そこにおいて法律がどのようにかかわっているかを調べてもらい、全員で検討していく予定です。本演習で具体的に何をするかについては、初回の授業で皆さんと相談して決めます。	事前学習：初回の授業で指示しますが，新聞記事や様々な文献をあらかじめ読んできてもらうことが中心となります。 事後学習：復習課題やリポートに取り組む。
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	＊授業初回に指示します。		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	＊授業初回に指示します。		
2			
3			

評価方法（基準）	発表の内容：３０％ 議論への参加・貢献：３０％ 課題：４０％
学生へのメッセージ	大学での勉強の仕方は，高校までのものとは異なり，とりわけ初年度はどうしたらいいか分からずに戸惑いや不安があるかと思います。この授業はそうした学生のために開講されるものですから，意欲的に参加し，またわからないことや悩みがあれば教員に積極的に相談してください。
担当者の研究室等	笛木講師室（11 号館９階）
備考	・j 事前および事後学習として、演習で扱った内容についてノートにまとめるなど、毎回２時間以上の予習および復習に取り組むこと。 ・レポート課題に対するフィードバックは翌週の授業内にて行う。

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鳥谷部　壌
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	みなさんのなかには、日常生活で国際法を身近に感じる機会が存分にあるという方は決して多くはないでしょう。いきなり分厚い国際法の教科書に書いてある論点を取り上げることに抵抗を覚える学生も少なくないと思います。そこで本ゼミの内容は、主に次の３点とします。第１に、本ゼミでは、最近の時事国際問題を複数検索しその内容を調べることで、広く社会で何が起きているか、何が問題となっているか、という現状を認識することから始めます。第２に、各自が本格的に調べることを選択した時事問題について、国際法との接点を見出していきます。第３に、以上を踏まえて、条約・判例といった生の素材や、それらに分析を加えた文献を読解し、ゼミ生間で情報共有し議論し発表することを通して、国際法の視点から時事問題を分析する素養を磨きます。
到達目標	この演習を通じて、①受動的ではなく、主体的・能動的な学習態度を身に着けること、②国際法の基礎的な知識を身につけること、③2 年次後期の専門演習に余裕をもってついていけるようになること、が期待されます。
授業方法と留意点	国際法は非常に広い領域を取り扱います。国際法全体について基礎知識を備えることは並大抵のことではありません。でも、そうした基礎知識をみなさんに身に着けてもらうために様々な工夫を凝らし最大限努力します。ですので皆さんもそれに応えて下さい。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	国際法への理解を深める	国際社会に生起するさまざまな事例への理解を深めるためには、判例や過去の実行を詳しく調べることが重要です。	自分が選択した事例について、十分に調べ考える姿勢を保つことが大事です。
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	国際社会と法、国際法の基礎理論、国際組織法、国際人権法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	毎回出席し、主体的に議論に参加できているか、物事を深く考えようとする意欲がみられるかによって判断します。
学生へのメッセージ	国際法という分野は国内法とは相当に異なった性質をもっています。初めは取っ付きにくいと感じる方も多いでしょう。しかしながら今や、新聞やメディア等の情報媒体において、国際法に関連する出来事を目にしない日はありません。実は、みなさんの身近にも国際法は存在しているのだということを、本ゼミを通して感じてもらえればと思います。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　鳥谷部研究室
備考	

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	笛木　淳
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	法学では事例研究・判例学習が非常に重要になってきます。この授業では，2年次後期の「専門演習 Ｉ」，3年次の「専門演習 II」，4年次の「卒業研究」に向けて，そういった事例研究を通じた公法（行政法，憲法，地方自治法）の基礎知識の習得を目指します。具体的には，判例などの素材を通じて，具体的な問題点の把握，関連判例と学説の整理をした上で，そのプレゼンテーション及びディスカッションを行ってもらいます。
到達目標	本演習を通じて学生には各段階において次のスキルの獲得が期待されます。 ・資料の収集段階 （1）公法における重要判例の事案・判旨を正確に読み解く力 （2）ある問題について異なる見解が提示されているとき，その対立点を把握して整理する力 （3）自ら主体的に課題を発見する力 ・プレゼンテーションとディスカッションの段階 （4）自分の考えを整理・要約し，他者に伝える力 （5）他人の意見に傾聴する力
授業方法と留意点	授業方法：学生によるプレゼンテーションとディスカッション。 留意点：報告準備段階では主体性な調査・学習が，ディスカッションでは積極的な発言や学生自らによる議論の整理が求めれます。 並行して行政法総論，地方自治法を履修することが望ましいです。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	事例（判例）研究を通じた公法の基礎知識の獲得	報告担当者（グループ）を決め，判例（事案・判旨）についてのプレゼンテーションを行ってもらいます。報告の内容は判例の事案・判旨の読解，関連判例と学説の調査・整理が中心です。報告をもとに，参加者全員でディスカッションをします。 判例の調べ方，当たるべき文献，データベースの活用法などを初回に説明します。また，初回だけでなく，プレゼンテーションに対するコメントでも必要に応じて指摘します。	事前学習： 報告担当者は事案と判旨の整理，関連判例と学説の調査等報告準備を行ってもらいます。報告準備は10時間程度かかると思います。報告者以外は指定文献をあらかじめ読んで疑問点等をまとめておくこと（2時間程度） 事後学習： プレゼンテーションへのフィードバックとディスカッションにより明らかになった報告の問題点を踏まえ，再調査または再検討してもらいます（2時間程度）。
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	行政法，地方自治法，憲法 （また，民法や刑法，民事訴訟の基礎知識があると望ましいですが，必要に応じて適宜フォローに努めます。）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	初回講義で指定。学生の意見も取り入れて決定します。		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	・プレゼンテーション（配布資料・報告の内容）：６０％ ・ディスカッション（議論への貢献度）：４０％
学生へのメッセージ	このプレ専門演習を通じて，試験のためではなく，自分なりの課題をもって主体的に学習すること，そして他者との議論を通じて自分の考えを明確化・修正することの楽しさ，重要性を知ってほしいと思います。また，演習は学生の積極的な参加・協力が不可欠ですので，誠実な態度で授業に臨んでください。
担当者の研究室等	笛木講師室（11号館９階）
備考	・ｊ事前および事後学習として、演習で扱った内容についてノートにまとめるなど、毎回２時間以上の予習および復習に取り組むこと。 ・レポート課題に対するフィードバックは翌週の授業内にて行う。

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鳥谷部　壌
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	みなさんのなかには、日常生活で国際法を身近に感じる機会が存分にあるという方は決して多くはないでしょう。いきなり分厚い国際法の教科書に書いてある論点を取り上げることに抵抗を覚える学生も少なくないと思います。そこで本ゼミの内容は、主に次の３点とします。第１に、本ゼミでは、最近の時事国際問題を複数検索しその内容を調べることで、広く社会で何が起きているか、何が問題となっているか、という現状を認識することから始めます。第２に、各自が本格的に調べることを選択した時事問題について、国際法との接点を見出していきます。第３に、以上を踏まえて、条約・判例といった生の素材や、それらに分析を加えた文献を読解し、ゼミ生間で情報共有し議論し発表することを通して、国際法の視点から時事問題を分析する素養を磨きます。
到達目標	この演習を通じて、①受動的ではなく、主体的・能動的な学習態度を身に着けること、②国際法の基礎的な知識を身につけること、③3年次の専門演習に余裕をもってついていけるようになること、が期待されます。
授業方法と留意点	国際法は非常に広い領域を取り扱います。国際法全体について基礎知識を備えることは並大抵のことではありません。でも、そうした基礎知識をみなさんに身に着けてもらうために様々な工夫を凝らし最大限努力します。ですので皆さんもそれに応えて下さい。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	国際法への理解を深める	国際社会に生起するさまざまな事例への理解を深めるためには、判例や過去の実行を詳しく調べることが重要です。	自分が選択した事例について、十分に調べ考える姿勢を保つことが大事です。
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	国際社会と法、国際法の基礎理論、国際組織法、国際人権法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	毎回の授業態度（40%）、プレゼンテーションの完成度（30%）、ゼミのなかで指示する課題（30%）等を総合的に勘案して評価を行います。
学生へのメッセージ	国際法という分野は国内法とは相当に異なった性質をもっています。初めは取っ付きにくいと感じる方も多いでしょう。しかしながら今や、新聞やメディア等の情報媒体において、国際法に関連する出来事を目にしない日はありません。実は、みなさんの身近にも国際法は存在しているのだということを、本ゼミを通して感じてもらえればと思います。
担当者の研究室等	11号館10階　鳥谷部研究室
備考	◎事前の学習として、自身が選択したテーマに関するニュース記事や資料を読み進め、パワーポイントでスライドを作成するなど、プレゼンテーションの準備に時間を充ててください。（毎回１時間程度） ◎事後の学習として、自身が選択したテーマに最も近い国際判例を探し出し、当該判例の意義や問題点を把握することに努めてください。（毎回１時間程度）

科目名	専門演習Ｉ	科目名（英文）	Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	笛木　淳
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	この授業は，3 年次の「専門演習 II」，4 年次の「卒業研究」に向けて，公法（行政法，地方自治法，憲法）の主要判な判例や学説，法令についての学習を皆さんが主体的に深化させることを目的としています。この講義では，プレ専門演習での判例学習を通じて自分なりに発見した課題をさらに深く掘り下げるために，他の関連判例や専門文献に取り組み，プレゼンテーションとディスカッションをしていただきます。
到達目標	本演習を通じて学生には各段階で次のスキルの獲得が期待されます。 ・資料の収集段階 （1）事例研究を通じて自ら主体的に課題を発見する力 （2）発見した課題必要な資料を自ら探索・収集する力 ・プレゼンテーションとディスカッションの段階について （3）自分の考えを整理・要約し，他者に伝える力 （4）他人の意見に傾聴し，問題点を指摘する力
授業方法と留意点	授業方法：学生によるプレゼンテーションとディスカッション。 留意点：報告準備段階では主体性な調査・学習が，ディスカッションでは積極的な発言や学生自らによる議論の整理が求められます。特に行政訴訟に関する分野を研究したい方は，行政法各論を並行して受講することが望ましいです。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	事例（判例）・文献研究を通じた問題意識の掘り下げ	報告担当者（グループ）を決め，各自設定した課題（判例研究，その他の論点研究）についてのプレゼンテーションを行ってもらいます。報告の内容は判例の事案・判旨の読解，関連判例と学説の調査・整理が中心です。報告をもとに，参加者全員でディスカッションをします。	事前学習： 報告担当者は報告準備に 10 時間程度かかると思います。報告者以外は指定文献をあらかじめ読んで疑問点等をまとめておくこと（2 時間程度） 事後学習： プレゼンテーションへのフィードバックとディスカッションにより明らかになった報告の問題点を踏まえ，再調査または再検討してもらいます（2～４時間程度）。
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	行政法，地方自治法，憲法。 （また，民法や刑法の基礎知識があると望ましいですが，学習が不充分な場合にはこちらで適宜フォローに努めます。）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	初回講義で指定。学生の意見も取り入れて決定します。		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	・プレゼンテーション（配布資料・報告の内容）：６０％ ・ディスカッション（議論への貢献度）：４０％
学生へのメッセージ	３年次からはいよいよ卒業論文に関連する学習が本格化することでしょう。この授業ではそうした作業にスムーズに移行できるためにできる限りの支援を提供します。とはいえ演習の主体はあくまでも学生です。意欲的で誠実な参加を期待します。
担当者の研究室等	笛木講師室（１１号館９階）
備考	・j 事前および事後学習として、演習で扱った内容についてノートにまとめるなど、毎回２時間以上の予習および復習に取り組むこと。 ・レポート課題に対するフィードバックは翌週の授業内にて行う。

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	高間　佐知子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	法律というのは人の不幸の上に成り立っているのかもしれません。医者が病気を治すように、法律家は社会病理を治す役割を担っています。法律を学ぶにあたって必要なのは、知識よりもまずは人や社会のために頭を使う優しさだと思います。他人の事を自分とは関係ないから無視するようでは法律を学んでもきっと面白くないでしょう。ゼミではドラマや映画などを題材にしながら法律問題について考えていきたいと思います。みんなで世のため人のために自分の頭を使って考えることをしてみましょう。
到達目標	この授業を通じて学生には、様々な社会問題があるの中で法的な視点をもって解決できる視点と思考力を身につけることが期待される。
授業方法と留意点	基本的にはディスカッション形式でゼミを進めていきます。ゼミの時間は、まず他人の話をしっかりと聞くこと、そして、自分の頭で考えたことを他人に分かるように話すことを繰り返していきます。
科目学習の効果（資格）	演習科目で必要となる基礎能力を全般的に習得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	演習の進め方･今後の予定などを決定する	予定に従って準備を行うこと
2	未成年と法律	未成年と成年の違い	未成年に関する規定を調べること
3	働き方と法律	パート・アルバイト・派遣社員・正社員の違い	特にアルバイトと正社員の違いについて調べること
4	消費者と法律	悪徳商法について	悪徳商法の種類について調べること
5	親子と法律	親の権利・義務、子どもの人権	養子縁組や子供の名前に関する法律問題ついて調べる
6	相続と法律	相続の方法	相続に関する法律問題について調べる
7	交通事故と法律	不法行為、慰謝料請求など	交通事故に関する法律問題、保険契約について調べる
8	契約と法律	旅行契約、契約の効力、約款	約款とは何か調べる
9	犯罪と法律	罪刑法定主義、刑事訴訟	犯罪とは何か考えてみる
10	安楽死と法律	安楽死と人権	安楽死とは何か調べる
11	死刑と法律	死刑制度と人権	日本の死刑制度について調べる
12	お金儲けと法律	会社経営、株式投資	株式について調べる
13	借金と法律	消費貸借契約、クレジット契約、自己破産	借金に関する法律問題について調べる
14	一人暮らしと法律	賃貸借契約	特に家･部屋の賃貸に関する法律問題について調べる
15	総括	今まで扱ったテーマについて振り返る	指定されたテーマでレポート課題を作成すること

関連科目：法律科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	はじめての法律学	松井茂記・松宮孝明・曽野裕夫	有斐閣
2	ライフステージと法	副田隆重・浜村彰・棚村政行・武田万里子	有斐閣
3			

評価方法（基準）	演習での参加態度として、プレゼンテーションの内容やディスカッションでの発言などを判断材料にして、どれほど演習の時間を自分で有意義なものにしているかを評価します。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 10 階
備考	しばらくオンラインで行う予定です。 連絡用としても Teams を利用しますので、常に確認してください。

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	鳥谷部　壌
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	本ゼミは、専門演習Ⅰを受講していることを前提として展開されます。本ゼミは、専門演習Ⅰで修得した国際法の基礎知識を浸透させ定着化を図るとともに、国際法の応用的なアプローチについても学んでいきます。
到達目標	この演習を通じて、①受動的ではなく、主体的・能動的な学習態度を身に着けること、②国際法の主要な論点について、筋道の立った説明をすることができようになること、③卒業研究のテーマの候補を見つけること、が期待されます。
授業方法と留意点	国際法は非常に広い領域を取り扱います。国際法全体について基礎知識を備えることは並大抵のことではありません。でも、そうした基礎知識をみなさんに身に着けてもらうために様々な工夫を凝らし最大限努力します。ですので皆さんもそれに応えて下さい。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	国際法への理解を深める	国際社会で日々生じている時事問題への理解を深めるためには、判例や過去の実例を詳しく調べることが重要となります。	自分が選択した事例について、十分に調べ考える姿勢を保つことが大事です。
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	国際社会と法、国際法の基礎理論、国際組織法、国際人権法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	毎回出席し、主体的に議論に参加できているか、物事を深く考えようとする意欲がみられるかによって判断します。
学生へのメッセージ	本ゼミは、みなさんの学習能力やニーズに鑑みて柔軟に対応します。いずれにせよ教員は、みなさんの良き理解者であり味方でありたいと思っています。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　鳥谷部研究室
備考	

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	笛木　淳
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	この授業は，4年次の「卒業研究」に向けて，公法（行政法，地方自治法，憲法）の主要判な判例や学説，法令についての学習を皆さんが主体的に深化させ，卒論のテーマ設定を行うことを目的としています。この講義では，「専門演習Ⅰ」での判例学習を通じて自分なりに発見した課題をさらに深く掘り下げるために，他の関連判例や専門文献に取り組み，プレゼンテーションとディスカッションをしていただきます。
到達目標	本演習を通じて学生には各段階で次のスキルの獲得が期待されます。 ・資料の収集段階 （1）事例研究を通じて自ら主体的に課題を発見する力 （2）発見した課題必要な資料を自ら探索・収集する力 ・プレゼンテーションとディスカッションの段階について （3）自分の考えを整理・要約し，他者に伝える力 （4）他人の意見に傾聴し，問題点を指摘する力
授業方法と留意点	・授業方法：学生によるプレゼンテーションとディスカッション。 ・留意点：報告準備段階では主体性な調査・学習が，ディスカッションでは積極的な発言や学生自らによる議論の整理が求められます。特に行政訴訟に関する分野を研究したい方は，行政法各論を並行して受講することが望ましいです。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	事例（判例）・文献研究を通じた問題意識の掘り下げ	報告担当者（グループ）を決め，各自設定した課題（判例研究，その他の論点研究）についてのプレゼンテーションを行ってもらいます。報告の内容は判例の事案・判旨の読解，関連判例と学説の調査・整理が中心です。報告をもとに，参加者全員でディスカッションをします。	事前学習： 報告担当者は報告準備に 10 時間程度かかると思います。報告者以外は指定文献をあらかじめ読んで疑問点等をまとめておくこと（2 時間程度） 事後学習： プレゼンテーションへのフィードバックとディスカッションにより明らかになった報告の問題点を踏まえ，再調査または再検討してもらいます（2～４時間程度）。
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	行政法，地方自治法，憲法。 （また，民法や刑法の基礎知識があると望ましいですが，学習が不充分な場合にはこちらで適宜フォローに努めます。）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	初回講義で指定。学生の意見も取り入れて決定します。		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	・プレゼンテーション（配布資料・報告の内容）：６０％ ・ディスカッション（議論への貢献度）：４０％
学生へのメッセージ	いよいよ卒業論文に関連する学習が本格化します。意欲的で誠実な参加を期待します。
担当者の研究室等	笛木講師室（１１号館９階）
備考	・ｊ事前および事後学習として、演習で扱った内容についてノートにまとめるなど、毎回２時間以上の予習および復習に取り組むこと。 ・レポート課題に対するフィードバックは翌週の授業内にて行う。

科目名	英語Ⅰa	科目名（英文）	English Ia
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	木村　紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1301c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、自己紹介 Unit 1 What's your name?	授業の進め方や評価方法などの説明 自己紹介の仕方を、個人・ペア・グループ活動を通して学ぶ	宿題をする
2	Unit 1 What's your name?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を学ぶ	宿題をする
3	Unit 1 What's your name?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を学ぶ	宿題をする
4	Unit 2 I love fashion!	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を学ぶ	宿題をする
5	Unit 2 I love fashion!	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を学ぶ	宿題をする
6	Unit 3 How do you stay healthy?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を学ぶ	宿題をする
7	Unit 3 How do you stay healthy?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を学ぶ	宿題をする
8	Unit 4 How do I get there?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を学ぶ	宿題をする
9	Unit 4 How do I get there?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を学ぶ	宿題をする
10	Unit 4 How do I get there?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を学ぶ	宿題をする
11	Unit 5 What's that?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を学ぶ	宿題をする
12	Unit 5 What's that?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を学ぶ	宿題をする
13	Unit 6 What's your dream?	前回の課題のフィードバックを確認す	宿題をする

	る 個人・ペア・グループ活動を通して、聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を学ぶ		
14	Unit 6　What's your dream?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を学ぶ	宿題をする
15	Unit 6　What's your dream? その他の学習活動	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を学ぶ	宿題をする

関連科目

他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Firsthand (Fifth Edition) Success: Student Book with MyMobileWorld ISBN: 9789813132764	Marc Helgesen, John Wiltsher, & Steven Brown	Pearson
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

全学共通英語課題　20%
授業への参加、貢献（課題・宿題・発表を含む）　80%

学生へのメッセージ

聴く、読む、話す、書く技術を、個人・ペア・グループ活動を通して学ぶので、毎週授業に出席することが重要です。

担当者の研究室等

非常勤講師室（前期３号館２階、後期７号館２階）

備考

毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は学内メールや出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅰb	科目名（英文）	English Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	木村　紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8〇		
科目ナンバリング	JEN1302c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、自己紹介 Unit 7　It was great!	授業の進め方や評価方法などの説明 聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を、個人・ペア・グループ活動を通して学ぶ	宿題をする
2	Unit 7　It was great!	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を学ぶ	宿題をする
3	Unit 7　It was great!	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を学ぶ	宿題をする
4	Unit 8　How much do you know?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を学ぶ	宿題をする
5	Unit 8　How much do you know?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を学ぶ	宿題をする
6	Unit 9　She can really sing!	小テスト 前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を学ぶ	宿題をする
7	Unit 9　She can really sing!	小テスト 前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を学ぶ	宿題をする
8	Unit 10　What do you like to do?	小テスト 前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を学ぶ	宿題をする
9	Unit 10　What do you like to do?	小テスト 前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を学ぶ	宿題をする
10	Unit 10　What do you like to do?	小テスト 前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を学ぶ	宿題をする
11	Unit 11　Of course you can.	小テスト 前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法	宿題をする

		を学ぶ	
12	Unit 11　Of course you can.	小テスト 前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を学ぶ	宿題をする
13	Unit 12　What happened next?	小テスト 前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を学ぶ	宿題をする
14	Unit 12　What happened next?	小テスト 前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を学ぶ	宿題をする
15	Unit 12　What happened next? その他の学習活動	小テスト 前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を学ぶ	宿題をする

関連科目

他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Firsthand (Fifth Edition) Success: Student Book with MyMobileWorld ISBN: 9789813132764	Marc Helgesen, John Wiltsher, & Steven Brown	Pearson
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

全学共通英語課題　20%
授業への参加、貢献（小テスト・課題・宿題・発表等を含む）　80%

学生へのメッセージ

聴く、読む、話す、書く技術を、個人・ペア・グループ活動を通して学ぶので、毎週授業に出席することが重要です。
学期途中で、新型コロナウイルスの感染状況の改善等により、対面授業になる場合があります。その場合は、利用するＩＣＴツール等で連絡されます。

担当者の研究室等

非常勤講師室（前期３号館２階、後期７号館２階）

備考

毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は学内メールや出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ｉｃ	科目名（英文）	English Ic
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	東野　厚子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1303c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法等の説明 文法事項等の確認	教科書を必ず準備し、全体に目を通しておくこと
2	UNIT 01 「〈人〉または〈物〉は/が～する」のパターン 第 1 文型をとる動詞と第 3 文型をとる動詞	単語、文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
3	UNIT 02 「〈人〉に〈物〉を～する」のパターン 第 4 文型をとる動詞	単語、文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
4	UNIT 03 人や物を説明しよう(1) 第 2 文型をとる動詞	単語、文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
5	UNIT 04 人や物を説明しよう(2) 第 5 文型をとる動詞	単語、文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
6	UNIT 05 「いつも～している」のパターンと「～した」のパターン 現在時制と過去時制	単語、文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
7	UNIT 06 「これから～するつもりだ」のパターン 未来を表す表現	単語、文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
8	まとめ (1) Unit1－6 復習 中間テスト	前半の既習内容の確認	単語学習 Unit1－6 の復習
9	UNIT 07 「今～している」のパターンと「その時～していた」のパターン 現在進行形と過去進行形	単語、文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
10	UNIT 08 過去のことが現在まで影響する形 現在完了形	単語、文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
11	UNIT 09 「話し手の気持ち」を表す表現 法助動詞 ①	単語、文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
12	UNIT 10 「相手の気持ち」を尋ねる表現 法助動詞 ②	単語、文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
13	UNIT 11 「～すること」を表す 2 種類の形 to 不定詞と動名詞	単語、文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
14	UNIT 12　2 種類の「～すること」の形を区別する方法 「未来」を表す to 不定詞と「現在・過去」を表す動名詞	単語、文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
15	まとめ (2) Unit7－12 復習 期末テスト	後半の既習内容の確認	単語学習 Unit7－12 の復習

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	A Primer of Communication in English	小山政史他	松柏社
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-	西垣恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			

評価方法 （基準）	全学共通英語課題　20% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　80%
学生への メッセージ	外国語学習は、辞書をしっかり引いて書き込むなどの地道な下準備が欠かせません。予習、復習をしっかりしましょう。 積極的な授業参加を期待します。 英和辞書か電子辞書を持参して下さい。
担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は、学内メール、出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ｉｄ	科目名（英文）	English Id
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	東野　厚子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1304c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法 重要単語、表現の確認	単語学習 教科書の予習
2	UNIT 13 「～するために」と「～して」を表す形 to 不定詞の副詞的用法	単語、文法事項の確認 読解、練習問題	単語学習 教科書の予習,復習
3	UNIT 14 「～するための」と「～するという」を表す形 to 不定詞の形容詞的用法	単語、文法事項の確認 読解、練習問題	単語学習 教科書の予習,復習
4	UNIT 15 「～される」を表す形 受動態	単語、文法事項の確認 読解、練習問題	単語学習 教科書の予習,復習
5	UNIT 16 「～している」を表す形 現在分詞の形容詞的用法 《 第 5 回から対面授業に移行 》	単語、文法事項の確認 読解、練習問題	単語学習 教科書の予習,復習
6	UNIT 17 「～された」を表す形 過去分詞の形容詞的用法 《 対面授業 》	単語、文法事項の確認 読解、練習問題	単語学習 教科書の予習,復習
7	UNIT 18 2 つの文を 1 つにする方法(1) 関係代名詞の主格と目的格 《 対面授業 》	単語、文法事項の確認 読解、練習問題	単語学習 教科書の予習復習
8	まとめ (1) Unit7-18 復習 中間テスト 《 対面授業 》	Unit7-18 の文法事項等の確認	単語学習 教科書の復習
9	UNIT 19 2 つの文を 1 つにする方法(2) 関係代名詞の所有格と関係代名詞 what 《 対面授業 》	単語、文法事項の確認 読解、練習問題	単語学習 教科書の予習,復習
10	UNIT 20 2 つのものをつないでみよう 接続詞 《 対面授業 》	単語、文法事項の確認 読解、練習問題	単語学習 教科書の予習,復習
11	UNIT 21 疑問文を作る方法と疑問文を別の文の一部にする方法 疑問詞疑問文と間接疑問文 《 対面授業 》	単語、文法事項の確認 読解、練習問題	単語学習 教科書の予習,復習
12	UNIT 22 「現実離れしたこと」を表す 仮定法 《 対面授業 》	単語、文法事項の確認 読解、練習問題	単語学習 教科書の予習,復習
13	UNIT 23 「2 つのもの」を比べる表現 原級と比較級 《 対面授業 》	単語、文法事項の確認 読解、練習問題	単語学習 教科書の予習,復習

14	UNIT 24 「順位」を表す表現 最上級 《 対面授業 》	単語、文法事項の確認 読解、練習問題	単語学習 教科書の予習,復習
15	まとめ（2） Unit19-24 の復習 期末テスト 《 対面授業 》	Unit19-24 単語、文法事項等の確認	教科書（Unit19-24 ）の復習

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	A Primer of Communication in English	小山政史他	松柏社
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-	西垣恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

全学共通英語課題　20%
授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　80%

学生へのメッセージ

授業内で指示された課題等は、必ず期限までに提出してください。

担当者の研究室等

非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）

備考

毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、レポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。質問等は学内メール、出講時には非常勤講義室で対応する。

科目名	英語Ⅱａ	科目名（英文）	English IIa
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ﾌﾞﾗｲｱﾝ ｽﾚｰﾀｰ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN2305c1		

授業概要・目的	The Smart Choice textbook will help you with your travel-based English and general communication skills.
到達目標	読解力をつけるための単語力、文法力をつける。 自習の習慣を付け、辞書を使うことに慣れる。 音声に慣れ、リスニングから発話へとつなげるように音読に慣れる。
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. 単語のテスト又は何らかのテストが毎回あります。出席していなければ受けられない物もあります。英語が苦手でも努力次第で成績がとれる科目です。辞書を必ず持参し、配布物をしっかり整理してよく復習する事。
科目学習の効果（資格）	・・・

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction オリエンテーション テキスト	Introduction exercises	Students should study the content of the day's lesson
2	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
3	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
4	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
5	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
6	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
7	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
8	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
9	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
10	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
11	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
12	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
13	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
14	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
15	まとめテストと復習セッション	Feedback session	・・・

関連科目：なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Smart Choice 1、Third Edition	Ken Wilson	Ｏｘｆｏｒｄ University Press:ＩＳＢＮ　９７８－０－１９－４６０２４－８
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Grading will be based on student class participation, attendance, quizzes (70%) and an end of semester in-class final test (30%).
学生へのメッセージ	Prepare for your future and study and speak English today.
担当者の研究室等	3 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱａ	科目名（英文）	English IIa
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	ＢＣ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	シャーフ　ジョージ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN2305c1		

授業概要・目的	This course, using the Speaking of People textbook, will help students to develop vocabulary, grammar, and speaking and listening skills in areas　such as talking about oneself, likes and dislikes, and other topics related to general communication.
到達目標	The focus of the course is speaking and listening.
授業方法と留意点	Regular attendance and participation are key to success in this course.
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Course introduction	Overview and expectations; explanation of grading and assessments	Review (2 時間)
2	Unit 1	Vocabulary, listening	Extensive Listening 1 (2 時間)
3	Unit 1	Vocabulary review and discussion	Preview/ review (2 時間
4	Unit 2	Vocabulary, listening, discussion	Extensive Listening 2 (2 時間)
5	Unit 2	Vocabulary review and discussion	Presentation Topic choice task (2 時間)
6	Unit 3	Vocabulary, listening, discussion	Preview/ review Extensive Listening 3 (2 時間)
7	Unit 3	Vocabulary review and discussion	Preview/ review Study for quiz　(2 時間)
8	Quiz 1	Quiz 1	Create presentation Worksheet / slides (2 時間)
9	Presentation 1	Presentation 1	Preview/ review (2 時間)
10	Unit 4	Vocabulary, listening, discussion	Preview/ review Extensive Listening 4 (2 時間)
11	Unit 4	Vocabulary review and discussion	Presentation Topic choice task (2 時間)
12	Unit 5	Vocabulary, listening, discussion	Preview/ review Extensive Listening 5 (2 時間)
13	Unit 5	Vocabulary review and discussion	Preview/ review Study for quiz　(2 時間)
14	Quiz 1	Quiz 2	Create presentation Worksheet / slides (2 時間)
15	Presentation 2	Presentation 2	Optional course reflection (1 時間)

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Speaking of People	Vincent, Nakazato, Meadows	Nan'un-Do
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Unit quizzes (2) 20% Presentations (2) 20% Extensive Listening (5) 30% Active classroom participation (15) 30%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	Homework includes four types: 1. Preparation for discussions in the next lesson 2. Preparation for Unit Quizzes 3. Writing and practicing a presentation 4. Extensive Listening

科目名	英語Ⅱa	科目名（英文）	English IIa
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	ＤＥＧＨＩ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ジェフリー　ベル
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8〇		
科目ナンバリング	JEN2305c1		

授業概要・目的	The Speaking of People textbook is designed to help you with your conversational English and is useful for students in any field of academic study.
到達目標	読解力をつけるための単語力、文法力をつける。 自習の習慣を付け、辞書を使うことに慣れる。 音声に慣れ、リスニングから発話へとつなげるように音読に慣れる。
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. 単語のテスト又は何らかのテストが毎回あります。出席していなければ受けられない物もあります。英語が苦手でも努力次第で成績がとれる科目です。辞書を必ず持参し、配布物をしっかり整理してよく復習する事。
科目学習の効果（資格）	・・・

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction オリエンテーション テキスト	Introduction exercises	Students should study the content of the day's lesson
2	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
3	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
4	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
5	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
6	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
7	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
8	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
9	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
10	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
11	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
12	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
13	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
14	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
15	まとめテストと復習	Feedback session	・・・

関連科目：なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Speaking of People	Peter Vincent, etc.	978-4-523-17909-2
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	50% of Grade on assignments (Moodle) 50% of Grade on review/tests (Moodle)
学生へのメッセージ	興味のもてる内容のテキストを選びました。言葉とは文化と密接な関係にあるもの。文化的知識を楽しみながらリスニング、や音読を練習しましょう。語彙も増やして行きましょう。
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱｂ	科目名（英文）	English IIb
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ﾌﾞﾗｲｱﾝ ｽﾚｰﾀｰ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN2306c1		

授業概要・目的	The Ｓｍａｒｔ　Ｃｈｏｉｃｅ　１ textbook will help you with your travel-based English and general communication skills.
到達目標	読解力をつけるための単語力、文法力をつける。 自習の習慣を付け、辞書を使うことに慣れる。 音声に慣れ、リスニングから発話へとつなげるように音読に慣れる。
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. 単語のテスト又は何らかのテストが毎回あります。出席していなければ受けられない物もあります。英語が苦手でも努力次第で成績がとれる科目です。辞書を必ず持参し、配布物をしっかり整理してよく復習する事。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	First semester test review	Review of first semester test	Students should study the content of the day's lesson
2	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
3	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
4	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
5	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
6	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
7	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
8	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
9	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
10	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
11	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
12	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
13	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
14	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
15	まとめテストと復習セッション	Feedback session	・・・

関連科目：なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Ｓｍａｒｔ　Ｃｈｏｉｃｅ　１	Ｋｅｎ　Ｗｉｌｓｏｎ	OXFORD University Press ISBN 978-0-19-4６０２４－８
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Grading will be based on student class participation, attendance, quizzes (70%) and an end of semester in-class final test (30%).
学生へのメッセージ	Prepare for your future and study and speak English today.
担当者の研究室等	非常勤講師室　（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱb	科目名（英文）	English IIb
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	ＢＣ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	シャーフ　ジョージ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN2306c1		

授業概要・目的	This course, using the Speaking of People textbook, will help students to develop vocabulary, grammar, and speaking and listening skills in areas　such as talking about oneself, likes and dislikes, and other topics related to general communication.
到達目標	The focus of the course is speaking and listening.
授業方法と留意点	Regular attendance and participation are key to success in this course.
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Course introduction	Overview and expectations; explanation of grading and assessments	Review (2 時間)
2	Unit 6	Vocabulary, listening, discussion	Extensive Listening 1 (2 時間)
3	Unit 6	Vocabulary review and discussion	Preview/ review (2 時間)
4	Unit 7	Vocabulary, listening, discussion	Extensive Listening 2 (2 時間)
5	Unit 7	Vocabulary review and discussion	Write presentation script (2 時間)
6	Unit 8	Vocabulary, listening, discussion	Extensive Listening 3 (2 時間)
7	Unit 8	Vocabulary review and discussion	Study for quiz　(2 時間)
8	Quiz 1	Quiz taken	Create presentation (2 時間)
9	Presentation 1	Presentation performed	Preview/ review (2 時間)
10	Unit 9	Vocabulary, listening, discussion	Preview/ review Extensive Listening 4 (2 時間)
11	Unit 9	Vocabulary review and discussion	Write presentation script (2 時間)
12	Unit 10	Vocabulary, listening, discussion	Extensive Listening 5 (2 時間)
13	Unit 10	Vocabulary review and discussion	Study for quiz　(2 時間)
14	Quiz 2	Quiz taken	Create presentation (2 時間)
15	Presentation 2	Presentation performed	Optional course reflection (1 時間)

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Speaking of People	Vincent, Nakazato, Meadows	Nan'Un-Do
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Tests (2 x 20%) 40% Short Presentations (2 x 10%) 20% Extensive Listening Homework (5 x 5%) 25% Active participation 15%
学生へのメッセージ	Regular attendance and participation is essential for developing one's English skills and passing the course. The assignments are created to encourage students' curiosity and interest in a variety of topics.
担当者の研究室等	非常勤講師室　(前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
備考	Homework includes four types: 1. Previewing and reviewing lesson contents 2. Preparation for tests 3. Writing and practicing a presentation 4. Extensive listening reports

科目名	英語Ⅱb	科目名（英文）	English IIb
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	ＤＥＧＨＩ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ジェフリー　ベル
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8〇		
科目ナンバリング	JEN2306c1		

授業概要・目的	The Speaking of People textbook is designed to help you with your conversational English and is useful for students in any field of academic study.
到達目標	読解力をつけるための単語力、文法力をつける。 自習の習慣を付け、辞書を使うことに慣れる。 音声に慣れ、リスニングから発話へとつなげるように音読に慣れる。
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. 単語のテスト又は何らかのテストが毎回あります。出席していなければ受けられない物もあります。英語が苦手でも努力次第で成績がとれる科目です。辞書を必ず持参し、配布物をしっかり整理してよく復習する事。
科目学習の効果（資格）	・・・

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction オリエンテーション テキスト	Introduction exercises	Students should study the content of the day's lesson
2	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
3	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
4	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
5	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
6	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
7	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
8	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
9	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
10	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
11	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
12	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
13	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
14	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
15	まとめテストと復習	Feedback session	・・・

関連科目：なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Speaking of People	Peter Vincent, etc.	978-4-523-17909-2
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Grading will be based on weekly assignments to be found on Moodle, including end of unit quizzes and tests. Final grade points will be deducted for incomplete assignments or tests.
学生へのメッセージ	興味のもてる内容のテキストを選びました。言葉とは文化と密接な関係にあるもの。文化的知識を楽しみながらリスニング、や音読を練習しましょう。語彙も増やして行きましょう。
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英会話Ⅰ	科目名（英文）	English Conversation Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	ＡＢ
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	ｸﾘｽﾄﾌｧｰ ｼﾞｮﾝｽﾄﾝ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN2329c1		

授業概要・目的	英語で発信するための基礎作りをし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができるようになる。
到達目標	(1) 実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 (2) 前期はCEFR-J [A1.2]、後期はCEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
2	Unit 1	Lists and categories	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
3	Unit 2	Extra information and questions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
4	Unit 3	Order of importance	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
5	Unit 4	Habits	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
6	Unit 5	Future concepts, speculation.	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
7	Unit 6	Instructions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
8	Unit 7	Creative instructions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
9	Unit 8	Location and juxtaposition	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
10	Unit 9	Giving directions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
11	Unit 10	Diaries and the past	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
12	Unit 11	Story structures and formats	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
13	Unit 12	Description	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
14	Unit 13	Conversation gambits	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
15	Review	Review	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.

関連科目　―

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Firsthand 2 (5th edition) ISBN 978-981-313-023-4	Marc Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown	Pearson
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Evaluation will be based on quizzes, homework assignments and class participation Exam 10% In-class quizzes 10% Homework assignments 10% Class participation and attitude, ability 70%
学生へのメッセージ	Students who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve most from this course. Pair and group work will form the core of each lesson.
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期3号館2階/後期7号館2階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英会話Ⅰ	科目名（英文）	English Conversation Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	ＣＤ
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	ジョセフ　シウンシ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN2329c1		

授業概要・目的	英語で発信するための基礎作りをし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができるようになる。
到達目標	(1) 実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 (2) 前期はCEFR-J [A1.2]、後期はCEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
2	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題 .
3	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
4	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
5	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
6	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
7	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
8	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
9	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
10	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
11	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
12	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
13	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
14	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
15	復習	復習	ノートの再確認 宿題

関連科目	（記入不要）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Funny Laws in the World (with CD)	Joe Ciunci	Nan'un-do

	2			
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業への参加（ノートを取る、スピーキング、ロールプレイ、クイズ）　１００％ （※欠席、遅刻、授業中の私語や居眠りなど、受講態度は成績に反映します。）
学生への メッセージ	頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。 授業はマナーを守って受けてください。
担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英会話Ⅰ	科目名（英文）	English Conversation Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	ＥＧＨＩＫ
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	ダンカン　ホワイト
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN2329c1		

授業概要・目的	英語で発信するための基礎作りをし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができるようになる。
到達目標	(1) 実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 (2) 前期はCEFR-J [A1.2]、後期はCEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
2	Unit 1	Lists and categories	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
3	Unit 2	Extra information and questions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
4	Unit 3	Order of importance	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
5	Unit 4	Habits	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
6	Unit 5	Future concepts, speculation.	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
7	Unit 6	Instructions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
8	Unit 7	Creative instructions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
9	Unit 8	Location and juxtaposition	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
10	Unit 9	Giving directions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
11	Unit 10	Diaries and the past	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
12	Unit 11	Story structures and formats	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
13	Unit 12	Description	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
14	Unit 13	Conversation gambits	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
15	Review	Review	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.

関連科目　―

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	SCD Revised　ISBN 978-4-9905671-1-8	Richard Rowat	Weissman Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Evaluation will be based on quizzes, homework assignments and class participation Exam 10% In-class quizzes 10% Homework assignments 10% Class participation and attitude, ability 70% Marking and assignments, practice are flexible, according to the 'onli
学生へのメッセージ	Students who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve most from this course. Pair and group work will form the core of each lesson.
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期3号館2階/後期7号館2階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英会話Ⅱ	科目名（英文）	English Conversation II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	ＡＢ
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	ｸﾘｽﾄﾌｧｰ ｼﾞｮﾝｽﾄﾝ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN2330c1		

授業概要・目的	英語で発信するための基礎作りをし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができるようになる。
到達目標	(1) 実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 (2) 前期はCEFR-J [A1.2]、後期はCEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検討

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Units 15 & 16	Advice	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
2	Unit 17	Comparison	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
3	Unit 18	Invention	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
4	Unit 19	Opinions: the best	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
5	Unit 20	Opinions: good or bad	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
6	Unit 21	Opinions: true or false	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
7	Unit 22	Explanations	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
8	Unit 23	Tall tales	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
9	Unit 24	Advertising	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
10	Unit 25	News	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
11	Unit 26	Evaluation	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
12	Unit 27	Research	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
13	Unit 28	Rethinking history	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
14	Unit 29	Future concepts	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
15	Evaluation and review	Evaluation and review	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Firsthand 2 (5th edition) ISBN 978-981-313-023-4	Marc Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown	Pearson
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Evaluation will be based on quizzes, homework assignments and class participation. Exam 20%, In-class quizzes, Homework assignments, Class participation, attitude, ability 80% All adapted for the online learning environment.
学生へのメッセージ	Students who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve most from this course. Pair and group work will form the core of each lesson.
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期3号館2階/後期7号館2階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英会話Ⅱ	科目名（英文）	English Conversation II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	ＣＤ
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	ジョセフ　シウンシ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN2330c1		

授業概要・目的	英語で発信するための基礎作りをし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができるようになる。
到達目標	(1) 実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 (2) 前期はCEFR-J [A1.2]、後期はCEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
2	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題 .
3	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
4	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
5	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
6	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
7	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
8	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
9	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
10	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
11	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
12	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
13	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
14	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
15	復習	復習	ノートの再確認 宿題

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	Funny Laws in the World (With CD)	Joe Ciunci	Nan'un-do
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 （基準）	授業への参加（ノートを取る、スピーキング、ロールプレイ、クイズ）　１００％ （※欠席、遅刻、授業中の私語や居眠りなど、受講態度は成績に反映します。）
学生への メッセージ	頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。 授業はマナーを守って受けてください。
担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英会話Ⅱ	科目名（英文）	English Conversation II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	ＥＧＨＩＫ
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	ダンカン　ホワイト
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN2330c1		

授業概要・目的	英語で発信するための基礎作りをし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができるようになる。
到達目標	(1) 実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 (2) 前期は CEFR-J [A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検討

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Units 15 & 16	Advice	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
2	Unit 17	Comparison	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
3	Unit 18	Invention	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
4	Unit 19	Opinions: the best	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
5	Unit 20	Opinions: good or bad	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
6	Unit 21	Opinions: true or false	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
7	Unit 22	Explanations	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
8	Unit 23	Tall tales	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
9	Unit 24	Advertising	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
10	Unit 25	News	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
11	Unit 26	Evaluation	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
12	Unit 27	Research	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
13	Unit 28	Rethinking history	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
14	Unit 29	Future concepts	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
15	Evaluation and review	Evaluation and review	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	SCD Revised ISBN 978-4-9905671-1-8	Richard Rowat	Weissman Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Evaluation will be based on quizzes, homework assignments and class participation. Exam 20%, In-class quizzes, Homework assignments, Class participation, attitude, ability 80% All adapted for the online learning environment.
学生へのメッセージ	Students who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve most from this course. Pair and group work will form the core of each lesson.
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	情報処理Ⅰ	科目名（英文）	Information Processing I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	学籍番号下３桁 001～70
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	橋本　はる美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JIL1309a1		

授業概要・目的	大学生活および卒業後の生活において要求される情報を取り扱うための基礎的なリテラシー能力養成を目的とする。
到達目標	情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと。アプリケーションの機能の最低限の使い方と、それらの連携作業を実行できるようになること。
授業方法と留意点	遠隔授業を実施する。自宅等で各自のパソコンや通信環境を利用して、Microsoft Word, Excel, PowerPoint を用いて演習課題を完成させ、大学のサーバに電子的に提出する。 具体的な授業方法については、Microsoft Teams の当講義のチームの一般チャネルで紹介する。なお、授業の進捗により授業のスケジュールは変更となる場合がある。
科目学習の効果（資格）	今後の諸活動において情報リテラシー能力を活用できること。マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)等の資格取得出題範囲の約 40%を学ぶ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 摂南大学の ICT 環境	出欠管理システム メールシステム ポータルサイト Moodle への登録 OneDrive の使い方 タイピングについて	事前：シラバスの確認（30 分） 事後：摂南大学の ICT 環境の確認（1 時間）
2	コンピュータの基礎 関連資格の紹介 【Word】 文書の作成と編集	用語解説 IT パスポートの紹介 メールへのファイル添付 文書を作成する 文書内を移動する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
3	【Word】 文書の編集と管理	文書の書式を設定する 文書のオプションと表示をカスタマイズする 文書を印刷する、保存する 文字列や段落を挿入する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
4	【Word】 書式の設定 表、リストの作成	文字列や段落の書式を設定する 文字列や段落を並び替える、グループ化する 表を作成する リストを作成する、変更する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
5	【Word】 課題演習	テキストの演習問題（自習あり）	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
6	【PowerPoint】 スライドの作成	スライドの作成 テキスト 図形作成 グラフィック要素の挿入と書式設定	事前：作成課題の準備（30 分） 事後：事後課題の完成・提出（1 時間）
7	【PowerPoint】 グループ内での発表	アニメーションの設定 スライドの切り替え 発表者ツールの設定 相互発表 ルーブリック評価	事前：発表準備（50 分） 事後：事後課題の完成・提出（40 分）
8	【Excel】 ワークシートやブックの作成 ワークシートやブックの書式設定、管理	ワークシートやブックを作成する ワークシートやブックの書式を設定する 配布するためにワークシートやブックを設定する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
9	【Excel】 セルやセル範囲の編集、設定 テーブルの作成、編集	セルやセル範囲にデータを挿入する セルやセル範囲の書式を設定する データをまとめる、整理する テーブルを作成する、管理する テーブルのレコードを抽出する、並び替える	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
10	【Excel】 関数の利用	関数を使用してデータを集計する 関数を使用して条件付きの計算を実行する 関数を使用して書式を設定する、文字列を変更する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
11	【Excel】 グラフやオブジェクトの作成	グラフを作成する グラフを書式設定する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
12	【Excel】 課題演習	演習問題	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
13	応用	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
14	応用	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
15	総合演習	模擬問題演習	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）

関連科目	情報リテラシーⅡ

<table>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>よくわかるマスター MicrosoftR Office Specialist MOS Word 2016 対策テキスト＆問題集（FPT1618）</td><td>富士通 FOM</td><td>FOM 出版</td></tr>
<tr><td>2</td><td>よくわかるマスター MicrosoftR Office Specialist MOS Excel 2016 対策テキスト＆問題集（FPT1617）</td><td>富士通 FOM</td><td>FOM 出版</td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>毎回の実習課題（60%）、2回の総合課題などの演習（40%）を総合的に評価する。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>疑問を放置しないこと。何でも質問してください。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>１１号館８階（橋本研究室）</td></tr>
<tr><td>備考</td><td></td></tr>
</table>

科目名	情報処理Ⅰ	科目名（英文）	Information Processing I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	学籍番号下３桁 071～140
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	寺内　睦博
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JIL1309a1		

授業概要・目的	大学生活および卒業後の生活において要求される情報を取り扱うための基礎的なリテラシー能力養成を目的とする。
到達目標	情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと。アプリケーションの機能の最低限の使い方と、それらの連携作業を実行できるようになること。
授業方法と留意点	当面は遠隔授業の形式とする。遠隔で受講の場合には、自宅等で各自のパソコンや通信環境を利用して、Microsoft Word, Excel, PowerPoint を用いて演習課題を完成させ、大学のサーバに電子的に提出する。 具体的な授業方法については、Microsoft Teams の当講義のチームの一般チャネルで紹介する。なお、授業の進捗により授業のスケジュールは変更となる場合がある。
科目学習の効果（資格）	今後の諸活動において情報リテラシー能力を活用できること。マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)等の資格取得出題範囲の約 40%を学ぶ。
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 摂南大学の ICT 環境	出欠管理システム メールシステム ポータルサイト Moodle への登録 OneDrive の使い方 タイピングについて	事前：シラバスの確認（30 分） 事後：摂南大学の ICT 環境の確認（1 時間）
2	コンピュータの基礎 関連資格の紹介 【Word】 文書の作成と編集	用語解説 IT パスポートの紹介 メールへのファイル添付 文書を作成する 文書内を移動する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
3	【Word】 文書の編集と管理	文書の書式を設定する 文書のオプションと表示をカスタマイズする 文書を印刷する、保存する 文字列や段落を挿入する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
4	【Word】 書式の設定 表、リストの作成	文字列や段落の書式を設定する 文字列や段落を並び替える、グループ化する 表を作成する リストを作成する、変更する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
5	【Word】 課題演習	テキストの演習問題（自習あり）	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
6	【PowerPoint】 スライドの作成	スライドの作成 テキスト 図形作成 グラフィック要素の挿入と書式設定	事前：作成課題の準備（30 分） 事後：事後課題の完成・提出（1 時間）
7	【PowerPoint】 グループ内での発表	アニメーションの設定 スライドの切り替え 発表者ツールの設定 相互発表 ルーブリック評価	事前：発表準備（50 分） 事後：事後課題の完成・提出（40 分）
8	【Excel】 ワークシートやブックの作成 ワークシートやブックの書式設定、管理	ワークシートやブックを作成する ワークシートやブックの書式を設定する 配布するためにワークシートやブックを設定する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
9	【Excel】 セルやセル範囲の編集、設定 テーブルの作成、編集	セルやセル範囲にデータを挿入する セルやセル範囲の書式を設定する データをまとめる、整理する テーブルを作成する、管理する テーブルのレコードを抽出する、並び替える	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
10	【Excel】 関数の利用	関数を使用してデータを集計する 関数を使用して条件付きの計算を実行する 関数を使用して書式を設定する、文字列を変更する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
11	【Excel】 グラフやオブジェクトの作成	グラフを作成する グラフを書式設定する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
12	【Excel】 課題演習	演習問題	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
13	応用	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
14	応用	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
15	総合演習	模擬問題演習	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）

関連科目	情報リテラシーⅡ

<table>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>よくわかるマスター MicrosoftR Office Specialist MOS Word 2016 対策テキスト＆問題集（FPT1618）</td><td>富士通 FOM</td><td>FOM 出版</td></tr>
<tr><td>2</td><td>よくわかるマスター MicrosoftR Office Specialist MOS Excel 2016 対策テキスト＆問題集（FPT1617）</td><td>富士通 FOM</td><td>FOM 出版</td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>毎回の実習課題（60%）、2 回の総合課題などの演習（40%）を総合的に評価する。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>疑問を放置しないこと。何でも質問してください。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>11 号館 10 階（寺内研究室）</td></tr>
<tr><td>備考</td><td></td></tr>
</table>

科目名	情報処理Ⅰ	科目名（英文）	Information Processing I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	学籍番号下３桁 141～210
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石原　恭子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JIL1309a1		

授業概要・目的	大学生活および卒業後の生活において要求される情報を取り扱うための基礎的なリテラシー能力養成を目的とする。
到達目標	情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと。アプリケーションの機能の最低限の使い方と、それらの連携作業を実行できるようになること。
授業方法と留意点	今年度は原則として対面授業の形式とする。遠隔で受講の場合には、自宅等で各自のパソコンや通信環境を利用して、Microsoft Word, Excel, PowerPoint を用いて演習課題を完成させ、大学のサーバに電子的に提出する。 具体的な授業方法については、Microsoft Teams の当講義のチームの一般チャネルで紹介する。なお、授業の進捗により授業のスケジュールは変更となる場合がある。
科目学習の効果（資格）	今後の諸活動において情報リテラシー能力を活用できること。マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)等の資格取得出題範囲の約 40%を学ぶ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 摂南大学の ICT 環境	出欠管理システム メールシステム ポータルサイト Moodle への登録 OneDrive の使い方 タイピングについて	事前：シラバスの確認（30 分） 事後：摂南大学の ICT 環境の確認（1 時間）
2	コンピュータの基礎 関連資格の紹介 【Word】 文書の作成と編集	用語解説 IT パスポートの紹介 メールへのファイル添付 文書を作成する 文書内を移動する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
3	【Word】 文書の編集と管理	文書の書式を設定する 文書のオプションと表示をカスタマイズする 文書を印刷する、保存する 文字列や段落を挿入する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
4	【Word】 書式の設定 表、リストの作成	文字列や段落の書式を設定する 文字列や段落を並び替える、グループ化する 表を作成する リストを作成する、変更する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
5	【Word】 課題演習	テキストの演習問題（自習あり）	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
6	【PowerPoint】 スライドの作成	スライドの作成 テキスト 図形作成 グラフィック要素の挿入と書式設定	事前：作成課題の準備（30 分） 事後：事後課題の完成・提出（1 時間）
7	【PowerPoint】 グループ内での発表	アニメーションの設定 スライドの切り替え 発表者ツールの設定 相互発表 ルーブリック評価	事前：発表準備（50 分） 事後：事後課題の完成・提出（40 分）
8	【Excel】 ワークシートやブックの作成 ワークシートやブックの書式設定、管理	ワークシートやブックを作成する ワークシートやブックの書式を設定する 配布するためにワークシートやブックを設定する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
9	【Excel】 セルやセル範囲の編集、設定 テーブルの作成、編集	セルやセル範囲にデータを挿入する セルやセル範囲の書式を設定する データをまとめる、整理する テーブルを作成する、管理する テーブルのレコードを抽出する、並び替える	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
10	【Excel】 関数の利用	関数を使用してデータを集計する 関数を使用して条件付きの計算を実行する 関数を使用して書式を設定する、文字列を変更する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
11	【Excel】 グラフやオブジェクトの作成	グラフを作成する グラフを書式設定する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
12	【Excel】 課題演習	演習問題	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
13	応用	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
14	応用	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
15	総合演習	模擬問題演習	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）

関連科目	情報リテラシーⅡ

<table>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>よくわかるマスター MicrosoftR Office Specialist MOS Word 2016 対策テキスト＆問題集（FPT1618）</td><td>富士通 FOM</td><td>FOM 出版</td></tr>
<tr><td>2</td><td>よくわかるマスター MicrosoftR Office Specialist MOS Excel 2016 対策テキスト＆問題集（FPT1617）</td><td>富士通 FOM</td><td>FOM 出版</td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>毎回の実習課題（60%）、2 回の総合課題などの演習（40%）を総合的に評価する。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>使いこなすには多くの練習時間が必要です。多くの先輩が、受講の後に独学で MOS（Microsoft Office Specialist（マイクロソフト オフィス スペシャリスト）に合格していますので、就活時のアピールの為にも頑張ってください。さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）</td></tr>
<tr><td>備考</td><td></td></tr>
</table>

科目名	情報処理Ⅰ	科目名（英文）	Information Processing I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	学籍番号下３桁 211～
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	坂口　紫
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング	JIL1309a1		

授業概要・目的	大学生活および卒業後の生活において要求される情報を取り扱うための基礎的なリテラシー能力養成を目的とする。
到達目標	情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと。アプリケーションの機能の最低限の使い方と、それらの連携作業を実行できるようになること。
授業方法と留意点	今年度は原則として対面授業の形式とする。遠隔で受講の場合には、自宅等で各自のパソコンや通信環境を利用して、Microsoft Word, Excel, PowerPoint を用いて演習課題を完成させ、大学のサーバに電子的に提出する。 具体的な授業方法については、Microsoft Teams の当講義のチームの一般チャネルで紹介する。なお、授業の進捗により授業のスケジュールは変更となる場合がある。
科目学習の効果（資格）	今後の諸活動において情報リテラシー能力を活用できること。マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)等の資格取得出題範囲の約 40%を学ぶ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 摂南大学の ICT 環境	出欠管理システム メールシステム ポータルサイト Moodle への登録 OneDrive の使い方 タイピングについて	事前：シラバスの確認（30 分） 事後：摂南大学の ICT 環境の確認（1 時間）
2	コンピュータの基礎 関連資格の紹介 【Word】 文書の作成と編集	用語解説 IT パスポートの紹介 メールへのファイル添付 文書を作成する 文書内を移動する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
3	【Word】 文書の編集と管理	文書の書式を設定する 文書のオプションと表示をカスタマイズする 文書を印刷する、保存する 文字列や段落を挿入する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
4	【Word】 書式の設定 表、リストの作成	文字列や段落の書式を設定する 文字列や段落を並び替える、グループ化する 表を作成する リストを作成する、変更する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
5	【Word】 課題演習	テキストの演習問題（自習あり）	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
6	【PowerPoint】 スライドの作成	スライドの作成 テキスト 図形作成 グラフィック要素の挿入と書式設定	事前：作成課題の準備（30 分） 事後：事後課題の完成・提出（1 時間）
7	【PowerPoint】 グループ内での発表	アニメーションの設定 スライドの切り替え 発表者ツールの設定 相互発表 ルーブリック評価	事前：発表準備（50 分） 事後：事後課題の完成・提出（40 分）
8	【Excel】 ワークシートやブックの作成 ワークシートやブックの書式設定、管理	ワークシートやブックを作成する ワークシートやブックの書式を設定する 配布するためにワークシートやブックを設定する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
9	【Excel】 セルやセル範囲の編集、設定 テーブルの作成、編集	セルやセル範囲にデータを挿入する セルやセル範囲の書式を設定する データをまとめる、整理する テーブルを作成する、管理する テーブルのレコードを抽出する、並び替える	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
10	【Excel】 関数の利用	関数を使用してデータを集計する 関数を使用して条件付きの計算を実行する 関数を使用して書式を設定する、文字列を変更する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
11	【Excel】 グラフやオブジェクトの作成	グラフを作成する グラフを書式設定する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
12	【Excel】 課題演習	演習問題	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
13	応用	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
14	応用	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）

15	総合演習	模擬問題演習	事前：出題範囲の復習（1時間） 事後：出題内容の見直し（30分）

関連科目	情報リテラシーⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかるマスター MicrosoftR Office Specialist MOS Word 2016 対策テキスト＆問題集（FPT1618）	富士通FOM	FOM出版
2	よくわかるマスター MicrosoftR Office Specialist MOS Excel 2016 対策テキスト＆問題集（FPT1617）	富士通FOM	FOM出版
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	毎回の実習課題（60%）、2回の総合課題などの演習（40%）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。多くの先輩が、受講の後に独学でMOS（Microsoft Office Specialist（マイクロソフト オフィス スペシャリスト）に合格していますので、就活時のアピールの為にも頑張ってください。さらにITパスポート資格の取得も視野に入れましょう。
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期3号館2階/後期7号館2階）
備考	

科目名	情報処理Ⅱ	科目名（英文）	Information Processing II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本　はる美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JIL1310a1		

授業概要・目的	大学生活および、卒業後の社会人生活において効率的に資料収集、作成を行い、基礎的な分析も実施できる能力の養成を目的とする。
到達目標	Microsoft Office を用いて大学での授業のレポート課題を作成できる。
授業方法と留意点	パソコンを使った実習を行います。 実習を中心に行うため、毎回の課題提出は必須です。受講に関する事項は Moodle に掲載します。 第 8 回目（11 月 9 日）より対面で実施します。
科目学習の効果（資格）	Microsoft Office Specialist Word、Excel が取得できるレベル。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	ICT 学習環境の確認 社会人としての情報モラル	事前：情報リテラシーⅠの復習（1 時間） 事後：事後課題の完成・提出（30 分）
2	【Word 応用】 効率的な文書の作成	テンプレートを使用して新しい文書を作成する Word で PDF ファイルを開き編集する ファイルまたは外部データからテキスト挿入する ブックマークを作成する 文書内の特定の場所またはオブジェクトに移動する ハイパーリンクを挿入する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
3	【Word 応用】 書式や文書のカスタマイズ	文書のテーマを適用する 文書のスタイルセットを適用する ページの背景要素の書式を設定する ズーム機能を使用して、表示をカスタマイズする ウィンドウを分割する 文書のプロパティに値を追加する クイックアクセスツールバーをカスタマイズする 印刷の設定を変更する 別のファイル形式で文書を保存する 隠しプロパティや個人情報がないか文書を検査する アクセシビリティに関する問題がないか文書を検査する 下位バージョンとの互換性に問題がないか文書を検査する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
4	【Word 応用】 文字列や段落の高度な設定 表やリストの高度な設定	配置、インデントを設定する 書式をクリアする 文字列をワードアートに変更する 文字列や段落に組み込みスタイルを適用する セクション区切りを挿入する 文字列を表に変換する 表を文字列に変換する 表のデータを並び替える 表、行、列のサイズを調整する 表を分割する タイトル行の繰り返しを設定する リストの新しい行頭文字や番号書式を定義する リストのレベルを変更する リストのレベルごとに行頭文字や番号書式を変更する リストの番号を振り直す、自動的に振る	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
5	【Word 応用】 参考資料の作成と管理	脚注や文末脚注を挿入する 脚注や文末脚注のプロパティを変更する 資料文献を作成する 資料文献を変更する 引用文献を挿入する 図表番号を挿入する 図表番号のプロパティを変更する 標準の目次を挿入する 目次を更新する 表紙を追加する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
6	【Word 応用】 グラフィック要素の活用	図形を挿入する 図を挿入する スクリーンショットや画面の領域を挿入する テキストボックスを挿入する アート効果を適用する 図の背景を削除する 図の効果を適用する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）

		図のスタイルを適用する オブジェクトを書式設定する オブジェクトの周囲の文字列を折り返す オブジェクトを配置する オブジェクトに代替テキストを追加する SmartArt グラフィックを作成する SmartArt グラフィックを書式設定する SmartArt グラフィックの内容を変更する	
7	【Word 応用】 課題演習	MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
8	【Excel 応用】 ワークシートやブックの高度な編集と設定	区切り文字で区切られたデータをテキストファイルからインポートする ワークシートをコピーする、移動する ブック内のデータを検索する 名前付きのセル、セル範囲、ブックの要素へ移動する ハイパーリンクを挿入する、削除する ワークシートの見出しの色を変更する ブックのテーマを変更する ブックの表示を変更する ズーム機能を使用して表示倍率を変更する 数式を表示する 列や行を表示する、非表示にする ワークシートを表示する、非表示にする ドキュメントプロパティを変更する クイックアクセスツール	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
9	【Excel 応用】 高度なブックの設定 効率的なセルの入力や編集	複数ページのワークシートに列タイトルと行タイトルを繰り返し表示する ブック内の非表示のプロパティや個人情報を検査する ブック内のアクセシビリティの問題を検査する ブック内の互換性の問題を検査する セルを挿入する、削除する データを置換する セルの書式を適用する セルの配置やインデントを変更する セル内の文字列を折り返して表示する 数値の書式を適用する セルのスタイルを適用する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
10	【Excel 応用】 高度な表の作成とデータ管理 関数の利用	データのアウトラインを作成する 小計を挿入する 条件付き書式を適用する テーブルをセル範囲に変換する テーブルにスタイルを適用する テーブルスタイルのオプションを設定する テーブルに集計行を挿入する 複数の列でデータを並び替える レコードを抽出する 重複レコードを削除する UPPER, LOWER, PROPER 関数を使用して文字の書式を設定する CONCATENATE 関数を使用して文字の書式を設定する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
11	【Excel 応用】 グラフやオブジェクトの高度な設定	データ範囲の行と列を切り替える クイック分析を使用してデータを分析する グラフをグラフシートに移動する テキストボックスや図形を挿入する 画像を挿入する オブジェクトのプロパティを変更する アクセシビリティ向上のため、オブジェクトに代替テキストを追加する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
12	【Excel 応用】 課題演習	MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
13	応用演習	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
14	応用演習	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
15	総合演習	MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）

関連科目	情報リテラシーⅠ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかるマスター MicrosoftR Office Specialist MOS Word 2016 対策テキスト＆問題集	富士通 FOM	FOM 出版

		(FPT1618) 【前期のテキストと同じ（再購入不要)】		
	2	よくわかるマスター MicrosoftR Office Specialist MOS Excel 2016 対策テキスト＆問題集 (FPT1617)【前期のテキストと同じ（再購入不要)】	富士通 FOM	FOM 出版
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 （基準）	毎回の実習課題（60%）、課題演習や総合演習などの課題の評価等（40%）を総合的に評価する。
学生への メッセージ	疑問は放置しないこと。質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に参加して下さい。
担当者の 研究室等	１１号館８階（橋本研究室）
備考	

科目名	情報処理Ⅱ	科目名（英文）	Information Processing II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＥＧＨＩ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	寺内　睦博
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JIL1310a1		

授業概要・目的	大学生活および、卒業後の社会人生活において効率的に資料収集、作成を行い、基礎的な分析も実施できる能力の養成を目的とする。
到達目標	Microsoft Office を用いて大学での授業のレポート課題を作成できる。
授業方法と留意点	当面はリモート形式の授業とするが、状況により変更の可能性はある。 初回の授業は Teams の一般チャネルの会議にて授業方法について説明しますので、履修者は必ず参加してください。 毎回、PC を使った実習を行う。実習内容に関連する用語、知識については説明を行う。 実習を中心に行うため、課題提出は必須である。
科目学習の効果（資格）	Microsoft Office Specialist Word、Excel が取得できるレベル。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	ICT 学習環境の確認 社会人としての情報モラル	事前：情報リテラシーⅠの復習（1 時間） 事後：事後課題の完成・提出（30 分）
2	【Word 応用】 効率的な文書の作成	テンプレートを使用して新しい文書を作成する Word で PDF ファイルを開き編集する ファイルまたは外部データからテキスト挿入する ブックマークを作成する 文書内の特定の場所またはオブジェクトに移動する ハイパーリンクを挿入する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
3	【Word 応用】 書式や文書のカスタマイズ	文書のテーマを適用する 文書のスタイルセットを適用する ページの背景要素の書式を設定する ズーム機能を使用して、表示をカスタマイズする ウィンドウを分割する 文書のプロパティに値を追加する クイックアクセスツールバーをカスタマイズする 印刷の設定を変更する 別のファイル形式で文書を保存する 隠しプロパティや個人情報がないか文書を検査する アクセシビリティに関する問題がないか文書を検査する 下位バージョンとの互換性に問題がないか文書を検査する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
4	【Word 応用】 文字列や段落の高度な設定 表やリストの高度な設定	配置、インデントを設定する 書式をクリアする 文字列をワードアートに変更する 文字列や段落に組み込みスタイルを適用する セクション区切りを挿入する 文字列を表に変換する 表を文字列に変換する 表のデータを並び替える 表、行、列のサイズを調整する 表を分割する タイトル行の繰り返しを設定する リストの新しい行頭文字や番号書式を定義する リストのレベルを変更する リストのレベルごとに行頭文字や番号書式を変更する リストの番号を振り直す、自動的に振る	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
5	【Word 応用】 参考資料の作成と管理	脚注や文末脚注を挿入する 脚注や文末脚注のプロパティを変更する 資料文献を作成する 資料文献を変更する 引用文献を挿入する 図表番号を挿入する 図表番号のプロパティを変更する 標準の目次を挿入する 目次を更新する 表紙を追加する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
6	【Word 応用】 グラフィック要素の活用	図形を挿入する 図を挿入する スクリーンショットや画面の領域を挿入する テキストボックスを挿入する アート効果を適用する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）

		図の背景を削除する 図の効果を適用する 図のスタイルを適用する オブジェクトを書式設定する オブジェクトの周囲の文字列を折り返す オブジェクトを配置する オブジェクトに代替テキストを追加する SmartArt グラフィックを作成する SmartArt グラフィックを書式設定する SmartArt グラフィックの内容を変更する	
7	【Word 応用】 課題演習	MOS 模試課題	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
8	【Excel 応用】 ワークシートやブックの高度な編集と設定	区切り文字で区切られたデータをテキストファイルからインポートする ワークシートをコピーする、移動する ブック内のデータを検索する 名前付きのセル、セル範囲、ブックの要素へ移動する ハイパーリンクを挿入する、削除する ワークシートの見出しの色を変更する ブックのテーマを変更する ブックの表示を変更する ズーム機能を使用して表示倍率を変更する 数式を表示する 列や行を表示する、非表示にする ワークシートを表示する、非表示にする ドキュメントプロパティを変更する クイックアクセスツール	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
9	【Excel 応用】 高度なブックの設定 効率的なセルの入力や編集	複数ページのワークシートに列タイトルと行タイトルを繰り返し表示する ブック内の非表示のプロパティや個人情報を検査する ブック内のアクセシビリティの問題を検査する ブック内の互換性の問題を検査する セルを挿入する、削除する データを置換する セルの書式を適用する セルの配置やインデントを変更する セル内の文字列を折り返して表示する 数値の書式を適用する セルのスタイルを適用する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
10	【Excel 応用】 高度な表の作成とデータ管理 関数の利用	データのアウトラインを作成する 小計を挿入する 条件付き書式を適用する テーブルをセル範囲に変換する テーブルにスタイルを適用する テーブルスタイルのオプションを設定する テーブルに集計行を挿入する 複数の列でデータを並び替える レコードを抽出する 重複レコードを削除する UPPER, LOWER, PROPER 関数を使用して文字の書式を設定する CONCATENATE 関数を使用して文字の書式を設定する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
11	【Excel 応用】 グラフやオブジェクトの高度な設定	データ範囲の行と列を切り替える クイック分析を使用してデータを分析する グラフをグラフシートに移動する テキストボックスや図形を挿入する 画像を挿入する オブジェクトのプロパティを変更する アクセシビリティ向上のため、オブジェクトに代替テキストを追加する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
12	【Excel 応用】 課題演習	MOS 模試課題	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
13	応用演習	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
14	応用演習	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
15	総合演習	MOS 模擬試験等の課題により到達度を確認する	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）

関連科目	情報リテラシーⅠ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	よくわかるマスター MicrosoftR Office Specialist MOS Word 2016 対策テキスト＆問題集（FPT1618）【前期のテキストと同じ（再購入不要）】	富士通 FOM	FOM 出版
	2	よくわかるマスター MicrosoftR Office Specialist MOS Excel 2016 対策テキスト＆問題集（FPT1617）【前期のテキストと同じ（再購入不要）】	富士通 FOM	FOM 出版
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	毎回の実習課題（60%）、課題演習や総合演習などの課題の評価等（40%）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	疑問は放置しないこと。質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に参加して下さい。
担当者の研究室等	11 号館 10 階（寺内研究室）
備考	本人確認のため、メールで連絡するときは大学のアドレスから送信してください。

科目名	スポーツ科学概論	科目名（英文）	Introduction to Sports Science
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	瀧　千波
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH1349a1		

授業概要・目的	スポーツと運動は、日常生活の中で欠かせないものである。本授業では、スポーツや運動、身体運動に関する基礎的な知識について、最新の科学的知見をもとに学習する。ヒトの基本的な身体の構造（骨格や筋腱、神経）、及びしくみについて学ぶとともに、自分自身やスポーツ競技現場のアスリートのみならず、成長期の子どもから高齢者に至るまでの身体の変化についても理解する。その上で、それぞれの目的に合った効果的なトレーニングやエクササイズについて理解し、競技パフォーマンスの向上や生活習慣病の予防など、生涯を通じてスポーツや運動、身体運動を実践する能力や、提供できる能力を養うことを目指す。 SDGs-3,4,5
到達目標	身体の形態・機能およびスポーツによる身体の変化について、正しく理解することができる。 ヒトの身体の構造や機能のしくみを理解する。 目的（パフォーマンス向上や健康増進）に応じたトレーニングやエクササイズについて理解する。
授業方法と留意点	講義を受け、課題を課す。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	本講義の目的と意義、授業方法について説明する。	・授業ノートで復習すること。 ・講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 （事後学習時間 30 分）
2	身体のつくり	中学・高校で既知の身体のつくりについて復習する。身体のつくりについて正しく理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 （事前・事後学習時間 60 分）
3	身体を動かすしくみー筋・骨格系ー	身体が活動する際、骨や筋肉はどのようなしくみにより、どのように協調して動いているのか、正しく理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 （事前・事後学習時間 60 分）
4	身体を動かすしくみー呼吸循環器系ー	身体活動の強度が増すとき、心臓および血管系、呼吸器系がどのように応答しているのか理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 （事前・事後学習時間 60 分）
5	身体の生理機能	安静時および身体活動時における生体内部の働きと、恒常性について理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 （事前・事後学習時間 60 分）
6	スポーツ栄養	様々な運動種目のパフォーマンスを最大限に向上させるための望ましい栄養摂取について、その内容と方法を理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 （事前・事後学習時間 60 分）
7	筋力トレーニングの科学	運動種目や運動目的の違いに即した運動方法について理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 （事前・事後学習時間 60 分）
8	有酸素性トレーニングの科学	持久力を向上させるために必要な運動方法について理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 （事前・事後学習時間 60 分）
9	青少年におけるトレーニング	発育期における身体的特徴と運動との関わりについて理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 （事前・事後学習時間 60 分）
10	加齢と運動	老年期における個人差を含む身体的・脳機能の特徴、さらに老化を遅延させるための運動の役割について理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 （事前・事後学習時間 60 分）
11	運動と疲労	運動による疲労はなぜ惹起されるのか、またその回復について、理論と方法を理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 （事前・事後学習時間 60 分）
12	スポーツと環境	環境が身体に与える影響について理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 （事前・事後学習時間 60 分）
13	スポーツと遺伝	遺伝がスポーツに与える影響について理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 （事前・事後学習時間 60 分）
14	運動障害と予防	運動による内科的・外科的疾患の概要と予防方法について理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 （事前・事後学習時間 60 分）
15	リカバリーの科学	スポーツパフォーマンスを最大限に発揮するため、心身の調整について理論と方法を理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 （事前・事後学習時間 60 分）

関連科目	スポーツ科学実習Ⅰa、Ⅰb、Ⅱa、Ⅱb、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、武道論、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	課題（30%）、出席（50%）、最終レポート（20%）により評価する。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	総合体育館１階　瀧研究室
備考	

科目名	スポーツ科学実習Ｉａ	科目名（英文）	Practicum in Sports Science Ia
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	瀬川　智広
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH1350a1		

授業概要・目的	生涯を通じて明るく活力のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、スポーツ活動を通じて基礎的な運動技術の修得を目指し、規律・規範を重んじる心を修養し、スポーツの楽しさを理解することを目的としている。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。 SDGs-3、4、5
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	本科目は遠隔授業として授業を行なう。使用する ICT ツールは Microsoft teams とする。 なお、対面授業が可能となった場合は、対面授業を行なう。
科目学習の効果（資格）	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス	・ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）	事前：授業概要・目的などを学習する（30 分） 事後：本実習の理解を深める（30 分）
2	・体力測定①	・屋外種目	事前：運動を行い体力測定に備える（30 分） 事後：自身の体力についての振り返り（30 分）
3	・体力測定②	・屋内種目	事前：運動を行い体力測定に備える（30 分） 事後：自身の体力についての振り返り（30 分）
4	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく（30 分） 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る（30 分）
5	・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
6	・基本技術（基礎編 1） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
7	・基本技術（基礎編 2） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
8	・基本技術（応用編 1） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
9	・基本技術（応用編 2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
15	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：全授業の総括（30 分）

関連科目	生涯スポーツ実習、スポーツと健康、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	対面授業：活動点５０％、技能点２５％、態度点２５％ 遠隔授業：活動点４０％、実技課題点３０％、講義課題３０％ ※ なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。 遠隔授業の評価は、やむを得ず遠隔授業に切り替えた場合に適応する。
学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 感染予防の観点から予定通りに開講できない種目もあり得ますので、ご了承ください。 １回目のガイダンス時に感染症対策に関する内容もお伝えしますので、１回目の授業に必ず出席してください。
担当者の研究室等	総合体育館１Ｆ　体育館事務室

備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）

科目名	スポーツ科学実習Ｉｂ	科目名（英文）	Practicum in Sports Science Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	瀬川　智広
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH1351a1		

授業概要・目的	本科目では、スポーツ科学実習Ｉで培った基礎的な技術を応用し、高度なスポーツ技術の獲得を目指す。またスポーツを通じてさらなる人間力の向上を目指し、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	摂南大学の「新型コロナウイルス感染症への対応」に基づき、Microsoft Teams を用い、「遠隔授業（オンデマンド形式)」により行います。初回の授業は、ガイダンスも含めた資料を Teams に提示します。 今後、新型コロナウイルスの感染状況の変化に伴い摂南大学の授業運営方針が変更された場合は、この科目の授業形態も対面授業に変更する可能性があります。その際は、変更日や内容を事前にお知らせします。
科目学習の効果（資格）	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス	・ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）	事前：授業概要・目的などを学習する 事後：本実習の理解を深める
2	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る
3	・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく 事後：内容の振り返り
4	・基本技術（基礎編 1） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
5	・基本技術（基礎編 2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
6	・基本技術（応用編 1） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
7	・基本技術（応用編 2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
8	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
9	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
15	・ゲーム ・2 年次ガイダンス等	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む ・2 年次ガイダンス等を行う	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：全授業の総括

関連科目

生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	対面授業：活動点５０％、技能点２５％、態度点２５％ 遠隔授業：活動点４０％、実技課題点３０％、講義課題３０％ ※ なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。 遠隔授業の評価は、やむを得ず遠隔授業に切り替えた場合に適応する。
学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 感染予防の観点から予定通りに開講できない種目もあり得ますので、ご了承ください。 １回目のガイダンス時に感染症対策に関する内容もお伝えしますので、１回目の授業に必ず出席してください。

担当者の 研究室等	総合体育館　１Ｆ　体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）

科目名	スポーツ科学実習Ⅱａ	科目名（英文）	Practicum in Sports Science IIa
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	河瀬　泰治
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH1352a1		

授業概要・目的	スポーツの基礎知識をベースに、より応用的な内容に発展させ、スポーツライフ形成の大切さを学ぶ。スポーツ活動の楽しさや身体活動の重要性を自覚するとともに、生涯スポーツ参加への意識向上と自信を深めることを目的とする。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。 SDGs-3、4、5
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	本科目は「遠隔授業」として授業を行う。使用する ICT ツールは「Microsoft teams」とする。 なお、対面が可能になった場合は、対面授業を行う。
科目学習の効果（資格）	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス	・ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）	事前：授業概要・目的などを学習する（30 分） 事後：本実習の理解を深める（30 分）
2	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく（30 分） 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る（30 分）
3	・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
4	・基本技術（基礎編 1） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
5	・基本技術（基礎編 2） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
6	・基本技術（応用編 1） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
7	・基本技術（応用編 2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
8	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
9	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
15	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：全授業の総括（30 分）

関連科目	スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ、スポーツと健康、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、武道論、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	対面授業：活動点５０％、技能点２５％、態度点２５％ 遠隔授業：活動点４０％、実技課題点３０％、講義課題点３０％ ※ なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。 遠隔授業の評価は、やむを得ず遠隔授業に切り替えた場合に適応する。
学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 感染予防の観点から予定通りに開講できない種目もあり得ますので、ご了承ください。 １回目のガイダンス時に感染症対策に関する内容もお伝えしますので、１回目の授業に必ず出席してください。
担当者の研究室等	総合体育館１Ｆ　体育館事務室

備考	トレーニングウェア、スポーツシューズを着用のこと。

科目名	スポーツ科学実習Ⅱb	科目名（英文）	Practicum in Sports Science IIb
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	河瀬　泰治
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH1353a1		

授業概要・目的	スポーツの基礎知識をベースに、より応用的な内容に発展させ、スポーツライフ形成の大切さを学ぶ。スポーツ活動の楽しさや身体活動の重要性を自覚するとともに、生涯スポーツ参加への意識向上と自信を深めることを目的とする。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。 SDGs-3、4、5
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	摂南大学の「新型コロナウイルス感染症への対応」に基づき、Microsoft Teams を用い、「遠隔授業（オンデマンド形式）」により行います。初回の授業は、ガイダンスも含めた資料を Teams に提示します。 今後、新型コロナウイルスの感染状況の変化に伴い摂南大学の授業運営方針が変更された場合は、この科目の授業形態も対面授業に変更する可能性があります。その際は、変更日や内容を事前にお知らせします。
科目学習の効果（資格）	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス	・ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）	事前：授業概要・目的などを学習する（30 分） 事後：本実習の理解を深める（30 分）
2	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく（30 分） 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る（30 分）
3	・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
4	・基本技術（基礎編 1） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
5	・基本技術（基礎編 2） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
6	・基本技術（応用編 1） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
7	・基本技術（応用編 2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
8	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
9	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
15	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：全授業の総括（30 分）

関連科目：スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ、スポーツと健康、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、武道論、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

対面授業：活動点５０％、技能点２５％、態度点２５％
遠隔授業：活動点４０％、実技課題点３０％、講義課題点３０％
　※ なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。 遠隔授業の評価は、やむを得ず遠隔授業に切り替えた場合に適応する。

学生へのメッセージ

本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。
感染予防の観点から予定通りに開講できない種目もあり得ますので、ご了承ください。
１回目のガイダンス時に感染症対策に関する内容もお伝えしますので、１回目の授業に必ず出席してください。

担当者の 研究室等	総合体育館１Ｆ　体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズを着用のこと。

科目名	哲学Ⅰ	科目名（英文）	Philosophy Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	貫井　隆
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JHU1304a1		

授業概要・目的	人間は古来から、その時代や地域に固有な仕方で思索による探究を行ってきた。現代を生きるわれわれの生き方も、その探究活動に多大な影響を受けている。 本授業の第一部（第 1-10 回）では、人間の思索活動の歴史の諸相を「「宿命」を「選択」に変化させる傾向」(cf. ピーター・バーガー著『異端の時代』）という観点から振り返る。 第二部（第 11-15 回）では、特に 20 世紀の哲学者 M・ハイデガーに焦点を当て、近代以降の時代的状況を「「宿命」を「選択」に変化させる手段そのものが、複雑化し、新たな「宿命」となる」という観点から追う。
到達目標	この授業を通して、 ①　現代人の誰もが置かれており、影響を受けざるを得ない現代の時代状況、社会構造についての考察を深めること ②　また、そうすることで、現代人であるわれわれが近代化の過程で何を失って何を得たのか、今後何を取り戻し、何を維持し、何を新たに獲得すべきなのかということを、各々が再考すること を目指す。
授業方法と留意点	Teams を使用して、哲学、思想、宗教と近代性に関する講義原稿と課題読書を配布します（毎回、ある程度の読書量があります）。授業ごとに Google Form を利用して、それらのテキストに関する小問題（選択問題 10-20 問）に答えてもらいます。 【※※　コロナウイルスの影響で対面授業が不可能である場合は、対面授業が行われるべき日時に、Teams の動画配信機能を利用しリアルタイムで授業を行います。また、その際の動画と音声は録画し、Teams 経由でオンデマンドでも配信します。※※】
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション：時間、歴史とは何か	・過去は未来からやってくる ・歴史の複数性 ・国家の語る歴史、民衆の語る歴史 ・学校で学ぶ「歴史」（世界史、日本史）とは何か ・郷土史、家族史、自分史	予習：なし 復習：なし
2	人類の 5 つの革命	・人類革命、農業革命、都市革命、哲学革命、科学革命 ・ホモ・サピエンスの「技術を使って「宿命」を「選択」に変化させる」傾向 ・ピーター・バーガー『異端の時代』	予習：配布資料を読むこと 復習：読書課題を読み、選択問題形式の課題を解いてインターネット経由で提出すること
3	マイケル・ヴィツェルの二つの神話の型	・ゴンドワナ型神話 ・ローラシア型神話	2 に同じ
4	神話の時代	・古代ギリシア神話 ・『リグ・ヴェーダ』 ・『山海経』 ・日本の場合（『古事記』、『日本書紀』）	2 に同じ
5	「枢軸の時代」	・ヤスパースによる「枢軸の時代」の定義 ・古代ギリシア哲学 ・原始仏教 ・諸子百家の思想 ・日本の場合（律令国家と時間意識の変化）	2 に同じ
6	ルネサンスと科学革命	・アリストテレスとガリレオ・ガリレイ ・科学は世界の見方をどのように変えたか	2 に同じ
7	デカルトと近代	・「私は考える、故に私は存在する」 ・「デカルト以前、デカルト以後」という考え方	2 に同じ
8	「使用価値」と「交換価値」	・アダム・スミス ・マルクス、エンゲルス ・近代以降、労働のあり方はどのように変化したか	2 に同じ
9	日本における近代化	・日本における 1965 年以前、1965 年以後 ・「ニュータウン」の原理 ・農村から見た歴史 ・「変化しない」は「停滞」か ・内山節『日本人はなぜキツネにだまされなくなったのか』	2 に同じ
10	IT 技術と近代の行方	・スティーブ・ジョブスは何を目指したか ・スマートフォンが可能にした空間・時間体験の変容 ・自由と SNS・選択疲れ ・選択疲れからの避難所	2 に同じ
11	近代性の定義	・「宿命」から「選択」へ（ピーター・バーガー） ・ポストモダンとは何か ・ジークムント・バウマンの近代論 ・近代の継続か、ポスト近代か	2 に同じ
12	ハイデガーの近代論（１）	・M・ハイデガー『芸術作品の根源』 ・内山節『自然と人間の哲学』	2 に同じ

		・人間にとって「使える」自然、「使えない」自然 ・効率性によって得られたもの ・失われた自然の「信頼性」「総合性」	
13	ハイデガーの近代論（2）	・M・ハイデガー「「物」講演」 ・内山節『半市場経済』 ・コンバインに乗ると落穂を拾おうという気がなくなるのはなぜか ・「巨大なシステム」では捉えられない、「近さ」と「遠さ」 ・人間の幸福の実感と「小さなスケール」	2に同じ
14	ハイデガーの近代論（3）	・M・ハイデガー『技術について』 ・「橋」と「水力発電所」は、同じ「技術」だがどのように違うのか ・「総かり立て体制」 ・「巨大なシステム」という新たな「宿命」	2に同じ
15	ハイデガーの近代論（4）	・M・ハイデガー「野の道での会話」 ・「平面」の近代性、「凹凸」の反近代性 ・なぜわれわれは「ブラタモリ」を見るのか	2に同じ

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	技術について	M・ハイデガー著、関口浩訳	平凡社ライブラリー
2	日本人はなぜキツネにだまされなくなったのか	内山節	講談社講談社現代新書
3			

評価方法（基準）

Google Formによって提出してもらう各授業回の課題×14回分（第2回-第15回分）で評価します。
（第1回は授業資料、課題共にありません）

学生へのメッセージ

毎回の授業ごとに、一定量の読書課題と授業後の課題があるので、頑張ってついてきてください。
なお、各回の授業テーマは現時点での予定であり、一部変更になる可能性があることをご承知おきください（ただし、おおまかな流れは変わりません）。

担当者の研究室等

非常勤講師室

備考

質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。非常勤講師室等における相談可能時間についての相談や、授業に関連する相談等がある場合は、メールで問い合わせること。

科目名	哲学Ⅱ	科目名（英文）	Philosophy II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	貫井　隆
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JHU1305a1		

授業概要・目的

「哲学」と聞くと、皆さんはどんなことを思い浮かべるでしょうか。「難しそうだな」と思うでしょうか。それとも「面白そう」とか、「深い話が聞けるかもしれない」と思う人もいるでしょうか。

辞書で「哲学」と調べると、たいてい、次の二つの意味が載っています。

一つ目は「自分自身の経験などから作り上げた人生観・世界観」というものです。このような意味での「哲学」は、「人生哲学」といったほうが正確かもしれません。何かの分野で成功した人や、興味深い人生観を持つ人が、このような意味での「哲学」について講演したり、本を出版することがあります。このような「哲学」を、この授業に期待してくれている人もいるかもしれません。

もう一つの意味は「世界や人間の究極の根本原理を理性的に追求する学問」というものです。これはたとえば、「タレス」という哲学者は、世界の「根本原理」を「水」と考えたとか、「プラトン」という哲学者にとっては、「根本原理」は「善のイデア」である、とか、そのような仕方で説明されることがあります。こちらの「哲学」は、もしかすると、私たちの日常生活からかけ離れた、空想めいた話のように聞こえてしまうこともあるかもしれません。「タレス」という人が、根本原理は「水」だと言ったからといって、それと自分の人生に一体何の関係があるのだ、私たちがそのことを学ぶメリットが一体どこにあるのか、と疑問に思う人もいるかもしれません。

今挙げた「哲学」の様々な特徴――難しそうだとか、でも何か深いことを言っているのではないかとか、人生の大事な指針になるのではないかとか、いや、単に空想めいた、日常生活からかけ離れたことにすぎないのではないか、ということ――は、おそらく、すべて当たっているところがあると思います。その中で、私としては、できるだけ哲学の「日常生活からかけ離れた」要素は少なくして、皆さんの人生に深くかかわる可能性がある部分を集中的に扱いたいと思います。

歴史上、現代まで伝えられてきた哲学者がいます。その人たちは、死後何百年、人によっては何千年も経っているのに、まだ忘れ去られることなく、「その人の考えは今生きている私たちの参考になる」と、ずっと思われ続けてきた人たちです。どこかの時代の人が「もうこの人は何の参考にもならない」と思ったとしたら、現代にまで伝わっていないかもしれません。

この授業では、このような人々の何人かを選んで、その人たちが言っていることのなかで、現代を生きる私たちの参考になりそうなことを、皆さんと一緒に探っていきたいと思います。このような人たちの哲学は、世界の根本原理の説明から、人生どのように生きるべきか、他者や自己とどのように付き合うべきか等、様々な要素を含んでおり、しかもそれらが密接に繋がり合って、一つの大きな、言わば〈世界の見方〉を作っています。皆さんは、その中で「これはなかなかいいな」とか「これはどうだろうか」などと、自由な感性で考えてほしいと思います。ただし、その際に、「なぜ自分はそう思ったのだろうか」とさらに踏み込んで考えてもらうと、これらの人々のことも、自分自身のことも、さらに深く理解できるようになるのではないでしょうか。

授業では、西洋哲学史上の著名な哲学者を十数名扱う予定です。しかし、一部変更がある可能性がありますので、その際はご承知願いたいと思います。

※本講義は、本学の教養教育の理念における「人間の根源的な問いから、その内面を見つめる思考の幅を広げる」こと、また「人間をとりまく多様な世界を知ることを通じて、自己を確立できる人間の育成」の一環に位置付けられます。（本学の教養教育の理念については http://www.ryukoku.ac.jp/faculty/kyouyou/about.html を参照してください）。

到達目標

授業で扱う西洋哲学史上の人物について、
① 彼らの置かれた時代的背景
② 彼らの考えの要点
③ 後の時代に与えた影響
の３点を理解すること。

授業方法と留意点

Moodle, Dropbox を使用して、該当テキストを読み進めます（毎回、ある程度の読書量があります）。授業ごとに Google Form を利用して、そのテキストに関する小問題に答えてもらいます。

科目学習の効果（資格）

西洋哲学上の思想的変遷を追うことで、その延長上にわれわれが生きる現代の思想的状況があることを実感することができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・授業全体の概要 ・哲学を定義することはできるか	予習：配布資料を読み、授業に持参すること 復習：読書課題（哲学、倫理学の古典からの抜粋であることが多い）を読み、選択問題形式の課題を解いて提出すること （予習と復習合わせて、2 時間程度の作業時間を想定しています）
2	古代ギリシアの哲学（1）	ソクラテス以前、ソクラテス	予習：配布資料を読み、授業に持参すること 復習：プラトン『ソクラテスの弁明』からの抜粋等）についての小問題に答えること （予習と復習合わせて、2 時間程度の作業時間を想定しています）
3	古代ギリシアの哲学（2）	プラトン	予習：配布資料を読み、授業に持参すること 復習：配布資料（プラトン『国家』からの抜粋等）についての小問題に答えること （予習と復習合わせて、2 時間程度の作業時間を想定しています）
4	古代ギリシアの哲学（3）	アリストテレス	予習：配布資料を読み、授業に持参すること 復習：配布資料（アリストテレス『形而上学』からの抜粋等）についての小問題に答えること （予習と復習合わせて、2 時間程度の作業時間を想定しています）
5	古代ギリシア・ローマの哲学	ストア派	予習：配布資料を読み、授業に持参すること 復習：配布資料（セネカ『生の短さについて』からの抜粋等）についての小問題に答えること （予習と復習合わせて、2 時間程度の作業時間を想定しています）
6	中世の哲学（1）	ユダヤ教とイエス	予習：配布資料を読み、授業に持参すること 復習：配布資料（『旧約聖書』『新訳聖書』からの抜粋等）についての小問題に答えること （予習と復習合わせて、2 時間程度の作業時間を想定しています）
7	中世の哲学（2）	アウグスティヌス	予習：配布資料を読み、授業に持参すること 復習：配布資料（『新約聖書』「使徒言行録」、アウ

			グスティヌス『告白』からの抜粋等）についての小問題に答えること（予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています）
8	中世の哲学（3）	トマス・アクィナス	予習：配布資料を読み、授業に持参すること 復習：配布資料（トマス『神学大全』からの抜粋等）についての小問題に答えること （予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています）
9	ルネサンス期の哲学	・ガリレオ・ガリレイ ・ルター ・ベーコン	予習：配布資料を読み、授業に持参すること 復習：配布資料（ガリレオ『クリスティーナ大公妃への手紙』からの抜粋等）についての小問題に答えること （予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています）
10	近代の哲学（1）	・デカルト ・ヒューム	予習：配布資料を読み、授業に持参すること 復習：配布資料（デカルト『方法序説』からの抜粋等）についての小問題に答えること （予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています）
11	近代の哲学（2）	カント	予習：配布資料を読み、授業に持参すること 復習：配布資料（カント『道徳形而上学の基礎付け』『純粋理性批判』からの抜粋等）についての小問題に答えること （予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています）
12	近現代の哲学（1）	進歩主義	予習：配布資料を読み、授業に持参すること 復習：配布資料（ダーウィン『種の起源』序文原文、ヘーゲル『精神現象学』、マルクス・エンゲルス『共産党宣言』からの抜粋等）についての小問題に答えること （予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています）
13	近現代の哲学（2）	実存主義	予習：配布資料を読み、授業に持参すること 復習：配布資料（ニーチェ『力への意志』、ハイデガー『存在と時間』からの抜粋等）についての小問題に答えること （予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています）
14	現代の哲学（1）	・構造主義 ・ポストモダンの思想	予習：配布資料を読み、授業に持参すること 復習：配布資料（レヴィ＝ストロース、リオタール、ドゥルーズからの抜粋等）についての小問題に答えること （予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています）
15	現代の哲学（2）	・現代社会に関する思想 ・IT、BT革命 ・ポストモダンか、モダンの継続か	予習：配布資料を読み、授業に持参すること 復習：配布資料（ピーター・バーガー、マクルーハン、ボードリヤールからの抜粋等）についての小問題に答えること （予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	A New History of Western Philosophy	Anthony Kenny	Oxford University Press
2			
3			

評価方法（基準）

Google Formによって提出してもらう各授業回の課題×15回分で評価します。

学生へのメッセージ

毎回の授業ごとに、一定量の読書課題と授業後の課題があるので、頑張ってついてきてください。

担当者の研究室等

非常勤講師室

備考

科目名	文学	科目名（英文）	Literature
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松尾　佳津子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JHU1403a2		

授業概要・目的	「最近余り本を読んでいないなぁ」と思っているあなた、でも、本当に読むことがずっとキライでしたか？　若い人たちの活字離れがあれこれ取り沙汰されている昨今ですが、視覚や聴覚に訴える作品とは異なり、文字を通じてしか伝えられない様々な表現や思いがあることを、ぜひ感じてほしいと願っています。現代の流行作品はきっとあなたが一人でも楽しむでしょうから、私はあなたが一人では決して開くことのないような扉を開いて、作品世界を提示しようと思っています。この講座では、俳句・和歌・短歌・詩・歌詞などの韻文作品を中心に扱います。文字作品の新たな魅力を一つでも発見して、あなた自身の言語生活の豊かな糧として下さい。
到達目標	表面的読解にとどまらず、作者の表現内容を読み解くこと。そしてそれを基にして考え、感じること。さらにその考えや思いを文章化すること。読んで「面白かった」で終わるのではなくその思いを言語化することを目標とします。
授業方法と留意点	リモート授業時： 毎回 WebFolder に課題を提示し、それに対する回答を作成して提出していただく形式で授業を進めます。 ＃８以降の対面授業時： 毎回授業中に問を提示し、それに対する回答を小レポートに記入して提出していただく形式で授業を進めます。
科目学習の効果（資格）	「日本語文章能力検定」などの公的資格もありますが、表現やことばに自覚的である感性を養うことが何よりの学習効果でしょう。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	短詩型文学の広がりを概観する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
2	短詩型文学（1）	散文文学との違いを考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
3	短詩型文学（2）	歴史的な流れを考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
4	現代詩（1）	表現の特徴を考える。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
5	現代詩（2）	「歌詞」を素材として考える。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
6	童謡（1）	子供のころに聞き覚えた歌詞を振り返る。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
7	童謡（2）	文学作品として歌詞を考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
8	短歌（1）	表現技法の特徴を考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。 ※この回から対面に変更。
9	短歌（2）	創作の過程を追体験する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
10	短歌（3）	現代の作品と古典作品の感性の差を比較する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
11	俳句（1）	表現技法の特徴を考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
12	俳句（2）	象徴表現の広がりを考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
13	俳句（3）	「俳句」から「ハイク」への広がりを考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
14	韻文の翻訳（1）	翻訳を通じて伝わるものと伝わらないものを考える。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
15	韻文の翻訳（2）	「現代口語表現訳」から見えてくるものを考える。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。

関連科目：こういった方面に興味のある人は、他に「日本語読解」などを学ぶことで、より理解を深めることができるでしょう。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3			

評価方法 （基準）	◇毎回提出する小レポートが出席確認を兼ねます。 ◇最終成績は、毎回の小レポートの回答状況６割と、最終課題の結果４割で判断します。 ◇原則として小レポート提出が半分以下の場合は、最終の成績評価を行いません。
学生への メッセージ	遠いところに自分と同じ考えの人を発見する喜び。近いところに自分の思いも寄らないような発想の人に出会う楽しみ。・・・文学に触れる意味は、この二点に尽きるのではないかと、私は思っています。どうかあなたが「よい出会い」を経験できますように。
担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）
備考	

科目名	国語学	科目名（英文）	Japanese Language
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	橋本　正俊
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JHU1310a1		

授業概要・目的	国語学は、「日本語とは何か」を考える学問である。高校までの「国語」とはまったく異なるのでそのつもりで。 この授業では、世界の言語とも比較しつつ、日本語を分析することで、日本語を見つめ直すことを目的とする。 言葉について考えることは、人間について、社会について、文化について、考えることにもつながる。単に日本語についての知識を得るのではなく、広い視野をもって考える力を身につけて欲しい。
到達目標	日本語の特色をいくつかあげ、具体的かつ正確に説明することができる。
授業方法と留意点	講義を中心にする。 必要な資料をプリントで配布する。講義の最後に、コメントペーパーを配布し、まとめや質問に答える作業を行う。 それに対するフィードバックは翌週に行う。
科目学習の効果（資格）	日本語に対する理解が深まる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	日本語とは何か	授業の進め方、概説 日本語について考える	事後：提示した日本語に関する疑問について考える
2	世界の中の日本語１	日本の文字について、世界の文字とあわせて考察する	事後：日本語の文字の特徴について調べる
3	世界の中の日本語２	日本語の文法的特徴について考える	事後：日本語の文法の捉え方について調べる
4	世界の中の日本語３	日本語は、世界の言葉の中でどのように位置づけられるか	事後：２～４回の内容を復習してまとめる
5	発音１	日本語の調音について詳しく知る	事後：日本語の調音について調べる
6	発音２	日本語の子音について詳しく知る	事後：日本語の子音の調音について、自身で確認しまとめる
7	拍と音節	日本語の拍と音節について考える 拍の一覧表を作成する	事後：日本語の拍について調べ、授業内容を振り返る
8	アクセント１	東西におけるアクセントの違いを見る	事後：日本語のアクセントの特徴を調べてまとめる
9	アクセント２	アクセントの高低配分について考える	事後：日本語のアクセントの法則について調べ、授業内容をまとめる
10	文法１	自動詞と他動詞について考察する	事後：授業時の課題にとりくみ、自動詞と他動詞についてまとめる
11	文法２	受身文について考察する	事後：日本語の受け身文の特徴について、課題に取り組む
12	文法３	「～た」形、「～ている」形について考察する	事後：授業時に示した課題に取り組む
13	標準語と方言	標準語と方言の関係について考える	事後：方言と標準語について調べ、授業内容を整理する
14	方言の広がり	現代語における方言の位置づけを考える	事後：授業で示した例を参考に、方言の広がりについて調べる
15	まとめ	これまでの授業内容を整理する	事後：これまでの授業内容をまとめる

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験を実施する。 定期試験の成績（60%）、授業時の課題（40%）により評価する。 （遠隔授業となった場合は、定期試験を実施しません。代わりに最終課題を課し、最終課題（50 パーセント）、授業後の課題（50 パーセント）とします。）
学生へのメッセージ	日常当たり前のように用いている「ことば」そのものに関心を持って下さい。
担当者の研究室等	7 号館 4 階（橋本研究室） 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。
備考	コメントペーパーの回答、質問については、次回にフィードバックします。 事前事後学習時間の目安は、計約６０時間です。

科目名	日本史概論	科目名（英文）	Japanese History Introdution
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	曽我部　愛
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JHU1405a2		

授業概要・目的	日本史学を含む歴史学は、過去のさまざまな歴史的事象が、いかなる原因によって起こり、先人達がそれにどのように対応をしたかを学び取り、そこから現代社会に起こっている多様な問題を解決するための糸口を考える学問である。 本授業は、上記の前提にもとづき、日本の歴史の基本的な流れを理解することを目的とする。 具体的には原始・古代から現代まで、毎回テーマを絞り込み、随時配布する資料レジュメをもとに講義を行う。 その際、高校の教科書などで通説として理解されている事柄について、歴史学研究の最新の成果を紹介する。
到達目標	歴史を学ぶにあたっては、歴史的事象を、主観的・恣意的にではなく、客観的に捉える視角が必要である。 したがって、本授業を通じて日本の歴史に関する最低限の知識を得た上で、歴史に対する関心・客観的な考え方、そこから現代社会全体を見通す視角を習得することを目標とする。
授業方法と留意点	教材を配布し、その都度到達度を確認する（数回程度の課題提出）。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	本講義の進め方、評価方法について説明する。 あわせて歴史学を学ぶ意義や、日本史学という学問の特質を提示する。	シラバスを一読してくること。
2	原始・古代(1)：先史・原史時代から歴史時代へ	日本列島への人類の渡来と定住から、弥生時代から古墳時代を経て、ヤマト王権の誕生までの流れを、近年の研究成果をふまえて概観する。	予習：高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「継体天皇」の部分を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
3	原始・古代(2)：古代国家の成立と律令制の展開	朝鮮半島や隋との国際交流に注目しながら、日本における律令国家の成立と展開について説明する。	予習：高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「難波宮・藤原京」の部分を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
4	原始・古代(3)：摂関政治から院政へ	平安時代に始まる政治制度である摂関政治と院政について概観する。また浄土信仰の興隆など文化的側面にも注目する。	予習：高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「平安仏教」の部分を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
5	中世(1)：武家政権の成立と展開	平氏政権・鎌倉幕府という武家政権の歴史的特質について説明する。	予習：高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「源平合戦」の部分を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
6	中世(2)：モンゴル戦争から南北朝内乱へ	初めての大規模な対外戦争であるモンゴル戦争から、いかなる過程を経て幕府滅亡に至るのかを説明する。	予習：高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「建武親政」の部分を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
7	中世 (3)：室町幕府の成立と展開	室町幕府の成立から応仁の乱までの推移と、室町文化の広がりについて概観する。	予習：高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「一揆」の部分を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
8	中世(4)：戦国の争乱と天下人の登場	戦国時代の始まりから織田信長・豊臣秀吉による天下統一までの動向について説明する。	予習：高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「一揆」の部分を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
9	近世(1)：江戸幕府の開創と幕藩体制の展開	その後約 250 年続く江戸幕府の支配体制の成立と対外政策について考える。	予習：高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「島原・天草一揆」の部分を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
10	近世 (2)：江戸幕府の動揺と開国	様々な改革にもかかわらず動揺する幕藩体制と、欧米列強の脅威にさらされた幕末日本の情勢について説明する。	予習：高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「大塩平八郎の乱」の部分を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
11	近世 (3)：幕末の動乱と江戸	攘夷の高まりと倒幕への動き、そして戊	予習：高校・中学校日本史教科書や資料集の該当す

	幕府の終焉	辰戦争への流れを概観する。	る記述・コラム、とくに「戊辰戦争」の部分を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
12	近・現代（1）：明治政府の成立と近代国家への歩み	幕末の内乱を経て成立した明治政府が、どのような過程を経て近代国家への道のりを歩んだのか考える。	予習：高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「文明開化」の部分を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
13	近・現代（2）：対外戦争と近代国家日本	日清・日露戦争を経て本格的に近代国家へ歩み始めた日本が直面した様々な問題について説明する。	予習：高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「関東大震災」の部分を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
14	近・現代（3）第二次世界大戦と日本の行方	欧米列強と比肩した日本が、アジアへの進出を果たそうとして起こった諸外国との戦争と、その?末について考える。	予習：高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「アジア・太平洋戦争」の部分を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
15	近・現代（4）：戦後日本と現代社会	敗戦後の日本の復興と、現代社会へと続く諸問題について考える。	予習：高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「高度経済成長」の部分を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業後の提出物（コメントペーパー・課題等）20% 期末レポート 80%
学生への メッセージ	積極的に日本史を学ぶ意欲を持つ学生の受講を期待します。 授業内の飲食、私語、携帯電話およびスマートフォン・音楽プレーヤー等の使用は厳禁。 その他、他の受講生に迷惑をかける行為を禁止する。これを守れない場合は、受講を認めない場合がある。
担当者の 研究室等	
備考	課題・提出物等のフィードバックは授業内に行う。 質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	世界史概論	科目名（英文）	World History Introdution
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	加来　奈奈
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JHU1406a2		

授業概要・目的	本講義では、ヨーロッパの歴史を通じて、過去と現在の変化や諸地域における差異を検討し、現代世界の成り立ちを知るとともに、歴史を通じて現代社会の諸問題に対する批判的まなざしを涵養することを目指す。そのために、ヨーロッパ史の基礎的な知識を習得し、時代や地域の特徴と、現代社会の形成の過程を理解することを目的とする。
到達目標	ヨーロッパの歴史の重要な特徴を説明でき、それを活かして現代社会の問題について能動的に考えることができるようにする。
授業方法と留意点	毎回パワーポイントにもとづいて授業を進め、適宜、資料を配布する。
科目学習の効果（資格）	歴史学に関する基本的な知識を獲得するとともに、現代社会を歴史的視点から読み解く力を養う。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	学問としての歴史学について	（事前）西洋の古代、中世、近世、近代、現代という時代がいつかを調べてくる。
2	中世ヨーロッパ	中世ヨーロッパの社会	（事前）中世ヨーロッパのイメージを書きだす。 （事後）中世の身分と宗教について整理する。
3	中世ヨーロッパ	中世ヨーロッパの王権	（事前）15 世紀までのフランス王とイングランド王について調べてくる。 （事後）中世英仏の年表を作って、これまでのことを整理する。
4	近世とは	・近世の特徴 ・ハプスブルク家 ・地域の反応	（事前）ハプスブルク家について調べてくる。 （事後）近世の特徴を整理する。
5	宗教改革	・ルターの登場 ・プロテスタントの広がり ・対抗宗教改革	（事前）カトリックとプロテスタントの違いを調べる。 （事後）二つの違いを整理する。
6	宗派対立	・ネーデルラントを事例とした宗派対立の様相	（事前）ルーベンスについて調べてくる。 （事後）ヨーロッパの宗派対立と地域の特徴を整理する。
7	イングランドの宗教改革	・テューダー朝の成立 ・ヘンリ８世の改革	（事前）ヘンリ８世について調べてくる。 （事後）イングランドの国教会について整理する。
8	エリザベス１世と国際関係	・エリザベス１世の統治	（事前）エリザベス１世について調べてくる。 （事後）17 世紀ごろのヨーロッパの各国の勢力範囲について整理する。
9	啓蒙時代	・啓蒙思想 ・啓蒙専制君主	（事前）啓蒙という言葉を調べてくる。
10	啓蒙改革（１）	マリア・テレジアの改革	（事前）マリア・テレジアについて調べる。 （事後）啓蒙改革の特徴をまとめる。
11	啓蒙改革（２）	ヨーゼフ２世の改革	（事前）ヨーゼフ２世について調べてくる。 （事後）啓蒙改革の結果について考察する。
12	１９世紀のヨーロッパ	・フランス革命と共和政 ・国民国家 ・１８４８年革命	（事前）ライシテという言葉を調べてくる。（事後）スカーフ問題について考える。
13	ナショナリズムとハプスブルク	・アウスグライヒ ・民族	（事前）この時代の民族とは何かを考えてくる。（事後）東欧諸国の現在の国境を確認する。
14	第一次世界大戦	・戦争の展開 ・戦争と女性 ・戦争と民族	（事前）第一次世界大戦の流れについて確認する。 （事後）第一次世界大戦を通して起きたヨーロッパ社会の変化について考える。
15	総括	・講義全体のまとめ ・現在のヨーロッパの諸問題	（事前）全授業内容を復習しておく。 （事後）歴史を通して、現在の社会を検討する。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学で学ぶ西洋史［古代・中世］	服部良久ほか	ミネルヴァ書房
2	大学で学ぶ西洋史［近現代］	小山哲ほか	ミネルヴァ書房
3			

評価方法（基準）	授業中の課題（小テスト２回を含む）（30%）、期末試験（70%）で評価する。
学生へのメッセージ	高校までの「歴史」は、過去の出来事・事件の年号や偉人の名前を暗記する科目だと思われがちです。しかし、大学で研究する「歴史学」は、歴史の史料や事象を通じて、その背景や理由を多角的に考えることが重要です。ヨーロッパの様々な時代や地域の特徴を学び、その違いや類似性を考察することを通して、現代社会の多様性を理解するための視点を提供できればと思います。
担当者の研究室等	
備考	事前、事後学習に要する総時間は約 60 時間である。 フィードバックは、適宜、授業資料に組み込んで実施する。

	初回の授業はTeamsの会議室を通してオンラインのリアルタイムで行う。

科目名	スポーツの歴史	科目名（英文）	History of Sports
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岩瀬　雅紀
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH2360a1		

授業概要・目的	スポーツの起源や変遷、ルールといったスポーツの歴史について学ぶ。さらにオリンピック及びパラリンピックの歴史と現状を知ることでより理解を深めスポーツの歴史に対する基礎的知識ついて学習する。
到達目標	スポーツの歴史（変遷・ルール）を理解することでスポーツと歴史の基礎的知識を習得する。
授業方法と留意点	PPT や作成プリントを用いた講義を行なう。
科目学習の効果（資格）	スポーツの歴史（変遷・ルール）を理解をすることでスポーツと歴史に対する必要な教養を身につけることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	本講義を受講する上での諸注意と講義展開 本講義の意図，目的，価値 自己認識	シラバスの参照
2	.スポーツとは	スポーツの起源 スポーツの語源	講義ノートの確認
3	体育とは	体育の変遷	講義ノートの確認
4	スポーツの歴史１	スポーツの変遷（古代）	講義ノートの確認
5	スポーツの歴史２	スポーツの変遷（近代）	講義ノートの確認
6	スポーツの歴史３	スポーツの変遷（日本）	講義ノートの確認
7	レポート課題１	講義内容からレポート課題を 2 題出題（内容は当日発表）	講義ノートの確認
8	オリンピックとは	オリンピックシンボル	講義ノートの確認
9	オリンピックの歴史１	オリンピックの変遷	講義ノートの確認
10	オリンピックの歴史２	オリンピックの商業化	講義ノートの確認
11	パラリンピックとは	パラリンピックシンボル	講義ノートの確認
12	パラリンピックの歴史	パラリンピックの変遷	講義ノートの確認
13	スポーツの今後	生涯スポーツ	講義ノートの確認
14	レポート課題２	講義内容からレポート課題を 2 題出題（内容は当日発表）	講義ノートの確認
15	まとめ	レポートの返却及び解説と本講義のまとめ 自己評価	講義ノートの確認

関連科目	スポーツ科学実習Ⅰa、Ⅰb、 Ⅱa 、Ⅱb、スポーツ科学概論、スポーツ文化論、スポーツ指導者入門、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツトレーニングの基礎、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	受講態度及び意欲（常識・節度ある姿勢）(20%) 講義内提出課題（必要に応じて実施する）(20%) レポート課題（2 度実施する）(60%)
学生へのメッセージ	出席状況（毎回出席）を確認し原則として出席は 2/3 以上必要とする。 受講学生各位の積極的な学びを期待する。
担当者の研究室等	総合体育館１階　非常勤講師室
備考	講義内では担当者作成のプリントを適宜配布する。 事前・事後の学習時間として、全 15 回で 15 時間を目安としている。 第１回目の講義は WebFolder よりガイダンスを行ないます。受講学生は必ず WebFolder を確認し本講義の概要を確認して下さい。

科目名	地誌学	科目名（英文）	Regional Geography
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	麻生　将
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JHU1309a1		

授業概要・目的	この講義では世界の各地域の特徴について自然環境、歴史、文化、政治、経済など様々な観点から総合的に理解する。そして、地誌学を通して「地理的なものの見方･考え方」の習得を目指している。そのためには、当然のこととして見過ごしてしまいがちな身近な事象について「なぜここに？」「どこからどこへ？」などと地理的好奇心を常に持ち続けることが重要である。
到達目標	世界の各国、各地域について適切かつ客観的な情報に基づいて理解する能力を身に付け、現在の世界的な課題や国際情勢を捉える視点を持てるようになる。
授業方法と留意点	パワーポイントのスライドとレジュメを用いて講義形式で進める。
科目学習の効果（資格）	中学社会・高校地理歴史教員免許

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション―地誌学を学ぶ意義とは？	講義の進め方	授業内で提示した参考文献を読み、講義ノートを復習しておくこと（事後学習３時間） オンライン
2	東アジアの地誌（1）	日本の政治・経済・文化・自然環境	授業内で提示した参考文献を読み、講義ノートを復習しておくこと（事前学習 1.5 時間，事後学習 1.5 時間） オンライン
3	東アジアの地誌（2）	中華人民共和国の自然・歴史・社会・文化	授業内で提示した参考文献を読み、講義ノートを復習しておくこと（事前学習 1.5 時間，事後学習 1.5 時間） オンライン
4	東アジアの地誌（3）	朝鮮半島の歴史・現状・課題	授業内で提示した参考文献を読み、講義ノートを復習しておくこと（事前学習 1.5 時間，事後学習 1.5 時間） オンライン
5	東南アジアの地誌	ASEAN（東南アジア諸国連合）地域の政治・経済を中心に	授業内で提示した参考文献を読み、講義ノートを復習しておくこと（事前学習 1.5 時間，事後学習 1.5 時間） オンライン
6	南アジアの地誌	インドの自然環境と産業を中心に	授業内で提示した参考文献を読み、講義ノートを復習しておくこと（事前学習 1.5 時間，事後学習 1.5 時間） 対面＋オンデマンド
7	西アジアの地誌	イスラーム・原油・パレスチナ問題	授業内で提示した参考文献を読み、講義ノートを復習しておくこと（事前学習 1.5 時間，事後学習 1.5 時間） 対面＋オンデマンド
8	アフリカの地誌	アフリカ諸国において今も続く植民地の影響と政治、経済	授業内で提示した参考文献を読み、講義ノートを復習しておくこと（事前学習 1.5 時間，事後学習 1.5 時間） 対面＋オンデマンド
9	ヨーロッパの地誌（1）	ＥＵ（ヨーロッパ連合）の成立とその背景	授業内で提示した参考文献を読み、講義ノートを復習しておくこと（事前学習 1.5 時間，事後学習 1.5 時間） 対面＋オンデマンド
10	ヨーロッパの地誌（2）	ＥＵ（ヨーロッパ連合）の今後	授業内で提示した参考文献を読み、講義ノートを復習しておくこと（事前学習 1.5 時間，事後学習 1.5 時間） 対面＋オンデマンド
11	ロシアと周辺地域の地誌	冷戦前後の政治・経済・環境問題	授業内で提示した参考文献を読み、講義ノートを復習しておくこと（事前学習 1.5 時間，事後学習 1.5 時間） 対面＋オンデマンド
12	北米の地誌	アメリカ合衆国と世界	授業内で提示した参考文献を読み、講義ノートを復習しておくこと（事前学習 1.5 時間，事後学習 1.5 時間） 対面＋オンデマンド
13	南米の地誌	南米の自然環境・経済・政治の現状と課題	授業内で提示した参考文献を読み、講義ノートを復習しておくこと（事前学習 1.5 時間，事後学習 1.5 時間） 対面＋オンデマンド
14	オセアニアの地誌	オーストラリアの自然環境・政治・経済を中心に	授業内で提示した参考文献を読み、講義ノートを復習しておくこと（事前学習 1.5 時間，事後学習 1.5 時間） 対面＋オンデマンド
15	まとめ	総括と期末レポートの説明	授業内で提示した参考文献を読み、講義ノートを復習しておくこと（事前学習 1.5 時間，事後学習 1.5 時間） 対面＋オンデマンド

関連科目	人文地理学、自然地理学
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	地誌学概論　（第２版）	矢ケ﨑典隆 ・加賀美雅弘 ・牛垣雄矢 編	朝倉書店
	2	地理学概論　（第２版）	上野和彦 ・椿真智子 ・中村康子 編	朝倉書店
	3			
評価方法 （基準）	期末レポート 70%、平常点 30%（平常課題を何度か課す。）			
学生への メッセージ	１．講義中の私語、不必要な飲食、携帯電話・スマートフォン等の操作を禁止する。講義の進行を著しく妨害するような態度をとった場合、退室を命じることがある。 ２．授業では毎回の冒頭で配布するレジュメを用いる。講義形式を基本とするが、簡単なディスカッションを時々行う。高等学校で地理を履修していなかったとしても、初学者にも分かりやすい授業を心掛けるので、問題はない。 ３．また、中学や高校の地理の授業で用いた地図帳を常時持参することが望ましい。 ４．講義中に何らかの作業を行うことがあるので、マーカーまたは色鉛筆			
担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期３号館２階/後期７号館２階）			
備考	質問等はメールにて対応する。メールアドレスは　dankebitte0605@gmail.com			

科目名	人文地理学	科目名（英文）	Human Geography
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	笠原　俊則
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JHU1308a1		

授業概要・目的	我々人類は過去から現在に至るまで環境に種々の働きかけを行い、これを改変してきた。本講義では、人々の日々の営みが地理的環境といかなる関わりを持っているのかを概説していきたい。
到達目標	最終的には、受講者全員が現代の環境問題について興味を持ち、理解し、考え方を確立してくれることを期待している。これら３点をクリアできれば、この科目を受講したことが諸君の今後の人生に大いに役立つであろう。
授業方法と留意点	WebFolder にあげた音声入りのパワーポイントファイルを使って講義を行います。講義実施日から１週間以内をめどに必ずファイルを見て下さい。何回かレポート課題を課しますので、自らも疑問点を調べるという態度で受講して下さい。
科目学習の効果（資格）	人間活動が、我々を取り巻く環境にいかなる影響を与えているのかを身近に感じることができるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	地理学とは？	・地理学の歴史 ・地理学の定義	指定テキストに目を通しておいて下さい。
2	地域のとらえ方	・一般地域と特殊地域 ・等質地域と結節地域	指定テキストに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認してください。
3	ダム建設にともなう社会環境の変化	・ダムの歴史 ・ダムサイトまでのアクセスルートの建設 ・水没保障	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認してください。
4	農業地域における都市化と中小河川の治水	農業地域の都市化にともない、農業水利組織によって行われてきた面的治水がどのように維持されたか,あるいは崩壊していったか	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認してください。
5	親水と多自然型川づくり	・親水について ・多自然型川づくりについて	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認してください。
6	ため池の多面的機能	ため池の持つ多面的な機能とその利用	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認してください。
7	ため池の潰廃とその保全	・開発にともないため池はどのように潰廃されていくか ・開発にともないため池はどのように保全されるか	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認してください。
8	日本における干拓の歴史	・干拓の歴史と戦後の干拓	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認してください。
9	輪中地域における生活	・輪中とは？ ・輪中地域における水災害に対する生活の知恵	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認してください。
10	すみわけられた都市社会空間	・インナーシティ問題 ・エスニックマイノリティー社会	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認してください。
11	広域中心都市仙台の発展	・広域中心都市とは ・仙台の発展状況 ・仙台における東日本大震災の影響	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認してください。
12	ニュータウンの高齢化	・日本におけるニュータウンの成立 ・千里ニュータウンの高齢化	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認してください。
13	都市商業の盛衰と多様化	・都市商業の発展と社会環境の変化 ・都市中心部の空洞化と都市商業の変化	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。全壊の授業内容を確認してください。
14	伝統工業の現状と課題	京都を例として	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認してください。
15	平安京の歴史的環境	・平安京の歴史的環境の変化	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認してください。

関連科目：自然地理学・地誌学・環境関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	人間活動と環境変化	吉越昭久編	古今書院
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	レポート試験を実施します。配点は 60 点です。さらにパワーポイント講義を聞いてもらった後、何回かレポート課題を課しますので、期日までに WebFolder の指定されたフォルダーに提出して下さい。配点は 40 点です。なお、評価のポイントは自分なりの考えが持てるようになったかどうかです。
学生へのメッセージ	地理学習には地図がつきものである。講義中に出てくる地名を地図帳で確認すれば、内容がより理解しやすくなるであろう。最近の高等学校教育では地理が選択になっているため、履修していない人もいると思われるが、もし高校時代に使用した地図帳があれば講義中に持参して欲しい。口頭で説明した内容やスライドの内容も要約して、しっかりノートにまとめる習慣を身に付けていただきたい。なおテキストは後期開講の「自然地理学」でも使用する予定である。
担当者の研究室等	非常勤講師室
備考	

科目名	経済学入門	科目名（英文）	Introduction to Economics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	堀　篤史
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JS01311a1		

授業概要・目的	この授業では、「企業の見方」、「経済の見方」を具体的事例に即して分かりやすく解説し、経済・金融の基本的知識を習得することを目的とする。
到達目標	この授業を通じて　経済・金融のエッセンスを身に付けることで、新聞の経済面の記事をある程度理解できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	レジュメを用いて講義形式で行う。参考文献は随時紹介していく。
科目学習の効果（資格）	経済学検定

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	なぜ、経済・金融の知識が必要なのか。また、貨幣の機能について説明する。	―――
2	金融とは①	株式に関する基本的な知識について学習する。また、価格はどのように決まるかを学習する。	前回の内容を復習すること。 レジュメの指定したページを読むこと。(1 時間)
3	金融とは②	前回の続きを説明する。また、株式と債券の違いについて学習する。	前回の内容を復習すること。(1 時間)
4	企業分析入門①	会計に関する基本的な知識について学習する。損益計算書について説明する。	前回の内容を復習すること。 レジュメの指定したページを読むこと。(1 時間)
5	企業分析入門②	貸借対照表について学習する。	練習問題を解いておくこと。 レジュメの指定したページを読むこと。(1 時間)
6	企業分析入門③	キャッシュフロー計算書について説明する。また、具体的な事例を挙げ、企業分析の手法について学習する。	前回の内容を復習すること。 レジュメの指定したページを読むこと。(1 時間)
7	市場取引の基礎知識	市場メカニズムが資源配分に与える影響について学習する。また、余剰について説明する。	前回の内容を復習すること。 レジュメの指定したページを読むこと。(2 時間)
8	市場取引の基礎知識	前回の続きを説明する。また、税金や関税の影響について説明する。	前回の内容を復習すること。 レジュメの指定したページを読むこと。(1 時間)
9	日本経済について	経済状況を把握するための代表的な経済指標について学習する。	練習問題を解いておくこと。(1 時間)
10	金融政策について	金融政策に関する基本的な知識について学習する。	レジュメの指定したページを読むこと。(1 時間)
11	日本の財政①	インフレーションについて学習する。また、財政の機能について説明する。	レジュメの指定したページを読むこと。(1 時間)
12	日本の財政②	日本の財政状況や予算について学習する。	前回の内容を復習すること。 レジュメの指定したページを読むこと。(1 時間)
13	国際金融	為替相場に関する基本的な知識について学習する。	レジュメの指定したページを読むこと。(1 時間)
14	日本の経済史	戦後の日本の経済史について学習する。	前回の内容を復習すること。 レジュメの指定したページを読むこと。(1 時間)
15	まとめ	全体のまとめを行う。	練習問題を解いておくこと。(1 時間)

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	入門経済学	伊藤元重	日本評論社
2	初めて学ぶ人のための経済入門	松村敏・玉井義浩	培風館
3			

評価方法（基準）	8 回目の授業で行う中間テスト（20%）と前期末試験（80%）で評価する。
学生へのメッセージ	金融・経済に関する知識は、今後就職、起業の際に必要不可欠です。
担当者の研究室等	11 号館 5 階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	

科目名	教養経済学	科目名（英文）	Economics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	村瀬　憲昭
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JS01312a1		

授業概要・目的	本授業では、教養として身につけておくべき経済活動の仕組みの基礎について学び、身近な生活や国・地域で生じている様々な経済問題を理解する基礎的能力を身につけることを目的とする。
到達目標	経済に関するニュース報道などに関心を持ち、身近な生活と経済の関係について理解を深めることができる。
授業方法と留意点	教科書に沿って、ミクロ経済学、マクロ経済学の基礎について解説する。 授業計画は授業の進捗等に応じて適宜見直し、変更する。 新聞等の主要な国内外の経済ニュースに関心を持つこと。
科目学習の効果（資格）	社会人として身につけておくべき基礎的な経済学の知識を得ることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション 需要と供給	経済学の定義や経済学の目的を説明する。 ミクロ経済学の基本である需要・経済分析について解説する。	教科書の事前学習 小課題の提出
2	需要曲線と消費者行動 費用の構造と供給行動	需要曲線と消費者の行動について解説する。 供給曲線と、供給行動について解説する。	教科書該当部分の予習 小課題の提出
3	市場取引と資源配分	市場と価格メカニズム、資源配分のゆがみ、市場競争と経済発展について解説する。	教科書該当部分の予習 小課題の提出
4	独占と競争の理論	独占の理論、完全競争と独占的競争について解説する。	教科書該当部分の予習 小課題の提出
5	市場の失敗	市場の失敗の例として、外部効果、公共財、費用逓減産業について解説する。	教科書該当部分の予習 小課題の提出
6	不確実性と不完全情報の世界	不確実性と経済現象、情報の不完全性とその対応について解説する。	教科書該当部分の予習 小課題の提出
7	ゲームの理論入門	ゲームの理論について解説する。	教科書該当部分の予習 小課題の提出
8	経済をマクロからとらえる	マクロ経済学と GDP、マクロ経済における需要と供給について解説する。	教科書該当部分の予習 小課題の提出
9	有効需要と乗数メカニズム	マクロで見た需要、需要の決定とマクロ経済の均衡について解説する。	教科書該当部分の予習 小課題の提出
10	貨幣の機能	貨幣の定義と機能、マネーストックのメカニズム、貨幣供給と物価について解説する。	教科書該当部分の予習 小課題の提出
11	マクロ経済政策	財政政策と金融政策について解説する。	教科書該当部分の予習 小課題の提出
12	インフレ・デフレと失業	インフレーション、デフレーション、失業が発生する要因について解説する。	教科書該当部分の予習 小課題の提出
13	高齢社会の財政運営	高齢化のもとでの財政運営について解説する。	教科書該当部分の予習 小課題の提出
14	経済成長と経済発展	経済成長のメカニズム、資本蓄積と経済成長について解説する。	教科書該当部分の予習 小課題の提出
15	国際経済学	為替レートと貿易、投資との関係など、国際経済学の基礎について解説する。	教科書該当部分の予習 小課題の提出

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	入門経済学（第４版）	伊藤　元重	日本評論社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	教養としての経済学	一橋大学経済学部　編	有斐閣
2			
3			

評価方法（基準）	期末試験 70%、授業での小課題提出 30%の割合で総合的に評価する。
学生へのメッセージ	授業では関連する国内外の時事経済問題の解説も加える予定です。日々の新聞記事、ニュース等に関心をもってください。
担当者の研究室等	1 号館 7 階　村瀬研究室（経済学部）
備考	

科目名	経営学入門	科目名（英文）	Introdution to Management
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐藤　秀昭
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JS01313a1		

授業概要・目的	経営学の諸理論について概説します。特に本講義では、戦略、組織行動、アントレプレナーシップに関する理論に焦点を当てます。 受講生は、人や組織がどのように考え、行動するのかについて、経営学が蓄積してきた仮説を学ぶことができます。 講義担当者は、民間企業における研修業務担当の経験から、講義内容の実践的な活用方法を教授します。
到達目標	① 本講義を通じて受講生は、経営戦略論、経営組織論の基礎的な内容を説明できるようになります。 ② 本講義を通じて受講生は、企業がなぜ特定の行動をとるのか（why クエスチョン）について、自らの意見を述べるスキルを身につけることができます。
授業方法と留意点	講義形式で授業を進めます。 講義内容の理解を深めるために、毎回の講義終了後に小レポートの提出を求めます。
科目学習の効果（資格）	
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	本講義の目的・到達目標・成績評価について説明します。また、経営学において、理論と現象の関係がどのように捉えられているのかを考えます。	事前：シラバスを読んでおく（10 分） 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する（60 分）
2	感情とモチベーション	経営学において、認知バイアスやモチベーションの理論がどのように用いられているのかを考えます	事前：前回の配布資料に目を通して復習を行う（10 分） 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する（60 分）
3	イノベーションとアントレプレナーシップ	経営学において、いわゆるイノベーション・アントレプレナーシップと呼ばれる概念がどのように用いられているのかを考えます	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う（15 分） 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する（60 分）
4	組織意思決定と組織学習	組織がいかにして意思決定を行い、学習をするのかについて考えます	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う（20 分） 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する（60 分）
5	知の探索・知の深化	知の探索・知の深化理論の成果について考えます	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う（25 分） 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する（60 分）
6	エージェンシー理論	経営学において、エージェンシー理論がどのように用いられているのか考えます	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う（30 分） 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する（60 分）
7	ゲーム理論	経営学において、ゲーム理論がどのように用いられているのか考えます	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う（35 分） 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する（60 分）
8	競争の型と戦略の関係	経営学が明らかにした競争の型と戦略の関係について考えます	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う（40 分） 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する（60 分）
9	リーダーシップの理論	経営学におけるリーダーシップ研究の成果を考えます	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う（45 分） 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する（60 分）
10	エコノミック・ソシオロジー	社会学を基礎とした経営学の諸仮定について考えます	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う（50 分） 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する（60 分）
11	共進化のダイナミズム	経営学が共進化という概念をいかにして企業に当てはめて説明しているのかを考えます	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う（55 分） 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する（60 分）
12	持続的な競争優位とダイナミック・ケイパビリティ	経営学がいかにして競争優位の源泉を説明しているのかを考えます	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う（60 分） 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する（60 分）
13	弱いつながりの強さ	経営学において、ソーシャル・ネットワーク理論がどのように用いられているのかを考えます	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う（60 分） 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する（60 分）
14	組織エコロジーと VSRS メカニズム	経営学において、VSRS メカニズムがどのように適用されているのかを考えます	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う（60 分） 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する（60 分）
15	経営学が答える why クエスチョン	経営学が答えようとしている why クエスチョンについて、本講義における検討を振り返ります	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う（60 分） 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する（60 分）

<table>
<tr><td>関連科目</td><td></td></tr>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr>
<tr><td>1</td><td>世界標準の経営理論</td><td>入山章栄</td><td>ダイヤモンド社</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>小レポート（毎回の講義終了後に提出）40%、期末レポート（全 15 回の講義終了後に提出）60%で評価する。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td></td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>佐藤秀昭講師室（11 号館 7 階）</td></tr>
<tr><td>備考</td><td></td></tr>
</table>

科目名	会計学	科目名（英文）	Accounting
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐井　英子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JS02314a1		

授業概要・目的	会計情報は、債権者や投資家など特定の人々にのみ有用なものではない。今日の経済社会においては、すべての人々が企業活動と何らかの関係を持っている。企業は、地域社会をはじめ多くの関係者と利害関係を有しており、会計情報は、誰にとっても必要で有用な情報である。また、会計はビジネスの言語といわれ、ビジネスに不可欠になっている。会計を知らずして、経済社会を理解することはできないといえる。本講義では、会計の意義、目的、規範、会計情報開示制度等に関する基礎的知識・用語を初心者向けに分かり易く解説し、公表されている会計情報、財務諸表をから企業の経営内容を読み取り、理解できるようになり、また、2年生以降に履修することになる上級科目のより円滑な理解に結びつくことを目的とする。
到達目標	・会計の目的、役割を理解する。 ・我が国の会計制度、会計情報開示制度の概要を理解する。 ・自ら必要な会計情報を入手できるようになる。 ・主用財務諸表である、貸借対照表、損益計算書を作成することができる。 ・財務諸表の内容、作成ルールを理解し、会計情報から企業内容を推察することができる。
授業方法と留意点	原則として、対面授業を実施する。 教材、課題の提出は,WebFolder を利用する。
科目学習の効果（資格）	・ビジネスマンとして必要なビジネス言語である会計リテラシィーが修得できる。 ・組織（主として企業）に関する会計情報を読み取る力を修得することにより２年次以降の学びに有用できる。 ・経営学部に関連する一連の各種資格取得のための受験準備スタートのよい契機になる。 ・会計と資格、職業についての理解が得られる。（公認会計士、税理士、国税専門官、不動産鑑定士、中小企業診断士等）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	会計の意義と目的	会計の意義、財務会計と管理会計、会計の役割・機能	配布資料の復讐と整理（1時間）
2	わが国の会計制度	トライアングル体制、会社法会計、金融商品取引法会計、税務会計	事前学習（30分） 前回の講義、練習問題の復習 事後学習（1時間） 当日の配布資料、練習問題の見直し
3	会計情報開示制度	ディスクロージャーとは、電子開示システム	事前学習（30分） 前回の講義、練習問題の復習 事後学習(1時間) 当日の配布資料、練習問題の見直し
4	会計基準	企業会計原則、会計基準の国際的統合	事前学習(30分) 前回の講義、練習問題の復習 事後学習（1時間） 当日の配布資料、練習問題の見直し
5	会計情報の内容（1）	会計情報の入手方法、個別財務諸表と連結財務諸表	事前学習(30分) 前回の講義、練習問題の復習 事後学習（90分） 当日の配布資料の見直しと提示された課題レポートの作成
6	会計情報の内容（2）	貸借対照表 様式、基本原則、分類基準	事前学習(30分) 前回の講義、練習問題の復習 事後学習(1時間) 当日の配布資料、練習問題の見直し
7	会計情報の内容（3）	貸借対照表 資産について	事前学習（30分） 前回の講義、練習問題の復習 事後学習(90分) 当日の配布資料の見直しと提示された課題レポートの作成
8	会計情報の内容（4）	貸借対照表 負債について	事前学習（30分） 前回の講義、練習問題の復習 事後学習(1時間) 当日の配布資料、練習問題の見直し
9	会計情報の内容（5）	貸借対照表 純資産について	事前学習(30分) 前回の講義、練習問題の復習 事後学習（1時間） 当日の配布資料、練習問題の見直し
10	まとめと確認テスト	まとめと小テスト	事前学習（９０分） 今までの配付資料、練習問題の復習 事後学習（３０分） まとめテストの見直し
11	会計情報の内容（6）	損益計算書 収益の認識と測定	事前学習(30分) まとめてストで理解できないところを調べる 事後学習(1時間) 当日の配布資料、練習問題の見直し の見直し
12	会計情報の内容（7）	損益計算書 費用の認識と測定 営業損益、経常損益、純損益	事前学習(30分) 前回の講義、練習問題の復習 事後学習(1時間) 当日の配布資料、練習問題の見直し

	13	会計情報の利用・分析	安全性分析、収益性分析	事前学習(30 分) 前回の講義、練習問題の復習 事後学習(90 分) 当日の配布資料の見直しと提示された課題レポートの作成
	14	会計と職業・資格	日商簿記検定、ビジネス会計検定試験、BATIC、公認会計士、税理士、国税専門官、不動産鑑定士、中小企業診断士	事前学習(30 分) 前回の講義、練習問題の復習 事後学習（1 時間） 当日の配布資料、練習問題の見直し
	15	まとめ	講義の復習とまとめ 質問の受付	事前学習（1 時間） 今までの講義でどこが理解できていないか箇条書きにする。 事後学習（5 時間） 試験に備え、今までの復習

関連科目	経営学、企業簿記

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	アカウンティング	笹倉　淳史他	同文館出版
2	１からの会計	桜井　久勝	中央経済社
3			

評価方法 （基準）	授業への（参加）と課題の提出（５０％）、定期テスト（５０％）、対面授業へ変更した場合、評価割合を変更します。変更する場合は、事前にお知らせします。
学生への メッセージ	毎回授業に出席して、練習問題を自分で解いて下さい。
担当者の 研究室等	佐井研究室（１１号館８階）
備考	感染状況により、対面授業へ変更します。

科目名	心理学Ⅰ	科目名（英文）	Psychology Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	越川　陽介
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JHU1302a1		

授業概要・目的	本講義では、知覚や記憶のメカニズム、学習理論やコミュニケーション法を学ぶことを通して、私たちがどのように物事をとらえて感じているのかを理解し、他者を理解する上で役立つ考え方やコミュニケーション法を身につけ、自己理解や他者理解、良好な人間関係の形成に活かすことを目的とする。 これにより、現在の人間関係と今後の新たな人間関係の変化に柔軟に対応できるような人間力、他者と関わる上での心のあり方やマナーなどの態度が、より向上することを期待している。
到達目標	自分自身がどのように物事をとらえているのかを知ることに加えて、他者がどのように物事をとらえているのかを推察しようとする意識を身につけること、さらには自分と他者との物事のとらえ方の違いを受け入れ、他者に共感的に寄り添える力を高めて、よりよい人間関係を形成できる力を身につけることを目指す。
授業方法と留意点	本授業は講義形式の授業を行う。各授業においてテーマを設定しており、そのテーマについてパワーポイントによる講義資料を用いて授業を行う。また、授業の最後にはその日の授業内容の定着度を測る小テストを行う。授業時には指定された教科書を持参し、いつでも内容を確認することが望ましい。 小テストについては次回の授業の際に正答の提示を行いフィードバックを行う。
科目学習の効果（資格）	自己理解と他者理解、現在と今後の人間関係の形成に活かすことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	心理学とは？ 講義内容と定期試験の説明	本講義では、心理学とはどのようなものなのかを概観し、日常生活でどのように活かされているのかについて学ぶ。	教科書で、興味の持った分野を見つけて、一読しておくことが望ましい(1 時間)。
2	感覚と知覚について	本講義では、知覚の種類や機能について解説し、私たちが日常生活でどのように物事を捉えているのかについて学ぶ。	五感とは何かを調べて、自分と他人でどのように感じ方が異なるのかを考えておくことが望ましい(2 時間)。
3	記憶について	本講義では、記憶の仕組みや記憶に関する疾患について学ぶ。	教科書（暮らし 08）を一読しておくことが望ましい(1 時間)。
4	学習理論、子育て、人の伸ばし方について	本講義では、人や動物がどのように学習し行動を形成するのか、子どもや他人をどのように伸ばせばいいのかを学ぶ。	教科書（仕事 06，09，人間関係 03，06）を一読しておくことが望ましい(2 時間)。
5	自尊心（自信）について	本講義では、生きていくうえで重要な自尊心（自信）について学ぶ。	教科書(悩み 08，暮らし 01，友だち 01，08，09，人間関係 05)を一読しておくことが望ましい(2 時間)。
6	性格やパーソナリティ障害について	本講義では、人の性格がどのように形成されるのか、パーソナリティ障害とはどのようなものなのかについて学ぶ。	教科書（悩み 05，友だち 05，07，人間関係 08）を一読しておくことが望ましい(2 時間)。
7	青年期の発達と青年期に発症しやすい疾患について	本講義では、青年期の発達とその時期に発症しやすい疾患について学ぶ。	教科書（暮らし 02，恋愛 06）を一読しておくことが望ましい(2 時間)。
8	成人、高齢者の発達と課題、それらの時期に発症しやすい疾患について	本講義では、成人と高齢者の発達の過程と課題、それらの時期に発症しやすい疾患について学ぶ。	うつ病や認知症について、さらには、平均初婚年齢の変化など、成人の課題についても調べておくことが望ましい(3 時間)。
9	虐待について	本講義では、虐待の背景や実情について学ぶ。	ニュースなどをチェックして、虐待の実情や近況を見ておくことが望ましい(3 時間)。
10	DV（ドメスティックバイオレンス）について	本講義では、DV の背景や実情について学ぶ。	教科書（恋愛 09，12，14）を一読しておくことが望ましい(2 時間)。
11	社会的認知、集団の心理について	本講義では、社会的認知や集団における心理や行動について学ぶ。	教科書（仕事 05，08）を一読しておくことが望ましい(2 時間)。
12	感情と欲求、ストレスマネジメントについて	本講義では、感情の種類や機能、人間の欲求、ストレスマネジメントについて学ぶ。	教科書（悩み 01，02，03）を一読しておくことが望ましい(2 時間)。
13	コミュニケーション、傾聴、共感について	本講義では、コミュニケーションで大切な傾聴（話の聴き方）や共感について学ぶ。	教科書（悩み 06，07，友だち 11，仕事 11，人間関係 02）を一読しておくことが望ましい(2 時間)。
14	コミュニケーション、日常生活に役立つ心理学について	本講義では、よりよい頼み方や断り方、謝り方などについて学ぶ。	教科書（暮らし 02，仕事 03，04）を一読しておくことが望ましい(2 時間)。
15	講義全体のまとめ	本講義では、これまでの全講義のまとめを行い、要点を振り返り、講義内容の定着を図る。	全講義のプリントもしくは教科書の全章を復習しておくことが望ましい(3 時間)。

関連科目：臨床心理学、発達心理学、コミュニケーション学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	イラスト図解　わかる！使える！はじめての心理学	ゆうきゆう	学研プラス
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ステップアップ心理学シリーズ　心理学入門　こころを科学する 10 のアプローチ	板口　典弘	講談社
2			
3			

評価方法（基準）：まとめテスト(第 15 回時実施)60%，毎回の小テスト 30%，授業態度としての授業への呼応状況 10%の配分で総合的に評価を行う。

学生への：心理学は、自己理解や他者理解を中心として、日常生活を営む上においても役立つ学問で、知れば知るほど自分の世界が広がるものです。本講

メッセージ	義を通して、今後生きていく上で、一つでも役立つ知識や経験を得られることができればよいと思います。
担当者の 研究室等	11 号館 6 階、経営学部非常勤講師室
備考	・講義時間外における質問は、講義前後の非常勤講師室、講義後の教室で時間の許す限りとします（メールでも可)。 ・事前事後学習に、毎回 30 分以上かけると、定期試験の点数も取りやすくなります。

科目名	心理学Ⅱ	科目名（英文）	Psychology II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	越川　陽介
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JHU1303a1		

授業概要・目的	本講義では、社会的変化を心理学的な視点で把握した上で、それらが個人や集団にどのような影響を及ぼすのかについて学ぶ。 さらに、そのような社会的変化に対して、私たちがどのように生きていけばいいのかといった視点から、自分で考えられる力、他人との関係の中でうまく生きていく力を高めることを目的とする。
到達目標	社会的変化を自分とは関係の無いことと思わずに、自分にも関係のあることとして捉えられるようになること。さらに、本講義で学ぶ内容を、ただ“知る”だけではなく、自分で“考える”ことで、複雑・多様化する社会の中で生きていく力を高めること。
授業方法と留意点	本授業は講義形式の授業を行う。各授業においてテーマを設定しており、そのテーマについてパワーポイントによる講義資料を用いて授業を行う。また、授業の最後にはその日の授業内容の定着度を測る小テストを行う。授業時に紹介する参考文献を参照し知識の定着を目指すことが望ましい。
科目学習の効果（資格）	自分自身で考える力を高め、複雑・多様化する社会の中で生きられる力を高めることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	心理学とは？ 講義内容と定期試験の説明	本講義では、最近の社会的変化を考える前に、心理学とはどのようなものなのかを概観し、日常生活でどのように活かされているのかについて学ぶ。	心理学とは、どのようなものなのかを事前に調べ、自分なりの考えを持っておくことが望ましい(1 時間)。
2	新型コロナウイルス感染症1	本講義では、危機的状況下で生じる人間の反応について学ぶ。	災害時などに生じる心の反応の特徴について調べてくることが望ましい(2 時間)。
3	新型コロナウイルス感染症2	本講義では、新型コロナワクチンへの理解と誤った情報に惑わされない方法について学ぶ。	新型コロナワクチンへの疑問点をホームページを参考に調べることが望ましい(2 時間)。
4	新型コロナウイルス感染症3	本講義では、見通しの立たない社会を過ごすための方法について学ぶ。	授業内で紹介するワークを実際に行い、体験したことをまとめておくことが望ましい(2 時間)。
5	睡眠とメンタルヘルス１	本講義では、睡眠に関する知識について学ぶ。	１週間の睡眠状況についてメモしておくことが望ましい(2 時間)
6	睡眠とメンタルヘルス２	本講義では、睡眠障害と、薬物を使わない睡眠の改善方法について学ぶ。	授業内で紹介するワークを実際に行い、体験したことをまとめておくことが望ましい(2 時間)。
7	組織と個人の心１	本講義では、組織に生じる問題について精神分析的な側面からの解釈の方法について学ぶ。	自分が所属する組織で困ったことなどを確認することが望ましい(2 時間)。
8	組織と個人の心２	本講義では、アセスメントツールを用いて組織のアセスメント方法について学ぶ。	自分が所属する組織で生じた問題について整理しておくことが望ましい(2 時間)。
9	モンスターペアレントやクレーマーについて	本講義では、モンスターペアレントやクレーマーの心理や社会的背景について学ぶ。	モンスターペアレントやクレーマーの心理について事前に考えておくことが望ましい(2 時間)。
10	セクシャル･マイノリティについて	本講義では、セクシャルマイノリティの歴史や背景、今後について学ぶ。	自分がセクシャルマイノリティであるとしたら、自分の周りにセクシャルマイノリティの人がいるとしたら、という視点で考えておくことが望ましい(2 時間)。
11	高齢者の発達と介護について	本講義では、高齢者の発達と介護について学ぶ。	介護に関する問題について事前に調べておくことが望ましい(2 時間)。
12	SNS（ソーシャルネットワークサービス）について	本講義では、近年発展が続いている SNS について学ぶ。	SNS のメリットとデメリット、自分が SNS についてどのように感じているかを事前に考えておくことが望ましい(2 時間)。
13	ロボット（AI）の増加や機械化について	本講義では、人とロボットの関係、今後の働き方について学ぶ。	ロボット（AI）の増加や機械化によるメリットとデメリットを事前に考えておくことが望ましい(2 時間)。
14	オンラインコミュニケーションについて	本講義では、テレワークなどのオンラインで行われるコミュニケーションについて学ぶ。	オンラインコミュニケーションのメリットとデメリットを考えておくことが望ましい(2 時間)。
15	講義全体のまとめ	本講義では、これまでの全講義のまとめを目的としたテストを行う	全講義のプリントを復習しておくことが望ましい(2 時間)。

関連科目：臨床心理学、社会心理学、コミュニケーション学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	出席回数が 11 回以上の者を評価の対象とする。 その上で、定期試験 60%, 毎回の小テスト 30%, 授業態度としての授業への呼応状況 10%の配分で総合的に評価を行う。
学生へのメッセージ	心理学は、自己理解や他者理解を中心として、日常生活を営む上においても役立つ学問で、知れば知るほど自分の世界が広がるものです。本講義を通して、今後生きていく上で、一つでも役立つ知識や経験を得られることができればよいなと思います。
担当者の	11 号館 6 階、経営学部非常勤講師室

研究室等	
備考	・質問は、メールにてお願いします。

科目名	社会学Ⅰ	科目名（英文）	Sociology Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	野々村　元希
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JS01315a1		

授業概要・目的	社会学という営みは、いかなる問題意識をもち、何をやっているのか。また、その営みによって何が明らかになってきたのか。この授業では、こうした問いに迫るために、社会学の基本的なものの見方について解説する。授業の前半では、社会学の成立の過程をたどりつつ、他の学問とは異なる社会学に固有の関心事を考えていく。授業の後半では、社会学の巨匠たちの古典的業績を参照しつつ、現代にも通じる近代社会の諸問題について考えていく。
到達目標	受講生は社会学の基本的な知識と考え方を身につけ、さまざまな社会制度・社会問題について、一歩深い水準から考察することができるようになる。
授業方法と留意点	講義形式の授業を行う。 基本的には授業内容を授業時間中にリアルタイムで配信する。ただし、その様子をレコーディングしたものもアーカイブ動画資料として提供する。 なお、出席点をとることはせず、リアルタイム配信の場への参加も必須ではない。
科目学習の効果（資格）	日々の個人的な経験を、社会の構造やその変化をおさえながら把握する能力を身につけることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義へのオリエンテーション	授業の流れについて理解する。
2	社会学とは何か	社会学の概要	レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1 時間）。
3	社会学前史（1）	17 世紀と社会契約論	レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1 時間）。
4	社会学前史（2）	18 世紀とスコットランド啓蒙	レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1 時間）。
5	社会学の登場	19 世紀の思想的諸相	レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1 時間）。
6	デュルケムの社会学	デュルケム社会学の対象・方法・関心	レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1 時間）。
7	デュルケムを読む（1）	『自殺論』(自己本位的自殺、夏目漱石)	レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1 時間）。
8	デュルケムを読む（2）	『自殺論』(アノミー的自殺、『ボヴァリー夫人』)	レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1 時間）。
9	デュルケムを読む（3）	『社会分業論』(機械的連帯と有機的連帯)、「個人主義と知識人」(人格崇拝)	レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1 時間）。
10	ウェーバーの社会学	ウェーバー社会学の対象・方法・関心	レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1 時間）。
11	ウェーバーを読む（1）	『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』(意図せざる帰結としての資本主義)	レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1 時間）。
12	ウェーバーを読む（2）	『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』(カルヴィニズム、世俗内的禁欲、鉄の檻)	レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1 時間）。
13	ウェーバーを読む（3）	「社会学の基礎概念」(行為の 4 類型)、「客観性」論文（価値自由)、『職業としての学問』(学問の意味と専心)	レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1 時間）。
14	社会学のその後の展開	20 世紀の社会学	レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1 時間）。
15	講義のまとめ	総括	授業全体を振り返る。

関連科目：社会学Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への積極的参加：20 点 期末試験（レポート試験）：80 点
学生へのメッセージ	なかなか難しい授業ですが、関心のある人は受講してみてください。本を読むこと、考えることが好きな学生の受講を歓迎します。 「社会学Ⅱ」を合わせて履修することが望ましいです。
担当者の研究室等	11 号館 6 階、経営学部非常勤講師室
備考	授業内容に関する質問等は、授業終了後に直接、もしくは Teams 上で受けつける。 また、試験の講評等については、後日ウェブサイトを用いるなどして受講者に伝える。

科目名	社会学Ⅱ	科目名（英文）	Sociology II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	野々村　元希
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JS01316a1		

授業概要・目的	われわれの生きる社会は、どのようなしくみによって成り立っているのか。そこにはどのような問題があり、それはなぜ生じているのか。本講義では、受講生自らがこれらの問いに向き合えるようになるために、社会学の基本的なものの見方について解説する。前半では、社会学とは何かということを確認した上で、社会調査について紹介し、特に量的調査データの基礎的な分析手法を解説する。後半では、自己、家族、労働、教育、逸脱、政治といった諸領域に関する社会学的知見を（具体的なデータ分析の結果を交えつつ）概説し、現代社会の動向を多角的にとらえることを試みる。
到達目標	受講生は社会学の基本的な知識と考え方を身につけ、さまざまな社会制度・社会問題について、一歩深い水準から考察することができるようになる。
授業方法と留意点	講義形式の授業を行う。 各週の授業時間中、配布資料にもとづく授業内容の解説を Teams で配信する。また、別途作成した解説用動画を提供する。 受講生は配布資料をもとに自習する、ないし動画を視聴するという形で授業に参加してもらう。 なお、各週のリアルタイム配信への出席は必須ではない。出席点をとることもしない。 （■追記 211113） 11 月 10 日（第 8 回）より、対面授業を再開する。以降は所定の教室にて通常の講義形式の授業を行う。 受講生は対面授業に出席するという形で授業に参加してもらう。ただし
科目学習の効果（資格）	日々の個人的な経験を、社会の構造やその変化をおさえながら把握する能力を身につけることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	社会学の概要	講義への導入、個人と制度	授業の流れについて理解する。
2	社会学と社会調査（1）	質的調査と量的調査	レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1 時間）。
3	社会学と社会調査（2）	計量データ分析の基礎	レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1 時間）。
4	自己の社会学（1）	社会化	レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1 時間）。
5	自己の社会学（2）	意識と無意識、自我の防衛機制	レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1 時間）。
6	家族の社会学（1）	近代家族	レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1 時間）。
7	家族の社会学（2）	家族の二極化、未婚化	レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1 時間）。
8	労働の社会学（1） ■対面授業再開（11/10）	日本的雇用慣行	レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1 時間）。
9	労働の社会学（2）	女性の労働力参加	レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1 時間）。
10	教育の社会学（1）	「教育依存症」、コンピテンシー教育	レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1 時間）。
11	教育の社会学（2）	教育格差	レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1 時間）。
12	逸脱行動の社会学（1）	犯罪の正常性、有用性	レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1 時間）。
13	逸脱行動の社会学（2）	さまざまな逸脱行動研究	レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1 時間）。
14	政治の社会学（1）	自由主義の展開と新自由主義	レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1 時間）。
15	政治の社会学（2）	新自由主義を支える意識、講義のまとめ	授業全体を振り返る。

関連科目：社会学Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	期末試験（レポート試験）：100 点 配布資料を 1 冊の本とみなし、それについて書評を作成してもらうことを考えている。 レポートの作成・提出に関する要項ついては追って通知する。
学生へのメッセージ	なかなか難しい授業ですが、関心のある人は受講してみてください。 教員による毎週の解説をただ待つというよりも、自分で配布資料を読み進め内容について批判的に考えていってほしいと思います。意見やコメントがあれば積極的に発信してください。 「社会学Ⅰ」を合わせて履修することが望ましいですが、未履修の人でも問題ありません。
担当者の研究室等	11 号館 6 階、経営学部非常勤講師室
備考	授業内容に関する質問等は、授業終了後に直接、もしくはメールで受けつける（メールアドレスは初回の授業で通知する）。 また、試験の講評等については、後日ウェブサイトを用いるなどして受講者に伝える。

科目名	スポーツ心理学	科目名（英文）	Sports Psychology
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石井　信輝
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH2357a1		

授業概要・目的	スポーツ活動を心理学的な観点から分析・検討するための基本理論や応用のための方法を学ぶ。
到達目標	この授業を通じて学生には、スポーツ活動の基礎となる運動や人について、心理学的な側面から理解を深めることができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	教科書は特に用いないが、必要に応じて資料を配布する。授業中に提示した課題を解決するために、ICT ツールを活用していただく場合もある。４月２２日（木）以降はオンライン授業（TEAMS を用いる）となる（対面授業に戻す場合には改めて通知する）。
科目学習の効果（資格）	スポーツ活動だけではなく、日常生活にも応用できる心理学的な知見の獲得。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	スポーツ心理学の意義	スポーツ心理学の意義と学問体系を理解する。	スポーツ心理学という学問領域について整理する。
2	スポーツ心理学の研究法	実験、調査法、観察	配布資料に目を通す。
3	スポーツと知覚	スポーツと視覚、スポーツヴィジョン	関連資料に目を通す。
4	スポーツ指導と動機づけ	動機づけの意味と、その方法論	動機付けの方法を抜粋し整理する。
5	パフォーマンス修得の意味とその段階	パフォーマンス曲線、プラトウとスランプ・習熟度の確認	スランプとプラトウの違いを整理する。
6	リーダーシップとスポーツ（1）	リーダーシップの概念	関連資料に目を通す。
7	リーダーシップとスポーツ（2）	リーダーシップの形式	配布資料の理解。
8	リーダーシップとスポーツ（3）、これまでの講義のまとめ	リーダーの役割と PM 理論	これまでの講義の整理とその理解。
9	フィードバック	フィードバックの種類と効果	フィードバックという概念の検索。
10	メンタルプラクティス	メンタルプラクティスの効果と実践方法、習熟度の確認	関連資料に目を通す。
11	スポーツとパーソナリティー	スポーツとパーソナリティーの関係	パーソナリティーという言葉の検索。
12	スポーツの経験と態度変容	態度の概念、態度変容理論、スポーツ経験と態度変容	配布資料の理解。
13	心理的技能とパフォーマンス（1）	心理的技能がパフォーマンスに与える影響	関連資料に目を通す。
14	心理的技能とパフォーマンス（2）	心理的技能とパフォーマンスとの関係	前回と講義と今回とを関連づけて整理する。
15	講義のまとめ	講義の総括と到達度の確認試験	これまでの講義を体系づけて整理する。

関連科目：スポーツに関係する科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業に参加する姿勢（３０％）、授業中に出される課題への回答・試験の結果（70%）をもって評価する。
学生へのメッセージ	意欲的に取り組んでください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　石井教授室
備考	各回に 1 時間程度、すなわち半期 15 時間程度を目安に、講義の内容について事前・事後の学習を行ってください。 課題や習熟度確認試験の解説は、次の回の授業で行う。 19 年度　合格率 96%　（不受験率 4%）　A7%　B29%　C46%　D14%　平均 75 点　72 人登録

科目名	社会調査の方法	科目名（英文）	Social Research Method
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	野々村　元希
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JS02317a1		

授業概要・目的	この授業では、社会調査の概要を述べた上で、特に量的調査に関して、問題設定から報告書作成までの一連のプロセスについて解説する。すなわち、さまざまな社会現象に対して、問いを立て、データを集め、分析し、それによって得られた結果を解釈し、問いに対する答えを報告書にまとめるという、量的社会調査の一連のプロセスについて、守るべきルールや方法をおさえながら解説していく。
到達目標	受講生は、量的調査のデータベースを用いた情報検索の方法、ならびに量的調査を設計する方法を学ぶことを通して、データの収集、分析にかんする知識と実践力を習得することができる。
授業方法と留意点	講義形式の授業を行う。 各週の授業時間中、配布資料にもとづく授業内容の解説を Teams で配信する。また、別途作成した解説用動画を提供する。 受講生は配布資料をもとに動画を視聴するという形で授業に参加してもらう。 なお、各週のリアルタイム配信への出席は必須ではない。出席点をとることもしない。 （■追記 211113） 11 月 10 日（第 8 回）より、対面授業を再開する。以降は所定の教室にて通常の講義形式の授業を行う。 受講生は対面授業に出席するという形で授業に参加してもらう。ただし出席点をとること
科目学習の効果（資格）	社会調査はゼミ活動や卒業研究だけでなく、たとえば市場調査など、就職後にもさまざまな場面で実施することになりうるものである。受講生はそのための知識や技術を身につけることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義のねらいと概要	レジュメを読んで復習する（1 時間）。配布した調査票を見てその構造をつかむ。
2	社会調査の概要	質的調査と量的調査、社会調査の現状	レジュメを読んで復習する（1 時間）。
3	調査を企画する前に	問い（リサーチ・クエスチョン）の立て方と検証の仕方、変数と尺度水準	レジュメを読んで復習する（1 時間）。
4	調査の企画	実査の方法、他記式調査と自記式調査	レジュメを読んで復習する（1 時間）。
5	調査票の作成（１）	質問文の作成、ワーディング	レジュメを読んで復習する（1 時間）。
6	調査票の作成（２）	質問文への回答形式の設定	レジュメを読んで復習する（1 時間）。
7	サンプリング（１）	全数調査と標本調査、サンプリングの諸技法	レジュメを読んで復習する（1 時間）。例題に取り組む。
8	サンプリング（２） ■対面授業再開（11/10）	母集団と標本、ランダム･サンプリング	レジュメを読んで復習する（1 時間）。例題に取り組む。
9	調査の実施	実査の手順、調査倫理	レジュメを読んで復習する（1 時間）。
10	調査データの作成	エディティング、コーディング、データクリーニング	レジュメを読んで復習する（1 時間）。
11	調査データの集計･分析（１）	質的変数と量的変数、その集計・分析の仕方	レジュメを読んで復習する（1 時間）。例題に取り組む。
12	調査データの集計･分析（２）	1 変数の分布と傾向：度数分布と記述統計	レジュメを読んで復習する（1 時間）。例題に取り組む。
13	調査データの集計･分析（３）	2 変数の関連：クロス表、平均値の差、相関係数	レジュメを読んで復習する（1 時間）。例題に取り組む。
14	調査結果の提示	報告書の作成、論文・レポートの書き方	レジュメを読んで復習する（1 時間）。
15	総括	講義の振り返りとまとめ	授業全体を復習する（1 時間）。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	入門・社会調査法（第 2 版）	轟亮・杉野勇編	法律文化社
2	新・社会調査へのアプローチ――理論と方法	大谷信介ほか	ミネルヴァ書房
3			

評価方法（基準）	週ごとに指示した課題への取り組み：20% 期末レポート：80% レポートの作成・提出に関する要項ついては追って通知する。
学生へのメッセージ	技法の習得・理解はもちろんですが、何を明らかにしたいのか、何のために調査するのかといった「問いの内容」がいっそう重要です。日ごろから新聞や雑誌に目を通すなどして、社会に対する関心を持つようにしてください。
担当者の研究室等	11 号館 6 階、経営学部非常勤講師室
備考	授業内容に関する質問等は、授業終了後に直接、もしくはメールで受けつける（メールアドレスは初回の授業で通知する）。 また、試験の講評等については、後日ウェブサイトを用いるなどして受講者に伝える。

科目名	教養数学	科目名（英文）	Mathematics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西脇　純一
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JNA1318a1		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。 一方で法律の解釈・訴訟事例では、かなりの数学的知識・論理能力が求められることがある。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度前期で確実に身につけることをこの授業の目標とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、基礎的な数学的知識・論理能力を身につけることができる。１つの目安として、公務員・警察官等の採用試験の数理分野の問題には十分対応できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	プリントを用いた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果（資格）	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	方程式(1)	・四則応用 ・１次方程式	課題レポート
2	方程式(2)	・２次方程式	課題レポート
3	方程式(3)	・平均算 ・年齢算	課題レポート
4	割合(１)	・比 ・混合算	課題レポート
5	割合(2)	・売買算 ・仕事算	課題レポート
6	速さ(1)	・速さ ・流水算	課題レポート
7	速さ(2)	・旅人算 ・通過算	課題レポート
8	速さ(3)	・時計算	課題レポート
9	場合の数	・数え上げの原則 ・並べ方，選び方 ・順列，組み合わせ	課題レポート
10	確率	・確率の計算	課題レポート
11	図形の計量(1)	・多角形	課題レポート
12	図形の計量(2)	・平面計量(円)	課題レポート
13	整数(1)	・約数，倍数 ・剰余	課題レポート
14	整数(2)	・記数法	課題レポート
15	規則性	・数列 ・規則性の発見	課題レポート

関連科目：教養物理

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	演習・小テスト３０％、期末試験７０％で判断する。 （但し、新型コロナウィルスの感染拡大状況に伴い、演習・小テスト１００％にする場合があります。）
学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っているでしょうが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。またラーニングセンターを積極的に利用して欲しいと思います。
担当者の研究室等	２号館２階(ラーニングセンター)
備考	事前・事後学習の総時間数の目安は 15 時間。 演習、小テストは採点したのち、返却する。 新型コロナウィルスの感染拡大に伴い、対面の授業が禁止された場合、Teams と Moodle を使ったオンライン授業に切り替えます。

科目名	教養数学	科目名（英文）	Mathematics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＣＤ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	早味　俊夫
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JNA1318a1		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。 一方で法律の解釈・訴訟事例では、かなりの数学的知識・論理能力が求められることがある。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度前期で確実に身につけることをこの授業の目標とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、基礎的な数学的知識・論理能力を身につけることが期待される。 （１つの目安として、総合適性検査 SPI・公務員試験・教員採用試験等の各種採用試験の数理分野の問題に十分に対応できるようになること。）
授業方法と留意点	プリントを用いた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適宜行う。
科目学習の効果（資格）	問題を定式化すること。定式化できれば論理的に解けることを体得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	方程式(1)	・四則応用 ・１次方程式	例題プリントの見直し
2	方程式(2)	・２次方程式	例題プリントの見直し及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し
3	方程式(3)	・平均算 ・年齢算	例題プリントの見直し及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し
4	割合（１）	・比 ・混合算	例題プリントの見直し及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し
5	割合(2)	・売買算 ・仕事算	例題プリントの見直し及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し
6	速さ(1)	・速さ ・流水算	例題プリントの見直し及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し
7	速さ(2)	・旅人算 ・通過算	例題プリントの見直し及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し
8	速さ(3)	・時計算	例題プリントの見直し及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し
9	場合の数	・数え上げの原則 ・並べ方，選び方 ・順列，組み合わせ	例題プリントの見直し及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し
10	確率	・確率の計算	例題プリントの見直し及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し
11	図形の計量(1)	・多角形	例題プリントの見直し及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し
12	図形の計量(2)	・平面計量(円)	例題プリントの見直し及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し
13	整数(1)	・約数，倍数 ・剰余	例題プリントの見直し及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し
14	整数(2)	・記数法	例題プリントの見直し及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し
15	規則性	・数列 ・規則性の発見	例題プリントの見直し及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し

関連科目：教養物理

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	適宜プリントを配布する		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題演習（３０％）及び最終回のレポート（７０％）の合計によって評価する。
学生への	数学については各自様々な思いを持っているでしょうが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもか

メッセージ	まいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。またラーニングセンター（オンライン対応）を積極的に利用してほしいと思います。
担当者の 研究室等	３号館３階 数学研究室（学期途中に５号館１階へ移転予定）
備考	事前・事後学習は毎回１時間以上かけること。 課題レポートは採点して次の回の授業で返却し、適宜講義中に解説をする。

科目名	教養数学	科目名（英文）	Mathematics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＥＧ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	髙尾　尚武
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JNA1318a1		

授業概要・目的	近年，本学入学時点では数学的知識・論理能力の不足が認められます．一方，社会においては，(特に法律の解釈・訴訟事例では）かなりの数学的知識・論理能力が必要とされます． そこで，　初等的な数学の話題を通して，大学１回生レベルの論理能力を身につけてもらうことをこの授業の目的とします． 尚，題材としては，初等整数論への入門をとりあげます．
到達目標	教科書を理解する為に必要な義務教育レベルの初等数学を復習し，指定教科書の内容を理解することを目標とします．
授業方法と留意点	授業は，講義・演習・発表を適切に組み合わせて実施します． 教科書を補足するプリントの学習を通して以下のことを行う予定です． (1) 義務教育レベルの初等数学を復習する． (2) (1)を使って循環小数をめぐるいくつかの現象の解明をする． (3) 時間があれば，(2)の延長線上にある初等整数論の話題にふれる．
科目学習の効果（資格）	大学なので資格に直結するような授業は行いません． この授業では，もっと基礎的なスキル(論理的に考え説明する)を向上させることを目指しています． 効果は個人の取り組み方次第です．

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	連立 1 次方程式とその応用(1)	掃き出し法	学習内容の復習と応用
2	連立 1 次方程式とその応用(2)	文章題	学習内容の復習と応用
3	場合の数と確率	・順列 ・組み合わせ ・確率	学習内容の復習と応用
4	数列と級数	・等差数列 ・等比数列 ・等比級数	学習内容の復習と応用
5	整数(1)	・約数と倍数 ・Euclid の互除法 ・素因数分解の一意性	学習内容の復習と応用
6	整数(2)	合同式	学習内容の復習と応用
7	整数(3)	中国剰余定理	学習内容の復習と応用
8	・ここまでの復習/補足 ・不思議な数	ここまでの復習及び不思議な数の導入を行う．	学習内容の復習と応用
9	小数	・実数の 10 進小数表示 ・有限小数の特徴づけ	学習内容の復習と応用
10	循環小数	・有理数 ・純循環小数の特徴づけ ・循環小数の特徴づけ	学習内容の復習と応用
11	循環小数の循環節	・素数の逆数の小数表示 ・循環節の長さについての 2 つの観察	学習内容の復習と応用
12	循環小数と合同式(1)	・Fermat の小定理	学習内容の復習と応用
13	循環小数と合同式(2)	純循環小数	学習内容の復習と応用
14	原始根と Artin 予想(1)	原始根	学習内容の復習と応用
15	原始根と Artin 予想(2)	Artin 予想	学習内容の復習と応用

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	分数と小数から広がる整数の世界	中島匠一	技術評論社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	期末試験 70%,平常点 30%で評価します． 但し、期末試験については新型コロナウィルス感染状況次第ではレポート等の代替手段への変更も有り得ます．
学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っているでしょうが，あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい．どのような些細なことでもかまいませんから，遠慮することなくいつでも質問してください．また，学習支援センターを積極的に利用して欲しいと思います． 但し，この講義は同名の他の講義とは内容が大きく異なります．論理的に考え説明する練習が中心となります．(数学はあくまでも題材に過ぎません．）　また，授業内容の密度は高校時代より格段に濃くなります．　授業に出ているだけで，授業内容を理
担当者の研究室等	

備考	十分な学習効果を得るには，週約 4 時間の予習と復習が必要です．（大学設置基準に基づく目安に基づく時間です） 尚，昨今の特殊な社会情勢及び授業の進行状況に応じて，シラバスの内容は若干変更されることがあります. 初回の授業でより具体的な授業内容と授業の進め方について説明します. （ですので、初回の授業には）必ず出席してください. このシラバスの内容は授業の進行状況に応じて若干変更される場合があります.

科目名	教養数学	科目名（英文）	Mathematics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＨＩＫ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	黒木　和雄
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JNA1318a1		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。 一方で法律の解釈・訴訟事例では、かなりの数学的知識・論理能力が求められることがある。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度前期で確実に身につけることをこの授業の目標とする。
到達目標	この授業を通して、基礎的な数学的知識・論理能力を身につけることができる。一つの目安として、各種採用試験（SPI・公務員試験・教員採用試験等）の数理分野の問題に十分対応できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	「教材・課題提供型授業」を実施する。 ①「演習課題」の例題を解く→②解説を確認して解き方を理解する→③「演習課題」の問題を解く→④「演習課題」を提出 ※提出課題が合格基準に達しなかった場合、翌週に（再提出課題による）補習を実施 ※各種連絡は「Teams」にて行い、課題の提出・返却は「Moodle」にて行う
科目学習の効果（資格）	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	方程式(1)	・四則応用 ・１次方程式	「演習プリント（第１回)」の問題を解き直すこと（１時間）
2	方程式(2)	・２次方程式	「演習プリント（第２回)」の問題を解き直すこと（１時間）
3	方程式(3)	・平均算 ・年齢算	「演習プリント（第３回)」の問題を解き直すこと（１時間）
4	割合(1)	・比 ・混合算	「演習プリント（第４回)」の問題を解き直すこと（１時間）
5	割合(2)	・売買算 ・仕事算	「演習プリント（第５回)」の問題を解き直す（１時間）
6	速さ(1)	・速さ ・流水算	「演習プリント（第６回)」の問題を解き直すこと（１時間）
7	速さ(2)	・旅人算 ・通過算	「演習プリント（第７回)」の問題を解き直すこと（１時間）
8	速さ(3)	・時計算	「演習プリント（第８回)」の問題を解き直すこと（１時間）
9	場合の数	・数え上げの原則 ・並べ方，選び方 ・順列，組み合わせ	「演習プリント（第９回)」の問題を解き直すこと（１時間）
10	確率	・確率の計算	「演習プリント（第１０回)」の問題を解き直すこと（１時間）
11	図形の計量(1)	・多角形	「演習プリント（第１１回)」の問題を解き直すこと（１時間）
12	図形の計量(2)	・平面計量(円)	「演習プリント（第１２回)」の問題を解き直すこと（１時間）
13	整数(1)	・約数，倍数 ・剰余	「演習プリント（第１３回)」の問題を解き直すこと（１時間）
14	整数(2)	・記数法	「演習プリント（第１４回)」の問題を解き直すこと（１時間）
15	規則性	・数列 ・規則性の発見	「演習プリント（第１５回)」の問題を解き直すこと（１時間）

関連科目	数的能力開発Ⅰ、数的能力開発Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	「演習課題 50%」と「期末試験 50%」の合計によって評価する。
学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っているでしょうが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加してください。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。授業時間内で理解できなかった場合は、「ラーニングセンター（旧学習支援センター)」を積極的に利用して、授業内容をしっかり理解していくようにしてください。
担当者の研究室等	2 号館 2 階　ラーニングセンター（旧学習支援センター）
備考	講義内の演習問題プリントに関する補習（問題の解き直し）を適宜実施する。

科目名	教養数学	科目名（英文）	Mathematics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	蓑茂　工将
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JNA1318a1		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。 一方で法律の解釈・訴訟事例では、かなりの数学的知識・論理能力が求められることがある。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度前期で確実に身につけることをこの授業の目標とする。
到達目標	基礎的な数学的知識・論理能力を身につける。１つの目安として、各種採用試験（公務員試験・教員採用試験等）の数理分野の問題には十分対応できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義形式によって進める。理解の促進と達成度合いの確認のため、演習を適時行い、課題レポートを課す。
科目学習の効果（資格）	問題を定式化し、論理的に解くことを体得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	方程式(1)	・四則応用 ・１次方程式	課題レポート
2	方程式(2)	・２次方程式	課題レポート
3	方程式(3)	・平均算 ・年齢算	課題レポート
4	割合(１)	・比 ・混合算	課題レポート
5	割合(2)	・売買算 ・仕事算	課題レポート
6	速さ(1)	・速さ ・流水算	課題レポート
7	速さ(2)	・旅人算 ・通過算	課題レポート
8	速さ(3)	・時計算	課題レポート
9	場合の数	・数え上げの原則 ・並べ方，選び方 ・順列，組み合わせ	課題レポート
10	確率	・確率の計算	課題レポート
11	図形の計量(1)	・多角形	課題レポート
12	図形の計量(2)	・平面計量(円)	課題レポート
13	整数(1)	・約数，倍数 ・剰余	課題レポート
14	整数(2)	・記数法	課題レポート
15	規則性	・数列 ・規則性の発見	課題レポート

関連科目：教養物理

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題レポート（４０％）と期末レポート（６０％）で評価する。
学生へのメッセージ	授業内の演習と課題レポートで自分の理解度を把握できますので、理解の足りない部分はその都度しっかりと復習をしてください。授業時間内外を問わず，質問は大歓迎です。この授業で確実に基礎を押さえて、今後の科目に役立ててもらえると嬉しく思います。
担当者の研究室等	数学準備室（3 号館 3 階）
備考	事前・事後学習の総時間数の目安は 15 時間。 演習、レポートの正解の提示、解説は次の回の授業で行う。

科目名	教養物理	科目名（英文）	Physics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	島津　浩哲
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JNA1319a1		

授業概要・目的	自然は法則に従って動いている。物理学は自然の法則を理解する学問であり、人間社会の法学に対して、自然界の「法」学ともいえる。この授業では、物理学をこれまで学んでこなかった人向けに、数式の利用を最小限にして、物理学がこの世界(空間、時間、物質、エネルギー)をどのようにとらえているかということについて概観する。さらに、身近な現象を題材に、その現象を生じさせる原理や物理法則について述べる。
到達目標	この授業を通じて学生には、自然現象やこれに基づく科学技術に関する基礎知識が身につき、さらに、新しい情報に対して自らが知的好奇心をもって活用できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	授業では毎回テーマを選び、その関連分野も含め広く解説をおこない、学生に物理学の知識と考え方を身につけてもらう。
科目学習の効果（資格）	法曹界や法務の分野においても、特許、医療、環境分野をはじめ、自然現象やこれに基づく科学技術に関する知識が必要とされることがある。この授業で科学技術のうち物理分野の基礎知識が得られる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	物理学における表現方法	時間、空間、速度、加速度、単位、次元について理解する。	予習・復習レポートの作成(1時間)
2	私たちが見ているものは過去	相対速度、波の干渉、マイケルソン・モーリーの実験、光速一定の原理、特殊相対性理論、ローレンツ収縮、双子のパラドックス、重力波について理解する。	予習・復習レポートの作成(1時間)
3	私たちの生きるこの世界はいかに作られたか	光の色と振動数・波長、ドプラー効果、銀河、ハッブル・ルメートルの法則、ビッグバン、宇宙背景放射について理解する。	予習・復習レポートの作成(1時間)
4	私たちの体は星くずでできている	元素周期表、恒星、太陽、超新星爆発、ブラックホール、元素生成、核分裂、核融合、質量とエネルギーの等価性、放射線について理解する。	予習・復習レポートの作成(1時間)
5	私たちだけが特別ではない	太陽系、準惑星、天動説と地動説、ケプラーの法則、系外惑星、ハビタブルゾーンについて理解する。	予習・復習レポートの作成(1時間)
6	月とりんごは同じ法則で運動する	ニュートンの運動の三法則、万有引力の法則、重力、キャベンディッシュの実験、等加速度運動について理解する。	予習・復習レポートの作成(1時間)
7	変化しても変わらないもの	仕事、エネルギー、運動量保存の法則、エネルギー保存の法則について理解する。	予習・復習レポートの作成(1時間)
8	ぶらんこをこぐには	単振動、振り子の等時性、固有振動、共鳴・共振について理解する。	予習・復習レポートの作成(1時間)
9	空も飛べるはず	圧力、浮力、アルキメデスの原理、パスカルの原理、大気圧、ベルヌーイの定理、揚力、カルマン渦、ハニカム構造、炭素繊維について理解する。	予習・復習レポートの作成(1時間)
10	電気を作るには	右ねじの法則、フレミングの左手の法則、モーター、レンツの法則、ファラデーの電磁誘導の法則、太陽電池、直流と交流について理解する。	予習・復習レポートの作成(1時間)
11	光と色の世界	三原色、虹、偏光、液晶、電磁波、光の粒子性と波動性、光電効果、プランク定数について理解する。	予習・復習レポートの作成(1時間)
12	電子の発見からエレクトロニクスへ	陰極線、トムソンの実験、ミリカンの実験、ラザフォードの実験、二重スリット実験、不確定性原理、シュレディンガーの猫、トランジスタについて理解する。	予習・復習レポートの作成(1時間)
13	熱と時間の矢	ボイル・シャルルの法則、アボガドロ定数、絶対温度、ボルツマン定数、超伝導、熱力学第二法則、エントロピー、マクスウェルの悪魔について理解する。	予習・復習レポートの作成(1時間)
14	未来は決まっているのか	気候変動予測、複雑系、カオス、バタフライ効果、ブラウン運動、ランダムウォーク、経済物理、スーパーコンピュータについて理解する。	予習・復習レポートの作成(1時間)
15	科学技術関連法と科学技術政策	科学技術・イノベーション基本法、科学技術政策、宇宙基本法、宇宙政策について理解する。	復習レポートの作成(1時間)

関連科目　教養数学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プリントを配布		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	数式なしでわかる物理学入門	桜井邦朋	祥伝社

	2	人物で語る物理入門（上、下）	米沢富美子	岩波新書
	3			

評価方法 （基準）	毎回の予習レポート合計 50%、毎回の復習レポート合計 50%の割合で評価する。 レポートの書き方は授業において指示する。
学生への メッセージ	現代の科学技術文明は、身の回りの自然を理解することで生み出されてきました。一方、2011 年の福島第一原子力発電所の事故の後、科学のことは専門家に任せておけば大丈夫という安心感は揺らいでいます。科学は信じるものではなく、理解するものとして取り組んでください。また、レポートを仕上げる中で、理解できなかった点を洗い出し、遠慮なく質問をしたうえで、さらなる知識を積み上げてください。
担当者の 研究室等	８号館２階　物理準備室
備考	

科目名	教養化学	科目名（英文）	Chemistry
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	竹内　健治
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JNA1320a1		

授業概要・目的	化学はこの世界に存在するさまざまな物質を理解する科学です。はじめて化学を学ぶ人に対して、それぞれの物質がどのようにしてつくられ、どのような性質を示すのかなど、基本的な原理をできるだけ理論的にやさしく解説する。
到達目標	この授業を通じて学生には、身の回りの物質を新しい視点でとらえ、化学の考え方の本質を知ることができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	遠隔授業 Teams/Moodle（教材・課題提供型授業）にて実施する。授業日に確認テストを開示します。授業日の２３時５９分までに解答し送信してください。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	原子	この世界をかたちづくっている材料は原子です。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（２時間）
2	元素と周期表	元素を整理して理解する。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（２時間）
3	原子と原子のつながり	原子と原子のつながり方は、いくつかある。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（２時間）
4	モルと化学反応式	化学反応を正しい化学反応式で記述する。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（２時間）
5	濃度の表しかた	粉末試薬を水に溶かして目的濃度の水溶液を調整する。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（２時間）
6	酸化と還元	酸化と還元を定義する。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（２時間）
7	物質の性質と状態	気体、液体、個体における分子の状態の違い。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（２時間）
8	気体の性質	気体における温度、圧力、体積の関係。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（２時間）
9	化学反応と熱エネルギー	熱化学方程式を用いた化学反応と反応熱の関係。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（２時間）
10	化学反応と化学平衡	化学反応はどのようなしくみで進むのか。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（２時間）
11	水と溶液	「溶ける」とはどのような現象なのか。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（２時間）
12	透析と浸透圧	浸透、透析、浸透圧について。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（２時間）
13	酸および塩基とｐH①	酸と塩基を定義する。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（２時間）
14	酸および塩基とｐH②	中和、中和滴定、緩衝作用につて。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（２時間）
15	放射線と放射能	放射線、放射能、ラジオアイソトープとは何か。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（２時間）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	はじめて学ぶ化学	野島高彦	化学同人
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト（４０％）、定期試験（６０％）により評価する。
学生へのメッセージ	質問は適宜受け付ける。Teams の質問用チャンネルを利用してください。
担当者の研究室等	枚方学舎１号館５階生物系薬学分野生化学
備考	

科目名	教養生物	科目名（英文）	Biology
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大塚　正人
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JNA1321a1		

授業概要・目的	基礎となる生物そのものの理解を目指す。高校で生物を学んで来なかった学生も含めて、細胞、代謝、進化、系統、生態系等に関する基本的な知識を習得し、公務員試験の生物の範囲に対し、対応可能な生物学に関する基礎知識を得る。 国連の持続可能な開発目標 SDGs の６に対応する。
到達目標	１．現代生物学における各分野の対象と目的に至るアプローチの方法を理解する。 ２．生物とは何か、生きているということはどういうことなのかについて科学的に説明できる。
授業方法と留意点	講義の主役は受講者である。教員は、受講者の学びを補助するファシリテーター役に徹する（質問には答えます）。 とにかく Moodle、Teams を多用する。スマホもしくはタブレットが必須の講義である。スマホを充電してから講義に臨むこと。スマホの通信制限や充電不足による講義への不参加は本人に原因があるものとして処理する。
科目学習の効果（資格）	公務員試験の生物の範囲に対し、対応可能な基礎知識を得る。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに 他の科目にも使える！生物学の勉強の仕方 教科書を素早く読んでキチンと自分の知識にする方法 食べることと生きることとは？	授業ガイダンス・生物学の勉強の仕方、生物の階層性・食べることと生きること・必要な栄養素・食べ物の運命とエネルギーの関係について、Moodle に掲載の講義資料を視聴・通読する。	講義前に教科書 12 ページからの「はじめに」の節を最期まで読んでおくこと。予習時間 0.5 時間。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニッツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、Moodle に配信されるビデオ教材を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。復習時間 1 時間。
2	ヒトのカラダとエネルギーの関係 ヒトはなぜ１日３度の食事をするのか？	３度の食事とエネルギーの関係や、エネルギー通貨である ATP について、Moodle に掲載の講義資料を視聴・通読する。	講義前に教科書 16 ページからの第１章を最期まで読んでおくこと。予習時間 0.5 時間。 予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニッツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、Moodle に配信されるビデオ教材を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。復習時間 1 時間。
3	糖の種類と性質 甘いのに太らない？人工甘味料と砂糖の違い	身近な糖分・糖質・炭水化物、糖の種類、構造と性質、エネルギーになる単糖類などについて、Moodle に掲載の講義資料を視聴・通読する。	講義前に教科書 28 ページからの第２章を最期まで読んでおくこと。予習時間 0.5 時間。 予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニッツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、Moodle に配信されるビデオ教材を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。復習時間 1 時間。
4	糖からエネルギーを得るしくみ 持久系とパワー系はこれほど違う	運動の種類とエネルギーの消費、解糖系の概要、ＴＣＡ回路、電子伝達系、ATP の生成などについて、Moodle に掲載の講義資料を視聴・通読する。	講義前に教科書 40 ページからの第 3 章を最期まで読んでおくこと。予習時間 0.5 時間。 予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニッツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、Moodle に配信されるビデオ教材を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。復習時間 1 時間。
5	脂質の構造と性質 身体に良い「あぶら」と悪い「あぶら」は何が違うの？	脂質とは、脂肪酸の種類と性質、からだの中での脂肪酸の働き、トリグリセリド以外の脂質、コレステロールの合成と体内での働きなどについて Moodle に掲載の講義資料を視聴・通読する。	講義前に教科書 56 ページからの第 4 章を最期まで読んでおくこと。予習時間 0.5 時間。 予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニッツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、Moodle に配信されるビデオ教材を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。復習時間 1 時間。
6	脂質の輸送と代謝 甘いものを食べるとなぜ太る？	体内をめぐる脂質、脂質の輸送、脂肪酸からエネルギーを取り出す、脂肪酸の合成などについて、Moodle に掲載の講義資料を視聴・通読する。	講義前に教科書 70 ページからの第 5 章を最期まで読んでおくこと。予習時間 0.5 時間。 予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニッツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、Moodle に配信されるビデオ教材を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。復習時間 1 時間。
7	ビタミンとミネラルの働き サプリメントは体にいいの？	ビタミン発見の歴史、脂溶性ビタミンと水溶性ビタミン、体内でのビタミンの働き、ミネラルの働きなどについて、Moodle に掲載の講義資料を視聴・通読する。	講義前に教科書 84 ページからの第 6 章を最期まで読んでおくこと。予習時間 0.5 時間。 予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニッツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、Moodle に配信されるビデオ教材を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。

			復習時間 1 時間。
8	第Ⅱ部 生命体をつくる情報と構造 細胞の構造と機能 昆布のダシは海の中で出ないの？	細胞の発見、構造、細胞内小器官、原核細胞と真核細胞、細胞周期などについて、Moodle に掲載の講義資料を視聴・通読する。	講義前に教科書 98 ページからのはじめにと教科書 100 ページからの第 7 章を最期まで読んでおくこと。予習時間 0.5 時間。 予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニッツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、Moodle に配信されるビデオ教材を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。復習時間 1 時間。
9	DNA の構造と働き DNA、遺伝子、染色体はどう違うの？	遺伝物質の正体、DNA の二重らせん構造、DNA の複製と維持、DNA の塩基配列からアミノ酸配列へなどについて、Moodle に掲載の講義資料を視聴・通読する。	講義前に教科書 112 ページからの第 8 章を最期まで読んでおくこと。予習時間 0.5 時間。 予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニッツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、Moodle に配信されるビデオ教材を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。復習時間 1 時間。
10	DNA からタンパク質へ DNA は細胞の設計図ってどういう意味？	遺伝子のスイッチを制御する仕組み、RNA ポリメラーゼ、RNA の修飾、リボゾームによるタンパク質の合成などについて、Moodle に掲載の講義資料を視聴・通読する。	講義前に教科書 125 ページからの第 9 章を最期まで読んでおくこと。予習時間 0.5 時間。 予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニッツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、Moodle に配信されるビデオ教材を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。復習時間 1 時間。
11	タンパク質のはたらき プロテインを飲むと筋肉が増える？	タンパク質は生まれた後目的の場所まで運ばれる、タンパク質は化学反応を触媒する、細胞内外のシグナルや物質を輸送するタンパク質たちなどについて、Moodle に掲載の講義資料を視聴・通読する。	講義前に教科書 138 ページからの第１０章を最期まで読んでおくこと。予習時間 0.5 時間。 予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニッツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、Moodle に配信されるビデオ教材を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。復習時間 1 時間。
12	細胞内外の情報伝達 細胞はどうやってコミュニケーションしている？	細胞同士のコミュニケーション、細胞外の情報を細胞内に伝える仕組み、タンパク質のリン酸化が伝える細胞内のシグナル、細胞膜の電位変化によるシグナル伝達などについて、Moodle に掲載の講義資料を視聴・通読する。	講義前に教科書 150 ページからの第１１章を最期まで読んでおくこと。予習時間 0.5 時間。 予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニッツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、Moodle に配信されるビデオ教材を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。復習時間 1 時間。
13	細胞分裂の仕組みと制御 私たちの体の細胞は分裂し続けているの？	体細胞分裂と減数分裂、染色体の数と形、体細胞分裂における染色体の構造変化と分配機構、配偶子形成における減数分裂などについて、Moodle に掲載の講義資料を視聴・通読する。	講義前に教科書 163 ページからの第１２章を最期まで読んでおくこと。予習時間 0.5 時間。 予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニッツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、Moodle に配信されるビデオ教材を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。復習時間 1 時間。
14	発生と分化 1つの細胞から体ができあがる仕組み	受精卵から体ができあがる過程、細胞の運命はいつ決まるのか、発生後期における分化と器官形成、遺伝子による細胞の運命決定などについて、Moodle に掲載の講義資料を視聴・通読する。	講義前に教科書 176 ページからのはじめにと教科書 178 ページからの第１３ 章を最期まで読んでおくこと。予習時間 0.5 時間。 予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニッツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、Moodle に配信されるビデオ教材を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。復習時間 1 時間。
15	細胞のストレス応答機構 細胞もストレスを感じる？	細胞にとってストレスとは、DNA の損傷はがんを引き起こす、活性酸素による損傷、DNA のキズを修復する仕組みなどについて、Moodle に掲載の講義資料を視聴・通読する。	講義前に教科書 191 ページからの第 14 章を最期まで読んでおくこと。予習時間 0.5 時間。 予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニッツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、Moodle に配信されるビデオ教材を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。復習時間 1 時間。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学で学ぶ身近な生物学	吉村成弘	羊土社
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	やさしい基礎生物学	南雲　保	羊土社
2			
3			

評価方法 （基準）	毎回の小テスト（50%）および、レポート、小論文、などの課題（50%）の総合点で評価する。 Moodle を多用します。スマホもしくはタブレット必須の講義です。スマホを充電してから講義に臨んで下さい。
学生への メッセージ	講義前の予習と講義後の復習は不可欠です。必ず教科書を読んでから、講義に参加してください。 本講義では、生物がどのようなしくみで動いているのか、最新のトピックスなども織り交ぜ、その謎を分子レベルで分り易く説明します。 予習・復習を忘れずに、興味を持ってしっかりと理解するように努めて下さい。
担当者の 研究室等	枚方学舎・薬学部１号館５階生化学研究室　otsuka@pharm.setsunan.ac.jp
備考	不明な点は質問してください。メールで受け付けます。　otsuka@pharm.setsunan.ac.jp

科目名	自然地理学	科目名（英文）	Physical Geography
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	笠原　俊則
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JNA1322a1		

授業概要・目的	自然環境が人類の活動にどのような影響を与えてきたのか、またそれらを我々人類はどのように改良し、居住地域の拡大に努めてきたのかを自然地理学的視点から理解することを目的としている。その際、我々人類の生活の舞台である地表について、地形･気候･土壌・植生・水文環境など、自然地理学に関する基礎的知識を習得できるように説明していきたい。
到達目標	地理学は人間に関わる学問である。学生諸君には、我々人類は環境改変者であり、自分自身もその一員であるという自覚を持ってもらえたら、講義の目的の半分は達成されたものといえる。さらに、この講義を通じて、地理学の入門的知識を身につけ、常に環境に配慮した行動を取ることができるようになってくれることを期待している。
授業方法と留意点	講義形式で授業を実施する。パワーポイントファイルを見ながら説明していく予定であるが、講義で使うパワーポイントファイル（声無し）とその中に掲載されている図・表・写真などを講義用資料として WebFolder に前もってあげておくので、各自ダウンロードして講義の予習・復習を行って欲しい。すでに２回のレポートを課しているが、あと１回レポートを課すので、これまで通り必ず WebFolder の所定のフォルダーに提出すること。
科目学習の効果（資格）	人間活動が、我々を取り巻く環境にいかなる影響を与えているかを、身近に感じることができるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	地理学と環境	・人類による環境への働きかけの歴史（過去から現在まで）	指定テキストに目を通しておいて下さい。
2	様々な地形と生活－その１－	・扇状地・氾濫原・三角州の地形と土地利用	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
3	様々な地形と生活－その2－	・台地･段丘の地形と生活	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
4	世界の気候	・気候因子と気候要素 ・世界に見られる様々な気候	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
5	日本の気候	・日本の気候的特色	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
6	世界の植生と土壌	・世界の気候との関連からみた植生および土壌	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
7	都市気候	・都市気候とは ・都市気候の具体的な例	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
8	都市化の進展と水文環境の変化	・都市化が進展することによって水の環境がどのように変化するか	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。それとともに、テキストの第３章を読んでおいて下さい。
9	都市化にともなう水災害の変化	・都市化にともなう流出変化の実例とその影響 ・都市の水害と下水道整備	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
10	都市化と中小河川の治水	・都市的治水様式と農業的治水様式	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
11	水資源と農業	・稲作と水資源との関係	前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
12	離島における地下ダムの建設	・宮古島ではなぜ地下ダムが建設されたのか	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
13	ダム上流における自然環境の変化	・ダム堆砂 ・ダム上流における河床上昇とその影響	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。それとともに、テキスト第４章を読んでおいて下さい。
14	ダム下流における自然環境の変化	・ダム下流における河床の低下とその影響 ・日本における海岸浸食の状況 ・ダム下流における流況の変化	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。それとともに、テキスト第４章を読んでおいて下さい。
15	干拓地の自然的特性	・干拓地の地形と水文環境	前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。それとともに、テキストの第３章を読んでおいて下さい。

関連科目：人文地理学、環境関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	人間活動と環境変化	吉越昭久編	古今書院
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験を実施しない代わりにレポート試験を実施する。配点は 60 点である。期限までに WebFolder の所定のフォルダーに提出すること。さらにレポート（すでに２回分回収済み）を３回課すことにする。第１回レポートは 20 点、第２回と第３回はそれぞれ 10 点ずつの配点で、合計 40 点である。なお、評価のポイントは自分なりの考えを持てるようになったかどうかである。レポートおよびレポート試験の問題は、WebFolder に掲載する。
学生へのメッセージ	地理学習には地図がつきものである。講義中に出てくる地名を地図帳で確認すれば、内容がより理解しやすくなるであろう。最近の高等学校教育では地理が選択になっているため、履修していない人もいると思われるが、もし高校時代に使用した地図帳があれば講義中に持参していただきたい。
担当者の研究室等	非常勤講師室　（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）

備考	講義やレポートに関する質問は、「連絡手段」に書かれたアドレス宛に連絡を下さい。

科目名	自然地理学	科目名（英文）	Physical Geography
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	笠原　俊則
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JNA1322a1		

授業概要・目的	自然環境が人類の活動にどのような影響を与えてきたのか、またそれらを我々人類はどのように改良し、居住地域の拡大に努めてきたのかを自然地理学的視点から理解することを目的としている。その際、我々人類の生活の舞台である地表について、地形･気候･土壌・植生・水文環境など、自然地理学に関する基礎的知識を習得できるように説明していきたい。
到達目標	地理学は人間に関わる学問である。学生諸君には、我々人類は環境改変者であり、自分自身もその一員であるという自覚を持ってもらえたら、講義の目的の半分は達成されたものといえる。さらに、この講義を通じて、地理学の入門的知識を身につけ、常に環境に配慮した行動を取ることができるようになってくれることを期待している。
授業方法と留意点	講義形式で授業を実施する。パワーポイントファイルを見ながら説明していく予定であるが、講義で使うパワーポイントファイル（声無し）とその中に掲載されている図・表・写真などを講義用資料として WebFolder に前もってあげておくので、各自でダウンロードして講義の予習・復習を行って欲しい。すでに２回のレポートを課しているが、あと１回レポートを課すので、これまで通り必ず WebFolder の所定のフォルダーに提出すること。
科目学習の効果（資格）	人間活動が、我々を取り巻く環境にいかなる影響を与えているかを、身近に感じることができるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	地理学と環境	・人類による環境への働きかけの歴史（過去から現在まで）	指定テキストに目を通しておいて下さい。
2	様々な地形と生活－その１－	・扇状地・氾濫原・三角州の地形と土地利用	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
3	様々な地形と生活－その2－	・台地･段丘の地形と生活	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
4	世界の気候	・気候因子と気候要素 ・世界に見られる様々な気候	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
5	日本の気候	・日本の気候的特色	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
6	世界の植生と土壌	・世界の気候との関連からみた植生および土壌	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
7	都市気候	・都市気候とは ・都市気候の具体的な例	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
8	都市化の進展と水文環境の変化	・都市化が進展することによって水の環境がどのように変化するか	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。それとともに、テキストの第３章を読んでおいて下さい。
9	都市化にともなう水災害の変化	・都市化にともなう流出変化の実例とその影響 ・都市の水害と下水道整備	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
10	都市化と中小河川の治水	・都市的治水様式と農業的治水様式	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
11	水資源と農業	・稲作と水資源との関係	前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
12	離島における地下ダムの建設	・宮古島ではなぜ地下ダムが建設されたのか	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
13	ダム上流における自然環境の変化	・ダム堆砂 ・ダム上流における河床上昇とその影響	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。それとともに、テキスト第４章を読んでおいて下さい。
14	ダム下流における自然環境の変化	・ダム下流における河床の低下とその影響 ・日本における海岸浸食の状況 ・ダム下流における流況の変化	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。それとともに、テキスト第４章を読んでおいて下さい。
15	干拓地の自然的特性	・干拓地の地形と水文環境	前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。それとともに、テキストの第３章を読んでおいて下さい。

関連科目：人文地理学、環境関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	人間活動と環境変化	吉越昭久編	古今書院
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験を実施しない代わりにレポート試験を実施する。配点は 60 点である。期限までに WebFolder の所定のフォルダーに提出すること。さらにレポート（すでに２回分は回収済み）を３回課すことにする。第１回レポートは 20 点、第２回と第３回はそれぞれ 10 点ずつの配点で、合計 40 点である。なお、評価のポイントは自分なりの考えを持てるようになったかどうかである。レポートおよびレポート試験の問題は、WebFolder に掲載する。
学生へのメッセージ	地理学習には地図がつきものである。講義中に出てくる地名を地図帳で確認すれば、内容がより理解しやすくなるであろう。最近の高等学校教育では地理が選択になっているため、履修していない人もいると思われるが、もし高校時代に使用した地図帳があれば講義中に持参していただきたい。
担当者の研究室等	非常勤講師室　（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）

備考	講義やレポートに関する質問は、「連絡手段」の項目に書かれたアドレス宛にメールを送って下さい。

科目名	スポーツプログラミング	科目名（英文）	Sports Programming
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岩瀬　雅紀
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH3362a1		

授業概要・目的	スポーツを実践するにあたり年齢や健康状態など様々な条件を有する対象者に対して安全かつ効果的な運動プログラムを提供することが必要とされる。本講義では，運動やスポーツとトレーニング効果を理解し，対象者に合わせた運動処方の理論と実際について学習する。
到達目標	対象者に合わせたスポーツ実践のためのプログラムの作成及び実践指導を習得する。
授業方法と留意点	PPT や作成プリントを用いた講義及び対象者に合わせたプログラムを作成する。
科目学習の効果（資格）	公認スポーツ指導者資格取得対応科目

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	本講義を受講する上での諸注意と講義展開 本講義の意図，目的，価値 自己認識	シラバスの参照
2	健康を目的としたフィットネスプログラム①	運動処方（種類）	講義ノートの確認
3	健康を目的としたフィットネスプログラム②	運動処方（強度）	講義ノートの確認
4	健康を目的としたフィットネスプログラム③	運動処方（時間・頻度）	講義ノートの確認
5	運動を目的としたフィットネスプログラム①	運動処方（種類）	講義ノートの確認
6	運動を目的としたフィットネスプログラム②	運動処方（強度）	講義ノートの確認
7	運動を目的としたフィットネスプログラム③	運動処方（時間・頻度）	講義ノートの確認
8	レポート課題 1	講義内容からレポート課題を 2 題出題（内容は当日発表）	講義ノートの確認
9	中高齢者のフィットネスプログラム①	レポートの返却及び解説 運動処方（種類）	講義ノートの確認
10	中高齢者のフィットネスプログラム②	運動処方（強度・時間・頻度）	講義ノートの確認
11	障がい者のフィットネスプログラム	運動処方（種類・強度・時間・頻度）	講義ノートの確認
12	競技者のフィットネスプログラム①	運動処方（種類強度・時間・頻度）	講義ノートの確認
13	競技者のフィットネスプログラム②	トレーニングの原理・原則	講義ノートの確認
14	レポート課題 2	講義内容からレポート課題を 2 題出題（内容は当日発表）	講義ノートの確認
15	まとめ	レポートの返却及び解説と本講義のまとめ 自己評価	講義ノートの確認

関連科目	発育発達論 ヘルスエクササイズの理論と実践

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	公認スポーツプログラマー専門科目テキスト		日本体育施設協会
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	受講態度及び意欲（常識・節度ある姿勢）(20%) 講義内提出課題（必要に応じて実施する）(20%) レポート課題（2 度実施する）(60%)
学生へのメッセージ	出席状況（毎回出席）を確認し原則として出席は 2/3 以上必要とする。 受講学生各位の積極的な学びを期待する。
担当者の研究室等	総合体育館 1 階　非常勤講師室
備考	講義内では担当者作成のプリントを適宜配布する。 事前・事後の学習時間として、全 15 回で 15 時間を目安としている。

科目名	スポーツ栄養学	科目名（英文）	Sports Nutrition
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	古野　幸子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH2358a1		

授業概要・目的	健康の保持・増進の観点からスポーツにおけるコンディショニングの土台となる栄養の知識について学び、スポーツに関連した食についての理解を深めていく。
到達目標	栄養学の基礎を学びながら、運動実践者のための栄養知識を習得していく。 競技種目や競技レベルに関わらず、スポーツを行うすべての人に対して栄養指導を行えるよう基礎的理解の習得を目標とする。
授業方法と留意点	オンライン授業
科目学習の効果（資格）	公認スポーツ指導者資格取得対応科目

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	スポーツ栄養学とは アスリートの栄養摂取の考え方	事前：栄養学の基礎について予習（30 分） 事後：復習（１時間）
2	基本の食事	スポーツにおける栄養の役割	事前：基本の食事について予習（30 分） 事後：復習（1 時間）
3	エネルギー代謝	エネルギー消費量と貯蔵エネルギー	事前：エネルギー消費量、貯蔵エネルギーについて予習（30 分） 事後：復習（1 時間）
4	５大栄養素（1）：糖質	糖質の役割と特徴	事前：糖質の役割について予習（30 分） 事後：復習（1 時間）
5	５大栄養素（2）：脂質	脂質の役割と特徴	事前：脂質の役割について予習（30 分） 事後：復習（1 時間）
6	５大栄養素（3）：たんぱく質	たんぱく質の役割と特徴	事前：たんぱく質の役割について予習（30 分） 事後：復習（1 時間）
7	５大栄養素（4）：ミネラル	ミネラルの役割と特徴	事前：ミネラルの役割について予習（30 分） 事後：復習（1 時間）
8	５大栄養素（5）：ビタミン	ビタミンの役割と特徴	事前：ビタミンの役割について予習（30 分） 事後：復習（1 時間）
9	水分補給	スポーツ時における水分補給の重要性と補給方法 熱中症：症状と対応	事前：水分補給、熱中症について予習（30 分） 事後：復習（1 時間）
10	サプリメント	サプリメント摂取に関する注意点 ドーピングの基礎知識	事前：サプリメントについて予習（30 分） 事後：復習（1 時間）
11	栄養・食事計画の立案（1）	スポーツ栄養学に基づいた体重管理の方法	事前：減量、増量について予習（30 分） 事後：復習（1 時間）
12	栄養・食事計画の立案（2）	スポーツ栄養学に基づいた試合前後の食事	事前：試合前後の食事方法について予習（30 分） 事後：復習（1 時間）
13	栄養・食事計画の立案（3）	スポーツ栄養学に基づいたトレーニング期の食事	事前：トレーニング期分けに基づいた摂取方法ついて予習（30 分） 事後：復習（1 時間）
14	栄養・食事計画の立案（4）	スポーツ栄養学に基づいたケガ期の食事	事前：傷害別摂取方法について予習（30 分） 事後：復習（1 時間）
15	まとめ	全体のまとめを行う	事前：これまでの内容を振り返る（1 時間） 事後：総括を行う（1 時間）

関連科目：スポーツ医学の理論と実際、スポーツ医学の基礎、スポーツ科学概論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新版　コンディショニングのスポーツ栄養学	樋口　満	市村出版
2	リファレンスブック		日本スポーツ協会
3			

評価方法（基準）	課題、レポート 100%
学生へのメッセージ	知識を実践に生かしてこそ栄養学は生きてきます。 健康増進やパフォーマンスの向上に役立てられるよう学んで行きましょう。
担当者の研究室等	総合体育館１階　非常勤講師室
備考	

科目名	応用情報処理	科目名（英文）	Advanced Information Processing
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	寺内　睦博
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JMA2341a1		

授業概要・目的	1年次に習ったスプレッドシートを中心に、データ処理や統計処理などの実用的な応用課題に取り組み、データ分析のレベルアップを図る。
到達目標	この演習を通じて学生には、1年次の情報処理の演習で培った技能や知識に加えて、ビジネス実務におけるデータ分析および統計処理の応用的活用手法を習得することが期待される。
授業方法と留意点	当面は遠隔授業の形式とする。遠隔で受講の場合には、自宅等で各自のパソコンを用いてオフィスアプリケーションを用いて課題を完成させ、大学のサーバに提出していただきます。なお進捗度合いに応じて，講義内容は適宜変更する場合があります。
科目学習の効果（資格）	Microsoft Office Expert（Excel）の基礎を学ぶことにより当該資格の取得をめざしましょう。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション：統計基礎	授業の進め方、評価方法、ミニ講義、基礎演習	課題を仕上げておくこと、次回の演習範囲の予習をしておくこと。(90分)
2	Excel によるデータ処理(1)	データの集計処理	課題を仕上げておくこと、次回の演習範囲の予習をしておくこと。(90分)
3	Excel によるデータ処理(2)	ピボットテーブルの利用 データの絞り込み ダイス分析 スライス分析 グループ化分析 ドリルダウン・ドリルアップ	課題を仕上げておくこと、次回の演習範囲の予習をしておくこと。(90分)
4	Excel によるデータ処理(3)	階層化による分析 構成比と ABC 分析 関数を使ったデータ処理	課題を仕上げておくこと、次回の演習範囲の予習をしておくこと。(90分)
5	Excel によるデータ処理(4)	応用データ処理	課題を仕上げておくこと、次回の演習範囲の予習をしておくこと。(90分)
6	振り返り（中間）	今までの学習内容を振り返り、各自の到達レベルを確認する	今までの内容を復習しておくこと(90分)
7	Excel による統計処理(1)	度数分布とヒストグラム	課題を仕上げておくこと、次回の演習範囲の予習をしておくこと。(90分)
8	Excel による統計処理(2)	記述統計と Excel 関数	課題を仕上げておくこと、次回の演習範囲の予習をしておくこと。(90分)
9	Excel による統計処理(3)	散布図・相関係数	課題を仕上げておくこと、次回の演習範囲の予習をしておくこと。(90分)
10	Excel による統計処理(4)	回帰分析	課題を仕上げておくこと、次回の演習範囲の予習をしておくこと。(90分)
11	Excel による統計処理(5)	確率分布	課題を仕上げておくこと、次回の演習範囲の予習をしておくこと。(90分)
12	Excel による統計処理(6)	平均値・分散の差の検定	課題を仕上げておくこと、次回の演習範囲の予習をしておくこと。(90分)
13	Excel による統計処理(7)	独立性・適合度の検定	課題を仕上げておくこと、次回の演習範囲の予習をしておくこと。(90分)
14	Excel による統計処理(8)	分散分析	課題を仕上げておくこと、次回の演習範囲の予習をしておくこと。(90分)
15	振り返りとまとめ	各自の到達レベルを確認するとともに授業の総括を行う	今までの内容を復習しておくこと(90分)

関連科目：情報処理 I，情報処理 II

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	できるやさしく学ぶ Excel 統計入門	羽山博	インプレス
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	毎回の課題（60%）、振り返りテスト（40%）を総合して評価する。この授業は演習中心であるため、課題提出が単位取得の必要条件である。
学生へのメッセージ	毎回の授業が前回までの授業内容の理解を前提として進められるので，毎回、課題を完了・提出が必要となることに留意すること。自宅等でパソコンや通信環境が確保できない場合には、早めに担当者に連絡して実施方法を相談すること。
担当者の研究室等	11号館10階（寺内研究室）
備考	前回の演習のポイントを次回の演習の冒頭に要約する。予習と復習を合わせて全期間で60時間の自習を必要とする。

科目名	スポーツ指導者入門	科目名（英文）	Sports Theory for Instructor
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	横山　喬之
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH1354a1		

授業概要・目的	スポーツ指導者とは、アスリートにとって多大な影響を与える存在である。指導者としての役割は、競技のコーチングだけにとどまらず、教育、人間形成など多岐にわたる能力を必要とする。また、昨今のスポーツ界で問題となっている体罰は、絶対に根絶するべき課題である。本科目では、スポーツ指導者として必要なスキルを身につけていくことと合わせて、指導者の倫理観とは何かを議論し、将来スポーツに関わるであろう履修学生が、良きスポーツ指導者になるための基礎を学習・理解できることを目標とする。 本科目担当者は、保健体育（高校）、柔道実技（大学）、柔道指導（国内外）の実務経験を有する。高校における実技・保健授業や課外活動などのスポーツ現場での指導経験を生かし、スポーツ指導者として必要な知識や指導法を提供する。
到達目標	スポーツ指導者としての基礎を学び、指導者としての心得を理解できる。 講義内での議論を通じ、コミュニケーション能力を高める。
授業方法と留意点	本科目は、「遠隔授業」として行う。使用する ICT ツールは、「Microsoft　Teams」とする。
科目学習の効果（資格）	スポーツ指導者の基礎的知識と指導法を学ぶ（公認スポーツ指導者資格取得対応科目）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	ガイダンス	事前：授業概要・目的を確認する（30 分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30 分）
2	スポーツとは コーチングとは	スポーツとは何かを学ぶ コーチングとは何かを学ぶ コーチングとティーチングの違いについて理解する	事前：スポーツ、コーチングについて予習しておく（30 分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30 分）
3	コーチに求められる役割(1)	スポーツ指導者について学ぶ スポーツ指導者としての心構えについて学ぶ	事前：スポーツ指導者とはどのようなものかを予習しておく（30 分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30 分）
4	コーチに求められる役割(2)	スポーツ指導者の果たすべき役割について学ぶ スポーツ現場の安全管理について学ぶ	事前：スポーツ指導者として行う内容とは何かを予習しておく（30 分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30 分）
5	コーチに求められる知識とスキル（1）	生理・体力学的基礎知識を学ぶ	事前：運動と筋肉の発達、体力について予習しておく（30 分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30 分）
6	コーチに求められる知識とスキル（2）	心理学的基礎知識を学ぶ	事前：パフォーマンスとメンタルの関係について予習しておく（30 分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30 分）
7	対他者力を磨こう	コミュニケーションスキルとは何かを学ぶ 議論を行いコミュニケーションスキルを高める	事前：コミュニケーションスキルについて予習しておく（30 分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30 分）
8	対自己力を磨こう	自分自身について理解する 自信とは何かを学ぶ	事前：自分自身はどのような人間かまとめておく（30 分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30 分）
9	スポーツ倫理について（1）	倫理観について学ぶ スポーツ倫理について学ぶ	事前：倫理とは何か予習しておく（30 分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30 分）
10	スポーツ倫理について（2）	体罰、暴力、ハラスメントとは何かについて学ぶ 実際の体罰などの社会問題について議論する	事前：過去の体罰問題について予習しておく（30 分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30 分）
11	スポーツ倫理について（3）	スポーツに内在するインテグリティについて学ぶ	事前：スポーツから得られるものとは何か予習しておく（30 分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30 分）
12	時代をリードするコーチング（1）	女性コーチについて学ぶ	事前：著名な女性コーチの種目と使命について予習しておく（30 分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30 分）
13	時代をリードするコーチング（2）	活躍しているコーチについて学ぶ	事前：日本で活躍しているコーチについて予習しておく（30 分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30 分）
14	ハイパフォーマンススポーツにおける今日的なコーチング	日本におけるハイパフォーマンススポーツについて学ぶ	事前:NTC という施設について予習しておく(30 分) 事後：内容についての振り返りをしておく（30 分）
15	スポーツ指導者入門総括	全体のまとめを行う	事前：これまでの内容を振り返る（30 分） 事後：総括を行う（30 分）

関連科目	スポーツ科学実習Ⅰa、Ⅰb・Ⅱa、Ⅱb、スポーツと健康、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、武道論、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	リファレンスブック		日本スポーツ協会
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3			

評価方法 （基準）	課題内容を評価対象とし、課題を１００％で評価する。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	総合体育館１階　横山講師室
備考	

科目名	スポーツトレーニングの基礎	科目名（英文）	Sports Training Theory
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	堀　美幸
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH1355a1		

授業概要・目的	スポーツトレーニングの原理・原則に基づいた、スポーツ指導におけるトレーニングメニューの作成や指導法について学ぶ。またスポーツと心の関係を学びながら、コーチングにおける心理的作用を理解し、スポーツトレーニング指導を実践する上での基礎を習得する。
到達目標	スポーツ指導に役立つトレーニングの基礎的知識についての身体的、心理的理解を深める。
授業方法と留意点	講義を中心に授業を行い、レジュメ、参考資料等は適宜配布します。 また各授業の終わりにクイズを実施します。
科目学習の効果（資格）	公認スポーツ指導者資格取得対応科目

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	体力とは①	運動と健康、防衛体力と行動体力	授業で学んだことをもとに、精神と体力について考えをまとめておく
2	体力とは②	トレーナビリティー	スポーツパフォーマンスについて確認を行う
3	トレーニングの原理･原則①	スポーツトレーニングの３原理・５原則、特異性	課題①　スポーツと特異性 授業で学んだことをもとに、課題作成を行う
4	トレーニングの原理･原則②	筋機能と呼吸循環機能	トレーニングと身体機能の関係について確認をしておく
5	トレーニング処方	トレーニング計画 ウォーミングアップ、クーリングダウンの必要性	課題②　年間トレーニング計画 授業で学んだことをもとに、課題作成を行う
6	トレーニングの種類①	スポーツトレーニングの５つの内容	課題③　競技特性とトレーニング 授業で学んだことをもとに、課題作成を行う
7	トレーニングの種類②	体力トレーニングと技術トレーニング	テスト①
8	スポーツと心①	メンタルヘルス	こころとからだの関係について確認を行う
9	スポーツと心②	スポーツと心	コーチングとこころの関係について確認を行
10	スポーツにおける動機づけ①	スポーツにおける動機づけとは	課題④　動機づけと運動意欲 授業で学んだことをもとに、課題作成を行う
11	スポーツにおける動機づけ②	スポーツにおける目標設定	目標達成シートの作成手順の確認を行う
12	コーチングの心理①	スポーツ技能の習得	課題⑤　技能の習得に必要な要因 授業で学んだことをもとに、課題作成を行う
13	コーチングの心理②	メンタルトレーニング	メンタルトレーニングの方法について確認を行う
14	コーチングの心理③	グループダイナミクスとチームビルディング	リーダシップとは何かを自身の言葉で説明できるようにする
15	コーチングの心理④	コーチング評価	テスト②

関連科目	スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	リファレンスブック		日本スポーツ協会
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	単位取得条件は、知的理解度、提出課題などを総合的に判断し、１００点中６０点で合格とする。 課題・提出物　５０％、テスト　３０％、クイズ　２０％により評価を行う。
学生へのメッセージ	身体を動かすだけではなく、科学的に運動を考えていきましょう。さまざまな運動や競技についての理解を深め、広い視野で運動を楽しめるように学んでいきましょう。
担当者の研究室等	総合体育館１階　非常勤講師室
備考	事前・事後学習に必要な時間については、６０時間を目安とします。

科目名	発育発達論	科目名（英文）	Growth and Development Theory
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岩瀬　雅紀
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH2356a1		

授業概要・目的	身体の発育と機能の発達を理解し年齢や性別など対象に合わせた指導を行うことは大切である。具体的には発育発達期の身体的・心理的特徴を理解し，それぞれのライフステージに応じた発育発達に及ぼす運動の影響や心理的特性について学習する。
到達目標	発育発達期のスポーツ指導に役立つ基礎的知識を習得する。
授業方法と留意点	PPT や作成プリントを用いた講義及び発育発達期に合わせた運動処方を理解する。
科目学習の効果（資格）	公認スポーツ指導者資格取得対応科目

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	本講義を受講する上での諸注意と講義展開 本講義の意図，目的，価値 自己認識	シラバスの参照
2	発育発達期における身体的特徴	筋力・持久力の発達 疾走能力・跳躍能力・投能力の発達、性別の考慮	講義ノートの確認
3	発育発達期における心理的特徴	知的発達 認知発達	講義ノートの確認
4	発育発達期における怪我	スポーツ外傷 スポーツ障害	講義ノートの確認
5	発育発達期における病気	ストレス 気分転換 プレッシャー	講義ノートの確認
6	発育発達期のプログラム①	運動処方（種類） 有酸素運動・無酸素運動	講義ノートの確認
7	発育発達期のプログラム②	運動処方（強度・時間・頻度）	講義ノートの確認
8	レポート課題 1	講義内容からレポート課題を 2 題出題（内容は当日発表）	講義ノートの確認
9	障害者とスポーツ	レポートの返却及び解説 障害者の身体的及び心理的特徴	講義ノートの確認
10	高齢者とスポーツ	高齢者の身体的及び心理的特徴	講義ノートの確認
11	競技者とスポーツ	競技者の身体的及び心理的特徴	講義ノートの確認
12	発育発達期のプログラム③	中高年者の運動処方（種類・強度・時間・頻度）	講義ノートの確認
13	発育発達期のプログラム④	競技者の運動処方（種類・強度・時間・頻度）	講義ノートの確認
14	レポート課題 2	講義内容からレポート課題を 2 題出題（内容は当日発表）	講義ノートの確認
15	まとめ	レポートの返却及び解説と本講義のまとめ 自己評価	講義ノートの確認

関連科目：スポーツ科学概論、スポーツ指導者入門、スポーツプログラミング、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツトレーニングの基礎、スポーツ医学の基礎、スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	リファレンスブック		日本スポーツ協会
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	受講態度及び意欲（常識・節度ある姿勢）(20%) 講義内提出課題（必要に応じて実施する）(20%) レポート課題（2 度実施する）(60%)
学生へのメッセージ	出席状況（毎回出席）を確認）し原則として出席は 2/3 以上必要とする。 受講学生各位の積極的な学びを期待する。
担当者の研究室等	総合体育館 1 階　非常勤講師室
備考	講義内では担当者作成のプリントを適宜配布する。 事前・事後の学習時間として、全 15 回で 15 時間を目安としている。

科目名	スポーツ医学の基礎	科目名（英文）	Fundamental Knowledge of Sports Medicine
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岡﨑　和伸
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH2359a1		

授業概要・目的	スポーツ・運動と健康の関わり、および、スポーツ・運動による身体の変化と疾病への影響について、さらに、スポーツ外傷・障害の概要とその対応について述べ、予防医学としてのスポーツ医学の意義についても言及する。
到達目標	スポーツ・運動と健康の関わり、および、スポーツ・運動による身体の変化と疾病への影響について説明できること、さらに、スポーツ外傷・障害の概要とその対応について説明できることを目標とする。また、自身とその周りの人々について、運動を通した健康づくりが実践できるようにする。
授業方法と留意点	講義形式で授業を進める。なお、資料配布やＶＴＲなどを用い、教育効果を上げる。
科目学習の効果（資格）	スポーツ医学の基礎的知識とスポーツ傷害（内科的・外科的）についての理解と対処法について学ぶ。（公認スポーツ指導者資格取得対応科目）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	スポーツと健康（1）	スポーツ活動と健康の関わり	テキストP.54-63 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと(約1.5時間)
2	スポーツと健康（2）	身体活動（スポーツ活動や運動）の必要性	テキストP.64-75 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと(約1.5時間)
3	スポーツ傷害（1）	スポーツ外傷・障害	テキストP.76-82 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと(約1.5時間)
4	スポーツ傷害（2）	スポーツ外傷・障害の要因	テキストP.83-87 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと(約1.5時間)
5	救急処置（1）	手当ての基本（観察）	テキストP.88-88 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと(約1.5時間)
6	救急処置（2）	救命手当て（心肺蘇生法）	テキストP.89-95 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと(約1.5時間)
7	救急処置（3）	ＡＥＤを用いた心肺蘇生法	テキストP.96-97 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと(約1.5時間)
8	救急処置（4）	応急手当（きずと止血、包帯法、骨折固定）	テキストP.102 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと(約1.5時間)
9	救急処置（5）	ＲＩＣＥ処置	テキストP.98-101 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと(約1.5時間)
10	スポーツと水分補給	水分補給と熱中症	テキストP.111-112 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと(約1.5時間)
11	スポーツと水分補給	水分補給と熱中症	テキストP.112 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと(約1.5時間)
12	スポーツと栄養（1）	五大栄養素の役割	テキストP.104-108 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと(約1.5時間)
13	スポーツと栄養（2）	栄養とトレーニング，コンディショニング	テキストP.109-112 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと(約1.5時間)
14	ドーピング	ドーピングの定義，概要	資料 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと(約1.5時間)
15	まとめ	授業の全体のまとめ	資料 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと(約1.5時間)

関連科目：スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	リファレンスブック		日本スポーツ協会
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）：授業中に実施する課題の提出状況およびその内容によって評価する。

学生への メッセージ	運動・スポーツと健康に関する身近な話題から、競技力向上のための最新スポーツ科学に関する授業です。毎回、簡単な実習、測定、調査などを行いながら、主体的な学習を通して理解を深めていきます。
担当者の 研究室等	総合体育館１階　非常勤講師室
備考	授業時間外連絡先：xokazakk@edu.setsunan.ac.jp

科目名	スポーツ教育学	科目名（英文）	Sports Education
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	近藤　潤
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH3361a1		

授業概要・目的	スポーツはさまざまな教育効果をもたらすが、その反面、体罰の問題など社会問題も多数発生している。またスポーツプレーヤーの言動や行動がインターネットやメディアに大きく取り上げられられることも多い。本講義では、スポーツがもたらす様々な教育効果や情報が社会に与える功罪について考え、社会人として必要な基礎知識を学習することを目的とする。 担当者は大阪府立高等学校学校運営協議会の委員や交野市との地域連携講座の講師などを務め、教育にかかわる諸問題に取り組むことによってこの授業での内容をより深めることができる。
到達目標	この授業を通じて学生には、①スポーツに関わる道徳問題を理解し、②スポーツがもたらす教育効果を理解できるようになることを期待する。
授業方法と留意点	授業は online の講義形式で行います。各自チームコードを読み込み Teams に入ってください。 資料配布はオンラインで行います。 ネット環境などの状況に応じて配信型に変更する場合があります。
科目学習の効果（資格）	スポーツの社会における功罪を知り、社会人としての基礎知識を習得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	基礎教育（1）	スポーツ教育学とは何か考える。 スポーツに期待される人間形成について学ぶ。	新聞記事の社会欄、スポーツ欄を読む。（１時間）
2	基礎教育（2）	自己アピール プロファイル	自己紹介文を作成する。（１時間）
3	スポーツと人格（１）	スポーツ選手に求められる人格	配布プリントの読み返し（１時間）
4	スポーツと人格（２）	スポーツ選手と犯罪について考える。	配布プリントの読み返し（１時間）
5	スポーツと教育（３）	スポーツ選手のセカンドキャリアについて学ぶ。	配布プリントの読み返し（１時間）
6	スポーツと教育（４）	プロスポーツとアマチュアリズム	配布プリントの読み返し（１時間）
7	スポーツと教育（５）	薬物問題とドーピング	配布プリントの読み返し（１時間）
8	スポーツと学校教育（１）	体罰問題①	配布プリントの読み返し（１時間）
9	スポーツと学校教育（２）	体罰問題②	配布プリントの読み返し（１時間）
10	スポーツと学校教育（３）	スポーツ特待生について	配布プリントの読み返し（１時間）
11	スポーツの功罪（１）	ジュニア期のスポーツ	配布プリントの読み返し（１時間）
12	スポーツの功罪（２）	燃え尽き症候群について考える。	配布プリントの読み返し（１時間）
13	障がい者とスポーツ（１）	パラリンピック	配布プリントの読み返し（１時間）
14	障がい者とスポーツ（２）	レクリエーションからチャンピオンスポーツへ	配布プリントの読み返し（１時間）
15	障がい者とスポーツ（３）	障がい者スポーツの問題点	配布プリントの読み返し（１時間）

関連科目	スポーツ科学実習Ⅰa、Ⅰb、 Ⅱa 、Ⅱb、スポーツ科学概論、スポーツ文化論、スポーツ指導者入門、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツトレーニングの基礎、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点と小テスト、課題レポートを総合して評価する。
学生へのメッセージ	学生諸君はこちらが与える教材だけでなくさまざまな資料を集め、より深い内容にしてください。
担当者の研究室等	総合体育館　近藤研究室
備考	

科目名	時事英語Ⅰ	科目名（英文）	Journal English Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	猪熊　慶祐
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	JEN2331c1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	(1) 実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 (2) 前期はCEFR-J [A1.2]、後期はCEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。なお、Wi-Fi 障害等、通信接続に問題が生じて出席できなかった場合は、課題等によって代替とする。 ＊初回は講師の都合上 Zoom で行う。リンクはウェブフォルダに格納済みなので受講者各自で確認すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Orientation, Questionnaire, Self-Introduction	授業の進め方や予習・復習の仕方、評価方法、英語共通課題などについて説明を行う。また、教科書の内容について導入を行う。	教科書の内容や構成を確認する。（１時間）
2	Unit 1　College Sports (1) アメリカの大学生とスポーツについてのエッセイの読解	350 語程度のエッセイを読み、その内容理解を確認するための練習問題を解く。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、分からない箇所が見つかれば、次回の授業で質問することができるように準備する。（１時間）
3	Unit 1　College Sports (2) アメリカの大学生とスポーツに関連した英作文と会話の聴解	エッセイの内容に関連した英文を完成させたり、TOEIC Part 6 形式の問題を解いたり、会話を聴いて、空欄補充や内容理解確認のための問題を解く。	Unit 1 後半の練習問題を、事前にできるだけ解いておく。事後には、教科書付随の CD を再度聴くなどして、復習する。（１時間）
4	Unit 2　Hip Hop Music (1) アメリカの若者とヒップホップ音楽についてのエッセイの読解	350 語程度のエッセイを読み、その内容理解を確認するための練習問題を解く。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、分からない箇所が見つかれば、次回の授業で質問することができるように準備する。（１時間）
5	Unit 2　Hip Hop Music (2) アメリカの若者とヒップホップ音楽に関連した英作文と会話の聴解	エッセイの内容に関連した英文を完成させたり、TOEIC Part 6 形式の問題を解いたり、会話を聴いて、空欄補充や内容理解確認のための問題を解く。	Unit 2 後半の練習問題を、事前にできるだけ解いておく。事後には、教科書付随の CD を再度聴くなどして、復習する。（１時間）
6	Unit 3 Travel (1) 旅行についてのエッセイの読解	350 語程度のエッセイを読み、その内容理解を確認するための練習問題を解く。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、分からない箇所が見つかれば、次回の授業で質問することができるように準備する。（１時間）
7	Unit 3 Travel (2) 旅行に関連した英作文と会話の聴解	エッセイの内容に関連した英文を完成させたり、TOEIC Part 6 形式の問題を解いたり、会話を聴いて、空欄補充や内容理解確認のための問題を解く。	Unit 3 後半の練習問題を、事前にできるだけ解いておく。事後には、教科書付随の CD を再度聴くなどして、復習する。（１時間）
8	Unit 4 Video Games (1) テレビゲームについてのエッセイの読解	350 語程度のエッセイを読み、その内容理解を確認するための練習問題を解く。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、分からない箇所が見つかれば、次回の授業で質問することができるように準備する。（１時間）
9	Unit 4 Video Games (2) テレビゲームに関連した英作文と会話の聴解	エッセイの内容に関連した英文を完成させたり、TOEIC Part 6 形式の問題を解いたり、会話を聴いて、空欄補充や内容理解確認のための問題を解く。	Unit 4 後半の練習問題を、事前にできるだけ解いておく。事後には、教科書付随の CD を再度聴くなどして、復習する。（１時間）
10	Unit 5 Recycling (1) リサイクルについてのエッセイの読解	350 語程度のエッセイを読み、その内容理解を確認するための練習問題を解く。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、分からない箇所が見つかれば、次回の授業で質問することができるように準備する。（１時間）
11	Unit 5　Recycling (2) リサイクルに関連した英作文と会話の聴解	エッセイの内容に関連した英文を完成させたり、TOEIC Part 6 形式の問題を解いたり、会話を聴いて、空欄補充や内容理解確認のための問題を解く。	Unit 5 後半の練習問題を、事前にできるだけ解いておく。事後には、教科書付随の CD を再度聴くなどして、復習する。（１時間）
12	Unit 6 Fast Food (1) ファーストフードについてのエッセイの読解	350 語程度のエッセイを読み、その内容理解を確認するための練習問題を解く。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、分からない箇所が見つかれば、次回の授業で質問することができるように準備する。（１時間）
13	Unit 6 Fast Food (2) ファーストフードに関連した英作文と会話の聴解	エッセイの内容に関連した英文を完成させたり、TOEIC Part 6 形式の問題を解いたり、会話を聴いて、空欄補充や内容理解確認のための問題を解く。	Unit 6 後半の練習問題を、事前にできるだけ解いておく。事後には、教科書付随の CD を再度聴くなどして、復習する。（１時間）
14	Unit 7 Extreme Weather (1) 異常気象についてのエッセイの読解	350 語程度のエッセイを読み、その内容理解を確認するための練習問題を解く。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、分からない箇所が見つかれば、次回の授業で質問することができるように準備する。(1 時間)
15	Unit 7 Extreme Weather (2) 異常気象に関連した英作文と会話の聴解	エッセイの内容に関連した英文を完成させたり、TOEIC Part 6 形式の問題を解いたり、会話を聴いて、空欄補充や内容理解確認のための問題を解く。	Unit 7 後半の練習問題を、事前にできるだけ解いておく。事後には、教科書付随の CD を再度聴くなどして、復習する。(1 時間)

関連科目	他の英語科目
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / English Indicator 3 / Cohen, Mihara 他 / 南雲堂 2 / The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test / 西谷恒志 / 成美堂 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
	2 / / /
	3 / / /
評価方法 （基準）	小テスト、まとめテスト等　　30% 授業への参加、貢献　７0%
学生への メッセージ	・授業中は、自主発表するなどの積極的な態度が評価されます。 ・折々、復習テストを行いますので、常に授業外の学習を行ってください。 ・授業内容は進度によって変更する場合があります。
担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	時事英語Ⅱ	科目名（英文）	Journal English II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	猪熊　慶祐
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	JEN2332c1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な 4 技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	(1) 実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 (2) 前期は CEFR-J [A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。テキストの他にニュース記事等にも触れる機会を設けるので、予習復習は欠かさず行ってください。 Teams によるリアルタイム授業を行うため、接続環境等、何らかの問題が生じ参加できない場合にはその旨を連絡後、代替の課題をもって出席とすることもあるので注意すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Unit 6 Fast Food (1) ファーストフードについてのエッセイの読解	350 語程度のエッセイを読み、その内容理解を確認するための問題を解く。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、分からない箇所が見つかれば、次回の授業で質問することができるように準備する。（１時間）
2	Unit 6 Fast Food (2) ファーストフードに関連した英作文と会話の聴解	エッセイの内容に関連した英文を完成させたり、TOEIC Part 6 形式の問題を解いたり、会話を聴いて、空欄補充や内容理解確認の問題を解く。	Unit ６後半の練習問題を、事前にできるだけ解いておく。事後には、教科書付随の CD を再度聴くなどして、学習内容を定着させるようにする。(1 時間)
3	Unit 7 Extreme Weather (1) 異常気象についてのエッセイの読解	350 語程度のエッセイを読み、その内容理解を確認するための問題を解く。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、分からない箇所が見つかれば、次回の授業で質問することができるように準備する。（１時間）
4	Unit 7 Extreme Weather (2) 異常気象に関連した英作文と会話の聴解	エッセイの内容に関連した英文を完成させたり、TOEIC Part 6 形式の問題を解いたり、会話を聴いて、空欄補充や内容理解確認の問題を解く。	Unit ７後半の練習問題を、事前にできるだけ解いておく。事後には、教科書付随の CD を再度聴くなどして、学習内容を定着させるようにする。(1 時間)
5	Unit８　Medical Tourism (1) 医療サービスを受けるための海外渡航についてのエッセイ読解	350 語程度のエッセイを読み、その内容理解を確認するための問題を解く。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、分からない箇所が見つかれば、次回の授業で質問することができるように準備する。（１時間）
6	Unit 8 Medical Tourism (2) 医療サービスを受けるための海外渡航に関連した英作文と会話聴解	エッセイの内容に関連した英文を完成させたり、TOEIC Part 6 形式の問題を解いたり、会話を聴いて、空欄補充や内容理解確認の問題を解く。	Unit 8 後半の練習問題を、事前にできるだけ解いておく。事後には、教科書付随の CD を再度聴くなどして、学習内容を定着させるようにする。(1 時間)
7	Unit 9 Advertising (1) 宣伝広告についてのエッセイ読解	350 語程度のエッセイを読み、その内容理解を確認するための問題を解く。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、分からない箇所が見つかれば、次回の授業で質問することができるように準備するあ（１時間）
8	Unit 9 Advertising (2) 宣伝広告に関連した英作文と会話聴解	エッセイの内容に関連した英文を完成させたり、TOEIC Part 6 形式の問題を解いたり、会話を聴いて、空欄補充や内容理解確認の問題を解く。	Unit 9 後半の練習問題を、事前にできるだけ解いておく。事後には、教科書付随の CD を再度聴くなどして、学習内容を定着させるようにする。(1 時間)
9	Unit 10 Business Travel (1) 出張についてのエッセイ読解	350 語程度のエッセイを読み、その内容理解を確認するための問題を解く。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、分からない箇所が見つかれば、次回の授業で質問することができるように準備する。(1 時間)
10	Unit 10 Business Travel (2) 出張に関連した英作文と会話聴解	エッセイの内容に関連した英文を完成させたり、TOEIC Part 6 形式の問題を解いたり、会話を聴いて、空欄補充や内容理解確認の問題を解く。	Unit 10 後半の練習問題を、事前にできるだけ解いておく。事後には、教科書付随の CD を再度聴くなどして、学習内容を定着させる。(1 時間)
11	Unit 11 E-commerce (1) インターネットによる商取引についてのエッセイ読解	350 語程度のエッセイを読み、その内容理解を確認するための問題を解く。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、次回の 授業で質問することができるように準備する。(1 時間)
12	Unit 11 E-commerce (2) インターネットによる商取引に関連した英作文と会話聴解	エッセイの内容に関連した英文を完成させたり、TOEIC Part 6 形式の問題を解いたり、会話を聴いて、空欄補充や内容理解確認の問題を解く。	Unit 11 後半の練習問題を、事前にできるだけ解いておく。事後には、教科書付随の CD を再度聴くなどして、学習内容を定着させるようにする。(1 時間)
13	Unit 12 Coffee Shop (1) 世界にチェーン店をもつスターバックスについてのエッセイ読解	350 語程度のエッセイを読み、その内容理解を確認するための問題を解く。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、分からない箇所が見つかれば、次回の授業で質問することができるように準備する。（１時間）
14	Unit 12 Coffee Shop (2) コーヒーチェーン店に関連する英作文と会話聴解	エッセイの内容に関連した英文を完成させたり、TOEIC Part 6 形式の問題を解いたり、会話を聴いて、空欄補充や内容理解確認の問題を解く。	Unit 12 後半の練習問題を、事前にできるだけ解いておく。事後には、教科書付随の CD を再度聴くなどして、学習内容を定着させるようにする。(1 時間)
15	Units 6-12　復習	今学期に読んだ、教科書のエッセイや、	事前に、今学期の自分の提出物に目を通し、質問す

			それに関連した読解・作文・文法の練習問題を再確認し、分からない点が無いようにする。	べきことを準備する。事後に、まとめのためのテスト問題を解答する。(1 時間)

関連科目	他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Indicators 3	Cohen, Mihara 他	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	小テスト等　30% 授業における貢献度等　80%
学生への メッセージ	毎回の課題を有効に利用し、基礎から少しづつ英語力をつけていってください。 少しでも疑問に思う点や不明な点があれば、そのつど質問してください。
担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	教養中国語Ⅰ	科目名（英文）	Chinese Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	段　飛虹
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	JCH2334e1		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。一年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験準４級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	発音篇	発音 ①中国語の音節，ピンイン、声調 ②単母音	事前にテキストを目を通す、 練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
2	発音篇	発音 ③複母音 ④鼻母音	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
3	発音篇	発音 ⑤子音 ⑥音節のつづり ⑦声調記号について	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
4	発音篇・テスト１ 発音復習・練習	発音復習・練習 ☆発音テスト１	事前に、発音テスト１の準備をする。
5	第１課 お名前は何ですか？	文法 ① 人称代名詞 ② 名前の聞き方を答え方 ③ 「是」の述語文の使い方 ④ 「?」の疑問文	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題も解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
6	第２課 これは私のパソコンです。	文法 ① 指示代名詞 ② 疑問詞疑問文 ③ 「的」の使い方 ④ 副詞「也」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題も解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
7	第３課 こちらの冬は寒いです。	文法 ① 場所代名詞 ② 形容詞述語文 ③ 疑問文	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題も解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
8	第４課 私は毎日七時に起きます。	文法 ① 動詞述語文 ② 時間詞の置く場所 ③ 省略疑問文	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題も解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
9	第５課 私の家は学校から遠いです。	文法 ① 動詞「在」 ② 介詞「離」 ③ 反復疑問文 ④ 方位詞の使い方	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
10	第６課 あなたは週に何コマの授業がありますか？	☆第1～5課単元テスト２ 文法 ① 量詞 ② 「所有」を表現する「有」の文 ③ 疑問詞「几」と「多少」	事前に、単元テスト２の準備をする。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
11	第７課 あなたは今年いくつですか？	文法 ①「存在」を表現する「有」の文 ② 年齢の聞き方 ③ 親族の名称	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
12	第８課 私たちは図書館で勉強しています。	文法 ① 介詞「在」 ② 連動文 ③ 疑問詞	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
13	第９課 あなたは昨日どこに行きましたか？	文法 ①「完了」を表現する「了」の文 ② 原因 ③「A 跟 B 一様」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
14	第10課 私はパンを食べたいです	文法 ① 助動詞「想」 ② 選択疑問文 ③ 提案の言い方	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
15	おさらい	☆第6～10課復習 ☆単元テスト３	事前に、第6～10課復習すること、単元テスト３の準備をする。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	やさしい中国語（基礎編）	張慧娟　王武雲　朱藝	郁文堂

	2			
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	日中辞典		
2	中日辞典		
3			

評価方法 （基準）	出席と課題の提出５0% テスト５0%で評価する。
学生への メッセージ	教科書は必ず購入してください。購入していない者には単位が認定できません。 授業中の私語は他の受講生の迷惑になりますので、控えてください。 事前・事後学習に１時間すること。
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	教養中国語Ⅱ	科目名（英文）	Chinese II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	段　飛虹
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	JCH2335e1		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。一年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験準４級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第 11 課 母は私より背が高い。	文法 ① 比較の表現 ②「喜歓」の表現 ③「越 A 越 B」	事前にテキストを目を通す、 練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
2	第 12 課 彼女は中国に行ったことがある。	文法 ① 過去の経験を表現する「過」の文 ② 助動詞「打算」 ③ 変化を現す「了」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
3	第 13 課 私は手紙を書いている。	文法 ① 動作の進行を表現する ② 連動文 ③ 推量・確認の表現	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
4	第 14 課 私は英語を話せます。	文法 ① 助動詞「会」「能」「可以」 ② 動詞の重ね型 ③ 要請の表現	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
5	読む・書く復習１	第 11 課～第 14 課の読む・書く復習 ☆テスト１	事前に、第 11 課～第 14 課の読む・書く復習、準備をすること。
6	第 15 課 あなたはいつ来たのですか？	文法 ①「是～.的」の構文 ② 人民元の数え方	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
7	第 16 課 十五課を習い終えました。	文法 ① 兼語文「請」 ② 結果補語 ③ 介詞「用」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
8	第 17 課 母が私に生活用品を送ってくれました。	文法 ① 方向補語「来」「去」 ② 介詞「給」 ③「从 A 到 B」の使い方	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
9	第 18 課 私は中国語を聞いて分かります。	文法 ① 可能補語 ② 動詞＋「得/不＋了」 ③「先 A，然后 B」の使い方	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
10	読む・書く復習２	第 15 課～第 18 課の読む・書く復習 ☆テスト２	事前に、第 15～18 課の読む・書く復習、準備をすること。
11	第 19 課 兄が走るのが早い。	文法 ① 様態補語 ② 時量の表現 ③ 数量表現	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
12	第 20 課 鈴木先生は私たちにフランス語を教えます。	文法 ① 二重目的語の構文 ② 助動詞「得」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
13	第 21 課 先生は私に本を沢山読むように言っています。	文法 ① 兼語文　使役の意味の表現 ②「挺～的」 ③「多」＋動詞	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
14	第 22 課 彼女はもうすぐ中国へ帰るそうです。	文法 ① 受け身の「被」 ②「快要～了」 ③「聴説」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
15	読む・書く復習３	第 19 課～第 22 課の読む・書く復習 ☆テスト３	事前に、第 19～22 課の読む・書く復習、準備をすること。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	やさしい中国語（基礎編）	張慧娟　王武雲　朱藝	郁文堂
2			
3			

参考書

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日中辞典		
	2	中日辞典		
	3			

評価方法 （基準）	出席と課題の提出５０% テスト５０%で評価する。
学生への メッセージ	教科書は必ず購入してください。購入していない者には単位が認定できません。 授業中の私語は他の受講生の迷惑になりますので、控えてください。 事前・事後学習に１時間すること。
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	キャリアデザインⅠ	科目名（英文）	Career Planning Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	水野　武
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1342a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には １）就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 ２）基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 ３)専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 ４）講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。 ようになることが期待される。 なお、講義は担当講師の人材業界での業務及び起業経験を活かした内容も含まれる。 SDGs.4-4 SDGs.8-6
到達目標	１）摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 ２）社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 ３）調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	講義には積極的な態度で受講すること。 講義はTeamsを用いて、リアルタイム型のWeb講義を行う。2021年度の入学生は時間割通りに各教員のTeamsのクラスに入って受講すること。 210001～210068　水野　武　b1xpf6v 210069～210142　上野山　裕士　tyuitbf 210143～210213　橋本　朗子　05kieii 210214～210801　山岡　亮太　7pp19pt なお、課題の提出方法は教員により異なる（MoodleかWebフォルダー等）ので各教員の指示
科目学習の効果（資格）	社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ようこそ、摂南大学へ	・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か？何故必要なのか？ ・公と私について考える	・自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること(事前：0.5時間)
2	さぁ始めよう！大学生活を	・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける	・大学で学ぶ意味について考えること(事前：0.5時間)
3	摂大学	・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・アセスメントを実施する	・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること ・大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること(事後：0.5時間) ・講義で課された課題に取り組むこと(事後:2時間)
4	自己効力感を高めよう	・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション	・設定された個人ワークに取り組むこと(事後：２時間)
5	SDGsについて考えよう グループ課題の設定	・SDGsに対する理解を深める ・ブループワーク ・グループで工程管理を考える	・SDGs とは何かについて予習をしておくこと(事前：0/5時間) ・グループで課題に取り組むこと(2時間)
6	社会は君を待っている	・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える	・社会で求められる人材について考えること(事後：0.5時間)
7	社会の仕組み①	・GDPから見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える	・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(事後：0.5時間)
8	社会の仕組み②	・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション	・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(事後：0.5時間)
9	自分づくり①	・自分の良いところを20個挙げる ・ペアワーク	・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(事前：１時間)
10	自分づくり②	・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学４年間の目標設定	・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること(事後：0.5時間)
11	スケジューリング術	・社会人基礎力を理解する ・PDCAサイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる	・社会人基礎力を実践する方法を考えること(事後：0.5時間)
12	ビブリオバトル①	・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する	・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(事前：１時間)
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	・プレゼンテーションの準備をすること(事前：１時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後：0.5時間)
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	・プレゼンテーションの準備をすること(１時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後：0.5時間)
15	講義のおさらい	・講義４で行った個人ワークの振り返り ・講義の振り返り	・夏休み以降の大学生活の目標を考えること(0.5時間)

				・期末レポートを作成すること(1.5時間)

関連科目	キャリアデザインⅡ 、キャリアデザインⅢ 、インターンシップ エンプロイメントデザイン Ⅰ、エンプロイメントデザインⅡ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	平常点（30%)、グループ課題(20%) 、最終レポート（50%）で総合的に評価する。
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。
担当者の 研究室等	教育イノベーションセンター（上野山） 教育イノベーションセンター（水野）
備考	１．必要に応じて授業内でレジュメを配布する。 ２．各回のミニレポートは採点した後に、最終講義で返却する。 Teams コードは 210001～210068　水野　武　b1xpf6v 210069～210142　上野山　裕士　tyuitbf 210143～210213　橋本　朗子　05kieii 210214～210801　山岡　亮太　7pp19pt なお、課題の提出方法は教員により異なる（Moodle か Web フォルダー等）ので各教員の指示に従うこと。

科目名	キャリアデザインⅠ	科目名（英文）	Career Planning Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	石井　三恵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1342a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には １）就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 ２）基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 ３)専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 ４）講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。 ようになることが期待される。 なお、講義は担当講師の民間企業、自治体、NPO 法人での業務及び海外を含む高等教育での教育ならびに経営の経験を活かした内容も含まれる。 SDGs.4-4 SDGs.8-6
到達目標	１）摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 ２）社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 ３）調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	講義では資料を熟読した上で課題に挑まなければならないので、積極的な態度で受講すること。 なお、コロナ禍の観点から Teams を用いたリアルタイム型講義を行うが、収束が見込まれた折には対面による講義に戻す可能性もあるので、連絡を確認すること。
科目学習の効果（資格）	社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ようこそ、摂南大学へ	・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か？何故必要なのか？ ・公と私について考える	・事前学修：自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること(0.5 時間)
2	さぁ始めよう！大学生活を	・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける	・事前学修：大学で学ぶ意味について考えること(0.5 時間)
3	摂大学	・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・アセスメントを実施する	・事後学修：摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること /大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること(0.5 時間) ・事後学修:講義で課された課題に取り組むこと（２時間/継続）
4	自己効力感を高めよう	・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション	・事後学修：設定された個人ワークに取り組むこと（２時間）
5	SDGs について考えよう グループ課題の設定	・SDGs に対する理解を深める ・ブループワーク ・グループで工程管理を考える	・事前学修：SDGs とは何かについて予習をしておくこと(0.5 時間) ・事後学修:グループで課題に取り組むこと２時間)
6	社会は君を待っている	・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える	・事後学修：社会で求められる人材について考えること(0.5 時間)
7	社会の仕組み①	・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える	・事後学修：経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(0.5 時間)
8	社会の仕組み②	・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション	・事後学修：配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(0.5 時間)
9	自分づくり①	・自分の良いところを 20 個挙げる ・ペアワーク	・事前学修：自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと（１時間）
10	自分づくり②	・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学４年間の目標設定	・事後学修：大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること(0.5 時間)
11	スケジューリング術	・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる	・事後学修：社会人基礎力を実践する方法を考えること(0.5 時間)
12	ビブリオバトル①	・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する	・事前学修：他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと（１時間）
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること（１時間） ・事後学修：他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(0.5 時間)
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること（１時間） ・事後学修：他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(0.5 時間)
15	講義のおさらい	・講義４で行った個人ワークの振り返り ・講義の振り返り	・事前学修：夏休み以降の大学生活の目標を考えること(0.5 時間) ・事後学修:期末レポートを作成すること(1.5 時間)

関連科目	キャリアデザインⅡ 、キャリアデザインⅢ 、インターンシップ エンプロイメントデザイン Ⅰ、エンプロイメントデザインⅡ
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
	2 / / /
	3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
	2 / / /
	3 / / /
評価方法 （基準）	授業内活動（30%）、グループ課題(20%) 、最終レポート（50%）で総合的に評価する。
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。
担当者の 研究室等	７号館５階 教育イノベーションセンター（石井）
備考	１．2020 年度以前入学の再履修者はこの教室で実施する。 ２．必要に応じて授業内でレジュメを配布する。 ３．ミニレポートは採点した後に返却する。

科目名	キャリアデザインⅡ	科目名（英文）	Career Planning II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	水野　武
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1343a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報から的確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考えるようになることが期待される。 講義は担当者の実務経験を元に議論を進行することもある。 SDGs.4-4 SDGs.8-6
到達目標	将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。
授業方法と留意点	講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。 講義はWeb（Teams）によるリアルタイム講義を行う。受講クラスは学籍番号によって異なるので注意すること。 各クラスの teams コードは 200001～200074：水野　Teams コード:uzyd1az 200075～200144：上野山　Teams コード:vxfx2o4 200145～200209：橋本　Teams コード:dgpbk5z 200210～200281：山岡　Tea
科目学習の効果（資格）	来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法	・大学生活１年目で経験したことを思い出しておくこと(事前：１時間) ・配布したレジュメを見直すこと(事後：0.5 時間)
2	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	・人はなぜ働くのかについて仕事をしている一にインタビューしててまとめ、グループ討議の準備をしておくこと(事後：２時間)
3	社会を知る②	・課題「働く人を取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション	・グループ討議の内容を振り返ること(0.5 時間)
4	社会を知る③	・視点/視座/視野の使い方事例を知る ・業種・職種の概念を理解する ・川上～川下の概念の理解	・配布資料を読み返し、どのような業種・業界があるか調べること(事後：0.5 時間)
5	社会を知る④	・会社・業種・職種を理解する ・付加価値について考える	・配布資料を見直し、どのような職種・会社があるのか調べること(0.5 時間)
6	自分を知る①	・特性と心がけ、自己 PR の組み立て方を学ぶ	・自身の特性について考えること(事前：0.5 時間) ・配布資料を見直し、自らの強みについて考えること(事後１時間)
7	自分を知る②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える	・自身の学生生活を振り返ること(事前：0.5 時間) ・配布資料を見直し、今後の学生生活の過ごし方を考えること(0.5 時間)
8	自分を高める①	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の習慣について振り返ること(事後：0.5 時間)
9	自分を高める②	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の取り組むべきことについて考えること(事後：0.5 時間)
10	自分を高める③	・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ	・講義の内容を日常生活で実践すること(1.5 時間)
11	自分を知る③	・モチベーションについて理解する ・自身のやる気の源泉を理解する	・自身の「やる気が出る時と出ない時」の差について考える(事前：0.5 時間) ・自身の「やる気の源泉」を言語化すること(0.5 時間)
12	社会を知る⑤	・ライフイベントを考える ・ライフイベントにかかる費用を知る。	・配付資料を見直し、自らの将来について考えること(0.5 時間)
13	自分を高める⑤	・講義⑨⑩⑪の実践報告の共有と発表	・発表及びグループ討議の準備をしておくこと(事前：１時間)
14	社会を知る⑥	・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方を考える	・日本を取り巻く課題につて調べること(事前：0.5 時間)
15	授業のおさらい	・講義のおさらい	・課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと(0.5 時間)

関連科目：キャリアデザインⅠ・Ⅲ、インターンシップ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	グループワーク（20%）、授業参加度（30%）、レポート（50%）を総合的に評価する。
学生への メッセージ	来たるべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加すること。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階　教育イノベーションセンター（上野山） 7 号館 3 階　教育イノベーションセンター（水野） 7 号館 3 階　教育イノベーションセンター(橋本)
備考	2019 年度以前入学の再履修の者は別教室で実施する。 毎回のミニレポートが採点をした後に最終講義で返却する。

科目名	キャリアデザインⅡ	科目名（英文）	Career Planning II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	石井　三恵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1343a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報から的確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考えるようになることが期待される。 講義は担当者の実務経験を元に議論を進行することもある。 SDGs.4-4 SDGs.8-6
到達目標	将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。
授業方法と留意点	講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。
科目学習の効果（資格）	来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法	・事前学修：これまでの大学生活で経験したことを思い出しておくこと（1時間） ・事後学修：配布したレジュメを見直すこと(0.5時間)
2	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	・事後学修：人はなぜ働くのかについて仕事をしている人にインタビューしててまとめ、グループ討議の準備をしておくこと（2時間）
3	社会を知る②	・課題「働く人を取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション	・事後学修：グループ討議の内容を振り返ること(0.5時間)
4	社会を知る③	・視点/視座/視野の使い方事例を知る ・業種・職種の概念を理解する ・川上～川下の概念の理解	・事後学修：配布資料を読み返し、どのような業種・業界があるか調べること(0.5時間)
5	社会を知る④	・会社・業種・職種を理解する ・付加価値について考える	・事後学修：-配布資料を見直し、どのような職種・会社があるのか調べること(0.5時間)
6	自分を知る①	・特性と心がけ、自己 PR の組み立て方を学ぶ	・事前学修：自身の特性について考えること(0.5時間) ・事後学修：配布資料を見直し、自らの強みについて考えること（1時間）
7	自分を知る②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える	・事前学修：自身の学生生活を振り返ること(0.5時間) ・事後学修：配布資料を見直し、今後の学生生活の過ごし方を考えること(0.5時間)
8	自分を高める①	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・事後学修：講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の習慣について振り返ること(0.5時間)
9	自分を高める②	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・事後学修：講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の取り組むべきことについて考えること(0.5時間)
10	自分を高める③	・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ	・事前学修：リーダーシップとは何かを考える (0.5時間) ・事後学修：講義の内容を日常生活で実践すること(1.5時間)
11	自分を知る③	・モチベーションについて理解する ・自身のやる気の源泉を理解する	・事前学修：自身の「やる気が出る時と出ない時」の差について考える(0.5時間) ・事後学修：自身の「やる気の源泉」を言語化すること(0.5時間)
12	社会を知る⑤	・ライフイベントを考える ・ライフイベントにかかる費用を知る。	・事後学修：配付資料を見直し、自らの将来について考えること(0.5時間)
13	自分を高める⑤	・講義８、９、10 の実践報告の共有と発表	・事前学修：発表及びグループ討議の準備をしておくこと（1.5時間）
14	社会を知る⑥	・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方を考える	・事前学修：日本を取り巻く課題につて調べること(0.5時間) ・事後学修：関心のあった課題について調べること（0.5時間）
15	授業のおさらい	・講義のおさらい	・事後学修：課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと(0.5時間)

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅲ、インターンシップ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業内活動（20%）、授業参加度（30%）、期末レポート（50%）を総合的に評価する。
学生への メッセージ	来たるべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加すること。
担当者の 研究室等	７号館５階　教育イノベーションセンター（石井）
備考	2019 年度以前入学の再履修の者はこの教室で実施する。

科目名	キャリアデザインⅢ	科目名（英文）	Career Planning III
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	水野　武
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1344a1		

授業概要・目的	本講義は就職活動に関する知識と実践技法も学ぶための講義である。 この科目を通じて、学生は、学生生活での学びを活かし、社会で求められ、活躍できる人材（人財）になるために何をすべきかを考えられるようになることが期待される。 なお、授業担当者の人材業界での業務経験・起業経験を講義に活かす講義の内容となる。
到達目標	自分を振り返り、社会をよく知り、選択肢を発見し、自分の特性や強みについて、他者に伝えられることができる。 その結果、満足のいく就職活動、進路選択ができるようになる。
授業方法と留意点	講義では能動的な姿勢が求められる。 なお、講義は対面による講義と Teams を用いたリアルタイム型の講義の同時進行で行う。 各自の事情に合わせ、受講形式を選択すること。 対面講義での受講は初回と同じ教室で、Teams で受講する場合は　i4whgry　から入り、各日の講義チャネルから受講すること。
科目学習の効果（資格）	授業を通して自分の成長に気づき、人に自分の意思が伝えられるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目標、進め方、評価方法の解説 ・就職活動のスケジュールを知る	事後学習：配付資料を熟読すること（1時間）
2	ビジネス研究①	・業界・会社・職種を知る	事後学習：配付資料を熟読し、どんな業界があるのかを調べること（1時間）
3	ビジネス研究②	・成長企業のキーワード ・会社研究について	事後学習：配付資料を熟読し、どんな会社があるのかを調べること（1時間）
4	ビジネス研究④	・会社の経営理念について考える ・ブラック企業問題について考える ・いい会社とは何かについて考える	事後学習：配付資料を熟読し、自分のワークスタイルを考えること（1時間）
5	ビジネス研究⑤	・事業立案のフレームを学ぶ ・グループでビジネスプランを立てる	事後学習：配付資料を熟読氏、グループワークに取り組むこと（2時間）
6	ビジネス研究⑥	・グループでプレゼンテーション	事前学習：プレゼンテーションの準備をしておくこと（1時間）
7	ビジネス研究⑦	・グループでプレゼンテーション	事前学習：プレゼンテーションの準備をしておくこと（1時間） 事後学習：他グループのプレゼンテーションを振り返ること(0.5時間)
8	自分を知る①	・自分の将来を描いてみる	事後学習：配付資料を熟読し、自分の未来について考えること（1時間）
9	自分を知る②	・自分の強み、学生生活を振り返る	事後学習：配付資料を熟読し、自分について振り返ること(0.5時間)
10	自分を知る③	・ワークシートを使って自分の特性を確認する	事後学習：配付資料を熟読し、自分の特性について考えること(0.5時間)
11	自分のことを伝える	・エントリーシートとは何かを知る ・読み手の着眼点を理解する	事後学習エントリーシートを作成する準備をしておくこと(1時間)
12	グループでのコミュニケーション①	・グループディスカッションの種類を知る ・グループディスカッションを実際に体験してみる	事後学習：配付資料を熟読し、自身のグループへの貢献の仕方を考えること(1時間)
13	グループでのコミュニケーション②	・議論を進めるためのファシリテーション術を学ぶ	事後学習：配付資料を熟読し、グループへの貢献の仕方を考えること(1時間)
14	面接における対人コミュニケーション	・面接における対人コミュニケーションについて考える ・面接のメカニズムを知る	事後学習：配付資料を熟読し、対面での対人コミュニケーションについて考えること(1時間)
15	講義のまとめ	・成果を上げるための行動計画立案 ・講義のまとめ	・提出物など、出し忘れが無いか確認すること（1時間）

関連科目：・キャリアデザイン、インターンシップ基礎、ビジネスマナーⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ、数的能力開発、コミュニケーション能力開発、エンプロイメントデザインⅠ・Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	講義での提出物（30%）、グループ課題(20%)、期末レポート（50%）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	みなさんの将来のことを一緒に考えましょう。
担当者の研究室等	教育イノベーションセンター（水野研究室）
備考	参考文献・書籍は必要に応じて適宜提示する。

科目名	エンプロイメントデザインⅠ	科目名（英文）	Employment Design Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	石井　三恵.水野　武
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1345a1		

授業概要・目的	この科目は学生が「協働作業」「意思決定」「創造的志向」「探求」など、エンプロイアビリティ（将来社会に出て仕事をする際に必要な能力）の獲得の必要性を認識するための科目である。 また、大教室での多くの学生と共に話を聴き、理解しようとする態度を養い、グループに分かれて他者との意見の交換を行うことで、自分には思いつかなかった考え方に気づくようになることが期待される。
到達目標	講義、個人ワーク、グループワークを通じて、目標と手段、意思決定や探求に向けて試行錯誤することができるようになることが目標である。
授業方法と留意点	「学びを通じて学び方を学ぶ」姿勢をもつことを心がける。また、講義で出た課題を実践し、振り返ることが課題となることもあるため、メモを取る習慣を身に付ける。 この科目は１年生向けの科目で、2021 年度入学生のみ履修ができる。 また、講義は当面は Teams を利用したリアルタイム型講義と教室受講ができるハイフレックス形式で行う。 Teams コード：51q6o2g
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・科目の趣旨・目的と評価について ・受講上の注意ならびに大教室でのマナーに関して ・キーワードの調べ方とレポートに関して	・講義内容を振り返ること(0.5 時間)
2	私が NO.1 プロジェクト①	・今、自分が属しているコミュニティにおいて、何かで「NO.1 になる」ための計画を立て、実践する	・設定した課題を実践すること(２時間)
3	私が NO.1 プロジェクト②中間振り返り	・講義３で設定した個別の課題の経過、結果をグループで共有する	・グループワークでメンバーから得た知見を振り返ること(0.5 時間)
4	仕事で使う分析スキルについての解説	・定量、定性分析の概説、定量分析の３つの場面の概説	・講内容義を振り返ること(0.5 時間)
5	私がNO.プロジェクト③最終振り返り	・講義３で設定した個別の課題の結果の振り返り、共有	・グループワークでメンバーから得た知見を振り返ること ・第一回課題「NO.プロジェクトの振り返り」レポートを作成すること(２時間)
6	数字を用いて意思決定を行う①	・損益分岐点を使った意思決定方法を学ぶ	・講義の内容を振り返ること(0.5 時間)
7	数字を用いて意思決定を行う②	・機会費用と埋没費用を使った意思決定、重み付けを使った意思決定の方法を学ぶ	・講義の内容を振り返り、日常生活で活かせる場面を考えること(１時間)
8	議論を進めるファシリテーションの基本	・グループで議論する際の基本的なスキルを学ぶ	・講義の内容を振り返り、学生生活で活かす場面を考えること（１時間）
9	創造的思考の枠組みを使って議論する	・クレイジーブレスト、スマッシュアダンプションなどアイディアを拡散する方法を学ぶ	・講義の内容を振り返り、学生生活で活かす場面を考えること(１時間)
10	グループでリサーチプロポーザル（研究計画書）を作ろう	・グループワーク「グループで課題研究のためのリサーチプロポーザル（研究計画書）の作成」	・グループで課題に取り組むこと(２時間)
11	担当講師のキャリアについて①	・担当講師の研究内容、仕事の経歴などについての話をきく	・講義の内容を振り返ること(0.5 時間)
12	担当講師のキャリアについて②	・担当講師の研究内容、仕事の経歴などについての話をきく	・講義の内容を振り返ること(0.5 時間)
13	担当講師のキャリアについて③	・担当講師の研究内容、仕事の経歴などについての話をきく	・講義の内容を振り返ること(0.5 時間)
14	グループで研究計画書を発表	・講義 10 で取り組んだ課題をグループごとに発表する	・自グループ、及び他グループの発表内容を振り返ること ・第二回課題「グループレポート」提出（0.5 時間）
15	講義のまとめ（担当：教育イノベーションセンター）	・エンプロイメントデザインⅠの振り返り	・講義全体を振り返ること ・第三回課題「講義の最終レポート」を作成すること(２時間)

関連科目	キャリアデザインⅠ・キャリアデザインⅡ・エンプロイメントデザインⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	毎回のミニッツペーパー（15%）、グループワーク(10%)、グループレポート（10%）、個人レポート３回（65%）を総合的に判断する。
学生への	自身の将来の職業選択を考えるために、様々な課題を真摯な態度で聴いてほしい。

メッセージ	また、自ら考え、選択し、決定していくプロセスを大切にし、行動へ繋ぐ大切を学んでほしい。
担当者の 研究室等	７号館５階 教育イノベーションセンター（石井） ７号館３階 教育イノベーションセンター（上野山） ７号館３階 教育イノベーショセンター（水野）
備考	教科書：各回、必要に応じ、プリント配布。 参考書：各回、必要に応じ、授業中に示す。 講師・内容は都合により変更することもある。 中間課題の評価基準・書き方に関する注意事項は講義内またはポータルサイトで伝達する。

科目名	エンプロイメントデザインⅡ	科目名（英文）	Employment Design II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	水野　武
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1346a1		

授業概要・目的	外部講師（本学卒業生を含む）をお招きし、仕事・職業観・人生経験やキャリア・パス等についてのお話を聴く。質疑応答の時間を設けているので、勇気を持って講師に質問をするだけでなく、質問時の態度や表現の仕方を学ぶ。 この科目を通じて、学生はさまざまな職業について理解し、多様な仕事術についての知識を得ること、さらには仕事観や人生観の涵養に役立てるとが期待される。
到達目標	さまざまな職業についての知識を得て、多様な仕事術を理解できるようになることを講義の目標とする。
授業方法と留意点	話を聴くことが主となるため、社会人としての真摯な態度での話の聴き方、メモの取り方、積極的に質問すること等の習慣を身に付ける。 なお、本講義は Teams と用いてリアルタイム Web 講義を実施する。学生は時間割通りに下記の Teams コードから暮らすに入り、該当日の講義チャネルに立てられた会議室から受講すること。 Teams コード：v2yvhvd
科目学習の効果（資格）	人や社会に関わること、仕事力の伸ばし方について考えるきっかけとなる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション（教育イノベーションセンター）	・講義のオリエンテーション ・ゲスト講義の際の注意点（特に聴く態度）について	・事前学修：シラバスを熟読すること（１時間） ・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5 時間)
2	警察官として、生きていく。大阪府警察は、この街を、人を、そしてキミの人生を、全力で守り続ける。 （警察官）	・採用担当者が大阪府警察の仕事、働く上でのやりがいなどを紹介いたします。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5 時間)
3	社会人として転職４回で５社目に勤務しながら週末にNPOも立ち上げたぼくが、20 歳から 40 歳まで何を悩んでどう生きてきたかの事例紹介 （社会起業家）	・ゲストのキャリアの履歴とその節目で感じたことをお話いただきます。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5 時間)
4	ＳＤＧｓ で世の中を変える～未来の子どもたちのためにやるべきこと～	SDGs について、ゲスト企業の取り組みについてお話します。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5 時間)
5	社会問題と対峙する仕事 -ソーシャルワーカーについて- （摂南大学 OB・ソーシャルワーカー）	①講師の学生生活から学んだことを伝える。グループワークを実施。 ②社会問題が他人事ではなく、自分事であることに気付く個人ワークやグループワーク、実際にあった事例を編集して伝える、事例検討を行います。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5 時間)
6	「ビジネス創造に必要な力」を実例から学ぶ（IT/役員）	・現役のビジネスパーソンが日々実践している 「ビジネスに必要な力」を事例を通じて解説します。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5 時間)
7	【業務告白】フツーのサラリーマンが PR の仕事の経験から感じたこと(グループ広報)	自身のキャリア・経験談など、２社３職種から学んだことを中心にお話します。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5 時間) ・中間レポートを作成すること(1.5 時間)
8	Ｍｙ proud work しあわせのまちづくり ?主役は地域住民！『こどもからおとしよりまで笑顔あふれる地域づくり』の支え方?（社会福祉協議会職員）	・地域住民にもっとも近い社会福祉法人である社会福祉協議会の仕事と理念についてお話しします	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5 時間)
9	プログラマを目指して摂南大学に入学してから NPO 代表になるまで（摂大 OB/NPO 法人代表）	・理系学部でプログラマーを目指しながらもスタープログラマーになれなかった男が、“公共性“を武器に NPO 法人を設立するまでのキャリア構築の過程をお話します。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5 時間)
10	お坊さんから後輩のみなさんへ(摂大 OB/住職)	・一人の学生が僧侶として歩みだすまでの過程を自身の学生生活の経験談を交えながらお話します。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5 時間)
11	信用金庫の仕事と期待される人財 (金融/人材開発)	仕事のやりがいとキャリアを学生の皆さんにイメージしていただけるよう、講義します。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5 時間)
12	社会人になって学んだことと、企業経営で大切にしているモノ （摂南大学 OB/経営者）	・社会人となる学生へ、体験談を通じて企業の中で誠実に生き抜くことを伝えます。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5 時間)
13	ともに強いまちを創る～公務員という選択～ （摂南大学ＯＢ／市役所職員）	・仕事を通して社会や地域に貢献ができる、自らが成長できる、公務員のやりがいについて熱くお話します。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5 時間)
14	先人(企業家)に学ぶ仕事への心構え （商工会議所/職員）	・企業家から学ぶ、仕事の心構えについてお話します。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5 時間)

	15	講義のまとめ	・エンプロイメントデザインⅡのまとめ ・まとめのワークシート	・事前学修：講義全体を振り返り、ノートにまとめること(1.5時間) ・事後学修：最終課題を作成すること(2.5時間)

関連科目	キャリアデザインⅠ、キャリアデザインⅡ、エンプロイメントデザインⅠ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	毎回の感想レポート（30%）、中間レポート１回（30%）、期末レポート１回(40%)を総合的に判断する。
学生への メッセージ	講師の多様な仕事に対する意識や成果の上げ方等を聴くことで、職業観の形成に役立ててほしい。また、摂大生として誠実な態度で質疑応答に臨んでほしい。
担当者の 研究室等	教育イノベーションセンター（上野山） 教育イノベーションセンター（水野）
備考	講師・内容は都合により変更することもある。 教科書：各回の講師が必要に応じ、プリント配布する。 参考書：各回の講師が必要に応じ、授業中に示す。

科目名	インターンシップⅠ	科目名（英文）	Internship Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石井　三恵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JCA2506a3		

授業概要・目的	この科目を通じて、学生は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に　1）仕事の社会における役割　2）仕事の成果とは　3）仕事の責任と充実感　を直接肌で感じること　が期待される。 インターンシップⅠでは事前学修として、ビジネス組織のあり方、マナーや常識を習得する。 なお、講義では担当者の民間企業、自治体、NPO法人での業務及び海外を含む高等教育での教育ならびに経営の経験に基づいて議論を進めることもある。 SDGｓ4-4 SDGｓ8-6
到達目標	就職活動の流れとインターンシプの位置づけ、意義について説明することができる。 インターンシップへ意欲的に自信を持って参加するためのマナーと心がまえを身につける。
授業方法と留意点	インターンシップの現場につながる講義（演習を含む）であることから、能動的に、真摯に参加することを求める。 なお、講義は対面による講義とTeamsを用いたリアルタイム型講義を同時進行で行う。 各自の事情や希望に合わせて受講形式を選択すること（受講形式は固定しなくともよい）。 対面で受講する場合は初回の教室と同じ1152、Teamsで受講する場合は　3fz1pgv　からクラスに入り、講義日のチャネルで受講すること。
科目学習の効果（資格）	インターンシップへ行く目的を理解し、その準備ができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	インターンシップとは	・授業オリエンテーション ・学生と社会人の違いを理解する ・インターンシップの目的を考える	・事前学修：インターンシップとは何かについて考えること（1時間） ・事後学修：配付した資料を見直して講義を振り返ること（2時間）
2	企業組織・ビジネスの理解	・組織の形態を知る ・ビジネスへの理解を深める	・事前学修：自らの興味のあるビジネスについて調べておくこと（3時間） ・事後学修：配付した資料を見直して講義を振り返ること（1時間）
3	実習参加企業について	・産業の分類を知る ・業種、内容、インターン時期等、インターン受入企業等の組織について知る	・事前学修：興味のある会社や自治体などの組織について調べること（1時間） ・事後学修：インターン受入企業等の組織のリストに目を通し、希望する実習先を吟味すること（3時間）
4	効果的なプレゼンテーションとは	・効果的なプレゼンテーションの仕方、注意点などを知る	・事前学修：効果的なプレゼンテーションについて考えること（1時間） ・事後学修：配付された資料を見直し講義を振り返ること（3時間）
5	課題のプレゼンテーション①	・第4回目の課題をプレゼンテーションする	・事前学修：第4回目の課題について、プレゼンテーションの準備をすること（3時間） ・事後学修：プレゼンテーションのポイントをまとめる（1時間）
6	社会人のマナー①	・社会人としての心構えを知る ・身だしなみ	・事前学修：マナーがなぜ大切なのかを考えること（2時間） ・事後学修:配付されたテキストを精読すること（2時間）
7	社会人のマナー②	・文書でのコミュニケーション	・事前学修：効果的なコミュニケーションについて考えること（2時間） ・事後学修：授業以降は丁寧なメールを心がけ、文書での適切な発信方法を試みること（2時間）
8	社会人のマナー③	・口頭でのコミュニケーション	・事前学修：効果的なコミュニケーションについて考えること（2時間） ・事後学修：マナーの大切さを再度考えること（2時間）
9	履歴書を記入する	・インターンシップ用の履歴書を記入する	・事前学修：履歴書を書く準備をしておくこと（2時間） ・事後学修：講義を振り返り、履歴書を下書きすること（2時間）
10	グループワーク①	・掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う	・事前学修：グループ内の自分の役割を考えること（2時間） ・事後学修：グループで課題に取り組むこと（2時間）
11	グループワーク②	・掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う	・事前学修：グループでプレゼンテーションを行う準備をすること（2時間） ・事後学修：自グループ及び他グループのプレゼンテーションを振り返ること（2時間）
12	事前訪問について	・事前訪問のマナーと準備について	・事前学修：インターン先の企業等の組織のことをもう一度調べること（2時間） ・事後学修：訪問時のマナーについておさらいをすること（2時間）
13	課題のプレゼンテーション②	・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション	・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること（2時間） ・事後学修：プレゼンテーションの内容を内省すること（2時間）

	14	課題のプレゼンテーション③	・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション	・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること（２時間） ・事後学修：プレゼンテーションの内容を内省すること（２時間）
	15	振り返りとまとめ	・授業を振り返る ・インターンシップの目的を再考する	・事前学修：インターンシップⅠで学んだことをまとめること（２時間） ・事後学修：インターンシップで何を身につけたいかをもう一度考えること（３時間）

関連科目	この科目を履修する学生は、「インターンシップⅡ（企業等の組織での就業体験）」を履修することが望まれる。
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
	2 / / /
	3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
	2 / / /
	3 / / /
評価方法（基準）	各課題 55%とレポート 45%（企業研究の PPT と企業研究レポート 25%、最終レポート 20%）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	インターンシップの流れは以下のとおりである。 ※４月下旬にリスト公開→５月上旬に希望企業等の組織の絞り込み→５月下旬に就職部から受け入れ可否の回答→６月末頃に事前訪問→８月上旬からインターンシップ開始（予定） インターンシップ先の都合により、流れの日程等が変更する場合もある。
担当者の研究室等	７号館５階　教育イノベーションセンター（石井）
備考	教科書・・・必要に応じてレジュメを配布 参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示 服　　装・・・立ち居振る舞いを学ぶために、原則、スーツ着用が好ましい。 インターンシップ先の都合により、インターンシップ参加期間等の日程が変更される場合もある。 予習・復習に毎回２時間以上取り組むこと。グループワーク、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で６０時間程度を目安とする。

科目名	インターンシップⅡ	科目名（英文）	Internship II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井　三恵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JCA3507a3		

授業概要・目的	インターンシップの目的は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に社会における仕事の役割、仕事の成果、仕事に対する責任と充実感を肌で感じることである。
到達目標	インターンシップ先での実習参加の機会を最大限に活用し、自分や社会をより理解し、将来の選択肢や可能性について主体的に考えることができる。講義での学び、経験を通じて、職業観を涵養し、それを他者に伝えることができる。
授業方法と留意点	「事前学修→インターンシップ実習→事後学修」という流れで実施するので、必ず日程を確認しておくこと。 実習中は、大学の代表、そして実習先の一員としての意識を持って参加すること。 事前学修・事後学修はすべてスーツ着用のこと。 受講態度や規則等を著しく逸脱し、注意しても改善が見られない場合は、実習参加を許可しない場合もあることを理解しておく。 なお、直前学修および実習の有無・形態に関してはインターンシップⅠで伝達する。 Covid-19 の影響により、実習が中止になることもある。
科目学習の効果（資格）	就職活動や将来を考えるうえでの貴重な出会いや気づきを得ることができる。
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	直前学修① ６月１９日(土)　３限目(予定)	・インターンシップの心構え ・今後のスケジュールの確認 ＊スーツ着用のこと	・事前学習：社会人を意識したスーツ着用し、身だしなみを自分なりに整えてくること(１時間)
2	直前学修② ６月１９日(土)　４限目(予定)	・報告書の書き方、注意点/マナー ・身だしなみの最終確認 ・グループワークとプレゼンテーション	・事前学習：マナーについて考えること(0.5 時間) ・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5 時間)
3	インターンシップ実習	・夏季休暇中に１０日間以上（原則）	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5 時間)
4	インターンシップ実習	・夏季休暇中に１０日間以上（原則）	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5 時間)
5	インターンシップ実習	・夏季休暇中に１０日間以上（原則）	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5 時間)
6	インターンシップ実習	・夏季休暇中に 10 日間以上（原則）	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5 時間)
7	体験報告書の作成・提出・指導	・報告書提出/ゼミ教員 ・インターンシップ担当教員における報告書のチェックと指導 （担当教員への提出と教務課へ電子データを提出）	・事後学修：事前学修②の通りに報告書を作成するが、提出前に必ず推敲を行い、提出期限を厳守すること(２時間)
8	事後学修① ９月１８日(土)　３限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学修：個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること (1.5 時間)
9	事後学修② ９月１８日(土)　４限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学修：個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること(1.5 時間)
10	事後学修③ ９月２５日(土)　３限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学習：代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(1.5 時間) ・事後学修：聴講者は他者の発表を振り返ること(1.5 時間)
11	事後学修④ ９月２５日(土)　４限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学修：代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(1.5 時間) ・事後学修：聴講者は他者の発表を振り返ること(1.5 時間)
12	事後学修⑤ １０月２日(土)　３限目(予定)	・インターンシップを振り返る （実習記録簿の提出）	・事前学習：実習記録簿を見直してくること(１時間)
13	事後学修⑥ １０月２日(土)　４限目(予定)	・インターンシップを振り返る	・事後学修：インターンシップの講義の全体を振り返ること(１時間)
14	事後学修⑦ １０月１６日(土)　(予定)	・全体報告会 ・学生代表者の発表	・事前学修：全員スーツ着用で受講するため、身だしなみを再度確認すること ＊学生代表者はパワーポイントで１０分で報告ができるように準備すること
15	事後学修⑧ １０月１６日(土)　(予定)	・全体報告会 ・受け入れ企業管理者の講演とまとめ （予定）	

関連科目	インターンシップⅠ

<table>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>企業による報告書（20%）、体験報告書など提出物（40%）、発表を含む授業態度（投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性、グループワークの参加姿勢など）（40%）を総合的に評価する。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>１.「インターンシップⅠ」を必ず履修すること。
２.「インターンシップⅠ」の履修には、ガイダンスに出席し、履修申し込み書を提出する必要がある。
履修希望者が多い場合は、選考することもある。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>７号館５階　教育イノベーションセンター（石井）</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>教科書・・・必要に応じてレジュメを配布する。
参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示する。

なお、振り返りの課題（体験報告書、報告プレゼンテーションのためのスライド作成など）は３時間以上かけて仕上げること。
事前事後学修に出席する際は、必ずスーツを着用してくること。</td></tr>
</table>

科目名	日本語能力開発Ⅰ	科目名（英文）	Development of Japanese Language Ability I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	学籍番号下３桁 001～70
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	筒井　大祐
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1508a3		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くかなど、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。本講義は、文章作成を一方的に講義するのではなく、受講者が実際に文章を書きながら、文章作成を習得することを目指す。そのため、練習問題や課題の作成を課す。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 文章の書き方１	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	1 時間の事前事後学習を目安とする。
2	文章の書き方２	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	1 時間の事前事後学習を目安とする。
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	1 時間の事前事後学習を目安とする。
4	【課題１】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	1 時間の事前事後学習を目安とする。
5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	1 時間の事前事後学習を目安とする。
6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	1 時間の事前事後学習を目安とする。
7	フィードバック	課題１のフィードバック	1 時間の事前事後学習を目安とする。
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	1 時間の事前事後学習を目安とする。
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	1 時間の事前事後学習を目安とする。
10	引用の復習 意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	1 時間の事前事後学習を目安とする。
11	【課題２】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	1 時間の事前事後学習を目安とする。
12	レポートの書き方１・２	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	1 時間の事前事後学習を目安とする。
13	フィードバック	課題２のフィードバック	1 時間の事前事後学習を目安とする。
14	【 レポート 】	レポートを提出する	レポートを作成する
15	レポートの講評 文章作成に関するまとめ	レポートについて講評する 文章作成に関して、まとめを行う	これまでの復習

関連科目：すべての授業の日本語による課題作成

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題２回（20%×2）、レポート（30%）、授業に取り組む姿勢・小テスト（30%）により評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語（話し言葉）と、レポートなどで書く日本語（書き言葉）は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、文章表現の方法を勉強していきましょう。
担当者の研究室等	非常勤講師室
備考	提出課題については、授業中にフィードバックをします。

科目名	日本語能力開発Ⅰ	科目名（英文）	Development of Japanese Language Ability I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	学籍番号下３桁 071～140
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	南谷　静香
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1508a3		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。
授業方法と留意点	教科書に沿って、講義形式で行う。 毎回授業開始時に前回授業の復習と日本語表現の小テストを行うため、遅刻をしないこと。また、講義中はスマートフォンは鞄の中にしまっておくこと。 指示した課題を必ず提出すること。課題およびレポート未提出の場合、単位の取得を認めません。 オンライン授業については、Teams によるリアルタイム方式で行い、課題の提出は Web Folder とする。
科目学習の効果（資格）	文章作成の能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 授業の内容、進め方について 「はじめに」 文章で伝えるということについて	講義	教科書を復習する（30 分程度）
2	「文章の書き方」 レポート・論文の基本事項 わかりやすい文章の書き方	講義	教科書を復習する（30 分程度）
3	「事実と意見」 事実と意見の書き分け 説明文とは何か	講義	教科書を復習する（30 分程度）
4	課題① ある事物について、論理的に説明する	課題の作成・提出	教科書を復習する（30 分程度）
5	「構成」 レポートなどの文章の構成を学ぶ	講義	教科書を復習する（30 分程度）
6	「要約」 要旨の要約の作成方法を知る	講義	教科書を復習する（30 分程度）
7	フィードバック 課題①の返却と反省 「要約」 要約文の作成	フィードバックと実践（要約文の作成）	教科書を復習する 返却された課題を見直す（合計１時間程度）
8	「文章を引用する」 文章を引用する意方法を学ぶ	講義	教科書を復習する（30 分程度）
9	「図表を引用する」 図表を引用する方法を学ぶ	講義	教科書を復習する（30 分程度）
10	「意見を述べる」 引用をふまえた考察に基づいて意見を述べる	講義	教科書を復習する（30 分程度）
11	課題② 資料を引用して意見を述べる	課題の作成・提出	教科書を復習する（30 分程度）
12	小テストの復習テスト	復習テスト	返却した小テストの内容を復習してテストに臨む（１時間程度）
13	フィードバック 課題②の返却と反省	フィードバック	教科書を復習する 返却された課題を見直す（合計１時間程度）
14	レポート これまでの講義の内容を踏まえて論説文を書く	レポートの作成・提出	教科書を復習する（30 分程度）
15	フィードバック レポートの反省点	フィードバック	ここまでやってきた内容を総括して復習する（１時間程度）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学編	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	課題 2 回（20%×２）、レポート（30%）、授業に取り組む姿勢・小テスト（30%）により総合的に評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生への メッセージ	口語表現と文章表現の違いを理解し、読み手を意識したわかりやすい文章を書くスキルを身につけてください。 論理的な文章を書く能力は、学生生活でのレポートや論文はもちろんのこと、社会人になってからも必要なものです。積極的に課題に取り組み、実践的な能力を身につけるよう務めましょう。
担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）
備考	前もって教科書の該当箇所をしっかり読んでから講義にのぞむこと。 返却された小テストはしっかりと復習すること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	日本語能力開発Ⅰ	科目名（英文）	Development of Japanese Language Ability I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	学籍番号下３桁 211～
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	南谷　静香
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1508a3		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。
授業方法と留意点	教科書に沿って、講義形式で行う。 毎回授業開始時に前回授業の復習と日本語表現の小テストを行うため、遅刻をしないこと。また、講義中はスマートフォンは鞄の中にしまっておくこと。 指示した課題を必ず提出すること。課題およびレポート未提出の場合、単位の取得を認めません。 オンライン授業については、Teams によるリアルタイム方式で行い、課題の提出は Web Folder とする。
科目学習の効果（資格）	文章作成の能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 授業の内容、進め方について 「はじめに」 文章で伝えるということについて	講義	教科書を復習する（30 分程度）
2	「文章の書き方」 レポート・論文の基本事項 わかりやすい文章の書き方	講義	教科書を復習する（30 分程度）
3	「事実と意見」 事実と意見の書き分け 説明文とは何か	講義	教科書を復習する（30 分程度）
4	課題① ある事物について、論理的に説明する	課題の作成・提出	教科書を復習する（30 分程度）
5	「構成」 レポートなどの文章の構成を学ぶ	講義	教科書を復習する（30 分程度）
6	「要約」 要旨の要約の作成方法を知る	講義	教科書を復習する（30 分程度）
7	フィードバック 課題①の返却と反省 「要約」 要約文の作成	フィードバックと実践（要約文の作成）	教科書を復習する 返却された課題を見直す（合計１時間程度）
8	「文章を引用する」 文章を引用する意方法を学ぶ	講義	教科書を復習する（30 分程度）
9	「図表を引用する」 図表を引用する方法を学ぶ	講義	教科書を復習する（30 分程度）
10	「意見を述べる」 引用をふまえた考察に基づいて意見を述べる	講義	教科書を復習する（30 分程度）
11	課題② 資料を引用して意見を述べる	課題の作成・提出	教科書を復習する（30 分程度）
12	小テストの復習テスト	復習テスト	返却した小テストの内容を復習してテストに臨む（１時間程度）
13	フィードバック 課題②の返却と反省	フィードバック	教科書を復習する 返却された課題を見直す（合計１時間程度）
14	レポート これまでの講義の内容を踏まえて論説文を書く	レポートの作成・提出	教科書を復習する（30 分程度）
15	フィードバック レポートの反省点	フィードバック	ここまでやってきた内容を総括して復習する（１時間程度）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学編	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	課題 2 回（20%×２）、レポート（30%）、授業に取り組む姿勢・小テスト（30%）により総合的に評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生への メッセージ	口語表現と文章表現の違いを理解し、読み手を意識したわかりやすい文章を書くスキルを身につけてください。 論理的な文章を書く能力は、学生生活でのレポートや論文はもちろんのこと、社会人になってからも必要なものです。積極的に課題に取り組み、実践的な能力を身につけるよう務めましょう。
担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）
備考	前もって教科書の該当箇所をしっかり読んでから講義にのぞむこと。 返却された小テストはしっかりと復習すること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	日本語能力開発Ⅰ	科目名（英文）	Development of Japanese Language Ability I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	学籍番号下３桁 141～210
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	澤野　加奈
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1508a3		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する力」を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 文章の書き方１	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	―――
2	文章の書き方２	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
4	【課題１】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	これまでの復習
5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	前回の復習
6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	前回の復習
7	フィードバック	課題１のフィードバック	課題１を見直す
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	前回の復習
10	引用の復習 意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
11	【課題２】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	これまでの復習
12	レポートの書き方１・２	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	前回の復習
13	フィードバック	課題２のフィードバック	課題２を見直す
14	【 レポート 】	レポートを提出する	レポートを作成する
15	レポートの講評 小テストの復習	レポートについて講評する 小テストの復習テスト	これまでの復習 小テストの復習

関連科目	キャリアデザイン

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学　日本語文章表現の会	和泉書院
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題２回（20%×2）、レポート（30%）、授業に取り組む姿勢・小テスト（30%）により総合的に評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期３号館２階/後期７号館２階）
備考	事前・事後学習の総時間の目安は、１５時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。

科目名	日本語能力開発Ⅱ	科目名（英文）	Development of Japanese Language Ability II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	筒井　大祐
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1509a3		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活で必要な文章力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い、まとめた内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、グループワーク、プレゼンテーションなどの課題に取り組む。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 レポートの書き方（1）	授業の目的、進め方の説明 レポートの基本的ルール・構成の復習	1時間の事前事後学習を目安とする。
2	レポートの書き方（2）	資料引用の復習（文章の引用） 考察・意見の述べ方を確認する	1時間の事前事後学習を目安とする。
3	レポートの書き方（3） 敬語の基礎	資料引用の復習（図表の引用） 敬語の種類と用法を学ぶ	1時間の事前事後学習を目安とする。
4	【課題1】レポート	資料を引用して意見を述べる文章を書く	1時間の事前事後学習を目安とする。
5	課題1のフィードバック（1） ディスカッションの準備（1）	課題1のフィードバック ディスカッション資料の要約や問題点の整理を行う。	ディスカッションの準備。 1時間の事前事後学習を目安とする。
6	課題1のフィードバック（2） ディスカッション（1）	課題1のフィードバック グループ分けをしてディスカッションを行う	ディスカッションの準備。 1時間の事前事後学習を目安とする。
7	課題1のフィードバック（3） ディスカッション（2） プレゼンテーションの準備（1）	課題1のフィードバック プレゼンテーション資料の作成を行う	プレゼンテーションの準備。 1時間の事前事後学習を目安とする。
8	課題レポート2（以下、対面講義）	ディスカッションした内容をレポートにまとめる。	レポートの準備。 1時間の事前事後学習を目安とする。
9	【プレゼンテーション(1)】	グループごとにプレゼンテーションを行う	他のグループの発表資料を分析しておく。 1時間の事前事後学習を目安とする。
10	【プレゼンテーション(2)】	グループごとにプレゼンテーションを行う	他のグループの発表資料を分析しておく。 1時間の事前事後学習を目安とする。
11	【課題2】経過のまとめ 課題2の添削	ディスカッションの経過を箇条書きでまとめる 課題2を添削して返却する	ディスカッションの復習。 1時間の事前事後学習を目安とする。
12	【課題3】レポート	発表の内容をレポート形式でまとめる	これまでの復習。1時間の事前事後学習を目安とする。
13	課題3のフィードバック（1） 敬語の復習	課題3のフィードバック 敬語の練習問題を解く	レポートの書き方の復習 敬語の復習
14	課題3のフィードバック（2） 敬語の復習	課題3のフィードバック 敬語の練習問題を解く	レポートの書き方の復習 敬語の復習
15	課題3のフィードバック（3） 【復習テスト】	課題3のフィードバック 小テストの復習テスト	レポートの書き方の復習 小テストの復習

関連科目：すべての授業の日本語による課題作成

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学　日本語文章表現の会	和泉書院
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題3回（20%、20%、30%）、授業に取り組む姿勢・小テスト（30%）により総合的に評価する。課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語（話し言葉）と、レポートなどで書く日本語（書き言葉）は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語（話し言葉、書き言葉）と向き合ってください。
担当者の	非常勤講師室

研究室等	
備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回１時間程度はかけること。 フィードバックは、講義内で行う。

科目名	日本語能力開発Ⅱ	科目名（英文）	Development of Japanese Language Ability II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	南谷　静香
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1509a3		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活で必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。３回の課題を提出する。 課題未提出の場合は、単位の取得が認められないので注意すること。プレゼンテーション不参加の場合は単位の取得を認めない。必ず参加すること。
科目学習の効果（資格）	大学生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入	授業の目的、進め方の説明	―――
2	レポートの書き方１	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
3	レポートの書き方２	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
4	【課題１】 資料を引用して、意見を述べる	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	これまでの復習
5	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	敬語の復習
6	手紙の書き方	手紙の書式・用語・マナーを学ぶ	手紙の復習
7	手紙を書く 課題１フィードバック	手紙文の作成 課題１のフィードバック	課題１を見直す
8	ディスカッション準備	ディスカッションの前に個人の意見をまとめる。※対面で実施。	ディスカッションの準備テーマの下調べ
9	ディスカッション	グループ分けとディスカッションを行う。※対面で実施。	ディスカッション報告文の準備 プレゼンテーション資料の準備
10	課題２ ディスカッションの報告	ディスカッションの報告文を書く。※対面で実施。	ディスカッションの反省
11	プレゼンテーション準備	プレゼンテーション資料の作成を行う。※対面で実施。	発表の準備
12	プレゼンテーション１	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う。※対面で実施。	発表の準備と反省
13	プレゼンテーション２	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う。※対面で実施。	発表の準備と反省
14	課題③	グループワークの報告文を作成する	報告文の準備
15	課題フィードバック 小テストの復習	課題フィードバック 小テストの復習テスト	課題を見直す

関連科目：キャリアデザイン

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題（２０%、20%、30%）、授業への取り組む姿勢・小テスト・復習テスト（30%）により評価する。 課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。また、グループワークに不参加の場合も単位の取得を認めない。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のために、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回１時間程度はかけること。 授業時間外の質問は、Teams チャットにより対応。

科目名	日本語能力開発Ⅱ	科目名（英文）	Development of Japanese Language Ability II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	澤野　加奈
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1509a3		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活で必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、グループワーク、プレゼンテーション等の課題に取り組む。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 レポートの書き方（1）	授業の目的、進め方の説明	―――
2	レポートの書き方（2）	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
3	【課題１】レポート	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	これまでの復習
4	ディスカッション準備	配布された資料をまとめる	前回の復習
5	フィードバック	課題１のフィードバック	課題１を見直す
6	ディスカッション１	グループ分けとディスカッションを行う	テーマの下調べ
7	ディスカッション２	ディスカッションを行う	前回の復習
8	【課題2】報告文	ディスカッションの経過を文書で報告する	これまでの復習
9	資料作成	プレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
10	フィードバック	課題２のフィードバック	課題２を見直す
11	プレゼンテーション１	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
12	プレゼンテーション２	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
13	【課題３】報告文	プレゼンテーションの内容を文書で報告する	報告文の準備
14	手紙の書き方	手紙の基本とマナーを学ぶ	前回の復習
15	小テストの復習 授業の総括	小テストの復習テスト	小テストの復習

関連科目：ゼミ、卒業研究など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題３回（20%、20%、30%）、授業に取り組む姿勢・小テスト（30%）により評価する。 課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	事前事後学習の総時間の目安は１５時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。

科目名	数的能力開発Ⅰ	科目名（英文）	Development of Arithmetic Ability Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	津村　忠
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JKY2371a1		

授業概要・目的	数的分野（算数・数学）を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。なお、講義では担当講師の 20 年来の人材業界および教育業界での業務において数的能力を活用してきた経験を元に、基礎から応用力の習得をめざします。 前期は、数的能力の基礎を中心に学習します。算数・数学の基礎知識、公式など、使わないと忘れがちな内容にも取り組みます。中学や高校の授業で数学が嫌い・苦手だったという人の学び直しにも適しています。
到達目標	授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていること。
授業方法と留意点	※本講義はオンラインになります（状況により変化がある場合は事前に Teams にて連絡します） テキストの指定された問題を①自力で解く→②解説を確認して解き方を理解する→③復習する　という流れで取り組みます。 問題に集中して取り組むことで、社会で必要とされる計数能力、論理的思考力がアップします。 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。 後期に開講される数的能力開発Ⅱでは、実践的な内容を扱います。Ⅰ・Ⅱの両科目の履修を推奨しま
科目学習の効果（資格）	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
2	算数・数学の基礎	割合と比	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
3	算数・数学の文章題①	割合の文章題（濃度算・仕事算他）	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
4	算数・数学の文章題②	金銭の文章題（損益算）	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
5	算数・数学の文章題③	速度の文章題（速度算）	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
6	復習①	計数問題の復習	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
7	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
8	思考力が必要な算数･数学①	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
9	思考力が必要な算数･数学②	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
10	思考力が必要な算数･数学③	確率	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
11	思考力が必要な算数･数学④	図表問題①（表の読み取り・資料解釈）	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
12	思考力が必要な算数･数学⑤	図表問題②（表の読み取り・資料解釈）	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
13	思考力が必要な算数･数学⑥	推論①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
14	思考力が必要な算数･数学⑦	推論②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
15	復習②	論理問題の復習	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習

関連科目：数的能力開発Ⅱ、キャリアデザインⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト　40%、中間テスト・最終テスト　50%、SmartSPI　10%
学生へのメッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。 毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週 1 時間程度の予習復習を必ず行ってください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　教育イノベーションセンター
備考	『厳選！数学的リテラシー問題集』をメインテキストに、オリジナル教材を必要に応じて配布します。Smart SPI も利用します。

科目名	数的能力開発Ⅰ	科目名（英文）	Development of Arithmetic Ability Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	山岡　亮太
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JKY2371a1		

授業概要・目的	数的分野（算数・数学）を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。 講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に数的能力を高めていくことを目指します。
到達目標	授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていること。
授業方法と留意点	まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。 なお、履修者数によっては、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行うことがあります。初回の実力テストの結果および本人の希望を考慮してクラス分けを行います。
科目学習の効果（資格）	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習 30分以上を目安とする
2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
3	算数・数学の文章題①	割合の文章題	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
6	算数・数学の文章題④	速度の文章題	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
7	復習①	復習①	今まで学習した問題全てを事前に復習 30分以上を目安とする
8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習 30分～1時間程度を目安とする
9	思考力が必要な算数・数学①	場合の数	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
10	思考力が必要な算数・数学②	集合問題	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
11	思考力が必要な算数・数学③	図表問題	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
12	思考力が必要な算数・数学④	論証問題	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
13	思考力が必要な算数・数学⑤	推理問題	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
14	培った思考力を応用問題に活かす	これまで取り組んできた問題の応用問題	全ての問題を事前に復習 30分以上を目安とする
15	復習②	復習②	全ての問題を事前に復習 30分～1時間程度を目安とする

関連科目：数的能力開発Ⅱ、キャリアデザインⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS出版事業部	PS出版事業部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点　40%、中間テスト・最終テスト　50%、SmartSPI　10%
学生へのメッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。 毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週1時間程度の予習復習を必ず行ってください。
担当者の	7号館3階　教育イノベーションセンター

研究室等	
備考	

科目名	数的能力開発Ⅰ	科目名（英文）	Development of Arithmetic Ability Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	橋本　朗子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JKY2371a1		

授業概要・目的	数的分野（算数・数学）を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。 講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に数的能力を高めていくことを目指します。 前期は、数的能力の基礎を中心に学習します。算数・数学の基礎知識、公式など、使わないと忘れがちな内容にも取り組みます。中学や高校の授業で数学が嫌い、苦手だった人の学びなおしにも適しています。
到達目標	授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていること
授業方法と留意点	【教材提供型】になります。まずは自力で解く→講師による解説→類題を解く、という流れで問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。 授業に集中して臨むことで、社会に必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 毎回異なる無いように取り組むため、講義では扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。 後期に開講される数的能力開発Ⅱでは、実践的な内容を扱います。Ⅰ・Ⅱの両科目の履修を推奨します。 なお、履修者数によっては、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。初回の
科目学習の効果（資格）	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
2	算数・数学の基礎	割合と比	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
3	算数・数学の文章題①	割合の文章題（濃度算。仕事算他）	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題（損益算）	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
5	算数・数学の文章題③	分数の文章題（速度算）	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
6	復習	計数問題の復習	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
7	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
8	思考力が必要な算数･数学①	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
9	思考力が必要な算数･数学②	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
10	思考力が必要な算数･数学③	確率	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
11	思考力が必要な算数･数学④	図表問題①（表の読み取り・資料解釈）	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
12	思考力が必要な算数･数学⑤	図表問題②（表の読み取り・資料解釈）	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
13	思考力が必要な算数･数学⑥	推論①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
14	思考力が必要な算数･数学⑦	推論②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
15	復習②	論理問題の復習	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習

関連科目：数的能力開発Ⅱ、キャリアデザインⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	厳選！数学的リテラシー問題集	ＰＳ出版事業部　数学テキスト編集チーム	ＰＳ出版事業部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「仕事」に使える数学	深沢 真太郎	ダイヤモンド社
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト　４０％、Smart SPI　１０％、中間テスト、最終テスト　５０％
学生へのメッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。 毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週１時間程度の復習を必ず行ってください。
担当者の研究室等	7号館3階　教育イノベーションセンター
備考	2021年度より使用テキストが変わりました。『厳選！数学的リテラシー問題集』をメインテキストに、オリジナル教材も必要に応じて配布します。 Smart SPIも利用します。

科目名	数的能力開発Ⅰ	科目名（英文）	Development of Arithmetic Ability I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	黒木　和雄
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JKY2371a1		

授業概要・目的	数的分野（算数・数学）を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に数的能力を高めていくことを目指します。 前期は、数的能力の基礎を中心に学習します。算数・数学の基礎知識、公式など、使わないと忘れがちな内容にも取り組みます。中学や高校の授業で数学が嫌い・苦手だったという人の学び直しにも適しています。
到達目標	この講義を通じて、学生には授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになることが期待される。
授業方法と留意点	「教材・課題提供型授業」を実施します。 テキストの指定された問題を①自力で解く→②解説を確認して解き方を理解する→③類題を解く　という流れで取り組みます。 問題に集中して取り組むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。 後期に開講される数的能力開発Ⅱでは、実践的な内容を扱います。Ⅰ・Ⅱの両科目の履修を推奨します。 なお、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行い
科目学習の効果（資格）	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習（約1時間）
2	算数・数学の基礎	割合と比	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（約1時間）
3	算数・数学の文章題①	割合の文章題（濃度算・仕事算他）	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（約1時間）
4	算数・数学の文章題②	金銭の文章題（損益算）	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（約1時間）
5	算数・数学の文章題③	速度の文章題（速度算）	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（約1時間）
6	復習①	計数問題の復習	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（約1時間）
7	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習（約2時間）
8	思考力が必要な算数・数学①	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（約1時間）
9	思考力が必要な算数・数学②	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（約1時間）
10	思考力が必要な算数・数学③	確率	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（約1時間）
11	思考力が必要な算数・数学④	図表問題①（表の読み取り・資料解釈）	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（約1時間）
12	思考力が必要な算数・数学⑤	図表問題②（表の読み取り・資料解釈）	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（約1時間）
13	思考力が必要な算数・数学⑥	推論①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（約1時間）
14	思考力が必要な算数・数学⑦	推論②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（約1時間）
15	復習②	論理問題の復習	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（約1時間）

関連科目：数的能力開発Ⅱ、キャリアデザインⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS出版事業部	PS出版事業部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「仕事」に使える数学	深沢 真太郎	ダイヤモンド社
2			
3			

評価方法（基準）	「小テスト 40%」+「中間・期末試験 50%」+「Smart SPI 10%」で成績をつけます。
学生へのメッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。 毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週1時間程度の復習を必ず行ってください。
担当者の研究室等	2号館2階　ラーニングセンター（旧学習支援センター）
備考	『厳選！数学的リテラシー問題集』をメインテキストに、オリジナル教材を必要に応じて配布します。Smart SPI も利用します。

科目名	数的能力開発Ⅱ	科目名（英文）	Development of Arithmetic Ability II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	黒木　和雄
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JKY2372a1		

授業概要・目的	数的分野（算数・数学）を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に数的能力を高めていくことを目指します。 後期は、より実践的な内容で数的能力を高めます。また、実践的な内容に取り組むことで、思考力が高まることも期待されます。
到達目標	この講義を通じて、学生には授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになることが期待される。
授業方法と留意点	第６回までは「教材・課題提供型授業」を実施し、第７回より「対面授業」を実施します。 【第６回までの実施方法】①テキストの指定された問題を自力で解く→②解答解説や解説動画による正誤確認と誤答訂正→③他の問題にチャレンジ（任意）　という流れで取り組みます。 【第７回以降の実施方法】①テキストの問題を解く→②講師が問題を解説・正誤確認と誤答訂正→③小テストで理解度を確認（小テストはMoodleを使用します）　という流れで取り組みます。 問題に集中して取り組むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上す
科目学習の効果（資格）	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習（約１時間）
2	計数問題①	割合と比	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（約１時間）
3	計数問題②	割合の応用問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（約１時間）
4	計数問題③	損益算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（約１時間）
5	計数問題④	速度算①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（約１時間）
6	計数問題⑤	速度算②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（約１時間）
7	総復習①	計数問題復習	今まで学習した問題全てを事前に復習（約２時間）
8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習（約２時間）
9	論理問題①	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（約１時間）
10	論理問題②	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（約１時間）
11	論理問題③	確率	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（約１時間）
12	論理問題④	表の読み取り	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（約１時間）
13	論理問題⑤	推論①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（約１時間）
14	論理問題⑥	推論②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（約１時間）
15	総合テスト	これまでの全範囲	全ての問題を事前に復習（約２時間）

関連科目：数的能力開発Ⅰ、キャリアデザインⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	厳選!数学的リテラシー問題集	PS出版事業部	PS出版事業部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「仕事」に使える数学	深沢 真太郎	ダイヤモンド社
2			
3			

評価方法（基準）	「小テスト 40%」+「中間・期末試験 50%」+「Smart SPI 10%」で成績をつけます。
学生へのメッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。 毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週１時間程度の予習復習を必ず行ってください。
担当者の研究室等	２号館２階　ラーニングセンター（旧学習支援センター）
備考	『厳選!数学的リテラシー問題集』をメインテキストに、オリジナル教材を必要に応じて配布します。Smart SPIも利用します。

科目名	数的能力開発Ⅱ	科目名（英文）	Development of Arithmetic Ability II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	山岡　亮太
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JKY2372a1		

授業概要・目的	数的分野（算数・数学）を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。なお、講義では担当講師の 20 年来の人材業界および教育業界での業務において数的能力を活用してきた経験を元に、基礎から応用力の習得をめざします。 後期は、より実践的な内容で数的能力を高めます。また、実践的な内容に取り組むことで、思考力が高まることも期待されます。
到達目標	授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていること
授業方法と留意点	11 月 5 日より対面授業で実施します。それまではオンデマンドで開講します。指定された問題を自力で解く→解答解説や解説動画による正誤確認と誤答訂正→他の問題にチャレンジ（任意）という流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。問題集に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 対面授業では「問題を解く」⇒「講師より問題の解説」⇒「正誤チェック」の流れで、授業最後の 15 分程度で小テストを実施。理解度を確認します（小テストは Moodle を使用します） 毎回異なる内容
科目学習の効果（資格）	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
2	計数問題①	割合と比	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
3	計数問題②	割合の応用問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
4	計数問題③	損益算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
5	計数問題④	速度算①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
6	計数問題⑤	速度算②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
7	復習①	計数問題復習	今まで学習した問題全てを事前に復習
8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	論理問題①	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
10	論理問題②	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
11	論理問題③	確率	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
12	論理問題④	表の読み取り	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
13	論理問題⑤	推論①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
14	論理問題⑥	推論②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
15	総合テスト	今までの全範囲	全ての問題を事前に復習

関連科目：数的能力開発Ⅰ、キャリアデザインⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト　40%、中間テスト・最終テスト　50%、SmartSPI　10%
学生へのメッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。 毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週 1 時間程度の予習復習を必ず行ってください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　教育イノベーションセンター
備考	Teams コードは、コピー＆ペーストでの入力をオススメします。

科目名	数的能力開発Ⅱ	科目名（英文）	Development of Arithmetic Ability II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	橋本　朗子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JKY2372a1		

授業概要・目的	数的分野（算数・数学）を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。なお、講義では担当講師の 20 年来の人材業界および教育業界での業務において数的能力を活用してきた経験を元に、基礎から応用力の習得をめざします。 後期は、より実践的な内容で数的能力を高めます。また、実践的な内容に取り組むことで、思考力が高まることも期待されます。
到達目標	授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていること
授業方法と留意点	11 月 5 日より対面授業で実施します。それまではオンデマンドで開講します。指定された問題を自力で解く→解答解説や解説動画による正誤確認と誤答訂正→他の問題にチャレンジ（任意）という流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。問題集に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 対面授業では「問題を解く」⇒「講師より問題の解説」⇒「正誤チェック」の流れで、授業最後の 15 分程度で小テストを実施。理解度を確認します（小テストは Moodle を使用します） 毎回異なる内容
科目学習の効果（資格）	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
2	計数問題①	割合と比	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
3	計数問題②	割合の応用問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
4	計数問題③	損益算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
5	計数問題④	速度算①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
6	計数問題⑤	速度算②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
7	復習①	計数問題復習	今まで学習した問題全てを事前に復習
8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	論理問題①	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
10	論理問題②	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
11	論理問題③	確率	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
12	論理問題④	表の読み取り	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
13	論理問題⑤	推論①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
14	論理問題⑥	推論②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
15	総合テスト	今までの全範囲	全ての問題を事前に復習

関連科目：数的能力開発Ⅰ、キャリアデザインⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト　40%、中間テスト・最終テスト　50%、SmartSPI　10%
学生へのメッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。 毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週 1 時間程度の予習復習を必ず行ってください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　教育イノベーションセンター
備考	Teams コードは、コピー＆ペーストでの入力をオススメします。

科目名	数的能力開発Ⅱ	科目名（英文）	Development of Arithmetic Ability II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	津村　忠
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JKY2372a1		

授業概要・目的	数的分野（算数・数学）を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。なお、講義では担当講師の 20 年来の人材業界および教育業界での業務において数的能力を活用してきた経験を元に、基礎から応用力の習得をめざします。 後期は、より実践的な内容で数的能力を高めます。また、実践的な内容に取り組むことで、思考力が高まることも期待されます。
到達目標	授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていること
授業方法と留意点	11 月 4 日以降は対面形式で実施します。指定された問題を自力で解く→講師が問題を解説→正誤確認と誤答訂正という流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。また、授業最後の小テストで理解度を確認します。(小テストは Moodle を使用します) 毎回異なる内容に取り組むため、取り上げた問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。 後期に開講される数的能力開発Ⅱでは応用力が必要となる実践的な内容を扱います。Ⅰ・Ⅱの両科目の履修を推奨します。 なお、前期同様に 2 回目以降の授業
科目学習の効果（資格）	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習（約１時間）
2	計数問題①	割合と比	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約１時間）
3	計数問題②	割合の応用	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約１時間）
4	計数問題③	損益算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（約１時間）
5	計数問題④	速度算	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約１時間）
6	論理問題①	集合	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約１時間）
7	総復習①	総復習①	計数問題全範囲の復習（約２時間）
8	中間テスト	中間テスト	計数問題全範囲の復習（約２時間）
9	論理問題②	場合の数	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約１時間）
10	論理問題③	確率	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約１時間）
11	論理問題④	表の読み取り・資料解釈①	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約１時間）
12	論理問題⑤	表の読み取り・資料解釈②	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約１時間）
13	論理問題⑥	推論①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（約１時間）
14	論理問題⑦	推論②	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約１時間）
15	総合テスト	これまでの全範囲	全範囲の復習（約２時間）

関連科目：数的能力開発Ⅰ、キャリアデザインⅡ、就職実践基礎

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	「小テスト 40%」「中間テスト・最終テスト 50%」「SmartSPI 10%」
学生へのメッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、どんなことでも遠慮なく質問してください。 毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週 1 時間程度の予習復習を必ず行ってください。
担当者の研究室等	2 号館 2 階　ラーニングセンター
備考	所属クラスごとに Teams および Moodle の登録先が異なります。 クラス確定後に所属先を連絡しますので再登録を行ってください。

科目名	コミュニケーション能力開発	科目名（英文）	Development of Communication Ability
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	津村　忠
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1512a3		

授業概要・目的	社会で必要なコミュニケーションスキルを習得するための授業です。読む・書く・話す・聴くの４技能は常に求められるスキルですが、それらは「技術」として認識し、訓練することによってより実践的なものに高めることが可能です。この授業では毎回「こちらの意図を的確に伝える」技術や「相手の意図を十分に理解する」技術、すなわち「話す」「聴く」技術を高める練習をします。普段、ディスカッションをしたり、プレゼンテーションを練習する機会はあまりありません。講義を通じてこれら社会で求められる力を身につけたい人は受講をお勧めします。 講師陣は航空業界で多種多様な価値観触れた経験や、様々な業界で実務経験を持ち、「話す」「聴く」技術を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使えるコミュニケーション能力の獲得を目指します。
到達目標	高度なコミュニケーションスキルを身につけることを目標とします。具体的には社会活動において、自らが望む相応の結果を出すためのスキルを身につけることが目標です。 SDGs4 SDGs10
授業方法と留意点	授業は理論と実践で構成されています。コミュニケーション能力は理論を知ったうえで、アウトプットする訓練が必要です。実践については授業の性質上、ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーションになることもあります。対面時は必ずマスク着用、適度な距離を保つことに留意してください。 基本はオンライン（同時双方向)、状況や授業テーマによっては対面になることもあります。情報は Microsoft Teams に発信しますので、必ず確認するようにしてください。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	コミュニケーションとは	コミュニケーションの本質を考える。	シラバス熟読
2	傾聴力、質問力を高める	聴くための技術の基本的な方法と聞いた内容を深めるための質問方法について学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること(目安：30 分)。
3	ロジカルコミュニケーション	論理的に会話するための基礎を学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること(目安：1 時間)。
4	コミュニケーションの技法	相手により伝わるための非言語コミュニケーションについて学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること(目安：1 時間)。
5	プレゼンテーション①	プレゼンテーションの基礎について学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること(目安：1 時間)。
6	プレゼンテーション②(個人プレゼン準備)	プレゼンテーションを実践する。	講義内容を復習し、実践すること(目安：1 時間)。
7	プレゼンテーション③(個人プレゼン完成)	プレゼンテーション発表。 ※評定あり	講義内容を復習し、各自プレゼンテーションの準備とシナリオ準備すること(目安：2 時間)。
8	言語理解①	社会で必要とされる言語理解の基礎について学ぶ。	今までの範囲を復習しておくこと(目安：30 分)。
9	言語理解②	社会で必要とされる言語理解の応用について学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること(目安：30 分)。
10	言語理解③	社会で必要とされる言語理解の基礎と応用の演習問題を解く。 ※評定あり	講義内容を復習し、実践すること(目安：1 時間)。
11	グループディスカッション①	グループディスカッションの基礎について学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること(目安：30 分)。
12	グループディスカッション②	グループディスカッションの演習（基本編）で学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること(目安:30 分)。チームで実践を行う（目安:1 時間)。
13	面接技術	個人での面接技術のポイントを学ぶ ※評定あり	講義内容を復習し、実践すること(目安：30 分)。個人で実践を行う(目安：1 時間)。
14	ダイバーシティ・コミュニケーション	多様性社会の中、望まれるコミュニケーションスキルを学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること(目安：2 時間)
15	総合演習	これまで実施した授業の内容を踏まえ、自分を的確に且つ効果的に表現すること学び、実践する。 ※評定あり	全ての範囲を確認しておくこと(目安：2 時間)

関連科目	キャリアデザインⅡ、数的能力開発

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	毎回の小レポート３０点、プレゼンテーション発表１５点、言語理解２０点、グループデイスカッション１０点、 総合演習２５点
学生へのメッセージ	人間は「社会的動物」です。他者との関係の中で生きていかねばなりません。他者との関係性を良好に保つことは、豊かな人生を送るための重要な条件になります。そのために求められるものが「コミュニケーション能力」と言われており、これはビジネスシーンにおいても同様です。コミュニケーションを楽しみながら、適切に行えるようになっていきましょう。
担当者の	

研究室等	
備考	基本は授業テーマによって対面とオンラインを切り替えながら進めます。 国・大阪府の要請、学校方針により変更の可能性ありがありますので、常にHPやTeamsをチェックするようにしてください。 現段階（4月中旬）での予定は以下の通りです。 対面回：第1回、6回、7回、12回、13回、15回 オンライン回：第2回、3回、4回、5回、8回、9回、10回、11回、14回

科目名	ビジネスマナーⅠ	科目名（英文）	Bisiness Manner Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	江頭　麻里
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1513a3		

授業概要・目的	ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。 企業等のビジネス組織において積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性とそれを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。 実務経験者として、対人技能やコミュニケーションスキルの重要性を伝え、また経営士としての観点から人間関係について話をします。
到達目標	クリエイティブなビジネスパースンとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求し、「わかることからできること」への一致を目標とする。
授業方法と留意点	配布する資料をもとに授業を展開する。毎回、事前学修・事後学修課題の提出があるのできちんと取り組むこと。
科目学習の効果（資格）	社会人としての第一歩を踏み出すための素養が身に付く。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション ーあいさつの重要性(理論と実践)	・授業のオリエンテーション ・授業のルール ・あいさつの真の意味とは ・正しい基本姿勢を学ぶ	・事前学修：ビジネスマナーとは何かを考える。 ・事後学修：ビジネスマナーの意義とは何か、400字でまとめる。
2	仕事の進め方と組織活動	・定型業務と非定型業務 ・コスト意識とエコ活動 ・仕事の基本の８つの意識 ・話し方と聞き方	・事前学修：仕事の基本の８つの意識について調べる。 ・事後学修：仕事の取り組み方の基本は何か、まとめる。
3	目標設定と PDCA サイクル	・目標設定（MBO） ・PDCA とは ・チームと個人の役割	・事前学修：PDCA について調べる。 ・事後学修：あなたの日常生活における MBO とと PDCA を考え、まとめる（400 字以上）。
4	スケジュールと出張業務	・スケジュールの作り方 ・業務としての出張-YTT 方式-	・事前学修：あなたの１週間予定表を作成する。 ・事後学修：あなたの予定表を作成提出し、改善点をまとめる。
5	ビジネスの場での敬語表現	・基本的な敬語表現の復習 ・ビジネスの場での使用方法-TPO をもとに-	・事前学修：敬語プリント①をする。 ・事後学修：ケーススタディプリントをする。
6	電話応対	・ビジネスフォンの扱い方 ・5W2H から 6W3H へ ・簡潔メモの作り方 ・不在処理と伝言	・事前学修：電話応対プリントをする。 ・事後学修：ロールプレイングを繰り返す。
7	来客応対	・組織図と対応 ・簡単な応対から不在処理や重複処理まで ・名刺交換	・事前学修：来客応対プリント①をする。 ・事後学修：来客対応プリント②をする。
8	ホウ・レン・ソウ	・ビジネスにおける「報連相」 ・指示の受け方 ・業務の優先順位	・事前学修：報告・連絡・相談の重要性について調べる ・事後学修：ロールプレイングを繰り返す。敬語プリント②をする。
9	ビジネス文書の基本①	・社外文書が基本 ・商取引文書と社交文書の相違 ・社内文書と社外文書の種類 ・ファイリング	・事前学修：ビジネス文書始める前にをする。 ・事後学修：ビジネス文書②をする。
10	ビジネス文書の基本②	・実践	・事前学修：ビジネス文書③をする。 ・事後学修：ビジネス文書④をする。
11	ビジネス通信の基本	・通信手段（電子メール、ファックス等）の選択 ・作成上の注意点 ・郵便・宅配便の知識	・事前学修：郵便の知識プリント①をする。 ・事後学修：メール文書を作成する。
12	法的業務	・押印と印鑑の意味 ・内容証明 ・個人情報保護（P マーク） ・コンプライアンス	・事前学習：コンプライアンスについて調べる。 ・事後学修：個人情報保護法についてレポートを作成する（400 字以上）。
13	設営の基本	・YTT 方式からの業務遂行 ・確認の必要性 ・他部署とのコミュニケーションの必要性	・事前学修：同窓会幹事として同窓会を開くことを想定し、おこなうべきことをまとめる。 ・事後学修：設営事例をまとめる。
14	慶弔と贈答	・慶弔時の基本的マナー ・「式」について ・業務としての贈答	・事前学修：慶弔・贈答プリント①をする。 ・事後学修：ビジネス文書（社外社内）、郵便の知識、慶事のマナーのポイントをまとめる。
15	協働とコミュニケーション	・外国人同僚・異文化への対応 ・働き方とキャリア開発 ・公共の場でのマナー	・事前学修：ビジネス実務能力を身に付け、グローバル社会へ対応していく決意を示す。 ・事後学修：全体をまとめる。

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	複数回のレポート（50%）、期末試験課題（50%）を総合的に判断する。
学生への メッセージ	近年、企業等のビジネス組織では、かつての新入社員研修のような研修制度を充実できるほどの経済的・時間的余裕がなくなった。しかしながら、企業等のビジネス組織ではみなさんの「ビジネス実務能力」が問われている。それは一時的な能力ではなく、学生時代から培うことのできる能力や資質であり、みなさんが意識を変え、学ぶことによって、「わかることからできること」の一致の重要性が理解され、社会人としての第一歩を築くことも可能となる。
担当者の 研究室等	7 号館 5 階　キャリア教育推進室（石井）
備考	予習・復習に毎回２時間以上取り組むこと。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とする。

科目名	ビジネスマナーⅡ	科目名（英文）	Bisiness Manner II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	奥田　和子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1514a3		

授業概要・目的	企業等のビジネス組織においての積極的なコミュニケーションや人間関係調整の必要性をビジネスマナーの視点から考え、ビジネス実務能力とは何かを理解する。 社会生活におけるマナーの重要性を認識し、社会人としての基礎であるビジネス実務能力を養う。 ホテル実務経験者として、対人技能やコミュニケーションスキルの重要性を伝え、また経営士としての観点から人間関係について話をします。
到達目標	社会人としてのコミュニケーション能力（非言語ならびに言語能力）とビジネス実務能力の向上を図ることである。
授業方法と留意点	配布する資料をもとに授業を展開する。毎回、事前学修・事後学修課題の提出があるのできちんと取り組むこと。
科目学習の効果（資格）	ビジネス実務能力が身に付く。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ビジネスマナーからビジネス実務へ	・授業のオリエンテーション ・ビジネスにおける最低限のルール確認 ・ビジネス用語の基本	・事前学修：ビジネスマナーⅠを受講した学生は学んだことを復習する。 受講していない学生は自身のマナーについて考える。 ・事後学修：オリエンテーション内容についてレポートを作成する。
2	正しい姿勢と動作	・第一印象の重要性の確認 ・姿勢のワンポイントアドバイス	・事前学修：自身の第一印象の良い点、改善すべき点をメモする。 ・事後学修：第一印象の重要性についてレポートを作成する。
3	PDCA サイクルと YTT 方式	・PDCA サイクルの重要性 ・YTT 方式の活用法	・事前学修：日常において段取りが悪かった事例の内容を６W３H でまとめる。 ・事後学修：その改善点を考え、記録する。
4	アサーティブな自己表現	・自分の意思を伝える方法 ・ロールプレイング	・事前学修：日常において伝えたくても伝えられなかった内容を思い出し、メモする。 ・事後学修：相手に理解される伝え方についてレポートを作成する。
5	敬語表現と逆説得	・敬語の復習とビジネスにおける「NO」の伝え方	・事前学修：テキスト内の敬語に関する項目を完成する。 ・事後学修：逆説得をまとめ、レポートを作成する。
6	環境プロデューサーとしての言動と「誠意」 ユニバーサルマナー	・相手の適切な言動を引き出す環境づくりから、空間的及び心理的距離からみえる「誠意」とは何かの考察 ・相手の立場を考えたユニバーサルマナーを考える	・事前学修：「環境プロデューサー」の意味を考え、理解する。 ・事後学修：「誠意」の意味とコミュニケーションにおける距離を理解し、レポートを作成する。
7	「確実・迅速・丁寧」と信頼関係	・信頼関係の構築方法とコミュニケーションを築くキーワード ※対面授業に切り替え	・事前学修：日常生活において「確実・迅速・丁寧」に行動できているか振り返る。 ・事後学修：ビジネスにおいてなぜ「信頼関係」が必要なのか理解し、レポートを作成する。
8	処理業務の基本と応用 クレーム対応	・来客応対、業務処理、重複業務処理と TPO の関係性 ・具体例とその解決手順を考察	・事前学修：TPO 意味を考え、処理業務の事例からその解決手順を考える。 ・事後学修:処理業務に関するレポートを作成する。
9	設営の基本 会議運営方法、プレゼンテーションの方法	・設営業務の基本 ・会議に参加する心構え	・事前学修:会議に参加するための心構えを考える。 ・事後学修：YTT 方式を基に工程表を手直しする。
10	設営の応用とドキュメント作成	・文書処理、ならびにビジネス文書の書き方とファイリング	・事前学修：手順を理解したら、人が集まる会合等を企画・計画する。 ・事後学修：企画文書、開催通知を作成する。
11	ケーススタディ①	・事例研究	・事前学修：自ら優先順位を決め、処理する手順を考える。 ・事後学修：ケーススダティプリント①をする。
12	ケーススタディ②	・事例研究	・事前学修:実務処理能力を高めることを理解する。 ・事後学修：「わかることからできること」に関するレポートを作成する。
13	わかることからできることへ	・必要とされるビジネスマナーおよび実務内容のまとめ	・事前学修：ビジネスマナーの必要性を考える。 ・事後学修：ビジネスマナーを再考し、その必要性を頭の中で理解し、「わかる」という段階から、身体と心の一致である行為を促し、「できる」という実践へ移行させると同時に、自信へと繋ぐ。
14	キャリア開発と自己啓発	・自分で実践するキャリア開発	・事前学修：キャリア開発の必要性は何を意味しているか、将来にとってどのように必要か考える。 ・事後学修：キャリアに関するレポートを作成をする。
15	振り返りとまとめ	・授業の振り返り	・事前学修：ライフプランの中のキャリアプランを立案、評価する。

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ビジネス実務ワーク	石井三恵、他	泉文堂
2			
3			

評価方法 （基準）	毎回のワーク（事前学修、事後学修、小テスト等）(50%)、期末試験レポート課題（50%）を総合的に判断する。 ただし、出席不良者（欠席６回以上）は評価できないことがある。
学生への メッセージ	ビジネスの基本は、幼いころから家庭や学校で学んだことの延長線上にあります。決して初めて学ぶことではありません。 だれもが過去に成功体験や失敗体験を数多く持っおり、それを振り返ることから始まります。 まずは、TPO を考え、自分の言動を意識してみましょう。
担当者の 研究室等	7 号館 5 階　キャリア教育推進室（石井）
備考	予習・復習に毎回２時間以上取り組むこと。 レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とする。

科目名	文学から学ぶ	科目名（英文）	Literature
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松尾　佳津子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JHU1301a1		

授業概要・目的	「最近余り本を読んでいないなぁ」と思っているあなた、でも、本当に読むことがずっとキライでしたか？　若い人たちの活字離れがあれこれ取り沙汰されている昨今ですが、視覚や聴覚に訴える作品とは異なり、文字を通じてしか伝えられない様々な表現や思いがあることを、ぜひ感じてほしいと願っています。現代の流行作品はきっとあなたが一人でも楽しむでしょうから、私はあなたが一人では決して開くことのないような扉を開いて、作品世界を提示しようと思っています。この講座では、俳句・和歌・短歌・詩・歌詞などの韻文作品を中心に扱います。文字作品の新たな魅力を一つでも発見して、あなた自身の言語生活の豊かな糧として下さい。
到達目標	表面的読解にとどまらず、作者の表現内容を読み解くこと。そしてそれを基にして考え、感じること。さらにその考えや思いを文章化すること。読んで「面白かった」で終わるのではなくその思いを言語化することを目標とします。
授業方法と留意点	リモート授業時： 毎回 WebFolder に課題を提示し、それに対する回答を作成して提出していただく形式で授業を進めます。 ＃８以降の対面授業時： 毎回授業中に問を提示し、それに対する回答を小レポートに記入して提出していただく形式で授業を進めます。
科目学習の効果（資格）	「日本語文章能力検定」などの公的資格もありますが、表現やことばに自覚的である感性を養うことが何よりの学習効果でしょう。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	短詩型文学の広がりを概観する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
2	短詩型文学（1）	散文文学との違いを考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
3	短詩型文学（2）	歴史的な流れを考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
4	現代詩（1）	表現の特徴を考える。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
5	現代詩（2）	「歌詞」を素材として考える。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
6	童謡（1）	子供のころに聞き覚えた歌詞を振り返る。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
7	童謡（2）	文学作品として歌詞を考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
8	短歌（1）	表現技法の特徴を考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。 ※この回から対面に変更。
9	短歌（2）	創作の過程を追体験する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
10	短歌（3）	現代の作品と古典作品の感性の差を比較する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
11	俳句（1）	表現技法の特徴を考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
12	俳句（2）	象徴表現の広がりを考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
13	俳句（3）	「俳句」から「ハイク」への広がりを考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
14	韻文の翻訳（1）	翻訳を通じて伝わるものと伝わらないものを考える。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
15	韻文の翻訳（2）	「現代口語表現訳」から見えてくるものを考える。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。

関連科目：こういった方面に興味のある人は、他に「日本語読解」などを学ぶことで、より理解を深めることができるでしょう。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3			

評価方法 （基準）	◇毎回提出する小レポートが出席確認を兼ねます。 ◇最終成績は、毎回の小レポートの回答状況６割と、最終課題の結果４割で判断します。 ◇原則として小レポート提出が半分以下の場合は、最終の成績評価を行いません。
学生への メッセージ	遠いところに自分と同じ考えの人を発見する喜び。近いところに自分の思いも寄らないような発想の人に出会う楽しみ。・・・文学に触れる意味は、この二点に尽きるのではないかと、私は思っています。どうかあなたが「よい出会い」を経験できますように。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	

科目名	日本の歴史	科目名（英文）	History of Japan
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	曽我部　愛
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JHU1306a1		

授業概要・目的	日本史学を含む歴史学は、過去のさまざまな歴史的事象が、いかなる原因によって起こり、先人達がそれにどのように対応をしたかを学び取り、そこから現代社会に起こっている多様な問題を解決するための糸口を考える学問である。 本授業は、上記の前提にもとづき、日本の歴史の基本的な流れを理解することを目的とする。 具体的には原始・古代から現代まで、毎回テーマを絞り込み、随時配布する資料レジュメをもとに講義を行う。 その際、高校の教科書などで通説として理解されている事柄について、歴史学研究の最新の成果を紹介する。
到達目標	歴史を学ぶにあたっては、歴史的事象を、主観的・恣意的にではなく、客観的に捉える視角が必要である。 したがって、本授業を通じて日本の歴史に関する最低限の知識を得たうえで、歴史に対する関心・客観的な考え方、そこから現代社会全体を見通す視角を習得することを目標とする。
授業方法と留意点	教材を配布し、その都度到達度を確認する（数回程度の課題提出を求める）。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	本講義の進め方、評価方法について説明する。 あわせて歴史学を学ぶ意義や、日本史学という学問の特質を提示する。	シラバスを一読してくること。
2	原始・古代(1)：先史・原史時代から歴史時代へ	日本列島への人類の渡来と定住から、弥生時代から古墳時代を経て、ヤマト王権の誕生までの流れを、近年の研究成果をふまえて概観する。	予習：高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「継体天皇」の部分を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
3	原始・古代(2)：古代国家の成立と律令制の展開	朝鮮半島や隋との国際交流に注目しながら、日本における律令国家の成立と展開について説明する。	予習：高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「難波宮・藤原京」の部分を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
4	原始・古代(3)：摂関政治から院政へ	平安時代に始まる政治制度である摂関政治と院政について概観する。また浄土信仰の興隆など文化的側面にも注目する。	予習：高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「平安仏教」の部分を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
5	中世(1)：武家政権の成立と展開	平氏政権・鎌倉幕府という武家政権の歴史的特質について説明する。	予習：高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「源平合戦」の部分を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
6	中世(2)：モンゴル戦争から南北朝内乱へ	初めての大規模な対外戦争であるモンゴル戦争から、いかなる過程を経て幕府滅亡に至るのかを説明する。	予習：高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「建武親政」の部分を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
7	中世 (3)：室町幕府の成立と展開	室町幕府の成立から応仁の乱までの推移と、室町文化の広がりについて概観する。	予習：高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「一揆」の部分を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
8	中世(4)：戦国の争乱と天下人の登場	戦国時代の始まりから織田信長・豊臣秀吉による天下統一までの動向について説明する。	予習：高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「一揆」の部分を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
9	近世(1)：江戸幕府の開創と幕藩体制の展開	その後約 250 年続く江戸幕府の支配体制の成立と対外政策について考える。	予習：高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「島原・天草一揆」の部分を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
10	近世 (2)：江戸幕府の動揺と開国	様々な改革にもかかわらず動揺する幕藩体制と、欧米列強の脅威にさらされた幕末日本の情勢について説明する。	予習：高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「大塩平八郎の乱」の部分を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
11	近世 (3)：幕末の動乱と江戸	攘夷の高まりと倒幕への動き、そして戊	予習：高校・中学校日本史教科書や資料集の該当す

	幕府の終焉	辰戦争への流れを概観する。	る記述・コラム、とくに「戊辰戦争」の部分を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
12	近・現代（1）：明治政府の成立と近代国家への歩み	幕末の内乱を経て成立した明治政府が、どのような過程を経て近代国家への道のりを歩んだのか考える。	予習：高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「文明開化」の部分を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
13	近・現代（2）：対外戦争と近代国家日本	日清・日露戦争を経て本格的に近代国家へ歩み始めた日本が直面した様々な問題について説明する。	予習：高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「関東大震災」の部分を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
14	近・現代（3）第二次世界大戦と日本の行方	欧米列強と比肩した日本が、アジアへの進出を果たそうとして起こった諸外国との戦争と、その?末について考える。	予習：高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「アジア・太平洋戦争」の部分を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
15	近・現代（4）：戦後日本と現代社会	敗戦後の日本の復興と、現代社会へと続く諸問題について考える。	予習：高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「高度経済成長」の部分を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業後の提出物（コメントペーパー・課題等）20% 期末レポート 80%
学生への メッセージ	積極的に日本史を学ぶ意欲を持つ学生の受講を期待します。 授業内の飲食、私語、携帯電話およびスマートフォン・音楽プレーヤー等の使用は厳禁。 その他、他の受講生に迷惑をかける行為を禁止する。これを守れない場合は、受講を認めない場合がある。
担当者の 研究室等	
備考	課題・提出物等のフィードバックは授業内に行う。 質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	世界の歴史	科目名（英文）	History of the World
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	加来　奈奈
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JHU1307a1		

授業概要・目的	本講義では、ヨーロッパの歴史を通じて、過去と現在の変化や諸地域における差異を検討し、現代世界の成り立ちを知るとともに、歴史を通じて現代社会の諸問題に対する批判的まなざしを涵養することを目指す。そのために、ヨーロッパ史の基礎的な知識を習得し、時代や地域の特徴と、現代社会の形成の過程を理解することを目的とする。
到達目標	ヨーロッパの歴史の重要な特徴を説明でき、それを活かして現代社会の問題について能動的に考えることができるようにする。
授業方法と留意点	毎回パワーポイントにもとづいて授業を進め、適宜、資料を配布する。
科目学習の効果（資格）	歴史学に関する基本的な知識を獲得するとともに、現代社会を歴史的視点から読み解く力を養う。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	学問としての歴史学について	（事前）西洋の古代、中世、近世、近代、現代という時代がいつかを調べてくる。
2	中世ヨーロッパ	中世ヨーロッパの社会	（事前）中世ヨーロッパのイメージを書きだす。 （事後）中世の身分と宗教について整理する。
3	中世ヨーロッパ	中世ヨーロッパの王権	（事前）15 世紀までのフランス王とイングランド王について調べてくる。 （事後）中世英仏の年表を作って、これまでのことを整理する。
4	近世とは	・近世の特徴 ・ハプスブルク家 ・地域の反応	（事前）ハプスブルク家について調べてくる。 （事後）近世の特徴を整理する。
5	宗教改革	・ルターの登場 ・プロテスタントの広がり ・対抗宗教改革	（事前）カトリックとプロテスタントの違いを調べる。 （事後）二つの違いを整理する。
6	宗派対立	・ネーデルラントを事例とした宗派対立の様相	（事前）ルーベンスについて調べてくる。 （事後）ヨーロッパの宗派対立と地域の特徴を整理する。
7	イングランドの宗教改革	・テューダー朝の成立 ・ヘンリ８世の改革	（事前）ヘンリ８世について調べてくる。 （事後）イングランドの国教会について整理する。
8	エリザベス１世と国際関係	・エリザベス１世の統治	（事前）エリザベス１世について調べてくる。 （事後）17 世紀ごろのヨーロッパの各国の勢力範囲について整理する。
9	啓蒙時代	・啓蒙思想 ・啓蒙専制君主	（事前）啓蒙という言葉を調べてくる。
10	啓蒙改革（１）	マリア・テレジアの改革	（事前）マリア・テレジアについて調べる。 （事後）啓蒙改革の特徴をまとめる。
11	啓蒙改革（２）	ヨーゼフ２世の改革	（事前）ヨーゼフ２世について調べてくる。 （事後）啓蒙改革の結果について考察する。
12	１９世紀のヨーロッパ	・フランス革命と共和政 ・国民国家 ・１８４８年革命	（事前）ライシテという言葉を調べてくる。（事後）スカーフ問題について考える。
13	ナショナリズムとハプスブルク	・アウスグライヒ ・民族	（事前）この時代の民族とは何かを考えてくる。（事後）東欧諸国の現在の国境を確認する。
14	第一次世界大戦	・戦争の展開 ・戦争と女性 ・戦争と民族	（事前）第一次世界大戦の流れについて確認する。 （事後）第一次世界大戦を通して起きたヨーロッパ社会の変化について考える。
15	総括	・講義全体のまとめ ・現在のヨーロッパの諸問題	（事前）全授業内容を復習しておく。 （事後）歴史を通して、現在の社会を検討する。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学で学ぶ西洋史［古代・中世］	服部良久ほか	ミネルヴァ書房
2	大学で学ぶ西洋史［近現代］	小山哲ほか	ミネルヴァ書房
3			

評価方法（基準）	授業中の課題（小テスト２回を含む）（30%）、期末試験（70%）で評価する。
学生へのメッセージ	高校までの「歴史」は、過去の出来事・事件の年号や偉人の名前を暗記する科目だと思われがちです。しかし、大学で研究する「歴史学」は、歴史の史料や事象を通じて、その背景や理由を多角的に考えることが重要です。ヨーロッパの様々な時代や地域の特徴を学び、その違いや類似性を考察することを通して、現代社会の多様性を理解するための視点を提供できればと思います。
担当者の研究室等	
備考	事前、事後学習に要する総時間は約 60 時間である。 フィードバックは、適宜、授業資料に組み込んで実施する。

	初回の授業はTeamsの会議室を通してオンラインのリアルタイムで行う。

科目名	基礎英語Ⅰa	科目名（英文）	Basic English Ia
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西谷　継治
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1323c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方、予習・復習の内容、成績の基準、受講にあたっての心構えなどについて説明する。また、教科書の構成を紹介する。	教科書前文
2	Unit 1: 103-year-old Italian says 'courage, faith' helped beat virus	単語小テスト及び教科書演習	事前：教科書：P.1-6 単語：NO.1-30 事後：前回単語不合格者 再提出
3	Unit 2: Ichibanya curry receives favorable reaction in India	単語小テスト及び教科書演習	事前：教科書：P. 7-12 単語：NO.21-50 事後：前回単語不合格者 再提出
4	Unit 3:Japan kyogen actor seeks popularity in France	単語小テスト及び教科書演習	事前：教科書：P. 13-19 単語：NO.41-70 事後：前回単語不合格者 再提出
5	Unit 4:Vienna to reward carless travel with tickets	単語小テスト及び教科書演習	事前：教科書：P. 20-24 単語：NO.61-90 事後：前回単語不合格者 再提出
6	Unit 5: New system eyed to reuse EV batteries	単語小テスト及び教科書演習	事前：教科書：P. 25-30 単語：NO.81-110 事後：前回単語不合格者 再提出
7	教科書 Unit 1-5　テスト	Unit 1～5 までの内容について小テストを行う。	Unit 1-5 テスト勉強
8	中間試験解説及び評	演習	事前：単語：NO.101-130 事後：前回単語不合格者 再提出
9	Unit 6: AI Algorithm can produce common cancer diagnoses	単語小テスト及び教科書演習	事前：教科書：P.　31-36 単語：NO.121-150 事後：前回単語不合格者 再提出
10	Unit 7: Osaka University transplants iPS heart cells in world first	単語小テスト及び教科書演習	事前：教科書：P. 37-42 単語：NO.141-170 事後：前回単語不合格者 再提出
11	Unit 8: Foreign visitors' consumer complaints rise	単語小テスト及び教科書演習	事前：教科書：P. 43-48 単語：NO.161-190 事後：前回単語不合格者 再提出
12	Unit 9: Tokyo govt testing reward points for SDG-friendly activities	単語小テスト及び教科書演習	事前：教科書：P. 49-54 単語：NO.181-210 事後：前回単語不合格者 再提出
13	Unit 10: Itochu to launch business to recycle marine plastic	単語小テスト及び教科書演習	事前：教科書：P. 55-60 単語：NO.201-230 事後：前回単語不合格者 再提出
14	教科書　Unit 6-10 復習	単語小テスト及び教科書復習	事前：Unit 6-10 復習 単語：NO.221-248 事後：前回単語不合格者 再提出
15	教科書Unit 6-10 テスト	Unit 6～10 までの内容について小テストを行う。	事前：Unit 6-10 テスト勉強 事後：前回単語不合格者 再提出

関連科目	他の英語科目
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Meet the World : English through Newspaper 2021	Yasuhiko Wakaari	SEIBIDO
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition	NISHIYA Koji	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 （基準）	全学共通英語課題　20% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　80%
学生への メッセージ	この授業では幅広い話題に触れます。身近な話題でも、じっくりと英語で読むと新しい発見があるはずです。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。
担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅰa	科目名（英文）	Basic English Ia
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	籔井　恵美子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1323c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	概要説明	―――	―――
2	Lesson3	代名詞	演習３
3	Lesson4	代名詞	演習４
4	Lesson5	時制	演習５
5	Lesson6	時制	演習６
6	Lesson7	時制	演習７
7	Lesson8	助動詞	演習８
8	Lesson9	助動詞	演習９
9	Lesson10	態	演習１０
10	Lesson11	態	演習１１
11	Lesson12	不定詞	演習１２
12	Lesson13	不定詞	演習１３
13	Lesson3～13	Grammar Point のまとめ	授業の復習
14	総合復習	総合復習	授業の復習
15	プリント教材	TOEIC 演習	―――

関連科目：他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『Mastering Basic English Grammar』	Nagaki Kitayama	成美堂
2	『The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC-Revised Edition-(指定の単語集)』	西谷恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

（全学共通英語課題　２0%
授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　８0%）
オンライン授業を行います。上記の内容は変更します。Moodle でお知らせします。

学生へのメッセージ：予習・復習は大変だと思いますが頑張ってください。

担当者の研究室等：非常勤講師室

備考：毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅰa	科目名（英文）	Basic English Ia
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	俣野　裕美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1323c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた４技能統合型の演習授業を行う。　４技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身に付けること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	（１）大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。　また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。　同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。　また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 （２）PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 （３）学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 3 回を超える欠席(＝オンラインによる課題の未提出)のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法についての説明、実力テスト	事後学習： 実力テストの復習
2	Unit 1: You're Beautiful	・単語テスト ・You're Beautiful をトピックに リスニング、 スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	事前学習： Vocabulary Preview の暗記 事後学習： 文法、発音の確認
3	Unit 2: I Want It That Way	・単語テスト ・I Want It That Way をトピックに リスニング、 スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	事前学習： Vocabulary Preview の暗記 事後学習： 文法、発音の確認
4	Unit 3: The First Time	・単語テスト ・The First Time をトピックに リスニング、 スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	事前学習： Vocabulary Preview の暗記 事後学習： 文法、発音の確認
5	Unit 4: Complicated	・単語テスト ・Complicated をトピックに リスニング、 スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	事前学習： Vocabulary Preview の暗記 事後学習： 文法、発音の確認
6	Unit 5: My Heart Will Go On	・単語テスト ・My Heart Will Go On をトピックに リスニング、 スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	事前学習： Vocabulary Preview の暗記 事後学習： 文法、発音の確認、 中間テストの準備
7	中間テスト	これまで学んだ内容より、中間テスト	事後学習： これまでの授業内容の復習
8	Unit 6: With You	・単語テスト ・With You をトピックに リスニング、 スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	事前学習： Vocabulary Preview の暗記 事後学習： 文法、発音の確認
9	Unit 7: Torn	・単語テスト ・Torn をトピックに リスニング、 スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	事前学習： Vocabulary Preview の暗記 事後学習： 文法、発音の確認
10	Unit 8: You Are Not Alone	・単語テスト ・You Are Not Alone をトピックに リスニング、 スピーキング、 リーディング、	事前学習： Vocabulary Preview の暗記 事後学習： 文法、発音の確認

		ライティング の力を向上を目指す	
11	Unit 9: You Gotta Be	・単語テスト ・You Gotta Be をトピックに リスニング、 スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	事前学習： Vocabulary Preview の暗記 事後学習： 文法、発音の確認
12	Unit 10: How Crazy Are You?	・単語テスト ・How Craze Are You?をトピックに リスニング、 スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	事前学習： Vocabulary Preview の暗記 事後学習： 文法、発音の確認
13	Unit 11: Last Christmas	・単語テスト ・Last Christmas をトピックに リスニング、 スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	事前学習： Vocabulary Preview の暗記 事後学習： 文法、発音の確認
14	Unit 12: Desperado	・単語テスト ・Desperado をトピックに リスニング、 スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	事前学習： Vocabulary Preview の暗記 事後学習： 文法、発音の確認 期末テストの準備
15	期末テスト	これまで学んだ内容より、期末テスト	事前・事後学習 これまでの授業内容の復習

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Let's Learn English with Pop Hits!　(ポップスでスタート！基礎英語)	Teruhiko Kadoyama, Timothy F. Hawthorne	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単 語集)	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法
（基準）

全学共通英語課題　20%
授業への参加、貢献（課題の提出、中間・期末・単語テスト等を含む）80%

学生への
メッセージ

・グループワークを実施する。積極的なグループへの貢献を評価する。
・辞書か電子辞書を必ず持参すること（携帯電話やスマートフォンで代用することは認めない）。
・積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価する。ただし、授業に関係のない行為は以下のような扱いをする。成績が下がるだけでなく、単位の取得に大きな影響を及ぼす。
①私語など授業を妨害するような行為は自動的に欠席とみなす。
②睡眠、携帯やスマートフォンの使用は減点対象。
③許可のない途中退席、テキスト忘れは、原則欠席とみなす。
（原則として欠席を

担当者の
研究室等

非常勤講師室（前期３号館２階、後期７号館２階）

備考

毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅰa	科目名（英文）	Basic English Ia
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	D
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	横内　美和
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1323c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた４技能統合型の演習授業を行う。　４技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身に付けること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法についての説明、実力テスト	事後学習： 実力テストの復習
2	Unit 1: This is my first trip abroad.	・入国審査をトピックに学習 リスニング、 スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	事前学習： Vocabulary Preview でこれから学習する単語をチェック 事後学習： ①リンガポルタを使って復習 ②巻末問題 Let's Review!をする ③単語、重要表現の暗記、対話文の音読 ④文法、発音の確認
3	Unit 2: do you have anything to declare?	・小テスト（単語） ・税関検査をトピックに学習 リスニング、 スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	事前学習： Vocabulary Preview でこれから学習する単語をチェック 事後学習： ①リンガポルタを使って復習 ②巻末問題 Let's Review!をする ③単語、重要表現の暗記、対話文の音読 ④文法、発音の確認
4	Unit 3: How was your flight to Los Angeles?	・小テスト（単語） ・空港での出迎えをトピックに学習 リスニング、 スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	事前学習： Vocabulary Preview でこれから学習する単語をチェック 事後学習： ①リンガポルタを使って復習 ②巻末問題 Let's Review!をする ③単語、重要表現の暗記、対話文の音読 ④文法、発音の確認
5	Unit 4: Are you still feeling tired?	・小テスト（単語） ・ホームステイをトピックに学習 リスニング、 スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	事前学習： Vocabulary Preview でこれから学習する単語をチェック 事後学習： ①リンガポルタを使って復習 ②巻末問題 Let's Review!をする ③単語、重要表現の暗記、対話文の音読 ④文法、発音の確認
6	Unit 5: What are we going to do in the afternoon?	・小テスト（単語） ・語学研修をトピックに学習 リスニング、 スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	事前学習： Vocabulary Preview でこれから学習する単語をチェック 事後学習： ①リンガポルタを使って復習 ②巻末問題 Let's Review!をする ③単語、重要表現の暗記、対話文の音読 ④文法、発音の確認
7	Unit 6: It's called Mountain Grove.	・小テスト（単語） ・ホームステイをトピックに学習 リスニング、 スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	事前学習： Vocabulary Preview でこれから学習する単語をチェック 事後学習： ①リンガポルタを使って復習 ②巻末問題 Let's Review!をする ③単語、重要表現の暗記、対話文の音読 ④文法、発音の確認
8	Unit 7: How would you like your steak?	・小テスト（単語） ・レストランをトピックに学習 リスニング、 スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	事前学習： Vocabulary Preview でこれから学習する単語をチェック 事後学習： ①リンガポルタを使って復習 ②巻末問題 Let's Review!をする ③単語、重要表現の暗記、対話文の音読 ④文法、発音の確認
9	Unit8: How long have you felt this way?	・小テスト（単語） ・病院をトピックに学習	事前学習： Vocabulary Preview でこれから学習する単語をチ

		リスニング、 スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	ェック 事後学習： ①リンガポルタを使って復習 ②巻末問題Let's Review!をする ③単語、重要表現の暗記、対話文の音読 ④文法、発音の確認
10	Unit 9: I think I'm lost.	・小テスト（単語） ・道案内をトピックに学習 リスニング、 スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	事前学習： Vocabulary Preview でこれから学習する単語をチェック 事後学習： ①リンガポルタを使って復習 ②巻末問題Let's Review!をする ③単語、重要表現の暗記、対話文の音読 ④文法、発音の確認
11	Unit 10: do you want me to take your picture?	・小テスト（単語、英文整序問題） ・観光地をトピックに学習 リスニング、 スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	事前学習： Vocabulary Preview でこれから学習する単語をチェック 事後学習： ①リンガポルタを使って復習 ②巻末問題Let's Review!をする ③単語、重要表現の暗記、対話文の音読 ④文法、発音の確認
12	Unit 11: I've lost my phone.	・小テスト（単語） ・遺失物取扱所をトピックに学習 リスニング、 スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	事前学習： Vocabulary Preview でこれから学習する単語をチェック 事後学習： ①リンガポルタを使って復習 ②巻末問題Let's Review!をする ③単語、重要表現の暗記、対話文の音読 ④文法、発音の確認
13	Unit 12: I love roller coasters!	・小テスト（単語） ・遊園地をトピックに学習 リスニング、 スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	事前学習： Vocabulary Preview でこれから学習する単語をチェック 事後学習： ①リンガポルタを使って復習 ②巻末問題Let's Review!をする ③単語、重要表現の暗記、対話文の音読 ④文法、発音の確認
14	Unit 13: Let me introduce my friend	・小テスト（単語） ・ホームパーティをトピックに学習 リスニング、 スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	事前学習： Vocabulary Preview でこれから学習する単語をチェック 事後学習： ①リンガポルタを使って復習 ②巻末問題Let's Review!をする ③単語、重要表現の暗記、対話文の音読 ④文法、発音の確認
15	Unit 14: I'd like to pay by credit card.	・小テスト（単語） ・買い物をトピックに学習 リスニング、 スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	事前学習： Vocabulary Preview でこれから学習する単語をチェック 事後学習： ①リンガポルタを使って復習 ②巻末問題Let's Review!をする ③単語、重要表現の暗記、対話文の音読 ④文法、発音の確認

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Let's Read Aloud & Learn English: Going Abroad	角山　照彦　他	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition -	西谷恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法
（基準）

全学共通英語課題	２０％
課題提出	６０％
単語テスト	２０％

学生への
メッセージ

・グループワークを実施する。積極的なグループへの貢献を評価する。
・辞書か電子辞書を必ず持参すること（携帯電話やスマートフォンで代用することは認めない）。
・積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価する。ただし、授業に関係のない行為は以下のような扱いをする。成績が下がるだけでなく、単位の取得に大きな影響を及ぼす。
①私語など授業を妨害するような行為は自動的に欠席とみなす。
②睡眠、携帯やスマートフォンの使用は減点対象。
③許可のない途中退席、テキスト忘れは、原則欠席とみなす。
（原則として欠席を

担当者の

非常勤講師室（前期３号館２階、後期７号館２階）

研究室等	
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅰa	科目名（英文）	Basic English Ia
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	E
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田村　康子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1323c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Unit 1 : What's Your major?	リーディング、リスニング、スピーキング、文法、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.6-11 練習問題を行うこと。
2	Unit 2 : How do you like your new school?	リーディング、リスニング、スピーキング、文法、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.12-17 練習問題を行うこと。
3	Unit 3 : Let me introduce a new member to you.	リーディング、リスニング、スピーキング、文法、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.18-23 練習問題を行うこと。
4	Unit 4 : How was your Golden Week?	リーディング、リスニング、スピーキング、文法、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.24-29 練習問題を行うこと。
5	Unit 5 : I'm looking for a part-time job.	リーディング、リスニング、スピーキング、文法、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.30-35 練習問題を行うこと。
6	Unit 6 : What do you call this in Japanese?	リーディング、リスニング、スピーキング、文法、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.36-41 練習問題を行うこと。
7	Unit 7:Have you been there?	リーディング、リスニング、スピーキング、文法、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.42-47 復習。
8	復習、臨時テスト	復習と臨時テスト	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。
9	Unit 8 : Could you tell me how to get there?	リーディング、リスニング、スピーキング、文法、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.48-53 練習問題を行うこと。
10	Unit 9 : What do you want me to do?	リーディング、リスニング、スピーキング、文法、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.54-59 練習問題を行うこと。
11	Unit 10 : I'm on a tight budget	リーディング、リスニング、スピーキング、文法、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.60-65 練習問題を行うこと。
12	Unit 11 : What do you think of this program?	リーディング、リスニング、スピーキング、文法、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.66-71 練習問題を行うこと。
13	Unit 12 : I'm reviewing what I studied.	リーディング、リスニング、スピーキング、文法、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.72-77 練習問題を行うこと。
14	Unit 13 : Final exam week is so stressful!	リーディング、リスニング、スピーキング、文法、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.78-83 練習問題を行うこと。
15	復習、臨時テスト	復習と臨時テスト	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。

関連科目：他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Let's Read Aloud & Learn English <On Campus>	Teruhiko Kadoyama, Simon Capper	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題　20% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　80%　なお、遠隔授業の場合は課題提出をもって小テスト等の代替とする。
学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず出席するとともに、予習・復習を必ず行ってください。
担当者の研究室等	非常勤講師室(前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅰa	科目名（英文）	Basic English Ia
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	G
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	有本　好一郎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1323c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた４技能統合型の演習授業を行う。　４技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身に付けること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	（１）大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。　また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。　同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。　また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 （２）PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 （３）学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、TOEIC の説明、英語クロスワードパズルなど	授業の進め方、評価方法、企業が要求するスコアなどを説明	教科書の予習（次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記
2	自己紹介についての文章を通して名詞の学習（固有名詞、複数形など）	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習（今週、次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記
3	家族、ペットについての文章を通して動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習（今週、次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記
4	趣味についての文章を通して主語＋動詞～の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習（今週、次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記
5	大学生活についての文章を通して人称代名詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習（今週、次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記
6	食物についての文章を通して疑問詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習（今週、次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記
7	コンサートについての文章を通して How＋形容詞、副詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習（今週、次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記
8	中間試験	試験後、答え合わせを行い弱点を復習	教科書の予習復習（今週、次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記
9	道案内についての文章を通して助動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習（今週、次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記
10	日本文化についての文章を通して助動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習（今週、次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記
11	ジェスチャーについての文章を通して前置詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習（今週、次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記
12	観光案内についての文章を通して時制の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習（今週、次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記
13	ネットショッピングについての文章を通して進行形の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習（今週、次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記
14	E-mail についての文章を通して数字の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習（今週、次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記
15	9－14回のまとめテストと復習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	まとめテストの準備

関連科目	他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Forerunner to Power-Up English	JACET リスニング研究会	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition （指定の単語集）	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題　20% 課題提出 40%、課題評価 40%で評価を行う。
学生へのメッセージ	英語習得には普段の努力が大切である、通学時に i-Pod 等の録音機、ラジオ番組、コンピューターなどを積極的に活用し学習すること。　英語が得意なら未来が明るくなります。
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期３号館２階、後期７号館２階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅰa	科目名（英文）	Basic English Ia
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	H
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松浦　茂寿
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1323c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業方法、提出物、評価方法についての説明	―――――
2	Unit1	be 動詞、現在	教科書 p.6-9
3	Unit2	一般動詞,、現在	教科書 p.10 - 13
4	Unit3	多様な疑問文	教科書 p.14-17
5	Unit4	be 動詞、過去	教科書 p.18-21
6	Unit5	一般動詞、過去	教科書 p.22-25
7	Unit6	特殊な文	教科書 p.26-29
8	Unit 7	未来形	教科書 p.30-33
9	Unit8	進行形	教科書 p.34-37
10	Unit9	助動詞	教科書 p.38-41
11	Unit10	英文の型	教科書 p.42-45
12	資格、検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、教材を用意する	習った内容は何度も復習して覚えよう
13	資格、検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、教材を用意する	習った内容は何度も復習して覚えよう
14	総合復習１	定期試験対策	教科書など前期範囲一通り
15	総合復習２	定期試験対策	教科書など前期範囲一通り

関連科目：他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	カレッジ英文法入門	大坂四郎	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 学校語彙で学ぶ TOEIC テスト（単語集）　改訂新版	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題　20% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）80% 進行状況により授業内容が変わる場合があります。 オンライン授業中は単語テストはありません。また最後までオンライン授業が続いた場合は課題提出(80%)及び全学共通英語課題(20%)で評価します。
学生へのメッセージ	「明るく、元気で、感動と発見を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。また折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期３号館２階、後期７号館２階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅰa	科目名（英文）	Basic English Ia
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	Ⅰ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ローマン　レンズ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1323c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Course and Textbook Introduction, Unit 1 - What's your name? 1-7	Introducing yourself and friends; saying hello and good-bye	Follow instructions as provided in class.
2	Unit 1 - What's your name? 8-14 + Grammar worksheet unit 1	Asking for names and phone numbers	Follow instructions as provided in class.
3	Unit 2 - Where are my keys? 1-7	Naming objects	Follow instructions as provided in class.
4	Unit 2 - Where are my keys? 8-12 + Grammar worksheet unit 2	Asking for and giving the location of objects	Follow instructions as provided in class.
5	Unit 3 - Where are you from? 1-7	Talking about cities and countries; asking for and giving information about place of origin, nationality, first language, and age	Follow instructions as provided in class.
6	Unit 3 - Where are you from? 8-11 + Grammar worksheet unit 3	Describing people	Follow instructions as provided in class.
7	Video review class, unit 1-3	Reviewing grammar and vocabulary	Follow instructions as provided in class.
8	Unit 4 - Is this coat yours? 1-7	Asking about and describing clothing and colors; talking about the weather and seasons	Follow instructions as provided in class.
9	Unit 4 - Is this coat yours? 8-11 + Grammar worksheet unit 4	Finding the owners of objects	Follow instructions as provided in class.
10	Unit 5 - What time is it? 1-4	Asking for and telling time	Follow instructions as provided in class.
11	Unit 5 - What time is it? 5-10 + Grammar worksheet unit 5	Asking about and describing current activities	Follow instructions as provided in class.
12	Unit 6 - I ride my bike to school 1-5	Asking for and giving information about how people go to work or school; talking about family members	Follow instructions as provided in class.
13	Unit 6 - I ride my bike to school 6-11 + Grammar worksheet unit 6	Describing daily and weekly routines	Follow instructions as provided in class.
14	Video review class unit 4-6	Reviewing grammar and vocabulary	Follow instructions as provided in class.
15	Final class - review unit 1-6	Final review and activity	―――

関連科目：他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Interchange Intro (5th Edition)	Jack C. Richards	Cambridge
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition （指定の単語集）	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）
全学共通英語課題 20%
授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む） 80%

学生への メッセージ	I'm looking forward to teaching you this year. Please participate fully in pair and group work, and enjoy the class. Please join the Teams and Moodle. I will share our Zoom class link in Teams!
担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期３号館２階、後期７号館２階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅰa	科目名（英文）	Basic English Ia
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ブルース　ライリー
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1323c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Course review and orientation		
2	Unit 1	It's nice to meet you.	Homework
3	Unit 1	It's nice to meet you.	Homework
4	Unit 2	Who are they talking about?	Homework
5	Unit 2	Who are they talking about?	Homework
6	Unit 3	When do you start?	Homework
7	Unit 3	When do you start?	Homework
8	Unit 4	Where does this go?	Homework
9	UNit 4	Where does this go?	Homework
10	Unit 5	How do I get there?	Homework
11	Unit 5	How do I get there?	Homework
12	Unit 6	What happened?	Homework
13	Unit 6	What happened?	Homework
14	Review/preparation/quiz		
15	End of term assessment activity		

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Firsthand 1, Fifth Edition	Marc Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown	Pearson
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題　　20% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　80%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	

科目名	基礎英語Ⅰa	科目名（英文）	Basic English Ia
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	木村　紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1323c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、自己紹介 Unit 1 What's your name?	授業の進め方や評価方法などの説明 自己紹介の仕方を、個人・ペア・グループ活動を通して学ぶ	宿題をする
2	Unit 1 What's your name?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を学ぶ	宿題をする
3	Unit 1 What's your name?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を学ぶ	宿題をする
4	Unit 2 I love fashion!	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を学ぶ	宿題をする
5	Unit 2 I love fashion!	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を学ぶ	宿題をする
6	Unit 3 How do you stay healthy?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を学ぶ	宿題をする
7	Unit 3 How do you stay healthy?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を学ぶ	宿題をする
8	Unit 4 How do I get there?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を学ぶ	宿題をする
9	Unit 4 How do I get there?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を学ぶ	宿題をする
10	Unit 4 How do I get there?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を学ぶ	宿題をする
11	Unit 5 What's that?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を学ぶ	宿題をする
12	Unit 5 What's that?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を学ぶ	宿題をする
13	Unit 6 What's your dream?	前回の課題のフィードバックを確認す	宿題をする

	る 個人・ペア・グループ活動を通して、聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を学ぶ		
14	Unit 6　What's your dream?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を学ぶ	宿題をする
15	Unit 6　What's your dream? その他の学習活動	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を学ぶ	宿題をする

関連科目

他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Firsthand (Fifth Edition) Success: Student Book with MyMobileWorld ISBN: 9789813132764	Marc Helgesen, John Wiltsher, & Steven Brown	Pearson
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

全学共通英語課題　20%
授業への参加、貢献（課題・宿題・発表を含む）　80%

学生へのメッセージ

聴く、読む、話す、書く技術を、個人・ペア・グループ活動を通して学ぶので、毎週授業に出席することが重要です。

担当者の研究室等

非常勤講師室（前期３号館２階、後期７号館２階）

備考

毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は学内メールや出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅰb	科目名（英文）	Basic English Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	土田　智佳子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1324c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方、注意事項の説明	事前：シラバスの確認。教科書に目を通しておく。
2	Unit 1 Meeting New People	単語テスト Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 1 を学習する。	事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題
3	Unit 2 School Life	単語テスト Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 2 を学習する。	事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題
4	Unit 3 Seeing a Doctor	単語テスト Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 3 を学習する。	事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題
5	Unit 4 Expressing Yourself	単語テスト Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 4 を学習する。	事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題
6	Unit 5 Getting Around	単語テスト Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 5 を学習する。	事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題
7	Unit 6 Talking about the Time	単語テスト Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 6 を学習する。	事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題・中間テスト勉強
8	中間テスト	Unit 1-6	事後：復習・課題
9	Unit 7 Eating Out	単語テスト Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 7 を学習する。	事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題
10	Unit 8 At the Supermarket	単語テスト Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 8 を学習する。	事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題
11	Unit 9 Hobies	単語テスト Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 9 を学習する。	事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題
12	Unit 10 Shop Till You Drop	単語テスト Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 10 を学習する。	事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題
13	Unit 11 Going on Vacation	単語テスト Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 11 を学習する。	事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題
14	Unit 12 Sports	単語テスト Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 12 を学習する。	事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題
15	まとめテスト	Unit 7-12	事前：まとめテストの勉強

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Live Escalate Book1: Base Camp	角山 照彦　他	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition（指定の単語集）	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題　20% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　80%
学生へのメッセージ	皆さんが社会に旅立つ頃には世界はさらに多様化が進み、海外で働くことや英語を話す同僚と仕事をする機会が増えるでしょう。TOEIC を学習することでビジネスシーンで使われる語彙や表現、取引の仕組みなどを学ぶ事ができます。さあ未来への準備を始めましょう！

担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）
備考	授業や課題について質問がある学生は、学籍番号、名前、クラス名、受講曜日を必ず記入し下記のアドレスに連絡して下さい。 chikako.toda@edu.setsunan.ac.jp 授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ｉｂ	科目名（英文）	Basic English Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	有本　好一郎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1324c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた４技能統合型の演習授業を行う。　４技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身に付けること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	（１）大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。　また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。　同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。　また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 （２）PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 （３）学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、TOEIC の説明、英語クロスワードパズルなど	授業の進め方、評価方法、企業が要求するスコアなどを説明	教科書の予習（次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記
2	自己紹介についての文章を通して名詞の学習（固有名詞、複数形など）	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習（今週、次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記
3	家族、ペットについての文章を通して動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習（今週、次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記
4	趣味についての文章を通して主語＋動詞～の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習（今週、次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記
5	大学生活についての文章を通して人称代名詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習（今週、次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記
6	食物についての文章を通して疑問詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習（今週、次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記
7	コンサートについての文章を通して How＋形容詞、副詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習（今週、次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記
8	中間試験	試験後、答え合わせを行い弱点を復習	教科書の予習復習（今週、次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記
9	道案内についての文章を通して助動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習（今週、次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記
10	日本文化についての文章を通して助動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習（今週、次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記
11	ジェスチャーについての文章を通して前置詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習（今週、次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記
12	観光案内についての文章を通して時制の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習（今週、次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記
13	ネットショッピングについての文章を通して進行形の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習（今週、次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記
14	E-mail についての文章を通して数字の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習（今週、次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記
15	9－14回のまとめテストと復習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	まとめテストの準備

関連科目	他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Forerunner to Power-Up English	JACET リスニング研究会	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition （指定の単語集）	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題　20% 課題提出 40%、課題評価 40%で評価を行う。
学生へのメッセージ	英語習得には普段の努力が大切である、通学時に i-Pod 等の録音機、ラジオ番組、コンピューターなどを積極的に活用し学習すること。　英語が得意なら未来が明るくなります。
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期３号館２階、後期７号館２階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅰb	科目名（英文）	Basic English Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小南　悠
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8〇		
科目ナンバリング	JEN1324c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	毎週 WebFolder にアップロードする講義資料を用いて、演習型の授業を行う。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超えて課題を提出しなかった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義の進め方、評価方法等の説明	単語学習、自己紹介文
2	Unit 1　ナスカの地上絵【ミステリー編】	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題
3	Unit 1　ナスカの地上絵【ミステリー編】	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題
4	Unit 2　ナスカの地上絵【解決編】	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題
5	Unit 2　ナスカの地上絵【解決編】	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題
6	Unit 3　ネス湖とネッシー【ミステリー編】	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題
7	Unit 3　ネス湖とネッシー【ミステリー編】	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題
8	Unit 4　ネス湖とネッシー【解決編】	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題
9	Unit 4　ネス湖とネッシー【解決編】	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題
10	Unit 5　魔のバミューダ海域　【ミステリー編】	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題
11	Unit 5　魔のバミューダ海域　【ミステリー編】	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題
12	Unit 6　魔のバミューダ海域　【解決編】	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題
13	Unit 6　魔のバミューダ海域　【解決編】	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題
14	Unit 7　ヒマラヤの雪男【ミステリー編】	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題
15	Unit 7　ヒマラヤの雪男【ミステリー編】	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	What Really Happened? —World Mysteries Solved—	Frank Bailey 他	開文社出版
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition-（指定の単語帳）	西谷　恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題　20% 課題への取り組み（小テスト、まとめテスト等も含む）　80%
学生へのメッセージ	日々コツコツと学習していけば、英語力は必ず向上します。一緒に楽しみながら学んでいきましょう。
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは随時行う。その他の質問等は学内メールにて対応する。

科目名	基礎英語Ⅰb	科目名（英文）	Basic English Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	D
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	高橋　章夫
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1324c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。 4 技能の基礎力を固めること、 ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。 e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方、評価方法などの説明	特になし
2	Unit 1 "It's the Titanic"	Be 動詞を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
3	Unit 2 "A Floating Palace"	疑問文を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
4	Unit 3 Departure	助動詞を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
5	Unit 4 Iceberg (1)	第１文型と第２文型を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
6	Unit 5 Iceberg (2)	第３文型と第４文型を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
7	Unit 6 Iceberg (3)	進行形を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
8	Unit 7 Lifeboat	受動態を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
9	Unit 8 The Miracle of Philip Aks (1)	第５文型を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
10	Unit 9 The Miracle of Philip Aks (2)	第５文型を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
11	Unit 10 The Miracle of Philip Aks (3)	完了形を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
12	Unit 11 Mr. Smith's "White Lie"	動名詞を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
13	Unit 12 Together until the End of Their Lives (1)	不定詞を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
14	復習、まとめテスト	Unit 1-12 の復習 まとめテスト	予習：Unit 1-12
15	まとめ	まとめテスト返却 解説	復習： 間違った箇所の復習

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	First Voyage 大学基本英文法＆リーディング	木村　啓子 他	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test Revised Edition （指定の単語集）	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題　　２０% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　　80%

学生への メッセージ	毎回文法テーマに沿った問題に取り組みます。簡単な表現を応用することで、様々な場面に対応できる英語力を身につけていきましょう。教科書の問題は基礎レベルの問題ですので、より高度な表現を使用できるように、適宜ハンドアウトを配布します。
担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期３号館２階　後期７号館２階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅰb	科目名（英文）	Basic English Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	E
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田村　康子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1324c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Unit 1 : Personal Correspondence(1)	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.8-13 練習問題を行うこと。
2	Unit 1 : Personal Correspondence(1)	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.8-13 練習問題を行うこと。
3	Unit 2 : Personal Correspondence(2)	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.14-19 練習問題を行うこと。
4	Unit 3 : Biography(1)	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.20-25 練習問題を行うこと。
5	Unit 4 : Biography(2)	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.26-31 練習問題を行うこと。
6	Unit 5 : Events & Festivals	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.32-37 練習問題を行うこと。
7	復習	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.8-37 復習。
8	復習、臨時テスト	復習と臨時テスト	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。
9	Unit 6 : Directions & Locations(1)	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.38-43 練習問題を行うこと。
10	Unit 7 : Directions & Locations(2)	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.44-49 練習問題を行うこと。
11	Unit 8 : Directions & Locations(3)	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.50-55 練習問題を行うこと。
12	Unit 9 : Occupations(1)	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.56-61 練習問題を行うこと。
13	Unit 10 : Occupations(2)	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.62-67 練習問題を行うこと。
14	復習	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.38-67 練習問題を行うこと。
15	復習、臨時テスト	復習、臨時テスト	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。

関連科目：他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Power-Up English<Basic>	JACET リスニング研究会	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題　20% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　80%　なお、遠隔授業の場合は課題提出をもって小テスト等の代替とする。
学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず出席するとともに、予習・復習を必ず行ってください。
担当者の研究室等	非常勤講師室(前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅰb	科目名（英文）	Basic English Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	G
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	石倉　綾乃
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1324c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法	単語学習 教科書の予習
2	Unit 1 be 動詞	読解、文法、リスニング演習	単語学習 教科書の予習,復習
3	Unit 2　一般動詞（現在）	小テスト、読解、文法、リスニング演習	単語学習 教科書の予習,復習
4	Unit 3　一般動詞（過去）	小テスト、読解、文法、リスニング演習	単語学習 教科書の予習,復習
5	Unit 4　進行形	小テスト、読解、文法、リスニング演習	単語学習 教科書の予習,復習
6	Unit 5　未来形	小テスト、読解、文法、リスニング演習	単語学習 教科書の予習,復習
7	Unit 6　助動詞	小テスト、読解、文法、リスニング演習	単語学習 教科書の予習復習
8	中間テスト	前半のまとめと復習テスト	単語学習 教科書の予習,復習
9	Unit 7　名詞・冠詞	小テスト、読解、文法、リスニング演習	単語学習 教科書の予習,復習
10	Unit 8　代名詞	小テスト、読解、文法、リスニング演習	単語学習 教科書の予習,復習
11	Unit 9　前置詞	小テスト、読解、文法、リスニング演習	単語学習 教科書の予習,復習
12	Unit 10　形容詞・副詞	小テスト、読解、文法、リスニング演習	単語学習 教科書の予習,復習
13	Unit 11　比較	小テスト、読解、文法、リスニング演習	単語学習 教科書の予習,復習
14	Unit 12　命令文・感嘆文	小テスト、読解、文法、リスニング演習	単語学習 教科書の予習,復習
15	全体のまとめ	全体の復習とまとめテスト	単語学習 教科書の復習

関連科目：他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Primer〈Revised Edition〉大学生の英語入門〈改訂新版〉	佐藤哲三、愛甲ゆかり	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition-（指定の単 語集）	西谷　恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題　20% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　80%
学生へのメッセージ	英文法の基本を正確におさえ、英語の基礎力を身につけましょう。
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅰb	科目名（英文）	Basic English Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	H
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	金原　真由美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1324c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。4 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 ・授業の始めに単語集の小テスト（3～5 分）テストを行う。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Unit 0　be 動詞と一般動詞	授業の進め方、出欠の扱い、評価方法などについての説明 教科書　Unit 0をする	指定したページの予習（英作文・物語読解）
2	Unit1　否定文 Unit 2	文法解説の後文法問題 「タイタニック号遭難」の読解と exercise	指定したページの予習（英作文・物語読解）
3	Unit3 助動詞	文法解説の後文法問題 「タイタニック号遭難」の読解と exercise	指定したページの予習（英作文・物語読解）
4	Unit4　第 1 文型と第 2 文型	文法解説の後文法問題 「タイタニック号遭難」の読解と exercise	指定したページの予習（英作文・物語読解）
5	Unit5　第 3 文型と第 4 文型	文法解説の後文法問題 「タイタニック号遭難」の読解と exercise	指定したページの予習（英作文・物語読解）
6	Unit6　進行形 Unit7　受動態	文法解説の後文法問題 「タイタニック号遭難」の読解と exercise	指定したページの予習（英作文・物語読解）
7	Unit8　第 5 文型（知覚・認識など）	文法解説の後文法問題 「タイタニック号遭難」の読解と exercise	指定したページの予習（英作文・物語読解）
8	中間テスト Unit9　第 5 文型（使役、許可、願望など）	前半の学習内容の確認 文法解説の後文法問題	中間テストに向けての勉強 指定したページの予習（英作文・物語読解）
9	Unit10　完了形	文法解説の後文法問題 「タイタニック号遭難」の読解と exercise	指定したページの予習（英作文・物語読解）
10	Unit11 動名詞	文法解説の後文法問題 「タイタニック号遭難」の読解と exercise	指定したページの予習（英作文・物語読解）
11	Unit 12　不定詞 1	文法解説の後文法問題 「タイタニック号遭難」の読解と exercise	指定したページの予習（英作文・物語読解）
12	Unit13　不定詞 2	文法解説の後文法問題 「タイタニック号遭難」の読解と exercise	指定したページの予習（英作文・物語読解）
13	Unit 14 分詞	文法解説の後文法問題 「タイタニック号遭難」の読解と exercise	指定したページの予習（英作文・物語読解）
14	Unit 15 名詞節と副詞節	文法解説の後文法問題 「タイタニック号遭難」の読解と exercise	指定したページの予習（英作文・物語読解）
15	期末テスト	後半の学習内容の確認	期末テストに向けての勉強

関連科目　他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	First Voyage from Grammar to Reading	木村啓子・田川憲二郎・Edward R. Howe	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test－Revised Edition--(指定の単語集)	西谷	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3			

評価方法 （基準）	全学共通英語課題(English Central)　20% 授業への参加度(小テスト、質問に対する発言、中間・期末テスト、宿題など) 80%
学生への メッセージ	・英語の構造や語順に重点をおいた教科書です。 ・この教科書は事前学習がしやすいように組まれています。必ず解説を読み、英作文をしてくること。「タイタニック号遭難」を読み、後の問題の答えも自分なりに用意しておくこと。文法の易しい所は進み方が早くなることもあります。 ・Teams はリアルタイムで行います。 ・コロナの感染状況によってはシラバスの予定が多少変わることもある。
担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。

科目名	基礎英語Ⅰb	科目名（英文）	Basic English Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	Ⅰ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ｼﾞｭﾘｱ ｸﾈﾋﾞｳﾞｨｯﾁ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1324c1		

授業概要・目的	英文の理解に必要な英文法の基礎を習得し、簡単な読解能力・語彙力を身につけることを目的とする。 フィードバックや自己分析によってより能力を身につけることも重視致します。
到達目標	基礎英文法の徹底理解を到達目標とする。 学部共通の学習・教育到達目標との対応：[VI]
授業方法と留意点	授業は'Active Participation in Class'（授業への前向きな参加）が大前提である。双方向の全員参加の活発な授業を展開するので、予習が必須で辞書（できれば、紙の英和辞典）は必ず持ってくること。
科目学習の効果（資格）	予習・復習を欠かさず、英語に触れる絶対量を増やせば、文法・読解力の基礎は必ず身につきます。授業目的・計画・方法の説明、受講の心構え、英語学習の方法など統一英単語テスト準備学習

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	授業目的・計画・方法の説明、受講の心構え、英語学習の方法など 統一英単語テスト準備学習	Introduction の予習 英単語復習・予習 単語番号 1-40
2	別プリント 文型	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習	UNIT 11 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習 単語番号 40-80
3	UNIT 11 時点	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習	UNIT 11 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習 単語番号 81-120
4	UNIT 11 時点	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習	UNIT 11 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習 単語番号 121-160
5	UNIT 12 時制	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習	UNIT 12 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習 単語番号 161-200
6	UNIT 12 時制	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習	UNIT 12 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習 小テストの準備
7	小テスト UNIT 13 助動詞	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習	UNIT 13 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習 単語番号 201-240
8	UNIT 13 助動詞	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習	UNIT 13 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習 単語番号 241-280
9	UNIT15 受動詞	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習	UNIT 15 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習 単語番号 281-320
10	UNIT15 受動詞	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習	UNIT 15 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習 単語番号 321-360
11	小テスト UNIT 6 接続詞	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習	UNIT 6 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習 小テストの準備
12	UNIT 6 接続詞	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習	UNIT 6 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習 単語番号 361-400
13	UNIT 7 前置詞と表現	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習	UNIT 7 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習 単語番号 401-438
14	UNIT 7 前置詞と表現	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習	UNIT 7 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習 小テストの準備
15	小テスト 総復習	総合演習・復習 定期試験（後期末）の準備学習 英単語総合復習	定期試験（後期末）の準備 英単語復習

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Grammar for Life	Aaron Calcote　他	線ケージラーニング
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC		成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題　　20% 授業への貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　80%
学生への	There is no royal road to English learning.（英語学習に王道なし）にあるように英語学習に王道（easy way)などありません。英語に触れる

メッセージ	絶対的な量を増やさない限り、英語の力は絶対に伸びません。Slow and（or but）steady wins the race.（急がば回れ）を心に留め、ゆっくりでも着実に学習を続けることです。そうすれば英語の力は必ず上達します。諦めずに頑張ってください。
担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期３号館２階/後期７号館２階）
備考	１．事前・事後学習に、毎回１時間以上かけること。 ２．英単語は e-learning を含めて、毎日、平均１時間は学習すること。 ３．期末試験の準備には、合計２０時間以上かけること。 ４．上記の学習に、「只管筆写」用紙を活用すること（用紙は非常勤講師室にある）。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	基礎英語Ⅰb	科目名（英文）	Basic English Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	下吉　真衣
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1324c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	概要説明 Biology （input 演習）	授業の進め方の説明 発表と解説	授業の復習
2	Biology （output 演習）	発表と解説	授業の予習復習 課題準備
3	Psychology （input 演習）	発表と解説	授業の予習復習 課題準備
4	Psychology （output 演習）	発表と解説	授業の予習復習 課題準備
5	Architecture （input 演習）	発表と解説	授業の予習復習 課題準備
6	Architecture（output 演習）	発表と解説	授業の予習復習 課題準備
7	中間テスト	Biology Psychology Architecture	授業の予習復習 中間テストの準備
8	Literature （input 演習）	発表と解説	授業の予習復習 課題準備
9	Literature （output 演習）	発表と解説	授業の予習復習 課題準備
10	Engineering （input 演習）	発表と解説	授業の予習復習 課題準備
11	Engineering （output 演習）	発表と解説	授業の予習復習 課題準備
12	Education （input 演習）	発表と解説	授業の予習復習 課題準備
13	Education （output 演習）	発表と解説	授業の予習復習 課題準備
14	総復習	総合復習	授業の予習復習 課題準備
15	まとめテスト	Literature Engineering Education	授業の予習復習 まとめテストの準備

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	READ THIS! Intro	Daphne Mackey	CAMBRIDGE UNIVERSITY PRESS
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題　20% 授業への参加、貢献（テストも含む）80% ※詳しくは、Web Folder にある「オンライン授業に関するガイダンス」を参照してください。
学生へのメッセージ	授業はテンポよくリズミカルに進行します。集中力を切らさず一生懸命ついてきてください。
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期３号館２階、後期７号館２階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅰb	科目名（英文）	Basic English Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	東野　厚子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1324c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法等の説明 文法事項等の確認	教科書を必ず準備し、全体に目を通しておくこと
2	UNIT 01 「〈人〉または〈物〉は/が～する」のパターン 第 1 文型をとる動詞と第 3 文型をとる動詞	単語、文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
3	UNIT 02 「〈人〉に〈物〉を～する」のパターン 第 4 文型をとる動詞	単語、文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
4	UNIT 03 人や物を説明しよう(1) 第 2 文型をとる動詞	単語、文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
5	UNIT 04 人や物を説明しよう(2) 第 5 文型をとる動詞	単語、文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
6	UNIT 05 「いつも～している」のパターンと「～した」のパターン 現在時制と過去時制	単語、文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
7	UNIT 06 「これから～するつもりだ」のパターン 未来を表す表現	単語、文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
8	まとめ (1) Unit1－6 復習 中間テスト	前半の既習内容の確認	単語学習 Unit1－6 の復習
9	UNIT 07 「今～している」のパターンと「その時～していた」のパターン 現在進行形と過去進行形	単語、文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
10	UNIT 08 過去のことが現在まで影響する形 現在完了形	単語、文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
11	UNIT 09 「話し手の気持ち」を表す表現 法助動詞 ①	単語、文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
12	UNIT 10 「相手の気持ち」を尋ねる表現 法助動詞 ②	単語、文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
13	UNIT 11 「～すること」を表す 2 種類の形 to 不定詞と動名詞	単語、文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
14	UNIT 12　2 種類の「～すること」の形を区別する方法 「未来」を表す to 不定詞と「現在・過去」を表す動名詞	単語、文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
15	まとめ (2) Unit7－12 復習 期末テスト	後半の既習内容の確認	単語学習 Unit7－12 の復習

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	A Primer of Communication in English	小山政史他	松柏社
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-	西垣恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			

評価方法 （基準）	全学共通英語課題　20% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　80%
学生への メッセージ	外国語学習は、辞書をしっかり引いて書き込むなどの地道な下準備が欠かせません。予習、復習をしっかりしましょう。 積極的な授業参加を期待します。 英和辞書か電子辞書を持参して下さい。
担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期３号館２階、後期７号館２階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室、あるいは学内メールにて対応する。

科目名	基礎英語Ⅱa	科目名（英文）	Basic English IIa
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西谷　継治
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8〇		
科目ナンバリング	JEN1325c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Unit 11: US lets autonomous vehicle bypass human-driver safety rules	単語小テスト及び教科書演習	事前：教科書：　P.61-66 単語：　NO.387-416
2	Unit 12: Hopes growing for lifting of China's ban on Japanese food products	単語小テスト及び教科書演習	事前：教科書：　P.67-72 単語：　NO.397-426 事後：前回単語不合格者 再提出
3	Unit 13: Forming of disaster relief teams by teachers spreads across nation	単語小テスト及び教科書演習	事前：教科書：　P.73-78 単語：　NO.407-436 事後：前回単語不合格者 再提出
4	Unit 14: Space X's historic encore: Astronauts arrive at space station	単語小テスト及び教科書演習	事前：教科書：　P.79-84 単語：　NO.417-446 事後：前回単語不合格者 再提出
5	Unit 15: Lower legal age presents quandary over when to fete start of adulthood	単語小テスト及び教科書演習	事前：教科書：　P.85-90 単語：　NO.427-456 事後：前回単語不合格者 再提出
6	Unit 11-15 総復習	単語小テスト及び教科書演習	事前：単語：　NO.437-466 事後：前回単語不合格者 再提出
7	中間テスト	Unit 11～15 までの内容についてテスト	事前：単語：　NO.447-476 事後：前回単語不合格者 再提出
8	中間試験解説及び評	中間試験の詳しい解説	事前：単語：　NO.457-486 事後：前回単語不合格者 再提出
9	Unit 16: German soccer fails silent as 'ghost games' begin	単語小テスト及び教科書演習	事前：教科書：　P. 91-96 単語：　NO.467-496 事後：前回単語不合格者 再提出
10	Unit 17: Grad student opens fish market to help disaster-hit Fukushima city	単語小テスト及び教科書演習	事前：教科書：　P.97-102 単語：　NO.477-506 事後：前回単語不合格者 再提出
11	Unit 18: Virtual summit: South East Asia leaders meet by video on pandemic	単語小テスト及び教科書演習	事前：教科書：　P.103-108 単語：　NO.487-516 事後：前回単語不合格者 再提出
12	Unit 19: Convenience stores, restaurant chains look into labor cost cuts	単語小テスト及び教科書演習	事前：教科書：　P.109-114 単語：　NO.497-526 事後：前回単語不合格者 再提出
13	Unit 20 : Washington proposes guidelines for regulating the use of AI	単語小テスト及び教科書演習	事前：教科書：　P.115-120 単語：　NO.507-523 事後：前回単語不合格者 再提出
14	Unit16-20 総復習	Unit16-20 総復習	事前：教科書 Unit 16～20 までの　　復習 事後：前回単語不合格者 再提出
15	Unit 16-20 テスト	Unit 16～20 までの内容についてテストを行う	Unit16-20 テスト勉強

関連科目	他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Meet the World : English through Newspaper 2021	Yasuhiko Wakaari	SEIBIDO
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition	NISHIYA Kojo	成美堂
3			

評価方法 （基準）	全学共通英語課題　20% 課題提出状況及び課題の正解率　80%
学生への メッセージ	この授業では幅広い話題に触れます。身近な話題でも、じっくりと英語で読むと新しい発見があるはずです。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅱａ	科目名（英文）	Basic English IIa
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	Ｂ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	籔井　恵美子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1325c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	概要説明	―――	―――
2	Lesson１４	分詞	演習１４
3	Lesson１５	分詞	演習１５
4	Lesson１６	動名詞	演習１６
5	Lesson１７	動名詞	演習１７
6	Lesson１８	形容詞	演習１８
7	Lesson１９	比較	演習１９
8	Lesson２０	比較	演習２０
9	Lesson２１	関係詞	演習２１
10	Lesson２２	関係詞	演習２２
11	Lesson２３	仮定法	演習２３
12	Lesson２４	仮定法	演習２４
13	Lesson１４－２４	Grammar Point の復習	授業の復習
14	総合復習	総合復習	―――
15	プリント教材	TOEIC 演習	―――

関連科目：他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『Mastering Basic English Grammar』	Nagaki Kitayama	成美堂
2	『The 1500 Core Vcabulary for the TOEIC-Revised Edition-(指定の単語集)』	西谷恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題　２0% 授業への参加、貢献（小テスト、授業内のテストを含む）　８0% オンライン授業を行います。上記の内容は変更します。初回授業 Moodle でお知らせします）
学生へのメッセージ	上記の内容は変更する場合があります。変更する場合は初回授業（Moodle）でお知らせします。 予習・復習は大変だと思いますが、頑張ってください。
担当者の研究室等	非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅱa	科目名（英文）	Basic English IIa
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	俣野　裕美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1325c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法について説明、実力テスト	
2	Unit 1: ハンガー・ゲーム 2	単語テスト 『ハンガー・ゲーム２』について ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング を通して学ぶ	予習：指定箇所の課題を解く、音声を聞いて、本文の音読練習 復習：解説資料を読み、ノートまとめ
3	Unit 2: ブルージャスミン	単語テスト 『ブルージャスミン』について ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング を通して学ぶ	予習：指定箇所の課題を解く、音声を聞いて、本文の音読練習 復習：解説資料を読み、ノートまとめ
4	Unit 3: オズ はじまりの戦い	単語テスト 『オズ　始まりの戦い』について ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング を通して学ぶ	予習：指定箇所の課題を解く、音声を聞いて、本文の音読練習 復習：解説資料を読み、ノートまとめ
5	Unit 4: トランス	単語テスト 『トランス』について ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング を通して学ぶ	予習：指定箇所の課題を解く、音声を聞いて、本文の音読練習 復習：解説資料を読み、ノートまとめ
6	Unit 5: エリジウム	単語テスト 『エリジウム』について ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング を通して学ぶ	予習：指定箇所の課題を解く、音声を聞いて、本文の音読練習 復習：解説資料を読み、ノートまとめ、 中間テストの準備
7	中間テスト	これまでの unit の総復習	事後学習： これまでの学習内容の総復習
8	Unit 6: アフター・アース	単語テスト 『アフター・アース』について ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング を通して学ぶ	予習：指定箇所の課題を解く、音声を聞いて、本文の音読練習 復習：解説資料を読み、ノートまとめ
9	Unit 7: ゼロ・グラビティ	単語テスト 『ゼロ・グラビティ』について ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング を通して学ぶ	予習：指定箇所の課題を解く、音声を聞いて、本文の音読練習 復習：解説資料を読み、ノートまとめ
10	Unit 8: イミテーション・ゲーム/エニグマと天才数学者の秘密	単語テスト 『イミテーション・ゲーム/エニグマと天才数学者の秘密』について ・リスニング ・スピーキング ・ライティング	予習：指定箇所の課題を解く、音声を聞いて、本文の音読練習 復習：解説資料を読み、ノートまとめ

		・リーディング を通して学ぶ	
11	Unit 9: ホワイトハウス・ダウン	単語テスト 『ホワイトハウス・ダウン』について ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング を通して学ぶ	予習：指定箇所の課題を解く、音声を聞いて、本文の音読練習 復習：解説資料を読み、ノートまとめ
12	Unit 10: ベイマックス	単語テスト 『ベイマックス』について ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング を通して学ぶ	予習：指定箇所の課題を解く、音声を聞いて、本文の音読練習 復習：解説資料を読み、ノートまとめ
13	Unit 11: サード・パーソン	単語テスト 『サード・パーソン』について ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング を通して学ぶ	予習：指定箇所の課題を解く、音声を聞いて、本文の音読練習 復習：解説資料を読み、ノートまとめ
14	Unit 12: それでも夜は明ける	単語テスト 『それでも夜は明ける』について ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング を通して学ぶ	予習：指定箇所の課題を解く、音声を聞いて、本文の音読練習 復習：解説資料を読み、ノートまとめ、 期末テストの準備
15	期末テスト	これまでの unit の総復習	事後学習： これまでの授業内容の総復習

関連科目

他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Movie English	John S. Lander	朝日出版社
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition-（指定の単 語集）	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

全学共通英語課題 20%
授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む） 80%

学生へのメッセージ

・グループワークを実施する。積極的なグループへの貢献を評価する。
・辞書か電子辞書を必ず持参すること（携帯電話やスマートフォンで代用することは認めない）。
・積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価する。ただし、授業に関係のない行為は以下のような扱いをする。成績が下がるだけでなく、単位の取得に大きな影響を及ぼす。
①私語など授業を妨害するような行為は自動的に欠席とみなす。
②睡眠、携帯やスマートフォンの使用は減点対象。
③許可のない途中退席、テキスト忘れは、原則欠席とみなす。
（原則として欠席を

担当者の研究室等

非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）

備考

毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅱa	科目名（英文）	Basic English IIa
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	D
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	横内　美和
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8〇		
科目ナンバリング	JEN1325c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。5 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 オンライン授業の間は、Teams を用いたリアルタイム・オンライン授業をおこないます。 １１／１以降は対面授業となります。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法について説明、実力テスト	事後学習：実力テストの復習
2	Unit 1: Smokey Bear	小テスト（単語、文法問題） マスコットに込められた意味について学習 ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング の基礎的な学力の向上と定着	事前学習：Reading Passage を一読し、意味が不明確な単語を事前にチェック、ノートにまとめる 事後学習： ①Reading Passage の音読 ②単語、重要表現の暗記 ③文法、発音の確認 ④小テストの予習
3	Unit 2: Overtourism is a Problem!	小テスト（単語、文法問題） 観光公害について学習 ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング の基礎的な学力の向上と定着	事前学習：Reading Passage を一読し、意味が不明確な単語を事前にチェック、ノートにまとめる 事後学習： ①Reading Passage の音読 ②単語、重要表現の暗記 ③文法、発音の確認 ④小テストの予習
4	Unit 3: Gender Equality in the Workplace	小テスト（単語、文法問題） 職場での男女平等について学習する ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング の基礎的な学力の向上と定着	事前学習：Reading Passage を一読し、意味が不明確な単語を事前にチェック、ノートにまとめる 事後学習： ①Reading Passage の音読 ②単語、重要表現の暗記 ③文法、発音の確認 ④小テストの予習
5	Unit 4: Changing Definitions of Beauty	小テスト（単語、文法問題） 移り変わる美の定義について学習 ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング の基礎的な学力の向上と定着	事前学習：Reading Passage を一読し、意味が不明確な単語を事前にチェック、ノートにまとめる 事後学習： ①Reading Passage の音読 ②単語、重要表現の暗記 ③文法、発音の確認 ④小テストの予習
6	Unit 5: Romeo and Juliet	小テスト（単語、文法問題） 観光公害について学習 ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング の基礎的な学力の向上と定着	事前学習：Reading Passage を一読し、意味が不明確な単語を事前にチェック、ノートにまとめる 事後学習： ①Reading Passage の音読 ②単語、重要表現の暗記 ③文法、発音の確認 ④小テストの予習 中間テストの準備
7	Unit 6: Nature and Health	小テスト（単語、文法問題） 自然と健康について学習 ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング の基礎的な学力の向上と定着	事前学習：Reading Passage を一読し、意味が不明確な単語を事前にチェック、ノートにまとめる 事後学習： ①Reading Passage の音読 ②単語、重要表現の暗記 ③文法、発音の確認 ④小テストの予習 中間テスト準備
8	中間テスト	これまでの学習内容の確認と総復習（Unit1～Unit6 まで）	事後学習：これまでの学習内容の復習と確認
9	Unit 7: Golden Years and Silver Divorces	小テスト（単語、文法問題） 熟年離婚について学習 ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング の基礎的な学力の向上と定着	事前学習：Reading Passage を一読し、意味が不明確な単語を事前にチェック、ノートにまとめる 事後学習： ①Reading Passage の音読 ②単語、重要表現の暗記 ③文法、発音の確認 ④小テストの予習
10	Unit 8: Trees: A Gift from	小テスト（単語、文法問題）	事前学習：Reading Passage を一読し、意味が不明

	Nature	樹木と自然について学習 ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング の基礎的な学力の向上と定着	確な単語を事前にチェック、ノートにまとめる 事後学習： ①Reading Passage の音読 ②単語、重要表現の暗記 ③文法、発音の確認 ④小テストの予習
11	Unit 9: Tattoos	小テスト（単語、文法問題） 入れ墨の是非について学習 ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング の基礎的な学力の向上と定着	事前学習：Reading Passage を一読し、意味が不明確な単語を事前にチェック、ノートにまとめる 事後学習： ①Reading Passage の音読 ②単語、重要表現の暗記 ③文法、発音の確認 ④小テストの予習
12	Unit 10: Redefining Gender and Marriage	小テスト（単語、文法問題） 性別と結婚の新たな定義について学習 ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング の基礎的な学力の向上と定着	事前学習：Reading Passage を一読し、意味が不明確な単語を事前にチェック、ノートにまとめる 事後学習： ①Reading Passage の音読 ②単語、重要表現の暗記 ③文法、発音の確認 ④小テストの予習
13	Unit 11: All the lonely People	小テスト（単語、文法問題） 孤独なる人々について学習 ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング の基礎的な学力の向上と定着	事前学習：Reading Passage を一読し、意味が不明確な単語を事前にチェック、ノートにまとめる 事後学習： ①Reading Passage の音読 ②単語、重要表現の暗記 ③文法、発音の確認 ④小テストの予習 期末テストの準備
14	Unit 12: Think Before You Talk, Text, or Tweet	小テスト（単語、文法問題） SNS のマナーについて学習 ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング の基礎的な学力の向上と定着	事前学習：Reading Passage を一読し、意味が不明確な単語を事前にチェック、ノートにまとめる 事後学習： ①Reading Passage の音読 ②単語、重要表現の暗記 ③文法、発音の確認 ④小テストの予習 期末テストの準備
15	期末テスト	これまでの学習内容の確認と総復習 （Unit7～Unit12 まで）	事後学習： これまでの授業内容の総復習と確認

関連科目	他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Changing Times, changing Worlds	Joan McConnell 他	成美堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	全学共通英語課題　２０％ 授業への参加、貢献（小テスト、発表、発言等も含む）　６０％ まとめテスト（中間テスト、期末テスト）　２０％
学生への メッセージ	・グループワークを実施する。積極的なグループへの貢献を評価する。 ・辞書か電子辞書を必ず持参すること（携帯電話やスマートフォンで代用することは認めない）。 ・積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価する。ただし、授業に関係のない行為は以下のような扱いをする。成績が下がるだけでなく、単位の取得に大きな影響を及ぼす。 ①私語など授業を妨害するような行為は自動的に欠席とみなす。 ②睡眠、携帯やスマートフォンの使用は減点対象。 ③許可のない途中退席、テキスト忘れは、原則欠席とみなす。 （原則として欠席を
担当者の 研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅱa	科目名（英文）	Basic English IIa
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	E
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田村　康子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1325c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Unit 1：You're Beautiful	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.6-13 練習問題を行うこと。
2	Unit 2：I Want It That Way	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.14-21 練習問題を行うこと。
3	Unit 3：The First Time	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.22-29 練習問題を行うこと。
4	Unit 4 : Complicated{The Matrix Mix}	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.30-37 練習問題を行うこと。
5	Unit 5：My Heart Will Go On	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.38-45 練習問題を行うこと。
6	Unit 6：With You	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.46-53 練習問題を行うこと。
7	Unit 7:Torn	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.54-61 練習問題を行うこと。
8	復習，　臨時テスト	復習と臨時テスト	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。
9	Unit 8 : You Are Not Alone{Radio Edit}	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.62-69 練習問題を行うこと。
10	Unit 9：You Gotta Be	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.70-77 練習問題を行うこと。
11	Unit 10：How Crazy Are You?	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.78-85 練習問題を行うこと。
12	Unit 11 : Last Christmas[Pudding Mix]	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.86-93 練習問題を行うこと。
13	Unit 12：Desperado	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.94-101 練習問題を行うこと。
14	Unit 13 : All I Want For Christmas is You	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.102-109 練習問題を行うこと。
15	復習，　臨時テスト	復習と臨時テスト	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。

関連科目：他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Let's Learn English with Pop Hits!	Teruhiko Kadoyama, Timothy F. Hawthorne	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題　20% 授業への参加、貢献（臨時テスト、小テスト等も含む）　80%　なお、遠隔授業の場合は課題提出をもって臨時テスト，小テスト等の代替とする。
学生へのメッセージ	授業に関する大切なお知らせが 1 回目 WebFolder に入っています。 必ずご確認ください。 毎回の授業に必ず出席するとともに、予習・復習を必ず行ってください。
担当者の研究室等	非常勤講師室(前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅱa	科目名（英文）	Basic English IIa
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	G
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	有本　好一郎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1325c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。今学期は 1-7 週をオンライン授業、8 週以降は対面授業へ変更する。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、TOEIC の説明、英語クロスワードパズルなど	授業の進め方、評価方法、企業が要求するスコアなどを説明	教科書の予習、クロスワードパズルの暗記
2	機内放送についての文章を通して、天候や時の表現の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
3	空港で放送される文章を通して接続詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
4	ホテルで使われる文章を通して不定詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
5	レストランで使われる文章を通して形容詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
6	買い物で使われる文章を通して頻度を表す副詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
7	野球についての文章を通して比較級の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
8	中間試験	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
9	ミュージカル鑑賞についての文章を通して完了形の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
10	旅行案内についての文章を通して受動態の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
11	問題解決についての文章を通して受動態の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
12	体調不良についての文章を通して分詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
13	電話の会話についての文章を通して動名詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
14	別れの手紙の文章を通してセンスグループの学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
15	9－14回のまとめテストと復習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	まとめテストの準備

関連科目：他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Forerunner to Power-Up English	JACET リスニング研究会	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition （指定の単語集）	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題　20% 教員の評価 80%(小テスト 30%、まとめテスト 50%) で全体の評価を行う。
学生へのメッセージ	英語習得には普段の努力が大切である、通学時に i-Pod 等の録音機、ラジオ番組、コンピューターなどを積極的に活用し学習すること。　英語が得意なら未来が明るくなります。
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期３号館２階、後期７号館２階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅱa	科目名（英文）	Basic English IIa
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	H
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松浦　茂寿
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1325c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	前期の復習及びオリエンテーション	授業方法、提出物、評価方法についての説明	―――
2	Unit11	受動態	教科書 p.46-49
3	Unit12	比較	教科書 p.50 - 53
4	Unit13	完了形	教科書 p.54-57
5	Unit14	不定詞	教科書 p.58-61
6	Unit15	分詞	教科書 p.62-65
7	Unit16	動名詞	教科書 p.66-69
8	Unit 17	節	教科書 p.70-73
9	Unit18	関係代名詞	教科書 p.74-77
10	Unit19	熟語の整理	教科書 p.78-81
11	Unit20	会話文と it の用法	教科書 p.82-85
12	資格、検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、教材を用意する	習った内容は何度も復習して覚えよう
13	資格、検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、教材を用意する	習った内容は何度も復習して覚えよう
14	総合復習１	定期試験対策	教科書など前期範囲一通り
15	総合復習２	定期試験対策	教科書など前期範囲一通り

関連科目：他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	カレッジ英文法入門	大坂四郎	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 学校語彙で学ぶ TOEIC テスト（単語集）　改訂新版	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題　　20% 定期試験　　50% 授業への参加、貢献（提出物、小テスト、まとめテスト等も含む）　30% オンライン授業期間中は単語の小テストは行いません。 11 月 2 週目の 8 回目より対面授業に変わっています。単語帳より単語小テストを行っています。最後まで対面授業が続いた場合は課題提出(オンライン 30%及び対面 15%)、単語テスト(5%)及び授業最終日の復習テスト(30%)に
学生へのメッセージ	「明るく、元気で、感動と発見を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。また折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！
担当者の研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅱa	科目名（英文）	Basic English IIa
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	Ⅰ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ローマン　レンズ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1325c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Course and Textbook Introduction, Unit 7 – Does it have a view? 1-5	Asking about and describing houses and apartments	Follow instructions as provided in class.
2	Unit 7 – Does it have a view? 6-12 + Grammar worksheet unit 7	Talking about the furniture in a room	Follow instructions as provided in class.
3	Unit 8 – Where do you work? 1-6	Asking for and giving information about work	Follow instructions as provided in class.
4	Unit 8 – Where do you work? 7-12 + Grammar worksheet unit 8	Giving opinions about jobs; describing workday routines	Follow instructions as provided in class.
5	Unit 9 – I always eat breakfast 1-5	Count and noncount nouns; some and any	Follow instructions as provided in class.
6	Unit 9 – I always eat breakfast 6-11 + Grammar worksheet unit 9	Adverbs of frequency: always, usually, often, sometimes, hardly ever, never	Follow instructions as provided in class.
7	Video review class unit 7 – 9	Reviewing grammar and vocabulary	Follow instructions as provided in class.
8	Unit 10 – What sports do you like? 1-5	Simple present Wh-questions	Follow instructions as provided in class.
9	Unit 10 – What sports do you like? 6-12 + Grammar worksheet unit 10	'Can' for ability; yes/no and Wh-questions with 'can'	Follow instructions as provided in class.
10	Unit 11 – I'm going to have a party 1-7	The future with 'be going to'	Follow instructions as provided in class.
11	Unit 11 – I'm going to have a party 8-12 + Grammar worksheet unit 11	Yes/no and Wh-questions with 'be going to'; future time expressions	Follow instructions as provided in class.
12	Unit 12 – How do you feel? 1-5	'Have' + noun; 'feel' + adjective	Follow instructions as provided in class.
13	Unit 12 – How do you feel? 6-12 + Grammar worksheet unit 12	Negative and positive adjectives; imperatives	Follow instructions as provided in class.
14	Video review class unit 10-12	Reviewing grammar and vocabulary	Follow instructions as provided in class.
15	Final class – review unit 7-12	Final review and activity	Follow instructions as provided in class.

関連科目：他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Interchange Intro (5th Edition)	Jack C. Richards	Cambridge
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む） 80%
学生へのメッセージ	I'm looking forward to teaching you this year. Please participate fully in pair and group work, and enjoy the class.
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅱa	科目名（英文）	Basic English IIa
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ブルース　ライリー
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1325c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Course review and orientation		
2	Unit 7	Do you remember when...?	Homework
3	Unit 7	Do you remember when'''	Homework
4	Unit 8	Let's have a get-together!	Homework
5	Unit 8	Let's have a get-together!	Homework
6	Unit 9	What should I do?	Homework
7	Unit 9	What should I do?	Homework
8	Unit 10	Tell me a story	Homework
9	Unit 10	Tell me a story	Homework
10	Unit 11	In my opinion...	Homework
11	Unit 11	In my opinion...	Homework
12	Unit 12	It's my dream!	Homework
13	Unit 12	It's my dream!	Homework
14	Review/preparation/Quiz		
15	End of term assessment activity		

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Firsthand 1, Fifth Edition	Marc Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown	Pearson
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題　　20% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　80%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	

科目名	基礎英語Ⅱa	科目名（英文）	Basic English IIa
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	木村　紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8〇		
科目ナンバリング	JEN1325c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、自己紹介 Unit 7　It was great!	授業の進め方や評価方法などの説明 聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を、個人・ペア・グループ活動を通して学ぶ	宿題をする
2	Unit 7　It was great!	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を学ぶ	宿題をする
3	Unit 7　It was great!	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を学ぶ	宿題をする
4	Unit 8　How much do you know?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を学ぶ	宿題をする
5	Unit 8　How much do you know?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を学ぶ	宿題をする
6	Unit 9　She can really sing!	小テスト 前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を学ぶ	宿題をする
7	Unit 9　She can really sing!	小テスト 前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を学ぶ	宿題をする
8	Unit 10　What do you like to do?	小テスト 前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を学ぶ	宿題をする
9	Unit 10　What do you like to do?	小テスト 前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を学ぶ	宿題をする
10	Unit 10　What do you like to do?	小テスト 前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を学ぶ	宿題をする
11	Unit 11　Of course you can.	小テスト 前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法	宿題をする

		を学ぶ	
12	Unit 11　Of course you can.	小テスト 前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を学ぶ	宿題をする
13	Unit 12　What happened next?	小テスト 前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を学ぶ	宿題をする
14	Unit 12　What happened next?	小テスト 前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を学ぶ	宿題をする
15	Unit 12　What happened next? その他の学習活動	小テスト 前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を学ぶ	宿題をする

関連科目

他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Firsthand (Fifth Edition) Success: Student Book with MyMobileWorld ISBN: 9789813132764	Marc Helgesen, John Wiltsher, & Steven Brown	Pearson
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

全学共通英語課題　20%
授業への参加、貢献（小テスト・課題・宿題・発表等を含む）　80%

学生へのメッセージ

聴く、読む、話す、書く技術を、個人・ペア・グループ活動を通して学ぶので、毎週授業に出席することが重要です。
学期途中で、新型コロナウイルスの感染状況の改善等により、対面授業になる場合があります。その場合は、利用するＩＣＴツール等で連絡されます。

担当者の研究室等

非常勤講師室（前期３号館２階、後期７号館２階）

備考

毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は学内メールや出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅱb	科目名（英文）	Basic English IIb
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	土田　智佳子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1326c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 ＊授業で使用する教科書、ノートは毎回必ず持参すること。教科書未購入の場合単位認定されないことがあります。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方、評価方法、課題のやり方とその効果について	教科書の予習 次週の単語テスト勉強
2	Unit 1 Occupations	単語テスト Listening、Reading、会話、文法などを Unit 1 と通し学習する。	教科書の予習復習（課題提出） 単語テスト勉強
3	Unit 2 At the Dinner Table	単語テスト Listening、Reading、会話、文法などを Unit 2 と通し学習する。	教科書の予習復習（課題提出） 単語テスト勉強
4	Unit 3 Sports	単語テスト Listening、Reading、会話、文法などを Unit 3 と通し学習する。	教科書の予習復習（課題提出） 単語テスト勉強
5	Unit 4 Health	単語テスト Listening、Reading、会話、文法などを Unit 4 と通し学習する。	教科書の予習復習（課題提出） 単語テスト勉強
6	Unit 5 What's on your Playlist?	単語テスト Listening、Reading、会話、文法などを Unit 5 と通し学習する。	教科書の予習復習（課題提出） 単語テスト勉強
7	Unit 6 At the Movies	単語テスト Listening、Reading、会話、文法などを Unit 6 と通し学習する。	教科書の予習復習（課題提出） 中間テスト勉強
8	中間テスト	Unit 1-6 の復習テスト	教科書の予習復習（課題提出） 単語テスト勉強
9	Unit 7 Technology in Daily Life	単語テスト Listening、Reading、会話、文法などを Unit 7 と通し学習する。	教科書の予習復習（課題提出） 単語テスト勉強
10	Unit 8 Social Network	単語テスト Listening、Reading、会話、文法などを Unit 8 と通し学習する。	教科書の予習復習（課題提出） 単語テスト勉強
11	Unit 9 Looking on the Bright Side	単語テスト Listening、Reading、会話、文法などを Unit 9 と通し学習する。	教科書の予習復習（課題提出） 単語テスト勉強
12	Unit 10 Love Affairs	単語テスト Listening、Reading、会話、文法などを Unit 10 と通し学習する。	教科書の予習復習（課題提出） 単語テスト勉強
13	Unit 11 Storytelling	単語テスト Listening、Reading、会話、文法などを Unit 11 と通し学習する。	教科書の予習復習（課題提出） 単語テスト勉強
14	Unit 12 The Power of words	単語テスト Listening、Reading、会話、文法などを Unit 12 と通し学習する。	教科書の予習復習（課題提出） まとめテスト勉強
15	Review Test	Unit 7-12 の復習テスト	事前学習　復習テスト勉強

関連科目：他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Live Escalate Book 2 : Trekking	角山 照彦　他	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法：全学共通英語課題 20%

（基準）	担当教員の評価 80%
学生への メッセージ	皆さんが社会に旅立つ頃には世界はさらに多様化が進み、海外で働くことや英語を話す同僚と仕事をする機会が増えるでしょう。TOEIC を学習することでビジネスシーンで使われる語彙や表現、取引の仕組みなどを学ぶ事ができます。さあ未来への準備を始めましょう！
担当者の 研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅱｂ	科目名（英文）	Basic English IIb
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	有本　好一郎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1326c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。今学期は 1-7 週をオンライン授業、8 週以降は対面授業へ変更する。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、TOEIC の説明、英語クロスワードパズルなど	授業の進め方、評価方法、企業が要求するスコアなどを説明	教科書の予習、クロスワードパズルの暗記
2	機内放送についての文章を通して、天候や時の表現の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
3	空港で放送される文章を通して接続詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
4	ホテルで使われる文章を通して不定詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
5	レストランで使われる文章を通して形容詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
6	買い物で使われる文章を通して頻度を表す副詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
7	野球についての文章を通して比較級の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
8	中間試験	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
9	ミュージカル鑑賞についての文章を通して完了形の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
10	旅行案内についての文章を通して受動態の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
11	問題解決についての文章を通して受動態の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
12	体調不良についての文章を通して分詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
13	電話の会話についての文章を通して動名詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
14	別れの手紙の文章を通してセンスグループの学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
15	9－14回のまとめテストと復習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	まとめテストの準備

関連科目：他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Forerunner to Power-Up English	JACET リスニング研究会	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition （指定の単語集）	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題　20% 教員評価 80%（小テスト 30%、まとめテスト 50%）で全体の評価を行う。
学生へのメッセージ	英語習得には普段の努力が大切である、通学時に i-Pod 等の録音機、ラジオ番組、コンピューターなどを積極的に活用し学習すること。　英語が得意なら未来が明るくなります。
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期３号館２階、後期７号館２階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅱb	科目名（英文）	Basic English IIb
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小南　悠
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1326c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	第 8 回目の授業以降、対面にて演習型の授業を行う。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超えて授業を欠席した者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義の進め方、評価方法等の説明	単語学習、自己紹介文
2	Unit 8　ヒマラヤの雪男【解決編】	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題
3	Unit 8　ヒマラヤの雪男【解決編】	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題
4	Unit 9　消えた乗組員の謎【ミステリー編】	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題
5	Unit 9　消えた乗組員の謎【ミステリー編】	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題
6	Unit 10　消えた乗組員の謎【解決編】	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題
7	Unit 10　消えた乗組員の謎【解決編】	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題
8	Unit 11　ミイラの呪い【ミステリー編】	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題
9	Unit 11　ミイラの呪い【ミステリー編】	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題
10	Unit 12　ミイラの呪い【解決編】	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題
11	Unit 12　ミイラの呪い【解決編】	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題
12	Unit 13　ディアトロフ峠殺人事件　Part 1	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題
13	Unit 13　ディアトロフ峠殺人事件　Part 1	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題
14	Unit 14　ディアトロフ峠殺人事件　Part 2	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題
15	Unit 14　ディアトロフ峠殺人事件　Part 2	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	What Really Happened? —World Mysteries Solved—	Frank Bailey 他	開文社出版
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition-（指定の単語帳）	西谷　恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題　20% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　80%
学生へのメッセージ	日々コツコツと学習していけば、英語力は必ず向上します。一緒に楽しみながら学んでいきましょう。
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は学内メールにて対応する。

科目名	基礎英語Ⅱｂ	科目名（英文）	Basic English IIb
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	D
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	高橋　章夫
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1326c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。 4 技能の基礎力を固めること、 ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。 e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方、評価方法などの説明	特になし
2	Unit 10 The Miracle of Philip Aks (3)	完了形を中心とした問題に取り組む	教科書の問題の予習復習課題
3	Unit 11 Mr. Smith's "White Lie"	動名詞を中心とした問題に取り組む	教科書の問題の予習復習課題
4	Unit 12 Together until the End of Their Lives (1)	不定詞を中心とした問題に取り組む (1)	教科書の問題の予習復習課題
5	Unit 13 Together until the End of Their Lives (2)	不定詞を中心とした問題に取り組む (2)	教科書の問題の予習復習課題
6	Unit 14 The Californian	分詞を中心とした問題に取り組む	教科書の問題の予習復習課題
7	Unit 15 The Carpathia	名詞節と副詞節を中心とした問題に取り組む	教科書の問題の予習復習課題
8	Unit 16 Radio Officers	分詞構文を中心とした問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
9	Unit 17 Firemen	関係代名詞を中心とした問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
10	Unit 18 Eight Courageous Musicians (1)	関係副詞を中心とした問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
11	Unit 19 Eight Courageous Musicians (2)	関係副詞を中心とした問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
12	Unit 20 Only 705 Survivors	比較を中心とした問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
13	Unit 21 If Only...	仮定法を中心とした問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
14	まとめ１	Unit 10-21 の復習、およびまとめテスト	教科書の問題の予習復習
15	まとめ２	Unit 10-21 の復習、およびまとめテストの解説	教科書の問題の予習復習

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	First Voyage 大学基本英文法＆リーディング	木村　啓子 他	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test Revised Edition （指定の単語集）	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題　20% 毎回の課題　80%
学生へのメッセージ	毎回文法テーマに沿った問題に取り組みます。簡単な表現を応用することで、様々な場面に対応できる英語力を身につけていきましょう。
担当者の研究室等	質問などある場合は Teams のチャット機能で連絡してください。
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は Teams のチャット機能で対応する。

科目名	基礎英語Ⅱｂ	科目名（英文）	Basic English IIb
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	E
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田村　康子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1326c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた４技能統合型の演習授業を行う。　４技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身に付けること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Unit 11 : Instructions	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.68-73 練習問題を行うこと。
2	Unit 11 : Instructions	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.68-73 練習問題を行うこと。
3	Unit 12 : Health & Physical Conditon	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.74-79 練習問題を行うこと。
4	Unit 13 : Service Requests	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.80-85 練習問題を行うこと。
5	Unit 14 : Special Orders	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.86-91 練習問題を行うこと。
6	Unit 15 : Money	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.92-97 練習問題を行うこと。
7	復習	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.68-97 復習。
8	復習，　臨時テスト	復習と臨時テスト	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。
9	Unit 16 : Public Signs	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.98-103 練習問題を行うこと。
10	Unit 17 : Sports	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.104-109 練習問題を行うこと。
11	Unit 18 : History	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.110-115 練習問題を行うこと。
12	Unit 19 : Sightseeing	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.116-121 練習問題を行うこと。
13	Unit 20 : Science	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.122-127 練習問題を行うこと。
14	復習	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.98-127 復習。
15	復習，　臨時テスト	復習と臨時テスト	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。

関連科目：他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Power-Up English<Basic>	JACET リスニング研究会	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題　20% 授業への参加、貢献（臨時テスト、小テスト等も含む）　80%　なお、遠隔授業の場合は課題提出をもって臨時テスト，小テスト等の代替とする。
学生へのメッセージ	授業に関する大切なお知らせが 1 回目 WebFolder に入っています。 必ずご確認ください。 毎回の授業に必ず出席するとともに、予習・復習を必ず行ってください。
担当者の研究室等	非常勤講師室(前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅱb	科目名（英文）	Basic English IIb
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	G
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	石倉　綾乃
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1326c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法	単語学習 教科書の予習
2	Unit 13　接続詞（Ⅰ）	読解、文法、リスニング演習	単語学習 教科書の予習,復習
3	Unit 14　不定詞・動名詞（Ⅰ）	小テスト、読解、文法、リスニング演習	単語学習 教科書の予習,復習
4	Unit 15　受動態	小テスト、読解、文法、リスニング演習	単語学習 教科書の予習,復習
5	Unit 16　完了形	小テスト、読解、文法、リスニング演習	単語学習 教科書の予習,復習
6	Unit 17　接続詞（Ⅱ）	小テスト、読解、文法、リスニング演習	単語学習 教科書の予習,復習
7	Unit 18　5 つの基本文型	小テスト、読解、文法、リスニング演習	単語学習 教科書の予習復習
8	中間テスト	前半のまとめと復習テスト（対面授業開始）	単語学習 教科書の予習,復習
9	Unit 19　各種疑問文	小テスト、読解、文法、リスニング演習	単語学習 教科書の予習,復習
10	Unit 20　不定詞（Ⅱ）	小テスト、読解、文法、リスニング演習	単語学習 教科書の予習,復習
11	Unit 21　It の特別用法	小テスト、読解、文法、リスニング演習	単語学習 教科書の予習,復習
12	Unit 22　分詞・動名詞（Ⅱ）	小テスト、読解、文法、リスニング演習	単語学習 教科書の予習,復習
13	Unit 23　関係代名詞	小テスト、読解、文法、リスニング演習	単語学習 教科書の予習,復習
14	Unit 24　仮定法	小テスト、読解、文法、リスニング演習	単語学習 教科書の予習,復習
15	全体のまとめ	全体の復習とまとめテスト	単語学習 教科書の復習

関連科目：他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Primer〈Revised Edition〉大学生の英語入門〈改訂新版〉	佐藤哲三、愛甲ゆかり	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition-（指定の単 語集）	西谷　恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題　20% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）80%
学生へのメッセージ	英文法の基本を正確におさえ、英語の基礎力を身につけましょう。
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期３号館２階、後期７号館２階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅱｂ	科目名（英文）	Basic English IIb
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	H
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	金原　真由美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1326c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内のお学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 遠隔授業の場合は単語集を使っての小テストは行わない。 ・遠隔授業では常に Teams を使うが、課題提出や解答の掲載などは Moodle を使用する。 ・4 回を超える欠席のある場合は原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 1 Wedding Ceremonies in the World	授業の進め方などの説明 Chapter 1 を読み始める	下読みと単語調べ、exercise の予習
2	1 Wedding Ceremonies in the World	本文読解と exercise（語彙、文法、リスニング、並べ替え）	下読みと単語調べ、exercise の予習
3	2 Funerals in the World	本文読解と exercise（語彙、文法、リスニング、並べ替え）	下読みと単語調べ、exercise の予習
4	3 Coming-of -age Ceremonies in the World	本文読解と exercise（語彙、文法、リスニング、並べ替え）	下読みと単語調べ、exercise の予習
5	4 Toilets in the World	本文読解と exercise（語彙、文法、リスニング、並べ替え）	下読みと単語調べ、exercise の予習
6	5 Alcoholic Beverages in the World	本文読解と exercise（語彙、文法、リスニング、並べ替え）	下読みと単語調べ、exercise の予習
7	6 Unusual Foods in the world	本文読解と exercise（語彙、文法、リスニング、並べ替え）	下読みと単語調べ、exercise の予習
8	中間テスト（予定） 7 Women's Status in the World	前半の学習内容の確認 テスト後、授業をする	中間テストの勉強
9	7 Women's Status in the World	本文読解と exercise（語彙、文法、リスニング、並べ替え）	下読みと単語調べ、exercise の予習 単語テスト(20 問)
10	8 Greek and Japanese Mythologies	本文読解と exercise（語彙、文法、リスニング、並べ替え）	下読みと単語調べ、exercise の予習 単語テスト(20 問)
11	9 Children's Recreation in the World	本文読解と exercise（語彙、文法、リスニング、並べ替え）	下読みと単語調べ、exercise の予習 単語テスト(20 問)
12	10 Sports of the World: Olympics	本文読解と exercise（語彙、文法、リスニング、並べ替え）	下読みと単語調べ、exercise の予習 単語テスト(20 問)
13	11 A Strange Custom: Geophagy	本文読解と exercise（語彙、文法、リスニング、並べ替え）	下読みと単語調べ、exercise の予習 単語テスト(20 問)
14	12 Religions Vary in the World まとめ（復習）テスト	本文読解と exercise（語彙、文法、リスニング、並べ替え） 後半の学習内容の確認	下読みと単語調べ、exercise の予習 単語テスト(20 問) 期末テストの勉強
15	まとめテストの解答・解説 12 Religions Vary in the World	テストの答え合わせ 本文読解と exercise（語彙、文法、リスニング、並べ替え）	テストの解答後、授業

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Cross-Cultural Awareness （「英語で学異文化の不思議」）	石井隆之監修・岩田雅彦・山口修・他２名	開文社
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test－Revised Edition-- (指定の単語集)	西谷恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法	全学共通英語課題　　20%

（基準）	授業への参加、貢献(小テスト、中間及び復習（期末）テスト、予習の有無等）　80%
学生への メッセージ	外国語学習は、辞書をしっかり引いて書き込むなどの地道な下準備が欠かせません。音声なども利用し、聴いたり声に出したり工夫をして勉強しましょう。 11/16 以降は、対面授業で The 1500 TOEIC の単語帳を使っての単語テストを実施。（テスト範囲は Teams に掲載）
担当者の 研究室等	非常勤講師室〈前期 3 号館 2 階）/後期 7 号館 2 階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅱｂ	科目名（英文）	Basic English IIb
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	Ⅰ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ｼﾞｭﾘｱ ｸﾈﾋﾞｳﾞｨｯﾁ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1326c1		

授業概要・目的	英文の理解に必要な英文法の基礎を習得し、簡単な読解能力・語彙力を身につけることを目的とする。 フィードバックや自己分析によってより能力を身につけることも重視致します。
到達目標	基礎英文法の徹底理解を到達目標とする。 学部共通の学習・教育到達目標との対応：[VI]
授業方法と留意点	授業は'Active Participation in Class'（授業への前向きな参加）が大前提である。双方向の全員参加の活発な授業を展開するので、予習が必須で辞書（できれば、紙の英和辞典）は必ず持ってくること。
科目学習の効果（資格）	予習・復習を欠かさず、英語に触れる絶対量を増やせば、文法・読解力の基礎は必ず身につきます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	授業目的・計画・方法の説明、受講の心構え、英語学習の方法など 統一英単語テスト準備学習	Introduction の予習 英単語復習・予習 単語番号 1-40
2	別プリント 文型	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習	既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習 単語番号 41-80
3	UNIT 11 時点	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習	UNIT 12 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習 単語番号 81-120
4	UNIT 11 時点	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習	UNIT 12 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習 単語番号 121-160
5	UNIT 12 時制	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習	UNIT 12 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習 単語番号 161-200
6	UNIT 12 時制	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習	UNIT 12 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習 小テストの準備
7	小テスト UNIT 13 助動詞	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習	UNIT 13 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習 単語番号 201-240
8	UNIT 13 助動詞	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習	UNIT 13 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習 単語番号 241-280
9	UNIT 15 受動詞	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習	UNIT 15 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習 単語番号 281-320
10	UNIT 15 受動詞	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習	UNIT 15 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習 単語番号 321-360
11	小テスト UNIT 6 接続詞	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習	UNIT 6 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習 小テストの準備
12	UNIT 6 接続詞	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習	UNIT 7 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習 単語番号 361-400
13	UNIT 7 前置詞と表現	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習	UNIT 7 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習 単語番号 401-438
14	UNIT 7 前置詞と表現	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習	UNIT 7 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習 小テストの準備
15	小テスト 総復習	定期試験の準備 英単語テスト準備学習	定期試験の準備 総合復習

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Grammar for Life	Aaron Calcote　他	線ケージラーニング
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC		成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題　　20% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　80% 生徒さんに口頭やメールにてフィードバック致します。
学生への	There is no royal road to English learning.（英語学習に王道なし）にあるように英語学習に王道（easy way)などありません。英語に触れる

メッセージ	絶対的な量を増やさない限り、英語の力は絶対に伸びません。Slow and（or but）steady wins the race.（急がば回れ）を心に留め、ゆっくりでも着実に学習を続けることです。そうすれば英語の力は必ず上達します。諦めずに頑張ってください。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	１．事前・事後学習に、毎回１時間以上かけること。 ２．英単語は e-learning を含めて、毎日、平均１時間は学習すること。 ３．期末試験の準備には、合計２０時間以上かけること。 ４．上記の学習に、「只管筆写」用紙を活用すること（用紙は非常勤講師室にある）。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	基礎英語Ⅱｂ	科目名（英文）	Basic English IIb
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	下吉　真衣
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1326c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	概要説明 Computer Studies （input 演習）	授業の進め方の説明 発表と解説	授業の復習
2	Computer Studies （output 演習）	発表と解説	授業の予習復習 課題準備
3	Art and Design （input 演習）	発表と解説	授業の予習復習 課題準備
4	Art and Design （output 演習）	発表と解説	授業の予習復習 課題準備
5	Travel and Tourism （input 演習）	発表と解説	授業の予習復習 課題準備
6	Travel and Tourism （output 演習）	発表と解説	授業の予習復習 課題準備
7	中間テスト	Computer Studies Art and Design Travel and Tourism	授業の予習復習 中間テストの準備
8	Sociology （input 演習）	発表と解説	授業の予習復習 課題準備
9	Sociology （output 演習）	発表と解説	授業の予習復習 課題準備
10	Psychology （input 演習）	発表と解説	授業の予習復習 課題準備
11	Psychology （output 演習）	発表と解説	授業の予習復習 課題準備
12	Language Studies （input 演習）	発表と解説	授業の予習復習 課題準備
13	Language Studies （output 演習）	発表と解説	授業の予習復習 課題準備
14	総復習	総合復習	授業の予習復習 課題準備
15	まとめテスト	Sociology Psychology Language Studies	授業の予習復習 まとめテストの準備

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	READ THIS! Intro	Daphne Mackey	CAMBRIDGE UNIVERSITY PRESS
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題　20% 平常点　20% レポート点　50% テスト　10%
学生へのメッセージ	授業はテンポよくリズミカルに進行します。集中力を切らさず一生懸命ついてきてください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応

	する。

科目名	基礎英語Ⅱb	科目名（英文）	Basic English IIb
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	東野　厚子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8〇		
科目ナンバリング	JEN1326c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法 重要単語、表現の確認	単語学習 教科書の予習
2	UNIT 13 「～するために」と「～して」を表す形 to 不定詞の副詞的用法	単語、文法事項の確認 読解、練習問題	単語学習 教科書の予習,復習
3	UNIT 14 「～するための」と「～するという」を表す形 to 不定詞の形容詞的用法	単語、文法事項の確認 読解、練習問題	単語学習 教科書の予習,復習
4	UNIT 15 「～される」を表す形 受動態	単語、文法事項の確認 読解、練習問題	単語学習 教科書の予習,復習
5	UNIT 16 「～している」を表す形 現在分詞の形容詞的用法 《第 5 回から対面授業に移行》	単語、文法事項の確認 読解、練習問題	単語学習 教科書の予習,復習
6	UNIT 17 「～された」を表す形 過去分詞の形容詞的用法 《対面授業》	単語、文法事項の確認 読解、練習問題	単語学習 教科書の予習,復習
7	UNIT 18 2 つの文を 1 つにする方法(1) 関係代名詞の主格と目的格 《対面授業》	単語、文法事項の確認 読解、練習問題	単語学習 教科書の予習復習
8	まとめ (1) Unit7-18 復習 中間テスト 《対面授業》	Unit7-18 の文法事項等の確認	単語学習 教科書の復習
9	UNIT 19 2 つの文を 1 つにする方法(2) 関係代名詞の所有格と関係代名詞 what 《対面授業》	単語、文法事項の確認 読解、練習問題	単語学習 教科書の予習,復習
10	UNIT 20 2 つのものをつないでみよう 接続詞 《対面授業》	単語、文法事項の確認 読解、練習問題	単語学習 教科書の予習,復習
11	UNIT 21 疑問文を作る方法と疑問文を別の文の一部にする方法 疑問詞疑問文と間接疑問文 《対面授業》	単語、文法事項の確認 読解、練習問題	単語学習 教科書の予習,復習
12	UNIT 22 「現実離れしたこと」を表す 仮定法 《対面授業》	単語、文法事項の確認 読解、練習問題	単語学習 教科書の予習,復習
13	UNIT 23 「2 つのもの」を比べる表現 原級と比較級 《対面授業》	単語、文法事項の確認 読解、練習問題	単語学習 教科書の予習,復習

14	UNIT 24 「順位」を表す表現 最上級 《対面授業》	単語、文法事項の確認 読解、練習問題	単語学習 教科書の予習,復習
15	まとめ（2） Unit19-24 の復習 期末テスト 《対面授業》	Unit19-24 単語、文法事項等の確認	教科書（Unit19-24 ）の復習

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	A Primer of Communication in English	小山政史他	松柏社
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-	西垣恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

全学共通英語課題　20%
授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　80%

学生へのメッセージ

授業での課題は、必ず期限を守って提出してください。

担当者の研究室等

非常勤講師室（前期３号館２階、後期７号館２階）

備考

毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は、学内メール、出講時に非常勤講師室にて対応する。

※第５回の対面授業にて、今後の対面授業の方針を説明します。

科目名	実践英語Ｉｂ	科目名（英文）	Practical English Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	ﾌﾞﾗｲｱﾝ ｽﾚｰﾀｰ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN2327c1		

授業概要・目的	The Smart Choice textbook will help you with your travel-based English and general communication skills.
到達目標	読解力をつけるための単語力、文法力をつける。 自習の習慣を付け、辞書を使うことに慣れる。 音声に慣れ、リスニングから発話へとつなげるように音読に慣れる。
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. 単語のテスト又は何らかのテストが毎回あります。出席していなければ受けられない物もあります。英語が苦手でも努力次第で成績がとれる科目です。辞書を必ず持参し、配布物をしっかり整理してよく復習する事。
科目学習の効果（資格）	・・・

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction オリエンテーション テキスト	Introduction exercises	Students should study the content of the day's lesson
2	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
3	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
4	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
5	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
6	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
7	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
8	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
9	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
10	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
11	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
12	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
13	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
14	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
15	まとめテストと復習セッション	Feedback session	・・・

関連科目：なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Smart Choice 1、Third Edition	Ken Wilson	Ｏｘｆｏｒｄ University Press:ＩＳＢＮ　９７８－０－１９－４６０２４－８
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Grading will be based on student class participation, attendance, quizzes (70%) and an end of semester in-class final test (30%).
学生へのメッセージ	Prepare for your future and study and speak English today.
担当者の研究室等	3 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	実践英語Ｉｂ	科目名（英文）	Practical English Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	ＢＣ
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	シャープ　ジョージ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN2327c1		

授業概要・目的	This course, using the Speaking of People textbook, will help students to develop vocabulary, grammar, and speaking and listening skills in areas　such as talking about oneself, likes and dislikes, and other topics related to general communication.
到達目標	The focus of the course is speaking and listening.
授業方法と留意点	Regular attendance and participation are key to success in this course.
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Course introduction	Overview and expectations; explanation of grading and assessments	Review (2 時間)
2	Unit 1	Vocabulary, listening	Extensive Listening 1 (2 時間)
3	Unit 1	Vocabulary review and discussion	Preview/ review (2 時間
4	Unit 2	Vocabulary, listening, discussion	Extensive Listening 2 (2 時間)
5	Unit 2	Vocabulary review and discussion	Presentation Topic choice task (2 時間)
6	Unit 3	Vocabulary, listening, discussion	Preview/ review Extensive Listening 3 (2 時間)
7	Unit 3	Vocabulary review and discussion	Preview/ review Study for quiz　(2 時間)
8	Quiz 1	Quiz 1	Create presentation Worksheet / slides (2 時間)
9	Presentation 1	Presentation 1	Preview/ review (2 時間)
10	Unit 4	Vocabulary, listening, discussion	Preview/ review Extensive Listening 4 (2 時間)
11	Unit 4	Vocabulary review and discussion	Presentation Topic choice task (2 時間)
12	Unit 5	Vocabulary, listening, discussion	Preview/ review Extensive Listening 5 (2 時間)
13	Unit 5	Vocabulary review and discussion	Preview/ review Study for quiz　(2 時間)
14	Quiz 1	Quiz 2	Create presentation Worksheet / slides (2 時間)
15	Presentation 2	Presentation 2	Optional course reflection (1 時間)

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Speaking of People	Vincent, Nakazato, Meadows	Nan'un-Do
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Unit quizzes (2) 20% Presentations (2) 20% Extensive Listening (5) 30% Active classroom participation (15) 30%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	Homework includes four types: 1. Preparation for discussions in the next lesson 2. Preparation for Unit Quizzes 3. Writing and practicing a presentation 4. Extensive Listening

科目名	実践英語Ｉｂ	科目名（英文）	Practical English Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	ＤＥＧＨＩＫ
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	ジェフリー　ベル
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN2327c1		

授業概要・目的	The Speaking of People textbook is designed to help you with your conversational English and is useful for students in any field of academic study.
到達目標	読解力をつけるための単語力、文法力をつける。 自習の習慣を付け、辞書を使うことに慣れる。 音声に慣れ、リスニングから発話へとつなげるように音読に慣れる。
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. 単語のテスト又は何らかのテストが毎回あります。出席していなければ受けられない物もあります。英語が苦手でも努力次第で成績がとれる科目です。辞書を必ず持参し、配布物をしっかり整理してよく復習する事。
科目学習の効果（資格）	・・・

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction オリエンテーション テキスト	Introduction exercises	Students should study the content of the day's lesson
2	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
3	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
4	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
5	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
6	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
7	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
8	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
9	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
10	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
11	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
12	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
13	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
14	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
15	まとめテストと復習	Feedback session	・・・

関連科目：なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Speaking of People	Peter Vincent, etc.	978-4-523-17909-2
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	50% of Grade on assignments (Moodle) 50% of Grade on review/tests (Moodle)
学生へのメッセージ	興味のもてる内容のテキストを選びました。言葉とは文化と密接な関係にあるもの。文化的知識を楽しみながらリスニング、や音読を練習しましょう。語彙も増やして行きましょう。
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期３号館２階/後期７号館２階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	実践英語Ⅱｂ	科目名（英文）	Practical English IIb
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	ﾌﾞﾗｲｱﾝ ｽﾚｰﾀｰ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN2328c1		

授業概要・目的	The Ｓｍａｒｔ　Ｃｈｏｉｃｅ　１ textbook will help you with your travel-based English and general communication skills.
到達目標	読解力をつけるための単語力、文法力をつける。 自習の習慣を付け、辞書を使うことに慣れる。 音声に慣れ、リスニングから発話へとつなげるように音読に慣れる。
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. 単語のテスト又は何らかのテストが毎回あります。出席していなければ受けられない物もあります。英語が苦手でも努力次第で成績がとれる科目です。辞書を必ず持参し、配布物をしっかり整理してよく復習する事。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	First semester test review	Review of first semester test	Students should study the content of the day's lesson
2	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
3	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
4	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
5	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
6	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
7	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
8	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
9	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
10	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
11	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
12	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
13	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
14	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
15	まとめテストと復習セッション	Feedback session	・・・

関連科目：なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Ｓｍａｒｔ　Ｃｈｏｉｃｅ　１	Ｋｅｎ　Ｗｉｌｓｏｎ	OXFORD University Press ISBN 978-0-19-4６０２４－８
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Grading will be based on student class participation, attendance, quizzes (70%) and an end of semester in-class final test (30%).
学生へのメッセージ	Prepare for your future and study and speak English today.
担当者の研究室等	非常勤講師室　(前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	実践英語Ⅱｂ	科目名（英文）	Practical English IIb
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	ＢＣ
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	シャーフ　ジョージ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN2328c1		

授業概要・目的	This course, using the Speaking of People textbook, will help students to develop vocabulary, grammar, and speaking and listening skills in areas　such as talking about oneself, likes and dislikes, and other topics related to general communication.
到達目標	The focus of the course is speaking and listening.
授業方法と留意点	Regular attendance and participation are key to success in this course.
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Course introduction	Overview and expectations; explanation of grading and assessments	Review (2 時間)
2	Unit 6	Vocabulary, listening, discussion	Extensive Listening 1 (2 時間)
3	Unit 6	Vocabulary review and discussion	Preview/ review (2 時間)
4	Unit 7	Vocabulary, listening, discussion	Extensive Listening 2 (2 時間)
5	Unit 7	Vocabulary review and discussion	Write presentation script (2 時間)
6	Unit 8	Vocabulary, listening, discussion	Extensive Listening 3 (2 時間)
7	Unit 8	Vocabulary review and discussion	Study for quiz　(2 時間)
8	Quiz 1	Quiz taken	Create presentation (2 時間)
9	Presentation 1	Presentation performed	Preview/ review (2 時間)
10	Unit 9	Vocabulary, listening, discussion	Preview/ review Extensive Listening 4 (2 時間)
11	Unit 9	Vocabulary review and discussion	Write presentation script (2 時間)
12	Unit 10	Vocabulary, listening, discussion	Extensive Listening 5 (2 時間)
13	Unit 10	Vocabulary review and discussion	Study for quiz　(2 時間)
14	Quiz 2	Quiz taken	Create presentation (2 時間)
15	Presentation 2	Presentation performed	Optional course reflection (1 時間)

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Speaking of People	Vincent, Nakazato, Meadows	Nan'Un-Do
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Tests (2 x 20%) 40% Short Presentations (2 x 10%) 20% Extensive Listening Homework (5 x 5%) 25% Active participation 15%
学生へのメッセージ	Regular attendance and participation is essential for developing one's English skills and passing the course. The assignments are created to encourage students' curiosity and interest in a variety of topics.
担当者の研究室等	非常勤講師室　(前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
備考	Homework includes four types: 1. Previewing and reviewing lesson contents 2. Preparation for tests 3. Writing and practicing a presentation 4. Extensive listening reports

科目名	実践英語Ⅱｂ	科目名（英文）	Practical English IIb
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	ＤＥＧＨＩＫ
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	ジェフリー　ベル
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN2328c1		

授業概要・目的	The Speaking of People textbook is designed to help you with your conversational English and is useful for students in any field of academic study.
到達目標	読解力をつけるための単語力、文法力をつける。 自習の習慣を付け、辞書を使うことに慣れる。 音声に慣れ、リスニングから発話へとつなげるように音読に慣れる。
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. 単語のテスト又は何らかのテストが毎回あります。出席していなければ受けられない物もあります。英語が苦手でも努力次第で成績がとれる科目です。辞書を必ず持参し、配布物をしっかり整理してよく復習する事。
科目学習の効果（資格）	・・・

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction オリエンテーション テキスト	Introduction exercises	Students should study the content of the day's lesson
2	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
3	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
4	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
5	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
6	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
7	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
8	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
9	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
10	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
11	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
12	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
13	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
14	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
15	まとめテストと復習	Feedback session	・・・

関連科目：なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Speaking of People	Peter Vincent, etc.	978-4-523-17909-2
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Grading will be based on weekly assignments to be found on Moodle, including end of unit quizzes and tests. Final grade points will be deducted for incomplete assignments or tests.
学生へのメッセージ	興味のもてる内容のテキストを選びました。言葉とは文化と密接な関係にあるもの。文化的知識を楽しみながらリスニング、や音読を練習しましょう。語彙も増やして行きましょう。
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	日本語表現Ⅰ	科目名（英文）	Japanese Expression Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	学籍番号下３桁 001～70
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	筒井　大祐
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JJA1336a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くかなど、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。本講義は、文章作成を一方的に講義するのではなく、受講者が実際に文章を書きながら、文章作成を習得することを目指す。そのため、練習問題や課題の作成を課す。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 文章の書き方１	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	1 時間の事前事後学習を目安とする。
2	文章の書き方２	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	1 時間の事前事後学習を目安とする。
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	1 時間の事前事後学習を目安とする。
4	【課題１】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	1 時間の事前事後学習を目安とする。
5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	1 時間の事前事後学習を目安とする。
6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	1 時間の事前事後学習を目安とする。
7	フィードバック	課題１のフィードバック	1 時間の事前事後学習を目安とする。
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	1 時間の事前事後学習を目安とする。
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	1 時間の事前事後学習を目安とする。
10	引用の復習 意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	1 時間の事前事後学習を目安とする。
11	【課題２】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	1 時間の事前事後学習を目安とする。
12	レポートの書き方１・２	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	1 時間の事前事後学習を目安とする。
13	フィードバック	課題２のフィードバック	1 時間の事前事後学習を目安とする。
14	【 レポート 】	レポートを提出する	レポートを作成する
15	レポートの講評 文章作成に関するまとめ	レポートについて講評する 文章作成に関して、まとめを行う	これまでの復習

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題２回（20%×2）、レポート（30%）、授業に取り組む姿勢・小テスト（30%）により評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語（話し言葉）と、レポートなどで書く日本語（書き言葉）は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、文章表現の方法を勉強していきましょう。
担当者の研究室等	非常勤講師室
備考	提出課題については、授業中にフィードバックをします。

科目名	日本語表現Ⅰ	科目名（英文）	Japanese Expression Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	学籍番号下３桁 071～140
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	南谷　静香
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JJA1336a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。
授業方法と留意点	教科書に沿って、講義形式で行う。 毎回授業開始時に前回授業の復習と日本語表現の小テストを行うため、遅刻をしないこと。また、講義中はスマートフォンは鞄の中にしまっておくこと。 指示した課題を必ず提出すること。課題およびレポート未提出の場合、単位の取得を認めません。 オンライン授業については、Teams によるリアルタイム方式で行い、課題の提出は Web Folder とする。
科目学習の効果（資格）	文章作成の能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 授業の内容、進め方について 「はじめに」 文章で伝えるということについて	講義	教科書を復習する（30 分程度）
2	「文章の書き方」 レポート・論文の基本事項 わかりやすい文章の書き方	講義	教科書を復習する（30 分程度）
3	「事実と意見」 事実と意見の書き分け 説明文とは何か	講義	教科書を復習する（30 分程度）
4	課題① ある事物について、論理的に説明する	課題の作成・提出	教科書を復習する（30 分程度）
5	「構成」 レポートなどの文章の構成を学ぶ	講義	教科書を復習する（30 分程度）
6	「要約」 要旨の要約の作成方法を知る	講義	教科書を復習する（30 分程度）
7	フィードバック 課題①の返却と反省 「要約」 要約文の作成	フィードバックと実践（要約文の作成）	教科書を復習する 返却された課題を見直す（合計１時間程度）
8	「文章を引用する」 文章を引用する意方法を学ぶ	講義	教科書を復習する（30 分程度）
9	「図表を引用する」 図表を引用する方法を学ぶ	講義	教科書を復習する（30 分程度）
10	「意見を述べる」 引用をふまえた考察に基づいて意見を述べる	講義	教科書を復習する（30 分程度）
11	課題② 資料を引用して意見を述べる	課題の作成・提出	教科書を復習する（30 分程度）
12	小テストの復習テスト	復習テスト	返却した小テストの内容を復習してテストに臨む（１時間程度）
13	フィードバック 課題②の返却と反省	フィードバック	教科書を復習する 返却された課題を見直す（合計１時間程度）
14	レポート これまでの講義の内容を踏まえて論説文を書く	レポートの作成・提出	教科書を復習する（30 分程度）
15	フィードバック レポートの反省点	フィードバック	ここまでやってきた内容を総括して復習する（１時間程度）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学編	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	課題 2 回（20%×２）、レポート（30%）、授業に取り組む姿勢・小テスト（30%）により総合的に評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生への メッセージ	口語表現と文章表現の違いを理解し、読み手を意識したわかりやすい文章を書くスキルを身につけてください。 論理的な文章を書く能力は、学生生活でのレポートや論文はもちろんのこと、社会人になってからも必要なものです。積極的に課題に取り組み、実践的な能力を身につけるよう務めましょう。
担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）
備考	前もって教科書の該当箇所をしっかり読んでから講義にのぞむこと。 返却された小テストはしっかりと復習すること。 質問等は出講時に非常勤講師室にて対応。遠隔授業になった場合は、Gmail あるいは Teams で対応。

科目名	日本語表現Ⅰ	科目名（英文）	Japanese Expression Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	学籍番号下３桁 211～
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	南谷　静香
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JJA1336a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。
授業方法と留意点	教科書に沿って、講義形式で行う。 毎回授業開始時に前回授業の復習と日本語表現の小テストを行うため、遅刻をしないこと。また、講義中はスマートフォンは鞄の中にしまっておくこと。 指示した課題を必ず提出すること。課題およびレポート未提出の場合、単位の取得を認めません。 オンライン授業については、Teams によるリアルタイム方式で行い、課題の提出は Web Folder とする。
科目学習の効果（資格）	文章作成の能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 授業の内容、進め方について 「はじめに」 文章で伝えるということについて	講義	教科書を復習する（30 分程度）
2	「文章の書き方」 レポート・論文の基本事項 わかりやすい文章の書き方	講義	教科書を復習する（30 分程度）
3	「事実と意見」 事実と意見の書き分け 説明文とは何か	講義	教科書を復習する（30 分程度）
4	課題① ある事物について、論理的に説明する	課題の作成・提出	教科書を復習する（30 分程度）
5	「構成」 レポートなどの文章の構成を学ぶ	講義	教科書を復習する（30 分程度）
6	「要約」 要旨の要約の作成方法を知る	講義	教科書を復習する（30 分程度）
7	フィードバック 課題①の返却と反省 「要約」 要約文の作成	フィードバックと実践（要約文の作成）	教科書を復習する 返却された課題を見直す（合計１時間程度）
8	「文章を引用する」 文章を引用する意方法を学ぶ	講義	教科書を復習する（30 分程度）
9	「図表を引用する」 図表を引用する方法を学ぶ	講義	教科書を復習する（30 分程度）
10	「意見を述べる」 引用をふまえた考察に基づいて意見を述べる	講義	教科書を復習する（30 分程度）
11	課題② 資料を引用して意見を述べる	課題の作成・提出	教科書を復習する（30 分程度）
12	小テストの復習テスト	復習テスト	返却した小テストの内容を復習してテストに臨む（１時間程度）
13	フィードバック 課題②の返却と反省	フィードバック	教科書を復習する 返却された課題を見直す（合計１時間程度）
14	レポート これまでの講義の内容を踏まえて論説文を書く	レポートの作成・提出	教科書を復習する（30 分程度）
15	フィードバック レポートの反省点	フィードバック	ここまでやってきた内容を総括して復習する（１時間程度）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学編	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	課題 2 回（20%×２）、レポート（30%）、授業に取り組む姿勢・小テスト（30%）により総合的に評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生への メッセージ	口語表現と文章表現の違いを理解し、読み手を意識したわかりやすい文章を書くスキルを身につけてください。 論理的な文章を書く能力は、学生生活でのレポートや論文はもちろんのこと、社会人になってからも必要なものです。積極的に課題に取り組み、実践的な能力を身につけるよう務めましょう。
担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）
備考	前もって教科書の該当箇所をしっかり読んでから講義にのぞむこと。 返却された小テストはしっかりと復習すること。 質問等は出講時に非常勤講師室にて対応。遠隔授業になった場合は、Gmail あるいは Teams で対応。

科目名	日本語表現Ⅰ	科目名（英文）	Japanese Expression Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	学籍番号下３桁 141～210
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	澤野　加奈
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JJA1336a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する力」を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 文章の書き方１	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	―――
2	文章の書き方２	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
4	【課題１】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	これまでの復習
5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	前回の復習
6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	前回の復習
7	フィードバック	課題１のフィードバック	課題１を見直す
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	前回の復習
10	引用の復習 意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
11	【課題２】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	これまでの復習
12	レポートの書き方１・２	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	前回の復習
13	フィードバック	課題２のフィードバック	課題２を見直す
14	【 レポート 】	レポートを提出する	レポートを作成する
15	レポートの講評 小テストの復習	レポートについて講評する 小テストの復習テスト	これまでの復習 小テストの復習

関連科目	キャリアデザイン

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学　日本語文章表現の会	和泉書院
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題２回（20%×2）、レポート（30%）、授業に取り組む姿勢・小テスト（30%）により総合的に評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期３号館２階/後期７号館２階）
備考	事前・事後学習の総時間の目安は、１５時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名（英文）	Japanese Expression II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	筒井　大祐
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JJA1337a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活で必要な文章力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い、まとめた内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、グループワーク、プレゼンテーションなどの課題に取り組む。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 レポートの書き方（1）	授業の目的、進め方の説明 レポートの基本的ルール・構成の復習	1時間の事前事後学習を目安とする。
2	レポートの書き方（2）	資料引用の復習（文章の引用） 考察・意見の述べ方を確認する	1時間の事前事後学習を目安とする。
3	レポートの書き方（3） 敬語の基礎	資料引用の復習（図表の引用） 敬語の種類と用法を学ぶ	1時間の事前事後学習を目安とする。
4	【課題1】レポート	資料を引用して意見を述べる文章を書く	1時間の事前事後学習を目安とする。
5	課題1のフィードバック（1） ディスカッションの準備（1）	課題1のフィードバック ディスカッション資料の要約や問題点の整理を行う。	ディスカッションの準備。 1時間の事前事後学習を目安とする。
6	課題1のフィードバック（2） ディスカッション（1）	課題1のフィードバック グループ分けをしてディスカッションを行う	ディスカッションの準備。 1時間の事前事後学習を目安とする。
7	課題1のフィードバック（3） ディスカッション（2） プレゼンテーションの準備（1）	課題1のフィードバック プレゼンテーション資料の作成を行う	プレゼンテーションの準備。 1時間の事前事後学習を目安とする。
8	課題レポート2（以下、対面講義）	ディスカッションした内容をレポートにまとめる。	レポートの準備。 1時間の事前事後学習を目安とする。
9	【プレゼンテーション(1)】	グループごとにプレゼンテーションを行う	他のグループの発表資料を分析しておく。 1時間の事前事後学習を目安とする。
10	【プレゼンテーション(2)】	グループごとにプレゼンテーションを行う	他のグループの発表資料を分析しておく。 1時間の事前事後学習を目安とする。
11	【課題2】経過のまとめ 課題2の添削	ディスカッションの経過を箇条書きでまとめる 課題2を添削して返却する	ディスカッションの復習。 1時間の事前事後学習を目安とする。
12	【課題3】レポート	発表の内容をレポート形式でまとめる	これまでの復習。1時間の事前事後学習を目安とする。
13	課題3のフィードバック（1） 敬語の復習	課題3のフィードバック 敬語の練習問題を解く	レポートの書き方の復習 敬語の復習
14	課題3のフィードバック（2） 敬語の復習	課題3のフィードバック 敬語の練習問題を解く	レポートの書き方の復習 敬語の復習
15	課題3のフィードバック（3） 【復習テスト】	課題3のフィードバック 小テストの復習テスト	レポートの書き方の復習 小テストの復習

関連科目：すべての授業の日本語による課題作成

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学　日本語文章表現の会	和泉書院
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題3回（20%、20%、30%）、授業に取り組む姿勢・小テスト（30%）により総合的に評価する。課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語（話し言葉）と、レポートなどで書く日本語（書き言葉）は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語（話し言葉、書き言葉）と向き合ってください。
担当者の	非常勤講師室

研究室等	
備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回１時間程度はかけること。 フィードバックは、講義内で行う。

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名（英文）	Japanese Expression II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	南谷　静香
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JJA1337a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活で必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。３回の課題を提出する。 課題未提出の場合は、単位の取得が認められないので注意すること。プレゼンテーション不参加の場合、単位の取得を認めない。必ず参加すること。
科目学習の効果（資格）	大学生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入	授業の目的、進め方の説明	―――
2	レポートの書き方１	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
3	レポートの書き方２	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
4	【課題１】 資料を引用して、意見を述べる	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	これまでの復習
5	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	敬語の復習
6	手紙の書き方	手紙の書式・用語・マナーを学ぶ	手紙の復習
7	手紙を書く 課題１フィードバック	手紙文の作成 課題１のフィードバック	課題１を見直す
8	ディスカッション準備	ディスカッションの前に個人の意見をまとめる。※対面で実施。	ディスカッションの準備テーマの下調べ
9	ディスカッション	グループ分けとディスカッションを行う。※対面で実施。	ディスカッション報告文の準備 プレゼンテーション資料の準備
10	課題２ ディスカッションの報告	ディスカッションの報告文を書く。※対面で実施。	ディスカッションの反省
11	プレゼンテーション準備	プレゼンテーション資料の作成を行う。※対面で実施。	発表の準備
12	プレゼンテーション１	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う。※対面で実施。	発表の準備と反省
13	プレゼンテーション２	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う。※対面で実施。	発表の準備と反省
14	課題③	グループワークの報告文を作成する	報告文の準備
15	課題フィードバック 小テストの復習	課題フィードバック 小テストの復習テスト	課題を見直す

関連科目：キャリアデザイン

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題（２０%、20%、30%）、授業への取り組む姿勢・小テスト・復習テスト（30%）により評価する。 課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。また、グループワークに不参加の場合も単位の取得を認めない。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のために、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回１時間程度はかけること。 授業時間外の質問は、Teams チャットにより対応。

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名（英文）	Japanese Expression II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	澤野　加奈
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JJA1337a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活で必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、グループワーク、プレゼンテーション等の課題に取り組む。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 レポートの書き方（1）	授業の目的、進め方の説明	―――
2	レポートの書き方（2）	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
3	【課題１】レポート	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	これまでの復習
4	ディスカッション準備	配布された資料をまとめる	前回の復習
5	フィードバック	課題１のフィードバック	課題１を見直す
6	ディスカッション１	グループ分けとディスカッションを行う	テーマの下調べ
7	ディスカッション２	ディスカッションを行う	前回の復習
8	【課題2】報告文	ディスカッションの経過を文書で報告する	これまでの復習
9	資料作成	プレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
10	フィードバック	課題２のフィードバック	課題２を見直す
11	プレゼンテーション１	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
12	プレゼンテーション２	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
13	【課題３】報告文	プレゼンテーションの内容を文書で報告する	報告文の準備
14	手紙の書き方	手紙の基本とマナーを学ぶ	前回の復習
15	小テストの復習 授業の総括	小テストの復習テスト	小テストの復習

関連科目：ゼミ、卒業研究など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題３回（20%、20%、30%）、授業に取り組む姿勢・小テスト（30%）により評価する。 課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期３号館２階/後期７号館２階）
備考	事前事後学習の総時間の目安は１５時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。

科目名	情報リテラシーⅠ	科目名（英文）	Information Literacy Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	学籍番号下３桁 001～70
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	橋本　はる美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JMA1339a1		

授業概要・目的	大学生活および卒業後の生活において要求される情報を取り扱うための基礎的なリテラシー能力養成を目的とする。
到達目標	情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと。アプリケーションの機能の最低限の使い方と、それらの連携作業を実行できるようになること。
授業方法と留意点	遠隔授業を実施する。自宅等で各自のパソコンや通信環境を利用して、Microsoft Word, Excel, PowerPoint を用いて演習課題を完成させ、大学のサーバに電子的に提出する。 具体的な授業方法については、Microsoft Teams の当講義のチームの一般チャネルで紹介する。なお、授業の進捗により授業のスケジュールは変更となる場合がある。
科目学習の効果（資格）	今後の諸活動において情報リテラシー能力を活用できること。マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)等の資格取得出題範囲の約 40%を学ぶ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 摂南大学の ICT 環境	出欠管理システム メールシステム ポータルサイト Moodle への登録 OneDrive の使い方 タイピングについて	事前：シラバスの確認（30 分） 事後：摂南大学の ICT 環境の確認（1 時間）
2	コンピュータの基礎 関連資格の紹介 【Word】 文書の作成と編集	用語解説 IT パスポートの紹介 メールへのファイル添付 文書を作成する 文書内を移動する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
3	【Word】 文書の編集と管理	文書の書式を設定する 文書のオプションと表示をカスタマイズする 文書を印刷する、保存する 文字列や段落を挿入する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
4	【Word】 書式の設定 表、リストの作成	文字列や段落の書式を設定する 文字列や段落を並び替える、グループ化する 表を作成する リストを作成する、変更する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
5	【Word】 課題演習	テキストの演習問題（自習あり）	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
6	【PowerPoint】 スライドの作成	スライドの作成 テキスト 図形作成 グラフィック要素の挿入と書式設定	事前：作成課題の準備（30 分） 事後：事後課題の完成・提出（1 時間）
7	【PowerPoint】 グループ内での発表	アニメーションの設定 スライドの切り替え 発表者ツールの設定 相互発表 ルーブリック評価	事前：発表準備（50 分） 事後：事後課題の完成・提出（40 分）
8	【Excel】 ワークシートやブックの作成 ワークシートやブックの書式設定、管理	ワークシートやブックを作成する ワークシートやブックの書式を設定する 配布するためにワークシートやブックを設定する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
9	【Excel】 セルやセル範囲の編集、設定 テーブルの作成、編集	セルやセル範囲にデータを挿入する セルやセル範囲の書式を設定する データをまとめる、整理する テーブルを作成する、管理する テーブルのレコードを抽出する、並び替える	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
10	【Excel】 関数の利用	関数を使用してデータを集計する 関数を使用して条件付きの計算を実行する 関数を使用して書式を設定する、文字列を変更する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
11	【Excel】 グラフやオブジェクトの作成	グラフを作成する グラフを書式設定する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
12	【Excel】 課題演習	演習問題	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
13	応用	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
14	応用	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
15	総合演習	模擬問題演習	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）

関連科目	情報リテラシーⅡ

<table>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>よくわかるマスター MicrosoftR Office Specialist MOS Word 2016 対策テキスト＆問題集（FPT1618）</td><td>富士通 FOM</td><td>FOM 出版</td></tr>
<tr><td>2</td><td>よくわかるマスター MicrosoftR Office Specialist MOS Excel 2016 対策テキスト＆問題集（FPT1617）</td><td>富士通 FOM</td><td>FOM 出版</td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>毎回の実習課題（60%）、2回の総合課題などの演習（40%）を総合的に評価する。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>疑問を放置しないこと。何でも質問してください。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>１１号館８階（橋本研究室）</td></tr>
<tr><td>備考</td><td></td></tr>
</table>

科目名	情報リテラシーⅠ	科目名（英文）	Information Literacy Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	学籍番号下３桁 071～140
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	寺内　睦博
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JMA1339a1		

授業概要・目的	大学生活および卒業後の生活において要求される情報を取り扱うための基礎的なリテラシー能力養成を目的とする。
到達目標	情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと。アプリケーションの機能の最低限の使い方と、それらの連携作業を実行できるようになること。
授業方法と留意点	当面は遠隔授業の形式とする。遠隔で受講の場合には、自宅等で各自のパソコンや通信環境を利用して、Microsoft Word, Excel, PowerPoint を用いて演習課題を完成させ、大学のサーバに電子的に提出する。 具体的な授業方法については、Microsoft Teams の当講義のチームの一般チャネルで紹介する。なお、授業の進捗により授業のスケジュールは変更となる場合がある。
科目学習の効果（資格）	今後の諸活動において情報リテラシー能力を活用できること。マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)等の資格取得出題範囲の約 40%を学ぶ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 摂南大学の ICT 環境	出欠管理システム メールシステム ポータルサイト Moodle への登録 OneDrive の使い方 タイピングについて	事前：シラバスの確認（30 分） 事後：摂南大学の ICT 環境の確認（1 時間）
2	コンピュータの基礎 関連資格の紹介 【Word】 文書の作成と編集	用語解説 IT パスポートの紹介 メールへのファイル添付 文書を作成する 文書内を移動する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
3	【Word】 文書の編集と管理	文書の書式を設定する 文書のオプションと表示をカスタマイズする 文書を印刷する、保存する 文字列や段落を挿入する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
4	【Word】 書式の設定 表、リストの作成	文字列や段落の書式を設定する 文字列や段落を並び替える、グループ化する 表を作成する リストを作成する、変更する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
5	【Word】 課題演習	テキストの演習問題（自習あり）	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
6	【PowerPoint】 スライドの作成	スライドの作成 テキスト 図形作成 グラフィック要素の挿入と書式設定	事前：作成課題の準備（30 分） 事後：事後課題の完成・提出（1 時間）
7	【PowerPoint】 グループ内での発表	アニメーションの設定 スライドの切り替え 発表者ツールの設定 相互発表 ルーブリック評価	事前：発表準備（50 分） 事後：事後課題の完成・提出（40 分）
8	【Excel】 ワークシートやブックの作成 ワークシートやブックの書式設定、管理	ワークシートやブックを作成する ワークシートやブックの書式を設定する 配布するためにワークシートやブックを設定する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
9	【Excel】 セルやセル範囲の編集、設定 テーブルの作成、編集	セルやセル範囲にデータを挿入する セルやセル範囲の書式を設定する データをまとめる、整理する テーブルを作成する、管理する テーブルのレコードを抽出する、並び替える	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
10	【Excel】 関数の利用	関数を使用してデータを集計する 関数を使用して条件付きの計算を実行する 関数を使用して書式を設定する、文字列を変更する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
11	【Excel】 グラフやオブジェクトの作成	グラフを作成する グラフを書式設定する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
12	【Excel】 課題演習	演習問題	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
13	応用	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
14	応用	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
15	総合演習	模擬問題演習	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）

関連科目	情報リテラシーⅡ

<table>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>よくわかるマスター MicrosoftR Office Specialist MOS Word 2016 対策テキスト＆問題集（FPT1618）</td><td>富士通 FOM</td><td>FOM 出版</td></tr>
<tr><td>2</td><td>よくわかるマスター MicrosoftR Office Specialist MOS Excel 2016 対策テキスト＆問題集（FPT1617）</td><td>富士通 FOM</td><td>FOM 出版</td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>毎回の実習課題（60%）、2 回の総合課題などの演習（40%）を総合的に評価する。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>疑問を放置しないこと。何でも質問してください。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>11 号館 10 階（寺内研究室）</td></tr>
<tr><td>備考</td><td></td></tr>
</table>

科目名	情報リテラシーⅠ	科目名（英文）	Information Literacy Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	学籍番号下３桁 141～210
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	石原　恭子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JMA1339a1		

授業概要・目的	大学生活および卒業後の生活において要求される情報を取り扱うための基礎的なリテラシー能力養成を目的とする。
到達目標	情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと。アプリケーションの機能の最低限の使い方と、それらの連携作業を実行できるようになること。
授業方法と留意点	今年度は原則として対面授業の形式とする。遠隔で受講の場合には、自宅等で各自のパソコンや通信環境を利用して、Microsoft Word, Excel, PowerPoint を用いて演習課題を完成させ、大学のサーバに電子的に提出する。 具体的な授業方法については、Microsoft Teams の当講義のチームの一般チャネルで紹介する。なお、授業の進捗により授業のスケジュールは変更となる場合がある。
科目学習の効果（資格）	今後の諸活動において情報リテラシー能力を活用できること。マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)等の資格取得出題範囲の約 40%を学ぶ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 摂南大学の ICT 環境	出欠管理システム メールシステム ポータルサイト Moodle への登録 OneDrive の使い方 タイピングについて	事前：シラバスの確認（30 分） 事後：摂南大学の ICT 環境の確認（1 時間）
2	コンピュータの基礎 関連資格の紹介 【Word】 文書の作成と編集	用語解説 IT パスポートの紹介 メールへのファイル添付 文書を作成する 文書内を移動する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
3	【Word】 文書の編集と管理	文書の書式を設定する 文書のオプションと表示をカスタマイズする 文書を印刷する、保存する 文字列や段落を挿入する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
4	【Word】 書式の設定 表、リストの作成	文字列や段落の書式を設定する 文字列や段落を並び替える、グループ化する 表を作成する リストを作成する、変更する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
5	【Word】 課題演習	テキストの演習問題（自習あり）	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
6	【PowerPoint】 スライドの作成	スライドの作成 テキスト 図形作成 グラフィック要素の挿入と書式設定	事前：作成課題の準備（30 分） 事後：事後課題の完成・提出（1 時間）
7	【PowerPoint】 グループ内での発表	アニメーションの設定 スライドの切り替え 発表者ツールの設定 相互発表 ルーブリック評価	事前：発表準備（50 分） 事後：事後課題の完成・提出（40 分）
8	【Excel】 ワークシートやブックの作成 ワークシートやブックの書式設定、管理	ワークシートやブックを作成する ワークシートやブックの書式を設定する 配布するためにワークシートやブックを設定する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
9	【Excel】 セルやセル範囲の編集、設定 テーブルの作成、編集	セルやセル範囲にデータを挿入する セルやセル範囲の書式を設定する データをまとめる、整理する テーブルを作成する、管理する テーブルのレコードを抽出する、並び替える	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
10	【Excel】 関数の利用	関数を使用してデータを集計する 関数を使用して条件付きの計算を実行する 関数を使用して書式を設定する、文字列を変更する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
11	【Excel】 グラフやオブジェクトの作成	グラフを作成する グラフを書式設定する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
12	【Excel】 課題演習	演習問題	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
13	応用	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
14	応用	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
15	総合演習	模擬問題演習	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）

関連科目	情報リテラシーⅡ

<table>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>よくわかるマスター MicrosoftR Office Specialist MOS Word 2016 対策テキスト＆問題集（FPT1618）</td><td>富士通 FOM</td><td>FOM 出版</td></tr>
<tr><td>2</td><td>よくわかるマスター MicrosoftR Office Specialist MOS Excel 2016 対策テキスト＆問題集（FPT1617）</td><td>富士通 FOM</td><td>FOM 出版</td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>毎回の実習課題（60%）、2 回の総合課題などの演習（40%）を総合的に評価する。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>使いこなすには多くの練習時間が必要です。多くの先輩が、受講の後に独学で MOS（Microsoft Office Specialist（マイクロソフト オフィス スペシャリスト）に合格していますので、就活時のアピールの為にも頑張ってください。さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）</td></tr>
<tr><td>備考</td><td></td></tr>
</table>

科目名	情報リテラシーⅠ	科目名（英文）	Information Literacy Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	学籍番号下３桁 211～
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	坂口　紫
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JMA1339a1		

授業概要・目的	大学生活および卒業後の生活において要求される情報を取り扱うための基礎的なリテラシー能力養成を目的とする。
到達目標	情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと。アプリケーションの機能の最低限の使い方と、それらの連携作業を実行できるようになること。
授業方法と留意点	今年度は原則として対面授業の形式とする。遠隔で受講の場合には、自宅等で各自のパソコンや通信環境を利用して、Microsoft Word, Excel, PowerPoint を用いて演習課題を完成させ、大学のサーバに電子的に提出する。 具体的な授業方法については、Microsoft Teams の当講義のチームの一般チャネルで紹介する。なお、授業の進捗により授業のスケジュールは変更となる場合がある。
科目学習の効果（資格）	今後の諸活動において情報リテラシー能力を活用できること。マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)等の資格取得出題範囲の約 40%を学ぶ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 摂南大学の ICT 環境	出欠管理システム メールシステム ポータルサイト Moodle への登録 OneDrive の使い方 タイピングについて	事前：シラバスの確認（30 分） 事後：摂南大学の ICT 環境の確認（1 時間）
2	コンピュータの基礎 関連資格の紹介 【Word】 文書の作成と編集	用語解説 IT パスポートの紹介 メールへのファイル添付 文書を作成する 文書内を移動する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
3	【Word】 文書の編集と管理	文書の書式を設定する 文書のオプションと表示をカスタマイズする 文書を印刷する、保存する 文字列や段落を挿入する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
4	【Word】 書式の設定 表、リストの作成	文字列や段落の書式を設定する 文字列や段落を並び替える、グループ化する 表を作成する リストを作成する、変更する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
5	【Word】 課題演習	テキストの演習問題（自習あり）	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
6	【PowerPoint】 スライドの作成	スライドの作成 テキスト 図形作成 グラフィック要素の挿入と書式設定	事前：作成課題の準備（30 分） 事後：事後課題の完成・提出（1 時間）
7	【PowerPoint】 グループ内での発表	アニメーションの設定 スライドの切り替え 発表者ツールの設定 相互発表 ルーブリック評価	事前：発表準備（50 分） 事後：事後課題の完成・提出（40 分）
8	【Excel】 ワークシートやブックの作成 ワークシートやブックの書式設定、管理	ワークシートやブックを作成する ワークシートやブックの書式を設定する 配布するためにワークシートやブックを設定する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
9	【Excel】 セルやセル範囲の編集、設定 テーブルの作成、編集	セルやセル範囲にデータを挿入する セルやセル範囲の書式を設定する データをまとめる、整理する テーブルを作成する、管理する テーブルのレコードを抽出する、並び替える	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
10	【Excel】 関数の利用	関数を使用してデータを集計する 関数を使用して条件付きの計算を実行する 関数を使用して書式を設定する、文字列を変更する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
11	【Excel】 グラフやオブジェクトの作成	グラフを作成する グラフを書式設定する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
12	【Excel】 課題演習	演習問題	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
13	応用	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
14	応用	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）

15	総合演習	模擬問題演習	事前：出題範囲の復習（1時間） 事後：出題内容の見直し（30分）

関連科目	情報リテラシーⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかるマスター MicrosoftR Office Specialist MOS Word 2016 対策テキスト＆問題集（FPT1618）	富士通FOM	FOM出版
2	よくわかるマスター MicrosoftR Office Specialist MOS Excel 2016 対策テキスト＆問題集（FPT1617）	富士通FOM	FOM出版
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	毎回の実習課題（60%）、2回の総合課題などの演習（40%）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。多くの先輩が、受講の後に独学でMOS（Microsoft Office Specialist（マイクロソフト オフィス スペシャリスト）に合格していますので、就活時のアピールの為にも頑張ってください。さらにITパスポート資格の取得も視野に入れましょう。
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期3号館2階/後期7号館2階）
備考	

科目名	情報リテラシーⅡ	科目名（英文）	Information Literacy II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤ
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	橋本　はる美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JMA1340a1		

授業概要・目的	大学生活および、卒業後の社会人生活において効率的に資料収集、作成を行い、基礎的な分析も実施できる能力の養成を目的とする。
到達目標	Microsoft Office を用いて大学での授業のレポート課題を作成できる。
授業方法と留意点	パソコンを使った実習を行います。 実習を中心に行うため、毎回の課題提出は必須です。受講に関する事項は Moodle に掲載します。 第８回目（11 月９日）より対面で実施します。
科目学習の効果（資格）	Microsoft Office Specialist Word、Excel が取得できるレベル。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	ICT 学習環境の確認 社会人としての情報モラル	事前：情報リテラシーⅠの復習（1 時間） 事後：事後課題の完成・提出（30 分）
2	【Word 応用】 効率的な文書の作成	テンプレートを使用して新しい文書を作成する Word で PDF ファイルを開き編集する ファイルまたは外部データからテキスト挿入する ブックマークを作成する 文書内の特定の場所またはオブジェクトに移動する ハイパーリンクを挿入する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
3	【Word 応用】 書式や文書のカスタマイズ	文書のテーマを適用する 文書のスタイルセットを適用する ページの背景要素の書式を設定する ズーム機能を使用して、表示をカスタマイズする ウィンドウを分割する 文書のプロパティに値を追加する クイックアクセスツールバーをカスタマイズする 印刷の設定を変更する 別のファイル形式で文書を保存する 隠しプロパティや個人情報がないか文書を検査する アクセシビリティに関する問題がないか文書を検査する 下位バージョンとの互換性に問題がないか文書を検査する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
4	【Word 応用】 文字列や段落の高度な設定 表やリストの高度な設定	配置、インデントを設定する 書式をクリアする 文字列をワードアートに変更する 文字列や段落に組み込みスタイルを適用する セクション区切りを挿入する 文字列を表に変換する 表を文字列に変換する 表のデータを並び替える 表、行、列のサイズを調整する 表を分割する タイトル行の繰り返しを設定する リストの新しい行頭文字や番号書式を定義する リストのレベルを変更する リストのレベルごとに行頭文字や番号書式を変更する リストの番号を振り直す、自動的に振る	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
5	【Word 応用】 参考資料の作成と管理	脚注や文末脚注を挿入する 脚注や文末脚注のプロパティを変更する 資料文献を作成する 資料文献を変更する 引用文献を挿入する 図表番号を挿入する 図表番号のプロパティを変更する 標準の目次を挿入する 目次を更新する 表紙を追加する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
6	【Word 応用】 グラフィック要素の活用	図形を挿入する 図を挿入する スクリーンショットや画面の領域を挿入する テキストボックスを挿入する アート効果を適用する 図の背景を削除する 図の効果を適用する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）

		図のスタイルを適用する オブジェクトを書式設定する オブジェクトの周囲の文字列を折り返す オブジェクトを配置する オブジェクトに代替テキストを追加する SmartArt グラフィックを作成する SmartArt グラフィックを書式設定する SmartArt グラフィックの内容を変更する	
7	【Word 応用】 課題演習	MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
8	【Excel 応用】 ワークシートやブックの高度な編集と設定	区切り文字で区切られたデータをテキストファイルからインポートする ワークシートをコピーする、移動する ブック内のデータを検索する 名前付きのセル、セル範囲、ブックの要素へ移動する ハイパーリンクを挿入する、削除する ワークシートの見出しの色を変更する ブックのテーマを変更する ブックの表示を変更する ズーム機能を使用して表示倍率を変更する 数式を表示する 列や行を表示する、非表示にする ワークシートを表示する、非表示にする ドキュメントプロパティを変更する クイックアクセスツール	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
9	【Excel 応用】 高度なブックの設定 効率的なセルの入力や編集	複数ページのワークシートに列タイトルと行タイトルを繰り返し表示する ブック内の非表示のプロパティや個人情報を検査する ブック内のアクセシビリティの問題を検査する ブック内の互換性の問題を検査する セルを挿入する、削除する データを置換する セルの書式を適用する セルの配置やインデントを変更する セル内の文字列を折り返して表示する 数値の書式を適用する セルのスタイルを適用する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
10	【Excel 応用】 高度な表の作成とデータ管理 関数の利用	データのアウトラインを作成する 小計を挿入する 条件付き書式を適用する テーブルをセル範囲に変換する テーブルにスタイルを適用する テーブルスタイルのオプションを設定する テーブルに集計行を挿入する 複数の列でデータを並び替える レコードを抽出する 重複レコードを削除する UPPER, LOWER, PROPER 関数を使用して文字の書式を設定する CONCATENATE 関数を使用して文字の書式を設定する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
11	【Excel 応用】 グラフやオブジェクトの高度な設定	データ範囲の行と列を切り替える クイック分析を使用してデータを分析する グラフをグラフシートに移動する テキストボックスや図形を挿入する 画像を挿入する オブジェクトのプロパティを変更する アクセシビリティ向上のため、オブジェクトに代替テキストを追加する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
12	【Excel 応用】 課題演習	MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
13	応用演習	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
14	応用演習	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
15	総合演習	MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）

関連科目	情報リテラシーⅠ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかるマスター MicrosoftR Office Specialist MOS Word 2016 対策テキスト＆問題集	富士通 FOM	FOM 出版

		(FPT1618) 【前期のテキストと同じ（再購入不要)】		
	2	よくわかるマスター MicrosoftR Office Specialist MOS Excel 2016 対策テキスト＆問題集 (FPT1617)【前期のテキストと同じ（再購入不要)】	富士通 FOM	FOM 出版
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 （基準）	毎回の実習課題（60%）、課題演習や総合演習などの課題の評価等（40%）を総合的に評価する。
学生への メッセージ	疑問は放置しないこと。質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に参加して下さい。
担当者の 研究室等	１１号館８階（橋本研究室）
備考	

科目名	情報リテラシーⅡ	科目名（英文）	Information Literacy II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＥＧＨＩＫ
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	寺内　睦博
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JMA1340a1		

授業概要・目的	大学生活および、卒業後の社会人生活において効率的に資料収集、作成を行い、基礎的な分析も実施できる能力の養成を目的とする。
到達目標	Microsoft Office を用いて大学での授業のレポート課題を作成できる。
授業方法と留意点	当面はリモート形式の授業とするが、状況により変更の可能性はある。 初回の授業は Teams の一般チャネルの会議にて授業方法について説明しますので、履修者は必ず参加してください。 毎回、PC を使った実習を行う。実習内容に関連する用語、知識については説明を行う。 実習を中心に行うため、課題提出は必須である。
科目学習の効果（資格）	Microsoft Office Specialist Word、Excel が取得できるレベル。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	ICT 学習環境の確認 社会人としての情報モラル	事前：情報リテラシーⅠの復習（1 時間） 事後：事後課題の完成・提出（30 分）
2	【Word 応用】 効率的な文書の作成	テンプレートを使用して新しい文書を作成する Word で PDF ファイルを開き編集する ファイルまたは外部データからテキスト挿入する ブックマークを作成する 文書内の特定の場所またはオブジェクトに移動する ハイパーリンクを挿入する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
3	【Word 応用】 書式や文書のカスタマイズ	文書のテーマを適用する 文書のスタイルセットを適用する ページの背景要素の書式を設定する ズーム機能を使用して、表示をカスタマイズする ウィンドウを分割する 文書のプロパティに値を追加する クイックアクセスツールバーをカスタマイズする 印刷の設定を変更する 別のファイル形式で文書を保存する 隠しプロパティや個人情報がないか文書を検査する アクセシビリティに関する問題がないか文書を検査する 下位バージョンとの互換性に問題がないか文書を検査する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
4	【Word 応用】 文字列や段落の高度な設定 表やリストの高度な設定	配置、インデントを設定する 書式をクリアする 文字列をワードアートに変更する 文字列や段落に組み込みスタイルを適用する セクション区切りを挿入する 文字列を表に変換する 表を文字列に変換する 表のデータを並び替える 表、行、列のサイズを調整する 表を分割する タイトル行の繰り返しを設定する リストの新しい行頭文字や番号書式を定義する リストのレベルを変更する リストのレベルごとに行頭文字や番号書式を変更する リストの番号を振り直す、自動的に振る	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
5	【Word 応用】 参考資料の作成と管理	脚注や文末脚注を挿入する 脚注や文末脚注のプロパティを変更する 資料文献を作成する 資料文献を変更する 引用文献を挿入する 図表番号を挿入する 図表番号のプロパティを変更する 標準の目次を挿入する 目次を更新する 表紙を追加する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
6	【Word 応用】 グラフィック要素の活用	図形を挿入する 図を挿入する スクリーンショットや画面の領域を挿入する テキストボックスを挿入する アート効果を適用する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）

		図の背景を削除する 図の効果を適用する 図のスタイルを適用する オブジェクトを書式設定する オブジェクトの周囲の文字列を折り返す オブジェクトを配置する オブジェクトに代替テキストを追加する SmartArt グラフィックを作成する SmartArt グラフィックを書式設定する SmartArt グラフィックの内容を変更する	
7	【Word 応用】 課題演習	MOS 模試課題	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
8	【Excel 応用】 ワークシートやブックの高度な編集と設定	区切り文字で区切られたデータをテキストファイルからインポートする ワークシートをコピーする、移動する ブック内のデータを検索する 名前付きのセル、セル範囲、ブックの要素へ移動する ハイパーリンクを挿入する、削除する ワークシートの見出しの色を変更する ブックのテーマを変更する ブックの表示を変更する ズーム機能を使用して表示倍率を変更する 数式を表示する 列や行を表示する、非表示にする ワークシートを表示する、非表示にする ドキュメントプロパティを変更する クイックアクセスツール	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
9	【Excel 応用】 高度なブックの設定 効率的なセルの入力や編集	複数ページのワークシートに列タイトルと行タイトルを繰り返し表示する ブック内の非表示のプロパティや個人情報を検査する ブック内のアクセシビリティの問題を検査する ブック内の互換性の問題を検査する セルを挿入する、削除する データを置換する セルの書式を適用する セルの配置やインデントを変更する セル内の文字列を折り返して表示する 数値の書式を適用する セルのスタイルを適用する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
10	【Excel 応用】 高度な表の作成とデータ管理 関数の利用	データのアウトラインを作成する 小計を挿入する 条件付き書式を適用する テーブルをセル範囲に変換する テーブルにスタイルを適用する テーブルスタイルのオプションを設定する テーブルに集計行を挿入する 複数の列でデータを並び替える レコードを抽出する 重複レコードを削除する UPPER, LOWER, PROPER 関数を使用して文字の書式を設定する CONCATENATE 関数を使用して文字の書式を設定する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
11	【Excel 応用】 グラフやオブジェクトの高度な設定	データ範囲の行と列を切り替える クイック分析を使用してデータを分析する グラフをグラフシートに移動する テキストボックスや図形を挿入する 画像を挿入する オブジェクトのプロパティを変更する アクセシビリティ向上のため、オブジェクトに代替テキストを追加する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
12	【Excel 応用】 課題演習	MOS 模試課題	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
13	応用演習	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
14	応用演習	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
15	総合演習	MOS 模擬試験等の課題により到達度を確認する	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）

関連科目	情報リテラシーⅠ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	よくわかるマスター MicrosoftR Office Specialist MOS Word 2016 対策テキスト＆問題集（FPT1618）【前期のテキストと同じ（再購入不要）】	富士通 FOM	FOM 出版
	2	よくわかるマスター MicrosoftR Office Specialist MOS Excel 2016 対策テキスト＆問題集（FPT1617）【前期のテキストと同じ（再購入不要）】	富士通 FOM	FOM 出版
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	毎回の実習課題（60%）、課題演習や総合演習などの課題の評価等（40%）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	疑問は放置しないこと。質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に参加して下さい。
担当者の研究室等	11 号館 10 階（寺内研究室）
備考	本人確認のため、メールで連絡するときは大学のアドレスから送信してください。

科目名	日本語読解ＦⅠ	科目名（英文）	Japanese Reading FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木　成美
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅲ○,Ⅳ○,R科：A◎,A科：C◎,M科：B2◎,E科：F○,C科：Ⅲ○,Ⅵ○,L科：DP1◎,DP7△,DP8△,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP2△,DP4△,J科：DP1◎,DP8◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	FF01314a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。
授業方法と留意点	・主に講義形式で行う。 ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。(発音テストに変更する可能性有) ・Teams を使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。
科目学習の効果（資格）	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
2	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習
3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習
4	「科学」の定義①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ（書く）、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 ＋ 語彙テストの内容確認
6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ（話す）、タスク	語彙テストの内容確認
8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習
9	言語と文化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ（書く）、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 ＋ 語彙テストの内容確認
11	ローソクの進化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
12	ローソクの進化①	語彙テスト、内容まとめ（話す）、タスク	語彙テストの内容確認
13	「割り勘」は当然？①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
14	「割り勘」は当然？②	語彙テスト、内容まとめ（書く）、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 ＋ 語彙テストの内容確認
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

関連科目	日本語読解ＦⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（40%）、提出物（30%）、小テスト（30%）
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期３号館２階/後期７号館２階）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3)新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週１時間。 (4)小テストの FB に関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。

科目名	日本語読解ＦⅡ	科目名（英文）	Japanese Reading FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木　成美
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅲ○,Ⅳ○,R科：A◎,A科：C◎,M科：B2◎,E科：F○,C科：Ⅲ○,Ⅵ○,L科：DP1◎,DP7△,DP8△,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP2△,DP4△,J科：DP1◎,DP8◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	FF02315a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。
授業方法と留意点	・主に講義形式で行う。 ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。(発音テストに変更する可能性有) ・Teams を使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。
科目学習の効果（資格）	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
2	統計と数字①	読解、内容理解、内容をまとめ（話す）	授業内で使用したプリントを使い復習
3	統計と数字②	語彙テスト、内容まとめ（話す）	授業内で使用したプリントを使い復習 ＋ 語彙テスト内容確認
4	背理法①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
5	背理法②	語彙テスト、内容まとめ（書く）、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 ＋ 語彙テスト内容確認
6	「待つ」こと①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
7	「待つ」こと②	語彙テスト、内容まとめ（話す）、タスク	語彙テスト内容確認
8	ついでに何をする？①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
9	ついでに何をする？②	語彙テスト、内容まとめ（話す）、タスク	語彙テスト内容確認
10	ウイルス発見！①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
11	ウイルス発見！②	語彙テスト、内容まとめ（話す）、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 ＋ 語彙テスト内容確認
12	大学で学ぶこと①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
13	大学で学ぶこと②	語彙テスト、内容まとめ（話す）、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 ＋ 語彙テスト内容確認
14	何のために「学ぶ」のか	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

関連科目：日本語読解ＦⅠ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（40%）、提出物（30%）、小テスト（30%）
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3)新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週１時間。 (4)小テストの FB に関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。

科目名	日本語表現作文ＦⅠ	科目名（英文）	Japanese Reading and Writing FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木　成美
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅲ○,Ⅳ○,R科：A◎,A科：C◎,M科：B2◎,E科：F○,C科：Ⅲ○,Ⅵ○,L科：DP1◎,DP7△,DP8△,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP2△,DP4△,J科：DP1◎,DP8◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	FF01318a1		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。
到達目標	・レポート・論文の文体で書ける。 ・読んだ内容を要約できる。 ・段落分けして書ける。 ・経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。 ・信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。
授業方法と留意点	・主に講義形式で行う。 ・授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。 ・Teams を使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。
科目学習の効果（資格）	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題
6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題
8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題
11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題
14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

関連科目：日本語表現作文ＦⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（40%）、提出物（60%）
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期３号館２階/後期７号館２階）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3)作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週１時間。 (4)提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。

科目名	日本語表現作文ＦⅡ	科目名（英文）	Japanese Reading and Writing FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木　成美
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅲ○,Ⅳ○,R科：A◎,A科：C◎,M科：B2◎,E科：Ｆ○,C科：Ⅲ○,Ⅵ○,L科：DP1◎,DP7△,DP8△,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP2△,DP4△,J科：DP1◎,DP8◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	FF02319a1		

授業概要・目的	この授業では、実際にレポートを作成することを通し、レポート・論文の書き方を守ってレポートが作成できるようになることを目指す。
到達目標	・レポート・論文の文体で書ける。 ・レポート・論文の書き方を守って書ける。 ・アウトラインに沿って書ける。 ・信頼性の高い資料を集められる。
授業方法と留意点	・主に講義形式で行う。 ・授業では、テーマを決め、実際にレポートを作成していく。 ・オンライン授業になった場合、プリントはパワーポイントに変更する。
科目学習の効果（資格）	レポートが書けるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	前期で使用したプリントを使い復習
2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	資料を集める
5	資料を整理する	集めた資料を整理する	授業内で使用したプリントを使い復習
6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	授業内で使用したプリントを使い復習
7	序論①	序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
8	序論②	序論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習
9	本論①	本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
10	本論②	本論の内容と書き方（考察、結論提示）を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
11	本論③	本論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習
12	結論①	結論の内容と書き方（全体のまとめ、今後の課題）を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
13	結論②	結論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習
14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	授業内で使用したプリントを使い復習
15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	発表のＦＢを元に復習

関連科目：日本語表現作文ＦⅠ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（40%）、提出物（60%）
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう！
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3)作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週１時間。 (4)提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。

科目名	日本語文法ＦⅠ	科目名（英文）	Japanese Grammar FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木　成美
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅲ○,Ⅳ○,R科：A◎,A科：C◎,M科：B2◎,E科：F○,C科：Ⅲ○,Ⅵ○,L科：DP1◎,DP7△,DP8△,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP2△,DP4△,J科：DP1◎,DP8◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	FF01316a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	・主に講義形式で行う。教員による解説と練習を繰り返しながら進める。 ・Teams を使用する場合、授業内プリントはパワーポイントに変更する。
科目学習の効果（資格）	高度な日本語運用能力
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
2	渡り鳥はなぜ迷わない？	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
3	フリーズする脳	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
4	「科学」の定義①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
5	「科学」の定義②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
6	現代の若者のマナー①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
7	現代の若者のマナー②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
8	親孝行な男の子	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
9	言語と文化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
10	言語と文化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
11	ローソクの進化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
12	ローソクの進化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
13	「割り勘」は当然？①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
14	「割り勘」は当然？②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
15	総復習	総復習	第１回～第１４回までの文法を中心としたプリントを使い復習

関連科目	日本語文法ＦⅡ、日本語読解ＦⅠ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（40%）、提出物（30%）、小テスト（30%）
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期３号館２階/後期７号館２階）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3)授業内で使用したプリントを使い文法の確認（復習）。目安は毎週１時間。 (4)小テストの FB に関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。

科目名	日本語文法ＦⅡ	科目名（英文）	Japanese Grammar FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木　成美
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅲ○,Ⅳ○,R科：A◎,A科：C◎,M科：B2◎,E科：F○,C科：Ⅲ○,Ⅵ○,L科：DP1◎,DP7△,DP8△,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP2△,DP4△,J科：DP1◎,DP8◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	FF02317a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	・主に講義形式で行う。教員による解説と練習を繰り返しながら進める。 ・オンライン授業に変更になった場合、プリントの代わりにパワーポイントを使用する。
科目学習の効果（資格）	高度な日本語運用能力

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習
5	背理法②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
8	ついでに何をする？①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
9	ついでに何をする？②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

関連科目：日本語文法ＦⅠ、日本語読解ＦⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（40%）、提出物（30%）、小テスト（30%）
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3)授業内で使用したプリントを使い文法の確認（復習）。目安は毎週１時間。 (4)小テストのFBに関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。

科目名	日本事情ＦⅠ	科目名（英文）	Japanese Culture and Society FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇　薫
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅲ○,Ⅳ○,R科：A◎,A科：C◎,M科：B2◎,E科：B○,C科：Ⅲ○,Ⅵ○,L科：DP1△,DP2○,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP2△,DP4△,J科：DP1◎,DP7◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	FF01312a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。（１）映画についての情報・その他背景知識について説明　（２）映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題　（３）テーマについてディスカッション　（４）「書く」練習
科目学習の効果（資格）	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習（２～3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）(1.5時間)
2	映画１：テーマ「大学生活」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習（２～3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5時間)
3	映画１：テーマ「大学生活」	内容理解、タスク	テキスト予習（２～3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5時間)
4	映画１：テーマ「大学生活」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（２～3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）　（計２時間）
5	映画２：テーマ「職業」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（２～3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(計２時間)
6	映画２：テーマ「職業」	内容理解、タスク	テキスト予習（２～3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5時間)
7	映画２：テーマ「職業」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く）(計２時間)
8	テーマ１・２に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（２～3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）(計２時間)
9	映画３：テーマ「子どもと社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（２～3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(計２時間)
10	映画３：テーマ「子どもと社会」	内容理解、タスク	テキスト予習（２～3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5時間)
11	映画３：テーマ「子どもと社会」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（２ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）　（計２時間）
12	映画について発表（１）	発表、質疑応答	各自発表準備、フィードバック（計２時間）
13	映画について発表（２）	発表、質疑応答	各自発表準備、フィードバック　（計２時間）(計２時間)
14	映画について発表（３）	発表、質疑応答	原稿修正、レポート(計２時間)
15	総まとめ	ディスカッション	サイトに投稿する(計２時間)

関連科目：日本語読解、日本語文法、日本語表現作文

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
2			
3			

評価方法：各課題及びレポート（80%),授業への参加度（20%）により総合的に評価します。

（基準）	
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関で多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説をしながら、インタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	11 号館 11 階(門脇研究室)
備考	提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。

科目名	日本事情ＦⅡ	科目名（英文）	Japanese Culture and Society FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇　薫
ディプロマポリシー(DP)	Ｖ科：Ⅲ○,Ⅳ○,Ｒ科：A◎,Ａ科：C◎,Ｍ科：B2◎,Ｅ科：Ｂ○,Ｃ科：Ⅲ○,Ⅵ○,Ｌ科：DP1△,DP2○,Ｄ科：DP1◎,Ｓ科：DP1◎,Ｐ科：DP2△,DP4△,Ｊ科：DP1◎,DP7◎,Ｗ科：DP1◎,DP7◎,Ｎ科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	FF02313a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	・各映画について次のように進めます。（１）映画についての情報・その他背景知識について説明　（２）映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題　（３）テーマについてディスカッション　（４）「書く」練習
科目学習の効果（資格）	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）(1.5 時間)
2	映画１：テーマ「家族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5 時間)
3	映画１：テーマ「家族」	内容理解、タスク	テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5 時間)
4	映画１：テーマ「家族」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）　（計２時間）
5	映画２：テーマ「教育」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(計２時間)
6	映画２：テーマ「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5 時間)
7	映画２：テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く）(計２時間)
8	テーマ１・２に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）(計２時間)
9	映画３：テーマ「言葉」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(計２時間)
10	映画３：テーマ「言葉」	内容理解、タスク	テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5 時間)
11	映画３：テーマ「言葉」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）　（計２時間）
12	日本での経験	内容について検討	テーマを考える、内容について調べる (計 1.5 時間)
13	日本での経験	ディスカッション、文章作成	受講生の文章にコメントする（計 1.5 時間）
14	日本での経験	作文内容についてグループワーク、文章修正	文章修正、発表準備（計 1.5 時間）
15	発表　（新聞に投稿する）	発表、質疑応答、	文章修正、投稿する（計 1.5 時間）

関連科目：日本語読解、日本語文法、日本語表現作文

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
2			
3			

評価方法 （基準）	各課題及びレポート（80%),授業への参加度（20%）により総合的に評価します。
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関での多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説しながらインタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	７号館４階(門脇研究室)
備考	提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。

科目名	日本語総合ＦＩ	科目名（英文）	Comprehensive Japanese FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	古川　由理子
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅲ○,Ⅳ○,R科：A◎,A科：C◎,M科：B2◎,E科：F○,C科：Ⅲ○,Ⅵ○,L科：DP1◎,DP7△,DP8△,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP2△,DP4△,J科：DP1◎,DP7◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	FF01320a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 ＊オンライン授業に変更のため、発表については、学生個人のネット環境を考慮して判断する。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
13	発表準備１	発表資料の作成	発表資料の作成（残り）
14	発表準備２	発表資料の修正	発表練習（文体に気を付ける）
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。 *オンライン授業になった場合は、毎回の課題提出により評価する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）
備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。 以下、ZOOM の ID です。 ミーティング ID: 878 9048 5750 パスコード: 179500 SIP で参加 87890485750@zoomcrc.com

	H.323 で参加 162.255.37.11（米国西部） 162.255.36.11（米国東部） 115.114.131.7（インドのムンバイ） 115.114.115.7（インドのハイデラバード） 213.19.144.110（オランダ、アムステルダム） 213.244.140.110（ドイツ） 103.122.166.55（オーストラリア、シドニー） 103.122.167.55（オーストラリア、メルボルン） 64.211.144.160（ブラジル） 69.174.57.160（カナダ、トロント） 65.39.152.160（カナダ、バンクーバー） 207.226.132.110（日本、東京） 149.137.24.110（日本、大阪） パスコード: 179500 ミーティング ID: 878 9048 5750

科目名	日本語総合ＦⅡ	科目名（英文）	Comprehensive Japanese FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川　由理子
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：Ｆ○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	FF02321a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 ＊再度オンライン授業になった場合は ZOOM で授業する。 Zoom ミーティングに参加する https://kyoto-u-edu.zoom.us/j/87890485750?pwd=SWpPdFZ2S3hQeS9EQml5Y0EyVXJhQT09 ミーティング ID: 878 9048 5750 パスコード: 179500
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
13	発表準備１	発表資料の作成	発表資料の作成（残り）
14	発表準備２	発表資料の修正	発表練習（文体に気を付ける）
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。

*オンライン授業になった場合、毎回の課題提出により評価する。

Zoom ミーティング

https://kyoto-u-edu.zoom.us/j/87890485750?pwd=SWpPdFZ2S3hQeS9EQml5Y0EyVXJhQT09

ミーティング ID: 878 9048 5750
パスコード: 179500

SIP で参加
87890485750@zoomcrc.com

学生への　受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。

メッセージ	これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
担当者の 研究室等	非常勤講師講師室（7 号館 2 階）
備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。

科目名	専門日本語ＦⅠ	科目名（英文）	Japanese for Specific Purposes FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩谷　尚子
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：Ｆ○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	FF01322a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。
授業方法と留意点	授業では、E メールの書き方、自己 PR の書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。
科目学習の効果（資格）	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	様々なコミュニケーションの形式の復習
2	E メールの書き方１	E メールの基本	E メールで使われる形式、表現等の復習
3	E メールの書き方２	レポート提出のメール	レポート提出に必要な語彙、表現の復習
4	E メールの書き方３	依頼メール１	依頼メールに必要な語彙、表現の復習
5	E メールの書き方４	依頼メール２	依頼メールの書き方の復習
6	E メールの書き方５	問い合わせ／質問メール	問い合わせ、質問メールで必要な語彙、表現の復習
7	話し方１	話題の変え方	話題を変える時に必要な語彙、表現の復習
8	話し方２	話の終わらせ方	話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習
9	話し方３	話の広げ方	話の広げ方で必要な語彙、表現の復習
10	自己 PR１	自己 PR とは何か	自己 PR で必要な項目を復習
11	自己 PR２	自己 PR 例の検討、修正１	自己 PR で必要な語彙、表現の復習
12	自己 PR３	自己 PR 例の検討、修正２	自己 PR で必要な語彙、表現の復習
13	自己 PR４	自分の自己 PR を書く１	自己 PR で必要な形式、書き方の復習
14	自己 PR５	自分の自己 PR を書く２	自己 PR の書き方の復習
15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

関連科目：専門日本語ＦⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み、確認問題等（70%）、課題等の提出物（30%）
学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。 またその際に必要な表現をしっかり確認してください。
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3)事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。

科目名	専門日本語ＦⅡ	科目名（英文）	Japanese for Specific Purposes FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	塩谷　尚子
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅲ○,Ⅳ○,R科：A◎,A科：C◎,M科：B2◎,E科：F○,C科：Ⅲ○,Ⅵ○,L科：DP1◎,DP7△,DP8△,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP2△,DP4△,J科：DP1◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	FF02323a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す・書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方・書き方ができるようになることを目指す。 ビジネス場面で使用する日本語表現、異文化ビジネスコミュニケーションについて学ぶ。
到達目標	相手との関係や話す・書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方・書き方ができる。 ビジネス場面で使用する日本語表現を理解し、使用することができる。 異文化ビジネスコミュニケーションについて理解できる。
授業方法と留意点	教師が準備した資料及びタスクシートをもとに講義、ディスカッション等を行う。
科目学習の効果（資格）	ビジネス日本語・ビジネスマナー・日本の会社についての知識を得ることによって 日本での就職活動及び就職に必要な知識やスキルを身につけることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 日本語のレベルチェック	授業の説明	授業で確認した語彙、表現の復習
2	ビジネス日本語１ 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習 授業で提示した課題
3	ビジネス日本語２ 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習 授業で提示した課題
4	ビジネス日本語３ 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習 授業で提示した課題
5	ビジネス日本語４ 読む	速読、精読 内容理解	文章に出てきた語彙、表現の復習 授業で提示した課題
6	ビジネス日本語５ 読む	速読、精読 内容理解	文章に出てきた語彙、表現の復習 授業で提示した課題
7	ビジネス日本語６ 書く	ビジネス文書の書き方	ビジネス文書の形式、表現の復習 授業で提示した課題
8	ビジネス日本語７ 書く	Ｅメールの書き方	ビジネスにおけるＥメールに必要な形式、書き方の復習 授業で提示した課題
9	ビジネス日本語８	履歴書の書き方	履歴書を書く時に必要な表現の復習 授業で提示した課題
10	ビジネスマナー	異文化ビジネスコミュニケーション	異文化ビジネスコミュニケーションで必要な項目、表現の復習 授業で提示した課題
11	日本の会社１	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	授業で確認した語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
12	日本の会社２	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	授業で確認した語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
13	日本の会社３	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	授業で確認した語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
14	日本の会社と仕事	仕事に関するドラマを視聴し、内容をまとめる。また、内容について話し合う。	授業で確認した語彙、表現等の復習
15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

関連科目	専門日本語ＦⅠ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験（40%）、課題の提出物（30%）、活動（30%）等授業時の参加度により総合的に判断する。
学生へのメッセージ	授業では積極的に発言することが求められます。
担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	(1)事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 (2)授業進度及び参加学生のニーズによって授業内容が多少変更することがある。

科目名	日本語会話ＦⅠ	科目名（英文）	Japanese Conversation FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	茶圓　直人
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅲ○,Ⅳ○,R科：A◎,A科：C◎,M科：B2◎,E科：F○,C科：Ⅲ○,Ⅵ○,L科：DP1◎,DP7△,DP8△,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP2△,DP4△,J科：DP1◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	FF01324a1		

授業概要・目的	日本語でディスカッションを行うことができるようになることを目指します。 具体的には、自分の意見を明確に表明できるようになること、相手の意見を受信し、検討できるようになることを目的とします。 また、議論を通して、問題発見解決能力の向上を目指し、最終的にはアカデミックな議論や就職活動など様々な場面に対応できるようになることを目標とします。 授業の概要は以下の通りです。 ・まとまった発話を聞いて、そこから話者の抱える問題を発見する。 ・発見した問題についての議論を行い、解決策を提示する。 ・自分の興味関心のある事象について、専門外の人にも分かりやすいように発表する。
到達目標	まとまった話を聞いて、概要、問題点を把握することができる。 問題に対する解決策（自分の意見）を明確かつ論理的に説明できる。 自分の意見を発信するだけではなく、他者の意見を受信、検討することができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、話者が抱える問題とその解決策についてディスカッションを行う。 学生はディスカッションへの積極的参加が求められる。また、毎回の授業にはディスカッションの振り返りシートを作成してもらう。 教員は適宜フィードバックを行う。
科目学習の効果（資格）	
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介	自己紹介の準備。（自分の興味関心について話せるようにしておく。）
2	トピック１	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で話した内容の問題点、解決策をシートに整理し、提出する。
3	トピック２	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で話した内容の問題点、解決策をシートに整理し、提出する。
4	トピック３	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で話した内容の問題点、解決策をシートに整理し、提出する。
5	トピック４	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で話した内容の問題点、解決策をシートに整理し、提出する。
6	トピック５	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で話した内容の問題点、解決策をシートに整理し、提出する。
7	トピック６	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で話した内容の問題点、解決策をシートに整理し、提出する。
8	トピック７	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で話した内容の問題点、解決策をシートに整理し、提出する。
9	トピック８	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で話した内容の問題点、解決策をシートに整理し、提出する。
10	トピック９	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で話した内容の問題点、解決策をシートに整理し、提出する。
11	トピック10	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で話した内容の問題点、解決策をシートに整理し、提出する。
12	発表準備１	スクリプトの作成	発表テーマを決めておく。 スクリプトの作成（残り）
13	口頭発表･ディスカッション	スクリプトの修正 発表資料の作成	発表者：ディスカッションを通して、自分の抱えている問題をどのように解決するかを再考し、シートにとめて提出する。
14	口頭発表･ディスカッション	発表資料の修正	発表者：ディスカッションを通して、自分の抱えている問題をどのように解決するかを再考し、シートにとめて提出する。
15	授業の振り返り	振り返り 授業内で扱ったテーマで印象深かったことをテーマにディスカッションを行	自分の発表の反省

			う。	

関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。
学生への メッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。
担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）
備考	試験は発表形式とし、適宜フィードバックを行なう。 授業時間外の相談はメールにて行うが、必要に応じて別途指示する。

科目名	日本語会話ＦⅡ	科目名（英文）	Japanese Conversation FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	加藤　恵美子
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：Ｆ○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	FF02325a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 授業中はカメラを ON にすることを求めます。 カメラのない学生は、必ず事前に用意をしておくこと。
科目学習の効果（資格）	
授業計画	
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
担当者の研究室等	非常勤講師講師室（7 号館 2 階）
備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成（残り）
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習（文体に気を付ける）
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	日本語読解R	科目名（英文）	Japanese Reading R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木　成美
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅲ○,Ⅳ○,R科：A◎,A科：C◎,M科：B2◎,E科：F○,C科：Ⅲ○,Ⅵ○,L科：DP1◎,DP7△,DP8△,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP2△,DP4△,J科：DP1◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	RRE1328a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。
授業方法と留意点	・主に講義形式で行う。 ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。(発音テストに変更する可能性有) ・Teams を使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。
科目学習の効果（資格）	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
2	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習
3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習
4	「科学」の定義①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ（書く）、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 ＋ 語彙テストの内容確認
6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ（話す）、タスク	語彙テストの内容確認
8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習
9	言語と文化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ（書く）、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 ＋ 語彙テストの内容確認
11	ローソクの進化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
12	ローソクの進化①	語彙テスト、内容まとめ（話す）、タスク	語彙テストの内容確認
13	「割り勘」は当然？①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
14	「割り勘」は当然？②	語彙テスト、内容まとめ（書く）、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 ＋ 語彙テストの内容確認
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

関連科目	日本語読解FⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（40%）、提出物（30%）、小テスト（30%）
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期３号館２階/後期７号館２階）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3)新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週１時間。 (4)小テストの FB に関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。

科目名	日本語表現作文R	科目名（英文）	Japanese Reading and Writing R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木　成美
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅲ○,Ⅳ○,R科：A◎,A科：C◎,M科：B2◎,E科：F○,C科：Ⅲ○,Ⅵ○,L科：DP1◎,DP7△,DP8△,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP2△,DP4△,J科：DP1◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	RRE1330a1		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。
到達目標	・レポート・論文の文体で書ける。 ・読んだ内容を要約できる。 ・段落分けして書ける。 ・経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。 ・信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。
授業方法と留意点	・主に講義形式で行う。 ・授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。 ・Teams を使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。
科目学習の効果（資格）	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題
6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題
8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題
11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題
14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

関連科目：日本語表現作文FⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（40%）、提出物（60%）
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期３号館２階/後期７号館２階）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3)作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週１時間。 (4)提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。

科目名	日本語文法R	科目名（英文）	Japanese Grammar R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木　成美
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅲ○,Ⅳ○,R科：A◎,A科：C◎,M科：B2◎,E科：F○,C科：Ⅲ○,Ⅵ○,L科：DP1◎,DP7△,DP8△,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP2△,DP4△,J科：DP1◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	RRE1329a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	・主に講義形式で行う。教員による解説と練習を繰り返しながら進める。 ・オンライン授業に変更になった場合、プリントの代わりにパワーポイントを使用する。
科目学習の効果（資格）	高度な日本語運用能力

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習
5	背理法②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
8	ついでに何をする？①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
9	ついでに何をする？②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

関連科目：日本語文法ＦⅠ、日本語読解ＦⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（40%）、提出物（30%）、小テスト（30%）
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3)授業内で使用したプリントを使い文法の確認（復習）。目安は毎週１時間。 (4)小テストのFBに関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。

科目名	日本事情ＲＩ	科目名（英文）	Japanese Culture and Society RI
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇　薫
ディプロマポリシー(DP)	Ⅴ科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1△,DP2○,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	RRE1326a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。（１）映画についての情報・その他背景知識について説明　（２）映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題　（３）テーマについてディスカッション　（４）「書く」練習
科目学習の効果（資格）	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）(1.5 時間)
2	映画１：テーマ「大学生活」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5 時間)
3	映画１：テーマ「大学生活」	内容理解、タスク	テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5 時間)
4	映画１：テーマ「大学生活」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）　（計２時間）
5	映画２：テーマ「職業」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(計２時間)
6	映画２：テーマ「職業」	内容理解、タスク	テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5 時間)
7	映画２：テーマ「職業」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く）(計２時間)
8	テーマ１・２に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）(計２時間)
9	映画３：テーマ「子どもと社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(計２時間)
10	映画３：テーマ「子どもと社会」	内容理解、タスク	テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5 時間)
11	映画３：テーマ「子どもと社会」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（２ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）　(計２時間)
12	映画について発表（１）	発表、質疑応答	各自発表準備、フィードバック（計２時間）
13	映画について発表（２）	発表、質疑応答	各自発表準備、フィードバック　（計２時間）(計２時間)
14	映画について発表（３）	発表、質疑応答	原稿修正、レポート(計２時間)
15	総まとめ	ディスカッション	サイトに投稿する(計２時間)

関連科目：日本語読解、日本語文法、日本語表現作文

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
2			
3			

評価方法：各課題及びレポート（80%),授業への参加度（20%）により総合的に評価します。

（基準）	
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関で多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説をしながら、インタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	11 号館 11 階(門脇研究室)
備考	提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。

科目名	日本事情ＲⅡ	科目名（英文）	Japanese Culture and Society RII
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇　薫
ディプロマポリシー(DP)	Ｖ科：Ⅲ○,Ⅳ○,Ｒ科：A◎,Ａ科：C◎,Ｍ科：B2◎,Ｅ科：Ｂ○,Ｃ科：Ⅲ○,Ⅵ○,Ｌ科：DP1△,DP2○,Ｄ科：DP1◎,Ｓ科：DP1◎,Ｐ科：DP2△,DP4△,Ｊ科：DP1◎,Ｗ科：DP1◎,Ｎ科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	RRE2327a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	・各映画について次のように進めます。（１）映画についての情報・その他背景知識について説明　（２）映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題　（３）テーマについてディスカッション　（４）「書く」練習
科目学習の効果（資格）	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）(1.5 時間)
2	映画１：テーマ「家族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5 時間)
3	映画１：テーマ「家族」	内容理解、タスク	テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5 時間)
4	映画１：テーマ「家族」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）　（計２時間）
5	映画２：テーマ「教育」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(計２時間)
6	映画２：テーマ「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5 時間)
7	映画２：テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く）(計２時間)
8	テーマ１・２に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）(計２時間)
9	映画３：テーマ「言葉」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(計２時間)
10	映画３：テーマ「言葉」	内容理解、タスク	テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5 時間)
11	映画３：テーマ「言葉」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）　（計２時間）
12	日本での経験	内容について検討	テーマを考える、内容について調べる (計 1.5 時間)
13	日本での経験	ディスカッション、文章作成	受講生の文章にコメントする（計 1.5 時間）
14	日本での経験	作文内容についてグループワーク、文章修正	文章修正、発表準備（計 1.5 時間）
15	発表　（新聞に投稿する）	発表、質疑応答、	文章修正、投稿する（計 1.5 時間）

関連科目：日本語読解、日本語文法、日本語表現作文

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
2			
3			

評価方法 （基準）	各課題及びレポート（80%),授業への参加度（20%）により総合的に評価します。
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関での多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説しながらインタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	７号館４階(門脇研究室)
備考	提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。

科目名	日本語総合R	科目名（英文）	Comprehensive Japanese R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川　由理子
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅲ○,Ⅳ○,R科：A◎,A科：C◎,M科：B2◎,E科：F○,C科：Ⅲ○,Ⅵ○,L科：DP1◎,DP7△,DP8△,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP2△,DP4△,J科：DP1◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	RRE1331a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 ＊再度オンライン授業になった場合はZOOMで授業する。 Zoomミーティングに参加する https://kyoto-u-edu.zoom.us/j/87890485750?pwd=SWpPdFZ2S3hQeS9EQml5Y0EyVXJhQT09 ミーティングID: 878 9048 5750 パスコード: 179500
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
13	発表準備１	発表資料の作成	発表資料の作成（残り）
14	発表準備２	発表資料の修正	発表練習（文体に気を付ける）
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

授業において課される課題30%、授業への取り組み30%、口頭発表40%で判断する。

*オンライン授業になった場合、毎回の課題提出により評価する。

Zoomミーティング

https://kyoto-u-edu.zoom.us/j/87890485750?pwd=SWpPdFZ2S3hQeS9EQml5Y0EyVXJhQT09

ミーティングID: 878 9048 5750
パスコード: 179500

SIPで参加
87890485750@zoomcrc.com

学生への　受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。

メッセージ	これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
担当者の 研究室等	非常勤講師講師室（7 号館 2 階）
備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。

科目名	専門日本語R	科目名（英文）	Japanese for Specific Purposes R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩谷　尚子
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅲ○,Ⅳ○,R科：A◎,A科：C◎,M科：B2◎,E科：F○,C科：Ⅲ○,Ⅵ○,L科：DP1◎,DP7△,DP8△,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP2△,DP4△,J科：DP1◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	RRE1332a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。
授業方法と留意点	授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。
科目学習の効果（資格）	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	様々なコミュニケーションの形式の復習
2	Eメールの書き方１	Eメールの基本	Eメールで使われる形式、表現等の復習
3	Eメールの書き方２	レポート提出のメール	レポート提出に必要な語彙、表現の復習
4	Eメールの書き方３	依頼メール１	依頼メールに必要な語彙、表現の復習
5	Eメールの書き方４	依頼メール２	依頼メールの書き方の復習
6	Eメールの書き方５	問い合わせ／質問メール	問い合わせ、質問メールで必要な語彙、表現の復習
7	話し方１	話題の変え方	話題を変える時に必要な語彙、表現の復習
8	話し方２	話の終わらせ方	話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習
9	話し方３	話の広げ方	話の広げ方で必要な語彙、表現の復習
10	自己PR１	自己PRとは何か	自己PRで必要な項目を復習
11	自己PR２	自己PR例の検討、修正１	自己PRで必要な語彙、表現の復習
12	自己PR３	自己PR例の検討、修正２	自己PRで必要な語彙、表現の復習
13	自己PR４	自分の自己PRを書く１	自己PRで必要な形式、書き方の復習
14	自己PR５	自分の自己PRを書く２	自己PRの書き方の復習
15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

関連科目：専門日本語FⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み、確認問題等（70%）、課題等の提出物（30%）
学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。 またその際に必要な表現をしっかり確認してください。
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期3号館2階/後期7号館2階）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3)事前事後学習時間の目安は毎週1時間。

科目名	日本語会話R	科目名（英文）	Japanese Conversation R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	加藤　恵美子
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅲ○,Ⅳ○,R科：A◎,A科：C◎,M科：B2◎,E科：F○,C科：Ⅲ○,Ⅵ○,L科：DP1◎,DP7△,DP8△,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP2△,DP4△,J科：DP1◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	RRE1333a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 授業中はカメラをONにすることを求めます。 カメラのない学生は、必ず事前に用意をしておくこと。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
13	発表準備１	発表資料の作成	発表資料の作成（残り）
14	発表準備２	発表資料の修正	発表練習（文体に気を付ける）
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業において課される課題30%、授業への取り組み30%、口頭発表40%で判断する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
担当者の研究室等	非常勤講師講師室（7号館2階）
備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。

科目名	教育社会学	科目名（英文）	Sociology of Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大野　順子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	近年、学校教育現場では様々な問題を抱えるようになってきました。一般的に私たちはそうした問題に対し、学校教育内部でのみ対処し解決しようとする傾向があります。しかしながら、そうした問題の多くは、時に関係のないような社会的、経済的、政治的、そして文化的なシステムと密接な関係性をもっていることが多々あります。そこで本講義では、教育現場で生じている諸問題を、特に社会学的観点からとらえ、検討していくことを目標とします。特に、最近社会問題化している子どもの貧困や教育格差・学力格差問題、ジェンダーにかかわる問題等を扱いながら、体系的に現代社会と教育の関係性について学び、教育社会学の理論や概念を学んでいきます。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 １．教育社会学の基礎理論と概念について学習する。 ２．現代社会における様々な教育問題について理解する。 ３．教育に関わる諸問題を社会学的観点からとらえ、論理的に思考し、分析し、検討する力を養う。 ４．様々な教育問題に対して、それぞれ意見発表を行い、他者と議論し、解決の方向を見出せる力をつける。
授業方法と留意点	○準備学習の具体的な方法 指定しているテキストを購入し、事前に講義で扱うテーマに該当する部分（章）を読み、要約する。また、日頃から新聞・雑誌等で教育に関する記事を読み、どのような問題が教育界では話題になっているのかについて情報を収集しておく。授業の進め方についてはオンライン（Zoom の使用）と課題提出（Moodle の利用）で行います。オンラインの場合は実際の時間割にある授業時間にリアルタイムオンラインで行います。
科目学習の効果（資格）	（１）高等学校教諭１種免許状　　（２）中学校教諭１種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各科目に含める必要事項：教育に関する社会的、制度的又は経営的事項

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション　教育社会学とは	教育社会学という学問の特質、及び、その課題を知る。	事前課題：教科書の序章を読み、疑問点についてまとめてくる。
2	近代学校教育制度	近代国民国家が求めた「学校教育制度」の意義や性格について考える。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。
3	教師と子ども	教師－生徒の関係性」という視点から、学校における教育活動全般を考えていく。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。
4	校則・体罰・校内暴力	学校が抱える諸問題〈体罰等〉が発生する背景や要因について考え、これら問題が発生した際の危機管理や学校対応等について考える。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。
5	いじめについて	学校病理問題の一つである「いじめ」について社会学的観点からいじめが発生する構造について明らかにし、いじめが発生した際の危機管理や対応等について考える。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。
6	不登校について	学校病理問題の一つである「不登校」問題について社会学的観点から迫り、解釈する。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。
7	教育格差・階層問題Ⅰ	貧困と格差が子どもたちにもたらす影響について考える。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。
8	教育格差・階層問題Ⅱ	格差解消に向けた学校、家庭、地域社会等の取り組みについて考える。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。
9	国の教育政策：海外との比較	教育政策、教育費、制度等の観点から日本の教育と海外の教育について比較検討する。	事前課題：それぞれ関心のある学校現場の問題について調べ、まとめてくる。
10	地域と学校Ⅰ	地域社会の変容、それに伴う、学校のあり方について検討する。また、連携をする際、何か不測の事態が起こった場合の危機管理や子どもたちの安全等についても考える。	事前課題：前時のふりかえりとそれぞれ関心のある学校現場の問題について調べ、まとめてくる。
11	地域と学校Ⅱ	地域連携、学社融合の取り組みについての事例研究を行うとともに、学校安全の観点から連携の事例を検討し、よりよい連携のあり方について検討する。	事前課題：前時のふりかえりとそれぞれ関心のある学校現場の問題について調べ、まとめてくる。
12	ジェンダーと教育	学校や家庭、社会に潜むジェンダーに関わる問題について考える。	事前課題：教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。
13	国家と教育	教育の政治化と学校現場において子どもたちや教師たちが直面する問題について考える。	事前課題：ジェンダー問題を扱った資料（読み物）を読み、その内容についてまとめてくる。
14	在日外国人の子どもたち	学校の中におけるマイノリティとしての「外国にルーツのある子どもたち」の状況について考える。	事前課題：教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。
15	総括	「教育改革」をキーワードにこれからの教育のあり方について考える	事前課題：最終レポート・試験（予定）の準備

関連科目	「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教育実習Ⅰ」「教職実践演習」「各教科教育法」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	教師教育テキストシリーズ『教育社会学』	久富善之、長谷川裕	学文社
2			

	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	現代教育社会学	岩井八郎、近藤博之	有斐閣ブックス
2	新版『教育社会学を学ぶ人のために』	石戸教嗣	世界思想社
3	ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー	ブレイディみかこ	新潮社

評価方法 （基準）	毎時間の課題・ミニレポート　100%（内容、提出状況、剽窃等を確認することで評価する） 課題・ミニレポートは提出期限を厳守すること。期限後の提出は認めない。 なお、オンライン上で毎回出欠も取ります。
学生への メッセージ	毎時間の事前課題・ミニレポートにしっかりと取り組み、授業を受けてください。詳細については第一回目の授業（オンライン）でお伝えします。 Moodle のアナウンスメント機能や第一回目の部分を確認の上、参加してください。
担当者の 研究室等	７号館３階(大野順子研究室) ※メールで連絡してください。アドレスは j-oono@arc.setsunan.ac.jp です。
備考	事前・事後学習総時間はおおよそ２時間程度とする。特に事前学習にテキスト（教科書）を使用しての課題を出すので指定している教科書を購入しておくこと。

科目名	教育経営論	科目名（英文）	Studies of Educational Administration
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日　素明
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本科目では、現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識、および学校や教育行政の組織構造･機能・関係に関する基礎的知識を身につけ、経営の観点から理解するとともに、そこに内在する課題を理解します。そのために、公教育システムに関してなじみの深い事象を参照し、その原理や構造・機能、それに関する政策や法制度、理論や論争、実態や課題を検討していきます。
到達目標	私たちにとってはあたりまえで意識することもないような、学校教育を中心とした公教育システムのあり方について視野が広がり、理解が深まります。例えば「学校では何を学ぶのか」「学校ではどのように教えられるのか」という内容・方法的な事柄についても、さまざまな制度やその運用によって規定されている様子がわかるなど、教育の環境や条件についての関心が高まり、直接的な行為だけに回収されない教育の奥行きや広がりが理解できるようになります。
授業方法と留意点	プレゼンテーションソフトを用いた講義のほか、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション（LTD；Learning Through Discussion）等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 ウェブ上で資料配布、課題提示・レポート提出をすることがあります。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果（資格）	教員免許取得上選択必修であり、可能な限り修得することが望ましい科目 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各科目に含める必要事項：教育に関する社会的、制度的又は経営的事項

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 公教育とは	授業概要、方法としてのLTDについて説明 教育における「公」と「私」 公教育の成立・展開	シラバス、テキスト第１部を読んでくる。
2	教育権の構造	「教育をする権利」「教育を受ける権利」「学習する権利」	テキスト第２部を読んでくる。
3	教育を受ける権利の保障	教育権論争について簡単なグループワーク 公教育の制度原理	教育権論争についての配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第１部を読んでくる。
4	学校体系のしくみ	「義務制」「無償制」にかかわって簡単なグループワーク 段階性、系統性 学校体系の類型 学校の種類と設置者	教育の制度原理についての配布飼料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第１部を読んでくる。
5	学校体系の現代的課題	選別・分離と接続・統合	テキスト第１部を読んでくる。
6	教育条件整備の法制度と新しい動向	「選抜・選別」について簡単なグループワーク 公教育を支える諸条件とは 条件整備はどのようになされるか	学校の機能に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第３部を読んでくる。
7	中央教育行政の組織構造	各省庁・審議会	テキスト第３部を読んでくる。
8	地方教育行政の組織構造	教育行政の原則 教育委員会のしくみとはたらき 首長部局と教育委員会	テキスト第３部を読んでくる。
9	中央‐地方教育行政の関係構造	教育委員会制度論の新動向に関して簡単なグループワーク 教育行政の原則、監督行政と指導行政 教育行政関係の新しい動向	教育委員会制度の動向に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第３部を読んでくる。
10	教育費と教育財政	教育財政の考え方 国・地方の教育費と教育財政 義務教育費国庫負担制度とその改革 学校財務	テキスト第３部を読んでくる。
11	指導行政と教育課程管理	学習指導要領、研究指定・研究開発、教科書行政 学力論争と教育評価論	テキスト第４部を読んでくる。
12	人事行政と教職員管理	学力低下論争をめぐって簡単なグループワーク 教職員の資格・身分・服務管理、教育労働管理	学力低下論争に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第４部を読んでくる。
13	学校の組織管理と組織編制	教職員配置、学校・学級の「適正規模」「適正配置」 学校評議員制度、学校運営協議会制度	テキスト第４部を読んでくる。
14	学校経営の組織構造	学校の「適正規模」「適正配置」にかかわって簡単なグループワーク 学校の組織特性、学校経営の組織と過程（学校と地域との連携含む）	学校統廃合に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第４部を読んでくる。
15	学校の安全管理と安全教育	安全管理の領域 安全教育の方法	テキスト第４部を読んでくる。

関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育社会学」「教師論」「教育課程論」に関連する事項を含みます。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	公教育経営概説　（改訂版）	堀内孜	学術図書出版社
2			
3			

参考書

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
	2 / / /
	3 / / /
評価方法 （基準）	定期試験 60%、レポート 30%、グループワークにおけるピアレビュー10%。定期試験を受験しなかった場合は評価をしません。
学生への メッセージ	教員採用試験で頻出の教育法規については授業中に折に触れ解説しますが、採用試験ではそれを基本としてさらに幅広い知識、深い理解と応用力が要求されます。本科目は採用試験対策のための講義ではありませんので、各自が自主的に採用試験受験準備に取り組んでください。 遅刻・早退等は厳禁です。専門職業人・教師としての資質が問われます。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階　朝日研究室
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度です。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	教育課程論	科目名（英文）	Studies of Curriculum Development
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大野　順子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	（１）教育課程(カリキュラム)とは何かについて考える。教育課程(カリキュラム)はどのような目的から、どのような内容で編成されているのかについての歴史的経緯を考察する。また、同時に学校教育システムとの関わりから、その意義や役割を理解する。 （２）わが国における学習指導要領の変遷や戦前・戦後のカリキュラムの実践的開発を知ると共に、これからのカリキュラム開発の課題について考える。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りである。 （１）学校教育における教育課程の意義について理解できる。 （２）将来、教職に就いた際、適切な教育課程（カリキュラム）を計画・編成し、かつ、実践、評価し、改善できる資質が身につく。
授業方法と留意点	本授業は、授業全体を通して、みなさん一人一人の授業への主体的な参加が求められます。また、各自が取得する免許教科の中学校・高等学校の教科書を熟読し、さらに、それぞれが取得する免許教科の学習指導要領を入手し、熟読しておいてください。
科目学習の効果（資格）	教員免許（中学校・高等学校）取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	教育課程とは何か／オリエンテーション	学校教育のもつ機能について。	課題：シラバスに挙げている教科書を購入し、授業テーマに該当する分を読み、まとめる。
2	日本における教育課程の歴史的変遷Ⅰ	戦前から戦後（経験主義～系統主義：高度経済成長期）の教育課程変遷について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
3	日本における教育課程の歴史的変遷Ⅱ	1970 年代以降、「ゆとり」への標榜から「生きる力」、そして現在までの教育課程変遷について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
4	教育課程（カリキュラム）の概念と構造、および教育課程編成について	教育課程の編成要素（内部要因と外部要因）について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
5	教育評価　その１	子どもたちの発達段階にふさわしい評価の方法とその特質について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
6	教育評価　その２	教育課程評価について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
7	『総合的な学習の時間』について	導入の背景とそのねらいについて。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
8	新しい教育課程　その１	「キャリア教育」について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
9	新しい教育課程　その２	「アクティブラーニング」について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
10	新しい教育課程　その３	「社会に開かれた教育課程」について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
11	教育課程と教育改革　その１	特色のある学校づくり＝小中高編。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
12	教育課程と教育改革　その２	カリキュラム・マネジメントについて。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
13	教育課程と教育格差　その１	学力格差と学力低下問題について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
14	教育課程と教育格差　その２	教育格差に抗する学校の取り組みについて。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
15	総括：教育課程をめぐる諸問題	海外の学校教育課程の動向、及び、キー・コンピテンシー（OECD）について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読み、最終レポートを作成する。

関連科目：教職科目全般と関連がある。他の教職科目と重なる所や特徴点を整理していくことが重要。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新しい時代の教育課程（第４版）	田中耕治他	有斐閣アルマ
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新教育課程ライブラリ（Vol.1～Vol.12）	（株）ぎょうせい	（株）ぎょうせい
2	ワークで学ぶ教育課程論	尾崎博美他	ナカニシヤ出版
3			

評価方法（基準）	事前課題・レポートの内容（40%）と最終試験（60%）により総合的に評価する。
学生へのメッセージ	指定している「教科書」を活用し、毎時間、事前事後学習をしっかりと行ってください。レポート等の提出物に関しては期日までに提出すること。期日以降の提出は原則認めません。
担当者の研究室等	７号館３階(大野順子研究室) 連絡先： j-oono@arc.setsunan.ac.jp
備考	2009 年度以前入学生は、(高校) 教免取得上選択 授業計画に記載している授業テーマは授業の進捗状況により少々前後することがあります。 授業で用いる資料等については，適宜印刷し，配布します 事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。

科目名	工業科教育法Ⅰ	科目名（英文）	Engineering Education Ⅰ
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	福岡　優
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	工業科教育法Ⅰでは、工業教育の意義・役割・目標や教育関連法規、歴史と現状などについて学び、工業高等学校教員として必要な基礎的知識の修得を図る。 授業担当者の工業高等学校や教育センター等における経験を活かし、実践力を育成する授業を行う。
到達目標	工業高等学校において教育を行うために必要な基礎的知識や技能を得ることができる。
授業方法と留意点	パワーポイントによるオンライン講義を中心に行い、毎回レポートを提出を求める。質問等についてはTeamsで対応し、実践的な能力の向上を図る。
科目学習の効果（資格）	高等学校「工業」一種免許状を得るために必要。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	工業教育の意義・歴史・法令関係 〈意義・役割・目標・内容等〉	オリエンテーション。 工業教育の意義・役割について解説する。	参考書等による事前学修（1時間） 授業終了時に示す課題についてレポートの作成（1時間）
2	工業教育の意義・歴史・法令関係 〈意義・役割・目標・内容等〉	工業教育の目標やその内容、適正年齢等について解説する。	参考書等による事前学修（1時間） 授業終了時に示す課題についてレポートの作成（1時間）
3	工業教育の意義・歴史・法令関係 〈意義・役割・目標・内容等〉	工業教育における技術者倫理の育成について解説する。	参考書等による事前学修（1時間） 授業終了時に示す課題についてレポートの作成（1時間）
4	工業教育の意義・歴史・法令関係 〈教育関係法令〉	教育関係法令の種類と法令のおもな部分について解説する（日本国憲法、教育基本法等）。	参考書等による事前学修（1時間） 授業終了時に示す課題についてレポートの作成（1時間）
5	工業教育の意義・歴史・法令関係 〈教育関係法令〉	教育関係法令の種類と法令のおもな部分について解説する（新旧教育基本法の比較等）。	参考書等による事前学修（1時間） 授業終了時に示す課題についてレポートの作成（1時間）
6	工業教育の意義・歴史・法令関係 〈教育関係法令〉	教育関係法令の種類と法令のおもな部分について解説する（学校教育法等）。	参考書等による事前学修（1時間） 授業終了時に示す課題についてレポートの作成（1時間）
7	工業教育の意義・歴史・法令関係 〈教育関係法令〉	教育関係法令の種類と法令のおもな部分について解説する（学校教育法施行規則、地教行法等）。	参考書等による事前学修（1時間） 授業終了時に示す課題についてレポートの作成（1時間）
8	工業教育の意義・歴史・法令関係 〈教育関係法令〉	教育関係法令の種類と法令のおもな部分について解説する。（高等学校学習指導要領総則関係）。	参考書等による事前学修（1時間） 授業終了時に示す課題についてレポートの作成（1時間）
9	工業教育の意義・歴史・法令関係 〈教育関係法令〉	教育関係法令の種類と法令のおもな部分について解説する（工業高等学校の目標等）。	参考書等による事前学修（1時間） 授業終了時に示す課題についてレポートの作成（1時間）
10	工業教育の意義・歴史・法令関係 〈工業高校発展の歴史と現状〉	教育関係法令の種類と法令のおもな部分について解説する（高等学校学習指導要領解説工業編）。	参考書等による事前学修（1時間） 授業終了時に示す課題についてレポートの作成（1時間）
11	工業教育の意義・歴史・法令関係 〈工業高校発展の歴史と現状〉	日本の工業高校歴史と現在の状況について解説する（明治時代初期の工業の教育等）。	参考書等による事前学修（1時間） 授業終了時に示す課題についてレポートの作成（1時間）
12	工業教育の意義・歴史・法令関係 〈工業高校発展の歴史と現状〉	日本の工業高校歴史と現在の状況について解説する（明治時代中期以降の工業の教育等）。	参考書等による事前学修（1時間） 授業終了時に示す課題についてレポートの作成（1時間）
13	工業教育の意義・歴史・法令関係 〈工業高校発展の歴史と現状〉	日本の工業高校歴史と現在の状況について解説する（大正時代以降の工業の教育の歴史、現在の状況等）。	参考書等による事前学修（1時間） 授業終了時に示す課題についてレポートの作成（1時間）
14	工業教育の意義・歴史・法令関係 〈工業高校発展の歴史と現状〉	工業高等学校の学科の種類とその特徴を解説し、専門高校の全体像を把握する。	参考書等による事前学修（1時間） 授業終了時に示す課題についてレポートの作成（1時間）
15	教科・工業の内容関係 〈教科・工業の共通科目〉	工業技術基礎および課題研究の指導内容・方法について解説し、教材等について研究協議を行う。 工業科教育法Ⅰで学習したことをまとめる。	参考書等による事前学修（1時間） 授業終了時に示す課題についてレポートの作成（1時間）

関連科目	教職に関連する科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	高等学校学習指導要領	文部科学省	
2	高等学校学習指導要領解説工業編	文部科学省	
3	新しい観点と実践に基づく工業科教育法の研究	池守滋、佐藤弘幸、中村豊久	実教出版株式会社

評価方法 （基準）	提出物により評価する。
学生への メッセージ	工業科教育に必要な科目です。主体的な学びを期待します。
担当者の 研究室等	非常勤講師室、図書館
備考	連絡は１１号館 1F 教務課へ

科目名	工業科教育法Ⅱ	科目名（英文）	Engineering Education II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	福岡　優
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	工業科教育法Ⅱでは外国や専門学校における工業教育、さらに、工業高等学校における学習指導・学習指導計画の作成から授業の進め方と成績評価・授業改善、進路指導等について学び、工業高等学校教員として必要な基礎的知識の修得を図る。 授業担当者の工業高等学校や教育センター等における経験を活かし、実践力を育成する授業を行う。
到達目標	工業高等学校において教育を行うために必要な基礎的知識や技能を得ることができる。
授業方法と留意点	参考書と配布プリント、模擬授業による講義を行う。模擬授業では各専門科目の模擬授業と各分野に共通する科目等の模擬授業を行う予定。
科目学習の効果（資格）	高等学校「工業」一種免許状を得るために必要。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	外国の技術・工業教育について	外国の技術・工業教育の具体例を説明する（韓国）。 WebFolder による授業にします。	参考書による事前学修（１時間） 授業終了時に示す課題についてのレポート作成（1時間）
2	外国の技術・工業教育について	外国の技術・工業教育の具体例を説明する（アメリカ）。	参考書、配布プリント等による事前学修（１時間） 提出課題についての事後学修と授業終了時に示す課題についてのレポート作成（２時間）
3	外国の技術・工業教育について	外国の技術・工業教育の具体例を説明する（ドイツ）。	参考書、配布プリント等による事前学修（１時間） 提出課題についての事後学修と授業終了時に示す課題についてのレポート作成（２時間）
4	専修学校について	専修学校等などの工業教育の内容について説明する。	参考書、配布プリント等による事前学修（１時間） 提出課題についての事後学修（１時間）
5	教材・教具と報告書について	工業高等学校における教材・教具と報告書について解説する。 （この授業から以後、対面授業で実施）	参考書、配布プリント等による事前学修と事後学修（１時間）
6	安全教育について	工業高等学校における安全教育について解説する。 （対面授業）	参考書、配布プリント等による事前学修と事後学修（１時間）
7	授業と学習指導案について	工業高等学校における授業と学習指導案について解説する。 （対面授業）	参考書、配布プリント等による事前学修と事後学修（１時間）
8	学習指導案の作成、評価規準、教材の活用について	工業高等学校における学習指導案の作成、評価規準、教材の活用について解説する。 （対面授業）	参考書、配布プリント等による事前学修（１時間） 学習指導案の作成（2 時間）
9	模擬授業１と評価および意見交換	工業各分野に関する科目の模擬授業を実施し、研究協議を行う。 （対面授業）	模擬授業の研究協議について事後学修（１時間）
10	模擬授業２と評価および意見交換	工業各分野に関する科目の模擬授業を実施し、研究協議を行う。 （対面授業）	模擬授業の研究協議について事後学修（１時間）
11	模擬授業３と評価および意見交換	工業各分野に関する科目の模擬授業を実施し、研究協議を行う。 （対面授業）	模擬授業の研究協議について事後学修（１時間）
12	模擬授業４と評価および意見交換	工業各分野に関する科目の模擬授業を実施し、研究協議を行う。 （対面授業）	模擬授業の研究協議について事後学修（１時間））
13	模擬授業５と評価および意見交換	工業各分野に関する科目の模擬授業を実施し、研究協議を行う。 （対面授業）	模擬授業の研究協議について事後学修（１時間）
14	模擬授業６と評価および意見交換	工業各分野に関する科目の模擬授業を実施し、研究協議を行う。 （対面授業）	模擬授業の研究協議について事後学修（１時間）
15	工業科教育法Ⅱのまとめ	工業高校における工業教育について研究協議を行う。 （対面授業）	参考書、配付資料等で事前学習（１時間）

関連科目：教職に関連する科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	高等学校学習指導要領	文部科学省	
2	高等学校学習指導要領解説工業編	文部科学省	
3	「新しい観点と実践に基づく工業科教育法の研究」	池守滋、佐藤弘幸、中村豊久	実教出版株式会社

評価方法：提出物 50%、模擬授業 50%により評価する。

（基準）	
学生への メッセージ	工業科教育に必要な科目です。主体的な学びを期待します。
担当者の 研究室等	非常勤講師室、図書館
備考	連絡は１１号館 1F 教務課へ

科目名	数学科教育法Ⅲ	科目名（英文）	Method of Mathematics Teaching III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	富永　雅
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	・数学科教育法Ⅲでは，中学校数学科教員を目指す学生の意識を高め，実際に教育を担当できうるための基礎的な実践能力の育成をめざす。 ・中学生の実態を捉え、「カリキュラム・教育目標・目的・方法・内容・評価・教授及び学習に関する理論」に関する知識を展開し，数学教育における教育の方法や技術の修得に重点を置く。 ・問題発見力と解決のための「情報活用法」を体得するべく，グループ学習を重視し，プレゼンテーション・模擬授業をとおして「教えるもの」と「学ぶもの」の相互の立場を経験し，自己の教育観・教育力の基礎的基盤の確立を目指す。 ・校種間の連携も考え、小学校・高等学校の学習・指導についても学ぶ。
到達目標	・中学校学習指導の理解 ・数学的な活動の理解と体得 ・必須授業力の理解と自己の授業力の育成 ・模擬授業の基礎力 ・評価と評定についての理解
授業方法と留意点	グループ学習・活動を実施する。 自らが発見した課題に積極的に取り組む。 成果として、発表・レポートの提出を求める。
科目学習の効果（資格）	「創造型人材育成教育（数学教育）を実践しうる教育者」となるための基礎・基本の確立ができる。(中学校一種免許（数学)) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	本授業のねらいと展開	本教科科目の内容、特徴、 学び方、全体の展望、学習の進め方。	課題レポート
2	数学教育の目的と目標 学習指導案	学習指導要領から目標などを学ぶ。 典型的な学習指導案の作成について学ぶ。	課題レポート
3	数学教育の歴史	数学教育体制がどのように始められ変遷してきたか学ぶ。 また、数学教育史から現代数学教育を見つめなおす。	課題レポート
4	数学教科書比較（1）	学習指導要領などを基に教科書の分析法や，授業・指導の組織化の方法について学ぶ。	課題レポート
5	数学教科書比較（2）	教科書を比較することから数学指導における注意点を認識し、その指導法について考える。	課題レポート
6	算数教育から数学教育へ	小学校算数教育の内容を通じて，小中の算数数学教育の連携をどのように考るべきかについて学ぶ。	課題レポート
7	数学科教授計画	授業の設計法を体系的に学ぶ。目標の分析法や，授業・指授業の設計法を体系的に学び、その知識を援用して学習指導案にまとめる。	課題レポート
8	数学教材とその応用（１）	代数・幾何分野（発展的内容を含む）などの数学教材を基にその指導についての現状を知る。	課題レポート
9	数学教材とその応用（２）	代数・幾何分野（発展的内容を含む）などの数学教材を基に教育・指導観を吟味する。	課題レポート
10	教科書比較・模擬授業に関わる考察（1）	各自の発表に関して、該当単元設置の目的，注意点についてまとめ、発表する。	課題レポート
11	教科書比較・模擬授業委に関わる考察（２）	相互の準備状況について意見交換を行い，発表に備える。	課題レポート
12	模擬授業（・プレゼンテーション）・グループ学習(1)	各自の求める数学教育像の一つとして，「15 分間の模擬授業」をまとめ，実践する。	課題レポート
13	模擬授業（・プレゼンテーション）・グループ学習(2)	グループ員各々の模擬授業を「学ぶものの立場」,「同僚（教えるもの）としての立場」で相互評価し，自己評価を加えて総合的にまとめる。	課題レポート
14	模擬授業（・プレゼンテーション）・グループ学習(3)	模擬授業の相互評価と自己評価の発表と検討により，自己の教育力・評価力育成のための方法を体得する。	課題レポート
15	まとめ	具体的な問題を取り上げ、学習してきた内容を基に、その指導法について考察する。	課題レポート

関連科目：本科目を学ぶまでに開講されている他の教職関連科目，一般教養科目を予め履修されておくことが望ましい。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

<table>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>○ 模擬授業は必須。
○ 受講生・グループで連携が必要。
● 日常学習状況を考慮しつつ、教科書比較・模擬授業などのレポートで評価（100%）を行う。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>○ 将来教員をめざす学生の切磋琢磨の場として，プレゼンテーション能力の育成をはかり，グループを中心に，新しい教材開発など積極的な活動を求める。

※以下、4 月 22 日以降分のメッセージです
より具体的には、5 月 8 日まではオンライン（Moodle）で実施します。
詳細は、Moodle「2021 数学科教育法Ⅲ」でご確認下さい。尚、既に Moodle には学生皆さんを登録しています。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>対応は、当該講義内が中心となります。
ただし、2020 年後期は、ICT ツール Moodle を用いた授業となるため、連絡を取る必要ががる場合は、別途記した指定メールを利用してお問い合わせください。</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>○ 授業においては、ICT ツール Moodle を用いることがあります。
○事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。</td></tr>
</table>

科目名	理科教育法Ⅳ	科目名（英文）	Science Teaching Ⅳ
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	菅波　昌広
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	理科教育法Ⅳでは、教育実習時に十分通用するような授業実践力を培うことを第一目標とする。指定された単元の模擬授業を実際に行うことで、授業の難しさ、教材研究の重要性を知る。さらに、模擬授業に対する研究協議によって、授業計画や指導法の改善を行う。 授業担当者は、大阪工業大学高等学校(現常翔学園高等学校・中学校)にて２２年間理科の教諭として教壇に立ち、その間３０名を越える教育実習生の指導も行ってきた。講義では授業担当者が行ってきた実践例や現場の経験などを紹介し、学習者は授業の設計方法から実施方法、授業の技術を身に付けることが出来る。また、教育実習や教員採用試験に至るまで一連の指導や情報提供を行うことができる。
到達目標	《一般目標》 楽しく、わかりやすい、魅力ある授業を行うために、それらに必要な知識の習得や技術を身につける。 《行動目標》 ① わかりやすい文章が書けるようになる ② 理解しやすい話(説明)ができるようになる ③ 授業に必要な知識を身につける ④ 授業計画・授業設計ができるようになる ⑤ 授業に必要な教材や教具が作成できるようになる ⑥ 適切な評価ができるようになる ⑦ 適切な板書ができるようになる ⑧ 学習指導案が作成できるようになる ⑨ 理科実験における安全管理
授業方法と留意点	本授業では講義をベースにグループワーク、討議などを中心に進め、講義内容は教材プリントにまとめたものを配布する。授業は講義内容に沿って説明や解説を行うが、学習者の今までの経験や体験談なども発表してもらい、意見交換や情報共有をしていく。それらの内容を授業で配布する学習ノートに各自でまとめ、本時の収穫(授業で得られたことや身についたことなど)と授業に対する意見や質問を書いて毎回提出する。講義プリントは授業の最後または次回に配布し、まとめや振り返りに使用する。授業の最初に、前回の学習ノートに記載されていた意見や
科目学習の効果（資格）	高等学校一種免許（理科） 中学校一種免許（理科）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	教育実習に向けて	教育実習に向けての準備しておくべきことや実習中についてのヒントについて話す。	・学習ノートを作成すること〔30 分?1 時間〕
2	教育実習と授業の実際	先輩の教育実習時の研究授業におけるビデオを見て、学習指導案をもとに講評を行い、疑問点や課題について協議する。また、実際の教育現場や教室の雰囲気なども感じ取る。	・学習ノートを作成すること〔30 分?1 時間〕
3	教授フローチャートによる授業	指導案を共同利用する目的で考案された教授フローチャートについて、その特徴や利点について学ぶ。教育目標，目的，内容，方法，評価についても考え，板書計画を含めた，指導細案の作成を行う。	・学習ノートを作成すること〔30 分?1 時間〕
4	学習者から高い評価を受ける授業の実践例とその分析	達人が行う中学校の授業のビデオを視聴する。授業づくりや教材研究、授業の展開の工夫や教授法について学びとったことをレポートする。	・学習ノートを作成すること〔30 分?1 時間〕
5	教育実習で行う範囲の模擬授業(１)	教育実習で教壇実習を行う範囲のうち１校時の模擬授業を行う。指導案に基づき、模擬授業実施者は 50 分(45 分)間の授業を行なう。さらにその模擬授業について研究協議を行ない、助言を受けた箇所については改善を行い、教育実習に臨む。	《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備 (学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成)〔平均して 5?6 時間〕 ・研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。〔30 分?1 時間〕 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。〔30 分?1 時間〕
6	教育実習で行う範囲の模擬授業(2)	教育実習で教壇実習を行う範囲のうち１校時の模擬授業を行う。指導案に基づき、模擬授業実施者は 50 分(45 分)間の授業を行なう。さらにその模擬授業について研究協議を行ない、助言を受けた箇所については改善を行い、教育実習に臨む。	《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備 (学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成)〔平均して 5?6 時間〕 ・研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。〔30 分?1 時間〕 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。〔30 分?1 時間〕
7	教育実習で行う範囲の模擬授業(3)	教育実習で教壇実習を行う範囲のうち１校時の模擬授業を行う。指導案に基づき、模擬授業実施者は 50 分(45 分)間の授業を行なう。さらにその模擬授業について研究協議を行ない、助言を受けた箇所については改善を行い、教育実習に臨む。	《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備 (学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成)〔平均して 5?6 時間〕 ・研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。〔30 分?1 時間〕 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。〔30 分?1 時間〕
8	教育実習で行う範囲の模擬	教育実習で教壇実習を行う範囲のうち	《授業者》

	授業(4)	１校時の模擬授業を行う。指導案に基づき、模擬授業実施者は 50 分(45 分)間の授業を行なう。さらにその模擬授業について研究協議を行ない、助言を受けた箇所については改善を行い、教育実習に臨む。	・模擬授業実施日までの事前準備 (学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成)〔平均して 5?6 時間〕 ・研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。〔30 分?1 時間〕 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。〔30 分?1 時間〕
9	教育実習で行う範囲の模擬授業(5)	教育実習で教壇実習を行う範囲のうち１校時の模擬授業を行う。指導案に基づき、模擬授業実施者は 50 分(45 分)間の授業を行なう。さらにその模擬授業について研究協議を行ない、助言を受けた箇所については改善を行い、教育実習に臨む。	《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備 (学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成)〔平均して 5?6 時間〕 ・研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。〔30 分?1 時間〕 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。〔30 分?1 時間〕
10	教育実習で行う範囲の模擬授業(6)	教育実習で教壇実習を行う範囲のうち１校時の模擬授業を行う。指導案に基づき、模擬授業実施者は 50 分(45 分)間の授業を行なう。さらにその模擬授業について研究協議を行ない、助言を受けた箇所については改善を行い、教育実習に臨む。	《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備 (学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成)〔平均して 5?6 時間〕 ・研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。〔30 分?1 時間〕 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。〔30 分?1 時間〕
11	教育実習で行う範囲の模擬授業(7)	教育実習で教壇実習を行う範囲のうち１校時の模擬授業を行う。指導案に基づき、模擬授業実施者は 50 分(45 分)間の授業を行なう。さらにその模擬授業について研究協議を行ない、助言を受けた箇所については改善を行い、教育実習に臨む。	《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備 (学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成)〔平均して 5?6 時間〕 ・研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。〔30 分?1 時間〕 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。〔30 分?1 時間〕
12	教育実習で行う範囲の模擬授業(8)	教育実習で教壇実習を行う範囲のうち１校時の模擬授業を行う。指導案に基づき、模擬授業実施者は 50 分(45 分)間の授業を行なう。さらにその模擬授業について研究協議を行ない、助言を受けた箇所については改善を行い、教育実習に臨む。	《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備 (学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成)〔平均して 5?6 時間〕 ・研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。〔30 分?1 時間〕 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。〔30 分?1 時間〕
13	教育実習における報告(1)	教育実習で行った授業や体験した事について、報告を行う。適宜質疑を行い、情報共有する。(一人 30 分程度)	・他の受講生の報告から得られた事、自らへのヒントとなる事などを学習ノートにまとめる。〔30 分?1 時間〕
14	教育実習における報告(2)	教育実習で行った授業や体験した事について、報告を行う。適宜質疑を行い、情報共有する。(一人 30 分程度)	・他の受講生の報告から得られた事、自らへのヒントとなる事などを学習ノートにまとめる。〔30 分?1 時間〕
15	魅力ある授業をつくる	自己の行なった模擬授業と学習者から高い評価を受ける授業とを比較し，自己の授業力を高める方法について考える。	・学習ノートを作成すること〔30 分?1 時間〕

関連科目	本科目を履修するにあたり、開講されている教職関連科目、一般教養科目等を予め履修されていることが望ましい。 理科教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを履修していること。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	高等学校学習指導要領解説　理科編	文部科学省	
2	中学校学習指導要領解説　理科編	文部科学省	
3			

評価方法 (基準)	模擬授業(50%)、学習ノートと課題レポート(50%)
学生への メッセージ	理科教育法Ⅳでは教育実習時に生徒たちが少しでも理科に対して興味・関心を持ち、授業を受けられて良かったと思えるような授業づくりをこころがけよう。そのため充分に時間をかけて教材研究を行ない、教材教具を多用し、アクティブラーニングを取り入れた価値ある授業展開ができるようになって欲しい。模擬授業では将来教員を目指している学生の切磋琢磨の場として、積極的な取り組みを期待する。
担当者の 研究室等	３号館２階学習支援センタースタッフルーム
備考	６月は受講者全員が教育実習に出向き、月末には教員採用試験が予定されている。そのため、６月の講義は休講とし、その補講は受講者の人数を

	考慮して調整を行い、４月と５月中に実施する。たたし、新型コロナの影響による社会情勢により、変更する場合があります。 提出された学習ノートは、点検と評価を行い、コメントをつけて次回の授業で返却する。 模擬授業に対する学習者側学生からの評価表(ルーブリック)と講評は、提出があり次第返却の予定。教育実習に向けて参考にする事。 模擬授業で用いる教科書は実習校によって異なるため、各自で用意する。

科目名	英語科教育法Ⅰ	科目名（英文）	English Teaching Methods Ⅰ
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	松田　早恵
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	学習者が第二言語・外国語を習得するプロセスについて基礎的な内容を理解し、授業指導に生かせるようにする。また、中学校及び高等学校における年間を通した学習到達目標に基づく評価の在り方、観点別学習状況の評価に基づく各単元における評価規準の設定、さらに評定への総括のしかたについて理解する。さらに、中学校および高等学校における３つの資質・能力を踏まえた「５つの領域」の指導および領域統合型の言語活動に関する基本的な知識と技能を身に付けるとともに、様々な教材や ICT の活用方法を学び、生徒の特性や習熟度に応じた指導についても考える。
到達目標	中学校及び高等学校における英語の学習指導に関する知識と授業指導および学習評価の基礎を身につけた上で、授業観察、授業体験、模擬授業などの学習形態を通して、実際の授業の組み立て方や学習指導案の作成方法を学ぶ。また、言語能力の測定や評価の方法を理解する。
授業方法と留意点	・スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの４つの基本スキルの指導、授業の準備や分析、評価などを演習を通して学ぶ。 ・理論を学び、グループで具体的な指導のスキルを練習すると共に、各々で短い授業を企画し、実技で発表する。
科目学習の効果（資格）	英語教員免許(中・高) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第二言語習得と英語教育	第二言語習得とは 英語教授法の種類	第 7 章、第 8 章
2	語彙指導	語彙とは 語彙学習活動と評価	第 19 章
3	リーディング指導	リーディングとは リーディング活動と評価	第 12 章
4	リーディング指導	多読とは 多読活動と評価、	第 12 章
5	ライティング指導	ライティングとは ライティング活動と評価	第 13 章
6	リスニング指導	リスニングとは リスニング活動と評価	第 10 章
7	スピーキング指導	スピーキングとは スピーキング活動と評価	第 11 章
8	模擬授業と分析（1）	単独領域模擬授業	第 10～13 章、第 19 章、第 20 章
9	領域統合型指導	領域統合型活動と評価	第 10～13 章、第 19 章、第 20 章
10	学習者要因	学習者要因とは 種類とその影響	第 4 章
11	測定と評価	測定と評価の種類と方法	第 15 章
12	ICT を用いた活動	ICT を用いた活動例の紹介、実践	第 16 章
13	模擬授業と分析（2）	領域統合型模擬授業	第 10～13 章、第 19 章、第 20 章
14	模擬授業と分析（3）	領域統合型模擬授業	第 10～13 章、第 19 章、第 20 章
15	総括	求められる英語教師像 教師の役割	第 5 章

関連科目：「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教職総合演習」「各教科教育法」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Sunshine English Course 1, 2, 3		開隆堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新学習指導要領にもとづく英語科教育法	望月昭彦編著	大修館書店
2	英語 4 技能評価の理論と実践	望月昭彦・深澤真・印南洋・小泉利恵〔編著〕	大修館書店
3	英語リーディングの科学－読めたつもりの謎を解く	卯城祐司〔編著〕	研究社

評価方法（基準）	①小テスト・レポート（50%） ②模擬授業（学習指導案作成・実技・実技分析）（50%）
学生へのメッセージ	英語教師が知っておくべき知識を広い分野でカバーした科目となりますので情報量が膨大ですが、全体像を把握してもらう入門コースとなります。興味を持った分野があれば、さらに文献を読み込み、勉強をしてください。英語教員には広い知識と高い英語力が必要です。普段から 4 技能をバランスよく伸ばす努力をしてください。一緒に頑張りましょう！ ★教材共有、連絡用などに使いますので、Teams への参加をお願いします。
担当者の研究室等	前期：(7 号館耐震工事のため) 11 号館 11 階 後期：7 号館 5 階(松田研究室)
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。

科目名	英語科教育法Ⅱ	科目名（英文）	English Teaching Methods II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	齋藤　安以子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	外国語としての英語を学習する過程をデザインする立場に身をおき、教材や機器を効果的に用いて学習者に合ったさまざまな学習指導案を作成したり、実際に実技を行ったりしながら教授法を学ぶ。自己の実技を録画したものを用いて改善点を見出し、改訂版の授業を行う。小中高といった校種や教科の壁を越えて連携ができるよう、他者の学習指導案や授業について建設的なディスカッションを行い、多様な授業を創る方法を理解する。なお、学習指導案の個別指導は課外にも行う。
到達目標	・中学校および高等学校における３つの資質・能力を踏まえた「５つの領域」(「聞く」「読む」「話す（やりとり)」「話す(発表)」及び「書く」)の指導および各領域を支える音声、文字、語彙・表現、文法の指導について基本的な知識と技能を身に付け、複数の領域を統合した言語活動の指導方法を身に付ける。 ・教材や ICT の活用方法を知るとともに、英語による授業展開や ALT 等とのティーム・ティーチングの方法について理解する。さらに、生徒の特性や習熟度に応じた指導について理解する。 ・学年ごとのカリキュラムを考え、
授業方法と留意点	・スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの４つの基本スキルの指導、授業の準備や分析、評価などを演習を通して学ぶ。 ・理論を学び、グループで具体的な指導のスキルを練習すると共に、各々で短い授業を企画し、実技で発表する。 ・2021 年度は、第 8・9 回以外にも ICT を履修生自身が扱う練習を行う。模擬授業は「オンライン授業を企画・実施」とする。模擬授業の回には教員役も生徒役もオンラインに接続し、互いにどう見えるのか、対面模擬授業との差を体験し、改善点を考える。 ・第 7 回（10 月 26 日）より対面
科目学習の効果（資格）	英語教員免許（中・高） 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	「５つの領域」と領域統合型の言語活動の指導 英語の発音指導	基本母音と子音・機材の利用について	発音記号の復習（読み方・聞き分け・調音の仕組み）
2	小学校における外国語活動と英語・文字に関する指導	小学校での外国語活動の実例紹介	基本的な英文法の復習と教員としての英語のモデル音読の練習（１）
3	中学校の英語の検定教科書と高校入試	検定教科書と入試問題の分析	基本的な英文法の復習と教員としての英語のモデル音読の練習（２）
4	教材研究と学習指導案の作成（１） 英語の音声的な特徴に関する指導	中学校の検定教科書を用いた音声指導案の作成	基本的な英文法の復習と教員としての英語のモデル音読の練習（３）
5	学習者間のやりとりを増やす学習活動デザイン:英語でのインタラクション	リスニング力の向上の方法に関して学ぶ 中学校で学ぶ語彙・文法を用いた対話例の作成	公立高校の入試問題を解く（１）
6	模擬授業と分析（１） 音声言語を中心とする学習活動	指導上の留意点・生徒の発話を引き出す方法	公立高校の入試問題を解く（２）
7	高校の英語の検定教科書と大学入試	ライティングの指導法・方法論に関して高等学校の検定教科書を分析する	検定教科書の付属教材を自分で解いてみる（１）
8	教材研究と学習指導案作成（２） ICT 等の活用	指導案作成	検定教科書の付属教材を自分で解いてみる（２）
9	ICT 活用と教授言語：学習言語のみによる授業展開と、日本語併用の場合の比較	板書と ICT の演習	センター入試の前年度の問題を自分で解いてみる
10	模擬授業と分析（２） 教員１人で ICT 機器を使う場合	自分で企画した授業をクラスで実践する 分析と改善	空き教室の黒板とホワイトボードで板書の練習（１）
11	生徒の特性や習熟度に応じた指導と評価	指導案の展開バリエーションを増やす	空き教室の黒板とホワイトボードで板書の練習（２）
12	教材研究と学習指導案作成（３） ALT 等とのティーム・ティーチング	自分で企画した授業をクラスで実践する 分析と改善	授業の練習
13	演劇を応用した言語活動	易しい英語の脚本を用いたスキット指導を学ぶ ドラマ手法を会話練習に応用する	授業の練習
14	模擬授業と分析（３）教員２人の場合	自分で企画した授業をクラスで実践する 分析と改善	授業の練習
15	これからの英語教育がめざすもの	討論と発表	復習

関連科目	教職科目全般 英語科目全般

<table>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>新学習指導要領にもとづく英語科教育法　第３版［ISBN 978-4-469-24621-6］</td><td>望月　昭彦　編著</td><td>大修館書店</td></tr>
<tr><td>2</td><td>The History of the English Language ［ISBN 978-0-19-423397-2</td><td>Brigit Viney</td><td>Oxford UP</td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>日本の検定教科書を使って中学・高校で英語科目を教えるに充分な英語の知識と運用力を前提とした、
（１）模擬授業　（レッスンプラン作成・授業時間中に行う実技・レポート）
（２）レポート
上記項目の両方の評価がいずれも 100 点満点中の 60 点以上で合格とする。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>・この科目を十分理解し、授業立案・実技などを行うためには、辞書をひきながら英語を読み解き、正確に理解し、文法的に正確な例文を書く能力が必要です。
・今の大学生が高校生だったころよりも、日本の中高の教育が目指す英語教育の目標が引き上げられています。3 年次のうちに英検準 1 級の取得をめざしましょう。
・英語の文法、語彙、スペル、発音等、中高生にとってお手本になれるよう、基礎から復習をしてください。

・担当者は、大阪府内の小学校での英語活動の授業を数年間、ALT や担任の先生方と共に担当するとともに、寝屋</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>7 号館 4 階（齋藤研究室）</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>・履修前に、学習指導要領を、文部科学省のＨＰで読んでおくこと。
・日々、学校教育や言語学習をめぐるニュースに目を向けよう。
・事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。</td></tr>
</table>

科目名	英語科教育法Ⅲ	科目名（英文）	English Teaching Methods III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	齋藤　安以子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	中学校や高等学校の英語教員をめざすうえで、押さえておくべき英語科教育の基礎について理論的側面と実践的側面から学ぶ。特に ①リーディングとライティングの指導、 ②文字と文法に関する指導、 ③語彙・表現に関する指導 に焦点をあてて、学習指導要領の「３つの資質・能力」（「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう力等」）を踏まえた目標の設定方法と指導計画の立て方、学習到達目標に基づいた授業の組み立て方と学習指導案の作成方法、観点別学習状況の評価方法や評価規準の設定方法、などを修得し、それらを実践する力を養う。
到達目標	英語科教育に関する基礎的内容を押さえ、リーディングとライティングの指導法、文字と文法の指導法、語彙・表現の指導法を修得する。受講生は授業観察や授業体験を通じて実際の授業の展開を理解し、さらに自分で作成した学習指導案に基づいた模擬授業を行うことによって実践的な力を養う。
授業方法と留意点	・理論を学び、グループで具体的な指導のスキルを練習すると共に、各々で短い授業を企画し、実技で発表する。 ・各自が授業指導案を作成する際は、担当者が随時添削など個別指導を行う。 留意点： ・毎回の授業で予習・参加・復習が必須。全回出席を前提に授業が進む。 ・ブロークンではなく正確な英語を話したり書いたりするためのトレーニングを、授業外でも各自行う。 ・「学習者」と「授業を創る側」の両方の立場で、自分が大学で受講中の授業を分析的に見る。 ・教授法を学ぶ前段階として必要な英文法・語彙の習得が足り
科目学習の効果（資格）	英語教員免許（中・高） 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	学習者と英語教員 音声指導（1）＋指導案作成	カリキュラムとシラバス 調音の仕組み	鏡を見て自分の発声を観察する・いろいろな音を聞き分ける
2	学習指導要領と英語教授法 音声指導（2）＋指導案作成	カリキュラムとシラバス 英語の音と日本語の音のちがい	音の出し方を他人に説明する練習をする
3	第２言語習得と英語教育 音声指導（3）＋模擬授業	イントネーション	意識的な音の出し方を練習する
4	リーディング指導:リーディング指導の目標	読むことの指導	英語で書かれた文章を読む自分をモニターする
5	リーディング指導:指導方法と評価方法	読むことの指導と評価	英語で書かれた文章を読む自分をモニターする
6	ライティング指導:ライティング指導の目標 文字の指導	書くことの指導	日常生活の中から、質問のバリエーションを広げる
7	ライティング指導:指導方法と評価方法	書くことの指導と評価	広告や雑誌・新聞などを教材の材料として注意深く見る
8	教材研究と指導案作成の基礎	教材の作りやすさと使いやすさ	糊とはさみで教材を作る
9	指導案作成と模擬授業（1）：リーディング指導	授業づくり 使えるものは何でも使ってみよう：学校の機器を使って、学習活動のバリエーションを増やす	校内にあるさまざまな教具や機器を探す
10	指導案作成と模擬授業（2）：ライティング指導	授業づくり 授業の狙いと機器の価値：実際に教室の機器や学内の設備を使って、教科書の価値を高める教え方・学び方を考える	校内にあるさまざまな教具や機器が授業でどのように使われているか調査する
11	文字の指導	文字の指導方法 ディスレクシアの理解と教育現場での対応	復習 調査
12	文法の指導	文法の指導方法	復習 調査
13	語彙・表現の指導	語彙・表現の指導方法 自分で企画した授業をクラスで分析する	復習 調査
14	指導案作成と模擬授業	文字・文法の指導、語彙・表現の指導を含めた授業づくり	復習
15	英語教育の展望	社会が要請する外国語教育について、報道記事を元に考え、討論する 今学期の自分の変化を語る・今後の目標	これまでの自分の学習を振り返る

			と到達のための手がかりを探す	

関連科目	・教職科目全般 ・英語科目全般
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新学習指導要領にもとづく英語科教育法　第３版 ISBN:9784469246216	望月　昭彦　編著	大修館書店
2	The History of the English Language ［ISBN 978-0-19-423397-2］	Brigit Viney	Oxford UP
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	日本の検定教科書を使って中学・高校で英語科目を教えるに充分な英語の知識と運用力を前提とした、 （１）模擬授業　（レッスンプラン作成・15 回の授業時間中に行う実技・レポート） （２）筆記試験 上記項目の両方の評価がいずれも 100 点満点の 60 点以上で合格とする。
学生への メッセージ	・この科目を十分理解し、授業立案・実技などを行うためには、辞書をひきながら英語を読み解き、正確に理解し、文法的に正確な例文を書く能力が必要です。 ・今の大学生が高校生だったころよりも、日本の中高の教育が目指す英語教育の目標が引き上げられています。3 年次のうちに英検準 1 級の取得をめざしましょう。 ・英語の文法、語彙、スペル、発音等、中高生にとってお手本になれるよう、基礎から復習をしてください。 ・大好きな科目、大好きな学校 で働きたい、と思うなら、責任を持って教えられる人になるため、貪欲に知識を増やし
担当者の 研究室等	7 号館 4 階(齋藤研究室) ただし前期は 11 号館に一時移動予定
備考	・履修前に、学習指導要領を、文部科学省のＨＰで読んでおくこと。 ・日々、学校教育や言語学習をめぐるニュースに目を向けよう。 ・事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。

科目名	英語科教育法Ⅳ	科目名（英文）	English Teaching Methods Ⅳ
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	松田　早恵
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	現在の英語教育学界は、小学校への英語教育導入を始め、高等学校への英語による英語授業への展開等、目まぐるしい動きを見せている。それに対応できるように、新たな英語教育へ向けて、英語教授法や授業の運営スキル等を身につけることが、この授業の目標である。主に、リスニング、スピーキング、ライティング、文法・語彙・表現、異文化理解に関する指導というテーマに焦点をおいて、これらのことを理解し、授業指導に生かすことができるようになることを目指す。
到達目標	本授業は３つのことを行う。第１に、教科書を講読しながら、リスニング、スピーキング、ライティング、文法・語彙・表現、異文化理解に関する指導に関する理論を学び、知識を身につける。第２に、これらの知識を基に創意あふれる授業を計画し、その学習指導案が書けるようになる。第３に、模擬授業を行い、自分のパフォーマンスを客観的に見返し、またクラスメートからのコメントを参考にし、自分の教授のスキルの弱点を克服することを学ぶ。学習指導案の個人指導は課外時間に行う。充実した教育実習を行うことができるように万全の準備をする。
授業方法と留意点	・スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの４つの基本スキルの指導、授業の準備や分析、評価などを演習を通して学ぶ。 ・理論を学び、グループで具体的な指導のスキルを練習すると共に、各々で短い授業を企画し、実技で発表する。
科目学習の効果（資格）	英語教員免許(中・高) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	英語教育の基礎理論	英語科教育法とは 英語科教育法の目的	序章
2	英語教育の基礎理論	英語教育と英語教育学	第１章
3	英語教育の基礎理論	英語の国際化と日本の英語教育	第２章
4	英語教育の基礎理論	学習指導要領	第３章
5	英語教育の実践編	リスニングの指導：教材研究及び学習指導案作成	第 10 章
6	英語教育の実践編	リスニング：教科書を使った模擬授業	第 10 章
7	英語教育の実践編	スピーキングの指導：教材研究及び学習指導案作成	第 11 章
8	英語教育の実践編	スピーキング：教科書を使った模擬授業	第 11 章
9	英語教育の実践編	ライティングの指導：教材研究及び学習指導案作成	第 13 章
10	英語教育の実践編	ライティングの指導：教科書を使った模擬授業	第 13 章
11	英語教育の実践編	文法の指導：教材研究及び学習指導案作成	第 18 章
12	英語教育の実践編	文法の指導：教科書を使った模擬授業	第 18 章
13	英語教育の実践編	語彙・表現の指導：教材研究及び学習指導案作成	第 19 章
14	英語教育の実践編	語彙・表現：教科書を使った模擬授業	第 19 章
15	英語教育の実践編及びまとめ	異文化理解の指導及びまとめ	第２章、第９章

関連科目：「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教職総合演習」「各教科教育法」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Sunshine English Course 1, 2, 3		開隆堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	英語多読・多聴指導マニュアル	高瀬敦子	大修館書店
2	シャドーイング・音読と英語コミュニケーションの科学	門田修平	コスモピア
3	英語指導における効果的な誤り訂正：第二言語習得研究の見地から	白井知彦	大修館書店

評価方法（基準）	①小テスト・レポート（50%） ②模擬授業（学習指導案作成・実技・実技分析）（50%）
学生へのメッセージ	英語教師が知っておくべき知識を広い分野でカバーした科目となりますので情報量が膨大ですが、全体像を把握してもらう入門コースとなります。興味を持った分野があれば、さらに文献を読み込み、勉強をしてください。英語教員には広い知識と高い英語力が必要です。普段から４技能をバランスよく伸ばす努力をしてください。一緒に頑張りましょう！ ★教材共有、連絡用などに使いますので、Teams への参加をお願いします。
担当者の研究室等	前期：(耐震工事のため）11 号館 11 階（10 月中旬まで） 後期：7 号館 5 階(松田研究室)
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。

科目名	中国語科教育法Ⅰ	科目名（英文）	Chinese Teaching Methods Ⅰ
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	中西　正樹
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	中国語および中国語教授法についての基礎知識を身につけ、その概要がわかるようにする。発音や文法の指導のなかでつまづきやすい問題を重点的に理解を深め、それを伝えるためにはどうすればよいのかを考える。
到達目標	中国語教育の歴史と現状および中国語教育に必要な中国語の概要(音声・文法・表記上の特徴)が理解できる。
授業方法と留意点	講義形式で授業を行う。ただし，文法項目ごとに授業方法に関するプレゼンテーションを課すなど演習形式も取り入れる。
科目学習の効果（資格）	中国語教員免許の必須科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	発音１・「是」・副詞	中国語の発音指導のポイントとその指導法。	事後にこの授業で学んだことを関連項目とともに１時間かけて復習する。
2	発音２・指示代名詞・「口馬」疑問文と反復疑問文	日本人にとって習得が難しい声調。疑問文における英語，日本語，中国語の対比。	事前に１時間をかけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに１時間かけて復習する。
3	形容詞述語文とその否定や疑問	英語 be 動詞を例にとった中国語「是」の教え方と注意点。	事前に１時間をかけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに１時間かけて復習する。
4	「的」	日本語「の」と中国語「的」を対比させた教え方とその問題点。	事前に１時間をかけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに１時間かけて復習する。
5	前置詞「在」・「是～的」構文・疑問詞疑問文	疑問詞疑問文と「口馬」疑問文の違い，中国語の前置詞フレーズの文中位置を英語の前置詞フレーズと比較しながら教える。	事前に１時間をかけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに１時間かけて復習する。
6	数詞・疑問数詞・文末助詞「口尼」	日本語と中国語の間で数詞を比較する。「几」と「多少」の使い分け。	事前に１時間をかけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに１時間かけて復習する。
7	量詞・「二」と「兩」・動詞「有」と「在」	「二」と「兩」の使い分け。「ある」を表す「有」と「在」の意味と文型の違い。	事前に１時間をかけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに１時間かけて復習する。
8	二種類の「怎麼」・「為什麼「這麼」「那麼」	How の「怎麼」と Why の「怎麼」の使い分けと見分ける方法について。	事前に１時間をかけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに１時間かけて復習する。
9	進行文・「ねばならない」助動詞群	助動詞の使い方を英語助動詞と対比させることで理解を促す。	事前に１時間をかけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに１時間かけて復習する。
10	連動文・使役を表す「叫」と「讓」・兼語文	使役文が兼語文からの派生であることを理解し，教授法に取り入れる。	事前に１時間をかけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに１時間かけて復習する。
11	「不」と「没」・二重目的語・様態補語	中国語の授与動詞や二重目的語文型を英語の give 文と対比させながら理解する。	事前に１時間をかけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに１時間かけて復習する。
12	「できる」助動詞群・「したい」助動詞群・了	可能表現にまつわる助動詞文と可能補語文の違いと使い分け。	事前に１時間をかけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに１時間かけて復習する。
13	アスペクト「着」「過」	時制とアスペクトの違いとその中国語での文法形式について。	事前に１時間をかけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに１時間かけて復習する。
14	「了１」と「了２」・２つの「着」「快～了」	「了１」と「了２」の使い分け。	事前に１時間をかけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに１時間かけて復習する。
15	「把」構文・結果補語・受け身	「把」構文を使う目的とその条件。	事前に１時間をかけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに１時間かけて復習する。

関連科目	「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教職総合演習」「各教科教育法」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	高校版 語法ルール 66	相原茂 /玄宜青	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業参加 60%、レポート 40%

学生への メッセージ	比較的少人数の授業です。一緒に勉強していきましょう。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階 中西研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。
備考	事前・事後学習の総時間が 60 時間以上必要です。

科目名	中国語科教育法Ⅱ	科目名（英文）	Chinese Teaching Methods II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	中西　正樹
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	「中国語科教育法Ⅰ」で学ぶ中国語教育の実状と指導のあり方をふまえつつ、ここでは授業を「計画」「実践」「反省」するという体験を経ることによって、「何を」「どのように」教えるかを理解する。具体的には： １．日本語を母語とする中国語学習者にとって何が必要で何が必要でないかを学ぶ。 ２．学習者の状態を常に目と耳を使って観察することを学ぶ。 ３．学習者の状態によっては教える「内容」と「方法」を随時調整せねばならないことを学ぶ。
到達目標	教える能力としては，教育実習の場面で学習歴，クラスサイズ，教材などさまざまな状況に対応しながら学習者の知的好奇心を刺激できるような授業ができるようになる。 教科内容については，中国語の文法や語彙を系統的に整理する能力を高めて，学習者の状況に合わせた教材やテストを用意できる能力を身につけることができる。
授業方法と留意点	オンライン形式で授業を行う。教育実習時に不可欠な「学習指導案」作成を中心に据えながら、これに実践と自己分析を盛り込む。オンラインながら，実習に十分な時間を当てる。
科目学習の効果（資格）	中国語教員免許状 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	発音とピンイン指導	中国語の発音やピンインの指導では、日本語の発音やローマ字から逸脱する事項に重点を置き、これを学習者に十分理解させる。	この授業で学んだことを１時間かけて復習する。次回の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを１時間かけて行う。
2	学習指導案作成Ⅰ (発音篇)	入門期の学習者がつまづきやすい二音節語の声調パタンの学習を想定し、音声素材を活用した授業を企画する。	この授業で学んだことを１時間かけて復習する。次回の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを１時間かけて行う。
3	発音の指導と評価実習	他の受講生を学習者と見立てながら、前回に作成した指導案に沿って授業を実践する。模範の提示、評価、アドバイスは適切だろうか。	この授業で学んだことを１時間かけて復習する。次回の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを１時間かけて行う。
4	講読・作文の指導	文の意味を理解し、文を自在に生成するために文法を理解させねばならない。日本語などとの比較を通して、効果的に「読み」「書き」を教える。	この授業で学んだことを１時間かけて復習する。次回の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを１時間かけて行う。
5	学習指導案作成Ⅱ (講読・作文篇)	動詞「是」の学習を想定する。英語の be 動詞との比較やパタン練習をうまく構成して一回の授業でこの動詞を理解させる指導案を作ってみる。	この授業で学んだことを１時間かけて復習する。次回の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを１時間かけて行う。
6	講読・作文の指導実習	指導案に沿って授業をしてみる。パタン練習では学習者をうまくオペレートできるだろうか？質問に的確に答えられるだろうか？	この授業で学んだことを１時間かけて復習する。次回の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを１時間かけて行う。
7	リスニング指導と関連機器	テープ・ＭＤ・ＣＤ・ＰＣ・ＤＶＤなどメディアの特性に加えてＬＬやＣＡＬＬの概念をよく理解し、これらを授業にうまく利用する。	この授業で学んだことを１時間かけて復習する。次回の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを１時間かけて行う。
8	学習指導案作成Ⅲ (リスニング篇)	ディクテーションやサイトトランスレーション・シャドウイングなど「リスニング」に関わる訓練法を取り入れた指導案を作成する。	この授業で学んだことを１時間かけて復習する。次回の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを１時間かけて行う。
9	ディクテーションとシャドウイング	LL 教室を使用する。すでに作成してある指導案に沿いながら、音声や映像メディアの送出や学習者のモニタリングを実習する。	この授業で学んだことを１時間かけて復習する。次回の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを１時間かけて行う。
10	テストの目的とその方法	テストとは既習事項の達成度を測り、その結果を学習者と教師双方の指針とするものである。テスト問題作成の方法とその結果の扱いを学ぶ。	この授業で学んだことを１時間かけて復習する。次回の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを１時間かけて行う。
11	テストを作ってみる	授業２～３回分の既習事項を確認するためのショートテストを Word で作ってみる。レイアウトにも気を配りながら過不足なく適切な問題を作る。	この授業で学んだことを１時間かけて復習する。次回の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを１時間かけて行う。
12	学習者へのフィードバックと成績管理	（１）服務の宣誓　（２）信用失墜行為の禁止　（３）兼職の禁止　等について	この授業で学んだことを１時間かけて復習する。次回の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを１時間かけて行う。
13	マルチメディアを利用する(1)	CD や DVD あるいは Web で入手可能な音声・映像素材を教材用に編集する技術を学ぶとともに著作権の概念を理解する。	この授業で学んだことを１時間かけて復習する。次回の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを１時間かけて行う。
14	マルチメディアを利用する(2)	e-ラーニング及びさまざまな Web サービスを利用した授業を考える。	この授業で学んだことを１時間かけて復習する。次回の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを１時間かけて行う。
15	マルチメディアを利用する(3)	CALL 教室で模擬授業をする。	この授業で学んだことを１時間かけて復習する。

関連科目	「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教職総合演習」「各教科教育法」
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	小テスト及び単元テスト 80% 授業参加度や提出物 20%
学生への メッセージ	「教えられる者」の視点に立つ、つまり生徒を観察する余裕が持てること。大切なことなのですがこれがなかなか難しいのです。この問題を授業の中で皆さんといっしょに考えたいと思います。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階(中西研究室)
備考	教材としてプリントを配布します。 事前・事後学習の総時間が 60 時間以上必要です。 授業時間外に質問がある場合は、「連絡手段」の方法で問い合わせること。質問に対してはメールなどの方法で必ずフィードバックを行う。

科目名	中国語科教育法Ⅲ	科目名（英文）	Chinese Teaching Methods III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	小都　晶子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	中国語教育の歴史と現状、中国語の学習内容など、中国語および中国語教育の基礎知識を学ぶ。また中国語教科書によって、発音・文法・語彙がどのように教えられているのかを理解する。
到達目標	日本における中国語教育の歴史や現状、学習すべき内容を説明することができる。
授業方法と留意点	受講者は教科書の該当部分をあらかじめしっかりと予習し、授業では教員が補助資料などを示しながら、内容について討論する。
科目学習の効果（資格）	中国語教員免許の必須科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入：中国語とは？ （教科書　第１章）	中国語の基本情況について学習する。	事前に教科書の該当部分をしっかり予習し、事後にこの回の学習内容を復習する。
2	日本の中国語教育① （第２章）	日本における中国語教育の歴史を学習する。	事前に教科書の該当部分をしっかり予習し、事後にこの回の学習内容を復習する。
3	日本の中国語教育② （第３章）	日本における中国語教育の現状を学習する。	事前に教科書の該当部分をしっかり予習し、事後にこの回の学習内容を復習する。
4	中国の外国人向け中国語教育 （第４章）	中国・台湾における外国人向け中国語教育の現状を学習する。	事前に教科書の該当部分をしっかり予習し、事後にこの回の学習内容を復習する。
5	漢字と発音表記 （第５章）	漢字や発音表記法について学習し、中国語辞典についても検討する。	事前に教科書の該当部分をしっかり予習し、事後にこの回の学習内容を復習する。
6	発音の学習① （第６章）	発音の学習内容について理解する。	事前に教科書の該当部分をしっかり予習し、事後にこの回の学習内容を復習する。
7	発音の学習②	中国語教科書によって、発音の教授法を検討する。	事前に中国語教科書の該当部分を検討し、事後にこの回の学習内容を復習する。
8	文法の学習① （第７章）	文法の学習内容について理解する。	事前に教科書の該当部分をしっかり予習し、事後にこの回の学習内容を復習する。
9	文法の学習② （第７章）	文法の学習内容について理解する。	事前に教科書の該当部分をしっかり予習し、事後にこの回の学習内容を復習する。
10	文法の学習③	中国語教科書によって、文法の教授法を検討する。	事前に中国語教科書の該当部分を検討し、事後にこの回の学習内容を復習する。
11	語彙の学習① （第８章）	語彙の学習内容について理解する。	事前に教科書の該当部分をしっかり予習し、事後にこの回の学習内容を復習する。
12	語彙の学習②	中国語教科書によって、語彙の教授法を検討する。	事前に中国語教科書の該当部分を検討し、事後にこの回の学習内容を復習する。
13	基本技能の習得と評価 （第９章）	学習目標と評価について検討する。	事前に教科書の該当部分をしっかり予習し、事後にこの回の学習内容を復習する。
14	授業計画と評価	授業計画と評価について検討し、学習指導案を作成する。	事前に中国語教科書をもとに学習指導案を準備し、事後に授業をふまえて指導案を修正する。
15	まとめ	学習指導案にしたがってプレゼンを実施し、課題や問題点を検討する。	事前にプレゼンを準備し、事後に課題をまとめる。

関連科目：「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教職総合演習」「各教科教育法」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語の教え方・学び方　中国語科教育法概説	輿水優	日本大学文理学部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業・課題への取り組み（50%）、レポート（50%）によって総合的に評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	小都研究室（7 号館 3 階） 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。
備考	事前・事後にあわせて 60 時間程度の学習を要する。 課題に対する評価は提出後に書面または口頭でフィードバックする。

科目名	中国語科教育法Ⅳ	科目名（英文）	Chinese Teaching Methods Ⅳ
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	兪　鳴蒙
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	中国語の教員になるためには、中国語学、中国文学、中国語コミュニケーション、異文化理解の４つの分野を学ばなければならない。 この授業は中国語科教育法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで学んだことを基礎に、異文化理解を同時に目指す中国語教育に関する論文を読み、解説する。中国語教科教育法の知識の向上と教育法に関する研究能力の向上を目指す。
到達目標	異文化理解を目指す中国語教育のためのポイントを学ぶ。
授業方法と留意点	毎回、中国語の論文を訳読する。高度な内容の論文を読むので、必ず予習が必要である。また授業の最後には、授業の成果を踏まえて教案を書き、更にそれに基づく模擬授業もしてもらう。 事前・事後に各 60 分の学習を要する。
科目学習の効果（資格）	中国語教科教育法の知識の向上と中国語の読解力の向上に欠かせない講義である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	中国語教材における文化知識導入の研究	現状と問題	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。
2	中国語教材における文化知識導入の研究	文化知識導入の理論と原則	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。
3	中国語教材における文化知識導入の研究	教材分析１	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。
4	中国語教材における文化知識導入の研究	教材分析２	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。
5	中国語教材における文化知識導入の研究	教材分析３	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。
6	中国語教材における文化知識導入の研究	教材分析４	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。
7	新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析	語彙を中心に①	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。
8	新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析	語彙を中心に②	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。
9	新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析	文構文を中心に①	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。
10	新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析	文構文を中心に②	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。
11	新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析	文章構成を中心に	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。
12	新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析	話題を中心に①	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。
13	新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析	話題を中心に②	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。
14	まとめ１	これまでの学習成果を踏まえ、中国語授業の教案を書き、それを検討する。	教案を練る。
15	まとめ２	前回作成した教案をもとに、中国語の模擬授業を行う。その検討と反省を通して、授業全体のまとめを行う。	レポートを書く。

関連科目：中国語教科教育法Ⅲ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	配布		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	配布		
2			
3			

評価方法（基準）	小レポート（60%）、レポート（40%）
学生へのメッセージ	しっかり勉強すれば必ず力が付きます。
担当者の研究室等	７号館３階(兪研究室)
備考	事前・事後学習総時間は、毎回４時間程度とする。

科目名	社会科・地歴科教育法Ⅰ	科目名（英文）	Geography and History Education Method Ⅰ
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大井　秀士
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	近代教育制度の変遷を考察する中で、社会科・地歴科が持つそれぞれの使命と責任を理解するように努める。その基礎の上に具体的に授業展開を行う基本的知識・技能を習得する。このほか現場で起こる各種の問題についても適宜説明する。 授業担当者は高校と特別支援学校で教諭や管理職を経験し、さらに教育委員会で指導主事を経験している。 経験を活かした実践的な授業を行うので、授業を「受ける」立場からではなく、 「作る」立場から能動的な学びを期待します。
到達目標	将来の教員として必要な知識・方法論等を習得する。
授業方法と留意点	講義と学生諸君の発表や討論を中心として行うので、特に積極的な発言及び講義参加姿勢が望まれる。
科目学習の効果（資格）	中学・高校教員免許（社会科、地歴科） 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンスと年間計画	年間講義内容の概略・受講上の注意点・成績評価について	事前　既修の「教師論」「教育原理」を復習しておく。 事後　授業終了時に指示する。 （4時間程度）
2	日本の教育制度の歴史について	江戸末期以降から現代までの教育制度の変遷について学ぶ。	事前に中高で学習した明治以降の歴史を復習概観しておくこと。 事後　授業終了時に指示する。 （4時間程度）
3	学習指導要領について	戦後の学力観の変化と指導要領改訂の変遷を学ぶ。	事前　中高学習指導要領解説社会編・地理歴史編を読んでおく。 事後　授業終了時に指示する。 （4時間程度）
4	学習指導案の作成について１	地理・歴史科学習指導案作成の基礎を身に付け、授業への活用方法を学ぶ。	事前　学習指導案とは何かを調べておく。 事後　授業終了時に指示する。 （4時間程度）
5	学習指導案の作成について２	地理・歴史科学習指導案作成の基礎を身に付け、授業への活用方法を学ぶ。	事前　与えられたテーマで各自学習指導案を作成し発表に備える。 事後　授業終了時に指示する。 （4時間程度）
6	学習指導案の作成と模擬授業　1	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。 （4時間程度）
7	学習指導案の作成と模擬授業　2	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。 （4時間程度）
8	学習指導案の作成と模擬授業　3	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。 （4時間程度）
9	学習指導案の作成と模擬授業　4	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。 （4時間程度）
10	学習指導案の作成と模擬授業　5	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。 （4時間程度）
11	学習指導案の作成と模擬授業　6	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。 （4時間程度）
12	学習指導案の作成と模擬授業　7	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。 （4時間程度）
13	学習指導案の作成と模擬授業　8	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。 （4時間程度）
14	授業記録について	社会科教員として授業を見る目を鍛える為の授業記録の形式や方法について学ぶ。	事前　どのような授業記録方法があるかを考えておく。 事後　授業終了時に指示する。 （4時間程度）
15	評価の方法と理論	生徒の学習成果を検証するための視点と評価方法について学ぶ。	事前　評価方法の種類について考えておく。 事後　評価は自己の教育技術の反映であることを考える。 （4時間程度）

関連科目	社会科・地歴科教育法Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
	2 / / /
	3 / / /
評価方法 （基準）	レポート及び講義での発表・発言をもとに総合的に判定する。
学生への メッセージ	教職科目であり、教職に就くあるいは教育に高い関心を持っていることが受講の前提となります。その上で社会の変化とそれに対応する教育の動きを理解し、志高く理想的な社会科・地歴科を創造する基礎を養いませんか。
担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）
備考	

科目名	社会科・地歴科教育法Ⅱ	科目名（英文）	Geography and History Education Method II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大井　秀士
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	講義参加者全員が実際に研究授業展開を行い、教員として必要な基本的知識・技能を習得する。模擬授業を実践する中で講義参加者全員で討議・批評を行い各自の授業力向上を図る。 授業担当者は高校と特別支援学校で教諭や管理職を経験し、さらに教育委員会で指導主事を経験している。 経験を活かした実践的な授業を行うので、授業を「受ける」立場からではなく、 「作る」立場から能動的な学びを期待します。
到達目標	将来の教員として必要な知識・方法論を習得する。
授業方法と留意点	講義と学生諸君の模擬授業実践発表や討論を中心として行うので、積極的な発表、発言が望まれる。
科目学習の効果（資格）	中学・高校教員免許（社会科、地歴科） 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目区分：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含めることが必要な事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	学習指導要領歴史的分野（世界史）の内容等の確認。	世界史歴史的分野の時代区分と基礎的事項の確認。	事前　学習指導要領の通読 事後　講義後指示する。 （4 時間程度）
2	学習指導要領歴史的分野（日本史）の内容等の確認。	日本史歴史的分野の時代区分と基礎的事項の確認。	事前　学習指導要領の通読 事後　講義後指示する。 （4 時間程度）
3	学習指導要領地理的分野の内容等の確認。	地理的分野の基礎的事項の確認。	事前　学習指導要領の通読 事後　講義後指示する。 （4 時間程度）
4	学習指導案の作成と研究授業実施　１	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前　各自模擬授業指導案を作成 事後　授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出。（4 時間程度）
5	学習指導案の作成と研究授業実施　２	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前　各自模擬授業指導案を作成 事後　授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出。（4 時間程度）
6	学習指導案の作成と研究授業実施　３	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前　各自模擬授業指導案を作成 事後　授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出。（4 時間程度）
7	学習指導案の作成と研究授業実施　４	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前　各自模擬授業指導案を作成 事後　授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する。（4 時間程度）
8	学習指導案の作成と研究授業実施　５	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前　各自模擬授業指導案を作成 事後　授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出。（4 時間程度）
9	学習指導案の作成と研究授業実施　６	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前　各自模擬授業指導案を作成 事後　授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出。（4 時間程度）
10	学習指導案の作成と研究授業実施　７	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前　各自模擬授業指導案を作成 事後　授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出。（4 時間程度）。
11	学習指導案の作成と研究授業実施　８	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前　各自模擬授業指導案を作成 事後　授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出。（4 時間程度）
12	学習指導案の作成と研究授業実施　９	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前　各自模擬授業指導案を作成 事後　授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出。（4 時間程度）
13	学習指導案の作成と研究授業実施　１０	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前　各自模擬授業指導案を作成 事後　授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出。（4 時間程度）
14	授業実践発表の年間総括１	後期授業全体についての総括と反省点を討論する。	事前　全員の授業計画案を再度確認 事後　レポート作成、提出。（4 時間程度）
15	授業実践発表の年間総括２	後期授業全体についての講義担当者からの総括。	事後　レポート作成、提出。（4 時間程度）

関連科目	社会科・地歴科教育法Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	レポート及び講義での発表・発言をもとに総合的に判定する。

学生への メッセージ	教職科目であり、教職に就くあるいは教育に高い関心を持っていることが受講の前提となります。その上で社会の変化とそれに対応する教育の動きを理解し、志高く理想的な社会科・地歴科を創造する基礎を養いませんか。
担当者の 研究室等	3 号館２階非常勤講師室
備考	

科目名	社会科・公民科教育法Ⅰ	科目名（英文）	Civic Education Method Ⅰ
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大野　順子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本講義は、中学校社会科、及び、高校公民科の学習指導ができるようになるための基礎的素養を学ぶことを目的としています。そのため、できるかぎり実践的な観点から授業を進めていきます。まず、中学社会科、高校公民科の学習指導要領の内容を理解し、授業展開のポイントを解説します。また、わかりやすい授業を行うためのさまざまな授業方法を実践的に考えます。具体的には指導案の書き方の指導、可能な方法・範囲での模擬授業の実践を行い、皆さん自身が教師としての心構えを磨き上げていけるようにしていきます。まずは「教育実習」で生徒を失望させないきちんとした授業ができるよう、知識と意欲、そして責任をもって授業に参加してください。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 （1）中学社会科（地理、歴史、公民分野）、高校公民科の教師として必要な「知識」「技術・スキル」を確実に身につける。 （2）中学社会科、高校公民科の教師として、高い「授業実践力」をつける。 （3）社会科・公民科の授業を実践していくうえで最も重要な「教材研究」をするための力をつける。
授業方法と留意点	まず本授業では社会科、公民科教育の理論の整理、そして、可能な範囲・方法で履修者全員に模擬授業を行ってもらうよう「実践的な授業」を目指します。模擬授業の実践では、授業準備、指導案の作成、教材研究は必ず行ってもらいます。本講義では教師としての自覚もあわせて養成するため、授業への積極的な参加、そして各々の模擬授業の準備やそのふりかえりに積極的に取り組んでください。
科目学習の効果（資格）	中学校１種「社会」、高校１種「公民」の教育職員免許を取得するために必要である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：社会科・公民科教育の意義	日本における社会科教育の歴史と現状について学び、社会科・公民科教育の意義について考える。	社会科・公民科教育の課題について考えてくること。 ※それぞれの学習指導要領の総則部分を読んでおく。
2	中学校指導要領（社会）、高校指導要領（公民）にみる授業の目的	学習指導要領の概要について学ぶ。	各自事前に入手した学習指導要領（中学：社会科、高校：公民科）の事前読了。 ※指導要領の要約
3	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（1）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※前時の事前授業まとめと配布資料の要約
4	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（2）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
5	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（3）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
6	教育方法と技術（1）：ミニ模擬授業案作成	板書の方法・話し方・参考資料の作り方・新聞記事の利用のしかたなど、教育実践の基本的技術について。コンピューター（パワーポイントやインターネット）を用いた授業のやり方。パワーポイントを用いた授業のミニ模擬授業案の作成	新聞記事の検索、及びミニ模擬授業案の作成
7	教育方法と技術（2）：ミニ模擬授業案作成案作成	ディベートを取り入れた授業の工夫について。公民に関わるテーマで模擬ディベートを行いながら学ぶ。調査の意義と方法、研究発表の指導について。ディベートを取りれたミニ模擬授業案を作成する。	ディベート準備。ミニ模擬授業案の作成
8	学習指導案の書き方（1）：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導（1）：各自が作成した学習指導案をもとに、作成のヒントを説明する。	学習指導案の作成。
9	学習指導案の書き方（2）：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導（2）：各自が作成した学習指導案をもとに、作成する上での留意点について説明する。	学習指導案の作成。
10	模擬授業（1）	模擬授業の実践と指導（1）	模擬授業の準備。
11	模擬授業（2）	模擬授業の実践と指導（2）	模擬授業の準備。
12	模擬授業（3）	模擬授業の実践と指導（3）	模擬授業の準備。
13	模擬授業（4）	模擬授業の実践と指導（4）	模擬授業の準備。
14	成績評価の方法、及び試験の作成について	成績評価にあたって重要となる事柄の概要を知り、さまざまな成績評価の方法を学ぶ。また、定期試験作成についても学ぶ。	※事前配布資料の要約、及び、定期試験問題作成のシュミレーションを行う（事前課題）。
15	総括ー社会科指導について	授業全体をふりかえって討論し、社会科教師としての課題と責務を確認する。	各自、社会科教師としての自分の課題について考え、まとめてくること。

関連科目：社会科・公民科教育法１、社会科・公民科教育法２は「１→２」と連続して受講することが望ましい。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領解説社会編	文部科学省	日本文教出版
2	高等学校学習指導要領解説公民編	文部科学省	日本文教出版
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3			

評価方法 （基準）	事前学習課題の提出（30%）、模擬授業（50%）、最終レポート（20%）等により、総合的に評価する。
学生への メッセージ	中学社会科学習指導要領（最新年度版）を第一回目の授業開始までに購入（準備）しておくこと。これがないと授業参加や事前学習課題等に取り組むことができません。入手方法については書店、オンライン書店・ショップ等を利用してください。購入についての質問等はメールアドレスまで。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階　大野順子研究室 ※連絡のある方はメールアドレスは j-oono@arc.setsunan.ac.jp まで。
備考	授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。 事前・事後学習総時間数はおおよそ 60 時間程度とする。

科目名	社会科・公民科教育法Ⅱ	科目名（英文）	Civic Education Method II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大野　順子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本講義は、中学校社会科、及び、高校公民科の学習指導ができるようになるための基礎的素養を学ぶことを目的としています。そのため、できるかぎり実践的な観点から授業を進めていきます。まず、学習指導要領の内容を理解し、授業展開のポイントを解説します。また、わかりやすい授業を行うためのさまざまな方法を実践的に考えます。具体的には指導案の書き方の指導、模擬授業の実践を中心に参加型の授業法を取り入れて、皆さん自身が教師としての心構えを磨き上げていけるよう、互いに刺激し、批評しあう機会をもうけます。また、近年、選挙年齢が 18 歳に引き下げられたことによる子どもたちへの政治教育（主権者教育）の重要性が改めて問われています。とりわけ公民科では政治や経済問題を取り扱うことが多く、子どもたちに政治の主体として意識を涵養するための教育（市民性教育、シティズンシップ教育）をどのように実践できるのかについても考えていきます。具体的には政府が作成した政治教育副教材の分析や学校現場での実践例の分析などを行います。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 （1）中学社会科（地理、歴史、公民分野）、高校公民科の教師として必要な「知識」を確実に身につける。 （2）中学社会科、高校公民科の教師として、高い「授業実践力」をつける。 （3）授業を実践していくうえで最も重要な「教材研究」の力をつける。 （4）政治教育、市民性教育（シティズンシップ教育）についての理解を深め、指導案を作成し、授業実践ができるようになる。
授業方法と留意点	まず社会科、公民科教育の理論の整理、そして、可能な範囲で履修者全員に模擬授業を実践してもらうような「実践型・参加型の授業」を目指します。また模擬授業の実践では、それぞれの模擬授業終了後は必ず全員で意見交換を行い、授業内容に対する問題点と課題点を整理します。ここでのコメント力を鍛えることも重要な目標です。指示した授業準備は必ず行ってください。教師としての自覚もあわせて養成するため、遅刻・無断欠席については厳しく対応します。授業は対面で行います。
科目学習の効果（資格）	中学校１種「社会」、高校１種「公民」の教育職員免許を取得するために必要である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：社会科・公民科教育の意義	日本における社会科教育の歴史と現状について学び、社会科・公民科教育の意義について考える。	社会科教育の課題について考えてくること。
2	中学校指導要領（社会）、高校指導要領（公民）にみる授業の目的	学習指導要領の概要について学ぶ。	各自事前に入手した学習指導要領（中学：社会科、高校：公民科）の事前読了。 ※指導要領の要約
3	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（1）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
4	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（2）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
5	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（3）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
6	教育方法と技術（1）：ミニ模擬授業	板書・話し方・参考資料の作り方・新聞記事の利用のしかたなど、教育実践の基本的技術について。コンピューター（パワーポイントやインターネット）を用いた授業のやり方。パワーポイントを用いた授業をミニ模擬授業で実演する。	新聞記事の検索。
7	教育方法と技術（2）：ミニ模擬授業	ディベートを取り入れた授業の工夫について。公民に関わるテーマで模擬ディベートを行いながら学ぶ。調査の意義と方法、研究発表の指導について。ディベートを取りれたミニ模擬授業を実演する。	ディベート準備。
8	学習指導案の書き方（1）：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導（1）：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
9	学習指導案の書き方（2）：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導（2）：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
10	模擬授業（1）	模擬授業の実践と指導（1）	模擬授業の準備。
11	模擬授業（2）	模擬授業の実践と指導（2）	模擬授業の準備。
12	政治教育（市民性教育）（1）	政治教育副教材の分析	各自、副教材を分担し分担箇所を要約してくる。
13	政治教育（市民性教育）（2）	実践事例分析	政治教育実践例についてまとめ、発表。
14	成績評価の方法、及び試験問題の作成について	成績評価にあたって重要となる事柄の概要を知り、さまざまな成績評価の方法を学ぶ。また、定期試験問題作成について学ぶ。	※事前配布資料の要約、及び定期試験問題作成（事前課題）
15	総括ー社会科・公民科指導について	授業全体をふりかえって討論し、社会科教師としての課題と責務を確認する。	社会科教師としての自分の課題について考えてくること。

関連科目	社会科・公民科教育法１、社会科・公民科教育法２は連続して受講することが望ましいため、原則として社会科・公民科教育法１を既に履修していること。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領解説社会編	文部科学省	日本文教出版
2	高等学校学習指導要領解説公民編	文部科学省	日本文教出版
3			

<table>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>出席（全 15 回出席すること。少なくとも 80%以上の出席が必須。出席が 80%に満たない者は、以下の基準を満たしていた場合でも成績評価の対象外とする。）
成績ｊ評価基準：課題・レポート（提出の締め切りは厳守すること）＝３０％、模擬授業＝５０％、平常点（授業への貢献度等）＝20%。なお、授業最終日に確認テストを実施する予定です。その場合は、評価基準についても改めて授業内で連絡します。
※遅刻も欠席扱いとするので注意すること。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>本講義は学生の皆さんの主体的な授業への関与が求められます。一般的な講義に見られるような、教員が一方的に授業を進めていくスタイルではありません。学生の皆さんが授業をつくっていくことになります。ですので、宿題やレポート作成など、授業運営に欠かせない作業を怠ると自分自身はもちろんのこと、周囲に多大な迷惑がかかります。毎時間予習・復習を怠ることなく、責任と意欲を持って講義に出席して下さい。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>7 号館 3 階　大野順子研究室
連絡先メールアドレス：j-oono@arc.setsunan.ac.jp</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。
中学社会科、高校公民科の学習指導要領の入手方法については改めて説明します（前期社会科公民科教育法Ｉで購入済みの者は購入の必要なし）。
事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。</td></tr>
</table>

科目名	道徳教育の研究	科目名（英文）	Studies of Moral Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	谷口　雄一
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	この授業では、中学校において「特別の教科　道徳」（以下、道徳科）の授業を行うために必要な基本的な知識を習得した上で、生徒の実態や教材の特性に応じた適切な指導法を選択して学習指導案を作成できるようになることを目的としています。 授業担当者は小学校での約 15 年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を受ける」立場からではなく「作る」立場から能動的な学びを期待します。
到達目標	受講者が、道徳教育の必要性や歴史、現状と課題等についての基本的な知識を身に付け、中学校の道徳科の様々な指導法の特徴と課題について理解し、適切な発問を構成し、学習指導案を作成できるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	本授業は道徳科の授業づくりについて実践的に学ぶ内容のため対面で行います。具体的には、毎回、ペアや小グループ、全体での対話を通して道徳教育や道徳科の授業についての学びを進めていきます。また、後半には、学習指導案作成等の演習や受講者のみなさんによる模擬授業等を適宜取り入れます。 そして、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、道徳科の授業づくりについて多面的・多角的に考えることができる
科目学習の効果（資格）	中学校教諭１種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：道徳の理論及び指導法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス： 道徳科の授業について考える	・現在、我が国においてどのような道徳教育が行われているかを確認する。 ・正しさを決める４つのアプローチについて概観する。	（事前）自身が学校教育においてが受けてきた道徳教育がどのようなものであったかを思い出しておく。 （事後）テキスト 2. の P.8～17 を精読しておく。
2	日本の道徳教育の歴史	・明治から現在に至るまでの我が国の道徳教育の歴史を概観する。 ・道徳教育に存在する信念対立について考える。	（事前）テキスト 1. の P.6～12 を精読しておく。 （事後）日本の道徳教育の歴史や信念対立について整理しておく。
3	よい道徳教育とは何か	よい道徳教育について、生徒の道徳性の発達や教師の職能成長という観点から考える。	（事前）テキスト 1. の P.12～25 を精読しておく。 （事後）道徳の授業や道徳教育の方法と生徒の道徳性の発達、教師自身の成長との関係について整理しておく。
4	道徳の授業の多様な指導方法の特徴	道徳の授業のねらいに基づく８類型について概観し、多様な指導方法の特徴について考える。	（事前）テキスト 1. の P.26～35 及びテキスト 2. の P.26～29 を精読しておく。 （事後）道徳の授業のねらいに基づく８類型について整理しておく。
5	道徳の授業の発問の構成法	「特別の教科　道徳」の目標や内容について確認し、ねらいに基づく発問の構成法について考える。	（事前）テキスト 1. の P.36～48 及びテキスト 2. の P.30～33 を精読しておく。 （事後）ねらいに基づく発問の構成法について整理しておく。
6	道徳の授業の学習指導案の作成法	「特別の教科　道徳」のねらいに沿った授業を計画的に進めるための学習指導案の作成方法について考える。	（事前）テキスト 1. の P.49～58 及びテキスト 2. の P.34～37 を精読しておく。 （事後）道徳の授業の学習指導案の作成方法について整理しておく。
7	道徳の授業の評価	「特別の教科　道徳」における評価の内容や方法について考える。	（事前）テキスト 1. の P.59～68 及びテキスト 2. の P.38～41 を精読しておく。 （事後）道徳の授業の評価の内容や方法について整理しておく。
8	各授業類型のねらいと発問の特徴	教材の特性を踏まえた教材分析の方法について概観し、授業類型のそれぞれのねらいと特徴について考える。	（事前）テキスト 1. の P.71～85 及びテキスト 2. の P.42～45 を精読しておく。 （事後）教材分析の方法や授業構成について度整理しておく。
9	教材分析の視点	教材に描かれている人物や事象等を図式化することで道徳的な問題を明確化する教材分析の方法について概観する。	（事前）テキスト 1. の P.86～95 及びテキスト 2. の P.46～49 を精読しておく。 （事後） 教材分析の方法について整理するとともに、自身が選択した教材について分析しておく。
10	発問分析による授業づくりの視点	発問の特徴について概観し、発問分析に基づく授業改善の方法について考える。	（事前）テキスト 1. の P.96～106 及びテキスト 2. の P.50～53 を精読しておく。 （事後）問題解決的な学習や発問分析に基づく授業改善の方法について整理しておく。
11	授業づくりの実際①： カリキュラム・マネジメント、 テーマ発問	カリキュラム・マネジメントに基づく道徳の授業やテーマ発問を取り入れた道徳の授業について、実践事例をもとに概観する。	（事前）テキスト 1. の P.107～130 及びテキスト 2. の P.54～57 を精読しておく。 （事後）カリキュラム・マネジメントに基づく道徳の授業やテーマ発問を取り入れた道徳の授業について整理しておく。
12	授業づくりの実際②： 問題解決的な学習、探究型学習	問題解決的な学習を取り入れた道徳の授業や探究型学習を取り入れた道徳の授業について、実践事例をもとに概観する。	（事前）テキスト 1. の P.131～152 及びテキスト 2. の P.58～61 を精読しておく。 （事後）問題解決的な学習を取り入れた道徳の授業や探究型学習を取り入れた道徳の授業について整理しておく。
13	学習指導案の作成	これまでの講義内容をふまえ、第９回で選択し教材分析した教材を用いた道徳の授業について、学習指導案を作成する。	（事前）テキスト 2. の P.62～65 を精読しておく。 （事後）グループ毎に模擬授業の準備をしておく。
14	模擬授業と事後検討会①	模擬授業を行い、授業改善のための事後検討会を行う。	（事前）テキスト 2. の P.66～69 を精読しておく。 （事後）グループ毎に模擬授業と事後検討会の準備

			をしておく。
15	模擬授業と事後検討会② まとめ： 道徳科の授業について再び考える	・模擬授業を行い、授業改善のための検討を行う。 ・道徳科の授業づくりについてまとめる。	（事前）グループ毎に模擬授業と事後検討会の準備をしておく。 （事後）「よい道徳科の授業」について考えをまとめる。

関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみることが大切です。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	道徳科　初めての授業づくり	吉田誠・木原一彰　編著	大学教育出版
2	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　特別の教科　道徳編	文部科学省	教育出版
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　特別の教科　道徳編	文部科学省	廣済堂あかつき
2	『道徳教育』PLUS　考え、議論する道徳をつくる新発問パターン大全集	『道徳教育』編集部	明治図書出版
3			

評価方法 （基準）	毎回の授業の終わりに書いてもらうコメントペーパーの内容（30%）や、作成した学習指導案（20%）、学期末試験の結果（50%）等をもとに、総合的に評価します。また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。
学生への メッセージ	授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク、模擬授業等の学習を適宜取り入れたいと考えています。受講者の皆さんの積極的な参加・発言を期待しています。
担当者の 研究室等	７号館４階(谷口研究室)　※現在は耐震工事中のため、11 号館 11 階です。
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。

科目名	特別活動の理論と方法	科目名（英文）	Theories and Methods for Special Activities
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林　茂樹
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	特別活動の理論と指導法については、学校における様々な構成・場面での集団活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい学級生活・学校生活の実現を目指す特別活動の意義、目標及び内容を理解し、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。 学級担任が担当する場合が多い総合的な学習（探求）の時間の理論と指導法では、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を探求的な学びの過程を通して行い、よりよく課題を解決し、自己の生き方について考えていくための資質・能力の育成をめざし、指導計画の作成、学習指導や評価の考え方、留意点を理解する。 公立高校での学級担任、学年主任、総合的な学習の時間の企画主担等、34 年間のの教員経験に基づき、学校現場での学級づくりや総合的な学習の時間の展開に役立つ実践的な授業を行う。 SDGs-1,4,5,10
到達目標	教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連性、学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。 特別活動における取組の評価・改善活動の重要性、家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。 合意形成に向けた学級での話合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。 総合的な学習（探求）の時間の意義と教育課程において果たす役割、目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点、年間指導計画を作成することの重
授業方法と留意点	新型コロナ感染拡大に対応した授業の実施形態として、「講義科目はオンライン授業」と決定されたため、授業は原則として、時間割通りの曜日・時限に、Teams を使用して動画配信型（リアルタイム方式）で行っていたが、授業方針の変更に伴い 10 月 11 日、18 日は準備のためにオンデマンド方式で、10 月 25 日から対面方式で実施する。 第 15 回の授業の後半に、授業時間内テストを行う（定期試験期間中の考査は行わない）。 「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動や、自ら問いを見いだし、課題を立て、情報を整理分析
科目学習の効果（資格）	教員免許（中学校・高等学校）取得上必修科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション･特別活動および総合的な学習（探求）の時間の意義と課題	学校教育活動のなかでの特別活動の意義と課題、総合的な学習（探求）の時間の意義と教育課程の中で果たす役割、指導する上で教師に求められる力量	特別活動テキスト第 1 章、講義資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（2 時間）。
2	特別活動の目標・内容・方法 ワーク①「キャラ」をめぐって　〈ソロワーク〉	教科外活動としての位置づけ、特別活動の３つの内容、方法としての集団活動・体験活動	特別活動テキスト第 2 章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料を参考に復習するとともに課題を作成する（2 時間）。
3	学級活動･ホームルーム活動① ワーク②大学に入学して〈ソロワーク〉	学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり、学級開きと年間計画	特別活動テキスト第 3 章第 1 節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするをするとともに課題を作成する（2 時間）。
4	学級活動･ホームルーム活動② ワーク③学級活動の思い出〈ソロワーク〉	人間関係形成能力と社会性の育成、いじめ、荒れ、学級崩壊、係活動、班活動、委員会活動、日直	特別活動テキスト第 3 章第 1 節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（2 時間）。
5	生徒会活動・児童会活動、学校行事 ワーク④学校行事の思い出〈ソロワーク〉	生徒会（児童会）活動の歴史・目標・内容。学校行事の歴史・種類・内容・観点	特別活動テキスト第 3 章第 2･3 節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料を参考に復習をするをするとともに課題を作成する（2 時間）。
6	体験活動･体験的な学びの意義　　ワーク⑤「14 歳の頃･17 歳の頃」〈ソロワーク〉	特別活動･総合的な学習の時間における体験活動、自然体験、職場体験、ボランティア体験、体験を通した学びの重要性と計画的な指導の重要性	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（2 時間）。
7	特別活動の歴史 ワーク⑥ワークショップ入門〈ソロワーク、グループ討議、発表〉	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、学校種別の目標のちがい	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（2 時間）。
8	特別活動と学級経営 ワーク⑦メディアリテラシー　〈グループ討議、交流〉	学級経営の特質、学級経営と学級づくり、学級づくりと特別活動	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（2 時間）。
9	特別活動と生徒指導 ワーク⑧いじめへの対応（1）〈グループ討議、交流〉	生徒指導との関連、積極的生徒指導に果たす役割、自己指導能力の育成	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（2 時間）。
10	特別活動の指導計画と評価 ワーク⑨生徒指導･問題行動への対応〈即興劇、グループ討議、交流〉	全体計画・年間指導計画と配慮事項、1 単位時間の指導計画・指導案の作成、評価の対象、視点、方法、現状、評価結果の活用	特別活動テキスト第 4 章第 1･2･5 節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（2 時間）。
11	特別活動と総合的な学習（探求）の時間の共通点と相違点 ワーク⑩不登校への対応〈グループ討議、交流〉	特別活動と総合的な学習（探求）の時間の共通点と相違点、教育課程上の関連性	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（2 時間）。
12	総合的な学習（探求）の時間の目標・内容・原理 ワーク⑪進路指導･キャリア教育〈即興劇、グループ討議、交流〉	総合的な学習（探求）の時間の目標の構成、各学校において定める目標及び内容、方法的原理	総合的な学習の時間のテキスト第 1・2･3 章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（2 時間）。
13	総合的な学習（探求）の時間の学習活動と学習指導 ワーク⑫ジェンダーフリー〈グループ討議、交流〉	生徒の主体性を重視した学習指導、探究的な学習の過程における主体的で対話的で深い学び	総合的な学習の時間のテキスト第2･7章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（2 時間）。
14	総合的な学習（探求）の時間	全体計画、年間計画、単元計画の作成、	総合的な学習の時間のテキスト第 5･6・8 章、講義

		の指導計画・評価・校内体制ワーク⑬いじめへの対応（２）〈グループ討議、交流〉	生徒の学習状況の評価	資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（2 時間）。
	15	補足とまとめ／授業時間内テスト	補足を行うとともに全学習事項について再度振り返り整理する。授業時間の後半にテストを行う。	特別活動のテキスト第 4 章第 2･3･4 節、総合的な学習の時間のテキスト第 9 章、講義資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（2 時間）。

関連科目

すべての教職科目と関連するが、特に、「教師論」、「教育原理」「教育心理学」で学習したことと関連づけるともに、「教育方法論」、「生徒指導論」、「教育社会学」などの学習につなげることが大切である。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　特別活動編	文部科学省	東山書房
2	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　総合的な学習の時間編	文部科学省	東山書房
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	高等学校学習指導要領解説　特別活動編	文部科学省	東京書籍
2	高等学校学習指導要領　総合的な探求の時間編	文部科学省	学校図書
3			

評価方法（基準）

授業への参加状況及び課題（40%）、中間レポート（30%）、最終回授業内テスト（30%）を総合的に評価する。

学生へのメッセージ

学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだということが言われる。学級づくりには多様な方法論が存在するが、要は子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するということに尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。

担当者の研究室等

7 号館 3 階(林研究室)

備考

授業外総学習時間は 60 時間とする。

科目名	教職実践演習（中・高）	科目名（英文）	Practicum in Prospective Teachers
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	谷口　雄一.朝日　素明.大野　順子.林　茂樹.吉田　佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	○教育実習を終え、各自の問題点を明確化しながら今後の自らの実践課題をグループワーク等を通して再認識し、教員としての適性や実践的な力量について確認する。 ○中学・高校での現場体験学習をもとに、現職・元教員、教育委員会指導主事等と研究交流し、生徒理解を通して生徒指導・進路指導ができることを確認する。 ○教科に関する科目の担当者や科目の指導主事・現職教員と連携協議し、専門科目・教職科目の学習を深め、授業実践ができることを確認する。 ○教員としての適性や力量、特に「授業を創造する意欲と能力」「対人関係能力と社会性・協調性」「使命感・責任感」「学校教育活動におけるリーダーシップ」等を有していることを確認する。
到達目標	免許教科に関する学習、中学校での学習、今日的な教育問題に関する学習など、様々な学習を通して自身の課題を見つめ直し、教員としての適性や力量について確認することができる。
授業方法と留意点	○教職課程の専任教員５名による全体指導と、各専任教員ごとのグループ学習を中心に進める。１グループは１０名程度。さらに、長年の実践経験を有する教員から実践を通して見えてくる学校現場の諸課題を知り、自己の実習経験と重ねるなかで、新たな課題を探り、かつ全体でも共有していく。 ○大学の教科に関する科目の担当者・指導主事・現職教員と連絡協議し、教科指導・生徒指導・進路指導等ができることを確認していく。
科目学習の効果（資格）	○教職実践演習は、当該演習を履修する者の教科に関する科目及び教職に関する科目（教職実践演習を除く） の履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を修得したことを確認するものである。 ○教職課程の必修科目。免許資格取得と同時に即学校現場で生かせる実践力を身に付けることが求められる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	「教職実践演習」の全体ガイダンス	・本講義の目的、内容方法についての確認。 ・受講者各自の教育実習後の課題についての確認。 ・２回目以降に行われるグループ学習の各課題の確認。	教育実習ノートの点検と再確認
2	いじめの現状	問題行動のなかから特に「いじめ」を取り上げ、その多様性、メカニズム、深刻さを理解する。 配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。	(事前)配布資料の熟読 (事後)小レポートの提出
3	いじめ問題への取り組み	日常の些細な出来事がどのように「いじめ」に発展するのか、教師がいじめを見抜くのはどうして困難なのかを考える。 配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。	(事前)配布資料の熟読 (事後)小レポートの提出
4	ジェンダーと教育	近現代社会は「個人の尊重」という理念のもと成り立っている。しかしながら、その背後には伝統的な価値規範を内包していることも忘れてはならない。 近代国家によって制度化されてきた学校教育も現在では自由や個性の尊重を掲げながら、一方では伝統的な価値観を強制している部分があるのではないか。 そうしことを考えるきっかけとして「ジェンダー」という視点を用い、学校教育を改めて考えてみたい。 特に、身近なところからジェンダーについて考え、学校教育や社会について検討していく。	（事前）第１回目の授業で配布する資料を読み、Ａ４サイズの用紙１～2 枚程度にその要約と感想を書き、講義当日に持参する。
5	学校の中のマイノリティ:外国にルーツをもつ子どもたち	1990 年代以降、日本の入国管理政策の転換により、多くの外国人が家族とともに渡日するようになった。 それに伴い多くの外国人の子どもたちは日本の学校へ通うことになったが、彼らは日本語の問題や日本特有の学校文化など様々な問題に直面することとなった。 ここでは外国にルーツをもつ子どもたちの視点から日本の学校教育制度について講義、およびディスカッションを通して考えていく。	（事前）第一回目の授業で配布する資料を読み、Ａ４サイズの用紙１～2 程度にその要約と感想を書き、講義当日に持参する。
6	学校の危機管理①:学校管理下の事件・事故	学校管理下における事件・事故発生時の初期対応や事後対応等についてグループで考えることを通して、教員としての学校安全に関する資質・能力を高める。	（事前）学校管理下の事件・事故に関する配布資料を読んでくる。 （事後）ミニレポートを課す。
7	学校の危機管理②：災害	災害発生時の初期対応や事後対応等についてグループで考えることを通して、教員としての学校安全に関する資質・能力を高める。	（事前）災害発生時の学校の対応に関する配布資料を読んでくる。 （事後）ミニレポートを課す。
8	教員の体罰はなぜなくならないのか？	教員の体罰の実態や体罰防止の現状等について学ぶとともに、体罰の背景にある指導観、子ども観について考える。	（事前）配布した新聞記事の切り抜きを読んでくる。 （事後）ミニレポートを課す。
9	教員の勤務時間はなぜ長くなるのか？	労働時間法制や教員の勤務時間の実態について学ぶとともに、長時間勤務の背	（事前））配布した新聞記事の切り抜きを読んでくる。

			景にある問題について考察し、働き方改革の方途を考える。	（事後）ミニレポートを課す。
	10	カウンセリングマインドと生徒対応	カウンセリングの技法を生徒への対応、保護者への対応に応用する。	（事前）カウンセリングマインドについての復習。中学生あるいはその親のもつ“悩み”を３つあげる。 （事後）小レポート
	11	「自分」を知る	教育職における「自己を知る」ことの重要性を知り、そのための１方法としてのエゴグラム作成を行う。	（事前）「自分」について考える。 （事後）小レポート
	12	生徒指導・進路指導(中学校現場での実地学習)①	地元市教委との連携協力をもとに、中学校現場をグループごとに参観し、生徒指導・進路指導上の実践課題を知る。 ※本年度は新型コロナのため、VTR を視聴し学修を進める。	中学校における集団づくりと個別指導(生徒指導・進路指導のあり方)についてレポートにまとめる
	13	生徒指導・進路指導(中学校現場での実地学習)②	地元市教委との連携協力をもとに、中学校現場をグループごとに参観し、教科指導上の実践課題を知る。 ※本年度は新型コロナのため、VTR を視聴し学修を進める。	中学校における集団づくりと個別指導(教科指導のあり方)についてレポートにまとめる
	14	専攻科目における実践上の課題①	専攻科目ごとに分かれ、その科目の専門分野に関する受講者各自の課題について、教科担当教員が指導する。その上で、研究交流する。	専攻教科における分野ごとの課題を整理する
	15	専攻科目における実践上の課題②	専攻科目ごとに分かれ、その科目の専門分野における実践上の課題について、教科担当教員が指導する。その上で、研究交流する。	専攻教科における分野ごとの課題を整理する

関連科目	全ての教職課程必修科目、取得予定免許状に関わる各教科ごとの必修科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	グループ学習が中心であり、それぞれについて課題が出される。それらの評価を総合し、最終的な評価とする。
学生への メッセージ	教育実習を終えた時点で各自が自らの実習を省察すること。そのなかで、問題点を見出し、諸課題を自ら設定し、この科目を軸にしながら、全体講義やグループワークを通して課題克服を目指しながら、さらなる実践的力量を身に付けること。
担当者の 研究室等	７号館３階（朝日、大野、林、吉田） ７号館４階（谷口）
備考	事前・事後総学習時間は，60 時間程度である。

科目名	職業指導Ⅰ	科目名（英文）	Vocational Guidance Ⅰ
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野　武
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	職業教育や進路指導においては、職業構造や職種・業種内容について学んだり資格取得や技能訓練などを促進したりするばかりでなく、社会や産業構造の変化の中で自分はいかに生きていくかという「生き方の設計」について学ぶことが重要です。本科目を通して学生は、キャリア教育の理論と実践について理解を深めるとともに、経済社会・産業界の変化と職業指導に与える影響などについて知見を広め、「生き方の設計」の指導者としての資質能力の基礎を身につけます。
到達目標	職業教育の理論への理解を深めることを講義の目標とします。
授業方法と留意点	講義と受講生による報告・討議を織り交ぜて進めます。 講義では都度課題を提示し、その内容を元に受講者間で意見を出し合っていただきます。 なお、講義は対面による講義（1051 教室）と Teams を用いたリアルタイム型 Web 講義（3geidm7）を同時進行で行う。 自身の事情により受講形式を選択すること。
科目学習の効果（資格）	商業科における職業指導の基礎知識が身に付きます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・授業概要の説明、職業の定義、職業指導の概念整理	事前学習：本科目のシラバスを熟読すること（１時間） 事後学習：年間の学びの計画を立てること（３時間）
2	職業指導の基礎理論	・職業指導における基本的な考え方、手法	事前学習：職業指導及びキャリアの基礎理論について調べておくこと（２時間） 事後学習：職業指導に関する資料を熟読すること（２時間）
3	職業指導の歴史①	・アメリカ・ヨーロッパを中心に職業指導の経緯を知る	事前学習：欧米の職業指導に関して調査すること（３時間） 事後学習：講義の内容を振り返ること（１時間）
4	日本の産業構造の変化	・日本の産業、雇用事情の変化を知る	事前学習：日本の産業の変遷について市調べておくこと（３時間） 事後学習：講義内容を振り返ること（１時間）
5	職業指導の歴史②	・日本の戦後の教育改革について	事前学習：日本の戦後の教育改革について調べておくこと（２時間） 事後学習：配布資料を熟読し、講義内容を振り返ること
6	日本型雇用と職業指導	・日本における雇用システムの変容と職業指導の関わり	事前学習：日本型雇用について発表資料を作成すること（３時間） 事後学習：発表及びディスカッションの内容を振り返ること（１時間）
7	新規高卒就職システム	・新規高卒労働市場の変容と現状	事前学習：高卒労働市場に関して調べておくこと（２時間） 事後学習：講義内容を振り返ること（２時間）
8	高等学校における職業指導	・各種学校における職業指導の在り方について	事前学習：高校の職業指導の事例について調査・発表資料を作成すること（３時間） 事後学習：講義内容を振り返ること（１時間）
9	「労働すること」を考える	・仕事をすることの意義を考える	事前学習：仕事をする意味について意見をまとめておくこと（２時間） 事後学習：自らの労働観について考えること（２時間）
10	職業指導の領域	・学校、家庭、地域コミュニティ、公的機関等職業指導がなされる「場」について考える	事前学習：職業指導領域に関する資料を事前に熟読すること（２時間） 事後学習：講義内容を振り返ること（２時間）
11	キャリア教育の基礎理論①	・キャリアデザインにおける基礎理論を知る	事前学習：自己について考えておくこと（２時間） 事後学習：キャリアデザイン理論についての資料を熟読すること（２時間）
12	キャリア教育の基礎理論②	・キャリアデザインにおける基礎理論を知る	事前学習：児童・生徒の発達について考えてくこと（３時間） 事後学習：キャリアデザイン理論についての資料を熟読すること（１時間）。
13	授業内容立案	・高校生向けの職業指導・キャリア教育に関する授業内容を立案する	事前学習：高校でのキャリア供養行くの事例について調べておくこと（１時間） 事後学習：模擬授業の準備をすること（３時間）
14	模擬授業	・講義 13 で立案した内容で模擬授業を実施	事前学習：模擬授業の準備をすること（２時間） 事後学習：他者及び自らの発表内容を振り返ること（２時間）
15	講義の振り返り	・講義の振り返り、最終レポートの提出	事前学習：前期のレポートを作成すること（３時間） 事後学習：講義全体を振り返ること（１時間） ）

関連科目	教職科目全般。特に「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。また「特別活動論」にも近接します。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			

評価方法 （基準）	講義内での課題、提出物、レポート、授業への積極的参加、レポートの提出状況およびその内容、報告や討議の内容も加味して、成績を判定します。 平常点(30%)、(授業課題 20%)、期末レポート(50%) また、前期最終時にレポートを実施します。
学生への メッセージ	「職業指導」について学ぶとともに、自らの勤労観・職業観を養い、経済社会・産業界の状況に対応して自らの進路を切り開いていってください。 特に後期は就職活動と並行しての受講となるので、自らの経験と照らし合わせながら、高校生に対する指導について考えてみてください。 なお。講義は科目担当者の人材業界での業務経験・及び起業経験を元にしたお話も交えて進行します。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階　教育イノベーションセンター（水野）
備考	

科目名	職業指導Ⅱ	科目名（英文）	Vocational Guidance II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	水野　武
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	職業教育や進路指導においては、職業構造や職種・業種内容について学んだり資格取得や技能訓練などを促進したりするばかりでなく、社会や産業構造の変化の中で自分はいかに生きていくかという「生き方の設計」について学ぶことが重要です。本科目を通して学生は、キャリア教育の理論と実践について理解を深めるとともに、経済社会・産業界の変化とそれが職業指導に与える影響などについて知見を広め、「生き方の設計」の指導者としての資質能力の基礎を身につけます。
到達目標	職業教育の理論、面談する際の技法への理解を深めることを講義の目標とします。
授業方法と留意点	講義と受講生による報告・討議を織り交ぜて進めます。 講義では都度課題を提示し、その内容を元に受講者間で話し合いを行って頂きます。 尚、遅刻等は厳禁です。 なお、当面の間は Teams を使用してリアルタイム講義を行う。 Teams コード：h2f18nk
科目学習の効果（資格）	商業科における職業指導の基礎知識が身に付く

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・授業概要の説明	事前学習：本科目のシラバスを再度熟読すること（１時間)。 事後学習：後期の学習計画を立てること（３時間）
2	商業教育と職業指導	・商業高校における職業指導の事例を知る	事前学習：商業高校の職業指導事例に関すして調査すること（２時間)。 事後学習：講義の内容を振り返ること（２時間）
3	工業教育と職業指導	・工業高校における職業指導の事例を知る	事前学習：工業高校の職業指導事例に関すして調査すること（２時間)。 事後学習：講義の内容を振り返ること（２時間）
4	普通科高校と職業指導	・普通科高校における職業指導について	事前学習：普通課高校の職業指導事例に関すして調査すること（２時間） 事後学習：講義の内容を振り返ること（２時間）
5	フリータートニートについて	グループ（またはペア）でフリーター・ニート対策を考える	事前学習：フリーター・ニート問題に関して調査し、ディスカッションできるよう準備すること（２時間） 事後学習：講義内容を振り返ること（２時間）
6	職業指導・キャリア教育の実例	・地方も含めた職業指導の事例紹介	事前学習：発表の準備をすること（２時間） 事後学習：他者及び自らの発表の内容を振り返ること（２時間）
7	キャリアデザインとは何か	キャリアデザインとは何かを考える	事前学習：自らの人生の節目について考えること（２時間） 事前学習：講義内容を振り返ること（２時間）
8	高校生の就業力について 職業適性とは何か	・新規高卒者に求められる基本的な能力 ・職業適性、アセスメントについて	事前学習：大卒と高卒の就職システムの違いについて調査すること（２時間） 事後学習：自らの適性の活かし方を考えること（２時間)。
9	人権教育としての職業指導	・職業指導の国際基準、ハンディキャップがある生徒への職業指導	事前学習：ILO の提唱する「人間らしい働き方」について調査すること（２時間） 事後学習：配布資料を精読すること（２時間）
10	未来の働き方を考える	・日本の課題、それにより想像される未来における働き方を考える	事前学習:AI による仕事の代替可能性について調査すること（２時間） 事後学習：講義内容を振り返ること（２時間）
11	就業力向上企画を立案①	高校生の就業力向上のための企画・授業を考える	事前学習：発表の準備をすること（３時間） 事後学習：他者及び自らの発表内容を振り返ること（１時間）
12	就業力向上計画立案②	１１回目で考えた内容を発表する	事前学習：発表の準備をすること（３時間） 事後学習：他者及び自らの発表内容を振り返ること（１時間）
13	キャリアカウンセリング理論①	自己概念・環境との相互作用・学習理論からのアプローチ	事前学習：キャリアカウンセリングとは何かについて調べておくこと（２時間） 事後学習：講義の内容について振り返ること（１時間）
14	キャリアカウンセリング理論②	カウンセリングマインドについて	事前学習：キャリアカウンセリングとは何かについて調べておくこと（１時間） 事後学習：講義の内容について振り返ること（２時間）
15	まとめ/講義の振り返り	提出物の確認、授業内容に関する質疑応答	事前学習：期末レポートを作成すること（４時間） 事後学習：講義全体を振り返ること（２時間）

関連科目	教職科目全般。特に「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。「特別活動論」にも近接します。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			

評価方法 （基準）	レポートを実施します。その他、授業への積極的参加、その他課題の提出状況およびその内容、報告や討議の内容も加味して、成績を判定します。 平常点(20%)、調査・プレゼンテーション課題(30%)、期末レポート(50%)
学生への メッセージ	「職業指導」について学ぶとともに、自らの勤労観・職業観を養い、経済社会・産業界の状況に対応して自らの進路を切り開いていってください。 後期は就職活動と並行しての受講となるので、自らの経験と照らし合わせながら、高校生に対する指導について考えてみてください。 なお、講義では担当者の実務経験にもとづいて議論を進めることもあります。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階 教育イノベーションセンター（水野）
備考	

科目名	教育原理	科目名（英文）	Educational Principles
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	谷口　雄一
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育は誰もが経験していて、誰でも教育について語ることができます。しかし、「教育とは一体何だろう？」と問われるとどうでしょうか。答えに困ってしまう人が多いのではないでしょうか。 この授業では、「教育とは一体何だろう？」という問いを念頭に置きながら、教育について歴史的・思想的に考察します。そして、これまでの教育や学校の営みがどのように理解され、変わってきたのかを考えていきます。 これらの学習を通して、受講者一人一人が教育について自分なりの考えを深められるようにします。 授業担当者は小学校での約 15 年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を「受ける」立場からではなく 「作る」立場から能動的な学びを期待します。
到達目標	教育の基本概念を歴史的・思想的に理解することや教育の現状と課題について理解することを通して、受講者が教育について自分なりの考えを深めることができることを目標とします。
授業方法と留意点	【スケジュール】 授業のスケジュールはおおよそ下記の通りです。 【連絡方法】 授業についての連絡や OPP シートの提出は、Teams を使います。 ※シラバス下部にある Teams コードを使って登録しておいてください。 【授業方法】 Moodle を使ってのリアルタイム授業を行います。 ※シラバス下部にある自己登録キーを使って登録しておいてください。 具体的には、 １．本時の学修内容を確認する ２．前回の感想・疑問等を交流する ３．本時の学修内容について自学する 4
科目学習の効果（資格）	（1）高等学校教諭１種免許状　（2）中学校教諭１種免許状　の取得　（3）学芸員資格　の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各項目に含める必要事項：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス： 教育について考える	本科目の位置づけについて考えるとともに、教育の基本概念を考えることの意味を考える。	（事前）テキスト P.3 を精読しておく。 （事後）「教育とは一体何だろう」という問いについて自分の考えをまとめておく。
2	教育の基礎理論①： 教育の必要性	なぜ、人間だけが教育を行うのか考える。	（事前）テキスト P.59～63 を精読しておく。 （事後）教育の必要性について自分の考えを整理しておく。
3	教育の基礎理論②： 教育の目的	前回の授業をふまえ、「人間が人間になるために」とはどういうことか、教育の目的について考える。	（事前）テキスト P.59～63 を精読しておく。 （事後）教育の目的について自分の考えを整理しておく。
4	教育の基礎理論③： 子どもの発見	「子ども」という言葉の意味や子どもをめぐる問題について考える。	（事前）テキスト P.76～85 を精読しておく。 （事後）子ども観や子どもをめぐる問題について自分の考えを整理しておく。
5	教育の基礎理論④： 教師とは何か	教師という職業や、その教育的役割について考える。	（事前）テキスト P.69～73 を精読しておく。 （事後）教師の教育的役割について自分の考えを整理しておく。
6	教育の基礎理論⑤： 近代の学校の誕生	近代の学校はどのように誕生し、普及してきたのかを概観する。	（事前）テキスト P.93～97 を精読しておく。 （事後）近代の学校や学校教育の広がりについて整理しておく。
7	教育の基礎理論⑥： 家庭と教育	家庭において子どもはどう扱われてきたのか、家庭における教育は子どもの成長にどのような影響を与えるのかについて概説する。	（事前）テキスト P.86～90 を精読しておく。 （事後）家庭における教育について整理しておく。
8	近代の教育思想①： コメニウスの教育思想	コメニウスの教育思想について概観し、考察を加える。	（事前）テキスト P.20～22 及び P.94～95 を精読しておく。 （事後）授業で取り上げた近代の教育思想について整理しておく。
9	近代の教育思想②： ルソー、ペスタロッチの教育思想	ルソー、ペスタロッチらの教育思想について概観し、考察を加える。	（事前）テキスト P.23～25 及び P.77 を精読しておく。 （事後）授業で取り上げた近代の教育思想について整理しておく。
10	近代の教育思想③： ヘルバルト、フレーベルの教育思想	ヘルバルト、フレーベルらの教育思想について概観し、考察を加える。	（事前）テキスト P.26～27 及び 81～82 を精読しておく。 （事後）授業で取り上げた近代の教育思想について整理しておく。
11	現代の教育理論①： デューイの教育思想	デューイの教育思想について概観し、考察を加える。	（事前）テキスト P.28～29 を精読しておく。 （事後）授業で取り上げた現代の教育思想について整理しておく。
12	現代の教育理論②： 20 世紀の教育理論	20 世紀の教育についての諸理論について概観し、考察を加える。	（事前）テキスト P.29～32 を精読しておく。 （事後）授業で取り上げた現代の教育思想について整理しておく。
13	現在の教育課題①： 学力問題	現在の教育課題の一つである学力をめぐる問題について概観し、考察を加え	（事前）テキスト P.50～54 を精読しておく。 （事後）学力問題について整理しておく。

		る。	
14	現在の教育課題②： 生涯学習の思想	現在の教育課題の一つである生涯学習について概観し、考察を加える。	（事前）テキストP. 147～151を精読しておく。 （事後）生涯学習の思想について整理しておく。
15	まとめ： 今後の教育について考える	教育についてまとめるとともに、今後の教育について考える。	（事前）テキストP. 169～178を精読しておく。 （事後）「どのような教員になりたいのか」について自分の考えをまとめる。

関連科目

教職科目全体と関連がありますので、他の科目の学習内容と関連付けながら考えてみることが大切です。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	哲学する教育原理	伊藤潔志　編著	教育情報出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領	文部科学省	東山書房
2	高等学校学習指導要領	文部科学省	東洋館出版
3	哲学する学校経営	伊藤潔志　編著	教育情報出版

評価方法（基準）

毎回の授業の終わりに書いてもらうコメントペーパー（OPPシート）の内容（30%）や学期末試験の結果（70%）等をもとに総合的に評価します。また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。

学生へのメッセージ

授業の中でチャットを使用した対話を多く予定しています。受講者の皆さんの積極的な発言を期待しています。

担当者の研究室等

7号館4階（谷口研究室）

備考

事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。

科目名	教師論	科目名（英文）	Teacher Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日　素明
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教職に関する理解を深め、自己の適性を見つめ直し、最終的に教職をめざすことについて主体的な進路選択を行うための判断材料を提供します。具体的には、「教職の意義とは何か」「教師の役割や求められる資質能力とは何か」「教職の専門性は何によって担保されるのか」「教師の職務とは何か」「教師の身分や身分保障はどのようになっているのか」などについて基礎的な知識を講義し、これに基づき関連するテーマについて議論を通して理解を深めます。
到達目標	学生は、教職に関する基礎的な知識を獲得し、「自分は教師に向いているのか」「自分はどのような教師をめざすのか」などについて判断できるようになります。また、グループワークを通じ、視野を広め、コミュニケーション力を向上させることができます。
授業方法と留意点	講義を中心に、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション（LTD；Learning Through Discussion）等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果（資格）	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 教職への道	科目概要について説明 自らの学校・生徒体験、心に残る教師等についてのふりかえり 教職課程の履修動機 教師になることの意味	本科目のシラバスの熟読
2	教職の成立とその意義	公教育の成立 教職の誕生 戦前の教員養成	戦前の教員養成制度に関する配布資料
3	教師教育と教職の専門性（1）	教員への道 戦後教員養成の原則と制度 教員免許制度の確立	戦後の教員養成制度に関する配布資料
4	教師教育と教職の専門性（2）	教員免許制度の新たな展開 教員採用の動向と採用試験	教員免許制度に関する配布資料
5	教師教育と教職の専門性（3）	教員の研修の意義 教員の研修の種類と体系	学び続ける教師に関する配布資料
6	教師教育と教職の専門性（4）	法定研修 教員の自己研修	教員研修体系に関する配布資料
7	文献・映像に基づく教師像の探究（1）	戦前・戦後の教師像 憧れの教師	教師像に関する配布資料
8	文献・映像に基づく教師像の探究（2）	「不良教師」と「熱血教師」（文献・映像に基づく教師像の探究） レポートに基づくグループワーク	「不良教師」と「熱血教師」に関する配布資料を読みレポート提出
9	文献・映像に基づく教師像の探究（3）	「人間教師」と「プロ教師」） レポートに基づくグループワーク	「人間教師」と「プロ教師」に関する配布資料を読みレポート提出
10	文献・映像に基づく教師像の探究（4）	教師としての資質能力のあり方	教師に求められる資質能力についての議論に関する配布資料
11	教員の役割・職務（1）	学校・教室における指導者の視点からみた教員の役割・職務	授業・カリキュラムと教師に関する配布資料
12	教員の役割・職務（2）	学校組織の構成員の視点からみた教員の役割・職務	教職員構成と校務分掌に関する配布資料
13	教員の役割・職務（3）	学校内外の連携の視点からみた教員の役割・職務（チーム学校運営への対応を含む）	「チーム学校」の考え方と学校運営の実践に関する配布資料
14	教員の役割・職務（4）	教員の任用と身分 教員の服務と身分保障	教員の任用・服務等に関する配布資料
15	教員の役割・職務（5）	教員の勤務条件 教員のメンタルヘルス、バーンアウト	メンタルヘルスに関する配布資料

関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育経営論」「教育課程論」「教育方法論」「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験 60%、レポート 30%、グループワークにおけるピアレビュー10%
学生へのメッセージ	教職について考えることは教育について考えることであり、「教え」「学び」「育ち」を含む「生き方」について考えることになります。教養をもとに、広い視野で物事を捉える習慣を身につけましょう。 遅刻・早退等は厳禁です。教師を目指す者としての資質が問われます。
担当者の	7 号館 3 階　朝日研究室

研究室等	
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度です。

科目名	教育心理学	科目名（英文）	Educational Psychology
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉田　佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	学校での教育活動において教師の果たす役割は大きい。学習の質を高めるために，教師が学習者を理解し，さまざまな形で援助していくためにはどうすればよいのか。それを考えていくにあたって必要な基礎的な知識を身につけ，日常生活の中で行われている学習活動や学校等における問題について，心理学的に説明し，考えることができるようになることを目標とする。
到達目標	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について，基礎的な知識を身につけ，各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。
授業方法と留意点	講義中心で行う。事前に資料を moodle 上で配付するので，各自入手しておくこと。 必要に応じて，簡易実験やグループディスカッション等を行う。
科目学習の効果（資格）	教員免許状取得上必修，免許法施行規則に定められた「教育の基礎的理解に関する科目」１０単位のうち２単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	発達と教育と心理学と１	教育に対して心理学ができること，発達と教育	テキスト第０章１，配付資料による本時の予習と復習
2	発達と教育と心理学と２	発達の要因，主な発達理論の概観	テキスト第８章１，配付資料による本時の予習と復習
3	こどもの発達１	乳幼児期……運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第８章２・第９章，配付資料による本時の予習と復習
4	こどもの発達２	児童期……運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第８章２・第 10 章・第 11 章，配付資料による本時の予習と復習
5	こどもの発達３	青年期……運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第８章２・第 10 章・第 11 章・第 12 章，配付資料による本時の予習と復習
6	学習を支える認知機能１	思考……人間の思考の特徴，メタ認知の機能と発達	テキスト第７章１，配付資料による本時の予習と復習
7	学習を支える認知機能２	言語……言語の機能，言語理解と言語産出とその発達	テキスト第 11 章，配付資料による本時の予習と復習
8	学習を支える認知機能３	記憶……記憶のメカニズムと発達	テキスト第４章・第５章，配付資料による本時の予習と復習
9	こどもの学び１	さまざまな学習①……学習とは何か，主な学習理論の概観，条件づけ	テキスト第１章，配付資料による本時の予習と復習
10	こどもの学び２	さまざまな学習②……観察学習，自己制御学習	テキスト第１章・第６章，配付資料による本時の予習と復習
11	学習を支える動機づけ１	意欲とは何か……動機づけ過程，動機づけ理論	テキスト第２章・第３章，配付資料による本時の予習と復習
12	学習を支える動機づけ２	さまざまな意欲……外発的動機づけ・内発的動機づけ，その他の視点，意欲の発達	テキスト第２章・第３章，配付資料による本時の予習と復習
13	学習を支える動機づけ３	意欲を育む……こどもの発達と意欲，意欲を育む教育のあり方，学習と評価	テキスト第２章・第３章，配付資料による本時の予習と復習
14	学校における人間関係	教師-生徒の関係，生徒-生徒の関係，教師-教師の関係，集団としての学級	テキスト第０章２・第１０章，配付資料による本時の予習と復習
15	個に応じた教育	個人差の理解と教育……ＡＴＩ，学習方略	テキスト第０章３・第６章・第７章２，配付資料による本時の予習と復習

関連科目：教職課程におけるすべての科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	絶対役立つ教育心理学―実践の理論，理論を実践―	藤田哲也（編著）	ミネルヴァ書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト 30%，期末試験 70%
学生へのメッセージ	これまで受けてきた教育を思い出してください。また心理学の用語の中には、日常的に遣われているのとやや異なる意味で用いられるものがあることに留意してください。
担当者の研究室等	７号館３階（吉田研究室）
備考	Teams コードと科目名 火曜５限：e9cb86b　21 前-教職-010-教育心理学（火５）-吉田　佐治子 木曜１限：ghkw1pp　21 前-教職-018-教育心理学（木１）-吉田　佐治子 木曜５限：h135mtc　21 前-教職-023-教育心理学（木５）-吉田　佐治子 金曜５限：1gnr3zw　21 前-00-034-教育心理学（金５）-吉田 佐治子 Moodle コース名と登録キー 火曜５限：2021 教育心理学（火５）　あるいは　21 教心（火 5）　2021EPTUE5 木曜１限：2021 教育心理学（木１）　あるいは　21 教心（木 1）　2021EPTHU1

	木曜５限：2021 教育心理学（木５）　あるいは　21 教心（木５）　2021EPTHU5 金曜５限：2021 教育心理学（金５）　あるいは　21 教心（金５）　2021EPFRI5 ・Teams と Moodle を併用します。授業は Teams で，資料配付や授業内試験等は Moodle で行います。なお，授業は録画します（１週間で削除します)。 ・Teams や Moodle の「お知らせ」をよく確認するようにしてください。 ・期末試験は希望者に返却します。 ・事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。

科目名	特別支援教育論	科目名（英文）	Studies of Special Needs Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林　茂樹
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教職課程「特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解」に対応する科目である。 障害をはじめ、日本語指導や貧困、被虐待、性的マイノリティ等による特別な教育ニーズのある児童・生徒が、安心安全のうちに、楽しく学び、達成感を持ちながら学校生活を送り、生きる力を身に付けることができるよう、教員として必要な知識及び支援の方法について学ぶ。 メディア言説に囚われた「障害」理解が一面的なものであることを可視化させ、「障害」の概念について再構成することと併せて、特別支援教育の理念・制度・方法・教育課程の歴史的変遷及び現状と課題について整理し、インクルーシブな教育の今後の在り方について展望する。 中・高（・小）免許状取得希望者を対象とする科目であることを踏まえ、公立高校教員として 34 年間勤務し、特別支援教育コーディネーターや人権教育主担としての実務経験をもつ授業担当者が、通常の学級（・学校）での特別支援教育の実践に焦点をしぼって授業をすすめる。
到達目標	①インクルーシブ教育システムにおける特別支援教育に関する理念や仕組みについて理解する。 ②視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱・発達障害を含むさまざまな障害のある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について理解する。 ③発達障害や知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする児童・生徒の心身の発達、心理的特性、障害の場合はその特性について理解する。 ④さまざまな障害や成育歴をもち、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法について例示することができる。 ⑤個別の教育支
授業方法と留意点	コロナ感染拡大防止のため、第 2 回から授業方法の変更を行う。原則として時間割通りの曜日・時限で行われる Teams を使用したオンライン授業（リアルタイム方式）を受講すること。 第 15 回授業の後半にオンラインを利用したテストを行う。 大学の HP やポータル、Teams での連絡を見逃すことのないように留意すること。 授業形態 (1) 新型コロナ感染拡大防止のため、授業はオンライン（動画配信・リアルタイム方式）で行う。ICT ツールは Teams を使用する。状況の変化があれば、対面授業に戻ることもある。
科目学習の効果（資格）	教員免許（小学校・中学校・高等学校）取得上必修科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、インクルーシブ教育システムの概要	わが街は暮らしやすいか、わが学校は学びやすいか。障害とは何か。自立と共生を求める当事者。インクルーシブ教育システムにおける特別支援教育とは何か	教科書の序章、講義資料を事前に読んでおく（2 時間）。授業後、教科書、講義資料を復習し、課題を作成・提出する（2 時間）。
2	新しい障害観と特別支援教育への転換	ICIDH から ICF へ。医学モデルから社会モデルへ。特殊教育から特別支援教育へ。法律の整備と社会システムの整備	教科書の第 1･2 章、講義資料を事前に読んでおく（2 時間）。授業後、教科書、講義資料を復習し、課題を作成・提出する（2 時間）。
3	障害者権利条約と合理的配慮	国連障害者権利条約の批准に向けた国内法の整備。障害者差別解消法に基づく差別的取り扱いの禁止と合理的配慮の提供義務。インクルーシブ教育システムの構築	講義資料を事前に読んでおく（2 時間）。授業後、教科書、講義資料を復習し、課題を作成・提出する（2 時間）。
4	戦前･戦後の特殊教育の成立と展開	障害のある子どもの学校の誕生。重い障害のある子どもの学校教育からの排除。盲･ろう学校の義務制度化と特殊学級の設置拡大	教科書の第 5･6 章、講義資料を事前に読んでおく（2 時間）。授業後、教科書、講義資料を復習し、課題を作成・提出する（2 時間）。
5	養護学校義務制度化からすべての学校における特別支援教育への転換まで	養護学校（知的・肢体不自由・病弱）の義務制度化。障害種別と程度に応じた教育の場の分離。障害種別と程度に応じた教育から個別のニーズに応じた教育へ。発達障害も特別支援教育の対象に。通級制度の創設。	教科書の第 7 章、講義資料を事前に読んでおく（2 時間）。授業後、教科書、講義資料を復習し、課題を作成・提出する（2 時間）。
6	障害のある子供たちの学校生活と家庭生活の課題	就学前からの地域支援。共生社会に向けた教育権の保障。孤立・排除・いじめのない人間関係づくり。ともに生きともに学ぶ学級集団づくり。介助員制度の活用。周りの保護者や地域の理解。保護者との連携と家族支援	教科書の第 3 章、講義資料を事前に読んでおく（2 時間）。授業後、教科書、講義資料を復習し、課題を作成・提出する（2 時間）。
7	障害のある子供たちの進路選択と地域生活の課題	就学先の決定は保護者･本人の意向尊重が原則。差別的取り扱い禁止及び合理的配慮としての入試受験配慮。人権保障としての就労移行支援・就労継続支援、日常生活支援・社会参加支援	講義資料を事前に読んでおく（2 時間）。授業後、教科書、講義資料を復習し、課題を作成・提出する（2 時間）。
8	通常学級での特別支援教育の実践	個別支援とアセスメント。個別指導の最適化。授業のユニバーサルデザイン化。通級制度の活用。高等学校での特別支援教育	教科書の第 4 章、講義資料を事前に読んでおく（2 時間）。授業後、教科書、講義資料を復習し、課題を作成・提出する（2 時間）。
9	発達障害･知的障害の理解と支援	知的障害の定義と分類、障害の特性と身体・心理的特性、学習上の課題と対応。発達障害の定義と分類、身体・心理的特性、学習上の課題と対応。	講義資料を事前に読んでおく（2 時間）。授業後、教科書、講義資料を復習し、課題を作成・提出する（2 時間）。
10	肢体不自由・病弱、重度重複障害の理解と支援	肢体不自由・病弱の定義と分類、身体・心理的特性、学習上の課題と対応。重度重複障害の定義と分類、身体・心理的特性、学習上の課題と対応。障害の多様性についての理解	講義資料を事前に読んでおく（2 時間）。授業後、教科書、講義資料を復習し、課題を作成・提出する（2 時間）。
11	視覚障害･聴覚障害の理解と支援	視覚障害・聴覚障害の定義と分類、身体・心理的特性、学習上の課題と対応	講義資料を事前に読んでおく（2 時間）。授業後、教科書、講義資料を復習し、課題を作成・提出する（2 時間）。

	12	個別の指導計画と個別の教育支援計画、外国の特別支援教育	話し合い、方向を決めるツールとしての指導計画、つなぐツールとしての教育支援計画。個別の指導計画の作成の仕方。個別の指導計画の授業への生かし方。諸外国における SNE（スペシャル・ニーズ・エデュケーション）	教科書第８・９章、講義資料を事前に読んでおく（2 時間）。授業後、教科書、講義資料を復習し、課題を作成・提出する（2 時間）。
	13	校内支援体制の構築と SC・SSW 等との連携・協働、特別支援教育の今後の課題	教員間の連携。他職種との連携。福祉・医療等関係機関との連携。見えてきた特別支援教育の課題。よりインクルーシブな教育を展望して	教科書の第１１章、講義資料を事前に読んでおく（2 時間）。授業後、教科書、講義資料を復習し、課題を作成・提出する（2 時間）。
	14	ニューカマー、社会的養護、LGBT など性的マイノリティの子供の理解と対応	ニューカマーの子供、施設から通学する子供、LGBT など性的マイノリティの子供等を視野に入れた学級づくりと授業づくり	講義資料を事前に読んでおく（2 時間）。授業後、講義資料を復習し、課題を作成・提出する（2 時間）。
	15	被虐待の子供など家庭の問題を抱えた子供の理解と対応、まとめ	非虐待の子供等、家庭の問題を抱えた子供への心理的ケアと関係機関との連携、授業全体のまとめ	講義資料を事前に読んでおく（2 時間）。授業後、講義資料を復習し、課題を作成・提出する（2 時間）。

関連科目	教職科目全般と関連性をもつ。特に、教師論、教育心理学、特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法、教育方法論、教育課程論、教育社会学、教育相談での学習内容と関連させて理解を深めることが大切である。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	特別支援教育　多様なニーズへの挑戦	柘植雅義	中央公論新社（中公新書）
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	特別支援教育資料（令和元年度版）	文部科学省	Web
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加状況【課題等】(40%)、中間レポート（30%）、オンライン・テスト（30%）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	オンラインでの授業という制約下ではあるが、本科目を受講することで、障害のある児童生徒をはじめ、特別な支援を必要とする児童生徒への理解が進み、1 人ひとりの教育ニーズに応じた教育が展開できるようになってほしい。
担当者の研究室等	11 号館 11 階林研究室
備考	授業外総学習時間を 60 時間とする。

科目名	教育課程論	科目名（英文）	Studies of Curriculum Development
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大野　順子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	（１）教育課程(カリキュラム)とは何かについて考える。教育課程(カリキュラム)はどのような目的から、どのような内容で編成されているのかについての歴史的経緯を考察する。また、同時に学校教育システムとの関わりから、その意義や役割を理解する。 （２）わが国における学習指導要領の変遷や戦前・戦後のカリキュラムの実践的開発を知ると共に、これからのカリキュラム開発の課題について考える。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りである。 （１）学校教育における教育課程の意義について理解できる。 （２）将来、教職に就いた際、適切な教育課程（カリキュラム）を計画・編成し、かつ、実践、評価し、改善できる資質が身につく。
授業方法と留意点	本授業は、授業全体を通して、みなさん一人一人の授業への主体的な参加が求められます。また、各自が取得する免許教科の中学校・高等学校の教科書を熟読し、さらに、それぞれが取得する免許教科の学習指導要領を入手し、熟読しておいてください。
科目学習の効果（資格）	教員免許（中学校・高等学校）取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	教育課程とは何か／オリエンテーション	学校教育のもつ機能について。	課題：シラバスに挙げている教科書を購入し、授業テーマに該当する分を読み、まとめる。
2	日本における教育課程の歴史的変遷Ⅰ	戦前から戦後（経験主義～系統主義：高度経済成長期）の教育課程変遷について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
3	日本における教育課程の歴史的変遷Ⅱ	1970 年代以降、「ゆとり」への標榜から「生きる力」、そして現在までの教育課程変遷について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
4	教育課程（カリキュラム）の概念と構造、および教育課程編成について	教育課程の編成要素（内部要因と外部要因）について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
5	教育評価　その１	子どもたちの発達段階にふさわしい評価の方法とその特質について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
6	教育評価　その２	教育課程評価について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
7	『総合的な学習の時間』について	導入の背景とそのねらいについて。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
8	新しい教育課程　その１	「キャリア教育」について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
9	新しい教育課程　その２	「アクティブラーニング」について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
10	新しい教育課程　その３	「社会に開かれた教育課程」について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
11	教育課程と教育改革　その１	特色のある学校づくり＝小中高編。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
12	教育課程と教育改革　その２	カリキュラム・マネジメントについて。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
13	教育課程と教育格差　その１	学力格差と学力低下問題について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
14	教育課程と教育格差　その２	教育格差に抗する学校の取り組みについて。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
15	総括：教育課程をめぐる諸問題	海外の学校教育課程の動向、及び、キー・コンピテンシー（OECD）について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読み、最終レポートを作成する。

関連科目：教職科目全般と関連がある。他の教職科目と重なる所や特徴点を整理していくことが重要。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新しい時代の教育課程（第４版）	田中耕治他	有斐閣アルマ
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新教育課程ライブラリ（Vol.1～Vol.12）	（株）ぎょうせい	（株）ぎょうせい
2	ワークで学ぶ教育課程論	尾崎博美他	ナカニシヤ出版
3			

評価方法（基準）	事前課題・レポートの内容（40%）と最終試験（60%）により総合的に評価する。
学生へのメッセージ	指定している「教科書」を活用し、毎時間、事前事後学習をしっかりと行ってください。レポート等の提出物に関しては期日までに提出すること。期日以降の提出は原則認めません。
担当者の研究室等	７号館３階(大野順子研究室) 連絡先： j-oono@arc.setsunan.ac.jp
備考	2009 年度以前入学生は、(高校) 教免取得上選択 授業計画に記載している授業テーマは授業の進捗状況により少々前後することがあります。 授業で用いる資料等については，適宜印刷し，配布します 事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。

科目名	道徳教育論	科目名（英文）	Studies of Moral Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	谷口　雄一
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	この授業では、中学校において「特別の教科　道徳」（以下、道徳科）の授業を行うために必要な基本的な知識を習得した上で、生徒の実態や教材の特性に応じた適切な指導法を選択して学習指導案を作成できるようになることを目的としています。 授業担当者は小学校での約 15 年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を受ける」立場からではなく「作る」立場から能動的な学びを期待します。
到達目標	受講者が、道徳教育の必要性や歴史、現状と課題等についての基本的な知識を身に付け、中学校の道徳科の様々な指導法の特徴と課題について理解し、適切な発問を構成し、学習指導案を作成できるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	本授業は道徳科の授業づくりについて実践的に学ぶ内容のため対面で行います。具体的には、毎回、ペアや小グループ、全体での対話を通して道徳教育や道徳科の授業についての学びを進めていきます。また、後半には、学習指導案作成等の演習や受講者のみなさんによる模擬授業等を適宜取り入れます。 そして、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、道徳科の授業づくりについて多面的・多角的に考えることができる
科目学習の効果（資格）	中学校教諭１種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：道徳の理論及び指導法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス： 道徳科の授業について考える	・現在、我が国においてどのような道徳教育が行われているかを確認する。 ・正しさを決める４つのアプローチについて概観する。	（事前）自身が学校教育においてが受けてきた道徳教育がどのようなものであったかを思い出しておく。 （事後）テキスト 2. の P.8～17 を精読しておく。
2	日本の道徳教育の歴史	・明治から現在に至るまでの我が国の道徳教育の歴史を概観する。 ・道徳教育に存在する信念対立について考える。	（事前）テキスト 1. の P.6～12 を精読しておく。 （事後）日本の道徳教育の歴史や信念対立について整理しておく。
3	よい道徳教育とは何か	よい道徳教育について、生徒の道徳性の発達や教師の職能成長という観点から考える。	（事前）テキスト 1. の P.12～25 を精読しておく。 （事後）道徳の授業や道徳教育の方法と生徒の道徳性の発達、教師自身の成長との関係について整理しておく。
4	道徳の授業の多様な指導方法の特徴	道徳の授業のねらいに基づく８類型について概観し、多様な指導方法の特徴について考える。	（事前）テキスト 1. の P.26～35 及びテキスト 2. の P.26～29 を精読しておく。 （事後）道徳の授業のねらいに基づく８類型について整理しておく。
5	道徳の授業の発問の構成法	「特別の教科　道徳」の目標や内容について確認し、ねらいに基づく発問の構成法について考える。	（事前）テキスト 1. の P.36～48 及びテキスト 2. の P.30～33 を精読しておく。 （事後）ねらいに基づく発問の構成法について整理しておく。
6	道徳の授業の学習指導案の作成法	「特別の教科　道徳」のねらいに沿った授業を計画的に進めるための学習指導案の作成方法について考える。	（事前）テキスト 1. の P.49～58 及びテキスト 2. の P.34～37 を精読しておく。 （事後）道徳の授業の学習指導案の作成方法について整理しておく。
7	道徳の授業の評価	「特別の教科　道徳」における評価の内容や方法について考える。	（事前）テキスト 1. の P.59～68 及びテキスト 2. の P.38～41 を精読しておく。 （事後）道徳の授業の評価の内容や方法について整理しておく。
8	各授業類型のねらいと発問の特徴	教材の特性を踏まえた教材分析の方法について概観し、授業類型のそれぞれのねらいと特徴について考える。	（事前）テキスト 1. の P.71～85 及びテキスト 2. の P.42～45 を精読しておく。 （事後）教材分析の方法や授業構成について度整理しておく。
9	教材分析の視点	教材に描かれている人物や事象等を図式化することで道徳的な問題を明確化する教材分析の方法について概観する。	（事前）テキスト 1. の P.86～95 及びテキスト 2. の P.46～49 を精読しておく。 （事後） 教材分析の方法について整理するとともに、自身が選択した教材について分析しておく。
10	発問分析による授業づくりの視点	発問の特徴について概観し、発問分析に基づく授業改善の方法について考える。	（事前）テキスト 1. の P.96～106 及びテキスト 2. の P.50～53 を精読しておく。 （事後）問題解決的な学習や発問分析に基づく授業改善の方法について整理しておく。
11	授業づくりの実際①： カリキュラム・マネジメント、 テーマ発問	カリキュラム・マネジメントに基づく道徳の授業やテーマ発問を取り入れた道徳の授業について、実践事例をもとに概観する。	（事前）テキスト 1. の P.107～130 及びテキスト 2. の P.54～57 を精読しておく。 （事後）カリキュラム・マネジメントに基づく道徳の授業やテーマ発問を取り入れた道徳の授業について整理しておく。
12	授業づくりの実際②： 問題解決的な学習、探究型学習	問題解決的な学習を取り入れた道徳の授業や探究型学習を取り入れた道徳の授業について、実践事例をもとに概観する。	（事前）テキスト 1. の P.131～152 及びテキスト 2. の P.58～61 を精読しておく。 （事後）問題解決的な学習を取り入れた道徳の授業や探究型学習を取り入れた道徳の授業について整理しておく。
13	学習指導案の作成	これまでの講義内容をふまえ、第９回で選択し教材分析した教材を用いた道徳の授業について、学習指導案を作成する。	（事前）テキスト 2. の P.62～65 を精読しておく。 （事後）グループ毎に模擬授業の準備をしておく。
14	模擬授業と事後検討会①	模擬授業を行い、授業改善のための事後検討会を行う。	（事前）テキスト 2. の P.66～69 を精読しておく。 （事後）グループ毎に模擬授業と事後検討会の準備

			をしておく。
15	模擬授業と事後検討会② まとめ： 道徳科の授業について再び考える	・模擬授業を行い、授業改善のための検討を行う。 ・道徳科の授業づくりについてまとめる。	（事前）グループ毎に模擬授業と事後検討会の準備をしておく。 （事後）「よい道徳科の授業」について考えをまとめる。

関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみることが大切です。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	道徳科　初めての授業づくり	吉田誠・木原一彰　編著	大学教育出版
2	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　特別の教科　道徳編	文部科学省	教育出版
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　特別の教科　道徳編	文部科学省	廣済堂あかつき
2	『道徳教育』PLUS　考え、議論する道徳をつくる新発問パターン大全集	『道徳教育』編集部	明治図書出版
3			

評価方法 （基準）	毎回の授業の終わりに書いてもらうコメントペーパーの内容（30%）や、作成した学習指導案（20%）、学期末試験の結果（50%）等をもとに、総合的に評価します。また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。
学生への メッセージ	授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク、模擬授業等の学習を適宜取り入れたいと考えています。受講者の皆さんの積極的な参加・発言を期待しています。
担当者の 研究室等	７号館４階(谷口研究室)　※現在は耐震工事中のため、11 号館 11 階です。
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。

科目名	特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法	科目名（英文）	Methodolgy of Special Activities and Integrated Studies
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林　茂樹
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	特別活動の理論と指導法については、学校における様々な構成・場面での集団活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい学級生活・学校生活の実現を目指す特別活動の意義、目標及び内容を理解し、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。 総合的な学習（探求）の時間の理論と指導法については、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を探求的な学びの過程を通して行い、よりよく課題を解決し、自己の生き方について考えていくための資質・能力の育成をめざし、指導計画の作成、学習指導や評価の考え方、留意点を理解する。 公立高校での学級担任、学年主任、総合的な学習の時間の企画主担者等、34 年間のの教員経験に基づき、学校現場での学級づくりや総合的な学習の時間の展開に役立つ実践的な授業を行う。 SDGs-1,4,5,10
到達目標	教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連、学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。 特別活動における取組の評価・改善活動の重要性、家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。 合意形成に向けた学級での話合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。 総合的な学習（探求）の時間の意義と教育課程において果たす役割、目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点、年間指導計画を作成することの重要
授業方法と留意点	新型コロナ感染拡大に対応した授業の実施形態として、「講義科目はオンライン授業」と決定されたため、授業は原則として、時間割通りの曜日・時限に、Teams を使用して動画配信型（リアルタイム方式）で行ってきたが、緊急事態宣言解除により第 7 回授業から対面授業に切り替える。 第 15 回の授業の後半に、授業時間内テストを行う（定期試験期間中の考査は行わない）。 「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動や、自ら問いを見いだし、課題を立て、情報を整理分析して、まとめ・表現することが求められる総合的な学習の
科目学習の効果（資格）	教員免許（中学校・高等学校）取得上必修科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション･特別活動及び総合的な学習（探求）の時間の意義と課題	学校教育活動のなかでの特別活動の意義と課題、総合的な学習の時間の意義と教育課程の中で果たす役割、指導する上で教師に求められる力量	特別活動テキスト第 1 章、講義資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（2 時間）。
2	特別活動の目標・内容・方法	教科外活動としての位置づけ、特別活動の３つの内容、方法としての集団活動・体験活動 ワーク①「キャラ」をめぐって　〈ソロワーク〉	特別活動テキスト第 2 章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料を参考に復習するとともに課題を作成する（2 時間）。
3	学級活動･ホームルーム活動①	学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり、学級開きと年間計画 ワーク②大学に入学して　〈ソロワーク〉	特別活動テキスト第 3 章第 1 節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするをするとともに課題を作成する（2 時間）。
4	学級活動･ホームルーム活動②	人間関係形成能力と社会性の育成、いじめ、荒れ、学級崩壊、係活動、班活動、委員会活動、日直 ワーク③学級活動の思い出〈ソロワーク〉	特別活動テキスト第 3 章第 1 節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（2 時間）。
5	生徒会活動・児童会活動、学校行事	生徒会（児童会）活動の歴史・目標・内容。学校行事の歴史・種類・内容・観点 ワーク④学校行事の思い出　〈ソロワーク〉	特別活動テキスト第 3 章第 2･3 節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料を参考に復習をするをするとともに課題を作成する（2 時間）。
6	体験活動･体験的な学びの意義	特別活動･総合的な学習の時間における体験活動、自然体験、職場体験、ボランティア体験、体験を通した学びの重要性と計画的な指導の重要性ワーク⑤「14 歳の頃・17 歳の頃」〈ソロワーク〉	講義資料､ワーク資料を事前に読んでおく(2 時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（2 時間）。
7	特別活動の歴史	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、学校種別の目標のちがい ワーク⑥ワークショップ入門〈ソロワーク、グループ討議、発表〉	講義資料､ワーク資料を事前に読んでおく(2 時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（2 時間）。
8	特別活動と学級経営	学級経営の特質、学級経営と学級づくり、学級づくりと特別活動 ワーク⑦メディアリテラシー　〈グループ討議、交流〉	講義資料､ワーク資料を事前に読んでおく(2 時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（2 時間）。
9	特別活動と生徒指導	生徒指導との関連、積極的生徒指導に果たす役割、自己指導能力の育成 ワーク⑧いじめへの対応（１）〈グループ討議、交流〉	講義資料､ワーク資料を事前に読んでおく(2 時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（2 時間）。
10	特別活動の指導計画と評価	全体計画・年間指導計画と配慮事項、1 単位時間の指導計画・指導案の作成、評価の対象、視点、方法、現状、評価結果の活用 ワーク⑨生徒指導・問題行動への対応〈即興劇、グループ討議、交流〉	特別活動テキスト第 4 章第 1･2･5 節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（2 時間）。
11	特別活動と総合的な学習（探求）の時間の共通点と相違点	特別活動と総合的な学習（探求）の時間の共通点と相違点、教育課程上の関連性 ワーク⑩不登校への対応〈グループ討議、交流〉	講義資料､ワーク資料を事前に読んでおく(2 時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（2 時間）。

	12	総合的な学習（探求）の時間の目標・内容・原理	総合的な学習（探求）の時間の目標の構成、各学校において定める目標及び内容、方法的原理 ワーク⑪進路指導・キャリア教育〈即興劇、グループ討議、交流〉	総合的な学習の時間のテキスト第 1・2･3 章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（2 時間）。
	13	総合的な学習（探求）の時間の学習活動と学習指導	生徒の主体性を重視した学習指導、探究的な学習の過程における主体的で対話的で深い学び ワーク⑫ジェンダーフリー〈グループ討議、交流〉	総合的な学習の時間のテキスト第2･7章､講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2 時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（2 時間）。
	14	総合的な学習（探求）の時間の指導計画・評価・校内体制	全体計画、年間計画、単元計画の作成、生徒の学習状況の評価 ワーク⑬いじめへの対応（２）〈グループ討議、交流〉	総合的な学習の時間のテキスト第 5･6・8 章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（2 時間）。
	15	補足とまとめ／授業時間内テスト	補足を行うとともに全学習事項について再度振り返り整理する。授業時間の後半にテストを行う。	特別活動のテキスト第 4 章第 2･3･4 節、総合的な学習の時間のテキスト第 9 章、講義資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（2 時間）。

関連科目

すべての教職科目と関連するが、特に、教師論、教育心理学で学習したことと関連づけるともに、教育方法論、生徒指導論、道徳教育論、教育社会学などの学習につなげることが大切である。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領解説　特別活動編	文部科学省	東山書房
2	中学校学習指導要領　総合的な学習の時間編	文部科学省	東山書房
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	高等学校学習指導要領解説　特別活動編	文部科学省	東京書籍
2	高等学校学習指導要領　総合的な探求の時間編	文部科学省	学校図書
3			

評価方法（基準）

授業への参加状況及び課題（40%）、中間レポート（30%）、最終回授業内テスト（30%）を総合的に評価する。

学生へのメッセージ

学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだということが言われる。子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するということに尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。

担当者の研究室等

寝屋川 7 号館 3F 林研究室

備考

授業外学習総時間を 60 時間とする。

科目名	教育方法論	科目名（英文）	Studies of Educational Method
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林　茂樹
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教職課程「教育の方法及び技術」に対応する科目である。授業は、①テキストにもとづいた教育方法の歴史と理論の概観、授業の設計から評価に至る授業構成についての理解、基礎的な授業技術と方略等に関する講義、②授業にあたって留意すべき事項についての授業ミニ講座、③教材の開発及び授業の進め方に関する活動（個人ワーク及びグループディスカション）で構成する（オンライン授業では、グループでのマイクロ・ティーチングの活動はできないので、3年次以降の授業で取り扱うこととしたい）。 授業担当者は、高校現場で34年間にわたり、「授業」を行ってきた経験を活かした実践的な授業を行うので、授業を「受ける」立場ではなく、「作る」立場に転換した能動的な学びを経験することを期待する。 より具体的には、つぎのことをめざす。 (1) 自己の被教育体験を出発点に、学ぶこと・教えることの意味について捉えなおし、学習観・授業観・学校観を問い直す作業を通して、今日の教師に求められる多様な資質・能力についての理解を深める。 (2) 「知識や技能を教え込む技術」の習得をめざすのではなく、生徒の生活背景や教室内の人間関係の把握を前提に、教室での突発的な出来事にも柔軟かつ的確に対処し、生徒からのリアクションを教材の文脈にもどしながら、意図的・計画的なカリキュラムを臨機応変に調整することによって、「教室を豊かな学びの場とする授業づくり」を追求する姿勢を身に付ける。 (3) 教育実践の質を向上させるためには、上記(2)に関する専門性を個々に向上させるだけでなく、同僚間で相互に学び合う「同僚性」を構築すること、また、教育諸科学の最新の研究から新しい知見を積極的に摂取することの重要性について理解する。
到達目標	教師と生徒が意思疎通を図りつつ、相互に作用しながら、主体的に問題を発見し、協力協同しながら解に接近する時空間としての授業を構想することをめざして、 (1) 指導目標を適切に設定し、多角的な視点から教材研究を行い、学習指導案を作成するとともに、同僚との協議を踏まえて指導案を改善することができる。 (2) 豊富な事例研究を通して、教育実践を対象として分析、批判、省察、再構成できる。
授業方法と留意点	新型コロナ感染拡大防止のため、第2回から授業方法の変更を行う。原則として時間割通りの曜日・時限で行われるTeamsを使用したオンライン授業（リアルタイム方式）を受講すること。 第15回の授業の後半で、オンラインを利用したテストを行う。 大学のHPやポータル・Teamsでの連絡を見逃すことのないように留意すること。 当初予定していたグループでの「マイクロ・ティーチング」の活動（教材作成及び授業実施のグループワーク）はオンラインではできないので、3年時以降の授業で取り扱うこととした
科目学習の効果（資格）	教員免許（小学校・中学校・高等学校）取得上必修科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、教職科目「教育方法論」について	授業のオリエンテーション 講義：今、なぜ教育方法の学なのか・教育方法学の論点と課題 ミニ講座：①授業びらき・授業じまい 課題：印象に残る授業	教科書序章・第３章、講義資料をよく読んでおく（2時間）。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。
2	学習とは何か（学習論）	講義：学習をめぐる３つの理論、学習理論にもとづく学習方法、学習における他者の役割 、学習指導の形態 ミニ講座：②褒美と罰 発展：学ぶとはどういうことか　課題：指導方略	教科書第５章、講義資料をよく読んでおく(2時間)。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。
3	子どもたちは何を学ぶのか（教育目標・内容論）	講義：教育目標に関する基本的な考え方、教育目標と内容 ミニ講座：③発問 発展：授業研究 課題：発問と予想される子どもの応答	教科書第４章、講義資料をよく読んでおく(2時間)。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。
4	欧米における授業の歴史(教授論の歴史①)	講義：近代以前の教育、近代教育思想と教授学の成立、教育学の体系化と授業の組織化、カリキュラム研究の成立と展開 ミニ講座：④指示・説明・共有 発展：学級の規模と形態 課題：授業形態と学級規模	教科書第１章、講義資料をよく読んでおく(2時間)。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。
5	日本における授業の歴史(教授論の歴史②)	講義：古代から近世の教育、近代学校制度と授業の成立、授業の定型化、授業改造の試み ミニ講座：⑤発問の工夫と仕方 発展：学級崩壊 課題：学級崩壊の経験	教科書第２章、講義資料をよく読んでおく(2時間)。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。
6	学力をどう高めるか（学力論）	講義：学力をどうとらえるか、「できる学力」を高める、「分かる学力」を高める ミニ講座：⑥指名・助言・発言の受け方、教師の話し方 発展：戦後学力論争史 課題：全国学力・学習状況調	教科書第６章、講義資料をよく読んでおく(2時間)。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。模擬授業の準備を行う（2時間）
7	授業をどうデザインするか（設計・デザイン論）	講義：授業のデザイン、教科内容と子どもの学び、対話的・協同的な学び合い、学びのための指導・支援 ミニ講座：⑦板書・机間指導・ノート指導 発展：授業の設計とデザインの違い 課題：学びからの逃走	教科書第７章、講義資料をよく読んでおく(2時間)。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。模擬授業の準備を行う（2時間）
8	8　教育の道具・素材・環境（教材論）	講義：教材づくりの発想、メディアとしての教材、教材概念の拡張、学習環境と	教科書第８章、講義資料をよく読んでおく(2時間)。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1

			しての時空間 ミニ講座：⑧観察・実験・フィールドワーク 発展：教材研究・教材開発・授業の構想 課題：体験型の授業と座学型の授業	時間)。模擬授業の準備を行う（2 時間)。
	9	何をどう評価するか（評価論）	講義：指導要録における教育評価観の変遷、目標に準拠した評価の意義と展開、形成的評価と自己評価、パフォーマンス評価とポートフォリオ評価、教育評価論としての「実践記録」 ミニ講座：⑨グループ学習・ペア学習・話し合い 発展：現在の学習評価 課題：内申書とテスト	教科書第９章､講義資料をよく読んでおく(2 時間)。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1 時間)。模擬授業の準備・振り返りを行う（2 時間）
	10	誰がカリキュラムを編成するのか（カリキュラム論）	講義：教育課程の編成にあたって、教育課程の構造と類型 ミニ講座:⑩ノート指導、レポート指導、プレゼンテーション指導 発展：総合的な学習の時間の授業づくり 課題：探求学習の指導	講義資料をよく読んでおく（2 時間)。講義資料を参考に学習内容を整理する（1 時間)。模擬授業の準備・振り返りを行う（2 時間）
	11	授業･学習へのＩＣＴの活用（教育の情報化論１）	講義：教育の情報化（その１)、教育の情報化の今日的意義、教育情報化の加速、ICT を活用した学びの実践、学校の ICT 環境整備、学習環境を支える ICT 環境 ミニ講座：⑪授業中の私語 発展：コロナと学校の授業 課題：大学のオンライン授業	講義資料をよく読んでおく（2 時間)。講義資料を参考に学習内容を整理する（1 時間)。模擬授業の準備・振り返りを行う（2 時間）
	12	情報教育と校務の情報化(教育の情報化論２）	講義：教育の情報化（その２)、情報教育、校務の情報化の推進、教育情報セキュリティの確保、教師に求められる ICT 活用指導力等の向上 ミニ講座：⑫学びの空間 活動：グループディスカション① 課題：教師のファシリテーションスキル	講義資料をよく読んでおく（2 時間)。講義資料を参考に学習内容を整理する（1 時間)。模擬授業の準備・振り返りを行う（2 時間）
	13	インクルーシブな授業をつくる（インクルーシブ教育論）	講義：インクルーシブ教育とインクルーシブ教育システム、ICIDH から ICF への転換と特殊教育から特別支援教育への転換、特別支援教育の理念と合理的配慮の考え方、授業における合理的配慮 ミニ講座：⑬ワークショップ型の授業 活動：グループディスカション② 課題：PBL（問題解決型学習）問題点	講義資料をよく読んでおく（2 時間)。講義資料を参考に学習内容を整理する。模擬授業の振り返りを行う（2 時間)。
	14	ユニバーサルデザイン化した授業をつくる(ユニバーサルデザイン論）	講義：バリアフリーとユニバーサルデザイン、教育のユニバサールデザイン化、基礎的環境整備と合理的配慮の関係、教室環境のユニバーサルデザイン、授業のユニバーサルデザイン、授業のユニバーサルデザイン化と指導の三段構え ミニ講座：⑭授業研究の方向性 発展：新しい学び 課題：学び合いの変化	講義資料をよく読んでおく（２時間)。講義資料を参考に学習内容を整理する (1 時間)。模擬授業をの振り返りを行う（2 時間)。
	15	まとめ～学び続ける教員像をめぐって／テスト	講義：すぐれた教師になるために、２つの教師モデル、教師としての成長に向けて、結論 ミニ講座：教師をめざす オンラインテスト	教科書第１１章、講義資料をよく読んでおく（２時間)。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1 時間)。模擬授業の振り返りを行う（2 時間）

関連科目	教職科目全般と関連性をもつ。特に、「教師論」「教育原理」「教育心理学」での既習内容と関連させて理解を深めることが大切である。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新しい時代の教育方法　改訂版	田中耕治他	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業への参加状況【課題等】(40%)、レポート（30%)、テスト（30%）により総合的に評価する。
学生への メッセージ	オンラインでの授業という制約下ではあるが、「授業に参加するだけ」という受動的な構えを取るのではなく、教育諸課題に敏感に反応し、教育の方法的視点でどのように対処すべきかを常に考える癖をつけるようにしてください。
担当者の 研究室等	11 号館 11 階(林研究室)
備考	授業外総学習時間を 60 時間とする。

科目名	生徒指導論（進路指導を含む）	科目名（英文）	Studies of Guidance and Counceling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	朝日　素明
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	生徒指導、進路指導は、学校教育をすすめるうえで重要な役割を占めています。非行、いじめ、不登校、学級崩壊、受験競争、進路のミスマッチなど、生徒指導・進路指導上の諸問題については、その解決の重要性が認識されています。本科目では、生徒指導・進路指導・キャリア教育の意義について理解を深め、実践を進める方法原理について基礎的な知識を獲得し、教職員や関係機関と協力して解決・改善を目指そうとする素養を養います。
到達目標	学生は、生徒指導、進路指導、キャリア教育の意義と原理を理解し、学校の教育活動の核にこれを据え、全ての教職員および関係機関等と協力し、組織的に実践を進めていくために必要な知識やスキルを学び、さまざまな問題事象を適切に捉え対処する基礎力を身につけることができます。
授業方法と留意点	対面授業で、プレゼンテーションソフトを用いた講義を中心に進めます。また時折、レポートを課します。 Teams のチャネルを通してテキストや資料を配布します。また、レポート課題提示・提出受付は Moodle を通して行います。 「事前・事後学習課題」はすべて事前課題です。事後課題については別途、指示します。
科目学習の効果（資格）	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：生徒指導の理論及び方法、進路指導及びキャリア教育の理論及び方法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 教育課程と生徒指導･進路指導	科目概要について説明 自分の生徒指導上の体験のふりかえり	テキスト pp.3-6、pp.25-32、pp.80-100
2	生徒指導の目標と意義	生徒指導の目標と意義	テキスト pp.6-17
3	生徒指導の実践	生徒指導の実践課題と領域	テキスト pp.17-24
4	生徒指導の理論	発達に関する理論 生徒指導における治療的支援に関する理論 相談理論など	テキスト pp.32-42
5	生徒理解の進め方（１）	生徒理解の意義と目的 生徒理解の方法	テキスト pp.43-52
6	生徒理解の進め方（２）	生徒の自己理解の支援 教師の生徒認知のありよう	テキスト pp.52-62
7	学級経営の進め方（１）	学級経営の意義 学級集団の役割・機能	テキスト pp.63-68
8	学級経営の進め方（２）	学級集団の力学 学級経営の方法	テキスト pp.68-79
9	生徒指導上の諸問題の理解と対応	生徒指導上の諸問題とは 最近の諸問題の動向 諸問題にどう対応するか	生徒指導上の諸問題に関する配布資料
10	学校の生徒指導･進路指導体制と連携・協力	学校における指導体制 家庭との連携 専門機関との連携	テキスト pp.116-131
11	生徒の進路･キャリアに関する実態と課題	進路選択の実態と課題 キャリア適応 青少年の勤労観・職業観 勤労観・職業観の形成と変容	テキスト pp.176-195
12	進路指導･キャリア教育の目標と意義	進路指導・キャリア教育の意義 進路指導･キャリア教育の現代社会的課題	テキスト pp.135-159
13	進路指導･キャリア教育の理論	キャリア発達に関する諸理論 キャリアカウンセリングに関する理論	キャリア発達理論に関する配布資料
14	進路指導における「ガイダンスの機能」	ガイダンスを活かした指導	テキスト pp.220-223
15	学校教育における進路指導の実践展開	進路指導実践の展開モデル	テキスト pp.196-220、pp.223-234

関連科目：教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教師論」「教育心理学」「特別活動の理論と方法」「教育経営論」に関連する事柄を含みます。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）	文部科学省	
2	高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）	文部科学省	
3			

評価方法（基準）	定期試験 50%、レポート 50%。定期試験を受験しなかった場合、評価はしません。定期試験はオンライン Web 試験に変更する場合があります。その場合は試験時間割公開に先立ち指示します。
学生へのメッセージ	生徒指導、進路指導を学ぶ原資になる自らの体験は大事です。さらに自らの体験を対象化して考える習慣をつけましょう。そのために、基礎的な知識をしっかりと身につけてください。 授業への遅刻、無断欠席・早退等は厳禁です。生徒指導を行おうとする者としての適格性が問われます。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　朝日研究室

備考	必ず自分が履修登録をした曜日時限の Teams チームおよび Moodle コースにメンバー登録をしてください。自分が履修登録した曜日時限以外の Teams チームおよび Moodle コースにメンバー登録をしたものは成績評価対象外です（全欠席扱いとし、単位認定しません）。 また、ポータルシステムを通じて講義連絡、学生呼出を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度です。

科目名	教育相談（カウンセリングの基礎を含む）	科目名（英文）	School Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉田　佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育相談は，幼児児童生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら，集団の中で適応的に生活する力を育み，個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。幼児児童生徒の発達の状況に即しつつ，個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え，支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義，理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける。 特に，学校における教育相談に焦点を当て，教師が行う教育相談活動の基本的な考え方や教育相談に必要なスキルを身につけるために，教育相談のもつ今日的な意義を解説し，カウンセリングの基礎知識及びその実践的な手法を紹介する。併せて生徒理解と“問題”への対応について，実践的な取り組み方を考える。
到達目標	教育相談の基本的な考え方、カウンセリングの基礎、生徒理解と“問題”への対応についての知識を得ることができる。その上で、生徒を援助するための具体的な方法について考えることができる。
授業方法と留意点	講義と演習を組み合わせて行う。演習は，グループごとに取り組んだ課題について発表するものとする。
科目学習の効果（資格）	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」４単位のうち２単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	教育相談とは何か	教育相談の意義，教師としての立場，カウンセリングマインド	テキスト第１講，配付資料を用いた予習・復習
2	カウンセリングの基礎	カウンセリングの基本的な考え方，カウンセリングの技法	テキスト第２講・第３講，配付資料を用いた予習・復習
3	グループ発表の準備	グループワーク（アイスブレイク含む）	検討したいテーマについてよく考えておく グループ発表の準備
4	学校教育相談の全体像	校内での役割分担と協力体制，専門機関との連携とその方法	テキスト第10講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
5	学校におけるカウンセリング活動１	カウンセリング活動のいろいろ(1)……治療的カウンセリング活動，予防的カウンセリング活動	テキスト第２講，第10講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
6	学校におけるカウンセリング活動２	カウンセリング活動のいろいろ(2)……開発的カウンセリング活動	テキスト第２講・第10講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
7	パーソナリティ理解	パーソナリティを理解するために，パーソナリティ理解をゆがめるもの	テキスト第11講・第12講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
8	“問題”の理解と対応１	“問題”とは何か，その原因・背景と対応，適応過程	テキスト第９講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
9	“問題”の理解と対応２	ストレス，欲求不満，葛藤	テキスト第９講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
10	心の発達と“問題”	青年期の発達（認知，自己意識，道徳性，仲間関係等）	テキスト第９講，配付資料を用いた予習・復習 教育心理学の復習 グループ発表の準備
11	相談援助活動の実際１	不登校……その理解と対応（グループ発表）	テキスト第４講，配付資料を用いた予習・復習
12	相談援助活動の実際２	いじめ……その理解と対応（グループ発表）	テキスト第４講，配付資料を用いた予習・復習
13	相談援助活動の実際３	授業崩壊・学級崩壊……その理解と対応（グループ発表）	テキスト第５講，配付資料を用いた予習・復習
14	相談援助活動の実際４	反社会的行動……その理解と対応（グループ発表）	テキスト第７講，配付資料を用いた予習・復習
15	これからの教育相談	新たな課題，教師のメンタルヘルス，さらなる連携	テキスト第15講，配付資料を用いた予習・復習

関連科目	教職課程の科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかる！教職エクササイズ３　教育相談	森田健宏・吉田佐治子（編著）	ミネルヴァ書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	グループ発表 50%，期末試験 50%
学生へのメッセージ	これまでの学校での「困った」経験を思い出してみてください。
担当者の研究室等	７号館３階（吉田研究室）
備考	グループ発表について，他の受講者からの評価をまとめたものを次回授業時に配付します。 グループ内ではピア評価を行います。

	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。 Teams コードと科目名 　火曜 2 限：dm62fep　21 後-教職-010-教育相談（火 2）-吉田　佐治子 　木曜 1 限：x0o8r2g　21 後-教職-015-教育相談（木 1）-吉田　佐治子 　木曜 4 限：4cvqalv　21 後-教職-020-教育相談（木 4）-吉田　佐治子 Moodle コース名と登録キー 　火曜 2 限：2021 教育相談（火 2）あるいは　21 教育相談（火 2）　2021ECTUE2 　木曜 1 限：2021 教育相談（木 1）あるいは　21 教育相談（木 1）　2021ECTHU1 　木曜 4 限：2021 教育相談（木 4）あるいは　21 教育相談（木 4）　2021ECTHU4 ・Teams と Moodle を併用します。授業は Teams で，資料配付や試験は Moodle で行います。なお，授業は録画します（１週間で削除します)。 ・第 3 回と学生発表の回は，対面での授業を予定しています。詳しくは，第 1 回の授業の際にお伝えいたします。 ・評価方法の詳細も，第 1 回の授業時にお伝えしますが，試験は期末試験期間中に Moodle で実施する予定です。 ・Teams や Moodle の「お知らせ」をよく確認するようにしてください。 授業形態について（10 月 13 日(水)追記） ・「講義」回はこれまで通り Teams によるリアルタイムのオンライン授業 ・「グループワーク」回は各グループの計画通り ・「グループ発表」回は対面授業 授業予定の詳細については，Ｍｏｏｄｌｅ で配付した資料参照のこと。

科目名	数学科教育法Ⅰ	科目名（英文）	Method of Mathematics Teaching I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小林　俊公
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	数学科教育法Ⅰでは、高等学校数学科教員を目指す学生の意識を高め、実際に教育を担当できうるための基礎的な実践能力の育成をめざす。「カリキュラム・教育目標・目的・方法・内容・評価・教授及び学習に関する理論」をとらえ、数学教育における教育の方法や技術の修得に重点を置く。また、問題発見力と解決のための「情報活用法」を体得するべく、グループ学習を重視し、マイクロティーチング・プレゼンテーションを通して「教えるもの」と「学ぶもの」の相互の立場を経験し、自己の教育観・教育力の基礎的基盤の確立を目指す。
到達目標	（１）現行の学習指導要領を踏まえて、学習目標をたて、指導案を作成し、高等学校数学科の科目内容に関する３０分程度のマイクロティーチングを行うことができる。 （２）相互評価・自己評価を通じて、現在の自分を見つめ直し、教育観・教育力を育むことができる。
授業方法と留意点	15 回の授業の内の前半は、Teams による、リアルタイム方式の動画配信型授業を行う。 課題の提出と返却に Moodle を利用するので、Moodle のコースへの登録を忘れず行うこと。 後半は、マイクロティーチング（模擬授業）とそれに関連した授業を行うため、通常の対面式授業を行う。 ただし、COVID19 感染対策状況により、変更もあり得る。 講義形式の授業だけでなく、授業後半のマイクロティーチングにおいてはグループ学習・活動を実施する。 自らが発見した課題に積極的に取り組むことにより学ぶ「メ
科目学習の効果（資格）	「創造型人材育成教育（数学教育）を実践しうる教育者」となるための基礎・基本の確立ができる。(高等学校一種免許（数学))

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	本授業のねらいと展開	本教科科目の内容、特徴、 学び方、ガイダンス、 全体の展望、学習の進め方	課題レポート
2	教育と評価(1)	「評価」観の変遷から新しい「学力」観におけるメタ認知・メタ学習における評価について考える。	課題レポート
3	教育と評価(2)	教育における指導と評価を一体化させる方法を考え、「教育改善のための評価法」に統合する。	課題レポート
4	数学教育の目的と目標	教授の概念を学び、教授論の歴史的展開から教授メディアの発展及び学習理論について学ぶ。	課題レポート
5	新しい学力観	数学的な見方・考え方に関わる教授法に関する知識を、学習理論に結びつけ、新しい「学力」観について考える。	課題レポート
6	生きる力(1)	近接校種等の総合的な学習の時間における教育のあり方を学び、先進的な実践校の内容と、その分析をおこなう。	課題レポート
7	生きる力(2)	教授法・学習理論をメタ学習・数学教育の観点から教育の現場で役立つ力とする。	課題レポート
8	学級崩壊・学力崩壊	近接校種の教育の現場の状況を知り、各自の目指す校種に至るまでの現状を知る。特に小学校低学年における学級崩壊の実状を考察して、各自の教育観をたてる。	課題レポート
9	学習指導要領(1)	学習指導要領制定の経緯、変遷の経過に、それぞれの時代の求められた教育観がいかに反映されたかを学ぶ。	課題レポート
10	学習指導要領(2)	高等学校の学習指導要領について学び、その目標や内容について知り、教科書の分析法や、授業・指導の組織化の方法について学ぶ。	課題レポート
11	数学科教授計画	授業の設計法を体系的に学ぶ。目標の分析法や、授業・指導の組織化の方法について学び、その知識を援用して学習指導案にまとめる。	課題レポート
12	マイクロティーチングの方法	教育機器と教授メデイア、 教授メデイアの発展と現状、 チャート・カード・OHP などの活用について。	課題レポート
13	マイクロティーチング(プレゼンテーション)・グループ学習(1)	各自の求める数学教育について、「30 分間のマイクロティーチング」にまとめ、実践する。	課題レポート
14	マイクロティーチング(プレゼンテーション)・グループ学習(2)	グループ員各々のマイクロティーチングを「学ぶものの立場」、「同僚（教えるもの）としての立場」で相互評価し、「教えるもの」としての自己評価を加えて総合的にまとめる。	課題レポート
15	マイクロティーチング(プレゼンテーション)・グループ学習(3)	マイクロティーチングの相互評価と自己評価の発表と検討により、自己の教育力・評価力育成のための方法を体得する。	課題レポート

関連科目	本科目を学ぶまでに開講されている他の教職関連科目、一般教養科目をあらかじめ履修しておくことが望ましい。
教科書	

<table>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>高等学校学習指導要領解説　数学編　理数編</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td>高等学校学習指導要領解説　総則編</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td>中学校学習指導要領解説　数学編</td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>バズ式セッションを中心に展開(グループ員との連携が必須・特に欠席時)。マイクロティーチング(模擬授業)は必須。レポートの提出を求める。
マイクロティーチングと評価のまとめで 50%、レポートと日常学習状況(出席状況を含む)の評価を 50%とする。
マイクロティーチングについては、COVID19 感染対策状況により、レポート等への変更もあり得る。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>将来教員をめざす学生の切磋琢磨の場として、プレゼンテーション能力の育成をはかり、グループ活動においては、新しい教材開発など積極的な活動を求める。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>５号館１階　数学研究室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>事前・事後学習には、それぞれ毎回２時間を目安に、十分時間をかけて取り組むこと。
課題レポートは採点して返却し、適宜講義中に解説する。</td></tr>
</table>

科目名	数学科教育法Ⅱ	科目名（英文）	Method of Mathematics Teaching II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小林　俊公
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	数学科教育法 II では、高等学校数学科教員を目指す学生が実際に教育を担当できうるための基盤となる実践力の育成をめざす。数学科教育法 I でまとめあげた各自の「教える立場に立ったときの心構え・知識」と、体験したマイクロティーチングを礎にして、生きる力を知的な側面から支える「確かな学力」を育成し、生徒の学習意欲を高め、自ら学び自ら考える力などを育成できるプロジェクトをたて、教育コースウェアを研究・開発し、バズ式セッション・グループ活動・他者評価・自己評価、相互評価などで実践的な学びを展開する。
到達目標	高等学校数学科の科目内容に関して、学習目標・内容・評価を含む指導計画をたて、学習指導案（指導細案）を作成し、約５０分のマイクロティーチング（模擬授業）を行うことができる。
授業方法と留意点	15 回の授業の内の前半は、Teams による、リアルタイム方式の動画配信型授業を行う。課題の提出と返却に Moodle を利用するので、Moodle のコースへの登録を忘れず行うこと。後半は、マイクロティーチング（模擬授業）とそれに関連した授業を行うため、通常の対面式授業を行う。ただし、COVID19 感染対策状況により、変更する場合もある。 授業では、講義だけでなくグループ学習・活動を取り入れ、学ぶ意欲を維持し自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決し、プレゼンテーション
科目学習の効果（資格）	「創造型人材育成教育（数学教育）を実践しうる教育者」となるための基盤力が涵養できる。(高等学校一種免許（数学)） 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	本授業のねらいと展開	本教科科目の内容、特徴、学び方、ガイダンス、全体の展望、学習の進め方。	課題レポート
2	生きる力と確かな学力、学力観(1)	高等学校教科「数学」や専門教科「理数」において、生徒の学習意欲を高め、生きる力を支える「確かな学力」について考える。	課題レポート
3	生きる力と確かな学力、学力観(2)	「生徒が数学的な見方・考え方が好きだと思うこと」とは、また「授業以外に学ぶ習慣を体得できる種々の方策」とはについて考える。	課題レポート
4	生きる力と確かな学力、学力観(3)	「生活の中での数学の有効性を体験し、論理的に考える態度の育成」とは、また「人やものと関わる力を高めるための体験」とはどのようなものであるかを考える。	課題レポート
5	生きる力と確かな学力、学力観(4)	身近な事象から、どのような数学的知識が引き出されているか具体例を挙げ、数学的思考の構成過程を振り返って、当初の事象にどのように活用されているかを考える。	課題レポート
6	高等学校の数学教育開発プロジェクト(1)	高等学校普通教科数学「Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、A、B、数学活用」や専門科目「理数」の各々について、その理念と意義及び目標・内容について理解する。	課題レポート
7	高等学校の数学教育開発プロジェクト(2)	理解の過程で各自が持った問題意識でテーマをたて「自分が求める数学教育」を設定し、各自のたてた学力観から教授モデルや評価のあり方についてさらに考えをすすめる。	課題レポート
8	高等学校の数学教育開発プロジェクト(3)	自ら学び自ら考える力や表現力を身につけさせることができる「各自の行いたい教育コースウェア」を開発するプロジェクトを考察する。	課題レポート
9	高等学校の数学教育開発プロジェクト(4)	教育目標・目的、内容・方法、評価について考え、教育課程、年間指導計画、単元計画、本時の学習についての学習指導案・学習指導細案・ワークシート・板書計画・評価法をまとめ上げる。	課題レポート
10	バズ式セッション、模擬授業・評価(1)	グループ活動として、各自の開発した教育コースウェアについてバズ式セッションで討議する。	課題レポート
11	バズ式セッション、模擬授業・評価(2)	討議の結果をフィードバックして各自の考えた教育コースウェアを修正し、「50 分間の模擬授業」を行う。	課題レポート
12	バズ式セッション、模擬授業・評価(3)	各自の考えた「評価規準」「評価基準」「ルーブリック」等で評価を行い、観点別評価を実践する。	課題レポート
13	バズ式セッション、模擬授業・評価(4)	実践により各々のプロジェクト型問題解決学習を完結し、一人ひとりの「Plan-Do-Check-Action のサイクル」をシステマティックに組み上げる。	課題レポート
14	バズ式セッション、模擬授業・評価(5)	教育者としての基盤を確立し、自己の教育力（授業改善力・評価力等）育成のための方法を体得する。	課題レポート
15	まとめ	高等学校教科「数学」の学習指導要領に	課題レポート

			ついて体系的な知識を身につけ、「生きる力」や「確かな学力」について考えをまとめ、各自の「学力観」を立てる。	

関連科目	本科目を学ぶまでに数学科教育法 Ⅰ を履修すること。他の教職関連科目、一般教養科目などもあらかじめ履修しておくことが望ましい。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	高等学校学習指導要領解説　数学編　理数編		
2	高等学校学習指導要領解説　総則編		
3	中学校学習指導要領解説　数学編		

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	マイクロティーチング（模擬授業）は必須。授業への参画（受講態度、平常点）、課題提出、課題解決の経過等の日常学習状況の評価が 50%、マイクロティーチングと評価のまとめで 50%とする。 マイクロティーチングについては、COVID19 感染対策状況により、レポート等への変更もあり得る。
学生への メッセージ	生徒の自己実現を支援する高等学校数学科の教員を目指すという目的意識を持ち、常に問題を発見し問題解決・課題解決に情熱を傾け、日々の課題を着実に解決し、自ら継続的に問題（課題）解決のための取り組みを日常的に行う学生の受講を希望する。
担当者の 研究室等	３号館３階　数学研究室
備考	事前・事後学習には、それぞれ毎回２時間を目安に、十分時間をかけて取り組むこと。 課題レポートは採点して返却し、適宜講義中に解説する。

科目名	数学科教育法Ⅲ	科目名（英文）	Method of Mathematics Teaching III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	富永　雅
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	・数学科教育法Ⅲでは，中学校数学科教員を目指す学生の意識を高め，実際に教育を担当できうるための基礎的な実践能力の育成をめざす。 ・中学生の実態を捉え、「カリキュラム・教育目標・目的・方法・内容・評価・教授及び学習に関する理論」に関する知識を展開し，数学教育における教育の方法や技術の修得に重点を置く。 ・問題発見力と解決のための「情報活用法」を体得するべく，グループ学習を重視し，プレゼンテーション・模擬授業をとおして「教えるもの」と「学ぶもの」の相互の立場を経験し，自己の教育観・教育力の基礎的基盤の確立を目指す。 ・校種間の連携も考え、小学校・高等学校の学習・指導についても学ぶ。
到達目標	・中学校学習指導の理解 ・数学的な活動の理解と体得 ・必須授業力の理解と自己の授業力の育成 ・模擬授業の基礎力 ・評価と評定についての理解
授業方法と留意点	グループ学習・活動を実施する。 自らが発見した課題に積極的に取り組む。 成果として、発表・レポートの提出を求める。
科目学習の効果（資格）	「創造型人材育成教育（数学教育）を実践しうる教育者」となるための基礎・基本の確立ができる。(中学校一種免許（数学)) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	本授業のねらいと展開	本教科科目の内容、特徴、 学び方、全体の展望、学習の進め方。	課題レポート
2	数学教育の目的と目標 学習指導案	学習指導要領から目標などを学ぶ。 典型的な学習指導案の作成について学ぶ。	課題レポート
3	数学教育の歴史	数学教育体制がどのように始められ変遷してきたか学ぶ。 また、数学教育史から現代数学教育を見つめなおす。	課題レポート
4	数学教科書比較（1）	学習指導要領などを基に教科書の分析法や，授業・指導の組織化の方法について学ぶ。	課題レポート
5	数学教科書比較（2）	教科書を比較することから数学指導における注意点を認識し、その指導法について考える。	課題レポート
6	算数教育から数学教育へ	小学校算数教育の内容を通じて，小中の算数数学教育の連携をどのように考るべきかについて学ぶ。	課題レポート
7	数学科教授計画	授業の設計法を体系的に学ぶ。目標の分析法や，授業・指授業の設計法を体系的に学び、その知識を援用して学習指導案にまとめる。	課題レポート
8	数学教材とその応用（１）	代数・幾何分野（発展的内容を含む）などの数学教材を基にその指導についての現状を知る。	課題レポート
9	数学教材とその応用（２）	代数・幾何分野（発展的内容を含む）などの数学教材を基に教育・指導観を吟味する。	課題レポート
10	教科書比較・模擬授業に関わる考察（1）	各自の発表に関して、該当単元設置の目的，注意点についてまとめ、発表する。	課題レポート
11	教科書比較・模擬授業委に関わる考察（２）	相互の準備状況について意見交換を行い，発表に備える。	課題レポート
12	模擬授業（・プレゼンテーション）・グループ学習(1)	各自の求める数学教育像の一つとして，「15 分間の模擬授業」をまとめ，実践する。	課題レポート
13	模擬授業（・プレゼンテーション）・グループ学習(2)	グループ員各々の模擬授業を「学ぶものの立場」,「同僚（教えるもの）としての立場」で相互評価し，自己評価を加えて総合的にまとめる。	課題レポート
14	模擬授業（・プレゼンテーション）・グループ学習(3)	模擬授業の相互評価と自己評価の発表と検討により，自己の教育力・評価力育成のための方法を体得する。	課題レポート
15	まとめ	具体的な問題を取り上げ、学習してきた内容を基に、その指導法について考察する。	課題レポート

関連科目	本科目を学ぶまでに開講されている他の教職関連科目，一般教養科目を予め履修されておくことが望ましい。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

<table>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>○ 模擬授業は必須。
○ 受講生・グループで連携が必要。
● 日常学習状況を考慮しつつ、教科書比較・模擬授業などのレポートで評価（100%）を行う。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>○ 将来教員をめざす学生の切磋琢磨の場として，プレゼンテーション能力の育成をはかり，グループを中心に，新しい教材開発など積極的な活動を求める。

※以下、4 月 22 日以降についての連絡です。
より具体的には、5 月 8 日まではオンライン（Moodle）で実施します。詳細は、Moodle「2021 数学科教育法Ⅲ」でご確認下さい。尚、既に Moodle には学生皆さんを登録しています。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>対応は、当該講義内が中心となります。
ただし、2020 年後期は、ICT ツール Moodle を用いた授業となるため、連絡を取る必要ががる場合は、別途記した指定メールを利用してお問い合わせください。</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>○ 授業においては、ICT ツール Moodle を用いることがあります。
○事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。</td></tr>
</table>

科目名	数学科教育法Ⅳ	科目名（英文）	Method of Mathematics Teaching IV
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	富永　雅
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	数学科教育法Ⅳでは，中学校数学科教員を目指す学生が実際に教育を担当できうるための基盤となる実践力の育成をめざす。数学科教育法Ⅰ，Ⅱ，Ⅲでまとめあげた各自の「教える立場に立ったときの心構え・知識」と，体験したマイクロティーチングを礎にして，生きる力を知的な側面から支える「確かな学力」を育成するための教育コースウェアを研究・開発する。バズ式セッション・グループ活動を学習形態に取り入れ，生徒の学習意欲をたかめ，自ら学び自ら考える力を育てるという課題を持ってプロジェクトをたてる。各自がたてた課題解決プロジェクトを互いに他者評価し、自己評価して実践的な学びを展開する。
到達目標	・中学校学習指導要領（数学）の内容の体得 ・数学的な活動を含んだ教育課程の編成についての理解 ・学習指導案の作成力 ・マイクロティーチグの実践力 ・各領域における一層の理解
授業方法と留意点	学ぶ意欲を維持し自分で課題を見つけ，自ら学び，主体的に判断し，行動し，よりよく問題解決し，プレゼンテーションする資質や能力の涵養を目指す。
科目学習の効果（資格）	「創造型人材育成教育（数学教育）を実践しうる教育者」となるための基盤力が涵養できる。（中学校一種免許（数学）） 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	本授業のねらいと展開	本教科科目の内容、特徴、 学び方、全体の展望、学習の進め方	課題レポート
2	中学校･高等学校学習指導要領	中･高等学校数学の学習内容を改めて概括、領域の確認を行う。 本授業を通しての自身のテーマを設定する。	課題レポート
3	数学史的観点からの数学教育	明治以降の数学教育史について知りし、現代に繋がるその発展の様子を概観する。	課題レポート
4	数学教材とその応用（1）	設定したテーマにおいてその学習内容を深める。	課題レポート
5	数学教材（論理的思考１）	命題論理・述語論理について学習する。	課題レポート
6	数学教材（論理的思考２）	証明法について学習する。	課題レポート
7	数学教材とその応用（2）	設定したテーマにおいてその学習内容の指導の在り方について吟味する。	課題レポート
8	数学教材とその応用（3）	数学教材とその応用（２）までのまとめの発表を行う。	課題レポート
9	数学教材とその応用（4）	発表の続き。 設定したテーマにおける学習指導内容･その指導について自身の意見をまとめる。	課題レポート
10	模擬授業・評価(1)	これまでの学びを基に、（自身のテーマに沿って）模擬授業内容を構成する。	課題レポート
11	模擬授業・評価(2)	模擬授業内容における教科書比較を行い、発表する。	課題レポート
12	模擬授業・評価(3)	教育者としての基盤を確立し，自己の教育力（授業改善力・評価力等）育成のための方法を体得する。	課題レポート
13	模擬授業・評価(4)	模擬授業を行う。 討議なども可能な限り行い、結果をフィードバックして修正する。（その①）	課題レポート
14	模擬授業・評価(5)	模擬授業を行う。 討議なども可能な限り行い、結果をフィードバックして修正する。（その②）	課題レポート
15	まとめ	高等学校教科「数学」の学習指導要領について体系的な知識を身につけ，「生きる力」や「確かな学力」について考えをまとめ，各自の「学力観」を立てる。	課題レポート

関連科目	本科目を学ぶまでに数学科教育法Ⅲを履修すること。他の教職関連科目，一般教養科目なども予め履修しておくことが望ましい。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	模擬授業では、グループ作成時は特に連携が必須。 レポートの提出を求める。基本的に、模擬授業とその評価のまとめで 40%，その他レポートを含む日常学習状況の評価が 60%とする。

学生への メッセージ	生徒の自己実現を支援する中学校・高等学校数学科の教員を目指すという目的意識を持ち，常に問題を発見し、問題解決・課題解決に情熱を傾け，日々の課題を着実に解決し，自ら継続的に問題（課題）解決のための取り組みを日常的におこなう学生の受講を希望する。
担当者の 研究室等	当該講義内での対応が中心となります。
備考	・感染状況の現状から、対面・遠隔授業を適宜判断して行う。 第１回目は、Moodle を用いた遠隔授業を行う。 Moodle の登録はこちらで本授業開始日の２日前までには行うので、授業学生はご確認ください。 （登録されていなければお知らせください。）

科目名	理科教育法Ⅰ	科目名（英文）	Science Teaching I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	菅波　昌広
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	理科教育法は中等教育において理科教育を如何に行うかを考え、教育現場で如何に実践していくかを身につける科目である。理科教育法Ⅰでは、高等学校を中心に戦後からの理科教育の流れをみつめ、現代の理科教育のあり方を考えていく。中学校・高等学校学習指導要領に則った教育課程の編成や目標、内容、方法等の基本的必須事項を理解して教授法を身につけ、授業計画や授業設計ができるようになる。 高等学校の授業を生徒の立場から体験してもらう目的で、授業担当者が授業展開の実際を示すサンプル授業を実施するので、自身が授業を行うときの参考にしてもらいたい。教育実習等で不可欠な学習指導案の内容、作成の方法などにも触れる。
到達目標	《一般目標》 楽しく、わかりやすい、魅力ある授業を行うために、それらに必要な知識の習得や技術を身につける。 《行動目標》 ① わかりやすい文章が書けるようになる ② 理解しやすい話(説明)ができるようになる ③ 授業に必要な知識を身につける ④ 授業計画・授業設計ができるようになる ⑤ 授業に必要な教材や教具が作成できるようになる ⑥ 適切な評価ができるようになる ⑦ 適切な板書ができるようになる ⑧ 学習指導案が作成できるようになる ⑨ 理科実験における安全管理
授業方法と留意点	本授業では講義をベースにグループワーク、討議などを中心に進め、各回の講義内容はレジュメとして配布する。授業は講義内容に沿って説明や解説を行うが、学習者の今までの経験や体験談なども発表してもらい、意見交換や情報共有をしていく。それらの内容を授業で配布する学習ノートに各自でまとめ、本時の収穫(授業で得られたことや身についたことなど)と授業に対する意見や質問を書いて毎回提出する。レジュメは授業の最後または次回に配布し、まとめや振り返りに使用する。授業開始後に、前回の学習ノートに記載されていた意見や質問に対して、
科目学習の効果（資格）	高等学校一種免許（理科） 中学校一種免許（理科）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	理科教育法のガイダンス	本教科目(理科教育法Ⅰ～Ⅳ)のガイダンスを行う。理科教育法を学ぶ目的や意義を知るために、授業の内容，特徴，学び方，進め方についての解説を行なう。次回までの課題として「教育」とは何かについて自身の思うところ、考えるところを述べる。	授業終了後に学習ノートを作成すること〔1 時間～2 時間〕 課題(「教育」とは)についてレポートを作成すること 〔1 時間～2 時間〕
2	理科教育の目的	日本の理科教育と諸外国との違いについて学び、自身はどのような理科教育をしたいかについて考える。	授業終了後に学習ノートを作成すること〔1 時間～2 時間〕 課題(前回の「教育」についての、他の学習者の考えに対して、意見・講評を書く。)についてレポートを作成すること 〔1 時間～2 時間〕
3	戦後の高校理科の教育課程と授業時間数の変遷	高等学校学習指導要領に記載された理科の単位数を比較することで、高等学校の理科教育がどのように変遷したかを学ぶ。 授業では、新旧の教科書を比較して、その内容の変遷についても学びとる。GW または PW によって気づいたことを学習ノートにまとめる。	授業終了後に学習ノートを作成すること〔1 時間～2 時間〕
4	教育課程の変遷と歴史的背景	高等学校の理科教育がどのようにして変遷してきたかを時代の背景とともに学び、近年ではＯＥＣＤが実施しているＰＩＳＡ調査から見えた問題点や課題を受けて改訂されていることを知る。	授業終了後に学習ノートを作成すること〔1 時間?2 時間〕
5	ＰＩＳＡ調査	ＰＩＳＡ調査とはどのような調査であるかを知り、実際に解いてみることによって、新しい学力観、能力観とはどのようなものが求められているかを知る。	授業終了後に学習ノートを作成すること〔1 時間～2 時間〕 ＰＩＳＡ調査過去問題を解く〔1 時間～2 時間〕
6	学習指導要領理科の授業内容の取り扱い	高等学校「理科」の学習指導要領について、その目標や内容について知り、生きる力について考える。また、教科書の分析方法や授業のねらいについても学ぶ。	授業終了後に学習ノートを作成すること〔1 時間?2 時間〕
7	理科における評価の方法	評価についての教育的意義を知り、学習指導とその評価について考える。また、目標に応じた評価方法について学び、教育評価を教育の改善に役立たせる方法を考えてみる。	授業終了後に学習ノートを作成すること〔1 時間?2 時間〕
8	年間授業計画とシラバス・授業設計	授業を設計するにあたり，単元や年間授業計画との関わりについて知り，年間を通して効率の良い授業ができることを学ぶ。学習目標を定めることにより，教師の授業デザイン力の向上となるような授業設計を考える。	授業終了後に学習ノートを作成すること〔1 時間?2 時間〕
9	理科の授業づくりと授業の方法	具体的な授業の進め方を知るためにサンプルとなる高等学校の授業を授業担当者が実際に行なう。終了後に疑問点や課題について GW による話し合いを行	授業終了後に学習ノートを作成すること〔1 時間?2 時間〕

		い、授業でのねらいなどについて考える。	
10	理科の授業づくり～指導計画～	理科の授業づくりの意義を知り，教材研究の進め方と手順，授業の工夫について学ぶ。	授業終了後に学習ノートを作成すること〔1 時間?2 時間〕
11	学習指導案の事例と研究	学習指導案について，その事例を用いて，授業の組み立ての基本について学ぶ。また，学習指導案を作成するためのワークシートを用いて、指導案作成の準備を行う。	授業終了後に学習ノートを作成すること〔1 時間?2 時間〕 学習指導案を作成すること〔8 時間?10 時間〕
12	授業における導入について	授業の進め方の中で導入部分の重要性を知り，魅力ある授業設計や授業計画を行うことを学ぶ。そのための導入部分の授業を実際に考える。	授業終了後に学習ノートを作成すること〔1 時間?2 時間〕
13	授業における展開について	授業の展開において，発問の重要性はた大きく，学習者に魅力ある学習活動ができるような指導方略を考える。また、プロ（某予備校人気講師）が行う授業のビデオを見て、展開の方法、発問のタイミングなどをについて学び取る。	授業終了後に学習ノートを作成すること〔1 時間?2 時間〕
14	授業におけるまとめについて	授業の締めくくりであるまとめの意義について考え、授業でのまとめの方法や効果について学ぶ。ガニェの 9 教授事象と導入・展開・まとめとの関連について考える。	授業終了後に学習ノートを作成すること〔1 時間?2 時間〕
15	授業における板書と話し方について	具体的に授業を進める際、板書の方法や話し方によって，学習者にもたらす効果は異なる。授業を行なうための適切な板書の方法について考え，授業を行うにあたっての板書計画・板書レイアウトなどについても学ぶ。また、授業を行なうための適切な話し方の方法について学び、その効果を考える。	授業終了後に学習ノートを作成すること〔1 時間?2 時間〕 志望理由書を書いて提出する。〔5 時間?6 時間〕

関連科目

本科目を履修するにあたり、開講されている教職教養科目、一般教養科目等を予め履修されていることが望ましい。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	高等学校学習指導要領解説理科編	文部科学省	
2			
3			

評価方法（基準）

学習ノート(60%)、課題・レポート(40%)

学生へのメッセージ

学習者の自己実現を支援する理科教員を目指すという自覚と目的意識を持ち，理科教育に関する理解を深め，理科教育に必要な基礎能力を習得して欲しい。わかりやすい文章，理解しやすい話など豊かな表現力も身につけて欲しい。

担当者の研究室等

新２号館２階ラーニングセンタースタッフルーム

備考

提出された学習ノートは、点検と評価を行い、コメントをつけて次回の授業で返却する。
配布した講義プリント、資料と返却された学習ノートは、理科教育法Ⅰ～Ⅳで相当な量になるので、ファイル(百円ショップにある数センチ幅のもので良い)に綴じていくこと。

科目名	理科教育法Ⅱ	科目名（英文）	Science Teaching II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	菅波　昌広
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	日本の教育問題の１つに理科離れがある。理科の面白さを引き出すためには理科の実験・観察の果たす役割は大きく、実験や手作業を通して身につく“見えない学力”は将来、技術者や研究者についたときの基礎力になる。理科教育法Ⅱは授業で実験・観察を行う意義をとらえ、理科の教科指導と授業力に関する資質と能力の育成をはかり、実験を取り入れた授業を組み立てることを前提に、授業計画や実験の方法について、具体例や実践例を挙げながら授業をすすめる。さらに理科教育法Ⅰと関連付けて指導計画、指導法などを実践の場で具体的に役立つ方法として身につけるために、各自に 50 分間の模擬授業を実施してもらう。 授業担当者は、大阪工業大学高等学校(現常翔学園高等学校・中学校)にて２２年間理科の教諭として教壇に立ち、その間３０名を越える教育実習生の指導も行ってきた。講義では授業担当者が行ってきた実践例や現場の経験などを紹介し、学習者は授業の設計方法から実施方法、授業の技術を身に付けることが出来る。また、教育実習や教員採用試験に至るまで一連の指導や情報提供を行うことができる。
到達目標	《一般目標》 楽しく、わかりやすい、魅力ある授業を行うために、それらに必要な知識の習得や技術を身につける。 《行動目標》 ① わかりやすい文章が書けるようになる ② 理解しやすい話(説明)ができるようになる ③ 授業に必要な知識を身につける ④ 授業計画・授業設計ができるようになる ⑤ 授業に必要な教材や教具が作成できるようになる ⑥ 適切な評価ができるようになる ⑦ 適切な板書ができるようになる ⑧ 学習指導案が作成できるようになる ⑨ 理科実験における安全管理
授業方法と留意点	本授業では講義をベースにグループワーク、討議などを中心に進め、各回の講義内容はレジュメとして配布する。授業は講義内容に沿って説明や解説を行うが、学習者の今までの経験や体験談なども発表してもらい、意見交換や情報共有をしていく。それらの内容を授業で配布する学習ノートに各自でまとめ、本時の収穫(授業で得られたことや身についたことなど)と授業に対する意見や質問を書いて毎回提出する。レジュメは授業の最後または次回に配布し、まとめや振り返りに使用する。授業開始後に、前回の学習ノートに記載されていた意見や質問に対して
科目学習の効果（資格）	高等学校一種免許（理科） 中学校一種免許（理科）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	理科の実験授業･その意義と方法	理科の授業における実験の意義について学び，探求的な活動としての理科実験のあり方を知る。また、中学校における実験を取り入れた授業について紹介する。	・学習ノートの作成〔30 分～1 時間〕 ・ワーク課題(実験室における危険な行動や危険な器具の取り扱いを指摘する。)〔１時間～２時間〕
2	理科実験おける安全・管理	課題のワークシートをもとに、実験室における危険な行動や器具の取り扱いについて考えた事を発表してもらい、安全管理・危機管理について学ぶ。さらに理科実験おける事故・安全・管理について学び，事故防止やその対策について考える。	・学習ノートの作成〔30 分～1 時間〕 ・ワーク課題(学校現場で過去に起きた事故の原因を考える。)〔1 時間～2 時間〕
3	学校現場における理科実験の事故例	学校現場における過去に起きた事故の例から事故原因などを考え、事故防止をふまえた安全管理を身に付ける。	・学習ノートの作成〔30 分～1 時間〕 ・ワーク課題(生徒実験を行うためにどのような準備や事前・事後指導をするかを考える。)〔1 時間～2 時間〕
4	理科の実験観察とその授業計画・実施	安全管理，事故防止をふまえたうえで理科実験の計画を考え，予備実験の重要性についても学ぶ。さらに生徒実験における結果の分析方法や意義について知り，評価の方法についても学ぶ。	・学習ノートの作成〔30 分～1 時間〕
5	教材･教具の研究とその重要性及び教育機器の活用	学習者にとって魅力ある授業は教材がうまく配列されており，必要性に応じた教具が多用されている。教材・教具の必要性・重要性を知り，学習者により効果をもたらす教材や教具について考える。講義では教材・教具のサンプルも紹介する。また、理科教育と ICT の活用の現状や課題について理解し，その活用事例について学ぶ。	・学習ノートの作成〔30 分～1 時間〕
6	指導計画案の作成と留意点	学習指導案を作成するにあたっての留意点についての解説を行い，その作成手順について学ぶ。また，学習指導案を作成するためのワークシートを用いて、自身が行う模擬授業のための指導案作成の準備を行う。	・学習ノートの作成〔30 分～1 時間〕
7	模擬授業(１)	各自が目指す理科教育をふまえ、作成した指導案に基づき、模擬授業実施学生は高等学校の 50 分間の授業を行なう。模擬授業終了後には研究協議や講評を行なう。	《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備 (学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成)〔平均して 5～6 時間〕 ・研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。〔30 分～1 時間〕 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブ

				リック)と講評を評価票に記入する。〔30分～1時間〕
8	模擬授業(2)	各自が目指す理科教育をふまえ、作成した指導案に基づき、模擬授業実施学生は高等学校の 50 分間の授業を行なう。模擬授業終了後には研究協議や講評を行なう。	《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備 (学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成)〔平均して 5～6 時間〕 ・研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。〔30 分～1 時間〕 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。〔30分～1時間〕
9	模擬授業(3)	各自が目指す理科教育をふまえ、作成した指導案に基づき、模擬授業実施学生は高等学校の 50 分間の授業を行なう。模擬授業終了後には研究協議や講評を行なう。	《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備 (学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成)〔平均して 5～6 時間〕 ・研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。〔30 分～1 時間〕 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。〔30分～1時間〕
10	模擬授業(4)	各自が目指す理科教育をふまえ、作成した指導案に基づき、模擬授業実施学生は高等学校の 50 分間の授業を行なう。模擬授業終了後には研究協議や講評を行なう。	《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備 (学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成)〔平均して 5～6 時間〕 ・研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。〔30 分～1 時間〕 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。〔30分～1時間〕
11	模擬授業(5)	各自が目指す理科教育をふまえ、作成した指導案に基づき、模擬授業実施学生は高等学校の 50 分間の授業を行なう。模擬授業終了後には研究協議や講評を行なう。	《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備 (学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成)〔平均して 5～6 時間〕 ・研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。〔30 分～1 時間〕 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。〔30分～1時間〕
12	模擬授業(6)	各自が目指す理科教育をふまえ、作成した指導案に基づき、模擬授業実施学生は高等学校の 50 分間の授業を行なう。模擬授業終了後には研究協議や講評を行なう。	《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備 (学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成)〔平均して 5～6 時間〕 ・研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。〔30 分～1 時間〕 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。〔30分～1時間〕
13	模擬授業(7)	各自が目指す理科教育をふまえ、作成した指導案に基づき、模擬授業実施学生は高等学校の 50 分間の授業を行なう。模擬授業終了後には研究協議や講評を行なう。	《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備 (学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成)〔平均して 5～6 時間〕 ・研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。〔30 分～1 時間〕 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。〔30分～1時間〕
14	模擬授業(8)	各自が目指す理科教育をふまえ、作成した指導案に基づき、模擬授業実施学生は高等学校の 50 分間の授業を行なう。模擬授業終了後には研究協議や講評を行なう。	《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備 (学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成)〔平均して 5～6 時間〕 ・研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。〔30 分～1 時間〕 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。〔30分～1時間〕
15	模擬授業についての講評とまとめ	各自が実施した模擬授業についての講評を行う。また、行った模擬授業の内容について改善点などの問題提起を行い、GW、PW にて討議し発表してもらう。	学習ノートの作成〔30 分～1 時間〕

関連科目	本科目を履修するにあたり、開講されている教職教養科目、一般教養科目等を予め履修されていることが望ましい。 理科教育法Ⅰを履修のこと。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	高等学校学習指導要領　解説　理科編	文部科学省	
2			
3			

評価方法 （基準）	模擬授業(50%)、課題レポート・学習ノート・評価表(50%) ※模擬授業が実施できない場合、課題レポート・学習ノート(100%)となります。
学生への メッセージ	模擬授業を行うにあたって、事前準備に時間がかかり労力を要するが、将来教員を目指している学生の切磋琢磨の場として積極的に取り組んで欲しい。また、自他を問わず正しい評価、適切な講評を行えるようになって欲しい。
担当者の 研究室等	新２号館２階ラーニングセンタースタッフルーム
備考	提出された学習ノートは、点検と評価を行い、コメントをつけて次回の授業で返却する。 模擬授業の学習者側の学生からの評価表(ルーブリック)と講評および自己評価表は公平を期すために最終講義時に返却する。 受講者の人数により模擬授業の実施時間が不足する場合には、土曜日等に別途補講を実施する。 高等学校の教科書は各自が使用していたものでよいが、持っていない人は貸し出しします。

科目名	理科教育法Ⅲ	科目名（英文）	Science Teaching III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	菅波　昌広
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	高等学校の理科は選択制が導入されており、中学校理科の果たすべき役割は大きい。そのため、第１分野、第２分野の内容の特徴と小学校、高等学校の接続や内容との関連性について学び、物理、化学、生物、地学の各分野の特徴についての知識も必要となる。 理科教育法 III では中学校の理科教師を目指す学生に、理科教育の内容、指導法に関する基本事項を再確認し、中学校で授業を行うために必要な授業作りの方法を身につける。また、楽しく、わかりやすい授業を行うための知識や技術を習得するとともに、簡単な実験・観察やグループワークなどのアクティブラーニングを積極的に取り入れ、学習者主体の活動的な授業が行えるようにする。また、聞き手である生徒が授業をよりわかりやすく受けることができるための方法や工夫を研究する。
到達目標	《一般目標》 楽しく、わかりやすい、魅力ある授業を行うために、それらに必要な知識の習得や技術を身につける。 《行動目標》 ① わかりやすい文章が書けるようになる ② 理解しやすい話(説明)ができるようになる ③ 授業に必要な知識を身につける ④ 授業計画・授業設計ができるようになる ⑤ 授業に必要な教材や教具が作成できるようになる ⑥ 適切な評価ができるようになる ⑦ 適切な板書ができるようになる ⑧ 学習指導案が作成できるようになる ⑨ 理科実験における安全管理
授業方法と留意点	本授業では講義をベースにグループワーク、討議などを中心に進め、各回の講義内容はレジュメとして配布する。授業は講義内容に沿って説明や解説を行うが、学習者の今までの経験や体験談なども発表してもらい、意見交換や情報共有をしていく。それらの内容を授業で配布する学習ノートに各自でまとめ、本時の収穫(授業で得られたことや身についたことなど)と授業に対する意見や質問を書いて毎回提出する。レジュメは授業の最後または次回に配布し、まとめや振り返りに使用する。授業開始後に、前回の学習ノートに記載されていた意見や質問に対して、
科目学習の効果（資格）	高等学校一種免許（理科） 中学校一種免許（理科）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンスと 教員を目指すために(教員採用試験では)	教員になるために超えなければならない２つのハードルがある。それが何かを考え、今後の取り組みや準備すべき事を考える。さらに教員採用試験過去問を解くことにより今後の対策や学習計画について考える。	・学習ノートを作成すること〔30 分～1 時間〕
2	中学校理科学習指導要領(平成 20 年告示)について(1)	中学校学習指導要領の改訂の経緯に様々な学力調査や学習状況調査がある。それらの調査問題を実際に解き、それぞれの調査のねらいなどを考察する。また、改訂の基本方針について理解する。	・学習ノートを作成すること〔30 分～1 時間〕
3	中学校理科学習指導要領について(2)	中学校学習指導要領に基づいて、改善の要点、指導の留意点などの内容について学ぶ。指導計画の作成、観察、実験の時間や探究する時間の設定、ものづくりの推進などについて、実施の方法や取り扱いについてのヒントを紹介する。	・学習ノートを作成すること〔30 分～1 時間〕
4	新中学校理科学習指導要領(平成 29 年告示)について	新旧の中学校学習指導要領を比較して、改善や変更のあった内容から、そのねらいについて考える。また、新過程で行う指導の留意点や取り扱いについて理解する。 さらに中学校理科教育の中で教育課程の変遷について知り，小学校理科教育と高等学校理科教育の連携についても考える。	・学習ノートを作成すること〔30 分～1 時間〕
5	中学校理科の授業づくりと授業の進め方	中学校の具体的な授業の進め方を知ってもらうために、授業担当者がサンプルとなる授業を行なう。サンプル授業終了後に疑問点や課題について討議する。また、高等学校と中学校との教授法の違いについて考え、授業づくり，教材研究，授業の工夫について役立てる。	・学習ノートを作成すること〔30 分～1 時間〕
6	中学校学習指導案について	学習指導案を作成するにあたっての留意点と，その作成手順について学ぶ。また，学習指導案作成ワークシートを用いて、自身が行う模擬授業のための指導案を作成する。	・学習ノートを作成すること〔30 分～1 時間〕
7	模擬授業(１)	各自が目指す理科教育をふまえて作成した指導案に基づき、模擬授業実施者は中学校の 50 分間の授業を行なう。さらにその模擬授業について研究協議と講評を行なう。	《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備 (学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成)〔平均して 5～6 時間〕 ・研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。〔30 分～1 時間〕 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。〔30分～1時間〕

8	模擬授業(2)	各自が目指す理科教育をふまえて作成した指導案に基づき、模擬授業実施者は中学校の 50 分間の授業を行なう。さらにその模擬授業について研究協議や講評を行なう。	《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備 (学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成)〔平均して 5～6 時間〕 ・研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。〔30 分～1 時間〕 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。〔30分～1時間〕
9	模擬授業(3)	各自が目指す理科教育をふまえて作成した指導案に基づき、模擬授業実施者は中学校の 50 分間の授業を行なう。さらにその模擬授業について研究協議や講評を行なう。	《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備 (学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成)〔平均して 5～6 時間〕 ・研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。〔30 分～1 時間〕 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。〔30分～1時間〕
10	模擬授業(4)	各自が目指す理科教育をふまえて作成した指導案に基づき、模擬授業実施者は中学校の 50 分間の授業を行なう。さらにその模擬授業について研究協議や講評を行なう。	《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備 (学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成)〔平均して 5～6 時間〕 ・研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。〔30 分～1 時間〕 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。〔30分～1時間〕
11	模擬授業(5)	各自が目指す理科教育をふまえて作成した指導案に基づき、模擬授業実施者は中学校の 50 分間の授業を行なう。さらにその模擬授業について研究協議や講評を行なう。	《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備 (学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成)〔平均して 5～6 時間〕 ・研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。〔30 分～1 時間〕 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。〔30分～1時間〕
12	模擬授業(6)	各自が目指す理科教育をふまえて作成した指導案に基づき、模擬授業実施者は中学校の 50 分間の授業を行なう。さらにその模擬授業について研究協議や講評を行なう。	《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備 (学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成)〔平均して 5～6 時間〕 ・研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。〔30 分～1 時間〕 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。〔30分～1時間〕
13	模擬授業(7)	各自が目指す理科教育をふまえて作成した指導案に基づき、中学校の 50 分間の模擬授業を行なう。さらにその模擬授業について研究協議や講評を行なう。	《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備 (学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成)〔平均して 5～6 時間〕 ・研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。〔30 分～1 時間〕 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。〔30分～1時間〕
14	模擬授業(8)	各自が目指す理科教育をふまえて作成した指導案に基づき、模擬授業実施者は中学校の 50 分間の授業を行なう。さらにその模擬授業について研究協議や講評を行なう。	《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備 (学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成)〔平均して 5～6 時間〕 ・研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。〔30 分～1 時間〕 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。〔30分～1時間〕
15	理科教育法 III のまとめ	中学校・高等学校「理科」の体系的な知識を確認し、「生きる力」についての考えをまとめる。	・学習ノートを作成すること〔30 分～1 時間〕

関連科目

本科目を履修するにあたり、開講されている教職関連科目、一般教養科目等を予め履修されていることが望ましい。理科教育法Ⅰ・Ⅱは履修していること。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

<table>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>中学校学習指導要領解説　理科編</td><td>文部科学省</td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>学習ノートと課題レポート(50%)、模擬授業（学習指導案、作成した教材・教具）(50%)</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>模擬授業を行うにあたって、事前準備や事後処理に時間がかかり，労力を要するが，将来教員を目指している学生の切磋琢磨の場として積極的に取り組んで欲しい。模擬授業ではグループワークなどのアクティブラーニングを積極的に取り入れ、学習者主体の活動的な授業が行えるようになって欲しい。また、自他を問わず正しい評価、適切な講評が行えるように心がけること。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>新２号館２階ラーニングセンタースタッフルーム</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>提出された学習ノートは、点検と評価を行い、コメントをつけて次回の授業で返却する。
模擬授業の学習者側の学生からの評価表(ルーブリック)と講評および自己評価表は公平を期すために最終講義時に返却する。
模擬授業等で用いる中学校の教科書は２号館２階ラーニングセンタースタッフルームにて貸し出します。
受講者の人数により、模擬授業の実施時間が不足した場合は、土曜日等に別途補講にて実施する。</td></tr>
</table>

科目名	理科教育法Ⅳ	科目名（英文）	Science Teaching Ⅳ
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	菅波　昌広
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	理科教育法Ⅳでは、教育実習時に十分通用するような授業実践力を培うことを第一目標とする。指定された単元の模擬授業を実際に行うことで、授業の難しさ、教材研究の重要性を知る。さらに、模擬授業に対する研究協議によって、授業計画や指導法の改善を行う。 授業担当者は、大阪工業大学高等学校(現常翔学園高等学校・中学校)にて２２年間理科の教諭として教壇に立ち、その間３０名を越える教育実習生の指導も行ってきた。講義では授業担当者が行ってきた実践例や現場の経験などを紹介し、学習者は授業の設計方法から実施方法、授業の技術を身に付けることが出来る。また、教育実習や教員採用試験に至るまで一連の指導や情報提供を行うことができる。
到達目標	《一般目標》 楽しく、わかりやすい、魅力ある授業を行うために、それらに必要な知識の習得や技術を身につける。 《行動目標》 ① わかりやすい文章が書けるようになる ② 理解しやすい話(説明)ができるようになる ③ 授業に必要な知識を身につける ④ 授業計画・授業設計ができるようになる ⑤ 授業に必要な教材や教具が作成できるようになる ⑥ 適切な評価ができるようになる ⑦ 適切な板書ができるようになる ⑧ 学習指導案が作成できるようになる ⑨ 理科実験における安全管理
授業方法と留意点	本授業では講義をベースにグループワーク、討議などを中心に進め、講義内容は教材プリントにまとめたものを配布する。授業は講義内容に沿って説明や解説を行うが、学習者の今までの経験や体験談なども発表してもらい、意見交換や情報共有をしていく。それらの内容を授業で配布する学習ノートに各自でまとめ、本時の収穫(授業で得られたことや身についたことなど)と授業に対する意見や質問を書いて毎回提出する。講義プリントは授業の最後または次回に配布し、まとめや振り返りに使用する。授業の最初に、前回の学習ノートに記載されていた意見や
科目学習の効果（資格）	高等学校一種免許（理科） 中学校一種免許（理科）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	教育実習を意識した授業設計	教壇実習を行うことを意識した授業設計の方法について話す。また、教育実習に向けて準備しておくことや実習中についてのヒントを話す。	・学習ノートを作成すること〔30 分?1 時間〕
2	教育現場の授業の実際	先輩が教育実習で行った研究授業のビデオを見て、学習指導案をもとに講評を行い、疑問点や課題について協議する。また、実際の教育現場や教室の雰囲気なども感じ取る。	・学習ノートを作成すること〔30 分?1 時間〕
3	教授フローチャートによる授業	指導案を共同利用する目的で考案された教授フローチャートについて、その特徴や利点について学ぶ。教育目標，目的，内容，方法，評価についても考え，板書計画を含めた，指導細案の作成を行う。	・学習ノートを作成すること〔30 分?1 時間〕
4	学習者から高い評価を受ける授業の実践例とその分析	達人が行う中学校の授業のビデオを視聴する。授業づくりや教材研究、授業の展開の工夫や教授法について学びとったことをレポートする。	・学習ノートを作成すること〔30 分?1 時間〕
5	指定された範囲の模擬授業（1）	指定された範囲で１校時の模擬授業を行う。指導案に基づき、模擬授業実施者は 50 分(45 分)間の授業を行なう。さらにその模擬授業について研究協議を行ない、助言を受けた箇所については改善を行い、教育実習に臨む。	《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備 (学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成)〔平均して 5?6 時間〕 ・研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。〔30 分?1 時間〕 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。〔30 分?1 時間〕
6	指定された範囲の模擬授業(2)	指定された範囲で１校時の模擬授業を行う。指導案に基づき、模擬授業実施者は 50 分(45 分)間の授業を行なう。さらにその模擬授業について研究協議を行ない、助言を受けた箇所については改善を行い、教育実習に臨む。	《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備 (学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成)〔平均して 5?6 時間〕 ・研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。〔30 分?1 時間〕 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。〔30 分?1 時間〕
7	指定された範囲の模擬授業(3)	指定された範囲で１校時の模擬授業を行う。指導案に基づき、模擬授業実施者は 50 分(45 分)間の授業を行なう。さらにその模擬授業について研究協議を行ない、助言を受けた箇所については改善を行い、教育実習に臨む。	《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備 (学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成)〔平均して 5?6 時間〕 ・研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。〔30 分?1 時間〕 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。〔30 分?1 時間〕

8	指定された範囲の模擬授業(4)	指定された範囲で１校時の模擬授業を行う。指導案に基づき、模擬授業実施者は50分(45分)間の授業を行なう。さらにその模擬授業について研究協議を行ない、助言を受けた箇所については改善を行い、教育実習に臨む。	《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備 (学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成)〔平均して5?6時間〕 ・研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。〔30分?1時間〕 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。〔30分?1時間〕
9	指定された範囲の模擬授業(5)	指定された範囲で１校時の模擬授業を行う。指導案に基づき、模擬授業実施者は50分(45分)間の授業を行なう。さらにその模擬授業について研究協議を行ない、助言を受けた箇所については改善を行い、教育実習に臨む。	《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備 (学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成)〔平均して5?6時間〕 ・研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。〔30分?1時間〕 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。〔30分?1時間〕
10	指定された範囲の模擬授業(6)	指定された範囲で１校時の模擬授業を行う。指導案に基づき、模擬授業実施者は50分(45分)間の授業を行なう。さらにその模擬授業について研究協議を行ない、助言を受けた箇所については改善を行い、教育実習に臨む。	《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備 (学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成)〔平均して5?6時間〕 ・研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。〔30分?1時間〕 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。〔30分?1時間〕
11	指定された範囲の模擬授業(7)	指定された範囲で１校時の模擬授業を行う。指導案に基づき、模擬授業実施者は50分(45分)間の授業を行なう。さらにその模擬授業について研究協議を行ない、助言を受けた箇所については改善を行い、教育実習に臨む。	《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備 (学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成)〔平均して5?6時間〕 ・研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。〔30分?1時間〕 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。〔30分?1時間〕
12	指定された範囲の模擬授業(8)	指定された範囲で１校時の模擬授業を行う。指導案に基づき、模擬授業実施者は50分(45分)間の授業を行なう。さらにその模擬授業について研究協議を行ない、助言を受けた箇所については改善を行い、教育実習に臨む。	《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備 (学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成)〔平均して5?6時間〕 ・研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。〔30分?1時間〕 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。〔30分?1時間〕
13	指定された範囲の模擬授業(9)	指定された範囲で１校時の模擬授業を行う。指導案に基づき、模擬授業実施者は50分(45分)間の授業を行なう。さらにその模擬授業について研究協議を行ない、助言を受けた箇所については改善を行い、教育実習に臨む。	《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備 (学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成)〔平均して5?6時間〕 ・研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。〔30分?1時間〕 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。〔30分?1時間〕
14	魅力ある授業をつくる	自己の行なった模擬授業と学習者から高い評価を受ける授業とを比較し，自己の授業力を高める方法について考える。	・学習ノートを作成すること〔30分?1時間〕
15	理科教育法のまとめ	理科教育法Ⅰ～Ⅳを振り返り、到達目標の伸長について、自己評価や自己点検を行う。	自己評価と自己点検等をミニッツペーパーに書いて提出する。

関連科目

本科目を履修するにあたり、開講されている教職関連科目、一般教養科目等を予め履修されていることが望ましい。
理科教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを履修していること。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	高等学校学習指導要領解説　理科編	文部科学省	
2	中学校学習指導要領解説　理科編	文部科学省	
3			

評価方法

模擬授業(50%)、学習ノートと課題レポート(50%)

（基準）	
学生への メッセージ	理科教育法Ⅳでは教育実習時に生徒たちが少しでも理科に対して興味・関心を持ち、授業を受けられて良かったと思えるような授業づくりをこころがけよう。そのため充分に時間をかけて教材研究を行ない、教材教具を多用し、アクティブラーニングを取り入れた価値ある授業展開ができるようになって欲しい。模擬授業では将来教員を目指している学生の切磋琢磨の場として、積極的な取り組みを期待する。
担当者の 研究室等	２号館２階ラーニングセンタースタッフルーム
備考	６月は受講者全員が教育実習に出向き、月末には教員採用試験が予定されている。そのため、６月の講義は休講とし、その補講は受講者の人数を考慮して調整を行い、４月と５月中に実施する。たたし、新型コロナの影響による社会情勢により、変更する場合があります。 提出された学習ノートは、点検と評価を行い、コメントをつけて次回の授業で返却する。 模擬授業に対する学習者側学生からの評価表(ルーブリック)と講評は、提出があり次第返却の予定。教育実習に向けて参考にする事。 模擬授業で用いる教科書は実習校によって異なるため、各自で用意する。

科目名	地域連携教育活動Ⅰ	科目名（英文）	Communitiy-Based Education Support Activities Ⅰ
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田　佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本科目はサービスラーニングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習の時間」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週１回９０分行う。
到達目標	実際の教育現場を知ること、物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。
授業方法と留意点	原則として、履修申請が可能な学生は、本年１月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の担当者との相談結果によって受入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動Ⅰ」をはじめて履修する学生を対象とする。
科目学習の効果（資格）	教職課程における「大学が独自に設定する科目」 実際の学校現場で学ぶことは，教員免許状を取得するのに大いに資する。
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	事前指導１	活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備	活動のための準備
2	事前指導２	マナー講座・小中学校の教育現場について	活動のための準備
3	事前指導３	「守秘義務」の意味とその内容について	活動のための準備
4	活動準備	受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する	活動のための準備
5	活動 1～25	受け入れ校にて活動　（活動業務日報・活動時間票の提出）	各種活動の事前準備および活動後の報告書（日報等）の作成
6	最終報告会	活動報告会	報告のための準備
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	すべての科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	①年間活動計画書 ②出席簿 ③日誌 ④レポート の全てを提出し、最終報告会で ⑤活動報告 した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階（朝日研究室）、７号館３階（大野研究室）、７号館４階（谷口研究室）、7 号館 3 階（林研究室）、7 号館 3 階（吉田研究室）
備考	事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。 必ず出席してください。 受け入れ校での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等にかなりの時間を要します。１回の活動に対して，それぞれ 1、2 時間は必要です。

科目名	地域連携教育活動Ⅱ	科目名（英文）	Communitiy-Based Education Support Activities II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田　佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本科目はサービスラーニングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習の時間」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週１回９０分行う。
到達目標	実際の教育現場を知ること、物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。
授業方法と留意点	原則として、履修申請が可能な学生は、本年１月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の担当者との相談結果によって受入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動Ⅰ」をはじめて履修する学生を対象とする。
科目学習の効果（資格）	教職課程における「大学が独自に設定する科目」 実際の学校現場で学ぶことは，教員免許状を取得するのに大いに資する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	事前指導１	活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備	活動のための準備
2	事前指導２	マナー講座・小中学校の教育現場について	活動のための準備
3	事前指導３	「守秘義務」の意味とその内容について	活動のための準備
4	活動準備	受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する	活動のための準備
5	活動 1～25	受け入れ校にて活動　（活動業務日報・活動時間票の提出）	各種活動の事前準備および活動後の報告書（日報等）の作成
6	最終報告会	活動報告会	報告のための準備
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	すべての科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	①年間活動計画書 ②出席簿 ③日誌 ④レポート の全てを提出し、最終報告会で ⑤活動報告 した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階（朝日研究室）、７号館３階（大野研究室）、７号館４階（谷口研究室）、7 号館 3 階（林研究室）、7 号館 3 階（吉田研究室）
備考	事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。 必ず出席してください。 受け入れ校での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等にかなりの時間を要します。１回の活動に対して，それぞれ 1、2 時間は必要です。

科目名	社会科教育法Ⅰ【地歴分野】	科目名（英文）	Social Studies Teaching Methods Ⅰ (Geography and History)
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大井　秀士
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	近代教育制度の変遷を考察する中で、社会科・地歴科が持つそれぞれの使命と責任を理解するように努める。その基礎の上に具体的に授業展開を行う基本的知識・技能を習得する。このほか現場で起こる各種の問題についても適宜説明する。 授業担当者は高校と特別支援学校で教諭や管理職を経験し、さらに教育委員会で指導主事を経験している。 経験を活かした実践的な授業を行うので、授業を「受ける」立場からではなく、 「作る」立場から能動的な学びを期待します。
到達目標	将来の教員として必要な知識・方法論等を習得する。
授業方法と留意点	講義と学生諸君の発表や討論を中心として行うので、特に積極的な発言及び講義参加姿勢が望まれる。
科目学習の効果（資格）	中学・高校教員免許（社会科、地歴科） 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンスと年間計画	年間講義内容の概略・受講上の注意点・成績評価について	事前　既修の「教師論」「教育原理」を復習しておく。 事後　授業終了時に指示する。 （4時間程度）
2	日本の教育制度の歴史について	江戸末期以降から現代までの教育制度の変遷について学ぶ。	事前に中高で学習した明治以降の歴史を復習概観しておくこと。 事後　授業終了時に指示する。 （4時間程度）
3	学習指導要領について	戦後の学力観の変化と指導要領改訂の変遷を学ぶ。	事前　中高学習指導要領解説社会編・地理歴史編を読んでおく。 事後　授業終了時に指示する。 （4時間程度）
4	学習指導案の作成について１	地理・歴史科学習指導案作成の基礎を身に付け、授業への活用方法を学ぶ。	事前　学習指導案とは何かを調べておく。 事後　授業終了時に指示する。 （4時間程度）
5	学習指導案の作成について２	地理・歴史科学習指導案作成の基礎を身に付け、授業への活用方法を学ぶ。	事前　与えられたテーマで各自学習指導案を作成し発表に備える。 事後　授業終了時に指示する。 （4時間程度）
6	学習指導案の作成と模擬授業　1	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。 （4時間程度）
7	学習指導案の作成と模擬授業　2	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。 （4時間程度）
8	学習指導案の作成と模擬授業　3	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。 （4時間程度）
9	学習指導案の作成と模擬授業　4	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。 （4時間程度）
10	学習指導案の作成と模擬授業　5	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。 （4時間程度）
11	学習指導案の作成と模擬授業　6	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。 （4時間程度）
12	学習指導案の作成と模擬授業　7	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。 （4時間程度）
13	学習指導案の作成と模擬授業　8	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。 （4時間程度）
14	授業記録について	社会科教員として授業を見る目を鍛える為の授業記録の形式や方法について学ぶ。	事前　どのような授業記録方法があるかを考えておく。 事後　授業終了時に指示する。 （4時間程度）
15	評価の方法と理論	生徒の学習成果を検証するための視点と評価方法について学ぶ。	事前　評価方法の種類について考えておく。 事後　評価は自己の教育技術の反映であることを考える。 （4時間程度）

関連科目：社会科・地歴科教育法Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

<table>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>レポート及び講義での発表・発言をもとに総合的に判定する。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>教職科目であり、教職に就くあるいは教育に高い関心を持っていることが受講の前提となります。その上で社会の変化とそれに対応する教育の動きを理解し、志高く理想的な社会科・地歴科を創造する基礎を養いませんか。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）</td></tr>
<tr><td>備考</td><td></td></tr>
</table>

科目名	社会科教育法Ⅱ【地歴分野】	科目名（英文）	Social Studies Teaching Methods II (Geography and History)
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大井　秀士
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	講義参加者全員が実際に研究授業展開を行い、教員として必要な基本的知識・技能を習得する。模擬授業を実践する中で講義参加者全員で討議・批評を行い各自の授業力向上を図る。 授業担当者は高校と特別支援学校で教諭や管理職を経験し、さらに教育委員会で指導主事を経験している。 経験を活かした実践的な授業を行うので、授業を「受ける」立場からではなく、 「作る」立場から能動的な学びを期待します。
到達目標	将来の教員として必要な知識・方法論を習得する。
授業方法と留意点	講義と学生諸君の模擬授業実践発表や討論を中心として行うので、積極的な発表、発言が望まれる。
科目学習の効果（資格）	中学・高校教員免許（社会科、地歴科） 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目区分：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含めることが必要な事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	学習指導要領歴史的分野（世界史）の内容等の確認。	世界史歴史的分野の時代区分と基礎的事項の確認。	事前　学習指導要領の通読 事後　講義後指示する。 （4 時間程度）
2	学習指導要領歴史的分野（日本史）の内容等の確認。	日本史歴史的分野の時代区分と基礎的事項の確認。	事前　学習指導要領の通読 事後　講義後指示する。 （4 時間程度）
3	学習指導要領地理的分野の内容等の確認。	地理的分野の基礎的事項の確認。	事前　学習指導要領の通読 事後　講義後指示する。 （4 時間程度）
4	学習指導案の作成と研究授業実施　1	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前　各自模擬授業指導案を作成 事後　授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出。(4 時間程度)
5	学習指導案の作成と研究授業実施　2	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前　各自模擬授業指導案を作成 事後　授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出。(4 時間程度)
6	学習指導案の作成と研究授業実施　3	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前　各自模擬授業指導案を作成 事後　授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出。(4 時間程度)
7	学習指導案の作成と研究授業実施　4	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前　各自模擬授業指導案を作成 事後　授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する。(4 時間程度)
8	学習指導案の作成と研究授業実施　5	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前　各自模擬授業指導案を作成 事後　授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出。(4 時間程度)
9	学習指導案の作成と研究授業実施　6	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前　各自模擬授業指導案を作成 事後　授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出。(4 時間程度)
10	学習指導案の作成と研究授業実施　7	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前　各自模擬授業指導案を作成 事後　授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出。(4 時間程度)。
11	学習指導案の作成と研究授業実施　8	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前　各自模擬授業指導案を作成 事後　授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出。(4 時間程度)
12	学習指導案の作成と研究授業実施　9	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前　各自模擬授業指導案を作成 事後　授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出。(4 時間程度)
13	学習指導案の作成と研究授業実施　１０	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前　各自模擬授業指導案を作成 事後　授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出。(4 時間程度)
14	授業実践発表の年間総括 1	後期授業全体についての総括と反省点を討論する。	事前　全員の授業計画案を再度確認 事後　レポート作成、提出。(4 時間程度)
15	授業実践発表の年間総括 2	後期授業全体についての講義担当者からの総括。	事後　レポート作成、提出。(4 時間程度)

関連科目：社会科・地歴科教育法Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法：レポート及び講義での発表・発言をもとに総合的に判定する。

（基準）	
学生への メッセージ	教職科目であり、教職に就くあるいは教育に高い関心を持っていることが受講の前提となります。その上で社会の変化とそれに対応する教育の動きを理解し、志高く理想的な社会科・地歴科を創造する基礎を養いませんか。
担当者の 研究室等	3 号館 2 階非常勤講師室
備考	

科目名	社会科教育法Ⅲ【公民分野】	科目名（英文）	Social Studies Teaching Methods III (Civics)
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大野　順子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本講義は、中学校社会科、及び、高校公民科の学習指導ができるようになるための基礎的素養を学ぶことを目的としています。そのため、できるかぎり実践的な観点から授業を進めていきます。まず、中学社会科、高校公民科の学習指導要領の内容を理解し、授業展開のポイントを解説します。また、わかりやすい授業を行うためのさまざまな授業方法を実践的に考えます。具体的には指導案の書き方の指導、可能な方法・範囲での模擬授業の実践を行い、皆さん自身が教師としての心構えを磨き上げていけるようにしていきます。まずは「教育実習」で生徒を失望させないきちんとした授業ができるよう、知識と意欲、そして責任をもって授業に参加してください。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 （1）中学社会科（地理、歴史、公民分野）、高校公民科の教師として必要な「知識」「技術・スキル」を確実に身につける。 （2）中学社会科、高校公民科の教師として、高い「授業実践力」をつける。 （3）社会科・公民科の授業を実践していくうえで最も重要な「教材研究」をするための力をつける。
授業方法と留意点	まず本授業では社会科、公民科教育の理論の整理、そして、可能な範囲・方法で履修者全員に模擬授業を行ってもらうよう「実践的な授業」を目指します。模擬授業の実践では、授業準備、指導案の作成、教材研究は必ず行ってもらいます。本講義では教師としての自覚もあわせて養成するため、授業への積極的な参加、そして各々の模擬授業の準備やそのふりかえりに積極的に取り組んでください。
科目学習の効果（資格）	中学校１種「社会」、高校１種「公民」の教育職員免許を取得するために必要である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：社会科・公民科教育の意義	日本における社会科教育の歴史と現状について学び、社会科・公民科教育の意義について考える。	社会科・公民科教育の課題について考えてくること。 ※それぞれの学習指導要領の総則部分を読んでおく。
2	中学校指導要領（社会）、高校指導要領（公民）にみる授業の目的	学習指導要領の概要について学ぶ。	各自事前に入手した学習指導要領（中学：社会科、高校：公民科）の事前読了。 ※指導要領の要約
3	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（1）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※前時の事前授業まとめと配布資料の要約
4	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（2）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
5	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（3）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
6	教育方法と技術（1）：ミニ模擬授業案作成	板書の方法・話し方・参考資料の作り方・新聞記事の利用のしかたなど、教育実践の基本的技術について。コンピューター（パワーポイントやインターネット）を用いた授業のやり方。パワーポイントを用いた授業のミニ模擬授業案の作成	新聞記事の検索、及びミニ模擬授業案の作成
7	教育方法と技術（2）：ミニ模擬授業案作成案作成	ディベートを取り入れた授業の工夫について。公民に関わるテーマで模擬ディベートを行いながら学ぶ。調査の意義と方法、研究発表の指導について。ディベートを取りれたミニ模擬授業案を作成する。	ディベート準備。ミニ模擬授業案の作成
8	学習指導案の書き方（1）：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導（1）：各自が作成した学習指導案をもとに、作成のヒントを説明する。	学習指導案の作成。
9	学習指導案の書き方（2）：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導（2）：各自が作成した学習指導案をもとに、作成する上での留意点について説明する。	学習指導案の作成。
10	模擬授業（1）	模擬授業の実践と指導（1）	模擬授業の準備。
11	模擬授業（2）	模擬授業の実践と指導（2）	模擬授業の準備。
12	模擬授業（3）	模擬授業の実践と指導（3）	模擬授業の準備。
13	模擬授業（4）	模擬授業の実践と指導（4）	模擬授業の準備。
14	成績評価の方法、及び試験の作成について	成績評価にあたって重要となる事柄の概要を知り、さまざまな成績評価の方法を学ぶ。また、定期試験作成についても学ぶ。	※事前配布資料の要約、及び、定期試験問題作成のシュミレーションを行う（事前課題）。
15	総括ー社会科指導について	授業全体をふりかえって討論し、社会科教師としての課題と責務を確認する。	各自、社会科教師としての自分の課題について考え、まとめてくること。

関連科目：社会科・公民科教育法１、社会科・公民科教育法２は「１→２」と連続して受講することが望ましい。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領解説社会編	文部科学省	日本文教出版
2	高等学校学習指導要領解説公民編	文部科学省	日本文教出版
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3			

評価方法 （基準）	事前学習課題の提出（30%）、模擬授業（50%）、最終レポート（20%）等により、総合的に評価する。
学生への メッセージ	中学社会科学習指導要領（最新年度版）を第一回目の授業開始までに購入（準備）しておくこと。これがないと授業参加や事前学習課題等に取り組むことができません。入手方法については書店、オンライン書店・ショップ等を利用してください。購入についての質問等はメールアドレスまで。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階　大野順子研究室 ※連絡のある方はメールアドレスは j-oono@arc.setsunan.ac.jp まで。
備考	授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。 事前・事後学習総時間数はおおよそ 60 時間程度とする。

科目名	社会科教育法Ⅳ【公民分野】	科目名（英文）	Social Studies Teaching Methods Ⅳ (Civics)
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大野　順子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本講義は、中学校社会科、及び、高校公民科の学習指導ができるようになるための基礎的素養を学ぶことを目的としています。そのため、できるかぎり実践的な観点から授業を進めていきます。まず、学習指導要領の内容を理解し、授業展開のポイントを解説します。また、わかりやすい授業を行うためのさまざまな方法を実践的に考えます。具体的には指導案の書き方の指導、模擬授業の実践を中心に参加型の授業法を取り入れて、皆さん自身が教師としての心構えを磨き上げていけるよう、互いに刺激し、批評しあう機会をもうけます。また、近年、選挙年齢が 18 歳に引き下げられたことによる子どもたちへの政治教育（主権者教育）の重要性が改めて問われています。とりわけ公民科では政治や経済問題を取り扱うことが多く、子どもたちに政治の主体として意識を涵養するための教育（市民性教育、シティズンシップ教育）をどのように実践できるのかについても考えていきます。具体的には政府が作成した政治教育副教材の分析や学校現場での実践例の分析などを行います。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 （1）中学社会科（地理、歴史、公民分野）、高校公民科の教師として必要な「知識」を確実に身につける。 （2）中学社会科、高校公民科の教師として、高い「授業実践力」をつける。 （3）授業を実践していくうえで最も重要な「教材研究」の力をつける。 （4）政治教育、市民性教育（シティズンシップ教育）についての理解を深め、指導案を作成し、授業実践ができるようになる。
授業方法と留意点	まず社会科、公民科教育の理論の整理、そして、可能な範囲で履修者全員に模擬授業を実践してもらうような「実践型・参加型の授業」を目指します。また模擬授業の実践では、それぞれの模擬授業終了後は必ず全員で意見交換を行い、授業内容に対する問題点と課題点を整理します。ここでのコメント力を鍛えることも重要な目標です。指示した授業準備は必ず行ってください。教師としての自覚もあわせて養成するため、遅刻・無断欠席については厳しく対応します。授業は対面で行います。
科目学習の効果（資格）	中学校１種「社会」、高校１種「公民」の教育職員免許を取得するために必要である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：社会科・公民科教育の意義	日本における社会科教育の歴史と現状について学び、社会科・公民科教育の意義について考える。	社会科教育の課題について考えてくること。
2	中学校指導要領（社会）、高校指導要領（公民）にみる授業の目的	学習指導要領の概要について学ぶ。	各自事前に入手した学習指導要領（中学：社会科、高校：公民科）の事前読了。 ※指導要領の要約
3	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（1）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
4	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（2）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
5	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（3）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
6	教育方法と技術（1）：ミニ模擬授業	板書・話し方・参考資料の作り方・新聞記事の利用のしかたなど、教育実践の基本的技術について。コンピューター（パワーポイントやインターネット）を用いた授業のやり方。パワーポイントを用いた授業をミニ模擬授業で実演する。	新聞記事の検索。
7	教育方法と技術（2）：ミニ模擬授業	ディベートを取り入れた授業の工夫について。公民に関わるテーマで模擬ディベートを行いながら学ぶ。調査の意義と方法、研究発表の指導について。ディベートを取りれたミニ模擬授業を実演する。	ディベート準備。
8	学習指導案の書き方（1）：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導（1）：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
9	学習指導案の書き方（2）：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導（2）：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
10	模擬授業（1）	模擬授業の実践と指導（1）	模擬授業の準備。
11	模擬授業（2）	模擬授業の実践と指導（2）	模擬授業の準備。
12	政治教育（市民性教育）（1）	政治教育副教材の分析	各自、副教材を分担し分担箇所を要約してくる。
13	政治教育（市民性教育）（2）	実践事例分析	政治教育実践例についてまとめ、発表。
14	成績評価の方法、及び試験問題の作成について	成績評価にあたって重要となる事柄の概要を知り、さまざまな成績評価の方法を学ぶ。また、定期試験問題作成について学ぶ。	※事前配布資料の要約、及び定期試験問題作成（事前課題）
15	総括ー社会科・公民科指導について	授業全体をふりかえって討論し、社会科教師としての課題と責務を確認する。	社会科教師としての自分の課題について考えてくること。

関連科目	社会科・公民科教育法１、社会科・公民科教育法２は連続して受講することが望ましいため、原則として社会科・公民科教育法１を既に履修していること。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領解説社会編	文部科学省	日本文教出版
2	高等学校学習指導要領解説公民編	文部科学省	日本文教出版
3			

<table>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>出席（全 15 回出席すること。少なくとも 80%以上の出席が必須。出席が 80%に満たない者は、以下の基準を満たしていた場合でも成績評価の対象外とする。）
成績ｊ評価基準：課題・レポート（提出の締め切りは厳守すること）＝３０％、模擬授業＝５０％、平常点（授業への貢献度等）＝20%。なお、授業最終日に確認テストを実施する予定です。その場合は、評価基準についても改めて授業内で連絡します。
※遅刻も欠席扱いとするので注意すること。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>本講義は学生の皆さんの主体的な授業への関与が求められます。一般的な講義に見られるような、教員が一方的に授業を進めていくスタイルではありません。学生の皆さんが授業をつくっていくことになります。ですので、宿題やレポート作成など、授業運営に欠かせない作業を怠ると自分自身はもちろんのこと、周囲に多大な迷惑がかかります。毎時間予習・復習を怠ることなく、責任と意欲を持って講義に出席して下さい。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>7 号館 3 階　大野順子研究室
連絡先メールアドレス：j-oono@arc.setsunan.ac.jp</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。
中学社会科、高校公民科の学習指導要領の入手方法については改めて説明します（前期社会科公民科教育法Ｉで購入済みの者は購入の必要なし）。
事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。</td></tr>
</table>

科目名	教育実習Ⅰ	科目名（英文）	Teaching Practice Ⅰ
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	朝日　素明.大野　順子.谷口　雄一.林　茂樹.吉田　佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	（1）教育実習の実際についての情報を提供する。それらに基づき、受講者は、演習や実習を行う。（2）教育実習校における実習に必要な教育実践の基本を理解して、教科指導、学級・ホームルーム経営、生徒指導等の実際について有効な指導計画を立案し、効果的な指導をできるようにする。（3）教育実習の現状と課題についての認識を深めるとともに、教育実習生としての基本的心がまえについて理解を深める。
到達目標	教育実習の目的や意義、内容等を理解し、教育実習へ向けての充分な準備ができるようになる。そのことにより、自信をもって教育実習に臨めるようになる。
授業方法と留意点	講義（体験報告を含む）、演習（文献購読、発表、討議を含む）、実習（指導案作成、模擬授業を含む）を行う。対面授業を基本とする。実習生として主体的・能動的な姿勢・態度で参加すること。
科目学習の効果（資格）	教員免許状取得上必修，免許法施行規則に定められた「教育実習」５単位あるいは３単位のうち「教育実習に係る事前及び事後指導」１単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】教育実践に関する科目 各科目に含めることが必要な事項：教育実習（教育実習に係る事前及び事後指導）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	教育実習の意義、教育実習への準備と心がまえ等	教育実習の意義と目的、実習の形態と内容について 事前準備の必要性、教育実習の心がまえと教育実習の基本となる事項について	授業時に指示する
2	実習中の勤務の要領	学校の一日、一週間の流れ、学校の組織と運営の概要について	授業時に指示する
3	授業の方法と技術	授業のスタイルとスキル、教材研究、学習評価の観点について	授業時に指示する
4	授業の記録と評価	授業研究の意義、授業分析の方法、授業評価について	授業時に指示する
5	生徒理解・生徒指導と学級・ホームルーム経営	生徒理解・生徒指導の方法、個別指導・集団指導、学級・ホームルームの指導について	授業時に指示する
6	学校における人権教育	人権教育の現状と課題について、学校保健と安全指導について	授業時に指示する
7	特別支援教育の現状と課題	障がいの種類と配慮事項、障がい児理解と交流教育について	授業時に指示する
8	指導案の作成（1）	授業の準備と配慮事項、学習指導案の書き方、教科指導の学習指導案、板書計画の作成	授業時に指示する
9	指導案の作成（2）	学級（ホームルーム）活動等の指導案について	授業時に指示する
10	模擬授業（1）	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
11	模擬授業（2）	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
12	模擬授業（3）	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
13	模擬授業（4）	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
14	教育実習の実際（1）	教職フォーラムへの出席、教育実習体験発表の聴講と討議	授業時に指示する
15	教育実習の実際（2）	教育実習総括講義への出席、教育実習の課題テーマについて討議	授業時に指示する

関連科目：教職課程で学んだ全科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『新編　教育実習の常識』	教育実習を考える会	蒼丘書林
2			
3			

評価方法（基準）	課題の提出状況とその内容、指導案と模擬授業、授業における積極性・貢献度、期末レポート等によって総合的に評価する。
学生へのメッセージ	教育実習はこれまで学んできたことの総まとめです。よい実習ができるよう、充分に準備してください。
担当者の研究室等	吉田研究室・林研究室・大野研究室・朝日研究室（７号館３階） 谷口研究室（７号館４階）
備考	教育実習体験発表会（10 月末土曜日）、教育実習総括講義（11 月末土曜日）には必ず出席すること。 ポータルシステムを通して連絡・呼出、資料配布、課題提示・提出を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を必ずすること。 担当者により、授業の具体的な内容・方法が若干異なる場合がある。 事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度となる。

科目名	教師論	科目名（英文）	Teacher Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日　素明
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教職に関する理解を深め、自己の適性を見つめ直し、最終的に教職をめざすことについて主体的な進路選択を行うための判断材料を提供します。具体的には、「教職の意義とは何か」「教師の役割や求められる資質能力とは何か」「教職の専門性は何によって担保されるのか」「教師の職務とは何か」「教師の身分や身分保障はどのようになっているのか」などについて基礎的な知識を講義し、これに基づき関連するテーマについて議論を通して理解を深めます。
到達目標	学生は、教職に関する基礎的な知識を獲得し、「自分は教師に向いているのか」「自分はどのような教師をめざすのか」などについて判断できるようになります。また、グループワークを通じ、視野を広め、コミュニケーション力を向上させることができます。
授業方法と留意点	講義を中心に、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション（LTD；Learning Through Discussion）等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果（資格）	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 教職への道	科目概要について説明 自らの学校・生徒体験、心に残る教師等についてのふりかえり 教職課程の履修動機 教師になることの意味	本科目のシラバスの熟読
2	教職の成立とその意義	公教育の成立 教職の誕生 戦前の教員養成	戦前の教員養成制度に関する配布資料
3	教師教育と教職の専門性（1）	教員への道 戦後教員養成の原則と制度 教員免許制度の確立	戦後の教員養成制度に関する配布資料
4	教師教育と教職の専門性（2）	教員免許制度の新たな展開 教員採用の動向と採用試験	教員免許制度に関する配布資料
5	教師教育と教職の専門性（3）	教員の研修の意義 教員の研修の種類と体系	学び続ける教師に関する配布資料
6	教師教育と教職の専門性（4）	法定研修 教員の自己研修	教員研修体系に関する配布資料
7	文献・映像に基づく教師像の探究（1）	戦前・戦後の教師像 憧れの教師	教師像に関する配布資料
8	文献・映像に基づく教師像の探究（2）	「不良教師」と「熱血教師」（文献・映像に基づく教師像の探究） レポートに基づくグループワーク	「不良教師」と「熱血教師」に関する配布資料を読みレポート提出
9	文献・映像に基づく教師像の探究（3）	「人間教師」と「プロ教師」） レポートに基づくグループワーク	「人間教師」と「プロ教師」に関する配布資料を読みレポート提出
10	文献・映像に基づく教師像の探究（4）	教師としての資質能力のあり方	教師に求められる資質能力についての議論に関する配布資料
11	教員の役割・職務（1）	学校・教室における指導者の視点からみた教員の役割・職務	授業・カリキュラムと教師に関する配布資料
12	教員の役割・職務（2）	学校組織の構成員の視点からみた教員の役割・職務	教職員構成と校務分掌に関する配布資料
13	教員の役割・職務（3）	学校内外の連携の視点からみた教員の役割・職務（チーム学校運営への対応を含む）	「チーム学校」の考え方と学校運営の実践に関する配布資料
14	教員の役割・職務（4）	教員の任用と身分 教員の服務と身分保障	教員の任用・服務等に関する配布資料
15	教員の役割・職務（5）	教員の勤務条件 教員のメンタルヘルス、バーンアウト	メンタルヘルスに関する配布資料

関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育経営論」「教育課程論」「教育方法論」「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験 60%、レポート 30%、グループワークにおけるピアレビュー10%
学生へのメッセージ	教職について考えることは教育について考えることであり、「教え」「学び」「育ち」を含む「生き方」について考えることになります。教養をもとに、広い視野で物事を捉える習慣を身につけましょう。 遅刻・早退等は厳禁です。教師を目指す者としての資質が問われます。
担当者の	7 号館 3 階　朝日研究室

研究室等	
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度です。

科目名	教師論	科目名（英文）	Teacher Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日　素明
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教職に関する理解を深め、自己の適性を見つめ直し、最終的に教職をめざすことについて主体的な進路選択を行うための判断材料を提供します。具体的には、「教職の意義とは何か」「教師の役割や求められる資質能力とは何か」「教職の専門性は何によって担保されるのか」「教師の職務とは何か」「教師の身分や身分保障はどのようになっているのか」などについて基礎的な知識を講義し、これに基づき関連するテーマについて議論を通して理解を深めます。
到達目標	学生は、教職に関する基礎的な知識を獲得し、「自分は教師に向いているのか」「自分はどのような教師をめざすのか」などについて判断できるようになります。また、グループワークを通じ、視野を広め、コミュニケーション力を向上させることができます。
授業方法と留意点	講義を中心に、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション（LTD；Learning Through Discussion）等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果（資格）	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 教職への道	科目概要について説明 自らの学校・生徒体験、心に残る教師等についてのふりかえり 教職課程の履修動機 教師になることの意味	本科目のシラバスの熟読
2	教職の成立とその意義	公教育の成立 教職の誕生 戦前の教員養成	戦前の教員養成制度に関する配布資料
3	教師教育と教職の専門性（1）	教員への道 戦後教員養成の原則と制度 教員免許制度の確立	戦後の教員養成制度に関する配布資料
4	教師教育と教職の専門性（2）	教員免許制度の新たな展開 教員採用の動向と採用試験	教員免許制度に関する配布資料
5	教師教育と教職の専門性（3）	教員の研修の意義 教員の研修の種類と体系	学び続ける教師に関する配布資料
6	教師教育と教職の専門性（4）	法定研修 教員の自己研修	教員研修体系に関する配布資料
7	文献・映像に基づく教師像の探究（1）	戦前・戦後の教師像 憧れの教師	教師像に関する配布資料
8	文献・映像に基づく教師像の探究（2）	「不良教師」と「熱血教師」（文献・映像に基づく教師像の探究） レポートに基づくグループワーク	「不良教師」と「熱血教師」に関する配布資料を読みレポート提出
9	文献・映像に基づく教師像の探究（3）	「人間教師」と「プロ教師」） レポートに基づくグループワーク	「人間教師」と「プロ教師」に関する配布資料を読みレポート提出
10	文献・映像に基づく教師像の探究（4）	教師としての資質能力のあり方	教師に求められる資質能力についての議論に関する配布資料
11	教員の役割・職務（1）	学校・教室における指導者の視点からみた教員の役割・職務	授業・カリキュラムと教師に関する配布資料
12	教員の役割・職務（2）	学校組織の構成員の視点からみた教員の役割・職務	教職員構成と校務分掌に関する配布資料
13	教員の役割・職務（3）	学校内外の連携の視点からみた教員の役割・職務（チーム学校運営への対応を含む）	「チーム学校」の考え方と学校運営の実践に関する配布資料
14	教員の役割・職務（4）	教員の任用と身分 教員の服務と身分保障	教員の任用・服務等に関する配布資料
15	教員の役割・職務（5）	教員の勤務条件 教員のメンタルヘルス、バーンアウト	メンタルヘルスに関する配布資料

関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育経営論」「教育課程論」「教育方法論」「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験 60%、レポート 30%、グループワークにおけるピアレビュー10%
学生へのメッセージ	教職について考えることは教育について考えることであり、「教え」「学び」「育ち」を含む「生き方」について考えることになります。教養をもとに、広い視野で物事を捉える習慣を身につけましょう。 遅刻・早退等は厳禁です。教師を目指す者としての資質が問われます。
担当者の	7 号館 3 階　朝日研究室

研究室等	
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度です。

科目名	教育心理学	科目名（英文）	Educational Psychology
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉田　佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	学校での教育活動において教師の果たす役割は大きい。学習の質を高めるために，教師が学習者を理解し，さまざまな形で援助していくためにはどうすればよいのか。それを考えていくにあたって必要な基礎的な知識を身につけ，日常生活の中で行われている学習活動や学校等における問題について，心理学的に説明し，考えることができるようになることを目標とする。
到達目標	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について，基礎的な知識を身につけ，各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。
授業方法と留意点	講義中心で行う。事前に資料を moodle 上で配付するので，各自入手しておくこと。 必要に応じて，簡易実験やグループディスカッション等を行う。
科目学習の効果（資格）	教員免許状取得上必修，免許法施行規則に定められた「教育の基礎的理解に関する科目」１０単位のうち２単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	発達と教育と心理学と１	教育に対して心理学ができること，発達と教育	テキスト第０章１，配付資料による本時の予習と復習
2	発達と教育と心理学と２	発達の要因，主な発達理論の概観	テキスト第８章１，配付資料による本時の予習と復習
3	こどもの発達１	乳幼児期……運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第８章２・第９章，配付資料による本時の予習と復習
4	こどもの発達２	児童期……運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第８章２・第 10 章・第 11 章，配付資料による本時の予習と復習
5	こどもの発達３	青年期……運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第８章２・第 10 章・第 11 章・第 12 章，配付資料による本時の予習と復習
6	学習を支える認知機能１	思考……人間の思考の特徴，メタ認知の機能と発達	テキスト第７章１，配付資料による本時の予習と復習
7	学習を支える認知機能２	言語……言語の機能，言語理解と言語産出とその発達	テキスト第 11 章，配付資料による本時の予習と復習
8	学習を支える認知機能３	記憶……記憶のメカニズムと発達	テキスト第４章・第５章，配付資料による本時の予習と復習
9	こどもの学び１	さまざまな学習①……学習とは何か，主な学習理論の概観，条件づけ	テキスト第１章，配付資料による本時の予習と復習
10	こどもの学び２	さまざまな学習②……観察学習，自己制御学習	テキスト第１章・第６章，配付資料による本時の予習と復習
11	学習を支える動機づけ１	意欲とは何か……動機づけ過程，動機づけ理論	テキスト第２章・第３章，配付資料による本時の予習と復習
12	学習を支える動機づけ２	さまざまな意欲……外発的動機づけ・内発的動機づけ，その他の視点，意欲の発達	テキスト第２章・第３章，配付資料による本時の予習と復習
13	学習を支える動機づけ３	意欲を育む……こどもの発達と意欲，意欲を育む教育のあり方，学習と評価	テキスト第２章・第３章，配付資料による本時の予習と復習
14	学校における人間関係	教師-生徒の関係，生徒-生徒の関係，教師-教師の関係，集団としての学級	テキスト第０章２・第１０章，配付資料による本時の予習と復習
15	個に応じた教育	個人差の理解と教育……ＡＴＩ，学習方略	テキスト第０章３・第６章・第７章２，配付資料による本時の予習と復習

関連科目：教職課程におけるすべての科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	絶対役立つ教育心理学―実践の理論，理論を実践―	藤田哲也（編著）	ミネルヴァ書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト 30%，期末試験 70%
学生へのメッセージ	これまで受けてきた教育を思い出してください。また心理学の用語の中には、日常的に遣われているのとやや異なる意味で用いられるものがあることに留意してください。
担当者の研究室等	７号館３階（吉田研究室）
備考	Teams コードと科目名 火曜５限：e9cb86b　21 前-教職-010-教育心理学（火５）-吉田　佐治子 木曜１限：ghkw1pp　21 前-教職-018-教育心理学（木１）-吉田　佐治子 木曜５限：h135mtc　21 前-教職-023-教育心理学（木５）-吉田　佐治子 金曜５限：1gnr3zw　21 前-00-034-教育心理学（金５）-吉田 佐治子 Moodle コース名と登録キー 火曜５限：2021 教育心理学（火５）　あるいは　21 教心（火 5）　2021EPTUE5 木曜１限：2021 教育心理学（木１）　あるいは　21 教心（木 1）　2021EPTHU1

	木曜５限：2021 教育心理学（木５）　あるいは　21 教心（木５）　2021EPTHU5 金曜５限：2021 教育心理学（金５）　あるいは　21 教心（金５）　2021EPFRI5 ・Teams と Moodle を併用します。授業は Teams で，資料配付や授業内試験等は Moodle で行います。なお，授業は録画します（１週間で削除します)。 ・Teams や Moodle の「お知らせ」をよく確認するようにしてください。 ・期末試験は希望者に返却します。 ・事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。

科目名	教育原理	科目名（英文）	Educational Principles
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	谷口　雄一
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育は誰もが経験していて、誰でも教育について語ることができます。しかし、「教育とは一体何だろう？」と問われるとどうでしょうか。答えに困ってしまう人が多いのではないでしょうか。 この授業では、「教育とは一体何だろう？」という問いを念頭に置きながら、教育について歴史的・思想的に考察します。そして、これまでの教育や学校の営みがどのように理解され、変わってきたのかを考えていきます。 これらの学習を通して、受講者一人一人が教育について自分なりの考えを深められるようにします。 授業担当者は小学校での約 15 年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を「受ける」立場からではなく 「作る」立場から能動的な学びを期待します。
到達目標	教育の基本概念を歴史的・思想的に理解することや教育の現状と課題について理解することを通して、受講者が教育について自分なりの考えを深めることができることを目標とします。
授業方法と留意点	【スケジュール】 授業のスケジュールはおおよそ下記の通りです。 【連絡方法】 授業についての連絡や OPP シートの提出は、Teams を使います。 ※シラバス下部にある Teams コードを使って登録しておいてください。 【授業方法】 Moodle を使ってのリアルタイム授業を行います。 ※シラバス下部にある自己登録キーを使って登録しておいてください。 具体的には、 １．本時の学修内容を確認する ２．前回の感想・疑問等を交流する ３．本時の学修内容について自学する 4
科目学習の効果（資格）	（1）高等学校教諭１種免許状　（2）中学校教諭１種免許状　の取得　（3）学芸員資格　の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各項目に含める必要事項：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス： 教育について考える	本科目の位置づけについて考えるとともに、教育の基本概念を考えることの意味を考える。	（事前）テキスト P.3 を精読しておく。 （事後）「教育とは一体何だろう」という問いについて自分の考えをまとめておく。
2	教育の基礎理論①： 教育の必要性	なぜ、人間だけが教育を行うのか考える。	（事前）テキスト P.59～63 を精読しておく。 （事後）教育の必要性について自分の考えを整理しておく。
3	教育の基礎理論②： 教育の目的	前回の授業をふまえ、「人間が人間になるために」とはどういうことか、教育の目的について考える。	（事前）テキスト P.59～63 を精読しておく。 （事後）教育の目的について自分の考えを整理しておく。
4	教育の基礎理論③： 子どもの発見	「子ども」という言葉の意味や子どもをめぐる問題について考える。	（事前）テキスト P.76～85 を精読しておく。 （事後）子ども観や子どもをめぐる問題について自分の考えを整理しておく。
5	教育の基礎理論④： 教師とは何か	教師という職業や、その教育的役割について考える。	（事前）テキスト P.69～73 を精読しておく。 （事後）教師の教育的役割について自分の考えを整理しておく。
6	教育の基礎理論⑤： 近代の学校の誕生	近代の学校はどのように誕生し、普及してきたのかを概観する。	（事前）テキスト P.93～97 を精読しておく。 （事後）近代の学校や学校教育の広がりについて整理しておく。
7	教育の基礎理論⑥： 家庭と教育	家庭において子どもはどう扱われてきたのか、家庭における教育は子どもの成長にどのような影響を与えるのかについて概説する。	（事前）テキスト P.86～90 を精読しておく。 （事後）家庭における教育について整理しておく。
8	近代の教育思想①： コメニウスの教育思想	コメニウスの教育思想について概観し、考察を加える。	（事前）テキスト P.20～22 及び P.94～95 を精読しておく。 （事後）授業で取り上げた近代の教育思想について整理しておく。
9	近代の教育思想②： ルソー、ペスタロッチの教育思想	ルソー、ペスタロッチらの教育思想について概観し、考察を加える。	（事前）テキスト P.23～25 及び P.77 を精読しておく。 （事後）授業で取り上げた近代の教育思想について整理しておく。
10	近代の教育思想③： ヘルバルト、フレーベルの教育思想	ヘルバルト、フレーベルらの教育思想について概観し、考察を加える。	（事前）テキスト P.26～27 及び 81～82 を精読しておく。 （事後）授業で取り上げた近代の教育思想について整理しておく。
11	現代の教育理論①： デューイの教育思想	デューイの教育思想について概観し、考察を加える。	（事前）テキスト P.28～29 を精読しておく。 （事後）授業で取り上げた現代の教育思想について整理しておく。
12	現代の教育理論②： 20 世紀の教育理論	20 世紀の教育についての諸理論について概観し、考察を加える。	（事前）テキスト P.29～32 を精読しておく。 （事後）授業で取り上げた現代の教育思想について整理しておく。
13	現在の教育課題①： 学力問題	現在の教育課題の一つである学力をめぐる問題について概観し、考察を加え	（事前）テキスト P.50～54 を精読しておく。 （事後）学力問題について整理しておく。

		る。	
14	現在の教育課題②： 生涯学習の思想	現在の教育課題の一つである生涯学習について概観し、考察を加える。	（事前）テキストP. 147～151を精読しておく。 （事後）生涯学習の思想について整理しておく。
15	まとめ： 今後の教育について考える	教育についてまとめるとともに、今後の教育について考える。	（事前）テキストP. 169～178を精読しておく。 （事後）「どのような教員になりたいのか」について自分の考えをまとめる。

関連科目

教職科目全体と関連がありますので、他の科目の学習内容と関連付けながら考えてみることが大切です。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	哲学する教育原理	伊藤潔志　編著	教育情報出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領	文部科学省	東山書房
2	高等学校学習指導要領	文部科学省	東洋館出版
3	哲学する学校経営	伊藤潔志　編著	教育情報出版

評価方法（基準）

毎回の授業の終わりに書いてもらうコメントペーパー（OPPシート）の内容（30%）や学期末試験の結果（70%）等をもとに総合的に評価します。また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。

学生へのメッセージ

授業の中でチャットを使用した対話を多く予定しています。受講者の皆さんの積極的な発言を期待しています。

担当者の研究室等

寝屋川キャンパス　7号館4階（谷口研究室）

備考

事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。

科目名	教育課程論	科目名（英文）	Studies of Curriculum Development
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大野　順子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	（１）教育課程(カリキュラム)とは何かについて考える。教育課程(カリキュラム)はどのような目的から、どのような内容で編成されているのかについての歴史的経緯を考察する。また、同時に学校教育システムとの関わりから、その意義や役割を理解する。 （２）わが国における学習指導要領の変遷や戦前・戦後のカリキュラムの実践的開発を知ると共に、これからのカリキュラム開発の課題について考える。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りである。 （１）学校教育における教育課程の意義について理解できる。 （２）将来、教職に就いた際、適切な教育課程（カリキュラム）を計画・編成し、かつ、実践、評価し、改善できる資質が身につく。
授業方法と留意点	本授業は、授業全体を通して、みなさん一人一人の授業への主体的な参加が求められます。また、各自が取得する免許教科の中学校・高等学校の教科書を熟読し、さらに、それぞれが取得する免許教科の学習指導要領を入手し、熟読しておいてください。
科目学習の効果（資格）	教員免許（中学校・高等学校）取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	教育課程とは何か／オリエンテーション	学校教育のもつ機能について。	課題：シラバスに挙げている教科書を購入し、授業テーマに該当する分を読み、まとめる。
2	日本における教育課程の歴史的変遷Ⅰ	戦前から戦後（経験主義～系統主義：高度経済成長期）の教育課程変遷について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
3	日本における教育課程の歴史的変遷Ⅱ	1970 年代以降、「ゆとり」への標榜から「生きる力」、そして現在までの教育課程変遷について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
4	教育課程（カリキュラム）の概念と構造、および教育課程編成について	教育課程の編成要素（内部要因と外部要因）について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
5	教育評価　その１	子どもたちの発達段階にふさわしい評価の方法とその特質について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
6	教育評価　その２	教育課程評価について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
7	『総合的な学習の時間』について	導入の背景とそのねらいについて。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
8	新しい教育課程　その１	「キャリア教育」について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
9	新しい教育課程　その２	「アクティブラーニング」について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
10	新しい教育課程　その３	「社会に開かれた教育課程」について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
11	教育課程と教育改革　その１	特色のある学校づくり＝小中高編。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
12	教育課程と教育改革　その２	カリキュラム・マネジメントについて。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
13	教育課程と教育格差　その１	学力格差と学力低下問題について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
14	教育課程と教育格差　その２	教育格差に抗する学校の取り組みについて。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
15	総括：教育課程をめぐる諸問題	海外の学校教育課程の動向、及び、キー・コンピテンシー（OECD）について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読み、最終レポートを作成する。

関連科目：教職科目全般と関連がある。他の教職科目と重なる所や特徴点を整理していくことが重要。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新しい時代の教育課程（第４版）	田中耕治他	有斐閣アルマ
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新教育課程ライブラリ（Vol.1～Vol.12）	（株）ぎょうせい	（株）ぎょうせい
2	ワークで学ぶ教育課程論	尾崎博美他	ナカニシヤ出版
3			

評価方法（基準）	事前課題・レポートの内容（40%）と最終試験（60%）により総合的に評価する。
学生へのメッセージ	指定している「教科書」を活用し、毎時間、事前事後学習をしっかりと行ってください。レポート等の提出物に関しては期日までに提出すること。期日以降の提出は原則認めません。
担当者の研究室等	７号館３階(大野順子研究室) 連絡先： j-oono@arc.setsunan.ac.jp
備考	2009 年度以前入学生は、(高校) 教免取得上選択 授業計画に記載している授業テーマは授業の進捗状況により少々前後することがあります。 授業で用いる資料等については，適宜印刷し，配布します 事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。

科目名	教育方法論	科目名（英文）	Studies of Educational Method
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林　茂樹
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教職課程「教育の方法及び技術」に対応する科目である。授業は、①テキストにもとづいた教育方法の歴史と理論の概観、授業の設計から評価に至る授業構成についての理解、基礎的な授業技術と方略等に関する講義、②授業にあたって留意すべき事項についての授業ミニ講座、③教材の開発及び授業の進め方に関する活動（個人ワーク及びグループディスカション）で構成する（オンライン授業では、グループでのマイクロ・ティーチングの活動はできないので、3年次以降の授業で取り扱うこととしたい）。 授業担当者は、高校現場で34年間にわたり、「授業」を行ってきた経験を活かした実践的な授業を行うので、授業を「受ける」立場ではなく、「作る」立場に転換した能動的な学びを経験することを期待する。 より具体的には、つぎのことをめざす。 (1) 自己の被教育体験を出発点に、学ぶこと・教えることの意味について捉えなおし、学習観・授業観・学校観を問い直す作業を通して、今日の教師に求められる多様な資質・能力についての理解を深める。 (2) 「知識や技能を教え込む技術」の習得をめざすのではなく、生徒の生活背景や教室内の人間関係の把握を前提に、教室での突発的な出来事にも柔軟かつ的確に対処し、生徒からのリアクションを教材の文脈にもどしながら、意図的・計画的なカリキュラムを臨機応変に調整することによって、「教室を豊かな学びの場とする授業づくり」を追求する姿勢を身に付ける。 (3) 教育実践の質を向上させるためには、上記(2)に関する専門性を個々に向上させるだけでなく、同僚間で相互に学び合う「同僚性」を構築すること、また、教育諸科学の最新の研究から新しい知見を積極的に摂取することの重要性について理解する。
到達目標	教師と生徒が意思疎通を図りつつ、相互に作用しながら、主体的に問題を発見し、協力協同しながら解に接近する時空間としての授業を構想することをめざして、 (1) 指導目標を適切に設定し、多角的な視点から教材研究を行い、学習指導案を作成するとともに、同僚との協議を踏まえて指導案を改善することができる。 (2) 豊富な事例研究を通して、教育実践を対象として分析、批判、省察、再構成できる。
授業方法と留意点	新型コロナ感染拡大防止のため、第2回から授業方法の変更を行う。原則として時間割通りの曜日・時限で行われるTeamsを使用したオンライン授業（リアルタイム方式）を受講すること。 第15回の授業の後半で、オンラインを利用したテストを行う。 大学のHPやポータル・Teamsでの連絡を見逃すことのないように留意すること。 当初予定していたグループでの「マイクロ・ティーチング」の活動（教材作成及び授業実施のグループワーク）はオンラインではできないので、3年次以降の授業で取り扱うこととした
科目学習の効果（資格）	教員免許（小学校・中学校・高等学校）取得上必修科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、教職科目「教育方法論」について	授業のオリエンテーション 講義：今、なぜ教育方法の学なのか・教育方法学の論点と課題 ミニ講座：①授業びらき・授業じまい 課題：印象に残る授業	教科書序章・第３章、講義資料をよく読んでおく（2時間）。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。
2	学習とは何か（学習論）	講義：学習をめぐる３つの理論、学習理論にもとづく学習方法、学習における他者の役割 、学習指導の形態 ミニ講座：②褒美と罰 発展：学ぶとはどういうことか　課題：指導方略	教科書第５章、講義資料をよく読んでおく(2時間)。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。
3	子どもたちは何を学ぶのか（教育目標・内容論）	講義：教育目標に関する基本的な考え方、教育目標と内容 ミニ講座：③発問 発展：授業研究 課題：発問と予想される子どもの応答	教科書第４章、講義資料をよく読んでおく(2時間)。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。
4	欧米における授業の歴史(教授論の歴史①)	講義：近代以前の教育、近代教育思想と教授学の成立、教育学の体系化と授業の組織化、カリキュラム研究の成立と展開 ミニ講座：④指示・説明・共有 発展：学級の規模と形態 課題：授業形態と学級規模	教科書第１章、講義資料をよく読んでおく(2時間)。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。
5	日本における授業の歴史(教授論の歴史②)	講義：古代から近世の教育、近代学校制度と授業の成立、授業の定型化、授業改造の試み ミニ講座：⑤発問の工夫と仕方 発展：学級崩壊 課題：学級崩壊の経験	教科書第２章、講義資料をよく読んでおく(2時間)。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。
6	学力をどう高めるか（学力論）	講義：学力をどうとらえるか、「できる学力」を高める、「分かる学力」を高める ミニ講座：⑥指名・助言・発言の受け方、教師の話し方 発展：戦後学力論争史 課題：全国学力・学習状況調	教科書第６章、講義資料をよく読んでおく(2時間)。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。模擬授業の準備を行う（2時間）
7	授業をどうデザインするか（設計・デザイン論）	講義：授業のデザイン、教科内容と子どもの学び、対話的・協同的な学び合い、学びのための指導・支援 ミニ講座：⑦板書・机間指導・ノート指導 発展：授業の設計とデザインの違い 課題：学びからの逃走	教科書第７章、講義資料をよく読んでおく(2時間)。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。模擬授業の準備を行う（2時間）
8	8　教育の道具・素材・環境（教材論）	講義：教材づくりの発想、メディアとしての教材、教材概念の拡張、学習環境と	教科書第８章、講義資料をよく読んでおく(2時間)。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1

			しての時空間 ミニ講座：⑧観察・実験・フィールドワーク 発展：教材研究・教材開発・授業の構想 課題：体験型の授業と座学型の授業	時間)。模擬授業の準備を行う（2 時間)。
	9	何をどう評価するか（評価論）	講義：指導要録における教育評価観の変遷、目標に準拠した評価の意義と展開、形成的評価と自己評価、パフォーマンス評価とポートフォリオ評価、教育評価論としての「実践記録」 ミニ講座：⑨グループ学習・ペア学習・話し合い 発展：現在の学習評価 課題：内申書とテスト	教科書第９章､講義資料をよく読んでおく(2 時間)。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1 時間)。模擬授業の準備・振り返りを行う（2 時間）
	10	誰がカリキュラムを編成するのか（カリキュラム論）	講義：教育課程の編成にあたって、教育課程の構造と類型 ミニ講座:⑩ノート指導、レポート指導、プレゼンテーション指導 発展：総合的な学習の時間の授業づくり 課題：探求学習の指導	講義資料をよく読んでおく（2 時間)。講義資料を参考に学習内容を整理する（1 時間)。模擬授業の準備・振り返りを行う（2 時間）
	11	授業･学習へのＩＣＴの活用（教育の情報化論１）	講義：教育の情報化（その１)、教育の情報化の今日的意義、教育情報化の加速、ICT を活用した学びの実践、学校の ICT 環境整備、学習環境を支える ICT 環境 ミニ講座：⑪授業中の私語 発展：コロナと学校の授業 課題：大学のオンライン授業	講義資料をよく読んでおく（2 時間)。講義資料を参考に学習内容を整理する（1 時間)。模擬授業の準備・振り返りを行う（2 時間）
	12	情報教育と校務の情報化(教育の情報化論２）	講義：教育の情報化（その２)、情報教育、校務の情報化の推進、教育情報セキュリティの確保、教師に求められる ICT 活用指導力等の向上 ミニ講座：⑫学びの空間 活動：グループディスカション① 課題：教師のファシリテーションスキル	講義資料をよく読んでおく（2 時間)。講義資料を参考に学習内容を整理する（1 時間)。模擬授業の準備・振り返りを行う（2 時間）
	13	インクルーシブな授業をつくる（インクルーシブ教育論）	講義：インクルーシブ教育とインクルーシブ教育システム、ICIDH から ICF への転換と特殊教育から特別支援教育への転換、特別支援教育の理念と合理的配慮の考え方、授業における合理的配慮 ミニ講座：⑬ワークショップ型の授業 活動：グループディスカション② 課題：PBL（問題解決型学習）問題点	講義資料をよく読んでおく（2 時間)。講義資料を参考に学習内容を整理する。模擬授業の振り返りを行う（2 時間)。
	14	ユニバーサルデザイン化した授業をつくる(ユニバーサルデザイン論）	講義：バリアフリーとユニバーサルデザイン、教育のユニバサールデザイン化、基礎的環境整備と合理的配慮の関係、教室環境のユニバーサルデザイン、授業のユニバーサルデザイン、授業のユニバーサルデザイン化と指導の三段構え ミニ講座：⑭授業研究の方向性 発展：新しい学び 課題：学び合いの変化	講義資料をよく読んでおく（２時間)。講義資料を参考に学習内容を整理する (1 時間)。模擬授業をの振り返りを行う（2 時間)。
	15	まとめ～学び続ける教員像をめぐって／テスト	講義：すぐれた教師になるために、２つの教師モデル、教師としての成長に向けて、結論 ミニ講座：教師をめざす オンラインテスト	教科書第１１章、講義資料をよく読んでおく（２時間)。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1 時間)。模擬授業の振り返りを行う（2 時間）

関連科目	教職科目全般と関連性をもつ。特に、「教師論」「教育原理」「教育心理学」での既習内容と関連させて理解を深めることが大切である。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新しい時代の教育方法　改訂版	田中耕治他	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業への参加状況【課題等】(40%)、レポート（30%)、テスト（30%）により総合的に評価する。
学生への メッセージ	オンラインでの授業という制約下ではあるが、「授業に参加するだけ」という受動的な構えを取るのではなく、教育諸課題に敏感に反応し、教育の方法的視点でどのように対処すべきかを常に考える癖をつけるようにしてください。
担当者の 研究室等	11 号館 11 階(林研究室)
備考	授業外総学習時間を 60 時間とする。

科目名	生徒指導論（進路指導を含む）	科目名（英文）	Studies of Guidance and Counceling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	池島　徳大
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	生徒指導と進路指導の意義と方法について、すべての児童・生徒の健全な発達を促す視点に立って、子どもの揺れ動く心理に触れながら、具体的な生徒指導、進路指導の実践を織り交ぜ、講義及び演習を行う。
到達目標	本授業の到達目標は、下記の５点である。 １）生徒指導の意義とその機能について説明できる。 ２）進路指導の意義とその機能について説明できる。 ３）多様な児童・生徒理解の方法について説明できる。 ４）いじめ、不登校など今日的な生徒指導上の諸問題の状況と対応の在り方について説明できる。 ５）校内の生徒指導・進路指導体制と関係機関との連携について説明できる。
授業方法と留意点	講義の他、グループ討議、ロールプレイング等の演習を取り入れて行う。 履修および予習・復習についての指示 生徒指導に関する知識の獲得、演習による対応スキルの獲得、共感能力の開発をキーワードに進めます。講義中心からできる限り演習を取り入れた授業を展開します。毎回の講義後、学習内容の振り返りとして２時間程度復習すること。また、授業終了前に次回の予習事項を提示しますので２時間程度事前学習にあてること。講義に関する質問等については、講義終了後に受け付けます。強い課題意識を持っての受講を期待します。
科目学習の効果（資格）	教員免許（中学校・高等学校）取得上必修科目である。 参考文献 池島徳大「いじめ解決への教育的支援」日本教育新聞社 2013

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション		
2	生徒指導の基本原理		
3	児童生徒理解と生徒指導		
4	新学習指導要領が示す「見方・考え方」の視点と生徒指導		
5	生徒指導における教育相談の意義と進め方		
6	いじめ問題に対する応いじめなどのもいじめなどのもめごと問題への具体的対応とその方法めごと問題への具体		
7	いじめ問題に対する理解と今日的ないじめ(インターネット含む)問題へ的対応とその方法		
8	不登校問題の現状と対応(1)		
9	別な支援を必要とする児童生徒の理解と対応		
10	暴力行為の理解と対応		
11	進路指導の意義と方法具体的な方法とその展開		
12	アメリカの PBIS の取組みから生徒指導の在り方を考える		
13	進路指導の意義と具体的な方法とその展開		
14	生徒指導･進路指導体制と関係機関との連携の意義と方法		
15	まとめ　生徒指導･進路指導の課題と展望		

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ピア・サポートによるトラブル・けんか解決法	池島徳大監修・著	ほんの森出版
2	「学校カウンセリングの理論と実践」ナカニシヤ出版 2007	佐藤修策総監修・池島徳大他著	ナカニシヤ出版 2007
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験の成績（到達目標１・２・３・４・５）60% 毎回の「感想ノート」の提出（到達目標１・２・３・４・５）20% レポート等の課題提出（到達目標４）20% 課題のフィードバックについては、課題提出後の授業時に行います。
学生へのメッセージ	

担当者の 研究室等	
備考	

科目名	地域連携教育活動Ⅰ	科目名（英文）	Communitiy-Based Education Support Activities Ⅰ
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田　佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本科目はサービスラーニングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習の時間」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週１回９０分行う。
到達目標	実際の教育現場を知ること、物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。
授業方法と留意点	原則として、履修申請が可能な学生は、本年１月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の担当者との相談結果によって受入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動Ⅰ」をはじめて履修する学生を対象とする。
科目学習の効果（資格）	教職課程における「大学が独自に設定する科目」 実際の学校現場で学ぶことは，教員免許状を取得するのに大いに資する。
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	事前指導１	活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備	活動のための準備
2	事前指導２	マナー講座・小中学校の教育現場について	活動のための準備
3	事前指導３	「守秘義務」の意味とその内容について	活動のための準備
4	活動準備	受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する	活動のための準備
5	活動 1～25	受け入れ校にて活動　（活動業務日報・活動時間票の提出）	各種活動の事前準備および活動後の報告書（日報等）の作成
6	最終報告会	活動報告会	報告のための準備
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	すべての科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	①年間活動計画書 ②出席簿 ③日誌 ④レポート の全てを提出し、最終報告会で ⑤活動報告 した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階（朝日研究室）、７号館３階（大野研究室）、７号館４階（谷口研究室）、7 号館 3 階（林研究室）、7 号館 3 階（吉田研究室）
備考	事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。 必ず出席してください。 受け入れ校での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等にかなりの時間を要します。１回の活動に対して，それぞれ 1、2 時間は必要です。

科目名	地域連携教育活動Ⅱ	科目名（英文）	Communitiy-Based Education Support Activities II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田　佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本科目はサービスラーニングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習の時間」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週１回９０分行う。
到達目標	実際の教育現場を知ること、物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。
授業方法と留意点	原則として、履修申請が可能な学生は、本年１月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の担当者との相談結果によって受入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動Ⅰ」を既に履修した学生を対象とする。
科目学習の効果（資格）	教職課程における「大学が独自に設定する科目」 実際の学校現場で学ぶことは，教員免許状を取得するのに大いに資する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	事前指導１	活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備	活動のための準備
2	事前指導２	マナー講座・小中学校の教育現場について	活動のための準備
3	事前指導３	「守秘義務」の意味とその内容について	活動のための準備
4	活動準備	受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する	活動のための準備
5	活動 1～25	受け入れ校にて活動　（活動業務日報・活動時間票の提出）	各種活動の事前準備および活動後の報告書（日報等）の作成
6	最終報告会	活動報告会	報告のための準備
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	すべての科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	①年間活動計画書 ②出席簿 ③日誌 ④レポート の全てを提出し、最終報告会で ⑤活動報告 した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階（朝日研究室）、７号館３階（大野研究室）、７号館４階（谷口研究室）、7 号館 3 階（林研究室）、7 号館 3 階（吉田研究室）
備考	事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。 必ず出席してください。 受け入れ校での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等にかなりの時間を要します。１回の活動に対して，それぞれ 1、2 時間は必要です。

科目名	理科教育法Ⅰ	科目名（英文）	Science Teaching I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期集中	授業担当者	内村　浩
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的

==========
【重要連絡】(掲載日：2021 年 9 月 8 日)
==========
集中講義を遠隔で実施することになりました。
開講日は予定通り，10 月 2 日（土），9 日（土），23 日（土），11 月 6 日（土）の 4 日間です。

まずは，受講登録ができているかどうかを必ず確認してください。(後期の追加履修申請期間は 9 月 15～17 日です)

事前に受講登録を済ませた人に対して，～@edu.setsunan.ac.jp のアドレス宛に，担当教員から案内メールが届きます。
案内メールの配信は，9 月 28 日（火）を予定しています。もし届かない場合は，担当教員まで連絡してください。　内村のメールアドレス：hiro.uchimura@gmail.com

Teams は使いません。代わりに，YouTube による動画配信と，大学の WebFolder によるデータ受け渡しを利用します。

＜準備しておくもの＞
できれば高校理科の教科書。もし手元に残していなければ，友人から借りるとよいでしょう。
（作成する学習指導案に使います）

＝＝＜この授業について＞＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝
教職を迷っている人も歓迎します。まずはこの授業で，理科教員のイメージをつかんでください。
４日間に分けて集中講義として実施します。
なお，来年度以降に開講する「理科教育法Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ」は，この「理科教育法Ⅰ」を履修済みであることを前提として展開されますので，希望者は必ず受講しておいてください。

この授業の目的は学校現場で活躍できる理科教員として必要な考え方，スキルを身につけることである。具体的な内容は以下のとおり。
1. 理科教育のねらいと，学校現場を取り巻くさまざまな環境について理解する。
2. 理科の授業をデザインするための基本的なコンセプトを理解する。
3. 理科の授業を行うための実践的な方法と技術を身につける。

到達目標

1. 指導案を作成できるようになる。
2. 模擬授業を行い，その授業分析ができるようになる。
3. 理科教育の目的と今日的課題について理解し，自分が目指すべき授業像を述べることができるようになる。

授業方法と留意点

【遠隔授業の方法】
・開講日に，YouTube で講義を視聴し，その日のうちに課題レポートを大学の WebFolder に提出します。(動画のリンクと課題は事前にメールで連絡あり)
・課題レポートを〆切までに提出すると，その日の「出席認定書」がもらえます。(ただし，レポートが合格ということではありません)
・すべての開講日の「出席認定書」を獲得した人を対象に，成績を判定します。

なお，下記の授業計画は対面授業を想定して作成したものです。今回の遠隔授業では変更となる予定です。

科目学習の効果（資格）

理科教員免許を取得するための、基礎的な知識と技能が身につきます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	【注意】遠隔授業になったため，以下の計画は変更予定です。 ---------- 講義：モデル授業(1)－楽しくわかる理科授業とはどのようなものか？	【注意】遠隔授業になったため，以下の計画は変更予定です。 ---------- 「楽しくわかる理科授業」を体験し、イメージをつかむ。	【注意】遠隔授業になったため，以下の計画は変更予定です。 ---------- 復習：教科書を熟読し，教える内容について分析する。
2	講義：モデル授業(2)－授業づくりのポイント	具体的な事例をとおして、新しい授業を作る意義を学ぶ。	関連した情報を集め，指導計画を作成する。
3	講義：理科授業をどのようにデザインするか？	授業づくりの方法とポイントを学ぶ。	関連した情報を集め，指導計画を作成する。
4	グループワーク：ミニ模擬授業演習（前半）	担当した単元について指導案を作成し発表する。(前半)	ミニ模擬授業の事後レポートを作成する。
5	グループワーク：ミニ模擬授業演習（後半）	担当した単元について指導案を作成し発表する。(後半)	ミニ模擬授業の事後レポートを作成する。
6	グループワーク：模擬授業の準備(1)　学習指導要領の目標と内容をふまえた指導案の作成	グループで話し合いながら、授業を計画する。	授業のアイデアを準備する。
7	グループワーク：模擬授業の準備(2)　教材の準備とリハーサル	グループで話し合いながら、授業を計画し、準備する。	発表のリハーサルを行う。
8	演習：授業発表(1)　テーマ「生物と光」	左記の単元について，グループで模擬授業を行う。発表後に全体討論と指導教員によるミニ講義がある。	模擬授業について考察し，事後レポートを作成する。
9	演習：授業発表(2)　テーマ「微生物とその利用」	左記の単元について，グループで模擬授業を行う。発表後に全体討論と指導教員によるミニ講義がある。	模擬授業について考察し，事後レポートを作成する。
10	演習：授業演習(3)　テーマ「材料とその再利用」	左記の単元について，グループで模擬授業を行う。発表後に全体討論と指導教員によるミニ講義がある。	模擬授業について考察し，事後レポートを作成する。

11	演習：授業発表(4)　テーマ「衣料と食品」	左記の単元について，グループで模擬授業を行う。発表後に全体討論と指導教員によるミニ講義がある。	模擬授業について考察し，事後レポートを作成する。
12	演習：授業発表(5)　テーマ「熱の性質とその利用」	左記の単元について，グループで模擬授業を行う。発表後に全体討論と指導教員によるミニ講義がある。	模擬授業について考察し，事後レポートを作成する。
13	演習：授業発表(6)　テーマ「身近な天体と太陽系における地球」	左記の単元について，グループで模擬授業を行う。発表後に全体討論と指導教員によるミニ講義がある。	模擬授業について考察し，事後レポートを作成する。
14	演習：授業発表(7)　テーマ「身近な自然景観と自然災害」	左記の単元について，グループで模擬授業を行う。発表後に全体討論と指導教員によるミニ講義がある。	模擬授業について考察し，事後レポートを作成する。
15	講義：学習の総括	授業全体を振り返り，今後の理科教育の目標について考える。	授業全体の振り返りレポートを作成する。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	科学と人間生活　(頒布は来年に延期します)	内村浩、他	東京書籍
2	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説理科編		文部科学省（Web 閲覧可）
3	高等学校学習指導要領解説　理科編、理数編		文部科学省（Web 閲覧可）

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	授業に活かす！理科教育法－中学高校編	左巻健男，内村浩編著	東京書籍
2			
3			

評価方法（基準）	すべての開講日の「出席認定書」を獲得した人を対象に，課題レポートと学習指導案の内容をもとに評価します。 ただし，「出席認定書」は単位修得のための必要条件であり，十分条件ではありません。最終的には提出物の内容で決まります。
学生へのメッセージ	理科教員はとても魅力的な仕事です。体験を通して，授業づくりの楽しさとコツをつかんでください。
担当者の研究室等	なし
備考	遠隔授業となったため，上記の教科書は購入しなくてよいです。来年の「理科教育法Ⅱ」で頒布します。

科目名	身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	科目名（英文）	Neighborhood Crime Prevention
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中沼　丈晃
ディプロマポリシー(DP)	V 科:Ⅱ◎R 科:A◎A 科:A◎M 科:A1○E 科:Ⅱ△C 科:Ⅱ◎L 科:DP2◎D 科:DP1◎S 科:DP1◎J 科:DP1◎W 科:DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,P 科：YT01423a2～YT01427a2,J 科：JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1,N 科：NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	私は、地域における防犯を研究し、自分自身も、研究室の学生とともに、青パト（青色回転灯をつけた自主防犯パトロールカー）で毎日、子どもの見守り活動を行っている。そうした研究者として、普段一番接する学生に、犯罪の実態を知ってもらい、少しの注意と手間で犯罪から身を守れることをわかってほしくて、この講義を開講することとした。加えて、それほど気負わなくても、防犯ボランティアとして社会貢献できる方法があることも紹介したいと考えている。 学科の学習・教育目標との対応：工学部[A], 理工学部 [II]
到達目標	この授業を通じて学生には、自分と家族の身近でどんな犯罪が起きているか知り、どのような対策が必要かわかるようになることが期待される。防犯ボランティアへの参加の動機づけが大きくなればなおよい。
授業方法と留意点	とにかく実際の事件を取り上げて、加害者の視点、被害者の視野、発生した場所・時間の特徴、警察や行政、学校、ボランティアの動きを具体的に説明する。そして、いま推奨されている防犯対策を紹介する。警察の防犯実務者や、活躍する防犯ボランティア団体の世話役の方をお招きしたインタビュー講義も交えていく。
科目学習の効果（資格）	各自が自分で、家庭で防犯対策をして、犯罪から身を守れるようになってもらうのが第一である。防犯ボランティア参加の動機づけにもなるだろう。職業では、当然、警察官の仕事の視点がわかる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	昨年起きた犯罪はどのような特徴があったのか？	昨年起きた具体的な犯罪例を取り上げて、どのような人・物が、どういう理由でねらわれているのか探る。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
2	犯罪にはどのような種類があり、どうやって数えるのか？	刑法上は同じ窃盗でも、ひったくり、自転車盗、車上ねらいなどさまざまな手口がある。１件の窃盗でも、起きた数、警察に届けられた数、検挙された数がある。こうした手口の分け方や数の数え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
3	犯罪はなぜ起こるのか？どうやって減らすのか？	悪い人がいるから犯罪が起こるのか、すきがある人がいるから犯罪が起こるのか、犯罪が起きやすい場所・時間があるから犯罪が起こるのか、それぞれの理屈を確かめてみる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
4	大阪の治安はどのくらい悪いのか？どのように防犯対策を進めているのか？	大阪府は、他の都道府県に比べてどのような犯罪が多いのか、人口の多さを考慮するとどうなのか説明する。「オール大阪」で街頭犯罪ワースト１を返上する取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
5	街頭犯罪――ひったくり、自転車盗、車上・部品ねらいを中心に	一番身近な街頭犯罪について、どういう人・物が、どういった状況でねらわれているのか、どういう人が犯罪を行っているのか説明する。ついで、ひったくり防止カバー、シリンダー錠などの防犯対策の効果について紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
6	住宅への空き巣、忍び込み、居空き	泥棒は、空き巣に入る家をどのように物色し、どうやって侵入し、何を盗んでいくのか解説する。最近の防犯住宅、防犯マンションの取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
7	性犯罪――街頭での強制わいせつ、痴漢、公然わいせつ	大阪府は性犯罪が深刻な自治体である。犯罪者は、どんな人・場所をねらって性犯罪に及ぶのか説明する。女性の学生が今日からすべき防犯対策を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
8	子どもをねらった犯罪	子どもに対する犯罪について、過去に大きな社会問題になった殺傷事件から、日常的に起きているわいせつ、声かけ、つきまといまで、実態を具体的に説明する。そして、子どもの安全を守るために各地で行われている取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
9	ストーカー、DV（配偶者からの暴力）	ストーカーや DV は、個人間の問題に関わるので、対応の判断が難しい。しかし、大きな事件につながれば、対応の遅さ、まずさが批判されやすい。過去の事件の経緯を紹介して、深刻な問題への展開を防ぐために現在行われている対策を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
10	詐欺――高齢者をねらった振り込め、オレオレ、リフォーム詐欺など	昨年、急激に増え、手口が次々と変わる高齢者をねらった詐欺を取り上げる。背景にどのような組織があるのか、どうして防犯が難しいのか、実例に即して説明する。若い私たちにできる協力も紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
11	サイバー犯罪――子どもや学生が巻き込まれるネット犯罪	子どもが巻き込まれる出会い系サイトやネットゲームでのなりすまし、大学生も被害を受けている偽サイトでのショッピング詐欺、ネットバンクでの ID、パスワード盗難など、身近なサイバー犯	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）

		罪を取り上げる。	
12	違法ドラッグの実態と対策	違法ドラッグについて、その危険性、販売の実態、取締の方法を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
13	防犯カメラの普及と効果	急速に普及した防犯カメラについて、普及の背景と経緯、技術の進歩、個人情報・プライバシーとの関係、防犯効果の考え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
14	防犯ボランティアの活動	近年の犯罪対策の最大の特徴は、民間のボランティア団体の活性化である。地域での子ども見守り隊、青パト活動、学生防犯ボランティアなど、最近の各地、各世代の防犯ボランティアの活動を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
15	警察官の仕事の実際	犯罪が起きれば捜査し検挙する。犯罪が起きないように市民や企業に防犯をうながす。それを職業とする警察官の仕事の実際を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）

関連科目

法学部「刑事政策」「経済刑法」「地域防犯政策」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

期末課題(70%)、講義毎回の確認ペーパー(30%)の合計によって評価する。

学生へのメッセージ

勉強以前に、自分、家族、まちを身近な犯罪から守るために、ぜひこの講義を受講してほしいと願っている。そして、できるところからでよいので、講義で知った防犯対策をしてもらいたい。警察官志望者には、近年、警察でも人気の仕事になりつつある防犯の実務がわかるという意味で、興味を持ってもらえると思う。

担当者の研究室等

11 号館 9 階 中沼研究室

備考

講義毎回の確認ペーパーの正解の提示や、そこに書かれた意見の紹介はポータルサイトなどを通じて行う。

科目名	マーケティングと歴史	科目名（英文）	Marketing and History
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	武居　奈緒子
ディプロマポリシー(DP)	V 科:Ⅱ◎R 科:A◎A 科:A◎M 科:A1○E 科:Ｂ△C 科:Ⅱ◎L 科:DP2◎D 科:DP1◎S 科:DP1◎J 科:DP1◎W 科:DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,P 科：YT01423a2～YT01427a2,J 科：JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1,N 科：NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	この講義では、マーケティングを歴史的に考察することを目的としています。特にマーケティングの発想を踏まえ、呉服商の経営活動について説明していきます。
到達目標	マーケティングと歴史に関する基本的知識を修得し、活用できることを目指します。
授業方法と留意点	講義形式
科目学習の効果（資格）	マーケティング的発想で社会を見る眼が養えます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	マーケティングについて解説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングに関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
2	製品政策	ヒット商品はどのようにして作られるのかについて考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、製品政策に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
3	価格政策	価格の設定方法について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、価格政策に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
4	流通チャネル政策	商品はどのような経路をたどって販売されるのかについて考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、流通チャネル政策に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
5	販売促進政策	商品のアピールの仕方について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、販売促進政策に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
6	マーケティングのＳＴＰアプローチ	市場細分化について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、ＳＴＰアプローチに関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
7	消費行動	消費者の購買意思決定過程について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、消費行動に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
8	マーケティングの歴史的研究と三井越後屋	マーケティングにおける歴史的研究と三井越後屋の商法について説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、三井越後屋に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
9	呉服商の流通機構	呉服商の流通機構について、概説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、呉服商の流通機構に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
10	越後屋の仕入機構（１）	三井越後屋の絹の仕入機構について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、越後屋の仕入機構に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
11	越後屋の仕入機構（２）	三井越後屋の木綿の仕入機構について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、越後屋の仕入機構に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
12	いとう松坂屋、大丸屋の仕入機構	いとう松坂屋や大丸屋の仕入機構について、概説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、いとう松坂屋・大丸屋の仕入機構に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
13	呉服商から百貨店へ	呉服商から百貨店への変遷について概説します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、百貨店化に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
14	百貨店業態の成立	百貨店について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、百貨店業態に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
15	まとめ	全体のまとめをします。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングと歴史の総復習をしておきましょう。（所要時間１時間）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大規模呉服商の流通革新と進化ー三井越後屋における商品仕入れ体制の変遷ー	武居　奈緒子	千倉書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	史料が語る三井のあゆみ	三井文庫編	吉川弘文館
2	消費行動　新版	武居　奈緒子	晃洋書房
3			

評価方法　期末レポート（100%）

（基準）	
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	11 号館８階　武居教授室
備考	

科目名	犯罪被害者の支援と法的救済	科目名（英文）	Legal Remedies for Victims of Crime
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小野　晃正
ディプロマポリシー(DP)	V 科:Ⅱ◎R 科:A◎A 科:A◎M 科:A1○E 科:Ⅱ△C 科:Ⅱ◎L 科:DP2◎D 科:DP1◎S 科:DP1◎J 科:DP1◎W 科:DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,P 科：YT01423a2～YT01427a2,J 科：JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1,N 科：NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的

・日常的な人間関係や医療過誤を通じて、何らかの犯罪の被害者となった場合、犯罪被害者はどのような対処をとることができるだろうか。

・たとえば、医療機関における医療ミス、交友関係をめぐって生じるストーカーやデート DV の被害、近親者からの精神的・肉体的な虐待、学生をカモにする巧妙な儲け話から起因する詐欺被害（マルチ商法）、とりわけ男子学生が陥りやすい出会い系を通じた美人局被害、あるいは、家族が犯罪に遭うことによる経済的損失ないし被害など、事例を挙げればきりがない。

・近年、わが国でも犯罪被害に遭った者を支援する制度が構築されつつある。
しかし、わが国ではこうした支援ないし救済策が講じられてこなかった期間が長すぎたため、多くの国民にその内容が浸透していない。そのため、依然として被害者は泣き寝入りするか、何も打つ手をとらずに最悪の結果を招来することもある。

・本講義では、自身や家族が犯罪被害者となってしまった場合、どのような救済策があるのかをわかりやすく解説し、被害を最小限度にとどめ、さらには犯罪被害者に対する理解を深めることを目的とする。

・犯罪被害者を論ずる前に、講義の数回を用いて、まず「加害者」の法的責任、「犯罪者」刑事責任、「犯罪者」の処遇、刑罰の正当化根拠、厳罰化をめぐる諸問題など、犯罪被害者を講じる前提となる伝統的な刑事学の講義を行う。

・法的知識は、時代を生き抜く上での一種の「転ばぬ先の杖」（教養）でもあるため、文系や理系を問わず、幅広い学生を履修対象とする。

到達目標

この講義を通じて学生には、
「・「被害者」概念について説明できる
　・犯罪被害者の救済制度を挙げ、これを説明できる
　・犯罪被害者の支援制度について理解できる」
ようになることが期待される。

授業方法と留意点

・新型コロナ変異株の流行により、第１回目の授業から当面のあいだ、本授業は Microsoft 社の teams を用いたオンデマンド動画配信方式で行う。
　↓
※【講義形式変更告知】職域ワクチン接種が終了したのちの 2021 年 10 月 28 日（木）～

・2021 年 10 月２８日（木）から対面にて講義を行う。

・成績評価は従来通り、teams 上のリンクから回収した同一の課題に対する答案の総得点で評価する。

・課題は対面講義が終了した後に、teams 上の該当回のチャンネルに上げる。同時に復習に資する動

科目学習の効果（資格）

・万が一に犯罪の被害に遭ったとしても、泣き寝入りすることなく、正当な手法による被害回復や救済手段を身につけることができる。
・公務員や法律事務所などへの就職に役立ちうる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 「加害者」と「犯罪者」 「被害者」と「犯罪被害者」	・授業の進め方と文献紹介 ・「加害者」の法的責任 ・「加害者」と「犯罪者」 ・「被害者」の意義 ・「犯罪被害者」の意義	・教科書の入手 事前：教科書第１章をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「犯罪被害者」とは何かについてノートにまとめること（2 時間）
2	少年犯罪の被害者	・少年法と被害者救済	事前：教科書第６章「少年犯罪」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「少年犯罪からの被害者救済」についてノートにまとめること（2 時間）
3	性犯罪の被害者	・性犯罪被害特有の問題点	事前：教科書第６章「性犯罪」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「性犯罪被害の特殊性」についてノートにまとめること（2 時間）
4	ドメスティックバイオレンス（ＤＶ）の被害者	・ＤＶ被害の特殊性	事前：教科書第６章「ＤＶ」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「ＤＶ被害の特殊性」についてノートにまとめること（2 時間）
5	ストーカー犯罪の被害者	・ストーカーへの対抗手段	事前：教科書第６章「ストーカー犯罪」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「ストーカー被害の特殊性」についてノートにまとめること（2 時間）
6	インターネット犯罪の被害者 刑事公判と被害者	・インターネット犯罪被害の特殊性	事前：教科書第６章「インターネット犯罪」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「インターネット犯罪被害の特殊性」についてノートにまとめること（2 時間）
7	児童虐待の被害者救済	・児童虐待の意義	事前：教科書第６章「児童虐待」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「児童虐待被害の特殊性」についてノートにまとめること（2 時間）
8	触法精神障害者からの被害	・精神障害者の加害行為と対処法	事前：教科書第６章「触法精神障害者」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「触法精神障害者からの被害の特殊性」についてノートにまとめること（2 時間）
9	犯罪被害救済総論①	・被害届と告訴・告発の効果 ・加害者との示談交渉 ・マスコミ対策 ・検察審査会 ・検察審査員	事前：教科書第２章「刑事手続きの流れ」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「刑事手続きの流れ」についてノートにまとめること（2 時間）

		・審査申立手続 ・検察審査会と被害者 ・起訴議決制度	
10	犯罪被害救済総論②	・被害者による裁判傍聴と参加 ・被害者による記録の閲覧と謄写 ・被害者における心情陳述 ・被害者等特定事項の非公開 ・遺影の持ち込みと公正なる刑事裁判	事前：教科書第３章「被害者参加制度」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「被害者参加制度」についてノートにまとめること（2 時間）
11	犯罪被害救済総論③	・損害賠償命令制度	事前：教科書第４章「損害賠償命令制度」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「損害賠償命令制度の長所と短所」についてノートにまとめること（2 時間）
12	犯罪被害救済総論④	・被害回復給付金制度	事前：教科書第４章「被害回復給付金制度」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「被害回復給付金制度の長所と短所」についてノートにまとめること（2 時間）
13	犯罪被害救済総論⑤	・犯罪被害者等給付金支給制度	事前：教科書第７章「犯罪被害者等給付金支給制度」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「犯罪被害者等給付金支給制度」についてノートにまとめること（2 時間）
14	犯罪被害救済総論⑥	・加害者情報へのアクセス ・法テラス	事前：教科書第７章「法テラス」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「法テラス」についてノートにまとめること（2 時間）
15	重要事項のまとめと確認テスト	重要事項のまとめ	事前：教科書で取り扱った箇所をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：重要事項についてノートにまとめること（2 時間）

関連科目

各学部開講の教養科目・・・法学入門、現代社会と法、日本国憲法
法学部開講の専門科目・・・刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、刑事訴訟法、刑事政策、少年法、民法、民事訴訟法ほか

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	補訂版 犯罪被害者支援実務ハンドブック	第一東京弁護士会犯罪被害者に関する委員会	東京法令出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	開講時に指示する。		
2			
3			

評価方法（基準）

・形成的評価を行うため、Microsoft 社 teams を通じて、Microsoft　forms から課題を提出し、その回答内容を評価対象とする（100%）。

・2021 年 10 月 28 日（木）から対面にて講義を行う。

・成績評価は従来通り、teams 上のリンクから回収した同一の課題に対する答案の総得点で評価する。

・課題は対面講義が終了した後に、teams 上の該当回のチャンネルに上げる。同時に復習に資する動画ファイルも配信する。

・受講者は teams 上のレジュメをダウンロードし、各自プリ

学生へのメッセージ

・事件報道やその後の話、あるいは社会の問題に関心のある学生が受講することをおすすめします。知って得をすることがあっても、損はさせない内容です。

担当者の研究室等

11 号館 10 階　小野教授室

備考

講義の理解を試すミニッツペーパーに対するコメントは次回講義の冒頭で行う。

科目名	現代韓国論	科目名（英文）	Contemporary Korean Society
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中　悟
ディプロマポリシー(DP)	V 科:Ⅱ◎R 科:A◎A 科:A◎M 科:A1○E 科:Ⅱ△C 科:Ⅱ◎L 科:DP2◎D 科:DP1◎S 科:DP1◎J 科:DP1◎W 科:DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,P 科：YT01423a2～YT01427a2,J 科：JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1,N 科：NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	日本社会に生きる者にとって、似通っているようで異なる、また異なっているようで似通っている、そんな存在である韓国。本授業では、日韓関係の変遷を手がかりとし、現代の韓国社会における変化を中長期的な視点から理解することを目指す。
到達目標	本授業を通じて、現代韓国社会についての理解を深めていく。具体的には、次の各項目を目標とする。 ・韓国現代史について、とりわけポスト冷戦時代の日韓関係史を軸として、概観できるようになる。 ・ポスト「バブル経済」時代における日本社会についての理解を踏まえて、ポスト「民主化」の時代における韓国社会についての理解を深める。
授業方法と留意点	韓国現代史の基礎的事実関係を踏まえつつ、基本的には教科書に基づいて講義を進める。具体的なイメージをつかむために、関連する映画作品を鑑賞することも予定している。 【シラバス更新にともなうお知らせ】(2021.04.16) ・講義は、①Teams を通じたリアルタイム配信（後日視聴も可能）、②Moodle を通じたレジュメ・課題等の配信、という 2 つの手段を適宜組み合わせて行ないます。 ・授業形態の変更にともなう計画調整によって、授業の進行スケジュールにも変更が生じます。あらかじめご了承ください。
科目学習の効果（資格）	韓国現代史および現代の日韓関係に関する基礎的な理解

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の目指すところ、テキストの内容について概説する。 （「まえがき」「プロローグ」についてはここで取り上げる。）	テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと
2	第Ⅰ部　相互信頼から相互不信へ	第１章　盧泰愚来日と天皇訪韓構想（１）	［事前学習］配布レジュメの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
3	第Ⅰ部　相互信頼から相互不信へ	第１章　盧泰愚来日と天皇訪韓構想（２）	［事前学習］配布レジュメの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
4	第Ⅰ部　相互信頼から相互不信へ	第２章　慰安婦問題の展開（１）	［事前学習］テキストの関連部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
5	第Ⅰ部　相互信頼から相互不信へ	第２章　慰安婦問題の展開（２）	［事前学習］テキストの関連部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
6	第Ⅰ部　相互信頼から相互不信へ	第３章　村山談話と靖国問題（１）	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
7	第Ⅰ部　相互信頼から相互不信へ	第３章　村山談話と靖国問題（２）	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
8	第Ⅰ部　相互信頼から相互不信へ	第４章　「小春日和」の時代	［事前学習］テキストの関連部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
9	第Ⅱ部　対立激化への展開	第５章　領土問題の相克と定着化（１）	［事前学習］テキストの関連部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
10	第Ⅱ部　対立激化への展開	第５章　領土問題の相克と定着化（２）	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
11	第Ⅱ部　対立激化への展開	第６章　民主党政権と李明博政権（１）	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
12	第Ⅱ部　対立激化への展開	第６章　民主党政権と李明博政権（２） 第７章　外交争点としての「慰安婦」問題（１）	［事前学習］テキストの関連部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
13	第Ⅱ部　対立激化への展開	第７章　外交争点としての「慰安婦」問題（２）	［事前学習］テキストの関連部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
14	第Ⅱ部　対立激化への展開	第８章　文在寅政権の転換	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）

15	映画作品に見る現代韓国	韓国現代史と現代韓国社会	［事前学習］提示する資料を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］提示した資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	平成時代の日韓関係―楽観から悲観への三〇年―	木村幹・田中悟・金容民〔編著〕	ミネルヴァ書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	韓国現代史	木村幹	中公新書
2	日韓歴史認識問題とは何か	木村幹	ミネルヴァ書房
3			

評価方法（基準）

提出レポートに基づく評価を行なう。(100%)
詳細については授業内で指示する。

【シラバス更新にともなうお知らせ】(2021.04.16)
・基本的に変更はありません。定期試験は実施せず、授業内で提示する課題に対する提出物に基づく総合評価（100%）を実施します。
（課題の提示および提出は、Moodle を通じて行ないます。）

学生へのメッセージ

韓国語の能力は不要です。

担当者の研究室等

7 号館 4 階　田中研究室　　※ただし 2021 年度は校舎改修工事のため、一時的な研究室移動があります。

備考

授業のスケジュール・進行形式については、出席者の状況によって調整する可能性もある。
なお、2019 年度まで開講していた「現代韓国事情」を履修し、単位を取得済みの者は、本講義を履修することはできない。

科目名	AI ビジネス創造実習	科目名（英文）	Practicum in Business Creation by Using AI
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塚田　義典
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,P 科：YT01423a2～YT01427a2,J 科：JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1,N 科：NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	近年、情報処理基盤の社会浸透、人工知能（AI）や IoT 等の最先端技術のオープン化に伴い、既存のビジネスモデルが大きく変化すると言われています。本講義では、学生の自由な発想のもと、一人ひとりが独自の AI を作ることで、AI とは何か、AI にできること、AI では難しいことを理解します。そして、作成した AI を持ち寄り、新しいビジネスプランを考えるグループワークを通して、事業創造に必要な企画・構想力を身に着けます。
到達目標	（1）AI の基本原理を理解し、AI を活用した既存サービスに関する知識を深めること （2）AI の作り方を知り、独自の AI を作れること （3）AI を活用したビジネスプランを発案し、グループディスカッションにより洗練させた上でプレゼンテーションできること
授業方法と留意点	情報処理室を使用した対面授業です。 授業資料（PDF）は、各回の授業日までに Web Folder の「AI ビジネス創造実習」クラスにアップロードします。 毎回の授業でテーマに関する演習課題を課します。提出期限が設定されているため、毎週必ず取り組みましょう。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、AI の構築環境の準備	シラバスの確認、配布資料の指定頁の予復習
2	AI の基本原理と最新動向（1）	AI の歴史、AI の仕組み、最新動向	配布資料の指定頁の予復習
3	AI の基本原理と最新動向（2）	最新動向の調査、アイデア出し	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し
4	AI を作るための準備（1）	データ収集、ツールの使用方法、データ変換、データの意味付け	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し
5	AI を作るための準備（2）	データの整備	データの整備、授業内容の見直し
6	AI の作り方	CNN を用いた画像認識 AI モデルの構築方法	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し
7	AI の使い方	画像認識 AI モデルを用いた画像の認識方法	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し
8	AI の評価方法	画像認識 AI モデルの評価、再学習	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し
9	AI によるビジネスプランの考案	作成した AI の相互評価、グループ分け	学生が作成した AI の評価、ビジネスプランのアイデア出し
10	AI によるビジネスプランの考案（2）	グループディスカッション、ビジネスプランの考え方、書き方	グループディスカッションのための市場調査、ビジネスプランの考案
11	AI によるビジネスプランの考案（3）	ビジネスプランと AI の作成	ビジネスプランの文書作成、AI の作成
12	AI によるビジネスプランの考案（4）	ビジネスプランの推敲、AI の作成	ビジネスプランの文書修正、AI の高精度化
13	AI によるビジネスプランの考案（5）	ビジネスプランの推敲、AI の評価	ビジネスプランの文書修正、AI の評価
14	プレゼンテーション	グループによる発表、相互評価	授業内容の振り返り
15	総括	これまでのまとめ	授業内容の振り返り

関連科目	情報リテラシーやプログラミングに関連する科目を履修済みであることが望ましいでしょう。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	人工知能が変える仕事の未来	野村　直之	日本経済新聞
2	人工知能は人間を超えるか	松尾　豊	角川
3			

評価方法（基準）	成績は、演習課題の回答内容に基づき評価します。期限内に提出できなかった場合は、大幅に減点します。
学生へのメッセージ	Society 5.0 時代は、高度な情報システムやデータ処理技術を「作る人」よりも、上手に「使う人」が重宝されるでしょう。 だれもが、わずかな専門知識と大いなる熱意があれば、驚くようなプロダクトやソリューションを創造することができる世の中になっています。 この授業をとおして、そのことを大いに実感してほしいと思います。
担当者の研究室等	11 号館 8 階　塚田研究室
備考	

科目名	社会福祉論	科目名（英文）	Social Welfare
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	上野山　裕士
ディプロマポリシー(DP)	V 科:Ⅱ◎R 科:A◎A 科:A◎M 科:A1○E 科:Ｂ△C 科:Ⅱ◎L 科:DP2◎D 科:DP1◎S 科:DP1◎J 科:DP1◎W 科:DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,P 科：YT01423a2～YT01427a2,J 科：JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1,N 科：NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	本講義では、さまざまな要因から生きづらさを感じている人びとのくらしをどのように支えていくかについて、社会福祉の制度や地域における支え合い、個々人の生き方など、多角的な視点から考えていきます。 本講義を通じ、受講生は、社会に貢献できる能力として、社会福祉の知識だけではなく、これからの地域、社会の担い手に求められる技能、態度を身につけることが期待されます。 SDGs-1,3,5,10,11,17
到達目標	①講義で取り扱うテーマを理解し、その概要について説明ができること ?日本の社会福祉の特徴と概要について説明ができること ③これからの地域、社会の担い手に求められる知識、技能、態度を身につけること
授業方法と留意点	学生に対する積極的な問いかけ、講義中のディスカッション、グループワークを取り入れた講義を行います
科目学習の効果（資格）	
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義の進め方について説明を行うとともに社会福祉の基本理念について理解を深めます	事後学修：配布資料を熟読すること（2 時間）
2	社会福祉の歴史①	諸外国における展開過程に焦点を当てながら社会福祉の歴史について理解を深めます	事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること（2 時間） 事後学習:配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)
3	社会福祉の歴史②	日本における展開過程に焦点を当てながら社会福祉の歴史について理解を深めます	事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること（2 時間） 事後学習:配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)
4	社会福祉の実施主体	社会福祉の実施主体について理解を深めます	事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること（2 時間） 事後学習:配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)
5	社会保障の概観	社会保障の機能および種類を概観したのち、公的扶助と保険制度の内容について理解し、その役割について考えます	事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること（2 時間） 事後学習:配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)
6	高齢者福祉	高齢者を取り巻く社会福祉の現状と課題について理解するとともに高齢者福祉のこれからについて考えます	事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること（2 時間） 事後学習:配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)
7	認知症の人を社会で支える	認知症になっても地域で暮らしつづけるにはどうすればよいか、認知症にかんする基本的な知識を踏まえて考えます	事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること（2 時間） 事後学習:配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)
8	障害者福祉	障害のある人びとを取り巻く社会福祉の現状と課題について理解するとともに障害者福祉のこれからについて考えます	事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること（2 時間） 事後学習:配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)
9	子ども家庭福祉	子どもと家庭を取り巻く社会福祉の現状と課題について理解するとともに子ども家庭福祉のこれからについて考えます	事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること（2 時間） 事後学習:配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)
10	地域福祉①	地域福祉の考え方と手法、キーワードを紹介し、地域福祉についての基礎的理解を目指します	事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること（2 時間） 事後学習:配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)
11	地域福祉②	地域福祉の国内における実践事例を紹介し、具体的な展開方法について理解を深めます	事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること（2 時間） 事後学習:配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)
12	地域福祉③	地域福祉の海外における実践事例を紹介し、具体的な展開方法について理解を深めます	事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること（2 時間） 事後学習:配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)
13	地域福祉④	地域が抱える課題とその解決法を模索するワークについて、共有を行います	事前学習：地域が抱える課題とその解決法を模索するワークに取り組みます（4 時間） 事後学習：提出した成果物の内容について振り返りを行うこと（2 時間）
14	社会福祉と大学生の役割	社会福祉を展開に対して大学生にどのような役割が期待されるかについて実践事例を通じて考えます	事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること（2 時間） 事後学習:配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)
15	講義のふりかえり	講義のふりかえりをおこない、これからの地域、社会の担い手に求められる知	事後学習：講義の内容について振り返りを行うこと（4 時間）

			識、技能、態度についてあらためて考えます	

関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	毎回のレポート 50%、最終レポート 50%
学生へのメッセージ	社会福祉に関するさまざまな知識、視点を踏まえて、みなさん自身に考えていただく機会になればと考えています。
担当者の研究室等	７号館３階（上野山研究室）
備考	

科目名	役立つ金融知力	科目名（英文）	Financial Literacy
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浅野　浩
ディプロマポリシー(DP)	V 科:Ⅱ◎R 科:A◎A 科:A◎M 科:A1○E 科:Ｂ△C 科:Ⅱ◎L 科:DP2◎D 科:DP1◎S 科:DP1◎J 科:DP1◎W 科:DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,P 科：YT01423a2～YT01427a2,J 科：JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1,N 科：NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	本授業で提供する「金融知力（リテラシー)」とは、経済・金融に関する知識や情報を正しく理解し、自らが主体的に判断できる能力のことであり、社会人として経済的に自立し、より良い暮らしを送っていくうえで欠かせない生活スキルです。 講師が、証券業界に長く勤務した経験を生かして、経済・金融の動向、金融商品の基本的な仕組みや特性、リスクマネジメント、金融資産の形成・運用方法について、実例となる日常のニュースを理解しながら、すでに学んでいる知識と融合させて具体的かつ現実に則した「金融知力（リテラシー)」の習得を目指します。 サブテーマとして、ＥＳＧ・SDG's 等近年注目されているテーマについても、随時授業に取り入れます。
到達目標	経済・金融の仕組みやさまざまな金融商品の性格・特性を理解し、ライフステージのさまざまな局面での金融資産形成における的確な判断や行動に結びつく「金融知力（リテラシー)」を習得することで、将来の自らの資産形成に的確な判断ができる一助になる事を目標にします。 また証券系の研究機関として蓄積した企業評価、市場分析の手法を学び、投資のみならず、就職活動における企業選択にも役立てることを目標とします。
授業方法と留意点	・日頃から、経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。 ・教材・課題提供型遠隔授業を、行います。 ・教科書と配布レジュメをよく読んで復習を行い、理解を進めていくこと。 ・レポート課題等の提出物は要提出、提出期限を厳守してください。 ・毎回レジュメを配布し・時事問題についても解説します
科目学習の効果（資格）	日々、刻々と変わるマーケットを理解できる可能性があります。 企業経営者の考え方が理解できる可能性があります。 中長期の経済トレンドを自ら予測し活動できる可能性があります。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	金融知力リテラシー習得の必要性	科学技術のイノベーションとグローバル化の急速な進展、結果として、様々な市場の変化により、学生諸君を取り巻く環境の変化を紹介し、自らのライフプランの中で「金融リテラシー（知力)」を身につけなければならない必要性を解説します。	少子高齢化問題・財政赤字に関する報道内容の整理確認
2	金融・経済の仕組み①	資産形成の前提となる経済の基礎的条件（ファンダメンタルズ）の知識を２回にわたって解説します。	経済用語等を理解し、経済記事を読みこなす様習慣を持つ
3	金融・経済の仕組み②	金利や金融政策など経済と金融のかかわり、世界経済・日本経済の実情とその将来を解説します。	金融政策全般の再確認
4	ライフプランニング①	ライフプランとは生涯生活設計といった意味で、自分と家族の生活プラン、暮らし方を表します。ライフデザインを描き、ライフプラン上の夢や希望をかなえるには、お金の問題が常に関わります。ライフイベント表・キャッシュフロー表作成の重要性を解説します。	自分の夢、今後の人生における最優先課題を考えてみる
5	ライフプランニング② キャッシュフロー表の作成	人生に不可欠な「三大資金」を理解し、ライフプラン実現のために必要な資金計画の大切さを解説します	自分の大学卒業までの学費、大学生の間の生活費について、自身で計算する
6	貯蓄型商品	預貯金などの貯蓄型商品の種類、特徴とリスク、金利について解説します。	金融機関の業態の理解に努める
7	リスクとリターンとは	投資は利益（リターン）をあげることを目的とする行為ですが、その利益は将来回収されるものであり、現時点では必ずしも確定していません。そのためにいろいろな可能性、逆にいえば不確実性があるということになります。”リスク”とはこの不確実性のことをいいます。リスクとリターンの関係、リスクマネジメントについて解説します。	自身の人生設計、今後就職される会社にもリスクリターンの考え方は通じる。派生的に考えてみる
8	アセットクラス※の基礎知識／株式（１）　（ＥＳＧ投資への展開含む）	上場、株式投資の魅力とリスク、取引の仕組みなどについて解説します。 ※アセットクラス：資産クラス、資産の種類のこと	媒体でのＥＳＧ投資に関する記事を確認 株式の模擬売買を経験する
9	アセットクラスの基礎知識／株式（２）	マーケット・企業分析株価は、会社の業績のほか、景気、為替相場、金利、需給関係、政治、国際情勢、天候等さまざまな要因によって日々、変動しています。企業の株価や経営効率を判断する投資指標、株価水準の割安・割高を判断する分析手法等について解説し、実際の株式投資や企業分析に役立つ手法を解説します。	企業の開示資料への理解を深める
10	アセットクラスの基礎知識／債券（１）　(SDG's 含む)	債券とは、国をはじめ、地方公共団体、政府関係機関、事業会社などが広く一般の投資者から、まとまった資金を調達す	財務省のＨＰで２０年度予算の概要を確認

			ることを目的として発行される証書です。債券の種類・特徴とリスク、”格付け”について学びます。	
	11	アセットクラスの基礎知識／債券（２）－ 金利と債券	前回に引き続き、債券投資の理解を深めます。債券の利率と利回り、債券価格と金利の関係について学びます。合わせて、現在のわが国の財政構造などの時事問題を理解してください。	債券の発行市場・流通市場への理解を深める
	12	アセットクラスの基礎知識／投資信託	投資信託の仕組みや特長、メリットとリスク、効率的な商品選択を紹介します。	銀行・証券の投資信託販売手法に批判存在。整理確認
	13	アセットクラスの基礎知識／外貨建て商品・証券化商品・ 外国為替取引・外貨建て商品・証券化商品	外貨建て商品・証券化商品・ 外国為替取引・外貨建て商品・証券化商品の解説します。	日々の為替の推移、変動要因をチェック
	14	ファイナンシャルプランニング、セーフティネット	これまで学んでいただいた「金融知力（リテラシー）」を総括して解説します。あわせて、金融資産の形成に欠かせないコストや優遇税制制度、預金保険制度などについて解説します。	自身の今後の人生での最優先課題、夢を今一度考えてみる
	15	講義総括･レポート課題の解説	レポート課題の解説と参考資料も提示します	レポート期限は厳守ください

関連科目	民法、会社法、経済学、国際経済、経営学、経営戦略、会計学　など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	金融経済と資産運用の基礎	日興リサーチセンター	星雲社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業の参加姿勢２０％ 理解度等を総合的に評価します。 ・レポート ：　８０％（レポート内容・実施時期は今後確定しますが、講義終了後のレポートを重視します）
学生への メッセージ	実務経験をベースとたし、マーケットメカニズムを、お伝えできればと考えています。 半年の授業に是非お付き合いください。 授業計画は変更される場合があります
担当者の 研究室等	11 号館１階（教務課）
備考	質問等は、下記メールで受け付けますが、一定の期間を要する場合があります yayoidai8603@gmail.com この講義は、ＳＭＢＣ日興証券グループによる「寄附講座」です。

科目名	暗号資産とデリバティブ	科目名（英文）	Cryptocurrency and Derivatives
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	林　正浩
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,P科：YT01423a2～YT01427a2,J科：JT01374a～1JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1,N科：NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	社会生活様式の激変から、ICT活用による距離と時間を短縮する社会システムが構築されつつある。その状況下において、通貨流通システムも新たな手法への導入が進んでいる。本講座は工学と経済学の融合科目として、暗号資産（仮想通貨）の汎用性の仕組みと課題、および金融ビジネスで普及が進むデリバティブ取引の基本的仕組みについて学ぶ。 【留意点】投機を目的とした仮想通貨の投機手法を学ぶ授業ではありません。 【担当教員実務経歴】 ・金融機関での経営企画、金融商品研究業務 ・ベンチャー投資財団での投資業務担当 ・監査法人での株式上場、業務監査 ・国立大学法人での教育指導（教授）および投資ファンド設立およびベンチャー事業設立指導
到達目標	時代の変遷に則した新たな金融手法、および決済手段の仕組みを学び、金融に係る様々なリスクの知識を得て、自ら将来の資産形成に向けた金融資産の多様性を理解する。また近い将来発行が予測されている「デジタル通貨」の活用とリスク対応についての理解度を高める。
授業方法と留意点	オンライン授業を実施します。 毎回の授業に係る資料等はTeamsの「日付」のチャネル内のファイルに、授業回の前週金曜日に格納しておきますので、各自、印刷準備の上、授業に参加して下さい。 毎回、授業内容に関するアンケート（設問）を提示します。当日の24時までに提出してもらいます。
科目学習の効果（資格）	これから社会人および消費生活者として必要な暗号資産の活用理解、およびデリバティブ金融商品のリスク、構造を理解した上での活用方法について会得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講座ガイダンス 決済手段とは？	講座ガイダンス（勉強方法・評価方法） 電子マネーの概念と暗号資産（仮想通貨）との比較	＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
2	暗号技術の概要	暗号資産の種類と暗号技術 アンケート設問による授業内容の再確認。	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
3	ビットコイン	ビットコイン型仮想通貨とは？ アンケート設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
4	ブロックチェイン	ブロックチェインとプルーフ・オブ・ワーク法の概念 アンケート設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
5	暗号資産をめぐる課題	議論体系と法律との関係 アンケート設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
6	暗号資産の事件簿	暗号資産と国際破綻 アンケート設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
7	デリバティブを知る	リスクヘッジと金融工学の世界。 アンケート設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
8	デリバティブ理論とは	デリバティブ理論の基本的な考え方 アンケート設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
9	投資とキャッシュフロー	キャッシュフロー現在価値の考え方 アンケート設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、(1時間)
10	株式のキャッシュフロー	株式のキャッシュフローモデルの考え方 アンケート設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
11	オプション取引	オプションとランダムウォークの基本的考え方 アンケート設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
12	ブラック＝ショールズモデル	投資手法の機械的考え方であるブラック＝ショールズモデルの仕組み アンケート設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
13	リスク管理	デリバティブリスクへの対応とは？ アンケート設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）

	14	投資戦略	イールドカーブの作り方 アンケート設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1 時間）
	15	総論	暗号資産、デリバティブ取引の将来性と課題整理。	＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1 時間）

関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	①毎回のアンケート設問に対する回答内容。なお回答は正解／不正解を問うものではありません。自身の考えを述べるとともにその結論に至った理由も記載すること（評価割合：50%） ②期末レポート（評価割合：50%）
学生への メッセージ	今後、身近な決済手段として利用が促進されるものであるからこそ、構造およびリスクについてしっかりと理解してもらいたい。 なお、投機（ギャンブル）目的で学ぼうと考えている方は、受講を止めて下さい。
担当者の 研究室等	11 号館 7 階 林研究室
備考	投機（ギャンブル）目的で学ぼうと考えている方は、受講を止めて下さい。

科目名	学びのデザイン論	科目名（英文）	Designing Learning
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	吉田　佐治子.梅原　聡
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,P 科：YT01423a2～YT01427a2,J 科：JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1,N 科：NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	体験型学習やサービスラーニング，PBL ではもちろんのこと，授業内でのグループワークやペアワークなど，他者と共に学ぶ機会は今後ますます増えていく。本授業は，他者と関わりながら学ぶ方法を体系的に学ぶことを目的とする。その際，他者の学びを助ける環境の作り手となる視点や，ピア・サポートの視点を取り入れる。 本授業を通して，他者との関わりに苦手意識を持つ学生や，グループワーク等の経験が少ない学生が，他者やグループワークを自分なりにバックアップできるようになることをも目指す。
到達目標	１．学びの現場での「私」の姿を捉え，再形成を試みることができる ２．他者，及びグループとの関係の中における学びの深め方に気づくことができる ３．体験型学習での学びの深め方に気づくことができる ４．大学での学び，及び体験型学習での学びへの関心が高まる
授業方法と留意点	講義と演習を組み合わせて行う。演習は，テーマに応じて個人ワーク／ペアワーク／グループワークを用い，適宜ディスカッションやプレゼンテーションの時間を設ける。各テーマのねらいは，以下の通りである。 【私】：学ぶ「私」の姿を捉える 【私とあなた】：他者との関わりの中で学習を深める方法を知る 【私とあなたたち】：グループの中で学習を深める方法を知る 【私たちと社会】：体験型学習の中で学習を深める方法を知る 【再び，私】：学ぶ「私」の姿を探す 受講生の細かな心情変化や，興味関心を大切
科目学習の効果（資格）	・主に「他の学生等との関わりの中で学ぶ姿勢」の認識・再形成を通じて，他の科目(体験型学習や PBL 等)で得られる学びの獲得・さらなる深化が期待できる。 ・他者と支え合いながら共に学ぶ視点や力の獲得を通じて，グループ(学習共同体)への関わりの中で得られる学びの獲得・さらなる深化が期待できる。 ・グループワーク等を用いる学習手法への動機付けを通じて，他の科目履修(体験型学習や PBL 等)への積極的な履修意欲・態度の形成が期待できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	【私】1：オリエンテーション／「私」と学び	「私」と学びの関係を，これまでの経験から振り返る	〈事前学習課題〉 ・次回授業内容について過去経験を顧みる中で私意を整理しておくこと(2 時間) 〈事後学習課題〉 ・小課題に取り組むこと(2 時間)
2	【私】２：学ぶ場面の「私」と他の場面での「私」	場面に応じて異なる顔を持つ「私」を捉える	〈事前学習課題〉 ・次回授業内容について過去経験を顧みる中で私意を整理しておくこと(2 時間) 〈事後学習課題〉 ・小課題に取り組むこと(2 時間)
3	【私とあなた】1：自己表現／コミュニケーション	自分の自己表現やコミュニケーションの特徴に気づく	〈事前学習課題〉 ・次回授業内容について過去経験を顧みる中で私意を整理しておくこと(2 時間) 〈事後学習課題〉 ・小課題に取り組むこと(2 時間)
4	【私とあなた】2：他者を正しく捉えるファシリテーション(1)	ファシリテーション技法の活用を通じて他者に対するバイアスを排除する方法に触れる	〈事前学習課題〉 ・次回授業内容について過去経験を顧みる中で私意を整理しておくこと(2 時間) 〈事後学習課題〉 ・小課題に取り組むこと(2 時間)
5	【私とあなた】3：他者を正しく捉えるファシリテーション(2)	ファシリテーション技法の活用を通じて他者の気づきを引き出す方法に触れる	〈事前学習課題〉 ・次回授業内容について過去経験を顧みる中で私意を整理しておくこと(2 時間) 〈事後学習課題〉 ・小課題に取り組むこと(2 時間)
6	【私とあなたたち】1：心理的安全性の場作り	誰もが安心して発言・行動できる環境デザインの手法に触れる	〈事前学習課題〉 ・次回授業内容について過去経験を顧みる中で私意を整理しておくこと(2 時間) 〈事後学習課題〉 ・小課題に取り組むこと(2 時間)
7	【私とあなたたち】2：他者の助けとなるピア・サポート	他者と深め合う・活かし合う関係性づくりやアクションに触れる	〈事前学習課題〉 ・授業内容の下調べ，及び学生同士でコミュニケーションしておくこと(2 時間) 〈事後学習課題〉 ・小課題に取り組むこと(2 時間)
8	【私とあなたたち】3：他者と学習を深めるワークショップ(1)	チーム内での合意形成・対立解消を促すコミュニケーション技法に触れる	〈事前学習課題〉 ・授業内容の下調べ，及び学生同士でコミュニケーションしておくこと(2 時間) 〈事後学習課題〉 ・小課題に取り組むこと(2 時間)
9	【私とあなたたち】4：他者と学習を深めるワークショップ(2)	チーム内での創造的発想・深化を促すコミュニケーション技法に触れる	〈事前学習課題〉 ・授業内容の下調べ，及び学生同士でコミュニケーションしておくこと(2 時間) 〈事後学習課題〉 ・小課題に取り組むこと(2 時間)
10	【私たちと社会】1：プロジェクトマネジメント	体験型学習・探求学習での学習法／プロジェクトデザインに触れる	〈事前学習課題〉 ・授業内容の下調べ，及び学生同士でコミュニケー

			ションしておくこと(2 時間) 〈事後学習課題〉 ・小課題に取り組むこと(2 時間)
11	【私たちと社会】2：プロジェクトラーニング(1)：チームビルディング	地域課題解決プロジェクト演習を通じて，協働意欲が高まる過程を体感する	〈事前学習課題〉 ・授業内容の下調べ，及び学生同士でコミュニケーションしておくこと(2 時間) 〈事後学習課題〉 ・小課題に取り組むこと(2 時間)
12	【私たちと社会】3：プロジェクトラーニング(2)：発散	地域課題解決プロジェクト演習を通じて，アイデアの発散過程を体感する	〈事前学習課題〉 ・授業内容の下調べ，及び学生同士でコミュニケーションしておくこと(2 時間) 〈事後学習課題〉 ・小課題に取り組むこと(2 時間)
13	【私たちと社会】4：プロジェクトラーニング(3)：収束	地域課題解決プロジェクト演習を通じて，アイデアの収束過程を体感する	〈事前学習課題〉 ・授業内容の下調べ，及び学生同士でコミュニケーションしておくこと(2 時間) 〈事後学習課題〉 ・小課題に取り組むこと(2 時間)
14	【私たちと社会】5：プロジェクトラーニング(4)：成果まとめ	地域課題解決プロジェクト演習を通じて，協働成果をまとめる過程を体感する	〈事前学習課題〉 ・授業内容の下調べ，及び学生同士でコミュニケーションしておくこと(2 時間) 〈事後学習課題〉 ・小課題に取り組むこと(2 時間)
15	【再び，私】：まとめ／「私」と学び	授業での経験から「私」と学びの関係を探る	〈事前学習課題〉 ・次回授業内容について過去経験を顧みる中で私意を整理しておくこと(2 時間) 〈事後学習課題〉 ・小課題に取り組むこと(2 時間)

関連科目	これまで学んできたこと，これから学ぶこと，すべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プレイフル・ラーニング:ワークショップの源流と学びの未来	上田 信行，中原 淳	三省堂
2	問いのデザイン:創造的対話のファシリテーション	安斎勇樹，塩瀬隆之	学芸出版社
3	対話型ファシリテーションの手ほどき	中田豊一	ムラのミライ

評価方法 （基準）	授業で提示する小課題 60%，レポート課題 40%
学生への メッセージ	本学では，様々な体験型学習が用意されています。本科目では，そうした科目を受講するための基本的な姿勢を身に付けていただきたいと思っています。特に他の学生を支えながら，共に学び進んでいく，そのような姿をイメージしています。“人見知り”だと思っている方，グループワークがどこか苦手だと思っている方にこそ，ぜひ受講していただきたいと思っています。他の学生との関わりやグループワーク等への不安を取り除き，楽しみながら取り組めるように進めていくので，気軽に受講して下さい。
担当者の 研究室等	吉田：７号館３階
備考	教科書は特に指定しない。必要に応じて授業内で資料を配布する。 詳しい授業方法・評価方法等については，第１回の授業時に説明する。 授業の進行に伴い，シラバスの組み替えや変更を行う場合がある。

科目名	SDGｓで読み解く淀川流域	科目名（英文）	The Yodo-gawa river region and SDGs
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	後藤　和子.赤澤　春彦.朝田　康禎.石田　裕子.郭　進.加嶋　章博.小林　健治.手代木　功基.鳥谷部　壌.中塚　華奈.増田　知也
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,P科：YT01423a2～YT01427a2,J科：JT01374a～1JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1,N科：NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	この科目は、琵琶湖の源流域から大阪湾までの淀川流域に着目し、人々の多様な暮らしや経済・文化・環境等について、SDGs の視点から学びを深め、、淀川流域の多様性と持続可能な発展を考える教養科目です。本科目は、今、多くの企業からも注目を集めている SDGs について、淀川流域を素材としながら、グローバルに考え行動するという社会人・企業人として必要な教養を身に付けることを目的とします。
到達目標	(1) 大阪をはじめとする関西地域の暮らしと密接な関わりを持つ淀川流域について、いかなる社会的課題が存在するかを、第三者に分かりやすく説明できる。 (2) SDGs について理解を深め、上記 (1) の社会的課題について、SDGs との関連性を説明できる。 (3) 地域のニーズや社会的課題を発見し、本講義で得られた知見を基に、その解決策を検討することができる。
授業方法と留意点	この授業では、摂南大学の近傍を流れる「淀川」の社会・歴史・文化・経済・環境等について、SDGs(2030 年までの世界の目標)との関連性を意識しながら、学部の垣根を越えて、地域の課題を学びます。 毎回の授業は、基本的に教科書に沿って行われます。なお、理解促進のために、必要に応じて、レジュメあるいは補足資料を配布します。
科目学習の効果（資格）	大学生に必要な教養の知識が身につき、それを基に地域の社会的課題について討議できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス―淀川流域のいま・過去・未来とＳＤＧｓ	科目全体のガイダンス(担当:後藤和子)	事前：教科書[序章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
2	巨椋池遊水地化構想による淀川流域の治水と環境保全	将来の淀川流域の洪水対策としてできることは何か？[関連SDGs １３・６](担当：石田裕子)	事前：教科書[第１章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
3	淀川左岸地域を中心とした水辺整備と流域連携活動	水辺を楽しく利用するためにはどうすればいいか？[関連 SDGs９・１７]（担当：石田裕子）	事前：教科書[第２章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
4	淀川流域の洪水対策	淀川上流に新たなダムは必要なのか？[関連SDGs７・１６]（担当：鳥谷部壌）	事前：教科書[第 14 章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
5	些細なことで豊かになる淀川流域の生活	なぜ人は水辺に集まるのか？[関連 SDG １５]（担当：小林健治）	事前：教科書[第５章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
6	淀川水系にみる文化と観光の経済学	文化と経済の相乗効果とは？[関連SDGs ３・１２]（担当：後藤和子）	事前：教科書[第６章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
7	地域資源としての淀川の記憶	淀川の風景遺産とは何だろう？[関連 SDG　１１]（担当：加嶋章博）	事前：教科書[第７章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
8	淀川流域の名所化と文化遺産	淀川流域の文化遺産をいかに活用すべきか？[関連SDG１１](担当:赤澤春彦)	事前：教科書[第８章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
9	所得格差と教育問題	淀川の左岸と右岸とでどう違う？[関連 SDGs１・４・１１]（担当：八木紀一郎）	事前：教科書[第９章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
10	都市農業の歴史的遺産と公益的機能	淀川流域の都市農業の特徴とは？[関連 SDG２]（担当：中塚華奈）	事前：教科書[第 10 章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
11	人口移動や通勤流動でみる地域経済	淀川は人の流れや経済にどのような影響を与えるのか？[関連 SDG５]（担当：朝田康禎）	事前：教科書[第 11 章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認 事後：講義内容の確認
12	産業連関分析	淀川流域における３市（門真市・寝屋川市・枚方市）の経済・産業構造はどう違うのか？[関連 SDGs８・９]（担当：郭進）	事前：教科書[第 12 章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
13	住民が主役の広報戦略	淀川流域の魅力を発信するにはどうすれば良いか？[関連 SDG１７]（担当：増田知也）	事前：教科書[第 13 章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
14	滋賀県朽木地域の森林利用の変遷	淀川源流の森はどのように変化してきたのか？[関連 SDG１５]（担当：手代木功基）	事前：教科書[第３章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
15	プラスチックごみの発生源抑制対策	大阪湾はお魚よりもプラスチックごみのほうが多いって本当？[関連 SDGs14・１2]（担当：鳥谷部壌）	事前：教科書[第４章]を読んでおくこと 事後：講義内容の総復習・レポート課題に取り組む

関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	（仮題）SDGs で読み解く淀川流域――近畿の水源から地球の未来を考えよう	後藤和子・鳥谷部壌編著	昭和堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	第２回目～15 回目までの授業内で実施される理解度確認（クイズ or 簡単な小レポートなど）（いずれも５点満点、14 回分で計 70 点）と、期末のレポート（30 点）の合計 100 点満点で評価する。なお、期末のレポートは、最終回の授業時に各担当教員によって提示される課題一覧の中から、

	いずれか１つを選択し、A4２枚程度のレポート作成に取り組む。
学生への メッセージ	今、企業や地方自治体からも注目を集め、全世界で取り組んでいる SDGs について、身近な地域を素材に一緒に考えましょう。就活や社会人となってからも、この経験はきっと役に立つはずです。他学部の教員から、多様な視点を学べるのも魅力です。
担当者の 研究室等	1 号館 7 階　後藤研究室
備考	SDGs の 17 の目標とその内容は次の通り。SDG1（貧困をなくそう）、SDG2（飢餓をゼロに）、SDG3（すべての人に健康と福祉を）、SDG4（質の高い教育をみんなに）、SDG5（ジェンダー平等を実現しよう）、SDG6（安全な水とトイレを世界中に）、SDG7（エネルギーをみんなに そしてクリーンに）、SDG8（働きがいも経済成長も）、SDG9（産業と技術革新の基盤をつくろう）、SDG10（人や国の不平等をなくそう）、SDG11（住み続けられるまちづくりを）、SDG12（つくる責任 つかう責任）、SDG13（気候変動に具体的な対策を）、SDG14（海の豊かさを守ろう）、SDG15（陸の豊かさも守ろう）、SDG16（平和と公正をすべての人に）、SDG17（パートナーシップで目標を達成しよう）。

科目名	脳の情報処理	科目名（英文）	Computing in Brain
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	寺内　睦博
ディプロマポリシー(DP)	V 科:Ⅱ◎R 科:A◎A 科:A◎M 科:A1○E 科:Ⅱ△C 科:Ⅱ◎L 科:DP2◎D 科:DP1◎S 科:DP1◎J 科:DP1◎W 科:DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,P 科：YT01423a2～YT01427a2,J 科：JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1,N 科：NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	人間の知的活動の中枢である脳における諸機能の理解を通して、認識、思考、判断、注意などの人間の諸活動に関わる基礎知識を獲得し、専門分野に活かす。
到達目標	脳における情報処理の基礎事項の理解とそれらを自身の生活に活かすこと。
授業方法と留意点	当面はリモート形式で実施しますが、状況により変更の可能性はあります。 初回の授業で、Teams の会議にて授業の受講方法についてアナウンスしますので、受講希望者は必ず参加してください。 毎回、関連映像を視聴し、講義内でミニッツペーパーおよび質問作成して提出する。復習のための課題レポートの提出を必要とする。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	脳について学習する上で知っておくべき用語や概念を説明する	課題レポートを仕上げる
2	脳の構造	大脳は頭部にある様々な器官と連携してはたらいている．それぞれの器官の構造と役割を概説する	課題レポートを仕上げる
3	学習: シナプスと可塑性	脳による認識・記憶・学習の基本となる神経細胞のシナプスにおける信号伝達の変化(可塑性)について概説する	課題レポートを仕上げる
4	視覚	感覚情報の大部分を占める視覚の情報処理について概説する	課題レポートを仕上げる
5	錯視・錯覚	認識戦略におけるわれわれの積極的な推測による副作用である錯視や錯覚から，人間の認識手法を知る	課題レポートを仕上げる
6	男女の脳	生理学的な脳の男女の差から男女の心理行動の違いについて考える	課題レポートを仕上げる
7	注意と選択	認識をはじめとする脳の情報処理は，意識の注がれるところに集中的に作用する．その現象を説明する	課題レポートを仕上げる
8	聴覚と言語	コミュニケーションや情緒の表現に使用される音楽や音声の取扱いの違いや意味の取扱いが，いかになされるかを概説する	課題レポートを仕上げる
9	感覚の連合	複数の感覚からひとつの概念が形成されることを情報の流れを通じて説明する	課題レポートを仕上げる
10	運動	大脳のさまざまな部位での情報処理と小脳および周辺器官の連携による，運動の生成および運動の学習について概説する	課題レポートを仕上げる
11	思考と推論	高度に発達した人間の特徴のひとつである思考と推論について概説する	課題レポートを仕上げる
12	構造と認知	ゲシュタルト心理等の構造の知覚および認知について概説する	課題レポートを仕上げる
13	記憶	大脳と辺縁系による記憶の定着と再現のしくみについて概説する	課題レポートを仕上げる
14	人間関係	人間の社会性における自他の区別や共通性，自我や感情について脳の機能を中心に考える	課題レポートを仕上げる
15	総括	まとめ	期末試験に向けて復習する

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	MIND HACKS	Tom Stafford, Matt Webb	オライリー・ジャパン
2			
3			

評価方法（基準）	ミニッツペーパー等の平素の活動を含めた授業態度と課題レポート 60%、試験 40% を総合して判断する。
学生へのメッセージ	誰もが有しており、最も身近な未知の高度情報処理機構である脳について、さまざまな角度から見ていきましょう。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　寺内研究室
備考	本人確認のため、メールで連絡する場合には大学のアドレスから送信してください。

科目名	使えるデータサイエンス	科目名（英文）	Useful Data Science
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊藤　譲
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,P 科：YT01423a2～YT01427a2,J 科：JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1,N 科：NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	これからの社会では実務のさまざまな場面でデータを適切に扱い、分析するデータサイエンスのスキルが重視される。データサイエンスのスキルはどの分野でも重要視されている「情報を扱う力」であり、すべての学生が対象となる。 ビジネスの現場では顧客情報の分析による、商品開発やサービスの提案などにおける意思決定プロセスなどでも大きな力を発揮する。これからの進路を決めたり、日常の行動で判断にも役立つものとなる。 本科目では理系・文系に関わらず大学生から社会人において役立つデータ収集と分析スキルを基礎から学べる状況を作り、さらに AI を含む実践的な応用についても多方面の事例を通じてわかりやすく学ぶ。
到達目標	この講義の到達目標は以下の通りである。 （１）現代社会でのデータサイエンスの重要性と限界を説明できる （２）データサイエンスのために必要な EXCEL 等汎用ソフトの基礎的な操作法を身に付けている （３）インターンシップや卒業研究レベルのデータ分析の手順が設計できる
授業方法と留意点	本科目ではすべての学部学生が興味を持てるように、心理学、経済学、工学、教育学などの多方面の教員によるオムニバス形式で講義、演習を行う。実際に PC を操作してデータ収集、データ分析を行うため、毎回の出席が必要である。授業時間以外にも利用できるオンラインコンテンツ（履修者のみがアクセス可能）を使って、データサイエンスの利用シーンやビジネスに繋がる知識も学ぶ。 また、本科目では【履修学生を５０人に限定】し、有償の e-Learning 教材を提供する。
科目学習の効果（資格）	社会で役立つ実践的なデータ処理能力、AI を活用する力、卒業研究、調査報告書作成、分析ソフトウェアの操作

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	データサイエンスが必要とされる理由(オリエンテーション)	開講にあたってのポイント説明、受講生の期待調査、 Society 5.0 時代のデータの価値について C 科　伊藤教授、S 科　牧野准教授、久保准教授	e-Learning 教材:「第 1 回　データサイエンスとは」
2	データ活用の最新事例	データサイエンスを学ぶためのハード、ソフト両面の説明、AI を前提とした社会のあり方 S 科　久保准教授	e-Learning 教材:「第 2 回　社会で起きている変化」
3	データ分析の準備	Excel によるデータ整理、基本統計量からわかる事柄 S 科　牧野准教授	e-Learning 教材：「第 9 回　データを読む（1）」
4	Excel でできるデータ分析	ピボットテーブルの有効活用 CEI　寺内准教授	e-Learning 教材：「第 11 回　データを説明する」
5	Excel でできる統計分析	データの関係がわかる関数 S 科　橋本講師	e-Learning 教材：「第 10 回　データを読む（2）」
6	オープンデータの収集と活用	RESAS（地域経済分析システム）によるオープンデータの分析 W 科　植杉教授	e-Learning 教材：「第 3 回　社会で活用されているデータ」
7	Excel で行える高度な分析	Excel によるオープンデータの研究活動への活用方法 W 科　朝田准教授	e-Learning 教材：「第 12 回　データを扱う」
8	商品企画につながる分析実習	統計分析ソフトウェア（SPSS)によるデータ整理 S 科　牧野准教授	e-Learning 教材：「第 6 回　データ活用とは」
9	優良顧客を見つける方法	SPSS による統計分析の実習 S 科　牧野准教授	e-Learning 教材:「第 4 回　データ･AI の活用領域」
10	データから相性を評価する	ビジネスデータ分析の実際 S 科　牧野准教授	e-Learning 教材：「第 13 回　データ・AI を扱う上での留意事項（1）」
11	スマホでできるアンケート調査	GoogleForms の便利な使い方 S 科　牧野准教授	e-Learning 教材：「第 14 回　データ・AI を扱う上での留意事項（2）」
12	社会の動きを見るデータ	経済社会データベース（学術データ）の便利な使い方	e-Learning 教材：「第 14 回　データ・AI を扱う上での留意事項（2）」
13	ロボティクスで利用されるデータ	ロボットを動かすデータ処理 E 科　片田准教授	e-Learning 教材：「第 7 回　データ・AI 利活用の現場」
14	普段の SNS 利用から法則を見つける	ノート PC によるフィールドワークノートづくり S 科　久保准教授	e-Learning 教材：「第 8 回　データ・AI 利活用の最新動向」
15	データサイエンスの知識を今後に活かす	スモールグループディスカッション（ELSI、データの活用、人間中心の新しい社会） C 科　伊藤教授、CEI　石井教授、S 科　牧野准教授、S 科　久保准教授	e-Learning 教材:「第 15 回　データを守る上での留意事項とまとめ」

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	AI・データサイエンス　～リテラシーレベル～	三谷慶一郎	

		e-learning 教材（受講者のみ利用可能）		
	2			
	3			

評価方法 （基準）	授業での課題　50%、e-Learning 教材　40%、事前事後の学修進展度（アンケート）　5%、学修ノート　5%、以上を総合して 60%以上を合格とする。なお、無断欠席が 20%以上の場合は成績評価の対象外とするので注意すること。
学生への メッセージ	商品企画や心理テスト、世論調査などわたしたちの普段の生活でデータは分析され、活用されています。みなさんが「自分の専門」プラス「データサイエンス」の力をつけると大きな可能性が拓けます。日常生活から研究活動、ビジネスの現場でも活用できるデータサイエンスを総合大学ならではの環境で学びましょう。
担当者の 研究室等	1 号館 3 階 伊藤教授室、11 号館 7 階 久保准教授室、牧野准教授室、11 号館 10 階 寺内准教授室、11 号館 8 階 橋本講師室、1 号館 7 階 植杉教授室、朝田准教授室、1 号館 4 階 片田准教授室、7 号館 5 階 石井教授室
備考	

科目名	キャリアデザインⅠ（ＢＡＳＩＣ）	科目名（英文）	Career Planning I(Basic)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	上野山　裕士
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TCA1445a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、 １）就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 ２）基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 3)専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 ４）講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。 ようになることが期待される。 SDGs.4-4 SDGs.8-6
到達目標	１）摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 ２）社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 ３）調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	講義では資料を熟読したうえで課題に取り組む必要があるため、積極的な態度で受講すること。 授業方法の変更など、重要な連絡事項は Teams を通じて行うため、かならず内容を確認してください。
科目学習の効果（資格）	社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ようこそ、摂南大学へ	・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとはなにか？なぜ必要なのか？ ・公と私について考える	・自分にとって“キャリアデザイン”とはなにかを考えること(事前：0.5 時間)
2	さぁ始めよう！大学生活を	・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身につける	・大学で学ぶ意味について考えること(事前：0.5 時間)
3	摂大学	・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学のなかにある「機会」について知る ・アセスメントを実施する	・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること ・大学のなかにある「機会」の活用の仕方を考えること(事後：0.5 時間) ・講義で課された課題に取り組むこと(事後:2 時間)
4	自己効力感を高めよう	・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション	・設定された個人ワークに取り組むこと(事後：２時間)
5	SDGs について考えよう グループ課題の設定	・SDGs に対する理解を深める ・ブループワーク ・グループで工程管理を考える	・SDGs とはなにかについて予習をしておくこと(事前：0.5 時間) ・グループで課題に取り組むこと(2 時間)
6	社会は君を待っている	・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える	・社会で求められる人材について考えること(事後：0.5 時間)
7	社会の仕組み①	・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える	・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(事後：0.5 時間)
8	社会の仕組み②	・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション	・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(事後：0.5 時間)
9	自分づくり①	・自分の良いところを 20 個挙げる ・ペアワーク	・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(事前：１時間)
10	自分づくり②	・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学４年間の目標設定	・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること(事後：0.5 時間)
11	スケジューリング術	・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる	・社会人基礎力を実践する方法を考えること(事後：0.5 時間)
12	ビブリオバトル①	・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する	・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(事前：１時間)
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	・プレゼンテーションの準備をすること(事前：１時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後：0.5 時間)
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	・プレゼンテーションの準備をすること(１時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後：0.5 時間)
15	講義のおさらい	・講義４で行った個人ワークの振り返り ・講義の振り返り	・夏休み以降の大学生活の目標を考えること(0.5 時間) ・期末レポートを作成すること(1.5 時間)

関連科目	キャリアデザインⅡ 、インターンシップ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	グループワーク（20%）、授業参加度（30%）、レポート（50%）を総合的に評価する。
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階 教育イノベーションセンター（上野山） ※現在 7 号館工事中のため、11 号館 11 階が仮研究室となります。
備考	必要に応じて授業内でレジュメを配布する。

科目名	キャリアデザインⅠ（ＢＡＳＩＣ）	科目名（英文）	Career Planning I(Basic)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中川　浩一
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TCA1445a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生は、 １）就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 ２）基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 ３)専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 ４）講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。 ことが期待される。 なお、講義は担当講師の人材・教育業界での業務及び起業経験を活かした内容も含まれる。 SDGs.4-4 SDGs.8-6
到達目標	１）摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 ２）社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 ３）調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	講義では資料を熟読した上で課題に挑まなければならないので、積極的な態度で受講すること。 今学期はTeamsを使ってグループワークを行うこともある。
科目学習の効果（資格）	社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ようこそ、摂南大学へ	・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か、またなぜ必要なのかについて考える ・公と私について考える	・自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること(0.5時間)
2	さぁ始めよう！大学生活を	・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける	・大学で学ぶ意味について考えること(0.5時間)
3	摂大学	・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・先輩の話を聴く	・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること ・大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること ・講義で課された課題に取り組むこと(2時間)
4	自己効力感を高めよう	・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション	・設定された個人ワークに取り組むこと(２時間)
5	グループ課題の設定	・グループワーク（インタビュープロジェクト）の目的を理解する ・社会人としてのマナーを学ぶ ・グループで工程管理を考える	・グループで課題に取り組むこと(2時間)
6	社会は君を待っている	・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える	・社会で求められる人材について考えること(0.5時間)
7	社会の仕組み①	・GDPから見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える	・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(0.5時間)
8	社会の仕組み②	・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション	・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(0.5時間)
9	自分づくり①	・自分の良いところを１００挙げる ・ペアワーク	・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(１時間)
10	自分づくり②	・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学４年間の目標設定	・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること(0.5時間)
11	スケジューリング術	・社会人基礎力を理解する ・PDCAサイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる	・社会人基礎力を実践する方法を考えること(0.5時間)
12	ビブリオバトル①	・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する	・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(１時間)
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	・グループ内のプレゼンテーションの内容をまとめること(1.5時間)
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	・プレゼンテーションの準備をすること(２時間)
15	夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい	・学びのプランニング ・講義の振り返り	・夏休み以降の大学生活の目標を考えること(１時間)

関連科目	キャリアデザインⅡ 、キャリアデザインⅢ 、インターンシップⅠ 、インターンシップⅡ エンプロイメントデザイン Ⅰ、エンプロイメントデザインⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	各回の課題レポート（55%）、最終レポート（45%）で総合的に評価する。
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階 教育イノベーションセンター（上野山） 7 号館 3 階 教育イノベーションセンター（水野）
備考	１．必要に応じて授業内でレジュメを配布する。

科目名	キャリアデザインⅠ（ＢＡＳＩＣ）	科目名（英文）	Career Planning I(Basic)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	上野山　裕士
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TCA1445a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、 １）就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 ２）基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 ３)専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 ４）講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。 ようになることが期待される。 SDGs.4-4 SDGs.8-6
到達目標	１）摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 ２）社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 ３）調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	講義では資料を熟読したうえで課題に取り組む必要があるため、積極的な態度で受講すること。 授業方法の変更など、重要な連絡は Teams を通じて行うため、かならず内容を確認してください。 また、初回の参加学生数を踏まえ、所属学科別での開講に変更します。
科目学習の効果（資格）	社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ようこそ、摂南大学へ	・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとはなにか？なぜ必要なのか？ ・公と私について考える	・自分にとって“キャリアデザイン”とはなにかを考えること(事前：0.5 時間)
2	さぁ始めよう！大学生活を	・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身につける	・大学で学ぶ意味について考えること(事前：0.5 時間)
3	摂大学	・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学のなかにある「機会」について知る ・アセスメントを実施する	・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること ・大学のなかにある「機会」の活用の仕方を考えること(事後：0.5 時間) ・講義で課された課題に取り組むこと(事後:2 時間)
4	自己効力感を高めよう	・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション	・設定された個人ワークに取り組むこと(事後：２時間)
5	SDGs について考えよう グループ課題の設定	・SDGs に対する理解を深める ・ブループワーク ・グループで工程管理を考える	・SDGs とはなにかについて予習をしておくこと(事前：0.5 時間) ・グループで課題に取り組むこと(2 時間)
6	社会は君を待っている	・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える	・社会で求められる人材について考えること(事後：0.5 時間)
7	社会の仕組み①	・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える	・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(事後：0.5 時間)
8	社会の仕組み②	・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション	・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(事後：0.5 時間)
9	自分づくり①	・自分の良いところを 20 個挙げる ・ペアワーク	・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(事前：１時間)
10	自分づくり②	・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学４年間の目標設定	・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること(事後：0.5 時間)
11	スケジューリング術	・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる	・社会人基礎力を実践する方法を考えること(事後：0.5 時間)
12	ビブリオバトル①	・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する	・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(事前：１時間)
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	・プレゼンテーションの準備をすること(事前：１時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後：0.5 時間)
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	・プレゼンテーションの準備をすること(１時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後：0.5 時間)
15	講義のおさらい	・講義４で行った個人ワークの振り返り ・講義の振り返り	・夏休み以降の大学生活の目標を考えること(0.5 時間) ・期末レポートを作成すること(1.5 時間)

関連科目	キャリアデザインⅡ 、インターンシップ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	グループワーク（20%）、授業参加度（30%）、レポート（50%）を総合的に評価する。
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階 教育イノベーションセンター（上野山） ※7 号館が工事中のため、現在は 11 号館 11 階におります
備考	必要に応じて授業内でレジュメを配布する。

科目名	キャリアデザインⅠ（ＢＡＳＩＣ）	科目名（英文）	Career Planning I(Basic)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中川　浩一
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TCA1445a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生は、 １）就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 ２）基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 ３)専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 ４）講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。 ことが期待される。 なお、講義は担当講師の人材・教育業界での業務及び起業経験を活かした内容も含まれる。 SDGs-4.4, 8.6
到達目標	１）摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 ２）社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 ３）調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	講義では資料を熟読した上で課題に挑まなければならないので、積極的な態度で受講すること。 今学期は Teams を使ってグループワークを行うこともある。
科目学習の効果（資格）	社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ようこそ、摂南大学へ	・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か、またなぜ必要なのかについて考える ・公と私について考える	・事前学修：自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること（１時間） ・事後学修:キャリアデザインがなぜ必要かをまとめ、「公と私」いついて考えること（２時間）
2	さぁ始めよう！大学生活を	・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける	・事前学修:大学で学ぶ意味について考えること（１時間） ・事後学修:各受講科目のノートを整理すること（３時間）
3	摂大学	・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・先輩の話を聴く	・事前学修：摂大生として、HP の建学の精神と教育理念を理解すること HP の（２時間） ・事後学修：大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること（２時間）
4	自己効力感を高めよう	・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション	・事前学修：設定された個人ワークに取り組むこと（２時間） ・事後学修：学生生活の目標を再度考えること（２時間）
5	グループ課題の設定	・グループワークの目的を理解する ・社会人としてのマナーを学ぶ ・グループで工程管理を考える	・事前学修：グループワークに必要なことを考えること（１時間） ・事後学修：グループで課題に取り組むこと（３時間）
6	社会は君を待っている	・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える	・事前学修：社会で求められる人材について考えること（１時間） ・事後学修：社会で求められる能力について考えること（３時間）
7	社会の仕組み①	・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える	・事前学修：GDP について調べること（１時間） ・事後学修：経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること（３時間）
8	社会の仕組み②	・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション	・事前学修：税金について調べること（１時間） ・事後学修：配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること（３時間）
9	自分づくり①	・自分の良いところを１００挙げる ・ペアワーク	・事前学修：自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと（２時間） ・事後学修：長所を伸ばすための自分の言動について考えること（２時間）
10	自分づくり②	・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学４年間の目標設定	・事前学修:大学へ入学した目的をを考えること（２時間） ・事後学修：学生としての自分の目標を再確認すること（２時間）
11	スケジューリング術	・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる	・事前学修：社会人基礎力を調べること（１時間） ・事後学修：社会人基礎力を実践する方法を考えること（３時間）
12	ビブリオバトル①	・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する	・事前学修：他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと（３時間） ・事後学修：自分が選択した本に関して、よりまとめておくこと（１時間）
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	・事前学修：グループのプレゼンテーションの準備をすること。（３時間） ・事後学修：発表グループの良かった点、改善点をまとめること（１時間）
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	・事前学修：グループのプレゼンテーションの準備をすること（３時間） ・事後学修：発表グループの良かった点、改善点を

				まとめること（１時間）
	15	夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい	・学びのプランニング ・講義の振り返り	・事前学修：キャリアデザインを振り返ること（１時間） ・事後学修：夏休み以降の大学生活の目標を考えること（３時間）

関連科目	キャリアデザインⅡ 、キャリアデザインⅢ 、インターンシップⅠ 、インターンシップⅡ エンプロイメントデザイン Ⅰ、エンプロイメントデザインⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	各回の課題レポート（55%）、最終レポート（45%）で総合的に評価する。
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階 教育イノベーションセンター（上野山）
備考	１．必要に応じて授業内でレジュメを配布する。 ２．ミニレポートや最終課題を除くレポートは採点した後に、講義内で返却する。

科目名	キャリアデザインⅡ（ＡＤＶＡＮＣＥ）	科目名（英文）	Career Planning II(Advanced)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本　朗子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング	Ｖ科・Ｒ科・Ａ科・Ｍ科・Ｅ科・Ｃ科：TCA1446a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報から的確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考えるようになることが期待される。 講義は担当者の実務経験を元に議論を進行することもある。 SDGs.4-4 SDGs.8-6
到達目標	将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。
授業方法と留意点	講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。 （10月まで講義はWeb（Teams）によるリアルタイム講義） 11月5日より対面授業で実施。
科目学習の効果（資格）	来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法	・大学生活１年目で経験したことを思い出しておくこと(事前：１時間) ・配布したレジュメを見直すこと(事後：0.5時間)
2	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	・人はなぜ働くのかについて仕事をしている一にインタビューしててまとめ、グループ討議の準備をしておくこと(事後：２時間)
3	社会を知る②	・課題「働く人を取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション	・グループ討議の内容を振り返ること(0.5時間)
4	社会を知る③	・視点/視座/視野の使い方事例を知る ・業種・職種の概念を理解する ・川上～川下の概念の理解	・配布資料を読み返し、どのような業種・業界があるか調べること(事後：0.5時間)
5	社会を知る④	・会社・業種・職種を理解する ・付加価値について考える	・配布資料を見直し、どのような職種・会社があるのか調べること(0.5時間)
6	自分を知る①	・特性と心がけ、自己PRの組み立て方を学ぶ	・自身の特性について考えること(事前：0.5時間) ・配布資料を見直し、自らの強みについて考えること(事後1時間)
7	自分を知る②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える	・自身の学生生活を振り返ること(事前：0.5時間) ・配布資料を見直し、今後の学生生活の過ごし方を考えること(0.5時間)
8	自分を高める①	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の習慣について振り返ること(事後：0.5時間)
9	自分を高める②	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の取り組むべきことについて考えること(事後：0.5時間)
10	自分を高める③	・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ	・講義の内容を日常生活で実践すること(1.5時間)
11	自分を知る③	・モチベーションについて理解する ・自身のやる気の源泉を理解する	・自身の「やる気が出る時と出ない時」の差について考える(事前：0.5時間) ・自身の「やる気の源泉」を言語化すること(0.5時間)
12	社会を知る⑤	・ライフイベントを考える ・ライフイベントにかかる費用を知る。	・配付資料を見直し、自らの将来について考えること(0.5時間)
13	自分を高める⑤	・講義⑨⑩⑪の実践報告の共有と発表	・発表及びグループ討議の準備をしておくこと(事前：１時間)
14	社会を知る⑥	・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方を考える	・日本を取り巻く課題につて調べること(事前：0.5時間)
15	授業のおさらい	・講義のおさらい	・課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと(0.5時間)

関連科目：キャリアデザインⅠ・Ⅲ、インターンシップ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	グループワーク（20%）、授業参加度（30%）、レポート（50%）を総合的に評価する。
学生への	来たるべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加す

メッセージ	ること。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階　教育イノベーションセンター
備考	毎回の授業レポートなどは Teams より提出（対面授業移行後も同様）

科目名	ビジネスマナー	科目名（英文）	Business Manners
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	奥田　和子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,P 科：YT01423a2～YT01427a2,J 科：JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1,N 科：NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。 企業等のビジネス組織において積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性とそれを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。 ホテル実務経験者として、対人技能やコミュニケーションスキルの重要性を伝え、また経営士としての観点から人間関係について話をします。
到達目標	クリエイティブなビジネスパースンとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求し、「わかることからできること」への一致を目標とする。
授業方法と留意点	配布する資料をもとに授業を展開する。毎回、事前学修・事後学修課題の提出があるのできちんと取り組むこと。
科目学習の効果（資格）	社会人としての第一歩を踏み出すための素養が身に付く。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション ーあいさつの重要性(理論と実践)	・授業のオリエンテーション ・授業のルール ・あいさつの真の意味とは ・正しい基本姿勢を学ぶ	・事前学修：ビジネスマナーとは何かを考える。 ・事後学修：ビジネスマナーとは何か、400 字でまとめる。
2	仕事の進め方と組織活動	・定型業務と非定型業務 ・コスト意識とエコ活動 ・仕事の基本の８つの意識 ・話し方と聞き方	・事前学修：企業のエコ活動について調べる。 ・事後学修：仕事とは何か、まとめる。
3	目標設定と PDCA サイクル	・目標設定（MBO） ・PDCA とは ・チームと個人の役割	・事前学修：PDCA について調べる。 ・事後学修：あなたの日常生活における MBO と PDCA を考え、まとめる（400 字以上）。
4	スケジュールと出張業務	・スケジュールの作り方 ・業務としての出張-YTT 方式-	・事前学修：あなたの１週間予定表を作成する。 ・事後学修:あなたの予定表作成について振り返り、まとめる。
5	ビジネスの場での敬語表現	・基本的な敬語表現の復習 ・ビジネスの場での使用方法-TPO をもとに-	・事前学修：敬語プリント①をする。 ・事後学修：ケーススタディプリントをする。
6	電話応対	・ビジネスフォンの扱い方 ・5W2H から 6W3H へ ・簡潔メモの作り方 ・不在処理と伝言	・事前学修：電話応対プリントをする。 ・事後学修：ロールプレイングを繰り返す。
7	来客応対	・組織図と対応 ・簡単な応対から不在処理や重複処理まで ・名刺交換 ※対面授業に切り替え	・事前学修：来客応対プリント①をする。 ・事後学修：来客対応プリント②をする。
8	ホウ・レン・ソウ	・ビジネスにおける「報連相」 ・指示の受け方 ・業務の優先順位	・事前学修：報告・連絡・相談の重要性について調べる ・事後学修：ロールプレイングを繰り返す。敬語プリント②をする。
9	ビジネス文書の基本①	・社外文書が基本 ・商取引文書と社交文書の相違 ・社内文書と社外文書の種類 ・ファイリング	・事前学修：ビジネス文書始める前にをする。 ・事後学修：ビジネス文書②をする。
10	ビジネス文書の基本②	・実践	・事前学修：ビジネス文書③をする。 ・事後学修：ビジネス文書④をする。
11	ビジネス通信の基本	・通信手段（電子メール、ファックス等）の選択 ・作成上の注意点 ・郵便・宅配便の知識	・事前学修：郵便の知識プリント①をする。 ・事後学修：メール文書を作成する。
12	法的業務	・押印と印鑑の意味 ・内容証明 ・個人情報保護（P マーク） ・コンプライアンス	・事前学習：コンプライアンスについて調べる。 ・事後学修：個人情報保護法についてレポートを作成する、(400 字以上)
13	設営の基本	・YTT 方式からの業務遂行 ・確認の必要性 ・他部署とのコミュニケーションの必要性	・事前学修：同窓会幹事として同窓会を開くことを想定し、おこなうべきことをまとめる。 ・事後学修：設営事例をまとめる。
14	慶弔と贈答	・慶弔時の基本的マナー ・「式」について ・業務としての贈答	・事前学修：慶弔・贈答プリント①をする。 ・事後学修：弔・贈答プリント②をする。
15	協働とコミュニケーション	・外国人同僚・異文化への対応 ・働き方とキャリア開発 ・公共の場でのマナー	・事前学修：グローバル社会へ対応するためには何が必要かについて考える。 ・事後学修：共生関係について自らの考えをまとめる。

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	毎回のワーク（事前学修、事後学修等）（50%）、期末試験レポート課題（50%）を総合的に判断する。 出席不良者（欠席６回以上）は評価できないことがある
学生への メッセージ	近年、企業等のビジネス組織では、かつての新入社員研修のような研修制度を充実できるほどの経済的・時間的余裕がなくなった。しかしながら、企業等のビジネス組織ではみなさんの「ビジネス実務能力」が問われている。それは一時的な能力ではなく、学生時代から培うことのできる能力や資質であり、みなさんが意識を変え、学ぶことによって、「わかることからできること」の一致の重要性が理解され、社会人としての第一歩を築くことも可能となる。
担当者の 研究室等	７号館５階　キャリア教育推進室（石井）
備考	予習・復習に毎回２時間以上取り組むこと。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とする。

科目名	SDGs に学ぶ世界の課題	科目名（英文）	Learning Global Issues from SDGs
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大塚　正人.久保　廣正.白鳥　武.田中　鉄二
ディプロマポリシー(DP)	V 科:Ⅱ◎R 科:A◎A 科:A◎M 科:A1○E 科:Ⅱ△C 科:Ⅱ◎L 科:DP2◎D 科:DP1◎S 科:DP1◎J 科:DP1◎W 科:DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,P 科：YT01423a2～YT01427a2,J 科：JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1,N 科：NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	この科目は，学部の枠を越えた教養応用科目で，大学教養入門・実践のステップアップの講座としての位置づけられています. 科目のテーマである SDG s （持続可能な開発目標）とは，国連が定めた 2030 年までに達成を目指す 17 の目標で，わが国でもビジネス界のキーワードのひとつになっています. つまり，この科目は SDG s の全体像を主体的に学ぶ，本格的なアクティブラーニング型教養科目です．反転学習により獲得した基礎知識をグループワーク，ＡＢＤと振り返りにより生きた知識として定着させます．さらに，経済学，環境工学，建築学，農学のその分野の第一人者の講義・問題提起から討議を深め，獲得した知識を生きた教養として身に付けることができます．このような流れを通じて，大学生として必要な，SDGs を理解するための教養（特に，社会，経済，環境等）を身につけ，その知識をもとに考え，自分の意見を持ち，討議ができるようになります.
到達目標	(1)世界の目標 SDGs(2030 年までの世界の目標)について知り，説明と討議をすることができる. (2)現代世界の課題について知り、SDGs との関係を説明することができる. (3)課題に対して、自ら主体的に取り組むことができる. (4)自分やチームの考えが効果的に伝わるプレゼンテーションをすることができる.
授業方法と留意点	ABD 読書法と様々な ICT ツールを活用するなど，アクティブラーニングの手法を駆使するので，極めて密度の高い授業となります．授業開始時には，事前学習における知識の定着を確認するため，ICT ツールによるクイズ，ミニプレゼンを行い，中盤から後半部で各テーマをとりあげます．学生は解説時にはメモをとり，主としてグループワークにより課題に取り組みます．授業最後には，振り返りシートに授業のふりかえりをまとめます．また，授業資料はフラットファイルを用いて管理してもらいます. 学生は対面授業かオンライン授業を選択して
科目学習の効果（資格）	社会課題を議論するための教養として SDGs（2030 年までの世界の目標）を知る．自分たちが未来を創る主体であると感じられるようになる．ABD による SDGs の主体的学び、各分野における第一人者によるテーマの解説、多様なメンバーとの討論により、自分の考えを持ち、討論ができるようになる.

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、授業の進め方	事前アンケート 科目の特徴、どのような力が身につくのかを知る CHAP１を協働でサマリ作成体験 リレープレゼン 振り返りシート	事後：CHAP１を復習して、復習シートを作成する
2	SDGs とは何か	理解度確認テスト CHAP2 リレープレゼン、対話 SDGs カードゲーム 振り返りシート	事前：CHAP2 を学び、ABD サマリを作成する
3	SDGs とは何か	理解度確認テスト CHAP3 リレープレゼン、対話 リレープレゼン、対話 振り返りシート	事前：CHAP３を学び、ABD サマリを作成する
4	気候変動に関する諸問題１	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 理解度確認テスト、振り返りシート	事前１：目標 13 を学び，ABD サマリを作成する 事前２：下記動画を視聴し，要点を 300 字程度にまとめる. ・環境省「気候変動への挑戦　セクション１　地球温暖化とは」 https://www.youtube.com/watch?v=URSj7PA_ZwY ・環境省「気候変動への挑戦　セクション１　地球温暖化の現状と予測」 https://www.youtube.com/watch?v=JyF0a_Fo3Nk
5	気候変動に関する諸問題２	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 理解度確認テスト、振り返りシート	事前１：目標 14，15 を学び，ADB サマリを作成する 事前２：下記動画を視聴し，要点を 300 字程度にまとめる. ・環境省「気候変動への挑戦　セクション１　温暖化の影響へ適応するために」 https://www.youtube.com/watch?v=vQ2scQfpmkw
6	地球共生デザインを考えるⅠ：少数民族を巡る地球共生阻害問題群を考える～その１	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 理解度確認テスト、振り返りシート	事前１：目標 16、10（特に 10.2,10.3）、5（特に 5.1,5.2）、6（特に 6.3、6.6）、11（11.1,11.2）を学び，ADB サマリを作成する 事前 2：以下の動画、資料等から複雑に絡み合った「負の連鎖」を理解し、複数の阻害問題の相互関係を俯瞰し、図にまとめてみること。 https://www.youtube.com/watch?v=kDz6h8ZhhnQ
7	地球共生デザインを考えるⅡ：少数民族を巡る地球共生阻害問題群を考える～その２	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 理解度確認テスト、振り返りシート	事前１：目標 16、10（特に 10.2,10.3）、4（特に 4.5,4.7）、6（特に 6.3、6.6）、11（11.1,11.2）を学び，ADB サマリを作成する 事前 2：以下の動画、資料等から複雑に絡み合った「負の連鎖」を理解し、複数の阻害問題の相互関係を俯瞰し、図にまとめてみること。 https://www.ff-ainu.or.jp/web/learn/culture/history/files/syougakusei.pdf
8	日本の食文化１	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート	事前１：目標 2、3 を学び、ABD サマリを作成する。 事前２：日本の食文化１の動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。
9	日本の食文化２	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前１：CHAP3 を学び、ABD サマリを作成する。 事前２：日本の食文化２の動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。
10	中間成果発表	理解度確認テスト プレゼンテーション 対話 振り返りシート	事前１：ポスターの準備 事後：第１回レポート
11	食糧安全保障１	理解度確認テスト	事前１：目標２（2.4,2.c）を学び、ABD サマリを作成する

		SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前２：食料安全保障とバイオ燃料の関連性を理解する。(※日本語字幕を選択する。) The State of Food Security and Nutrition in the World 2020 : https://www.youtube.com/watch?v=64KLuGzGxEQ&ab_channel=FoodandAgricultureOrganizationoftheUnitedNations Introduction t
	12	食糧安全保障２	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート	事前１：目標：2 (2.4,2.c) を学び、ABD サマリを作成する 事前２：フードロスとその日本の現状について理解する。 （※日本語字幕を選択する。） REDUCE THE FOOD LOSS : https://www.youtube.com/watch?v=6Orb07dGHNQ&ab_channel=Cauz.jp, London's rubbish problem : https://www.youtube.com/watch?v=ccR2zK6yn8o&ab_channel=BBCLondon
	13	SDGs と ESG 投資１	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート	事前１：目標:8,9,12,17 を学び、ABD サマリを作成する 事前２：ESG 投資とは何かを理解する。 https://www.youtube.com/watch?v=IZJSFYtfCFE https://www.youtube.com/watch?v=9oIVX_sD76c
	14	SDGs と ESG 投資１	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前１：CHAP5 を学び、ABD サマリを作成する 事前２：SDGs 達成にために ESG 投資が果たす役割について理解する。 https://www.youtube.com/watch?v=VnCeFZYVPY8&t=436s https://www.youtube.com/watch?v=f71tA61EpUc 事後：第２回レポート
	15	成果発表	理解度確認テスト 全体を通しての学びの整理、共有、 プレゼンテーション、振り返り 事後アンケート	事前：SDGs1-17 の復習

関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「SDGs の考え方と取り組みが、これ一冊でしっかりわかる教科書」(1680 円＋税)	バウンド	技術評論社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	・理解度確認クイズ（個人：10%） ・事前・事後学習課題・ABD サマリ（個人：15%） ・取組み姿勢（チーム：20%） ・成果発表・プレゼンテーション２回（チーム：20%） ・振り返りシート（個人：10%）、・レポート２回（個人：20%）、・授業資料管理（個人：5%） ※以上の合計で 60%以上の学生を合格とする。また、出席率 80%未満は成績評価の対象としない。期末試験は実施しない。
学生への メッセージ	この授業では，摂南大学のすべての学生が，学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います．この授業を履修することで，大学生として SDGs 実現のために必要な幅広い教養，コミュニケーション力，ファシリテーション力，学習方法が身に付き，さらに学部，学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう．
担当者の 研究室等	大塚教授（薬学部 11 号館 5F)、久保副学長（７号館８F)、伊藤教授（１号館３F)、喜多教授（農学部１８号館２F)、白鳥准教授（１２号館７階)、佐藤准教授（１号館３F)、田中講師（１号館７F)、横山講師（総合体育館１F)
備考	この科目はアクティブラーニング入学式～キックオフセミナー～大学教養入門～大学教養実践からつながる科目で，教養を身につけながら学習法を修得することを目指しています．

科目名	SDGs に学ぶ世界の課題	科目名（英文）	Learning Global Issues from SDGs
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大塚　正人.久保　廣正.白鳥　武.田中　鉄二
ディプロマポリシー(DP)	V 科:Ⅱ◎R 科:A◎A 科:A◎M 科:A1○E 科:Ⅱ△C 科:Ⅱ◎L 科:DP2◎D 科:DP1◎S 科:DP1◎J 科:DP1◎W 科:DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,P 科：YT01423a2～YT01427a2,J 科：JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1,N 科：NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	この科目は，学部の枠を越えた教養応用科目で，大学教養入門・実践のステップアップの講座としての位置づけられています. 科目のテーマである SDG s （持続可能な開発目標）とは，国連が定めた 2030 年までに達成を目指す 17 の目標で，わが国でもビジネス界のキーワードのひとつになっています. つまり，この科目は SDG s の全体像を主体的に学ぶ，本格的なアクティブラーニング型教養科目です．反転学習により獲得した基礎知識をグループワーク，ＡＢＤと振り返りにより生きた知識として定着させます．さらに，経済学，環境工学，建築学，農学のその分野の第一人者の講義・問題提起から討議を深め，獲得した知識を生きた教養として身に付けることができます．このような流れを通じて，大学生として必要な，SDGs を理解するための教養（特に，社会，経済，環境等）を身につけ，その知識をもとに考え，自分の意見を持ち，討議ができるようになります.
到達目標	(1)世界の目標 SDGs(2030 年までの世界の目標)について知り，説明と討議をすることができる. (2)現代世界の課題について知り、SDGs との関係を説明することができる. (3)課題に対して、自ら主体的に取り組むことができる. (4)自分やチームの考えが効果的に伝わるプレゼンテーションをすることができる.
授業方法と留意点	ABD 読書法と様々な ICT ツールを活用するなど，アクティブラーニングの手法を駆使するので，極めて密度の高い授業となります．授業開始時には，事前学習における知識の定着を確認するため，ICT ツールによるクイズ，ミニプレゼンを行い，中盤から後半部で各テーマをとりあげます．学生は解説時にはメモをとり，主としてグループワークにより課題に取り組みます．授業最後には，振り返りシートに授業のふりかえりをまとめます．また，授業資料はフラットファイルを用いて管理してもらいます. 学生は対面授業かオンライン授業を選択して
科目学習の効果（資格）	社会課題を議論するための教養として SDGs（2030 年までの世界の目標）を知る．自分たちが未来を創る主体であると感じられるようになる．ABD による SDGs の主体的学び、各分野における第一人者によるテーマの解説、多様なメンバーとの討論により、自分の考えを持ち、討論ができるようになる.

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、授業の進め方	事前アンケート 科目の特徴、どのような力が身につくのかを知る CHAP１を協働でサマリ作成体験 リレープレゼン 振り返りシート	事後：CHAP１を復習して、復習シートを作成する
2	SDGs とは何か	理解度確認テスト CHAP2 リレープレゼン、対話 SDGs カードゲーム 振り返りシート	事前：CHAP2 を学び、ABD サマリを作成する
3	SDGs とは何か	理解度確認テスト CHAP3 リレープレゼン、対話 リレープレゼン、対話 振り返りシート	事前：CHAP３を学び、ABD サマリを作成する
4	気候変動に関する諸問題１	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 理解度確認テスト、振り返りシート	事前１：目標 13 を学び，ABD サマリを作成する 事前２：下記動画を視聴し，要点を 300 字程度にまとめる. ・環境省「気候変動への挑戦　セクション１　地球温暖化とは」 https://www.youtube.com/watch?v=URSj7PA_ZwY ・環境省「気候変動への挑戦　セクション１　地球温暖化の現状と予測」 https://www.youtube.com/watch?v=JyF0a_Fo3Nk
5	気候変動に関する諸問題２	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 理解度確認テスト、振り返りシート	事前１：目標 14，15 を学び，ADB サマリを作成する 事前２：下記動画を視聴し，要点を 300 字程度にまとめる. ・環境省「気候変動への挑戦　セクション１　温暖化の影響へ適応するために」 https://www.youtube.com/watch?v=vQ2scQfpmkw
6	地球共生デザインを考えるⅠ：少数民族を巡る地球共生阻害問題群を考える～その１	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 理解度確認テスト、振り返りシート	事前１：目標 16、10（特に 10.2,10.3）、5（特に 5.1,5.2）、6（特に 6.3、6.6）、11（11.1,11.2）を学び，ADB サマリを作成する 事前 2：以下の動画、資料等から複雑に絡み合った「負の連鎖」を理解し、複数の阻害問題の相互関係を俯瞰し、図にまとめてみること。 https://www.youtube.com/watch?v=kDz6h8ZhhnQ
7	地球共生デザインを考えるⅡ：少数民族を巡る地球共生阻害問題群を考える～その２	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 理解度確認テスト、振り返りシート	事前１：目標 16、10（特に 10.2,10.3）、4（特に 4.5,4.7）、6（特に 6.3、6.6）、11（11.1,11.2）を学び，ADB サマリを作成する 事前 2：以下の動画、資料等から複雑に絡み合った「負の連鎖」を理解し、複数の阻害問題の相互関係を俯瞰し、図にまとめてみること。 https://www.ff-ainu.or.jp/web/learn/culture/history/files/syougakusei.pdf
8	日本の食文化１	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート	事前１：目標 2、3 を学び、ABD サマリを作成する。 事前２：日本の食文化１の動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。
9	日本の食文化２	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前１：CHAP3 を学び、ABD サマリを作成する。 事前２：日本の食文化２の動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。
10	中間成果発表	理解度確認テスト プレゼンテーション 対話 振り返りシート	事前１：ポスターの準備 事後：第１回レポート
11	食糧安全保障１	理解度確認テスト	事前１：目標２（2.4,2.c）を学び、ABD サマリを作成する

		SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前２：食料安全保障とバイオ燃料の関連性を理解する。(※日本語字幕を選択する。) The State of Food Security and Nutrition in the World 2020 : https://www.youtube.com/watch?v=64KLuGzGxEQ&ab_channel=FoodandAgricultureOrganizationoftheUnitedNations Introduction t
	12	食糧安全保障２	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート	事前１：目標：2 (2.4,2.c) を学び、ABD サマリを作成する 事前２：フードロスとその日本の現状について理解する。 （※日本語字幕を選択する。） REDUCE THE FOOD LOSS : https://www.youtube.com/watch?v=6Orb07dGHNQ&ab_channel=Cauz.jp, London's rubbish problem : https://www.youtube.com/watch?v=ccR2zK6yn8o&ab_channel=BBCLondon
	13	SDGs と ESG 投資１	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート	事前１：目標:8,9,12,17 を学び、ABD サマリを作成する 事前２：ESG 投資とは何かを理解する。 https://www.youtube.com/watch?v=IZJSFYtfCFE https://www.youtube.com/watch?v=9oIVX_sD76c
	14	SDGs と ESG 投資１	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前１：CHAP5 を学び、ABD サマリを作成する 事前２：SDGs 達成にために ESG 投資が果たす役割について理解する。 https://www.youtube.com/watch?v=VnCeFZYVPY8&t=436s https://www.youtube.com/watch?v=f71tA61EpUc 事後：第２回レポート
	15	成果発表	理解度確認テスト 全体を通しての学びの整理、共有、 プレゼンテーション、振り返り 事後アンケート	事前：SDGs1-17 の復習

関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「SDGs の考え方と取り組みが、これ一冊でしっかりわかる教科書」(1680 円＋税)	バウンド	技術評論社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	・理解度確認クイズ（個人：10%） ・事前・事後学習課題・ABD サマリ（個人：15%） ・取組み姿勢（チーム：20%） ・成果発表・プレゼンテーション２回（チーム：20%） ・振り返りシート（個人：10%）、・レポート２回（個人：20%）、・授業資料管理（個人：5%） ※以上の合計で 60%以上の学生を合格とする。また、出席率 80%未満は成績評価の対象としない。期末試験は実施しない。
学生への メッセージ	この授業では，摂南大学のすべての学生が，学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います．この授業を履修することで，大学生として SDGs 実現のために必要な幅広い教養，コミュニケーション力，ファシリテーション力，学習方法が身に付き，さらに学部，学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう．
担当者の 研究室等	大塚教授（薬学部 11 号館 5F)、久保副学長（７号館８F)、伊藤教授（１号館３F)、喜多教授（農学部１８号館２F)、白鳥准教授（１２号館７階)、佐藤准教授（１号館３F)、田中講師（１号館７F)、横山講師（総合体育館１F)
備考	この科目はアクティブラーニング入学式～キックオフセミナー～大学教養入門～大学教養実践からつながる科目で，教養を身につけながら学習法を修得することを目指しています．

科目名	まちづくり入門	科目名（英文）	introduction to Urban Planning
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	久保　貞也
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,P科：YT01423a2～YT01427a2,J科：JT01374a～1JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1,N科：NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	これからの社会において「まち」の役割は重要になっている。まちを発展、維持していくために行政、団体、民間企業などさまざまな主体が計画を立て、課題を克服する活動を続けている。さらに今後は市民、学生が新たな担い手として期待されている。本講義では文理それぞれの観点から講演者を招き実践的な活動について知るとともに、大学の幅広い学術的知見を活用して摂南大学生が貢献するまちづくりの在り方を学び、検討を行う。
到達目標	（1）まちづくりの課題を多面的に理解できる （2）大学生が行えるまちづくりの可能性と限界を理解する （3）主体性と責任を持ってまちづくりに参加する知識と意識を持っている
授業方法と留意点	本授業ではまちづくりに関係する多才な講師によって構成される。行政経験者、民間での実務経験、コンサルティング経験者、および、市民活動の主催や支援、社会貢献の実行者などがそれぞれの専門的知見から「まちづくりとはなにか」を講義する。毎回の授業に予習と復習のための主体的な学びを設定する。
科目学習の効果（資格）	学生として大学の知識、技術を総動員して地域問題解決に当たる気持ちを涵養する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	大学がまちづくりに関わる意義	オリエンテーション 教務部長　C科　伊藤教授	事前：シラバスを読み、自分にとっての学修ポイントを検討する 事後：学修ポイントに合った計画の提出
2	国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり（1）	社会変化とまちづくり 大手前大学　坂倉孝雄　准教授（前 経済産業省）	授業担当者から指示する
3	国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり（2）	都市計画とまちづくり C科　熊谷教授	授業担当者から指示する
4	国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり（3）	交通とまちづくり 京阪ホールディングス枚方プロジェクト推進室　部長　大浅田 寛 氏 他	授業担当者から指示する
5	国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり（4）	都心とまちづくり 大阪市立大学大学院都市経営研究科 佐藤 道彦 教授 （元堺市副市長、元大阪市都市計画局長）	授業担当者から指示する
6	民間団体が関わるまちづくり（1）	産業とまちづくり W科　野長瀬教授	授業担当者から指示する
7	民間団体が関わるまちづくり（2）	商業とまちづくり S科　久保准教授	授業担当者から指示する
8	民間団体が関わるまちづくり（3）	空き家とまちづくり R科　稲地准教授	授業担当者から指示する
9	民間団体が関わるまちづくり（4）	観光とまちづくり W科　野村教授	授業担当者から指示する
10	市民（大学生）が関わるまちづくり（1）	まちづくりの担い手としての市民 J科　増田講師	授業担当者から指示する
11	市民（大学生）が関わるまちづくり（2）	福祉とまちづくり CEI　上野山講師	授業担当者から指示する
12	市民（大学生）が関わるまちづくり（3）	文化資源とまちづくり L科　古矢講師	授業担当者から指示する
13	市民（大学生）が関わるまちづくり（4）	歴史・文化とまちづくり A科　加嶋教授	授業担当者から指示する
14	市民（大学生）が関わるまちづくり（5）	防災とまちづくり A科　池内教授	授業担当者から指示する
15	大学生がまちづくりで担う役割	グループ発表、討論会 教務部長　C科　伊藤教授	事前：これまでの講義の振り返り 事後：振り返りレポート

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	各回の事後レポート
学生へのメッセージ	ソーシャル・イノベーションを成立させるためには広い視野と深い洞察が必要となります。受講生による総合大学の社会貢献活動が実践的なものになるように多面的に学修してください。
担当者の研究室等	1号館3階 伊藤教授室、1号館4階 熊谷教授室、11号館7階 久保准教授室
備考	

科目名	チームビルディング	科目名（英文）	Team Building
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野　武
ディプロマポリシー(DP)	V 科:Ⅱ◎R 科:A◎A 科:A◎M 科:A1○E 科:Ⅱ△C 科:Ⅱ◎L 科:DP2◎D 科:DP1◎S 科:DP1◎J 科:DP1◎W 科:DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,P 科：YT01423a2～YT01427a2,J 科：JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1,N 科：NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	成熟社会においては個人の力を集合させてプロジェクトを作り上げる「チームビルディングの思考や技術」を学ぶことが重要である。 本科目はチームビルディングの理論を学び、様々なアクティビティを通してチームに貢献する方法を考えられるようになるための授業である。 ２回生以降に摂南大学 PBL プロジェクトを履修する際にも役立つ。 なお、講義は担当者の実務経験に基づいて議論を進めることもある。 学科の学習・教育目標との対応：工学部[A], 理工学部 [II]
到達目標	チームで物事を進める際に必要な知識が理解出来るようになり、技能を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	講義は受講生によるアクティビティ・プレゼンテーション・グループワークなどを織り交ぜて進める。 なお、講義は対面講義と Teams によるリアルタイム講義の同時進行で行う。 各自の事情や希望に合わせて受講形式を選択すること（受講形式固定する必要はない）。 対面講義で受講する場合は初回の教室で、Teams で受講する場合は　9pwmqp6　からクラスに入り、講義日のチャネルから受講すること。 また、対面とウェブのそれぞれの人数の状況を確認してからチーム分けを実施する。
科目学習の効果（資格）	チームで物事を進める際の基礎知識が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の進め方 ・なぜチームが必要なのかを知る ・チームビルディングとは何か　を理解する	事前学習：本科目のシラバスを精読し、自身が学びたいことをまとめること（２時間） 事後学修：講義で配付された資料を見直すこと（２時間）
2	グループ分けを自己紹介	・グループ分け ・自己紹介ワーク	事前学習：自己紹介の内容を考えること（２時間） 事後学修：チームにどのように貢献できるかを考える。（２時間）
3	チームビルディングの理論を学ぶ	・チームビルディングの理論を学ぶ	事後学修：講義資料を熟読すること（２時間）
4	チームビルディング体験①	・コンセンサスゲーム ・チームの１０箇条	事前学習：自身のチームへの貢献の仕方について考えること（２時間） 事後学習：自身のチームへの貢献の内容を振り返ること（２時間）
5	チームビルディング体験②	チームで推理クロスに挑む	事前学習：自身のチームへの貢献の仕方について考えること（２時間） 事後学修：自身のチームへの貢献の内容を振り返る（２時間）
6	チームにおけるリーダーとフォロワーの役割	・リーダーシップとフォロワーシップを学ぶ ・メンバーを支援するための質問術、傾聴術を身につける	事前学習：今で出会ったリーダーについて思い出し、レポートを作成すること（２時間） 事後学習：講義資料を熟読し、自身のリーダーシップの発揮の仕方について考えること（２時間）
7	話し合う技術①	・GD に関する知識を学ぶ	事後学修：講義で身につけた知識を日常生活で試してみること（３時間）
8	話し合う技術②	・議論を進めるためのファシリテーション術を学ぶ	事後学習：講義で身につけた知識を日常生活で試してみること（３時間）
9	組織で学習するためのチームづくり	・チームを機能させるために必要な要素を学ぶ	事前学修：チームにどのように貢献できるかを考えること（２時間） 事後学修：講義で配付された資料を見直すこと（２時間）
10	情報の読み取りと活用	・チームで改善計画を考える	事後学習：講義資料を熟読すること（２時間）
11	1 チームで課題解決に挑む	・チームでニッポンの課題の解決策を考える	事前学修：チームにどのように貢献できるかを考えること（２時間） 事後学修：講義で配付された資料を見直すこと（２時間）
12	チームで企画する	・チームで学生提案の PBL プロジェクトを企画する	事前学習：摂南大学 PBL プロジェクトについて調べること（２時間） 事後学修：チームでワークに取り組むこと（５時間）
13	チームでワークに取り組む①	・チームで地域創生のワークに取り組む	事後学修：チームで発表をする準備をすること（３時間）
14	チームでワークに取り組む②	・チームで地域創生のワークに取り組む	事後学修：チームで発表をする準備をすること（３時間） 事後学修：自チームの発表内容、及び他チームの発表を振り返ること(2 時間)
15	講義のまとめと振り返り	講義のおさらいと振り返りを行う	事前学修提出物などの出し忘れがないか確認する。(1 時間) 事後学修：講義全体を振り返ること（２時間）、期末レポートを作成すること（４時間）

関連科目	・「ソーシャル・イノベーション副専攻科目過程」の科目 ・キャリアデザインⅠ・Ⅱ、摂南大学 PBL プロジェクト、ソーシャルイノベーション実務総論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

<table>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>チームでの提出物 20%、チームへの貢献度とワーク後の振り返りシート 30%、個別課題 10%、最終レポート 40%　で総合的に評価する。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>ワークやアクティビティを織り交ぜる授業となるので、主体性を持って講義に挑むこと。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>教育イノベーションセンター（水野研究室）</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>・参考とする書籍、文献は適宜提示する。</td></tr>
</table>

科目名	ダイバーシティとコミュニケーション	科目名（英文）	Diversity and Communication
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井　三恵
ディプロマポリシー(DP)	V 科:Ⅱ◎R 科:A◎A 科:A◎M 科:A1○E 科:Ⅱ△C 科:Ⅱ◎L 科:DP2◎D 科:DP1◎S 科:DP1◎J 科:DP1◎W 科:DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,P 科：YT01423a2～YT01427a2,J 科：JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1,N 科：NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、 １）グローバル社会では、日本人の従来の常識では予測のつかない疑問点が溢れていることを知る。 ２）「境界線」も一つの視野では理解できないことをわかる。 ３）さまざまな差異を理解するためには、ダイバーシティ（多様性）を尊重し、受け入れ、積極的に活かすことが大切であることを事例を通して学ぶ。 ４）ジェンダーの基本的理解はもちろん、ビジネスにおけるダイバーシティマネジメントをジェンダー視点で俯瞰する。 容認することが期待される。 なお、講義は担当講師の民間企業社員、自治体職員として業務経験及び、NPO 法人の理事、高等教育での教育ならびに経営の経験を活かした内容も含まれる。 SDGs-5
到達目標	ダイバーシティ理解に欠かせないコミュニケーション手法の一つであるアサーティブネス理論を中心に理解を促進させ、そのスキルを学ぶことによって社会生活に活かすことを目標とする。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。
科目学習の効果（資格）	・ダイバーシティマネジメントにおける社員教育の在り方を理解することができる。 ・2019 年度までの入学生で「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」を取得希望者にとっては、「アドバンスト科目」の「共通」分野に位置している科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・ダイバーシティの世界へようこそ ・政策提言へ向けて	・事前学修：ダイバーシティに関して、調べること（１時間） ・事後学修：身近なダイバーシティに対する気づきに関してレポートを作成すること（３時間）
2	ダイバーシティと境界線	・ウチとソトの感覚	・事前学修：私たちの周りにある伝統や習慣について考えること（２時間） ・事後学修：「ウチとソト」に関するレポートを作成をすること（２時間）
3	ジェンダー視点	・フェミニズム×女性学＋男性学＝人間学 ・時代を生きた女性たち６名に関して調査	・事前学修：フェミニズムの歴史的背景を理解し、近年話題のエコフェミニズムについて調べること（２時間） ・事後学修：活躍した女性たちに関してグループで文献調査し、まとめること（２時間）
4	日本の近代化	・明治の落とし物 ・グループで時代を生きた女性たちに関するプレゼンテーション	・事前学修：明治・大正・昭和の歴史年表を作成すること（２時間） ・事後学修：明治・大正・昭和の世相と時代を文学の世界から垣間見ることによって、現代にも残存している慣習に関してレポートを作成すること（２時間）
5	国際統計比較	・ジェンダーギャップ ・ジェンダーエンパワーメント指数	・事前学修：国際的統計から、日本の置かれた位置を確認し、何が問題であるか考えること（２時間） ・事後学修：国際的統計から理解できたことに関してレポートを作成すること（２時間）
6	性役割の形成	・発達段階における「刷り込み」 ・DV/デート DV ・結婚と母性信仰 ・妊娠と出生前診断 ・優生保護法と母体保護法 ・「親になること」と「親であること」の相違	・事前学修：性役割を理解し、幼児期から振り返ること（２時間） ・事後学修：中間発表用レポート作成（２時間）
7	中間発表	・興味のあるテーマに関して、個人発表を行う。	・事前学修：中間発表準備（２時間） ・事後学修：中間発表レポート手直し（２時間）
8	「らしさ」とセクシャル・ポリティクス	・M 字型労働力率曲線とビジネスマインドの形成 ・格差と二極分化	・事前学修：日本と世界を比較しながら、女性労働について考えること（２時間） ・事後学修：M 字型労働力率曲線の底を上げるための提言レポートを作成すること（２時間）
9	男女共同参画社会とワークライフバランス	・ジェンダーマネジメント ・働き方改革	・事前学修：ワークライフバランスとは何か、政府の見解を調べること（２時間） ・事後学修：ワークライフバランスが必要な理由をまとめ、レポートを作成すること（２時間）
10	アサーティブネス理論①	・世界中でアサーティブネスが用いられる理由	・事前学修：アサーティブネスについて調べること（２時間） ・事後学修:アサーティブに話す練習をすること（２時間）
11	アサーティブネス理論②	・スキルの必要性を理解し、身に付けることを試みる	・事前学修：アサーティブネス理論を実生活に活かす事例を考えること（２時間） ・事後学修：アサーティブネス理論を使うことによる自身の変化についてレポートを作成すること（２時間）
12	リプロダクティブ・ヘルス＆ライツ	・リプロの正しい意味を理解する ・リプロの歴史と現状の課題を確認する	・事前学修：リプロの意味と現状を調べる（２時間） ・事後学修：一つの課題を発見し、その解決策の提

		・DV、デート DV について現状を理解する	案についてまとめ、レポートを作成すること（２時間）
13	ダイバーシティマネジメント①	・企業比較から政策提言へ	・事前学修：企業が必ず取り入れているダイバーシティマネジメントについて、事例研究すること（２時間） ・事後学修：興味のある企業のダイバーシティマネジメントに関してダイバーシティの視点からの政策提言に関するレポートを作成すること（２時間）
14	ダイバーシティマネジメント②	・政策提言プレゼンテーション ・自由討議	・事前学修：事例研究した内容をプレゼンテーションできるよう練習すること（２時間） ・事後学修：事例研究した内容をより上手くプレゼンテーションできるよう練習すること（２時間）
15	まとめ	・最終レポート提出 ・まとめ	・事前学修：ダイバーシティ・マネジメントについて述べられるようまとめること（２時間） ・事後学修：ダイバーシティ・マネジメントが必要である理由について述べられるようまとめること（２時間）

関連科目

「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンス科目」の「共通」分野に位置している科目である。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	共に学ぶ女性学	石井三恵	泉文堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ジェンダーで学ぶ社会学	伊藤公男	世界思想社
2	よくわかるジェンダー・スタディーズ	木村 涼子 他	ミネルヴァ書房
3	性と法律	角田 由紀子	岩波新書

評価方法（基準）

ロールプレイ（20%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（50%）を総合的に評価する。

学生へのメッセージ

皆さんの身近に存在している不思議を解き明かすカギが女性学、フェミニズム、ジェンダー論、そしてダイバーシティにあります。私たちは生まれも育ちも異なることから考え方も異なるように、外国の方にもにそれが当てはまり、みな同じ問題を抱えています。社会的弱者と呼ばれる私たちの身近な事例を通して、人としての生きる権利とは何かを考えてみませんか。

担当者の研究室等

７号館５階　教育イノベーションセンター（石井）

備考

予習・復習に毎回２時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とする。

科目名	グローバル・シチズンシップ論（入門）	科目名（英文）	Global Citizenship (Introductory)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	鳥居　祐介
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,P科：YT01423a2～YT01427a2,J科：JT01374a～1JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1,N科：NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	グローバル・シチズンシップ副専攻課程修了のための必修科目である。当該副専攻課程を履修する最初の学期に履修することが望ましい。 受講者は、グローバル・シチズンシップ(GC)およびグローバル・シチズンシップ教育(GCED)の基礎的な概念を理解し、これらの概念が必要とされるに至ったグローバルな歴史的背景と、現在まで続く課題について、基礎的な知識を獲得する。また獲得した知識と理解について、日本語および簡単な英語でアウトプットできるようになることを目指す。 この授業は、GC と GCED に＜ついて＞の授業であると同時に、授業自体が GCED の一環である。GCED では、一方的な講義ではなく、受講生の自発的な調査と対話による学びが重視される。受講生には、この授業を通じて GCED を体験的に学びつつ、自らが GCED のファシリテーターとなり、この授業の内外で GCED の実践者となってゆく姿勢が求められる。
到達目標	・　「グローバル・シチズンシップ」および「グローバル・シチズンシップ教育」が現在の国際社会においてどのように定義づけられているか、なぜそうした概念や教育活動が必要とされるようになったのかを説明できる。 ・背景にある国境を越えた社会課題について、具体例をいくつか挙げながら説明できる。 ・事前に準備をすれば、上記の説明を日本語だけでなく、平易な英語を用いて行うことができる。
授業方法と留意点	・いわゆる「実習」ではなく、知識と理解を身につけることを主目標とする授業であるが、アクティブ・ラーニングは GCED の根幹である。教員からの一方向の情報伝達は最小限に留め、受講する学生が自ら資料を読み、考え、他の学生および教員と対話しながら知識をつけ、理解を深めてゆく。学生には、自律的な予習と復習、情報検索やファクトチェック、ディスカッションと質疑への積極的な参加が求められる。 ・教員によるファシリテーション、学生の質疑やディスカッションなどは原則として日本語で行うが、GC 副専攻の海外実習や EMI(Eng
科目学習の効果（資格）	TOEIC、TOEFL、IELTS、英検、国連英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション（1）	オリエンテーション、受講上の注意、スケジュール確認ほか	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
2	イントロダクション（2）	チーム・ビルディング	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
3	イントロダクション（3）	「グローバル・シチズンシップ」の概念について、テキスト概観	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
4	グローバル・シチズンシップと人権、政治的権利（1）	市民性(citizenship)、主権者教育(citizenship education)	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
5	グローバル・シチズンシップと人権、政治的権利（2）	人権(human rights)、世界人権宣言(Universal Declaration of Human Rights, 1948)、SDGs、政治弾圧(repression)、難民(refugees, asylum seekers)	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
6	グローバル・シチズンシップと人権、政治的権利（3）	政治的権利(political rights)、参政権(suffrage, voting rights)、反植民地主義運動(anti-colonial movements)、アイデンティティ政治(identity politics)	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
7	グローバル・シチズンシップと経済的権利（1）	経済的権利(economic rights)、労働問題(labor issues)、公正かつ平等な賃金（fair and equal wages)	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
8	グローバル・シチズンシップと経済的権利（2）	児童労働(child labor)、人身売買(human trafficking)	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
9	グローバル・シチズンシップと経済的権利（3）	企業利益(corporate interests)、オフショアリング(offshoring)、アウトソーシング(outsourcing)	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
10	グローバル・シチズンシップと文化（1）	グローバル化(globalization)、均質化(homogenization)、文化的権利(cultural rights)、多様性(diversity)、ハイブリディティ(hybridity)、摩擦(conflict)、ナショナリズム(nationalism)	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
11	グローバル・シチズンシップと文化（2）	日本における外国人労働者(foreign workers)、技能実習生(technical intern trainees)、難民(refugees)、留学生(international students)、日本語教育、多文化共生(multicultural symbiosis)	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
12	グローバル・シチズンシップと文化（3）	多様性(diversity)、多文化主義(multiculturalism)、普遍的人権(universal human rights)	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
13	グローバル・シチズンシップと環境問題　ゲスト・レクチャー（1）	問題解決への事例　（1）西アフリカ半乾燥地での砂漠化とその対処法 関連するキーワード：砂漠化（desertification)、土地荒廃（land degradation）、貧困削減（poverty alleviation）、異常気象／極端気象(extreme weather)、水不足(water scarcity)	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
14	グローバル・シチズンシップと環境問題　ゲスト・レクチャー（2）	問題解決への事例（2）東アフリカ山間地域における人々の暮らしの向上と生態系保全の両立 関連するキーワード：森林破壊	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。

		（deforestation）、土地荒廃（land degradation）、貧困削減（poverty alleviation ）、生物多様性（biodiversity）	
15	総括	授業全体の振り返りワーク	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。

関連科目

グローバル・シチズンシップ論（応用）、グローバル・シチズンシップ海外実習（入門）、グローバル・シチズンシップ海外実習（応用） 、Topics in Global Citizenship（EMI）、摂南大学PBLプロジェクトＩなど

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Global Citizenship: Engage in the Politics of a Changing World 【※注意　この教科書は大学のブックセンターで取扱いません。担当教員の指示する方法で購入して下さい。不明の時は教員まで連絡して下さい】	Julie Knutson	Nomad Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

平常評価　８０％　（小テスト、平常の提出物、グループワークや質疑への貢献を総合的に評価する）
プレゼンテーション課題　２０％　（作成過程を含む）

学生へのメッセージ

グローバル・シチズンシップ副専攻、今年度より本格始動します。価値ある学びの場を一緒につくりましょう。

担当者の研究室等

２号館２階グローバル教育センター

備考

指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックにかける時間、自発的な英語のトレーニングや、グローバル教育センター主催の学習イベントに参加する時間等も全て合算し、週平均で４時間程度、総計で６０時間程度の授業外学修時間を確保すること。

科目名	グローバル・シチズンシップ論（応用）	科目名（英文）	Global Citizenship (Advanced)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	鎌田　美保
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,P 科：YT01423a2～YT01427a2,J 科：JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1,N 科：NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	グローバル・シチズンシップ副専攻課程修了のための必修科目である。グローバル・シチズンシップ論（入門）履修後に履修することが望ましい。 本科目はグローバル・シチズンシップ論（入門）で学んだ知識や概念等をもとに、日本国内における社会課題（多文化共生、外国人労働者、SDGｓなど）に焦点を当て、グローバルとローカルのつながりについて学ぶものである。授業自体がグローバル・シチズンシップ教育の一環であり、受講者自身が授業を通じ体験的に学び、実践者として行動していく姿勢が求められる。
到達目標	・日本国内における社会課題について、歴史的背景、現状等が理解できる ・さまざまな分野での実践者の経験から、実践上の留意点を理解できる ・身近にある社会課題について分析し、課題解決の方策の提案ができる
授業方法と留意点	・いわゆる一方的な講義ではなく、学んだことをもとにグループでディスカッションしたり、関心のある課題について調査、発表するなど、主体的に取り組む形式が多い。 ・取り扱う課題により、外部講師を招聘し、実践に関する講義やワークショップ等も実施する。 ・本科目は２０２１年度後期 90 分授業ｘ２・３コマの集中講義で実施される予定である。詳細なスケジュールは決定次第、ポータルサイト等で連絡をする。 初回授業以降は担当教員からの連絡を常に受け取れるようにしておくことが必要である。 ・その他、履修にあたって不明
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業概要、受講方法、注意点の確認 日本におけるグローバルシチズンシップ	指定された教材の読解、課題を行う
2	グローバルとローカルのつながり（1） 消費社会	エシカル消費について	指定された教材の読解、課題を行う
3	グローバルとローカルのつながり（2） 消費社会	ゲスト・レクチャー、ワークショップ	指定された教材の読解、課題を行う
4	グローバルとローカルのつながり（3） 消費社会	まとめ、発表	指定された教材の読解、課題を行う
5	グローバルとローカルのつながり（4） 日本における多文化共生	日本における多文化共生の歴史、課題等	指定された教材の読解、課題を行う
6	グローバルとローカルのつながり（5） 日本における多文化共生	ゲストレクチャー、ワークショップ 日本における多文化共生 多文化共生マネージャーの取り組み	指定された教材の読解、課題を行う
7	グローバルとローカルのつながり（6） 日本における多文化共生	外国にルーツを持つ子どもの課題と支援	指定された教材の読解、課題を行う
8	グローバルとローカルのつながり（7） 日本における多文化共生	災害時の外国人支援	指定された教材の読解、課題を行う
9	グローバルとローカルのつながり（8） 日本における多文化共生	多様性教育	指定された教材の読解、課題を行う
10	グローバルとローカルのつながり（9） 日本における多文化共生	まとめ、発表	指定された教材の読解、課題を行う
11	グローバルとローカルのつながり（10）SDGｓ	SDGｓと身近な生活のつながり	指定された教材の読解、課題を行う
12	グローバルとローカルのつながり（11）SDGｓ	ゲストスピーカー、ワークショップ	指定された教材の読解、課題を行う
13	グローバルとローカルのつながり（12）SDGｓ	まとめ、発表	指定された教材の読解、課題を行う
14	プレゼンテーション（1）	1 回～13 回の授業をもとに、自分たちのできることを考え、プレゼンテーションをする	指定された教材の読解、課題を行う
15	プレゼンテーション（2）	1 回～13 回の授業をもとに、自分たちのできることを考え、プレゼンテーションをする	指定された教材の読解、課題を行う

関連科目：グローバル・シチズンシップ論（入門）、グローバル・シチズンシップ海外実習、摂南大学 PBL プロジェクトなど

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			

評価方法 （基準）	平常評価　60%　（平常の提出物、課題への取り組み等総合的に評価） プレゼンテーション課題　40%（作成過程を含む）
学生への メッセージ	身近な場所で自ら行動が起こせるきっかけになればと思っています。受講生同士の関わりからも多くのことも学んでもらいたいと思いますので、積極的に参加してください。
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	Topics in Global Citizenship (EMI)	科目名（英文）	Topics in Global Citizenship (EMI)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	カーティス　チュウ
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,P科：YT01423a2～YT01427a2,J科：JT01374a～1JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1,N科：NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	This course is compulsory for those who are taking the Global Citizenship Minor Program. The main goal of this course is for students to understand the necessary knowledge, skills, and attitudes to become a global citizen. Students are expected to have learned basic concepts of global citizenship in グローバル・シチズンシップ論（入門）. This course discusses several specific topics on SDGs, human rights and equality, war and peace, politics and citizenship, economic justice, global environment, and cultural rights. Students will also be empowered and encouraged to take on the responsibilities of global citizenship. Through a problem posing approach, students will be challenged to rethink about dominant ideologies and how they contradict with the ideas of global citizenship. Additionally, there will be opportunities to engage in discussions with students in a foreign country, which will allow students to learn perspectives from those who have with different cultural values.
到達目標	1. Increase intercultural communicative competency with opportunities to communicate across cultures. 2. Increase knowledge of both historical and recent global events. 3. Acquire necessary skills and behaviors to become a global citizen. 4. Acquire pr
授業方法と留意点	This course will be taught entirely in English, and the reading materials will also be in English. Students are often required to research for information to expand their knowledge, so that discussions in class will be more informative and in depth. The c
科目学習の効果（資格）	
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Course introduction.	Introduction to course outline and materials	
2	Global citizenship and Sustainable Development Goals (SDGs)	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of global citizenship
3	Global citizenship and Sustainable Development Goals (SDGs)	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of SDGs
4	Human rights and equality	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of human rights
5	Human rights and equality	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of equality
6	War and peace Invited speaker (date might change)	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of historical events related to war
7	Politics and the role of citizens	Lecture, pair work, group work Online or offline video communication with students abroad (date might change)	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
8	Midterm exam: group presentations	Group presentations	
9	Politics and the role of citizens	Lecture, pair work, group work Online or offline video communication with students abroad (date might change)	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of citizens participating in politics 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
10	Economic justice	Lecture, pair work, group work Online or offline video communication with students abroad (date might change)	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of economic justice 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
11	Global environment	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of local environmental issues
12	Global environment	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of global environmental issues
13	Cultural rights	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of local culture
14	Cultural rights	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional

				materials 2. Research for information and examples of foreign cultures
	15	Final exam - group presentations	Group presentations	

関連科目	グローバル・シチズンシップ論（入門）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Global Citizenship: Engage in the Politics of a Changing World　【※注意　この教科書は大学のブックセンターで取扱いません。担当教員の指示する方法で購入して下さい。不明の時は教員まで連絡して下さい】	Julie Knutson	Nomad Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

Attendance and participation: 30%
Completion of assignments: 30%
Midterm group presentation: 20%
Final group presentation: 20%

学生へのメッセージ

Students are encouraged to use English in the classroom to share your ideas with each other.

We will be working with three groups of students in the United States to learn together on topics related to global citizenship. Please be prepared to work ha

担当者の研究室等

2 号館 2 階グローバル教育センター（旧：国際交流センター）

備考

科目名	大学教養入門	科目名（英文）	Introduction to Liberal Arts
学部	学部共通	学科	
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊藤　譲.久保　貞也
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TKY1458a1,L 科：LKY1360a1,D 科・S 科：IKY1367a1,P 科：YT01423a2～YT01427a2,J 科：JKY1369a1,W 科：WKY1348a1,N 科：NKY1349a1,AC 科・AB 科・AF 科・AE 科：OHU0401a2		

授業概要・目的	本科目は学部の枠を越えた教養入門科目です．本科目の目的は，大学生としての教養を身につけるスタートラインに立つことにあり，自らが主体的に知識を獲得し，対話を通して理解を深め，表現するための技術等を修得することです．授業では教養の入門書を用いて ABD（アクティブ・ブック・ダイアログ）読書法や協働学習の習慣を身につけるとともに，チームワーク能力，コミュニケーション能力等を身につけることを目指します．
到達目標	(1)大学生に必要な教養の基礎知識を身につけている． (2)ABD による読書法を身につけている． (3)チームワーク能力を身につけ，対話を通じた協働学習をすることができる． (4)SDG s と UNAI について基礎的な知識を身につけている． (5)読書の意義を理解して読書習慣を身につけている． (6)コミュニケーション能力を身につけ，自分の考えを相手に伝え，相手の考えを理解することができる． (7)自主的，計画的に学ぶ学習習慣を身につけている．
授業方法と留意点	授業では教養を学ぶ過程で，自ら主体的に，仲間と対話を通して理解を深め，表現するための技術を修得します．教養の入門書として一般書を教材として，ABD（アクティブ・ブック・ダイアログ）読書法や ICT ツールを活用して，読書，対話，発表等の協働学習による学びを体験します．この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を一方的に伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることが特徴です．したがって，諸君が積極的に参加することが大切です． 学生は対面授業かオンライン授業を選
科目学習の効果（資格）	大学生に必要な教養の基礎知識，ABD 法等のアクティブ・ラーニングによる協働学習の方法，自主学習の習慣などが身につく． 学習における ICT ツールの活用方法を知ることができる．

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 「大人の教養」序章　私たちはどこから来て、何処へ行くのか	アイスブレイク 事前アンケート 本科目で，どのような力が身につくのか 「教養とは何か？」 ABD の体験	事前学習：「おとなの教養」第二章を読む(1.5 時間以上)
2	教養入門：「大人の教養」 第二章　宇宙	教科書の紹介，概要 チーム作り，授業の約束事 ABD による学習の進め方の説明 ABD 法に挑戦「第二章 宇宙」	事前学習：「おとなの教養」第三章を読む(1.5 時間以上)
3	教養入門：第三章　人類の旅路	解説 協働学習，対話 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習：「おとなの教養」第四章を読み事前学習シートを作成する(1.5 時間以上)
4	教養入門：第四章　人間と病気	解説 協働学習，対話 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習：「おとなの教養」第五章を読事前学習シートを作成する(1.5 時間以上)
5	教養入門：第五章　経済	解説 協働学習，対話 理解度確認クイズ，振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習：中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案（3 時間以上）
6	教養入門：中間成果発表	ポスター作成の説明 プレゼン、質疑応答 振り返り	事後学習：第１回レポート 事前学習：SDGs とは何か,指定した資料を調べる（3 時間以上）
7	世界を知る教養：国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDGs の概要 SDG s とは何か 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習：SDG s とは何か，図書館，ネット等で調べる．自分の意見を持つ．（1.5 時間以上）
8	世界を知る教養：国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDG s を考える ワールドカフェ方式対話 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習：UNAI とは何かを調べる（1.5 時間以上）
9	世界を知る教養：国連アカデミックインパクト	国連の役割と歴史 本学の取り組み 理解度確認クイズ，振り返り	事後学習：第２回レポート 事前学習：「アドラー心理学」第一章を読み事前学習シートを作成する(2 時間以上)
10	自分を知る教養：岸見著「アドラー心理学入門」 第一章 アドラーはどんな人だったか	教科書の紹介、はじめに 解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習：「アドラー心理学」第二章を読も事前学習シートを作成する(1.5 時間以上)
11	自分を知る教養：岸見著「アドラー心理学入門」 第二章 アドラー心理学の育児と教養?	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習：「アドラー心理学」第三章を読も事前学習シートを作成する(1.5 時間以上)
12	自分を知る教養： 第三章 横の関係と健康なパーソナリティ	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習：「アドラー心理学」第四章を読み事前学習シートを作成するむ(1.5 時間以上)
13	自分を知る教養： 第四章 アドラー心理学の基礎理論	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ，振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習：中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案（3 時間以上）
14	自分を知る教養：中間成果発表	ポスター作成 発表・質疑応答 振り返り	事後学習：第３回レポート （2 時間以上）
15	大学教養入門：まとめ	グループワーク「教養とは何か？」	事後学習：第４回レポート

			事後アンケート	(2 時間以上)

関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / おとなの教養 / 池上彰 / NHK 出版 2 / アドラー心理学入門 / 岸見一郎 / KK ベストセラーズ 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
	2 / / /
	3 / / /
評価方法 （基準）	・取り組み姿勢（チーム：20%） ・中間発表・まとめ（チーム：20%） ・レポート　4 回（個人：20%） ・振り返りシート（個人：15%） ・理解度確認クイズ（個人：15%） ・事前学習シート（個人：5%） ・授業資料の管理（個人：5%） 以上の評価点の合計で 60%以上を合格とする．期末試験は実施しない． なお，原則として出席率 80%以上の学生を合格者の対象とする．
学生への メッセージ	この科目は摂南大学独自の教養科目です．授業では，すべての学部の学生が，学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います．この授業を履修することで，大学生としてふさわしい教養の基礎と学習方法が身に付き，さらに学部，学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう．
担当者の 研究室等	伊藤譲（1 号館 3F），久保貞也（11 号館 7F），石井三恵（7 号館 5F），大塚正人（薬学部 1 号館 5F），寺内睦博（11 号館 10F），佐井英子(11 号館 6F)，瀬川智広（スポ振）
備考	この科目は，入学式～キックオフセミナーからつながる科目です．教養を身につけながら学習法を身につけることを目指しています．また，学部や学科を越えた多くの友人を見つけることもできます．

科目名	大学教養入門	科目名（英文）	Introduction to Liberal Arts
学部	学部共通	学科	
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊藤　譲.久保　貞也
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TKY1458a1,L 科：LKY1360a1,D 科・S 科：IKY1367a1,P 科：YT01423a2～YT01427a2,J 科：JKY1369a1,W 科：WKY1348a1,N 科：NKY1349a1,AC 科・AB 科・AF 科・AE 科：OHU0401a2		

授業概要・目的	本科目は学部の枠を越えた教養入門科目です．本科目の目的は，大学生としての教養を身につけるスタートラインに立つことにあり，自らが主体的に知識を獲得し，対話を通して理解を深め，表現するための技術等を修得することです．授業では教養の入門書を用いて ABD（アクティブ・ブック・ダイアログ）読書法や協働学習の習慣を身につけるとともに，チームワーク能力，コミュニケーション能力等を身につけることを目指します．
到達目標	(1)大学生に必要な教養の基礎知識を身につけている． (2)ABD による読書法を身につけている． (3)チームワーク能力を身につけ，対話を通じた協働学習をすることができる． (4)SDG s と UNAI について基礎的な知識を身につけている． (5)読書の意義を理解して読書習慣を身につけている． (6)コミュニケーション能力を身につけ，自分の考えを相手に伝え，相手の考えを理解することができる． (7)自主的，計画的に学ぶ学習習慣を身につけている．
授業方法と留意点	授業では教養を学ぶ過程で，自ら主体的に，仲間と対話を通して理解を深め，表現するための技術を修得します．教養の入門書として一般書を教材として，ABD（アクティブ・ブック・ダイアログ）読書法や ICT ツールを活用して，読書，対話，発表等の協働学習による学びを体験します．この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を一方的に伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることが特徴です．したがって，諸君が積極的に参加することが大切です． 学生は対面授業かオンライン授業を選
科目学習の効果（資格）	大学生に必要な教養の基礎知識，ABD 法等のアクティブ・ラーニングによる協働学習の方法，自主学習の習慣などが身につく． 学習における ICT ツールの活用方法を知ることができる．

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 「大人の教養」序章　私たちはどこから来て、何処へ行くのか	アイスブレイク 事前アンケート 本科目で，どのような力が身につくのか 「教養とは何か？」 ABD の体験	事前学習：「おとなの教養」第二章を読む(1.5 時間以上)
2	教養入門：「大人の教養」 第二章　宇宙	教科書の紹介，概要 チーム作り，授業の約束事 ABD による学習の進め方の説明 ABD 法に挑戦「第二章 宇宙」	事前学習：「おとなの教養」第三章を読む(1.5 時間以上)
3	教養入門：第三章　人類の旅路	解説 協働学習，対話 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習：「おとなの教養」第四章を読み事前学習シートを作成する(1.5 時間以上)
4	教養入門：第四章　人間と病気	解説 協働学習，対話 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習：「おとなの教養」第五章を読事前学習シートを作成する(1.5 時間以上)
5	教養入門：第五章　経済	解説 協働学習，対話 理解度確認クイズ，振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習：中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案（3 時間以上）
6	教養入門：中間成果発表	ポスター作成の説明 プレゼン、質疑応答 振り返り	事後学習：第１回レポート 事前学習：SDGs とは何か，指定した資料を調べる（3 時間以上）
7	世界を知る教養：国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDGs の概要 SDG s とは何か 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習：SDG s とは何か，図書館，ネット等で調べる．自分の意見を持つ．（1.5 時間以上）
8	世界を知る教養：国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDG s を考える ワールドカフェ方式対話 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習：UNAI とは何かを調べる（1.5 時間以上）
9	世界を知る教養：国連アカデミックインパクト	国連の役割と歴史 本学の取り組み 理解度確認クイズ，振り返り	事後学習：第２回レポート 事前学習：「アドラー心理学」第一章を読み事前学習シートを作成する(2 時間以上)
10	自分を知る教養：岸見著「アドラー心理学入門」 第一章 アドラーはどんな人だったか	教科書の紹介、はじめに 解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習：「アドラー心理学」第二章を読も事前学習シートを作成する(1.5 時間以上)
11	自分を知る教養：岸見著「アドラー心理学入門」 第二章 アドラー心理学の育児と教養?	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習：「アドラー心理学」第三章を読も事前学習シートを作成する(1.5 時間以上)
12	自分を知る教養： 第三章 横の関係と健康なパーソナリティ	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習：「アドラー心理学」第四章を読み事前学習シートを作成するむ(1.5 時間以上)
13	自分を知る教養： 第四章 アドラー心理学の基礎理論	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ，振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習：中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案（3 時間以上）
14	自分を知る教養：中間成果発表	ポスター作成 発表・質疑応答 振り返り	事後学習：第３回レポート （2 時間以上）
15	大学教養入門：まとめ	グループワーク「教養とは何か？」	事後学習：第４回レポート

			事後アンケート	(2 時間以上)

関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / おとなの教養 / 池上彰 / NHK 出版 2 / アドラー心理学入門 / 岸見一郎 / KK ベストセラーズ 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
	2 / / /
	3 / / /
評価方法 （基準）	・取り組み姿勢（チーム：20%） ・中間発表・まとめ（チーム：20%） ・レポート　4 回（個人：20%） ・振り返りシート（個人：15%） ・理解度確認クイズ（個人：15%） ・事前学習シート（個人：5%） ・授業資料の管理（個人：5%） 以上の評価点の合計で 60%以上を合格とする．期末試験は実施しない． なお，原則として出席率 80%以上の学生を合格者の対象とする．
学生への メッセージ	この科目は摂南大学独自の教養科目です．授業では，すべての学部の学生が，学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います．この授業を履修することで，大学生としてふさわしい教養の基礎と学習方法が身に付き，さらに学部，学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう．
担当者の 研究室等	伊藤譲（1 号館 3F），久保貞也（11 号館 7F），柳沢学（8 号館 3F），大塚正人（薬学部 1 号館 5F），寺内睦博（11 号館 10F），古矢篤史（7 号館 4F），羅鵬飛（経済）
備考	この科目は，入学式～キックオフセミナーからつながる科目です．教養を身につけながら学習法を身につけることを目指しています．また，学部や学科を越えた多くの友人を見つけることもできます．

科目名	大学教養入門	科目名（英文）	Introduction to Liberal Arts
学部	学部共通	学科	
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊藤　譲.久保　貞也
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TKY1458a1,L 科：LKY1360a1,D 科・S 科：IKY1367a1,P 科：YT01423a2～YT01427a2,J 科：JKY1369a1,W 科：WKY1348a1,N 科：NKY1349a1,AC 科・AB 科・AF 科・AE 科：OHU0401a2		

授業概要・目的	本科目は学部の枠を越えた教養入門科目です．本科目の目的は，大学生としての教養を身につけるスタートラインに立つことにあり，自らが主体的に知識を獲得し，対話を通して理解を深め，表現するための技術等を修得することです．授業では教養の入門書を用いて ABD（アクティブ・ブック・ダイアログ）読書法や協働学習の習慣を身につけるとともに，チームワーク能力，コミュニケーション能力等を身につけることを目指します．
到達目標	(1)大学生に必要な教養の基礎知識を身につけている． (2)ABD による読書法を身につけている． (3)チームワーク能力を身につけ，対話を通じた協働学習をすることができる． (4)SDG s と UNAI について基礎的な知識を身につけている． (5)読書の意義を理解して読書習慣を身につけている． (6)コミュニケーション能力を身につけ，自分の考えを相手に伝え，相手の考えを理解することができる． (7)自主的，計画的に学ぶ学習習慣を身につけている．
授業方法と留意点	授業では教養を学ぶ過程で，自ら主体的に，仲間と対話を通して理解を深め，表現するための技術を修得します．教養の入門書として一般書を教材として，ABD（アクティブ・ブック・ダイアログ）読書法や ICT ツールを活用して，読書，対話，発表等の協働学習による学びを体験します．この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を一方的に伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることが特徴です．したがって，諸君が積極的に参加することが大切です． 学生は対面授業かオンライン授業を選
科目学習の効果（資格）	大学生に必要な教養の基礎知識，ABD 法等のアクティブ・ラーニングによる協働学習の方法，自主学習の習慣などが身につく． 学習における ICT ツールの活用方法を知ることができる．

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 「大人の教養」序章　私たちはどこから来て、何処へ行くのか	アイスブレイク 事前アンケート 本科目で，どのような力が身につくのか 「教養とは何か？」 ABD の体験	事前学習：「おとなの教養」第二章を読む(1.5 時間以上)
2	教養入門：「大人の教養」 第二章　宇宙	教科書の紹介，概要 チーム作り，授業の約束事 ABD による学習の進め方の説明 ABD 法に挑戦「第二章 宇宙」	事前学習：「おとなの教養」第三章を読む(1.5 時間以上)
3	教養入門：第三章　人類の旅路	解説 協働学習，対話 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習：「おとなの教養」第四章を読み事前学習シートを作成する(1.5 時間以上)
4	教養入門：第四章　人間と病気	解説 協働学習，対話 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習：「おとなの教養」第五章を読事前学習シートを作成する(1.5 時間以上)
5	教養入門：第五章　経済	解説 協働学習，対話 理解度確認クイズ，振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習：中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案（3 時間以上）
6	教養入門：中間成果発表	ポスター作成の説明 プレゼン、質疑応答 振り返り	事後学習：第１回レポート 事前学習：SDGs とは何か，指定した資料を調べる（3 時間以上）
7	世界を知る教養：国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDGs の概要 SDG s とは何か 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習：SDG s とは何か，図書館，ネットで調べる．自分の意見を持つ．（1.5 時間以上）
8	世界を知る教養：国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDG s を考える ワールドカフェ方式対話 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習：UNAI とは何かを調べる（1.5 時間以上）
9	世界を知る教養：国連アカデミックインパクト	国連の役割と歴史 本学の取り組み 理解度確認クイズ，振り返り	事後学習：第２回レポート 事前学習：「アドラー心理学」第一章を読み事前学習シートを作成する(2 時間以上)
10	自分を知る教養：岸見著「アドラー心理学入門」 第一章 アドラーはどんな人だったか	教科書の紹介、はじめに 解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習：「アドラー心理学」第二章を読も事前学習シートを作成する(1.5 時間以上)
11	自分を知る教養：岸見著「アドラー心理学入門」 第二章 アドラー心理学の育児と教養?	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習：「アドラー心理学」第三章を読も事前学習シートを作成する(1.5 時間以上)
12	自分を知る教養： 第三章 横の関係と健康なパーソナリティ	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習：「アドラー心理学」第四章を読み事前学習シートを作成するむ(1.5 時間以上)
13	自分を知る教養： 第四章 アドラー心理学の基礎理論	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ，振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習：中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案（3 時間以上）
14	自分を知る教養：中間成果発表	ポスター作成 発表・質疑応答 振り返り	事後学習：第３回レポート （2 時間以上）
15	大学教養入門：まとめ	グループワーク「教養とは何か？」	事後学習：第４回レポート

			事後アンケート	(2 時間以上)

関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	おとなの教養	池上彰	NHK 出版
2	アドラー心理学入門	岸見一郎	KK ベストセラーズ
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	・取り組み姿勢（チーム：20%） ・中間発表・まとめ（チーム：20%） ・レポート　4 回（個人：20%） ・振り返りシート（個人：15%） ・理解度確認クイズ（個人：15%） ・事前学習シート（個人：5%） ・授業資料の管理（個人：5%） 以上の評価点の合計で 60%以上を合格とする．期末試験は実施しない． なお，原則として出席率 80%以上の学生を合格者の対象とする．
学生への メッセージ	この科目は摂南大学独自の教養科目です．授業では，すべての学部の学生が，学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います．この授業を履修することで，大学生としてふさわしい教養の基礎と学習方法が身に付き，さらに学部，学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう．
担当者の 研究室等	伊藤譲（1 号館 3F），久保貞也（11 号館 7F），柳沢学（8 号館 3F），大塚正人（薬学部 1 号館 5F），寺本俊太郎（1 号館 3F），松島裕一（11 号館 9F）
備考	この科目は，入学式～キックオフセミナーからつながる科目です．教養を身につけながら学習法を身につけることを目指しています．また，学部や学科を越えた多くの友人を見つけることもできます．

科目名	大学教養実践	科目名（英文）	Practical Learning of Liberal Arts
学部	学部共通	学科	
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	伊藤　譲
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TKY1459a1,L 科：LKY1361a1,D 科・S 科：IKY1368a1,P 科：YT01423a2～YT01427a2,J 科：JKY1370a1,W 科：WKY1349a1,N 科：NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	この科目は，チームで協働して読書を行い，プレゼンテーションと対話を通じて，学びを深める形式で学ぶ学部の枠を越えた教養実践科目です．前期開講の大学教養入門のステップアップの講座としての位置づけです． 本科目の目的は，大学生として必要な教養として，文学，社会学や経済学の入門的知識を身につけ，その知識をもとに協働学習により社会課題の解決を体験します．そして，知識としての教養を実社会での実践にむすびつけることを目指します．
到達目標	(1)大学生として必要な教養レベルを身につけ，実践的に討議することができている． (2)ABD による読書法の基礎（要約，プレゼンテーション，対話）を身に付けている． (3)自分が知りたいと思うことのテーマ設定ができる． (4)チームワーク能力やリーダーシップを身に付けている． (5)わかりやすいプレゼンテーションを行うことができる． (6)テーマにそった対話（感想，質疑応答）を行うことができる． (7)自主学習の習慣を身に付けている．
授業方法と留意点	授業の７回目まではオンラインで実施する。７回目の時点で８回目以降を対面授業とするか判断する。授業では教養を学ぶ過程で，自ら主体的に，仲間と対話を通して理解を深め，表現するための技術等を修得します．大学生として必要な教養を身につけ，身につけた教養，知識をもとに，社会課題の解決策を協働学習により検討します．この科目では，これまでの授業とは異なり，教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるので，諸君が積極的に参加することが大切です．
科目学習の効果（資格）	大学生に必要な教養の知識が身につき,それを元に社会課題について討議できる．ABD や QFT 等の協働学習の方法が身につく．

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 教養としての社会の課題を知る：「未来の年表」	アイスブレイク 事前アンケート 授業のルール 解説（教科書、ABD とは） 協働学習（p.18-47：要約，プレゼン，対話），振り返りシート	『未来の年表』p.48-79 を読み，事前学習シート（①不明な用語を調べる，②重要箇所を抜き出す）を作成する．（2 時間程度）
2	教養としての社会の課題を知る：「未来の年表」	チーム分け，役割分担，確認試験 解説（振り返りシート） 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習（要約，プレゼン，対話） 振り返りシート	教科書 p.80-108 を読み，事前学習シートを作成する．
3	教養としての社会の課題を知る：「未来の年表」	解説（事前学習シート）、確認試験 協働学習（要約，プレゼン，対話） 振り返りシート	教科書 p.109-146 を読み，事前学習シートを作成する．
4	教養としての社会の課題を知る：「未来の年表」	解説（事前学習シート）、確認試験 協働学習（要約，プレゼン，対話） 投票と表彰，振り返りシート	教科書第二部を読み，事前学習シートを作成する． ポスター・プレゼンの準備を行う（2 時間程度）
5	教養としての社会の課題を知る：中間発表１回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答，評価 振り返りシート	『コロナ後の世界』第一章を読み，事前学習シート（要約）を作成する． 第１回レポート
6	教養としての社会の課題を知る：「コロナ後の世界」	解説，確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明協働学習（要約・プレゼン・対話） 振り返りシート	教科書第二章を読み，事前学習シートを作成する．
7	教養としての社会の課題を知る：「コロナ後の世界」	QFT（質問づくり） 協働学習（要約・プレゼン・対話） 振り返りシート	教科書第三章を読み，事前学習シートを作成する．
8	教養としての社会の課題を知る：「コロナ後の世界」	解説，確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明協働学習（要約・プレゼン・対話） 振り返りシート	教科書第四章を読み，事前学習シートを作成する．
9	教養としての社会の課題を知る：「コロナ後の世界」	解説，確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明協働学習（要約・プレゼン・対話） 振り返りシート	ポスター・プレゼンの準備を行う（2 時間程度）
10	教養としての社会の課題を知る：中間発表２回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答，評価 振り返りシート	「星の王子様」1～10 章を読み，事前学習シート（要約、感想）を作成する（2 時間程度） 第２回レポート
11	教養としての社会の課題を知る：「星の王子様」	解説，確認試験 要約・プレゼン・対話の要点の説明 協働学習（要約，プレゼン，対話） 振り返りシート	教科書 11～20 章を読み，事前学習シートを作成する
12	教養としての文学作品に触れる：「星の王子様」	解説，確認試験 要約・プレゼン・対話の要点の説明 協働学習（要約，プレゼン，対話） 振り返りシート	教科書 21～27 章を読み，事前学習シートを作成する
13	教養としての文学作品に触れる：「星の王子様」	解説，確認試験 協働学習（要約，プレゼン，対話） 振り返りシート	教科書あとがきを読み，事前学習シートを作成する
14	教養としての文学作品に触れる：「星の王子様」	解説，確認試験 協働学習（要約，プレゼン，対話）	ポスター・プレゼンの準備を行う（2 時間程度）

		QFT（中間発表のテーマ出し） 振り返りシート	
15	教養としての文学作品に触れる：中間発表３回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答，評価 振り返りシート 事後アンケート	第３回レポート

関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	未来の年表	河合雅司	講談社現代新書
2	星の王子様	サン＝テグジュペリ	新潮文庫
3	コロナ後の世界	大野和基（編）	文春新書

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

・取り組み姿勢／ルーブリック（チーム：15%），・ファイリング（個人：5%）
・ポスター発表（チーム：20%）
・レポート　3回（個人：30%），・振り返りシート（個人：10%）
・理解度確認クイズ（個人：10%）
・事前学習シート（個人：10%）
以上の評価点の合計で60%以上を合格とする．期末試験は実施しない．
なお，成績評価の対象は原則として出席率80%以上の学生とする．

学生へのメッセージ

　この授業では，すべての学部の学生が，学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います．この授業を履修することで，大学生としてふさわしい教養の基礎，コミュニケーション力，ファシリテーション力，と学習方法が身に付き，さらに学部，学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう．？

担当者の研究室等

伊藤譲（1号館3F），寺内睦博（11号館10F），石井三恵（7号館5F）、上野山裕士(7号館3F)，水野武（7号館3F），友枝恭子（5号館1F），瀧（スポ振）

備考

この科目は前期の大学教養入門と同じスタイルの教養を学びながら学習法を身につけることを期待した科目です．また，学部や学科を越えた多くの友人を見つけてください．この授業は原則的に対面で実施します．やむを得ず、遠隔授業やハイブリッドで実施する場合も顔が見えることを出席の条件とします．

科目名	大学教養実践	科目名（英文）	Practical Learning of Liberal Arts
学部	学部共通	学科	
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	伊藤　譲
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TKY1459a1,L 科：LKY1361a1,D 科・S 科：IKY1368a1,P 科：YT01423a2～YT01427a2,J 科：JKY1370a1,W 科：WKY1349a1,N 科：NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	この科目は，チームで協働して読書を行い，プレゼンテーションと対話を通じて，学びを深める形式で学ぶ学部の枠を越えた教養実践科目です．前期開講の大学教養入門のステップアップの講座としての位置づけです． 本科目の目的は，大学生として必要な教養として，文学，社会学や経済学の入門的知識を身につけ，その知識をもとに協働学習により社会課題の解決を体験します．そして，知識としての教養を実社会での実践にむすびつけることを目指します．
到達目標	(1)大学生として必要な教養レベルを身につけ，実践的に討議することができている． (2)ABD による読書法の基礎（要約，プレゼンテーション，対話）を身に付けている． (3)自分が知りたいと思うことのテーマ設定ができる． (4)チームワーク能力やリーダーシップを身に付けている． (5)わかりやすいプレゼンテーションを行うことができる． (6)テーマにそった対話（感想，質疑応答）を行うことができる． (7)自主学習の習慣を身に付けている．
授業方法と留意点	授業の７回目まではオンラインで実施する。７回目の時点で８回目以降を対面授業とするか判断する。授業では教養を学ぶ過程で，自ら主体的に，仲間と対話を通して理解を深め，表現するための技術等を修得します．大学生として必要な教養を身につけ，身につけた教養，知識をもとに，社会課題の解決策を協働学習により検討します．この科目では，これまでの授業とは異なり，教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるので，諸君が積極的に参加することが大切です．
科目学習の効果（資格）	大学生に必要な教養の知識が身につき,それを元に社会課題について討議できる．ABD や QFT 等の協働学習の方法が身につく．

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 教養としての社会の課題を知る：「未来の年表」	アイスブレイク 事前アンケート 授業のルール 解説（教科書、ABD とは） 協働学習（p.18-47：要約，プレゼン，対話），振り返りシート	『未来の年表』p.48-79 を読み，事前学習シート（①不明な用語を調べる，②重要箇所を抜き出す）を作成する．（2 時間程度）
2	教養としての社会の課題を知る：「未来の年表」	チーム分け，役割分担，確認試験 解説（振り返りシート） 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習（要約，プレゼン，対話） 振り返りシート	教科書 p.80-108 を読み，事前学習シートを作成する．
3	教養としての社会の課題を知る：「未来の年表」	解説（事前学習シート）、確認試験 協働学習（要約，プレゼン，対話） 振り返りシート	教科書 p.109-146 を読み，事前学習シートを作成する．
4	教養としての社会の課題を知る：「未来の年表」	解説（事前学習シート）、確認試験 協働学習（要約，プレゼン，対話） 投票と表彰，振り返りシート	教科書第二部を読み，事前学習シートを作成する． ポスター・プレゼンの準備を行う（2 時間程度）
5	教養としての社会の課題を知る：中間発表１回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答，評価 振り返りシート	『コロナ後の世界』第一章を読み，事前学習シート（要約）を作成する． 第１回レポート
6	教養としての社会の課題を知る：「コロナ後の世界」	解説，確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明協働学習（要約・プレゼン・対話） 振り返りシート	教科書第二章を読み，事前学習シートを作成する．
7	教養としての社会の課題を知る：「コロナ後の世界」	QFT（質問づくり） 協働学習（要約・プレゼン・対話） 振り返りシート	教科書第三章を読み，事前学習シートを作成する．
8	教養としての社会の課題を知る：「コロナ後の世界」	解説，確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明協働学習（要約・プレゼン・対話） 振り返りシート	教科書第四章を読み，事前学習シートを作成する．
9	教養としての社会の課題を知る：「コロナ後の世界」	解説，確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明協働学習（要約・プレゼン・対話） 振り返りシート	ポスター・プレゼンの準備を行う（2 時間程度）
10	教養としての社会の課題を知る：中間発表２回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答，評価 振り返りシート	「星の王子様」1～10 章を読み，事前学習シート（要約、感想）を作成する（2 時間程度） 第２回レポート
11	教養としての社会の課題を知る：「星の王子様」	解説，確認試験 要約・プレゼン・対話の要点の説明 協働学習（要約，プレゼン，対話） 振り返りシート	教科書 11～20 章を読み，事前学習シートを作成する
12	教養としての文学作品に触れる：「星の王子様」	解説，確認試験 要約・プレゼン・対話の要点の説明 協働学習（要約，プレゼン，対話） 振り返りシート	教科書 21～27 章を読み，事前学習シートを作成する
13	教養としての文学作品に触れる：「星の王子様」	解説，確認試験 協働学習（要約，プレゼン，対話） 振り返りシート	教科書あとがきを読み，事前学習シートを作成する
14	教養としての文学作品に触れる：「星の王子様」	解説，確認試験 協働学習（要約，プレゼン，対話）	ポスター・プレゼンの準備を行う（2 時間程度）

		QFT（中間発表のテーマ出し） 振り返りシート	
15	教養としての文学作品に触れる：中間発表３回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答，評価 振り返りシート 事後アンケート	第３回レポート

関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	未来の年表	河合雅司	講談社現代新書
2	星の王子様	サン＝テグジュペリ	新潮文庫
3	コロナ後の世界	大野和基（編）	文春新書

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

・取り組み姿勢／ルーブリック（チーム：15%），・ファイリング（個人：5%）
・ポスター発表（チーム：20%）
・レポート　3回（個人：30%），・振り返りシート（個人：10%）
・理解度確認クイズ（個人：10%）
・事前学習シート（個人：10%）
以上の評価点の合計で60%以上を合格とする．期末試験は実施しない．
なお，成績評価の対象は原則として出席率80%以上の学生とする．

学生へのメッセージ

　この授業では，すべての学部の学生が，学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います．この授業を履修することで，大学生としてふさわしい教養の基礎，コミュニケーション力，ファシリテーション力，と学習方法が身に付き，さらに学部，学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう．？

担当者の研究室等

伊藤譲（1号館3F），寺内睦博（11号館10F），石井三恵（7号館5F）、上野山裕士(7号館3F)，水野武（7号館3F），友枝恭子（5号館1F），瀧（スポ振）

備考

この科目は前期の大学教養入門と同じスタイルの教養を学びながら学習法を身につけることを期待した科目です．また，学部や学科を越えた多くの友人を見つけてください．この授業は原則的に対面で実施します．やむを得ず、遠隔授業やハイブリッドで実施する場合も顔が見えることを出席の条件とします．

科目名	就職実践基礎	科目名（英文）	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山岡　亮太
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ⅱ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP8△,J科：DP1◎,W科：DP1◎,N科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,P科：YT01423a2～YT01427a2,J科：JT01374a～1JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1,N科：NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	社会人となってから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のものですので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。 講師は金融業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	※リモート形式への移行により、教材・課題提供型にて実施します。 授業は基本的に数的能力をメインに学習します。授業は基本的に実践形式で、様々な問題を解いていきます。Input 量が多いので、予習・復習が大切です。
科目学習の効果（資格）	社会で必要とされる数的能力・言語能力・一般常識を獲得する

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション･実力テスト	講座の目的・意義の確認、実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30 分)・実力テストを復習しておくこと(目安：30 分)
2	数的思考①	方程式の活用	方程式を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
3	数的思考②	割合の活用①	割合を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
4	数的思考③	割合の活用②	割合を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
5	数的思考④	割合の活用③	割合を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
6	中テスト①・数的思考⑤	中テスト①・分数の活用	2～5 回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2 時間)
7	数的思考⑥	速度の考え方①	速度算を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
8	数的思考⑦	速度の考え方②	速度算を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
9	数的思考⑧	場合の数と確率	場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
10	数的思考⑨	集合の概念	集合を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
11	中テスト②・資料解釈	中テスト②・表の読み取り	6～9 回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2 時間)
12	論理推論①	順序推理	推論を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
13	論理推論②	内訳・表・位置	推論を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
14	論理推論③	その他論理推論	推論を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安：2.5 時間)

関連科目：コミュニケーション能力開発

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	オリジナル教材を使用		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト（30%）、中間テスト（20%）、期末テスト（35%）、SmartSPI（15%）
学生へのメッセージ	数的能力を社会で活かすことをできるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。 また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していってください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　教育イノベーションセンター
備考	

科目名	就職実践基礎	科目名（英文）	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山岡　亮太
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ⅱ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP8△,J科：DP1◎,W科：DP1◎,N科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,P科：YT01423a2～YT01427a2,J科：JT01374a～1JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1,N科：NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	社会人となってから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のものですので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。 講師は金融業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	※リモート形式への移行により、教材・課題提供型にて実施します。 授業は基本的に数的能力をメインに学習します。授業は基本的に実践形式で、様々な問題を解いていきます。Input 量が多いので、予習・復習が大切です。
科目学習の効果（資格）	社会で必要とされる数的能力・言語能力・一般常識を獲得する

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション･実力テスト	講座の目的・意義の確認、実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30 分)・実力テストを復習しておくこと(目安：30 分)
2	数的思考①	方程式の活用	方程式を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
3	数的思考②	割合の活用①	割合を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
4	数的思考③	割合の活用②	割合を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
5	数的思考④	割合の活用③	割合を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
6	中テスト①・数的思考⑤	中テスト①・分数の活用	2～5 回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2 時間)
7	数的思考⑥	速度の考え方①	速度算を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
8	数的思考⑦	速度の考え方②	速度算を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
9	数的思考⑧	場合の数と確率	場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
10	数的思考⑨	集合の概念	集合を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
11	中テスト②・資料解釈	中テスト②・表の読み取り	6～9 回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2 時間)
12	論理推論①	順序推理	推論を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
13	論理推論②	内訳・表・位置	推論を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
14	論理推論③	その他論理推論	推論を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安：2.5 時間)

関連科目：コミュニケーション能力開発

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	オリジナル教材を使用		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト（30%）、中間テスト（20%）、期末テスト（35%）、SmartSPI（15%）
学生へのメッセージ	数的能力を社会で活かすことをできるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。 また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していってください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　教育イノベーションセンター
備考	

科目名	就職実践基礎	科目名（英文）	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山岡　亮太
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP8△,J科：DP1◎,W科：DP1◎,N科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,P科：YT01423a2～YT01427a2,J科：JT01374a～1JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1,N科：NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	社会人となってから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のものですので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。 講師は金融業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	※リモート形式への移行により、教材・課題提供型にて実施します。 履修者数が多いため、２クラスに分かれて受講していただきます。まずはポータル通知に記載されている自らの担当教員を確認し、担当教員のTeamsに登録してください。Teamsに登録するためのチームコードは寺内：ne1jpso、山岡：4z6o0sl となっています。間違えないよう気をつけてください。 授業は基本的に数的能力をメインに学習します。授業は基本的に実践形式で、様々な問題を解いていきます。Input量が多いので、予習・復習が大切です。
科目学習の効果（資格）	社会で必要とされる数的能力・言語能力・一般常識を獲得する

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション･実力テスト	講座の目的・意義の確認、実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30分)・実力テストを復習しておくこと(目安：30分)
2	数的思考①	方程式の活用	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安：30分)
3	数的思考②	割合の活用①	割合を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPIの実施(目安：30分)
4	数的思考③	割合の活用②	割合を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPIの実施(目安：30分)
5	数的思考④	割合の活用③	割合を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPIの実施(目安：30分)
6	中テスト①・数的思考⑤	中テスト①・分数の活用	2～5回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
7	数的思考⑥	速度の考え方①	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安：30分)
8	数的思考⑦	速度の考え方②	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安：30分)
9	数的思考⑧	場合の数と確率	場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安：30分)
10	数的思考⑨	集合の概念	集合を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPIの実施(目安：30分)
11	中テスト②・資料解釈	中テスト②・表の読み取り	6～9回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
12	論理推論①	順序推理	推論を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPIの実施(目安：30分)
13	論理推論②	内訳・表・位置	推論を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPIの実施(目安：30分)
14	論理推論③	その他論理推論	推論を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPIの実施(目安：30分)
15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安：2.5時間)

関連科目：コミュニケーション能力開発

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	オリジナル教材を使用		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト（30%）、中間テスト（20%）、期末テスト（35%）、SmartSPI（15%）
学生へのメッセージ	数的能力を社会で活かすことをできるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。 また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していってください。
担当者の研究室等	7号館3階　教育イノベーションセンター
備考	履修者数が多いため、２クラスに分かれて受講していただきます。 まずはポータル通知に記載されている自らの担当教員を確認し、担当教員のTeamsに登録してください。 Teamsに登録するためのチームコードは寺内：ne1jpso、山岡：4z6o0sl となっています。間違えないよう気をつけてください。

科目名	就職実践基礎	科目名（英文）	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	津村　忠
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ⅱ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP8△,J科：DP1◎,W科：DP1◎,N科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,P科：YT01423a2～YT01427a2,J科：JT01374a～1JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1,N科：NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	社会人となってから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のものですので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。 講師は金融業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	11 月 4 日以降は対面形式で実施します。基本的に数的能力をメインに学習します。毎回オリジナル教材を用いて様々な問題を解いていきます。取り扱いテーマが広いので、予習・復習が大切です。 ※授業は対面で進行しますが Teams を連絡用に使い、Moodle で小テストやレポート提出を行います。
科目学習の効果（資格）	社会で必要とされる数的能力・言語能力・一般常識を獲得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション･実力テスト	講座の目的意義の確認・実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30 分)・実力テストを復習しておくこと(目安：30 分)
2	数的思考①	方程式の活用	方程式を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
3	数的思考②	割合の活用① （割合の基礎と濃度算）	学習内容を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
4	数的思考③	割合の活用② （損益算の基礎と料金の割引）	学習内容を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
5	数的思考④	割合の活用③ （損益算の応用と代金の精算）	学習内容を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
6	数的思考⑤	分数の活用 （分割払いと仕事算）	学習内容を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
7	数的思考⑥	速度算の基本	学習内容を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
8	復習と中間テスト	今までの問題の復習と中間テスト	1～7 回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2 時間)
9	数的思考⑦	速度算の応用	学習内容を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
10	論理思考①	場合の数と確率	学習内容を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
11	論理思考②	集合の概念	学習内容を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
12	論理思考③	表の読み取り	学習内容を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
13	論理思考④	論理推論①	学習内容を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
14	論理思考⑤	論理推論②	学習内容を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
15	復習と期末テスト	今までの問題の復習と期末テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安：2.5 時間)

関連科目：コミュニケーション能力開発、数的能力開発

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト　30%、中間テスト　20%、期末テスト　35%、SmartSPI　15% その他授業態度などで加減します。
学生へのメッセージ	数的能力を社会で活かすことをできるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。 また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していってください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　教育イノベーションセンター
備考	

科目名	就職実践基礎	科目名（英文）	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	津村　忠
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP8△,J科：DP1◎,W科：DP1◎,N科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,P科：YT01423a2～YT01427a2,J科：JT01374a～1JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1,N科：NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	社会人となってから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のものですので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。 講師は金融業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	11 月 4 日以降は対面形式で実施します。基本的に数的能力をメインに学習します。毎回オリジナル教材を用いて様々な問題を解いていきます。取り扱いテーマが広いので、予習・復習が大切です。 ※授業は対面で進行しますが Teams を連絡用に使い、Moodle で小テストやレポート提出を行います。
科目学習の効果（資格）	社会で必要とされる数的能力・言語能力・一般常識を獲得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション･実力テスト	講座の目的意義の確認・実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30 分)・実力テストを復習しておくこと(目安：30 分)
2	数的思考①	方程式の活用	方程式を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
3	数的思考②	割合の活用① （割合の基礎と濃度算）	学習内容を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
4	数的思考③	割合の活用② （損益算の基礎と料金の割引）	学習内容を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
5	数的思考④	割合の活用③ （損益算の応用と代金の精算）	学習内容を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
6	数的思考⑤	分数の活用 （分割払いと仕事算）	学習内容を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
7	数的思考⑥	速度算の基本	学習内容を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
8	復習と中間テスト	今までの問題の復習と中間テスト	1～7 回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2 時間)
9	数的思考⑦	速度算の応用	学習内容を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
10	論理思考①	場合の数と確率	学習内容を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
11	論理思考②	集合の概念	学習内容を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
12	論理思考③	表の読み取り	学習内容を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
13	論理思考④	論理推論①	学習内容を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
14	論理思考⑤	論理推論②	学習内容を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
15	復習と期末テスト	今までの問題の復習と期末テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安：2.5 時間)

関連科目：コミュニケーション能力開発、数的能力開発

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト　30%、中間テスト　20%、期末テスト　35%、SmartSPI　15% その他授業態度などで加減します。
学生へのメッセージ	数的能力を社会で活かすことをできるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。 また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していってください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　教育イノベーションセンター
備考	

科目名	就職実践基礎	科目名（英文）	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	津村　忠
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ⅱ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP8△,J科：DP1◎,W科：DP1◎,N科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,P科：YT01423a2～YT01427a2,J科：JT01374a～1JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1,N科：NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	社会人となってから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のものですので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。 講師は金融業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	11 月 4 日以降は対面形式で実施します。基本的に数的能力をメインに学習します。毎回オリジナル教材を用いて様々な問題を解いていきます。取り扱いテーマが広いので、予習・復習が大切です。 ※授業は対面で進行しますが Teams を連絡用に使い、Moodle で小テストやレポート提出を行います。
科目学習の効果（資格）	社会で必要とされる数的能力・言語能力・一般常識を獲得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション･実力テスト	講座の目的意義の確認・実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30 分)・実力テストを復習しておくこと(目安：30 分)
2	数的思考①	方程式の活用	方程式を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
3	数的思考②	割合の活用① （割合の基礎と濃度算）	学習内容を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
4	数的思考③	割合の活用② （損益算の基礎と料金の割引）	学習内容を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
5	数的思考④	割合の活用③ （損益算の応用と代金の精算）	学習内容を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
6	数的思考⑤	分数の活用 （分割払いと仕事算）	学習内容を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
7	数的思考⑥	速度算の基本	学習内容を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
8	復習と中間テスト	今までの問題の復習と中間テスト	1～7 回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2 時間)
9	数的思考⑦	速度算の応用	学習内容を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
10	論理思考①	場合の数と確率	学習内容を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
11	論理思考②	集合の概念	学習内容を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
12	論理思考③	表の読み取り	学習内容を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
13	論理思考④	論理推論①	学習内容を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
14	論理思考⑤	論理推論②	学習内容を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
15	復習と期末テスト	今までの問題の復習と期末テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安：2.5 時間)

関連科目：コミュニケーション能力開発、数的能力開発

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト　30%、中間テスト　20%、期末テスト　35%、SmartSPI　15% その他授業態度などで加減します。
学生へのメッセージ	数的能力を社会で活かすことをできるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。 また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していってください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　教育イノベーションセンター
備考	

科目名	商業科教育法	科目名（英文）	Business Education Method
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年	授業担当者	久井　孝則
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	前期は、商業高校の教育課程の特徴について理解を深める。そのために、学習指導要領に示された「商業科」の科目について、その目指す学力観及び指導内容と留意点を明らかにしていく。また、商業教育の課題と展望を通して、次代を担う教員としてどのような教育を行うべきかを考察する。 後期は、模擬授業を中心に行い、お互いに評価をし合うことにより、発表者の授業に対する教材研究、教材提示、板書法や教育姿勢などについて考察する。また、担当教員の実務経験を活かした適切な助言をする。 また、新学習指導要領の改訂のポイントを理解させ、その体現者としての自覚を促す。
到達目標	①商業科教員としての基本的かつ幅広い知識を習得する。 ②学習指導計画の立案ならびに模擬授業を行い、実践的な能力を体得する。 ③ビジネス教育のあり方について考え、将来の方向性について理解を深める。
授業方法と留意点	前期授業については、遠隔による教材・課題提供型授業とし、後期授業では模擬授業などの実践授業を取り入れ課題や調査研究成果を発表させるなどの対話型授業を行う。前期授業については毎回レポートを求め、一方的な授業にならないよう努める。また、配布された学習資料について必ず事前学習をしてくること。特に学習指導計画案の作成や模擬授業では、綿密な資料研究が必要である。
科目学習の効果（資格）	本講座は、高等学校教職員免許状「商業」を取得するための必修科目である。商業高校では、様々な分野の専門科目を担当する可能性があり、そのための基本的な知識・技能を習得することができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	前期のガイダンス「授業の進め方」 商業教育の意義と必要性	自己申告表・授業の進め方 (1)商業教育の基本理念 (2)商業教育で育む資質・能力 (3)商業科担当教員への期待	
2	我が国おける商業教育の歩み	(1)明治期の商業教育 (2)大正期・昭和 20 年以前の商業教育 (3)新教育制度と商業教育 (4)科目構成、科目名の変遷	〔事前〕教科書の当該章を熟読してくること(30 分)
3	高等学校学習指導要領と商業教育	(1)学習指導要領の法的位置づけ (2)学習指導要領の理念 (3)時代の進展等と商業科の改善 (4)商業科の学習指導を考える文脈	〔事前〕教科書の当該章を熟読してくること。平成 30 年 3 月告示の新学習指導要領について調べてくること(30 分)
4	商業科の教育課程の編成と実施	(1)教育課程の意義 (2)専門性の深化 (3)カリキュラム・マネジメント (4)専門学科における各教科・科目の履修 (5)文部科学省検定済教科用図書等の使用義務 (6)職業資格とのつながり (7)各学科で育成する人材像と教育課程	〔事前〕出身高校の教育課程をインターネットで検索し、プリントアウトして持参すること。(30 分)
5	商業科の学習指導	(1)商業科教育におっける学習指導の理念と方向性 (2)商業科教育における主体的・対話的で深い学び	〔事前〕教科書の当該章を熟読してくること(30 分)
6	各分野の学習指導 〔1〕基礎的科目	(1)科目構成 (2)基礎的科目が育成を目指す資質・能力 (3)「ビジネス基礎」の授業改善 (4)「ビジネス・コミュニケーション」の授業改善 (5)学習指導案の例	〔事前〕教科書の当該章を熟読してくること(30 分)
7	各分野の学習指導 〔2〕マーケティング分野	(1)科目構成 (2)マーケティング分野が育成を目指す資質・能力 (3)「マーケティング」の授業改善 (4)「商品開発と流通」の授業改善 (5)「観光ビジネス」の授業改善 (6)学習指導案の例	〔事前〕教科書の当該章を熟読してくること(30 分)
8	各分野の学習指導 〔3〕マネジメント分野	(1)科目構成 (2)マネジメント分野が育成を目指す資質・能力 (3)「ビジネス・マネジメント」の授業改善 (4)「グローバル経済」の授業改善 (5)「ビジネス法規」の授業改善 (6)学習指導案の例	〔事前〕教科書の当該章を熟読してくること(30 分)
9	各分野の学習指導 〔4〕会計分野	(1)科目構成 (2)会計分野が育成を目指す資質・能力 (3)「簿記」の授業改善 (4)「財務会計Ⅰ」の授業改善 (5)「財務会計Ⅱ」の授業改善 (6)「原価計算」の授業改善 (7)「管理会計」の授業改善 (8)学習指導案の例	〔事前〕教科書の当該章を熟読してくること(30 分)
10	各分野の学習指導 〔5〕ビジネス情報分野	(1)科目構成 (2)ビジネス情報分野が育成を目指す資質・能力	〔事前〕教科書の当該章を熟読してくること(30 分)

		(3)「情報処理」の授業改善 (4)「ソフトウェア活用」の授業改善 (5)「プログラミング」の授業改善 (6)「ネットワーク活用」の授業改善 (7)「ネットワーク管理」の授業改善 (8)学習指導案の例	
11	各分野の学習指導 〔6〕総合的科目(課題研究,総合実践)	(1)科目構成 (2)総合的科目が育成を目指す資質・能力 (3)「課題研究」の授業改善 (4)「総合実践」の授業改善 (5)学習指導案の例	〔事前〕教科書の当該章を熟読してくること(30 分)
12	指導計画の理念と作成	(1)指導計画の意義と作成 (2)指導計画の実施・評価・改善	〔事前〕教科書の当該章を熟読してくること(30 分)
13	学習評価の理念と実際」	(1)評価の目的 (2)目標に準拠した評価と評価の観点 (3)評価方法の工夫	〔事前〕教科書の当該章を熟読してくること(30 分)
14	魅力ある商業教育	(1)これからの商業教育 (2)体系的な商業教育の意義 (3)魅力ある商業教育を目指して	〔事前〕教科書の当該章を熟読してくること(30 分)
15	前期のまとめ	前期の講義を振り返り、商業教育についてそれぞれの感想を述べる	〔事前〕これまでの講義ノート等に目を通しておく(30 分)
16	基礎的科目「ビジネス基礎」の学習指導計画案の作成	遠隔授業で行う (1)次回の模擬授業を想定した学習指導計画案を作成 (2)板書計画案の』作成	〔事前〕模擬授業の範囲の内容について、予習してくること(30 分)
17	基礎的科目「ビジネス基礎」の模擬授業	対面授業で行う (1)模擬授業 (2)評価表・自由感想表の作成 (3)発表	〔事前〕模擬授業の範囲の内容について、予習してくること(30 分)
18	OA 機器を利用した新しい授業法	遠隔授業で行う (1)全国の商業高校における先行例を取り上げる (2)次回の模擬授業に取り入れる	〔事前〕出身高校における OA 機器を使った授業を調べる(30 分)
19	ビジネス情報分野「情報処理」の学習指導計画案の作成	遠隔授業で行う (1)次回の模擬授業を想定した学習指導計画案を作成 (2)板書計画案の』作成	〔事前〕模擬授業の範囲の内容について、予習してくること(30 分)
20	ビジネス情報分野「情報処理」の模擬授業	対面授業で行う (1)模擬授業 (2)評価表・自由感想表の作成 (3)発表	〔事前〕模擬授業のシミュレーションをしてくること(30 分)
21	ビジネス情報分野「情報処理」の遠隔授業による模擬授業	遠隔授業で行う (1)エクセルを使った模擬授業 (2)評価表 (3)自由感想表の作成	〔事前〕模擬授業のシミュレーションをしてくること(30 分)
22	会計分野「簿記」の学習指導案の作成①	遠隔授業で行う (1)次回の模擬授業を想定した学習指導計画案を作成 (2)板書計画案の』作成	〔事前〕模擬授業の範囲の内容について、予習してくること(30 分)
23	会計分野「簿記」の模擬授業①	対面授業で行う (1)模擬授業 (2)評価表・自由感想表の作成 (3)発表	〔事前〕模擬授業のシミュレーションをしてくること(30 分)
24	会計分野「簿記」①の遠隔授業による模擬授業	遠隔授業で行う (1)パワーポイントを使った模擬授業 (2)評価表 (3)自由感想表の作成	〔事前〕模擬授業のシミュレーションをしてくること(30 分)
25	会計分野「簿記」の学習指導案の作成②	遠隔授業で行う (1)次回の模擬授業を想定した学習指導計画案を作成 (2)板書計画案の』作成	〔事前〕模擬授業の範囲の内容について、予習してくること(30 分)
26	会計分野「簿記」の模擬授業②	対面授業で行う (1)模擬授業 (2)評価表・自由感想表の作成 (3)発表	〔事前〕模擬授業のシミュレーションをしてくること(30 分)
27	会計分野「簿記」②の遠隔授業による模擬授業	遠隔授業で行う (1)パワーポイントを使った模擬授業 (2)評価表 (3)自由感想表の作成	〔事前〕模擬授業のシミュレーションをしてくること(30 分)
28	マーケティング分野「マーケティング」の学習指導計画案の作成	遠隔授業で行う (1)次回の模擬授業を想定した学習指導計画案を作成 (2)板書計画案の』作成	〔事前〕模擬授業の範囲の内容について、予習してくること(30 分)
29	マーケティング分野「マーケティング」の模擬授業	対面授業で行う (1)模擬授業 (2)評価表・自由感想表の作成 (3)発表	〔事前〕模擬授業のシミュレーションをしてくること(30 分)
30	後期のまとめ	商業科教育法を学んで感じたこと、 及び自身が描く教員像について発表する	

関連科目	大学の経営学部や経営情報学部で学ぶ専門科目は、商業科の専門科目として活かせる魅力がある。 簿記、会計、原価計算、管理会計、情報処理、電子商取引、経営学、経済学、マーケティング、民法、会社法、ベンチャービジネス論など、幅広く履修しておくことが大切。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	商業科教育論	日本商業教育学会	実教出版株式会社
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	課題・レポート５０％ 、 授業への参加度（学習意欲、事前学習、発表等） ５０％とし、 総合的に判断して評価する。
学生への メッセージ	商業科教員採用試験では、日本商工会議所簿記検定２級程度の問題が出題されるので、在学中の取得を目指して欲しい。また、新聞やインターネットの政治・経済や教育に関する記事を日頃から読み、社会の変化に興味・関心を持ち、幅広いビジネスに関する知識を有する商業科教員を目指そう。
担当者の 研究室等	
備考	質問等はメール等で対応します。 課題については、Web Folder で、随時評価します。 事後学習については、特に表記していませんが、事前学習と合わせた総時間は 120 時間程度です。

科目名	情報科教育法	科目名（英文）	Instruction Method for Information and Communication Science
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年	授業担当者	栢木　紀哉
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	高等学校普通教科「情報」の教員免許を取得するために必修となる講義である。「情報科」成立の経緯および教科内容について理解し、情報教育のあり方について、学習目標、指導方法、評価方法などの視点から考え、担当教員に必要となる基礎的知識や資質を養う。また、指導案の作成、模擬授業の実施を通して、授業を展開できる能力を身につけることを目指す。
到達目標	教科「情報」の教育目標や位置づけについて知り、教員に求められる幅広い知識を身につけるとともに教育指導技術の向上を図る。また、教科「情報」の授業を行う上で必要となる技能について、授業研究、教材設計、指導計画の作成を通して身につける。さらに、ディスカッションや模擬授業などを通して実践的な指導方法を修得する。
授業方法と留意点	テキストおよび配付資料を中心に、スライドを使って説明を行う。教員免許に関する科目であり、意見交換を行いながら学習指導案、学習教材などを作成するため、主体的・積極的な受講を求める。 原則として対面型で授業を行う。ただし、内容に応じてオンライン型で行う場合もある。 オンライン授業の形態としては、教材・課題提供型授業で実施する。 教材の配布、課題の提出等は、Moodle を使用する。
科目学習の効果（資格）	教科「情報」の免許科目 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目区分：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含めることが必要な事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、情報技術の進展と情報教育の役割	配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（120分） 次回の内容を確認する（60分）
2	情報教育の意義と役割	情報教育の実践と教育の情報化	配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（120分） 次回の内容を確認する（60分）
3	共通教科「情報」と専門教科「情報」の構成	共通教科「情報」の内容構成、専門教科「情報」の内容構成	配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（120分） 次回の内容を確認する（60分）
4	共通教科「情報」における各科目の内容	「社会と情報」、「情報の科学」の学習目標、内容、教育方法	配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（120分） 次回の内容を確認する（60分）
5	専門教科「情報」における各科目の内容	専門教科「情報」の科目群の学習目標、内容、教育方法	配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（120分） 次回の内容を確認する（60分）
6	共通教科「情報」の指導方法（1）	年間指導計画書の作成、学習目標の明確化	学習目標について調べまとめる（120分） 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（60分）
7	共通教科「情報」の指導方法（2）	課題分析の方法、進め方	課題分析について調べまとめる（120分） 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（60分）
8	共通教科「情報」の指導方法（3）	評価の目的と対象、評価対象の具体化	評価について調べまとめる（120分） 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（60分）
9	共通教科「情報」の指導方法（4）	学習課題に応じた評価方法の種類と特徴	評価方法について調べまとめる（120分） 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（60分）
10	模擬授業（1）	教育目標の明確化	模擬授業の教育目標を立てる（150分） 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（30分）
11	模擬授業（2）	年間指導計画、学習指導案の書き方	年間指導計画、学習指導案を作成する（120分） 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（60分）
12	模擬授業（3）	教材研究の方法	教材研究の準備をする（120分） 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（60分）
13	模擬授業（4）	授業分析、授業評価	模擬授業の準備をする（120分） 授業分析、授業評価を行う（60分） 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（60分）
14	学習環境の整備と情報教員の役割	電子黒板、デジタル教材、教育環境の整備	配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（120分） 次回の内容を確認する（60分）
15	前半のまとめと中間レポート課題	前半の振り返り、中間レポート課題の解説	前半の内容を整理する（120分）
16	学校教育と著作権	教材開発の方法と教育現場での著作権	配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（120分） 次回の内容を確認する（60分）
17	情報教育の実践例（1）	情報とコンピュータの指導例	配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（120分） 次回の内容を確認する（60分）
18	情報教育の実践例（2）	アルゴリズムとプログラムの指導例	配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（120分） 次回の内容を確認する（60分）

19	情報教育の実践例（３）	モデル化とシミュレーションの指導例	配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（120分） 次回の内容を確認する（60分）
20	情報教育の実践例（４）	問題解決の指導例	配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（120分） 次回の内容を確認する（60分）
21	魅力ある授業の展開（１）	学習意欲を高める方法、内発的動機付けと外発的動機付け	配付資料の該当箇所を見直しておく（120分） 次回の内容を確認する（60分）
22	魅力ある授業の展開（２）	学習者の協同と活動、ワークショップとプロジェクト学習	配付資料の該当箇所を見直しておく（120分） 次回の内容を確認する（60分）
23	魅力ある授業の展開（３）	ICT 活用の実際、授業の記録・分析の方法	配付資料の該当箇所を見直しておく（120分） 次回の内容を確認する（60分）
24	模擬授業の展開（１）	「社会と情報」の指導計画、学習指導案の作成	指導計画書、学習指導案を作成する（120分） 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（60分）
25	模擬授業の展開（２）	「社会と情報」の模擬授業、相互評価	模擬授業の準備をする（120分） 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（60分）
26	模擬授業の展開（３）	模擬授業の振り返り	模擬授業の振り返りをする（120分） 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（60分）
27	模擬授業の展開（４）	「情報の科学」の指導計画、学習指導案の作成	指導計画書、学習指導案を作成する（120分） 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（60分）
28	模擬授業の展開（５）	「情報の科学」の模擬授業、相互評価	模擬授業の準備をする（120分） 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（60分）
29	模擬授業の展開（６）	模擬授業の振り返り	模擬授業の振り返りをする（120分） 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（60分）
30	後半のまとめと最終レポート課題	後半のまとめ、最終レポート課題の解説、これからの教師に求められる授業力	後半の内容を整理する（180分）

関連科目

情報関連科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	社情 311　最新社会と情報　新訂版	監修：山極隆	実教出版
2	最新社会と情報新訂版（社情 311）準拠 社情 311　最新社会と情報　新訂版　学習ノート	実教出版編修部	実教出版
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ICT 活用指導力アップ！教育の情報化-教員になるための情報教育入門-	監修： 梅田恭子、齋藤ひとみ	実教出版
2			
3			

評価方法（基準）

授業中の課題（40%）、模擬授業（40%）、中間・最終レポート課題（20%）をもとに総合的に評価する。
演習が中心となるため、継続的な授業への出席が必要です。

学生へのメッセージ

学習者に対して授業を行うためには、周到な準備が必要になります。目的意識を持ち積極的に授業に出席して下さい。

担当者の研究室等

11 号館 8 階（栢木教授室）

備考

必要に応じて資料を配布します。
授業に関する質疑応答は、主に SNS、メールを使用します。

科目名	職業指導	科目名（英文）	Vocational Guidance
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択科目
学期	通年	授業担当者	水野　武
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	職業教育や進路指導においては、職業構造や職種・業種内容について学んだり資格取得や技能訓練などを促進したりするばかりでなく、社会や産業構造の変化の中で自分はいかに生きていくかという「生き方の設計」について学ぶことが重要です。本科目を通して学生は、キャリア教育の理論と実践について理解を深めるとともに、経済社会・産業界の変化と職業指導に与える影響などについて知見を広め、「生き方の設計」の指導者としての資質能力の基礎を身につけます。
到達目標	職業教育の理論、面談する際の技法への理解を深めることを講義の目標とします。
授業方法と留意点	講義と受講生による報告・討議を織り交ぜて進めます。 講義では都度課題を提示し、その内容を元に受講者間で話し合いを行って頂きます。 尚、遅刻等は厳禁です。 なお、講義は当面の間は Teams によるリアルタイム型 Web 講義を行う。 Teams コードは h2f18nk
科目学習の効果（資格）	工業科における職業指導に関する基礎知識が身に付く

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・授業概要の説明、職業の定義、職業指導の概念整理	事前学習:本科目のシラバスを熟読すること(１時間)。 事後学習：年間の学びの計画を立てること（３時間）
2	職業指導の基礎理論	・職業指導における基本的な考え方、手法	事前学習：職業指導及びキャリアの基礎理論について調べておくこと（２時間） 事後学習：職業指導に関する資料を熟読すること（２時間)。
3	職業指導の歴史①	・アメリカ・ヨーロッパを中心に職業指導の経緯を知る	事前学習：欧米の職業指導に関して調査すること（３時間)。 事後学習：講義の内容を振り返ること（１時間）
4	日本の産業構造の変化	・日本の産業、雇用事情の変化を知る	事前学習：日本の産業の変遷について市調べておくこと（３時間)。 事後学習：講義内容を振り返ること（１時間）
5	職業指導の歴史②	・日本の戦後の教育改革について	事前学習：日本の戦後の教育改革について調べておくこと（２時間)。 事後学習：配布資料を熟読し、講義内容を振り返ること
6	日本型雇用と職業指導	・日本における雇用システムの変容と職業指導の関わり	事前学習：日本型雇用について発表資料を作成すること（３時間)。 事後学習：発表及びディスカッションの内容を振り返ること（１時間）
7	新規高卒就職システム	・新規高卒労働市場の変容と現状	事前学習：高卒労働市場に関して調べておくこと（２時間)。 事後学習：講義内容を振り返ること（２時間）
8	高等学校における職業指導	・各種学校における職業指導の在り方について	事前学習：高校の職業指導の事例について調査・発表資料を作成すること（３時間） 事後学習：講義内容を振り返ること（１時間）
9	「労働すること」を考える	・仕事をすることの意義を考える	事前学習：仕事をする意味について意見をまとめておくこと（２時間） 事後学習:自らの労働観について考えること(２時間)。
10	職業指導の領域	・学校、家庭、地域コミュニティ、公的機関等職業指導がなされる「場」について考える	事前学習：職業指導領域に関する資料を事前に熟読すること（２時間)。 事後学習：講義内容を振り返ること（２時間）
11	キャリア教育の基礎理論①	・キャリアデザインにおける基礎理論を知る	事前学習：自己について考えておくこと（２時間） 事後学習：キャリアデザイン理論についての資料を熟読すること（２時間)。
12	キャリア教育の基礎理論②	・キャリアデザインにおける基礎理論を知る	事前学習:児童・生徒の発達について考えてくこと(３時間） 事後学習：キャリアデザイン理論についての資料を熟読すること（１時間)。
13	授業内容立案	・高校生向けの職業指導・キャリア教育に関する授業内容を立案する	事前学習：高校でのキャリア供養行くの事例について調べておくこと（１時間） 事後学習：模擬授業の準備をすること（３時間)。
14	模擬授業①	・講義 13 で立案した内容で模擬授業を実施	事前学習：模擬授業の準備をすること（２時間)。 事後学習:他者及び自らの発表内容を振り返ること(２時間）
15	講義の振り返り	・講義の振り返り、前期の中間レポートの提出	事前学習：前期のレポートを作成すること（３時間)。 事後学習：講義全体を振り返ること（１時間）
16	オリエンテーション	・後期授業概要の説明	事前学習：本科目のシラバスを再度熟読すること（１時間)。 事後学習：後期の学習計画を立てること（３時間）
17	商業教育と職業指導	・商業高校における職業指導について	事前学習：商業高校の職業指導事例に関すして調査すること（２時間)。 事後学習：講義の内容を振り返ること（２時間）
18	工業教育と職業指導	・工業高校における職業指導について	事前学習：工業高校の職業指導事例に関すして調査すること（２時間)。 事後学習：講義の内容を振り返ること（２時間）
19	普通科高校と職業指導	・普通科高校における職業指導について	事前学習：普通課高校の職業指導事例に関すして調査

			すること（２時間)。 事後学習：講義の内容を振り返ること（２時間）
20	フリーターとニートについて	・グループ（またはペア）でフリーター・ニート対策を考える	事前学習：フリーター・ニート問題に関して調査し、ディスカッションできるよう準備すること（２時間)。 事後学習：講義内容を振り返ること（２時間）
21	職業指導･キャリア教育の実例	・地方も含めた職業指導の事例紹介	事前学習：発表の準備をすること（２時間)。 事後学習：他者及び自らの発表の内容を振り返ること（２時間）
22	キャリアデザインとは何か	・キャリアデザインとは何かを考える	事前学習：自らの人生の節目について考えること（２時間)。 事前学習：講義内容を振り返ること（２時間）
23	高校生の就業力について 職業適性とは何か	・新規高卒者が求められる就業力について ・職業適性、各種アセスメントについて	事前学習：大卒と高卒の就職システムの違いについて調査すること（２時間） 事後学習：自らの適性の活かし方を考えること（２時間)。
24	人権教育としての職業指導	・職業指導の国際基準、ハンディキャップがある生徒への職業指導	事前学習：ILO の提唱する「人間らしい働き方」について調査すること（２時間） 事後学習：配布資料を精読すること（２時間)。
25	未来の働き方を考える	・日本の課題、それにより想像される未来においての働き方を考える	事前学習：AI による仕事の代替可能性について調査すること（２時間） 事後学習：講義内容を振り返ること（２時間)。
26	就業力向上企画を立案①	・高校生の就業力向上のための企画・授業を考える	事前学習：発表の準備をすること（３時間)。 事後学習:他者及び自らの発表内容を振り返ること(１時間)
27	就業力向上企画を立案②	・２６回目で考えた内容を発表する	事前学習：発表の準備をすること（３時間)。 事後学習:他者及び自らの発表内容を振り返ること(１時間)
28	キャリアカウンセリング理論①	・自己概念・環境との相互作用・学習理論からのアプローチ	事前学習：キャリアカウンセリングとは何かについて調べておくこと（２時間） 事後学習：講義の内容について振り返ること（１時間）
29	キャリアカウンセリング理論②	・カウンセリングマインドを知る	事前学習：キャリアカウンセリングとは何かについて調べておくこと（１時間） 事後学習：講義の内容について振り返ること（２時間）
30	まとめ/講義の振り返り	・提出物の確認、授業内容に関する質疑応答	事前学習：期末レポートを作成すること（４時間)。 事後学習：講義全体を振り返ること（２時間）

関連科目	教職科目全般。特に「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。また「特別活動論」にも近接します。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	講義内での課題、提出物、レポート、授業への積極的参加、レポートの提出状況およびその内容も加味して、成績を判定します。 平常点(30%)、授業課題(10%)、中間レポート(30%)、期末レポート(30%)
学生への メッセージ	「職業指導」について学ぶとともに、自らの勤労観・職業観を養い、経済社会・産業界の状況に対応して自らの進路を切り開いていってください。特に後期は就職活動と並行しての受講となるので、自らの経験と照らし合わせながら、高校生に対する指導について考えてみてください。 なお、講義は担当者の人材業界での業務・及び起業経験に基づいたお話も交えて進行します。
担当者の 研究室等	教育イノベーションセンター（水野）
備考	

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小山　昇
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・ 目的	法学基礎演習Ⅰは、主として、 法学部における勉学のためのガイダンスを行うこと、法学部生として身につけるべき基本的能力を引き出して訓練するとともに、これからの法学部生として学習意欲を高めること、そして、有意義な学生生活を送れるよう様々な支援をすること、が目的となります。 　法学基礎演習Ⅰでは、学部全体で実施している図書館の利用方法、文献の利用の仕方、研究倫理教育、環境教育、自校史教育（後期実施の場合もあります）などの他、法律を勉強していくうえで必要な基礎的知識として、「法律と言葉」をテーマとして検討します。
到達目標	この演習を通じて、学生には法律の理解に最低限必要な知識としての「言葉」及び「法律用語」を理解していることを説明できるようになることが期待されます。
授業方法と 留意点	新入生共通教材の「フレッシュマンズ・スタディガイド」を使った指導と、この演習の主たる授業テーマである「法律と言葉の理解」について問題を検討する、という形で進めます。なお、対面授業が実施できない状況に至ったときは、「Microsoft Teams」及び「WebFolder」を利用することにします。最後に、「総合課題」のレポートの提出を求めます。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	１．学部共通の図書館利用指導など ２．フレッシュマンズ・スタディガイドを使った指導 ３．研究倫理及び環境についての教育 ４．ＩＴを使った法令・判例の入手方法の指導 ５．六法の使い方、読み方の指導 ６．法律を学ぶ基礎として必要な「法律と言葉」について問題とその検討 　１・２・３・４については、各１回程度 　５・６については、１１回程度を使って行う。 　共通行事以外については、配付する資料を検討し、事後にはゼミでの結果を復習することを重視して、各授業時間ごとに２時間程度の学習をして下さい。
関連科目	法学部で開講されている授業科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	必要な資料を配付します。		
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	適宜、紹介します。		
2			
3			

評価方法 （基準）	授業での「討論参加」と「発言状況」(60%)及び「総合課題」のレポート(40%)を合計して評価します。
学生への メッセージ	１年次のゼミは大学生活にとって初めてかつ重要な出会いの場となります。挨拶など声をかけることから初めてみましょう。
担当者の 研究室等	11 号館９階　小山教授室
備考	レポートについては､後期の法学基礎演習Ⅱ及びＳＨの時間､またメールなどを使ってフィードバックします｡質問などについては､「Microsoft Teams」のほかメールも利用してください。

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	牛丸　興志夫
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・ 目的	法学基礎演習の目的は、主として３つあります。（１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 　新聞で報道されている法律の問題を題材にして、法律学の紹介を行っていきます。
到達目標	この授業を通じて、学生は、大学で法学教育を学ぶために必要な基礎的な知識を習得できるようになることが期待される。
授業方法と 留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	法学の基礎を習得できます。 FIrst Year Study Gude　を用いて、大学で学ぶための最小限の知識を習得できます。 新聞の記事などを読んで、様々な法律学の入門的な知識を習得できます。 SPI テスト対策の勉強もします。 演習中に勉強したことを復習して、さらに、興味があることについては、図書館等を利用して、自主的に勉強してください。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	出席を重視し、平常点により評価します。ただし、欠席・遅刻が多い場合には、法学基礎演習Ⅰ・Ⅱともにレポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。平常点 70％レポート 30％
学生への メッセージ	演習には必ず、出席してください。 演習中は、ポケット六法を携帯してください。 法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　牛丸教授室
備考	「事前・事後学習は、合計 20 時間とって下さい。 提出されたレポートに対する指導は、提出後の演習の時間中に行います。

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	高間　佐知子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として３つあります。（１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 （１）ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方)、⑤その他、学生生活に必要なノウハウを学びます。
到達目標	この授業を通じて学生には、学生生活に慣れてもらうことで、大学生として学習を進めるにあたっての不安を解消し、さらに、法学部生に必要となる基礎的能力を身につけることを期待します。
授業方法と留意点	皆さんでディスカッションしながら疑問点を解決していきます。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	・授業テーマ 大学生・法学部生に必要なものは何か ・授業内容 学生生活で必要となってくる知識やノウハウを身につける。具体的には、レポートの書き方、図書館の利用、パソコンの利用といったすべての授業で必要なことを学ぶ。さらに、法学部生として、六法の使い方・読み方を学んだり、裁判傍聴などで裁判実務を学んだり、法的な素養も養ってもらう。 ・事前学習および事後学習 事後的な復習を行い、疑問点は早めに解決して分からないことをそのままにしないように心掛けること。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	演習での参加態度として、プレゼンテーションの内容やディスカッションでの発言などを判断材料にして、どれほど演習の時間を自分で有意義なものにしているかを評価します。
学生へのメッセージ	最初は誰もが不安に思い、分からないことの方が多いと思います。皆さんで助け合いながら大学での居場所や人間関係を築いていきましょう。
担当者の研究室等	11 号館 10 階
備考	事前・事後学習課題とそれに要する時間はそれぞれ 1 時間 30 分を目安とする。 課題の解説は次の回の授業で行う。

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小島　俊朗
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	法学基礎演習の目的は、主として３つあります。（１）法学部における勉学のためのガイダンスを行うこと、（２）法学部生として身につけるべき基本的能力を引き出して訓練するとともに、これからの法学部生活を送るに当たって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるように様々な支援をすることです。
到達目標	この演習を通じて学生には、次の目標を達成することが期待されます。 ①法学部における学習の基本や法律的なものの考え方を理解すること ②大学生活になじむこと ③大学４年間を計画的に過ごすための基礎を固めること
授業方法と留意点	演習は参加重視ですので毎回必ず出席してください。法学基礎演習に限らず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。当ゼミ独自のテーマでは、皆さんのプレゼンテーションの後に質疑応答の時間を設けます。皆さんが主役ですので積極的に発言してください。
授業テーマ・内容、方法･事前、事後学習課題	本学共通教材の「first year study guide」を使用して大学生活を送るうえで知っておくべきことを学ぶほか、当ゼミ独自では、「社会でおきていることに関心を持とう」というテーマで、世論を二分しているような種々の社会問題について考えます。 授業計画に応じたテーマにつき、事前・事後の学習を行い、理解を深めることが重要です。
関連科目	憲法
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点（５０%）、レポート（20 点）、及び課題発表（３０%）によって評価します。平常点は、ゼミでの積極的な発言と参加状況を重視します。
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法が分からないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となります。良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　小島教授室
備考	課題発表は、質疑応答の後に、良かった点、改善・工夫を要する点などにつきコメントします。レポートについても適宜講評を行います。 重要なことは自ら学習する姿勢を身に着けることです。したがって、授業計画に応じたテーマにつき、事前・事後の学習を少なくとも毎回各 30 分程度行うように心掛けて下さい。

科目名	法学基礎演習Ｉ	科目名（英文）	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	河原　匡見
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	法学基礎演習Ｉ・ＩＩの目的は、主として３つあります。（１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 （１）ガイダンスでは、図書館の利用方法、六法や法学参考文献の利用のしかた、法学専門講義の履修についての心構え、パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方）、その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。 （２）法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の４年間を意欲的にすごせば、みなさんもかならずそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。たとえば、 新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める、みなさんが関心をもっていることがらについて議論する、法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する、ディベートをおこなう、裁判所見学など学外研修を実施するなどです。みなさんの学習意欲を高めるため、今後とも工夫を重ねる予定ですので、どんどん希望を言ってください。できるかぎり、希望にそうよう努力します。 （３）学生生活支援とは、みなさんの学生生活上の悩みや不満に対して担当教員がきめ細かに対応するということです。また、みなさんの将来の進路選択に有益なさまざまな助言活動も行います。たとえば、公務員試験対策、税理士や裁判所職員などの法律専門職、就職への心構え、大学院進学、海外留学など、早い段階から準備をしたほうがよいことがらについて相談にのり、適切なアドバイスを与えます。 以上のように、今後４年間にわたって実りある法学部生活をおくってもらうための道筋を示すことをめざしています。
到達目標	この演習を通じて学生には、大学生としての勉強のしかたや日々の過ごしかたなどを学んで、安全で有意義な大学生活を送れるようになることと、２年次後期から履修が始まる「専門演習」に備えて演習形式の学習法に慣れることが期待される。
授業方法と留意点	「対面方式」で実施します。新入生共通教材の「フレッシュマンズ・スタディガイド」を使った指導と、法律の理解の前提になる社会問題への関心の醸成を進めていきます。また、法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時メールなどで受け付けますので、気軽に相談してください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	詳細は、第１回目の演習で説明しますが、概ねＩでは、大学での学業生活に慣れることを主眼に据えていきます。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	平常点（学習姿勢７０％および課題提出３０％）により評価します。
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、クラス担任のようなものです。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　河原教授室
備考	課題レポートは、その課題内容により、提出した次の回に講評を加えることがあります。 事前事後学習を重視して、各２時間程度行ってください。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中　敦
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・ 目的	・法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの主な授業内容としては、（１）法学部における勉学のためのガイダンスを行うこと、（２）法学部生として身に付けるべき基本的能力を引き出して訓練するとともに、これからの法学部生活を送るに当たって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすること、の３つがあると考えられる。 ・本授業では、まずは大学生活に親しんでもらうという観点から、学生の希望も聞きつつ授業を行ってきたい。具体的には、（１）ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方）、⑤その他、学生生活に必要な事項について学ぶ。
到達目標	この授業を通じて学生には、大学生としての生活に慣れ、自発的に学ぶ姿勢を身に付けるとともに、人前で自分の意見を述べる発表力を付けることが期待される。
授業方法と 留意点	・ゼミは、授業に出席して議論に参加することを重視する。無断欠席・無断遅刻は慎んでほしい。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡をいただきたい。 ・本ゼミの授業内容に限らず、学生生活全般にわたる質問や疑問であっても、随時受け付けるので、気軽に相談してほしい。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	・授業概要で示した法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的を踏まえ、具体的に次のような授業内容を予定している。なお、このほか、随時１年共通の授業が行われることもある。 （１）については、学内施設の案内を行うほか、FIRST YEAR STUDY GUIDE 2021 を用いて説明を行ったりする。 （２）については、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方（特に法学部生として必要な使い方）、⑤その他、学生生活に必要な事項について学ぶ。 （３）については、学生からの希望なども踏まえ、適宜行っていきたい。 ・学習は、授業の外、事前学習と事後学習を行う。授業内容によっても違うが、各２時間は行ってほしい。どのような学習をするかについては、Teams や授業の際に指示する。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法 （基準）	授業における態度（遅刻せずきちんと出席しているか、議論に積極的に参加しているか、事前事後の学習をしているか。５０％）及び、Teams 上での小テストや課題（５０％）で評価する。欠席・遅刻が多い場合には、レポートを課することがある。
学生への メッセージ	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートを切ってください。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　田中教授室
備考	コロナをめぐる情勢、学生の理解度、授業の進行等によっては、授業の方法、順序、内容を変更することがある。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中沼　丈晃
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	演習（ゼミ）は大学独特の勉強の形式で、教員と少人数の学生の間で議論（ディスカッション）をしたり、発表（プレゼンテーション）をしたりする。法学基礎演習では、卒業まで４年間続く演習の形式でどういった努力が必要か、課題に取り組みながら学ぶ。
到達目標	この演習を通じて学生には、①課題について自分の考えをまとめて、発言する、②他の学生の考えを聴いて、メモをとる、③そのメモをもとに質問をしたり、意見を述べたりすることが期待される。
授業方法と留意点	課題について下調べをして、自分の考えをまとめ、他の学生との間で議論を行う（ディスカッション）。同様に、発表を行う（プレゼンテーション）。
授業テーマ・内容･方法･事前、事後学習課題	学生間で話し合う、発表しあう課題は、自分の地元の特色といった身近な事柄から、政治・経済・社会の時事に関することまで広く扱う。事前の下調べが不可欠である。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	演習時限の全出席を前提とする。課題の下調べ(30%)、発表(40%)、議論への貢献度(30%)の合計によって評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館９階　中沼教授室
備考	課題の下調べに各回１時間ほどが必要になる。 発表の質疑応答や議論の記録をとり、学生に共有する。

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浮田　徹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	法学部生としての基礎的な能力を養います。またそれだけでなく、大学生として、将来の社会人として生きていけるような基礎力を身につけるきっかけを創り出します。
到達目標	この演習を通じて学生は、大学生としての基礎的なコミュニケーション能力、文献検索能力、プレゼンテーション能力を培います。 また、４年間の大学生活のスタート地点の講義として、また卒業後の人生も含めた過ごし方の基礎を作って行けるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	演習形式で行います。個人での作業だけでなくグループワークも行いますのでコミュニケーション能力を高める必要があります。 プレゼンテーションも行ってもらいます。。 基本的にはレポートで替えられるものではありませんので毎回の出席が前提です。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	まず ・自分が何を考えているのか ・自分は何を話しているのか ・他人が何を意図しているのか ・他人が何を伝えようとしているのか を実感出来るよう、具体的なコミュニケーション、文章理解、報告などを実践します。 具体的には開講時、そして講義の途中に決めていく部分も多くなります。
関連科目	法学部開講科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	出席を前提として、当日演習中に作成する課題(60%)、事後の課題(40%)で評価します。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館９階　浮田准教授室
備考	事前学習としては、演習時に使用する素材に関する文献を読むことになります（30 分)、事後学習としては当日の演習に関する課題を課すのでその作成を行います(60 分)。

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	石井　信輝
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・ 目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として３つあります。（１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 （１）ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方）、⑤その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。 （２）法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の４年間を意欲的にすごせば、みなさんもかならずそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。たとえば、 ①新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める、②みなさんが関心をもっていることがらについて議論する、③法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する、④ディベートをおこなう、⑤裁判所見学など学外研修を実施するなどです。みなさんの学習意欲を高めるため、今後とも工夫を重ねる予定ですので、どんどん希望を言ってください。できるかぎり、希望にそうよう努力します。 （３）学生生活支援とは、みなさんの学生生活上の悩みや不満に対して担当教員がきめ細かに対応するということです。また、みなさんの将来の進路選択に有益なさまざまな助言活動も行います。たとえば、①公務員試験対策、②税理士や裁判所職員などの法律専門職、③就職への心構え、④大学院進学、⑤海外留学など、早い段階から準備をしたほうがよいことがらについて相談にのり、適切なアドバイスを与えます。 以上のように、法学基礎演習は、少人数教育の強みを生かし、教員が学生のみなさんに親身に接するなかで、個々の希望にできるだけ対応しながら、今後４年間にわたって実りある法学部生活をおくってもらうための道筋を示すことをめざしています。
到達目標	この授業を通じて学生には、法学・政治学・法政策学を今後学んでいく上で必要と思われる基本的素養を修得することが期待される。
授業方法と 留意点	ⅠFirst year study guide を用いるが、必要に応じて資料を配布する。授業中に提示した課題を解決するために、ICT ツールを活用していただく場合もある。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、事後 学習課題	授業テーマ：決められたテーマについて報告、ディスカッションを行う予定ですが、詳細は受講生と相談しながら決めていきたいと思います。 内容・方法：演習（決められたテーマについて報告、ディスカッションを行う） 事前・事後学習課題：必要に応じてその都度指示する
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	平常点（授業に参加する態度 30%、課題 50%、プレゼンテーション 20%）により評価します。欠席・遅刻が多い場合には、レポートを課す場合もあります。
学生への メッセージ	意欲的に取り組んでください。 法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　石井教授室
備考	各回に１時間程度、すなわち半期で 15 時間程度を目安に、事前・事後の学習を行ってください。 課題の解説については、次の回の授業で行う。

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	島田　良一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として３つあります。（１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 （１）ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方）、⑤その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。 （２）法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の４年間を意欲的にすごせば、みなさんもかならずそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。たとえば、 ①新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める、②みなさんが関心をもっていることがらについて議論する、③法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する、④ディベートをおこなうなどです。みなさんの学習意欲を高めるため、今後とも工夫を重ねる予定ですので、どんどん希望を言ってください。できるかぎり、希望にそうよう努力します。 （３）学生生活支援とは、みなさんの学生生活上の悩みや不満に対して担当教員がきめ細かに対応するということです。また、みなさんの将来の進路選択に有益なさまざまな助言活動も行います。たとえば、①公務員試験対策、②税理士や裁判所職員などの法律専門職、③就職への心構え、④大学院進学、⑤海外留学など、早い段階から準備をしたほうがよいことがらについて相談にのり、適切なアドバイスを与えます。 以上のように、法学基礎演習は、少人数教育の強みを生かし、教員が学生のみなさんに親身に接するなかで、個々の希望にできるだけ対応しながら、今後４年間にわたって実りある法学部生活をおくってもらうための道筋を示すことをめざしています。
到達目標	この授業を通じて学生には、法学を学んでいく上で必要と思われる基本的素養を修得することが期待されます。
授業方法と留意点	受講生にはグループワークの形でプレゼンテーションやディベートなどに積極的・主体的に取り組んでもらうことになります。 したがって、遅刻・無断欠席は厳禁です。 なお、授業は原則として対面形式で行いますが、今後の新型コロナ禍の状況に鑑み、大学から指示があった場合にはオンライン形式に切り替えることになります。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	上述したように、この授業ではプレゼンテーションやディベートなどを通して学生に主体的に授業に取り組んでもらいます。 したがって、事前・事後学習についても、その準備やその後の振り返りにそれぞれ 30 分程度は要することになるかと思われます。 なお、疑問点などがある場合は、次回以降の授業の中で回答します。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	ディベートやプレゼンテーションなどの内容（50%）、ディベートやプレゼンテーションなどにおける発言・取り組みの姿勢・態度（50%）。 ただし、欠席・遅刻が多い場合には単位不認定となる場合があるのでくれぐれも注意してください。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館９階　島田准教授室
備考	

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	家本　真実
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	これから法学部で４年間を過ごすことになる学生の皆さんにとって必要な知識と能力の基礎作りをするのが、このゼミの目的です。たとえば、社会で起きている出来事について、それが一体どういうことなのか、なぜその出来事が起きているのか、また問題があるのならどのような解決が考えられるか、といったことを考えていただくことは、法学、政治学を学ぶにあたって重要なことです。そして様々なことについて自ら考える力は、これから皆さんが社会人として生活するにあたっても必須であり、役立つことです。 　したがってこのゼミでは、自分で情報を調べたり、ゼミの他の学生と話し合ったりして、物事を理解するための方法と、理解することの重要性を学んでいただきたいと思います。
到達目標	このゼミを通じて、学生の皆さんには、様々なツールを使って、自らの力で物事を理解することができるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	教員から講義をおこなう部分と、ゼミ生の皆さんが自ら考え、議論したり作業するといった活動をしていただく部分とが混在することになりますが、ゼミ生の皆さんが個別に作業したり、またはグループで議論したり作業する時間のほうが、割合としては多くなります。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	時事問題や最近話題になった法的問題や判決、法律を扱ったドラマや映画を題材として取り上げる予定です。 　ゼミ中におこなう活動や議論の準備として、事前に読んでくるべき資料をお渡ししたり、課題を課したりすることがありますので、各自（またはグループで）、ゼミ前後にいくらか時間を費やしていただく必要があります。
関連科目	法学基礎演習 II

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	ゼミ中の受講姿勢や活動の内容（75%）、提出された課題（25%）を評価の対象としますので、出席はすべての回について必須です。無断遅刻・欠席は即、単位が取れなくなるものとお考えください。
学生へのメッセージ	とにかくゼミには出席していただくこと、これが第一です。
担当者の研究室等	11 号館９階　家本准教授室
備考	課題については、次の回で講評をおこないます。 事前・事後学習に要する総時間数の目安：20 時間

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	城内　明
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	相模原障害者殺傷事件を素材とし、私たちの社会のあり方を考えます。
到達目標	この授業を通じて学生には、法学部生として学ぶべき基本的知識を理解すること、論理的思考の基礎を身に付けること、議論の仕方の基礎を身に付けることを期待します。
授業方法と留意点	新型コロナウィルス感染状況によりますが、原則として対面授業を予定しています。 グループに分かれての作業が中心となりますので、遅刻・欠席のないよう、くれぐれも注意して下さい。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	本授業では、相模原障害者殺傷事件を素材として、私たちの社会のあり方について検討します。 事前事後の学習課題については、適宜指示します。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	報告内容（40%)およびグループでの作業への貢献度、発言内容等(60%)を総合評価します。
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　城内准教授室
備考	報告準備等、本演習のために、計 20 時間程度の事前・事後学習時間が必要となります。

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小野　晃正
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的

法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として３つあります。
（１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと
（２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること
（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。

（１）ガイダンスでは、
①図書館の利用方法
②六法や法学参考文献の利用のしかた
③法学専門講義の履修についての心構え
④パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方）
⑤その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。

（２）法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の４年間を意欲的にすごせば、みなさんもかならずそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。
たとえば、
①新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める
②みなさんが関心をもっていることがらについて議論する
③法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する
④ディベートをおこなう
⑤裁判所見学など学外研修を実施する
などです。
みなさんの学習意欲を高めるため、今後とも工夫を重ねる予定ですので、どんどん希望を言ってください。できるかぎり、希望にそうよう努力します。

（３）学生生活支援とは、みなさんの学生生活上の悩みや不満に対して担当教員がきめ細かに対応するということです。また、みなさんの将来の進路選択に有益なさまざまな助言活動も行います。
たとえば、
①公務員試験対策
②税理士や裁判所職員などの法律専門職
③就職への心構え
④大学院進学
⑤海外留学
など、早い段階から準備をしたほうがよいことがらについて相談にのり、適切なアドバイスを与えます。

以上のように、法学基礎演習は、少人数教育の強みを生かし、教員が学生のみなさんに親身に接するなかで、個々の希望にできるだけ対応しながら、今後４年間にわたって実りある法学部生活をおくってもらうための道筋を示すことをめざしています。

到達目標

この演習を通じて学生には、
「・図書館を通じて法学の文献を取捨選択できる
　・判例データベースを用いて判例を検索できる」
ようになることが期待される。

授業方法と留意点

・教員からの一方通行的な講義にならぬよう、学生と教員双方の理解を深めるため、質疑応答を行う。
・法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。

授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題

法的な問題について、プレゼンテーションやディベートなどを行う。

関連科目

専門科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	※開講時に指示する。		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	※開講時に指示する。		
2			
3			

評価方法（基準）

・ディスカッションへの参加度（90%）と課題（10%）によって評価する。

学生へのメッセージ

・学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。
・また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。
・どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。

担当者の研究室等

11 号館 10 階　小野教授室

備考

・事後学習として、演習で扱った内容についてノートにまとめるなど、毎回２時間以上の復習に取り組むこと。
・レポート課題に対するフィードバックは翌週の授業内にて行う。

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	萩原　佐織
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	法学基礎演習Ⅰのおもな授業内容として、 （1）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、 （2）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、 （3）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることの３点を上げることができます。 個々の細かな知識を覚えることも大事ですが、むしろこの演習ではこれから学習していく法律学の全体像を大まかにとらえ、2 年次以降の専門的な学習に対応できる基礎力を養うことが重要になります。
到達目標	大学生活が始まったばかりで多々不安な点があるかと思います。この演習を通じて学生には、そうした不安をいち早く払拭し、法律学の勉強に専念できる体制を整えることが期待される。
授業方法と留意点	演習では、課題はもちろんのこと、出席も重視します。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、原則として、事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。演習では、図書館利用案内等、法学部共通のプログラムのほか、数名で構成するグループによる判例研究等のプレゼンテーション並びにその準備としてのグループワーク、その題材に基づくディベートやディスカッションを中心に行います。
授業テーマ・内容、方法･事前、事後学習課題	前期は大学生活に慣れることを目標に、みんなで大学生の基本的スキルを身につけたいと思います。大学生活が始まったばかりで、色々分からないことや不安なことがあるかと思いますので、それらの不安を払拭してサポートすることを念頭に置いています。また、大学内に友人や知人が未だ少ない時期だと思います。そのため、ゼミ生同士がお互いを知り、今後４年間学生生活をともにする仲間を見つけられるように、自己紹介や、互いにコミュニケーションが図れるような機会を多く設ける予定です。 演習の具体的な内容としては、パワーポイントを用いた自己紹介、パワーポイント・ワードの使い方やレポートの書き方の講習、大学生活についてのアドヴァイス、簡単な法律に関する課題・レポートや発表を予定しています。また、図書館で文献を探したり、オンラインジャーナルやオンライン判例検索を用いた判例・論文等の入手方法についても学び、実際に入手した資料を用いてグループワークや発表を行います。 予習事項は、毎回その都度指定しますが、各自の発表に備えて Word やパワーポイント資料を作成したり、設定テーマに関連する文献を図書館やオンラインジャーナル等で調べて読み込んでおくこと、発表準備を行うこと等が挙げられます。 また、復習事項は、ゼミ内に教員より個別に指導された内容、例えば、発表資料の修正、文献の追加検索や入手です。Teams 上で提出し返却された課題については、そこに示されたフィードバックの指示に従って復習を行って下さい。 事前・事後学習の時間は、それぞれ２時間、プレゼンテーション前は３時間を想定しています。
関連科目	法学部の専門科目のすべてにかかわります。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	演習内におけるプレゼンテーション準備やディベート・ディスカッション等の平常点（60%）、プレゼンテーションやレポート・課題（40%）で評価します。また、欠席・遅刻が多い場合には、レポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。
担当者の研究室等	11 号館９階　萩原准教授室
備考	判例研究等のプレゼンテーションの際には、準備段階から、Word や Power Point の使い方、論文・判例等の各種文献検索や判例研究の仕方を含め、適時、演習内において指導する。 また、プレゼンテーション終了後は、その場でそのフィードバックを行い、次回のプレゼンテーションに還元できるように努める。 なお、レポート等のフィードバックは、後日、添削・評価してから、演習内及び Teams において行うものとする。

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大川　謙蔵
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	法学部生としての基礎的な能力を養います。またそれだけでなく、大学生として、将来の社会人として生きていけるような基礎力を身につけるきっかけを創り出します。
到達目標	この演習を通じて学生には、大学生としての基礎的なコミュニケーション能力、文献検索能力、プレゼンテーション能力を付けることが期待されます。 また、４年間の大学生活のスタート地点の講義として、また卒業後の人生も含めた過ごし方の基礎を作ってもらいます。
授業方法と留意点	演習形式で行います。基本的にはレポートで替えられるものではありませんので毎回の出席が前提です。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	まず ・自分が何を考えているのか ・自分は何を話しているのか ・他人が何を意図しているのか ・他人が何を伝えようとしているのか を実感出来るよう、具体的なコミュニケーション、文章理解、報告などを実践します。 具体的には開講時、そして講義の途中に決めていく部分も多くなります。
関連科目	法学部開講科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	ゼミへの取り組み方から、教員により評価をいたします。具体的には、課題に対する対応・提出内容（40 点）、ゼミでの発言等の積極性（40 点）、自らのアピール（20 点）の予定です。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 9 階　大川准教授室
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の３つから成り立っています。 予習内容としては、演習で与えられる課題を個人で準備を行う必要があります。その準備を 90 分を基準として行う必要があります。 復習として、課題に対し、中間報告及び最終報告の内容を正確に押さえる必要があります。その為に 90 分を基準として行う必要があります。 学生主体の演習を目指しています。各実施状況については各自の報告時及びメールで確認します。 演習での縦の人間関係も重視しております。コンパなどで、就活などの情報も先輩から後輩へと伝えていくこと

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松島　裕一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・ 目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱのおもな授業内容として、（１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることの３点を上げることができます。 個々の細かな知識を覚えることも大事ですが、むしろこの演習ではこれから学習していく法律学の全体像を大まかにとらえ、2 年次以降の専門的な学習に対応できる基礎力を養うことが重要になります。
到達目標	この演習を通じて学生には、法律学の勉強に専念できる体制を整え、一刻も早く大学生活に慣れることが期待される。
授業方法と 留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、事後 学習課題	前期は大学生活に慣れることを目標に、みんなで大学生の基本的スキルを身につけたいと思います。時おり簡単な課題を出しますので、それを提出してください。具体的には毎年パワーポイントを用いた報告会を行っていますので、今年も皆さんにもそれに取り組んでもらうことになると思います。
関連科目	法学部の専門科目のすべてにかかわります。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	毎回の出席を当然の前提とし、ゼミ中での発言（ディスカッション・ディベート）30%、レポートなどの提出物 30%、レジュメ・報告の出来 40%で成績評価を行います。欠席・遅刻が多い場合には、単位取得を認めないこともあります。
学生への メッセージ	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　松島准教授室
備考	パワポ、レジュメ作成などの事前の課題の取り組みに 60 分程度、またゼミで学習したことの振り返りに 60 分程度が必要となります。 グループワークやディスカッションを行いますので、無断欠席・遅刻は他のゼミ生の迷惑になります。その点は注意してください。

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	増田　知也
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	この授業では、法学部で勉強する上で必要な、基礎的な知識・技能を身につけることを目指す。法学・政治学に関わるテーマを設定し、グループごとに情報収集、発表、議論を行う。適切な情報の入手方法、分かりやすい発表資料の作り方、建設的な議論の仕方について学ぶ。
到達目標	この授業を通じて学生には、多様な情報を基に自分の意見を形成し、他者との議論を通じて一段階上の結論を導くことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	グループワークを中心に授業を進行する。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. ガイダンス 大学生活について、授業の進め方、情報機器の使い方、情報の入手方法などについてガイダンスを行う。 2. テーマの設定 法学・政治学に関わるテーマをいくつか提示し、グループごとに取り組むテーマを選択する。 3. 情報収集 図書館、インターネットなどを駆使して、テーマについての情報を集め、グループとしての結論を出す。 4. プレゼンテーション グループごとに成果を発表し、質問や意見を出し合い、更に理解を深める。 事前・事後学習課題 グループで選んだテーマについての情報収集を行う（4 時間）
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	到達目標の達成度 60%　、グループ活動への貢献 20%、積極的発言 10%、プレゼンテーション 10%
学生へのメッセージ	大学では、高校までとは勉強の仕方が 180 度変わります。正解のない問題に取り組む難しさと楽しさを感じてもらえればと思います。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　増田講師室
備考	

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	和田　泰一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	一般的に大学生の教養とされている文献の読解能力や論理的思考力・判断力・表現力の基礎を身につけることが目的です。学生の皆さん一人一人が、自分が興味を持っている問題について主体的に考え、議論し、問題解決への糸口をつかめるような主体的・対話的で深いアクティブ・ラーニングの場を提供します。 また授業の受け方やレポートの書き方など、大学生活を送る上で必要な事柄についても授業します。
到達目標	この授業を通じて学生は、大学生の教養として必要な書物・新聞記事・評論などを読んで基本的な知識・技能を獲得するとともに、その要点やメリット・デメリットをまとめ、望ましい解決策について他者と討議し、他者に対してそれを明確に発表するという論理的思考力・判断力・表現力を育成することが期待されます。 またグループディスカッション・プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングを通じて主体的・対話的で深い学びを行うなかで、学習や仕事に対する意欲や積極的な人間性を育み、社会において良好で協調性のある人間関係を構築する
授業方法と留意点	ABD（Active Book Dialogue, アクティブ・ブック・ダイアローグ）というアクティブ・ラーニングの方法を用いて、政治問題に関する文献の読解・グループディスカッション・プレゼンテーションを毎回全員が行います。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	・授業テーマ・内容 教養文献の読解や議論、発表を通じて、その内容を正確に理解し、他者と討議してその内容を吟味し、他者にわかるようにその内容・解決策を発表することによって、基本的な日本語読解能力と論理的思考力・判断力・表現力を修得することができます。 ・授業方法 学生の皆さんの興味・関心を考慮しながら、教養文献をその場で毎回輪読・議論・発表する ABD（Active Book Dialogue, アクティブ・ブック・ダイアローグ）というアクティブ・ラーニングの方法を用います。短い時間で日本語の文章を読み、その要点を的確に理解することは、就職試験や公務員試験の「文章読解」で求められる能力でもあり、社会人になった後のマニュアル・資料の読解にも必ず必要な能力です。またグループディスカッションやプレゼンテーションは、仕事で問題が発生したときにその原因を的確に把握し、他者と望ましい解決策を討議し、最善と判断した改善策を他者に論理的に説得するためにも必要な能力です。 ・事前、事後学習課題 事前学習…その場で教養文献を読んでもらうので、必要ありません。 事後学習…文献全体をもう一度読み直し、内容を理解しておくこと（60 分～90 分程度）。
関連科目	法学基礎演習Ⅱ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業でのグループディスカッション（50%）とプレゼンテーション（50%）で評価します。
学生へのメッセージ	大学生活に慣れるべく、毎回出席してください。またさまざまな分野の教養文献を読み、自分の興味・関心を広げていってください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　和田講師室
備考	グループディスカッションでは教員も適宜参加し、助言を与えます。プレゼンテーションでは毎回その内容について全員に助言と短評を与えます。

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	川谷　道郎
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・ 目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として３つあります。（１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 （１）ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方)、⑤その他、学生生活に必要なノウハウを学びます。
到達目標	この授業を通じて学生には、法律の学習の基本的な方法と、法の理解に必要な知識としての法律用語を理解し、ものごとについての法律的な見方の枠組みを身につけることが期待されます。
授業方法と 留意点	First Year Study Guide が基本的な資料となりますが、課題についてはその都度指示します。レポートの作成を課することもあります。身近な出来事を話題にして、自分の意見を分かりやすく人に伝えることができるようになることがとりあえずの目標です。 法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。 授業は教室における対面授業を行いますが、Teams を利用した資料配付、その他の連絡をすることもありますので、Teams には定期的にアクセスし
授業テーマ・ 内容､方法･事前、事後 学習課題	法学部生として大学生活を始めるに当たり，学習の基本的なスキルを身につけることを目標とします。図書館利用や情報処理講習で基本的な学習の方法を知るとともに，身近に起こる問題を法律的に議論し理解するとはどういうことであるのかについて，具体例をもとに実践検討します。 なお、First Year Study Guide は基本的な資料となります。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	First Year Study Guide		
2			
3			

評価方法 （基準）	課題への取組態度（４０％)、作成内容（３０％)、授業中の発言内容（２０％）により評価します。
学生への メッセージ	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。
担当者の 研究室等	11 号館９階　川谷教授室
備考	授業においては受講生が興味を持ったニュースや社会事象について、その内容とそれについての自分の考えを報告してもらうことを考えています。テーマについて、事前の準備と事後の確認のため各１時間程度が必要です。報告についてはその場で受講者全員によるディスカッションを行い、レポートは評価を記入して次回講義で返却します。

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小山　昇
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	法学基礎演習Ⅱは、 　前期の法学基礎演習Ⅰで学んだことを基礎として、さらに ２年次以降の法学部での勉学のためのガイダンスを行います。法学部生として身につけるべき基本的能力を確認し、さらに学習意欲を高めること、有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすること、が目的となります。 　法学基礎演習Ⅱでは、学部全体で実施している学習支援センターの見学などの他、演習では、社会で議論される問題を設定して賛成・反対に分かれて討論することが中心となります。
到達目標	この演習を通じて学生には、「最近起こった社会問題」をテーマとする討論を通して、培うべき「法的なものの考え方」を理解し説明できるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	後期授業は、問題を提示して賛成・反対（自分の考えとは関係なく）に分かれてディベートもしくはディスカッションを中心に行います。それぞれの立場をとる理由を事前に考えてゼミに臨んで下さい。なお、対面授業が実施できない状況のときは、「Teams」及び「WebFolder」を利用します。最後に、「総合課題」のレポートの提出を求めます。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	１．学部共通の裁判所見学（刑事裁判の動画）、学習支援センターの体験学習：各１回程度 ２．討論する問題の提示と提示された問題についての討論 　　：提示とやり方の説明を加えて１３回程度 　事前に提示した問題について、各授業時間ごとに２時間程度の事前の「問題の検討」と「見直し」をして下さい。
関連科目	法学部で開講されている授業科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	必要な資料を配付します。		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	適宜、紹介します。		
2			
3			

評価方法（基準）	討論での「参加状況」と「発言の明確性」(60%)及び最後に提示する「総合課題」のレポート(40%)を合計して評価します。総合課題の配付と提出は「WebFolder」を利用しますので、注意してください。
学生へのメッセージ	設定する問題に対して賛成・反対のどちらの立場でも発言ができるように、社会問題に関心を持ってください。新聞やテレビなどのチェックも忘れないで下さい。
担当者の研究室等	11号館９階　小山教授室
備考	質問なども「Teams」を利用してください。課題などについては、適宜、SHやPortalを利用してフィードバックします。

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	牛丸　興志夫
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	法学基礎演習の目的は、主として３つあります。（１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。対面授業で行う。
到達目標	この演習を通じて学生は、大学で法学教育を受けるために必要な基礎的な知識を習得できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。対面授業で行う。
授業テーマ・内容、方法･事前、事後学習課題	法学の基礎を習得します。 ＳＰＩテスト対策の勉強もします。 特に、２年以降に学ぶ法律学の基礎になる民法を中心にして、判例の読み方とか、試験の答案の書き方などを勉強します。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	出席を重視し、平常点・レポートにより評価します。ただし、欠席・遅刻が多い場合には、法学基礎演習Ⅰ・Ⅱともにレポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。平常点 70%レポート 30%
学生へのメッセージ	演習には、必ず出席し、議論に加わるようにしてください。 法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　牛丸教授室
備考	「事前・事後学習の課題には合計 20 時間とって下さい。 提出されたレポートに対する指導は、提出後の演習の時間中に行います。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	高間　佐知子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・ 目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として３つあります。（１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 （１）ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方)、⑤その他、学生生活に必要なノウハウを学びます。
到達目標	この授業を通じて学生には、大学生として学習するうえで必要となる基礎的能力を身につけることが期待されます。
授業方法と 留意点	ゼミ生の皆さんが行う報告をもとにして問題点を掘り下げていきます。題材は、裁判例や ニュースなどを中心に、なるべくゼミ生の皆さんが興味関心のあるものにしぼります。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	・授業のテーマ 新聞記事やニュースを法律の視点で眺める ・授業内容および方法 新聞記事やニュースなどから法律が絡んでくるものを見つけ出すことから始める。そして、実際に関連する法律は何か検討する中で、法律知識も身につけていく。また、裁判傍聴などをすることで実際に法律問題がどのように解決され、裁判がどのように進められているかを学ぶ機会も作りたい。その他に具体的な内容はできる限りゼミ生の皆さんの意見を取り入れて実施する予定である。 ・事前学習および事後学習 報告をするにあたって事前準備はしっかりと行い、報告資料の作成を行ってもらう。また、復習としてレポート課題に取り組んでもらうこともある。
関連科目	法学関連科目、社会科学全般
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	演習での参加態度として、プレゼンテーションの内容やディスカッションでの発言などを判断材料にして、どれほど演習の時間を自分で有意義なものにしているかを評価します。
学生への メッセージ	色々と不安もあるかと思いますが、大学生活で自分なりに目標を見つけていきましょう。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階
備考	様々な連絡で Teams を利用しますので、常に確認をお願いします。

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小島　俊朗
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	法学基礎演習の目的は、主として３つあります。（１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活を送るに当たって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるよう様々な支援をすることです。
到達目標	この演習を通じて学生には、次の目標を達成することが期待されます。 ①法学部における学習の基本や法律的なものの考え方を理解すること。 ②大学生活になじむこと。 ③大学４年間を計画的に過ごすための基礎を固めること。
授業方法と留意点	演習は、参加重視です。毎回必ず参加して、無断不参加・無断遅刻は慎んでください。やむをえず不参加・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習に限らず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。当ゼミ独自のテーマでは、皆さんのプレゼンテーションの後に質疑応答やディスカッションの時間を設けます。皆さんが主役ですので積極的に発言してください。
授業テーマ・内容･方法･事前、事後学習課題	裁判所見学などの法学部共通プログラム（実施未定）のほか、憲法制定の沿革や法令解釈の仕方などを学びます。また、当ゼミは「自分の言葉で説明してみよう」を中心テーマとして掲げ、皆さんに効果的なプレゼンテーションをするにはどうしたらよいのかを考えてもらいます。資料は提供しますが、一方的なお話ではなく、他のゼミ生を参加させるように工夫してください。授業計画に応じたテーマにつき、事前・事後の学習を行い、理解を深めることが重要です。
関連科目	憲法、民法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点（５0%）、レポート及び課題発表（50%）によって評価します。平常点は、ゼミでの積極的な発言と出席状況を重視します。
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、皆さんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法が分からないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な友人となります。良好な関係を築いてください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　小島教授室
備考	課題発表は、質疑応答の後に、良かった点、改善・工夫を要する点などにつきコメントします。レポートについても適宜講評を行います。 重要なことは自ら学習する姿勢を身に着けることです。したがって、授業計画に応じたテーマにつき、事前・事後の学習を少なくとも毎回各 30 分程度行うように心掛けて下さい。

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	河原　匡見
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	法学基礎演習の目的は、主として３つあります。（１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 （１）ガイダンスでは、図書館の利用方法、六法や法学参考文献の利用のしかた、法学専門講義の履修についての心構え、パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方）、その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。 （２）法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の４年間を意欲的にすごせば、みなさんもかならずそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。たとえば、 新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める、みなさんが関心をもっていることがらについて議論する、法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する、ディベートをおこなう、裁判所見学など学外研修を実施するなどです。みなさんの学習意欲を高めるため、今後とも工夫を重ねる予定ですので、どんどん希望を言ってください。できるかぎり、希望にそうよう努力します。 （３）学生生活支援とは、みなさんの学生生活上の悩みや不満に対して担当教員がきめ細かに対応するということです。また、みなさんの将来の進路選択に有益なさまざまな助言活動も行います。たとえば、公務員試験対策、税理士や裁判所職員などの法律専門職、就職への心構え、大学院進学、海外留学など、早い段階から準備をしたほうがよいことがらについて相談にのり、適切なアドバイスを与えます。 以上のように、今後４年間にわたって実りある法学部生活をおくってもらうための道筋を示すことをめざしています。
到達目標	この演習を通じて学生には、大学生としての勉強のしかたや日々の過ごしかたなどを学んで、安全で有意義な大学生活を送れるようになることと、２年次後期から履修が始まる「専門演習」に備えて演習形式の学習法に慣れることが期待される。
授業方法と留意点	新型コロナの感染が治まっている現状を踏まえ、「対面式」で実施します。演習は、少人数教育の強みを生かすもので出席してディスカッションに参加することが重要です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	詳細は、第１回目の演習で説明しますが、概ねⅡでは、法学部の演習形式による学習に慣れることを主眼に据えていきます。なお、新型コロナの感染が治まっている現状を踏まえ、「対面式」で実施します。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	平常点（ディスカッションへの参加などの学習姿勢７０％および課題提出３０％）により評価します。なお、欠席・遅刻が多い場合には、レポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、クラス担任のようなものです。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　河原教授室
備考	課題レポートは、報告してもらった後で講評します。 特に事後学習を重視して、各授業時間ごとに２時間程度の見直しをしてください。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中　敦
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・ 目的	・法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの主な授業内容として、（１）法学部における勉学のためのガイダンスを行うこと、（２）法学部生として身に付けるべき基本的能力を引き出して訓練するとともに、これからの法学部生活を送るに当たって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることがあげられる。 ・法学基礎演習Ⅱは、同Ⅰで行った授業を踏まえ、さらに法律に関する基礎知識及び法的な考え方を習得するために、法学の学習をより深めていきたいと考える。
到達目標	この授業を通じて学生には、授業の目的欄に記載したとおり、法学部学生として身に付けておくべき基本的な姿勢を習得するとともに、次年度の専門演習に備え、①判例を調査し、判旨事項や判決内容などを検討できるようになること、②法的観点を見出して、自分の見解を述べ、他の意見を聞いて議論ができるようになることが期待される。
授業方法と 留意点	・ゼミは、授業に出席して議論に参加することを重視する。無断欠席は慎んでほしい。やむをえず欠席するときには、できるだけ事前に教員まで連絡をいただきたい。授業に際しては六法を手元に用意しておくこと。 ・本ゼミの授業内容に限らず、学生生活全般にわたる質問や疑問であっても、随時受け付けるので、気軽に相談してほしい。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ】 ・法学基礎演習Ⅰと同じく、自分の意見の発表力を高めることを内容とするが、発表等の際には、条文等を音読させたうえ、内容を確認することも行う。これは、法律に慣れるとともに、文章の理解能力を高めるためのものである。 ・１５回の授業は、共通授業を除いて、大きく分けて次のように行うことを考えている。 ①第１回は、導入及び授業についての要望を聞く。その後要望等を踏まえ、ゼミに必要となる基本事項の説明や適宜の話題に関する講義等を行う。 ②前半では、法学検定の基礎編（憲法も含む法学一般）の問題を回答してもらう。問題は、Teams によって事前に送付する。単なる正解の確認にとどまらず、なぜそのように考えるのか、あるいはこれに関連する分野、問題についても講義を行ったり、学生とのあるいは学生同士での議論を行ったりする。 ③後半では、法律をめぐる問題あるいは時の判例を中心に、議論を行っていきたい。 【事前・事後学習課題】 本授業では、事前学習及び事後学習に各２時間を充てることが求められる。事前学習は、事前に指示することもあるが、指示の有無にかかわらず、当日の授業を踏まえ、自ら考えて行うことも必要である。法学検定の問題については、授業で回答できるように予習を行っておくこと。事後学習は、当日の授業の復習のほか、教員から指示を受けた事項を学習することもある。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業における態度（きちんと出席しているか、議論に積極的に参加しているか、事前事後の学習をしているか。５０％）及び、Teams 上での課題（５０％）で評価する。欠席が多い場合には、レポートを課することがある。
学生への メッセージ	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任なので、学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となることと思います。良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートを切ってください。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　田中教授室
備考	コロナをめぐる情勢、学生の理解度、授業の進行によっては、授業の方法、順序、内容を変更することがある。

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中沼　丈晃
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	演習（ゼミ）は大学独特の勉強の形式で、教員と少人数の学生の間で議論（ディスカッション）をしたり、発表（プレゼンテーション）をしたりする。法学基礎演習では、卒業まで４年間続く演習の形式でどういった努力が必要か、課題に取り組みながら学ぶ。
到達目標	この演習を通じて学生には、①課題について自分の考えをまとめて、発言する、②他の学生の考えを聴いて、メモをとる、③そのメモをもとに質問をしたり、意見を述べたりすることが期待される。
授業方法と留意点	課題について下調べをして、自分の考えをまとめ、他の学生との間で議論を行う（ディスカッション）。同様に、発表を行う（プレゼンテーション）。＊遠隔の場合、前期に引き続き zoom で行う。
授業テーマ・内容･方法･事前、事後学習課題	学生間で話し合う、発表しあう課題は、自分の小中高校生時代の経験といった身近な事柄から、政治・経済・社会の時事に関することまで広く扱う。事前の下調べが不可欠である。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	演習時限の全出席を前提とする。課題の下調べ(30%)、発表(40%)、議論への貢献度(30%)の合計によって評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館９階　中沼教授室
備考	課題の下調べに各回１時間ほどが必要になる。 発表の質疑応答や議論の記録をとり、学生に共有する。

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浮田　徹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	前期に引き続き、法学部生としての基礎的な能力を養います。またそれだけでなく、大学生として、将来の社会人として生きていけるような基礎力を身につけるきっかけを創り出します。
到達目標	この講義を通じて学生には、前期に引き続き大学生としての基礎的なコミュニケーション能力、文献検索能力、プレゼンテーション能力を培い、４年間の大学生活のスタート地点の講義として、また卒業後の人生も含めた過ごし方の基礎を作れるようになることが期待される。
授業方法と留意点	演習形式で行います。基本的にはレポートで替えられるものではありませんので毎回の出席が前提です。 個別の学習だけでなくグループワークを用いて行いますのでコミュニケーション能力が必要となります。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	まず ・自分が何を考えているのか ・自分は何を話しているのか ・他人が何を意図しているのか ・他人が何を伝えようとしているのか を実感出来るよう、具体的なコミュニケーション、文章理解、報告などを実践します。 具体的には開講時、そして講義の途中に決めていく部分も多くなります。
関連科目	法学部開講科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	出席を前提として、当日演習中に作成する課題(60%)、事後の課題(40%)で評価します。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館９階　浮田准教授室
備考	事前学習としては、演習時に使用する素材に関する文献を読むことになります（30 分)、事後学習としては当日の演習に関する課題を課すのでその作成を行います(60 分)。

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	石井　信輝
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・ 目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として３つあります。（１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 （１）ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方）、⑤その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。 （２）法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の４年間を意欲的にすごせば、みなさんもかならずそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。たとえば、 ①新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める、②みなさんが関心をもっていることがらについて議論する、③法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する、④ディベートをおこなう、⑤裁判所見学など学外研修を実施するなどです。みなさんの学習意欲を高めるため、今後とも工夫を重ねる予定ですので、どんどん希望を言ってください。できるかぎり、希望にそうよう努力します。 （３）学生生活支援とは、みなさんの学生生活上の悩みや不満に対して担当教員がきめ細かに対応するということです。また、みなさんの将来の進路選択に有益なさまざまな助言活動も行います。たとえば、①公務員試験対策、②税理士や裁判所職員などの法律専門職、③就職への心構え、④大学院進学、⑤海外留学など、早い段階から準備をしたほうがよいことがらについて相談にのり、適切なアドバイスを与えます。 以上のように、法学基礎演習は、少人数教育の強みを生かし、教員が学生のみなさんに親身に接するなかで、個々の希望にできるだけ対応しながら、今後４年間にわたって実りある法学部生活をおくってもらうための道筋を示すことをめざしています。
到達目標	この授業を通じて学生には、法学・政治学・法政策学を学んでいく上で必要と思われる基本的素養を修得することが期待される。
授業方法と 留意点	First year study guide を用いるが、必要に応じて資料を配布する。授業中に提示した課題を解決するために、ICT ツールを活用していただく場合もある。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、事後 学習課題	授業テーマ：決められたテーマについて報告、ディスカッションを行う予定ですが、詳細は受講生と相談しながら決めていきたいと思います。 内容・方法：演習（決められたテーマについて報告、ディスカッションを行う） 事前・事後学習課題：必要に応じてその都度指示する
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法 （基準）	平常点（授業に参加する態度 30%、課題 50%、プレゼンテーション 20%）により評価します。欠席・遅刻が多い場合には、レポートを課す場合もあります。
学生への メッセージ	意欲的に取り組んでください。 法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　石井教授室
備考	各回に１時間程度、すなわち半期で 15 時間程度を目安に、事前・事後の学習を行ってください。 課題の解説は次の回の授業で行う。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	島田　良一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・ 目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として３つあります。（１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 （１）ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方）、⑤その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。 （２）法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の４年間を意欲的にすごせば、みなさんもかならずそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。たとえば、 ①新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める、②みなさんが関心をもっていることがらについて議論する、③法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する、④ディベートをおこなうなどです。みなさんの学習意欲を高めるため、今後とも工夫を重ねる予定ですので、どんどん希望を言ってください。できるかぎり、希望にそうよう努力します。 （３）学生生活支援とは、みなさんの学生生活上の悩みや不満に対して担当教員がきめ細かに対応するということです。また、みなさんの将来の進路選択に有益なさまざまな助言活動も行います。たとえば、①公務員試験対策、②税理士や裁判所職員などの法律専門職、③就職への心構え、④大学院進学、⑤海外留学など、早い段階から準備をしたほうがよいことがらについて相談にのり、適切なアドバイスを与えます。 以上のように、法学基礎演習は、少人数教育の強みを生かし、教員が学生のみなさんに親身に接するなかで、個々の希望にできるだけ対応しながら、今後４年間にわたって実りある法学部生活をおくってもらうための道筋を示すことをめざしています。
到達目標	この授業を通じて学生には、法学を学んでいく上で必要と思われる基本的素養を修得することが期待されます。
授業方法と 留意点	受講生にはグループワークの形でプレゼンテーションやディベートなどに積極的・主体的に取り組んでもらうことになります。 したがって、遅刻・無断欠席は厳禁です。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	上述したように、この授業ではプレゼンテーションやディベートなどを通して学生に主体的に授業に取り組んでもらいます。 したがって、事前・事後学習についても、授業テーマによって若干異なることになりますが、プレゼンテーションの場合であってもディベートの場合であっても、その準備やその後の振り返りにそれぞれ 30 分程度は要することになるかと思われます。 なお、プレゼンテーションやディベートの後には講評をするかたちでフィードバックを行います。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	ディベートやプレゼンテーションなどの内容（50%）、ディベートやプレゼンテーションなどにおける発言・取り組みの姿勢・態度（50%）。 ただし、欠席・遅刻が多い場合には単位不認定となる場合があるのでくれぐれも注意してください。
学生への メッセージ	初回の授業は対面で行いますが、その後については、受講生の意見も聴きながら、諸般の状況を踏まえて決めたいと思います。
担当者の 研究室等	11 号館９階　島田准教授室
備考	

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	家本　真実
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	これから法学部で４年間を過ごすことになる学生の皆さんにとって必要な知識と能力の基礎作りをするのが、このゼミの目的です。たとえば、社会で起きている出来事について、それが一体どういうことなのか、なぜその出来事が起きているのか、また問題があるのならどのような解決が考えられるか、といったことを考えていただくことは、法学、政治学を学ぶにあたって重要なことです。そして様々なことについて自ら考える力は、これから皆さんが社会人として生活するにあたっても必須であり、役立つことです。 　したがってこのゼミでは、法学基礎演習Ⅰに引き続き、自分で情報を調べたり、ゼミの他の学生と話し合ったりして、物事を理解するための方法と、理解することの重要性を学ぶとともに、それらを他の人に伝えることを学んでいただきたいと思います。
到達目標	このゼミを通じて、学生の皆さんには、様々なツールを使って、自らの力で物事を理解することができるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	教員から講義をおこなう部分と、ゼミ生の皆さんが自ら考え、議論したり作業するといった活動をしていただく部分とが混在することになりますが、ゼミ生の皆さんが個別に作業したり、またはグループで議論したり作業する時間のほうが、割合としては多くなります。 　なお、後期のゼミの実施方法等については、こちらから皆さんにメールをお送りして、また前期から使用しているMoodleを使用して、詳細についてお知らせしますので、そちらをご確認ください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	前期の法学基礎演習Ⅰに引き続き、時事問題や判決、法律を扱ったドラマや映画を題材として取り上げる予定ですが、前期に比べて、１つのことをより掘り下げて理解する能力を身につけていただくことに重きを置くことを考えています。 　ゼミ中におこなう活動や議論の準備として、事前に読んでくるべき資料をお渡ししたり、課題を課したりすることがありますので、各自またはグループで、ゼミ前後にいくらか時間を費やしていただく必要があります。
関連科目	法学基礎演習Ⅰ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	ゼミ中の受講姿勢や活動の内容（75%）、提出された課題（25%）を評価の対象とします。
学生へのメッセージ	とにかくゼミには出席していただくこと、これが第一です。
担当者の研究室等	11号館９階　家本准教授室
備考	課題については、次の回で講評をおこないます。 事前・事後学習に要する総時間数の目安：20時間

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	城内　明
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	相模原障害者殺傷事件を素材とし、私たちの社会のあり方を考えます。
到達目標	この授業を通じて学生には、法学部生として学ぶべき基本的知識を理解すること、論理的思考の基礎を身に付けること、議論の仕方の基礎を身に付けることを期待します。
授業方法と留意点	新型コロナウィルス感染状況に鑑み、オンライン授業を継続します。（状況をみて、対面に戻します。） ライングループでの作業が中心となりますので、時刻には、必ず、オンライン上で連絡がとれるようにしておいてください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	本授業では、相模原障害者殺傷事件を素材として、私たちの社会のあり方について検討します。 事前事後の学習課題については、適宜指示します。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	グループでの作業への貢献度、発言内容等を総合評価します。
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　城内准教授室
備考	

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小野　晃正
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として３つあります。 （1）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと （2）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること （3）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 （1）ガイダンスでは、 ①図書館の利用方法 ②六法や法学参考文献の利用のしかた ③法学専門講義の履修についての心構え ④パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方） ⑤その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。 （2）法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の４年間を意欲的にすごせば、みなさんもかならずそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。 たとえば、 ①新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める ②みなさんが関心をもっていることがらについて議論する ③法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する ④ディベートをおこなう ⑤裁判所見学など学外研修を実施する などです。 みなさんの学習意欲を高めるため、今後とも工夫を重ねる予定ですので、どんどん希望を言ってください。できるかぎり、希望にそうよう努力します。 （3）学生生活支援とは、みなさんの学生生活上の悩みや不満に対して担当教員がきめ細かに対応するということです。また、みなさんの将来の進路選択に有益なさまざまな助言活動も行います。 たとえば、 ①公務員試験対策 ②税理士や裁判所職員などの法律専門職 ③就職への心構え ④大学院進学 ⑤海外留学 など、早い段階から準備をしたほうがよいことがらについて相談にのり、適切なアドバイスを与えます。 以上のように、法学基礎演習は、少人数教育の強みを生かし、教員が学生のみなさんに親身に接するなかで、個々の希望にできるだけ対応しながら、今後４年間にわたって実りある法学部生活をおくってもらうための道筋を示すことをめざしています。
到達目標	この演習を通じて学生には、 「・図書館を通じて法学の文献を取捨選択できる 　・判例データベースを用いて判例を検索できる」 ようになることが期待される。
授業方法と留意点	・演習は、プレゼンテーションやディスカッションを通じて積極的な発言を重視します。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。 ・やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。 ・法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。 ・新型コロナ変異株の流行状況によっては、本授業はMicrosoft 社の teams を用いたライブ方式来よオンライン配信をで行うこともありうる。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	法的な問題について、プレゼンテーションやディベートなどを行う。
関連科目	専門科目全般
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	※開講時に指示する。		
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	※開講時に指示する。		
2			
3			

評価方法（基準）	・ディスカッションへの参加度（90%）と課題（10%）によって評価する。
学生へのメッセージ	・学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。 ・また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。 ・どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　小野教授室

備考	・事後学習として、演習で扱った内容についてノートにまとめるなど、毎回２時間以上の復習に取り組むこと。 ・レポート課題に対するフィードバックは翌週の授業内にて行う。

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	萩原　佐織
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・ 目的	法学基礎演習Ⅱのおもな授業内容として、 （1）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、 （2）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、 （3）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることの３点を上げることができます。 個々の細かな知識を覚えることも大事ですが、むしろこの演習ではこれから学習していく法律学の全体像を大まかにとらえ、2 年次以降の専門的な学習に対応できる基礎力を養うことが重要になります。
到達目標	法学基礎演習Ⅰでは「大学生」としての基本スキルを身に着けることが目標でしたが、この法学基礎演習Ⅱを通じて学生には、「法学部生」としての基本スキルを身に着けることが期待されます。具体的に、学生には、法令や判例の調べ方、法律文献の引用の仕方などを習得することが期待されます。
授業方法と 留意点	演習では課題はもちろんのこと、出席も重視します。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、原則として、事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。演習では、大阪地方裁判所における裁判所見学、学習支援センター見学、SMART-SPI 説明会等の法学部共通プログラムのほか、数名で構成するグループによる判例研究等のプレゼンテーション及びその準備であるグループワーク、そ
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	後期は、より詳細なレポートの書き方やプレゼンの仕方（レジュメやパワーポイントの作り方など）を、みんなで身につけていきます。裁判所見学やスマート SPI の講習会等も予定されています。裁判所見学で得た知識・感想のレポートやプレゼンテーション、そしてグループでの発表など課題をいくつか出しますので、みんなで協力しながら頑張りましょう。 演習の具体的な内容としては、Word や Power　Point を用いた法律に関する時事問題、判例やテーマ研究の発表、Word/Power Point の使い方やレポートの書き方の講習、大学生活についてのアドヴァイス、簡単な法律に関する課題・レポート等を予定しています。また、図書館で文献を探したり、オンラインジャーナルやオンライン判例検索を用いた判例・論文等の入手方法についても学び、実際に入手した資料を用いてグループワーク、グループ発表又は個人発表を行います。また、後期においては、模擬法廷を利用した模擬裁判等も予定しています。 予習事項は、毎回その都度指定しますが、各自の発表に備えて Word や Power Point 資料を作成したり、設定テーマに関連する文献を調べて読み込んでおくこと、発表準備を行うこと等が挙げられます。 また、復習事項は、ゼミ内で教員より個別に指導された内容、例えば、発表資料の修正、文献の追加検索・入手及びその読込みです。Teams 上で提出し返却された課題については、そこに示されたフィードバックの指示に従って復習を行って下さい。 事前・事後学習の時間は、それぞれ 2 時間、プレゼンテーション前は 3 時間を想定しています。
関連科目	法学部の専門科目のすべてにかかわります。
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
	2 / / /
	3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
	2 / / /
	3 / / /
評価方法 （基準）	演習内におけるプレゼンテーション準備やディベート・ディスカッション等の平常点（60%）、プレゼンテーションやレポート（40%）で評価します。また、欠席・遅刻が多い場合には、レポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。
学生への メッセージ	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　萩原准教授室
備考	判例研究等のプレゼンテーションの際には、準備段階から、Word や Power Point の使い方、論文・判例等の各種文献検索や判例研究の仕方を含め、適時、演習内において指導する。 また、プレゼンテーション終了後は、その場でそのフィードバックを行い、次回のプレゼンテーションに還元できるように努める。 なお、レポート等のフィードバックは、後日、添削・評価してから、演習内及び Teams において行うものとする。

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大川　謙蔵
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	前期に引き続き、法学部生としての基礎的な能力を養います。またそれだけでなく、大学生として、将来の社会人として生きていけるような基礎力を身につけるきっかけを創り出します
到達目標	前期に引き続き、この演習を通じて学生には、大学生としての基礎的なコミュニケーション能力、文献検索能力、プレゼンテーション能力を付けることが期待されます。 また、４年間の大学生活のスタート地点の講義として、また卒業後の人生も含めた過ごし方の基礎を作ってもらいます。
授業方法と留意点	演習形式で行います。基本的にはレポートで替えられるものではありませんので毎回の出席が前提です。
授業テーマ・内容、方法･事前、事後学習課題	まず ・自分が何を考えているのか ・自分は何を話しているのか ・他人が何を意図しているのか ・他人が何を伝えようとしているのか を実感出来るよう、具体的なコミュニケーション、文章理解、報告などを実践します。 具体的には開講時、そして講義の途中に決めていく部分も多くなります。
関連科目	法学部開講科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	成績は、ゼミにおける各学生の、ゼミへの取り組み（30%）、得られた知識に基づく報告（30%）、得られた知見に基づく対応・行動（30%）、個人的 PR（10%）の視点から、判断を行う。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 9 階　大川准教授室
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の３つから成り立っています。 予習内容としては、演習で与えられる課題を個人で準備を行う必要があります。その準備を 90 分を基準として行う必要があります。 復習として、課題に対し、中間報告及び最終報告の内容を正確に押さえる必要があります。その為に 90 分を基準として行う必要があります。 学生主体の演習を目指しています。各実施状況については各自の報告時及びメールで確認します。 演習での縦の人間関係も重視しております。コンパなどで、就活などの情報も先輩から後輩へと伝えていくこと

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松島　裕一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱのおもな授業内容として、（１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることの３点を上げることができます。 個々の細かな知識を覚えることも大事ですが、むしろこの演習ではこれから学習していく法律学の全体像を大まかにとらえ、2 年次以降の専門的な学習に対応できる基礎力を養うことが重要になります。
到達目標	この演習を通じて学生には、「法学部生」としての基本スキルを身に着けることが期待される。具体的には、法令や判例の調べ方、法律文献の引用の仕方などを習得することがこの演習の目標です。
授業方法と留意点	￥演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	後期はおもに次の二つの活動を行う予定です。いずれも事前・事後の学習が必要となります。 ①裁判所見学に向けて、裁判所の仕組みや判例の読み方などをみんなで学習します。また、裁判所見学終了後にレポート課題を出しますので、そのための基本的な知識（基本的なレポートの書き方や参照文献の探し方など）を習得します。 ②憲法あるいは民法の教科書や判例集を全員で購読します。具体的には該当箇所をグループで報告してもらい、それに基づいてディスカッションを行います。課題図書は全員で話し合って決める予定ですが、必ず１冊読み終えることを目標とします。
関連科目	法学部のすべての科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	毎回の出席を当然の前提とし、ゼミ中での発言（ディスカッション・ディベート）30%、レポートなどの提出物 30%、レジュメ・報告の出来 40%で成績評価を行います。欠席・遅刻が多い場合には、単位取得を認めないこともあります。
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。
担当者の研究室等	11 号館９階　松島講師室
備考	パワポ、レジュメ作成などの事前の課題の取り組みに 60 分程度、またゼミで学習したことの振り返りに 60 分程度が必要となります。 グループワークやディスカッションを行いますので、無断欠席・遅刻は他のゼミ生の迷惑になります。その点は注意してください。

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	増田　知也
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	この授業では、法学部で勉強する上で必要な、基礎的な知識・技能を身につけることを目指す。法学基礎演習Ⅰで学んだことを基盤に、批判的読書の方法と、優れたレポートの作成法を学ぶ。
到達目標	この演習を通じて学生には、文献を活用しながら、自分の考えを自分の言葉で、論理的な文章にまとめることができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義と実習を組み合わせて授業を進行する。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. レポート作成法概論 優れたレポートを作成するための文献調査の方法と、論理的な文章の書き方について学ぶ。 2. 文献調査 個別に設定したテーマに関連する文献を読み、文献調査メモを作成する。 3. プレゼンテーション 文献の要約と疑問点を発表し、議論を行う。 4. レポート作成 これまで学んだことを生かして、実際にレポートを作成する。 事前・事後学習課題 選んだテーマについての情報収集を行う（4時間）
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	レポート60%、実習課題20%、積極的発言10%、プレゼンテーション10%
学生へのメッセージ	参考文献を引き写すだけでは良いレポートになりません。情報を上手く消化して、自分の言葉で表現する力を身につけてほしいと思います。
担当者の研究室等	11号館10階　増田講師室
備考	

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	和田　泰一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	一般的に大学生の教養とされている文献の読解能力や論理的思考力・判断力・表現力の基礎を身につけることが目的です。学生の皆さん一人一人が、自分が興味を持っている問題について主体的に考え、議論し、問題解決への糸口をつかめるような主体的・対話的で深いアクティブ・ラーニングの場を提供します。 また授業の受け方やレポートの書き方など、大学生活を送る上で必要な事柄についても授業します。
到達目標	この授業を通じて学生は、大学生の教養として必要な書物・新聞記事・評論などを読んで基本的な知識・技能を獲得するとともに、その要点やメリット・デメリットをまとめ、望ましい解決策について他者と討議し、他者に対してそれを明確に発表するという論理的思考力・判断力・表現力を育成することが期待されます。 またグループディスカッション・プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングを通じて主体的・対話的で深い学びを行うなかで、学習や仕事に対する意欲や積極的な人間性を育み、社会において良好で協調性のある人間関係を構築する
授業方法と留意点	ABD（Active Book Dialogue, アクティブ・ブック・ダイアローグ）というアクティブ・ラーニングの方法を用いて、教養文献の読解・グループディスカッション・プレゼンテーションを毎回全員が行います。 新型コロナウイルスが猛威を振るっているため、Microsoft Teams によるオンライン授業を行います。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	・授業テーマ・内容 教養文献の読解や議論、発表を通じて、その内容を正確に理解し、他者と討議してその内容を吟味し、他者にわかるようにその内容・解決策を発表することによって、基本的な日本語読解能力と論理的思考力・判断力・表現力を修得することができます。 ・授業方法 学生の皆さんの興味・関心を考慮しながら、教養文献をその場で毎回輪読・議論・発表する ABD（Active Book Dialogue, アクティブ・ブック・ダイアローグ）というアクティブ・ラーニングの方法を用います。短い時間で日本語の文章を読み、その要点を的確に理解することは、就職試験や公務員試験の「文章読解」で求められる能力でもあり、社会人になった後のマニュアル・資料の読解にも必ず必要な能力です。またグループディスカッションやプレゼンテーションは、仕事で問題が発生したときにその原因を的確に把握し、望ましい解決策について他者と討議し、最善と判断した改善策を他者に論理的に説得するためにも必要な能力です。 ・事前、事後学習課題 事前学習…その場で教養文献を読んでもらうので、必要ありません。 事後学習…文献全体をもう一度読み直し、内容を理解しておくこと（60 分～90 分程度）。
関連科目	法学基礎演習Ⅰ、プレ専門演習
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業でのグループディスカッション（50%）とプレゼンテーション（50%）で評価します。
学生へのメッセージ	大学生活に慣れるべく、毎回出席してください。またさまざまな分野の教養文献を読み、自分の興味・関心を広げていってください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　和田講師室
備考	グループディスカッションでは教員も適宜参加し、助言を与えます。プレゼンテーションでは毎回その内容について全員に助言と短評を与えます。

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	川谷　道郎
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・ 目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として３つあります。（１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 （１）ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方)、⑤その他、学生生活に必要なノウハウを学びます。
到達目標	この授業を通じて学生には、法律の学習の基本的な方法と、法の理解に必要な知識としての法律用語を理解し、ものごとについての法律的な見方の枠組みを身につけることが期待されます。
授業方法と 留意点	First Year Study Guide が基本的な資料となりますが、課題についてはその都度指示します。レポートの作成を課することもあります。 身近な出来事を話題にして、自分の意見を分かりやすく人に伝えることができるようになることがとりあえずの目標です。 法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。 授業は対面の方法で実施しますが Teams で連絡事項を告知する場合があるので、Teams には定期的なアクセスを心掛けて下さい。 アクセスコー
授業テーマ・ 内容､方法･事前、事後 学習課題	法学部生として大学生活を始めるに当たり，学習の基本的なスキルを身につけることを目標とします。図書館利用や情報処理講習で基本的な学習の方法を知るとともに，身近に起こる問題を法律的に議論し理解するとはどういうことであるのかについて，具体例をもとに実践検討します。 なお、First Year Study Guide は基本的な資料となります。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	First Year Study Guide		
2			
3			

評価方法 （基準）	課題への取組態度（２０％)、作成内容（５０％)、授業中の発言内容（３０％）により総合的に評価します。
学生への メッセージ	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。
担当者の 研究室等	11 号館９階　川谷教授室
備考	授業においては受講生が興味を持ったニュースや社会事象について、その内容とそれについての自分の考えを報告してもらうことを考えています。テーマについて、事前の準備と事後の確認のため各１時間程度が必要です。報告についてはその場で受講者全員によるディスカッションを行い、レポートは評価を記入して次回講義で返却します。

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小山　昇
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	プレ専門演習は、後期の「専門演習Ⅰ」、次年度の「専門演習Ⅱ」に直接繋がるものではありませんが、それらに深く関連する知識の理解及び確認が主眼となります。３年次の専門演習Ⅱでは「国際私法」を研究のテーマとしますが、２年次前期の「プレ専門演習」では、それに関連する法律知識、特に、民法の基礎知識の中でも身近な「親族法」について「戸籍法の視点」から概観します。
到達目標	この演習を通じて学生には、「親族法」と「戸籍法」についての基本的な知識を理解していることを説明できることが期待されます。
授業方法と留意点	「戸籍法」から「親族法」についての基本的な知識を理解するために、資料を提示してそれに問題を設定します。特に、戸籍法や親族法の条文の意味をどのように捉えるのか、また理解すべきなのかを検討します。なお、対面授業が実施できない状況になったときは、「Microsoft Teams」及び「WebFolder」を利用します。最後に、まとめとして「総合課題」のレポートを求めます。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	１．プレ専門演習の進め方 ２．「家族法」、「親族法」、「旧親族法」とは何か ３．「親族関係及び氏」と「戸籍」について 　１、２については、それぞれ１回程度 　３については、１３回程度を使って行う。 　事前・事後学習の具体的な方法については個々に指示しますが、配付する資料を事前に熟読し、復習にも力点を置いて、各授業時間ごとに２時間程度の学習を求めます。
関連科目	民法総則、親族法、相続法
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	必要な資料を配付します。		
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	適宜、紹介します。		
2			
3			

評価方法（基準）	授業での「発言状況」(60%)と「総合課題」のレポート(40%)を合計して評価します。
学生へのメッセージ	親族法における「戸籍」、また「戸籍制度」が持つ意義を考えて下さい。
担当者の研究室等	11 号館９階　小山教授室
備考	レポートについては、ＳＨの時間やメールなどを使ってフィードバックします。質問などについては、「Microsoft Teams」のほかメールも活用してください。

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	牛丸　興志夫
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	学生が関心を持つ法律学のテーマにつき、４年で求められる卒業論文の作成に役立つことを目的とした指導を行う。会社法の中から、適切なテーマについて、重要判例および学説の検討を行う。あわせて、法学検定試験やビジネス実務法務検定試験対策についても指導する。
到達目標	この演習を通じて、学生は、会社法を中心にして、商法全般の知識を習得できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	まずは、重要判例の分析を行い、当該判例について学説の研究を行い、議論を深めて、法律学の習得をめざす。 積極的に議論に参加して欲しい。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	演習のテーマ・内容は、商法に関する重要な法律問題の研究である。 方法は、判例・学説の研究である。 事前、事後学習課題は、割り当てられたテーマにつき十分に研究することである。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	原則として定期試験は行いません。平常点 70%レポート 30%
学生へのメッセージ	演習には、必ず出席して、積極的に議論に参加してください。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　牛丸教授室
備考	目的意識を見失わず、頑張ってください。事前・事後の学習には、合計 20 時間とって下さい。 提出されたレポートに対する指導は、提出後の演習の時間中に行います。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	高間　佐知子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	ビジネスに関連した法律を中心に学習することで、経済社会に対する法的なアプローチの基礎を築くことを目的としている。法律の中でも特に、商法、会社法、手形法、保険法、金融商品取引法といった商事法を学びつつ、経済社会で実際に問題となっているものを理解し、解決方法を学ぶものである。
到達目標	この授業を通じて学生には、経済社会において実際にどのような問題が存在するのかを自分で調査したうえで、その問題に対して法的なアプローチができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	できる限りゼミ生の皆さんの意見は取り入れたいと思います。基本的にはビジネスに関する法律問題についてプレゼンテーションを行い、質疑応答など自由に発言してもらいます。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	授業テーマ「ビジネス法入門：ビジネスの世界を法的に眺めてみよう」 ・ゼミ内容 ビジネスにかかわる法律を広く扱っていきますので、商法、会社法、手形法、保険法、金融商品取引法など様々な法律を題材にします。具体的にはゼミ生が興味関心のあるものを自分で選んでもらえればと思います。とは言え、まだ自分の中で興味のあるものが何か、よく分からない方が多いでしょう。様々な法律に触れることで自分の関心が向くものを探るのもいいと思います。 ・授業方法 できる限りゼミ生の皆さんの意見は取り入れたいと思います。基本的にはビジネスに関する法律問題についてプレゼンテーションを行い、質疑応答など自由に発言してもらいます。 ・指導方法 ゼミ生の皆さんが行う報告をもとにして問題点を掘り下げていきます。題材は、裁判例やニュースなどを中心に、なるべくゼミ生の皆さんが興味関心のあるものにしぼります。 ・事前事後学習 プレゼンテーションの準備など必要に応じて予習は行ってください。また、現在どのようなことが問題として生じているのか常に気にして情報収集を行いましょう。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	演習での参加態度として、プレゼンテーションの内容やディスカッションでの発言などを判断材料にして、どれほど演習の時間を自分で有意義なものにしているかを評価します。
学生へのメッセージ	演習の時間を自分にとって意味のあるものにしてください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階
備考	事前事後学習、課題への取り組みは 1 時間 30 分を目安とする。 課題の解説は次回の授業で行う。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小島　俊朗
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	専門演習の導入教育ですので、税の世界に馴染んで頂く内容としています。私たちの社会生活や経済活動が税とどのように関係しているのかを学習します。税は税法という観点からだけではなく、国家財政のようなマクロの世界から企業の経営や投資の判断などのミクロの世界まで、多種多様な世界に関係しています。税を通して社会を見てみましょう。
到達目標	この演習を通じて学生には、次の目標を達成することが期待されます。 ①日常生活と税とのつながりを理解できるようになること ②租税法の基本的考え方に慣れること
授業方法と留意点	様々な視点から税を捉え、日常生活との関わりや税の機能等について考えるとともに、租税法の概要が理解できるようにします。課題発表（プレゼンテーション）の後に、内在する税法上の基本問題を取り上げ、ディスカッションを行います。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	講義、課題発表、ビデオ鑑賞、判例解説、社会人体験ゲーム等により、様々な視点から税を捉え、日常生活との関わりや税の機能等について考えるとともに、租税法の概要が理解できるようにします。毎回のテーマについて事前学習し、積極的に発言出来るよう心掛けてください。
関連科目	所得税法、消費税法などの租税法、財政学、憲法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	税法入門	金子宏ほか	有斐閣
2	民事法入門	野村豊弘	有斐閣アルマ
3			

評価方法（基準）	ゼミでの積極的発言や貢献度（50%）、課題発表の内容（30%）、及びレポート（20%）の合計で評価します。
学生へのメッセージ	租税法は社会人となってからも役に立つ実学の代表格です。税の世界に興味を持って頂きたいと思います。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　小島教授室
備考	授業計画に応じたテーマにつき、事前・事後の学習を少なくとも毎回各 30 分程度行うように心掛けて下さい。専門演習ⅠⅡとは異なり、税と社会との関りに関心を持って頂くことが目的ですので、ゼミで取り上げた内容以外も幅広く学習して下さい。

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	河原　匡見
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	2 年後期から始まる専門演習での学習にスムーズに入っていけるように指導します。すなわち、法学基礎演習Ⅰが大学生としての勉学のために、そして法学基礎演習Ⅱが法学部教育のために、それぞれにスムーズに入っていけるよう設置された科目であるのに対して、プレ専門演習は、専門演習での学習に向けてのいわば助走的な内容のゼミとなります。
到達目標	この演習を通じて学生には、専門演習での学習に向けて、社会科学の演習で必要となる社会情報の取得や演習スタイルの学習のための準備の仕方そして１５名以下程度の少人数の中での報告形式に慣れることが期待されます。
授業方法と留意点	学生による報告が主体の形式で行います。「対面方式」によるゼミを実施します。具体的には、課題を出して、それに対してレポートの提出によって報告してもらうというスタイルが基本です。課題については、すでに募集要項の中で示した当ゼミの趣旨に沿った内容になります。各自で、学習・調査し、それをレポートで報告してもらいます。なお、授業時間以外での活動は特に予定していませんが、報告（レポート作成）のための時間は各自必要となります。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	この演習では、社会科学分野の専門学習を念頭に置いたテーマを設定します。特に、国内外の政治・社会問題の動きをみる眼を養うための、すなわち国の内外でいかなる問題が起き、いかなる課題に直面しているか、そしてそれにどう向き合っていくかを考察していきます。演習での報告テーマについては、主に教員からジャンルやイシューについて提示していきますが、演習参加者の希望なども取り入れたいと思います。報告に際しては、事前の学習が必要なのは言うまでもありませんが、事後についても演習で得られたコメントや質問を参考に、さらに報告内容をブラッシュアップしてもらいたいと思っています。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	学習への参加姿勢５０％および課題報告の内容５０％により評価します。
学生へのメッセージ	国内外の政治や社会の動き（時事問題）に関心がある人に向いているゼミです。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　河原教授室
備考	事前・事後学習は、各授業時間ごとに１時間程度行ってください。但し、発表前の場合は、発表の準備に必要な時間でさらに上乗せが必要です。

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中　敦
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	・専門演習の準備として、民法の基本的な事項一般について理解することを目的とする。具体的には、１年の民事法概論で用いた教科書を用いて、民法及びこれに関連する法律について学習する。 ・その他、学生からの意見も聞きつつ、適宜民事法に関する講義等も行う。
到達目標	この授業を通じて学生には、民法全般について学び、民法とはどのような法律であるのかという法の趣旨を理解し、専門演習で民事法を勉強するに当たって必要となる基礎知識を習得できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	・基本的には教科書に基づいて講義をするが、適宜質問をしたり学生と議論することを考えている。その他の講義などでは、事前に送付する資料やレジュメに基づいて行うこともある。 ・授業には、上記資料等や六法を持参すること。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	・民法は、全体の構造を知れば部分が理解できるし、部分がわかれば全体像も見えてくるといわれるので、まず全体を知ることが重要である。この授業では、教科書を通読することを中心に、民法全般（総則、物権、債権、親族、相続）について一通りの知識を習得する。授業を充実したものにするためには、事前学習及び事後学習が求められる。事前学習及び事後学習には、それぞれ２時間を充てるものとする。 ・授業スケジュール、課題の提出、その他授業で必要な事項については、授業又はTeamsにおいて事前に伝える。
関連科目	民事法概論、民法の各専門科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	民事法入門　第８版	野村豊弘	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業における態度（遅刻せずきちんと出席しているか、議論に積極的に参加しているか、事前事後の学習をしているか。５０％）及び、Teams上での小テストや課題（５０％）で評価する。欠席・遅刻が多い場合には、レポートを課することがある。
学生へのメッセージ	自分で学ぶ姿勢が何より大事です。事前学習と事後学習は、きちんと行ってください。民法すべてを学習した達成感は、何物にも代えがたいものとなることでしょう。
担当者の研究室等	11号館10階　田中教授室
備考	コロナをめぐる情勢、学生の理解度、授業の進行によっては、授業の方法、順序、内容を変更することがある。

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中沼　丈晃
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	家庭・学校・地域に関わる身近な社会問題について、「自分が当事者だったらどう思うのか、どうするのか」という視点を大事にして、演習生全員で真剣に議論をする。
到達目標	この演習を通じて学生には、①「自分が当事者だったらどう思うのか、どうするのか」という感情移入の姿勢を身につけ、②「人それぞれ」では済ませず、価値観が異なる人と「どう折り合いをつけるのか」考えて議論できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	まちづくりや企業研修などで使われる「ワークショップ」の手法を体験してもらえるように進める。演習生みんなで意見を出し、作業をし、議論をするので、能動的な参加が求められる。
授業テーマ・内容･方法･事前、事後学習課題	多くの人が関わる、少なくとも身近で見聞きする社会問題を取り上げて議論をする。ひとつのテーマを４回ほどで検討し、議論し、演習としての結論を出すのに、みんなで努力する。テーマは演習生と相談して決めるが、家庭では「家事・育児・介護の男女間負担差」「夫婦別姓」「不妊治療」、学校では「学級崩壊」「いじめ」「部活動」、地域では「子どもの深夜徘徊」「性犯罪の防止」「ゴミ屋敷や空き家の問題」などを考えている。議論のための下調べなどの準備が必須になる。
関連科目	専門演習、卒業研究。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	演習時限の全出席を前提とする。ワークショップへの貢献度(50%)、ワークショップの成果物(50%)の合計によって評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 9 階　中沼教授室
備考	ワークショップの下調べに各回１時間ほどが必要になる。 議論の推移と結果を整理して全員で共有する。

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浮田　徹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	専門演習に入る前の導入となります。しかし専門演習に継続するわけではないので 15 回で一つの区切りとなるような内容となります。
到達目標	この講義を通じて学生には、とにかく、議論における発言するという力を身につけられるようになることが期待される。
授業方法と留意点	出席は前提です。ディベートの中での発言が必須です。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	ビデオ、文献などをきっかけとして議論してもらいます。 文献は事前に渡すことになりますので読んできてもらいます。 発言の振り返りもしてもらいます。
関連科目	法学部開講科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	出席を前提として、発言回数・内容（60%）、振り返りペーパー(40%)で評価します。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 9 階　浮田准教授室
備考	事前学習としては、演習時に使用する素材に関する文献を読むことになります（30 分）、事後学習としては当日の演習に関する課題を課すのでその作成を行います(60 分)。

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	石井　信輝
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	「プレ専門演習」は、2年次後期からはじまる「専門演習Ⅰ」、3年次の「専門演習Ⅱ」、および４年次の「卒業研究」につながる演習である。したがって、この分野についての興味を高め、２年半かけて深く学ぶための準備を行うことが本演習の目的である。
到達目標	この授業を通じて学生には、スポーツ活動に関する諸問題を検討し関連する知見を身につけることが期待される。
授業方法と留意点	教科書は特に用いないが、必要に応じて資料を配布する。授業中に提示した課題を解決するために、ICT ツールを活用していただく場合もある。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	・授業テーマ：「スポーツ活動を多面的に学ぶ」 ・方法と内容：スポーツに関係する資料輪読、レポートの作成、作成したレポートのプレゼンテーション、およびディスカッションを行う。 ・授業の都度指示する課題に対する予習と復習
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加を前提とし、各回の取り組み（与えられた課題の完成度 50%、プレゼンテーションの内容 20%、ディスカッションでの発言 30%）で評価する。
学生へのメッセージ	意欲的に取り組んでください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　石井教授室
備考	各回に 1 時間程度、すなわち半期で 15 時間程度を目安に、事前・事後の学習を行ってください。

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	島田　良一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	新聞やインターネットなどから得られる刑事事件に関する記事や専門文献、判例などを使いながら、刑事法（刑法・刑事訴訟法・刑事政策・少年法）についての理解を深めていく。
到達目標	この演習を通じて学生には、刑事法に関する基礎的な知識を修得するとともに、議論やプレゼンテーションをする力を身につけることが期待される。
授業方法と留意点	受講生にはグループワークの形でプレゼンテーションやディベートなどに積極的・主体的に取り組んでもらうことになります。 したがって、遅刻・無断欠席は厳禁です。 なお、授業は原則として対面形式で行いますが、今後の新型コロナ禍の状況に鑑み、大学から指示があった場合にはオンライン形式に切り替えることになります。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	オーソドックスなところでいえば、例えば、毎回担当者を決め、レジュメやPowerPointを使って各々興味のあるテーマについてプレゼンテーションをしてもらい、その後、全体で討議をするといったかたちになりますが、なにしろ半期15コマしかないことから、なにをどのようにやっていくかは受講生と相談して決めていく予定。 したがって、事前・事後学習についても、授業テーマによって若干異なることになるが、プレゼンテーションの場合であってもディベートの場合であっても、その準備やその後の振り返りにそれぞれ30分程度は要することになるかと思われる。
関連科目	刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑法総論、刑法各論、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事政策、現代社会と刑事法、経済刑法、刑事法概論
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	ディベートやプレゼンテーションなどの内容（50%）、ディベートやプレゼンテーションなどにおける発言・取り組みの姿勢・態度（50%）。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11号館９階　島田准教授室
備考	

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	家本　真実
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	私たちは普段、様々な事柄に対して自分なりの意見をもっています。こうした意見は、他の人と類似のものとなることもあれば、正反対と言ってもいいものになることもありますが、そもそも１つのことに対して多種多様な意見が存在することや、自分のものを含むそれらの意見がどのような過程を経て形成されるのかを、特別に意識することはあまりないと思います。しかし、ちょっとした意見の食い違いが大きな問題に発展するということも往々にして起こります。したがって、自分の意見がいったいどんなふうに他の人に受け取られるのか、また他の人の意見の趣旨がどのようなものなのかを理解する、または理解するよう努めることは重要です。 そこで、このゼミでは、特定のトピックについて調べるなどして自分の意見をある程度固めたうえで、ゼミ生の皆さんで話し合うことを通じて、ご自分の意見をもつための材料を収集する術を学んだり、ご自分の意見を見つめ直したりすることの重要性に気付いていただきたく思っています。
到達目標	このゼミを通じて、学生の皆さんには、ご自分の意見を形成してそれをより的確に表現し、他の人の意見を理解するための基礎体力を得ることが期待されます。
授業方法と留意点	教員から講義をおこなう部分と、ゼミ生の皆さんが自ら考え、議論したり作業するといった活動をしていただく部分とが混在することになりますが、ゼミ生の皆さんが個別に作業したり、またはグループで議論したり作業する時間のほうが、割合としては多くなります。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	あることについて自分の意見を形づくるためには、そもそもその対象となる事柄についてある程度の知識を得る必要が出てきます。したがって、学生の皆さんには、一定のテーマについて調べていただいたり、それについて発表していただいたりして、ご自分の意見をもつ過程をしっかり感じていただくことにしたいと考えています。 ゼミ中におこなう活動や議論の準備として、事前に読んでくるべき資料をお渡ししたり、課題を課すことがありますので、各自、ゼミ前後にいくらか時間を費やしていただく必要があります。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	ゼミ中の受講姿勢や議論の内容（80%）、課題・提出物（20%）を評価の対象とします。
学生へのメッセージ	このゼミで、向上心をもって、自ら行動する力をつけていただくきっかけにしていただければと思います。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　家本准教授室
備考	課題については、次の回で講評をおこないます。 事前・事後学習の総時間数の目安：20 時間

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	城内　明
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・ 目的	「民法を深く学ぼう　－法的議論への招待－」 法律討論会を実施します(2 回)。
到達目標	本授業の受講生には、民法的なセンスを身に付け、問題解決能力及びプレゼン能力を向上させることが期待されます。
授業方法と 留意点	新型コロナウィルス感染状況によりますが、原則として対面での実施を予定しています。 法律討論会は、2～3 名のグループに分かれて競うこととなります。準備も、グループ毎の作業となりますので、無断欠席等は絶対にしないようにして下さい。
授業テーマ・ 内容、方法･事前、事後 学習課題	法律討論会では、2～3 名のグループ毎に、設問にどう答えるかを検討し、10 分で読める長さの文章(立論)を書き上げます(事前の学習課題)。 討論会当日は、各グループが用意した立論を 10 分の持ち時間で読み上げ、直後に、この立論に対する質疑を同じく 10 分間行います。審査員(城内)が立論の論理性・質問に対する回答の的確性・立論及び質疑に臨む態度等を総合評価し、グループ毎の順位を決めます。この他、良い質問については質問賞（個人賞）もあります。討論会翌週には全員で検討会を開きます。他のグループが何を考えて立論したのか等、疑問をぶつけあいましょう(事後の学習課題)。
関連科目	民法・消費者法
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	準備作業への貢献度や、討論会当日の活躍を総合評価します(100%)。
学生への メッセージ	法律討論会は、本気になって取り組めば、さまざまな成果を得られます。何より楽しいです!! 一緒にがんばりましょう!!
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　城内准教授室
備考	

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小野　晃正
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・ 目的	・指導方針 1　このプレ専門演習は，2年次後期の「専門演習Ⅰ」、3年次の「専門演習Ⅱ」、そして4年次の「卒業研究」にかかる導入教育として位置づけられています。 2　そこで、本演習では1年次において刑事法概論の講義で習得した基本事項のうち，参加者各自が興味や関心を抱いた個別テーマに関する裁判例（判例）や学説を調べて報告してもらいます。 3　もっとも、こうした報告作業は、少なくとも法学系の論述問題でまともな答案を書くことができない人にはなかなか難しいのも事実です。そのため、この演習では、発表の前提ともいえる、刑事法に関する論述問題の答案作成方法も学習します。 4　また、発表に際し、どのようにして判例や文献を調べればよいのかというリーガル・リサーチの手法も本格的に学習する予定です。図書館や法学データベースの使用方法も適宜指導します。
到達目標	この演習を通じて学生には、 「・刑法の論点を抽出できる ・論点に対する判例や裁判例を調査できる ・論点に対する学説を調査できる ・論点に対して私見を展開できる」 ようになることが期待される。
授業方法と 留意点	・教員からの一方通行的な講義にならぬよう、学生と教員双方の理解を深めるため、質疑応答を行う。 ・法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。 ・刑法の論点に関して個別にプレゼンテーションを行った上で、参加者全員でディベートを行う。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	・ゼミ内容 　この演習では，刑法（罪刑法定主義、刑法総論〈全犯罪共通の成立要件の検討)，刑法各論〈各種個別犯罪〔殺人・強盗・放火等〕の成立要件論)）、および、刑事学・犯罪学（犯罪原因論，受刑者と出所者の処遇問題，死刑を含めた刑罰の有効性と正当性，犯罪被害者救済策）を主な検討対象とします。 ・授業内容 　刑事法に関する事例問題（論述式）の答案作成方法 　刑事法領域の裁判例や学説の研究調査方法（リーガル・リサーチ） 　個別テーマの報告 ・授業時間以外での活動 　学生の希望があれば、刑務所や少年院などの施設訪問を長期休暇時に行うことがあります。
関連科目	刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、現代社会と刑事法、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑事政策

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	※開講時に指示する		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	刑法の争点（第3版）	西田＝山口＝佐伯ほか	有斐閣
2	判例プラクティス刑法Ⅰ	成瀬＝安田ほか	信山社
3	判例プラクティス刑法Ⅱ	成瀬＝安田ほか	信山社

評価方法 （基準）	評価方法 　プレゼンテーション（50%）とディベートへの参加度（50%）によって評価する。 以下の点をとくに重視します。 ①発表時に問題提起を適切にしているか（発表姿勢)。 ②提起した問題に関連する判例や先行研究（学説）を十分に、かつ、主体的に調査しているか（主体的学習)。 ③異説に配慮しつつ、自らの考察を適切かつ説得力をもって展開できているか（論理性)。
学生への メッセージ	日常の犯罪報道などに興味のある学生はふるってご参加ください。
担当者の 研究室等	11号館10階　小野教授室
備考	事前学習として、演習テーマの予習に毎回2時間以上の予習に取り組むこと。 事後学習として、演習テーマの内容についてノートにまとめるなど、毎回2時間以上の復習に取り組むこと。

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	萩原　佐織
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	当該民事法ゼミでは、例えば民法等の実体法に基づき発生する権利につき紛争が生じ、裁判所等で解決されるべき場合に、その方法や当事者が従うべきルール等につき、具体的な事案や判例をもとに追求することを最終目標としています。ただし、2 年次の段階では民事訴訟等が未履修ですので、まずは民法等の復習ならびに発展問題を取り扱い、私人の権利、ならびに私人間の権利の衝突・紛争の態様につき学んでもらいたいと思います。
到達目標	プレ専門演習では、法律全般について広く学んだ基礎演習とは異なり、民事法にフォーカスして、より具体的に学んでいきます。この演習を通じて学生には、研究テーマの設定、判例研究・判例発表の方法等を、しっかり身に付けることが期待されます。また、これからともに過ごすゼミ仲間とより良い関係が築けるよう、最初は、グループ発表とし、スポーツ交流等も交え、良い雰囲気のゼミ作りをまずは目指したいと考えています。 後半は、2・3 名でのグループ発表や個人発表を行い、社会科学系の学問における発表の仕方を身に付けるとともに、人前
授業方法と留意点	【授業内容】 前半は、ゼミでの発表の仕方（論文・判例・その他の資料等の見つけ方、配布資料の作成方法等）につき指導を行う。後半は、2，3 人のグループでの研究発表を予定。なお、発表毎に質疑応答を行うので、他のグループの研究発表時にも、積極的な参加姿勢を要する。1 学期内に、各グループとも、2，3 回程研究発表を行う機会を有するが、発表毎に構成員を変更し、ゼミ生同士が、より多くのコミュニケーションを、それぞれのメンバーととることができるように考慮している。そこから研究発表にも、より良い知の化学反応が生じること
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	授業は、民事事件に関する判例等の研究発表を中心として行う。学期初めに、各グループの発表日時を決めるので、各グループは、構成員同士で話し合って発表テーマを決定し、発表に備え、事前に準備すること。事前準備においては、研究対象となる判例や論文等の資料を探し読み込むこと（インプット）はもちろん、どのように発表すれば他人により分かり易く伝えることができるのか、その発表内容や方法（アウトプット）についても熟慮すること。 発表形式は、次の 2 つの方法のいずれかのうち、そのテーマに適したものを用いて行う： １．資料作成技能重視型： 発表時には、研究内容を、板書やパワーポイント等を用いて説明するとともに、配布資料を配布すること。配布資料は、①研究対象となる事案・争点・判例や学説の流れ・解説等を記載したものと、②研究対象となる事案の判決（判旨・判決理由）を記載したもの、の 2 点を別個に用意する。まず、発表者が、配布資料①に基づき、事案・争点等の説明を行った後、ゼミ全体でディスカッションし、その後、配布資料②を用いて、当該事案の判決につき、再度論議を行う。 2. コミュニケーション技能重視型： 3 人でグループを組み、各自原告・被告・裁判官役の立場に立ち、主に判決全文を用いて、それぞれの主張を述べ合い、裁判を体現する。当事者役は各審級の判決全文から自己の主張を練り、裁判官役は両当事者の見解を聞いたうえで、判決文や判例解説等を基に、それらに対する事実認定や法的見解を述べる。1 審から、上訴を含め、確定判決まで、裁判の一連の流れを再現する。ただし、その結論については、必ずしも使用した素材と同一になる必要はなく、各当事者役の主張内容や裁判官役の判断次第で、当人が妥当と考える結論が導き出されれば良い。模擬法廷を利用して模擬裁判を行う。 予習事項は、毎回その都度指定しますが、各自の発表に備えて Word/Power Point 資料や配布レジュメを作成したり、設定テーマに関連する文献を調べて熟読しておくこと、発表準備を行うこと等が挙げられます。 また、復習事項は、ゼミ内で教員より個別に指導された内容、例えば、発表資料の修正、文献の追加検索・入手やその読込みです。Teams 上で提出し返却された課題については、そこに示されたフィードバックの指示に従って復習を行って下さい。 事前・事後学習の時間は、それぞれ 2 時間、プレゼンテーション前は 3 時間を想定しています。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	演習内におけるプレゼンテーション準備やディベート・ディスカッション等の平常点（60%）、プレゼンテーションやレポート・課題（40%）で評価します。ゼミへの参加意欲ならびにその体現、自身の研究発表への取組み方ならびにその成果、そして他のゼミ生の発表における質疑応答等を、総合的に判断して評価する。欠席・遅刻が多い場合には、レポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。
学生へのメッセージ	最初は、グループ発表で、ゼミでの発表方法やディスカッションの仕方等に慣れていってもらえればと思います。皆が気軽に話し合えるような良い雰囲気のゼミになれるといいですね。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　萩原准教授室
備考	判例研究等のプレゼンテーションの際には、準備段階から、Word や Power Point の使い方、論文・判例等の各種文献検索や判例研究の仕方を含め、適時、演習内において指導する。 また、プレゼンテーション終了後は、その場でそのフィードバックを行い、次回のプレゼンテーションに還元できるように努める。なお、レポート等のフィードバックは、後日、添削・評価してから、演習内及び Teams において行うものとする。

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大川　謙蔵
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	本演習では、ゼミ生全員で最低限での法の意味、とりわけ民法の意味・制度について把握できるようになることを目的としている。 そのために、ゼミ生全員の協力の下で、どのような社会的問題が存在し、法律がどのような対応をしているのかを理解していく。社会状況を知ることにより、自分が社会においてどのような立場に立ち、またどのようなことをすべきかなど、多くの点を考える糸口を得られると考えている。
到達目標	この演習を通じて学生には、ディベートなどを駆使して、人前で話すための技術や留意点を体感し、人に伝えるための方法を身につけ、その後に一つの判例を使って全員でじっくりその内容を読み込み、その内容を理解できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	２年前期の予定としては、①学生によるテーマせってに基づくディベートにより、プレゼンテーション能力の涵養、②判例を具体的に読み、法制度を具体的に理解していくことを予定している。 ただし、あくまで予定であり、話し合いなどで変更はありうる。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	3 年次で、①グループによる判例報告、②個人の判例報告を予定しているため、その前提となる知識及び経験を涵養する予定である。ただし、あくまで予定であり、話し合いなどで変更はありうる。 また、3 年次で他大学との法的問題に対する合宿討論会を行う予定である。この場において、他大学のゼミの前においてプレゼンテーションを行い、その内容についての議論を行い、場合により反論を行う技術が求められる。ゼミではこれらの内容を涵養するよう指導を行う。 判例の入手方法、レジュメの作成方法などについては、適宜指摘をしていく。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	成績は､演習で出される課題に対して､情報等を準備しているかどうか及びそのためのグループ活動に積極的に参加しているかどうか (30%)、並びに、その課題の報告等に対して、どのような役割を演じているのか及び質疑応答等において積極的に対応しているかどうか (70%)、で判断を行う。
学生へのメッセージ	学生主体のゼミを目指しています。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　大川准教授室
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の３つから成り立っています。 予習内容としては､演習で与えられる課題をグループとして演習外でも準備を行う必要があります。その準備を 90 分を基準として行う必要があります。 復習として、課題に対する報告内容に対して、教員より応用的課題を与えるので、それに対して 90 分を基準として行う必要があります。

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松島　裕一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	このプレゼミの目標は、宅建の試験対策を通じて「勉強する習慣」を身につけることです。しっかり教科書を読んで基本事項の暗記に努め、次に過去問を解いて自分の苦手箇所を把握し、最後に再び教科書に戻って復習する。その繰り返しのなかで少しずつ知識が定着していきます。このプレゼミではそういう勉強法が身につくような指導をしたいと思います。
到達目標	このゼミを通じて学生には、次の２つのことが期待されます。第一に、宅建合格に必要となる実践的な法的知識を習得すること。第二に、報告を通じてレジュメやパワーポイントの作り方、ネットを利用した資料収集の方法、ディスカッションやディベートの仕方を身につけること。
授業方法と留意点	まずは宅建のテキストを全員で講読し、過去問を解きます。事前の予習がゼミ参加の前提となります。もちろん事後の復習は必須です。過去問演習のなかで興味をもった法制度や判例などについて、グループあるいは個別で報告してもらいます。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	毎時間、範囲を決めて全員で宅建のテキストを講読し、該当箇所の過去問を解いていきます。毎回それなりの予習と復習を求めるので、このゼミを希望する学生はそのつもりでいてください（プレゼミ終了後になってしまいますが、ぜひ10月中旬の宅建士の試験も受けてください）。また、宅建対策で得た知識を使ってディベートやディスカッションも行う予定です。加えて、グループワークを通じて、関連する判例を調査・報告してもらうことになります。
関連科目	広く実定法分野にかかわります。実定法の背景的知識を知りたいと思う学生には、法哲学総論、法哲学各論、法思想史などをお奨めします。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	スッキリわかる宅建士 中村式戦略テキスト 2021 年度	中村喜久夫	TAC 出版
2	スッキリとける宅建士 論点別 12 年過去問題集 2021 年度	中村喜久夫	TAC 出版
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	民法（全） 第２版	潮見佳男	有斐閣
2	都市法概説 第３版	安本典夫	法律文化社
3			

評価方法（基準）	毎回の出席を前提として、適宜実施する小テストと発表（プレゼン）などへの取り組み 90%と、ゼミ中での発言（ディスカッション・ディベートなど）10%で成績評価を行います。なお無断欠席・遅刻が度重なる場合は単位取得を認めないので、十分に注意してください。
学生へのメッセージ	ゼミは学習の場であるとともに、教員と学生および学生相互の交流の場であるとも思っています。学生の希望があれば、さまざまなゼミの行事（コンパや合宿など）も実施する予定ですので、積極的に参加してほしいと思います。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　松島准教授室
備考	事前の活動として、教科書の該当箇所を読み、それに対応する問題を解いてきてもらいます。また必要に応じて、レジュメなどの作成が必要となります（これらの事前学習に 60 分以上）。また、ゼミ終了後に学習した内容を振り返ってください（事後学習 60 分以上）。

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	増田　知也
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	「自治体政策への提言」をテーマとする。特定の社会問題に対する政策立案という体験を通して、地方自治についての理解を深め、調査・研究方法の基礎を身につけてもらう。4～5 人程度のグループを作り、政策提言をしてもらう。取り上げるテーマはグループごとに決定する。
到達目標	この演習を通じて学生には、社会問題を認識し、原因を分析した上で、適切な政策を立案し、それを分かりやすく人に伝えることができることが期待される。
授業方法と留意点	グループワークを中心に授業を進行する。
授業テーマ・内容、方法･事前、事後学習課題	1. 問題発見 取り上げるテーマを見つけるため、報道や雑誌・書籍などを頼りに、社会問題を見つける。 社会問題について、その背景と現状を明らかにする。 2. 問題分析 取り上げたテーマについて、問題発生の原因を明らかにする。 その際、文献調査を行った上で、現地調査やインタビュー調査を実施する。 3. 政策立案 原因を踏まえた上で、その解決のための政策を立案する。 複数の案を立てた上で、メリット・デメリットを比較し、最適な政策パッケージを提案する。 4. 政策提言 立案した政策をプレゼンテーションする。 事前・事後学習課題 グループで選んだテーマについての情報収集を行う（4 時間）
関連科目	「地方自治論」「住民協働論」
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	自治体政策への提言：学生参加の意義と現実	今川晃	北樹出版
2			
3			

評価方法（基準）	グループワークへの貢献 60%、プレゼンテーション 40%
学生へのメッセージ	夏休みに開催される、「全国大学政策フォーラム in 登別」での入賞を目標にします。まずは、政策立案の楽しさを体験してみてください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　増田講師室
備考	

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	和田　泰一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	専門演習Ｉでどの領域に進んでもいいように、政治問題・社会問題に関する文献の読解能力や論理的思考力・判断力・表現力の基礎を身につけることが目的です。学生の皆さん一人一人が、自分が興味を持っている政治問題・社会問題について主体的に考え、議論し、問題解決への糸口をつかめるような主体的・対話的で深いアクティブ・ラーニングの場を提供します。
到達目標	この授業を通じて学生は、政治問題・社会問題に関する書物・新聞記事・評論などを読んで基本的な知識・技能を獲得するとともに、その要点やメリット・デメリットをまとめ、望ましい解決策について他者と討議し、他者に対してそれを明確に発表するという論理的思考力・判断力・表現力を育成することが期待されます。 またグループディスカッション・プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングを通じて主体的・対話的で深い学びを行うなかで、学習や仕事に対する意欲や積極的な人間性を育み、社会において良好で協調性のある人間関係を構築す
授業方法と留意点	ABD（Active Book Dialogue, アクティブ・ブック・ダイアローグ）というアクティブ・ラーニングの方法を用いて、教養文献の読解・グループディスカッション・プレゼンテーションを毎回全員が行います。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	・授業テーマ・内容 政治問題・社会問題に関する文献の読解や議論、発表を通じて、その内容を正確に理解し、他者と討議して望ましい解決策を判断し、他者にわかるようにその内容・解決策を発表することによって、基本的な日本語読解能力と論理的思考力・判断力・表現力を修得することができます。 どの学問領域に進んでもいいように学問的基礎を固め、自分が関心のある問題の領域を定めることができるようにします。 ・授業方法 学生の皆さんの興味・関心・卒業論文のテーマを考慮しながら、政治問題・社会問題についての文献をその場で毎回輪読・議論・発表する ABD（Active Book Dialogue, アクティブ・ブック・ダイアローグ）というアクティブ・ラーニングの方法を用います。短い時間で日本語の文章を読み、その要点を的確に理解することは、就職試験や公務員試験の「文章読解」で求められる能力でもあり、社会人になった後のマニュアル・資料の読解にも必ず必要な能力です。またグループディスカッションやプレゼンテーションは、仕事で問題が発生したときにその原因を的確に把握し、他者と望ましい解決策を討議し、最善と判断した改善策を他者に論理的に説得するためにも必要な能力です。 ・事前、事後学習課題 事前学習…その場で政治問題に関する文献を読んでもらうので、必要ありません。 事後学習…文献全体をもう一度読み直し、内容を理解しておくこと（60 分～90 分程度）。
関連科目	法学基礎演習Ⅱ、専門演習Ｉ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業でのグループディスカッション（50%）とプレゼンテーション（50%）で評価します。
学生へのメッセージ	この時期に自分が関心のある学問領域を定めてどの専門演習に進みたいかを決定し、その領域に関する参考文献の読解や資料・データの収集を自主的に行うようにしてください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　和田講師室
備考	グループディスカッションでは教員も適宜参加し、助言を与えます。プレゼンテーションでは毎回その内容について全員に助言と短評を与えます。

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	川谷　道郎
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	法体系の中で労働法がどのような地位を占めているのか、それは民法に代表される一般市民法と比べてどのような性格を持っているのかについて、基礎的な理解を得るようにします。また、実際に言い渡された判決例、報道された事件を検討することにより法が社会においてどのような機能を担っているのかについても検討します。
到達目標	この授業を通じて学生には、労働者、使用者、労働契約といった基本的概念と労働法の概要を理解するとともに、法学研究の方法を身につけ、今後の専門演習に向けての自らテーマを選定する契機とすることが期待されます。
授業方法と留意点	基礎的な事項については講義をするとともに、簡単な問題を解きながら知識の確認をします。具体的な事例によりながら学生からする報告及び議論を期待しています。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	基礎的な事項は講義形式で行うとともに、具体的な事例を時事問題や裁判例から選定し、これについてゼミ生相互の議論を重ねる中で、法的な解決といわれるものの仕組みを理解できるようにします。講義に関しては予めテーマを定めるので、事前に１時間程度関連科目の教科書等の該当箇所を確認するとともに、事後にも配布資料等の確認をしてください（同時間程度）。報告については受講者の希望を考慮して事例を選定しますが、特に報告者は十分な準備が必要です。 題材は一応労働法関連のものを予定していますが、皆さんから希望があれば考慮します。 授業は教室における対面授業を行いますが、Teams を利用した資料配付、その他の連絡をすることもありますので、Teams には定期的にアクセスして情報を確認して下さい。
関連科目	労働保護法、労働団体法、民法
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題への取組態度、作成内容、授業中の発言内容により総合的に評価します。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 9 階　川谷研究室
備考	

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小山　昇
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	専門演習Ⅰは、３年次の「専門演習Ⅱ（通年)」及び４年次の「卒業研究（通年)」においてその理解に必要な基礎知識の「再確認」を主眼とします。「国際私法総論」・「国際私法各論」の講義は３年次開講ですので、この演習では２年次までに履修する授業科目を中心として関連知識を整理することが目的となります。
到達目標	この演習を通じて学生には、国際私法の理解に必要な知識として、特に、民法総則、物権法、債権法、親族法、相続法の基本的な知識を理解していることを説明できるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	国際私法に関連する基礎的知識を体系的に整理し、「それらの問題点は何か」、「何が重要な事項なのか」といったことについて資料を配付して、それに対する設問に答えるという形式で行います。なお、対面授業が実施できない状況のときは、「Teams」及び「WebFolder」を利用します。最後に、「総合課題」のレポートの提出を求めます。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	１．「専門演習Ⅰ」の進め方、３年次「専門演習Ⅱ」、「卒業研究」との関係などの説明 ２．財産法・家族法(戸籍法を含む)の順序で、国際私法に関連する重要事項を検討 ３．国際私法の概略の説明と総括 　１については、１回程度 　２については、１２回程度 　３については、２回程度を使って行う。 　具体的な事前・事後学習については、その都度指示しますが、事前に配付する資料の熟読を中心に予習と復習のいずれも各授業時間ごとに２時間程度の見直しが必要となります。
関連科目	民法総則、物権法、担保物権法、債権法、親族法、相続法など
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	必要な資料を配付する。		
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	適宜、紹介します。		
2			
3			

評価方法（基準）	最後に求める「総合課題」のレポートの理解度(40%)及び、「授業での発言状況、質問に対する返答状況」(60%)を合計して評価します。総合課題の配付と提出は、「WebFolder」を利用しますので、注意してください。
学生へのメッセージ	民法の体系を考えながら、民法全般の基礎知識を再確認しましょう。
担当者の研究室等	11号館９階　小山教授室
備考	質問などについては、「Teams」やメールを活用してください。課題等については、適宜、ＳＨやPortalを利用してフィードバックします。

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	牛丸　興志夫
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	学生が関心を持つ法律学のテーマにつき、４年で求められる卒業論文の作成に役立つことを目的とした指導を行う。また、学生が研究のテーマを決めていない場合は、商法、すなわち、会社法、手形・小切手法、商法総則、商行為法、金融商品取引法、保険法の中から適切なテーマについて、重要判例および学説の検討を行う。金融関係の判例の分析も行う。あわせて、法学検定試験やビジネス実務法務検定試験対策についても指導する。対面授業で行う。
到達目標	この授業を通じて、学生は、商法全般の知識を習得できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	まずは、重要判例の分析を行い、当該判例について学説の研究を行い、議論を深めて、法律学の習得をめざす。 積極的に議論に参加して欲しい。 対面授業で行う。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	演習のテーマ・内容は、商法に関する重要な法律問題の研究である。 方法は、判例・学説の研究である。 事前、事後学習課題は、割り当てられたテーマにつき十分に研究することである。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	原則として定期試験は行いません。出席と受講態度、レポートを総合して、判定する。平常点 70％レポート 30％
学生へのメッセージ	演習には、必ず出席して、積極的に議論に参加してください。
担当者の研究室等	11 号館９階　牛丸教授室
備考	目的意識を見失わず、頑張ってください。事前・事後の学習には合計 20 時間とって下さい。 提出されたレポートに対する指導は、提出後の演習の時間中に行います。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小島　俊朗
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	このゼミでは、租税法の基礎的な知識を習得するとともに、税の世界の考え方に触れることができます。また、租税法は経済活動と密接に関係しており、租税について学ぶことは社会経済の動きを考えることにもつながります。 　社会人となれば何らかの形で経済活動に参画するため、租税と関連しないわけにはいきません。租税法は、皆さんが社会人となった場合にも有益な学問であり、いわゆる実学の代表格といえます。
到達目標	この演習を通じて学生には、次の目標を達成することが期待されます。 ①租税法の原則、基本的考え方が概略分かるようになること。 ②判例等の読み方に慣れること。 ③個人の確定申告書の作成ができるようになること。
授業方法と留意点	課題発表（プレゼンテーション）、裁判劇、確定申告書の作成、ディスカッション、ゲーム形式での学習など種々の方法により演習を行います。また、配付資料に基づいて議論していきますので、自分の考えを積極的に発言してください。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	租税法を学びながら、現在の社会経済との関わりについて考えていきます。 　この演習は、専門演習Ⅱへの導入という位置づけですので、判例研究を行えるように租税法の基礎を学びます。また、社会人体験ゲームの結果を基に、所得税の仕組みや税額の計算方法を学び、最後には個人の確定申告書を作成します。
関連科目	国税通則法及び所得税法等の各税法、財政学、憲法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	租税法	金子宏	弘文堂
2	図解所得税法	松崎啓介	大蔵財務協会
3			

評価方法（基準）	ゼミでの積極的発言や貢献度（50%）、課題発表の内容及びレポート（50%）の合計で評価します。
学生へのメッセージ	専門演習Ⅰ は、将来かかわることになる租税の世界に慣れて頂くことを主眼としています。皆さんは、消費税以外に馴染みがないかもしれませんが、所得税などについても比較的理解しやすい内容としていますので心配はいりません。一足先に社会人になったとお考えください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　小島教授室
備考	ゼミは、社会に出てから要求される資質を向上させる機会の一つであり、出席することが重要です。自由に発言できる雰囲気のゼミにしましょう。 　授業計画に応じたテーマにつき、事前・事後の学習を少なくとも毎回各 30 分程度行うように心掛けて下さい。 　課題を出した場合は、次回のゼミの冒頭で解説を行うとともに必要に応じて回答にコメントします。

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	河原　匡見
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	私たちは日頃、さまざまなメディアを通じて氾濫する情報の中で生活しており、必要な情報を取捨選択し、かつそれを正しく読み取っていくことが求められています。そういう『みる眼』を養っていくことを目的とした演習です。特に、新聞あるいはテレビから発信される情報との“大人のつきあい方”を模索していきます。
到達目標	この演習を通じて学生には、国内外の情報に積極的に接していくとともに、マスメディアなどによって氾濫するさまざまな情報を的確に読み取り、自分にとって必要な情報を取捨選択できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	新型コロナの感染が治まっている現状を踏まえ、「対面式」で実施します。学生によるプレゼンテーションおよびそれに対するディスカッションを対面方式で行います。毎回欠かさず出席することが求められます。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	政治や社会の動きをみる眼を養うことがテーマです。マスメディアのもつ特性やその発信するさまざまな情報についての基本的な視点を、実際の素材を用いながら学び考えていきます。3 年生の専門演習Ⅱでの学習を進めていくための必須となる社会情報の基礎分析力を養います。なお、演習の中で適宜、予習あるいは復習の課題を提示します。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	演習での勉学姿勢、特にディスカッションへの参加など（５０％）、およびプレゼンテーションによる発表の内容（５０％）により評価します。
学生へのメッセージ	演習では、積極的な参加が必要です。演習は、みなさんが、生来の資質を伸ばしたり、未知の可能性を見出したりするための、いわば知的な『共同訓練の場』といえます。ですから、演習に対しては、しっかりとした勉学の目的と意志をもって参加するようにしてください。演習によってどのような知識や思考方法が身に付くか、どのような新たな才能や可能性を見いだせるか、その成果は、みなさんの演習に対する積極さ如何に大きく関わってきます。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　河原教授室
備考	事前・事後学習は、各授業時間ごとに１時間程度行ってください。但し、発表前の場合は、発表の準備に必要な時間をさらに上乗せすることが必要となります。

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中　敦
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・ 目的	・民事法の基礎的知識を確認し、深めることを目的とするゼミである。民事法は財産と家族という我々の日常生活に関する一連の法であって、現実の生活と密接に関係している。典型的な裁判例等を素材とすることにより、民事法の基礎的知識を習得することを目標とする。なお、授業期間中に重要な判例が出た場合には、適宜紹介していきたい。 ・授業担当者は、大阪高裁・地裁、東京地裁等の裁判官として３９年間勤務し、また、広島家庭裁判所長を経験するなど、財産法や家族法に関する民事事件、家事事件に数多く携わってきた。授業では、法理論にとどまらず、実務経験を踏まえた話をしていきたい。
到達目標	この授業を通じて学生には、３年時以降に自主的な学習をするために必要となる、民法を中心とする民事法に関する基礎的な知識や、ゼミにおける発表準備、発表、議論に関する基本的なやり方を習得することが期待される。
授業方法と 留意点	・民事上の権利の発生・消滅に関する法（実体法）及び権利の実現に関する法（手続法）の基礎的事項と全体像を確認した上、重要な法律問題について検討・討論する。民事法は、財産と家族という日常的で現実的なことを扱う法であるため、現実の生活と関連づけて法律問題を検討することが重要である。 ・授業に際しては六法を手元に用意しておくこと。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、事後 学習課題	・授業の前半は、ガイダンス等の後、約７回にわたり、法学検定中級問題の問題抜粋に解答をしてもらう。ここでは、単に正解を出すだけではなく、民法の知識を再確認すべく、学生との質疑応答や必要な講義も行いたい。 ・後半では、様子をみた上で、法律に関する問題についてグループで議論をしたり、判例百選等から選んだ判例を検討していく。 ・宅建等の資格試験にも有益なように、不動産をめぐる法律問題及び権利の実現という実務的な問題についても検討をしていきたい。 ・この演習では、各授業につき各２時間の事前及び事後の学習が求められる。事前学習は、上記問題の回答のための準備など、教員から示された課題の検討など、事後学習は、当日の授業の復習とともに、教員から指摘された事項などについても検討すること等が考えられるが、それぞれが、その内容を自ら見出すことが求められる。授業やTeamsによって適宜知らせることもあるので、注意すること。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法 （基準）	授業における態度（きちんと出席しているか、議論に積極的に参加しているか、事前事後の学習をしているか。５０％）及び、Teams 上での課題（５０％）で評価する。これらの回答、解説は、原則として次回の授業で示すこととする。欠席が多い場合には、レポートを課することがある。
学生への メッセージ	このゼミは、卒業までの２年半継続し、今後の大学生活で大きな位置を占めるものとなるであろう専門演習の最初です。積極的に課題に取り組み、議論や質問をしつつ、気軽に話し合えるようなゼミにしていきましょう。
担当者の 研究室等	11号館10階　田中教授室
備考	課題については、原則として（別途Ｔｅａｍｓ上示すこともある)、直近の次の授業で解説する。コロナをめぐる情勢、学生の理解度、授業の進行によっては、授業の方法、内容を変更することがある。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中沼　丈晃
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	卒業研究につながる演習の最初の段階である。地域活動に参加して、現場を観察する。関係者の方に聞き取り調査をする。自分たちの行っている活動を学外の方に説明する。読書で知識を得て、それをまとめる。この４つの力をバランスよく養っていきたい。
到達目標	この演習を通じて学生には、①地域活動に参加して、協力して行動し、観察・聴き取り記録をとれるようになること、②活動の内容・目標・課題を説明できるようになること、③読書を通じて知識を整理できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	地域活動に参加しての参与観察、聞き取り調査（ともにフィールドワーク）、学外の方への活動報告（プレゼンテーション）、仲間との活動の企画と振り返り（ディスカッション）が特徴の演習である。さまざまな立場、価値観の人たちとの交流を楽しんでほしい。＊遠隔の場合、zoomで行う。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	演習で扱う分野は、地域防犯、自治会の地域活動、小学校と地域との関係、地域での児童福祉・青少年健全育成の４つである。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	演習時限の全出席を前提とする。活動記録(40%)、企画・振り返りへの貢献度(20%)、読書ノート(40%)の合計によって評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11号館９階　中沼教授室
備考	記録簿への記入、ノート整理などで各回1～2時間ほどが必要になる。定期的に記録簿とノートの提出を求め、点検する。 個人面談をして、地域活動参加の意志確認をし、参加の感想や今後の希望も聴く。それに対して助言を行う。

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浮田　徹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	卒業研究につながる法学部の演習科目を行っていくにあたっての基礎的な力を身につけることを目的とします。
到達目標	この講義を通じて学生には、問題発見・レジュメ作成・報告に関する基礎的な力を身につけられるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	個々人の力にある程度の差があることを前提としつつすべてのメンバーが基礎力を身につけていく経験を積んでいける機会を得られるようにするため、原則として出席して積極的に参加することが必要です。 報告はグループで行いますので、グループワークが基本となります。報告ではプレゼンテーション能力を培います。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	テーマを決めていく段階から自主性を重んじますので開講後決定します。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	参加を前提として、報告に対する取り組みと現場でのプレゼンテーション（60%）、ふり返りのペーパー（40%）で評価します
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 9 階　浮田准教授室
備考	事前学習としては、報告者は事前の準備（４時間程度）、それ以外は報告者から提示される文献を読む（30 分）、事後学習としては当日の報告に関する課題を課すのでその作成を行います(60 分)。

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	石井　信輝
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	「専門演習Ⅰ」は、3年次の「専門演習Ⅱ」と、４年次の「卒業研究」につながる演習であり、専門分野を２年半かけて深く学ぶための準備を行うためにある。したがって、この準備を完了することが専門演習Ⅰの目的である。
到達目標	この授業を通じて学生には、スポーツ活動を多面的（主に法学・政治学・法政策学）に学び関連する知見を身につけることが期待される。
授業方法と留意点	必要に応じて資料を配布する。教科書を用いる場合もある。授業中に提示した課題を解決するために、ICT ツールを活用していただくこともある。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	・授業テーマ：「スポーツ活動を多面的に学ぶ」 ・方法と内容：スポーツに関係する資料輪読、レポートの作成、作成したレポートのプレゼンテーション、およびディスカッションを行う。 ・授業の都度指示する課題に対する予習と復習
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
	2 / / /
	3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
	2 / / /
	3 / / /
評価方法（基準）	授業への参加を前提とし、各回の取り組み（与えられた課題の完成度 50%、プレゼンテーションの内容 20%、ディスカッションでの発言 30%）で評価する。
学生へのメッセージ	意欲的に取り組んでください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　石井教授室
備考	各回に 1 時間程度、すなわち半期で 15 時間程度を目安に、事前・事後の学習を行ってください。

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	島田　良一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	刑事法（刑法・刑事訴訟法・刑事政策・少年法）をめぐる諸問題について、受講者の報告をもとに全体で討議する。
到達目標	この演習を通じて学生には、刑事法に関する十分な知識を修得することが期待される。
授業方法と留意点	受講生にはグループワークの形でプレゼンテーションやディベートなどに積極的・主体的に取り組んでもらうことになります。 したがって、遅刻・無断欠席は厳禁です。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	専門文献、資料、判例、報道記事などを素材に刑事手続に関する基礎的な知識を習得するとともに、毎回、報告者を設定し、その報告テーマについて議論を行うほか、状況に応じてディベート等も行いたいと考える。 事前の学習課題としては、議論の準備など（資料の読み込み、レジュメの作成など）。 事後の学習課題としては、議論において教員や他のゼミ生に指摘された点の確認など。 事前、事後学習ともに１～２時間／日を要する。
関連科目	刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑法総論、刑法各論、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事政策、現代社会と刑事法、経済刑法、刑事法概論
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	プレゼンテーションなどの内容（50%）、プレゼンテーションなどにおける発言・取り組みの姿勢・態度（50%）。
学生へのメッセージ	初回の授業は対面で行いますが、その後については、受講生の意見も聴きながら、諸般の状況を踏まえて決めたいと思います。
担当者の研究室等	11 号館９階　島田准教授室
備考	

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	家本　真実
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	日頃、意識して「議論する」ということはあまりないかもしれませんが、日常生活において他の人と意見が異なることは多々あると思います。そのようなときに、話し合いによって自分の意見を相手方に理解してもらい、また相手方の意見を理解するということ、つまり相手方と「議論する」ことによって、お互いにとって納得できる合意を得ることが可能になります。そうして何らかの合意を得ることが必要な場面には、友人や家族などとの生活においてだけではなく、将来的には仕事をするうえでも遭遇することになります。そこでこのゼミでは、「議論する」ことに焦点を当てて、どうやって議論をしていくのか、相手に自分の意見を理解してもらうためにはどう話すべきなのか、また相手の意見を理解することがどれだけ重要なのか、といったことを少しずつ学んでいきたいと思います。 ３年次におこなう模擬裁判においても議論をすることがメインとなりますので、専門演習Ⅰはその準備期間という位置付けでもあります。
到達目標	このゼミを通じて、学生の皆さんには、議論を通して、他人の考えを理解し、問題がある場合にはどのような解決を見出すことができるかを考えることができるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	毎回、2-3 人 1 グループを報告者として、一定のテーマについて基礎となる報告をおこなっていただきます。そのうえで、全員で、このテーマについて議論をしていただきます。したがって、報告者は、議論をおこなうことができるようなテーマを選択し、それについて基礎的な情報を提供することを目的としてレジュメを準備していただくとともに、報告当日の議論において司会を務めていただきます。 報告を聞く側の皆さんには、他人事のように報告を聞くのではなく、積極的に議論に参加するという姿勢をもって臨んでいただきたく思います。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	初回から数回は、報告にあたって必要な準備の方法などについて学びます。その後、各々の報告に移っていきたいと思います。皆さんが気楽に話せる内容を報告のテーマとしていただいて、とにかく自分の意見を口に出す、また自分の意見を他の人に理解してもらえるように話す、という練習をしていただきたいと思います。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	ゼミでの報告における準備や司会進行の様子、議論への参加の姿勢（80%）、課題・提出物（20%）を評価の対象とします。
学生へのメッセージ	議論をすることによって、お互いの考え方を知り、理解しあうことにつながると思いますので、こうした活動を通じて、学生間での交流を深めてもらいたいと考えています。また、皆さんからゼミの内容についての提案があれば、できる限り取り入れていきたいと考えています。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　家本准教授室
備考	報告内容については随時、課題については次の回で講評をおこないます。 事前・事後学習の総時間数の目安：20 時間

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	城内　明
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・ 目的	民法を深く学ぶ　－判例を読む－ 2 年後期は、民法の判例研究を行います。
到達目標	この授業を通じて学生には、判例を正確に読む力、判例を批判的に検討する力を身に付けることが期待されます。
授業方法と 留意点	新型コロナウィルス感染状況に鑑み、当面、オンラインで実施します。 2～3 人のグループ毎に一つの判例を担当し、2 週間をかけ、Teams 上で報告します。 (準備作業は、ライングループで行います。)
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	報告者には、2 週間のゼミを有意義なものとするために必要な準備が求められます。 報告者以外のゼミ員も、事前に検討判例を読み、報告に対しては、積極的に質問・意見を述べることが求められます。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	報告の内容（40%）及びゼミに臨む態度（60%）を総合評価します。
学生への メッセージ	ゼミの仲間は、一生の仲間です。「自分さえ良ければ」ではなく、皆で高めあい「学問」しましょう。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　城内准教授室
備考	報告準備等の事前学習の所要時間は 20 時間程度を想定しています。

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小野　晃正
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	・指導方針 1　この専門演習Ⅰは、3年次の「専門演習Ⅱ」、そして4年次の「卒業研究」にかかる導入教育として位置づけられています。 2　そこで、本演習では1年次において刑事法概論の講義で習得した基本事項のうち，参加者各自が興味や関心を抱いた個別テーマに関する裁判例（判例）や学説を調べて報告してもらいます。 3　もっとも、こうした報告作業は、少なくとも法学系の論述問題でまともな答案を書くことができない人にはなかなか難しいのも事実です。そのため、この演習では、発表の前提ともいえる、刑事法に関する論述問題の答案作成方法も学習します。 4　また、発表に際し、どのようにして判例や文献を調べればよいのかというリーガル・リサーチの手法も本格的に学習する予定です。図書館や法学データベースの使用方法も適宜指導します。
到達目標	この演習を通じて学生には、 「・刑法の論点を抽出できる ・論点に対する判例や裁判例を調査できる ・論点に対する学説を調査できる ・論点に対して私見を展開できる」 ようになることが期待される。
授業方法と留意点	・刑法の論点に関して個別にプレゼンテーションを行った上で、参加者全員でディベートを行う。 ・新型コロナ変異株の流行状況によっては、本授業はMicrosoft社のteamsを用いたライブ方式来よオンライン配信をで行うこともありうる。
授業テーマ・内容、方法･事前、事後学習課題	・ゼミ内容 　この演習では，刑法（罪刑法定主義、刑法総論〈全犯罪共通の成立要件の検討〉，刑法各論〈各種個別犯罪〔殺人・強盗・放火等〕の成立要件論〉)、および、刑事学・犯罪学（犯罪原因論，受刑者と出所者の処遇問題，死刑を含めた刑罰の有効性と正当性，犯罪被害者救済策）を主な検討対象とします。 ・授業内容 　刑事法に関する事例問題（論述式）の答案作成方法 　刑事法領域の裁判例や学説の研究調査方法（リーガル・リサーチ） 　個別テーマの報告 ・授業時間以外での活動 　学生の希望があれば、刑務所や少年院などの施設訪問を長期休暇時に行うことがあります。
関連科目	刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、現代社会と刑事法、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑事政策

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	※開講時に指示する		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	刑法の争点（第3版）	西田＝山口＝佐伯	有斐閣
2	判例プラクティス刑法Ⅰ	成瀬＝安田	信山社
3	判例プラクティス刑法Ⅱ	成瀬＝安田	信山社

評価方法（基準）	評価方法 　プレゼンテーション（50%）とディベートへの参加度（50%）によって評価する。 以下の点をとくに重視します。 ①発表時に問題提起を適切にしているか（発表姿勢）。 ②提起した問題に関連する判例や先行研究（学説）を十分に、かつ、主体的に調査しているか（主体的学習）。 ③異説に配慮しつつ、自らの考察を適切かつ説得力をもって展開できているか（論理性）。
学生へのメッセージ	日常の犯罪報道などに興味のある学生はふるってご参加ください。
担当者の研究室等	11号館10階　小野教授室
備考	事前学習として、演習テーマの予習に毎回2時間以上の予習に取り組むこと。 事後学習として、演習テーマの内容についてノートにまとめるなど、毎回2時間以上の復習に取り組むこと。

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	萩原　佐織
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	当該民事法ゼミでは、例えば民法等の実体法に基づき発生する権利につき紛争が生じ、裁判所等で解決されるべき場合に、その方法や当事者が従うべきルール等につき、具体的な事案や判例をもとに追求することを最終目標としています。ただし、2 年次の段階では民事訴訟等が未履修ですので、まずは民法等の復習ならびに発展問題を取り扱い、私人の権利、ならびに私人間の権利の衝突・紛争の態様につき学んでもらいたいと思います。
到達目標	専門演習Ⅰでは、民事法にフォーカスして、より具体的に学んでいきます。この演習を通じて学生には、これから２年半続くゼミの出発点として、研究テーマの設定、判例研究・判例発表の方法等を、しっかり身に付けることが期待される。また、これから２年半をともに過ごすゼミ仲間とより良い関係が築けるよう、最初は、グループ発表とし、スポーツ交流等も交え、良い雰囲気のゼミ作りをまずは目指したいと考えています。 後半は、2・3 名でのグループ発表や個人発表を行い、社会科学系の学問における発表の仕方を身に付けるとともに、人前で発
授業方法と留意点	【授業内容】 前半は、ゼミでの発表の仕方（論文・判例・その他の資料等の見つけ方、配布資料の作成方法等）につき指導を行う。後半は、2，3 人のグループでの研究発表を予定。なお、発表毎に質疑応答を行うので、他のグループの研究発表時にも、積極的な参加姿勢を要する。1 学期内に、各グループとも、3 回程研究発表を行う機会を有するが、発表毎に構成員を変更し、ゼミ生同士が、より多くのコミュニケーションを、それぞれのメンバーととることができるように考慮している。そこから研究発表にも、より良い知の化学反応が生じることを期待
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	授業は、民事事件に関する判例等の研究発表を中心として行う。学期初めに、各グループの発表日時を決めるので、各グループは、構成員同士で話し合って発表テーマを決定し、発表に備え、事前に準備すること。事前準備においては、研究対象となる判例や論文等の資料を探し読み込むこと（インプット）はもちろん、どのように発表すれば他人により分かり易く伝えることができるのか、その発表内容や方法（アウトプット）についても熟慮すること。 発表形式は、次の２つの方法のいずれかのうち、そのテーマに適したものを用いて行う： １．資料作成技能重視型： 発表時には、研究内容を、板書やパワーポイント等を用いて説明するとともに、配布資料を配布すること。配布資料は、①研究対象となる事案・争点・判例や学説の流れ・解説等を記載したものと、②研究対象となる事案の判決（判旨・判決理由）を記載したもの、の２点を別個に用意する。まず、発表者が、配布資料①に基づき、事案・争点等の説明を行った後、ゼミ全体でディスカッションし、その後、配布資料②を用いて、当該事案の判決につき、再度論議を行う。 2. コミュニケーション技能重視型： ３人でグループを組み、各自原告・被告・裁判官役の立場に立ち、主に判決全文を用いて、それぞれの主張を述べ合い、裁判を体現する。当事者役は各審級の判決全文から自己の主張を練り、裁判官役は両当事者の見解を聞いたうえで、判決文や判例解説等を基に、それらに対する事実認定や法的見解を述べる。1 審から、上訴を含め、確定判決まで、裁判の一連の流れを再現する。ただし、その結論については、必ずしも使用した素材と同一になる必要はなく、各当事者役の主張内容や裁判官役の判断次第で、当人が妥当と考える結論が導き出されれば良い。模擬法廷を利用した模擬裁判を予定している。 予習事項は、毎回その都度指定しますが、各自の発表に備えてパワーポイント資料を作成したり、設定テーマに関連する文献を調べて熟読しておくこと、発表準備を行うこと等が挙げられます。 また、復習事項は、ゼミ内で教員より個別に指導された内容、例えば、発表資料の修正、文献の追加検索や入手です。Teams 上で提出し返却された課題については、そこに示されたフィードバックの指示に従って復習を行って下さい。 事前・事後学習の時間は、それぞれ２時間を想定しています。ただし、発表前は、個人やグループの進捗状況により、ゼミ時間外に個別で又はグループで集まって準備をすることもあり得ます。その場合、事前学習時間は、通常より長くなる可能性があります。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	演習内におけるプレゼンテーション準備やディベート・ディスカッション等の平常点（60%）、プレゼンテーションやレポート（40%）で評価します。ゼミへの参加意欲ならびにその体現、自身の研究発表への取組み方ならびにその成果、そして他のゼミ生の発表における質疑応答等を、総合的に判断して評価する。欠席・遅刻が多い場合には、レポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。
学生へのメッセージ	最初は、グループ発表で、ゼミでの発表方法やディスカッションの仕方等に慣れていってもらえればと思います。このメンバーで卒業までの２年半を過ごすことになるので、皆が気軽に話し合えるような良い雰囲気のゼミになれるといいですね。
担当者の研究室等	11 号館９階　萩原准教授室
備考	判例研究等のプレゼンテーションの際には、準備段階から、Word や Power Point の使い方、論文・判例等の各種文献検索や判例研究の仕方を含め、適時、演習内において指導する。 また、プレゼンテーション終了後は、その場でそのフィードバックを行い、次回のプレゼンテーションに還元できるように努める。なお、レポート等のフィードバックは、後日、添削・評価してから、演習内及び Teams において行うものとする。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大川　謙蔵
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・ 目的	本演習では、ゼミ生全員で最低限での法の意味、とりわけ民法の意味・制度について把握できるようになることを目的としている。 そのために、ゼミ生全員の協力の下で、どのような社会的問題が存在し、法律がどのような対応をしているのかを理解していく。社会状況を知ることにより、自分が社会においてどのような立場に立ち、またどのようなことをすべきかなど、多くの点を考える糸口を得られると考えている。
到達目標	本演習を通じて、学生にはディベートなどを駆使して、人前で話すための技術や留意点を体感し、人に伝えるための方法を身につけ、その後に一つの判例を使って全員でじっくりその内容を読み込むようになることが期待される。ただし、学生の目標等に合わせて、柔軟に対応する予定である。
授業方法と 留意点	２年前期の予定としては、①学生によるテーマ設定に基づくディベートにより、プレゼンテーション能力の涵養、②判例を具体的に読み、法制度を具体的に理解していくことを予定している。 ただし、あくまで予定であり、話し合いなどで変更はありうる。
授業テーマ・ 内容、方法･事前、 事後 学習課題	3 年次で、①グループによる判例報告、②個人の判例報告を予定しているため、その前提となる知識及び経験を涵養する予定である。ただし、あくまで予定であり、話し合いなどで変更はありうる。 また、3 年次で他大学との法的問題に対する合宿討論会を行う予定である。この場において、他大学のゼミの前においてプレゼンテーションを行い、その内容についての議論を行い、場合により反論を行う技術が求められる。ゼミではこれらの内容を涵養するよう指導を行う。 判例の入手方法、レジュメの作成方法などについては、適宜指摘をしていく。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	成績は、学期末に教員が用紙を渡すので、各ゼミ生が自己採点を行う。採点を行うに当たり、その評価に見合う事実、経験、結果等を自己で示す必要がある。すなわち、自分で自分を客観的に評価する能力が必要とされる。その自己評価書を元に評価を行う。 評価項目は、ゼミへの取り組み（20%）、得られた知識（20%）、得られた経験（20%）、今後の課題（20%）、個人的 PR（20%）をもとに判断を行う。
学生への メッセージ	学生主体のゼミを目指しています。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　大川准教授室
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の３つから成り立っています。 予習内容としては、演習で与えられる課題を個人で準備を行う必要があります。その準備を 90 分を基準として行う必要があります。 復習として、課題に対し、中間報告及び最終報告の内容を正確に押さえる必要があります。その為に 90 分を基準として行う必要があります。 学生主体の演習を目指しています。各実施状況については各自の報告時及びメールで確認します。 演習での縦の人間関係も重視しております。コンパなどで、就活などの情報も先輩から後輩へと伝えていくこと

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松島　裕一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	専門演習Ⅰでは特定の法分野に限定せず、欲張っていろいろな法分野を学習していきましょう。具体的には憲法・民法・行政法を中心にテキストと判例を読み進め、資格試験などの過去問を解いてみたいと思います。また、ゼミで習得した実定法の基礎知識を用いて、現代社会の諸問題を考えてみるつもりです。
到達目標	このゼミを通じて学生には、次の２つのことが期待されます。第一に、憲法・民法・行政法など、実定法の基礎知識を習得すること。第二に、報告を通じてレジュメやパワーポイントの作り方、ネットを利用した資料収集の方法、ディスカッションやディベートの仕方を身につけること。
授業方法と留意点	問題演習とディベートを基調にしつつ、時おり担当者（グループワーク）を決めて課題を発表してもらい、それに基づいてみんなでディスカッションも行います。必要に応じて教員（松島）がゼミの内容を補足するために講義やDVD鑑賞を行います。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	事前の予習（教科書の読解など）を前提にして、ゼミでは問題演習とディベートを行うつもりです。もちろん事後の復習は必須です。また、重要判例をいくつか取り上げ、グループごとにその概要を報告してもらいます（現時点では憲法・民法・行政法などの基本的な実定法科目を念頭に置いていますが、その他の法分野でも構いません）。とにかくしっかり暗記に努めるようなゼミにしたいと思っています。
関連科目	広く実定法分野にかかわります。実定法の背景的知識を知りたいと思う学生には、法哲学総論、法哲学各論、法思想史などをお奨めします。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	毎回の出席を前提として、適宜実施する小テストや発表（プレゼン）などへの取り組み70%と、ゼミ中での発言（ディスカッション・ディベートなど）30%で成績評価を行います。なお無断欠席・遅刻が度重なる場合は単位取得を認めないので、十分に注意してください。
学生へのメッセージ	専門演習は学習の場であるとともに、教員と学生および学生相互の交流の場であるとも思っています。学生の希望があれば、さまざまなゼミの行事（コンパや合宿など）も実施する予定ですので、積極的に参加してほしいと思います。
担当者の研究室等	11号館９階　松島准教授室
備考	事前の活動として、教科書の該当箇所を読み、それに対応する問題を解いてきてもらいます。また必要に応じて、レジュメなどの作成が必要となります（これらの事前学習に60分以上）。また、ゼミ終了後に学習した内容を振り返ってください（事後学習60分以上）。教科書は未定ですが、何かしら購入してもらうことになるので、そのつもりでゼミに臨んでください。

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	増田　知也
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	「地域における問題発見」をテーマとする。5 人程度のグループを作り、特定の地域における問題を自分たちで発見することを目指す。調査方法としては、文献調査、フィールド調査、インタビュー調査を組み合わせて行う。
到達目標	この演習を通じて学生には、地域における問題を発見し、調査によってその原因を明確にし、調査結果を分かりやすく人に伝えることができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	Active Book Dialog による文献講読と、グループワークによる政策立案を組み合わせて実施する。
授業テーマ・内容、方法･事前、事後学習課題	1. 文献講読 文献の内容を分担してまとめ、発表し、議論を行う。 2. 事例の選定 調査の利便性も考慮しつつ、対象となる地域を選定する。 3. 事例研究 リサーチ・クエスチョンを立て、文献調査、フィールド調査、インタビュー調査によって結論を導く。 4. プレゼンテーション 研究成果を発表し、意見交換をすることで理解を深める。 事前・事後学習課題 グループで選んだテーマについての情報収集（4 時間）
関連科目	「地方自治論」「住民協働論」「地域政策応用講義Ⅱ（地方政策論）」
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	グループワークへの貢献 60%、プレゼンテーション 40%
学生へのメッセージ	春休みに開催される、「全国大学まちづくり政策フォーラム in 京田辺」での入賞を目標にします。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　増田講師室
備考	

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	和田　泰一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	専門演習Ⅱに備えるべく、政治問題に関する文献の読解能力や論理的思考力・判断力・表現力の基礎を身につけることが目的です。学生の皆さん一人一人が、自分が興味を持っている政治問題について主体的に考え、議論し、問題解決への糸口をつかめるような主体的・対話的で深いアクティブ・ラーニングの場を提供します。
到達目標	この授業を通じて学生は、政治問題に関する書物・新聞記事・評論などを読んで基本的な政治的知識・技能を獲得するとともに、その要点やメリット・デメリットをまとめ、望ましい解決策について他者と討議し、他者に対してそれを明確に発表するという論理的思考力・判断力・表現力を育成することが期待されます。 またグループディスカッション・プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングを通じて主体的・対話的で深い学びを行うなかで、学習や仕事に対する意欲や積極的な人間性を育み、社会において良好で協調性のある人間関係を構築する仕
授業方法と留意点	ABD（Active Book Dialogue，アクティブ・ブック・ダイアローグ）というアクティブ・ラーニングの方法を用いて、政治問題に関する文献の読解・グループディスカッション・プレゼンテーションを毎回全員が行います。 新型コロナウイルスが猛威を振るっているため、Microsoft Teams によるオンライン授業を行います。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	・授業テーマ・内容 政治問題に関する文献の読解や議論、発表を通じて、その内容を正確に理解し、他者と討議して望ましい解決策を判断し、他者にわかるようにその内容・解決策を発表することによって、基本的な日本語読解能力と論理的思考力・判断力・表現力を修得することができます。 卒業論文が作成できるように学問的基礎を固め、自分が関心のある政治問題の領域・テーマを定めることができるようにします。 ・授業方法 学生の皆さんの興味・関心・卒業論文のテーマを考慮しながら、政治問題についての文献をその場で毎回輪読・議論・発表する ABD（Active Book Dialogue，アクティブ・ブック・ダイアローグ）というアクティブ・ラーニングの方法を用います。短い時間で日本語の文章を読み、その要点を的確に理解することは、就職試験や公務員試験の「文章読解」で求められる能力でもあり、社会人になった後のマニュアル・資料の読解にも必ず必要な能力です。またグループディスカッションやプレゼンテーションは、仕事で問題が発生したときにその原因を的確に把握し、他者と望ましい解決策を討議し、最善と判断した改善策を他者に論理的に説得するためにも必要な能力です。 ・事前、事後学習課題 事前学習…その場で政治問題に関する文献を読んでもらうので、必要ありません。 事後学習…文献全体をもう一度読み直し、内容を理解しておくこと（60 分～90 分程度）。
関連科目	プレ専門演習、専門演習Ⅱ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業でのグループディスカッション（50%）とプレゼンテーション（50%）で評価します。
学生へのメッセージ	就職活動が始まると卒業論文の作成に時間を取ることができなくなってしまいます。この時期に卒業論文の領域・テーマを定め、参考文献の読解や資料・データの収集を自主的に行うようにしてください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　和田講師室
備考	グループディスカッションでは教員も適宜参加し、助言を与えます。プレゼンテーションでは毎回その内容について全員に助言と短評を与えます。

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	川谷　道郎
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	法体系の中で労働法がどのような地位を占めているのか、それは民法に代表される一般市民法と比べてどのような性格を持っているのかについて、基礎的な理解を得るようにします。また、実際に言い渡された判決例、報道された事件を検討することにより法が社会においてどのような機能を担っているのかについても検討します。
到達目標	この授業を通じて学生には、労働者、使用者、労働契約といった基本的概念と労働法の概要を理解するとともに、法学研究の方法を身につけ、今後の専門演習に向けての自らテーマを選定する契機とすることが期待されます。
授業方法と留意点	基礎的な事項については講義をしますが、具体的な事例によりながら学生からする報告及び議論を期待しています。 授業は対面の方法で実施しますが Teams で連絡事項を告知する場合があるので、Teams には定期的なアクセスを心掛けて下さい。 アクセスコードは　5yxvktb　です。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	基礎的な事項は講義形式で行うとともに、具体的な事例を時事問題や裁判例から選定し、課題回答の形で意見を述べてもらいます。教科書は特に指定しませんが、関連科目の教科書ないし解説書と六法は手元に置くようにしてください。 テーマは一応労働法関連のものを予定していますが、皆さんから希望があれば考慮します。
関連科目	憲法、民法、労働保護法、労働組合法
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	労働判例百選（第９版）	村中孝史ほか	有斐閣
2			
3			

評価方法（基準）	原則として定期試験は行いません。課題回答の内容（70%）と受講態度（30%）を総合して判定します。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館９階　川谷研究室
備考	授業のテーマは事前に与えるので、事前の準備と事後の確認に１時間程度は必要になります。レポートは、採点の上、次回の講義で留意点等の解説をします。

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	小山　昇
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	３年次の「専門演習Ⅱ」は、卒業研究論文の作成に向けて、国際私法の「構造」を理解するために判例を使った検討を中心に、個人あるいはグループで判例を調べて報告することを求めます。なお、理解を確実なものとするために、前期は、「国際私法の構造」についての問題を検討します。３年次終了時には卒業研究論文のテーマの提出も求めます。
到達目標	この演習を通じて学生には、国際私法総論の理論構造と、各論の各分野の準拠法及びその連結政策を説明できるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	前期は、「国際私法の構造」についての問題を提示しますので、それに答える形の授業を中心に、後期は、「国際私法の諸問題」についての判例研究をします。なお、対面授業が実施できない状況のときは、「Teams」及び「WebFolder」を利用することにします。 具体的なやり方は授業の最初に周知したいと考えています。原則として、国際私法の知識の確認については双方向性を重視したディベートを主体として行い、判例報告は、個人ごと及びグループワークによるものとします。報告では、レジュメの作成とそれを使ったプレゼンテーシ
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	前期 １．「国際私法の構造」について、重要であると考えられる事柄を設題にして検討 ２．重要であると考えられる国際私法事件の判例の解説 後期 １．「構造」の理解を前提として、国際私法の諸問題について判例を使った具体的な研究 提示する判例の中から選択したものについて、実際の判決文を検討し、レジュメを作成して報告することを求め、 その後、その報告を材料として全員でディスカッションと検討 なお、関連する各国実質法については、必要な範囲で適宜講義します。 ２．年度の終わりには、国際私法の理解度を評価するための「総合課題」のレポート及び「卒業研究論文テーマ」の提出を義務づけます。 具体的な事前・事後学習については、適宜指示しますが、全般的には事前に配付する資料の熟読と検討、判例の原典の入手などの事前学習が重要になります。時間数の目安は、各授業時間ごとに２時間程度必要となります。
関連科目	国際私法総論・各論、国際取引法、民法、商法、民事訴訟法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国際私法判例百選(第２版)	櫻田嘉章・道垣内正人編	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	授業で紹介します		
2			
3			

評価方法（基準）	前期の「設問に対する発言状況」と後期の「判例報告レジュメ、報告内容、その実施方法」(50%)及び「総合課題」レポート」(50%)を合計して評価します。総合課題レポートは、最終のゼミでの提出を予定していますが、できないときは「WebFolder」を利用します。
学生へのメッセージ	判決文の読解、レジュメの作成などに日本語の正確な知識が必要になります。日本語を意識して文章力を磨いて下さい。
担当者の研究室等	11 号館９階　小山教授室
備考	判例報告のレジュメについては、報告の時に、改善点・修正点などを指摘します。なお、「Teams」による授業になったときは、判例報告では、各自作成したレジュメを「PDF ファイル」にしての発表になりますので注意してください。

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	牛丸　興志夫
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	学生が関心を持つ法律学のテーマにつき、４年で求められる卒業論文の作成に役立つことを目的とした指導を行う。また、学生が研究のテーマを決めていない場合は、商法、すなわち、会社法、手形・小切手法、商法総則、商行為法、金融商品取引法、保険法の中から適切なテーマについて、重要判例および学説の検討を行う。金融関係の判例の分析も行う。あわせて、公務員採用試験や各種の資格試験対策についても指導する。対面授業で行う。
到達目標	この授業を通じて学生には、商法について、全般的な知識を習得できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	まずは、重要判例の分析を行い、当該判例について学説の研究を行い、議論を深めて、法律学の習得をめざす。 積極的に議論に参加して欲しい。 対面授業で行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	授業のテーマ：商法に関する重要な法律問題の研究 方法：判例・学説の研究 事前、事後学習課題：割り当てられたテーマにつき十分に研究すること
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	出席率、演習への参加態度・レポートを総合的に判断して行う。平常点 70％レポート 30％
学生へのメッセージ	授業には出席し、積極的に議論に加わってください.
担当者の研究室等	11 号館 9 階　牛丸教授室
備考	自主学習には、合計 20 時間とって下さい。 レポートに対する指導は、レポート提出後のゼミの授業中に、行ないます。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	牧田　勲
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	日本の法文化や法の変動について関心をもち、主体的に調べ、議論を通じてその理解を深めることを目標とする。過去の法だけでなく、現在の法をも視野に入れて取り組むことにしたい。また、法や紛争の背後にある経済的・社会的・思想的対立関係についても眼を向けたい。その意味では、このゼミは法社会学、法社会史の性格をもっており、法や社会に対して問題意識にあふれた諸君の選択を期待している。 SDGs-4,5,10
到達目標	このゼミを通じて学生は、将来卒論をまとめるのに必要な問題意識、基礎的知識や情報を得るようになることを期待する。
授業方法と留意点	将来の卒業研究につながる基礎作業ともいえるゼミであり、文献調べ、資料収集、テーマに関わる研究上の論点整理などが必要となる。コロナ禍が続いているので、しばらくはＴｅａｍｓやメールを使って指導するので、学生諸君はレポートを作成に努めてもらいたい。テーマに関する問題意識を深め、来年の卒業研究に結び付けること。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	前期・後期とも、翌年度の卒業研究論文執筆を視野に入れて、各自が興味をもつテーマについて調べ、ＷＥＢで報告、もしくは対面型授業で報告する。
関連科目	卒論作成に関わる全ての科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	対面型授業による出席状況（２０％）とオンラインでのレポート提出状況（４０％）、レポートの内容（４０％）の合計点、
学生へのメッセージ	少年老い易く学成り難し　一寸の光陰軽んずべからず。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、みなさんの大切な友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活を過ごしてください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　牧田教授室
備考	後期になったら私の研究室でもアドヴァイスします。ゼミの事前準備には十分な時間をかけてじっくり取り組むこと。

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	小島　俊朗
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	租税法の学習を通じて、現実の社会経済と租税法との関連について理解を深めていきます。社会人になった場合、どの職場でも要求されることは、何事にも自主的、積極的に取り組み、自分で考え工夫していくことです。ゼミの題材は租税法の分野ですが、それを一つの教材として、各人が問題意識を持って考えてもらいたいと思います。また、ゼミは知識の習得だけでなくプレゼンテーション能力をつける場でもあります。自分の考えを整理して相手に正確に伝える能力も社会に出ると大事です。いろいろな意味で有意義なゼミにしましょう。
到達目標	この演習を通じて学生には、次の目標を達成することが期待されます。 ①租税法における種々の重要問題について、自分の見解を持ち表現できるようになること ②租税法の基本的な考え方を理解すること ③判例の読み方に習熟し、卒業研究において活用できるようになること
授業方法と留意点	配付資料等をもとに租税法の基礎的な理論や個別税法の仕組み、問題点等について研究していきます。プリントアウトし、ゼミにおいて手元で参照できるように準備しておいてください。 基本的に、報告者が担当テーマの発表（プレゼンテーション）を行い、それに基づいて討論（ディスカッション）していきます。卒業研究の準備にもなりますので、必ず参加してください。
授業テーマ・内容、方法･事前、事後学習課題	判例や裁決事例を素材にして、問題の本質を探り、検討します。方法としては、毎回担当者を決めて発表してもらい、各事例ごとの法解釈や事実認定上のポイントにつき解説します。重要な税法である所得税法、相続税法、法人税法、消費税法等について議論しながら考えていきます。
関連科目	所得税法、相続税法、法人税法及び消費税法
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	租税法	金子宏	弘文堂
2	図解所得税法	松崎啓介	大蔵財務協会
3	図解相続税・贈与税	高藤一夫	大蔵財務協会

評価方法（基準）	ゼミでの積極的発言や貢献度（50%）、課題発表の内容及びレポート（50%）の合計で評価します。
学生へのメッセージ	ゼミは、社会で出てから要求される資質を向上させるのに絶好の機会を提供すると思いますので、ゼミを重要視してください。自由に発言できる雰囲気のゼミにしましょう。出席することが重要です。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　小島教授室
備考	ゼミは、社会に出てから要求される資質を向上させる機会の一つであり、出席することが重要です。自由に発言できる雰囲気のゼミにしましょう。 専門演習Ⅱでは判例研究を中心に行いますので、深度のある学習が求められます。このため、事前・事後の学習が欠かせません。各回の課題について、事前 30 分・事後 1 時間程度の学習を心掛けて下さい。

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	河原　匡見
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	専門演習Ⅱでは、国の内外の社会において現実に生じている動きをきちんと把握し分析し、それをより深く理解できるようにトレーニングを進めていきます。特に、本演習では、社会における「紛争」や「論争」などを題材としていきたいと思います。また、学問に直接関係することだけでなく、広く学生生活全般に関すること、あるいは一般社会の問題についても議論し合っていければと思います。
到達目標	この演習を通じて学生には、個人あるいはグループで、特に関心のある問題について、資料を収集し分析するなどの検討を行い、それを他人の前で口頭で発表できるようになることと、その検討内容を決められた形式・分量に則してレポート化して、期限までにまとめあげることができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	学生による報告が主体です。新型コロナの感染が治まっている現状を踏まえ、「対面式」で実施します。学生によるプレゼンテーションおよびそれに対するディスカッションを対面式で行います。毎回欠かさず出席することが求められます。具体的には、課題を出して、それに対してレポートの提出によって報告してもらうというスタイルが基本です。課題については、すでに募集要項の中で示した当ゼミの趣旨に沿った内容になります。各自で、学習・調査し、それをレポートで報告してもらいます。なお、授業時間以外での活動は特に予定していませんが、報告（
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	専門演習Ⅱでは、国の内外の社会におけるさまざまな政治的社会的諸現象が実際にどのように発生し、どのような状態にあるのか、きちんと把握するとともに、より深く理解していく上での分析能力の養成を目指していきます。特に、前期は国際社会や国内社会のさまざまな局面やレベルにおける「紛争」や「対立」あるいは「論争」を題材としていきたいと思います。前期の前半は主に、世界各地の「紛争」についての理解を深めることに重点をおきます。前期の後半は、日々動きの激しい国内外の諸問題を題材とし、それを把握するトレーニングに重点をおきたいと思います。後期は、夏季休暇中に各自で作成した課題レポートを個別発表して、それに関するディスカッションを行っていき、各問題に対する理解と考察を深めていきます。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	学習への参加姿勢５０％および課題レポートの内容５０％により評価します。
学生へのメッセージ	専門演習Ⅱは、2 年後期の専門演習Ⅰで培った情報の基礎分析力がベースとなる演習活動です。そしてそれは、みなさんが、生来の資質を伸ばしたり、未知の可能性を見出したりするための、いわば知的な『共同訓練の場』です。ですから、演習に対しては、しっかりとした勉学の目的と意志をもって参加するようにしてください。演習によってどのような知識や思考方法が身に付くか、どのような新たな才能や可能性を見い出せるか、それは、演習に対する積極さ如何に大きく関わってきます。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　河原教授室
備考	事前・事後学習は、各授業時間ごとに１時間程度行ってください。但し、発表前の場合は、発表の準備に必要な時間をさらに上乗せすることが必要となります。

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	田中　敦
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・ 目的	・専門演習Ⅰで学んだことを踏まえ、不法行為、契約、担保物権、民事執行等の民事法に関する判例を学習することによって、不動産取引、金融についての知識を確実なものとする。実社会においても必要な知識を深めるだけでなく、宅建、司法書士等の資格取得に対応する法的基礎を得るようにする。 ・学生は、このゼミを通じて自らが研究の対象としたいテーマを見つけていくことになる。 ・教員は、学生のテーマ探しに適宜助言を行っていきたい。
到達目標	この授業を通じて学生には、自らが選んだ民事法に関する特定の課題について必要な調査を行い、これをまとめてレジュメ等を作成し、これをゼミの教員や学生の前で報告できるようになること、実社会でも役に立つ一定の法的知識及び法的なものの考え方を身に付けること及び、民法の分野では宅建試験に合格できる程度の水準に達するようになることが期待される。
授業方法と 留意点	・裁判例や文献を調査・検討して、その中で各自が関心を有する題材・課題を探し出し、レポートの作成と授業での発表等を通じて、卒業研究に繋がる準備を進めていく。前期・後期においてそれぞれ最低１回は報告を担当してもらうことを考えている。学生は、このゼミを通じて、自らが卒業研究における研究対象としたいと考えるテーマを見つけていくことになる。 ・教員は、学生のテーマ探しに当たっては、適宜助言を行っていきたい。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、事後 学習課題	・発表者は、基礎的文献、判例百選、判例プラクティス等から選んだ題材について、レジュメ等を作成し、事前に配布の上、授業において発表を行う。事前学習では、発表者に限らず各自が題材、レジュメについて事前の検討を行い、当日は、発表を契機に、さらに討論を重ねていく。こうした学習によって、ゼミ生全員が法的な思考に磨きをかけていくことを目指す。 ・この演習では、各授業につき各２時間の事前及び事後の学習が求められる。事前学習は、発表者から事前に提出されたレジュメ等を検討し、疑問点等を見つけておくこと、事後学習は、当日の授業の復習とともに、教員から指摘された事項などについても検討すること等が考えられるが、それぞれが、学習すべき内容を自ら見出し、これを実践することが求められる。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業における態度（きちんと出席しているか、議論に積極的に参加しているか、事前事後の学習をしているか。５０％）及び、報告内容、課題の回答内容（５０％）で評価する。欠席が多い場合には、レポートを課することがある。
学生への メッセージ	これからいよいよ演習が本格化します。授業内容を踏まえ、自分が関心を有するテーマ、ゼミ内で議論をしたいと思うテーマ、そして自分が研究するテーマを探していってください。そのための助言もいたします。専門演習Ⅰを通じ、ゼミ生同士の交流も深まったことと思います。引き続き、ゼミ内での親睦を図っていきましょう。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　田中教授室
備考	コロナをめぐる情勢、学生の理解度、授業の進行によっては、授業の方法、内容を変更することがある。

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	中沼　丈晃
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	卒業研究につながる演習の第二段階である。地域活動に参加して、現場を観察する。関係者の方に聞き取り調査をする。自分たちの行っている活動を学外の方に説明する。読書で知識を得て、それをまとめる。この４つの力をバランスよく養っていきたい。
到達目標	この演習を通じて学生には、①地域活動に参加して、協力して行動し、観察・聴き取り記録をとれるようになること、②活動の内容・目標・課題を説明できるようになること、③読書を通じて知識を整理できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	地域活動に参加しての参与観察、聞き取り調査（ともにフィールドワーク）、学外の方への活動報告（プレゼンテーション）、仲間との活動の企画と振り返り（ディスカッション）が特徴の演習である。さまざまな立場、価値観の人たちとの交流を楽しんでほしい。＊遠隔の場合、zoomで行う。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	演習で扱う分野は、地域防犯、自治会の地域活動、小学校と地域との関係、地域での児童福祉・青少年健全育成の４つである。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	演習時限の全出席を前提とする。活動記録(30%)、企画・振り返りへの貢献度(40%)、読書ノート(30%)の合計によって評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館９階　中沼教授室
備考	記録簿への記入、ノート整理などで各回 1～2 時間ほどが必要になる。定期的に記録簿とノートの提出を求め、点検する。 個人面談をして、地域活動参加の意志確認をし、参加の感想や今後の希望も聴く。それに対して助言を行う。

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	浮田　徹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	卒業研究につながる法学部の演習科目を行っていくにあたっての基礎的な力を身につけることを目的とします。
到達目標	この講義を通じて学生には、問題発見・レジュメ作成・報告に関する基礎的な力を身につけられるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	個々人の力にある程度の差があることを前提としつつすべてのメンバーが基礎力を身につけていく経験を積んでいける機会を得られるようにするため、原則として出席して積極的に参加することが必要です。 報告はグループで行いますので、グループワークが基本となります。報告ではプレゼンテーション能力を培います。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	テーマを決めていく段階から自主性を重んじますので開講後決定します。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	参加を前提として、報告に対する取り組みと現場でのプレゼンテーション（60%）、ふり返りのペーパー（40%）で評価します
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 9 階　浮田准教授室
備考	事前学習としては、報告者は事前の準備（４時間程度）、それ以外は報告者から提示される文献を読む（30 分）、事後学習としては当日の報告に関する課題を課すのでその作成を行います(60 分)。

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	石井　信輝
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	スポーツ活動を多面的な学問領域（主に、法学・政治学・法政策学）から検討し、知見の獲得を図る。卒業研究題目の決定と、必要な資料・文献の収集および予備調査への導入を図る。
到達目標	この授業を通じて学生には、次年に作成する卒業研究の題目決定と、作成を遂行するための基本的な能力を養うことが期待される。
授業方法と留意点	専門演習Ⅰの授業において行った報告を更に掘り下げるとともに、卒業研究における各自のテーマを決定する。また、論文作成に必要な資料・文献の収集を行うとともに、必要であれば予備調査を実施する。 各自が能動的に取り組むことが必要となります。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	授業テーマ：スポーツ活動を多面的な学問領域（主に、法学・政治学・法政策学）から検討し、知見の獲得を図る。 授業内容：専門演習Ⅰの授業で行った報告を更に掘り下げるとともに、卒業研究における各自のテーマを決定する。また、論文作成に必要な資料・文献の収集を行うとともに、必要であれば予備調査を実施する。 事前事後学習課題：授業中に指示した課題の実行
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	各回の取り組み（30%）、与えられた課題の完成度（70%）をもとに評価する。
学生へのメッセージ	意欲的に取り組んで下さい。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　石井教授室
備考	各回に 1 時間程度、すなわち通年で 30 時間程度を目安に、事前・事後の学習を行ってください。

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	島田　良一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	刑事法（刑法・刑事訴訟法・刑事政策・少年法）をめぐる諸問題について、受講者の報告をもとに全体で討議する。
到達目標	この演習を通じて学生には、刑事法に関する十分な知識を修得することが期待される。
授業方法と留意点	受講生にはグループワークの形でプレゼンテーションやディベートなどに積極的・主体的に取り組んでもらうことになります。 したがって、遅刻・無断欠席は厳禁です。 なお、授業は原則として対面形式で行いますが、今後の新型コロナ禍の状況に鑑み、大学から指示があった場合にはオンライン形式に切り替えることになります。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	専門文献、資料、判例、報道記事などを素材に刑事手続に関する基礎的な知識を習得するとともに、毎回、報告者を設定し、その報告テーマについて議論を行う（対面方式・オンライン方式）。 事前の学習課題としては、議論の準備など（資料の読み込み、レジュメの作成など）。 事後の学習課題としては、議論において教員や他のゼミ生に指摘された点の確認など。 事前、事後学習ともに１～２時間／日を要する。
関連科目	刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑法総論、刑法各論、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事政策、現代社会と刑事法、経済刑法、刑事法概論
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全体討議・報告等における発言・態度等（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11号館９階　島田准教授室
備考	

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	家本　真実
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・ 目的	法は、社会における最低限のルール・道徳であるといわれます。この演習では、現在、社会で起きている問題や議論されている事柄を通して、現行の法律がどのようなものであるか、そしてどうあるべきかを考えることによって、法に対する知識をより広い視野をもって深めていく機会にしていただきたいと思います。 前期は、報告者グループがおこなう何らかの法的・政治的問題や課題についての報告を基に、皆で議論していただきます。単に個人的な考え方や意見を述べるだけでなく、根拠を示しながら、どのように問題を捉えるべきなのかを議論する力をつけていただきたいと思っています。 後期においては、前期で培った議論・説得する力を存分に発揮しつつ、法を実践的に学ぶために、模擬裁判をおこなっていただく予定です。
到達目標	このゼミを通じて、学生の皆さんには、議論や模擬裁判を通して、他人の考えを理解し、問題がある場合にはどのような解決を見出すことができるかを考えることができるようになることが期待されます。
授業方法と 留意点	前期はおもに、2-3 人を 1 グループとする報告者に議論の基礎となる報告をしていただいたうえで、皆さんで議論していただくというかたちをとります。報告者は、報告前に集まって、共同でレジュメを作成し、報告や議論の進行について考えてください。そのうえで、報告の数日前までにその概要を担当教員に知らせてください。報告者以外の方々には、積極的に議論に参加されることを望みます。こうして議論をおこなうことによって、違う意見を持つ人々をどう説得するか、またどう折り合いをつけるのかを学ぶことにもなるでしょう。 後期は、模擬裁判
授業テーマ・ 内容、方法・事前、事後 学習課題	前期は、グループでの報告と、それを基にした議論をおこなっていただきたいと思います。1 人につき、2-3 回、報告をする機会があると思いますが、そのうち少なくとも 1 度は、民事事件の判例を報告のテーマとしていただき、当事者双方の主張、そしてそれらに対する裁判所の判断について検討・議論していただきたいと思います。2 度目以降の報告については、民事事件に限らず、法律や政治に関連のある事柄について報告していただくというふうにしていきたいと考えています。 後期は 4 年生とともに、模擬裁判をおこなっていただきます。刑事裁判手続きや裁判員制度に関して学んだうえで、模擬裁判で題材とする事案の検討をおこない、検察チームや弁護チームの弁論や尋問を作成するという作業と模擬裁判の実施が、後期のゼミの大半を占めることになります。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	ゼミでの報告における準備や司会進行の様子、議論への参加の姿勢（80%）、課題・提出物（20%）を評価の対象とします。
学生への メッセージ	ともに議論をし、模擬裁判をおこなうことによって、お互いの考え方を知り、理解しあうことにつながると思います。こうした活動を通じて、学生間で交流を深めてもらえれば、と考えています。また、皆さんからゼミの内容についての提案があれば、できる限り取り入れていきたいと考えています。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　家本准教授室
備考	報告内容については随時、課題については次の回で講評をおこないます。 事前・事後学習の総時間数の目安：65 時間

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	城内　明
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・ 目的	【民法総合演習】 　本演習では，受講生の法的問題解決能力の向上を目的として，現実に，今，社会で問題となっている，民法(債権法)・消費者法にかかわる最新の事例・判例の検討を行います。 　コロナウィルス感染状況にもよりますが、夏にはインターカレッジの法律討論会、12 月には神戸学院大学で開催される法律討論会にも参加予定です。
到達目標	この授業を通じて学生には、民法、特に財産法分野の基本的知識の理解を確実にすることを期待します。
授業方法と 留意点	前期は、まず判例研究を行います。判例の読み方、資料の読み方をしっかり身に付けましょう。前期終盤から後期にかけては法律討論会がメインとなります。本演習は，民法の基礎知識を前提とします。特に、民法総則、債権法、不法行為法、契約法、消費者と法の授業内容は、直接関連するため、履修が必要です。 　後期のゼミは、新型コロナウィルス感染状況に鑑み、当面の間、オンラインで実施します。(状況をみて、対面に戻します。)
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	民法総合演習 前期の判例研究では、各グループに、2 週間のゼミを有意義なものとできるだけの準備が求められます。報告者以外のゼミ員についても、事前に判例を読み、積極的にゼミに参加することが求められます。後期の法律討論会も、全員の参加が前提です。全員で取り組んで、はじめて勝てる立論が完成します。(以上の作業にかかる時間は、目安として毎週 60 分程度です。)
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	報告・討論会に臨む姿勢等を総合評価します(100%)。
学生への メッセージ	ゼミは皆で作るものです。徹底的に学び，議論し，思いっきり遊んで，良いゼミをつくっていきましょう。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　城内准教授室
備考	

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	小野　晃正
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	・指導方針 1　この専門演習Ⅱは，2年次後期の「専門演習Ⅰ」にひきつづき、4年次の「卒業研究」にかかる導入教育として位置づけられています。 2　そこで、本演習では1年次において刑事法概論の講義で習得した基本事項のうち，参加者各自が興味や関心を抱いた個別テーマに関する裁判例（判例）や学説を調べて報告してもらいます。 3　もっとも、こうした報告作業は、少なくとも法学系の論述問題でまともな答案を書くことができない人にはなかなか難しいのも事実です。そのため、この演習では、発表の前提ともいえる、刑事法に関する論述問題の答案作成方法も学習します。 4　また、発表に際し、どのようにして判例や文献を調べればよいのかというリーガル・リサーチの手法も本格的に学習する予定です。図書館や法学データベースの使用方法も適宜指導します。
到達目標	この演習を通じて学生には、 「・刑法の論点を抽出できる ・論点に対する判例や裁判例を調査できる ・論点に対する学説を調査できる ・論点に対して私見を展開できる」 ようになることが期待される。
授業方法と留意点	・教員からの一方通行的な講義にならぬよう、学生と教員双方の理解を深めるため、質疑応答を行う。 ・法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。 ・刑法の論点に関して個別にプレゼンテーションを行った上で、参加者全員でディベートを行う。 ・新型コロナ変異株の流行状況によっては、本授業はMicrosoft社のteamsを用いたライブ方式来よオンライン配信をで行うこともありうる。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	・ゼミ内容 　この演習では，刑法（罪刑法定主義、刑法総論〈全犯罪共通の成立要件の検討)，刑法各論〈各種個別犯罪〔殺人・強盗・放火等〕の成立要件論)）、および、刑事学・犯罪学（犯罪原因論，受刑者と出所者の処遇問題，死刑を含めた刑罰の有効性と正当性，犯罪被害者救済策）を主な検討対象とします。 ・授業内容 　刑事法に関する事例問題（論述式）の答案作成方法 　刑事法領域の裁判例や学説の研究調査方法（リーガル・リサーチ） 　個別テーマの報告 ・授業時間以外での活動 　学生の希望があれば、刑務所や少年院などの施設訪問を長期休暇時に行うことがあります。
関連科目	刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、現代社会と刑事法、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑事政策

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	※開講時に指示する		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	刑法の争点（第3版）	西田＝山口＝佐伯	有斐閣
2	判例プラクティス刑法Ⅰ	成瀬＝安田	信山社
3	判例プラクティス刑法Ⅱ	成瀬＝安田	信山社

評価方法（基準）	評価方法 　プレゼンテーション（50%）とディベートへの参加度（50%）によって評価する。 以下の点をとくに重視します。 ①発表時に問題提起を適切にしているか（発表姿勢)。 ②提起した問題に関連する判例や先行研究（学説）を十分に、かつ、主体的に調査しているか（主体的学習)。 ③異説に配慮しつつ、自らの考察を適切かつ説得力をもって展開できているか（論理性)。
学生へのメッセージ	日常の犯罪報道などに興味のある学生はふるってご参加ください。
担当者の研究室等	11号館10階　小野教授室
備考	事前学習として、演習テーマの予習に毎回2時間以上の予習に取り組むこと。 事後学習として、演習テーマの内容についてノートにまとめるなど、毎回2時間以上の復習に取り組むこと。

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	萩原　佐織
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・ 目的	当該民事法ゼミでは、例えば民法等の実体法に基づき発生する権利につき紛争が生じ、裁判所等で解決されるべき場合に、その方法や当事者が従うべきルール等につき、具体的な事案や判例をもとに追求することを最終目標としています。それゆえ、既に民法が良く理解できている方は、民法で学んだことを裁判という場にシフトさせ、より深く発展的に学び、他方、民法をまだ良く理解できていないという方は、裁判という角度から、もう一度民法を見つめ直す機会に利用して下さい。皆さんのご希望があれば民法・民事訴訟法以外に、民事執行・保全法や倒産法を研究対象とすることも可能です。
到達目標	この授業を通じて学生には、前期は、2 年次より更に内容的に専門的かつ興味深い研究テーマを探求するための手法や思考方法を身に付けるため、2 年次とは異なり個人発表を中心とする。また、研究テーマに関するディスカッションをより活発化させ、他人と議論することで自分の研究テーマをより掘り下げて考えることができるようし、かつ、自分の意見を、自分とは意見の異なる相手にも論理的に説明するスキルを磨くようになることが期待される。 この授業を通じて学生には、後期は、個人の判例研究発表の傍ら、卒業研究で取り組みたいと思う
授業方法と 留意点	【授業内容】 3 年次は、2 年次とは異なり、基本的には個人発表と質疑応答が中心となり、内容もより深いものとなります。発表では、自分が特に興味を有するテーマを取り上げることから、回を重ねるごとにその分野における知識が集積され、卒業研究で取り扱いたいと思う課題・問題意識に繋がることと思います。レポート課題等の提出及び各演習の事前・事後学習等に Teams を利用しますので、演習前後に必ずチェックするようにしてください。
授業テーマ・ 内容、方法・事前、事後 学習課題	授業は、民事事件に関する判例等の研究発表を中心として行う。学期初めに、各グループの発表日時を決めるので、各グループは、構成員同士で話し合って発表テーマを決定し、発表に備え、事前に準備すること。事前準備においては、研究対象となる判例や論文等の資料を探し読み込むこと（インプット）はもちろん、どのように発表すれば他人により分かり易く伝えることができるのか、その発表内容や方法（アウトプット）についても熟慮すること。 発表形式は、次の 2 つの方法のいずれかのうち、そのテーマに適したものを用いて行う： １．資料作成技能重視型： 発表時には、研究内容を、板書やパワーポイント等を用いて説明するとともに、配布資料を配布すること。配布資料は、①研究対象となる事案・争点・判例や学説の流れ・解説等を記載したものと、②研究対象となる事案の判決（判旨・判決理由）を記載したもの、の 2 点を別個に用意する。まず、発表者が、配布資料①に基づき、事案・争点等の説明を行った後、ゼミ全体でディスカッションし、その後、配布資料②を用いて、当該事案の判決につき、再度論議を行う。 2. コミュニケーション技能重視型： 3 人でグループを組み、各自原告・被告・裁判官役の立場に立ち、主に判決全文を用いて、それぞれの主張を述べ合い、裁判を体現する。当事者役は各審級の判決全文から自己の主張を練り、裁判官役は両当事者の見解を聞いたうえで、判決文や判例解説等を基に、それらに対する事実認定や法的見解を述べる。1 審から、上訴を含め、確定判決まで、裁判の一連の流れを再現する。ただし、その結論については、必ずしも使用した素材と同一になる必要はなく、各当事者役の主張内容や裁判官役の判断次第で、当人が妥当と考える結論が導き出されれば良い。 予習事項は、毎回その都度指定しますが、各自の発表に備えてパワーポイント資料を作成したり、設定テーマに関連する文献を調べて熟読しておくこと、発表準備を行うこと等が挙げられます。 また、復習事項は、ゼミ内で教員より個別に指導された内容、例えば、発表資料の修正、文献の追加検索・入手やその読込みです。Teams 上で提出し返却された課題については、そこに示されたフィードバックの指示に従って復習を行って下さい。 事前・事後学習の時間は、それぞれ 2 時間を想定しています。ただし、発表前は、個人やグループの進捗状況により、ゼミ時間外に個別で又はグループで集まって準備をすることもあり得ます。その場合、事前学習時間は、通常より長くなる可能性があります。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	演習内におけるプレゼンテーション準備やディベート・ディスカッション等の平常点(60%)、プレゼンテーションやレポート・課題(40%)で評価します。ゼミへの参加意欲ならびにその体現、自身の研究発表への取組み方ならびにその成果、そして他のゼミ生の発表における質疑応答等を、総合的に判断して評価する。欠席・遅刻が多い場合には、レポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。
学生への メッセージ	3 年次の専門演習は、2 年半に及ぶゼミの中でも一番充実して学べる時期ですので、将来のために、この時間を有意義に活かしてください。また、普段の友達の輪とはまた少し違うゼミ仲間から得られるものも多いと思いますので、全員が声をかけ合えられるような和気あいあいとしたゼミになってくれればと思います。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　萩原准教授室
備考	判例研究等のプレゼンテーションの際には、準備段階から、Word や Power Point の使い方、論文・判例等の各種文献検索や判例研究の仕方を含め、適時、演習内において指導する。 また、プレゼンテーション終了後は、その場でそのフィードバックを行い、次回のプレゼンテーションに還元できるように努める。なお、レポート等のフィードバックは、後日、添削・評価してから、演習内及び Teams において行うものとする。

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	大川　謙蔵
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・ 目的	本演習では卒業までに、ゼミ生全員で少なくとも民法の制度については詳細に把握できることを目的としている。 そのために、ゼミ生全員の協力の下で、どのような社会的問題が存在し、法律がどのような対応をしているのかを把握していく。社会状況を知ることにより、自分が社会においてどのような立場に立ち、またどのようなことをすべきかなど、多くの点を考える糸口を得られると考えている。
到達目標	この授業を通じて学生には、3 年次には、2 年次に引き続き、判例を各班で分担して全員の前で報告することを予定している。そのためには、班での役割分担、各自に割り当てられた課題への対応が必要となる。それらの課題の割り振り方、課題への対応の方法を身にくようになることが期待される。 具体的には、判例から問題点（論点）を班で確認および抽出できること、それを報告するために必要となる知識をいかに得るかということ、個人での資料収集等の仕方、ならびにそれを文章化してレジュメ等にまとめるための技術を得るようになることが期待され
授業方法と 留意点	3 年次では、①グループによる判例報告、②個人の判例報告を予定している。ただし、あくまで予定であり、話し合いなどで変更はありうる。 また、他大学との法的問題に対する合宿討論会を行う予定である。この場において、他大学のゼミの前においてプレゼンテーションを行い、その内容についての議論を行い、場合により反論を行う技術が求められる。ゼミではこれらの内容を涵養するよう指導を行う。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	テーマは、教員の方で最新の判例等をいくつか提示し、学生により取捨選択をしてもらう予定である。グループ活動では、各班で意見をまとめ、それを全員の前で報告する必要がある。その為に、ゼミにおいても準備期間を設けるほか、ゼミ外の時間においても、各自で自ら準備期間等を設ける必要がある。 なお、判例の入手方法、レジュメの作成方法などについては、適宜指摘をしていく。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	成績は、学期末に教員が用紙を渡すので、各ゼミ生が自己採点を行う。採点を行うに当たり、その評価に見合う事実、経験、結果等を自己で示す必要がある。すなわち、自分で自分を客観的に評価する能力が必要とされる。その自己評価書を元に評価を行う。 評価項目は、ゼミへの取り組み（20%）、得られた知識（20%）、得られた経験（20%）、今後の課題（20%）、個人的 PR（20%）をもとに判断を行う。
学生への メッセージ	学生主体のゼミを目指している。 そのため、新ゼミ生自体（次の年度のゼミ生）の獲得もゼミ生自身で行い、そのためのガイダンス等において自ら本ゼミの説明をおこナウ必要があるます。それにより、縦の人間関係も形成され、就活などの情報も先輩から後輩へと伝えていくことができると考えている
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　大川准教授室
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の３つから成り立っています。 予習内容としては、演習で与えられる課題を個人で準備を行う必要があります。その準備を 90 分を基準として行う必要があります。 復習として、課題に対し、中間報告及び最終報告の内容を正確に押さえる必要があります。その為に 90 分を基準として行う必要があります。 学生主体の演習を目指しています。各実施状況については各自の報告時及びメールで確認します。 演習での縦の人間関係も重視しております。コンパなどで、就活などの情報も先輩から後輩へと伝えていくこと

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	松島　裕一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	専門演習Ⅰに引き続き、この専門演習Ⅱでもいろいろな法分野を学習していきます。具体的には憲法・民法・行政法を中心にテキストと判例を読み進め、資格試験などの過去問を解いてみたいと思います。また、ゼミで習得した実定法の専門知識を用いて、現代社会の諸問題を考えてみるつもりです。
到達目標	このゼミを通じて学生には、次の２つのことが期待されます。第一に、憲法・民法・行政法など、実定法にかんするやや高度な専門知識（行政書士試験合格レベル）を習得すること。第二に、報告を通じてレジュメやパワーポイントの作り方、ネットを利用した資料収集の方法、ディスカッションやディベートの仕方を身につけること。
授業方法と留意点	問題演習とディベートを基調にしつつ、時おり担当者（グループワーク）を決めて課題を発表してもらい、それに基づいてみんなでディスカッションも行います。必要に応じて教員（松島）がゼミの内容を補足するために講義を行います。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	事前の予習（教科書の読解など）を前提にして、ゼミでは問題演習とディベートを行うつもりです。もちろん事後の復習は必須です。また、重要判例をいくつか取り上げ、グループごとにその概要を報告してもらいます（現時点では憲法・民法・行政法などの基本的な実定法科目を念頭に置いていますが、その他の法分野でも構いません)。とにかくしっかり暗記に努めるようなゼミにしたいと思っています。 さらに後期のゼミでは次年度の卒業研究を見据え、自分の興味をもった法分野（判例）にかんして文献調査を行ってもらいます。
関連科目	広く実定法分野にかかわります。実定法の背景的知識を知りたいと思う学生には、法哲学総論、法哲学各論、法思想史などをお奨めします。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	毎回の出席を前提として、適宜実施する小テストや発表（プレゼン）などへの取り組み 70%と、ゼミ中での発言（ディスカッション・ディベートなど）30%で成績評価を行います。なお無断欠席・遅刻が度重なる場合は単位取得を認めないので、十分に注意してください。
学生へのメッセージ	さまざまな機会を利用して、レポートを課す予定です。自分の言葉で文章をつづることはなかなか骨の折れる作業ですが、必ず次年度の卒業研究に役に立ちますので、頑張って取り組んでほしいと思います。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　松島准教授室
備考	事前の活動として、教科書の該当箇所を読み、それに対応する問題を解いてきてもらいます。また必要に応じて、レジュメなどの作成が必要となります（これらの事前学習に 60 分以上)。また、ゼミ終了後に学習した内容を振り返ってください（事後学習に 60 分以上)。 なお、小テストについてはその回のゼミのなかで全員で答え合わせをし、提出してもらったレポートについてはゼミの最終回に返却します。

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	増田　知也
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・ 目的	以下の３つの研究会と３つのプロジェクトにそれぞれ１つずつ参加してもらいます。 【研究会】 ファシリテーション研究会：ファシリテーション技法を学ぶ プレゼンテーション研究会：プレゼンテーション技法を学ぶ 政策立案研究会：政策立案の方法を学ぶ 【プロジェクト】 福祉向上プロジェクト：社会問題を解決するための実践活動を行う 問題提起型広報プロジェクト：地域課題を発見し、情報発信を行う 市民政策フォーラムプロジェクト：市民とともに政策を考えるワークショップを行う
到達目標	この演習を通じて学生には、地域における問題の本質をつかみ、不特定多数の読み手に興味を持ってもらえるような形で表現することができるようになることが期待される。
授業方法と 留意点	研究会とプロジェクトを隔週で交互に行います。基本はグループごとに進行し、各回の最後に進捗報告、最終回の授業で成果発表を行います。
授業テーマ・ 内容、方法･事前、事後 学習課題	1. 文献講読 文献の内容を分担してまとめ、発表し、議論を行う。 2. 事例の選定 調査の利便性も考慮しつつ、対象となる地域を選定する。 3. 事例研究 地域における問題を発見し、原因やメカニズムを解明する。 4. 問題提起型広報の作成・公表 研究成果を住民に向けて発信し、フィードバックを得る。 事前・事後学習課題 グループで選んだテーマについての情報収集（4 時間）
関連科目	「地方自治論」「住民協働論」「地域政策応用講義Ⅱ（地方政策論）」
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	グループワークへの貢献 60%　、プレゼンテーション 40%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　増田講師室
備考	

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	和田　泰一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	卒業研究に備えるべく、政治問題に関する文献の読解能力や論理的思考力・判断力・表現力の基礎を身につけることが目的です。学生の皆さん一人一人が、自分が興味を持っている政治問題について主体的に考え、議論し、問題解決への糸口をつかめるような主体的・対話的で深いアクティブ・ラーニングの場を提供します。 また卒業論文の書き方や資料収集の仕方についても授業します。
到達目標	この授業を通じて学生は、政治問題に関する書物・新聞記事・評論などを読んで基本的な政治的知識・技能を獲得するとともに、その要点やメリット・デメリットをまとめ、望ましい解決策について他者と討議し、他者に対してそれを明確に発表するという論理的思考力・判断力・表現力を育成することが期待されます。 またグループディスカッション・プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングを通じて主体的・対話的で深い学びを行うなかで、学習や仕事に対する意欲や積極的な人間性を育み、社会において良好で協調性のある人間関係を構築する仕
授業方法と留意点	ABD（Active Book Dialogue, アクティブ・ブック・ダイアローグ）というアクティブ・ラーニングの方法を用いて、政治問題に関する文献の読解・グループディスカッション・プレゼンテーションを毎回全員が行います。 新型コロナウイルスが猛威を振るっているため、Microsoft Teams によるオンライン授業を行います。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	・授業テーマ・内容 政治問題に関する文献の読解や議論、発表を通じて、その問題の内容を正確に理解し、他者と討議して望ましい解決策を判断し、他者にわかるようにその内容・解決策を発表することによって、基本的な日本語読解能力と論理的思考力・判断力・表現力を修得することができます。卒業論文が作成できるように学問的基礎を固め、自分が関心のある政治問題の領域を定めることができるようにします。 ・授業方法 ①前半 学生の皆さんの興味・関心・卒業論文のテーマを考慮しながら、政治問題についての文献をその場で毎回輪読・議論・発表する ABD（Active Book Dialogue, アクティブ・ブック・ダイアローグ）というアクティブ・ラーニングの方法を用います。短い時間で日本語の文章を読み、その要点を的確に理解することは、就職試験や公務員試験の「文章読解」で求められる能力でもあり、社会人になった後のマニュアル・資料の読解にも必ず必要な能力です。またグループディスカッションやプレゼンテーションは、仕事で問題が発生したときにその原因を的確に把握し、他者と望ましい解決策を討議し、最善と判断した改善策を他者に論理的に説得するためにも必要な能力です。 ②後半 自分の卒業論文のテーマを定め、その目次・内容・結論について全員が発表し、それを吟味・討議する時間を取ることにします。自主的な参考文献の読解や資料・データの収集が求められます。 ・事前、事後学習課題 事前学習…その場で政治問題に関する文献を読んでもらうので、必要ありません。 事後学習…文献全体をもう一度読み直し、内容を理解しておくこと(60 分～90 分程度)。
関連科目	専門演習Ⅰ、卒業研究
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業でのグループディスカッション（50%）とプレゼンテーション（50%）で評価します。
学生へのメッセージ	就職活動が始まると卒業論文の作成に時間を取ることができなくなってしまいます。この時期に卒業論文のテーマを明確に定め、参考文献の読解や資料・データの収集を自主的に行うようにしてください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　和田講師室
備考	グループディスカッションでは教員も適宜参加し、助言を与えます。プレゼンテーションではその内容について全員に助言と短評を与えます。 また学生の皆さんの卒業論文のテーマについては教員も極力調査し、その参考文献を読破し、助言を与えます。

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	川谷　道郎
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	労働法に関する判例を検討することを通じて論点について多様な見解があることを知り、多様な見解の中から一つの結論を導くためにどのような思考過程を経ているのかを確認することによって法的思考といわれるものの実体を知るとともに、労働法の具体的内容を理解する。
到達目標	この授業を通じて学生には、労働法判例を研究することにより、労働法の基本的な解釈を身につけた上で、法的思考のプロセスを理解するとともに、最終年度における修士論文作成のためのテーマの選定、研究の手法を習得することが期待される。
授業方法と留意点	受講者のうちから担当者を決め、担当者には選定した判例を素材にした報告をして貰い、その後、参加者全員で議論をする予定です。 授業は対面の方法で実施しますが Teams で連絡事項を告知する場合があるので、Teams には定期的なアクセスを心掛けて下さい。 アクセスコードは　33g2cp6　です。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	テーマとする判決は事前に受講者の希望を考慮して上で決定します。判決については公式判例集あるいは法律雑誌、データベースを検索するなどして可能な限り全文を読み込んでください。 授業は教室における対面授業を行いますが、Teams を利用した資料配付、その他の連絡をすることもありますので、Teams には定期的にアクセスして情報を確認して下さい。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	別冊 Jurist 「労働判例百選[第９版]」	村中孝史　ほか	有斐閣
2	Jurist 増刊 「労働法の争点」	土田道夫　ほか	有斐閣
3			

評価方法（基準）	授業における報告・発言の内容、受講態度から総合評価をします（１００％）。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館９階　川谷教授室
備考	テーマは事前に決定します。事前の準備と事後の確認に少なくとも１時間程度は必要です。

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	小山　昇
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	国際私法を中心として、国際取引法・国籍法を含めた分野の諸問題を具体化して論文を完成させることが目的となります。卒業研究は、３年次終了時に提出を求めたテーマを卒業研究論文として完成させることを目指しますが、具体的に検討した結果、さらに興味を持って探求したいと考える別のテーマを見出すことは妨げません。就職後にその仕事で必要な知識に関係するテーマに変更することも可能です。
到達目標	この演習を通じて学生には、国際私法、国籍法、国際取引法から各自が選んだテーマを論文として完成させたとき、その論文がその分野において「基本的な水準」に達していることを説明できるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	まず、各自の卒業研究テーマについて現時点での分野及びテーマの確認を行い、その後、各自の年間計画の提出を求めます。学内での個別指導となりますが、対面授業ができない状況のときは、「Teams」及び「WebFolder」を利用することにします。 文献資料の蒐集や論文作成についての注意点は、テーマごとの指導として日時等を指定した個別指導になりますので、そのために各自の年間計画を作成してください。論文構成については、適宜、プレゼンテーションなどによる報告を求めることになります。また年末に、学部の「卒業研究発表
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	１．３年次最後のレポートで提出したテーマについて、卒業研究論文としてどのように具体化すべきかを検討することから始めます。検討結果によってはテーマの変更も可能ですが、明確な理由を示す必要があります。 ２．決定したテーマについて、まず、必要な文献や判例を調査し、その蒐集と読解を通して論文の構成や目次をレポートとして提出することを求めます。論文の目次、その他具体的な論文構成は、遅くとも１０月下旬までに提出すること。 ３．検討・修正を加えた後に下書きを作成し、その報告を適宜受けながら訂正を加えて論文の完成を目指します。 下書きの完成時期は、１２月中旬とします。 ４．論文提出期間に入った１月の段階で最終稿を提出し、最後の推敲を経てその確認後、教務課への提出を許可します。 事前事後の学習は、卒業研究の進捗に合わせてその都度具体的に指示しますが、少なくとも２時間以上のテーマについての熟考と資料の熟読そして見直しが必要です。
関連科目	国際私法総論・各論、国際取引法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	特に、指定しない。		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	適宜、紹介します。		
2			
3			

評価方法（基準）	卒業研究論文について、そのテーマと論述方法の関係及びその理解度を中心に、作成過程と下書きなどの原稿(60%)及び完成した論文(40%)を合計して評価します。なお、研究成果である論文についての評価は、基準を定めた「評価表」を用いる予定です。
学生へのメッセージ	就活と卒業研究を両立するために、必ず達成できる年間計画を立ててください。
担当者の研究室等	11 号館９階　小山教授室
備考	対面の指導ができないときは、論文の下書き原稿などについては「WebFolder」を使いますが、「Teams」を使っての質疑応答も利用します。

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	牛丸　興志夫
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・ 目的	学生が関心を持つ法律学のテーマにつき、卒業論文の作成を目的とした指導を行う。また、学生が研究のテーマを決めていない場合は、商法、すなわち、会社法、手形・小切手法、商法総則、商行為法、金融商品取引法、保険法の中から適切なテーマを推薦し、また必要な文献を紹介する。 　卒業論文の作成は、テーマにそって学説・判例を収集し、自説をまとめていくということになる。卒業論文の完成のための研究により、法律学の応用力を身につけることを目的としている。 卒業論文発表会で発表してもらうことを予定している。 対面授業で行う。
到達目標	この授業を通じて、学生は、卒論を完成することができるようになることが期待される。
授業方法と 留意点	【授業内容】 卒業論文の指導を行う。卒業論文のテーマは、学生ごとに異なっているので、個別的な指導を行っていく。 授業は、対面授業で行う。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、事後 学習課題	資料の収集、資料の読み込み、研究成果のまとめ、卒業論文の下書きおよび卒業論文の完成という順番で、指導していく。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	演習への参加態度、研究発表の内容、卒業論文の内容等を総合的に判断して行う。平常点３０%卒業論文７０％
学生への メッセージ	卒論の作成は、計画を立てて、地道に行ってください。 演習では、学生が能動的に研究し、積極的に議論に加わることを望む。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　牛丸教授室
備考	事前および事後学習課題は、授業中に指示する。 事前および事後学習課題には、20 時間を費やしてください。

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	牧田　勲
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	卒業研究論文作成のためのアドヴァイスを行う。問題意識の醸成、研究テーマの絞り込み、資料や文献の検索の仕方、論文の構成や文章の表現技法などを指導する。よい論文を完成すべく、着実な努力を求める。 SDGs-4,5,10
到達目標	この論文指導により、学生は緻密で論理的な卒業論文を完成させることが期待される。
授業方法と留意点	各自研究テーマが異なるので、それぞれのテーマに沿った資料や文献を見つけ出し、その概要を WEB をとおしてプレゼンテーションしてもらう。夏休み明けに論文の表題や、章構成、論旨、結論など、「論文の計画書」を提出させ、それをチェックする。合格した者はそれに沿って執筆をはじめ、中途もしくは完成後に何度かチェック、添削して最終提出論文を完成させる。なお、その成果を卒論発表会でプレゼンテーションすることもある。後期も対面型授業ができず、場合により就職活動も厳しくなることが予想されるので、状況によって多々変更することがあ
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	各自の研究テーマに沿って、基本文献を捜し、読み、WEB で報告する。多くの文献を読み込むことが必要であり、その基礎があってはじめて論文作成が可能となる。
関連科目	論文にかかわるすべての科目。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	論文の出来具合で１００パーセント判断する。
学生へのメッセージ	卒論に手を抜くと卒業できなくなってしまう。一層の奮励努力が必要。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　牧田教授室
備考	資料を丹念に読み、手を抜くことなくまじめに取り組むことが望まれる。研究室にアドバイスを求めにきてくれるならば、喜んで協力する。毎週最低でも２時間くらいは、卒論作成の準備に地道に取り組むことが望まれる。

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	小島　俊朗
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	租税法に関する問題をテーマとした論文を完成させます。税に関係するテーマなら何でも結構ですので幅広く考えてください。
到達目標	この研究を通じて学生には、論理的思考力と比較衡量する力が備わることが期待されます。 「はじめに」のところで問題意識を明らかにし、本文では論理的な展開を行い、結論を導き出します。最後に、自分の見解や提言を簡潔に書いて「おわりに」で結びます。税に関するものである限りテーマは自由ですが、感想文ではないので、法的な論理展開が行われていなければなりません。そして、自分なりの結論を導いてください。
授業方法と留意点	【授業内容】 各自の選んだテーマについて個別指導を行いますが、就職活動も重なりますので、計画的に進めることが重要です。また、卒業論文発表会のためのプレゼンテーションやパワーポイント資料の作成についても指導します。 集合指導を適宜実施します。論文の個別指導は、PC メールに添付して提出された原稿を基に行いますので、原稿の提出がないと論文の完成は困難です。提出期限を守って計画的に進めて下さい。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	各自の選択したテーマに応じて指導します。また、どのような問題意識を持ち、どのような観点から論じるのか、考えをまとめる機会として、中間発表会を適宜の時期に開催します。 12 月初旬に開催される卒業論文発表会を念頭において、各人の進行状況に応じた個別面談を行い、論文らしい内容となるように指導します。
関連科目	租税法全般
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	租税法	金子宏	弘文堂
2	DHC コンメンタール	武田昌輔	第一法規出版
3			

評価方法（基準）	卒業論文の内容を審査して評価します。具体的には、発想力（20%）、論理性（50%）、結論の妥当性（30%）の合計により評価します。ネット情報を安易に使うことのないようにしてください。努力の形跡がないものはそれ相応の評価となります。
学生へのメッセージ	文献を読み、考え、更に文章を書く作業は社会人になった場合に、必ず役に立ちます。余裕を持って時間をかけて論文を完成させてください。 文章力に問題のある学生が少なくありません。提出する前によく見直してください。また、いわゆるコピペした文章が少なくありません。出典を明らかにしないで引用することは不正行為ですので厳禁です。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　小島教授室
備考	フィードバックの必要があれば、個別指導に際して適宜コメントしていきます。 選んだテーマにつき、進捗度に応じた学習が必要です。研究課題であるので、個別指導の際には事前・事後の準備・学習を少なくとも毎回各 1 時間程度行うように心掛けて下さい。

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	河原　匡見
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	卒業研究においては、大学生活の、さらには小学校以来現在に至るまでの、いわば学生生活の最後の総まとめとしての卒業研究を、一定水準以上の内容を伴って完成できるよう指導していきたいと思います。また、学問に直接関係することだけでなく、広く学生生活全般に関すること、あるいは一般社会の問題についても議論し合っていければと思います。
到達目標	この演習を通じて学生には、各自関心のあるテーマについて、資料を収集し分析を行うなど研究を進めて、定められた期限までに決められた形式・分量に則してまとめ上げ提出できるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	新型コロナの感染拡大が治まっている現状を踏まえ、「対面式」で原則実施しますが、就職活動などの関係で出席のタイミングが合わない人に対しては、当分の間「Teams を用いたオンライン方式」も併用します。前期は個人指導を主体として、論文の枠組み検討と資料収集の作業状況の確認を並行して行い、夏期休暇前には、草稿の作成に入れるように指導していきます。そして、後期には、みなさんの論文作成の進行状況にもよりますが、可能であれば各自の草稿を基に、演習参加者全体でディスカッションを行う集団指導を中心に進めていきたいと考えてい
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	本演習の目的は、定められた期限までに、一定の水準以上の卒業研究を確実に完成させることです。長い論文を作成する作業は、喩えて言うならば、一歩一歩頂を目指して歩みを進めていく『登山』の如きものでしょう。したがって、実質的には約１０ヶ月間の指導によって、上記の目的を達成するために、幾つかの研究の進展段階（提出課題）を設定し、それを一つ一つ達成することによって順々に論文を完成させていくという指導方法をとります。各自、卒業研究のテーマを絞り、考究していくためには、常に積極的に関心のある問題に関する情報および資料・文献を収集しその読解に努めることが要求されます。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	卒業研究演習での論文作成指導状況（２０％）および提出された論文（卒業研究）の内容（８０％）に基づいて評価します。また、法学部主催の「卒業研究発表会」にて報告した場合には、その分を加味して評価します。
学生へのメッセージ	４年生は、就職活動などの進路決定にともなう作業もあります。研究論文は、就活後に始めるのではなく、早めに着手する（書き始める）ことが肝要です。両者を並行して進めていきましょう。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　河原教授室
備考	この演習では卒業研究を進めるための事前・事後学習が必要です。目安は総時間数で６０時間です。もちろん選んだテーマ次第でそれ以上の場合もあります。 卒業研究の作成は、これまでの勉学の集大成というだけでなく、みなさんがこれからの人生のさまざまな局面において、どれだけ自信をもって諸事に臨んでいけるかその可能性を示唆してくれるものです。納得のいく内容のものを仕上げるよう頑張りましょう。

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	鳥谷部　壌
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	法学部の国際法ゼミ修了者として備えておくべき素養を養うことを目的とします。
到達目標	この授業を通して学生は、法学部の卒業研究として十分な水準の論文を完成させることができることが期待されます。
授業方法と留意点	ゼミの進め方としては、基本的には、グループワークを通じ、ディスカッションを積み重ねることで、自身が設定したテーマを深化させていきます。研究の進ちょくを定期的に教員に報告してもらい、研究をより良くするために、適宜、必要な助言やアドバイスを行います。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	国際法に関連する諸問題を調べ、討論し、論文にまとめてもらいます。 具体的な予定としては、10 月下旬までに全員が卒業論文をひと通り書き終えます。11 月中に卒業論文発表会の準備に取り組みます。12 月に予定される卒業論文発表会で発表を行います。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	完成した卒業論文の内容によって評価します。
学生へのメッセージ	論文を書くことは、人生と同じで、楽しみと苦労の連続です。新たな発見に喜びを感じる瞬間があれば、壁にぶつかって立ち行かなくなることもあります。そうしたとき、仲間からのアドバイスが道を開くきっかけを提供してくれるかもしれません。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　鳥谷部研究室
備考	事前学習として、資料の読解とそのまとめなど、毎回 2 時間以上の予習に取り組んでください。 事後学習として、論文の加筆・修正に毎回 2 時間以上の復習に取り組んでください。

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	石井　信輝
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	卒業研究の題目を決定し、関連する資料・文献を収集し、必要に応じて調査を実施することによって、卒業研究を完成させる。修得した法学・政治学・法政策学の知識を文字で的確に表現するための一助とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、自ら決定した卒業研究のテーマについて、これまでに修得した法学・政治学・法政策学の知識を文字で的確に表現するとともに、将来社会人として自ら考え行動することができる能力を養うことが期待される。
授業方法と留意点	各自が決定した題目に沿って、卒業研究を推敲し、完成させる。能動的に活動するよう、留意してください。
授業テーマ・内容･方法･事前、事後学習課題	授業テーマ：卒業研究の完成。 内容・方法：各自が決定した題目に沿って、卒業研究を推敲し、完成させる。卒業研究の完成に必要となる資料を収集し、整理する。 学習課題：卒業研究の完成に向けての資料収集、論文の推敲、およびその完成等についてその都度指示する。公開での卒業研究発表会を行う予定である。
関連科目	専門演習
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	卒業研究の内容（７０％）と取り組む姿勢（３０％）をもとに評価する。
学生へのメッセージ	意欲的に取り組んでください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　石井教授室
備考	各回に 1 時間程度、自身の設定したテーマに沿って、事前・事後の学習を行ってください。

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	中沼　丈晃
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	1 年半の演習の蓄積に基礎を置く研究である。分野を絞って読書や記事を読みながら課題を明確にし、地域活動を通じての参与観察、聞き取り調査で得られた知見に基づいて結論を出せるように研究を進める。
到達目標	この研究を通じて学生には、①ぼんやりとした自分の問題意識を他人と議論できる課題にする、②地域活動に参加して、その課題の視点で現場を見て、話を聴く、③現場での知見を蓄積する、④他人と議論をして、知見から自分が言いたいことを文章にすることが期待される。
授業方法と留意点	書籍・記事からの情報収集、参与観察と聴き取り調査（ともにフィールドワーク）、研究室内での定期報告（プレゼンテーション）、仲間との活動の企画と振り返り（ディスカッション）を、他人に見える形で記録に残し蓄積する。継続的でこまめな作業が必要になる。＊遠隔の場合、前期に引き続き zoom で行う。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	研究で扱う分野は、地域防犯、自治会の地域活動、小学校と地域との関係、地域での児童福祉・青少年健全育成の４つである。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	研究時限の全出席を前提とする。定期報告(30%)と、卒業論文(50%)、卒業研究発表(20%)の合計によって評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館９階　中沼教授室
備考	情報収集、観察・聴き取り調査記録、定期報告の準備で各回 1～3 時間ほどが必要になる。 個人面談をして、地域活動参加の意志確認をし、参加の感想や今後の希望も聴く。それに対して助言を行う。 卒業研究発表に対しては、担当教員のみならず、地域活動の世話役や行政実務家からも意見をいただく。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	浮田　徹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・ 目的	法学部憲法ゼミ修了者として備えておくべき素養を培います。 法学部の卒業研究として十分な水準の論文を完成させるとともに、 他のゼミ生との共同作業が中心となりますので、コミュニケーション能力も求められます。
到達目標	この授業を通じて学生は、問題発見・分析・文献検索についての能力、論文作成についても法学部修了者として不足のない力を身につけられるようになることが期待される。
授業方法と 留意点	個別もしくはグループ単位で卒業研究を進めます。 基本はグループワークを通じ、ディスカッションを重ねることでテーマを深化させていくため、積極的な参加が必須です。 卒業研究報告会に限らず定期的な報告会も行うため、プレゼンテーション能力を磨くことも必要となります。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	憲法に関連する諸問題を調べ、討論し、論文にまとめる。 テーマ自体は該当年度のはじめに決定します。 設定されたテーマにつき、グループでより詳細なテーマを決定して進めていきます。 論文を完成後、公開の発表会を行います。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	完成した卒業論文の内容(50%)と取り組み（50%）で評価します。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	11 号館９階　浮田准教授室
備考	卒業研究は講義以外の時間に作成する割合が多くなります。最低限事前(２時間)、事後（２時間）程度は必要になります。 卒業論文は公開の発表会を行います。

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	島田　良一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	刑事法をめぐる諸問題について研究・考察を行い、その内容に関する卒業論文を作成する。
到達目標	この卒業研究を通じて学生には、とりわけ刑事法に関して、法学部で学んだ者としてふさわしいレベルの知識・思考力・表現力を修得することが期待される。 （12 月初旬に法学部全体での卒業研究報告会が予定されているので、そこでの報告に堪えうるような論文の作成を目指す）。
授業方法と留意点	3 年次までの専門演習において設定した各自の卒論テーマについて、ディスカッションやプレゼンテーションなども行いながら、さらに掘り下げて研究・考察を行う。 なお、授業は原則として対面形式で行いますが、今後の新型コロナ禍の状況に鑑み、大学から指示があった場合にはオンライン形式に切り替えることになります。
授業テーマ・内容、方法･事前、事後学習課題	卒業論文作成指導を行う。 事前学習としては、文献・資料等の読み込み・要約（1 時間／日） 事後学習としては、卒業論文提出後にゼミで卒業論文の検討会を行う予定（2～3 時間程度）
関連科目	刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑法総論、刑法各論、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事政策、現代社会と刑事法、経済刑法、刑事法概論
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	卒業論文の出来によって評価する（内容・構成力 50%、文章力 30%、資料収集の程度 20%）。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 9 階　島田准教授室
備考	

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	家本　真実
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	法は、社会における最低限のルール・道徳であるといわれます。この演習では、現在、社会で起きている問題を通して、現行の法律がどのようなものであるか、そしてどうあるべきかを考えることによって、法に対する知識をより広い視野をもって深めていく機会にしていただきたいと思います。 卒業研究においては、とくに裁判員制度に焦点をあてて、裁判員制度がいったいどういう制度なのか、市民が司法に参加する意義などを調査したうえで、後期中に模擬裁判をおこない、模擬裁判での経験から、一般の市民が司法に参加するにあたってどのような課題が問題点があるのかを探るというかたちでより深く法の世界を探求していただきたいと思います。
到達目標	この卒業研究を通じて、学生の皆さんには、履修している学生同士の議論や模擬裁判の実施を通して、他人の考えを理解し、問題がある場合にはどのような解決を見出すことができるかを考えることができるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	卒業論文作成の指導をおこないます。資料の収集、論文の書き方などを学んだうえで、グループで議論しながら各自の分担を考えていただき、各自の担当部分について個別指導をおこないます。また、模擬裁判の実施にあたって、チームで議論しながら主張を練り上げ、書面を作成していただきます。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	前期中はおもに、卒業論文作成のベースとなる知識を得るために、裁判員制度や市民の司法参加に関して調査をおこなっていただきます。2-3 人で 1 つのテーマを担当し、毎回事前に担当するテーマについて調査をおこない、報告のうえ、各回終了後に適宜再調査をおこない、卒業論文の基盤をつくりあげていただきます（事前・事後学習として毎週 3～4 時間程度）。 後期は 3 年生とともに模擬裁判をおこなっていただくとともに、卒業論文を仕上げたうえで、その成果を発表していただきます。模擬裁判に関しては、事案の検討をおこない、検察チームや弁護チームの弁論や尋問を作成し、添削を受けて訂正するという作業をおこなっていただきます（事前・事後学習として毎週 3 時間程度）。また、同時に、卒業論文を執筆し、添削を受けて訂正する作業を継続しておこなっていただきます（事前・事後学習として毎週 3 時間程度）。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	おもに、模擬裁判に対する取り組み（50%）と、卒業研究に対して取り組む姿勢や卒業論文の審査結果（50%）により評価します。
学生へのメッセージ	ともに議論をし、模擬裁判において様々な役割を担うことによって、他人の考え方を知り、理解しあうことにつながると思います。こうした活動を通じて、学生間で交流を深めていただきたいと考えています。また皆さんからゼミの内容についての提案があれば、できる限り取り入れていきたいと考えています。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　家本准教授室
備考	模擬裁判や卒業論文完成に向けて提出される書面については、随時添削、講評をおこないます。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	城内　明
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・ 目的	法学部に学んだ集大成として、質の高い卒業研究の完成を目標とする。 研究内容は、学部主催の卒研報告会、ないし翌週に開催される３年城内ゼミ学生を対象としたゼミ内報告会のいずれかで報告する。
到達目標	この演習を通じて学生には、法学部に学んだ集大成として、質の高い卒業研究を完成することが期待される。
授業方法と 留意点	研究テーマは、3 年時の演習で担当した判例等を参考に、自由に選択。テーマに基づき、個別に課題を与え、完成まで指導する。受講生は、就職活動に忙しい時期であっても、メール・LINE 等で、最低週 1 回の連絡を欠かさないように。 新型コロナウィルス感染状況に鑑み、指導は、オンラインで行うことを原則とします。（状況をみて、対面に戻します。）
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	卒業論文の作成指導。 論文指導は、指導前の十分な準備、指導に従って行う適切な作業があって、はじめて有効なものとなります。 十分な事前学習・事後学習を心がけて下さい。所要時間として、週に 90 分、年間で 60 時間程度が目安となります。ただし、論文は、自分が納得いくまで考え抜くことに意義があります。特に、最終段階では、論文に集中する時間が必要となりますので、予定の調整をお願いします。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	論文の内容(50%)、論文に臨む態度(50%)により評価する。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　城内准教授室
備考	教員との連絡は欠かさないように。

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	小野　晃正
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	法学部ディプロマポリシーに基づき、刑事法学（主として、刑法総論、刑法各論、および、刑事政策）に関する争点を履修者各自の興味に応じて取り上げ、これに関する判例および学説を主体的に研究・調査したうえで、自らの考察を展開する一方で、多用な見解に配慮しつつ、説得力ある論文（卒業論文）の作成することを目的とする。 ＊なお、12 月から 2 月の間に開催される予定である法学部主催の卒業研究発表会で卒業研究の成果を口頭で質疑を交えつつ報告してもらうことも目的としている。
到達目標	この演習を通じて学生には、法学士を得るのにふさわしい研究水準の公開報告を遂行したうえで、最終的に研究論文を完成できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	専門演習において設定した各自の卒論テーマについてさらに掘り下げて研究する。 ・構成員の進路状況および新型コロナ変異株の流行状況を鑑み、本授業は各人個別に Microsoft 社の teams を用いたオンライン方式により行うこともある。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	卒業論文の作成に必要な判例検索や文献リサーチの方法および社会科学系論文の作成方法に関する指導を行う。
関連科目	法学概論、刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、刑事訴訟法、少年法、刑事政策など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	刑法の争点	西田典之＝山口厚＝佐伯仁志	有斐閣
2	判例プラクティス刑法Ⅰ	成瀬幸典＝安田拓人ほか	信山社
3	判例プラクティス刑法Ⅱ	成瀬幸典＝安田拓人ほか	信山社

評価方法（基準）	①問題提起を適切にしいるか（20%） ②提起した問題に関連する判例や先行研究（学説）を十分に、かつ、主体的に調査しているか（20%） ③異説に配慮しつつ、自らの考察を適切かつ説得力をもって展開できているか（20%） ④自説の見解がどこまで妥当性をもつかについて、射程を考えて規範や結論を導いているか（20%） ⑤文献の引用方法が適切であるか（20%） によって評価する。
学生へのメッセージ	法学系の論文は、指導教員とのコミュニケーションを取りつつ作成するのが一般です。いつでも遠慮無く作成についてご相談ください。 学生の手に届きにくい代表的な和書文献およびドイツ語文献を研究室に備えていますので、必要な方は声を掛けてください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　小野教授室
備考	事前学習として、判例や学説調査など、毎回 2 時間以上の予習に取り組むこと。 事後学習として、論文の修正に毎回２時間以上の復習に取り組むこと。

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	萩原　佐織
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・ 目的	当該民事法ゼミでは、例えば民法等の実体法に基づき発生する権利につき争いが生じ、裁判所で解決されるべき場合に、その方法や当事者が従うべきルール等につき、具体的な事案や判例をもとに追求します。それゆえ、既に民法が良く理解できている方は、民法で学んだことを裁判という場にシフトさせ、より深く発展的に学び、他方、民法をまだ良く理解できていないという方は、裁判という角度から、もう一度民法を見つめ直す機会に利用して下さい。皆さんのご希望があれば民法や民事訴訟法以外に、民事保全執行法や倒産法をテーマにすることも可能です。
到達目標	初めての論文執筆となるため、この演習を通じて学生には、論文構成、章立て、脚注の付け方、文献目録の作成方法等、社会科学系の論文の書き方につき学び、また、それに対応する Word の各機能の使い方を習得することが期待される。 後半は、この演習を通じて学生には、実際に各研究テーマに従った卒業研究論文を執筆していくうえで、深い思考力・探求力・問題解決能力を養うことが期待される。
授業方法と 留意点	【授業内容】 前期は、卒業論文の書き方（論文構成、判例・参考文献等の探し方、Word の機能の使い方、目次・脚注・参考文献目録の作成方法等）につき指導を行った後、それぞれの内容に従い、個別に指導する。後期は、個別指導の傍ら、互いの進捗状況を参考にしたり、また執筆者の考えを明確化させ、かつ内容を深化させるために、中間発表ならびに最終報告会（法学部全体の卒論発表会をも含む）を行う予定。卒業論文に関する課題の提出及び事前・事後学習等に Teams を利用しますので、必ずチェックするようにしてください。演習時間内に
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	前期は、下記２つを支柱とする；１つ目は、①卒業研究論文の書き方や、②Word 機能の使い方等、卒業研究執筆にあたり、基本的な事項の指導。2 つ目は、研究テーマの確定、ならびに論文の大まかな構成の作成、につき指導すること。但し、これまでのゼミにおいて、既に研究テーマが確定していたり、十分な判例や参考文献等を収集済みの学生に対しては、個別に、具体的な論文執筆指導を行う。 後期は、各自の執筆の進捗状況に差があるため、個別具体的な論文執筆指導を中心とする。また、互いの進捗状況を参考にしたり、また執筆者の考えを明確化させ、かつ内容を深化させるために、中間発表ならびに最終報告会（法学部全体の卒論発表会をも含む）を行う予定である。また、第三者の見解を広く取り込むため、並びに 3 年生に対し卒業論文とはどのようなものか、また卒業研究は何をどのように行うべきなのかを、同じ学生目線で教示する場として、3 年生の専門演習ＩＩ内での報告会なども考えている。4 年生にとっても、自分の研究を客観的に見ることのできる貴重な体験となることと信じる。進捗予定としては、おおよそ 12 月初旬までに、一通り執筆を終えた段階で、提出してもらい、12 月は中間発表に向けた Power Point 資料の作成、校正、表紙・目次・参考文献目録の作成、1 月は校正を中心とする。 予習事項としては、設定テーマに関連する文献を調べ、それらの文献を入手し、読み込んでおくこと。後期は、その上で、得られた情報や知識をもとに、卒業研究の執筆や発表準備を進めること。 復習事項としては、ゼミ内で指摘された事由につき、更なる文献の検索・入手やその読込み、内容の修正等を行うこと。Teams 上で提出し返却された課題については、そこに示されたフィードバックの指示に従って復習を行うこと。 事前・事後学習に要する時間は、卒業研究の進捗状況に基づき、演習時又は Teams 上において、個別に指導する。 原則として、テーマ選択、文献収集、執筆等に関し、事前・事後学習は、各 2 時間を予定する。
関連科目	民法全般、民事訴訟法、民事保全執行法、倒産法等
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	卒業研究への取り組み方等の平常点（30%）、提出された論文（50%）、並びに研究発表会等における発表（20%）を総合的に審査し評価します。
学生への メッセージ	初めて書く論文ですので、最初は戸惑うかもしれませんが、例年、ゼミ生同士が相談または助け合い、その過程において、友情を深めているような気がます。また、それぞれ提出し終えたときの達成感で輝く顔が印象的です。学生最後の年ですので、有意義な実り多き 1 年にしてください。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　萩原准教授室
備考	卒業研究の成果を公表する場として、12 月における法学部の卒業研究発表会で、ゼミ代表者が発表する他、1 月における 3 年生の　専門演習 II の最終演習時又は個別に設けた日時において、代表者を除く他の全てのゼミ生が各自卒業研究の発表を行う予定。発表形式は、原則として、Power Point にて行うことする。その際、Power Point のパネル 12 枚を、A4 両面に各 6 枚ずつプリントとした発表資料を配布して行う。 なお、卒業研究執筆時においては、演習時又は Teams 上の課題として、個別的に各卒業研究及びその進捗

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	大川　謙蔵
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	本演習では卒業までに、ゼミ生全員で少なくとも民法の制度について詳細に把握できることを目的としている。 そのために、ゼミ生全員の協力の下で、どのような社会的問題が存在し、法律がどのような対応をしているのかを把握していく。社会状況を知ることにより、自分が社会においてどのような立場に立ち、またどのようなことをすべきかなど、多くの点を考える糸口を得られると考えている。
到達目標	この演習を通じて学生には、2年次・3年次演習で得られた知識・経験を駆使し、個人で問題を設定し、卒業論文を作成する。そのためには、これまで全員で行ってきた作業を個人で担当することとなる。中間報告として、各自の問題に対する視点の報告（レジュメや発表方法など）を行い、最終的に論文に仕上げ、文章表現の難しさを知ること、そして、法的問題を個人で分析し自己の考えを述べることを通じて、社会問題全体に対しても、感想ではなく、知識や情報を獲得しそれを駆使して自己の意見を述べられるようにすることが期待される。
授業方法と留意点	卒業論文を作成するために、各自でテーマを決定する必要がある。そのテーマについて、適宜演習で報告を行い、他のゼミ生との議論を行う予定である。その為の報告準備等も行う必要がある。各自のテーマについて、他のゼミ生の意見を反映させることも求められる。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	卒業論文のテーマをいかに設定するか、その内容を定期的にいかに報告するか（中間報告）、それを文章化するに当たり、いかに読み手（この場合は教員）を説得させるか、および、それを論文にいかにまとめるか、それらについて各自で試行錯誤することが必要となる。 卒業研究ゼミでは、その論文の作成に関するルールから始まり、その内容や問題提起の方法を全員で確認し、そして、文章化することを予定している。 その際に、全学への公開講座として、研究内容を3年生と4年生との合同講座で発表を行い、ゼミ以外の先生や学生からの意見を聞きつつ、客観的に研究の意義を確認する。これは、全ゼミについて共通の事である。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	成績は、演習で出される課題に対して、個人で指定された資料等を使用して正確に準備できているかどうか（10%）、並びに、その課題である卒論の完成内容で判断を行う（90%）。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11号館9階　大川准教授室
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の３つから成り立っています。 予習内容としては、演習で与えられる課題を個人で準備を行う必要があります。その準備を90分を基準として行う必要があります。 復習として、課題に対し、中間報告及び最終報告の内容を正確に押さえる必要があります。その為に90分を基準として行う必要があります。 学生主体の演習を目指しています。各実施状況については各自の報告時及びメールで確認します。 演習での縦の人間関係も重視しております。コンパなどで、就活などの情報も先輩から後輩へと伝えていくこと

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	松島　裕一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・ 目的	前年度後期に決定した個別テーマに基づいて、実際に卒業論文を執筆してもらいます。前年度の専門演習 II で真面目に課題に取り組んでいればそれほど困難はないとは思いますが、いざ卒論を書き始めてみると苦労の連続かもしれません。自分なりに四苦八苦しながら卒業論文を書き上げることがこの卒業研究の目的です。
到達目標	このゼミを通じて学生には、次の２つのことが期待されます。第一に、自分の興味関心に基づいたオリジナルの論文を執筆できるようになること。第二に、卒業論文の執筆作業を通じて、図書館やネットを利用した資料収集の方法、参照文献の参照指示方法などを身につけること。
授業方法と 留意点	新型コロナウイルス感染症への対策として、今年度はしばらくのあいだ、対面ではなく Teams や LINE などの ICT ツールを用いてゼミを行います。個別に課題を課しますので、その課題に真摯に取り組み、卒業論文を書き上げてください。
授業テーマ・ 内容、方法・事前、事後 学習課題	各人が決定したテーマにしたがって資料収集を行い、実際に卒業論文執筆の作業を進めてもらいます。各人の進捗状況に応じて個別に指示を出します。 具体的な予定としては 10 月下旬頃までに全員が卒論をひと通り書き終え、11 月中に卒業論文発表会の準備に取り組みます（各人の卒論の要点をパワポにまとめる）。そして 12 月（予定）の卒業論文発表会本番に臨みます。
関連科目	特にありません。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	卒業論文によって評価します。具体的には卒業論文完成に至るまでの取り組み（教員の指示に従い資料や判例などが調査できているか、途中経過をしっかり説明できるか等）30%と、卒業論文の出来 70%（脚注や形式は指示に従っているか、論文に独自性があるか等）。
学生への メッセージ	みんなで笑って卒業できるように頑張りましょう！　教員（松島）も精いっぱい努力しますので、学生の皆さんも頑張ってください。
担当者の 研究室等	11 号 9 階　松島准教授室
備考	教員の指示に従い、各回、決められた分量の文章を事前に執筆してもらいます（この事前学習に 60 分以上）。また、事後に文章の訂正や追加の資料収集を行なってもらいます（この事後学習に 60 分以上）。

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	増田　知也
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	法学部での学び、そしてゼミでの学びの集大成として、卒業研究を行い、論文にまとめます。 研究とは、未知の事柄について問い（リサーチ・クエスチョン）を立て、データを集め、分析し、結果を解釈し、出た答えを報告するという一連の過程です。どうしても「論文を書く」ということだけに注目してしまいがちですが、研究成果が出なくては論文は書けない、ということは重要です。計画的に研究を進めていきましょう。
到達目標	この演習を通じて学生には、関連する分野の基礎知識を身につけた上で、狭く深く、設定したテーマについて誰よりも詳しくなり、研究を遂行し論文を完成させるための研究方法、論文執筆法を身につけ、結論ありきではなく、現時点で得られた情報から何が言えるのか、という科学的な態度を身につけることが期待される。
授業方法と留意点	各自で研究を進めつつ、定期的に報告し、意見交換をする
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【研究テーマ】 地方自治や地域政策に関連するテーマを各自で設定する 【スケジュール】 4 月　研究計画書を元に面談し、研究テーマを確定する 5 月　文献調査を行う 6 月　文献調査の結果を元に「先行研究のレビュー」を執筆 7 月　データ収集と分析の方法を検討する 夏期休暇：フィールドワークなどにより、データ収集を行う 9 月　集めたデータを分析し、「結果」を執筆 10 月　結果を出すに至った「対象と方法」を執筆 11 月　結果を解釈し、「結論」を執筆 12 月　「背景と問い」「課題と展望」を執筆し、論文を完成させる 【論文の構成】 背景と問い 　なぜ問う必要があるのか？ 　何を問うのか？ 先行研究のレビュー 　現時点でどこまで答えが出ているのか？（理論や仮説） 対象と方法 　何を研究対象としたのか？（データや事例の詳細） 　どのような方法で研究したのか？（データ収集・分析の方法） 結果 　データ分析によって得られたものは何か？（客観的） 結論 　結果を元に問いに対してどのような答えを導くことができるか？（主観的） 課題と展望 　明らかにできなかったこと、更に研究すべきことは何か？ 【事前・事後学習課題】 各自調査・執筆を進めた上で、週ごとに研究ノートを作成する（4 時間程度）
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	論文としての基本的ルールを守ること　40% 問いと方法と答えの妥当性　20% オリジナリティ　20% 学術的意義　10% 社会的意義　10%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 10 階　増田講師室
備考	

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	和田　泰一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	卒業論文を完成すべく、政治問題に関する文献の読解能力や論理的思考力・判断力・表現力を身につけることが目的です。学生の皆さん一人一人が、自分の卒業論文のテーマについて主体的に考え、議論し、問題解決への糸口をつかめるような主体的・対話的で深いアクティブ・ラーニングの場を提供します。 また卒業論文の内容や書き方については個別に指導していきます。
到達目標	この授業を通じて学生は、自分の卒業論文のテーマに関する書物・新聞記事・評論などを読んで知識・技能を獲得するとともに、その要点やメリット・デメリットをまとめ、望ましい解決策について他者と討議し、他者に対してそれを明確に発表するという論理的思考力・判断力・表現力を育成することが期待されます。 またグループディスカッション・プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングを通じて主体的・対話的で深い学びを行うなかで、学習や仕事に対する意欲や積極的な人間性を育み、社会において良好で協調性のある人間関係を構築する仕
授業方法と留意点	各自が自分の卒業論文のテーマに関する文献の収集・読解を行い、卒業論文のディスカッション・プレゼンテーションを行います。 新型コロナウイルスが猛威を振るっているため、Microsoft Teams によるオンライン授業を行います。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	・授業テーマ・内容 自分の卒業論文のテーマに関する文献の収集・読解・議論・発表を通じて、その問題の内容を正確に理解し、他者と討議して望ましい解決策を判断し、他者にわかるようにその内容・解決策を発表することによって、基本的な日本語読解能力と論理的思考力・判断力・表現力を修得することができます。 卒業論文が作成できるように実際に資料収集・読解・執筆・グループディスカッション・プレゼンテーションを行います。 ・授業方法 各自が自分の卒業論文のテーマに関する文献を収集・読解・要約し、卒業論文の一部を執筆する時間をとります。教員は、学生の皆さん一人一人のテーマに沿いつつ、個別指導の形式で助言・評価をしていきます。 また卒業論文の進捗状況・内容について全員が適宜プレゼンテーションを行い、ディスカッションを通じてより整合性・妥当性のある卒業論文を完成させていきます。 ・事前、事後学習課題 事前学習…授業で自分が行う資料収集・読解・執筆について各自が主体的にその計画を立てておくこと （週 7 時間程度）。 事後学習…卒業論文の執筆を自宅でも計画的に進めておくこと（週 14 時間程度）。
関連科目	専門演習Ⅱ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業でのプレゼンテーションと卒業論文で評価します。
学生へのメッセージ	就職活動で忙しいでしょうが、卒業論文の制作も継続的に行ってください。自分の卒業論文のテーマに関する参考文献の読解や資料・データの収集を自主的に行うようにしてください。 メールで随時卒論を送ってください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　和田講師室
備考	卒業論文の制作では教員も積極的に参加し、助言を与えます。プレゼンテーションではその内容について全員に助言と短評を与えます。 また学生の皆さんの卒業論文のテーマについては教員も極力調査し、その参考文献を読破し、助言を与えます。

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	川谷　道郎
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・ 目的	労働契約法、労働基準法、労働組合法を中心とした労働法全般の中から各自の興味に沿ったテーマを選び、これに関する問題点を具体化し、関連資料を分析して、論文を完成させることを目的とします。
到達目標	この研究を通じて学生には、論理的思考力と比較衡量する力が備わることが期待されます。 労働法制は新しい施策にかかわるものも次々に生みだされている分野ですが、そこでは常に使用者と労働者の実質的対等の確保ということが問題となります。論文の作成を通じ、テーマに潜む問題点を抽出し、論理的な展開を行い、結論を導き出すという法的思考のプロセスを身につけることが到達目標となります。
授業方法と 留意点	各自の選んだテーマについて個別指導を行いますが、就職活動も重なりますので、計画的に進めることが重要です。初めに論文の作成に向けた年間計画を作成し、論文作成の過程では適宜授業担当者ないしゼミ生相互間で中間報告を行ってもらいます。 月曜４限に対面授業を実施しますが Teams で連絡事項を告知する場合があるので、Teams には定期的なアクセスを心掛けて下さい。 アクセスコードは　jys0z7a　です。 なお、９月１３日の初回授業では必ず教室授業に参加して下さい。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、事後 学習課題	各自の選択したテーマに応じて指導します。テーマ選択の過程では、労働法においてこれまでどのような点が問題とされてきたのか、最近はどのようなことが問題とされているのかを復習・確認し、選択の一助としてもらいます。また、各自どのような問題意識を持ち、どのような観点から論じるのか、考えをまとめる機会として、中間発表会を適宜の時期に開催します。 授業は教室における対面授業を行います。４年生は就職活動等で多忙でしょうから、必ずしも時間割にとらわれず適宜連絡を頂いて差し支えありません。ただし、Teams を利用した資料配付、その他の連絡をすることもありますので、Teams には定期的にアクセスして情報を確認して下さい。
関連科目	労働保護法、労働組合法
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	卒業論文の内容を審査して評価します。具体的には、発想力（20%）、論理性（50%）、結論の妥当性（30%）の合計により評価します。ネット情報を安易に使うことのないようにしてください。
学生への メッセージ	文献を読み、考え、更に文章を書く作業は社会人になった場合に、必ず役に立ちます。余裕を持って時間をかけて論文を完成させてください。
担当者の 研究室等	11 号館９階　川谷研究室
備考	論文作成時には随時個別指導において適宜コメントします。 選んだテーマにつき、進捗度に応じた学習が必要です。研究課題であるので、ゼミによる指導の日には事前・事後の準備・学習を少なくとも毎回各２時間程度行うように心掛けて下さい。

科目名	海外語学研修	科目名（英文）	Overseas Language Training
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	カーティス　チュウ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎,DP8△		
科目ナンバリング	JEN2333c1		

授業概要・目的	本科目はグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の必修科目の一つである。GCMP は、国内外の多様な社会と人々に敬意と思いやりをもち、地域の課題と地球規模の課題に等しく当事者として向き合い、課題解決に向けて積極的に行動できるグローバル・シチズン（地球市民）の育成を目指す副専攻である。GCMP は、国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)目標 4.7 「2030 年までに.持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得するようにする」に資するものである。 本科目の受講生は、グローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのいずれかに参加する。派遣先により現地での実習内容は異なるが、「グローバル・シティズンシップ」を共通のテーマとし、良き地球市民として行動するために必要な知識、態度、技能を体験的に学ぶ。受講生には、この授業で得られた反省点を帰国後の各学部での学び、副専攻課程での学び、特に後の海外実習（応用）での学びに生かすことが期待される。 なお、本科目は単独で履修することもできるが、主としてグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の履修者を想定し、GCMP の必修科目「グローバル・シチズンシップ海外実習（入門）」と「海外語学研修」は目標や学習内容を共有する。
到達目標	・派遣先の国または地域の地理、歴史、文化について基本的な知識を有している。 ・派遣先の主要な社会課題について、課題の概要、解決への取り組み、また日本の社会課題との共通点や繋がりについて、具体的に例を挙げて説明できる。 ・派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を得る。成功体験を自身の言葉で説明できる。 ・事前・事後授業等を含めた訓練により、外国語運用能力を向上させる。派遣先の人々と、英語、
授業方法と留意点	・事前授業、現地派遣、事後授業の 3 つの部分から構成される。事前授業、事後授業は一部を除いて全学部、全派遣地域の全ての学生を対象に合同で行われる。昼休み、5 限以降、土曜日、補講日など、全ての学生が参加しやすい時間に授業がスケジュールされ、受講生は全日程に出席することが求められる。私事都合（アルバイト、旅行等）による欠席は認められない。やむを得ない理由により出席できないときは速やかに欠席届を出し、教員やスタッフと連絡を密にし、指示を受けた課題に取り組むことが求められる。 ・グローバル・シチズンシップ副専攻課
授業テーマ・内容、方法･事前、事後学習課題	年間スケジュールは概ね次の通りである。募集説明会～事前授業～現地派遣～事後授業のサイクルが、年間 2 回実施される。(　) 内は同一年度の二サイクル目で、現地派遣が年度末の 2～3 月になる場合のスケジュールである。 ・募集説明会：4 月中旬　(9 月下旬～10 月上旬) ・事前授業 10 回：6 月中下旬～7 月下旬　(11 月～2 月) ・現地派遣：2 週間程度　8 月中旬～9 月上中旬　(2 月中下旬～3 月下旬) ・事後授業 5 回（成果報告会含む）：9 月～10 月中旬　(3 月～4 月下旬) 【注意】新型コロナウィルス拡大の影響により、海外に渡航できない場合は、オンラインプログラムでの実施になる予定です。 詳細は随時ポータルサイトで連絡します。 本科目を受講する学生は、まずグローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのうちいずれかに参加申し込みをしなくてはならない。各派遣プログラムは日程、実習内容、参加費用などいずれも異なる。また、所属学部によっては選択できないプログラムもある。また、年度末の 2～3 月に現地派遣されるプログラムの場合は、単位認定の年度は翌年度となる。募集説明会に出席し、不明の点があれば問い合わせ、早めに計画を立てることが重要である。 事前授業では、「地球市民」の概念を理解し、派遣先の社会事情と課題について自ら情報収集をして問いをたて、現地での実習から最大限の成果を得られるよう準備する。国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)についてのワークショップ等を行う。語学力をはじめ、現地で必要となる技能について、自主的な訓練計画を立て、実行する。英語力に関しては、グローバル教育センターが提供する英語ワークショップである ECW(English Conversation Workshop)、学習支援センターでの英語チュータリング、ATR-CALL の英語 e-learning サービスなど、学内の学習資源を積極的に利用する。 派遣先では安全と健康が最優先であり、団体行動、ルール順守が求められる。そのいっぽうで、指示された行動をただ遂行するにとどまってはいけない。成功体験や挫折体験は自分の能力の限界に挑戦しなければ得られない。現地の事情について一つでも多くのことを知り、現地の人と一人でも多く知り合い、少しでも深く互いに理解し合えるように行動する。成果報告につなげられるよう、メモ、写真、動画などを可能な限り残す。何らかの資料が手に入れば整理して持ち帰る。 事後授業では、現地で得られた体験と情報を時間をかけて振り返り、自身にとっての最大の成果は何であったかを特定し、今後の学びにどう生かすかを考えるワークショップを行う。ワークショップに基づき、各自の成果報告書（レポート）および小グループでの成果報告プレゼンテーションを作成する。第三者にとって興味深く、分かりやすい成果報告を目指す。
関連科目	グローバル・シチズンシップ論（入門）、グローバル・シチズンシップ論（応用）、グローバル・シチズンシップ海外実習（応用）　、Topics in Global Citizenship (EMI)、摂南大学 PBL プロジェクト I など
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	事前授業評価　30%　（規律の順守、課題への取り組み状況、提出物の評価を総合） 現地活動評価　４０％　（現地教員、引率者、受け入れ機関等による評価、テストスコア等の評価を総合） 事後授業評価　３０％　（成果報告のレポートやプレゼンテーションを作成過程を含めて評価）
学生へのメッセージ	在学中に一度は海外に行きましょう。いけるなら二度行きましょう。二度行けるなら、グローバル・シチズンシップ副専攻の入門、応用の実習で二度行きましょう。

担当者の 研究室等	各海外派遣プログラムに関する相談、グローバル・シチズンシップ副専攻プログラム全体に関する相談は 2 号館 2 階グローバル教育センター（旧：国際交流センター）まで
備考	

科目名	教育実習Ⅱ	科目名（英文）	Teaching Practice II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	朝日　素明
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	「教育実習Ⅱ」では、教育実習校において 10 日間以上（80 時間以上）の実習を行う。（１）教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。（２）事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。（３）教育実習は所定期間内に実習校の指導教員の下で行う。（４）事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。
授業方法と留意点	（１）教育実習校での実習を中心に行う。（２）大学での事前指導・事後指導は「教育実習Ⅲ」と合同で行う。（３）事前指導等への積極的参加をもって実習を許可する。実習を許可されない場合があることに留意すること。（４）事後指導はグループワークが中心となる。進め方等についてガイダンスを行う。ガイダンスの時期については事前指導時の指示や掲示等に従うこと。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	1　教育実習特別個人指導（４月） 教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。個別の呼び出しには速やかに応じること。 2　教育実習事前指導（３月～４月） 教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論 申請書類等の記入・提出 3　教育実習個人指導（４月～７月） 教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。 教材・学習指導案を作成して提出、添削指導等を受けること（必要な者のみ)。 4　前期教育実習開始（５月～７月） 実習校において授業を行なったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。 5　後期教育実習開始（８月～１１月） 後期教育実習予定者の実習を行う。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。 6　教育実習事後指導（７月～１１月） 教育実習終了後、体験レポートを作成、提出する。 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しを提出する。 体験に基づいたグループワークを行い、意見交換する。 7　教育実習体験発表会（１０月） 本学卒業者を含む現職の先生方を招き、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示等による。 体験発表用資料を提出すること。 8　教育実習総括講義（１１月） 教育実習のまとめとして、その意義を確認し、講評を行う。 総括講義に出席後、総括レポートを作成、提出する。 「教育実習記録」を提出する。
関連科目	教職関連科目全般
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新編教育実習の常識 － 事例にもとづく必須６６項	教育実習を考える会	蒼丘書林
2	学習指導要領解説	文部科学省	
3			

評価方法（基準）	事前指導ならびに事後指導への積極的参加、事後指導における体験発表、実習校での実習成績、及び事前指導・事後指導における課題提出物、教育実習記録による総合評価を行う。いずれか不十分なものがある場合は、単位を認定しない。
学生へのメッセージ	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。 授業担当者と連絡・相談・報告を密にすること。
担当者の研究室等	７号館３階（朝日研究室、吉田研究室、林研究室、大野研究室） ７号館４階（谷口研究室）
備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。 事前指導および事後指導における事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	教育実習Ⅲ	科目名（英文）	Teaching Practice III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	朝日　素明
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	「教育実習Ⅲ」では、教育実習校において 15 日間以上（120 時間以上）の実習を行う。（１）教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。（２）事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。（３）教育実習は所定期間内に実習校の指導教員の下で行う。（４）事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。
授業方法と留意点	（１）教育実習校での実習を中心に行う。（２）大学での事前・事後指導は「教育実習Ⅱ」と合同で行う。（３）事前指導等への積極的参加をもって実習を許可する。実習を許可されない場合があることに留意すること。（４）事後指導はグループワークが中心となる。進め方等についてガイダンスを行う。ガイダンスの時期については事前指導時の指示や掲示等に従うこと。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	1　教育実習特別個人指導（４月） 教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。個別の呼び出しには速やかに応じること。 2　教育実習事前指導（３月～４月） 教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論 申請書類等の記入・提出 3　教育実習個人指導（４月～７月） 教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。 教材・学習指導案を作成して提出、添削指導等を受けること（必要な者のみ)。 4　前期教育実習開始（５月～７月） 実習校において授業を行なったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。 5　後期教育実習開始（８月～１１月） 後期教育実習予定者の実習を行う。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。 6　教育実習事後指導（７月～１１月） 教育実習終了後、体験レポートを作成、提出する。 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しを提出する。 体験に基づいたグループワークを行い、意見交換する。 7　教育実習体験発表会（１０月） 本学卒業者を含む現職の先生方を招き、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示等による。 体験発表用資料を提出すること。 8　教育実習総括講義（１０月） 教育実習のまとめとして、その意義を確認し、講評を行う。 総括講義出席後、総括レポートを作成、提出する。 「教育実習記録」を提出する。
関連科目	教職関連科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新編教育実習の常識 － 事例にもとづく必須６６項	教育実習を考える会	蒼丘書林
2	学習指導要領解説	文部科学省	
3			

評価方法（基準）	事前指導ならびに事後指導への積極的参加、事後指導における体験発表、実習校での実習成績、及び各種提出物による総合評価を行う。いずれか不十分なものがある場合は、単位を認定しない。
学生へのメッセージ	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。 授業担当者と連絡・相談・報告を密にすること。
担当者の研究室等	７号館３階（朝日研究室、吉田研究室、林研究室、大野研究室） ７号館４階（谷口研究室）
備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。 事前指導および事後指導における事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	地域実習	科目名（英文）	Introductory Training for Regional Study
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	朝田　康禎.谷口　雄一.吉田　佐治子
ディプロマポリシー(DP)	V 科:Ⅱ◎R 科:A◎A 科:A◎M 科:A1○E 科:Ｂ△C 科:Ⅱ◎L 科:DP2◎D 科:DP1◎S 科:DP1◎J 科:DP1◎W 科:DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科:TT01461a1～TT01465a1,L 科:LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科:IT01371a1～IT01375a1,P 科:YT01423a2～YT01427a2,J 科：JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1,N 科：NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	地域での課題を発見し、それを解決できる力を養うには、まず「地域」というものを体験を通じ理解することから始まります。本科目は、ソーシャルイノベーション副専攻課程１年次の必修科目で、主としてフィールドワークを中心に授業を実施します。また、本科目は２年次の「摂南大学 PBL プロジェクト」、３年次の「地域貢献実践演習」等の基礎となる科目として位置づけしています。地域の人々とのコミュニケーションや協働を通じて、目標の設定から達成までの過程を体験学習により学び、地域での課題等について理解を図ります。
到達目標	①地域での実態を理解する。 ②チームで働く意義を理解する。 ③役割行動のあり方について理解する。 ④地域の方々とのコミュニケーションができるようになる。
授業方法と留意点	主として現地でのフィールドワークです。1 か月に２回程度全体で集まり、進捗状況や問題点、解決策などを共有します。従来から感染防止に注意の上で対面授業を行っています。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1 チーム 10 名以内のチームを作り、地域での活動に取り組みます。 1. 年間計画を作成する。 2. 役割を決める。 3. 地域等で活動を行う。 4. 活動報告をまとめ、ふりかえる。 5. スケジュール管理をする。 6. 課題があれば、チームで話し合い解決に導く。 　上記の 1～6 の活動を通じて自分たちの計画を自ら評価したり改善したりしながら、当初に設定した目標を達成できるよう、チームで協力して計画を実行していきます。第 1 回授業は 4 月 14 日（水）6 時間目です。この時に詳しい内容やスケジュールを説明し、受講者がどの取組内容に参加するかなどを決定します。 　今年度、この授業の実習先は寝屋川市の社会教育施設を予定しています。社会教育施設とは図書館、博物館、体育館、ホールなど市民なら誰でも学習にいくことのできる公的施設のことです。このような施設に実習にいくことによって市民が社会教育に参加する意義や運営の課題などを学んでいきます。 【前期】 　開講時間はいずれも 6 時間目です。実習や実習先挨拶以外の日は学内教室での授業です。開講日は調整の関係で変更されることがあります。 第 1 回 4 月 14 日（水）「ガイダンス（授業概要の説明）」 第 2 回 4 月 28 日（水）「寝屋川市の現状を考える(1)」 第 3 回 5 月 12 日（水）「寝屋川市の現状を考える(2)」 第 4 回 5 月 19 日（水）「寝屋川市まちあるき」（学外） 第 5 回 5 月 26 日（水）「社会教育とは(1)」 第 6 回 6 月 2 日（水）「社会教育とは(2)」 第 7 回 6 月 9 日（水）「まちあるき報告会」 第 8 回 6 月 3 日～6 月 22 日までのいずれかの日「実習先挨拶」（学外） 第 9 回 7 月 7 日（水）「実習先挨拶の結果報告とそのふりかえり」 第 10 回～第 18 回　「実習」（学外）（夏季休暇中の 5 日間） ※実習先は寝屋川市の社会教育施設を予定しています。状況により実習できない場合もあることをお含みおきください。 【後期】 　後期の詳しい日程・発表方法等は改めてお知らせいたします。 第 19 回「実習ふりかえり(1)」 第 20 回「実習ふりかえり(2)」 第 21 回「全体報告会」
関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻課程科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	提出物（20%）、活動への参画の程度（40%）、最終報告プレゼンテーション（20%）、最終レポート（20%）
学生へのメッセージ	地域創生の第一歩を踏み出してみましょう！
担当者の研究室等	朝田研究室　1 号館 7 階 谷口研究室　11 号館 11 階（後期は 7 号館 4 階） 吉田研究室　11 号館 11 階（後期は 7 号館 3 階）
備考	

科目名	グローバル・シチズンシップ海外実習(入門)	科目名（英文）	Overseas Study for Global Citizenship(Introductory)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田　美保
ディプロマポリシー(DP)	V 科:Ⅱ◎R 科:A◎A 科:A◎M 科:A1○E 科:Ｂ△C 科:Ⅱ◎L 科:DP2◎D 科:DP1◎S 科:DP1◎J 科:DP1◎W 科:DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科:TT01461a1～TT01465a1,L 科:LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科:IT01371a1～IT01375a1,P 科:YT01423a2～YT01427a2,J 科：JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1,N 科：NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	本科目はグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の必修科目の一つである。GCMP は、国内外の多様な社会と人々に敬意と思いやりをもち、地域の課題と地球規模の課題に等しく当事者として向き合い、課題解決に向けて積極的に行動できるグローバル・シチズン（地球市民）の育成を目指す副専攻である。GCMP は、国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)目標 4.7 「2030 年までに.持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得するようにする」に資するものである。 本科目の受講生は、グローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのいずれかに参加する。派遣先により現地での実習内容は異なるが、「グローバル・シティズンシップ」を共通のテーマとし、良き地球市民として行動するために必要な知識、態度、技能を体験的に学ぶ。受講生には、この授業で得られた反省点を帰国後の各学部での学び、副専攻課程での学び、特に後の海外実習（応用）での学びに生かすことが期待される。 なお、本科目は単独で履修することもできるが、主としてグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の履修者を想定し、GCMP の必修科目「グローバル・シチズンシップ海外実習（入門)」と「海外語学研修」は目標や学習内容を共有する。
到達目標	・派遣先の国または地域の地理、歴史、文化について基本的な知識を有している。 ・派遣先の主要な社会課題について、課題の概要、解決への取り組み、また日本の社会課題との共通点や繋がりについて、具体的に例を挙げて説明できる。 ・派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を得る。成功体験を自身の言葉で説明できる。 ・事前・事後授業等を含めた訓練により、外国語運用能力を向上させる。派遣先の人々と、英語、
授業方法と留意点	・事前授業、現地派遣、事後授業の 3 つの部分から構成される。事前授業、事後授業は一部を除いて全学部、全派遣地域の全ての学生を対象に合同で行われる。昼休み、5 限以降、土曜日、補講日など、全ての学生が参加しやすい時間に授業がスケジュールされ、受講生は全日程に出席することが求められる。私事都合（アルバイト、旅行等）による欠席は認められない。やむを得ない理由により出席できないときは速やかに欠席届を出し、教員やスタッフと連絡を密にし、指示を受けた課題に取り組むことが求められる。 ・グローバル・シチズンシップ副専攻課
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	年間スケジュールは概ね次の通りである。募集説明会～事前授業～現地派遣～事後授業のサイクルが、年間 2 回実施される。(　) 内は同一年度の二サイクル目で、現地派遣が年度末の 2～3 月になる場合のスケジュールである。 ・募集説明会：4 月中旬　(9 月下旬～10 月上旬) ・事前授業 10 回：6 月中下旬～7 月下旬　(11 月～2 月) ・現地派遣：2 週間程度　8 月中旬～9 月上中旬　(2 月中下旬～3 月下旬) ・事後授業 5 回（成果報告会含む)：9 月～10 月中旬　(3 月～4 月下旬) 【注意】新型コロナウィルス拡大の影響により、海外に渡航できない場合は、オンラインプログラムでの実施になる予定です。 詳細は随時ポータルサイトで連絡します。 本科目を受講する学生は、まずグローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのうちいずれかに参加申し込みをしなくてはならない。各派遣プログラムは日程、実習内容、参加費用などいずれも異なる。また、所属学部によっては選択できないプログラムもある。また、年度末の 2～3 月に現地派遣されるプログラムの場合は、単位認定の年度は翌年度となる。募集説明会に出席し、不明の点があれば問い合わせ、早めに計画を立てることが重要である。 事前授業では、「地球市民」の概念を理解し、派遣先の社会事情と課題について自ら情報収集をして問いをたて、現地での実習から最大限の成果を得られるよう準備する。国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)についてのワークショップ等を行う。語学力をはじめ、現地で必要となる技能について、自主的な訓練計画を立て、実行する。英語力に関しては、グローバル教育センターが提供する英語ワークショップである ECW(English Conversation Workshop)、学習支援センターでの英語チュータリング、ATR-CALL の英語 e-learning サービスなど、学内の学習資源を積極的に利用する。 派遣先では安全と健康が最優先であり、団体行動、ルール順守が求められる。そのいっぽうで、指示された行動をただ遂行するにとどまってはいけない。成功体験や挫折体験は自分の能力の限界に挑戦しなければ得られない。現地の事情について一つでも多くのことを知り、現地の人と一人でも多く知り合い、少しでも深く互いに理解し合えるように行動する。成果報告につなげられるよう、メモ、写真、動画などを可能な限り残す。何らかの資料が手に入れば整理して持ち帰る。 事後授業では、現地で得られた体験と情報を時間をかけて振り返り、自身にとっての最大の成果は何であったかを特定し、今後の学びにどう生かすかを考えるワークショップを行う。ワークショップに基づき、各自の成果報告書（レポート）および小グループでの成果報告プレゼンテーションを作成する。第三者にとって興味深く、分かりやすい成果報告を目指す。
関連科目	グローバル・シチズンシップ論（入門)、グローバル・シチズンシップ論（応用)、グローバル・シチズンシップ海外実習（応用）、Topics in Global Citizenship (EMI)、摂南大学 PBL プロジェクト I など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	事前授業評価　30%　（規律の順守、課題への取り組み状況、提出物の評価を総合） 現地活動評価　４０％　（現地教員、引率者、受け入れ機関等による評価、テストスコア等の評価を総合） 事後授業評価　３０％　（成果報告のレポートやプレゼンテーションを作成過程を含めて評価）

学生への メッセージ	在学中に一度は海外に行きましょう。いけるなら二度行きましょう。二度行けるなら、グローバル・シチズンシップ副専攻の入門、応用の実習で二度行きましょう。
担当者の 研究室等	各海外派遣プログラムに関する相談、グローバル・シチズンシップ副専攻プログラム全体に関する相談は 2 号館 2 階グローバル教育センター（旧：国際交流センター）まで
備考	